

1.授業コード (ナンバリング)	21110	2.科目名	心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	リアルタイム型		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 基礎心理学についての最新の知見を学ぶ。 【概要】 授業の前半では、知覚・認知・学習・言語・感情・人格についての最新の知見を紹介する。 授業の後半では、受講生が関心のあるテーマを発表し、全員で討議を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)知覚・認知・学習・言語・感情・人格について概説できる。 (2)特定のテーマについて文献を批判的に読むことができる。 (3)特定のテーマについて自分なりの解決策を提案することができる。 【関連するディプロマポリシー】 (1)専門知識・技能 (2)問題発見力 (5)課題解決策への提案力 (6)コミュニケーション能力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	(1)発表内容 50% (2)期末レポート 50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション					
【第 2 回】	知覚・認知（1）			授業内容の復習		
【第 3 回】	知覚・認知（2）			授業内容の復習		
【第 4 回】	学習・言語（1）			授業内容の復習		
【第 5 回】	学習・言語（2）			授業内容の復習		
【第 6 回】	感情・人格（1）			授業内容の復習		
【第 7 回】	感情・人格（2）			授業内容の復習		
【第 8 回】	文献発表（1）			発表準備		
【第 9 回】	文献発表（2）			発表準備		
【第 10 回】	文献発表（3）			発表準備		
【第 11 回】	研究発表（1）			発表準備		
【第 12 回】	研究発表（2）			発表準備		
【第 13 回】	研究発表（3）			発表準備		
【第 14 回】	総括（1）			期末レポートの作成		
【第 15 回】	総括（2）			期末レポートの作成		

1.授業コード (ナンバリング)	21120	2.科目名	心理学研究法特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院			9.履修学年	1・2	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態				
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、人間の行動を理解するために心理学で用いられている手法について理解することを目的とする。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）問題発見力（2）調査分析能力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①心理学研究の方法論の概略が理解できる。 ② 質的研究と量的研究の特徴と違いが理解できる。					
19.教科書・教材	・適宜資料を配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	個人発表：30点 中間レポート30点 最終レポート：40点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	<オリエンテーション> ・シラバスの説明 ・授業方法等について ・心理学研究とは何か			◆ ノート PC 利用◆ ○予習 教科書 p.p.1-30 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)		
2	テーマ ・リサーチクエスチョン ・先行研究 ・文献 ・ループリック、チェックリストを参照する。			○復習 学んだことを整理する。(120 分)		
3	文献探索 ・読み方 ・タイトル ・サマリー			○文献検索 (120 分)		
4	文献紹介 ・リサーチクエスチョンとは何か？ ・どんな目的で何が得られたのか？ ・その結果が得られたことの意味は何か？			○予習 教科書 p.p.1-30 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)		

5	質的調査その 1 ・ 質的調査とは何か ・ 質的調査の特徴その 1	○復習 質的研究の特徴と留意点について、整理する。(120 分) ○予習 教科書 p.p.30--62 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
6	質的調査その 2 ・ 質的調査の特徴その 2	○復習 学んだことを整理してみる。(180 分)
7	質的調査その 3 ・ 質的調査の特徴その 3	○復習 学んだことを整理する。(120 分) ○課題 中間レポートを作成する。(200 分)
8	中間まとめ 振り返りと学び	○復習 研究の展開について考える。(180 分)
9	量的調査その 1 ・ 量的調査とは何か ・ 量的調査の特徴	○復習 量的研究を各自の研究への応用について考えてみる。(120 分) ○予習 教科書 p.p.93-121 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
10	量的調査その 2 <質問紙法①>	○復習 質的研究を各自の研究への応用について考えてみる。(120 分)
11	量的調査その 2 <質問紙法②>	○復習 質的研究を各自の研究への応用について考えてみる。(120 分) ○予習 教科書 p.p.93-121 を読み、わからないところをチェックする。(120 分)
12	実験の論理と方法 <実験計画法> ・ 実験計画法について	◆ノート PC 利用◆ ○復習 本日学んだことを振り返り、修論について構想する。(180 分)
13	心理統計法について ・ 心理統計法について ノート PC 利用	◆ ノート PC 利用◆ ○復習 本日扱った検定に関するデータを作成し、SPSS で検定する。(180 分)
14	研究の展開 ・ 論文作成 ・ 論文とは何か ・ 修士論文作成について ・ 発表技術 ・プレゼンテーションソフトについて ・ 心理系学会における発表技術について	◆ ノート PC 利用◆ ○課題 最終レポートを作成する。(400 分)
15	まとめ	◆ノート PC 利用◆

	振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	21130	2.科目名	発達心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実 務経験のある教員によ る授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	BP 科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面・遠隔オンライン)		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	本科目では、生涯発達心理学の立場から、乳児期、幼児期、児童期、青年前期、青年後期、成人初期、成人中期、成人後期における各発達期の心理的課題と支援のあり方を理解することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)の 7 つ、専門知識・技能、問題発見力、調査分析能力、論文作成能力、課題解決策への提案力、コミュニケーション能力、倫理観が関わる。 公認心理師・臨床心理士受験資格取得を目指す大学院生として、授業での課題に自律的に関わり、問題発見し、その問題について調査分析し、その結果を基に課題解決策への提案をレポートにまとめ、授業中に倫理観をもって発表する。 本科目の学習目標は、以下の 3 つである。 ①各発達期に生じやすい心理的課題を説明できる。 ②その心理的課題にどのような要因が関与している可能性があるかについて説明できる。 ③その心理的課題に対してどのような支援が可能かを説明できる。					
19.教科書・教材	教科書：発達心理学をアクティブに学ぶ 山本真由美編著 北大路書房 2,200 円＋税、他に教材として power point(遠隔オンライン：神戸山手 C 発信) と webclass を使用する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	・ webclass を利用した授業回毎の課題レポート 200 字程度（授業課題について考えたこと）@ 2 点×13 ・ 当該授業後 Web Class にレポート報告（課題について話し合ったことから新たに考えたこと）@3 点×13、 ・ 12 の課題から 1 つを選び、最終レポートを第 14 回授業までに完成させる。14 回に半数、15 回に半数発表する。他の受講者は、発表について意見を述べる。30 点					
22.コメント	本授業は、教員が遠隔オンラインで実施し、受講生は三木 C の教室で受講する形式となります。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 水曜日昼休み、センターオフィスアワー：同 C 火曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。Zoom での相談可。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法			PC, 予習：シラバスを読む。 復習：小テスト解答		

第 2 回	第 3 章 発達・発達段階・発達心理学研究法	PC,予習：第 3 章(p41-58)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 3 回	第 4 章 発達要因	PC,予習：第 4 章(p59-64)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 4 回	第 4 章 発達の一般的傾向	PC, 予習：第 4 章(p64-67) を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 5 回	第 4 章 発達理論	PC, 予習：第 4 章(p67-76)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 6 回	第 5 章 身体と運動の発達	PC, 予習：第 5 章(p79-90)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 7 回	第 6 章 感覚・知覚・認知発達	PC,予習：第 6 章(p93-104)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 8 回	第 7 章 注意・記憶の発達	PC,予習：第 7 章(p107-116)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 9 回	第 8 章 動機づけ・学習の発達	PC,予習：第 8 章 (p119-133) を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 10 回	第 9 章 言語の発達	PC,予習：第 9 章(p137-144)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 11 回	第 9 章 思考・知能の発達	PC,予習：第 9 章(p144-153)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 12 回	第 10 章 感情・パーソナリティの発達	PC,予習：第 10 章(p155-169)を読み，課題について webclass にレポート 復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 13 回	第 11 章 コミュニケーション・社会性の発達	PC,予習：第 11 章(p173-187)を読み，課題について webclass にレポート

		復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 14 回	課題レポート発表と分かち合い	PC,作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 15 回	課題レポート発表と分かち合い	PC, 作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート,授業アンケート

1.授業コード (ナンバリング)	21220	2.科目名	社会調査法		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	専門社会調査士（必修）		11.先修条件	原則として、「社会調査士」資格を取得済であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会調査の実践的な知識と能力を取得するため、自らテーマをもって調査の企画・設計から分析までを演習形式でおこない、実践的な知識と能力を身につけることを目的とします。 【概要】 調査方法の決定、調査の企画と設計、仮説構成、質問紙の作成、対象者の選定、実査、調査データの整理、計量的分析と図表の作成を行い、報告書にまとめます。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「専門知識・技能」「調査分析能力」の学修に関連しています。 ①質問紙調査を立案し調査企画書を作成できる。 ②テーマにふさわしい質問紙を作成することができる。 ③調査結果を報告書としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	大谷信介他編『最新・社会調査へのアプローチ:理論と方法』ミネルヴァ書房、2023 年					
20.参考文献						
21.成績評価	・ 調査企画書⇒20%（学習目標①） ・ 調査票⇒30%（学習目標②） ・ 調査報告書⇒40%（学習目標③） ・ プレゼンテーション⇒10%（学習目標③）					
22.コメント	・「専門社会調査士」は、「社会調査士」資格を取得済みであることを前提とした資格です。したがって、この科目も、社会調査の基礎的知識を持っていることが前提となります。ただし、「社会調査士」「専門社会調査士」の資格を、大学院終了後に同時申請することも可能です。そのためには、①もしくは②の条件をクリアしなければなりません。 ①人間心理学科開講の「社会調査論Ⅰ」「社会調査論Ⅱ」「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」（4 科目）、および「データ解析」「質的調査法」のうち 1 科目以上を、科目等履修で修得する。 ②社会調査協会が開講する社会調査士資格科目に関する講座（集中）を受講し、試験に合格する。					
23.オフィスアワー	○センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（神戸山手キャンパス 1 号館メディアライブラリー） ○研究室オフィスアワー⇒木曜Ⅳ限（神戸山手キャンパス 1320 研究室） ※質問等は Zoom でも受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション：授業の目的およびスケジュール			持参するもの：教科書およびノート P C（以後、毎回持参）		
第 2 回	社会調査の理論：社会調査の諸タイプ					
第 3 回	社会調査の意義、調査倫理：学術調査を中心に					
第 4 回	調査の企画①：仮説・検証・サンプリング理論、演習					

第 5 回	調査の企画②：論理的整合性、演習	提出物：調査企画書
第 6 回	調査の設計①：尺度構成、ワーディング、演習	
第 7 回	調査の設計②：質的質問（文書挿入法）、演習	
第 8 回	実査①：調査票の配付と回収、演習	提出物：調査票
第 9 回	実査②：検票、コードブックの作成、演習	
第 1 0 回	集計・分析①：データ入力、コーディング、データクリーニング、演習	
第 1 1 回	集計・分析②：データ分析（統計ソフト S P S S 使用）、演習	
第 1 2 回	集計・分析③：データ分析（統計ソフト S P S S 使用）、演習	
第 1 3 回	報告書の作成①：目的、方法、仮説、結果を中心に、演習	
第 1 4 回	報告書の作成②：結果の考察を中心に、演習	
第 1 5 回	調査結果の報告（プレゼンテーション）	提出物：調査報告書

1.授業コード (ナンバリング)	21230	2.科目名	人間行動学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	成人の犯罪と少年非行の背景となる要因、および精神疾患の影響について理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	① 無差別大量殺人について理解する ② 児童虐待、薬物依存からの矯正について理解する ③ 公判廷で採用された精神鑑定の結果について討議する 関係する事件としては、2019 年に千葉市で発生した栗原心愛ちゃん被害の虐待による傷害致死事件（被告人には懲役 16 年の判決） 2016 年に相模原市の津久井ヤマユリ園で発生した 19 人殺害事件の被告は、事件前に大麻や脱法ハーブを使用、措置入院になっている また、犯行動機は優生思想からくるものとのべているが、責任能力を認め 2020 年に死刑判決 等が挙げられる					
19.教科書・教材	授業については遠隔で実施する Zoom ミーティングに参加する https://					
20.参考文献	適宜紹介し、必要な資料も配布する					
21.成績評価	1 文献講読と発表、討議への参加 50% 毎回のテーマに関する解説あるいは意見や疑問の表明、事例や補足情報の提供 2. 最終レポート 50%					合計
22.コメント	100%					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 本特論のねらいや内容、講義の進め方などについて説明を行う。			次回取り上げる文献資料の精読および疑問点の下調べ（以下第 14 回まで同様）		
第 2 回	犯罪に及ぼす諸要因について、文献資料を読み、討議する					
第 3 回	犯罪に及ぼす諸要因について、文献資料を読み、討議する					
第 4 回	犯罪に及ぼす諸要因について、文献資料を読み、討議する					
第 5 回	犯罪に及ぼす諸要因について、文献資料を読み、討議する					

第 6 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 7 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 8 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 9 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 10 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 11 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 12 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 13 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 14 回	犯罪に及ぼす諸要因について,文献資料を読み、討議する	
第 15 回	振り返りとまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	21240	2.科目名	臨床心理学特論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章					
5.授業科目の区分	【基礎科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	臨床心理士資格試験受験資格 公認心理師資格試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	臨床心理に関する基本的な知識と考え方の修得が目的。 教科書を輪読するとともに、受講生同士のディスカッションを通して、臨床心理学に関する理解を深めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	心理臨床面接に関する基本的な専門知識を習得する					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	「面接法」 熊倉伸宏 新興医学出版社（2002）ほか、 必要に応じて随時提示する					
21.成績評価	授業内のコメント 30% 小レポート 50% 総括試験に代わるレポート 20%					
22.コメント	秋学期以降に行う学内・学外の実習の基礎となるものです。「素人」ではない状態で実習に臨めるよう、しっかりと学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 臨床心理学の概要					
	臨床心理学の基礎 ・理論と実践					
	臨床心理学の理論① ・人間性心理学（ロジャース）					
	臨床心理学の理論② ・精神分析（フロイト）					
	臨床心理学の理論③ ・ナラティブアプローチ					
	臨床心理学の理論④－1 ・子どもの面接（遊戯療法）					
	臨床心理学の理論④－2 ・親面接					
	臨床心理学の理論⑤ ・家族療法					
	臨床心理の方法①－1 ・心理臨床面接					
	臨床心理の方法①－2 ・心理臨床面接					

	臨床心理の方法①－ 3 ・ 心理臨床面接	
	臨床心理の方法①－ 4 ・ 心理臨床面接	
	臨床心理の方法①－ 5 ・ 臨床心理面接	
	臨床心理の方法② ・ 職種間連携 ・ 倫理	
	まとめ・ふりかえり ・ 実習に向けて	

1.授業コード (ナンバリング)	21400	2.科目名	臨床心理基礎実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太、山本喜晴、山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	臨床心理基礎実習は、臨床心理実習の基礎に位置づけられ、その他の講義科目と関連した構成がなされている。 心理療法の実践においては、単に心理療法の理論を習得するのみでは充分ではなく、実際にクライアントに心理療法の場において会うことを通して実践的な訓練をすることが不可欠である。本授業は、この理論と実践をつなぐ際に必要な基礎を、初回面接実習のロールプレイと、陪席実習の経験および内部実習としてのセンター内の電話受付などの体験をとおして学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	①ロールプレイの逐語とカンファレンス内の発表を行うことができる ②陪席実習のインターク報告を行うことができる ③センター内の電話受付を担当することができる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	授業内発表（ロールプレイ、陪席など）40％ 授業内課題（レポート、インターク報告書など）30％ 心理臨床センター内の内部実習（電話受付など）10％ カンファレンスでの発言 20％					
22.コメント	生成 AI:条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み（松井幸太）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 心理実習の基礎（内部実習と外部実習）					
第2回						
第3回	事例検討会					
第4回	初回面接実習に先立って 1）初回面接とは					
第5回	事例検討会					
第6回	初回面接実習に先立って 2）誰が面接を行うか					
第7回	事例検討会					
第8回	初回面接実習に先立って 3）誰がクライアントか					
第9回	初回面接実習 ロールプレイ事例の検討					
第10回						
第11回	初回面接実習 ロールプレイ事例の検討					
第12回						
第13回	初回面接実習 ロールプレイ事例の検討					
第14回						
第15回	事例検討会					
第16回						
第17回	電話受付オリエンテーション					
第18回						
第19回	電話受付オリエンテーション					

第 20 回		
第 21 回	事例検討会	
第 22 回	陪席実習のインテーク報告	
第 23 回	事例検討会	
第 24 回	陪席実習のインテーク報告	
第 25 回	事例検討会	
第 26 回	陪席実習のインテーク報告	
第 27 回	事例検討会	
第 28 回	陪席実習のインテーク報告	
第 29 回	事例検討会	
第 30 回	陪席実習のインテーク報告	

1.授業コード (ナンバリング)	21411	2.科目名	臨床心理実習Ⅰ		3.単位数	1								
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子													
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期									
8.履修可能な専攻				9.履修学年	修士課程 2 年									
10.取得資格の要件	臨床心理士、公認心理師		11.先修条件											
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※										
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習										
16.履修制限														
17.授業の目的と概要	本授業は、学内施設（心理臨床センター）における相談事例のカンファレンス参加を通して、実際の臨床ケース等についての理解を深めることを目的としている。複数教員による指導により、多面的な視点を身につけることを目指す。これまでに学んだ専門的知識を土台として、多職種連携やコンサルテーションあり方を含む事例の見立てとかかわりについて学ぶことを目標としている。 また、自らの学内実習、学外実習の報告を通して、専門的知識を実践に結びつける力を培う。													
18.学習目標と DPとの関連	事例検討への参加を通じて、臨床心理実践の基礎を確実に身に付ける													
19.教科書・教材	なし 必要に応じて随時紹介する													
20.参考文献														
21.成績評価	<table border="0"> <tr> <td>授業内での発言</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>学内実習発表</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>学外実習発表</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>実習内容</td> <td>40%</td> </tr> </table>						授業内での発言	30%	学内実習発表	15%	学外実習発表	15%	実習内容	40%
授業内での発言	30%													
学内実習発表	15%													
学外実習発表	15%													
実習内容	40%													
22.コメント														
23.オフィスアワー														
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)										
第 1 回	オリエンテーション 実習（学内・学外）について													
第 2 回	事例検討													
第 3 回	事例検討													
第 4 回	事例検討													
第 5 回	事例検討													
第 6 回	事例検討													
第 7 回	事例検討													
第 8 回	事例検討													
第 9 回	事例検討													
第 10 回	事例検討													
第 11 回	事例検討													
第 12 回	事例検討													
第 13 回	事例検討													
第 14 回	事例検討													
第 15 回	事例検討													

1.授業コード (ナンバリング)	21420	2.科目名	臨床心理実習Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子					
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	修士課程 2 年
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、学内施設（心理臨床センター）における相談事例のカンファレンス参加、および自身の担当ケースについてのスーパーヴィジョンを通して、個別の臨床ケース等についての理解を深めることを目的としている。受講生には個人スーパーヴィジョンを受けることを求め、複数教員による指導およびスーパーヴィジョンにより、多面的な視点を身につけることを目指す。これまでに学んだ専門的知識を土台として、個別の事例について見立てとかかわりに学ぶことを目標としている。					
18.学習目標と DPとの関連	事例検討およびスーパーヴィジョンを通じて、臨床心理実践の基礎を確実に身に付ける。					
19.教科書・教材	なし 必要に応じて随時紹介する					
20.参考文献						
21.成績評価	授業内での発言 30% 学内実習発表 15% 個人スーパーヴィジョン 15% 実習内容 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 学内実習およびスーパーヴィジョンについて					
第 2 回	事例検討					
第 3 回	事例検討					
第 4 回	事例検討					
第 5 回	事例検討					
第 6 回	事例検討					
第 7 回	事例検討					
第 8 回	事例検討					
第 9 回	事例検討					
第 10 回	事例検討					
第 11 回	事例検討					
第 12 回	事例検討					
第 13 回	事例検討					
第 14 回	事例検討					
第 15 回	事例検討					

1.授業コード (ナンバリング)	21430	2.科目名	人間行動学演習		3.単位数	4
4.授業担当教員	横川滋章、寺村堅志、道免逸子、松井幸太、山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科臨床心理学コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	臨床心理学の修士論文作成のための授業である。担当者によるオリエンテーションの後、受講者全員が順次、各自の取り上げたい具体的なテーマについて報告し、問題の設定、先行研究の検索、研究手段などについての発表を通して、テーマを絞り込む作業を行う。実践的研究を主とする修士論文の準備を支援する。					
18.学習目標と DPとの関連	修士論文テーマ、研究計画書を作成することができる。					
19.教科書・教材	なし。各自のテーマに即した参考文献を適宜紹介する。					
20.参考文献	「レポートの組み立て方」 木下是雄 ちくま学芸文庫 「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル（第2版）」 津川律子、遠藤裕乃 金剛出版 「研究計画書の考え方」 妹尾堅一郎 ダイヤモンド社 「論文の教室（第2版）」 戸田山和久 NHKブックス （日本放送出版協会） 「創造的論文の書き方」 伊丹敬之 有斐閣 ● 参考書は、早い時期にすべて通読しておくことが望ましい。					
21.成績評価	発表（レジュメ、プレゼン、質疑応答を含む） 40％ レポート 60％ レポートⅠ 10％ レポートⅡ 10％ レポートⅢ 20％ レポートⅣ 20％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み（松井幸太）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回目	オリエンテーション 授業の内容、進め方について、履修指導、研究倫理について					
第2回目	研究テーマの整理① ・修士論文の研究テーマにつながる興味・関心を整理し、共有する ● 課題レポートⅠ：修士論文の研究のテーマにつながる興味・関心とその理由・背景をまとめる ・A4縦 40字×30行 1枚程度					
第3回目	：研究テーマの整理② ・修士論文の研究テーマにつながる興味・関心を整理し、共有する					
第4回目	資料の検索① ・文献の検索方法について学ぶ ●課題レポートⅡ：研究テーマに関する文献を検索					

	し、今後、取り上げる文献の候補の一覧を作成する	
第 5 回目	: 資料の検索② ・ 文献検索結果の発表、精読する文献の選定	
第 6 回目	研究テーマの設定に向けた準備① ・ 検索した文献を精読し、研究テーマに関して理解を深める。	
第 7 回目	研究テーマの設定に向けた準備② ・ 方法等は第 06 回と同じ	
第 8 回目	研究テーマの設定に向けた準備③	
第 9 回目	研究テーマの設定に向けた準備④	
第 10 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑤	
第 11 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑥	
第 12 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑦	
第 13 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑧	
第 14 回目	研究テーマの設定に向けた準備⑨	
第 15 回目	前半のまとめ ○ 課題レポートⅢ：ここまでの先行研究の精査に基づいて、研究テーマの到達点、課題についてまとめる ※ 様式等の詳細については、別途指示する	

1.授業コード (ナンバリング)	21440	2.科目名	臨床心理査定演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	◇臨床心理査定についての理論、実施方法の基本を学ぶことを目的とする。 ◇心理査定（アセスメント）の意義とバックグラウンドについての講義による理解を踏まえて、演習Ⅰでは Rorschach テストを中心に進めてゆく。 ◇Rorschach テストの実施法、スコアリング、解釈法の講義。 ◇受講者がそれぞれに実施、レポートを作成する。 ◇症例についてのディスカッションを行う。 ◇テスト・バッテリーや報告書のまとめ方など、体験をまじえながら学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目では以下のベンチマークを重視する。 ① 自律性：公認心理師・臨床心理士を目指す ② 論理的思考/判断力：検査および面接技術力 ③ 情報収集/活用力 そのため以下の具体的な学習目標を設定している。 ① 実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 ② 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。 ③ 心理に関する相談、助言、指導などへの①②の応用について理解する。 ④ Rorschach 法の施行法を習得する。 ⑤ Rorschach 法の解釈法の基本を理解、習得する。					
19.教科書・教材	配布・閲覧資料を適宜使用予定					
20.参考文献	エクスナーJ.E. 著『ロールシャッハ・テストー包括システムの基礎と解釈の原理』金剛出版 エクスナーJ.E.著『ロールシャッハ・テストワークブック』金剛出版 中村紀子著 『ロールシャッハテスト講義Ⅰ/Ⅱ』金剛出版 片口安史著 『新・心理診断法』 金子書房 馬場禮子著『改訂 ロールシャッハ法と精神分析ー継起分析入門ー』岩崎学術出版 小野和雄著『ロールシャッハ・テスト その実施・解釈・臨床例』川島書店					
21.成績評価	○ 中間課題：プロトコルの提出（具体的目標②④⑤対応） 50％ ○ 最終課題：解釈レポートの作成（具体的目標①②③④⑤対応） 50％					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス ・公認心理師・臨床心理士の実践における心理的アセスメントの意義。 ・心理的アセスメントに関する理論と方法。 ・心理に関する相談、助言、指導などへの応用。 ・講義の進め方について説明する。					

	心理テストについて ・心理テストについて概観。 ・テストの性質とバッテリーの組み方。 ・クライアントへの導入と施行上の諸注意。	
	Rorschach テストとは何か ・Rorschach テストの成立と発展。 ・日本への導入と展開。 ・臨床場面・心理査定における意義。	
	Rorschach 法① ・Rorschach 法の実施法について、包括システム法を中心に講義（他の実施法との対比を含む）。	
	Rorschach 法② ・プロトコルの記号化と意味、その集計の仕方。	
	Rorschach 法③ ・プロトコルの記号化と意味、その集計の仕方。	
	Rorschach 法④ ・プロトコルの記号化と意味、その集計の仕方。	
	Rorschach 法⑤ ・プロトコルと記号化・集計されたデータの解釈。	プロトコルの提出
	Rorschach 法⑥ ・プロトコルと記号化・集計されたデータの解釈。	
	Rorschach 法⑦ ・受講者がそれぞれ検査を実施、プロトコルをまとめ、集計する。	
	Rorschach 法⑧ ・受講者がそれぞれ検査を実施、プロトコルをまとめ、集計する。	
	事例検討① ・実際の事例を題材に見立てと報告の仕方についてのディスカッションを行う。	
	事例検討② ・実際の事例を題材に見立てと報告の仕方についてのディスカッションを行う。	
	事例検討③ ・実際の事例を題材に見立てと報告の仕方についてのディスカッションを行う。	
	まとめ ○最終課題：解釈レポートの提出	解釈レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	21450	2.科目名	投影法特論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、事例検討	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は臨床心理学を専攻する大学院生のみを対象としている。 投影法の中でも Rorschach の試行と解釈について扱い 数量解釈に加え、継起分析や内容分析などを学ぶ。 実際のケースを通じて、理解を深めてゆく。					
18.学習目標と DPとの関連	① 投影法との代表的な技法について説明できる。 ② Rorschach の施行法を修得し、解釈レポートをまとめることができる。					
19.教科書・教材	配布・閲覧資料を適宜使用予定					
20.参考文献	片口安史著 『新・心理診断法』 金子書房 馬場禮子著『改訂 ロールシャッハ法と精神分析―継起分析入門―』岩崎学術出版 小野和雄著『ロールシャッハ・テスト その実施・解釈・臨床例』川島書店 氏原寛編 『心理査定実践ハンドブック』 創元社 エクスナーJ.E. 著『ロールシャッハ・テスト―包括システムの基礎と解釈の原理』金剛出版 中村紀子著 『ロールシャッハテスト講義Ⅰ/Ⅱ』金剛出版					
21.成績評価	①受講者全員が Rorschach の事例を提供する 50％ ②事例検討の結果を踏まえて、解釈のレポートを作成する 50％					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 事例検討 A① 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 A② 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 A③ 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 B① 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 B② 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 B③ 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 C① 実際の事例から Rorschach について学ぶ					
	事例検討 C② 実際の事例から Rorschach について学ぶ					

	事例検討 C③ 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	
	事例検討 D① 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	
	事例検討 D② 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	
	事例検討 D③ 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	
	事例検討 E① 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	
	事例検討 E② 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	
	事例検討 E③ 実際の事例から Rorschach について学 ぶ	解釈レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	21510	2.科目名	臨床心理実践実習		3.単位数	6
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子、松井幸太、山本喜晴					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻臨床心理学コース			9.履修学年	2	
10.取得資格の要件	公認心理師		11.先修条件	臨床心理実践基礎実習		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、学内外における実習施設における実習を通して、心理に関する支援を要する者等に対して支援を行うことができるようになることを目的とする。授業の概要としては、各実習先での実習と学内でのふりかえりが中心となる。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作					
18.学習目標と DPとの関連	各実習先において、（ア）から（オ）までに掲げる事項を実践できる力を身につける。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得する （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成する （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる （エ）多職種連携及び地域連携ができる （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解がある					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する					
21.成績評価	①医療領域での実習の取り組み（事前・期中・事後）20％ ②福祉領域での実習の取り組み（事前・期中・事後）20％ ③教育領域での実習の取り組み（事前・期中・事後）20％ ④カンファレンスでの発表（3 領域）15％ ⑤カンファレンスでのディスカッション5％ ⑥学内実習での取り組み20％					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	春学期オリエンテーション					
第 2-14 回	実習の状況報告(学内実習・学外実習・SV)					
第 15 回	春学期ふりかえり					
8-9 月	夏季カンファレンス（隔週） 3 時間×4 回＝12 時間					
第 16 回	秋学期オリエンテーション					
第 16-29 回	学外実習カンファレンス					
第 30 回	秋学期ふりかえり					
2-3 月	冬季カンファレンス（隔週） 3 時間×4 回＝12 時間					
通年	学内実習（心理臨床センターこころの相談室）					

	①運営実習（大掃除・おもちゃ買い・運営会議） 22.5 時間 ②電話受付実習 4 時間×35 週 ②ケース担当 1 時間×20 回×4 ケース＝80 時間 ＊複数の面接形態のケースを担当する ・子どもとの遊戯療法面接担当 ・母子並行面接の親面接担当 ・成人との言語面接担当	
通年	学外実習 ①医療領域 8 時間×10 回＝80 時間 ②教育領域 8 時間×10 回＝80 時間 ③福祉領域 8 時間×10 回＝80 時間	

1.授業コード (ナンバリング)	21530	2.科目名	学校臨床心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、学校臨床の基礎について学ぶとともに、子どもの心理的援助の方法として、遊戯療法の基礎的スキルを身に着けることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①遊戯療法に関する基礎的知識を身に着ける。 ②プレイセラピーにおけるセラピストの基本的態度を身に着ける。 ③学校臨床の基礎的知識を身に着ける。					
19.教科書・教材	「新版・プレイセラピー：関係性の営み」 2014/7/16 ゲリー・L. ランドレス（著）、山中 康裕（翻訳）、江城 望（翻訳）、勅使川原 学（翻訳） 日本評論社					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	課題シートの作成・・・50 点（学習目標の①に対応） 遊戯療法のロールプレイにおけるセラピストとしてのスキルの向上・・・50 点					
22.コメント	事前準備をしっかりと行ってください。 ?テキストを読み、不明なところ、皆の意見をきいてみたいところを箇条書きにして、Webclass にあげること ②ロールプレイで演じる子どもの役作りをすること。					
23.オフィスアワー	火曜日 お昼休み メディアライブラリー 水曜日 お昼休み 研究室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 遊戯療法室の見学			「遊戯療法」を読み進めておくこと。		
第 2 回	テキストの輪読			ロールプレイで演じる子どもの役作りをすること。		
第 3 回	テキストの輪読					
第 4 回	テキストの輪読					
第 5 回	テキストの輪読					
第 6 回	テキストの輪読					
第 7 回	遊戯療法のスキルを身に着ける ロールプレイを通して、セラピストとしての基本的態度を学ぶ。 ※一人 30 分			ロールプレイふり返りシートの作成と印刷 (人数分)		
第 8 回	遊戯療法のスキルを身に着ける					

	ロールプレイを通して、セラピストとしての基本的態度を学ぶ。 ※一人 30 分	
第 9 回	ロールプレイふりかえり	
第 10 回	ロールプレイのふりかえり	
第 11 回	学校臨床：学校という場の特徴	
第 12 回	いじめ	
第 13 回	不登校	
第 14 回	発達障害	
第 15 回	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	21531	2.科目名	修士論文指導		3.単位数	8
4.授業担当教員	横川滋章					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	プレゼンテーション、講義、グループワーク			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	修士論文は、科学的視点に基づき結論を論じることが求められる。そのためには、文献研究により問題の明確化、本研究の目的の明示とともに、仮説の検証及び仮説の生成のどちらかに立脚し、論を進める必要がある。常に、自分の主観と客観を相対化しながら、社会的に意味のある研究を行ってもらいたい。提出したものの、最終報告会ならびに口頭試問により、修士論文の質・量ともに不備がある場合には、不可となることもある。覚悟と信念を持ってしっかりと取り組んでほしい。 尚、授業では、受講者が取り上げる研究テーマについての発表に基づいて討					
18.学習目標と DPとの関連	①修士論文において、研究テーマを明確化できる。 ②先行研究の概要についてまとめ、テーマに関する問題点、課題を発見し、解決のための研究方法を選択できる。 ③修士論文に関わる研究方法を実行できる。 ④修士論文を作成できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	修士論文作成への取組 (50%) 修士論文 (50%)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目 第 2 回目	オリエンテーション・・・修士論文、授業の進め方について 修了論文の構成 目次の作成					
第 3 回目 第 4 回目	目次の作成 問題・目的の検討					
第 5 回目 第 6 回目	題・方法の検討 方法の検討（対象者・調査等の内容・分析方法）					
第 7 回目 第 8 回目	修士論文中間発表会準備（配布資料構成） 修士論文中間発表会準備（配布資料作成）					
第 9 回目 第 10 回目	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション） ____					

	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション）	
第 11 回目 第 12 回目	修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する 調査等の準備 研究倫理委員会資料の準備	
第 13 回目 第 14 回目	調査等の準備 調査等の準備	
第 15 回目 第 16 回目	調査等実施 考察（データの解釈）に関する討議	
第 17 回目 第 18 回目	考察（データの解釈）の検討 中間報告会（プレゼンテーション） 修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する	
第 19 回目 第 20 回目	第一稿作成の準備 第 1 稿の検討	
第 21 回目 第 22 回目	第 1 稿（問題と目的）の作成 第 1 稿（方法）の作成	
第 23 回目 第 24 回目	第二稿（結果）の作成 第二稿（考察）の作成	
第 25 回目 第 26 回目	第二稿の提出 第二稿の検討	
第 27 回目 第 28 回目	修士論文ゼミ内仮提出 修士論文最終点検	
第 29 回目 第 30 回目	修論発表会・口頭試問準備 修論発表会・口頭試問準備	

1.授業コード (ナンバリング)	21532	2.科目名	修士論文指導		3.単位数	8
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	プレゼンテーション、講義、グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	修士論文は、科学的視点に基づき結論を論じることが求められる。そのためには、文献研究により問題の明確化、本研究の目的の明示とともに、仮説の検証及び仮説の生成のどちらかに立脚し、論を進める必要がある。常に、自分の主観と客観を相対化しながら、社会的に意味のある研究を行ってもらいたい。提出したものの、最終報告会ならびに口頭試問により、修士論文の質・量ともに不備がある場合には、不可となることもある。覚悟と信念を持ってしっかりと取り組んでほしい。 尚、授業では、受講者が取り上げる研究テーマについての発表に基づいて討					
18.学習目標と DPとの関連	①修士論文において、研究テーマを明確化できる。 ②先行研究の概要についてまとめ、テーマに関する問題点、課題を発見し、解決のための研究方法を選択できる。 ③修士論文に関わる研究方法を実行できる。 ④修士論文を作成できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	修士論文作成への取組 (50%) 修士論文 (50%)					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。ただし、修士論文執筆に関しては、利用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目 第 2 回目	オリエンテーション・・・修士論文、授業の進め方について 修士論文の構成 目次の作成					
第 3 回目 第 4 回目	目次の作成 問題・目的の検討					
第 5 回目 第 6 回目	題・方法の検討 方法の検討（対象者・調査等の内容・分析方法）					
第 7 回目 第 8 回目	修士論文中間発表会準備（配布資料構成） 修士論文中間発表会準備（配布資料作成）					
第 9 回目 第 10 回目	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション） 					

	— 修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション）	
第 11 回目 第 12 回目	修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する _____ 調査等の準備 研究倫理委員会資料の準備	
第 13 回目 第 14 回目	調査等の準備 _____ _____ 調査等の準備	
第 15 回目 第 16 回目	調査等実施 _____ _____ 考察（データの解釈）に関する討議	
第 17 回目 第 18 回目	考察（データの解釈）の検討 中間報告会（プレゼンテーション） _____ 修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する	
第 19 回目 第 20 回目	第一稿作成の準備 _____ _____ 第 1 稿の検討	
第 21 回目 第 22 回目	第 1 稿（問題と目的）の作成 _____ 第 1 稿（方法）の作成	
第 23 回目 第 24 回目	第二稿（結果）の作成 _____ 第二稿（考察）の作成	
第 25 回目 第 26 回目	第二稿の提出 _____ 第二稿の検討	
第 27 回目 第 28 回目	修士論文ゼミ内仮提出 _____ 修士論文最終点検	
第 29 回目 第 30 回目	修論発表会・口頭試問準備 _____ 修論発表会・口頭試問準備	

1.授業コード (ナンバリング)	21533	2.科目名	修士論文指導		3.単位数	8
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	プレゼンテーション、講義、グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	修士論文は、科学的視点に基づき結論を論じることが求められる。そのためには、文献研究により問題の明確化、本研究の目的の明示とともに、仮説の検証及び仮説の生成のどちらかに立脚し、論を進める必要がある。常に、自分の主観と客観を相対化しながら、社会的に意味のある研究を行ってもらいたい。提出したものの、最終報告会ならびに口頭試問により、修士論文の質・量ともに不備がある場合には、不可となることもある。覚悟と信念を持ってしっかりと取り組んでほしい。 尚、授業では、受講者が取り上げる研究テーマについての発表に基づいて討					
18.学習目標と DPとの関連	①修士論文において、研究テーマを明確化できる。 ②先行研究の概要についてまとめ、テーマに関する問題点、課題を発見し、解決のための研究方法を選択できる。 ③修士論文に関わる研究方法を実行できる。 ④修士論文を作成できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	修士論文作成への取組 (50%) 修士論文 (50%)					
22.コメント	生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手C水曜日昼休み、センターオフィスアワー：同C火曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目 第 2 回目	オリエンテーション・・・修士論文、授業の進め方について					
	修了論文の構成 目次の作成					
第 3 回目 第 4 回目	目次の作成					
	問題・目的の検討					
第 5 回目 第 6 回目	題・方法の検討					
	方法の検討（対象者・調査等の内容・分析方法）					
第 7 回目 第 8 回目	修士論文中間発表会準備（配布資料構成）					
	修士論文中間発表会準備（配布資料作成）					

第 9 回目 第 10 回目	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション） _____ _____ 修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション）	
第 11 回目 第 12 回目	修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する _____ 調査等の準備 研究倫理委員会資料の準備	
第 13 回目 第 14 回目	調査等の準備 _____ _____ 調査等の準備	
第 15 回目 第 16 回目	調査等実施 _____ _____ 考察（データの解釈）に関する討議	
第 17 回目 第 18 回目	考察（データの解釈）の検討 中間報告会（プレゼンテーション） _____ _____ 修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する	
第 19 回目 第 20 回目	第一稿作成の準備 _____ _____ 第 1 稿の検討	
第 21 回目 第 22 回目	第 1 稿（問題と目的）の作成 _____ _____ 第 1 稿（方法）の作成	
第 23 回目 第 24 回目	第二稿（結果）の作成 _____ _____ 第二稿（考察）の作成	
第 25 回目 第 26 回目	第二稿の提出 _____ _____ 第二稿の検討	
第 27 回目 第 28 回目	修士論文ゼミ内仮提出 _____ _____ 修士論文最終点検	
第 29 回目 第 30 回目	修論発表会・口頭試問準備 _____ _____ 修論発表会・口頭試問準備	

1.授業コード (ナンバリング)	21534	2.科目名	修士論文指導（春）		3.単位数	8
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	プレゼンテーション、講義、グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	修士論文は、科学的視点に基づき結論を論じることが求められる。そのためには、文献研究により問題の明確化、本研究の目的の明示とともに、仮説の検証及び仮説の生成のどちらかに立脚し、論を進める必要がある。常に、自分の主観と客観を相対化しながら、社会的に意味のある研究を行ってもらいたい。提出したものの、最終報告会ならびに口頭試問により、修士論文の質・量ともに不備がある場合には、不可となることもある。覚悟と信念を持ってしっかりと取り組んでほしい。 尚、授業では、受講者が取り上げる研究テーマについての発表に基づいて討					
18.学習目標と DPとの関連	①修士論文において、研究テーマを明確化できる。 ②先行研究の概要についてまとめ、テーマに関する問題点、課題を発見し、解決のための研究方法を選択できる。 ③修士論文に関わる研究方法を実行できる。 ④修士論文を作成できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	修士論文作成への取組（50%） 修士論文（50%）					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。ただし、修士論文執筆に関しては、利用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目 第 2 回目	オリエンテーション・・・修士論文、授業の進め方について 修士論文の構成 目次の作成					
第 3 回目 第 4 回目	目次の作成 問題・目的の検討					
第 5 回目 第 6 回目	題・方法の検討 方法の検討（対象者・調査等の内容・分析方法）					
第 7 回目 第 8 回目	修士論文中間発表会準備（配布資料構成） 修士論文中間発表会準備（配布資料作成）					
第 9 回目 第 10 回目	修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション） 					

	— 修士論文中間発表会準備（プレゼンテーション）	
第 11 回目 第 12 回目	修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する _____ 調査等の準備 研究倫理委員会資料の準備	
第 13 回目 第 14 回目	調査等の準備 _____ _____ 調査等の準備	
第 15 回目 第 16 回目	調査等実施 _____ _____ 考察（データの解釈）に関する討議	
第 17 回目 第 18 回目	考察（データの解釈）の検討 中間報告会（プレゼンテーション） _____ 修士論文中間発表会ふりかえり 発表会の質疑で指摘された事項を踏まえて修正する	
第 19 回目 第 20 回目	第一稿作成の準備 _____ _____ 第 1 稿の検討	
第 21 回目 第 22 回目	第 1 稿（問題と目的）の作成 _____ 第 1 稿（方法）の作成	
第 23 回目 第 24 回目	第二稿（結果）の作成 _____ 第二稿（考察）の作成	
第 25 回目 第 26 回目	第二稿の提出 _____ 第二稿の検討	
第 27 回目 第 28 回目	修士論文ゼミ内仮提出 _____ 修士論文最終点検	
第 29 回目 第 30 回目	修論発表会・口頭試問準備 _____ 修論発表会・口頭試問準備	

1.授業コード (ナンバリング)	21540	2.科目名	臨床心理面接特論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴、田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻臨床心理学コース			9.履修学年	1	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、実習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】本授業では、臨床心理面接を実施するために必要な力を身につけることを目的としている。 【概要】 学内の心理臨床センターでの実習に向けた準備として、新規申込の際の電話対応のロールプレイから始まり、実際に来談された想定でのインテーク面接のロールプレイを実施する。ロールプレイを通して、ケースマネジメントを学ぶとともに、カウンセラーとしての対応についてディスカッションしながら、理解を深めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業では、臨床心理面接を実施するために必要な力を身につけることを目的としている。具体的には以下の内容を身につけることを目標としている。 ①新規相談申込の応対をし、受付票を書くことができる ②インテーク面接のインテーカーをとして、何をするべきか理解できる。 ③カウンセラーとしての対応について、理解をできる。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する					
21.成績評価	①新規相談申込の電話応対（ロールプレイ） 20% ②新規相談申込の受付票の作成 20% ③インテーク面接のロールプレイ 20% ④インテーク面接後の記録の作成 20% ⑤インテーク面接に関するディスカッション 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション					
第2回	ロールプレイ CL 設定の確認					
第3回	電話受付ロールプレイ、電話受付票の説明					
第4回	電話受付票の検討、相談申込票の説明					
第5回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション					
第6回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討					
第7回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション					
第8回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討					
第9回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション					
第10回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討					
第11回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション					
第12回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討					
第13回	インテーク面接のロールプレイとディスカッション					
第14回	インテーク面接の逐語とインテーク報告書の検討					
第15回	ふりかえり					

1.授業コード (ナンバリング)	21550	2.科目名	臨床心理実践基礎実習	3.単位数	3
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻臨床心理学コース			9.履修学年	1
10.取得資格の要件	公認心理師		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習	
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	大学段階での実習を通じて得た公認心理師に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、次の（ア）から（オ）までに掲げる事項について、主に学内における実習施設における実習を通して、心理に関する支援を要する者等に対して支援を行うことができるようになることを目的とする。授業の概要としては、各実習先での実習と学内でのふりかえりが中心となる。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の				
18.学習目標と DPとの関連	主に学内の実習先において、（ア）から（オ）までに掲げる事項を実践できる力を身につける。 （ア）心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の修得する （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成する （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる （エ）多職種連携及び地域連携ができる （オ）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解がある				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	授業内で適宜紹介する				
21.成績評価	①心理臨床センターの機能や役割について説明できる 20% ②心理臨床センターでの電話対応ができる 20% ③カウンセリング（継続面接）の機能やカウンセラーの役割について説明できる 20% ④学外実習の分野と施設ごとの特徴について説明できる 20% ⑤心理臨床センターの運営補助ができる。20%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	春学期オリエンテーション				
第2回	心理臨床センター全体ガイダンス				
第3回	電話受付ガイダンス				
第4回	電話見習実習の説明				
	電話見習実習 ＊5月以降、10週間（1回/週） 1.5時間×10回＝15時間				
第5－9回	電話受付の対応について				
第10回	継続面接ロールプレイの説明				
	継続面接ロールプレイ 1.5時間×4＝6時間				
第11-15回	継続面接ロールプレイの検討				

8-9 月	夏季カンファレンス * 8-9 月隔週 3 時間×4 回=12 時間	
第 16 回	秋学期オリエンテーション	
第 17-29 回	学外実習カンファレンス	
第 30 回	ふりかえり	
2-3 月	冬季カンファレンス * 2-3 月隔週 3 時間×4 回=12 時間	
通年	センター運営実習 * 通年 大掃除・おもちゃ買い・運営会議	

1.授業コード (ナンバリング)	27000	2.科目名	臨床心理学研究法特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 プレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】臨床心理学領域におけるさまざまな研究を行う上での方法論と、研究の重要性、および困難さを理解することを目標にする。 【概要】臨床心理学においては、臨床実践や調査研究とプライバシーを含む倫理面の問題および研究から得られる公共性との両立と相克が重要なテーマとなるが、究極的には、クライアントの利益に還元されることが優先される。これらの点について留意しながら、臨床心理学研究法について学修する。 臨床心理学の専門家としては、実践力だけではなく、科学的な素養を有していることも重要である。この科目は、最終的な成果					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP のうち、調査分析力、コミュニケーション力、倫理観と関連する 【学習目標】 ①量的研究、質的研究、事例研究の意義をそれぞれ説明できる。 ②臨床心理学の研究論文の書き方を説明することができる。 ③論文の内容を相手にわかるように説明できる。					
19.教科書・教材	適宜 WEBCLASS にアップする					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	研究法に関するレポート 40%（目標①，②に該当） 口頭発表・プレゼンテーション等の報告会 40%（目標③に該当） 発表に対する質疑応答（目標③に該当）					
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	夏学期開講科目につき開講時連絡予定					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	臨床心理学の領域と研究法① 臨床心理学研究の特徴として、クライアントの利益を優先すること、プライバシーや倫理的な問題を常に念頭におくことを十分理解しておくことがあげられる。 【キーワード】 臨床心理学の研究領域、臨床研究			復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む		
第 2 回目	臨床心理学の領域と研究法② 量的研究、質的研究、事例研究の違いと意義を理解する。			復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む		
第 3 回目	臨床心理学の領域と研究法③ 量的研究、質的研究、事例研究の違いと意義を理解する。			復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む		
第 4 回目	質的研究法について①			復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む		
第 5 回目	質的研究法について②			復習：授業の内容をノートにまとめる		

		予習：授業の資料をよく読む
第 6 回目	質的研究法について③	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 7 回目	事例研究について①	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 8 回目	事例研究について②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 9 回目	事例研究について③	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 10 回目	研究法としての事例研究法① 事例研究法は臨床心理学において最も重要な研究法の 1 つである。本講では、知識伝達と技術習得のちがいが、概念的知識と手続き的知識のちがいに注目しながら、臨床の場において人間を統合的にとらえる実践的方法として洗練されてきたこの事例研究法の意義と限界について検討したい。 【キーワード】 事例研究、臨床の知、事例検討	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 11 回目	研究法としての事例研究法②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 12 回目	臨床心理学に関する研究論文のプレゼン①	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 13 回目	臨床心理学に関する研究論文のプレゼン②	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 14 回目	臨床心理学に関する研究論文のプレゼン③	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：授業の資料をよく読む
第 15 回目	臨床心理学研究法における倫理問題 臨床心理学研究の難しさは、しばしばクライアントのプライバシーや利益など研究において二律背反性に直面することがあげられる。これらの点について考える。 【キーワード】 倫理、インフォームド・コンセント、プライバシー保護	

1.授業コード (ナンバリング)		27001	2.科目名		臨床心理査定演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員		田中亜裕子						
5.授業科目の区分		基幹科目	6.必修・ 選択の区分		選択	7.開講学期・ 年度		2025 年度 夏学期
8.履修可能な専攻		人間心理学科				9.履修学年		1 年～
10.取得資格の要件					11.先修条件			
12.研究室			※※※		13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address			※※※		15.授業形態			
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		臨床心理査定法には、クライアントの査定（見立て・アセスメント）をするための観察，面接，心理検査が含まれる。前半は，新版 K 式発達検査を用いて，認知的，発達のな適応のアセスメントについて学ぶ。近年，軽度発達障害に関わる特別支援教育への社会的関心が高まっているが，その際にも，発達検査によって得られるデータが重要視される。ロールプレイや実習を通して主たる発達検査の使用法，テスターとしての基本的態度，所見の書き方を学ぶ。後半は，インタビュー面接を中心に，テストバッテリー，面接法を含めた，総合的なアセスメントにつ						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は次の通りです。 【学習目標】 ・臨床心理査定が実際に実施できるようになる。 ・検査用具をもちいた心理査定の技術に習熟する。 ・個々の心理査定法の技術だけでなく、見立てる力を養う。						
19.教科書・教材		発達相談と新版 K 式発達検査 子ども・家族支援に役立つ知恵と工夫 大島剛 他 明石書店						
20.参考文献		①「新版 K 式発達検査にもどづく発達研究の方法 操作的定義による発達測定」 中瀬淳 ナカニシヤ出版 ②「新版 K 式発達検査法 2001 年版 標準化資料と実施方法」新版 K 式発達検査研究会 ナカニシヤ出版 ③「発達相談と援助 新版 K 式発達検査 2001 を用いた心理臨床」川畑隆						
21.成績評価		臨床心理査定に関する実技 50％ 有用な所見を書くスキル 50％						
22.コメント		この授業を受講する前に、新版 K 式発達検査の 4 葉にある検査項目の実施方法を覚えておきましょう。 参考文献の①②を使用しながら、夏休み中に自習してください。						
23.オフィスアワー		火曜日 お昼休み メディアライブラリー 水曜日 お昼休み 研究室						
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 6/21 (火) 5 限		ガイダンス 新版 K 式発達検査 検査項目の理解と検査方法の確認				【持参するもの】 ?新版 K 式発達検査（3 台）②実施マニュアル（人数分） ※?②は毎回持参してください。 【アサインメント】 8 月 27 日(金) までに ?第 4 葉が実施できるように練習すること ?5 歳前後の子ども役を演じられるように準備		

		すること 【アサインメント】 8/31 までに テキストの担当部分のレジюмеを作成し、科目担当者を含めた人数分印刷して 8/31（火）に持参すること。
第 2 回 6/28（火）5 限	新版 K 式発達検査 検査項目の理解と検査方法の確認	
第 3 回 7/5（火）5 限	新版 K 式発達検査 ロールプレイ	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること） 【アサインメント】 8/30（月）までに 検査者役のときのロールプレイについて、陪席者の記述とビデオをもとに検査時の様子について、時系列で文章化すること（A4, 2 枚以内）。 レポートと記録用紙は科目担当者を含めた人数分印刷して 8/30（月）に持参すること。
第 4 回 8/27（金）2 限	新版 K 式発達検査 ロールプレイ	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること）
8/27（金）3 限	新版 K 式発達検査 ロールプレイ	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること）
第 6 回 8/27（金）4 限	新版 K 式発達検査 ロールプレイのふりかえり	【持参するもの】 ビデオカメラ 1 台（教務課で借りること）
第 7 回 8/30（月）1 限	新版 K 式発達検査 検査結果の整理	【持参するもの】 ?レポートと記録用紙を科目担当者を含めた人数分印刷して持参すること。 ②録画記録
第 8 回 8/30（月）2 限	新版 K 式発達検査 検査結果の整理	【持参するもの】 ?レポートと記録用紙を科目担当者を含めた人数分印刷して持参すること。 ②録画記録。
第 9 回 8/30（月）3 限	新版 K 式発達検査 検査結果の整理	【持参するもの】 ?レポートと記録用紙を科目担当者を含めた人数分印刷して持参すること。 ②録画記録。
第 10 回 8/31（火）1 限	テキスト輪読	【持参するもの】 ?テキスト ②担当部分のレジюмеを人数分印刷して持参

		すること。 【アサインメント】 9/13（月）までに 所見を書き終えること。所見は科目担当者分 も含めて人数分印刷し、9/13（月）に持参す ること。
第 11 回 8/31（火）2 限	テキスト輪読	【持参するもの】 ?テキスト ②レジュメ
第 12 回 8/31（火）3 限	テキスト輪読	【持参するもの】 ?テキスト ②レジュメ
第 13 回 9/13（月）1 限	所見の添削	【持参するもの】 ?所見を人数分印刷して持参すること。 ②これまでの配付資料一式。
第 14 回 9/13（月）2 限	所見の添削	【持参するもの】 ?所見を人数分印刷して持参すること。 ②これまでの配付資料一式。
第 15 回 9/13（月）3 限	所見の添削	【持参するもの】 ?所見を人数分印刷して持参すること。 ②これまでの配付資料一式。

1.授業コード (ナンバリング)	27002	2.科目名	グループアプローチ特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科			9.履修学年	1,2 年	
10.取得資格の要件	公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グループアプローチとは、個人の心理的治療・教育・成長、個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として行われるものである。本授業では、グループアプローチの基礎的知識をおさえたうえで、実際のグループアプローチの実践を通して、体験的な学修を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	①集団心理療法の特徴について説明できる ②ベーシック・エンカウンターグループの体験過程について説明できる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 授業に対するコミットメント（調べ学習・質問・発言など） 40% 2. グループアプローチに関するレポート 30% 3. エンカウンターグループに関するレポート 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 授業の概要と進め方について					
第2回	グループアプローチについて					
第3回	サイコドラマ概論					
第4回	サイコドラマの実践					
第5回	ベーシック・エンカウンター・グループ					
第6回	ベーシック・エンカウンター・グループの実践					
第7回	オープン・ダイアログ					
第8回	オープン・ダイアログの実践					
第9回	PCA グループ					
第10回	PCA グループの実践					
第11回	グループにおけるファシリテーター①					
第12回	グループにおけるファシリテーター②					
第13回	集団心理療法の特徴①					
第14回	集団心理療法の特徴②					
第15回	まとめ			最終レポート		

1.授業コード (ナンバリング)	30011	2.科目名	発達心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	西本望					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	第 1 学年	
10.取得資格の要件	BP 科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面)		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	本授業科目では、生涯発達心理学より、乳児期、幼児期、児童期、青年前期、青年後期、成人初期、成人中期、成人後期、高齢期における各段階での課題と支援のあり方を理解することを目的としています。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標には、DP(ディプロマポリシー)の七つ、専門知識・技能、問題発見力、調査分析能力、論文作成能力、課題解決への提案力、コミュニケーション能力、倫理観がかかわります。 公認心理師・臨床心理士受験資格取得や教師・保育士を、新たに、あるいは持続的に目指す対人援助職者として、授業での課題に自律的にかかわってください。問題を発見し、調査分析し、その結果を基に課題解決への提案をはかれるよう自ら研鑽をしてください。倫理的配慮についても改めて学んでまいりましょう。 本科目の学習目標は、以下の三つを設定しています。 ①各発達期に生じやすい心理的課題を説明できる。 ②心理的課題には、どのような要因が関与している可能性があるかについて説明できる。 ③心理的課題に対して、どのような支援が可能かを説明できる。					
19.教科書・教材	教科書：追って適宜指示いたします。					
20.参考文献	適宜紹介してまいります。					
21.成績評価	・各授業(小)レポート:授業毎の課題を 300 文字程度にて記述してください。つまり授業題目や授業内容にて話し合ったことから新たに考えたことなどについてです。 ・総括(大)レポート：授業中の内容から一つを選び、最終レポートを第 13 回授業開始前までに完成するようにしてください。13 回目授業にて履修者の半数、14 回目授業にてさらに半数が発表するようにしてください。視聴者は、意見の交換をするようにしてください。					
22.コメント	対人援助職者として、乳幼児・児童・生徒らの発達過程とともに自己の道筋も辿れます。専門用語についても、しっかりと理解していきましょう。 ・原則、全ての授業において対面で実施します。社会状況などによっては、オンデマンド（録画放送）で実施することもあります。 ・PDF の教材をアップすることがあります。必要に応じて、ご高覧ください。 ・講義形式で、講述が中心となります。心理検査などを取り入れた演習方式も検討しています。PC・タブレットなど情報機器端末からのワードやエクセルを使用した投函（提出）を指示します。指示以外となる行為や盗作・剽窃のほか手続不備レポートとしての評価を無効とすることがあります。ICT 関係の不具合は自己責任としてご注意ください。ICT 機器類の操作などにつきましては、メディアサポート室、メンター、チューター等にご相談ください。 ・生成 AI の利用につきましては、文章構成を検討することに使用されるのはかまいませんが、他の学生と内容が同様・類似しているときには盗作・剽窃と扱います。各学生の独自性（虚					

偽・作話のないようにして）を表現して記述してください。 ・PC、ノート、筆記用具以外にも持参の指示があるときには、それに従ってください。 ・授業中への積極的取り組みについては、受講上の注意・マナー心得てください。 ・欠席・遅刻・早退等については事前に担当者に伝え、必要な書類を提出してください。 ・実習などに該当するときには、当該実習に係る証明となる書類を提出するとともに、授業内レポート等の課題の要請を早めに担当者に行ってください。提出される期日は、欠席の最終日の翌日から翌週の同曜日までとします。関連部局での代替対応の手続、レポート等課題の要請と、期日までの提出をもって完了となります。ただし災害や事故など有事の際に、のような場合は自らの安全の確保したうえで余裕があれば担当者に伝えてください。 ・特別な配慮が必要な学生は事前に申し出てください。ただし、学業に支障を及ぼすようなアルバイトや私的旅行など学生の本分と異なる自己都合については不可とします。配慮を必要とする証明となる書類（教務課、学生課、キャリア支援室、教職センター・学修支援室、学生相談室など各専門部局や教職員からからの申し出等）を併せて提出してください。 ・種々の取扱いについても本学規程にもとづく。 【特別な配慮が必要な学生の皆様】 ・PDF の教材、課題に関しては、一般の履修講生と同じです。 ・各専門部局で事前に必要な届け出をして許可をもらって、担当者にもお知らせください。ただし内容によりましては対応ができないこともありますので、その際にはご容赦ください。		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、シラバスを用いた授業の進め方などの説明	PC、 予習：シラバスを読む。 復習：小テスト解答
第 2 回	第 3 章 発達・発達段階・発達心理学研究法	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 3 回	第 4 章 発達要因	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 4 回	第 4 章 発達の一般的傾向	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 5 回	第 4 章 発達理論	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 6 回	第 5 章 身体と運動の発達	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 7 回	第 6 章 感覚・知覚・認知発達	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 8 回	第 7 章 注意・記憶の発達	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 9 回	第 8 章 動機づけ・学習の発達	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 10 回	第 9 章 言語の発達	

		復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 11 回	第 9 章 思考・知能の発達	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 12 回	第 10 章 感情・パーソナリティ・社会性の発達	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 13 回	第 11 章 報告と意見交換	復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 14 回	報告と意見交換	PC,作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート
第 15 回	ふりかえり	PC, 作成レポート,復習：授業での話合いから新たに考えたことを webclass にレポート,授業アンケート

1.授業コード (ナンバリング)	30012	2.科目名	スクールインターンシップ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開 小学校・特別支援教育 分野における実務経験 のある教員による授業 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の概要 1 院生もしくは院生の所属する学校が直面している教育実践上の課題について、理論と実践の融合を念頭に、実践と省察を繰り返しながら課題解決を図る実践的研究（アクション・リサーチ）のための事前指導を行う。 2 インターンシップ実践校での、① 課題確定、② 予備調査、③ 仮説の設定、④ 実践研究⑤ 研究結果の分析と検証、研究報告書の作成と言った一連の研究活動の省察をワークショップの手法を用いて協同的に行い、研究論文作成のための中間、事後の指導を行う。 3 研究の手法 実践的研究（アクション・リ					
18.学習目標と DPとの関連	【本学のベンチマーク】 1.研究課題遂行能力 レベル4 自ら積極的に研究課題に取り組むことができる。 2.問題解決能力 レベル4 総合的な視点から課題と目標を把握して解決策を立案し、それを実行することができる。 3.情報処理能力 レベル4 データや現象を正確に解析・分析して考察できる。 4.プレゼンテーション能力 レベル3 研究成果を効果的に発表することができる。 5.コミュニケーション能力 レベル3 他の研究者と協力し、協議できる。 これらのベンチマークを達成するため。本授業は以下の到達目標を定める。 ○授業の到達目標及びテーマ ・学校が直面している教育実践上の課題について、理論と実践の融合を念頭に、実践と省察を繰り返しながら課題解決を図る実践的研究を進める。 ・専門的知識・技能をこの科目より統合し、実践者としての資質能力を伸ばし、学校における実践的研究のリーダー養成を最終的なねらいとする。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	二杉孝司、藤川大祐、上條晴夫編著：「授業分析の基礎技術」学事出版 2002 渡辺洋著：『心理・教育のための統計学入門』金子書房 1996 吉田健正：「大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方」【第2版】ナカニシヤ出版 2006 秋田喜代美/恒吉僚子/佐藤学：教育研究のメソドロジー」東京大学出版会 2006 柴山真琴：「子どもエスノグラフィー入門」新曜社 2007 佐藤郁哉：「質的データ分析法」新曜社 2011					

21.成績評価	1 授業毎の学修成果をリフレクトする。 30% 2 質的、量的研究への取り組み データの入手と処理 30% 3 リサーチ成果物の発表 40%	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	?スクール・インターンシップの研究方法についての概要 教育実践研究（アクション・リサーチ）の方法についての研究手順について ?データ収集の方法 ① 観察によるデータ収集 ② 言葉によるデータ収集 ③ 数量的データ収集	
第 3 回 第 4 回	?データ収集法の検討 ・実践校におけるデータ収集の事例報告を通じて研究対象課題のデータ収集法を検討する。 ?質的なデータの収集法 ・従来型（VTR、IC レコーダー、観察記録等）の発話記録によるディスコース分析。	○実践校における研究対象課題をまとめる。レポート（120 分） ○過去の教育実践のディスコース分析の事例を報告する。レポート（120 分）
第 5 回 第 6 回	質的なデータの収集法 ・フレームワーク型ワークショップ（クロス法、概念化シート法、ロジックツリー法等）によるディスコース分析。 ?量的なデータ収集法と分析 1 質問紙作成のポイント 2 データの集計 ① 単純集計 ② クロス集計	○クロス法、概念化シート法、ロジックツリー法等について報告する。レポート（120 分） ◆ノート PC 必携◆
第 7 回 第 8 回	?量的なデータ収集法と分析 II 3 データの分析 ① 効果的なグラフ化 ② 2 変数間の関係把握（共分散、相関係数） ③ 統計解析のためのツール ピボットテーブル、エクセル・アドインソフト ④ 統計的仮説検定 ?量的なデータ収集法と分析 III ① 主な検定方法 t 検定、F 検定、カイ 2 乗検定等	◆ノート PC 必携◆
第 9 回 第 10 回	?課題の確定 ・実践校の教育課題（研究テーマ）について各自提案	○研究テーマの絞り込みを行い、まとめる。レポート（120 分）

	し、課題解決の所在を明らかにし、各自の教育課題から研究テーマの絞り込みを行う。 ?研究方法、研究仮説、研究計画の検討 ・各自の研究テーマに沿った研究方法、研究仮説、研究計画をグループで検討する。	
第 11 回 第 12 回	?先行研究、参考文献についての検討Ⅰ ・各自の研究テーマに沿った研究方法を確立するため、先行研究や参考文献についてグループで検討する。 ?先行研究、参考文献についての検討Ⅱ ・先行研究や参考文献について、それぞれの研究テーマに沿ったプレゼンとグループ協議を行う。	○各自の研究のための先行研究、参考文献リストを作成する。レポート（120 分）
第 13 回 第 14 回	?予備調査の準備 ・各自の予備調査、予備教育実践研究の方法、計画について発表し、それぞれについて研究協議を行う。（データの収集方法、指導案、教材・教具の工夫等についての協議・検討） ?予備調査の実施報告 ・予備調査、予備教育実践研究の省察を行う。	○予備調査のまとめを作成する。レポート（120 分）
第 15 回 第 16 回	?予備調査、予備教育実践研究のデータ収集法の検討 ・データ収集の方法としての観察記録、インタビュー、質問紙、VTR、IC レコーダー等について検討する。 ?予備調査、予備教育実践研究のデータ収集法の検討 ・量的なデータの分析について検討する。	
第 17 回 第 18 回	?予備調査、予備実践研究の結果について省察し、仮説の修正を行う。 ?予備調査結果の反省に基づき、本調査、本教育実践研究の方法、計画についての研究協議（データの収集方法、指導案、教材・教具の工夫等についての協議・検討）	○予備調査の反省と本調査の方法、計画についてまとめる。レポート（120 分）
第 19 回 第 20 回	本調査の実施Ⅰ ?本調査の実施Ⅱ	○本調査結果をまとめる。レポート（120 分）
第 21 回 第 22 回	?データの収集と分析Ⅰ ・発話記録やワークシート等質的データによるディスコース分析 ?データの収集と分析Ⅱ ・フレームワーク型ワークショップによるディスコース分析	○ディスコース分析についてまとめる。レポート（120 分）

第 23 回 第 24 回	?データの収集と分析Ⅲ ・単純集計とクロス集計，表・グラフ化 ?データの収集と分析Ⅳ ・変数間の関係把握（共分散，相関係数） ・ピボットテーブル，エクセル・アドインソフト等による解析	以下全授業◆ノート PC 必携◆
第 25 回 第 26 回	?研究結果のまとめⅠ ・プレゼン資料作り ?研究結果のまとめⅡ ・プレゼン資料作り	
第 27 回 第 28 回	実践的研究成果の発表Ⅰ ?実践的研究成果の発表Ⅱ	
第 29 回 第 30 回	?実践的研究成果の発表Ⅲ ?実践的研究全体についての省察	

1.授業コード (ナンバリング)	30013	2.科目名	教育制度学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	教職に関する科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科人間行動学専攻			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件	専修免許取得に際しての選択科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度の構造を理解し、教育制度をめぐる問題の改善・解決に向けた方途を考えることを目的とします。 【概要】 学習権の保障を目的として存立している教育制度の構造と機能について、関連文献（主として『教育制度学研究』の特集テーマ論文や公開シンポジウム、課題別セッション）の検討を通じて理解を深めていきます。 具体的には、次の3点について理解を深めていきます。 第1に、学習権、義務性、無償性、中立性といった教育制度の構造を理解します。 第2に、教育制度の構造がどのように制度化					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(4)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 この授業では次の2点を身につけることを目標としています。 (1)関連文献の購読を通じて、教育制度の構造について説明することができます。 (2)教育制度の構造的理解を踏まえて、既存の教育制度を批判的に捉えるとともに、問題の改善・解決に向けた方途を提案することができます。					
19.教科書・教材	主に『教育制度学研究』を使用することとし、適宜コピーを配布します。					
20.参考文献	村田翼夫・上田学編『現代日本の教育課題』東信堂、2013 年 市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究所、1995 年					
21.成績評価	次の2つに基づいて評価します。 ・レジュメ作成 70% ・ディスカッション 30%					
22.コメント	関連文献の検討においては、論点および争点となっていることについて、報告者がレジュメを作成し、受講者間でディスカッションを行います。積極的な参加が期待されます。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポートでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	火曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション（文献紹介、分担決め等）					
【第2回】	【講義】教育制度の基本原理			○第3回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)		
【第3回】	教育制度研究の課題 1（研究の意味、制度概念、対象と課題）			○第4回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)		
【第4回】	教育制度研究の課題 2（対象と方法、福祉からみた教育制度、生涯学習と学校制度）			○第5回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)		

【第 5 回】	生涯学習社会における学校制度のあり方	○第 6 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 6 回】	学校教育における選択の自由	○第 7 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 7 回】	人間社会の展望・課題と教育制度改革研究	○第 8 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 8 回】	変革期における学校教育制度の課題	○第 9 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 9 回】	教育制度をめぐる関係性	○第 10 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 10 回】	教育制度における公共性の変容と質の確保	○第 11 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 11 回】	学校教育制度の意義	○第 12 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 12 回】	揺らぐ教育の機会均等	○第 13 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 13 回】	諸外国における教育制度改革の争点	○第 14 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 14 回】	教育制度のアーティキュレーション	○第 15 回までに、担当論文や関連文献を読む。(180 分) ○発表者はレジュメを作成する。(60 分)
【第 15 回】	義務教育制度の分権化・弾力化と授業のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	30021	2.科目名	人間行動学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	この授業は、特別支援教育士養成セ ミナーポイント振替対象科目です		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	特別な教育ニーズがあり、個に応じた配慮 ・ 支援を必要とする幼児児童生徒の教育支援にあ たると き、最初に課題となるのが行動面の困難への対応です。子どもたちが様々な行動上の問題を引 き起こすとき、大人から見た「困った行動」は子どもにとってどのような意味があるのかを考 える必要があります。本授業では、さまざまな子どもの行動について、その理解と支援の基本 について学びます。さらに、発達障害を中心に、行動面の困難に対して適切に支援できる力を 身につけていくようにします。そのような子どもたちの支援の方法として、UD,ABA					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(1)専門的知識 ・ 技能、(2)問題発見力、 (3) 調査分析能力、(5)問題解決策への提案力、(6) コミュニケーション能力、(7)倫理観、の 学修に関連しています。 (1) 行動面の問題の具体像について知る。 (2) 行動面の問題が生じるメカニズムについて述べることができる。 (3) 応用行動分析の基本的な考え方について説明できる。 (4) 行動面の問題への基本的な指導について述べることができる。 (5) LD, ADHD, ASD, DCD 等の行動上の困難と支援の基本を説明できる。 (6) 行動面の問題の具体的事例について、支援方法を考えることができる。					
19.教科書・教材	一般財団法人特別支援教育士資格認定協会 編（2023）特別支援教育の理論と実践 第 4 版、 第 2 巻 指導、金剛出版					
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	① 授業内での討論及び事前学習 40% ② 小課題 30% ③ 最終課題 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 4 限（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 「行動面の困難」とは何か			◆ノートパソコン◆ 教科書 第 2 回以降は授業の中で指定します		
第 2 回	行動面の困難の包括的アセスメント					
第 3 回	応用行動分析（ABA）の基本					
第 4 回	「強化」と機能的アセスメント					
第 5 回	行動変容の方法					
第 6 回	脳機能から理解する ADHD のある子どもたち					
第 7 回	脳機能から理解する ASD のある子どもたち					

第 8 回	発達障害のある子どもたちへの支援：学校場面における環境調整と関わり方	
第 9 回	個に応じた支援と合理的配慮：UD の教育	
第 1 0 回	個に応じた支援と合理的配慮：ICT の活用	
第 1 1 回	保護者や関係機関との連携	
第 1 2 回	ライフサイクルから見た発達障害	
第 1 3 回	社会的自立・就労の指導	
第 1 4 回	セルフアドボカシー	
第 1 5 回	授業全体の振り返り まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	30022	2.科目名	フィールド演習Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	調査研究の技法を修得するために、理論的に学習するとともにその技法を理解し、実際に量的調査を行ったり、質的調査を行ったりする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①量的・質的調査の基本知識について説明することができる。 ②調査表調査、観察、インタビュー、フィールドワークを実際に行うことができる。 ③調査の成果を報告書としてまとめることができる。 該当する専攻 DP ①専門知識・技能 ②問題発見力 ③調査分析能力 ④論文作成能力 ⑤課題解決への提案力 ⑥コミュニケーション力 ⑦倫理観					
19.教科書・教材	※修士論文作成にあたり量的調査を行う場合は、下記 2 冊の内容を理解する必要があります（「フィールド演習Ⅰ」履修者は学修済）。 佐藤郁哉『社会調査の考え方〈上〉』東京大学出版会、2015 佐藤郁哉『社会調査の考え方〈下〉』東京大学出版会、2015					
20.参考文献	佐藤郁哉『社会調査の考え方〈上〉』東京大学出版会、2015 佐藤郁哉『社会調査の考え方〈下〉』東京大学出版会、2015 ※修士論文作成にあたり量的調査を行う場合は、上記 2 冊の内容を理解する必要があります（「フィールド演習Ⅰ」履修者は学修済）。 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992. 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002. その他の文献、参考図書は適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	担当時の発表 25%×2 回 最終レポート 50%					
22.コメント	調査スキルを自分のものにするために、しっかりと課題に取り組んでください。 本科目の履修を希望する場合、できる限り事前にフィールド演習Ⅰを履修しておいてください。 生成 AI の活用は条件付きで認めます。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意してください。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・授業の進め方、評価方法等のガイダンス			○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (120 分)		
【第 2-4 回】	社会調査におけるフィールドワーク ・第 2 回 フィールドワークとは何か ・第 3 回 フィールドワークの論理 ・第 4 回 フィールドワークの実際			○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)		
【第 5-6 回】	観察する技術			○授業における復習と予習、準備を行う。ま		

	・第5回 対象との出会い、方法・技法の模索 ・第6回 問題発見	た、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)
【第 7-8 回】	インタビューの技術 ・インタビューの技法についての学修	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)
【第 9-10 回】	記録する技術 ・フィールドノーツの取り方など	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)
【第 11-12 回】	記録から分析へ ・フィールドワークの記録の整理、分析手法	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)
【第 13-14 回】	伝える技術 ・エスノグラフィーの技法	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)
【第 15 回】	フィールドワークとは ・中間まとめ	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (120 分)
【第 16-27 回】	フィールドワーク ・フィールドワークとその検討	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分)
【第 28-30 回】	研究成果のまとめ ・第 28-29 回 研究成果報告の準備 ・第 30 回 研究成果の報告	○授業における復習と予習、準備を行う。また、必要に応じてフィールドワークを行う。 (各回 120 分) ★最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	30023	2.科目名	教職特別研究特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教師のおかれている現状と彼らの抱える課題について実証的に考察し、教職について理解を深めるとともに、今後の学校教育の方向性について検討することができるようになるために、教職の意義、教師の役割、職務内容、力量形成、教師を取り巻く教育政策について、文献購読を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①教職の意義、教師の役割、仕事内容、力量形成のあり方、教師を取り巻く社会的状況について説明することができる。 ②論文の構造を理解し、それにもとづいたレポートを書くことができる。 該当する専攻 DP ①専門知識・技能 ②問題発見力 ④論文作成能力 ⑤課題解決への提案力 ⑥コミュニケーション力					
19.教科書・教材	テキストは使用しない。受講者と相談のうえ、輪読文献は適宜示す。					
20.参考文献	参考書・参考資料等は適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	担当時の発表 25%×2 回 最終レポート 50%					
22.コメント	毎回、課題論文について議論するので、事前にしっかりと課題論文を読んでおきましょう。 生成 AI の活用は条件付きで認めます。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意してください。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業の進め方、評価方法等のガイダンス			○次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 2 回】	教師のライフヒストリー			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 3 回】	教師の実践的思考とその伝承			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 4 回】	教職に何がおこっているのか？			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 5 回】	教師は何を期待されてきたか			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 6 回】	医療化としての「発達障害」			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 7 回】	協働の同僚性としての＜チーム＞			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 8 回】	教員集団内における教職アイデンティティの確保戦略			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 9 回】	学校への新しい専門職の配置と教師役割			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表		

		者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 10 回】	「教員の資質低下」という幻想	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 11 回】	日本の教師と現代の教員制度改革	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 12 回】	教師教育改革の課題	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 13 回】	教育改革は本当に必要だったのか	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 14 回】	グローバリゼーションとカリキュラム	○復習を行う。(120 分) また次回の発表準備を行う。(360 分) また、最終発表に関する調査・データ整理を行う。(360 分)
【第 15 回】	これまでの復習と総括 調査分析結果の発表	○復習を行う。(120 分) ★最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	30024	2.科目名	発達障害教育特別演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、発達障害に関する分野での実践・研究に必要となる現場体験及び文献講読による実践分析力と研究方法のと習得をめざす。 【概要】発達障害児における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の発達障害教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	学修目標 ① 発達障害教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 DP・ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③ 研究課題を企画し遂行することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	実践での分析結果の発表：50% 最終レポート：50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション・授業の進め方			★次回までに、自身の研究主題にあった発達障害に関する海外文献を3つ探索し、日本の論文と比較するための準備		
第2回	・実践体験と分析(1)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表①			★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。		
第3回	・実践体験と分析(2)・発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表②			★実践体験及び調査のためのフィールドを確保し、課題の分析を行う。		
第4回	・実践体験と分析(3)・特別支援教育現場での実践報告			★実践体験及び調査のためのフィールドを確		

	と分析 ○海外論文発表③	保し、課題の分析を行う。
第 5 回	・実践体験と分析(4) ・ 特別支援教育現場での実践 ○海外論文発表④	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。
第 6 回	・実践体験と分析(5) ・ 発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑤	★実践体験及び調査結果等の報告のまとめを次回までに行う。
第 7 回	・実践体験と分析(6) ・ 発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑥	★実践体験及び調査結果等の中間報告のまとめを次回までに P P T で準備する。
第 8 回	・実践体験と分析(7) ・ 中間報告 ○中間報告会と議論、検討、課題と問題解決	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 9 回	・実践体験と分析(8) ・ 特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑦	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 10 回	・実践体験と分析(9) ・ 特別支援教育現場での実践報告 ○海外論文発表⑧	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 11 回	・実践体験と分析(10) ・ 発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑨	★実践体験及び調査結果等の中間報告の課題を受けて準備検討する。
第 12 回	・実践体験と分析(11) ・ 発達障害に関する問題の課題分析 ○海外論文発表⑩	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。
第 13 回	・個人の発表と討議(12) ・ 分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。
第 14 回	・個人の発表と討議(13) ・ 分析結果のまとめ	★実践体験及び調査結果等の最終報告に向けて準備検討する。
第 15 回	・個人の発表と討議(14) ・ 最終報告	

1.授業コード (ナンバリング)	30031	2.科目名	特別支援教育特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	花熊暁					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	我が国ではいま、誰もが相互に人格と個性を尊重しあい、人々の多様なあり方を相互に認め合える全員参加型の社会である「共生社会」の形成が国家的な目標とされています。そうした社会を形成していくためには、学校教育においてインクルーシブ教育システムを構築することが重要であり、そのためには特別支援教育を着実に進めていく必要があります。 本授業では、障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方の理解をもとに、特別支援教育が求められた背景、特別支援教育のシステムと支援の基本（基礎的環境整備と合理的配慮）、特別支援教					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能、（2）問題発見力、（5）問題解決策への提案力、（7）倫理観、の学修に関連しています。 （1） 障がいの捉え方の歴史的変遷と現在の障がいの捉え方（ICF,2001）を述べることができる。 （2） 特別支援教育が求められた背景と特別支援教育の最新の動向について説明できる。 （3） インクルーシブ教育システムの理念と基礎的環境整備、合理的配慮について説明できる。 （4） 学校・園における特別支援教育の体制づくりと支援者の役割、支援者に必要な専門性と倫理について説明できる。 （5） LD、ADHD、ASD、DCD 等の発達障害の定義と状態像と支援の基本を述べることができる。 （6） 長期的な観点に立った支援と移行支援の必要性について説明できる。 （7） 特別支援教育と発達障害支援の今後の課題を述べることができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育の理論と実践 第1巻「概論・アセスメント」 金剛出版 2023 年。 このほか、教員が作成した資料を、毎回の授業で配布します。					
20.参考文献	必要に応じて、授業で文献を紹介します。					
21.成績評価	① 授業内の討論 30% ② 内容理解確認のための小テスト 40% ④ 最終レポート 30%					
22.コメント	特別支援教育の理念、システム、対象児、具体的な支援内容を理解する上での基礎となる授業内容なので、それらの基本概念をしっかりと把握してください。					
23.オフィスアワー	非常勤講師のためオフィスアワーなし。質問等は、授業時及びメールで受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	◇ 障がい支援の動向 ・講義 ①「障害」の捉え方の歴史的変遷 ② いま、障がい支援に求められること					
【第2回】	◇ 学校教育の今日的課題					

	・講義 ①特別支援教育の理念 ②特別支援教育が求められる背景 ③特別支援教育と通常の教育の関連性	
【第3回】	◇「特殊教育」から「特別支援教育」へ ・講義 特別支援教育の歴史	
【第4回】	◇ 特別支援教育の理念とシステム ・講義 ①特別支援教育の理念と意義 ②特別支援教育のシステムの全体像	
【第5回】	◇ 特別支援教育の展開 その1 ・講義 ①学校における特別な教育ニーズの実態把握 ②個に応じた支援を必要とする子どものアセスメント	
【第6回】	◇ 特別支援教育の展開 その2 ・講義 学校・園における支援体制	
【第7回】	◇ 特別支援教育の展開 その3 ・講義 個別の指導計画の作成	
【第8回】	◇ 特別支援教育の展開 その4 ・講義 個別の教育支援計画の作成 ・討論 個別の教育支援計画がなぜ必要なのか	
【第9回】	◇ 特別支援教育の展開 その5 ・講義 ① 関係機関（医療、福祉、労働）との連携 ② 移行支援	
【第10回】	◇ 発達障害の理解 ・講義 ①発達障害とは ②発達障害の歴史 ③発達障害を巡る動向	
【第11回】	◇ LD（学習障害）概論 講義 ① LD の定義 ② LD の状態像と支援の基本	
【第12回】	11-2.授業内容 ◇ ADHD（注意欠如多動症）概論 講義 ① ADHD の定義と状態像 ② ADHD の支援の基本	
【第13回】	◇ ASD（自閉スペクトラム症）概論 講義 ① ASD の定義と状態像 ② ADHD の支援の基本	

【第 14 回】	◇ DCD（発達性協調運動症） 及び、発達障害の周辺にいる子どもたち 講義 ① DCD の理解と支援 ② 発達障害の周辺にいる子どもたちの理解と支援	
【第 15 回】	◇ まとめ：特別支援教育と発達障害支援の今後の課題 ① 支援対象の拡大（ギフテッド、2E 等） ② 支援システム面の課題	

1.授業コード (ナンバリング)	30032	2.科目名	学級経営学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】様々な視点に基づく学級（ホームルーム）経営について多面的に考察することを通して、現場における実践力の向上を図る。 【概要】○議論と対話、思索を通して、柔軟な思考力と多角的な視座を形成するとともに、リーダーシップの重要な要素であるコミュニケーション能力の向上を図る。 ○学級経営に係る諸課題とその克服のための方策について考究する。 ・学校は社会的な教育機関であるという特性のため、その社会の変化の影響を少なからず受ける。そしてそこから生じる課題とそれに対応するための柔軟な対応力が必要とされる。現在学校を取					
18.学習目標と DPとの関連	学修目標 ① 学級経営の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 学級におけるアセスメントの構造について、困っている子どもたちの特性から説明することができる。 ④ 生徒指導上の諸問題について、困っている子どもたちの特性から説明することができる。 ⑤ 教科指導と学級経営の課題について、説明することができる。 ⑥ AI や IT 技術に関する STEM（科学・技術・工学・数学）教育の世界と日本の現状について理解しマネジメントすることができる。 DP・ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③ 研究課題を企画し遂行することができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育士認定協会編（2023）特別支援教育の理論と実践 第 4 版、金剛出版 第 3 巻 特別支援教育士の役割・実習					
20.参考文献						
21.成績評価	授業内の対話・交流・議論・発表等への参加姿勢 30% 課題の発見と解決に向けた幅広い行動力 30% 課題に対する読解力・思考力・判断力・表現力等の言語能力 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 学級経営とは何か(文科省方針を踏まえて)			毎回の課題に対して、事前に考察し、文字化しておく。		
第 2 回	学級におけるアセスメント①					
第 3 回	学級におけるアセスメント②					
第 4 回	学校園における学級経営の具体的方策①					

	学校・園における支援体制Ⅰ:通常の学級における支援 ①基礎的環境整備 ②合理的配慮	
第 5 回	学校園における学級経営の具体的方策② 学校・園における支援体制Ⅰ:通常の学級における支援 ①学習指導要領 ②教育課程 ③学級経営 AI や IT 技術に関する STEM（科学・技術・工学・数学）教育の世界と日本の現状について	
第 6 回	「いじめ」「不登校」についての理解と対応① ・講義：「いじめ」「不登校」の現状と理解	
第 7 回	「いじめ」についての理解と対応② ・講義：「いじめ」の具体的対応	
第 8 回	「不登校」についての理解と対応② ・講義：「不登校」の具体的対応	
第 9 回	学校・園における支援体制Ⅱ:通級による指導 ①通級による指導の制度の変遷 ②自立活動 ③自校通級・他校通級・巡回による指導	
第 10 回	学校・園における支援体制Ⅱ:通級による指導 ①通常の学級との連携 ②専門機関との連携 AI や IT 技術に関する STEM（科学・技術・工学・数学）教育の世界と日本の現状について	
第 11 回	生徒指導上の諸問題の理解と対応① ・講義：生徒指導上の諸問題と子どもたちの発達特性、困り感	
第 12 回	生徒指導上の諸問題の理解と対応② ・討議：発達特性に応じた生徒指導とは？	
第 13 回	保護者対応	
第 14 回	学校・園における支援体制Ⅲ:コーディネーターの役割とリソースの活用 ①チーム学校 ②特別支援教育コーディネーター ③校内委員会	
第 15 回	学校・園における支援体制Ⅲ:コーディネーターの役割とリソースの活用 ①特別支援教育支援員 ②地域リソースの活用	

1.授業コード (ナンバリング)	30041	2.科目名	修士論文指導		3.単位数	8
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間学行動科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	修論のテーマに関する先行研究について年表を作成する。 テーマを絞り込んで未解決の問題を明確化する。 先行研究の文献をもとに仮説を検討する。 仮説を検証する方法（または目的を達成する方法、問題を解明する方法）を絞り込む。 修論提出までの修論の計画を明確にする。 データを収集する手続きを記述する。 手続に従ってデータ収集を行う。 データの処理計画を立案する。 データ処理をしながら問題と目的、方法を書き始める。 作成した文章について、校閲、訂正、提出する。 データの入力と統計処理等を行う。研究の目的に合致した結					
18.学習目標と DPとの関連	<学習目標> <目標> とするベンチマーク> 1. 研究テーマに関する先行研究のレビューをする力をつける。 (①知、②情、③思、④プ、⑤話) 2. 解明したい問題と目的を絞り込んで明確化する力をつける。 (②情) 3. 目的を達成するための科学的方法論を修得する。 (①知、③思) 4. 科学的なデータを収集する方法を修得する。 (①知、③思) 5. データを処理し、分析する方法を習得する。 (①知、③思) 6. 処理し、分析したデータを目的に沿って整理する方法を習得する。(①知、③思) 7. 整理したデータを問題と目的に照らして解釈し、なぜそのような結果が得られたのか、考察する力を修得する。そして、研究上の問題点や今後の課題を明確にする力を修得する。 (①知、③思) 8. 問題と目的、方法、結果、考察、今後の課題、要約、引用文献の論文構成にしたがって、論理的論文を書く力を修得する。 (③思、④プ、⑤話、⑥書く) 9. 与えられた時間内で発表できるプレゼンテーション用パワポの資料と、発表用の原稿をまとめる力を修得する。 (③思、④プ) 10. 原稿を見ないで発表する力を修得する。 (④プ、⑤話) 11. 質疑に応答する力を修得する。 (⑤話) ①知的好奇心、②情報収集／発見力、③思考／判断力、④プレゼンテーション／表現力、⑤聞く・話す力／意見交換力、⑥論理的な文章を書く力を習得する。					

19.教科書・教材		
20.参考文献		
21.成績評価	1. 先行研究のレビューがきちんとできているか 2. 問題から目的までの記述が論理的であるか 3. 目的を達成する方法とその記述が適切か 4. 結果の処理は間違いないか 5. 結果の表現方法は適切か 6. 考察は「なぜその結果が得られたか」の論理的説明が先行研究との関連の中で記述されているか 7. まとめ（要約）は、問題と目的、結果、考察が簡潔に記述されているか 8. 引用文献が記載ルールに従って記載されているか 9. 謝辞がきちんと記述されているか ★論文のレベルが修論として認められるレベルに達しているか 修士論文 6	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（修論が完成するまでの課題と作業），修論の位置づけ，科学とは？研究とは？	課題 A－1（次週まで）＞次回までに研究したいこと（研究テーマ）とそれに関係する先行研究の年表（1）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－1（次週まで）＞自閉症の睡眠に関する英論文（1）を手渡すので、次週までに訳せるところまで訳して発表する準備。
第 2 回	①＜課題（1）＞と＜課題（2）＞の発表と討論，②先行研究のレビューの意味とその重要性、③研究の方法論	＜課題 A－2（次週まで）＞先行研究の年表の作成（2）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－2＞英論文（1）の残りの部分の翻訳と発表原稿の作成。
第 3 回	①＜課題（3）＞と＜課題（4）＞の発表と討論，②研究の方法論，③何を研究したいのか？研究の意義は？	＜課題 A－3＞先行研究の年表の作成（3）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－3＞英論文（1）の残りの部分の翻訳と発表原稿の作成。
第 4 回	①＜課題（3）＞と＜課題（4）＞の発表と討論，②研究の方法論，③テーマの絞り込みと未解決の問題の明確化。 自閉症に特有の睡眠障害があるのか？あるとすればその理由は？他の障害にも類似の睡眠障害はないのか？あるかないかを明らかにする方法は？clumsyのある自閉症はない自閉症より睡眠障害が多い事実は見つかったのか？そういう先行研究はあるのか？もし、先行研究があるなら、研究の新規性は？もしまだ、誰も気づいていないとするなら、その事実は臨床経験的なものか、それとも一定数のデータが収集されているのか？もし、	＜課題 A－4＞先行研究の年表の作成（4）の作成と発表の準備。 ＜課題 B－4＞英論文（1）の完訳原稿の作成。 ＜課題 C－1＞英論文（1）の要約原稿の作成（◎◎参照） ＜課題 C－2＞英論文（2）を手渡すので、「アブストラクト」の翻訳原稿を作成。

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	30043	2.科目名	実践課題研究指導		3.単位数	8
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間学行動科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	実践課題のテーマに関する先行研究について年表を作成する。 テーマを絞り込んで未解決の問題を明確化する。 先行研究の文献をもとに仮説を検討する。 仮説を検証する方法（または目的を達成する方法、問題を解明する方法）を絞り込む。 課題研究提出までの計画を明確にする。 データを収集する手続きを記述する。 手続に従ってデータ収集を行う。 問題と目的、方法を書き始める。 作成した文章について、校閲、訂正、提出する。 研究の目的に合致した結果を残し、グラフ等を作成する。 他の実践研究と比較しながら、なぜその結果が得られ					
18.学習目標と DPとの関連	<学習目標> <目標とするベンチマーク> 1. 研究テーマに関する先行研究のレビューをする力をつける。(①知、②情、③思、④プ、⑤話) 2. 解明したい問題と目的を絞り込んで明確化する力をつける。(②情) 3. 目的を達成するための科学的方法論を修得する。(①知、③思) 4. データを処理し、分析する方法を習得する。(①知、③思) 5. 整理したデータを問題と目的に照らして解釈し、なぜそのような結果が得られたのか、考察する力を修得する。そして、研究上の問題点や今後の課題を明確にする力を修得する。(①知) 6. 問題と目的、方法、結果、考察、今後の課題、要約、引用文献の論文構成にしたがって、論理的論文を書く力を修得する。(③思、④プ、⑤話、⑥書く) 7. 与えられた時間内で発表できるプレゼンテーション用パワポの資料と、発表用の原稿をまとめる力を修得する。(③思、④プ) 8. 質疑に応答する力を修得する。(⑤話)					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	1. 先行研究のレビューがきちんとできているか 2. 問題から目的までの記述が論理的であるか 3. 目的を達成する方法とその記述が適切か 4. 結果の処理は間違いないか 5. 結果の表現方法は適切か 6. 考察は「なぜその結果が得られたか」の論理的説明が先行研究との関連の中で記述されているか					

	7. まとめ（要約）は、問題と目的、結果、考察が簡潔に記述されているか 8. 引用文献が記載ルールに従って記載されているか 9. 謝辞がきちんと記述されているか 実践課題研究のまとめ 60% 発表 30% 研究計画他 10%	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	ガイダンス（実践課題研究が完成するまでの課題と作業）、実践課題研究の位置づけ、科学とは？研究とは？	課題A-1（次週まで）>次回までに研究したいこと（研究テーマ）とそれに関係する先行研究の年表（1）の作成と発表の準備。
第2回	①<課題（1）>と<課題（2）>の発表と討論、②先行研究のレビューの意味とその重要性、③研究の方法論	<課題A-2（次週まで）>先行研究の年表の作成（2）の作成と発表の準備。
第3回	①<課題（3）>と<課題（4）>の発表と討論、②研究の方法論、③何を研究したいのか？研究の意義は？	<課題A-3>先行研究の年表の作成（3）の作成と発表の準備。
第4回	①<課題（3）>と<課題（4）>の発表と討論、②研究の方法論、③テーマの絞り込みと未解決の問題の明確化。	<課題A-4>先行研究の年表の作成（4）の作成と発表の準備。
第5回	①実践内容（1）について、問題と目的、方法、結果、考察について討論する。	<課題A-5>先行研究の年表作成。
第6回	①実践内容について（2）実践研究のテーマに関して何を調べるのかを絞り込み、データを入手する方法を検討する。	
第7回	①実践内容の検討①研究の内容について討論し自己の研究と関連付ける。②自己の研究のデータ収集の方法を検討する。	
第8回～第15回	【8回】～【15回】第2回～第7回までやってきたことを中心に実施していく。①先行研究をもとに自分の研究の仮説を検討する。②仮説を検証する方法（または目的を達成する方法、問題を解明する方法）を絞り込む。③実践課題提出までの計画を明確にする。④課題に沿った実践を行う。⑦データ処理の方法を記述する。データ収集を開始する。⑧実践家だ研究の中間発表に向けて問題と目的、方法まで（データの収集が進んでいる場合には結果まで）をパワーポイントでプレゼンテーション用のスライド資料と読みの原稿を作成し、提出する。中間発表で指摘	データ整理
第16回～第30回	【16回】～【30回】 ①先行研究の文献を読み続け、1編読みこなすたび	データのまともと執筆

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	30051	2.科目名	教育学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子					
5.授業科目の区分	【基礎科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育学の領域のうち、とくに人間発達の初期にある子どもを対象とする家庭教育や家族の問題を扱います。 具体的には次の内容を扱います。 ①近代家族及び教育家族の特徴とその成立過程 ②現代日本の子どもの育ちの困難の実態とその背景 ③現代日本の家族の実態と問題					
18.学習目標と DPとの関連	①教育の最初の段階である家庭教育の歴史に関して社会史的な理解ができる。 ②教育家族の成立が、現代日本の子どもの育ちの困難とどのように関係しているかを分析できる。 ③現代日本の幼児・初等教育の実態と問題を説明し、解決の道筋を示すことができる。					
19.教科書・教材	輪読文献を適宜示します。					
20.参考文献	参考文献、参考図書は適宜授業中に紹介します。					
21.成績評価	最終レポート 50% 担当時の発表 50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等のガイダンスを行う			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第2回】	Ⅰ 近代家族とは何か；近代家族とはどのような特徴をもった家族かを知る			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第3回】	Ⅰ 近代家族の誕生と変化；日本で近代家族がどのように成立してきたかを知る			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第4回】	Ⅰ 近代家族と教育家族；日本における近代家族の成立が、教育家族となっていくプロセスを知る			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第5回】	Ⅰ 教育家族の問題；教育家族が現代の教育にどのような影響を与えているかを知る			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第6回】	Ⅱ 現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る（不登校、少年非行、引きこもり等）			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第7回】	Ⅱ 現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る（不登校、少年非行、引きこもり等）			○輪読文献を読んでくる（240 分）		
【第8回】	Ⅱ 現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る（不登校、少年非行、引きこもり等）			○輪読文献を読んでくる（240 分）		

【第 9 回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 0 回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 1 回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 2 回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 3 回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 4 回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 5 回】	子どもの育ちの困難と家庭教育の問題に関するまとめを行う	○最終レポートに向けてまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	30052	2.科目名	教育学特論Ⅰ (2024 年度以前入学生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子					
5.授業科目の区分	【基礎科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育学の領域のうち、とくに人間発達の初期にある子どもを対象とする家庭教育や家族の問題を扱います。 具体的には次の内容を扱います。 ①近代家族及び教育家族の特徴とその成立過程 ②現代日本の子どもの育ちの困難の実態とその背景 ③現代日本の家族の実態と問題					
18.学習目標と DPとの関連	①教育の最初の段階である家庭教育の歴史に関して社会史的な理解ができる。 ②教育家族の成立が、現代日本の子どもの育ちの困難とどのように関係しているかを分析できる。 ③現代日本の幼児・初等教育の実態と問題を説明し、解決の道筋を示すことができる。					
19.教科書・教材	輪読文献を適宜示します。					
20.参考文献	参考文献、参考図書は適宜授業中に紹介します。					
21.成績評価	最終レポート 50% 担当時の発表 50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等のガイダンスを行う			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第2回】	Ⅰ 近代家族とは何か；近代家族とはどのような特徴をもった家族かを知る			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第3回】	Ⅰ 近代家族の誕生と変化；日本で近代家族がどのように成立してきたかを知る			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第4回】	Ⅰ 近代家族と教育家族；日本における近代家族の成立が、教育家族となっていくプロセスを知る			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第5回】	Ⅰ 教育家族の問題；教育家族が現代の教育にどのような影響を与えているかを知る			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第6回】	Ⅱ 現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る (不登校、少年非行、引きこもり等)			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第7回】	Ⅱ 現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る (不登校、少年非行、引きこもり等)			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		
【第8回】	Ⅱ 現代日本の子どもの育ちの問題の現状を知る (不登校、少年非行、引きこもり等)			○輪読文献を読んでもくる (240 分)		

【第 9 回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 0 回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 1 回】	Ⅲ現代日本の子どもの育ちの困難に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 2 回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 3 回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 4 回】	Ⅳ現代日本の家族問題に関して情報収集を行う	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 1 5 回】	子どもの育ちの困難と家庭教育の問題に関するまとめを行う	○最終レポートに向けてまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	30061	2.科目名	幼小連携・持続特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹、西本望、椋田善之					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「小1 プロブレム」という言葉で指摘されるように、保育所や幼稚園から小学校に進学した1年生が座って勉強することができずに立ち歩いたり教師に入れなかったりして学校生活になじめない状況が生まれています。これらの課題を改善していくためには、入学当初の「スタートプログラム」の工夫や学校生活へのスムーズな適応のために生活習慣の育成をどのように行っていくかなど、教科学習への橋渡しを目指しつつ幼児教育との学びの連続性を図るためには、幼小の連携なくしてできることはありません。そしてその連携のために、子どもたちの発達と特性の					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能、（2）問題発見力、（5）問題解決策への提案力、の学修に関連しています。 （1） 「小1 プロブレム」について説明することができる。 （2） 困っている子どもたちの特性について理解し、説明することができる。 （3） 幼児教育の目的と目標、小学校教育の目的と目標、それぞれ立場から説明することができる。 （4） 幼児教育と小学校教育との連携に関して、その諸課題について理解しマネジメントすることができる。					
19.教科書・教材	特定の教科書は用いません。独自に作成した資料や参考資料を授業の度ごとに配布します。 （参考文献）授業の内容に沿って、参考図書を紹介します					
20.参考文献						
21.成績評価	① 授業内の討論 40% ② 内容理解確認のための課題 20% ③ 小レポート（討議の準備） 20% ④ 最終課題 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
西本担当	◇子どもたちの発達の理解① ・講義：幼児（0～2歳）の発達について<感覚と愛着他>					
西本担当	◇子どもたちの発達の理解② ・講義：幼児（3～4歳）の発達について<粗大運動と微細運動他>					
西本担当	◇子どもたちの発達の理解③ ・講義：幼児（5～6歳）の発達について<感覚の統合と協調他>					
西本担当	◇子どもたちの発達と学校生活への適応 ・講義：支援の必要な子どもの理解と学校生活への適応					
西本担当	◇子どもたちの発達と教科学習 ・講義 支援の必要					

	な子どもの理解と教科学習の工夫	
棕田担当	◇子どもたちの発達と援助の在り方：乳幼児（0～2歳）の保育について	
棕田担当	◇子どもたちの発達と援助の在り方：幼児（3～4歳）の保育について	
棕田担当	◇子どもたちの発達と援助の在り方：幼児（5～6歳）の保育について	
棕田担当	◇幼・小連携のポイントについて① ・討議：幼児教育から見た連携のポイントとは？	
棕田担当	◇幼児教育の目的と目標 ・講義：保育指針・幼稚園学習指導要領を読み解く	
中尾担当	◇「小1プロブレム」について① ・講義：「小1プロブレム」の実態と背景	
中尾担当	◇「小1プロブレム」について② ・討議：「小1プロブレム」への対応をいかに進めるか？（幼児教育でできること小学校教育でできること）	
中尾担当	◇幼・小連携のポイントについて② ・討議：小学校教育から見た連携のポイントとは？	
中尾担当	◇小学校教育の目的と目標 ・講義：小学校学習指導要領を読み解く	
中尾担当	◇まとめ：ふり返し & 幼小連携今後の課題	

1.授業コード (ナンバリング)		41001	2.科目名		看護研究方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員		高見沢恵美子、松尾ひとみ						
5.授業科目の区分		専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻		看護学研究科 博士前期課程			9.履修学年	大学院 1 年		
10.取得資格の要件					11.先修条件			
12.研究室		※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		【目的】 看護実践を行う上での看護研究の意義を学び、看護実践の開発に向けた研究課題を明確にする視点を養う。 【概要】 看護学研究の特徴と倫理性を理解し、研究活動に必要な研究方法を学修する。						
18.学習目標と D P との関連		【学修目標】 1.看護研究の意義と研究プロセスを説明できる。 2.因子探索研究・関係探索研究・実験研究の研究デザインを説明できる。 3.調査方法を説明できる。 4.研究論文のクリティークができる。 5.看護研究に必要な倫理的配慮を説明できる。 本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。						
19.教科書・教材		D.F.ホーリット、B.F.ハングラー(近藤潤子監訳)、看護研究-原理と方法-、医学書院 ホロウェイ、ウィラー(野口美和子監訳)、ナースのための質的研究入門						
20.参考文献		講義野中で適宜紹介する。 北素子,谷津裕子,質的研究の実践と評価のためのサブストラクション,医学書院.						
21.成績評価		プレゼンテーション 3 0 % 課題レポート 5 0 %(授業内容に※印で記載した課題) ※質的研究に関しては小テスト 演習 2 0 %						
22.コメント		各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。事前学習に真摯に取り組み、研究計画書の作成方法を習得していきましょう。 授業資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。						
23.オフィスアワー		高見沢恵美子：火曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー						
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)			
第 1 回 4 月 5 日(土)3 限		看護研究のプロセス・研究のエビデンスと Evidence-based practice(EBP)(高見沢)			◇ノートパソコンを持参すること。 ○5 章			

第2回 4月4日(金)3 限	国内外のデータベース検索・文献リストの作成(藪本)	
第3回 4月4日(金)4 限	国内外のデータベース検索・文献リストの作成(藪本)	○3章・27章
第4回 4月10日(木)3 限	質的研究とは何か (松尾) 1) 質的研究と量的研究の違い 2) (看護)現象と概念	
第5回 4月19日(木)3 限	質的研究の種類 (松尾) 1) 研究疑問の違い 2) データ収集方法の違い 3) 分析の違い	
第6回 4月24日(木)3 限	質的研究の妥当性(松尾) 質的研究のクリティーク	
第7回 4月24日(木)4 限	質的研究における看護倫理(松尾)	
第8回 5月10日(土)3 限	質的研究のクリティーク(松尾) グループワーク	
第9回 5月15日(木)4 限	質的研究のクリティーク(松尾) グループワーク	
第10回 5月10日(土)4 限	*研究デザイン①因子探索研究(高見沢) 【webclass オンデマンド授業】因子探索研究(高見沢) 【ZOOM 遠隔授業】因子探索研究プレゼンテーション・ディスカッション	○8章
第11回 5月24日(土)3 限	*研究デザイン②関係探索研究(高見沢) 【webclass オンデマンド授業】関係探索研究(高見沢) 【ZOOM 遠隔授業】関係探索研究プレゼンテーション・ディスカッション	
第12回 6月7日(土)3 限	*研究デザイン③実験・準実験研究(高見沢) 【webclass オンデマンド授業】実験・準実験研究(高見沢) 【ZOOM 遠隔授業】実験・準実験研究プレゼンテーション・ディスカッション	○10章
第13回 6月21日(土)3 限	*調査方法(高見沢)	○15章・16章・17章・18章

第14回 7月5日(土)3 限	* 研究論文のクリティーク(高見沢)	○26章
第15回 7月19日(土)3 限	研究計画書作成の基本(高見沢)	○25章

1.授業コード (ナンバリング)	41002	2.科目名	看護理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、畑吉節未					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護理論が看護実践の言語化（他者への説明）や看護学の知識体系の発展に必要である理由を深く理解し、看護理論の歴史、類型、内容に関する知識を獲得する。さらに学生は、関心領域において特定の概念を説明することができ、関心のある少なくとも1つの理論を自らの実践を説明する道具として正しく使うことができ、看護実践の改善に活用できる。					
18.学習目標と DPとの関連	高度看護専門職業人としての看護学についての知識を深め、研究への基盤を構築する。					
19.教科書・教材	授業前に配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	発表や討議の内容（50％）およびレポート提出（50％）を総合して評価する。					
22.コメント	1. 各種看護理論について関心を持ち、理論の違いを理解し、今後進めていく修士論文の基盤として活用する。 2. プレゼンテーションのために文献検索、レビュー、まとめを学生は自律的に行う					
23.オフィスアワー	畑　：センターオフィスアワー木曜日　昼休み 蛭子：センターオフィスアワー　水曜日　Ⅲ時間目 他研究室在室時は対応可能					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	看護の知、知の創造、Theorization　（畑）					
2 回目	2. 理論とは：理論の機能、概念、モデル、命題、理論、理論構築　（畑）					
3 回目	3. 理論の類型、レベル（grand theory 大理論、Mid-Range Theories 中範囲理論、Situation-Specific Theories 状況特定理論）（畑）					
4 回目	看護理論の歴史的展望、歴史批判文献検討（畑）			ペナーの看護理論を事前に読んでくる		
5 回目	看護理論を一つ選択し、理論分析する（畑）					
6 回目	研究計画につながる重要概念について（フリーディスカッション）（畑）					
7 回目	臨床現象を理論によって説明する（プレゼン）（畑）					
8 回目	学んだ看護理論を今後の研究にどのように生かすか討議する（畑）					
9 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワーメント、ヘルスプロモーション			9～15 回目：担当蛭子 アサインメント等については、都度、指示する。		
10 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。					

	・自己概念、自己効力感、エンパワメント、ヘルスプロモーション	
11 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワメント、ヘルスプロモーション	
12 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワメント、ヘルスプロモーション	
13 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワメント、ヘルスプロモーション	
14 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワメント、ヘルスプロモーション	
15 回目	看護実践に有用と考えられる中範囲理論について学修し、事例に適用する。 ・自己概念、自己効力感、エンパワメント、ヘルスプロモーション	

1.授業コード (ナンバリング)	41003	2.科目名	看護倫理		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉沢豊子、櫻井信人					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	大学院 1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	高度看護専門職業人として人の生命と尊厳を守り権利を擁護する上で必要な概念や知識を学ぶ。そのうえで保健・医療・福祉の様々な場面で起こる倫理的課題・ジレンマを調整できる能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 DP6 専門的知識・技能の活用 1. 患者・家族の人権擁護について説明できる。 2. 患者・家族の意思決定を支える看護のあり方を検討できる。 3. 精神・母性のアドボケイトを事例を通して理解し、倫理的課題・倫理的ジレンマを解決する方略を検討できる。 4. 自らの倫理的判断が必要な体験を省察し、支援のあり方を検討できる。 5.人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 についても理解し、臨床で行われる臨床研究についても検討することができる 6. 専門職として職業的倫理観を省察する。					
19.教科書・教材	、授業内容に応じて、文献の紹介、資料の配布を行う。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	講義内容への参加度（30％） プレゼンテーション（30％） 課題レポート（40％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	事前にメール予約すること					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目 4/5（土） 2 限	授業展開 及び授業内容 1.人の生命の尊厳と権利の尊重（吉沢） 看護の特性として看護倫理の本質を考究する					
第 2 回目 4 月 10 日 （木） 2 限	生命倫理、医療倫理、アドボケイトの役割（吉沢） 生命倫理に関わる人権侵害、医療倫理の四原則、看護に特徴的な 倫理機能について					
第 3 回 4 月 19 日 （土） 1 限	事例を用いた精神のアドボケイトの検討①看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）					
第 4 回 4 月 19 日 （土） 2 限	事例を用いた精神のアドボケイトの検討②看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）					

第 5 回 4 月 24 日 (木) 2 限	生殖看護や母性・助産を取り巻く倫理的課題（吉沢）	
第 6 回 5 月 10 日 (土) 2 限	事例を用いた母性のアドボケイトの検討 倫理的課題と課題に関わる人々の価値観、意図する調整の方向性（吉沢）	
第 7 回目 5 月 15 日 (木) 2 限	研究倫理と臨床活動と看護師の役割について（吉沢）	
第 8 回 5 月 24 日 (土) 1 限	先端医療と制度をめぐる生命倫理（櫻井） 移植医療、再生医療、遺伝子医療、医療資源	
第 9 回目 5 月 24 日 (土) 2 限	性の生命倫理（櫻井）	
第 10 回目 5 月 29 日 (木) 2 限	患者・家族の人権擁護やインフォームドコンセント（吉沢） 臨床現場で重視すべき人権擁護と治療の承諾の意味を探究する	
第 11 回目 6 月 7 日 (土) 2 限	死の生命倫理（櫻井）	
第 12 回目 6 月 12 日 (木) 2 限	患者・家族の意思決定をささえる看護（吉沢） 患者が主体である意思決定について、一単位としての家族の視点 から支援する看護を追及する	
第 13 回目 6 月 26 日 (木) 2 限	事例を用いた精神のアドボケイトの検討③看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 14 回 7 月 10 日 (木) 2 限	事例を用いた精神のアドボケイトの検討④看護の倫理原則と課題 解決のための方略の検討（櫻井）	
第 15 回 7 月 24 日 (木) 2 限	まとめ(櫻井)	

1.授業コード (ナンバリング)	41009	2.科目名	フィジカルアセスメントⅠ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、櫻井信人、山内豊明					
5.授業科目の区分	共通科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	大学院 1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師共通科目 B		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科					
17.授業の目的と概要	【目的】 複雑な健康問題をもった対象の全身状況について、系統的に診査し臨床看護判断を行うために必要な知識を学修する。 【概要】 対象の全身状態を知識に基づき理解し、フィジカルアセスメントに必要な技術を習得し、対象者の身体状態をアセスメントする能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1.系統的に診察・検査・症候が説明できる。 2.系統的なフィジカルアセスメントを行える。					
19.教科書・教材	山之内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック、医学書院					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション 30 % 課題レポート 50 % (各授業内容についての自己学習資料) 技術演習 20 %					
22.コメント	第 4 回～第 12 回以外の授業では、各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 課題・レポート・発表資料の作成等関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	呼吸器系の診査・検査・症候(高見沢) ラーニングCOMMONZ A					
第 2 回	心血管系の診査・検査・症候(高見沢) ラーニングCOMMONZ A					
第 3 回	神経系の診査・検査・症候(高見沢) ラーニングCOMMONZ A					
第 4 回	呼吸器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ					
第 5 回	呼吸器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ					

第 6 回	循環器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 7 回	循環器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 8 回	消化器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 9 回	中枢神経系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 10 回	脳神経系・感覚器系フィジカルアセスメント(山内) ス キルスラボ	
第 11 回	腎泌尿器系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 12 回	筋骨格系フィジカルアセスメント(山内) スキルスラボ	
第 13 回	がん患者のフィジカルアセスメント(岡光) ス キルスラボ	
第 14 回	高齢者のフィジカルアセスメント(沼本) ス キルスラボ	
第 15 回	精神医学系フィジカルアセスメント(櫻井) ラ ーニングコモンズ A	

1.授業コード (ナンバリング)	41013	2.科目名	統計学	3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（パソコンの演習あり）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、看護研究のなかでも基礎的な統計的分析手法の理論的背景についての理解を深めるとともに、よく利用される分析手法を、SPSS を用いた演習により修得することを目的とする。 【概要】 政策や対策を実施するためには、「根拠」にもとづくことが重要である。その根拠を導き出す手法の一つが統計的分析手法である。本科目では、統計学の基礎理論、推定と検定の基礎とよく利用される手法について演習やディスカッションを交えながら講義を行う。				
18.学習目標と DPとの関連	<学修目標> 1. 統計学の基礎理論を理解する。 2. 推定および検定手法の理論的背景を理解する。 3. 目的に見合った推定あるいは検定手法を選択でき、利用できる。				
19.教科書・教材	適宜プリントを配付する。				
20.参考文献	牧本清子 他著 『疫学・保健統計学 第3版（標準保健師講座）』 医学書院 2015 年 豊田修一・星山佳治・宮崎有紀子『看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理』実教出版 2020 年 高木晴良『統計学 第7版（系統看護学講座 基礎分野）』医学書院 2016 年 杉原左右一「統計学（増補第3版）」晃洋書房				
21.成績評価	授業での発言等 50%・・・学修目標1、2 レポート 50%・・・学修目標3				
22.コメント	生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに関しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。				
23.オフィスアワー	※質問などがあれば、メール等で問い合わせてください				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	統計学の基礎的概念 記述統計と推測統計、仮説検証型と問題発見型、変数と尺度について			第1回の復習 (目安 90 分)	
第2回	記述統計 質的データ、量的データのまとめ方、代表値と散布			第2回の復習 (目安 90 分)	

	度について	
第 3 回	事象と確率 事象と確率の基本概念について	第 3 回の復習 (目安 90 分)
第 4 回	確率変数と確率分布 離散型及び連続型の確率変数と確率分布の特徴について	第 4 回の復習 (目安 90 分)
第 5 回	母集団と標本 母集団と標本の基本概念について	第 5 回の復習 (目安 90 分)
第 6 回	標本分布 標本分布の性質について	第 6 回の復習 (目安 90 分)
第 7 回	中心極限定理と大数の法則 中心極限定理と大数の法則の概念について	第 7 回の復習 (目安 90 分)
第 8 回	推定 点推定と区間推定	第 8 回の復習 (目安 90 分)
第 9 回	検定 統計的仮説検定の基本概念、2 種類の過誤について	第 9 回の復習 (目安 90 分)
第 10 回	平均値の差の検定 SPSS による平均値の差の検定の方法	第 10 回の復習 (目安 90 分)
第 11 回	分散分析 SPSS による一元配置分散分析の方法	第 11 回の復習 (目安 90 分)
第 12 回	相関分析 SPSS による相関分析の方法	第 12 回の復習 (目安 90 分)
第 13 回	回帰分析 回帰分析の基本概念	第 13 回の復習 (目安 90 分)
第 14 回	回帰分析 SPSS による回帰分析の方法	第 14 回の復習 (目安 90 分)
第 15 回	総括 授業全体のまとめ	第 15 回の復習 最終レポート (目安：8 時間)

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41220	2.科目名	急性看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	大学院 1 年	
10.取得資格の要件	急性・重症患者看護専門看護師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 危機状態にある人をアセスメントし、危機状態の変化の過程に適した援助を危機理論に基づいて計画する。 【概要】 危機理論および関連する概念から、危機状態にある人の反応と変化の過程について学修する。さらに、危機理論に基づき危機状態からの回復を促す援助について考察を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1.危機理論および関連する概念から、危機状態にある人の反応と変化の過程を説明できる。 2.危機理論に基づいて、危機状態からの回復を促す援助を説明できる。					
19.教科書・教材	必要時印刷物を配布する。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション 40% 課題レポート 60%(第1回～第15回の授業内容についての資料)					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 授業資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	看護のメタパラダイムと看護理論(高見沢)					
第2回	看護モデル(高見沢)					
第3回	危機理論の実践・研究の変遷と動向(高見沢)					
第4回	危機介入(高見沢)					
第5回	危機に関連する理論・概念①Stress・Coping(高見沢)					
第6回	危機に関連する理論・概念②Stress・Coping(高見沢)					
第7回	危機に関連する理論・概念③Loss・Crisis(高見沢)					
第8回	急性期看護介入モデルの分析と評価①(高見沢)					
第9回	急性期看護介入モデルの分析と評価②(高見沢)					
第10回	危機に関連する理論概念④Social Support(高見沢)					
第11回	危機に関連する理論概念⑤Body Image(Self					

	Concept)(高見沢)	
第 12 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ①(高見沢)	
第 13 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ②(高見沢)	
第 14 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ③(高見沢)	
第 15 回	危機的な状況にある患者・家族の看護モデルの探求 ④(高見沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	41221	2.科目名	急性看護学援助特論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 クリティカル状況にある急性期患者・家族を身体面、心理・社会面から総合的に理解し、患者・家族のアセスメントと看護援助の在り方、評価の在り方を探求するとともに、患者の状況に衝撃を受ける家族のアセスメントと看護援助の在り方を探求する。 【概要】 急性呼吸障害・循環障害・中枢障害の患者のアセスメントと援助を学修する。さらに、人工呼吸器、パルンパンピング・人工心肺などの補助循環、PCPS・血液浄化法、低体温療法等のクリティカル治療管理と患者の援助を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 1. クリティカル状況にある患者・家族の看護に必要な看護判断、評価方法について理解する。 2. クリティカルケア治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助について理解する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 70%(第1回～第15回の授業内容の資料) プレゼンテーション 30%					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 授業資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 12：10～13：10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助(1)(高見沢) 急性呼吸障害(1)					
第2回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助(2)(高見沢) 急性呼吸障害(2)					
第3回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと援助(3)(高見沢) 急性中枢障害(1)					

第 4 回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと 援助（４）（高見沢） 急性中枢障害（２）	
第 5 回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと 援助（５）（高見沢） 急性循環障害（１）	
第 6 回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと 援助（６）（高見沢） 急性循環障害（２）	
第 7 回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと 援助（７）（高見沢） 援助関係と家族看護（１）	
第 8 回	クリティカル状況にある患者・家族のアセスメントと 援助（８）（高見沢） 援助関係と家族看護（２）	
第 9 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（１）（高見沢） 人工呼吸器装着患者の援助（１）	
第 1 0 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（２）（高見沢） 人工呼吸器装着患者の援助（２）	
第 1 1 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（３）（高見沢） 大動脈内バルーンパンピング装着患者の援助	
第 1 2 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（４）（高見沢） 人工心肺装着患者の援助	
第 1 3 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（５）（高見沢） P C P S 装着患者の援助	
第 1 4 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（６）（高見沢） 血液浄化法を受ける患者の援助	
第 1 5 回	クリティカル治療管理を受ける患者・家族に必要な看護援助（７）（高見沢）	

	護援助（7）（高見沢） 低体温療法を受ける患者の援助	

1.授業コード (ナンバリング)	41224	2.科目名	急性看護学演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	看護学研究科博士前期課程 1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 クリティカル状況にある患者・家族の全人的苦痛を理解し、必要な援助を計画できる能力を養う。 【概要】 疼痛緩和のためのケア、処置の原則、方法、効果判定などについてディスカッションを行い検討し、チームアプローチの方略について理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 1. クリティカル状況にある患者・家族に生じる身体的・心理・社会的苦痛をアセスメントできる知識を習得する。 2. クリティカル状況にある患者・家族に生じる苦痛を緩和する技術を習得する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 7 0 % プレゼンテーション 3 0 %					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 課題・レポート・プレゼンテーション資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 1 0					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	急性重症患者看護専門看護師とクリティカルケア(高見沢)					
第 2 回	クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助 (1) (高見沢)					
第 3 回	クリティカル状況にある患者のトータルペインと看護援助 (2) (高見沢)					
第 4 回	ペインコントロールの実際と効果判定(高見沢)					
第 5 回 - 1 1 回	リティカル状況にある患者・家族の心身の苦痛緩和の分析についてのディスカッション(高見沢)					
第 12 回 - 17 回	クリティカル状況にある患者・家族の心身の苦痛緩和の援助計画についてのディスカッション(高見沢)					
第 18 回 - 22	クリティカル状況にある患者・家族の身体的苦痛緩和					

回	の援助の評価についてのディスカッション(高見沢)	
第 23 回－25 回	クリティカル状況にある患者・家族に実践した心理・社会的苦痛緩和の援助の評価についてのディスカッション(高見沢)	
第 26 回	クリティカル状況にある患者・家族の心身の苦痛緩和の援助とチームアプローチの在り方についてのディスカッション(高見沢)	
第 27 回	クリティカル状況にある患者・家族のクリティカル治療・管理に伴う苦痛の緩和（１）(高見沢)	
第 28 回	クリティカル状況にある患者・家族のクリティカル治療・管理に伴う苦痛の緩和（２）(高見沢)	
第 29 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和（１）(高見沢)	
第 30 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理・社会的苦痛の緩和（２）(高見沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	41226	2.科目名	急性看護学実習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	看護学研究科博士前期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 ICU 病棟において、集中治療を受ける患者・家族のケアについて臨地実習を通して全人的な苦痛を緩和するために必要な実践、調整、コンサルテーション、教育などの能力を養う。 【概要】 ICU 病棟において集中治療を受ける苦痛のある患者を受け持ち、患者・家族の差状態をアセスメントし、看護計画を立案・実施し評価する。実践した援助をケーススタディーにまとめ、よりよい援助について考察する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1. クリティカル期の患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護判断・診断ができる。 2. クリティカル期の患者及び家族の全人的な苦痛を緩和するために、高度な看護判断・診断に基づく看護実践を提供することができる。 3. 看護職者を含むケアの提供者に対して専門看護師相当のものが行っているコンサルテーション、調整、教育、研究などの専門職看護師としての役割を理解し、援助を考えることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 7 0 % プレゼンテーション 3 0 %					
22.コメント	この実習の課題・レポート・実習記録等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 1 0					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. 実習期間：2017 年 7～8 月 2. 実習施設：神戸市立医療センター中央市民病院・兵庫医科大学病院・ 国立循環器病研究センター・東宝塚さとう病院 ICU・救急 ICU・CCU・HCU クリティカル期 3. 実習体制：実習指導は、教員（高見沢）と専門看護師または専門看護師相当の者と協力して教育を行う。 4. 実習方法： 1) 目標を達成するために、ICU 病棟でクリティカルケアを受けている患者を受け持ち看護を実践する。 2) 必要時、実習中に患者の身体状況、全人的苦痛、					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41228	2.科目名	急性看護学実習Ⅲ		3.単位数	6
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	急性看護学専門看護師コース			9.履修学年	大学院 2 年	
10.取得資格の要件	急性・重症患者看護専門看護師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	看護学研究科大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 急性・重症患者看護専門看護師としての活動に必要な実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究などの能力を養う。 【概要】 集中治療を受けるクリティカル期およびポストクリティカル期の患者・家族のケアについて、臨地で患者を受け持ち患者・家族をアセスメントし必要な援助を計画・実施・評価する。実習終了後ケーススタディーを作成し、よりよい看護を検討する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1. 複雑な問題を持つクリティカル期の患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護判断・診断・実践ができる。 2. クリティカル期の患者及び家族の全人的な苦痛を緩和するために、高度な看護判断・診断に基づく看護実践を提供することができる。 3. クリティカル期の患者及び家族が持つ倫理的問題について分析し、多様な価値観を尊重できる倫理的判断を説明できる。 4. 看護職者を含むケアの提供者に対して専門看護師相当のものとともコンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究などの専門職看護師としての役割を実践することができる。 5. 実習している ICU・関連するポストクリティカル期の病棟等の集中治療環境を、総合的に管理する方略を説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	実習目標の達成度 4 0 % 出席状況 1 0 % ケーススタディーの内容 5 0 %					
22.コメント	院生が希望する実習施設を決め、実習 3 か月前に実習施設と実習対象患者について教員に相談し、アドバイスを受けた上で実習施設を決定します。実習施設には、教員と共に実習依頼に行きます。 この実習に関する課題・レポート・実習記録等の作成については、生成 AI の使用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢 木曜 12:15～13:15 ラーニングコモンズ					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. 実習期間：5 月～7 月 2. 実習施設：神戸市立医療センター中央市民病院・兵庫医科大学病院・					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41230	2.科目名	慢性看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩下真由美、 房間美恵					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	療養支援看護学 慢性看護学			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】慢性疾患や障がいをもつ人と家族への看護に主として用いられる概念・理論について探求するとともに、実践及び研究への適用について検討する。 【概要】慢性疾患や障がいをもつ人と家族への看護に主として用いられる病みの軌跡、セルフケア、自己効力感、患者教育などについて探求し、実践及び研究への適用について検討する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの 1.専門知識・技能、2.問題発見力、3.調査分析能力、4. 論文作成能力、5.課題解決策への提案力、6.コミュニケーション能力、7.倫理観と関連しています。 【学習目標】 1. 慢性疾患や障がいのある患者とその家族の看護に用いられる概念・理論について説明できる。 2. 慢性疾患や障がいのある患者とその家族の看護の実践及び研究への適用を説明できる。					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献	適宜、提示します。					
21.成績評価	1. 各自の課題達成状況（70％） 2. 学習した以外の理論・概念を一つ取り上げ、慢性看護にどのように適用できるかについて考察したレポートを提出（30％）					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。授業内容でわからないことは積極的に質問し、この科目での学びをもとに主体的に学びを深めていきましょう。この科目の内容は、慢性看護学演習、特別研究へとつながっていく科目ですので、皆さんの積極的な参加を期待します。					
23.オフィスアワー	岩下真由美：センター水曜日 12：15～13：15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	看護モデルについて					
第 2 回	看護モデルの分析と評価					
第 3 回	慢性看護介入モデルの分析と評価 1-研究論文を用いて					
第 4 回	慢性看護介入モデルの分析と評価 2-研究論文を用いて					
第 5 回	慢性看護介入モデルの分析と評価 3-研究論文を用いて					
第 6 回～第 15 回	慢性看護に用いられる概念・理論の理解と分析・評価 1. Stress & Coping, Adaptation 2. 危機理論 3. 病みの軌跡モデル 4. 健康信念モデル 5. セルフケア理論 6. 自己効力理論 7. QOL					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41240	2.科目名	がん看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩下真由美、 房間美恵					
5.授業科目の区分	療養支援看護学	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科（前期課程）			9.履修学年	看護学研究科（前期課程） 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	看護学研究科大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 ・がん看護・緩和ケア領域の実践・教育・研究について最新の動向を理解し分析する。 ・がん患者とその家族の特徴を理解し、専門的な看護を提供する上で必要な概念・理論および看護モデルについて探求する。					
	【概要】 がん看護・緩和ケア領域の実践の最新の動向を理解し分析します。また、がん患者とその家族の特徴を理解したうえで、専門的な看護を提供するのに必要な概念・理論および看護モデルについて探求します。これらの内容を踏まえた上で、がん看護における看護独自の介入について文献をもとにクリティークします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)専門地位 s 気・能力の修得、(2)問題発見力、(3)課題解決策への提案力、(5)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1. がん看護・緩和ケア領域の最新の動向と課題を説明することができる。 2. がんによる健康障害と患者・家族に及ぼす影響や特徴を説明することができる。 3. がん看護・緩和ケアを受ける人々のもつ療養上の問題を解決するために効果的な援助方法に関連する理論について説明することができる。					
19.教科書・教材	特に指定なし。必要時には資料を配布する。					
20.参考文献	興銀の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション 50％ 課題レポート 50％					
22.コメント	各授業について担当する院生を決めます。担当者が文献を検索して資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をして下さい。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水曜日 12：15～13：15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	がん看護・緩和ケア領域における実践の最新の動向					
第 2 回	がん看護・緩和ケア領域における教育・研究の最新の動向					
第 3 回～第 10 回	がん患者とその家族への看護に有用な基本概念・理論 1.Stress & Coping Adaptation 2. Social Support 3. Loss & Crisis 4. Grief 5. Body Image					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41250	2.科目名	精神看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択（精神看護 が専門領域のも のは必須）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年次春学期	
10.取得資格の要件	看護学特演科目は 2 科目（4 単位） 以上必要		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【本授業の目的】 精神医療の歴史的変遷、精神保健医療福祉制度の動向について理解を深め、看護師に求められる役割、今後の展望について考察することを目的とする。 【本授業の概要】 精神医療の歴史的変遷、精神保健医療福祉制度の動向に加え、心の理論やセルフケア理論、リカバリーなどの概念を学び、支援方法を検討していく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（6）専門的知識・技能の活 用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	その都度指示します。					
21.成績評価						
22.コメント	自らが調べてまとめ、発表し、議論するスタイルです。頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー火曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	ガイダンス					
2 回目	我が国および欧米の精神障害者への処遇と精神保健福祉の歴史・施策の歴史的動向について調べる。そして、精神看護における倫理的問題や精神障害者の人権擁護について検討する。					
3 回目	現在の精神科医療の課題及び今後の展望について、自分なりにまとめて発表を行う。（ディスカッション）			○課題・情報についてまとめてくる。★資料提出		
4 回目	精神力動理論、人間発達論、ストレス対処モデルなどの基本的理論（講義）					
5 回目	精神力動理論、人間発達論、ストレス対処モデルなどの基本的理論（ディスカッション）			○事前に授業内容について調べてくる。★資料提出		
6 回目	セルフケアモデル<オレム・アンダーウッドモデル>の理論について調べる。					
7 回目	セルフケア理論の事例への適用し、対象者の理解と支援について検討する。			○セルフケア理論についてまとめる。 ★事例へセルフケア理論を適用をし、支援方法について述べる。（レポート提出）		
8 回目	プロセスレコード（再構成）を用い、ロールプレイを行うなどして、自己の治療的活用に関する訓練方法を学ぶ。			○理論について事前に本を読みまとめる。★資料提出 ○プロセスレコードを書いてくる		
9 回目	災害や犯罪による心的外傷について、調べる。					
1 0 回目	災害や犯罪による心的外傷へのケアについて、調べ					

	る。	
1 1 回目	まとめの発表、議論	○事前に文献等を読み、まとめる。★2について、課題をまとめたものを提出する
1 2 回目	医学モデルとリカバリー・ストレングスモデルとの違いについて議論する。	
1 3 回目	リカバリー・ストレングスモデルを用いた精神障害者の地域生活支援の方法を検討する。	○自分自身の興味のある事例や看護ケアなどの文献を探しておく。
1 4 回目	オープンダイアログについて理解する。	
1 5 回目	学びの発表	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41290	2.科目名	在宅看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士前期課程			9.履修学年	1 年次生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、プレゼンテーション、討議		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	在宅看護の概念や、訪問看護の理論、質確保に関する考え方を修得する。また、あわせて、地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護師の役割から、在宅看護のあり方を追及する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. 在宅看護および在宅看護に関連する概念について理解する。 2. 在宅看護の歴史と法制度からみた在宅看護の位置づけについて理解する。 3. 訪問看護に関する社会ニーズ、課題について理解する。 4. 訪問看護の理論や考え方、質確保について理解する。 5. ケアマネジメント、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について理解する。 6. 在宅看護のあり方について考察する。 本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの 1.専門知識・技術、2.問題発見力、3.調査分析能力、5.課題解決策への提案力、6.コミュニケーション能力、7.倫理感と関連しています。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布または提示する。					
20.参考文献	適宜、資料を配布または提示する。					
21.成績評価	授業への参加状況（10%）、資料作成（30%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）					
22.コメント	事前に提示された課題について、学修して臨むこと。					
23.オフィスアワー	木曜日：昼休憩時間					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	1. 在宅看護の概念 Florence Nightingale における在宅看護の概念			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。		
第 2 回	1. 在宅看護の概念 1) 近年の在宅看護の歴史（1） ・在宅看護に関係する我が国の社会の変遷			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。 ・国民衛生の動向（最新版）持参		
第 3 回	1) 近年の在宅看護の歴史（2） ・訪問看護活動の推移と訪問看護制度 ・訪問看護の現状			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。		
第 4 回	2) 法制度からみた在宅看護の位置づけ ・医療法、健康保険法、介護保険法、報酬制度、看護師養成所指定規則等			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。		
第 5 回	3) 在宅看護に関連する概念（訪問看護、在宅医療、在宅ケア等）			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。		
第 6 回	4) 在宅看護の特性 5) 現在の訪問看護に関する社会ニーズ、報酬制度、課題			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。		
第 7 回	3. 在宅看護における倫理			課題について、事前に資料を読み、まとめておく。		

第 8 回	4. 外国の医療制度、訪問看護	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 9 回	5. 訪問看護の理論や考え方（１） ・ Robyn Rice Model	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 10 回	5. 訪問看護の理論や考え方（２） ・ Roper-Logan-Tierney Model	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 11 回	6. 訪問看護における質の確保 1) 訪問看護が提供するサービスの特徴 2) 医療の質評価 Dona-bedian Model	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 12 回	(1) Structure：訪問看護事業所の管理 ・ 経営管理、人材育成	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 13 回	(2) Process・Outcome：The Omaha System	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 14 回	7. 社会資源とケアマネジメント	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。
第 15 回	8. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携、看護師の役割 9. 在宅看護の展望と課題	課題について、事前に資料を読み、まとめておく。

1.授業コード (ナンバリング)	41292	2.科目名	公衆衛生看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程			9.履修学年	博士前期課程 1 年 2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ゼミ形式		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	自己の研究課題を明確にし、公衆衛生看護学に関する課題をテーマに探求する。 研究テーマの選択、研究計画の作成、実施、論文作成をめざす。					
18.学習目標と DPとの関連	自己の研究課題を明確にし、公衆衛生看護学に関する研究をテーマに探求する。					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	適宜指示する。					
21.成績評価	提出された研究計画書および研究発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は看護学研究科の複数の教員によって行われる。					
22.コメント	生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない					
23.オフィスアワー	火曜日 12：30～13：00					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	1.授業のガイダンスと研究計画についての説明 2.研究課題の明確化（研究の方向性について発表する）					
2 回・3 回	研究テーマの明確化を行う。 先行研究のクリティークを行う。			先行研究		
4 回～6 回	研究計画書の作成を行う。 （ゼミで助言を受け、修正する）			研究計画書案		
7 回・8 回	倫理的配慮を記述し、倫理審査を受け、審査を通過する。			倫理審査書類		
9 回	中間発表会にて、研究の進め方についての助言をいただく。			収集したデータおよび分析結果		
10～11 回	中間発表会でのコメントを基に研究方法についての修正を行う。 具体的な研究計画を立てる。			中間発表会資料		
12～14 回	データの収集と分析を行う。			中間発表会資料		
15～20 回	分析したデータを基に論文の作成を行う。					
21～23 回	研究発表の準備を行う。					
24 回	研究発表を行う。（予演会）					
25 回	研究発表の実施。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41523	2.科目名	急性看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 修士論文コース			9.履修学年	1. 2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	看護学研究科院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 急性看護学で学修した知識をもとに、急性期患者・家族に必要な看護援助について理解を深め、自らの研究課題を明確にする。 【概要】 国内外の文献を検討し、文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーション・ディスカッションにより最新の急性看護学に関する研究の動向と課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1.急性期の患者・家族に必要な看護援助について、文献レビューし文献検討を作成できる。 2.急性期の患者・家族に必要な看護援助について、研究論文をクリティークできる。 3.急性看護学に関する文献検討結果に基づき、問題点を指摘し自らの研究疑問を明確にすることができる。 4.学生の研究課題に関する文献検討に基づき、急性看護学における援助のあり方を考察することができる。					
19.教科書・教材	演習の中で適宜紹介する。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション 40 % 課題レポート 60 % (第 1 回～第 60 回の授業内容に関する資料)					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 授業資料及びプレゼンテーション資料の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター火曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回～第 5 回	急性期にある患者・家族に必要な周手術期看護学、クリティカルケア看護学、救急看護学などの内容を取り上げ、文献をクリティークする。					
第 6 回～第 10 回	急性期にある患者・家族に必要な周手術期看護学、クリティカルケア看護学、救急看護学などの文献をクリティークの結果に基づき、急性看護学における援助を考察する。					

第11回～第15回	トータルペインとペインコントロールについて文献をクリティークする。	
第16回～第20回	トータルペインとペインコントロールについて文献に基づき、急性期患者・家族の苦痛のアセスメントとペインコントロール・苦痛を緩和する援助のあり方について考察を深める。	
第21回～第25回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、急性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する	
第26回～第30回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、急性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する。	
第31回～第35回	急性看護学特論及び急性看護学演習での学修をもとに、学生自らの研究課題を焦点化するために、国内外の文献を検討する。	
第36回～第40回	学生自らの研究課題について、国内外の文献を検討し、研究の動向と課題を明らかにする。	
第41回～第45回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討結果をまとめる。	
第46回～第50回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討を作成する。	
第51回～第55回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、急性看護学における援助のあり方を考察する。	
第56回～第60回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、急性看護学における援助のあり方を考察する。	

1.授業コード (ナンバリング)	41531	2.科目名	慢性看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	岩下真由美、 房間美恵					
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 修士論文コース			9.履修学年	1. 2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 慢性看護学で学修した知識をもとに、慢性期患者・家族に必要な看護援助について理解を深め、自らの研究課題を明確にするために国内外の文献を検討し、文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーション・ディスカッションにより急性看護の課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	【学修目標】 1.慢性期の患者・家族に必要な看護援助について、文献レビューし文献検討を作成できる。 2.慢性期の患者・家族に必要な看護援助について、研究論文をクリティークできる。 3.慢性看護学に関する文献検討結果に基づき、問題点を指摘し自らの研究疑問を明確にすることができる。 4.学生の研究課題に関する文献検討に基づき、慢性看護学における援助のあり方を考察することができる。					
19.教科書・教材	演習の中で適宜紹介する。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション40％ 課題レポート60％(各授業についての資料)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	岩下真由美：センター水曜日 12:15～13:15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回～第5回	慢性期にある患者・家族に必要な慢性期看護学の内容を取り上げ、文献をクリティークする。					
第6回～第10回	慢性期にある患者・家族に必要な慢性期看護学の文献をクリティークの結果に基づき、慢性看護学における援助を考察する。					
第11回～第15回	トータルペインとペインコントロールについて文献をクリティークする。					
第16回～第20回	トータルペインとペインコントロールについて文献に基づき、慢性期患者・家族の苦痛のアセスメントとペインコントロール・苦痛を緩和する援助のあり方について考察を深める。					
第21回～第25回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、慢性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する					

第26回～第30回	代理意思決定、身体拘束、終末期医療の決定など、慢性看護学で領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整の在り方について学修する。	
第31回～第35回	慢性看護学特論及び慢性看護学演習での学修をもとに、学生自らの研究課題を焦点化するために、国内外の文献を検討する。	
第36回～第40回	学生自らの研究課題について、国内外の文献を検討し、研究の動向と課題を明らかにする。	
第41回～第45回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討結果をまとめる。	
第46回～第50回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき研究の動向と課題について文献検討を作成する。	
第51回～第55回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、慢性看護学における援助のあり方を考察する。	
第56回～第60回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・プレゼンテーションディスカッションにより、慢性看護学における援助のあり方を考察する。	

1.授業コード (ナンバリング)	41541	2.科目名	がん看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	岩下真由美、房間美恵					
5.授業科目の区分	療養支援看護学 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 修士論文コース			9.履修学年	看護学研究科 1 年・2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 がんの様々な状況に伴う患者とその家族の意思決定を支援し、主要な健康上の問題を理解し、在宅ケアや地域医療を含めた治療前から終末期までの一貫した援助を探究する。 がん治療によってもたらされる身体の器質的・機能的な変化に対して、身体・心理・社会的な働きかけと患者や家族が自ら、QOL を高めることができる援助を探究する。 【概要】 がん看護学で学修した知識をもとに、がん罹患した患者とその家族に必要な看護援助について理解を深め、自らの研究課題を明確にするために国内外の文献を検討し、文献レビュー・クリティーク					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1) 専門知識・技能、(2) 問題発見力、(3) 調査分析能力、(5) 課題解決策への提案力、(7) 倫理観が関連している。 【学修目標】 1.がん罹患した患者とその家族に必要な看護援助について、文献レビューし文献検討を作成できる。 2.がん罹患した患者とその家族に必要な看護援助について、研究論文をクリティークできる。 3.がん看護学に関する文献検討結果に基づき、問題点を指摘し自らの研究疑問を明確にすることができる。 4.学生の研究課題に関する文献検討に基づき、がん看護学における援助のあり方を考察することができる。					
19.教科書・教材	特に指定なし。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション 50% 課題レポート 50%					
22.コメント	がん看護に関する主要な概念やケアについて文献レビューを行い、がん看護学における自らの興味あるテーマについての研究の動向と研究課題を広く明らかにしていきましょう。					
23.オフィスアワー	水曜日：研究室オフィスアワー 10:45～12:15 センター・オフィス・アワー 12:15～13:15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回～第5回	がんの予防・早期発見のための教育・啓発活動および相談活動などの内容を取り上げ、文献をクリティークする。			①プレゼンテーションで担当する授業のテーマについて授業開始前に課題についてまとめたものを提出する。 ②授業では各テーマについて関連した周辺領域のトピックスを調べて参加する。また、プレゼンテーションや質疑を主体的に行えるよう準備する。		

		③授業時間中に明らかになった課題について 授業終了後、整理してまとめて提出する。 * 以下の演習でも同様の準備を行なう。
第 6 回～第 10 回	がんの予防・早期発見のための教育・啓発活動および 相談活動などの内容を取り上げ、文献をクリティーク の結果に基づき、がん看護学における援助を考察す る。	
第 11 回～第 15 回	意思決定を支える看護援助（治療選択、再発時の治療 の選択、療養の場の選択、終末期の意思決定、緩和ケ アなど）について文献をクリティークする。	
第 16 回～第 20 回	意思決定を支える看護援助（治療選択、再発時の治療 の選択、療養の場の選択、終末期の意思決定、緩和ケ アなど）について文献をクリティークを基に、がん看 護学領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整につ いて学修する。	
第 21 回～第 25 回	意思決定を支える看護援助（治療選択、再発時の治療 の選択、療養の場の選択、終末期の意思決定、緩和ケ アなど）について文献をクリティークを基に、がん看 護学領域で起こりやすい倫理的課題と倫理調整につ いて学修した成果を基に看護援助の方法を考察する。	
第 26 回～第 30 回	がんとの共生に対する支援、サポートグループ、再 発・転移を経験した患者への看護援助（身体的支援、 心理・社会的支援、）について文献をクリティークす る。	
第 31 回～第 35 回	終末期がん患者への看護援助（身体・心理・社会的支 援、家族への支援）、代替・相補療法と看護について文 献をクリティークする。	
第 36 回～第 40 回	がん治療・看護における地域との連携と社会資源の活 用と家族への支援、がん医療・終末期医療の動向と課 題について文献をクリティークする。	
第 41 回～第 45 回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき 研究の動向と課題について文献検討結果を明らかに し、成果をまとめる。	
第 46 回～第 50 回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき 研究の動向と課題について文献検討を作成する。	
第 51 回～第 55 回	学生自らの研究課題について、国内外の文献に基づき 研究の動向と課題について文献検討を作成し、研究課 題を明確化する。	
第 56 回～第 60 回	学生の研究課題にそった文献レビュー・クリティーク・ プレゼンテーションディスカッションにより、がん 看護学における援助のあり方を考察する。	

1.授業コード (ナンバリング)	41551	2.科目名	精神看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	櫻井信人					
5.授業科目の区分	療養支援看護学	6.必修・ 選択の区分	選択（精神看護 が専門領域のも のは必須）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年次春学期～2 年次秋学 期	
10.取得資格の要件	看護学特演科目は 2 科目（4 単位） 以上必要		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 精神看護学に関連した研究課題に取り組み、研究の面から精神看護学の社会貢献に寄与する。 【概要】 精神看護学特論で学修した知識や概念などを活用して、自らの研究課題を明確にするために、 文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。これらの演習 を通して、研究方法を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（2）社会的貢献性、（6）専 門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神看護学演習の学習目標】 自ら自律し、専門的な知識を活用し、課題探求・解決などの研究活動を通じて、社会に貢献で きる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	文献、資料および課題の提示を行う。					
21.成績評価	プレゼンテーション（40％）課題レポート（20％）フィールドワークの成果（20％）最終レポ ート（20％）の配分で 4 学期 2 単位ごとに採点し、最終レポートを足して総合的に評価する。					
22.コメント	修士論文を取り組む際に必要な研究方法などを学ぶ科目であり、積極的、継続的に取り組んで いってください。					
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年春学期 15 回（90 分 ×15 回）	1. 精神看護学に必要な研究方法について学ぶ。 （研究の依頼、データの収集方法、分析および結果・ 報告） 2. 参加観察、グループインタビュー、調査などデー タを収集方法について学ぶ。 3. 学生自らが日頃から感じている看護的課題に関し て、文献を検索、クリティーク、ディスカッションす ることによって、看護研究について理解を深める。					
1 年秋学期 15 回 （90 分×15 回）	4. 精神看護学特論、および 1 年春学期の精神看護学演 習での学修をもとに学生自らの研究課題を明確にす る。 5. 課題の焦点化するために各内外の文献を検討し、自 身の課題についての概念やこれまでの研究を整理す る。 6. 倫理的配慮、研究計画立案方法を学び、倫理審査申					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41591	2.科目名	在宅看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	基礎看護実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【実習目的】 地域で生活している在宅療養者とその家族を理解し、生活の場における看護支援に ついて学 ぶ。また、地域包括ケアシステムにおける看護の役割について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 以下、C（cognitive;知識）P（psychomotor;技術）A（affective;態度）を示す。 1. 訪問看護ステーションの機能と役割について理解できる。 C-1. 訪問看護ステーション(実習施設)の概要について説明できる。 C-2. 訪問看護ステーション(実習施設)における利用者の概要と看護支援内容について、説 明できる。 2. 在宅療養者とその家族について理解できる。 P-1. 医療施設と在宅療養の場における療養環境の違いについて説明できる。 A-2. 在宅療養者とその家族の生活過程や価値観、在宅療養への思いを尊重できる。 P-3. 在宅療養者とその家族の療養状況について説明できる。 P-4. 在宅療養者の健康状態・障害と療養上の困難について説明できる。 P-5. 家族の健康状態と介護状況について説明できる。 P-6. 在宅療養者が利用している制度・サービスについて説明できる。 P-7. 在宅療養者と家族の強みについて説明できる。 P-8. 在宅療養者とその家族の情報の解釈・分析を行い、全体像について説明できる。 P-9. 在宅療養者の看護の方向性について説明できる。 3. 在宅療養者とその家族の看護上の問題について理解できる。 P-1. 在宅療養者とその家族の看護上の問題とその根拠について説明できる。 P-2. 在宅療養者とその家族の看護上の問題について、優先順位とその根拠を説明できる。 4. 在宅療養者とその家族に対する看護支援の実際から、看護支援のあり方、看護の役割を理 解できる。 P-1. 訪問時の看護支援の目的と内容、その支援の意味について説明できる。 P-2. 看護支援の実際から、訪問看護の特性を説明できる。 P-3. 看護支援の実際から、看護支援のあり方、看護の役割を説明できる。 5. 地域包括ケアシステムにおける多職種との協働・連携と看護の役割について 理解できる。 P-1. 多職種との協働・連携の必要性和実際について説明できる。 P-2. 多職種との協働・連携における看護の役割について説明できる。					
19.教科書・教材	在宅看護学概論・在宅看護援助論等で配布された講義資料。テキスト					
20.参考文献	適宜、指示します。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41593	2.科目名	公衆衛生看護学演習		3.単位数	8
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美					
5.授業科目の区分	生活支援看護学	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1. 2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	ゼミ形式	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	公衆衛生看護学概論での理論や概念などを活用して、公衆衛生看護学研究（修士論文）に必要な研究方法をフィールドワークおよび演習を通して学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	自律し、専門性をもって社会に貢献できる人間になる。					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	適宜参考資料を紹介する。					
21.成績評価	プレゼンテーション（40％）、課題レポート（20％）、フィールドワークの成果（20％）、最終レポート（20％）の配分で4学期2単位ごとに採点し、最終レポートを足して総合点で評価する。					
22.コメント	生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない					
23.オフィスアワー	以下の時間に質問及び相談に応じます。但し、可能な限り事前にアポイントメントをとってください。（急な対応で時間の取れない場合もあります） 藤原：研究室 水曜日昼休み、センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み、センターオフィスアワー （図書館）火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年次春/夏	1. 公衆衛生看護学に関わる国内外の文献のクリティークを行い、公衆衛生看護学研究について理解を深める。文献検討を発表する。 2. 公衆衛生看護学に必要なフィールドワークにおける研究方法の概要を学ぶ。 3. 演習：事例を用いて参加観察、グループインタビュー、調査などデータ収集の方法の演習。					
1 年次秋/冬	4. 概念分析の文献を通して概念分析の方法を学ぶ 5. 自己の研究課題に関わる概念分析を行い、発表する。 6. 研究計画の立案方法を学ぶ。					
2 年次春/夏	7. 自己の研究計画にそってデータ収集に向けて準備する。 1) 量的研究方法：統計ソフト SPSS の活用の操作を学ぶ 2) 調査票の作成（質的・量的研究） 3) 調査フィールドの確定、依頼文書の作成					
2 年次秋/冬	8. データの分析計画立案 9. データ分析を行う					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	42500	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程 修士論文コース			9.履修学年	1.2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	看護学研究科 療養支援分野であること					
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、精神看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。 研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。					
22.コメント	臨床で解決が難しかった自分自身が興味を持っている内容を課題として取り上げ、研究を行います。 修士論文及び発表資料等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年春/夏	<研究課題の明確化> 急性看護学特論、急性看護学演習の内容を参考にし、自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。					
1 年秋/冬	<研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請> 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	42506	2.科目名	特別研究(修士論文)		3.単位数	8
4.授業担当教員	藤原和美					
5.授業科目の区分	特別研究(修士論文)	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程 修士論文コース			9.履修学年	1. 2 年生	
10.取得資格の要件	看護師資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習形態		
16.履修制限	生活支援看護学領域					
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、公衆衛生看護に関する研究テーマを探索し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と目的を記述できる。 2.研究課題に必要な文献検討を行い記述できる。 3.研究目的を達成すべく対象・調査内容・調査方法・分析方法を検討し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮について計画書に記載するとともに実行できる。 5.研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	特に定めない					
20.参考文献	必要な資料は適宜紹介する。					
21.成績評価	研究計画の立案、研究の実施、研究論文の作成について総合的に評価する。					
22.コメント	生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年次春/夏	＜研究課題の明確化＞ 自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。					
1 年次秋/冬	＜研究計画書の作成・研究倫理審査申請＞ 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究方法、倫理的配慮について検討し研究計画書を作成する。 研究計画及び研究の進行状況について助言・研究計画書の審査を受け、指導を受けた内容について必要に応じ研究計画書の修正を行う。 本学の倫理的審査委員会に申請し、承認を受ける。 研究協力者に研究計画書を説明し、研究協力の承諾を得る。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	42507	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	岩下真由美					
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程 修士論文コース			9.履修学年	1.2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科 療養支援分野であること					
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、精神看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。 研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。					
22.コメント	臨床で解決が難しかった自分自身が興味を持っている内容を課題として取り上げ、研究を行います。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年春/夏	＜研究課題の明確化＞ 慢性看護学特論、慢性看護学演習の内容を参考にし、自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。					
1 年秋/冬	＜研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請＞ 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法を検討する。また、研究対象・実施施設					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	42509	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	房間美恵					
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程 修士論文コース			9.履修学年	1.2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科 療養支援分野であること					
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、慢性看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。 研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。					
22.コメント	臨床で解決が難しかった自分自身が興味を持っている内容を課題として取り上げ、研究を行います。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年春/夏	<研究課題の明確化> 慢性看護学特論、慢性看護学演習の内容を参考にし、自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。					
1 年秋/冬	<研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請> 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法を検討する。また、研究対象・実施施設					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	42512	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程 修士論文コース			9.履修学年	1～2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ゼミ形式で研究課題に沿って研究を進めて行 き、修士論文を作成していく。		
16.履修制限	看護学研究科 生活支援看護学分野であること					
17.授業の目的と概要	在宅看護学分野における研究の動向を理解し、自己のテーマに沿って研究計画書を作成し、研 究を実施できる。 ①研究テーマの精選ができる リサーチクエスチョンを練り、自分の研究目的を明らかにする。 ②研究目的を達成できる研究方法の選定ができる 質的・量的研究方法の進め方を理解したうえで自分の研究方法を選定する。 ③在宅看護学学分野における研究の動向を理解し、自己のテーマに沿って研究計画書を作成 し、研 究倫理委員会に提出し、審査を受ける。研究を実施できる。 ④研究の実施ができる 適切な協力者を得て研究を実施					
18.学習目標と DPとの関連	修士論文を完成させる。 本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能 力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関 連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	適宜授業の中で文献などの資料を示す。					
20.参考文献						
21.成績評価	中間発表、修士論文、修士論文発表会などで評価する。					
22.コメント	自律して研究を進めて行く。					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年次 春期/ 夏期	【研究課題を明確にする】 ①在宅看護学特論、在宅看護学演習の内容を参考に、 自らのリサーチ クエスチョンを絞り込みながら研究課題を明確にす る。 ②リサーチクエスチョンに基づき、研究課題に関する					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	42513	2.科目名	特別研究（修士論文）		3.単位数	8
4.授業担当教員	櫻井信人					
5.授業科目の区分	特別研究（修士論文）	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士前期課程 修士論文コース			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科 療養支援分野の精神看護学領域であること					
17.授業の目的と概要	【目的】 自己の研究課題を明確にし、精神看護学に関する研究テーマを探求し研究する。 【概要】 研究計画書立案・研究実施・論文作成・プレゼンテーションなど、高度専門書職業人として必要な基礎的な研究の知識・技法を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	DPとの関連 本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(4)論文作成能力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.研究の意義と研究目的を記述できる。 2.研究課題に関する文献検討を記述できる。 3.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 4.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。 5.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 6.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 7.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 8.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	特に指定はしない。					
20.参考文献	適宜説明する。					
21.成績評価	提出された修士論文および論文審査会での発表・質疑応答により審査を行う。評価は、研究科委員会によって選出された審査委員（主査・副査）が協議し決定する。研究計画の立案・内容、修士論文の完成度を総合して評価する。					
22.コメント	研究疑問を明確にしてテーマを見つけ、主体的に研究を進めましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー火曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 年春/夏	<研究課題の明確化> 自らの研究疑問・関心を絞り込みながら研究課題を明確にする。研究課題に関する質的・量的研究論文の検索・クリティークを行い研究方法の理解を深める。研究課題に沿った文献レビューを作成する。					
1 年秋/冬	<研究課題・方法の具体化、研究計画書の作成・研究倫理審査申請> 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究の概念枠組み、研究方法を検討する。また、研究対象・実施施設に応じて研究の倫理的配慮を具体化する。 中間報告会で発表を行う。研究計画及び研究の進捗状況					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	71000	2.科目名	看護学研究方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、今野理恵、松尾ひとみ					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 看護学を体系化する上での看護研究の意義を学び、看護上の課題発掘や看護実践の開発に向けた研究課題を明確にする視点を養う。 【概要】 看護学研究の特殊性・倫理性を理解し、研究活動に必要な知識と高度な研究手法を習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学修目標】 1.看護研究の意義と研究プロセスを説明できる。 2.因子探索研究・関係探索研究・実験研究の研究デザインを説明できる。 3.調査方法を説明できる。 4.研究論文のクリティークが説明できる。 5.看護研究に必要な倫理的配慮を説明できる。 本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(3)調査分析能力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。					
19.教科書・教材	D.F.ポーリット、B.F.ハングラー(近藤潤子監訳),看護研究-原理と方法-,医学書院					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。 北素子,谷津裕子,質的研究の実践と評価のためのサブストラクション,医学書院.					
21.成績評価	課題レポート 60%(各授業内容についての資料) プレゼンテーション 40%					
22.コメント	授業資料及び発表資料の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢：火曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 4月5日(土)1 限	看護研究のプロセス・研究のエビデンスと Evidence-based practice(EBP)(高見沢恵美子)					
第2回 4月5日(土)2 限	質的研究と量的研究の違い(松尾ひとみ)					
第3回 4月12日 (土)1限	国内外のデータベース検索・文献リストの作成(今野理恵)					
第4回 4月12(土)2 限	システマティックレビュー(今野理恵)					
第5回 4月12 日(土)3限	質的研究と量的研究の違い(研究疑問、分析方法)(松尾ひとみ)					

第 6 回 4 月 19 日(土)2 限	質的研究の種類の違い (松尾ひとみ)	
第 7 回 4 月 26 日(土)2 限	質的研究における妥当性の確保と研究倫理(松尾ひとみ)	
第 8 回 5 月 10 日 (土)2 限	クリティークの実践(2 つの論文を選びクリティークする) (松尾ひとみ)	
第 9 回 5 月 24 日(土)2 限	研究デザイン①因子探索研究(高見沢恵美子)	
第 1 0 回 6 月 7 日(土)2 限	研究デザイン②関係探索研究(高見沢恵美子)	
第 1 1 回 6 月 21 日 (土)2 限	研究デザイン③実験・準実験研究(高見沢恵美子)	
第 1 2 回 7 月 5 日(土)2 限	調査方法(観察法・面接法・質問紙法)(高見沢恵美子)	
第 1 3 回 7 月 19 日(土)1 限	サブストラクション(高見沢恵美子)	
第 1 4 回 7 月 19 日(土)2 限	統計的研究論文のクリティーク(高見沢恵美子)	
第 1 5 回 8 月 2 日(土)2 限	研究計画書作成と研究に必要な倫理的配慮(高見沢恵美子)	

1.授業コード (ナンバリング)	71002	2.科目名	看護学教育論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、卯川久美、細田泰子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～夏学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	看護学教育に必要な知識を身につけ、自分が関心をもつ現象について、理論と実証的研究の両方から学修することで、現象に対する包括的理解を目指す。このプロセスにおいて、看護学教育を発展させていく方策を探究する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力と関連しています。 1.看護学教育に関わる諸理論を理解し、自分の関心のある現象と関連づける。 2.自分の関心のある看護学教育に関わる現象について文献検討を行い、研究の必要性を明らかにする。 3.自分が選択した現象について、理論とエビデンスの統合を行う。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	Billings, D. M. & Halstead, J. A. (2019). Teaching in Nursing: A Guide for Faculty, 6th ed., Elsevier. Billings, D. M. & Halstead, J. A.著, 佐々木幾美, 奥宮暁子, 小林美子 監訳 (2021). 看護を教授すること：大学教員のためのガイド (原著 第 6 版), 医歯薬出版.					
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。 授業資料及び課題レポートの作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、看護学教育の定義 (細田)			参考文献の UNIT1 (教員と学生) を読んで臨む		
第 2 回	カリキュラム開発・評価、3 つのポリシー (細田)			参考文献の UNIT2 (プロセスとしてのカリキュラム) を読んで臨む		
第 3 回	教授と学習に関する理論 (細田)			参考文献の UNIT3 (教授と学習) を読んで臨む		
第 4 回	看護基礎教育における現状と課題、自身の関心のある現象の検討 (細田)			テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む		
第 5 回	看護基礎教育における自身の関心のある現象についての文献検討 1 (細田)			テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む		
第 6 回	看護基礎教育における自身の関心のある現象についての文献検討 2 (細田)			テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む		
第 7 回	自身の関心のある現象についての理論とエビデンスの整理と体系化 (細田)			テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む		
第 8 回	看護専門職の生涯学習としての継続教育の現状と課			日本看護協会 継続教育の基準 Ver.2 を読んで		

	題、自身の関心のある現象の検討（卯川）	臨む
第 9 回	看護における生涯学習、生涯発達とは、変容的学習理論の検討（卯川）	生涯学習、生涯発達について調べて臨む
第 1 0 回	看護における生涯学習、生涯発達とは、変容的学習理論の検討（卯川）	変容的学習理論について調べて臨む
第 1 1 回	経験からの学習に関する理論の検討（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 1 2 回	看護継続教育の観点からの文献検討（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 1 3 回	看護生涯学習の観点からの文献検討（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 1 4 回	自身の関心のある現象に関連する理論を基に文献検討から得られたエビデンスの整理と体系化（卯川）	テーマに関する文献を収集し、知識を整理してプレゼンテーションの準備をして臨む
第 1 5 回	まとめ：理論とエビデンスの統合（細田、卯川）	レポート（テーマ：看護学教育における理論とエビデンスの統合）を作成し、プレゼンテーションの準備をして臨む

1.授業コード (ナンバリング)	71004	2.科目名	療養支援看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力(5)コミュニケーション能力と関連しています。 【目的】 周手術期看護、クリティカルケア、救急看護、がん看護の視点を重視した専門分野における研究の最新の動向と課題を明確にする。 【概要】 療養生活の支援に必要な専門的看護援助・患者教育方法などの看護実践や患者教育について研究論文について文献レビューを行い、専門分野における教育研究能力を培う。					
18.学習目標と DPとの関連	1.療養支援看護学分野における課題を説明できる。 2.学生の関心領域の課題に関連する概念や理論について説明できる 3.学生の関心領域の課題に関する研究の動向をプレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題レポート 70%(第 1 回～第 15 回の授業内容の資料) プレゼンテーション 30%					
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、最新の研究の動向と今後必要な研究についての考えをまとめてください。 授業資料及び発表資料の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	療養支援看護学における理論・概念と研究の動向①(高見沢恵美子)					
第 2 回	療養支援看護学における理論・概念と研究の動向②(高見沢恵美子)					
第 3 回	クリティカルケアを受ける患者の療養生活に関する課題の明確化①(高見沢恵美子)					
第 4 回	クリティカルケアを受ける患者の療養生活に関する課題の明確化②(高見沢恵美子)					
第 5 回	周手術期患者の療養生活に関する課題①(高見沢恵美子)					
第 6 回	周手術期患者の療養生活に関する課題②(高見沢恵美子)					
第 7 回	救命救急患者の療養生活に関する課題 ①(高見沢恵美子)					
第 8 回	救命救急患者の療養生活に関する課題② (高見沢恵美子)					
第 9 回	がん看患者の療養生活に関する課題①(高見沢恵美子)					
第 1 0 回	がん看患者の療養生活に関する課題②(高見沢恵美子)					
第 1 1 回	ターミナルケア看護における課題①(高見沢恵美子)					

第 1 2 回	ターミナルケア看護における課題②(高見沢恵美子)	
第 1 3 回	患者の療養支援に携わる医療従事者の課題の明確化 ①(高見沢恵美子)	
第 1 4 回	患者の療養支援に携わる医療従事者の課題の明確化 ②(高見沢恵美子)	
第 1 5 回	研究課題についてのプレゼンテーション(高見沢恵美子) 学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する 概念や理論についてプレゼンテーションする。	

1.授業コード (ナンバリング)	71006	2.科目名	生活支援看護学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、藤原和美					
5.授業科目の区分	生活支援看護学	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士後期課程			9.履修学年	1 年秋期～3 年冬期通年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義およびプレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	生活支援看護学特論では、人々の生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与すること、人々の生活を継続的・包括的にとらえ、人々やコミュニティと協働しながら看護を探究し、健康で安全な地域社会を構築するという観点から研究課題を明確にし、在宅看護学の専門分野における教育研究能力を培う。公衆衛生看護学分野では取り組む博士研究のための基礎的知識について学び、活用できる方法を取得する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 生活支援看護学分野における課題を明確にできる。 2. 学生の関心領域の課題に対する概念や理論について説明できる。 3. 学生の関心領域の課題に対する研究の動向をプレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	授業内容に応じて文献の紹介、参考資料の配布を行う					
20.参考文献	授業前に配布する					
21.成績評価	課題レポート 70% プレゼンテーション 30%					
22.コメント	主体的に取り組むことが必要です					
23.オフィスイアワー	畑 : センターオフィスイアワー（図書館）木曜日昼休み 研究室 水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	在宅看護における健康危機への対応（畑）					
第 2 回	在宅看護の特徴と潮流（畑）					
第 3 回	変容する在宅看護の場と主体（畑）					
第 4 回	多様な生活支援の枠組みと多職種連携（畑）					
第 5 回	在療養者中心の在宅看護のあり方（畑）					
第 6 回	在宅看護学・教育に関する研究のクリティーク（畑）					
第 7 回	在宅看護学・教育に関する研究のクリティーク（畑）					
第 8 回	健康の社会的決定要因（藤原）					
第 9 回	公衆衛生に関する健康指標の健康への影響と保健師（看護師）役割（藤原）					
第 10 回	公衆衛生に関する健康指標の健康への影響と保健師（看護師）役割（藤原）					
第 11 回	公衆衛生看護学・教育に関する研究のクリティーク（藤原）					
第 12 回	公衆衛生看護学・教育に関する研究のクリティーク（藤原）					
第 13 回	学生の研究関心、研究課題に関連した文献をもとにプレゼンテーションを行う(畑・藤原)					
第 14 回	学生の研究関心、研究課題に関連した文献をもとにプ					

	レゼンテーションを行う（畑・藤原）	
第 15 回	学生の研究関心、研究課題に関連した文献をもとに レゼンテーションを行う（畑・藤原）	

1.授業コード (ナンバリング)	72500	2.科目名	特別研究Ⅰ		3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.自らの専門分野における課題を明確にできる。 2.研究の意義と研究目的を記述できる。 3.研究課題に関する文献検討を記述できる。 4.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 5.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された研究計画書及び研究計画書発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期課程部会によって選出された研究指導教員 1 名、研究補助教員 2 名以上が、研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。					
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、研究の意義と研究目的を明確にしたうえで研究計画書を作成し、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した研究計画書の内容に基づき研究計画書発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の計画書発表会に臨んでください。 研究計画書及び計画書発表等のための資料作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢：火曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回～第 6 0 回	【授業の進め方】 1.関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。 2.研究計画書を作成する。 3.研究遂行に必要な具体的倫理的配慮内容を計画する。 4.研究計画書の審査及び研究倫理審査を受ける。 5. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。教員と共に検討した報告書を e ポートフォリオに保存し、自らの研究活動についてリフレク					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72501	2.科目名	特別研究Ⅰ		3.単位数	4
4.授業担当教員	房間美恵					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.自らの専門分野における課題を明確にできる。 2.研究の意義と研究目的を記述できる。 3.研究課題に関する文献検討を記述できる。 4.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 5.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された研究計画書及び研究計画書発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期課程部会によって選出された研究指導教員 1 名、研究補助教員 2 名以上が、研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。					
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、研究の意義と研究目的を明確にしたうえで研究計画書を作成し、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した研究計画書の内容に基づき研究計画書発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の計画書発表会に臨んでください。					
23.オフィスアワー	房間：火曜日 12:00～13:00 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回～第 6 0 回	【授業の進め方】 1.関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。 2.研究計画書を作成する。 3.研究遂行に必要な具体的倫理的配慮内容を計画する。 4.研究計画書の審査及び研究倫理審査を受ける。 5. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。教員と共に検討した報告書を e ポートフォリオに保存し、自らの研究活動についてリフレクションを記録し、研究遂行に関する課題を明					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72504	2.科目名	特別研究Ⅰ		3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.自らの専門分野における課題を明確にできる。 2.研究の意義と研究目的を記述できる。 3.研究課題に関する文献検討を記述できる。 4.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 5.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された研究計画書及び研究計画書発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期課程部会によって選出された研究指導教員 1 名、研究補助教員 2 名以上が、研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。					
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、研究の意義と研究目的を明確にしたうえで研究計画書を作成し、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した研究計画書の内容に基づき研究計画書発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の計画書発表会に臨んでください。					
23.オフィスアワー	水曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回～第 6 0 回	【授業の進め方】 1.関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、 フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。 2.研究計画書を作成する。 3.研究遂行に必要な具体的倫理的配慮内容を計画する。 4.研究計画書の審査及び研究倫理審査を受ける。 5. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載し た報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。 教員と共に検討 した報告書を e ポートフォリオに保存し、自らの研					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72509	2.科目名	特別研究Ⅰ		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩下真由美					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.自らの専門分野における課題を明確にできる。 2.研究の意義と研究目的を記述できる。 3.研究課題に関する文献検討を記述できる。 4.研究目的に適合する対象・調査内容・調査方法・分析方法を吟味し記述できる。 5.研究遂行に必要な倫理的配慮を計画できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	演習の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された研究計画書及び研究計画書発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期課程部会によって選出された研究指導教員 1 名、研究補助教員 2 名以上が、研究の意義・目的・文献検討・研究方法について協議し決定する。					
22.コメント	関心のあるテーマについて文献検索を行い、研究の意義と研究目的を明確にしたうえで研究計画書を作成し、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した研究計画書の内容に基づき研究計画書発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の計画書発表会に臨んでください。					
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回～第 6 0 回	【授業の進め方】 1.関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。 2.研究計画書を作成する。 3.研究遂行に必要な具体的倫理的配慮内容を計画する。 4.研究計画書の審査及び研究倫理審査を受ける。 5.各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討する。教員と共に検討した報告書を e ポートフォリオに保存し、自らの研究活動についてリフレクションを記録し、研究遂行に関する課題を明					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72520	2.科目名	特別研究Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	2 年・3 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特別研究Ⅰの単位取得者					
17.授業の目的と概要	「特別研究Ⅰ」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(4)論文作成能力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 2.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 3.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 4.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	授業で適宜紹介する。					
20.参考文献	授業で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公開発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期委員会によって選出された学位論文審査委員(主査1名・副査2名)が、博士論文としての学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。					
22.コメント	研究実施の途中で得られたデータをまとめ今後の研究予定と共に中間報告会で発表し、質疑応答を通し会場から意見をもらいます。作成した博士論文案は、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した論文を予備審査論文として提出し、資料とパワーポイント原稿を作成し発表し審査を受けます。予備審査で承認された論文を博士論文として提出し博士論文審査を受けます。博士論文審査で発表会に臨むことが可となった院生は、博士論文の内容に基づき博士論文発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の発表会に臨んでください。 予備審査論文・博士論文及びそれらの発表に関する資料作成については、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢：センター 火曜日昼休み、研究室 月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1～第60回	【授業の進め方】 1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察す					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72521	2.科目名	特別研究Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	房間美恵					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	2 年・3 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	特別研究Ⅰの単位取得者					
17.授業の目的と概要	「特別研究Ⅰ」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(4)論文作成能力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 2.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 3.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 4.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	授業で適宜紹介する。					
20.参考文献	授業で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公開発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期委員会によって選出された学位論文審査委員(主査1名・副査2名)が、博士論文としての学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。					
22.コメント	研究実施の中間で得られたデータをまとめ今後の研究予定と共に中間報告会で発表し、質疑応答を通し会場から意見をもらいます。作成した博士論文案は、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した論文を予備審査論文として提出し、資料とパワーポイント原稿を作成し発表し審査を受けます。予備審査で承認された論文を博士論文として提出し博士論文審査を受けます。博士論文審査で発表会に臨むことが可となった院生は、博士論文の内容に基づき博士論文発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の発表会に臨んでください。					
23.オフィスアワー	房間：火曜日（12:00-13:00）研究室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1～第60回	【授業の進め方】 1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 5.研究を、学位論文として執筆する。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72524	2.科目名	特別研究Ⅱ	3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未				
5.授業科目の区分	特別研究（博士論文）	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	2 年、3 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ゼミ形式で研究課題に沿って研究を進め博士論文を作成していく。	
16.履修制限	「特別研究Ⅰ」の単位修得者				
17.授業の目的と概要	「特別研究Ⅰ」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(4)論文作成能力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 2.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 3.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 4.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。				
19.教科書・教材	適宜授業の中で文献などの資料を示す。				
20.参考文献	看護研究（ポリット）、看護研究（バーンズ＆グローブ）、概念分析（ロジャース）				
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公开发表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期委員会によって選出された学位論文審査委員(主査1名・副査2名)が、博士論文としての学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
2 年～3 年	【授業の進め方】 1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 5.研究を、学位論文として執筆する。 6.研究成果をまとめ、プレゼンテーションする。 7. 各年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した報告書を提出し、研究指導教員と共に検討す				

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	72529	2.科目名	特別研究Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩下真由美					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～2026 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	2 年・3 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	特別研究Ⅰの単位取得者					
17.授業の目的と概要	「特別研究Ⅰ」において作成し看護学研究科委員会の承認を得た研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(4)論文作成能力・(5)コミュニケーション能力・(6)社会変革への挑戦力・(7)倫理観と関連しています。 1.看護学研究科委員会で承認された研究計画に従い、調査を実施できる。 2.調査から得られたデータを、研究目的にそって分析できる。 3.分析結果に基づき、研究目的に沿って考察できる。 4.研究成果を論文としてまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	授業で適宜紹介する。					
20.参考文献	授業で適宜紹介する。					
21.成績評価	提出された博士論文及び博士論文公開発表会での発表・質疑応答により審査する。評価は、看護学研究科博士後期委員会によって選出された学位論文審査委員(主査1名・副査2名)が、博士論文としての学術的価値・研究成果の独創性・論理的学術的整合性・副論文の研究業績について協議し決定する。					
22.コメント	研究実施の中間で得られたデータをまとめ今後の研究予定と共に中間報告会で発表し、質疑応答を通し会場から意見をもらいます。作成した博士論文案は、主指導教員・副指導教員の指導・アドバイスを受け修正してください。修正した論文を予備審査論文として提出し、資料とパワーポイント原稿を作成し発表し審査を受けます。予備審査で承認された論文を博士論文として提出し博士論文審査を受けます。博士論文審査で発表会に臨むことが可となった院生は、博士論文の内容に基づき博士論文発表会の資料とパワーポイント原稿を作成します。発表会に先立ち、作成した資料とパワーポイントを用いて、主指導教員・副指導教員参加のもと予演会を行い、発表・質疑応答の練習をすると共に資料等の修正意見をもらい修正した後実際の発表会に臨んでください。					
23.オフィスアワー	高見沢：センター 火曜日昼休み、研究室 月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1～第60回	【授業の進め方】 1.研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。 2.研究計画に従いデータ収集を行う。 3.得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。 4.分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 5.研究を、学位論文として執筆する。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)		ACC201-A01	2.科目名 商業簿記		3.単位数	2
4.授業担当教員 河内山潔						
5.授業科目の区分		展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻		経営学科			9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件		ファイナンスの単位を修得済みであることが望ましい	
12.研究室			※※※		13.電話番号 ※※※	
14.E-Mail Address			※※※		15.授業形態 講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要 【目的】 ビジネスの基礎である簿記処理の理解を深めるために、前半では日商簿記検定 3 級レベルの内容を学習する。 【概要】 ファイナンスで学んだ簿記一巡の仕組みを復習し、より多くの取引に関して仕訳を行い、試算表、精算表、貸借対照表と損益計算書を作成する。日商簿記検定の出題形式に合わせた形で講義と練習問題を繰り返し、模擬問題や過去問題によって、最近の出題傾向を把握し、検定の合格を目指す。 後半では、さらに株式会社を想定した簿記処理に関する日商簿記検定 2 級レベルにステップアップする。						
18.学習目標と DP との関連		本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 。 ○日商簿記検定 2 級の範囲の取引について、仕訳ができる。 ○試算表が作成できる。 ○日商簿記検定 3 級の範囲の決算整理事項について、適切な処理ができる。 ○精算表、貸借対照表、損益計算書が作成できる。				
19.教科書・教材		桑原知之著「サクッとうかる日商簿記 2 級商業簿記 テキスト+問題集」ネットスクール ISBN987-4-7810-1232-2				
20.参考文献		桑原知之著「サクッとうかる日商簿記 3 級商業簿記 テキスト+問題集」 ネットスクール 版 2016 年（ファイナンスのテキスト） 検定対策問題集など				
21.成績評価		各評価では、学習目標について総合的に問う。 平常課題 （仕訳問題、試算表、精算表） 30%（仕訳、試算表、精算表の作成を問う） 中間試験 30%（総合的な問題を問う） 総括試験 40% （総合的な問題を問う）				
22.コメント		日商簿記検定の合格を目指す学生を対象とする。 授業中にできる問題数は限られているので、自主的な学習が必要である。 授業には、必ず電卓を持参すること（電卓以外は不可）。				
23.オフィスアワー		センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	3 級レベルの復習問題 ・個別取引の処理の重要論点確認			◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）		
第 2 回	試算表の作成①			◆電卓◆		

	・ 合計試算表、残高試算表の作成	○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 3 回	試算表の作成② ・ 合計残高試算表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 4 階	決算手続① ・ 決算整理仕訳	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 5 回	決算手続② ・ 精算表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 6 回	決算手続③ ・ 損益計算書、貸借対照表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 7 回	日商 3 級レベルの答案練習① ・ 検定模擬問題へのチャレンジ	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 8 回	日商 3 級レベルの答案練習② ・ 検定模擬問題へのチャレンジ	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 9 回	（中間試験） 決算の総合問題 ・ 検定問題の解説	◆電卓◆ テキスト p2～p61 を予習する（90 分）
第 10 回	個別取引の処理① ・ 2 級レベルの前提 ・ 現金預金・手形・その他の債権・債務・有価証券	◆電卓◆ ○中間試験の復習（90 分） ○完成していない問題を完答する。（90 分） テキスト p62～p87 を予習する。（90 分）
第 11 回	個別取引の処理② ・ 固定資産	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） テキスト p88～p107 を予習する。（90 分）
第 12 回	個別取引の処理③ ・ 商品売買	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） テキスト p108～p165 を予習する。（90 分）
第 13 回	個別取引の処理④ ・ 株式の発行、合併、剰余金の処分、税金、引当金	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 14 回	2 級レベルの個別取引の処理まとめ	◆電卓◆ 総括試験の準備（240 分）
第 15 回	・ 総括試験（日商簿記 2 級レベルの仕訳問題と 3 級レベルの決算問題）	◆電卓◆

1.授業コード (ナンバリング)	ACC201-M01	2.科目名	商業簿記	3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件	ファイナンスの単位を修得済みであることが望ましい	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、ビジネスの基礎である簿記処理の理解を深めることを目的とします。 【概要】 最初に、日商簿記検定 3 級レベルの内容を復習します。具体的には、ファイナンスで学んだ簿記一巡の仕組みを復習し、より多くの取引に関して仕訳を行い、試算表、精算表、貸借対照表と損益計算書を作成します。6 月の日商簿記検定の出題形式に合わせた形で講義と練習問題を繰り返し、模擬問題や過去問題によって、最近の出題傾向を把握し、検定の合格を目指します。次に、株式会社を想定した簿記処理に関する日商簿記検定 2 級レベルにステップアップ				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①日商簿記検定 2 級の範囲の取引について、仕訳ができる。 ②試算表が作成できる。 ③決算整理事項について、適切な処理ができる。 ④精算表、貸借対照表、損益計算書が作成できる。				
19.教科書・教材	桑原知之著「サクッとわかる日商 2 級 商業簿記 テキスト【第 2 版】」ネットスクール出版 ISBN：9784781012445				
20.参考文献	桑原知之著「サクッとわかる日商簿記 3 級商業簿記テキスト」 ネットスクール 版（2023 年度ファイナンスのテキスト） 検定対策問題集など				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・平常課題（第 7 回、第 15 回を除く各授業回）（仕訳問題、試算表、精算表など）・・・ 30 点（学習目標①、②、③、④に対応） ・中間試験（第 7 回）・・・ 30 点（学習目標①、②に対応） ・総括試験（第 15 回）・・・ 40 点（学習目標①、②、③、④に対応） ※総括試験を受験することが単位認定の前提となります。				
22.コメント	6 月、11 月、2 月の日商簿記検定の受験を推奨する。 授業中にできる問題数は限られているので、自主的な学習が必要である。 授業には、必ず電卓を持参すること（電卓以外は不可）。				
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜昼休み センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜 4 限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回(4/8)	ディスカッション「個別取引の処理の重要論点確認」 ・ 3 級レベルの復習問題			◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）	
第 2 回(4/15)	グループワーク「試算表の作成」 ・ 合計試算表、残高試算表の作成			◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）	

第 3 回(4/22)	ディスカッション「決算手続について」 決算手続① ・ 精算表の作成	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 4 回(5/13)	グループワーク「損益計算書、貸借対照表の作成」 ・ 決算手続②	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 1 章を予習する（60 分）
第 5 回(5/20)	個別取引の処理①（2 級レベル） ・ 現金と預金	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 2 章を予習する（60 分）
第 6 回(5/27)	個別取引の処理② ・ 商品売買取引	◆電卓◆ ○完成していない問題を完答する（90 分） ○中間試験の準備（270 分）
第 7 回(6/3)	中間試験 ・ 日商 3 級レベルの決算総合問題	◆電卓◆ ○テキスト第 3 章を予習する（60 分）
第 8 回(6/10)	個別取引の処理③ ・ 手形取引	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 9 回(6/17)	個別取引の処理④ ・ その他の債権・債務取引	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 4 章を予習する（60 分）
第 10 回(6/24)	個別取引の処理⑤ ・ 固定資産取引	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 5 章を予習する（60 分）
第 11 回(7/1)	個別取引の処理⑥ ・ 有価証券取引	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 7 章を予習する（60 分）
第 12 回(7/8)	個別取引の処理⑦ ・ 引当金	◆電卓◆ ○復習問題（60 分） ○完成していない問題を完答する（90 分） ○テキスト第 8 章を予習する（60 分）
第 13 回(7/15)	純資産会計 ・ 株式の発行、合併、剰余金の処分、税金	◆電卓◆ ○復習問題（120 分） ○完成していない問題を完答する（90 分）
第 14 回(7/22)	ディスカッション「2 級レベルの個別取引の処理まとめ」	◆電卓◆ 総括試験の準備（240 分）
第 15 回(7/29)	・ 総括試験（日商簿記 2 級レベルの仕訳問題と 3 級レベルの決算問題）	◆電卓◆

1.授業コード (ナンバリング)	ACC301-A01	2.科目名	原価会計		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	必須ではないが、ファイナンス、商業簿記の単位を習得済みであることが望ましい。あるいは、日商簿記検定 3 級を合格済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	企業の経営管理を適正に行うために、製品やサービスに関する正確な原価情報は、非常に重要である。原価を計算する目的は、経営意思決定、予算編成・管理、財務諸表作成など多岐にわたるが、原価計算の実践は、原価の要素を分類、測定、集計、分析する一連の手続きである。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○製品やサービスの原価を適切に計算する方法と手続きを実践できる。 ○経営管理上の目的に応じて、適切な原価計算を利用できる。					
19.教科書・教材	岡本 清・廣本敏郎編著 『検定簿記講義／2 級工業簿記』 中央経済社 ISBN:978-4-502-89553-1 (学内での教科書販売時に必ず入手すること) その他、必要に応じてプリントを配布する予定である。					
20.参考文献	山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社 野口由美子著『初めてでもよくわかる原価計算』日本実業出版社 岡本清著『原価計算（六訂版）』国元書房 その他、授業時に適宜指示する。					
21.成績評価	課題提出（授業時に配布するプリント）：20% 中間試験①（費目別計算）：15% 中間試験②（個別原価計算・総合原価計算）：25% 総括試験（標準原価計算・直接原価計算）：40%					
22.コメント	日商簿記検定 3 級レベルの商業簿記に関する理解が不可欠である。同程度の学習歴を前提に授業運営がなされることを理解し、理解が不十分な場合は授業前に相応の準備することを求める。また、毎時計算問題を課す予定であり、そのために授業には必ず電卓を携行すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方、達成目標、評価方法について説明する。 第 1 章 工業簿記とは何か（テキスト pp.1～8） 製造企業における経営活動の特徴、工業簿記と原価計算、原価計算について学習する。			○復習としてテキスト pp.1～8 を読む。(60 分) ○予習として、テキスト pp.9～24 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)		
第 2 回	第 2 章 工業簿記のしくみ（テキスト pp.9～24） 工業簿記の勘定科目とその記入法、帳簿組織、工業簿記の決算と財務諸表について学習する。			○復習としてテキスト pp.9～24 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。		

		○予習として、テキスト pp.25～43 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 3 回	第 3 章 材料費計算 (テキスト pp.25～43) 材料費の定義と分類、材料購入の計算と記帳、材料費の計算と記帳について学習する。	○復習としてテキスト pp.25～43 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.44～56 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 4 回	第 4 章 労務費計算 (テキスト pp.44～56) 労務費の定義と分類、支払賃金の計算、消費賃金の計算、労務費の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.44～56 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.57～64 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○次回、中間試験①を実施予定。これまでの復習をする。
第 5 回	第 5 章 経費計算 (テキスト pp.57～64) 経費の定義と分類、経費の計算と記帳について学習する。 中間試験①を実施。(20 分程度)	○復習としてテキスト pp.57～64 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.65～79 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 6 回	第 6 章 製造間接費計算 (テキスト pp.65～79) 製造間接費の定義、製造間接費の製品への配賦、固定予算と変動予算、配賦差異の原因分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.65～79 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.80～95 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○中間試験①を返却。答案を見直し、完答状態にして再提出する準備を行う。
第 7 回	第 7 章 部門別計算 (テキスト pp.80～95) 部門費計算の意義と目的、原価部門の設定、部門費の集計、部門個別費と部門共通費、補助部門費の製造部門への配賦について学習する。	○復習としてテキスト pp.80～95 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.96～111 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 8 回	第 8 章 個別原価計算 (テキスト pp.96～111) 個別原価計算の意義、製造指図書と原価計算表、個別原価計算の方法、個別原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.96～111 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.112～139 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 9 回	第 9 章 総合原価計算 (テキスト pp.112～139) 総合原価計算の特徴、月末仕掛品原価と完成品総合原価の計算、総合原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.112～139 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.140～158 を読

		み、わからないところをチェックする。(60分) ○次回、中間試験②を実施予定。これまでの総体的な復習をする。
第 10 回	第 10 章 標準原価計算 (テキスト pp.140～159) 標準原価計算の意義・手続き、原価標準の設定と標準原価カード、標準・実際原価の差異計算などについて学習する。 中間試験②を実施。(20 分程度)	○復習としてテキスト pp.140～159 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.160～175 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 11 回	第 11 章 原価・営業量・利益関係の分析 (テキスト pp.160～175) CVP 分析の意義、CVP 図表、CVP 分析の基本公式、貢献利益概念などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.160～175 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.176～185 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○中間試験②を返却。答案を見直し、完答して再提出する準備を行う。
第 12 回	第 12 章 原価予測の方法 (テキスト pp.176～185) 原価態様による分類、費目別精査法、高低点法について学習する。	○復習としてテキスト pp.175～185 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.186～204 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 13 回	第 13 章 直接原価計算 (テキスト pp.186～204) 直接原価計算の意義・目的・方法、期間損益計算の改善、実際配賦と予定配賦、CVP 分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.186～204 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、特殊原価調査について指示された文献を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 14 回	原価計算と意思決定 (配布プリント) 差額原価概念を用いた意思決定、設備投資の経済性計算 (非 DCF 法) などについて学習する。	これまでの学習を総括する。 ○復習として配布プリントを読む。授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。(60 分) ○次回実施予定の期末試験の準備を行う。(180 分)
第 15 回	総括試験を実施する。 これまでの学習について、総括する。	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC301-m01	2.科目名	原価会計		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	必須ではないが、ファイナンス、商業簿記の単位を習得済みであることが望ましい。あるいは、日商簿記検定 3 級を合格済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（尼崎キャンパスからの遠隔授業になる）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	企業の経営管理を適正に行うために、製品やサービスに関する正確な原価情報は、非常に重要である。原価を計算する目的は、経営意思決定、予算編成・管理、財務諸表作成など多岐にわたるが、原価計算の実践は、原価の要素を分類、測定、集計、分析する一連の手続きである。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○製品やサービスの原価を適切に計算する方法と手続きを実践できる。 ○経営管理上の目的に応じて、適切な原価計算を利用できる。					
19.教科書・教材	岡本清・廣本敏郎編著 『検定簿記講義／2 級工業簿記』 中央経済社 ISBN:978-4-502-89553-1 (学内での教科書販売時に必ず入手すること) その他、必要に応じてプリントを配布する予定である。					
20.参考文献	山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社 野口由美子著『初めてでもよくわかる原価計算』日本実業出版社 岡本清著『原価計算（六訂版）』国元書房 その他、授業時に適宜指示する。					
21.成績評価	課題提出（授業時配布するプリント）：20% 中間試験①（費目別計算）：15% 中間試験②（個別原価計算・総合原価計算）：25% 総括試験（標準原価計算・直接原価計算）：40%					
22.コメント	日商簿記検定 3 級レベルの商業簿記に関する理解が不可欠である。同程度の学習歴を前提に授業運営がなされることを理解し、理解が不十分な場合は授業前に相応の準備することを求める。また、毎時計算問題を課す予定であり、そのために授業には必ず電卓を携行すること。 なお、授業はすべてオンラインでの提供になるが、毎時間教室での学修を想定している。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方、達成目標、評価方法について説明する。 第 1 章 工業簿記とは何か（テキスト pp.1～8） 製造企業における経営活動の特徴、工業簿記と原価計算、原価計算について学習する。			○復習としてテキスト pp.1～8 を読む。(60 分) ○予習として、テキスト pp.9～24 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)		
第 2 回	第 2 章 工業簿記のしくみ（テキスト pp.9～24） 工業簿記の勘定科目とその記入法、帳簿組織、工業簿			○復習としてテキスト pp.9～24 を読む。(60 分)		

	記の決算と財務諸表について学習する。	授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.25～43 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 3 回	第 3 章 材料費計算 (テキスト pp.25～43) 材料費の定義と分類、材料購入の計算と記帳、材料費の計算と記帳について学習する。	○復習としてテキスト pp.25～43 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.44～56 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 4 回	第 4 章 労務費計算 (テキスト pp.44～56) 労務費の定義と分類、支払賃金の計算、消費賃金の計算、労務費の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.44～56 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.57～64 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○次回、中間試験①を実施予定。これまでの復習をする。
第 5 回	第 5 章 経費計算 (テキスト pp.57～64) 経費の定義と分類、経費の計算と記帳について学習する。 中間試験①を実施。(20 分程度)	○復習としてテキスト pp.57～64 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.65～79 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 6 回	第 6 章 製造間接費計算 (テキスト pp.65～79) 製造間接費の定義、製造間接費の製品への配賦、固定予算と変動予算、配賦差異の原因分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.65～79 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.80～95 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○中間試験①を返却。答案を見直し、完答状態にして再提出する準備を行う。
第 7 回	第 7 章 部門別計算 (テキスト pp.80～95) 部門費計算の意義と目的、原価部門の設定、部門費の集計、部門個別費と部門共通費、補助部門費の製造部門への配賦について学習する。	○復習としてテキスト pp.80～95 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.96～111 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 8 回	第 8 章 個別原価計算 (テキスト pp.96～111) 個別原価計算の意義、製造指図書と原価計算表、個別原価計算の方法、個別原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.96～111 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.112～139 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 9 回	第 9 章 総合原価計算 (テキスト pp.112～139) 総合原価計算の特徴、月末仕掛品原価と完成品総合原価の計算、総合原価計算の記帳などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.112～139 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。

	る。	として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.140～158 を読み、わからないところをチェックする。(60分) ○次回、中間試験②を実施予定。これまでの総体的な復習をする。
第 10 回	第 10 章 標準原価計算 (テキスト pp.140～159) 標準原価計算の意義・手続き、原価標準の設定と標準原価カード、標準・実際原価の差異計算などについて学習する。 中間試験②を実施。(20 分程度)	○復習としてテキスト pp.140～159 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.160～175 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 11 回	第 11 章 原価・営業量・利益関係の分析 (テキスト pp.160～175) CVP 分析の意義、CVP 図表、CVP 分析の基本公式、貢献利益概念などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.160～175 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.176～185 を読み、わからないところをチェックする。(60 分) ○中間試験②を返却。答案を見直し、完答して再提出する準備を行う。
第 12 回	第 12 章 原価予測の方法 (テキスト pp.176～185) 原価態様による分類、費目別精査法、高低点法について学習する。	○復習としてテキスト pp.175～185 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、テキスト pp.186～204 を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 13 回	第 13 章 直接原価計算 (テキスト pp.186～204) 直接原価計算の意義・目的・方法、期間損益計算の改善、実際配賦と予定配賦、CVP 分析などについて学習する。	○復習としてテキスト pp.186～204 を読む。(60 分) 授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。 ○予習として、特殊原価調査について指示された文献を読み、わからないところをチェックする。(60 分)
第 14 回	原価計算と意思決定 (配布プリント) 差額原価概念を用いた意思決定、設備投資の経済性計算 (非 DCF 法) などについて学習する。	これまでの学習を総括する。 ○復習として配布プリントを読む。授業時に終了していない問題があれば宿題として取り組む。(60 分) ○次回実施予定の期末試験の準備を行う。(180 分)
第 15 回	総括試験を実施する。 これまでの学習について、総括する。	

1.授業コード (ナンバリング)	ANT102-Y01	2.科目名	文化人類学 【社会】		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目（2019 年度以降入学生）/専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部の科目ですが、他学科からの履修も歓迎します。 履修登録画面を「一覧表示」にして、科目コードに ANT102-Y01 と入力してください。			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 前半（第 1～7 回）では異文化理解の基礎となる「文化相対主義」の視点を、後半（第 8～15 回）では現代における民族の解説や多文化共生に不可欠な「構築主義」の視点を学びます。 【概要】 「異文化理解は重要だ」と言われますが、そもそも異文化理解とは何をどうすることなのでしょう。か？ またそれはなぜ、何のために「重要」なのでしょう。か？ この問題提起に答えるかたちで、第 2 回から第 6 回では、20 世紀前半の文化人類学者たちがフィールドワークを通じて作り上げた「システム論的な文化観」と、そこから導き出される異文化					
18.学習目標と DP との関連	学習目標①文化を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②文化の変化をとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化的事象を分析することができる この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	異文化理解とは何か？ ― 授業ガイダンス + 相対主義編 1：イントロダクション			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	不思議の国の昼休み ― 相対主義編 2：自文化の相対化と異文化理解			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	人類はイネ科植物に支配されている ― 相対主義編 3：文化の多様性と 19 世紀の文化理論			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 4 回】	狩猟採集民はどこから来たのか？ ― 相対主義編 4：19 世紀の理論の問題点			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 5 回】	お父さんのいない島 ― 相対主義編 5：参与観察型フィールドワークと新しい文化理論			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

【第 6 回】	父を弔うための冗談 ― 相対主義編 6：文化の内的論理と異文化理解	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	魂を落とした話を理解する ― 相対主義編 7：文化相対主義と多文化主義	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	そうだ、カップのせいにしよう。 ― 構築主義編 1：解釈を通じた自文化の変化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	日本の寿司とアメリカの SUSHI ― 構築主義編 2：解釈を通じた異文化の受容（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	呪術になったキリスト教とキリストになった呪術師 ― 構築主義編 3：解釈を通じた異文化の受容（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	「白人の呪術」をめぐるうわさ ― 構築主義編 4：ポストコロニアル状況における文化の語り	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	千と千尋の観光地 ― 構築主義編 5：観光開発と自文化の解釈	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	イスラームの中心で打倒アメリカを叫んだミッキーマウス ― 構築主義編 6：ポップカルチャーの政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	南の島のもつれたアイデンティティ ― 構築主義編 7：イデオロギーの再生産と「大きな物語」	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	民族が紛争を作るのか、紛争が民族を作るのか ― 構築主義編 8：民族概念の脱構築にむけて	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	ANT102-a01	2.科目名	文化人類学		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	教職科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 前半（第 1～7 回）では異文化理解の基礎となる「文化相対主義」の視点を、後半（第 8～15 回）では現代における民族の解説や多文化共生に不可欠な「構築主義」の視点を学びます。 【概要】 「異文化理解は重要だ」と言われますが、そもそも異文化理解とは何をどうすることなのでしょう？ またそれはなぜ、何のために「重要」なのでしょう？ 第 1 回で提起したこの問題に答えるかたちで、第 2 回から第 6 回では、20 世紀前半の文化人類学者たちがフィールドワークを通じて作り上げた「システム論的な文化観」と、そこから導き出					
18.学習目標と DP との関連	学習目標①文化を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②文化の変化をとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化的事象を分析することができる この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 4 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	異文化理解とは何か？ — 授業ガイダンス + 相対主義編 1：イントロダクション			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	不思議の国の昼休み — 相対主義編 2：自文化の相対化と異文化理解			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	人類はイネ科植物に支配されている — 相対主義編 3：文化の多様性と 19 世紀の文化理論			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 4 回】	狩猟採集民はどこから来たのか？ — 相対主義編 4：19 世紀の理論の問題点			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 5 回】	お父さんのいない島 — 相対主義編 5：参与観察型フィールドワークと新しい文化理論			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 6 回】	父を弔うための冗談 — 相対主義編 6：文化の内的論理と異文化理解			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 7 回】	魂を落とした話を理解する — 相対主義編 7：文化相対主義と多文化主義			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 8 回】	そうだ、カップパのせいにしよう。 — 構築主義編 1：			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

	解釈を通じた自文化の変化	
【第 9 回】	日本の寿司とアメリカの SUSHI ― 構築主義編 2：解釈を通じた異文化の受容（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	呪術になったキリスト教とキリストになった呪術師 ― 構築主義編 3：解釈を通じた異文化の受容（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	「白人の呪術」をめぐるうわさ ― 構築主義編 4：ポストコロニアル状況における文化の語り	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	千と千尋の観光地 ― 構築主義編 5：観光開発と自文化の解釈	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	イスラームの中心で打倒アメリカを叫んだミッキーマウス ― 構築主義編 6：ポップカルチャーの政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	南の島のもつれたアイデンティティ ― 構築主義編 7：イデオロギーの再生産と「大きな物語」	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	民族が紛争を作るのか、紛争が民族を作るのか ― 構築主義編 8：民族概念の脱構築にむけて	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	ASL203-y71	2.科目名	マレー語 (オンデマンド)		3.単位数	1
4.授業担当教員	飯島葉月、横山雅彦					
5.授業科目の区分	基盤教育科目 コモンベシックス 第2外国語（その他の外国語） マレー語分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択/必修 ※基本的にはマレーシア等のマレー語圏に留学する予定の学生の必修を前提とするが、その他の学生も選択可	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科 のマレーシア等のマレー語圏へ留学する学生の履修と前提とするが、 他学部・他学科からの履修も歓迎 ＊一部学科はシステムが異なるため自身で履修・単位・システム等の確認の上で履修すること：講師としてはどの学科の学生も歓迎です 過去の年度でも英コミ以外の学科の学生も多く受講しています（観光学科、人間心理学科、心理学科、社会学科、経営学科等）			9.履修学年	留学前の1年・2年次を想定としているが、他学年からの履修も歓迎 ＊すでに留学から帰ってきた学生も過去の年度で履修しています、留学後の復習の場となっているようです	
10.取得資格の要件	-		11.先修条件	言語の特性上、混乱が生じる可能性が非常に高いためインドネシア語との同学期の履修は禁止ではないがおすすめはしない。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	基本オンデマンド 初回・中間・最終試験の際は遠隔オンライン/リモートでの講義・演習・試験 Zoom・WebClass をメインに使用します		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 マレーシアをはじめとしたマレー語圏への留学に向けて、はじめてマレー語を学ぶ学生や、あらためてマレー語を基礎から学びたい学生を対象に、マレー語やマレー語圏の文化や社会等をゼロから学び・親しむことを目的とする。 【概要】 講師作成・用意の教材を中心として、マレー語の基礎文法から基本的な語彙やフレーズを学んでいく。ただ言語を学ぶだけでなく、マレーシアをはじめとしたマレー語圏の文化や社会等への理解も深めていく。					
18.学習目標とDPとの関連	【学習目標】 ①読む：簡単なマレー語の文章を読むことができる ②書く：基礎文法、語彙やフレーズを使用し、簡単なマレー語の作文ができる ③聞く：簡単なマレー語の会話を聞き取ることができる ④話す：基礎文法、語彙やフレーズを使用し、簡単なマレー語の会話ができる ⑤ほか：少しでもマレー語圏の文化や社会等を知り、ある程度の知識を身につけた状態で現地での生活がスタートできる 【DP との関連】					

	(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力	
19.教科書・教材	基本は講師作成の教材を使用予定。 適宜ウェブクラス等を通じてお知らせします。	
20.参考文献	授業内で適宜紹介（ウェブクラスをチェックするように）	
21.成績評価	・平常点(授業内におけるワークやディスカッションへの提出・貢献等) : 40% [学習目標①②③④⑤、関連 DP (3) (5) に対応] ・小テスト(1回 5%の合計 4回): 20% [学習目標①②③④、関連 DP (6) に対応] ・統括試験(最終回): 40% [学習目標①②③④⑤、関連 DP(3)(5)(6)に対応]	
22.コメント	「マレーシアって英語使えるんでしょ？ならマレー語学ぶ必要くない？」そんな声を聞くこともあるでしょう。しかし、言語と文化は密接に関係していると私は考えています。一見、必要ない、そう思えるマレー語でも、ひとたび現地で Sudah makan?と話し始めれば、英語では得られないであろう現地の方のリアクションをもらえることでしょう。日本でマレー語の授業を取れる大学はそう多くありません。この関国国際大学でもやっと設置できた科目だそうです。ぜひ一人でも多くの学生の皆さんにマレー語の楽しさに触れていただければ嬉しく思います。 ※各回の授業内容は進捗によって多少前後・増減する可能性があります、あらかじめご了承ください。 ※基本オンデマンド、一部遠隔オンライン/リモートでの講義・演習です。オンデマンド/オンライン/リモート授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）で授業に臨んでください。 ※語学の授業の特性上、オンライン/リモートでの講義・演習の際は、基本的にはビデオオンの状態で授業に参加するようにしてください。適宜マイクオンも求められますので、対応可能な状態で受講してください（履修人数や進捗にもよりますが、適宜チャット・発言・発表・グループワークなども予定しています） ※主な使用媒体は Zoom・WebClass です。それぞれ使用できる状態にしておいてください。 ※リアルタイムのリモート zoom 授業の日程はあくまで予定です。変更になる可能性があります。その場合は Webclass 等でお知らせします。 ※生成 AI 利用:授業・レポート・テスト全てにおいて、条件付きで認める（必要に応じて授業内や授業資料にて案内）	
23.オフィスアワー	基本的にメールで受け付けています。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 *初回はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です*	・はじめに ・基本の言葉 ・文字と発音	*初回はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です* 授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第2回 *オンデマンド	・名詞の修飾 ・基本文系 ・名詞の否定	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第3回 *オンデマンド	・指示代名詞 ・「この」「あの、その」	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。

	・形容詞の否定 ・pun/juga 「～もまた」、pula 「一方、～の場合は」	基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第4回 *オンデマンド	・小テスト① ・疑問文の作り方 ・疑問文の答え方	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第5回 *オンデマンド	・方向を表す前置詞と場所代名詞 ・「主語+動詞」の文	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第6回 *オンデマンド	・助動詞 -時制 -希望・可能・義務	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第7回 *オンデマンド	・小テスト② ・疑問詞 -誰、何 -どこ、どのように	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第8回 *中間はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です*	・数字 ・疑問詞 -いつ、いくら、何時 -どうして、なぜ ・助動詞を使った疑問文 *これまでとこれから：質疑応答	*中間はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です* 授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第9回 *オンデマンド	・会話/フレーズ（1）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第10回 *オンデマンド	・小テスト③ ・会話/フレーズ（2）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第11回 *オンデマンド	・会話/フレーズ（3）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第12回 *オンデマンド	・会話/フレーズ（4）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラス

		を通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 13 回 *オンデマンド	・小テスト④ ・会話/フレーズ (5)	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 14 回 *オンデマンド	・会話/フレーズ (6) ・総まとめ	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 15 回 *最終回はリアルタイムでのリモート/オンラインで統括試験を実施予定です*	統括試験	*最終回はリアルタイムでのリモート/オンラインで統括試験を実施予定です* 授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。

1.授業コード (ナンバリング)	ASL204-Y02	2.科目名	インドネシア語（オンデマンド）		3.単位数	1
4.授業担当教員	飯島葉月、横山雅彦					
5.授業科目の区分	基盤教育科目 コモンベーシックス 第2外国語（その他の 外国語） インドネシア語分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択/必修 ※基本的にはイン ドネシア等の インドネシア語 圏に留学する予 定の学生の必修 を前提とする が、その他の学 生も選択可	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科 のインドネシア等のインドネシア語圏へ留学する学生 の履修と前提とするが、 他学部・他学科からの履修も歓迎 ＊一部学科はシステムが異なるため自身で履修・単位・システム等の確認の上で履修すること：講師としてはどの学科の学生も歓迎です			9.履修学年	留学前の1年・2年次を想定としているが、留学するしない・留学後など問わず、他学年からの履修も歓迎	
10.取得資格の要件	-		11.先修条件	言語の特性上、混乱が生じる可能性が非常に高いためマレー語との同学期の履修は禁止ではないがおすすめはしない。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	基本オンデマンド 初回・中間・最終試験の際は遠隔オンライン/リモートでの講義・演習・試験 Zoom・WebClass をメインに使用します		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 インドネシアをはじめとしたインドネシア語圏への留学に向けて、はじめてインドネシア語を学ぶ学生や、あらためてインドネシア語を基礎から学びたい学生を対象に、インドネシア語やインドネシア語圏の文化や社会等をゼロから学び・親しむことを目的とする。 【概要】 講師作成・用意の教材を中心として、インドネシア語の基礎文法から基本的な語彙やフレーズを学んでいく。ただ言語を学ぶだけでなく、インドネシアをはじめとしたインドネシア語圏の文化や社会等への理解も深めていく。					
18.学習目標とDPとの関連	【学習目標】 ①読む：簡単なインドネシア語の文章を読むことができる ②書く：基礎文法、語彙やフレーズを使用し、簡単なインドネシア語の作文ができる ③聞く：簡単なインドネシア語の会話を聞き取ることができる ④話す：基礎文法、語彙やフレーズを使用し、簡単なインドネシア語の会話ができる ⑤ほか：少しでもインドネシア語圏の文化や社会等を知り、ある程度の知識を身につけた状態で現地での生活がスタートできる 【DP との関連】 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）					

	(5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力	
19.教科書・教材	基本は講師作成の教材を使用予定。 適宜ウェブクラス等を通じてお知らせします。	
20.参考文献	授業内で適宜紹介（ウェブクラスをチェックするように）	
21.成績評価	・平常点(授業内におけるワークやディスカッションへの提出・貢献等) : 40% [学習目標①②③④⑤、関連 DP (3) (5) に対応] ・小テスト(1回5%の合計4回): 20% [学習目標①②③④、関連 DP (6) に対応] ・統括試験（最終回）: 40% [学習目標①②③④⑤、関連 DP(3)(5)(6)に対応]	
22.コメント	元々マレー語の教員をさせていただいておりましたが、今年度よりインドネシア語も担当させていただきます。 ぜひ一人でも多くの学生の皆さんにインドネシア語の楽しさにも触れていただければ嬉しく思います。 ※各回の授業内容は進捗によって多少前後・増減する可能性がございます、あらかじめご了承ください。 ※基本オンデマンド、一部遠隔オンライン/リモートでの講義・演習です。オンデマンド/オンライン/リモート授業に参加できる状態（パソコン・インターネット等が整えられた環境）で授業に臨んでください。 ※語学の授業の特性上、オンライン/リモートでの講義・演習の際は、基本的にはビデオオンの状態で授業に参加するようにしてください。適宜マイクオンも求められますので、対応可能な状態で受講してください（履修人数や進捗にもよりますが、適宜チャット・発言・発表・グループワークなども予定しています） ※主な使用媒体は Zoom・WebClass です。それぞれ使用できる状態にしておいてください。 ※リアルタイムのリモート zoom 授業の日程はあくまで予定です。変更になる可能性があります。その場合は Webclass 等でお知らせします。 ※生成 AI 利用:授業・レポート・テスト全てにおいて、条件付きで認める（必要に応じて授業内や授業資料にて案内）	
23.オフィスアワー	基本的にメールで受け付けています。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 *初回はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です*	・はじめに ・基本の言葉 ・文字と発音	*初回はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です* 授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第2回 *オンデマンド	・名詞の修飾 ・基本文系 ・名詞の否定	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第3回 *オンデマンド	・指示代名詞 ・「この」「あの、その」 ・形容詞の否定	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第4回	・小テスト①	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を

*オンデマンド	・疑問文の作り方 ・疑問文の答え方	行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 5 回 *オンデマンド	・方向を表す前置詞と場所代名詞 ・「主語+動詞」の文	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 6 回 *オンデマンド	・助動詞 -時制 -希望・可能・義務	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 7 回 *中間はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です*	*これまでとこれから：質疑応答 ・疑問詞 -誰、何 -どこ、どのように	* 中間はリアルタイムでのリモート/オンライン授業予定です* 授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 8 回 *オンデマンド	・小テスト② ・数字 ・疑問詞 -いつ、いくら、何時 -どうして、なぜ ・助動詞を使った疑問文	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 9 回 *オンデマンド	・会話/フレーズ（1）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 10 回 *オンデマンド	・小テスト③ ・会話/フレーズ（2）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 11 回 *オンデマンド	・会話/フレーズ（3）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 12 回 *オンデマンド	・会話/フレーズ（4）	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 13 回	・小テスト④	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。

*オンデマンド	・会話/フレーズ (5)	行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 14 回 *オンデマンド	・会話/フレーズ (6) ・総まとめ	授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。
第 15 回 *最終回はリアルタイムでのリモート/オンラインで統括試験を実施予定です*	統括試験	*最終回はリアルタイムでのリモート/オンラインで統括試験を実施予定です* 授業内容に応じて予習・復習・テスト準備を行いましょう。 基本的に何か指示がある場合はウェブクラスを通じて行いますので、ウェブクラスはこまめにチェックするようにしてください。

1.授業コード (ナンバリング)	ASL205-Y01	2.科目名	ベトナム語		3.単位数	2
4.授業担当教員	Vu Thi Thu Thao、横山雅彦					
5.授業科目の区分	ベトナム語基礎	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語			9.履修学年	一年生から	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第14回のみ対面）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	授業の目的は、学生がベトナム語の基本的な発音、文法、語彙を習得し、日常会話やビジネスシーンでのコミュニケーション能力を向上させることです。また、ベトナムの文化や背景を理解し、異文化コミュニケーションスキルを身につけることを目指します。 授業の概要 この授業では、ベトナム語の特殊な発音や声調、人称代名詞などを学びながら、日常会話でよく使われる表現や語彙を増やしていきます。授業は以下の内容で構成されています： 発音：ベトナム語の音節、符号、声調と発音の練習 文法：基礎文型、人称代名詞の使い方、疑問詞の					
18.学習目標と DPとの関連	ベトナム語らしい発音がしっかり身に付く。 単語の意味を覚えるだけでなく、用法もしっかりマスター 楽しく簡単な会話ができる。 留学する場合、ベトナムでの生活で困らないように基礎知識を身に付く。 この授業はベトナムの文化や背景を理解し受け入れる能力、およびコミュニケーションスキルに連関するものである。					
19.教科書・教材	キクタン ベトナム語 【初級編】 キクタン ベトナム語会話 【入門編】 講師の独自のテキスト					
20.参考文献	基礎からレッスンはじめてのベトナム語 ベトナム小学生1年生の国語の教科書 授業の中で指示する					
21.成績評価	宿題提出 40%+授業への参加度 40%+期末テスト 20%で評価する					
22.コメント	授業は第1回（オリエンテーション）、第8回（演習、フィールドワーク）、第14回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。講師がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。					
23.オフィスアワー	問い合わせ先: honthuthao2006@gmail.com 電話番号: 080-3809-3051					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション ベトナム語の紹介 文字の特徴と覚え方 簡単な挨拶 ベトナム語での自己紹介			書き物		

	初対面の会話の練習	
第 2 回	符号について 母音と子音 声調 語彙：親族名、国名 会話の練習：出身はどこですか？	動画提出課題
第 3 回	符号について 母音と子音 声調 語彙：一人称・二人称の複数の言い方、三人称の言い方 相手の呼び方、自分の呼び方→他人の紹介→会話の練習	動画提出課題
第 4 回	基本表現：～は～（名詞）です。 肯定文、否定文、疑問文 語彙：数字、職業 →年齢、自己紹介、他人紹介→会話の練習	動画提出課題
第 5 回	基本表現：～は～（形容詞）です。 肯定文、否定文、疑問文 語彙：形容詞 →物事、家族、住んでいるところなどの特徴の紹介→会話の練習	動画提出課題
第 6 回	基本表現：所有を表すときの文型 ～の＋名詞 ～は～（形容詞）です。 ～の＋名詞～は～（形容詞）です。 肯定文、否定文、疑問文 語彙：形容詞 →物事、家族、住んでいるところなどの特徴の紹介→会話の練習	動画提出課題
第 7 回	基本表現：時間、過去・現在・未来 疑問詞を使う文：何時？何日？何月？何年 〇〇から 〇〇まで 語彙：時間の表し方 →文型の練習→会話の練習	動画提出課題
第 8 回	基本表現：現在形、過去形、未来形 疑問詞を使う文：いつ？ 〇〇から〇〇まで？ 1.現在の行動について尋ねる 2.過去の行動について尋ねる 3.将来の行動について尋ねる 肯定文、否定文、疑問文 語彙：動詞 →文型の練習→会話の練習	なし
第 9 回	基本表現：要求・命令・意思を表すときの文型 肯定文、否定文、疑問文 文型の練習→会話の練習	前回に配られたプリントと宿題
第 10 回	疑問詞を使う文：何？どれくらい？いくら？ 1.仕事について尋ねる 2.行動について尋ねる	動画提出課題

	3.ものについて尋ねる 4.金額について尋ねる →応用会話の練習	
第 11 回	基本表現：可能・許可を表す文型 肯定文、否定文、疑問文 文型の練習→会話の練習→読解 （簡単な文章	動画提出課題
第 12 回	疑問詞を使う文：どの／どのような／どのように 1.状態について尋ねる 2.行動について尋ねる 3.人・ものについて尋ねる →応用表現→会話の練習 →読解、聴解	動画提出課題
第 13 回	疑問詞を使う文：なぜ？ 状態・行動の原因・理由について「なぜ」と尋ねたり 答えたりする →応用表現→会話の練習 →読解、聴解	動画提出課題
第 14 回	復習 期末テスト	なし
第 15 回	結果確認 テスト問題の回答に基いて今までの勉強の復習	テストの問題

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-A01	2.科目名	評価と実践Ⅰ（2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、上原昭三、中西一彦、春木裕美					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著）、門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は 1 年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める 生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言					

	葉で記載すること ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること	
23.オフィスアワー	島川： 上原： 春木： 中西：月曜 4 限 ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-A03	2.科目名	評価と実践Ⅰ（尼 経営_2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子、北村正仁、越山泰子、橘セツ、陳那森、チョウドリ マハブブルアロム、劉争					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻				9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著）、門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は 1 年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること）					

	?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日 5 限 センタープログラム：水曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 I」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-M01	2.科目名	評価と実践Ⅰ（三木経営_2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	浮田泉、上村和美、北村浩二、百済正和					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著）、門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は 1 年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること）					

	?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践 I」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の () 内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか (第 2 週) 第 2 回 学修ポートフォリオ 1 (第 9 週) ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2 (第 9 週) ◇ノ	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-M02	2.科目名	評価と実践Ⅰ（看護_2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	櫻井信人、有本梨花、志保田幸子、炭野実千、中山和美、西村美登里、野村浩、畑吉節未、藤原和美、細川由美子、吉井ひろ子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著）、門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は 1 年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	畑：センターオフィスアワー：火曜日昼休み 畑：研究室オフィスアワー：水曜日昼休み					

※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2 (第 9 週) ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年秋学期 (9 月末リフ	第 16 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 17 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-Y01	2.科目名	評価と実践Ⅰ (心理_2025 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴、大松光寿、河田慈人、寺村堅志、中山誠、村田昌彦、山本真由美、横川滋章					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1 年～2 年 (この科目は 2 年間)	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP (ディプロマポリシー) の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA (Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善) サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン (著), 門田 美鈴 (翻訳) 『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか? 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。(この科目は単位認定科目です) ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は 1 年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間 (1 年～2 年) の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2 (第 9 週) ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年秋学期 (9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 17 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-Y03	2.科目名	評価と実践Ⅰ（グローバル_2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高根沢均、Jonathan Aliponga、佐藤恭仁彦、Patrick Shorb、横山雅彦、李容淑					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻				9.履修学年	1 年～2 年（この科目は 2 年間）
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋ワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著）、門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は 1 年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1 年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー ※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2 (第 9 週) ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年秋学期 (9 月末リフレクション・	第 16 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 17 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」 「2025 年度春・夏学期結果」

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM101-Y05	2.科目名	評価と実践Ⅰ（社会_2025年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	阿部忍、渡辺卓也					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	1年～2年（この科目は2年間）	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科のディプロマポリシーに掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外での経験学習プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するというPDCAサイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求めら					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 本学の教育目標に掲げる力・資質について説明できる 2. 評価方法や能力観について説明できる 3. PDCA（Plan 計画 Do 実行 Check 確認 Act 改善）サイクルについて説明できる 4. PDCA の考え方を学習状況の自己点検に適用することができる 5. 客観的に自分の現状を記述することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン（著）、門田 美鈴（翻訳）『チーズはどこへ消えた?』扶桑社 2000年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ・なお、評価は1年毎に以下の内容を実施します。 ①目標 1年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 1年毎の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 1年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのシ					
22.コメント	評価と実践Ⅰは2年間（1年～2年）の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					

※質問や問い合わせは、まず自分のアドバイザーの先生にしてください。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 年春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅰ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。1 回目の授業で配付するウィークリーアワー日程表で確認してください。 ※春学期第 1 週目は基礎学力診断テストを実施します。 第 1 回 科目の説明ほか（第 2 週） 第 2 回 学修ポートフォリオ 1（第 9 週） ◇ノート PC 持参◇ ・学修ポート	☆この授業には、各自のノート PC と 1 回目の授業で配付する「学びの成長実感ガイド」を毎回持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 ☆この授業では、WebClass 学習と振り返りの記録を使用します。学びの経験を言葉にして蓄積していきましょう。レポートや発表資料などの学習成果物、また写真なども、一緒に保存してください。 ☆次学期以降も同様です。
1 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、春・夏学期のふりかえりを行い、秋・冬学期の目標と計画を考える 第 8 回 学びのゴールとプロセス (第 9 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・この大学で身につける力と方法を理解する ・ラーニング・ルートマップの作成 第 9 回 学びの評価 (第 10 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・評価の種類と?法を理解	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 【第 8 回 宿題】 ☆ ラーニング・ルートマップを作成し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて、前年度秋・冬学期のふりかえりを行い、今年度春・夏学期の目標と計画を考える ・ラーニング・ルートマップの確認・修正 第 13 回 学修ポートフォリオ点検 1 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する ・1 年半の学びと経験を整理する 第 14 回 学修ポートフォリオ点検 2 (第 9 週) ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に保存。
(次年度予定) 2 年秋学期 (9 月末リフ	第 16 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 17 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇	【第 17 回 宿題】 ☆ アドバイザーの面談後に、以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 秋ベンチマーク」

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-A01	2.科目名	評価と実践Ⅱ (こども学_2023 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	川村光、梶正義、三好徹明					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年 (この科目は 2 年間)	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現 (記述とプレゼンテーション) することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン (著), ローラ・H. サルガニク (著), 立田 慶裕 (監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構 (OECD) が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。(この科目は単位認定科目です) ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのショーケース 「KUISs 学びのショーケース」を更					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間 (1 年～2 年) の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
3 年春学期 (3 月末リフ	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外			☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。		

レクシオン・デイ含む)	に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第1回 リフレクシオンガイダンス(リフレクシオン・デイ) 第2回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第2回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクシオン・デイ含む)	第6回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第7回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第8回 学修成果の統合1（第7週）◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第9回 学修成果の統合2（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第10回 3 年秋学期のふりかえり（第15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第7回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクシオン・デイ含む)	第11回 リフレクシオンガイダンス (3 月末リフレクシオン・デイ) 第12回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第13回 社会における評価と実践（第7週）◇ノート PC 持参◇ 第14回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第15回 4 年春学期のふりかえり（第15 週）◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第12回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年秋学期	第16回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第17回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート	【第17回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-A02	2.科目名	評価と実践Ⅱ (福祉学_2023 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年 (この科目は 2 年間)	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現 (記述とプレゼンテーション) することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン (著), ローラ・H. サルガニク (著), 立田 慶裕 (監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構 (OECD) が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。(この科目は単位認定科目です) ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのショーケース 「KUISs 学びのショーケース」を更					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間 (1 年～2 年) の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
3 年春学期 (3 月末リフ	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外			☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。		

レクシオン・デイ含む)	に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第1回 リフレクシオンガイダンス(リフレクシオン・デイ) 第2回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第2回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクシオン・デイ含む)	第6回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第7回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第8回 学修成果の統合1（第7週）◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第9回 学修成果の統合2（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第10回 3 年秋学期のふりかえり（第15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第7回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクシオン・デイ含む)	第11回 リフレクシオンガイダンス (3 月末リフレクシオン・デイ) 第12回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第13回 社会における評価と実践（第7週）◇ノート PC 持参◇ 第14回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第15回 4 年春学期のふりかえり（第15 週）◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第12回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年秋学期	第16回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第17回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート	【第17回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-A03	2.科目名	評価と実践Ⅱ (尼 経営_2023 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	北村正仁、河内山潔、チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻				9.履修学年	3 年～4 年 (この科目は 2 年間)
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現 (記述とプレゼンテーション) することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン (著), ローラ・H. サルガニク (著), 立田 慶裕 (監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構 (OECD) が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。(この科目は単位認定科目です) ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのショーケース 「KUISs 学びのショーケース」を更					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間 (1 年～2 年) の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
3 年春学期 (3 月末リフ	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外			☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。		

レクシオン・デイ含む)	に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第1回 リフレクシオンガイダンス(リフレクシオン・デイ) 第2回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第2回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクシオン・デイ含む)	第6回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第7回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第8回 学修成果の統合1（第7週）◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第9回 学修成果の統合2（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第10回 3 年秋学期のふりかえり（第15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第7回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクシオン・デイ含む)	第11回 リフレクシオンガイダンス (3 月末リフレクシオン・デイ) 第12回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第13回 社会における評価と実践（第7週）◇ノート PC 持参◇ 第14回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第15回 4 年春学期のふりかえり（第15 週）◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第12回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年秋学期	第16回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第17回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート	【第17回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-M01	2.科目名	評価と実践Ⅱ (三木経営_2023 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見彰、上村和美、齋藤勝洋、佐藤広志、肖威、樋田大二郎					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年 (この科目は 2 年間)	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現 (記述とプレゼンテーション) することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン (著), ローラ・H. サルガニク (著), 立田 慶裕 (監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構 (OECD) が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。(この科目は単位認定科目です) ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのショーケース 「KUISs 学びのショーケース」を更					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間 (1 年～2 年) の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
3 年春学期 (3 月末リフ	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外			☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。		

レクシオン・デイ含む)	に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第1回 リフレクシオンガイダンス(リフレクシオン・デイ) 第2回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第2回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクシオン・デイ含む)	第6回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第7回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第8回 学修成果の統合1（第7週）◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第9回 学修成果の統合2（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第10回 3 年秋学期のふりかえり（第15 週目）◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第7回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクシオン・デイ含む)	第11回 リフレクシオンガイダンス (3 月末リフレクシオン・デイ) 第12回 リフレクシオンワーク（第1週）◇ノート PC 持参◇ ・リフレクシオン・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第13回 社会における評価と実践（第7週）◇ノート PC 持参◇ 第14回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第8週）◇ノート PC 持参◇ 第15回 4 年春学期のふりかえり（第15 週）◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第12回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年秋学期	第16回 リフレクシオンガイダンス (9 月末リフレクシオン・デイ) 第17回 リフレクシオンワーク（第1週目）◇ノート	【第17回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクシオン面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-M02	2.科目名	評価と実践Ⅱ（看護_2023 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	岩下真由美、未定、梅田智子、椋田恵子、白石夕起子、高田美子、中世古恵美、平野通子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	原則対面、実習中で参加できない学生は、Z OOMの録画を視聴する		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を 涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修 や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえり を通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評 価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する 概念					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」 に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著）、ローラ・H. サルガニク（著）、立田 慶裕（監訳）『キー・コンピ テンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な 能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
3 年春学期 (3 月末リフ レクション・	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間 帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外 に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開			☆この授業には、各自のノート PC を持参して ください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授		

デイ含む)	催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第1回 リフレクションガイダンス(リフレクション・デイ) 第2回 リフレクションワーク(第1週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	業中に指示します。 【第2回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 春ベンチマーク」 「2022 年度秋・冬学期結果」 「2023 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。 ☆ 学修成果サマリーに入れる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。 【随
3 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第6回 リフレクションガイダンス(9 月末リフレクション・デイ) 第7回 リフレクションワーク(第1週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第8回 学修成果の統合1(第7週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第9回 学修成果の統合2(第9週) ◇ノート PC 持参◇ 第10回 3 年秋学期のふりかえり(第15 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第7回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2023 秋ベンチマーク」 「2023 年度春・夏学期結果」 「2023 年度秋・冬学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第11回 リフレクションガイダンス(3 月末リフレクション・デイ) 第12回 リフレクションワーク(第1週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第13回 企業等の業績評価(第7週) ◇ノート PC 持参◇ 第14回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える。(第8週) ◇ノート PC 持参◇ 第15回 4 年春学期のふりかえり(第15 週) ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経験を	【第12回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ ラーニング・ルートマップを確認・修正し、WebClass に登録。
(次年度予定) 4 年秋学期 (9 月末リフ	第16回 リフレクションガイダンス(9 月末リフレクション・デイ) 第17回 リフレクションワーク(第1週目) ◇ノート PC 持参◇	【第17回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-Y01	2.科目名	評価と実践Ⅱ（心理_2023 生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸、有吉美恵、板山昂、大松光寿、川脇康生、田中亜裕子、寺村堅志、松井幸太、山本喜晴					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーション力」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著）、ローラ・H. サルガニク（著）、立田 慶裕（監訳）『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのショーケース 「KUISs 学びのショーケース」を更					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること）					

	?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の () 内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフレクション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1 (第 7 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり (第 15 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践 (第 7 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える (第 8 週) ◇ノート	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-Y02	2.科目名	評価と実践Ⅱ (G コミ_2023 生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	實川眞理子、片山真理、清水拓野					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、学生一人ひとりの自己評価能力を向上させ、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。具体的には、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、さまざまな評価方法や社会で求められている能力観に関する概念について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 評価や能力観に関する概念、評価方法を理解する。 2. 大学及び各学科の教育目標の理解を深める。 3. 教育目標にかかげる力・資質、及び教養等の修得に関する自己評価能力を高める。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	スペンサー ジョンソン (著), 門田 美鈴 (翻訳) 『チーズはどこへ消えた?』 扶桑社 2000 年 ※みなさんは、この本の登場者のうち、誰に最も近いでしょうか？ 自分を見つめなおすきっかけになりますので、ぜひ読んでみてください。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、以下の通りです。 (認定科目のため成績評価は行いません) ○全学共通で指定する要件 ① e ポートフォリオの成長確認シートを入力する。 「2020 年度春・夏学期」「2020 年度秋・冬学期」「2021 年度春・夏学期」「2021 年度秋・冬学期」 ② e ポートフォリオのベンチマークのチェック登録を行う。 「2020 秋リフレクション」「2021 春リフレクション」「2021 秋リフレクション」 ※認定要件を追加することがあります。 ○その他、学科で指定する要件がある場合は別途指定しま					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2021 年度春学期	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外に、3 年生ゼミ、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。掲示、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認し			☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。また、単位要件となるベンチマークチェックと成長確認シートの入力 は左の「授業内容」欄に記載します。 ☆この授業では e ポートフォリオを使用します。e ポートフォリオに、学びの経験を言葉に		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-Y03	2.科目名	評価と実践Ⅱ（観光_2023 生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	安藤正裕、小林弘二					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年（この科目は 2 年間）	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現（記述とプレゼンテーション）することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン（著），ローラ・H. サルガニク（著），立田 慶裕（監訳）『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構（OECD）が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。（この科目は単位認定科目です） ・WebClass 学習と振り返りの記録の「KUISs 学びのショーケース」「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック ④KUISs 学びのショーケース 「KUISs 学びのショーケース」を更					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間（1 年～2 年）の単位認定科目です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限					

	成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
3 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、アドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の () 内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第 1 回 リフレクションガイダンス(リフレクション・デイ) 第 2 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。 【第 2 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第 6 回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第 7 回 リフレクションワーク (第 1 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第 8 回 学修成果の統合 1 (第 7 週) ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第 9 回 学修成果の統合 2 (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 10 回 3 年秋学期のふりかえり (第 15 週目) ◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第 7 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 「学習と振り返りの記録」に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第 11 回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第 12 回 リフレクションワーク (第 1 週) ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第 13 回 社会における評価と実践 (第 7 週) ◇ノート PC 持参◇ 第 14 回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える (第 8 週) ◇ノート PC 持参◇	【第 12 回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ASM301-Y04	2.科目名	評価と実践Ⅱ (社会_2023 生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	南畑淳史、岡本久、中島康二、山本晃輔					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～2026 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	在籍学科・専攻			9.履修学年	3 年～4 年 (この科目は 2 年間)	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業は、学生一人ひとりの自己点検能力を向上させ、自律的に学習ができるようになる力を涵養し、日々の学習生活を充実させていくことを目的にしています。 【概要】 本授業では、大学及び各学科の教育目標に掲げる力・資質について理解を深め、大学での学修や学外プログラム、課外活動によって知識や技術、資質を修得・涵養し、定期的なふりかえりを通して点検を行い、次の目標や活動予定を設定するという PDCA サイクルにもとづく自己評価能力を高めていきます。また、日本の社会や世界で使われている能力観や評価制度に関する概念					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の「自律性」「コミュニケーションスキル」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 1. 自分の学習状況を本学の教育目標に掲げる力・資質と関連づけて自己評価することができる 2. PDCA に基づいて自分の現状と「出口」までの工程を自己点検することができる 3. エビデンスに基づいた自己アピールを表現 (記述とプレゼンテーション) することができる					
19.教科書・教材	授業中に配付します。					
20.参考文献	ドミニク・S. ライチェン (著), ローラ・H. サルガニク (著), 立田 慶裕 (監訳)『キー・コンピテンシー』明石書店 2006 年 ※キー・コンピテンシーは経済協力開発機構 (OECD) が提唱する社会で活躍するために必要な能力です。世界でどのような能力が必要とされているか、確認してみましょう。					
21.成績評価	この科目の単位認定条件は、次の通りです。(この科目は単位認定科目です) ・WebClass 学習と振り返りの記録の「ベンチマーク・成長確認シート」の以下の入力状況 ①目標 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「目標」 ②結果 2 年間の履修期間における「春・夏学期」及び「秋・冬学期」の「結果」 ③ベンチマークのチェック 2 年間の履修期間における春及び秋の「ベンチマーク」のチェック					
22.コメント	評価と実践Ⅱは 2 年間 (1 年～2 年) の単位認定科目です。					
23.オフィスアワー	質問、問い合わせ等は各アドバイザーにしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
3 年春学期 (3 月末リフレクション・ デイ含む)	※この科目は、時間割上、ウィークリーアワーの時間帯に行います。この時間帯では、「評価と実践Ⅱ」以外に、調査・テスト、面談、説明会、学科行事などが開催されます。Webclass、ユニバーサルパスポート、ア			☆この授業には、各自のノート PC を持参してください。 ☆下記の宿題に加え、授業時間外の学習は授業中に指示します。		

	ドバイザーからの連絡に注意してください。 ※この欄の（ ）内の週は目安です。日程表で確認してください。 ※秋学期以降も同様です。 第1回 リフレクションガイダンス(リフレクション・デイ) 第2回 リフレクションワーク（第1週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期	【第2回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 春ベンチマーク」 「2023 年度秋・冬学期結果」 「2024 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。 ☆ KUISs 学びのショーケースに取り上げる記事やベンチマーク項目を決めておきましょう。
3 年秋学期 (9 月末リフレクション・デイ含む)	第6回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第7回 リフレクションワーク（第1週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学期のふりかえりと秋・冬学期の目標設定を行います。 第8回 学修成果の統合1（第7週） ◇ノート PC 持参◇ ・ベンチマーク・成長確認シートの登録を確認する 第9回 学修成果の統合2（第8週） ◇ノート PC 持参◇ 第10回 3 年秋学期のふりかえり（第15 週目） ◇ノート PC 持参◇ ・秋学期の学びと経験を整理する ・冬学期の計画	【第7回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 「学習と振り返りの記録」 に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2024 秋ベンチマーク」 「2024 年度春・夏学期結果」 「2024 年度秋・冬学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年春学期 (3 月末リフレクション・デイ含む)	第11回 リフレクションガイダンス (3 月末リフレクション・デイ) 第12回 リフレクションワーク（第1週） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて昨年度秋・冬学期のふりかえりと今年度春・夏学期の目標設定を行います。 第13回 社会における評価と実践（第7週） ◇ノート PC 持参◇ 第14回 SDGs に掲げられている課題に対して世界市民として何ができるかを考える（第8週） ◇ノート PC 持参◇ 第15回 4 年春学期のふりかえり（第15 週） ◇ノート PC 持参◇ ・春学期の学びや経	【第12回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート 「2025 春ベンチマーク」 「2024 年度秋・冬学期結果」 「2025 年度春・夏学期目標」 ☆ e ポートフォリオのラーニング・ルートマップを確認・修正。
(次年度予定) 4 年秋学期 (9 月末リフレクション・	第16回 リフレクションガイダンス (9 月末リフレクション・デイ) 第17回 リフレクションワーク（第1週目） ◇ノート PC 持参◇ ・リフレクション・ワークシートを用いて春・夏学	【第17回 宿題】 ☆ アドバイザーとのリフレクション面談の後、WebClass 学習と振り返りの記録に以下を登録。 ・ベンチマーク・成長確認シート

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	BRI201-Y01	2.科目名	セレモニー産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	専攻必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	セレモニー産業(冠婚葬祭業)の歴史的経緯を踏まえつつ、文化人類学、民俗学、宗教学などさまざまな学問門における研究成果も取り入れて、全体的に外観できるように修得することを目的とする。 従来、冠婚葬祭は個人・家族・地域のイベントとして催されてきた。近年の日本社会においては、冠婚葬祭の社会的意義の変化とともに、サービス産業としてのセレモニー産業が活性化している。 この授業では、日本社会における冠婚葬祭の社会的意義について明らかにしていくとともに、現在のセレモニー産業の成立の背景および今後の展開等について考察					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○セレモニー産業の基礎知識を理解できる。 ○セレモニービジネス業界の歴史・現状を理解できる。 ○セレモニー業界の歴史時間軸の核心と現状の全体を横断的、縦断的にイメージできる。					
19.教科書・教材	徳江順一郎・二村祐輔・広重紫『セレモニー・イベント学への招待 儀礼・儀式とまつり・イベントなど』晃洋書房、2019年					
20.参考文献	教科書各章の後に掲載					
21.成績評価	授業ワークシート①～⑨ 5%×9回計45% 中間レポート（又はグループワーク成果報告） 25% 最終レポート 30% ① 生成AI利用に関して、■条件付きで認めます。AI生成された内容のコピーは認められません。 ② 成績評価に関わる課題・レポートについて、AI生成を利用する内容は、提出物の分量の50%以下であること、且つ自らパラフレーズ、編集を加えていることを条件とします。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日3限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	セレモニーとイベントの概略			授業ワークシート①		
	宗教とセレモニー			授業ワークシート②		
	世界のセレモニーとイベント			授業ワークシート③		
	日本の公的なセレモニーとイベント			授業ワークシート④		
	日本の私的なセレモニー			授業ワークシート⑤		
	振り返りワーク①			中間まとめ、 又はグループワーク		
	振り返りワーク②			中間まとめ、 又はグループワーク		

	ブライダルにおけるセレモニー①	授業ワークシート⑥
	ブライダルにおけるセレモニー②	ワークシートの修正
	フューネラルとセレモニー①	授業ワークシート⑦
	フューネラルとセレモニー②	ワークシートの修正
	メモリアルとセレモニー①	授業ワークシート⑧
	メモリアルとセレモニー②	ワークシートの修正
	これからのセレモニーとイベント	授業ワークシート⑨
	振り返りとまとめ	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	BRI203-A01	2.科目名	ビューティビジネス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	美容分野における実務 経験のある教員による 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の目的 9 兆円と推定されるビューティビジネスの市場規模（ビューティサロンビジネス、コスメティックビジネス、ブライダルビジネス）における美容業界について理解するとともに、その 1/3 を占める、ヘア・メイク・ネイル・エステ等のビューティビジネスについてサロン経営の視点から解明する。 授業の概要 ビューティビジネスの視点からビューティの各分野における専門的なビジネス内容及び技術者評価指標としての各種免許制度・検定制度、および人材育成について理解する。 また、日本以外のビューティビジネス事情を知ること					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の?専門知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①「ビューティビジネス」とは何か？ビューティビジネスの業種別市場規模とその内容を理解すること。 ②ビューティサロンビジネスにおけるメーカー、ディーラーの役割を理解すること。 ③さらに、サロン経営の視点からビューティサロンビジネス（ヘア・メイク・ネイル・エステ等）への理解を深め、客観的な判断ができるようにする。 ④トータルビューティーとしてのブライダルビジネスについても基礎知識を理解すること。 ⑤グループワークや発表を通してプレゼンテーション力を向上させる。					
19.教科書・教材	各回ごとに資料配布					
20.参考文献	「ビューティビジネス」ジェフリー・ジョーンズ著 中央経済社 「サロンマネジメントーサービス業の成功心理学ー」マーク・ディフォーレ著 同友館 「成功するビューティサロン経営」ティザック・エドワード著 同友館 四季報 月刊誌「国際商業」					
21.成績評価	・ビューティ業界についての理解度確認のレポート ①④⑤⑦ ⑦25% (①10 点、④⑤⑦5 点) ・グループワーク発表：発表及びレポート ②③⑥ 25% (②5 点、③⑥10 点、) ・最終課題：50%					
22.コメント	美容業界に興味のある方、メイクやネイル、エステティックやコスメ、ヘアに関心のある方、美容業界で働いてみたと考えている方、ぜひ、ビューティビジネスへの扉を開いてみませんか？ 「美容」への理解が深まります。					

23.オフィスアワー		水曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1.4/14	ガイダンス ・シラバスをベースに本講義の内容、学習目標、目指す KUIS ベンチマーク、アサインメント、評価方法についての説明する。 講義内容 ・美容業界とは？ ビューティビジネスとは？ 概要説明	
2.4/21	ビューティビジネスの構成 －メーカー・ディーラーの役割－	
3. 4/28	・個人発表 －メーカー・ディーラーの役割－	レポート①
4. 5/12	ヘアサロンにおけるビューティビジネス －規模、技術内容、人材育成から経営を探る－	
5. 5/12	グループワーク・発表 ヘアサロンについて理解・探求したことをまとめて発表する	レポート②
6.5/26	ネイルサロン、まつ毛エクステサロン、エステティックサロンにおけるビューティビジネス	
7.6/2	ネイルサロン、まつ毛エクステサロン、エステティックサロンのいずれかについて理解・探求したことをまとめて発表する	レポート③
8. 6/9	化粧品（コスメテック）の歴史 －興味を持った年代のレポート作成－	
9. 6/9	コスメティックビジネス（化粧品業界）におけるビューティビジネス －巨大化とプライベート化を通してのマーケット概況－ 前回または今回いずれかのテーマを選んでレポート作成	レポート④

10. 6/30	ブライダルビジネスの基礎知識	レポート⑤
11. 6/30	・ ビューティビジネスの将来 ー ビューティビジネスと高齢化社会ー	
12. 7/7	・ 高齢化社会におけるビューティビジネスについて理解・探求したことをまとめて発表する。 ・ 最終課題発表	★高齢化社会におけるビューティビジネスについて考えをまとめる レポート⑥
13. 7/14	特別講義 特別講師による講話とデモンストレーション	レポート⑦
14. 7/14	特別講義 特別講師による講話及びデモンストレーション	最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。
15. 7/28	・ 最終課題提出（web クラス） ・ 授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS101-Y01	2.科目名	発想法		3.単位数	2									
4.授業担当教員	高根沢均														
5.授業科目の区分	専門基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期										
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生										
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし。											
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義											
16.履修制限															
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 本科目では、常識や既存の枠組みにとらわれず、新しく創造的な発想を生み出すためのマインドセットおよび発想の手法を身につけることを目的としています。 【科目の概要】 SDGs やウェルビーイングといった価値観だけでなく、少子高齢化や経済不況、さらに天災やコロナ禍などの災害も含めて、現代社会はさまざまな要素に影響されながら急速に変化し続けています。そうした社会において観光は従来の枠組みにとらわれない「新しい価値の提供」がかたてなく求められるようになってきました。この授業では、皆さん一人ひとりのモ														
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (6) 専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①新しいアイディアを生み出す発想法とロジカルシンキングの違いを説明できる。 ②個人でのアイディアの発想法を実践できる。 ③グループでのアイディアの発想法を実践できる。														
19.教科書・教材	特に指定しない。														
20.参考文献	佐宗邦威『直感と論理をつなぐ思考法』ダイヤモンド社、2019 年 加藤昌治『考具 一考えるための道具、持っていますか?』CCC メディアハウス、2003 年 木村尚義『ずるい考え方 カタイ頭がやわらかくなる発想トレーニング』あさ出版、2011 年 細谷功『アナロジー思考』東洋経済新報社、2011 年														
21.成績評価	本科目の成績評価は以下の観点で行います。 <table><tr><td>個人課題</td><td>・・・30%</td><td>【学習目標①②に対応】</td></tr><tr><td>グループ課題</td><td>・・・30%</td><td>【学習目標①③に対応】</td></tr><tr><td>最終課題</td><td>・・・40%</td><td>【学習目標①②③に対応】</td></tr></table> ※ルーブリック評価表を使用します。						個人課題	・・・30%	【学習目標①②に対応】	グループ課題	・・・30%	【学習目標①③に対応】	最終課題	・・・40%	【学習目標①②③に対応】
個人課題	・・・30%	【学習目標①②に対応】													
グループ課題	・・・30%	【学習目標①③に対応】													
最終課題	・・・40%	【学習目標①②③に対応】													
22.コメント	社会に出ると、既存の常識にとらわれない新しいアイディアが求められることがあります。しかし「新しいアイディア」とはいったいどのようにして生み出されるのでしょうか。皆さんのなかには、新しいアイディアを思いつくことが苦手だ、という人は多いのではないかと思います。この授業では、できるだけ頭をリラックスさせてください。「これはあり得ないだろう」という『線引き』を取り払うところからスタートしましょう。この授業で楽しく豊かな発想力を育ててください。 【生成 AI について】 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。														
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜 4 限（春） 学修支援センター：水曜昼休み（春）														

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め 方の確認、受講上の留意点などについて） ・個人ワーク：頭の体操 ・グループワーク：『新しいアイディア』とは？	予習：シラバスをよく読んでおくこと
第 2 回	ロジカルシンキングとラテラルシンキング ・個人&グループワーク：ラテラルシンキングを試してみよう	予習：ロジカルシンキングとラテラルシンキングについて調べてくる。
第 3 回	ビジネス現場で求められる発想力	予習：ビジネスでの独創的なアイディア事例について調べてくる。 復習：類似語連想を毎日数回実践する
第 4 回	さまざまな発想法の類型 ①類似発想法 ・個人ワーク+グループワーク	予習：類似発想法について調べてくる。 復習：前回の外部講師の講演の内容で勉強になった点を振り返る。
第 5 回	さまざまな発想法の類型 ②強制発想法 ・個人ワーク+グループワーク	予習：強制発想法について調べてくる。 復習：類似発想法を練習し、課題シートを提出する。 ・・・個人課題①
第 6 回	さまざまな発想法の類型 ③図による発想法 ・個人ワーク+グループワーク	予習：図による発想法について調べてくる。 復習：強制発想法を練習し、課題シートを提出する。・・・個人課題②
第 7 回	さまざまな発想法の類型 ④整理分析による発想法 ・個人ワーク+グループワーク	予習：整理分析による発想法について調べてくる。 復習：図による発想法を練習し、課題シートを提出する・・・個人課題③
第 8 回	個人アイディア発表と振り返り ・各自のアイディアを全体で共有します。 ・さまざまなアイディアをみて、自身の参考になることをまとめます。	課題⑤：個人アイディアコンテストのためのアイディアをまとめてくる。 復習：整理分析による発想法を練習し、課題シートを提出する・・・個人課題④
第 9 回	グループでの発想法の活用 ①発散的手法 ・グループワーク	予習：ブレインストーミングやゴードン法などの発散的手法について調べてくる。 復習：前回の個人アイディア発表について気づきをまとめる。
第 10 回	グループでの発想法の活用 ②収束的手法 ・グループワーク	予習：KJ 法やセブクロス法などの情報の整理法について調べてくる。 復習：発散的手法のグループワークでできたこと・できなかったことをまとめておく。
第 11 回	グループでの発想法の活用 ③強制的発想法 ・グループワーク	予習：はちのすノートやエクスカッションなど強制的なアイディア発想法について調べてくる。 復習：収束的な手法グループワークでできたこと・できなかったことをまとめておく。
第 12 回	最終アイディア発表に向けた準備① ・グループごとに分かれ、与えられたテーマに基づいて独創的なアイディアを構想する。	復習：これまでに学んだ発想法のポイントを振り返っておく。

第 13 回	最終アイデア発表に向けた予備発表会 ・グループごとにアイデア原案を発表 ・参加者による評価	予習：最終アイデアの仮案についてプレゼン資料をまとめてくる。 復習：授業で学んだ発想法を振り返り、練習してくる。
第 14 回	アイデア発表の準備作業② ・グループに分かれて最終発表の準備をします。	予習：最終発表のアイデアをグループで議論し、まとめてくる。 復習：発表を振り返り、ブラッシュアップのためのポイントを整理する。
第 15 回	アイデア発表と振り返り ①各グループで考えたアイデアの発表 それぞれのアイデアについて参加者全員で評価をします。 ②授業全体の振り返り	課題⑥：最終アイデアをまとめてくる。

1.授業コード (ナンバリング)	BSS201-A01	2.科目名	ビジネスコミュニケーション技法		3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、コミュニケーションの基礎から学び、実践に役立つようワークショップ形式でビジネスコミュニケーションの技を身につけます。 【概要】 ビジネスコミュニケーションとは、仕事上の思考や知識を意思伝達するもので、人間関係力の強化を目指すものです。具体的には、ビジネスマナー、コーチング、ファシリテーション等がそれにあたります。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①ビジネスマナーの基本を知り、実践できるようになる。 ②ビジネスの場面におけるコミュニケーションの必要性を知る。 ③グループワークのメリットを理解し、活用できるようになる。 ④インターンシップの心構えができるようになる。 【経営学部 DP との関連】 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、組織や集団の目的達成に貢献することができる。 (5) コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。					
19.教科書・教材	WebClass から配付する。					
20.参考文献	「特別講義 コミュニケーション学」 藤巻幸夫 実業之日本社 2010 年 ISBN:978-4-408-10830-8					
21.成績評価	ワークシート：20％、 社会人マナーまとめテスト：30％ PowerPoint によるプレゼンテーションの作成、発表、評価：20％ 総括レポートの作成：20％ WebClass「社会人マナー」での予復習時間：10％ ※トータル時間が1時間以下は評価しない。					
22.コメント	インターンシップ参加予定の学生のみなさんには履修を薦めます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日 4 限（水棹館 2 階 ALR）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4/9	・ガイダンス ・コミュニケーション力チェック			○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コース<1-1,1-2>で予習する。(60 分) →次回ビジネスマナーチェック①		
【第 2 回】 4/16	コミュニケーションとは？ (1) ・ビジネスマナーチェック①、ワークシート①			○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<1-3 から 1-5>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック②		
【第 3 回】	コミュニケーションとは？ (2)			○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コ		

4/23	・ビジネスマナーチェック②、ワークシート②	ースで予習<1-6>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック③ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 4 回】 4/30	人間関係を築く (1) ・ビジネスマナーチェック③、ワークシート③	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<2-1 から 2-3>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック④ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 5 回】 5/7	人間関係を築く (2) ・ビジネスマナーチェック④、ワークシート④	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<3-1 から 3-3>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑤ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 6 回】 5/14	人間関係を築く (3) ・ビジネスマナーチェック⑤、ワークシート⑤	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<3-4 から 3-7>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑥ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 7 回】 5/21	コラボレーションする (1) ・ビジネスマナーチェック⑥、ワークシート⑥	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<3-8、3-9>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑦ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 8 回】 5/28	コラボレーションする (2) ・ビジネスマナーチェック⑦、ワークシート⑦	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<4-1 から 4-7>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑧ ○WebClass 全学共通「正しい日本語入門」コース<第 3 章>予習 (60 分) ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 9 回】 6/4	プレゼン・交渉する (1) ・ビジネスマナーチェック⑧、ワークシート⑧	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<4-9 から 4-11>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑨ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 10 回】 6/11	プレゼン・交渉する (2) ・ビジネスマナーチェック⑨、ワークシート⑨	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<5-1>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑩ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 11 回】 6/18	プレゼン・交渉する (3) ・ビジネスマナーチェック⑩、PPT でプレゼンテーションを作成する	◆ノートパソコン持参 ○返却されたワークシートで復習する。(30 分) ○プレゼンテーション課題を作成し、発表練習する。(300 分)
【第 12 回】 6/25	プレゼン・交渉する (4) ・第 11 回で作成したプレゼンテーションをグループ内	◆ノートパソコン持参 ○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コ

	で発表する。	ースで予習<6-1>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑪ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 13 回】 7/2	教える・導く ・ビジネスマナーチェック⑪、ワークシート⑩	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<6-2>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑫ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 14 回】 7/9	感謝を伝える：お礼状の書き方 ・ビジネスマナーチェック⑫、ワークシート⑪ ・総括レポートに関する説明	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで復習する。(120 分) ○「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分) ○お礼状を完成させる。(120 分) ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 15 回】 7/16	まとめ ・ビジネスマナーチェックまとめテストの実施 ・授業アンケートの実施	○「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分)

1.授業コード (ナンバリング)	BSS201-M01	2.科目名	ビジネスコミュニケーション技法		3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、コミュニケーションの基礎から学び、実践に役立つようワークショップ形式でビジネスコミュニケーションの技を身につけます。 【概要】 ビジネスコミュニケーションとは、仕事上の思考や知識を意思伝達するもので、人間関係力の強化を目指すものです。具体的には、ビジネスマナー、コーチング、ファシリテーション等がそれにあたります。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①ビジネスマナーの基本を知り、実践できるようになる。 ②ビジネスの場面におけるコミュニケーションの必要性を知る。 ③グループワークのメリットを理解し、活用できるようになる。 ④インターンシップの心構えができるようになる。 【経営学部 DP との関連】 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、組織や集団の目的達成に貢献することができる。 (5) コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。					
19.教科書・教材	WebClass から配付する。					
20.参考文献	「特別講義 コミュニケーション学」 藤巻幸夫 実業之日本社 2010 年 ISBN:978-4-408-10830-8					
21.成績評価	ワークシート：20％、 社会人マナーまとめテスト：30％ PowerPoint によるプレゼンテーションの作成、発表、評価：20％ 総括レポートの作成：20％ WebClass「社会人マナー」での予復習時間：10％ ※トータル時間が1時間以下は評価しない。					
22.コメント	インターンシップ参加予定の学生のみなさんには履修を薦めます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日1限 センターオフィスアワー：月曜日昼休み（水棹館2階ALR）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 4/8	・ガイダンス ・コミュニケーション力チェック			○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コース<1-1,1-2>で予習する。(60分)→次回ビジネスマナーチェック①		
【第2回】 4/15	コミュニケーションとは？(1) ・ビジネスマナーチェック①、ワークシート①			○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<1-3から1-5>/復習する。(120分)→次回ビジネスマナーチェック②		
【第3回】	コミュニケーションとは？(2)			○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コ		

4/22	・ビジネスマナーチェック②、ワークシート②	ースで予習<1-6>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック③ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 4 回】 5/13	人間関係を築く (1) ・ビジネスマナーチェック③、ワークシート③	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<2-1 から 2-3>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック④ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 5 回】 5/20	人間関係を築く (2) ・ビジネスマナーチェック④、ワークシート④	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<3-1 から 3-3>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑤ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 6 回】 5/27	人間関係を築く (3) ・ビジネスマナーチェック⑤、ワークシート⑤	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<3-4 から 3-7>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑥ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 7 回】 6/3	コラボレーションする (1) ・ビジネスマナーチェック⑥、ワークシート⑥	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<3-8、3-9>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑦ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 8 回】 6/10	コラボレーションする (2) ・ビジネスマナーチェック⑦、ワークシート⑦	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<4-1 から 4-7>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑧ ○WebClass 全学共通「正しい日本語入門」コース<第 3 章>予習 (60 分) ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 9 回】 6/17	プレゼン・交渉する (1) ・ビジネスマナーチェック⑧、ワークシート⑧	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<4-9 から 4-11>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑨ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 10 回】 6/24	プレゼン・交渉する (2) ・ビジネスマナーチェック⑨、ワークシート⑨	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<5-1>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑩ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 11 回】 7/1	プレゼン・交渉する (3) ・ビジネスマナーチェック⑩、PPT でプレゼンテーションを作成する	◆ノートパソコン持参 ○返却されたワークシートで復習する。(30 分) ○プレゼンテーション課題を作成し、発表練習する。(300 分)
【第 12 回】 7/8	プレゼン・交渉する (4) ・第 11 回で作成したプレゼンテーションをグループ内	◆ノートパソコン持参 ○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コ

	で発表する。	ースで予習<6-1>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑪ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 13 回】 7/15	教える・導く ・ビジネスマナーチェック⑪、ワークシート⑩	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで予習<6-2>/復習する。(120 分) →次回ビジネスマナーチェック⑫ ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 14 回】 7/22	感謝を伝える：お礼状の書き方 ・ビジネスマナーチェック⑫、ワークシート⑪ ・総括レポートに関する説明	○WebClass 全学共通「社会人マナー入門」コースで復習する。(120 分) ○「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分) ○お礼状を完成させる。(120 分) ○返却されたワークシートで復習する。(30 分)
【第 15 回】 7/29	まとめ ・ビジネスマナーチェックまとめテストの実施 ・授業アンケートの実施	○「総括レポート」を作成して、WebClass に提出する。(300 分)

1.授業コード (ナンバリング)	BSS203-Y01	2.科目名	ビジネスプレゼンテーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	グループワーク・講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目はビジネスにおける基本的なプレゼンテーション能力を修得することを目的とする。 【概要】 ●プレゼンテーションの基本を学び、構造・話し方・ビジュアル・巻き込みスキルをアップし、視覚・聴覚・言語情報からのアピールを工夫して、相手を動かすプレゼンテーションをめざす。 ●プレゼン内容をつくることと、その場をハンドリングすることの2方向の充実をはかる。 ●大勢の前でのプレゼンテーションだけでなく、会議場面など、少人数に対してのアサーティブコミュニケーションや商品説明などの営業場面もふくめ、あらゆる					
18.学習目標と DPとの関連	【関連する DP】 本科目の学習目標は、（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。 【学習目標と関連する DP】 ①プレゼンターションの対象者の研究と考察を学ぶ→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ②プレゼンテーションのコンテンツについての論理的構築手法を獲得する→（１）自律性、（４）問題発見・解決力 ③提案の論拠や課題の検証を行えるようになる→（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル ④説得力のあるプレゼンテーションを実施するとともに、聴取者からの質疑への的確な対応力を身に付ける→（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	●教材として「全員転職時代のポータブルスキル大全」 株式会社 KADOKAWA を使用します。 ●その他、必要な教材は Webclass で共有します。					
20.参考文献	●千葉大学 「大学生のためのプレゼンテーション基礎」 https://www.gshpa.chiba-u.jp/content/files/textbook/textbook_presentation2017.pdf ●立教大学 「プレゼンテーションとは」 https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf ●「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生					
21.成績評価	1. 講義レポート・及び発表（20％） 2. ワークへの参加態度・発表内容（20％） 3. 授業内プレゼンテーション（30％） 4. 最終課題（30％） ※それぞれの内容については、授業内で説明します。					
22.コメント	情報収集・ワーク・資料作成に使用するので毎回 PC を持参すること					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1・2回	1. オリエンテーション 2. 自己紹介 3. 声の表現力を上げる「はぁ?というゲーム」	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第3・4回	1. 話すことを楽しむ「つつこみかるた」 2. プレゼンテーションの基本 「PREP 法」「SDS 法」 3. 「PREP 法」「SDS 法」の実習	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第5・6回	1. 2種類のプレゼン「報告型プレゼン」「説得型プレゼン」 2. 目的を手放さない 3. オーディエンスは誰か 1.2.3の実習	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第7・8回	1. プレゼンの3要素「誰が」「何を」「どう話す」 2. プレゼンのゴールを明確にする 3. 相手中心に考えるポイント6つ 1.2.3の実習	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第9・10回	1. 左脳と右脳に訴えかけるプレゼン 左脳で理解し、右脳で共感を得る 2. 1週目から4週目までの学習ポイントを押さえて テーマ(仮)「自分が良いと思って勧めたいコトやモノを、 クラスのメンバーにプレゼンする」 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・ 「ポータブルスキル大全」第1章より、1つ選択して説明できるように準備しておく
第11・12回	1. 説明のスキル 構造的に説明するために 2. 「報告型(説明型)プレゼン」の実習① 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・ 「ポータブルスキル大全」第2章より、1つ選択して説明できるように準備しておく
第13・14回	1. プレゼン資料の作り方 パワーポイントを使って、ロジカルな資料を作成する 2. 「報告型(説明型)プレゼンの実習② 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第15・16回	1. 論理思考力と、仮説検証力 提案内容を筋道立てて構成していくための技術と、 相手の疑問を打ち消していく技術 2. 「報告型(説明型)プレゼン③ 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第17・18回	● 6週目～8週目の復習と 学びを生かした「説得型」プレゼンテーション	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する

	「プレゼンテーションを成功させるために」(仮) 発表&フィードバック	
第 19・20 回	1. 「報告型(説明型)プレゼン」④ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表&フィードバック 2. 「話題提供型プレゼンテーション」 ・最新のニュースより ・自分の考えをまとめて話す	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 21・22 回	1. 「報告型プレゼンテーション」⑤ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表&フィードバック 2. プレゼンテーションをリファインする リファインしたプレゼンを再発表	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 23・24 回	1. 「報告型プレゼンテーション」⑥ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表&フィードバック 2. 同じテーマで、事例を考え合う 発表&フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 25・26 回	● 最終課題(仮) ポータブルスキルのフレームを使ったプレゼンテーション メッセージを決める 内容と構成を考える チャート化する プレゼン資料を作成する	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 27・28 回	●最終課題の仮発表 ・発表&フィードバック ・リファインのモミ会 ・チャートと内容の見直し ・修正していく	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・最終発表の準備
第 29・30 回	●最終課題プレゼンテーション ・発表&フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する

1.授業コード (ナンバリング)	BSS206-Y01	2.科目名	ビジネスモデル・デザイン		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスモデルとは何か？その意味を理解し、フレームワークを活用してビジネスモデルを読み解き、改善し、新たに構築する力を身に付けます 概要：ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支」によって語られます。それぞれの要素について、皆さんの身近なビジネス・サービス・商品の実例を用いながら、グループワークなどの演習を交えて具体的に理解を深めます。また、世の中の主なビジネスモデルについて、その内容を具体例を交えて解説していきます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。ビジネスモデルに関して、新規ビジネスの構築・運営や、既存ビジネスの分析・改善に広く活用できる汎用的なフレームワークを習得し、さまざまな場面で活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 13 点（各回 1 点×8 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点（各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：ビジネスモデルとは ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支計画」によって語られます。（もっと細かい要素に分けたり、違う切り口で分析されることもあります） 皆さんは、Youtube を見たことがありますよね？例えば Youtube のビジネスモデルを例にとって、ビジネスモデルとはどのようなものかを体感します。			予習：Youtube の収益源は何かを調べて書き出してくる。 授業のまとめシート：提出 復習：Youtube のコンセプトが他にないか考えてみる。		

第 2 回	講義：コンセプトとは ビジネスモデルの基本的な構成要素を一つ一つ理解していきます。まずは「コンセプト」について解説します。 グループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、そのコンセプトを読み解いていただきます。	予習：「コンセプトとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 3 回	グループワーク：コンセプトを読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：コンセプトを読み解こう 講義：コンセプトの具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なコンセプトの例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義：戦略とは もっとも重要な要素である「戦略」について、解説します。 2 回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その事業戦略を読み解いていただきます。	予習：「戦略とは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 6 回	グループワーク：事業戦略を読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 7 回	プレゼンテーション：事業戦略を読み解こう 講義：戦略の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な戦略の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 8 回	講義：スキームとは ビジネスモデルの構成要素の一つである「スキーム」について、解説します。 3 回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その売上を増やすための戦略を構築していただきます。	予習：「ビジネススキームとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：売上を増やそう 前半 事業環境分析から、ターゲットの設定、届ける価値の仮説まで。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 10 回	グループワーク：売上を増やそう 後半 売上を増やすための具体的手法の検討。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	講義：プラットフォームビジネス 長年プラットフォームビジネスに携わって来た方か	予習：プラットフォームビジネスについて、調べて書き出してくる

	ら、ビジネスモデルの現場と実践についてお話いただきます。	授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：売上を増やそう 後半 講義： 収支計画の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な収支計画の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義： ビジネスモデルデザイン まとめ ビジネスモデルとは何かを振り返り、世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なビジネスモデルの例を紹介し、理解を深めます。	予習：ビジネスモデルとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	BSS304-A01	2.科目名	ビジネスプロモーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	展開科目 マーケティング分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	[目的] 本講義では、マーケティングの基礎理論をベースに、MM（マーケティングミックス）という戦術の核となる「4P」、その中の「Promotion」に照準をあてたマーケティング技術を学ぶ。特にインターネットにより高度化した SNS など情報発信手法や交通広告やビルボード、デジタルサイネージなど SP メディア、また販売促進策の核となるイベントづくりや運営について深く学んでいく。 [概要] 本講義では、ビジネスプロモーションの理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①ビジネスプロモーションの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる＝知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる＝情報収集/分析力 ③マーケティング「4P」技術をプランニングの為のツールとして活用し、企業価値を高める企画の構築ができる技術を獲得する＝思考/構想[関連するディプロマポリシー] （１）自立性 （２）社会的貢献 （４）問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しない 授業資料を作成し都度公開する					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「グループワークの発表」:20 点 (4)総括試験「ビジネスプロモーションの概念を理解していること、それを用いた事例の分析」:40 点 (5)e-ポートフォリオ「インターネットマーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点					
22.コメント	ビジネスプロモーションはスマホの登場以降画期的な進化を続けている。身近なスマホから得られる生活者や街・お店、また、様々な製品やサービスなど情報はビジネスプロモーションの基本となるものである。スマホでの検索から始まる日常、その暮らし方にはビジネスプロモーションのヒントが一杯です。そんな暮らし方に興味を持ち受講することを期待しています。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	センターアワー：月曜日 1 限					

研究室オフィスアワー：月曜日 2 限		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回 ○オリエンテーション ・ 講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○ビジネスプロモーションとは何か	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 2 回	第 2 回 ○ビジネスプロモーションの基礎知識 1 ・ そもそもマーケティングとは、マーケティングの基礎知識 ・ マーケティングプロセスにおける「MM」(マーケティングミックス) ・ 「MM」における「4P」と「Promotion」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回	第 3 回 ○ビジネスプロモーションの基礎知識 2 ・ ビジネスプロモーションのカタチの色々 「コミュニケーションデザイン」 「SP メディア」 「イベント」 など	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 4 回	第 4 回 ○今、注目のビジネスプロモーション事例研究 ・ 注目のビジネスプロモーションを見つける、探す 「コミュニケーション」：SNS、交通広告、TV 「街」 「店舗」 「イベント」 など	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回	第 5 回 ○今、注目のビジネスプロモーション事例研究 ・ 注目のビジネスプロモーションの構造を考察する 「コンセプト」と目的、目指すべき成果 「ターゲット」とメリット 「メディアミックス」 「展開拠点」 など	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 6 回	第 6 回 ○今、注目のビジネスプロモーション事例研究 ・ ビジネスプロモーションを成功に導く要因の分析 「企画立案視点」について	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回	第 7 回 ○ビジネスプロモーションを自身で企画する、組み立てる① * グループワーク ・ 業界、企業、テーマ、領域を決める	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] グループワーク
第 8 回	第 8 回	[予習]

	○ビジネスプロモーションを自身で企画する、組み立てる② ＊グループワーク ・具体的な企画を行う	事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] グループワーク
第 9 回	第 9 回 ○ビジネスプロモーションを自身で企画する、組み立てる③ ＊グループワーク ・具体的な企画を行う	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] グループワーク
第 10 回	第 10 回 ○グループワーク「ビジネスプロモーションを企画する」を発表 ＊中間レポートとして評価する	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] グループワーク
第 11 回	第 10 回 ○グループワーク「ビジネスプロモーションを企画する」を評価する ・ビジネスプロモーションの総括に繋げる	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○ビジネスプロモーションを総括する①	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回	第 13 回 ○ビジネスプロモーションを総括する②	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 14 回 ○総括試験	[予習] 総括試験の準備 [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○授業の振り返り ＊総括試験の振り返りも行う	[復習] 授業、総括試験を振り返る

1.授業コード (ナンバリング)		BSS306-Y51	2.科目名		ベンチャービジネス論		3.単位数	2
4.授業担当教員		宗田好史						
5.授業科目の区分		専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期		
8.履修可能な専攻		観光学科、他				9.履修学年	3 年以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件				
12.研究室		※※※	13.電話番号	※※※				
14.E-Mail Address		※※※	15.授業形態	講義				
16.履修制限		特にありません						
17.授業の目的と概要		【目的】 この講義ではベンチャービジネス界の現状を理解し、課題に対してどのように取り組むべきかを考える力を養うことが目的です。 【概要】 ベンチャービジネスの発展には、独創性と冒険性に富んだ企業家または起業家が必要です。そのため、ベンチャービジネスの構想づくりや経営に必要な実践的な知識・技能を修得するための方法について学びます。 具体的には、地域社会の課題解決を行うために重要とされる起業や社会的起業について学び、考えることを通じて、地域の活性化の中心となる人材を育てます。 15 回の中で、講義と実習を繰り返し						
18.学習目標と DPとの関連		・ 起業や資金調達の基本的な仕組みを説明することが出来る。（知識） ・ 事業価値評価の基礎を学びどのように事業を評価すべきか説明することが出来る（知識） ・ ビジネスプランについての評価や作成をすることが出来る。（技能） ・ 起業のリスクと起業することの意義を理解し起業を、企業のもつ意味を感じることが出来る。（態度・習慣）						
19.教科書・教材		特定のテキストは指定しないが適宜文献を紹介する						
20.参考文献		20.参考文献 講義資料として、ウェブクラスに資料をアップするので各自印刷して授業に持参して下さい						
21.成績評価		・ 基準 期末試験による知識の習得度合いと理解度を評価する。また、期末試験における評価基準として、文章のわかりやすさ論理一貫性もその評価基準とする。 ・ 方法 定期試験において講義で紹介した概念並びに概念間のつながりを理解できるかによって評価する。また場合によりレポート等を課すばあいがある。						
22.コメント		夏学期の Zoon 1 で集中講義 15 回分を聞いてもらいます。 春学期中に、夏学期の時間割が示されますので、注意してください。 また、宗田にメールなどで問い合わせしてください。日程をお知らせします。						
23.オフィスアワー		木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)			
第 1 回	イントロダクション ベンチャー企業とは何かを知り、実際に活躍している様子を調べる				ベンチャー（スタートアップ）企業を調べてみよう ベンチャー企業は、どのように生まれたのか？授業で紹介したいいくつかのベンチャー企業は、最初は、いつ、どこで、どう生まれたかを調べなさい。一つは日本の企業から選び、もう一つは GAFA など海外の企業を選びなさい。日本のベンチャーは、古いものでもよし、新しいものでも可とする。それぞれ、1,200 字程度にまとめなさい。			

第 2 回	なぜベンチャーが必要なのか？ 社会的企業について学び、実際の社会課題を整理し、今創出できるビジネスの形を考える。	シリコンバレーについて調べてみよう 授業では、ホンダやスズキ、ヤマハの生まれた浜松市を紹介しましたが、シリコンバレーとの共通点は何でしょう。 世界に似たような場所がありますか？中国、ベトナムのシリコンバレーはありますか？ 日本では浜松市の他、半導体産業などが盛んな町はありますか？
第 3 回	イノベーションと経営組織 日本の製造業ではイノベーションが継続的に起こり、その歴史が日本の工業技術の体系でもある。では、サービス産業ではどのようなイノベーションがあったかを調べる。	
第 4 回	イノベーションの諸類型 イノベーションの体系的把握を活かし、さらに類型に入る事例を収集、自分なりのベンチャー企業マップを作成する	
第 5 回	イノベーションのジレンマ イノベーションは常に追い越される。また、普及すれば発明利益は薄まる。当然、製造コストは下がり、場合によってはその産業分野が消えることもある。こうしたイノベーションの限界を見つけ検討する。	
第 6 回	イノベーションのプロセスモデル イノベーションのステップモデルを知り、実際に応用してみる。社会起業のための設計を考える。	
第 7 回	ビジネスエコシステム 産官学にわたる多様な組織が一体となって、新しい技術やイノベーションを生み出すサイクルをエコシステムとして取り上げ、神戸市と本学が進める産学プラットフォームを事例に、起業の可能性を考える	
第 8 回	スタートアップにおける大学の役割 上記、神戸市産官学プラットフォームの成功事例を学ぶため、用意された訪問先を、各自に訪ねてインタビューし、エコシステムを描き出す	
第 9 回	ベンチャーと資金調達 政策金融の体系を理解し、資金計画のエスキースをまとめる	
第 10 回	ビジネスモデルと企業価値評価 ビジネスモデルの中でも、プロダクト革新を取り上げ、革新によって企業価値がどう上がったかの事例を整理する	
第 11 回	ビジネスプランとその評価 イノベーションを軸に、ビジネスプランを描き出す練習を続ける。グループでプランを相互に批判し、より練れた内容にする	
第 12 回	ベンチャーのスタープレイヤー：ベンチャービジネス（スタートアップ）はよく知られたシリコンバレー生	

	れの GAFA の成長がモデル。その歴史を振り返り、そのエコシステムを見ていく。	
第 13 回	制度的企業家と技術の社会的構成：授業の最後に、理論としてのベンチャー研究を知り、より専門的に理解するために古典的企業家論を紹介する。参考文献をもとにベンチャー企業論、既往研究の数々を体系的に把握する。卒業研究に備えた研究背景を学ぶ	
第 14 回	日本におけるベンチャー政策と失敗の歴史 1980 年代に始まる日本のベンチャー企業の歴史を探り、経済産業省のベンチャー政策、横浜市など自治体の政策を紹介し、その成否を考える。	
第 15 回	まとめとテスト 簡単な到達テストを行い、最終レポートの内容を指示する。	

1.授業コード (ナンバリング)	CB0155-Y01	2.科目名	法学	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習	
16.履修制限	特に設けないが、日本国憲法を既に履修したか、または同時並行的に履修していることが望ましい。				
17.授業の目的と概要	本科目は、日本国憲法で履修する基本的人権の知識を基礎に、我々が日常生活を送るうえで直面する様々な場面（誕生～就労～死亡）において、必要とされる法律知識とその根拠となる権利・自由について理解を深め、将来その知識を活用できるようにすることを目的としている。 具体的な一例をあげると、就職して退職するまで一労働者として勤務するが、労働者は雇用される立場にあるので、どうしても立場が弱くなりがちである。そこで、労働者の立場を守る様々な法律が制定され、労働者が不当な目に遭わないよう、法的な保護がなされている。それを踏				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①様々な生活場面における法律問題を理解し、法律的に適切な対処ができるようになる。 ②法律の条文に慣れ親しみ、条文の意味内容を理解できるようにする。 ③他者に対する人権や自由を尊重できるようにする。				
19.教科書・教材	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子 『ライフステージと法 第8版』 有斐閣アルマ				
20.参考文献	講義資料等は、WebClass を通じて配布する。				
21.成績評価	成績評価については、以下の全ての評価対象を実施した上で、合計が 60%以上の場合に、合格とする。 ① 小テスト（2 回） 50%（各 25%の2 回分で最大）・・・学習目標①に対応 ② 総括試験 50%（最大）・・・学修目標②と③に対応 ※ 2 回分の小テストは、5 回目と 10 回目の講義時間を使い、WebClass で実施するので（15 分程度）、少なくとも当日はパソコンを必携することを求める。 ※ ※ 出席点および平常点の評価は一				
22.コメント	①法律は独特の用語が目立ち、難解と思えそうだが、条文を読むことに慣れてしまうと苦にならない。講義を通じて、基本的な考えを理解することは大切であるが、分からないことがあれば積極的に質問してほしい。 ②生成 AI の利用を一切認めない。したがって、WebClass を利用した 2 回の小テスト、期末に実施する総括試験は、自力で受験するものとする。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能で問い合わせも可。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション（シラバス内容についての補足説明、受講上の注意点、講義の進め方など） （講義）本格的な講義を始める前に、講義の理解をスムーズにするために必要とされる法律概念や予備知識を説明する。			（予習） テキスト i - vi ページ（プレリユード）を読むしておくこと。 （復習） 講義ノートの整理	

第 2 回	（講義）テキスト stage1「社会人へのパスポート」をテーマに、年齢と法律との関係を見つつ、どのような場面で年齢が法律と関わってくるのかを理解する。また、法律によって個人に与えられた権利をどこで主張できるのか、誰によって守ってもらえるのかも講義する。テキスト 2-11 ページ該当 （講義前演習）年齢と法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 2-11 ページを読んで、法律が年齢によって異なる扱いをするのはなぜかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 3 回	（講義）テキスト stage2「働く自由・女であることの自由」をテーマに、男女平等の時代にあっても、女性が見えないガラス張りの雇用環境によって劣遇されている現実を裁判例から見ていく。それを踏まえて、女性を法的に救済する立法にどのようなものがあるのかを講義する。ひいては、女性差別解消の方策と一緒に考えていきたい。テキスト 14-40 ページ該当 （講義前演習）女性差別を解消する法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 14-40 ページを読んで、女性が差別される背景がどこにあるのか、また立法上の対応にどのようなものがあるかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）テキスト stage3「働きかたいろいろ」をテーマに、勤労の自己決定、非正規労働者の法律的保護とその限界を講義する。テキスト 42-68 ページ該当 （講義前演習）労働法に関する確認テスト	（予習） テキスト 42-68 ページを読んで、労働者が法律的にどのような保護を受けているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、消費者保護立法の基本的知識を習得する。そして、消費者はなぜ弱い立場に立たされるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）契約など民法の基本的知識に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト（1 回目）の実施 ※	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、消費者保護が求められる場面と法律的対応との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理 ※生成 AI による小テストの受験は許可しない。※
第 6 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、損害賠償制度について講義する。契約違反や法律上の権利や利益を侵害された場合に、どのように損害を賠償させるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）損害賠償制度に関する確認テスト	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、損害賠償制度について理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）テキスト stage5「恋愛のルール」をテーマに、恋人間で成立する法律问题、特に性的暴力、婚約、不倫など一般的なトピックを題材に、どのような法律的责任が発生するのかを説明していきたい。テキスト 114-135 ページ該当 （講義前演習）男女間に適用される法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 114-135 ページを読んで、恋人間で適用される法律にどのようなものがあるか理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）テキスト stage6「結婚の夢と現実」をテーマに、結婚に関する法律を講義する。特に法律婚と事実婚の法律的な違い、夫婦別姓、相続など一般的なトピックを題材に、成立要件や効果を説明する予定である。テキスト 138-159 ページ該当	（予習） テキスト 138-159 ページを読んで、婚姻が成立するための条件や婚姻後夫婦にどのような権利義務が発生するのか確認する。 （復習）

	(講義前演習) 婚姻など夫婦間に適用される法律に関する確認テスト	講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 第 8 回までで講義できないトピック、特にテキストに言及されている Column のうち、幾つかを取り上げて、余録的なアプローチから「法律の別の顔」を講義する。	(予習) 第 1 回から第 8 回までの講義内容を整理し、中間確認テストに備える。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) テキスト stage7「子どもを産む・産まない」をテーマに、出産に関する自己決定(堕胎を含む。)、代理出産、生殖医療と法律・倫理について説明する。 テキスト 162-181 ページ該当 (講義前演習) 出産や子供の権利についての確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(2 回目)の実施 ※	(予習) テキスト 162-181 ページを読んで、女性の自己決定を中心に出産の自由について理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI による小テストの受験は許可しない。※
第 11 回	(講義) テキスト stage8「子どもと親のピミョーな関係」をテーマに、法律的な親子関係、特に親権や養育・監護権、虐待など親子間で起こりうる法律的な問題について講義する。テキスト 184-210 ページ該当 (講義前演習) 親子関係の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 184-210 ページを読んで、親子関係に関する法律について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) テキスト stage9「ふたたびの出発」をテーマに、離婚にまつわる法律について講義する。特に、離婚の成立要件、離婚の効果などを中心に扱うことにする。テキスト 212-230 ページ該当 (講義前演習) 離婚の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 212-230 ページを読んで、どのような場合に離婚が成立し、離婚成立後の元夫婦間の法律関係について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	テキスト stage10「親の介護はだれが？」をテーマに、介護保険を軸とした法律問題について講義する。テキスト 232-251 ページ該当 (講義前演習) 介護保険に関する確認テスト	(予習) テキスト 232-251 ページを読んで、介護保険制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 14 回	(講義) テキスト stage11「親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら」をテーマに、法的な死亡の定義、遺言と相続、生存親族の義務などについて講義する。テキスト 254-273 ページ該当 (講義前演習) 相続に関する確認テスト	(予習) テキスト 254-273 ページを読んで、相続制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI による総括試験の受験は許可しない。※

1.授業コード (ナンバリング)	CB0161-Y01	2.科目名	統計学		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート 25 点 [学習目標①に対応] ・計算課題 30 点 [学習目標②に対応] ・小テスト 45 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算			復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 3 回】	確率分布			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード (ナンバリング)	CB0161-Y02	2.科目名	統計学【現社観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート 25 点 [学習目標①に対応] ・計算課題 30 点 [学習目標②に対応] ・小テスト 45 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週火曜日 4 限目：個人研究室 毎週金曜日 4 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算			復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 3 回】	確率分布			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理			復習：授業ノートの整理、課題作成		

		予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード (ナンバリング)	CB1581-Y01	2.科目名	経営学		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	遠隔による講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 私たちが毎日使っているものは企業が作り出したものです。そして皆さんも数年後にはこの企業に加わるることになります。私たちのいる社会は企業の活動がなくては存在し得えない社会なのです。つまり、経営学を学ぶことは、これから皆さんが社会にはじめて踏み出すうえで、とても役立つ知識となります。経営学は、決して「お金儲け」の道具ではありません。現代社会に生きる人々にとって必須の入口であり、「良い経営をするための方法を研究する学問」です。経営学がうみだしてきた知識は膨大です。それだけに経営学の範囲は広く、内容も複雑					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学の基礎的な知識を理解します。 (2) 自分の考えを、整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して、経営学のフレームを通して、その見方を説明する力をつけます。					
19.教科書・教材	・加護野忠男・吉村典久(2021)『1からの経営学(第3版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7					
20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第3版」でも同じです。） ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2(今日の事例をあげて、経営を解説しています) ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511-9					
21.成績評価	・授業の振り返りアンケート：15%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。 ・小テストをおこないます。35% －学習目標の(1)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：50% －学習目標の(1)と(2)に対応します。					
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから、時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく現実の経営実践を理解するためには、理論的に依拠する基礎学問をもたなければなりません。既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかりと身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが、心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学習していきます。4年間をかけて、『ゼミナール経営学入門』の1冊をしっかりと読み込んで経営					

		学を理解していくイメージです。「4年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この1冊をやり切ったことは、これから皆さんが、道を切り開いてくうえで、大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので、必ず「読む」という習慣をつけましょう。テキストには、どんどん書き込んで、自分だけのオリジナルのテキストにしていってください。 ・その際に、生成AI利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・そして、授業を通じて、思ったこと、考えたことを大切にメモするようにしてください。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ、その時わからなかったことも、4年後にはわかるようになり、自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。
23.オフィスアワー		尼崎キャンパス ・センターオフィスアワー：(前期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階学習支援室) ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第5限 16:30～18:00 (8階研究室 805)
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	第1回：「オリエンテーション：経営学で学ぶことを学ぶ」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初に皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、「経営」という言葉について考えます。	経営学のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。
第2回	「経営学の全体像：まず大枠をつかむ。」(第2章) 皆さんは、これから経営学の森に入っていきます。森の中の一本一本の木が、経営学の各科目分野です。経営学という森を作っているイメージです。木を見て森を見なければ迷子になります。経営学とは何かについて全体像をつかみます。経営学(広義:広い見方の経営学)には、どんな分野があるのか、広義の経営学の3本柱(経営学(狭義)、商学(マーケティング)、会計学)があることをつかみます。	日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう
第3回	「会社には、どんなかたちがあるのか、企業形態を知る」(3章) ・私たちの周りには多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも、現代社会の発展に大きく寄与したのが株式会社という制度で、人類最大の発明ともいわれます。その株式会社の仕組みとその発展をみていきましょう。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう
第4回	「市場を理解しよう。外部環境のマネジメントについて考える」(第4章) ・カネを集めてくる(金融市場)、ヒトを集めてくる(労働市場)、製品・サービスを作って販売する(製品市	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう

	場), これらの市場との関係をどうマネジメントするのか, 企業と市場との関わりを理解します。ここからの4回は, 外部環境のマネジメントについて考えていきます	
第5回	「外部の環境のマネジメントについて考える① 経営戦略論」(第5章) ・経営戦略論は経営学の中心的分野のひとつです。経営戦略は, 長期的な視野にたって, 組織のヒト, モノ, カネを使って, 未来に向かって何をしようとするのか, その組織の方向付けをおこなうことです。戦略論は経営学のなかでもさまざま, その代表的なものを学習します。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第6回	「外部の環境のマネジメントについて考える② 競争戦略」(第6章) ・前回に引き続いて戦略論のその代表的なものを学習します。市場にいるのは自社の私たちだけではありません。そこには競争企業がいることを考えなければなりません。競争によって大きく企業の方向付けが変わることになります。事例から競争戦略について考えます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第7回	「外部の環境のマネジメントについて考える③ 製品市場戦略」(第7・8章) ・製品には誕生してから, 市場から消えるまでのライフ・サイクルがあります。製品ライフ・サイクルという視点で, 経営戦略を捉えてみます。これは企業の多角化にもつながり, 企業の買収や提携にもつながることを事例から確認します。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第8回	「経営はだれにでもできるのか, マネジメントについて考える」(第10章) ・マネジメントとは何かを考えていきます。そして, 内側のマネジメントと外側のマネジメントの2つのマネジメントにわけて経営学の中に入っていきます。内側のマネジメントは組織のマネジメントです。外側のマネジメントとは組織の外にある環境とのマネジメントです。内と外のこの2つの目をもって経営を考えることを学びます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。
第9回	「企業の人々は何をしているのか, 内部の組織のマネジメントを考える①」(第11章) ・ここからは, 内部のマネジメントに目をむけます。前回までの企業の「外部」環境に対して「内部」の位置づけにある組織を対象にします。これは, さらに組織という視点と, その組織を構成する人の視点からわけていきます。組織とは何か, という議論から考えて	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう

	いきます。	
第 10 回	「組織のマネジメントを考える②：人は労働力じゃない」(第 11 章) ・この回から組織を構成する「人」の内部に入っていきます。企業にとって従業員の活用はなぜ重要なのでしょうか、また、何によって動かされるのでしょうか。「やる気」を高めるにはどうすればいいでしょうか。動機づけ(モチベーション)の諸理論を学習します。優れたリーダーとはどういう人でしょう。リーダーの資質はその人固有のものでしょうか。リーダーの役割とリーダーシップの概念を学びます。組織のマネジメントのなかでリーダーシップの位置づけを理解します。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 11 回	「組織のマネジメント③ 学びをキャリア・デザインに应用する」(第 12 章) これまでの学びから、自らのキャリアをどうデザインするか。過去も未来もキャリアの一部です。「流されるままの人生でいいのか」主体的にキャリアを考えるには、これまでの経営学で学んできた概念が役に立ちます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 12 回	「利益の追求は正しいことなのか、企業の社会的責任を考える。」 経営の目的は何でしょうか。経営者の役割は、利益を上げることや、株主に報いることだけではありません。もっと社会性を帯びたもので、今日の SDGs にもつながります。そこに経営の規律づけとそのチェックの問題があらわれます。これはコーポレート・ガバナンス(企業統治)の問題として扱われます。事例をもとにしてこの問題を考えてみましょう。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 13 回	「日本は世界で最も長寿企業が多いのはなぜか。ファミリー・ビジネスを考える」(13 章) ・日本は世界になかで、断トツに長寿企業が多い国で、海外からも注目されています。 何故、日本には、長寿企業が多いのでしょうか。それはファミリー・ビジネスにヒントがあります。いくつかのファミリー・ビジネスの事例をみて、その経営を考えてみます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 14 回	「国際化は決して遠い国の話ではない。国際経営について考える」(9 章) ・今日、グローバル化は避けて通りようがありません。企業活動のグローバルでの地理的な拡大とつながりが深まっています。日本には、売上や従業員の数の大半が海外という企業も多くあります。この回では、	経営学の総括試験のために、ノートを補強し、ノートを完成させてください。毎回のよう感想や思ったことは簡単に WebClass にアップしておいてください。

	国際化の基礎を学びます。	
第15回	「まとめと総括：テストと経営学を通じて学んだこと」 ・ようやく経営学の入口が終わりました。経営学にはどんな分野があって、その各論でどのようなことを学習したのか、テストをおこない、経営学で学んだ内容を確認します。 経営学を全体的にとらえるアプローチには、経営管理論、経営組織論、経営戦略論があります。また、個別的、専門的には人的資源管理、マーケティング論、財務・会計学があります。経営学では、これらの各論を包括的に扱ってきました。最終では、これから経営学の深めるための広がりについて話します。	今日のテストを振り返って、経営学ノートを見直してノートを完成させてください。

1.授業コード (ナンバリング)	CC2204-Y01	2.科目名	陸上環境論		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、そして、次世代が持続可能な社会を受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかについて考えることを目的とします。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性 （2）社会的貢献性 （3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、様々な問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「1. あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」「2. 飢餓を終わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様さの損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安全・安心－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するように心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なるとしても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					

22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、私たちが「より良く生きる」とともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこと。 ②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。 ③生成 AI 利用：いかなる利用も認めません。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「陸上環境論」を学ぶにあたって一私たちが「個人の尊厳」を守るとともに、子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐために― ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～39 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.117～145 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.323～341 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.341～358 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.91～96 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.96～113 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.157～177 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.177～192	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）

	・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	★この日までに、第2回レポートをWebclassにて提出。
第10回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.195～203 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き起こしている様々な問題について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第11回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.263～278 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品等の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第3回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclassにて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第13回の講義の日までにWebclassにて提出。
第12回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.281～319 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第13回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.227～262 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第3回レポートをWebclassにて提出。
第14回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第15回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	CC2210-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅲ 旅行業約款		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史、小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野 の実務経験がある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、15名までとします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 国家試験は、毎年9月に実施されます。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 旅行業約款は、旅行者と旅行業者との取り決めであり、ほとんどの旅行業者は標準旅行業約款を基本としています。 【概要】 この約款のポイントとなる「募集型企画旅行契約」「受注型企画旅行契約」「手配旅行契約」の旅行形態を確認し、取扱いの違いを理解することが重要です。 また、「国内旅客運送約款」では航空券・運賃及び料金・手荷物・責任など、「一般貸切旅					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②約款と実務の関連について理解すること。 ③旅行業法との関連について理解すること。 ④旅行業のルールを理解することで、観光関連産業の理解を深める。 関連するDPは、「専門知識・技術の活用力」です。					
19.教科書・教材	* 旅行実務シリーズ「旅行業約款 運送・宿泊約款」 (発行：JTB 総合研究所) * 資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	①観光白書 ②日本旅行業協会 (JATA) のHP ③全国旅行業協会 (ANTA) のHP ④標準旅行業約款					
21.成績評価	* 総括試験 (筆記) 60% (学習目標の①、②、③に対応) * 理解度確認テスト (筆記/3回) 30% (学習目標の①、②、③に対応) * 練習問題 (各授業) 10% (学習目標の①、②、③に対応)					
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める (生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自					

	分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース (研究室/3-308)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション (授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明)	
第 2 回	標準旅行業約款の概要	教科書：標準旅行業約款の部を熟読
第 3 回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約①	教科書：募集型企画旅行契約の部を熟読
第 4 回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約②	教科書：標準旅行業約款の部を熟読
第 5 回	標準旅行業約款・受注型企画旅行契約① 第 1 回理解度確認テスト	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第 6 回	標準旅行業約款：受注型企画旅行契約②	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第 7 回	標準旅行業約款：特別補償規定	教科書：特別補償規定の部を熟読
第 8 回	標準旅行業約款：手配旅行契約	教科書：手配旅行契約の部を熟読
第 9 回	国内旅客運送約款 (日本航空例) 第 2 回理解度確認テスト	教科書：国内旅客運送約款の部を熟読
第 1 0 回	一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款の部を熟読
第 1 1 回	フェリー標準運送約款	教科書：フェリー標準運送約款の部を熟読
第 1 2 回	宿泊約款	教科書：モデル宿泊約款の部を熟読
第 1 3 回	国際運送約款 (日本航空例)	教科書：国際運送約款の部を熟読
第 1 4 回	第 3 回理解度確認テスト 重要チェックポイントの解説	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款、フェリー標準運送約款、モデル宿泊約款の部を熟読
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：約款全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	CC2211-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅳ 旅行業法		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 回生～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」を受験するためのお手伝いをします。 この資格は、観光業界を目指す人には、かつてほどではありませんが有利です。 この試験は、毎年9月に行われます。 旅行業務にかかわる取引の不正から消費者を守るために、業務を取扱うものに公正の維持を教え、旅行者の安全を確保し、旅行者に不利で不便な、旅行業者の利益増進だけに走らないために制定された、国が旅行業を取り締まる制度です。今も不正が残る業界です。単に試験対策としてでなく、コンプライアンスを重視する社会人の自覚を促します。 【概要】					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②法律と旅行業実務の関連について理解すること。 ③旅行業のルールを理解することで、観光関連産業の理解を深める。 関連するDPは、「専門的知識・技能の活用力」です。					
19.教科書・教材	＊旅行業実務シリーズ「旅行業法およびこれに基づく命令」（発行：JTB 総合研究） ＊資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	＊観光白書 ＊日本旅行業協会（JATA）のHP ＊全国旅行業協会（ANTA）のHP					
21.成績評価	＊総括試験（筆記）60%（学習目標の①、②、③に対応） ＊理解度確認テスト（筆記/3回）30%（学習目標の①、②、③に対応） ＊練習問題（各授業）10%（学習目標の①、②、③に対応）					
22.コメント	①教科書、参考文献などで、予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。					
23.オフィスアワー	木曜2コース(学修支援センター)、木曜4コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）					
第2回	旅行業法の概要（旅行業約款、各種運賃・料金との関連）			教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読		
第3回	旅行業法（登録制度）			教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読		

第 4 回	旅行業法（営業保証金制度） 第 1 回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 5 回	旅行業法（旅行業務取扱管理者、旅行業務取扱料金）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 6 回	旅行業法（外務員、広告表示など誇大広告の禁止）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 7 回	旅行業法（旅程管理）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 8 回	第 2 回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 9 回	旅行業法（受託契約、旅行業者代理業、禁止行為、登録の取消など）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 0 回	旅行業法（旅行業協会、役割）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 1 回	旅行業法（旅行業協会、取り決め）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 2 回	旅行業法（雑則・罰則）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 3 回	第 3 回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 4 回	重要チェックポイントの解説（旅行業者と旅行業協会など）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：旅行業法全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	CC2212-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅴ 空港業務論		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	エアラインビジネスまたは航空ビジネス論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 航空産業論を基盤とし、エアラインにおける業務について、具体的なオペレーション上の内容とポイントについて学習し、またその意義について理解する。また、具体的な内容を踏まえ、どのような人材が求められるのか、エアラインを通してサービス・ホスピタリティ産業に求められる人材像を考察する。 【概要】 具体的には、販売・予約部門から空港における旅客運送、貨物運送、運航とエアラインのオペレーションに沿って、具体的な業務を学習し、その上で各オペレーションにおいて共通して求められる点を整理して理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(3)多様性理解】 【(4)問題発見・解決力】 【(6)専門的知識・技能の活用力】 に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について述べる事が出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティ産業全体に亘る必要なポイントを理解し、その特徴を述べる事が出来る。 ③講義の内容を踏まえ、自身の適正を見極める中、グローバル人材についての関心・意欲を高めキャリアプランを描く事が出来る。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】(発行 イカロス出版)					
21.成績評価	①授業理解度 (講義内容の理解)・・・40 点 (講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。) ※学習目標①、②、③に対応 ②個人ワーク&グループワーク・・・15 点 (講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。) ※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点 (講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる) ※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	空港業務では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道に興味をもって履修してください。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第2回】	講義【空港運送事業の特性】 一機の航空機が飛ぶために様々な業務の役割と専門性が求められている。航空会社の様々な部署を知る	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義【エアラインの提供するサービスⅠ 保安・安全】 公共交通機関であるエアラインは、安全運航のためにどのような取り組みをしているのかなど、保安と安全の重要性を認識する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義【エアラインの提供するサービスⅡ 定時・快適・利便の追求】 顧客が求めるサービス品質を理解し、専門的な業務により高い品質を提供することが求められている。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義【エアラインの業務Ⅰ 販売・予約部門】 エアラインと顧客を結ぶ部門が提供しているサービスについて理解する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義【運航①（運航業務）：運航乗務員の業務】 飛行機はどうして飛ぶのか？運航乗務員が顧客に行うサービスとは何かなどについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義【運航②（整備業務）：整備士の業務】 航空機の整備の種類や求められる安全上の役割などについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義【運航③（運航管理）：オペレーションサポート業務】 気象情報など航空機の運航に欠かせない情報の提供などの業務について理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義【運航④（客室サービス）：客室乗務員の業務】 客室乗務員の業務は多岐に渡り、顧客の目に触れるのはほんの一部である。客室乗務員が航空機に搭乗する意義を捉えなおす。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義【機内サービスを支える様々な仕事】 ケータリング（機内食）など、快適なフライトを支える部署の役割について理解する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義【空港サービス③ グランドスタッフの業務】 空港の様々な場面において、お客様の旅のお手伝いをするグランドスタッフの業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義【空港サービス② グランドハンドリングの業務】 空港で、お客様から見えない場面で業務を実施するオペレーションを支えるグランドハンドリング業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義【空港サービス① 貨物部門】 貨物関連のサービスおよびオペレーションを取りあげる。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

【第 1 4 回】	講義【エアラインのグローバル人財マネジメント戦略】 人財マネジメントの目的を理解し、グローバルに進化し続けるエアラインが求める人材像を探る。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第 1 回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第 1 5 回】	講義【エアラインのオペレーション】 エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回小確認テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	CC2214-Y01	2.科目名	特殊講義Ⅶ 仕事とキャリアⅠ		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% （学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール （学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日 3 限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート 1 - 1 150 分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1 - 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3 - 1、3 - 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CL1208-Y01	2.科目名	臨床心理学概論（2022 年度生以前 春秋通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	横川滋章、寺村堅志					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務 経験のある教員による授業科 目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学 期・ 年度	2025 年度 春学期～秋 学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士 保育士			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概 要	【目的】 この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 (横川担当分) こころの健康と異常について学び、今日の臨床心理的援助に大きな影響を与えた 3 つの理論・技法として、力動的心理療法と分類される S.フロイトから始まる精神分析、C.G.ユングの分析心理学、そしてパーソンセンタード（来談者中心療法）として知られる C.R.ロジャーズの考えを紹介し、臨床心理学への基礎的理解を進めることを目的とする。 (寺村担当分) 臨床心理学の全体構造を把握し、臨床心理学の歴史について					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、多様性理解、専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 【横川担当分】 ①臨床心理的理解・援助の前提となるこころの正常・異常について説明することができる。 ②精神分析の基礎的事項について説明することができる。 ③分析心理学の基礎的事項について説明することができる。 ④来談者中心療法の基礎的事項について説明することができる。 ⑤臨床心理的理解・援助について、自分と関連付けて考察することができる。 【寺村担当分】 ①臨床心理学の全体構造について説明することができる。 ②カウンセリングの基礎的事項について説明することができる。 ③アセスメントの基礎的事項について説明することができる。 ④その他の臨床心理学の基礎的事項について説明することができる。 ⑤心の病を患う人を理解するために、自分の心理状態と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「改訂版 臨床心理学概説」 馬場禮子著 放送大学教育振興会 「よくわかる臨床心理学 改訂新版」 下山晴彦編 ミネルヴァ書房					
20.参考文献	【横川担当分】 心理臨床大事典（改訂版） 氏原寛他編 培風館 2004 精神分析事典 小此木啓吾編集代表 岩崎学術出版社 2002 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック 小此木啓吾他編 創元社 2004 心理療法ハンドブック 乾吉佑他編 創元社 2005 改訂 精神分析の人格理論の基礎 馬場禮子著 岩崎学術出版社 2016 【寺村担当分】 適宜、紹介する。					
21.成績評価	【横川担当分】					

	1. コミュニケーションシート…3×12回=36% (⑤に対応) 2. 中間ふりかえり…24% (①②に対応) 3.総括テスト…40% (①②③④に対応) 【寺村担当分】 ◎感想レポート・理解度確認クイズ・・・30% (①②③④に対応) ◎中間レポート・・・20% (①②③④に対応) あなたの職業選択に臨床心理学はどのように関わるか ◎総括テスト・・・50% (①②③④⑤に対応)	
22.コメント	生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。	
23.オフィスアワー	横川： 曜日 限 (研究室) 曜日 限 遠隔 (センタープログラム) 寺村：金曜昼休み (研究室) 火曜昼休み (センターオフィスアワー)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	オリエンテーション 授業の進め方について こころの健康と異常	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 3 回 第 4 回	精神分析 1 S.フロイトと精神分析の成立 精神分析 2 人格理論① 局所論・構造論・力動論・適応論	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 5 回 第 6 回	精神分析 3 人格理論② 防衛機制・発達理論 精神分析 4 人格理論③ エディプスコンプレックス・原始的防衛機制	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 7 回 第 8 回	精神分析 5 人格理論④ エリクソンのライフサイクル論 中間ふりかえり	コミュニケーションシートの提出 (10 分) 中間ふりかえり (持ち込み不可)
第 9 回 第 10 回	精神分析 6 技法論 分析心理学 1 タイプ論	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 11 回 第 12 回	分析心理学 2 集合的無意識・元型・自己 総括テストに向けて	コミュニケーションシートの提出 (10 分) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 13 回 第 14 回	総括テスト 来談者中心療法 1 C.ロジャーズと来談者中心療法の成立	総括テスト (持ち込み可) コミュニケーションシートの提出 (10 分)
第 15 回 第 16 回	来談者中心療法 2 来談者中心療法の理論と技法 ***** 以降、寺村担当 オリエンテーション 授業の進め方について	コミュニケーションシートの提出 (10 分) ***** 予習：次回分のテキストを読む (90 分) 課題：感想レポート提出
第 17 回 第 18 回	臨床心理学とは何か 1 臨床心理学の理念と全体構造について 臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史	予習：次回分のテキストを読む (90 分)

		感想レポート 理解度確認クイズ
第 19 回 第 20 回	臨床心理学とは何か 3 基本理論 臨床心理学とは何か 4 基本理論、社会のなかの活動	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 21 回 第 22 回	異常心理学 1 異常心理学とは何か、診断分類 異常心理学 2 気分障害、統合失調症	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 23 回 第 24 回	異常心理学 3 不安障害、身体症状症と解離性障害 異常心理学 4 摂食障害、性障害・性同一性障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 25 回 第 26 回	発達過程で生じる障害 知的障害、発達障害 アセスメント 1 ケース・フォーミュレーション、初回面接	課題：中間レポート提出 予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 27 回 第 28 回	アセスメント 2 検査法 介入技法 1 遊戯療法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 感想レポート 理解度確認クイズ
第 29 回 第 30 回	介入技法 2 行動療法、認知行動療法 まとめと振り返り（テスト）	感想レポート（総括） 総括テスト（持ち込み可）

1.授業コード (ナンバリング)	CL1210-Y01	2.科目名	公認心理師の職責		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格取得		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	制限は設けませんが、公認心理師を目指す学生を対象と想定して授業を進める。					
17.授業の目的と概要	【目的】 公認心理師としての職責の自覚、問題解決能力と生涯学習、多職種連携・地域連携などを理解する。 【概要】 本科目は、公認心理師（国家資格）養成に必要な 25 科目の中の必須科目である。 シラバスの項目内容を説明し、理解した内容を WebClass で確認する。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 ①公認心理師の役割を理解する。 ②公認心理師の法的義務及び倫理を理解する。 ③心理に関する支援を要する者等の安全の確保について説明できる。 ④情報の適切な取扱いを理解する。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務を説明できる。 ⑥自己課題発見・解決能力について理解する。 ⑦生涯学習への準備について理解する。 ⑧多職種連携及び地域連携について説明できる。 【DP(ディプロマポリシー)】 (1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力 公認心理師受験資格取得を目指す学生として、授業での課題に自律的に関わり、専門的知識・技能をどのように活かせるかを考える。					
19.教科書・教材	野島一彦編 公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責 第2版 遠見書房 2,000 円（＋税）					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎の小テスト@5 点×14 回 webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が理解されたか）30 点					
22.コメント	各回で、次回の主要課題を課すので、それぞれ考えて欲しい。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 水曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法			予習：シラバスを読む。 復習：小レポート報告		
第 2 回	公認心理師の役割			PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト		

第 3 回	公認心理師の法的義務・倫理	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 4 回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 5 回	情報の適切な取り扱いについて	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 6 回	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 7 回	福祉分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 8 回	教育分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 9 回	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 10 回	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 11 回	支援者としての自己課題発見・解決能力	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 12 回	生涯学習への準備	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 13 回	多職種連携と地域連携	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 14 回	公認心理師の今後の展開，授業のまとめ	PC,予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI213-Y01	2.科目名	臨床心理学概論Ⅱ（2023・2024 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 こころの健康と異常について学び、今日の臨床心理的援助に大きな影響を与えた 3 つの理論・技法として、力動的心理療法と分類される S.フロイトから始まる精神分析、C.G.ユングの分析心理学、そしてパーソンセンタード（来談者中心療法）として知られる C.R.ロジャーズの考えを紹介し、臨床心理学への基礎的理解を進めることを目的とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、多様性理解，専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 ①臨床心理的理解・援助の前提となるこころの正常・異常について説明することができる。 ②精神分析の基礎的事項について説明することができる。 ③分析心理学の基礎的事項について説明することができる。 ④来談者中心療法の基礎的事項について説明することができる。 ⑤臨床心理的理解・援助について、自分と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「改訂版 臨床心理学概説」 馬場禮子著 放送大学教育振興会					
20.参考文献	心理臨床大事典（改訂版） 氏原寛他編 培風館 2004 精神分析事典 小此木啓吾編集代表 岩崎学術出版社 2002 改訂 心の臨床家のための精神医学ハンドブック 小此木啓吾他編 創元社 2004 心理療法ハンドブック 乾吉佑他編 創元社 2005 改訂 精神分析的人格理論の基礎 馬場禮子著 岩崎学術出版社 2016					
21.成績評価	1. コミュニケーションシート…3×12 回=36%（⑤に対応） 2. 中間ふりかえり…24%（①②に対応） 3.総括テスト…40%（①②③④に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	曜日 限（研究室） 曜日 限 遠隔（センタープログラム）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方について			コミュニケーションシートの提出（10 分）		
第 2 回	こころの健康と異常			コミュニケーションシートの提出（10 分）		
第 3 回	精神分析 1 S.フロイトと精神分析の成立			コミュニケーションシートの提出（10 分）		
第 4 回	精神分析 2 人格理論① 局所論・構造論・力動論・適応論			コミュニケーションシートの提出（10 分）		
第 5 回	精神分析 3 人格理論② 防衛機制・発達理論			コミュニケーションシートの提出（10 分）		
第 6 回	精神分析 4 人格理論③ エディプスコンプレックス・原始的防衛機制			コミュニケーションシートの提出（10 分）		
第 7 回	精神分析 5 人格理論④ エリクソンのライフサイクル論			コミュニケーションシートの提出（10 分）		

第 8 回	中間ふりかえり	中間ふりかえり（持ち込み不可）
第 9 回	精神分析 6 技法論	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 10 回	分析心理学 1 タイプ論	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 11 回	分析心理学 2 集合的無意識・元型・自己	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 12 回	総括テストに向けて	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 13 回	総括テスト	総括テスト（持ち込み可）
第 14 回	来談者中心療法 1 C.ロジャーズと来談者中心療法の成立	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 15 回	来談者中心療法 2 来談者中心療法の理論と技法	コミュニケーションシートの提出（10 分）

1.授業コード (ナンバリング)	CLI308-Y01	2.科目名	心理学的支援法	3.単位数	4
4.授業担当教員	松井幸太、端本利江子				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	<目的> 心理療法にかかわるさまざまな理論や技法の基礎を学び、実際の心理臨床の事例を通して、心と体の変容過程について理解を深めていく。 <概要> 心理療法とは、臨床心理学を基盤とした対人援助の一形態であり、特に関係性を重視したアプローチである。物理的な豊かさが満たされ、心の時代と称される現代において、心理療法の果たす役割が注目されている。前半では精神分析、来談者中心療法、認知行動療法といった主要な心理療法を中心として、その基礎を学び、心理療法とは何かを理解する。後半では事例等を用いながら、それぞれの心理療法の				
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP のうち、「多様性理解」、「専門的知識・技能の活用力」と関連する。 ①心理療法全般にかかわる基本概念を説明することができる ②心理療法にかかわる各理論の基礎的な内容を説明することができる ③心理療法家の基本的な態度と守秘義務について理解している ④心理学的支援の様々な形について基礎知識を持っている ⑤心の健康教育に必要な知識の基礎を身につけている				
19.教科書・教材					
20.参考文献	・ 乾 吉佑ほか編（2005）心理療法ハンドブック 創元社 ・ 氏原 寛（2004）心理臨床大辞典【改訂版】 培風館				
21.成績評価	①各授業における小レポート（2%×30 回）60%（学習目標の????⑤） ②総括試験（前半分 20%+後半分 20%）40%（学習目標の????⑤）				
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。 ただし、小レポートおよび総括試験に関しては、利用不可とする。				
23.オフィスアワー	【松井】 研究室オフィスアワー：火曜 2 限、センターオフィスアワー：火曜昼休み（質問対応可） 【端本】 火曜日授業後の教室				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	ガイダンス			課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる	
第 2 回	こころとは 臨床とは				
第 3 回	心理的支援法 概説			課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる	
第 4 回	心理療法における基本構造				
第 5 回	精神分析？			課題：小レポートの提出 復習：授業内容をノートにまとめる	
第 6 回	精神分析？				
第 7 回	来談者中心療法？			課題：小レポートの提出	

		復習：授業内容をノートにまとめる
第 8 回	来談者中心療法？	
第 9 回	行動療法	課題：小レポートの提出
第 10 回	認知行動療法	復習：授業内容をノートにまとめる
第 11 回	ゲシュタルト療法	課題：小レポートの提出
第 12 回	『グロリアと 3 人のセラピスト』	復習：授業内容をノートにまとめる
第 13 回	心理療法における個人の尊重と倫理観	課題：小レポートの提出
第 14 回	試験（前半分）	復習：授業内容をノートにまとめる
第 15 回	前半のふりかえり	課題：小レポートの提出
第 16 回	後半部分のオリエンテーション（グループワークを含む）	復習：授業内容をノートにまとめる
第 17 回	心理カウンセリングの基礎 前半で学んだことを含む	課題：感想レポートの提出
第 18 回	サイコドラマ（心理劇）（グループワークを含む）	復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 19 回	遊戯療法	課題：感想レポートの提出
第 20 回	箱庭療法	復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 21 回	解決志向アプローチ（ブリーフセラピー）	課題：感想レポートの提出
第 22 回	交流分析	復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 23 回	森田療法	課題：感想レポートの提出
第 24 回	漸進的筋弛緩法（グループワークを含む）	復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 25 回	オープン・ダイアローグ	課題：感想レポートの提出
第 26 回	SST とアサーショントレーニング（グループワークを含む）	復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 27 回	EMDR（トラウマケア）	課題：感想レポートの提出
第 28 回	後半の振り返り	復習：資料の内容をノートにまとめる。
第 29 回	試験（後半分）	復習：今までの授業の内容をまとめ、今後の学習に生かす。
第 30 回	試験（後半分）の振り返りと確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI309-Y71	2.科目名	障害者（児）心理学（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実 務経験のある教員によ る授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格取得		11.先修条件	特にない。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限	制限は設けないが、後半は公認心理師を目指す方を対象と想定して授業を進める。					
17.授業の目的と概要	本科目は、公認心理師（国家資格）養成に必要な 25 科目の中の必須科目である。 【目的】 (1)身体障害、知的障害及び精神障害について概説する。 (2)障害者(児)の心理社会的課題と必要な支援について概説する。 【概要】 各障害の支援のための制度やそれに関わる様々な機関についての基本的知識と支援の在り方について概説する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①身体障害、知的障害及び精神障害(発達障害) について説明できる。 ②障害者(児)の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。 【DP（デュプロマポリシー）】 (1) 自律性、多様性理解					
19.教科書・教材	古賀 精治 著 障害者・障害児心理学（放送大学教材 1644） 放送大学教育振興会 2021 2,970 円 power poin 資料は、webclass 上で配付する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎の小テスト（授業内容について）@ 5 × 13 (webclass を使用した)総括試験（全範囲の知識が記述されたか） 35					
22.コメント	夏学期間ゾーン①で受講してください。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	夏学期にはありません。 質問等があれば、メールで連絡してください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	イントロダクション 授業の目的, 学習目標と DP との関連, 授業の進め方, シラバス説明, 成績評価の方法, 心理職に求められる障害への意識			予習：テキストの目次を読む。 復習：出題について WebClass で解答する。		
【第 2 回】	1. 社会における「障害」の変遷			予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に出題した課題について webclass に解答する。		
【第 3 回】	2. 特別支援教育			予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に出題した課題について		

		webclass に解答する。
【第 4 回】	3. 視・聴覚障害者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 5 回】	4. 知的障害者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 6 回】	5. 肢体不自由者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 7 回】	6. 身体疾患のある者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 8 回】	7. 精神障害者（児）の理解と支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 9 回】	8. 発達障害児者の理解と支援（1）ADHD	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 10 回】	9. 発達障害児者の理解と支援（2）SLD	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 11 回】	10. 発達障害児者の理解と支援（3）ASD	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 12 回】	11. 乳幼児期における障害とその支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 13 回】	12. 障害の理解・受け止めと家族支援・地域支援	予習：教科書の該当章を読んで、まとめる。 復習：授業中に課題について webclass に解答する。
【第 14 回】	総括試験	
【第 15 回】	まとめと解説	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI312-Y01	2.科目名	関係行政論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志、道免逸子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】心理の専門家として社会において活動する上で必要となる施策、法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解することを目的とする。 【概要】医療，教育，福祉，司法，産業の各分野で心理職が働く上で必要な法的枠組みについて解説し，実際の現場で心理職がどのように活躍しているのかイメージをつかんでもらう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち，問題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学習に関連します。 ①心の支援に関する全体像を、法律や制度の観点から把握し、国民からの期待や社会的使命を自覚できる。 ②特に、医療保健、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 つの分野における法律や制度を把握する。 ③多職種の専門家や行政、国民と、意義深い協働をするための法律や制度の知識を活用することができる。					
19.教科書・教材	公認心理師の基礎と実践 23 関係行政論 遠見書房 元永拓郎（編）					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	各分野ごとの小課題		50%（10%×5 分野）			
	総括試験（レポート課題）		50%			
22.コメント	第 1 回から第 7 回まで寺村担当 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし，レポート・テストでは使用不可とする。 第 8 回から第 15 回まで道免担当					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： 金曜日昼休み（寺村） センターオフィスアワー：火曜日昼休み（寺村） センターオフィスアワー：金曜日昼休み（道免） 研究室オフィスアワー： 木曜日昼休み（道免）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	心理支援と関係行政論 教育分野に関する法律・制度（1）			復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ		
第 2 回	教育分野に関する法律・制度（2）			復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ		
第 3 回	教育分野に関する法律・制度（3）			復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ		
第 4 回	司法・犯罪分野に関する法律・制度（1）			復習：授業の内容をノートにまとめる。		

		予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 5 回	司法・犯罪分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 6 回	司法・犯罪分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 7 回	産業分野に関する法律・制度	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく 課題：①感想レポート（前半小括），②理解度確認クイズ
第 8 回	労働分野に関する法律・制度	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 9 回	保健・医療分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 10 回	保健医療分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 11 回	保健医療分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 12 回	福祉分野に関する法律・制度（1）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 13 回	福祉分野に関する法律・制度（2）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 14 回	福祉分野に関する法律・制度（3）	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：教科書を読んでおく
第 15 回	小テスト、総括振り返りレポート	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A01	2.科目名	ICT リテラシー (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	① 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと ・ 生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 4 限目					

研究室オフィスアワー 水曜昼休み		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・ 生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・ 「生成 AI とどう向き合うべきか?」について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項：	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復

	・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	習すること) 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A02	2.科目名	ICT リテラシー (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル、AI 倫理を含める） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切）
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか？について（第 2 報）」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説（例：ChatGPT・Copilot） （1）ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など （2）Copilot による演習（組織アカウント利用） 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順：（1）ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる（例：環境問題についての短い意見文を書いて）。（2）生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。（3）生成 AI を使った感想（便利さや限界、課題など）をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A03	2.科目名	ICT リテラシー (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル、AI 倫理を含める） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切）
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか？について（第 2 報）」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説（例：ChatGPT・Copilot） （1）ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など （2）Copilot による演習（組織アカウント利用） 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順：（1）ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる（例：環境問題についての短い意見文を書いて）。（2）生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。（3）生成 AI を使った感想（便利さや限界、課題など）をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A06	2.科目名	ICT リテラシー (1/3) (4月9日～6月2日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと ・ PC の操作にあっては、わからないところは、生成 AI を最大限に利用してみましょう。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・ 生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・ 「生成 AI とどう向き合うべきか?」について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知す	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	る ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の

	・ Word と Excel の統合利用、および次回の間中間試験について説明する	回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A07	2.科目名	ICT リテラシー (2/3) (4月8日～6月10日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと ・ 生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限目 研究室オフィスアワー 水曜昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・ 生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・ 「生成 AI とどう向き合うべきか?」について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A08	2.科目名	ICT リテラシー		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル、AI 倫理を含める） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切）
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか？について（第 2 報）」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説（例：ChatGPT・Copilot） （1）ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など （2）Copilot による演習（組織アカウント利用） 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順：（1）ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる（例：環境問題についての短い意見文を書いて）。（2）生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。（3）生成 AI を使った感想（便利さや限界、課題など）をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A09	2.科目名	ICT リテラシー (留) (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル、AI 倫理を含める） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切）
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか？について（第 2 報）」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説（例：ChatGPT・Copilot） （1）ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など （2）Copilot による演習（組織アカウント利用） 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順：（1）ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる（例：環境問題についての短い意見文を書いて）。（2）生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。（3）生成 AI を使った感想（便利さや限界、課題など）をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A10	2.科目名	ICT リテラシー		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル、AI 倫理を含める） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切）
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか？について（第 2 報）」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説（例：ChatGPT・Copilot） （1）ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など （2）Copilot による演習（組織アカウント利用） 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順：（1）ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる（例：環境問題についての短い意見文を書いて）。（2）生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。（3）生成 AI を使った感想（便利さや限界、課題など）をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-A11	2.科目名	ICT リテラシー (留) (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科 (留学生)、教育福祉学科 (留学生)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート:10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (月曜) 3 限 研究室オフィスアワー (月曜) 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」（主にセキュリティ）について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」（教科書 Section5Step1 Lesson1-3）をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」（主に情報モラル、AI 倫理を含める） WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」（教科書 Section5Step2 Lesson1-3）をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）実施（WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切）
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか？について（第 2 報）」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説（例：ChatGPT・Copilot） （1）ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など （2）Copilot による演習（組織アカウント利用） 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順：（1）ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる（例：環境問題についての短い意見文を書いて）。（2）生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。（3）生成 AI を使った感想（便利さや限界、課題など）をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別） 必須事項： ・教科書（Section1 Step1, Step2）に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル（担当者で指定：シラバス？）を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-M01	2.科目名	ICT リテラシー (経営_1/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最新					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート:10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室 (副学長室) オフィスアワー (火曜) 1 限 (1 号館第 1 事務室を訪ねてください)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境につ			[授業外学習]		

	いて確認 講義： 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項： ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義：「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含む) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義： ・生成 AI の基礎知識：生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか? について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例：ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例：簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]：「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順： (1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例：環境問題についての短い意見文を書いて)。 (2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。 (3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎＋クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用／データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項： ・教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook／OneDrive) ／データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル) の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内プ	[授業外学習] ・自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 ・指定されたファイル (担当者で指定：シラバス) を学内のプリンターで印刷して次の授業時に持参すること。

第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録さ	[授業外学習] ・大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 ・初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法①：Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法②：レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 ・課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習①：Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習②：成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③：（グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された表を作成し、グラフの作成および設問に答える（1/4 クラス独自問題）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] ・Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 ・課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・中間試験（40 分）：Word & Excel の操作の習熟度を確認する目的で中間試験を実施する。 ・ビデオレポートの作成練習	[授業外学習] ・Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。

	授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	
第 13 回	・プレゼンテーション作成① : PowerPoint 準備問題、スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・プレゼンテーション作成② : スライドの作成、プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを（説明：プレゼンテーション作成の指導）	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-M02	2.科目名	ICT リテラシー (経営_2/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3)をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習/第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3)をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4~5)をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか?について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2)に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別)を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-M03	2.科目名	ICT リテラシー (経営_4/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート:10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3)をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習/第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3)をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4~5)をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか?について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2)に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別)を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-M04	2.科目名	ICT リテラシー (経営_3/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (センタープログラム) 月曜日・4 限 研究室オフィスアワー 木曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回(4/10)	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習/第 2 回分予習
第 2 回(4/14)	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4~5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回(4/17)	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか? について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例: ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例: 簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例: 簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順: (1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例: 環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回(4/21)	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル) の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定: シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回(4/24)	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回(4/28)	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回(5/1)	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回(5/8)	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回(5/12)	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回(5/15)	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回(5/19)	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回(5/22)	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回(5/26)	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回(5/29)	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回(6/2)	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-M05	2.科目名	ICT リテラシー (看護)		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉野美礼、榎田恵子、倉田哲也、野村浩					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・ 生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・ 「生成 AI とどう向き合うべきか?」について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知す	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	る ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の

	・ Word と Excel の統合利用、および次回の間中間試験について説明する	回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y01	2.科目名	ICT リテラシー (心理_1/4) (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 課題発?・解決? (5) コミュニケーション力 (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー (火曜) 昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3)をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3)をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5)をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか?について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2)に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別)を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y02	2.科目名	ICT リテラシー (心理_2/4) (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと 生成 AI の利用について ・ 平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用する					

	ることに限っては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー（金曜）昼休み 研究室オフィスアワー（木曜）昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか? について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例: ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例: 簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例: 簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順: (1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例: 環境問題についての短い意見文を書いて)。 (2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。 (3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定: シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	基本を演習する ・クラウド利用（Outlook／OneDrive）／データ管理運用（クラウド・ローカルの区別）を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」（ローカル）の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② - レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① - Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② - 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成 (練習 17 P163)
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項: ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] Excel のワーク (授業で取り組んだことを復習すること) 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・中間試験 (40 分) ・ビデオレポートの作成練習 ・Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項: ・教科書 (Section4 Step2 Lesson1) に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書 (Section4 Step2 Lesson2) に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成 (練習 22 P220~221)
第 14 回	・プレゼンテーション作成② スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項: ・教科書 (Section4 Step3 Lesson1&2) を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項: ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y03	2.科目名	ICT リテラシー (心理_3/4) (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass (学習?援システム) などの学内ネットワークやクラウドサービス					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(≠切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む) 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】					
22.コメント	・クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P Cを持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと) 生成 AI 利用に関しては、特に制限を設けずに使用を認めます。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習/第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル)(続きは第 14 回) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	第 3 回 Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル) の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解 (WebClass 等各サービス) /問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項: ・教職員学生専用メニューの概略説明 (学生に関係する項目: WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス (図書検索など)) ・Outlook の利用 (送受信などの操作: PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明) (アプリ設定資料あり) ・ブラウザを使ったネット検索の説明 (基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介) ・Zoom の利用 (アカウント登録)	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回 レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項: ・教科書 (Section2 Step1 Lesson3) に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する	課題[1] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク (授業で取り組んだことを復習すること)

	・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② - レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① - Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② - 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① - PowerPoint 準備問題 - スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）

第 13 回	・プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[4]を WebClass で提出 課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)		CMP103-Y04	2.科目名		ICT リテラシー	3.単位数		2
4.授業担当教員		端本利江子						
5.授業科目の区分		コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分		選択	7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻		心理学科				9.履修学年		1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件					
12.研究室		※※※		13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態		演習		
16.履修制限		ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。						
17.授業の目的と概要		【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最						
18.学習目標と DPとの関連		? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??						
19.教科書・教材		『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。						
20.参考文献								
21.成績評価		以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格（60 点以上獲得）することができる。（×切厳守） ?テスト（(情報セキュリティ確認テスト)） 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 （※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3						
22.コメント		・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。（指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。） ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。（事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと						
23.オフィスアワー		授業後の教室にて ※質問等はメールでも対応します。						
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)			

第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・ 生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・ 「生成 AI とどう向き合うべきか?」について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知す	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	る ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の

	・ Word と Excel の統合利用、および次回の間接試験について説明する	回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y05	2.科目名	ICT リテラシー (グローバル_1/4) (4月9日 ～6月2日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科 G コミ学科の学生はトラックを問い合わせてから履修 すること。			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることで す。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用 方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデ マンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DP との関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本 科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講 した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分 な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理して おくこと					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					

授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ 「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・ 生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・ 「生成 AI とどう向き合うべきか? について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例: ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル) の中に授	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項：	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復

	・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	習すること) 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y06	2.科目名	ICT リテラシー		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科 G コミ学科の学生はトラックを問い合わせてから履修 すること。			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることで す。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用 方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデ マンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DP との関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本 科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講 した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分 な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理して おくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3)をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3)をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5)をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか?について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2)に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別)を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y07	2.科目名	ICT リテラシー (グローバル_3/4) (4月9日 ～6月2日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 10 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと ・ 生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー：月曜日 昼休み その他、研究室でも質問対応しますので事前にメールでアポを取ってください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3)をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3)をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5)をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか?について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2)に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別)を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP103-Y08	2.科目名	ICT リテラシー (グローバル_4/4) (4月9日 ～6月2日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート:10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (火曜) 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明			[授業外学習]		

	各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3)をスライドで解説	各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習/第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3)をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4~5)をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか?について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例:ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例:簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順:(1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例:環境問題についての短い意見文を書いて)。(2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。(3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など)をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎+クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用/データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2)に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook/OneDrive) /データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別)を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当者で指定:シラバス?)を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験に	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切

	について説明する	課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word & Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をして おく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP105-Y02	2.科目名	情報ネットワーク演習 (6月5日～7月29日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「的?テーマ?様々な情報ネットワーク活??」を修得する概要? 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して?動できる情報社会に貢献できるようになるための授業です。 情報ネットワーク技術の仕組みを正しく理解し、ネットワーク活用の様々な技法を?いて基礎能?を習得します。後続のデータサイエンス関連の専門科目で詳しく学ぶための基礎科目となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. コンピュータネットワークの種類や構成?式、ICT 学習環境全般 (LAN とインターネットの構成、?学の情報ネットワーク環境等) の基本知識について説明できる 2. データ通信と制御の仕組みに関する基本知識について説明できる 3. クラウドを含めた情報ネットワーク技術に関する基本的な設定?法やスキルを場?に応じて適切に実?することができる [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	授業中に適宜資料を配付します。					
20.参考文献	『本当にやさしく学びたい人の! 絵解き ネットワーク超入門』増田若奈, 技術評論社, 2019 年 『クラウド活用テクニック 150 2020 年最新版』河本 亮, スタンダード株式会社, 2020 年					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 10% (2) 知識テスト (目標 1・2 に対応) 5% (3) 課題: 情報デザインワーク「伝えたいことの整理」 (学習?標 2 に対応) 15% (4) 課題: フローチャート図作成 (学習?標 3 に対応) 15% (5) 課題: ホームページ作成 (学習目標 3 に対応) 15% (6) 最終課題: この授業でやったことを整理ワーク (学習?標 1・2					
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 毎週月曜日 2 限 学修支援センター (1 号館 2 階) 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価方法、授業の進め方等	毎回授業終了前_学習日誌「今日やったこと」を WebClass で投稿×15 回
ブロック 1 第 2 回	メディアとコミュニケーション（レクチャー） ・ コミュニケーションツールのワーク（Outlook・Zoom 活用）	事前：Outlook アプリ準備 事後：Zoom 試行
第 3 回	情報デザイン（レクチャー） ・ 抽象化・可視化・構造化のワーク ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 4 回	情報デザイン（ワークのつづき） ・ 抽象化・可視化・構造化のワーク	事前：同上 事後：ブロック課題の実施
第 5 回	情報のデジタル化（レクチャー） ・ 文字のデジタル化ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題①：情報デザインワーク成果物提出
ブロック 2 第 6 回	コンピュータの仕組み（レクチャー） ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：学習内容の復習
第 7 回	アルゴリズムとプログラム（レクチャー） ・ 手順整理ワーク ・ フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 8 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・ フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：同上 事後：ワークのつづき作業
第 9 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・ プログラミングワーク モデル化とシミュレーション（レクチャー） ・ モデルを利用した問題解決ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題②：フローチャート作成成果物提出
ブロック 3 第 10 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ ネットワーク設定の確認ワーク 最終課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 11 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ クラウドサービス活用ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 12 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ html 作成ワーク：html を書いてみる	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 13 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ html 作成ワーク：サンプルを流用して HP を作成する	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 14 回	情報システムとデータの活用（レクチャー） ・ GoogleCollaboratory で Python を使ってみるワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施
第 15 回	学びの振り返り、自己評価、ポートフォリオ記述 / 総評	最終課題：この科目で学習したことを整理して提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP105-Y51	2.科目名	情報ネットワーク演習 (留)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生クラスです。					
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?様々な情報ネットワーク活??を修得する 概要? 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して?動できる情報社会に貢献できるようになるための授業です。 情報ネットワーク技術の仕組みを正しく理解し、ネットワーク活用の様々な技法を?いて基礎能?を習得します。後続のデータサイエンス関連の専門科目で詳しく学ぶための基礎科目となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. コンピュータネットワークの種類や構成?式、ICT 学習環境全般 (LAN とインターネットの構成、?学の情報ネットワーク環境等) の基本知識について説明できる 2. データ通信と制御の仕組みに関する基本知識について説明できる 3. クラウドを含めた情報ネットワーク技術に関する基本的な設定?法やスキルを場?に応じて適切に実?することができる [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	授業中に適宜資料を配付します。					
20.参考文献	『本当にやさしく学びたい人の! 絵解き ネットワーク超入門』増田若奈, 技術評論社, 2019 年 『クラウド活用テクニック 150 2020 年最新版』河本 亮, スタンダード株式会社, 2020 年					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 10% (2) 知識テスト (目標 1・2 に対応) 5% (3) 課題: 情報デザインワーク「伝えたいことの整理」 (学習?標 2 に対応) 15% (4) 課題: フローチャート図作成 (学習?標 3 に対応) 15% (5) 課題: ホームページ作成 (学習目標 3 に対応) 15% (6) 最終課題: この授業でやったことを整理ワーク (学習?標 1・2					
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 毎週月曜日昼休み 学修支援センター (1 号館 2 階) 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価方法、授業の進め方等	毎回授業終了前_学習日誌「今日やったこと」を WebClass で投稿×15 回
ブロック 1 第 2 回	メディアとコミュニケーション（レクチャー） ・ コミュニケーションツールのワーク（Outlook・Zoom 活用）	事前：Outlook アプリ準備 事後：Zoom 試行
第 3 回	情報デザイン（レクチャー） ・ 抽象化・可視化・構造化のワーク ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 4 回	情報デザイン（ワークのつづき） ・ 抽象化・可視化・構造化のワーク	事前：同上 事後：ブロック課題の実施
第 5 回	情報のデジタル化（レクチャー） ・ 文字のデジタル化ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題①：情報デザインワーク成果物提出
ブロック 2 第 6 回	コンピュータの仕組み（レクチャー） ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：学習内容の復習
第 7 回	アルゴリズムとプログラム（レクチャー） ・ 手順整理ワーク ・ フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 8 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・ フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：同上 事後：ワークのつづき作業
第 9 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・ プログラミングワーク モデル化とシミュレーション（レクチャー） ・ モデルを利用した問題解決ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題②：フローチャート作成成果物提出
ブロック 3 第 10 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ ネットワーク設定の確認ワーク 最終課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 11 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ クラウドサービス活用ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 12 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ html 作成ワーク：html を書いてみる	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 13 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ html 作成ワーク：サンプルを流用して HP を作成する	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 14 回	情報システムとデータの活用（レクチャー） ・ GoogleCollaboratory で Python を使ってみるワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施
第 15 回	学びの振り返り、自己評価、ポートフォリオ記述 / 総評	最終課題：この科目で学習したことを整理して提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP107-Y51	2.科目名	画像処理演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	教職「高一種（情報）」 教科および教科の指導 法に関する科目 「ウェブデザイン実務 士」「上級情報処理士」 資格関連科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	「ウェブデザイン実務士」「上級情 報処理士」の資格関連科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能で す。 2. 小テストでの利用 小テストにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 3. 課題・作品作成での利用制限 ？ 生成 AI の出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出すること は禁止します。 ？ 利用は、アイデア出し、テーマ探し、アウトライン作り、文章校正・表現改善などに限定 してください。 ？ 常に自分自身の思考プロセス					
17.授業の目的と概要	目的： 写真の加工，修正のほか，印刷物の制作や Web デザイン，チラシやポスター作成，映像等のコ ンテンツ制作など，さまざまなクリエイティブな場面では画像加工の技術は広く活用されてい る。この科目は画像編集アプリケーションソフトの実技演習を通して，今後の仕事の基礎とな る画像加工の基本技能を身につける。 概要： はじめて触る人でも，画像編集ソフトの画面の名称やよく使う機能の基本操作から始め，サン プルファイルを使用して，カラーや色調補正，画像の修正と変形，選択して編集，レイヤーの 編集と活用，文字の書き込み，写真の					
18.学習目標と DPとの関連	1．画像の基礎概念，基本種類について理解し，説明できる。 2．画像処理ソフトの基本機能および基本操作について理解している。 3．写真の編集，写真の修正・加工，文字扱いなどに関する基本的技法についてわかる。 4．Web デザイン用，ロゴ・チラシ・ポストカード作成など目的に合った画像に仕上げるスキ ルが習得している。 5．レイヤー編集と活用，パスの利用などより高度な編集スキルについて理解し，作品制作な どの総合的な運用ができる。 [関連するディプロマポリシー] (5) コミュニケーション技能 (6) 専?的知識・技能の活??					
19.教科書・教材	『できるクリエイター GIMP 2.10 独習ナビ 改訂版 Windows&macOS 対応（できるクリエイ					

	ターシリーズ) 単行本』(インプレス社)	
20.参考文献	『すぐに作れる ずっと使える GIMP のすべてが身につく本』(技術評論社)	
21.成績評価	毎回の演習問題: 13 回 X4=52 点 【学習?標①～④に対応】 リフレクションシート: 13 回 X2=26 点 【学習?標①～④に対応】 期末作品課題: 22 点 【学習?標⑤に対応】	
22.コメント	この授業では, 原則として CAI 教室の PC および専用アプリケーションを利?しますので, 履修人数が教室の容量に拘束される場合がある。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限 (神戸山手) 研究室オフィスアワー 木曜昼休み (神戸山手)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 画像編集ソフトという道具を知る 1-1 画像編集ソフトウェアの画面構成 1-2 ツールボックスの利用 1-3 デジタル画像のしくみ 1-4 キャンバスサイズの変更, 画像解像度 1-5 画像を指定した形式で保存	
	第 2 回 画像をきれいに補正する 2-1 風景を鮮やかにする 2-2 人物をきれいに见せる 2-3 食べ物をおいしそうに見せる	演習物の提出① リフレクションシート①
	第 3 回 Web 用ヘッダー画像を作成する 3-1 画像の土台を作る 3-2 画像の分割と着色 3-3 グラデーションで色と明るさに変化 3-4 素材の切り取りと画像の合成	演習物の提出② リフレクションシート②
	第 4 回 ロゴを作成する 4-1 正円を描く 4-2 複数の円を着色する 4-3 テキストを入力する 4-4 イラスト文字を入力する	演習物の提出③ リフレクションシート③
	第 5 回 チラシを作成する 5-1 背景写真を貼り付ける 5-2 写真を修飾する 5-3 タイトルを追加する 5-4 テキストを追加して装飾する	演習物の提出④ リフレクションシート④
	第 6 回 ポストカードを作成する 6-1 二つの画像を合成する 6-2 画像の質感を変化させる 6-3 ハガキ印刷の画像を作る 6-4 貼り付けた画像を調整する	演習物の提出⑤ リフレクションシート⑤

	第 7 回 画像の色と明るさを調整する 7-1 色編集の基本用語を知る 7-2 自動補正の活用 7-3 色レベルを調整する 7-4 トーンカーブを調整する 7-5 カラーバランスや色合い・明るさ・彩度の調整 7-6 露出・白黒・ネガポジや色温度を編集する	演習物の提出⑥ リフレクションシート⑥
	第 8 回 画像を修正する 8-1 特定の被写体を増やすや消す 8-2 輪郭をぼかす・シャープにする 8-3 部分的に明るく・暗く・にじませる 8-4 フィルターの効果	演習物の提出⑦ リフレクションシート⑦
	第 9 回 画像を変形させる 9-1 変形ツールを知る 9-2 画像のトリミング・拡大・縮小 9-3 画像の遠近感・斜めにする 9-4 画像を回転・反転させる 9-5 画像の特定の箇所を変形	演習物の提出⑧ リフレクションシート⑧
	第 10 回 画像を選択して編集する 10-1 選択ツールについて知る 10-2 選択範囲と調整 10-3 選択範囲のぼかす・縁取・切り取る 10-4 フリーハンドで曲線や直線で選択 10-5 輪郭の操作 10-6 チャンネルの使用 10-7 選択範囲の保存など	演習物の提出⑨ リフレクションシート⑨
	第 11 回 レイヤーを編集する 11-1 レイヤーとは 11-2 レイヤーの追加・コピー・削除 11-3 レイヤーの表示・重なり順・統合 11-4 レイヤーの不透明度・可視部分 11-5 レイヤーグループの追加・編集 11-6 レイヤーグループの統合	演習物の提出⑩ リフレクションシート⑩
	第 12 回 レイヤーを活用する 12-1 フローティングレイヤーとは 12-2 フローティングレイヤーの操作 12-3 レイヤーマスクと関連操作 12-4 レイヤーマスクの編集と適用 12-5 レイヤーマスクの解除	演習物の提出⑪ リフレクションシート⑪
	第 13 回 文字を書き込む 13-1 テキストツールオプションの見方 13-2 テキストボックスの作成	演習物の提出⑫ リフレクションシート⑫

	13-3 文字の色とフォント 13-4 テキスト位置と行間距離 13-5 テキストを画像データにする	
	第 14 回 パスを利用する 14-1 パスで直線・曲線を描く 14-2 パスの調整と連結 14-3 パスの追加・削除・移動 14-4 パスと選択範囲の変換 14-5 パスに沿った描画 14-6 文字テキストとパス変換	演習物の提出⑬ リフレクションシート⑬
	第 15 回 学習振り返りと期末作成 15-1 学習振り返り 15-2 期末作品の要求 15-3 期末作品の作成と提出について	期末作品（■作成・提出） ルーブリックによる評価

1.授業コード (ナンバリング)	CMP205-Y01	2.科目名	データ構造とアルゴリズム (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限	履修制限はありませんが、何らかのプログラミングの知識があった方が疑似言語が楽に読めます。					
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1) アルゴリズム表現としてのフローチャートや疑似言語を読むことができる 2) データ構造の基本種類および関連アルゴリズムの基礎知識について説明できる 3) データ構造とアルゴリズムが情報処理における重要性について説明できる標準的なアルゴリズムを理解する 4) プログラミングやソフトウェアの設計に必要なアルゴリズム活用技法について説明できる “データ構造”と“アルゴリズム”は、計算機科学において極めて重要な基盤であり、プログラムの処理対象となるデータの特性と格納形式、処理手順の					
18.学習目標と DPとの関連	・ 問題発見・解決力根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 ・ 専門的知識・技能 の活用力自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。 この授業は上記の2つの DP に関連しています。 到達目標により、特に専門的知識が身に付きますが、演習を通して解決力も見につきます。					
19.教科書・教材	情報処理教科書 出るところだけ！基本情報技術者 [科目 B] 橋本 祐史 翔泳社					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の課題および宿題 : 60% 4 回の確認テスト : 40%					
22.コメント	この授業では、ただ知識を習得するだけでなく、アルゴリズムとデータ構造の問題を解く能力の向上も目指します。また、この授業を通じて、アルゴリズムとデータ構造に関する知識だけでなく、基本情報技術者試験に合格するためのスキルを身につけてもらうことを目標としています。 ICT を使用しない仕事はほぼなくなってきています。そのため、IT パスポートや基本情報技術者試験といった国家資格の取得を強く推奨します。これらの資格を持つことで、皆さんの将来に大きな利点をもたらします。 ※生成 AI の使用は許可しています。ただし、確認テストでは使用禁止です。 ※また、出力結果のコピー禁止です。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	変数と配列および流れ図の順接・分岐の演習			Webclass の資料を読んで課題を実施してください。		
2 回	流れ図の反復の演習および総合問題			Webclass の資料を読んで課題を実施してください。		

3 回	疑似言語の条件式および演習	教科書の P.37 までの内容を行います。P.37 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
4 回	疑似言語の繰り返しおよび演習	教科書の P.38-47 までの内容を行います。P.38-47 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
5 回	疑似言語の繰り返し・総合演習および確認テスト	教科書の P.48-54 までの内容を行います。P.48-54 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
6 回	疑似言語の関数および演習	教科書の P.55-74 までの内容を 1 回をかけて行います。P.55-74 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
7 回	再帰および疑似言語を用いた再帰の演習	教科書の P.161-172 までの内容を行います。P.161-172 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
8 回	疑似言語を用いた一次元配列の演習およびソートアルゴリズム	教科書の P.96-119 までの内容を行います。P.96-119 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
9 回	疑似言語を用いた二次元配列の演習・総合演習および確認テスト	教科書の P.120-144 までの内容を行います。P.120-144 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
10 回	オブジェクト指向および演習	教科書の P.181-211 までの内容を行います。P.181-211 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
11 回	木構造・スタック・キュー	教科書の P.173-180 および 241-250 までの内容を行います。P.173-180 および 241-250 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
12 回	リストおよびデータ構造の総合演習および確認テスト	教科書の P.212-240 までの内容を行います。P.212-240 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
13 回	n 進数およびビット列	教科書の P.251-268 までの内容を行います。P.251-268 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
14 回	探索および様々なソートアルゴリズム	資料を配布しますので、それを見て復習をしてください。P.269-292 までの教科書を Word にまとめる宿題を出します。
15 回	確認テスト・アルゴリズムとデータ構造を学んだ後 どう活かすのか	教科書と資料の復習をしてください。

1.授業コード (ナンバリング)	CMP206-Y51	2.科目名	ヒューマンインターフェース		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年秋	
10.取得資格の要件	その他教職課程に関連のある科目 「上級情報処理士」「ウェブデザイン実務士」の資格関連科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及びハンズオン実践演習		
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. 小テストでの利用 小テストにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 3. 課題・レポートでの利用制限 ？ 生成 AI の出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 ？ 利用は、自分の回答における日本語文法のチェックや内容に関するアイデア出しなどに限定してください。 ？ 常に自分自身の思考プロセ					
17.授業の目的と概要	目的： 情報機械を介して人間のインタラクションを円滑にし、コミュニケーションを支援するのがヒューマンインタフェースの主要な目的である。情報システムをいかに便利に使えるかは、そのインタフェースの設計に依存する。この科目は、インタフェースの基礎を理解し、関連技術の学習を通して、人間とコンピュータとの関係がどうあるべきか、優れたヒューマンインタフェースの実現を目指すには、技術をどのように活かすべきかなどその課題と動向を学ぶことを目的とする。 概要： 情報システムとしての人間特性の理解から、インタラクションと					
18.学習目標と DPとの関連	1. ヒューマンインタフェースの概要およびその重要性を理解している。 2. 人間とコンピュータシステムの特性を理解している。 3. 入力系・出力系・インタラクション・GUI 設計の基本を理解している。 4. ヒューマンインタフェースの分析・評価手法の基本について理解している。 5. ヒューマンインタフェースの新しい動向と課題について理解している。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『イラストで学ぶ ヒューマンインタフェース 改訂第 2 版』（北原義典(著)） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	課題やレポート(50%)、授業内小テスト(20%)、KPT シート(30%) 課題やレポートは、授業関連内容の調査、考察【学習?標①②③④⑤に対応】 授業内小テストは、2 回 X10＝20 点 【学習?標①②③④⑤に対応】 リグレーションシート：5 回 X6＝30 点 【学習?標①②③④⑤に対応】					

22.コメント	講義では、ほぼ毎日でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 ヒューマンインタフェース概論 ・科?の概要と?的，到達?標，全体の流れなどの説明 1.1 ユーザインタフェースの概念 1.2 ヒューマンインタフェースの分野 1.3 ヒューマンインタフェース関連研究の歴史 I ー ヨーロッパのエルゴノミクスとアメリカのヒューマンファクター 1.4 ヒューマンインタフェース関連研究の歴史 II	
	第 2 回 コンピュータとヒューマンインタフェース 2.1 コンピュータと人間研究 2.2 GUI の登場によるユーザインタフェース革命 2.3 メディアの分類 2.4 メディア処理 2.5 人工知能研究 《ためしてみよう(ディープラーニング)》	配布資料（ワークシート） 課題①
	第 3 回 人間の情報処理モデル 3.1 人間の感覚 3.2 モデルヒューマンプロセッサと行為の 7 段階モデル 3.3 ヒックの法則,フィッツの法則,キーストロークレベルモデル 3.4 人間の欲求」 3.5 人間の行動発現モデル	配布資料（ワークシート） リグレーションシート①
	第 4 回 ヒューマンエラー 4.1 ヒューマンエラーとは 《ためしてみよう(構え)》 《ためしてみよう(ゲシュタルト特性)》 - 4.2 ヒューマンエラーの種類と原因 4.3 ヒューマンエラーの生起モデル 《知っておこう(メタファ)》 4.4 ヒューマンエラーへの予防的対策 4.5 ヒューマンエラーへの対処的対策 4.6 生産現場の異常管理	配付資料（ワークシート） 課題②
	第 5 回 人間サイドからの設計 5.1 ユーザエクスペリエンス設計 5.2 人間中心設計 - 《ためしてみよう(メンタルモデル)》 5.3 ユーザインタフェース設計原則 5.4 ユーザインタフェース設計工程 5.5 ユーザインタフェース仕様書 5.6 プロトタイピング	配布資料（ワークシート） リグレーションシート②
	第 6 回 入力系設計 6.1 情報入力系の分類	配布資料（ワークシート） 課題③

	6.2 キーボード/タッチパネル 《知っておこう(デファクトスタンダード)》 6.3 ポインティングデバイス 6.4 音声認識システム 6.5 画像認識システム 6.6 文字認識システム	
	第7回 出力系設計 7.1 情報出力系の分類 7.2 ディスプレイ 7.3 力覚ディスプレイ 7.4 音声合成システム 《ためしてみよう(立体知覚)》 7.5 コンピュータグラフィックス生成システム	配布資料（ワークシート） リグレーションシート③
	第8回 インタラクション系設計 8.1 インタラクション系設計のステップ 8.2 ユーザ分析とタスク分析 8.3 インタラクティブスタイル設計 《ためしてみよう(チャック,再生と再認)》 8.4 メニューの構造 8.5 メニューの種類 《ためしてみよう(時間知覚)》 8.6 応答時間	配布資料（ワークシート） 小テスト①
	第9回 GUI 設計 9.1 GUI 設計の基本 《ためしてみよう(シグニファイアとナッジ)》 9.2 作業効率性 9.3 わかりやすさを高める表示 《ためしてみよう(色彩知覚)》 《ためしてみよう(脳と微分)》 9.4 ユーザ受容性 9.5 頑健性・安全性 9.6 画面レイアウトとウィジェット 9.7 ウィジェットの配置	配布資料（ワークシート） 課題④
	第10回 ユーザのアシスト 10.1 ヘルプ 《知っておこう(条件づけ学習と学習曲線)》 10.2 チュートリアル 10.3 マニュアル 10.4 AI インタフェース 10.5 人間とシステムの協調	配布資料（ワークシート） 小テスト 授業感想
	第11回 ユーザビリティ評価 11.1 ユーザビリティの評価方法 11.2 ユーザビリティの定量化と指標 11.3 主観指標の尺度 11.4 尺度構成法	配布資料（ワークシート） 課題⑤
	第12回 インタラクションの拡張 12.1 バーチャルリアリティ 12.2 オーグメンテッドリアリティ - 12.3 マルチモーダルインタフェ 12.4 ノンバーバルインタフ 12.5 感性インタフェース	配布資料（ワークシート） 授業感想

	第 13 回 モバイルコンピューティングにおけるヒューマンインタフェース 13.1 モバイル情報機器のインタフェース 13.2 スマートフォンアプリのユーザインタフェース 13.3 Web アプリケーションのユーザインタフェース 《ためしてみよう(メンタルローテーション)》 13.4 空間移動サポート 13.5 ウェアラブルコンピュータ/ウェアラブル端末 13.6 本人認証 《ためしてみよう(スモールワールド現象)》 13.7 ソーシャルメディア	配布資料 (ワークシート) 課題⑥
	第 14 回 ユニバーサルデザイン 14.1 バリアフリーデザインからユニバーサルデザインへ - 《ためしてみよう(障がい者や高齢者の立場で操作)》 14.2 ユニバーサルデザインの設計 14.3 ユニバーサルデザインの例 14.4 情報系のユニバーサルデザイン	配布資料 (ワークシート) 参照リンク 小テスト 授業ふりかえり
	第 15 回 ヒューマンインタフェースの新しい動きと諸課題 15.1 実世界指向インタフェース 15.2 アンビエントインタフェース 15.3 ブレインマシンインタフェース 15.4 ヒューマンインタフェースの諸課題	小テスト② アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	CMP207-Y51	2.科目名	ソフトウェア工学基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐伯元司					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	教職の選択科目 「上級情報処理 士」の必修科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年夏	
10.取得資格の要件	教科および教科の指導法に関する科目 「上級情報処理士」「ウェブデザイン実務士」の資格関連科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：人工知能，データサイエンスなどビッグデータを基にした研究や技術開発が加速している中，それを支えるのは，情報システム開発に関わる情報工学の諸技術である．ソフトウェア工学は，その基礎を固める分野の1つで，情報システムの開発・運用・保守に関して体系的・定量的にその応用を考察する分野である．この科目はソフトウェアの設計開発運用にかかわる基礎的な知識を習得する． 概要： この科目は，コンピュータ科学の知識体系に基づき，開発方法論と開発プロセスという観点からソフトウェア開発に必要な様々な考え方，ソフトウェア開発					
18.学習目標と DPとの関連	① ソフトウェア工学とはどんな学問分野かについて説明できる． ② ソフトウェア開発プロセス，代表的なソフトウェア開発手法，開発管理や環境について説明できる． ③ ソフトウェアモデリング，分析，設計と実装を理解できる．特に UML モデルの基本について理解できる． ④ 要求工学の重要性を理解し，簡単な要求獲得やモデリングができる． ⑤ ソフトウェアテスト・保守について理解している． ⑥ 形式手法を理解し，簡単な形式的記述や検証が行える． ⑦ ソフトウェア開発における品質の重要性について理解している． [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『レクチャー ソフトウェア工学』（鶴林 尚靖(著/文)）サイエンス社 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト：3 回 X8＝24 点 【学習目標①②④⑦に対応】 演習： 7 回 X8＝56 点 【学習目標③④⑤⑥に対応】 ワークシート：5 回 X4＝20 点 【学習目標①②③⑤⑦に対応】 60 点以上で合格					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。 生成 AI の利用について 特に教員が指示しない限り利用は認めません。演習課題，テスト，ワークシートでの利用も同様です。					

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1. ソフトウェア工学とは 1.1 序論：科目の概要と目的，到達目標，全体の流れなど 1.2 ソフトウェアと工学 1.3 ソフトウェア工学誕生の歴史的背景. 1.4 ソフトウェア工学の歴史的歩み 1.5 ソフトウェア工学の概要	
	2. ソフトウェア開発プロセスと開発手法 2.1 ソフトウェア開発プロセスモデル 2.2 ウォータフォールモデル 2.3 反復型開発モデル 2.4 アジャイルソフトウェア開発 2.5 プログラミング言語と開発手法の関係 2.6 オブジェクト指向開発手法	
	3. ソフトウェアモデリング 3.1 モデリングと抽象化 3.2 データフローモデル 3.3 状態遷移モデル 3.4 実体関連モデル 3.5 統一モデリング言語 UML	演習 PC 持参のこと
	4. オブジェクト指向と UML 4.1 オブジェクト指向の考え方 4.2 クラス図	演習 PC 持参のこと
	5. UML を使ったソフトウェア分析 5.1 オブジェクト指向による分析：ユースケース図 5.2 構造モデリング 5.3 振舞いモデリング：状態図，アクティビティ図，シーケンス図など 5.4 モデルの洗練	演習 PC 持参のこと
	6. 要求工学 6.1 要求工学とは 6.2 要求獲得 6.3 要求の仕様化 6.4 要求検証 6.5 要求管理	小テスト PC 持参のこと
	7. ゴール指向要求工学 7.1 アクタ，ゴールとは 7.2 アクタ間の依存関係 7.3 ゴール詳細化 7.4 iStar によるゴールモデル構築	演習 PC 持参のこと
	8. 設計と実装 8.1 構造化分析法と構造化設計 8.2 オブジェクト指向設計 8.3 ソフトウェアアーキテクチャ 8.4 設計モデルの洗練	演習 KPT シート PC 持参のこと

	8.5 デザインパターン 8.6 UML モデルからのプログラム実装 8.7 ソフトウェア再利用	
	9. テスト 9.1 効果的なテストとは 9.2 要求仕様テスト 9.3 ブラックボックステストとホワイトボックステスト 9.4 開発プロセスから見たソフトウェアテスト 9.5 効果的なテスト仕様の作成 9.6 テスト駆動開発とテストの自動化	演習 KPT シート PC 持参のこと
	10. 形式手法 10.1 形式手法とは 10.2 形式手法の実践 10.3 数理論理 10.4 形式的仕様記述言語 10.5 モデル検証	演習 PC 持参のこと
	11. 保守 11.1 ソフトウェアの寿命と保守 11.2 ソフトウェア保守の分類 11.3 保守を支援する手法と技術 11.4 保守からソフトウェア発展へ	KPT シート
	12. 品質 12.1 ソフトウェア開発における品質の重要性 12.2 プロダクト品質 12.3 プロセス品質 12.4 ソフトウェアレビュー 12.5 ソフトウェアメトリクス 12.6 ソフトウェアリポジトリマイニング	小テスト KPT シート PC 持参のこと
	13. 開発管理と開発環境 13.1 プロジェクトマネジメント 13.2 ソフトウェア開発環境	小テスト PC 持参のこと
	14. これからのソフトウェア工学 14.1 ソフトウェア工学の成熟度 14.2 ソフトウェア工学の将来 14.3 ソフトウェア工学研究のあり方	KPT シート
	15. 学習振り返りアピールシート 学習成果と今後のスキル活用の可能性についてアピールする文書を作成	アピールシート PC 持参のこと

1.授業コード (ナンバリング)	CMP208-Y01	2.科目名	ウェブプログラミング演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分	講義	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年以降	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1) Web ページの記述言語の基本について説明できる 2) HTML+CSS に関して全体的な説明ができる 3) テキストエディタを使って HTML と CSS を記述できる 4) 様々なウェブデザインスキルを演習問題に適用できる 5) Web クリエイター（エキスパート）能力認定試験に必要な知識を習得する ウェブページは様々なビジネスシーンにおいて、情報共有の基本手段となっており、記述言語 HTML とスタイルシート、画像データなどで構成されている。Web クリエイターは、ウェブサイトをデザイ					
18.学習目標と DPとの関連	(6) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。 HTML/CSS を学ぶ事で、これらの専門的知識・技能の基礎を学びます。					
19.教科書・教材	これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS & Web デザイン 1 冊目の本,Capybara Design 竹内 直人, 竹内 瑠美 著					
20.参考文献	初心者からちゃんとしたプロになる HTML+CSS 標準入門,おのれいこ, 栗谷 幸助, 相原 典佳, 塩谷 正樹, 中川 隼人					
21.成績評価	毎週の作業および課題 13 回 : 65% 最終課題の途中報告 2 回 : 24% 定期試験の代わりに HTML に関する課題を提出 : 11%					
22.コメント	ノート PC を必ず毎回持ってきてください。 授業は教科書と補助資料を使用しながら進めます。 大切な事は自分で手を動かすことです。 授業を聞いて頭の中で理解したと思っても実際に手を動かすと書けないことが多いかと思いま す。 そのため、毎回、教科書の復習と関連課題を課します。 1 時半 30 分程度を目安としますので必ず 1 週間の中でどの時間帯に復習と課題を行うのか決め ておいてください。 私のオフィスアワーの時間に一緒に復習や課題をするのも良いかと思うので、 その時間に授業がなければオフィスアワーと一緒に復習と課題をしましょう。 また、このような新しい言語を勉強するとよく分からなくて、苦しくなることが多々ありま す。 一つの解消法は「慣れる」ことです。「理解する」のも大事ですが、慣れるのも大事です。 苦しいと感じたら、毎日、教科書をほんの少しだけ見て、タグに慣れてください。 ※生成 AI の使用は許可しています。ただし、出力結果はコピー禁止です。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	環境構築の準備と HTML の基礎知識	第一回で環境構築をするので必ず環境構築を終わらせてください。環境構築が授業内で終わらなかった場合はオフィスアワーなども活用してください。
	HTML の基礎知識（１）	教科書の P.61 までの内容を 2 回にかけて行います。そのため、P.61 までの内容を予習・復習してください。
	HTML の基礎知識（２）と演習	教科書の P.61 までの内容を 2 回にかけて行います。そのため、P.61 までの内容を予習・復習してください。
	CSS の基礎（１）	教科書の P.93 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.93 までの内容を予習・復習してください。
	CSS の基礎（２）	教科書の P.93 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.93 までの内容を予習・復習してください。
	CSS の基礎（３）と CSS の演習	教科書の P.93 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.93 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践（１）	教科書の P.139 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.139 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践（２）	教科書の P.139 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.139 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践（３）	教科書の P.139 までの内容を 3 回にかけて行います。そのため、P.139 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践 II（１）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践 II（２）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践 II（３）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	HTML+CSS 実践 II（４）	教科書の P.207 までの内容を 4 回にかけて行います。そのため、P.207 までの内容を予習・復習してください。
	自由制作(1)：サイト構成とデザイン案の作成	自由に考え、サイトを作ってください。最終課題として提出します。
	自由制作(2)：HTML と CSS を用いたコーディング	自由に考え、サイトを作ってください。最終課題として提出します。

1.授業コード (ナンバリング)	CMP209-Y01	2.科目名	情報セキュリティ論（隔週）		3.単位数	2
4.授業担当教員	森井昌克					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	1 年生春学期開講科目「ICT リテラシー」を履修済であることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義科目		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は DX（デジタルトランスレーション）の時代において、個人として社会生活を生き抜くためのサイバー社会での危機管理能力を身に着け、更には所属するであろう企業や組織をサイバー攻撃から守る方法を与える。 【概要】 学ぶべき項目をキーワードとして挙げる。コンピュータ、スマホ、プライバシーの漏えい、情報漏えい、インターネット、LINE、Twitter、バカッター、誹謗中傷、フィッシング詐欺、SNS、SMS、パスワード、指紋認証、顔認証、バイオメトリック認証、AI、QR コード、電子決済、スマホ決済、プロ					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の （1）自律的で主体的な態度（自律性） （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力 の学修に関連しています。本科目の学修目標は以下の通りです。 ①サイバー社会で自分を守る知識と技術を身に付ける。 ②サイバー社会の成り立ちを基にして、その危険性を俯瞰し、危機管理能力を身に付ける。 ③サイバー社会での犯罪行為、その技法、そして対策について概要を理解する。 ④組織において、サイバーセキュリティ対策を企画し、実践することが出来る。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	森井教授のサイバーフィジカルセキュリティ講座 ～安心・安全な社会を目指して～ https://www.jdsf.gr.jp/morii-column YAHOO！JAPAN ニュース オーサーコラム（森井教授の怪奇骨董技術箱） https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/moriimasakatsu NHK クローズアップ現代 仕組まれた罠(わな) ～P C 遠隔操作の間～ https://www.nhk.jp/p/gendai/ts/R7Y6NGLJ6G/episode/					
21.成績評価	評価の方法と配点は以下のとおりである。 ①講義内容に関する課題レポート 20 点 ②原則毎回講義後に行われる小テスト 20 点 ③最終試験（最終課題レポートに代える場合もある） 60 点					
22.コメント	メールや WebClass に設置した質問箱で質問が出来ます。質問にはできる限り即応しますが、数日後になる可能性もあります。					

	【生成 AI 利用に関して】原則、無制限で認めます。ただし、小テスト等の試験に関しては用いることはできません。レポート等で用いる場合は、利用した旨を明記し、どの部分をどのように利用したかについても明記すること。	
23.オフィスアワー	特に指定しませんが、講義後、もしくはメールでアポイントを取ってください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	情報セキュリティとは	
第 2 回	プライバシーを守る	
第 3 回	ネットにおける誹謗中傷とその対策	
第 4 回	インターネットの仕組みとその問題点	
第 5 回	スマホとは何か、そのセキュリティ上の問題点	
第 6 回	パスワード	
第 7 回	個人認証技術 (IC カード、バイオメトリック認証)	
第 8 回	AI とそのセキュリティ	
第 9 回	ハッキングとしての不正アクセス	
第 10 回	サイバー攻撃	
第 11 回	マルウェア (コンピュータウイルス)	
第 12 回	ランサムウェア	
第 13 回	QR コード	
第 14 回	無線 LAN セキュリティ	
第 15 回	総論 (最近の事件分析とその動向)	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP211-Y01	2.科目名	Python プログラミング演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業で自身のノート PC で実習する		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 1) Python プログラミングの必要性について説明できる 2) Python の基本環境づくりやインストールができる 3) Python の基本的な構文について説明でき、どのような動作しているのかを理解できる 4) Python 簡単なプログラムのコーディングができる 【概要】 Python はシンプルで、可読性と汎用性の高いプログラミング言語である。データの統計解析、AI 応用・機械学習、IoT データ活用など、Python はあらゆる分野のライブラリが充実しており、幅広い応用分野で使われている。本科					
18.学習目標と DPとの関連	1) Python プログラミングの必要性について説明できる 2) Python の基本環境づくりやインストールができる 3) Python の基本的な構文について説明でき、どのような動作しているのかを理解できる 4) Python 簡単なプログラムのコーディングができる 上記は専門的知識・技能 の活用力に関連しています。					
19.教科書・教材	スッキリわかる Python 入門, 国本大悟 (著), 須藤秋良 (著), 株式会社フレアリンク (監修)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回の演習・確認問題で評価を行う : 25% 宿題 : 25% 小テスト : 50% 小テストはコードを読み、その内容を理解することを問うテストとします。 4 回程度を予定しています。					
22.コメント	後期の ICT 応用 A(データサイエンス実践基礎)を取る事を強くおすすめします。 ICT 応用 A(データサイエンス実践基礎)も Python を使った授業です。 データ解析に関わる内容はそちらに移動させているので、 こちらの授業は文法や基礎的なライブラリ、AI などの演習を中心に実施しています。 授業の後半の内容は進捗に合わせて変化させます。 演習を中心に行いますので、 応用であるライブラリの説明等は ICT 応用 A(データサイエンス実践基礎)に任せることになるかと思います。 ※生成 AI の使用は許可しています。ただし、使用していいのは演習中のみで、出力結果はコピー禁止です。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第一回	オリエンテーションおよび Python の概要と開発環境			Python を実行できる環境を必ずこの回で作リ		

		上げてください。 教科書 P.30 までを読んでノートにまとめてください。
第二回	四則演算、変数、条件式と分岐、反復処理の文法を学ぶ	教科書 P.34-47 をノートにまとめてください。
第三回	変数、条件式と分岐、反復処理の詳細と演習	教科書 P.48-63 をまとめてください。
第四回	変数、条件式と分岐、反復処理の詳細と演習 (2)	教科書 P.64-77 までをノートにまとめよ。
第五回	リスト	
第六回	リストに関する演習	
第七回	変数、条件式と分岐、反復処理、リスト等の演習と小テスト	
第八回	関数	
第九回	関数の演習	
第十回	標準ライブラリとその演習	
第十一回	関数とライブラリに関する演習と小テスト	
第十二回	Stable diffusion の Python での使用方法について	
第十三回	今までの内容の復習および演習 (1)	
第十四回	今までの内容の復習および演習 (2)	
第十五回	今までの内容の小テストおよびクラス、クラスに関する演習	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP302-Y51	2.科目名	ウェブデザイン総合演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「ウェブプログラミング演習Ⅰ」「ウェブプログラミング演習Ⅱ」を受講済みであること。 受講していない人は第一回までに自分で HTML を書けるレベルになっている事。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面、ノート PC の持参が必須		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	総合的な応用として、ウェブサイトの構築に関するプロセスを実践的に学び、開発ツールの役割と生産性を理解してもらう。この科目は、ウェブデザイン実務士資格のコア科目で、最終に履修者各自が本格的なウェブサイト作品を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	1) ウェブサイトの構築に関する企画立案を行う 2) ウェブサイトの構築作業を行う 3) プレゼンテーション、デザイン制作、総合評価といったプロセスを実践的に学び、開発ツールの役割と生産性を理解する これらは (1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(6) 専門的知識・技能 の活用力 と関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	授業課題および途中経過の報告：50% 最終制作物途中報告：30% 最終制作物：20%					
22.コメント	授業を聞いて、手を動かすというタイプの授業ではなく、 自分で作りたいウェブサイトを作る自由制作がメインとなります。 自由にウェブサイトを作って遊んでみてください。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第一回	HTML と CSS の復習					
第二回	HTML と CSS の復習 よくあるパターンのサイトの作成(1)					
第三回	ウェブページ作成(2)：よくあるパターンのサイトの作成(2)					
第四回	javascript の復習 よくあるパターンのサイトの作成(3)					
第五回	javascript の復習 よくあるパターンのサイトの作成(4)					
第六回	javascript の復習 よくあるパターンのサイトの作成(5)					
第七回	Stable diffusion を用いた画像素材の作成と著作物に関する注意					
第八回	自由制作(1)：サイト構成とデザイン案の作成					

第九回	自由制作(2) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十回	自由制作(3) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十一回	中間発表	
第十二回	自由制作(4) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十三回	自由制作(5) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十四回	自由制作(6) : サーバへの公開準備	
第十五回	最終発表	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP303-Y01	2.科目名	人工知能の基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年 春	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの選択科目 G 検定・データサイエンス検定系資格		11.先修条件	Python プログラミングや Jupyter Notebook の基本がわかる		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋演習		
16.履修制限	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 適切な活用場面 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. テストでの利用 小テストなどにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 3. 課題・コーディング支援での利用 ？ 生成 AI の出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 ？ 利用は、コーディングの補助・自分のコードのエラ探しや、レポート内容に関するアイデア出しなどに限定してください。 ？ 常に					
17.授業の目的と概要	目的： 最近、対話型 AI の ChatGPT などの生成 AI が登場して世間の注目を集めており、世界に大きなインパクトを与えている。AI やデータサイエンスの技術は、文系・理系を問わず様々な分野で利活用が可能で、大学生の誰もが身につけるべき基礎的なスキルと考えられている。この講義では、人工知能の基礎として、データを扱う基方法と、機械学習、ディープラーニングなどといった AI 特有のデータ処理技法を、実例を通して実践的に学ぶ。また、 AI の倫理と社会的影響のトッピングもとりあげて学習する。 概要： カリキュラムの内					
18.学習目標と DP との関連	1. AI の基本、AI の種類とその応用、AI の技術と方法について理解している。 2. データサイエンス・機械学習のためのプログラミング環境構築や基本ライブラリを理解している。 3. 機械学習の基本、機械学習の典型的モデルおよびその応用について理解している。 4. 深層学習の基本、ニューラルネットワークの実装と簡単な応用について理解している。 5. AI における偏見と公平性など、AI の倫理や社会的影響に関わる課題について理解している。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：「AI 機械学習入門」 インフォテック・サーブ社 教 材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	演習課題(60%)、中間テスト(20%)、ワークシート(20%) ・ 演習課題の取組：10 回 X6＝60 点 【学習?標① ④ ⑤に対応】 ・ 小テスト：2 回 X20＝20 点 【学習?標①～③、⑤に対応】					

	中間小テスト・期末小テストの2回 ・ワークシート：5回 X4=20点 【学習?標②③⑤に対応】	
22.コメント	ノート PC を利?するので、PC 持参すること	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜3限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 ガイダンス ・科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 1.1 AI の概要（歴史・第3次 AI ブーム） 1.2 AI の種類と応用（推論・探索・知識ベース・機械学習） 1.3 AI プログラミング環境構築	★毎回 PC 必携
	第2回 生成系 AI-ChatGPT の使用について 2.1 ChatGPT の仕組み 2.2 ChatGPT の要素技術 2.3 ChatGPT の使用方法と標準的プロンプトの書き方 2.4 教育現場での利用を考えよう（学生の場合）	配布資料 課題①
	第3回 機械学習の概要と環境構築 3.1 機械学習とビッグデータ解析 3.2 機械学習の分類 3.3 学習環境の構築	配付資料 KPT シート①
	第4回 機械学習のライブラリ 4.1 仮想 ML 環境の構築と Jupyter Notebook 4.2 Numpy、matplotlib、pandas のインストールと確認 4.3 scikit-learn、TensorFlow のインストールと確認	配付資料 課題②
	第5回 NumPy の基本と応用 5.1 NumPy のデータ型 5.2 配列の変形と生成 5.3 線形代数の復習	配付資料 KPT シート②
	第6回 Matplotlib の基本と応用 6.1 Matplotlib とデータの可視化 6.2 1次元データと2次元データグラフ 6.3 データセットで作成演習	配付資料 課題③
	第7回 Pandas の基本と応用 7.1 Pandas の主なデータ構造 7.2 DataFrame の基本 7.3 DataFrame とデータの操作	配付資料 KPT シート③
	第8回 クラスタリングと教師なし学習 8.1 クラスタリングの基本 8.2 KMeans 法について 8.3 混合分布モデル 中間試験	配付資料 小テスト①
	第9回 機械学習と回帰分析 9.1 回帰分析とは 9.2 scikit-learn での線形回帰	配付資料 課題④

	9.3 重回帰分析	
	第 10 回 深層学習と画像処理 10.1 MINST のデータ構造 10.2 画像データの生成 10.3 画像データの読み込み	配付資料 KPT シート④
	第 11 回 サポートベクトルマシンと分類問題 11.1 SVM の利用 11.2 分析性能の向上 11.3 応用問題	配付資料 課題⑤
	第 12 回 ロジスティクス回帰 12.1 ロジスティック回帰の仕組み 12.2 ロジスティック回帰の利用 12.3 実の分類問題に適応	配付資料 KPT シート⑤
	第 13 回 深層学習と NLP 13.1 人工ニューロの仕組み 13.2 自然言語処理の基本 13.3 形態素解析、構文解析、意味解析	配付資料 課題⑥
	第 14 回 人工知能の法と倫理 14.1 AI システム開発・運用 14.2 AI における注意点 14.3 設計・開発段階の課題	配付資料 小テスト② 授業感想
	第 15 回 全体のまとめ 15.1 AI の最新動向 15.2 期末テスト 15.3 学習成果のアピールシート	全体の振り返り アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	CNP101-M71	2.科目名	地域ふれあい実習		3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、榎田恵子、杉野美礼					
5.授業科目の区分	看護師国家試験 指定科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験 必須科目		11.先修条件	地域在宅看護論の単位を取得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	臨地実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 地域で生活する人々の中で人と関わる力を養い、人々の生活と生活の場である地域を理解し、その人にとっての健康とは何かを考える。また人々が健康を維持・増進するための支援について考察を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	【DP との関連】本科目の内容は看護学科 DP：(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル の土台となる科目である。 【到達目標】 1. 地域で生活する人々に関心を持ち、相手の立場を考えながら人と関わる力を養う。 1) 対象者や家族を尊重する態度を養う。 2) 対象者や家族の生活に関心を持ち、傾聴する態度を習得する。 3) 対象者の生活を健康の視点から対象者と共に考える姿勢を養う。 4) 対象者や家族の健康を維持・増進する活動に積極的に参加する。 2. 地域で生活する人々を健康の維持・増進の視点から理解する。 1) 地域で生活する人々の発達段階と発達課題、その世代の健康状態や健康課題の特徴について知る。 2) 地域で生活する人々が毎日の生活をどのように送っているかを知る。 3) 地域で生活する人々の健康に関する価値観について知り、健康を維持・増進するための生活習慣や健康行動を知る。 3. 地域で生活する人々と家族が生活する場とその地域の特性と社会資源を知る。 1) 地域で生活する人々と家族が生活する場とその地域の特性を知る。 2) 地域で生活する人々や家族が生活する地域の社会資源について考えることができる。 4. 地域で生活する人々を理解し、健康を維持・増進するための支援について考察する。 1) 地域で生活する人々や家族の健康が、生活する地域と関連していることについて理解する。 2) 地域で生活する人々の健康を維持・増進するための支援について考察する。					
19.教科書・教材	河原加代子ほか： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（1）地域・在宅看護の基盤 医学書院 2025					
20.参考文献	随時紹介する					
21.成績評価	事前学習課題（10％）、実習記録（30％）、カンファレンスへの取り組み（10％）、学習成果発表会（20％）、最終レポート課題（20％）、態度（10％）とする。					
22.コメント	本実習は、実習グループのゼミ単位で Program Based Learning として地域活動を行います。先行科目「地域・在宅看護論」で準備した実習計画に基づき、グループメンバーで協力しながら主体的に進めます。					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑、鵜飼、榎田（水曜日昼休み）、					

センターオフィスアワー：畑、鶏飼、煤田（木曜日昼休み）		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	事前学習 1) 実習オリエンテーション 2) グループ別事前学習、実習計画、インタビューガイド作成	・実習要項 ・地域・在宅看護論で作成した地域マップ、実習計画等、関連資料持参のこと
	〔臨地〕 多様な場、多様な世代・対象とのふれ合い 学生個々が生活している地域 ・地域の特性、地域アセスメントについてのまとめ ・地区探索 ・地域で生活している人々とその家族等へのインタビュー ・「実習計画書」の追加・修正を行う。 この取り組みを通して多様な発達段階にある人々や多様な世代・対象の集いの場に出かけ、場の特徴や、発達段階ごとの健康観、健康行動について理解する。	
	〔臨地〕 大学周辺の地域 ・グループで「地域探索マップ」を作成する。	
	〔臨地〕 午前：大学周辺の地域 ・地区探索および、地域の人々へのインタビュー グループ毎に三木市内の小地区（青山、緑が丘、自由が丘）の探索を行い、人々の生活と地域の特徴および健康の維持・増進との関連について理解を深める。 対象者へのインタビューを通して、対象の生活、暮らし、健康等について考える。 午後：グループワーク ・地区探索についての学びをまとめる	
	〔臨地〕 午前：地区探索および、地域の人々へのインタビュー 対象者へのインタビューを通して、対象の生活、暮らし、健康等について考える。 午後：グループワーク ・地区探索についての学びをまとめる	実習要項、実習記録
	〔臨地〕 午前：グループワーク ・様式3の発表および共有 午後：PM 個別学習 記録およびレポートのまとめ	
	午前 グループによるプレゼンテーションの準備 午後 各グループによるプレゼンテーション	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP301-M01	2.科目名	急性看護学実習		3.単位数	3
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	基礎看護学実習Ⅱ・成人健康看護学概論・急性重症看護援助論・急性慢性看護技術演習、の単位を修得した看護学科学生					
17.授業の目的と概要	【目的】 急性期にある患者・家族が危機状況を乗り越え、治療や症状によってもたらされる心身への侵襲から速やかに回復し、セルフケア能力を発揮できるよう、急性期病棟で臨床患者への看護実践を通して急性看護学に関する援助を学修する。 【概要】 対象者の病態と手術による侵襲を理解し、合併症を予防し、術後変化した形態・機能の回復過程にあった療養生活に患者が主体的に取り組める援助の在り方を、看護過程を用いて学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 【学修目標】 1.手術を受ける術前患者の器質的・機能的障害と心理・社会的な状況を把握し、麻酔・手術の影響を予測し合併症を予防するための援助を行うことができる。 2.術後患者の合併症の予防及び手術により変化した形態・機能の回復段階に合わせて、日常生活の援助ができる。 3.術後患者が 主体的に療養生活に取り組めるよう、援助することができる。 4.手術を受ける患者・家族の健康上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。					
19.教科書・教材	成人健康看護学概論・急性重症看護援助論・疾病治療論Ⅱ等で配布された講義資料。					
20.参考文献	実習中適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習課題 20 % (メールで連絡された周手術期看護についての課題) 実習記録 30 % 実習での看護実践 30 % 実習中学習課題 10 % (実習病棟で多い手術とその合併症・検査・治療・看護、関連図、看護計画) 実習態度 10 % ※※実習記録及び課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。					
22.コメント	受け持ち患者様に必要な看護が実施できるよう、主体的に学修する習慣を身につけましょう。 急性看護学実習に関する課題・レポート・実習記録等については、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	実習中は随時相談してください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1週】 月曜日	学内オリエンテーション、患者の看護計画立案に必要な文献検討	
火曜日	学内演習 記録物整理・患者の看護計画立案に必要な文献検討	
水曜日	病院実習 病棟・手術室・ICU オリエンテーション、情報収集	
木曜日	病院実習 病棟・手術室・ICU オリエンテーション、情報収集	
金曜日	病院実習 病棟・手術室・ICU オリエンテーション、情報収集、見学記録作成	
【第2週】 月曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開	
火曜日	学内演習 看護計画の修正	
水曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開	
木曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開・関連図作成	
金曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開、受け持ち患者の関連図のカンファレンス	
【第3週】 月曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開、受け持ち患者の関連図のカンファレンス	
火曜日	学内演習 課題レポート作成、看護計画の修正、記録物の整理	
水曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開	
木曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開	
金曜日	病院実習 受け持ち患者への看護過程の展開、病棟最終カンファレンス	

1.授業コード (ナンバリング)	CNP302-M01	2.科目名	慢性看護学実習		3.単位数	3
4.授業担当教員	岩下真由美、白石夕起子、房間美恵					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	慢性疾患や障がいをもちながら生活する患者とその家族が自己管理能力を高め、心身の不調と折り合いを付けながらその人らしく療養生活を継続できるよう支援を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1) 自律性(2) 社会に能動的に貢献する姿勢(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力と関連しています。 1.疾病および治療の特徴、発達段階・発達課題、生活背景を踏まえ。患者を多角的・全体的に把握することができる。 2.慢性疾患や障がいをもちながら生活する患者の機能障害の回復と主体的・継続的なセルフケアを支援することができる。 3. 患者に行われる検査、治療、処置の必要性および留意点を踏まえて援助および介助ができる。 4.患者および家族に関わるチームメンバーと連携をとり援助できる。 5.患者の尊厳を重んじる態度、医療チームの一員としての誠実で謙虚な態度、自己研鑽しつづける態度を身につけることができる。					
19.教科書・教材	成人健康看護学概論、慢性看護援助論、急性・慢性看護技術演習、疾病治療論Ⅰなどで配布された講義資料					
20.参考文献	実習中適宜紹介する					
21.成績評価	1. 実習科目の出席時間数が当該科目の時間数の5分の4以上なければならない。 2. 実習到達目標に基づき作成された実習評価表をもとに評価する。					
22.コメント	主体的に実習に取り組みましょう。					
23.オフィスアワー	実習中は随時相談をしてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1週】 月曜日	【学内】 1. 慢性看護学実習オリエンテーション 2. 事前学習			・ 実習要綱 ・ 慢性看護学実習 実習要項		
火曜日	【病棟】 1. 病棟オリエンテーション 2. 受け持ち患者の初期情報の収集 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションをとりながら情報を集める					
水曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2.受け持ち患者のケアを看護師と一緒にい行い信頼関係を築く					

木曜日	【学内】 1.受け持ち患者の看護に関する学習 2.実習記録（受け持ち患者の情報。アセスメント）の整理	
金曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2.カンファレンス：全体像（関連図）、看護問題の抽出	
【第2週】 月曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
火曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2.カンファレンス：看護計画の立案	
水曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
木曜日	【学内】 1.実習記録（看護問題、短期目標、看護計画）の修正・追加 2.受け持ち患者の看護の学習 3.中間評価	
金曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
【第3週】 月曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
火曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践	
水曜日	【病棟】 1.受け持ち患者への看護実践 2.カンファレンス：まとめ、学びと課題	
木曜日	【学内】 1.グループごとのまとめ 2.統合カンファレンス 3.評価面接（個別）	
金曜日	【学内】 1.実習記録（全看護過程の展開）の修正・追加	

1.授業コード (ナンバリング)	CNP303-M01	2.科目名	精神看護学実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里、吉井ひろ子					
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	基礎看護学実習Ⅱ、精神健康看護学概論、精神看護援助論を修得済みの者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【精神看護学実習の目的】 1) 精神の健康に障害のある人とその家族を全人的に理解し、精神科医療の特殊性（治療構造、法的側面、倫理的配慮）を踏まえた上で対象者のストレングスを活かした個別性に応じた看護を実践する。 2) 精神の健康に障害のある人との信頼関係を構築し、その人の人権と尊厳を守りながら、自己決定を尊重した看護を提供する。 3) 精神の健康に障害のある人がその人らしく地域社会で生活するために必要なサポートシステムを理解し、多職種連携における看護の役割を説明できる。 4. 看護専門職としての研鑽を継続してい					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神看護学実習の学習目標】 1) 精神看護の既存の知識を復習し、精神科医療の特殊性と患者の権利擁護を理解した上で、安全管理や倫理的配慮について説明できる。 2) 精神を病む人とのかかわりを通して、対象者と信頼に基づく援助関係を築くために適切なコミュニケーションをとることができる。 3) 精神を病む人を「人」として理解し、生物・心理・社会的な側面から包括的にアセスメントすることができる。 4) 包括的なアセスメントに基づき、個別性を考慮し、対象者のストレングスを活かした看護計画を立案し、必要なケアを実践・評価することができる。 5) 精神を病む人が地域で生活する上で必要な支援の内容を述べることができ、退院支援から地域生活への移行に必要な援助を説明できる。 6) 看護を提供するために不可欠な看護倫理に基づいた行動をとることができる。 7) 看護専門職として必要な知識・技術・態度の習得に必要な基本的行動がとれる。 8) 精神看護学実習を振り返り、自己の学びと看護専門職として能力を向上させるために必要なことを記述することができる。 詳細は精神看護学実習要項を参照すること。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	実習目標と連動したルーブリックを用いて評価を行う。 詳しくは精神看護学実習要項の評価表を参照すること。					
22.コメント	実習前より自身の体調管理をしっかりとて、遅刻欠席はしないようにしましょう。 実習前の課題を必ず行い、これまでの学習を振り返り、知識を押さえた上で実習に挑みましょう。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP304-M01	2.科目名	小児看護学実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾ひとみ					
5.授業科目の区分	専門科目 小児看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	小児健康看護学概論 小児看護援助論 基礎看護学実習Ⅱ		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	子どもと家族の成長・発達段階、健康段階に適し、子どもと家族を尊重したケアを学ぶ。 1. 保育園実習の目的 健康な子どもの成長・発達と生活習慣の獲得過程を理解し、子どもを尊重し、子どもが健康に育つための関わり（集団にむけての関り・個別性のある関り）について学ぶことができる。 2. 小児病棟実習の目的 子どもの成長・発達と生活習慣の獲得過程に、疾病・治療・入院・家族関係がどのように影響しているかを理解し、子どもと家族の目線に添ったケアとその根拠を考えることができる。					
18.学習目標と DPとの関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP2 社会に能動的に貢献する姿勢 DP3 多様な文化やその背景を理解し、受け入れる能力 DP4 問題発見・解決力 DP5 コミュニケーションスキル DP6 専門的知識・技能の活用 1. 子どもの年齢に応じた成長・発達と生活能力の獲得状況の関係性を把握し、子ども・家族とコミュニケーションをとることができる。 2. 子どもの健康促進・セルフケア獲得にむけた援助を行うことができる。 3. 入院・疾患・治療による子どもと家族への生活・成長・発達への影響を把握し、子どもと家族のニーズに沿った援助ができる。 4. 看護専門職者として子どもと家族を尊重することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献						
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。 実習目標の達成度の評価は、実習場面、実習記録によって行う。 保育園（所）実習、病院実習をあわせて小児看護学実習としてまとめて評価する。					
22.コメント	事前学習を十分にいき、自分なりの目標をもって実習に臨むようにして下さい。 事前学習は、2024 年度 小児看護援助論の授業中に作成した資料と、病態図作成（小児看護学実習の実習要項に記載）です。 なお、実習施設によっては追加での学習が必要となる内容があるため、その内容については別途、説明します。 * 内容が不十分なものについてはやり直しを求めます。					
23.オフィスアワー	実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP305-M01	2.科目名	母性看護学実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本梨花、堤綾子、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	基礎看護学実習Ⅱ 母性健康看護学概論 母性看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	周産期にある母と子およびその家族の特性を理解し、 よりウェルネスな健康状態の維持・増進のために必要な看護の知識・技術・態度を習得し、母性看護を実践できる基礎的能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 妊産褥婦と新生児の身体的・心理的特徴が述べられる。 2) 妊産褥婦と新生児に対する、健康の維持・増進のための看護を計画できる。 3) 母子の愛着形成の促進および家族機能の構築のための援助について説明できる。 4) 将来の看護専門職者としての態度を習得する。 [DP との関連] 保健医療学部看護学科の DP である (1) 自律的で主体的な態度 (自律性) (2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用 力、に関連する科目である。					
19.教科書・教材	母性健康看護学概論および母性看護援助論で使用した教科書					
20.参考文献						
21.成績評価	母性看護学実習評価表を用いて実習記録・母性看護学実習レポート・事前準備学習内容を評価する。 (母性看護学実習ルーブリック評価表を使用) 実習状況 80％・課題レポート 10％・事前準備学習内容 10％					
22.コメント	母性看護学実習は対象者の特性から、展開がとても早いことと、母子両方の視点での看護が必要です。 主体的に事前学習をしっかり行い、効果的な学びができるようにしましょう。					
23.オフィスアワー	有本 吉沢 細川 堤 実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
実習前オリエンテーション	[実習オリエンテーション] 4 月 4 日 実習と事前学習に関する説明を行います。			実習要綱、母性看護学実習要項は、この時に配布します。		
1 週目	学内実習：月曜日～金曜日 9：00～16：30 臨地実習直前オリエンテーション 模擬事例（母子）展開・模擬実習・技術演習など					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP306-M01	2.科目名	老年看護学実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	高田美子、炭野実千、中山和美					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	基礎看護学実習Ⅱ 老年健康看護学概論 老年看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】病棟での臨地実習を通して老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と、人生の統合期である発達課題を理解し、対象に応じた看護実践能力を養うことを目的とする。 【概要】病院実習では、老年期という発達段階にある受け持ち患者を総合的に理解し、病態と対象者が有する資源とを結び付け、生活機能の再構築の観点からの看護過程を学ぶ。さらに、実習を通して高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割の理解、及び高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度の修得と自己の老年観を養うこと					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ① 老年期にある対象を総合的に理解することができる。 ② 情報を病態・対象者が有する資源と結び付け生活機能の観点からのアセスメントと看護の焦点化ができる。 ③ 対象者の発達段階に応じた自律と生活機能の再構築を目指した援助を提供することができる。 ④ 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割を理解することができる・ ⑤ 高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度と自己の老年観を養う 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決能力 DP5 コミュニケーション能力 DP6 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 リンダ J. カルベニート；看護診断ハンドブック第 12 版，医学書院					
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術，医学書院。 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程，医学書院。 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド，Gakken					
21.成績評価	(中間評価、最終評価の方法等) 対象の理解 15% 事学習課題、病院の実習記録と振り返りレポート 65% カンファレンス貢献度・実習態度 20%					

	* 詳細は老年看護学実習要項を参照	
22.コメント	事前学習として老年看護学概論や老年看護援助論、および疾病治療論(老年)の内容を復習してから実習に参加しましょう。	
23.オフィスアワー	高田： 中山： 炭野：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週 月曜日	老年看護学実習要項を参照 病棟オリエンテーション 受持ち紹介、情報収集 ※実習病院は 5 病院 11 病棟を使用するため、詳細は別紙で説明する。 ※状況によって遠隔となる場合は別紙で対応する。	事前学習は、要項 p.1 を参照する。 事前にリーダー決定 カンファレンス 「患者紹介」
火曜日	ケアに参加しながら受け持ち患者の情報収集 患者と一緒にの行動、コミュニケーション、記録から全体像を把握する フィジカルアセスメント開始	提出:実習記録①②③情報のアセスメント カンファレンス「コミュニケーションについて」
水曜日	ケアに参加しながら受け持ち患者の情報収集 ※実習記録①②③を用いて実習指導者と看護診断のセッション	カンファレンス「看護の方向性について」
木曜日	学内実習 記録の整理 ①～④について立案した計画に沿ったケア計画の検討・修正 看護の方向性について	学内日
金曜日	実習指導者に実習記録③④⑤を提出、ケアに参加しながら受け持ち患者の情報収集 実習記録③④⑤を提出	中間カンファレンス
第 2 週 月曜日	実習指導者に実習記録④⑤を提出(立案した看護診断のうち 1 つは、介入計画を立案) 立案した計画に沿ったケアを行いながら計画の検討・修正	カンファレンス「介入計画を実施して気づいたこと」
火曜日	実習指導者に実習記録④⑤を提出(立案した看護診断のもう 1 つの介入計画を立案) 立案した計画に沿ったケアを行いながら計画の検討・修正	「老年期の特徴をとらえた関わり方について」
水曜日	立案した計画に沿ったケアを行いながら、計画の検討・修正	カンファレンステーマは、学生が企画する。
木曜日	立案した計画に沿ったケアを行いながら、計画の検討・修正	最終カンファレンス 合同 実習の学びの振り返り 技術チェックリスト 指導者にサインをいただく

金曜日	学内 実施・評価の発表 2週間を振り返って	記録提出:最終日の 17:00 まで教務課

1.授業コード (ナンバリング)	CNP307-M01	2.科目名	在宅看護学実習Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、煤田恵子					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	基礎看護実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【実習目的】 在宅看護学では、在宅ケア・看護の特徴と在宅療養者および家族について学習し、さらに在宅における看護実践について学習をすすめてきました。本実習では、在宅ケアの対象者やケアチームのメンバーに直接的に関わることを通じて、在宅ケアの対象者について理解を深めると共に、在宅での看護実践から地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の果たす役割と継続看護の必要性について、考察を深めることをねらいとします。					
18.学習目標と DPとの関連	以下、C(cognitive;知識)、P(psychomotor;技術)、A(affective;態度)を示す。 1. 在宅療養者とその家族について理解する。 C1) 在宅療養者の日常生活の特徴を理解する。 C2) 在宅療養者の疾病・障害及び発達段階の特徴を理解する。 C3) 生活環境の特徴、介護状況・家族関係について把握し、療養生活への影響を理解する。 A4) 在宅療養者および家族の生活スタイルや生活信条に気づくことができる。 2. 「対象者」と「療養の場」の特性に応じた看護援助の実際を理解し、その提供に努める。 P1) 直接的ケア、教育・指導的援助、介護負担の軽減、相談等の看護の実際について記述する。 P2) 実施された援助の意義について考察し、記述する。 P3) 訪問看護師の指導の下、必要な看護援助を実施する。 P4) 上記を通じて、訪問看護師の役割について理解する。 3. 地域包括ケアシステムにおける多職種との協働・連携と看護の役割について理解する。 C1) 実習施設である訪問看護ステーションの設立目的・役割と機能・看護方針・スタッフ構成・利用方法・地域の特性等について理解する。 P2) 在宅療養者の社会資源の利用状況と導入方法を知り、その必要性を理解する。 P3) 関係他者（機関）との連携の方法を知り、その必要性を理解するとともに、看護の役割について説明できる。 4. 専門職業人として人と関わる基本的態度を養う。 P1) 生活の場に出向く看護職に必要なマナーを理解し、実践する。 A2) 対象者の意思を尊重した関わりの必要性和援助の実際を理解する。					
19.教科書・教材	在宅看護学概論・在宅看護援助論等で配布された講義資料。テキスト					
20.参考文献	適宜、指示します。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP402-M01	2.科目名	公衆衛生看護学実習		3.単位数	4
4.授業担当教員	藤原和美、倉田哲也、中世古恵美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員における授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	公衆衛生看護学分野選択の学生のみ履修可能					
17.授業の目的と概要	公衆衛生看護学実習は主たる活動の場である 1）保健所・市町村、2）産業保健、3）学校保健の3箇所で行います。この実習に統合看護実習（公衆衛生看護学分野）を合わせて、保健師として活動する上で必要な実践的知識と技術の獲得を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています それぞれの実習場所での目標は以下の通りです。 <保健所・市町村> （1）地域ニーズを把握する方法を理解できる 1） 地域における個人・家族、集団、コミュニティの特徴と支援のあり方を理解できる。 2） 健康レベルの違いによる対象者の特徴とその支援のあり方を理解できる。 3） 発達段階に応じた対象者の特徴とその支援のあり方を理解できる。 4） 担当地域における健康の現状とヘルスニーズを明確にすることができる。 5） 担当地域の保健事業の現状の分析と評価ができる。 （2） 保健師活動の転回方法を理解できる 1） 保健事業の法的根拠を理解できる。 2） 保健事業の目的・意義を理解できる。 3） 保健事業の対象と把握方法を理解できる。 4） 保健事業の地域ケアシステムの中で位置づけを理解できる。 5） 保健事業の企画において保健師の役割を理解できる 6） 保健事業の展開について事前準備から事後評価までの流れを理解できる 7） 保健所と市町村における保健事業の特徴を理解できる。 <産業保健> 1） 働く人々それぞれの労働の特徴を知り、労働と健康の関連について理解できる。 2） 事業場の組織体制を知るとともに、安全衛生管理体制についてその機能を理解できる。 3） 事業場で行われている事業について学び、働く人々の健康課題に対して行われている産業保健師の具体的な健康支援及び技術が理解できる 4） 事業場で行われている、産業保健の5分野（統括管理、健康管理、作業管理、作業環境、労働衛生教育）の遂行のために、行うべき産業保健師の役割が理解できる。 5） 産業保健分野における多職種連携・協働、産業保健師のコーディネート機能について考えることができる。 <学校保健> 1） 学校保健教育の中での保健室のあり方や養護教諭の役割が理解できる。 2） 児童生徒の生活状況や、発達・発育の特徴が理解できる。 3） 養護教諭の日々の活動を知り、児童生徒の健康問題に対する養護教諭としての指導のあり方を理解できる。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP403-M01	2.科目名	統合看護実習（公衆）		3.単位数	3
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美					
5.授業科目の区分	総合看護	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	1 年から 4 年春配当必修の専門科目		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	保健師課程履修生のみ選択可能					
17.授業の目的と概要	【目的】 1） 公衆衛生看護学実習での学習を基盤にして、保健師活動（公衆衛生看護）を実践するための支援技術を学ぶ。 2） これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに自己の看護観を育成するとともに、看護専門職（特に保健師）としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 【概要】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成する					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています 1) 既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2) 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3) 他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4) 看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5) 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。					
19.教科書・教材	適宜、必要な文献を紹介するとともに資料を配布する					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	本実習の成績評価の内容と点数配分は、以下のとおりとする。 1. 実習記録：事前レポート、日々の記録、各種事業に関する実習記録の記載内容 30% 2. 家庭訪問：訪問事例の情報収集、アセスメント、訪問計画の立案 20% 3. 健康教育：健康教育の企画書・実施計画書の立案、健康教育の実施 20% 4. 発表：学内報告会での発表 10% 5. 総合考察レポート 20%					
22.コメント	保健所・市町村での実習が中心となります。公衆衛生看護分野を選択する学生の必修科目となります。しっかり学んでいきましょう。生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない					
23.オフィスアワー	藤原：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み					

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP403-M04	2.科目名	統合看護実習（急性）		3.単位数	3
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	3 年次配当の実習科目の単位取得者					
17.授業の目的と概要	【目的】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【概要】 各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1. 既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2. 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3. 他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4. 看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習課題 10%(課題 1.実習病棟で多い手術とその合併症・治療・検査・看護) 実習記録 20% 実習での看護実践 50% 実習中学修課題 10%(課題 2. 統合実習で学んだことと看護師としての課題、課題 3. 医療職者及び他機関との協働や連携) 実習態度 10% ※実習記録及び課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。					
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう、積極的に学んでください。 この実習の課題・レポート・実習記録等の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター；火曜日昼休み、研究室；月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 週】	学内オリエンテーション、課題学習					

月曜日		
火曜日	学内演習 患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病院実習 病院で活動している医療チーム活動(緩和ケア・排尿ケア・感染対策・NEST 等)の見学実習	
木曜日	病院実習 病院で活動している医療チーム活動(緩和ケア・排尿ケア・感染対策・NEST 等)の見学実習、見学レポート作成	
金曜日	病院実習 病院で活動している医療チーム活動(緩和ケア・排尿ケア・感染対策・NEST 等)の見学実習、見学レポート作成	
【第2週】 月曜日	病棟実習 1名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加、リーダー看護師の役割見学	
火曜日	学内演習 患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習 1名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加、メンバー看護師の役割と連携見学	
木曜日	病棟実習 1名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加	
金曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加, 新たに受け持った患者の関連図についてのカンファレンス	
【第3週】 月曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加	
火曜日	学内演習 患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加, 新たに受け持った患者の関連図についてのカンファレンス	
木曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加, 新たに受け持った患者の関連図についてのカンファレンス	
金曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加, 看護専門職者としての自分自身の課題と目指す看護師像についての最終カンファレンス	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP403-M06	2.科目名	統合看護実習 (母性)		3.単位数	3
4.授業担当教員	有本梨花、堤綾子、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	3 年次配当の実習科目		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【統合看護実習全体の目的】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【統合看護実習全体の概要】 各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既修得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者・集団と関わり					
18.学習目標と DP との関連	1.保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 2.総合周産期センターにおいて、他職種と協働する看護専門職者の役割・機能および、保健・医療・福祉の総合的なケア提供のあり方について学ぶことができる。 3. 女性の健康課題を多様な視点から課題解決のための方策を探究することができる。 4. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来にむけての自己の課題を明確にできる。 [DP との関連] 保健医療学部看護学科の DP である (1) 自律的で主体的な態度 (自律性) (2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力、に関連する科目である。					
19.教科書・教材	母性看護学概論および母性看護学援助論で使用した教科書および参考書					
20.参考文献	3 年生の母性看護学実習で使用した事前学習ノート・記録					
21.成績評価	統合看護学実習評価表・実習記録・実習レポート・実習態度を評価する。(統合実習ルーブリック評価表を使用) 実習記録 70％・実習態度 10％・課題レポート 10％・事前準備学習内容 10％ 実習記録はハイリスク妊産褥婦の看護過程の実施評価・NICU/GCU の記録、学会参加の記録で評価する 実習記録：「学習目標 1・2 に対応」 実習態度：「学習目標 4 に対応」					
22.コメント	学生最後の実習となります。チームの一員となり、積極的に学んでいきましょう。 ?生成 AI 利用に関して ■ いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	実習期間中には、必要に応じて適宜、質問や相談を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 週目	統合実習 3 週間 (学内実習 1 週間・臨地実習 2 週間)			実習要綱、実習要項、筆記用具。事前学習ノ		

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP403-M08	2.科目名	統合看護実習 (在宅)		3.単位数	3
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子					
5.授業科目の区分	統合看護実習（地域・在宅看護がく）における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	1 年～4 年春担当の必須専門科目を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	臨地実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	≪目的（全領域共通）≫ これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 <目的（地域・在宅看護学領域）> 地域包括ケアの考え方に立脚し、病気や障害があっても、対象者の希望の実現のために望む暮らしを継続することができるよう、地域での暮らしや見取りまでを見据えた看護を実践できる能力を修得する。 臨地実習の場所は、病院の地域連携室とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（１）自律性、（３）多様性理解、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連しています 1.尊厳ある人としての意思決定を支援し、希望を尊重できる 2.住み慣れた地域で暮らし続けるための生活者としての対象を理解する。 3.退院に向けた調整・指導ができる。 4.社会資源の活用の技術が展開できる。 5.多職種と協働し、地域を基盤にした医療保健福祉の資源を活用し看護職の果たす役割を理解できる。 6.看護専門職者としての課題を明確にし、将来に向けての自己の将来像を展望する。					
19.教科書・教材	臺有佳他（2020）.ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域を支えるケア，メディカ出版，大阪.					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習 20%、カンファレンス 10%、実習記録 50%、課題レポート 10%、実習態度 10%					
22.コメント	4 年間学んできた知識・技術・態度（各看護学を含む）の統合として実習になります。 病院に就職する方が多いかと思いますが、地域で療養する療養者の多様な価値観や生活をしっかりと身近で捉えることで、病院等でどのような看護が必要なのか（看護の原点）を十分考える機会となると思います。また、多職種との連携（特に介護支援専門員や訪問介護職員との同行訪問、サービス担当者会議等）等を体験できることで、退院調整・支援のあり方を学べる貴重な実習になると思います。 楽しみにしながら実習準備を進めて行ってください。がんばりましょう！					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑（水曜日昼休み）、鵜飼（木曜日 2 限目）、楳田（水曜日昼休み） センターオフィスアワー：畑（木曜日昼休み）鵜飼（木曜日昼休み）、楳田（木曜日昼休み）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	詳細については、統合看護実習（概要）および統合看護実習（在宅看護）要項を参照のこと。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP403-M09	2.科目名	統合看護実習（老年）		3.単位数	3
4.授業担当教員	高田美子、炭野実千、中山和美					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	基礎看護学実習Ⅱ 老年健康看護学概論 老年看護援助論 老年看護学領域実習		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】病棟での臨地実習を通して老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と、人生の統合期である発達課題を理解し、対象に応じた看護実践能力を養うことを目的とする。 【概要】病院実習では、老年期という発達段階にある受け持ち患者を総合的に理解し、病態と対象者が有する資源とを結び付け、生活機能の再構築の観点からの看護過程を学ぶ。さらに、実習を通して高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割の理解、及び高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度の修得と自己の老年観を養うこと					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ① 老年期にある対象を総合的に理解することができる。 ② 情報を病態・対象者が有する資源と結び付け生活機能の観点からのアセスメントと看護の焦点化ができる。 ③ 対象者の発達段階に応じた自律と生活機能の再構築を目指した援助を提供することができる。 ④ 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉分野の多職種との連携の実際と看護の役割を理解することができる。 ⑤ 高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度と自己の老年観を養う 【DPとの関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決能力 DP5 コミュニケーション能力 DP6 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 リンダ J. カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版, 医学書院					
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術, 医学書院. 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程, 医学書院. 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド, Gakken					
21.成績評価	(中間評価、最終評価の方法等) 事前学習課題、病院の実習記録と振り返りレポート 70%					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CNP403-M11	2.科目名	統合看護実習（国際）		3.単位数	3
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 看護学実習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	1 年～4 年春担当の必修専門科目を修得していること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【統合看護実習】 これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 【統合看護実習（国際看護学）】 グローバル社会における看護の機能を理解し、国際看護の対象である日本で暮らす外国人に対して適切な介入ができるよう、既習の知識や技術を応用し、看護実践現場における学びを通して理論と実践の統合を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【統合看護実習】 1.既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2.保健医療チームの一員として、計画的、継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3.他職種との協働における看護専門の役割・機能と、保保健・医療・福祉の総合的ケア提供のあり方について学ぶことができる。 4.看護の専門性を理解し、専門職としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5.看護専門職としての役割、責務、態度について学修を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。 【統合看護実習（国際看護学）】 1.国際看護の対象である日本で暮らす外国人の特徴を理解し、述べられる。 2.医療機関における外国人患者の受入れ体制を理解し、実際に体験したうえで、より良い医療サービスの提供を考察できる。 3.日本で暮らす外国人を対象とする地域包括ケアの実際を理解し、健康問題の解決策について考察できる。 4.日本で暮らす外国人高齢者の健康問題を考慮した、健康教育を実践できる。 5.日本で地域住民として暮らす外国人を支援する組織団体とその役割を述べられる。 6.看護職に必要な行動、態度を養う。 ※詳細は統合看護実習（国際看護学）の要項を参照					
19.教科書・教材	必要時配布する。					
20.参考文献	適宜提示する。					
21.成績評価	実習記録 90%：様式 1(5%)、様式 2(5%)、様式 3(30%)、様式 4(30%)、様式 5(20%) 健康教育企画・実施 10%					
22.コメント	4 年間の学びの集大成です。積み重ねた看護の知識と技術を駆使して臨んでください。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日昼休み（図書館）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-A01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（教育福祉）		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大、上原昭三、大西洋史、吉田裕彦					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では職業や仕事に関する知識を広げていくと共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていけるようになることを目的としている。 そのため、自己分析から業界・企業分析の手法を学ぶと共に、それを活かして早期化する就職活動や進学に対応してキャリアビジョン（社会人としての価値観と視点）とキャリアマップ（社会人になる行程とその後の成長過程）の作成を行う。そして重要且つ基本的な自己 PR の作成を行うことで、自身の就職活動や進学の基礎を形成する。 【概要】 本授					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連する。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※必要があれば適宜、資料配布					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2025 年版』2024.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので適宜参照					
21.成績評価	■毎回のワークシート：40%（学習目標①および②に関連） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）：15% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）：15% 3.自己 PR 分（400 文字）：10% 3.ラーニング・ルートマップ：10% 4.ふりかえりワークシート：10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁 2.全回でノートパソコンを使用するので毎回、持参すること（スマホは不可） 3.毎回、テキスト付属のワークシート提出があり、テキスト付属のワークシート以外の提出は認					

	めない。 3.授業中、個人ワークやグループワークを実施 4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講を推奨（学科によっては必修） ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、ワークシート・最終課題では使用不可とします。	
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (xx/xx)	「オリエンテーション」 ■本授業の意義 ■職業や仕事に関する知識を広げると共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てることの重要性を認識する。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施 ※全員必須	○ワークシート 1-1：150 分 ○様々な情報源から気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 02 回 (xx/xx)	「キャリアへの準備～未来の夢を描こう～」 ■卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ワークシート 1-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 03 回 (xx/xx)	「職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～」 ■自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■自分のライフデザインを考えてみる。	○ワークシート 2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 04 回 (xx/xx)	「職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～」 ■職場での動き（活動）を理解する。 ■職場環境への移行	○ワークシート 3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 05 回 (xx/xx)	「企業研究 1 ～様々な業界を知る～」 ■業界単位での分析を行う。 ■希望する業界の動向を知る。	○ワークシート 4：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。：60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう。
第 06 回 (xx/xx)	「企業研究 2 ～企業像をとらえる～」 ■企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ワークシート 5：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。60 分

第 07 回 (xx/xx)	「環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～」 ■社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するか理解する。 ■変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ワークシート 6-1、6-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 08 回 (05/30)	「自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～」 ■「自分らしさ」とは何かを考える。 ■「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ワークシート 7-1、7-2、7-3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 09 回 (xx/xx)	「強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～」 ■SWOT 分析 ■社会人基礎力	○ワークシート 8-1、8-2、8-3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 10 回 (xx/xx)	「キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～」 ■ライフ・コンセプト ■コーポレート・コンセプト ■マンドラート	○ワークシート 9-1、9-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 11 回 (xx/xx)	「キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～」 ■キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■自己分析マップを作成する。	○ワークシート 10-1、10-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 12 回 (xx/xx)	「自分のことを人にどう伝えればいいのか？」 ■自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■自己 PR を作成する。※ワークシート及び AI 利用 ■キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ワークシート 11-1、11-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 13 回 (xx/xx)	「自己アピール 1」 ■パワーポイントで自己アピール・プレゼンテーション資料を作成 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニングルートマップ修正 ・成長確認シート点検 ・自己アピール PPT と原稿の完成 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 14 回 (xx/xx)	「自己アピール 2」 ■パワーポイントで自己アピールプレゼンテーション資料を完成 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）完成	○自己アピールプレゼン資料と読み原稿（1250 字程度）を作成する。：210 分
第 15 回 (xx/xx)	「自己アピール 3」 ■作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表	○ふりかえりワークシート ○最終課題提出

	■グループの代表者は全体で発表 ■授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-A02	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（経営1）		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山潔					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は2部構成になっています。第1部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第2部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 2023.4 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」Kindle 版 講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40%（学習目標①および②に関連する） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

		4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修）
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ １ ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第１章	○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第２回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ２ ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第１章	○ ワークシート１ 150 分 ○ テキスト第１章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第３回	職業研究１～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第２章	○ ワークシート２ 150 分 ○ テキスト第２章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第４回	職業研究２～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は１日・１週間・１年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第３章	○ ワークシート３ 150 分 ○ テキスト第３章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第５回	企業研究１～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第４章	○ ワークシート４ 150 分 ○ テキスト第４章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第６回	企業研究２～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを調べる方法を知る。	テキスト第５章 ノート PC 必要 ○ ワークシート５ 150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分

	■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章 ノート PC 必要 ○ ワークシート 6 150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7 150 分 ○ 配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■ 大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8 150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■ これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサ	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。

	ル。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、生成 AI 等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■ 自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。生成 AI で添削する。 210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-A03	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（経営2）		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では職業や仕事に関する知識を広げていくと共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていけるようになることを目的としている。 そのため、自己分析から業界・企業分析の手法を学ぶと共に、それを活かして早期化する就職活動や進学に対応してキャリアビジョン（社会人としての価値観と視点）とキャリアマップ（社会人になる行程とその後の成長過程）の作成を行う。そして重要且つ基本的な自己PRの作成を行うことで、自身の就職活動や進学の基礎を形成する。 【概要】 本授					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連する。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※必要があれば適宜、資料配布					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2025 年版』2024.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので適宜参照					
21.成績評価	■毎回のワークシート：40%（学習目標①および②に関連） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）：15% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）：15% 3.自己PR分（400 文字）：10% 3.ラーニング・ルートマップ：10% 4.ふりかえりワークシート：10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁 2.全回でノートパソコンを使用するので毎回、持参すること（スマホは不可） 3.毎回、テキスト付属のワークシート提出があり、テキスト付属のワークシート以外の提出は認					

	めない。その際に、生成 AI 利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 3.授業中、個人ワークやグループワークを実施 4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講を推奨（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (xx/xx)	「オリエンテーション」 ■本授業の意義 ■職業や仕事に関する知識を広げると共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てることの重要性を認識する。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施 ※全員必須	○ワークシート 1-1：150 分 ○様々な情報源から気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 02 回 (xx/xx)	「キャリアへの準備～未来の夢を描こう～」 ■卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ワークシート 1-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 03 回 (xx/xx)	「職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～」 ■自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■自分のライフデザインを考えてみる。	○ワークシート 2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 04 回 (xx/xx)	「職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～」 ■職場での動き（活動）を理解する。 ■職場環境への移行	○ワークシート 3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 05 回 (xx/xx)	「企業研究 1 ～様々な業界を知る～」 ■業界単位での分析を行う。 ■希望する業界の動向を知る。	○ワークシート 4：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。：60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう。
第 06 回 (xx/xx)	「企業研究 2 ～企業像をとらえる～」 ■企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ワークシート 5：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。60 分
第 07 回	「環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる	○ワークシート 6-1、6-2：150 分

(xx/xx)	～」 ■社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するを理解する。 ■変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 08 回 (05/30)	「自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～」 ■「自分らしさ」とは何かを考える。 ■「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第1回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ワークシート 7-1、7-2、7-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 09 回 (xx/xx)	「強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～」 ■SWOT 分析 ■社会人基礎力	○ワークシート 8-1、8-2、8-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 10 回 (xx/xx)	「キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～」 ■ライフ・コンセプト ■コーポレート・コンセプト ■マンダラート	○ワークシート 9-1、9-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 11 回 (xx/xx)	「キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～」 ■キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■自己分析マップを作成する。	○ワークシート 10-1、10-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 12 回 (xx/xx)	「自分のことを人にどう伝えればいいのか？」 ■自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■自己PRを作成する。※ワークシート及びAI利用 ■キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ワークシート 11-1、11-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 13 回 (xx/xx)	「自己アピール1」 ■パワーポイントで自己アピール・プレゼンテーション資料を作成 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250字程度）の作成と発表のリハーサル	○次の3点を実施する。210分 ・ラーニングルートマップ修正 ・成長確認シート点検 ・自己アピールPPTと原稿の完成 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 14 回 (xx/xx)	「自己アピール2」 ■パワーポイントで自己アピールプレゼンテーション資料を完成 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250字程度）完成	○自己アピールプレゼン資料と読み原稿（1250字程度）を作成する。：210分
第 15 回 (xx/xx)	「自己アピール3」 ■作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表 ■グループの代表者は全体で発表	○ふりかえりワークシート ○最終課題提出

	■授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-A04	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（経営3）		3.単位数	2
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では職業や仕事に関する知識を広げていくと共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていけるようになることを目的としている。 そのため、自己分析から業界・企業分析の手法を学ぶと共に、それを活かして早期化する就職活動や進学に対応してキャリアビジョン（社会人としての価値観と視点）とキャリアマップ（社会人になる行程とその後の成長過程）の作成を行う。そして重要且つ基本的な自己PRの作成を行うことで、自身の就職活動や進学の基礎を形成する。 【概要】 本授					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連する。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※必要があれば適宜、資料配布					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2025 年版』2024.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので適宜参照					
21.成績評価	■毎回のワークシート：40%（学習目標①および②に関連） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）：15% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）：15% 3.自己PR分（400 文字）：10% 3.ラーニング・ルートマップ：10% 4.ふりかえりワークシート：10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁 2.全回でノートパソコンを使用するので毎回、持参すること（スマホは不可） 3.毎回、テキスト付属のワークシート提出があり、テキスト付属のワークシート以外の提出は認					

	めない。 3.授業中、個人ワークやグループワークを実施 4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講を推奨（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (4/9)	「オリエンテーション」 ■本授業の意義 ■職業や仕事に関する知識を広げると共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てることの重要性を認識する。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施 ※全員必須	○ワークシート 1-1：150 分 ○様々な情報源から気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 02 回 (4/16)	「キャリアへの準備～未来の夢を描こう～」 ■卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ワークシート 1-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 03 回 (4/23)	「職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～」 ■自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■自分のライフデザインを考えてみる。	○ワークシート 2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 04 回 (4/30)	「職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～」 ■職場での動き（活動）を理解する。 ■職場環境への移行	○ワークシート 3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 05 回 (5/7)	「企業研究 1 ～様々な業界を知る～」 ■業界単位での分析を行う。 ■希望する業界の動向を知る。	○ワークシート 4：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。：60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう。
第 06 回 (5/14)	「企業研究 2 ～企業像をとらえる～」 ■企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ワークシート 5：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。60 分
第 07 回 (5/21)	「環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～」	○ワークシート 6-1、6-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分

	■社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するか理解する。 ■変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 08 回(5/28)	「自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～」 ■「自分らしさ」とは何かを考える。 ■「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第1回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ワークシート 7-1、7-2、7-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 09 回 (6/4)	「強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～」 ■SWOT 分析 ■社会人基礎力	○ワークシート 8-1、8-2、8-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 10 回 (6/11)	「キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～」 ■ライフ・コンセプト ■コーポレート・コンセプト ■マンダラート	○ワークシート 9-1、9-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 11 回 (6/18)	「キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～」 ■キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■自己分析マップを作成する。	○ワークシート 10-1、10-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 12 回 (6/25)	「自分のことを人にどう伝えればいいのか？」 ■自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■自己 PR を作成する。※ワークシート及び AI 利用 ■キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ワークシート 11-1、11-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 13 回 (7/2)	「自己アピール 1」 ■パワーポイントで自己アピール・プレゼンテーション資料を作成 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル	○次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニングルートマップ修正 ・成長確認シート点検 ・自己アピール PPT と原稿の完成 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 14 回 (7/9)	「自己アピール 2」 ■パワーポイントで自己アピールプレゼンテーション資料を完成 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）完成	○自己アピールプレゼン資料と読み原稿（1250 字程度）を作成する。：210 分
第 15 回 (7/16)	「自己アピール 3」 ■作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表 ■グループの代表者は全体で発表 ■授業アンケート	○ふりかえりワークシート ○最終課題提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-M01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（三木経営_3/3）		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では職業や仕事に関する知識を広げていくと共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていけるようになることを目的としている。 そのため、自己分析から業界・企業分析の手法を学ぶと共に、それを活かして早期化する就職活動や進学に対応してキャリアビジョン（社会人としての価値観と視点）とキャリアマップ（社会人になる行程とその後の成長過程）の作成を行う。そして重要且つ基本的な自己 PR の作成を行うことで、自身の就職活動や進学の基礎を形成する。 【概要】 本授					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連する。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※必要があれば適宜、資料配布					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2025 年版』2024.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので適宜参照					
21.成績評価	■毎回のワークシート：40%（学習目標①および②に関連） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）：15% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）：15% 3.自己 PR 分（400 文字）：10% 3.ラーニング・ルートマップ：10% 4.ふりかえりワークシート：10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁 2.全回でノートパソコンを使用するので毎回、持参すること（スマホは不可） 3.毎回、テキスト付属のワークシート提出があり、テキスト付属のワークシート以外の提出は認					

	めない。 3.授業中、個人ワークやグループワークを実施 4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講を推奨（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (xx/xx)	「オリエンテーション」 ■本授業の意義 ■職業や仕事に関する知識を広げると共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てることの重要性を認識する。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施 ※全員必須	○ワークシート 1-1：150 分 ○様々な情報源から気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 02 回 (xx/xx)	「キャリアへの準備～未来の夢を描こう～」 ■卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ワークシート 1-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 03 回 (xx/xx)	「職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～」 ■自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■自分のライフデザインを考えてみる。	○ワークシート 2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 04 回 (xx/xx)	「職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～」 ■職場での動き（活動）を理解する。 ■職場環境への移行	○ワークシート 3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 05 回 (xx/xx)	「企業研究 1 ～様々な業界を知る～」 ■業界単位での分析を行う。 ■希望する業界の動向を知る。	○ワークシート 4：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。：60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう。
第 06 回 (xx/xx)	「企業研究 2 ～企業像をとらえる～」 ■企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ワークシート 5：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。60 分
第 07 回 (xx/xx)	「環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～」	○ワークシート 6-1、6-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分

	■社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するか理解する。 ■変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 08 回 (05/30)	「自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～」 ■「自分らしさ」とは何かを考える。 ■「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第1回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ワークシート 7-1、7-2、7-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 09 回 (xx/xx)	「強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～」 ■SWOT 分析 ■社会人基礎力	○ワークシート 8-1、8-2、8-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 10 回 (xx/xx)	「キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～」 ■ライフ・コンセプト ■コーポレート・コンセプト ■マンドラート	○ワークシート 9-1、9-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 11 回 (xx/xx)	「キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～」 ■キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■自己分析マップを作成する。	○ワークシート 10-1、10-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 12 回 (xx/xx)	「自分のことを人にどう伝えればいいのか？」 ■自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■自己PRを作成する。※ワークシート及びAI利用 ■キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ワークシート 11-1、11-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 13 回 (xx/xx)	「自己アピール 1」 ■パワーポイントで自己アピール・プレゼンテーション資料を作成 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250字程度）の作成と発表のリハーサル	○次の3点を実施する。210分 ・ラーニングルートマップ修正 ・成長確認シート点検 ・自己アピールPPTと原稿の完成 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 14 回 (xx/xx)	「自己アピール 2」 ■パワーポイントで自己アピールプレゼンテーション資料を完成 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250字程度）完成	○自己アピールプレゼン資料と読み原稿（1250字程度）を作成する。：210分
第 15 回 (xx/xx)	「自己アピール 3」 ■作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表 ■グループの代表者は全体で発表 ■授業アンケート	○ふりかえりワークシート ○最終課題提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-M02	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ (三木経営_2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 編『夢をかなえるキャリアデザイン』くろしお出版 2011 年 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版 講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% （学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール （学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

		4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修） 生成 AI の使用を認める。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第 1 章	○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第 1 章	○ ワークシート 1 150 分 ○ テキスト第 1 章を読み返し、学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第 2 章	○ ワークシート 2 150 分 ○ テキスト第 2 章を読み返し、学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 4 回	職業研究 2 ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は 1 日・1 週間・1 年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第 3 章	○ ワークシート 3 150 分 ○ テキスト第 3 章を読み返し、学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第 4 章	○ ワークシート 4 150 分 ○ テキスト第 4 章を読み返し、学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを	テキスト第 5 章 ノート PC 必要 ○ ワークシート 5 150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事

	調べる方法を知る。 ■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章 ノート PC 必要 ○ ワークシート 6 150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7 150 分 ○ 配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■ 大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8 150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■ これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ ラーニング・ルートマップを修正する。 ・ 成長確認シートを点検する。

	■プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサル。	・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■グループの代表者は全体で発表する。 ■授業アンケート	○最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-M03	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（三木経営_1/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は2部構成になっています。第1部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第2部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 編『夢をかなえるキャリアデザイン』くろしお出版 2011 年 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版 講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% （学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール （学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.成長確認シート（活動結果・目標追加設定）10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

		4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修）
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 1 ■ この授業の意義（オリエンテーション） ■ 現代社会において、多くの職業があることを知り、特定の職業について調べる。 テキスト第1章	○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。60分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第2回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 2 ■ 特定の職業について調べた内容を見せる資料としてまとめる。 ■ 特定の職業について発表する。 テキスト第1章	○ ワークシート1 150分 ○ テキスト第1章を読み返し、学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第3回	職業研究1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 人はなぜ働くのか。職業や働き方は多様化し、会社で求められる能力も仕事や立場で変わることを理解する。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。 テキスト第2章	○ ワークシート2 150分 ○ テキスト第2章を読み返し、学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第4回	職業研究2 ～会社の仕事を時間軸で見る～ ■ 仕事はチームで分業と協業によって行われていることを理解する。 ■ 会社の仕事は1日・1週間・1年の時間を単位にして進行する。 ■ 身近な人にインタビューをしてライフと仕事との関係をとらえる。 テキスト第3章	○ ワークシート3 150分 ○ テキスト第3章を読み返し、学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第5回	企業研究1 ～様々な業界を知る～ ■ 世の中にどのような業界があるのか、また、業界を詳しく調べる方法を理解する。 ■ 特定の業界に絞って、業界の特徴を調べる。 テキスト第4章	○ ワークシート4 150分 ○ テキスト第4章を読み返し、学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第6回	企業研究2 ～企業像をとらえる～ ■ 個別の企業の事業内容、経営方針、経営成績などを調べる方法を知る。	テキスト第5章 ノート PC 必要 ○ ワークシート5 150分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。30分

	■ 特定の業界に絞り、代表的な企業を調べ、比較してみる。 テキスト第 5 章	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会や企業を取り巻く環境（特に IT 革命）がどのように変化してきているのかを理解する。 ■ 業界について将来のシナリオを描いてみる。 テキスト第 6 章	テキスト第 6 章 ノート PC 必要 ○ ワークシート 6 150 分 ○ もう一度テキストを読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ これまでの自分をふりかえり、自己イメージを活性化する。 ■ 職業選択理論の 6 つの職業タイプで自己イメージを描く。 ■ 理想の自己イメージを思い描く。 テキスト第 7 章	テキスト第 7 章 ○ ワークシート 7 150 分 ○ 配付する追加テキスト第 7 章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	自分の強み弱みを知る～SWOT 分析～ ■ 大学での学びや経験を整理して、自分の強み/弱みを把握する。 テキスト第 9 章	○ ワークシート 8 150 分 ○ テキスト第 9 章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ マンダラートを使って、目標をさらに掘り下げる。 ■ これまでにどのようなキャリアを積んできたのかを考え、自分の人生で何を大切にしているのかを考える。 配付資料	○ ワークシート 9 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリア目標からキャリアプランへ ■ 自分だけのキャリアマップの作り方を学ぶ。 ■ 自己分析マップを描く手法を修得する。 配付資料	○ ワークシート 10 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを他者に伝える ■ 進路先と自己をつなげる進路先マップをつくる。 ■ 自己 PR を作成する。 配付資料	○ ワークシート 11 150 分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション原稿の作成と発表のリハーサ	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。

	ル。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■ 自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y01	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は2部構成になっています。第1部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第2部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% （学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール （学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」要受講。（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート 1－1 150 分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3－1、3－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y02	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（心理_2/3）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40%（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

		4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修） 生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、ワークシートの作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。
23.オフィスアワー		センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート 1-1 150 分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3-1、3-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職

	■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y03	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（心理_3/3）		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40%（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート1-1 150分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第2回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート1-2 150分 ○ 学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第3回	職業研究1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート2 150分 ○ 学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第4回	職業研究2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート3-1、3-2 150分 ○ 学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分
第5回	企業研究1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート4 150分 ○ 学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第6回	企業研究2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート5 150分 ○ 学習した事柄について整理する。30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。60分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y04	2.科目名	仕事とキャリア形成 (社会学科 21 年度生用)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1) 岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2) 東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3) 瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4) マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界 & 職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% (学習目標①および②に関連する) ■最終課題 = 自己アピール (学習目標③に関連する) 1.自己アピール・プレゼンテーション資料 (パワーポイント) 20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料 (読み原稿) 20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。(ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定) 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

		4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修） 生成 AI 利用：条件付きで認める。（様々な状況を勘案し個別に対応・指導します）
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート 1－1 150 分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3－1、3－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

	■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	ョン資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度） の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y07	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（G コミ_2/2）		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡邊陽介					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2023 年版』2022.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2022.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40%（学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール（学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

		4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修）
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ワークシート 1－1 150 分 ○様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～	○ ワークシート 6－1、6－2 150 分

	■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。 210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピールプレゼンテーション資料を作成する。 ■ 自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿	○ 自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	(1250 字程度) を 作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y08	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（G コミ_1/2）		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では職業や仕事に関する知識を広げていくと共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていけるようになることを目的としている。 そのため、自己分析から業界・企業分析の手法を学ぶと共に、それを活かして早期化する就職活動や進学に対応してキャリアビジョン（社会人としての価値観と視点）とキャリアマップ（社会人になる行程とその後の成長過程）の作成を行う。そして重要且つ基本的な自己 PR の作成を行うことで、自身の就職活動や進学の基礎を形成する。 【概要】 本授					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連する。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※必要があれば適宜、資料配布					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2025 年版』2024.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので適宜参照					
21.成績評価	■毎回のワークシート：40%（学習目標①および②に関連） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）：15% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）：15% 3.自己 PR 分（400 文字）：10% 3.ラーニング・ルートマップ：10% 4.ふりかえりワークシート：10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁 2.全回でノートパソコンを使用するので毎回、持参すること（スマホは不可） 3.毎回、テキスト付属のワークシート提出があり、テキスト付属のワークシート以外の提出は認					

	めない。 3.授業中、個人ワークやグループワークを実施 4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講を推奨（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (xx/xx)	「オリエンテーション」 ■本授業の意義 ■職業や仕事に関する知識を広げると共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てることの重要性を認識する。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施 ※全員必須	○ワークシート 1-1：150 分 ○様々な情報源から気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 02 回 (xx/xx)	「キャリアへの準備～未来の夢を描こう～」 ■卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ワークシート 1-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 03 回 (xx/xx)	「職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～」 ■自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■自分のライフデザインを考えてみる。	○ワークシート 2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 04 回 (xx/xx)	「職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～」 ■職場での動き（活動）を理解する。 ■職場環境への移行	○ワークシート 3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 05 回 (xx/xx)	「企業研究 1 ～様々な業界を知る～」 ■業界単位での分析を行う。 ■希望する業界の動向を知る。	○ワークシート 4：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。：60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう。
第 06 回 (xx/xx)	「企業研究 2 ～企業像をとらえる～」 ■企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ワークシート 5：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。60 分
第 07 回 (xx/xx)	「環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～」	○ワークシート 6-1、6-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分

	■社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するか理解する。 ■変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 08 回 (05/30)	「自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～」 ■「自分らしさ」とは何かを考える。 ■「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第1回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ワークシート 7-1、7-2、7-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 09 回 (xx/xx)	「強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～」 ■SWOT 分析 ■社会人基礎力	○ワークシート 8-1、8-2、8-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 10 回 (xx/xx)	「キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～」 ■ライフ・コンセプト ■コーポレート・コンセプト ■マンダラート	○ワークシート 9-1、9-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 11 回 (xx/xx)	「キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～」 ■キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■自己分析マップを作成する。	○ワークシート 10-1、10-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 12 回 (xx/xx)	「自分のことを人にどう伝えればいいのか？」 ■自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■自己PRを作成する。※ワークシート及びAI利用 ■キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ワークシート 11-1、11-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 13 回 (xx/xx)	「自己アピール 1」 ■パワーポイントで自己アピール・プレゼンテーション資料を作成 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250字程度）の作成と発表のリハーサル	○次の3点を実施する。210分 ・ラーニングルートマップ修正 ・成長確認シート点検 ・自己アピールPPTと原稿の完成 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 14 回 (xx/xx)	「自己アピール 2」 ■パワーポイントで自己アピールプレゼンテーション資料を完成 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250字程度）完成	○自己アピールプレゼン資料と読み原稿（1250字程度）を作成する。：210分
第 15 回 (xx/xx)	「自己アピール 3」 ■作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表 ■グループの代表者は全体で発表 ■授業アンケート	○ふりかえりワークシート ○最終課題提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y09	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ（観光）		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では職業や仕事に関する知識を広げていくと共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていけるようになることを目的としている。 そのため、自己分析から業界・企業分析の手法を学ぶと共に、それを活かして早期化する就職活動や進学に対応してキャリアビジョン（社会人としての価値観と視点）とキャリアマップ（社会人になる行程とその後の成長過程）の作成を行う。そして重要且つ基本的な自己 PR の作成を行うことで、自身の就職活動や進学の基礎を形成する。 【概要】 本授					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連する。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※必要があれば適宜、資料配布					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'24』成美堂出版 2022.5 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2025 年版』2024.8 3）瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう」講談社 2020.4 4）マイナビ出版部「内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド」マイナビ出版 2021.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので適宜参照					
21.成績評価	■毎回のワークシート：40%（学習目標①および②に関連） ■最終課題＝自己アピール（学習目標③に関連） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）：15% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）：15% 3.自己 PR 分（400 文字）：10% 3.ラーニング・ルートマップ：10% 4.ふりかえりワークシート：10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁 2.全回でノートパソコンを使用するので毎回、持参すること（スマホは不可） 3.毎回、テキスト付属のワークシート提出があり、テキスト付属のワークシート以外の提出は認					

	めない。 3.授業中、個人ワークやグループワークを実施 4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講を推奨（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	水曜日 3 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回 (xx/xx)	「オリエンテーション」 ■本授業の意義 ■職業や仕事に関する知識を広げると共に、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てることの重要性を認識する。 ■一般職業適性検査（GATB）の実施 ※全員必須	○ワークシート 1-1：150 分 ○様々な情報源から気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 02 回 (xx/xx)	「キャリアへの準備～未来の夢を描こう～」 ■卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ワークシート 1-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 03 回 (xx/xx)	「職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～」 ■自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■自分のライフデザインを考えてみる。	○ワークシート 2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 04 回 (xx/xx)	「職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～」 ■職場での動き（活動）を理解する。 ■職場環境への移行	○ワークシート 3：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60 分
第 05 回 (xx/xx)	「企業研究 1 ～様々な業界を知る～」 ■業界単位での分析を行う。 ■希望する業界の動向を知る。	○ワークシート 4：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。：60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう。
第 06 回 (xx/xx)	「企業研究 2 ～企業像をとらえる～」 ■企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ワークシート 5：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。60 分
第 07 回 (xx/xx)	「環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～」	○ワークシート 6-1、6-2：150 分 ○学習した事柄について整理する。：30 分

	■社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するか理解する。 ■変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 08 回 (05/30)	「自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～」 ■「自分らしさ」とは何かを考える。 ■「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■GATB（第1回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ワークシート 7-1、7-2、7-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 09 回 (xx/xx)	「強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～」 ■SWOT 分析 ■社会人基礎力	○ワークシート 8-1、8-2、8-3：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 10 回 (xx/xx)	「キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～」 ■ライフ・コンセプト ■コーポレート・コンセプト ■マンダラート	○ワークシート 9-1、9-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 11 回 (xx/xx)	「キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～」 ■キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■自己分析マップを作成する。	○ワークシート 10-1、10-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 12 回 (xx/xx)	「自分のことを人にどう伝えればいいのか？」 ■自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■自己PRを作成する。※ワークシート及びAI利用 ■キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ワークシート 11-1、11-2：150分 ○学習した事柄について整理する。：30分 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 13 回 (xx/xx)	「自己アピール 1」 ■パワーポイントで自己アピール・プレゼンテーション資料を作成 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250字程度）の作成と発表のリハーサル	○次の3点を実施する。210分 ・ラーニングルートマップ修正 ・成長確認シート点検 ・自己アピールPPTと原稿の完成 ○新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り内容を理解する。：60分
第 14 回 (xx/xx)	「自己アピール 2」 ■パワーポイントで自己アピールプレゼンテーション資料を完成 ■自己アピールプレゼンテーション資料の読み原稿（1250字程度）完成	○自己アピールプレゼン資料と読み原稿（1250字程度）を作成する。：210分
第 15 回 (xx/xx)	「自己アピール 3」 ■作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表 ■グループの代表者は全体で発表 ■授業アンケート	○ふりかえりワークシート ○最終課題提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y10	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ (社会_A)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1) 岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2) 東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3) 瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4) マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% (学習目標①および②に関連する) ■最終課題 = 自己アピール (学習目標③に関連する) 1.自己アピール・プレゼンテーション資料 (パワーポイント) 20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料 (読み原稿) 20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。(ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定) 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（２年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修） 生成 AI 利用：条件付きで認める。（様々な状況を勘案し個別に対応・指導します）	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート 1－1 150 分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3－1、3－2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

	■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	
第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	ョン資料を作成する。 ■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE201-Y11	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てていきます。 【概要】 この授業は 2 部構成になっています。第 1 部では、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から社会や会社、仕事のことを見ていきます。第 2 部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業は何か、その仕事をするためには今後どのような知識や技能を身につけなければならないのかを考え、短期的・中期的な計画を作成します					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分のキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。					
19.教科書・教材	『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 あわせて、適宜必要な資料を配布します。					
20.参考文献	1）岸健二編『業界と職種がわかる本'25 年版』成美堂出版 2024.4 2）東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2024 年版』2023.8 3）瀧本哲史『2020 年 6 月 30 日にまたここで会おう』星海社新書 2020.4 4）マイナビ出版編集部『マイナビ 2025 オフィシャル就活 BOOK 内定獲得のメソッド 業界＆職種研究ガイド』マイナビ出版 2023.5 その他、メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。					
21.成績評価	■ワークシート 40% （学習目標①および②に関連する） ■最終課題 = 自己アピール （学習目標③に関連する） 1.自己アピール・プレゼンテーション資料（パワーポイント）20% 2.自己アピール・プレゼンテーション資料（読み原稿）20% 3.ラーニング・ルートマップ 10% 4.ふりかえりワークシート 10%					
22.コメント	1.遅刻・欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。（ワークシート配付・提出は WebClass を利用予定） 3.クラス別では、個人ワークやグループワークを行います。					

	4.秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ（2年次）」の受講をすすめます。（学科によっては必修）	
23.オフィスアワー	毎週火曜日 4 限目：個人研究室 毎週金曜日 4 限目：学修支援室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ■ この授業の意義 ■ 職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てる。 ■ 一般職業適性検査（GATB）の実施	○ ワークシート 1 - 1 150 分 ○ 様々な情報源から、気になる職業を選び、その職業についてについてまとめる。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	キャリアへの準備～未来の夢を描こう～ ■ 卒業後の人生の幸せや夢、あるいは目標について考えてみる。 ■ 幸せや夢を実現するため、目標を達成するためには必要なことは何かを考えてみる。	○ ワークシート 1 - 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	職業研究 1 ～ライフデザインと職業について～ ■ 自分自身の人生のナビゲーションを行う。 ■ 自分のライフデザインを考えてみる。	○ ワークシート 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	職業研究 2 ～時間軸で会社の仕事をとらえる～ ■ 職場での動き（活動）を理解する。 ■ 職場環境への移行。	○ ワークシート 3 - 1、3 - 2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	企業研究 1 ～様々な業界を知る～ ■ 業界単位での分析を行う。 ■ 希望する業界の動向を知る。	○ ワークシート 4 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分 ※企業や施設が安全についてどのような活動を行っているか調べてみよう
第 6 回	企業研究 2 ～企業像をとらえる～ ■ 企業を研究することの意味と方法について学ぶ。 ■ 企業データの種類と入手方法・分析の仕方を学ぶ。	○ ワークシート 5 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分

第 7 回	環境・トレンド分析～環境が変われば企業も変わる～ ■ 社会環境の変化に伴い、産業、企業も変化するかを理解する。 ■ 変化への気づきと分析手法について学ぶ。	○ ワークシート 6-1、6-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	自己理解～今の私はどんな人？これからどんな私に成長したい？～ ■ 「自分らしさ」とは何かを考える。 ■ 「理想の自分」を指針として、これからの成長のポイントをまとめる。 ■ GATB（第 1 回授業時実施）の結果返却とフィードバック	○ ワークシート 7-1、7-2、7-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	強み／弱みを知って新たな自分になる～目標と今のギャップを埋める～ ■ SWOT 分析 ■ 社会人基礎力	○ ワークシート 8-1、8-2、8-3 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 10 回	キャリア目標～人生で大切にしたいものは何？～ ■ ライフ・コンセプト ■ コーポレート・コンセプト ■ マンダラート	○ ワークシート 9-1、9-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 11 回	キャリアプラン～何から始めればいいのか？どうやって計画を立てるの？～ ■ キャリア目標とステップアップ過程によるキャリアマップを作成する。 ■ 自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 10-1、10-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 12 回	自分のことを人にどう伝えればいいのか？ ■ 自分だけのキャリアデザインの手法を修得する。 ■ 自己 PR を作成する。 ■ キャリアマップ、自己分析マップを作成する。	○ ワークシート 11-1、11-2 150 分 ○ 学習した事柄について整理する。 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 13 回	自己アピール 1 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。 ■ プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成と発表のリハーサル。	○ 次の 3 点を実施する。210 分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。 ・自己アピールの PPT と原稿を仕上げる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 14 回	自己アピール 2 ■ パワーポイントで、自己アピール・プレゼンテーション資料を作成する。	自己アピールプレゼン資料の読み原稿（1250 字程度）を作成する。 210 分

	■プレゼンテーション資料及び読み原稿（1250 字程度）の作成する。	
第 15 回	自己アピール 3 ■ 作成した自己アピールプレゼンテーションをグループで発表する。 ■ グループの代表者は全体で発表する。 ■ 授業アンケート	○ ふりかえりワークシート ○ 最終課題を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)		CRE301-Y01	2.科目名	公務員養成演習Ⅱ（※注 自由科目）		3.単位数	2
4.授業担当教員		大松光寿、高橋浩樹、寺村堅志					
5.授業科目の区分		自由科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻						9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件				11.先修条件	公務員養成演習Ⅰを受講していることが望ましい		
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限		特になし。 ただし、資格専門学校 TAC が提供するオンデマンド講座を受講するため、その受講料 66,000 円を負担することが求められる。					
17.授業の目的と概要		<目的> 公務員として稼働することの意味を理解し、その採用試験合格に向けて計画的に学習する習慣を身に付ける。 <概要> 本学の実務家教員、現職の OB・OG による、警察官・消防官・自衛官・法務教官・地方公務員行政職に関わる現状や望まれる資質、心構え等についての講義を提供する。これらの業種のうち関心のある講義を 1 つ以上受講することに加え、オリエンテーション・総括回を受講する。さらに、資格専門学校 TAC の提供するオンデマンドによる遠隔講座を受講する。毎週新しい教材が提供され、自身のペースで繰り返し学習でき					
18.学習目標と DP との関連		<学修目標> ①公務員の仕事について理解を深める。 ②公務員採用試験に向けて計画的に取り組む習慣を身に付ける。					
19.教科書・教材		教材は毎週 TAC からオンデマンドで提供される。					
20.参考文献		必要に応じて参考書を紹介する。					
21.成績評価		本科目の評価は単位認定の可否で行われるため GP はつきません。 そのため、本科目の成績は GPA には影響がなく、卒業要件にも含まれません。 単位認定は以下の基準によって判断します。 ①ガイダンス、まとめ回分の感想レポート提出 ②講義 1～5 の中で受講した講義の感想レポート提出 ②TAC の受講料を納付していること（66,000 円）					
22.コメント		受講料は期限内に必ず支払うようにしてください。					
23.オフィスアワー		大松：火曜昼（研究室オフィスアワー）、水曜昼（センタープログラム） 高橋：春学期：金曜日昼（研究室オフィスアワー）、月曜日昼（センターオフィスアワー） 秋学期：水曜日昼（研究室オフィスアワー）、火曜日昼（センターオフィスアワー） 寺村：金曜昼（研究室オフィスアワー）、水曜昼（センターオフィスアワー）					
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
1 回	ガイダンス				課題：レポートの提出		
2 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 1（警察官）				課題：レポートの提出（講義 1～5 までの中で出席した講義について提出）		
3 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 2（SPI 自主トレ）						
4 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 3（面接対策）						

5 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 4 (法務教官・技官)	
6 回	実務教員および OB・OG による公務員に関する講義 3 (地方公務員, 行政職)	
7 回	全体のまとめ	課題: レポートの提出
	TAC による遠隔ホームルーム 8 回実施	
	毎週公開されるオンデマンド教材によって学習を進める。 必要に応じて Google Classroom による質疑応答	一つの教材につき, 3 時間から 6 時間の学習時間を確保する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE305-Y01	2.科目名	キャリアプランニングⅠ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	講義	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本科目では、就職活動に向けた具体的な準備を進めていきます。就職活動においては、「敵を知り、己を知る」ことが大事です。具体的には企業を良く理解し、求めている人材像を把握すると共に、自分という人間についても思い込みだけではなく、多角的に理解する必要があります。また、社会情勢、特に企業で働く場合には経済に関する基礎的な知識や国際情勢などの政治の分野に関する知識なども習得し、将来に向けた社会動向について考察する力も重要です。 【概要】この講座では、実際の企業において働いた経験を有している講師より、就職活動					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(1)自律性】【(5)コミュニケーションスキル】【(4)問題発見・解決力】に関連しています。 キャリアプランニングⅠの講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①企業を取り巻く環境について認識し、企業を選ぶ視点を磨く。 ②企業研究の視点を理解し、志望する業界または企業について分析することができる。 ③志望する業界のみならず個人発表の中で、広く業界に関する知識を習得する。					
19.教科書・教材	使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	「なぜ僕らは働くのか」/株式会社学研プラス/2020 年					
21.成績評価	①企業・政治・経済など日本を取り巻く環境について講義やグループワークを通じて理解する。社会情勢については企業・政治・経済のまとめにおいて確認テストを行い、理解度を確認する。 ・ ・ 6 0 点 ※学習目標①から③に対応 ②授業について理解を深める目的で各回の講義において課題を設定し、その課題を通じて社会情勢に関する理解度を評価する。 ・ ・ ・ 4 0 点 ※学習目標①から③に対応					
22.コメント	2 年生秋学期の「仕事とキャリア形成Ⅱ」を担当しました。いよいよインターンシップなど本格的な就職活動に向けた準備を始めますが、春学期においては様々な社会環境についての知識と理解を深め、ますます複雑化する社会、経済、政治についてしっかりと個人の考えを醸成してもらいたいと思います。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】安藤担当 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。			復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業の役割について自分なりの意見を考える。		
【第 2 回】	【企業に関する理解】 企業の社会的役割や形式などについて理解する。また、法的な人格である法人の意味などについて理解する。			復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめておく。		

【第3回】	【企業に関する理解】 企業の組織について理解する。また、取締役会など会社法で規定されている会社を運営する規定などについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめる。
【第4回】	【企業に関する理解】 企業の経営について理解する。具体的には日本的経営や今後の見通し、また企業統治の課題などについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめる。
【第5回】	【企業に関する理解】 企業と個人の労働契約である雇用について理解する。具体的には働き方改革の実態や福利厚生の制度、更には労働組合の役割などについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：企業に関する講義を受けて、自分なりの意見を考え、まとめる。また企業に関する講義の確認テストに向けて内容を整理しておく。
【第6回】	【政治に関する理解】 日本の政治制度について理解する。この回では民主主義などの政治の基本原則について理解し、それが日本においてどのように具現化されているのかを理解する。 第1回の確認テストを実施する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。
【第7回】	【政治に関する理解】 日本の選挙制度について理解する。この回では民主主義の土台となる選挙について歴史より紐解き、また現代において問題とされている一票の重みなどについて理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。
【第8回】	【政治に関する理解】 日本の行政機関としての内閣制について理解する。この回では大統領制と議院内閣制の相違など行政の仕組みの違いを理解すると共に、政権の推移などから行政の在り方について理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。
【第9回】	【政治に関する理解】 日本の司法制度について理解する。この回では憲法の位置づけや内容、裁判所における裁判の仕組み、更には地方と中央の政治制度の相違や役割について理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：政治に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。また政治に関する講義の確認テストに向けて内容を整理しておく。
【第10回】	【経済に関する理解】 経済の基本的な仕組みについて理解する。この回では「買う」という行為を通じてどのような経済活動が営まれるのかを理解する。 第2回の確認テストを実施する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。
【第11回】	【経済に関する理解】 経済の基本的な仕組みとして株式会社制度と投資の意義について理解する。この回では「投資」という行為を通じてどのような経済活動が営まれるのかを理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。
【第12回】	【経済に関する理解】 日本経済、世界経済の様々なイベントを円相場を中心に開設する。具体的には、高度経済成長、ニクソンショック、プラザ合意とバブル経済、そしてリーマンシ	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。

	ヨック・アジア通貨危機などについて解説する。	
【第 13 回】	【経済に関する理解】 現在の経済状況について、エネルギー問題および食糧問題について理解し、こうした問題が、ウクライナ侵攻などによりどのような状況となっているのかを考える。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。
【第 14 回】	【経済に関する理解】 政治と経済の繋がりについて中世からの歴史を振り返り、その関係性を確認する。更に現代の経済政策についてリーマンショックからの日本経済の状況を確認しながらその結びつきを理解する。	復習：レジメの確認および課題への回答 予習：経済に関する講義を受けて、新聞などから自分なりの意見を考え、まとめる。 また経済に関する講義の確認テストに向けて内容を整理しておく。
【第 15 回】	最終回では、全体のまとめを行い、第 3 回の確認テストを実施する。	予習：講義全体を取りまとめ、整理しておく。 復習：課題についてのレポートをまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-A71	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ（経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	「仕事とキャリア形成Ⅰ」履修済のこと		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成Ⅰ」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認（My CareerID の取得と確認） ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限 目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限 目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方			○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（エントリー実績の提出）		

	・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己 P R ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成）
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x（ビジネスマナー・服装チェックの振り返り）
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（企業研究シートの提出）
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（模擬志望動機等を提出）
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x（GW/GD の振り返り）
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x（パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り）
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（集団／個人面接の振り返り）
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-A72	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ（教育福祉）		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認（My CareerID の取得と確認） ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備					
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント			○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（エントリー実績の提出）		

	・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己 P R ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成）
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー&実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x（ビジネスマナー・服装チェックの振り返り）
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（企業研究シートの提出）
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（模擬志望動機等を提出）
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x（GW/GD の振り返り）
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x（パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り）
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（集団／個人面接の振り返り）
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-A73	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ（経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認（My CareerID の取得と確認） ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備 ・エントリーシートや履歴書作成に、生成 AI 利用も無制限で認めますが、その内容が決してよいものと信用してそのまま使ってはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。					
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限	インターンシップ検索セミナー予約講座			○ブレンド形式で実施		

目	・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	◎ワーク x-x (エントリー実績の提出)
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座 (自己 P R ・ガクチカ編) ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成)
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー&実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x (ビジネスマナー・服装チェックの振り返り)
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座 (各キャンパス 3 社×25 分) ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (企業研究シートの提出)
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座 (志望動機・将来の取り組み編) ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (模擬志望動機等を提出)
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x (GW/GD の振り返り)
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x (パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り)
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (集団／個人面接の振り返り)
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-M71	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ（三木経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	xx 学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編（2023）『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円（1,500 円＋税） ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認（My CareerID の取得と確認） ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備					
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション（授業趣旨、進行、就活情報の整理）			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント			○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（エントリー実績の提出）		

	・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己 P R ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成）
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー&実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x（ビジネスマナー・服装チェックの振り返り）
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（企業研究シートの提出）
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（模擬志望動機等を提出）
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x（GW/GD の振り返り）
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x（パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り）
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（集団／個人面接の振り返り）
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-Y71	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編 (2023)『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円 (1,500 円＋税) ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認 (My CareerID の取得と確認) ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備 生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限 目	オリエンテーション (授業趣旨、進行、就活情報の整理)			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限 目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方			○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (エントリー実績の提出)		

	・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己 P R ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成）
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x（ビジネスマナー・服装チェックの振り返り）
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（企業研究シートの提出）
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（模擬志望動機等を提出）
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x（GW/GD の振り返り）
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x（パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り）
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（集団／個人面接の振り返り）
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-Y72	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ (英コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理、伊藤創					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編 (2023)『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円 (1,500 円＋税) ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認 (My CareerID の取得と確認) ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備					
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション (授業趣旨、進行、就活情報の整理)			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方 ・検索設定の注意事項とポイント			○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (エントリー実績の提出)		

	・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己 P R ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成）
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー&実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x（ビジネスマナー・服装チェックの振り返り）
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（企業研究シートの提出）
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（模擬志望動機等を提出）
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x（GW/GD の振り返り）
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x（パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り）
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（集団／個人面接の振り返り）
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-Y73	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ（観光）		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 仕事とキャリア形成Ⅰ、Ⅱに続き、観光産業に限らず、幅広い観光分野で様々なキャリア形成を行う上で必要となる知識の修得と具体的な準備を進める。 【概要】 ■「仕事とキャリア形成Ⅰ」「仕事とキャリア形成Ⅱ」で学んだことを活かし、観光業界におけるホテル、旅行、エアラインの各業界を踏まえ、これらの観光産業を制御する政策の理解を促進する。 ■企業の仕組みと企業が求める人材の限界を知り、彼らを正しく制御し、市場経済を運営するための仕組みを学び、社会の発展の方策を考察する。企業倫理を追求し、利益追求に走るばかり					
18.学習目標と DPとの関連	・観光産業では事故が多発する。その原因は、主に企業の怠惰であり、利益追求に走るあまりに起こる理解不足である。そのため、公共の福祉の増進という企業の社会的使命を正しく理解させ、そのマネジメントの中心に置くべく、業界指導を徹底する必要がある。その業務に従事する適切な人材像を理解する。 本科目の学修目標は DP（ディプロマポリシー）の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 ① 社会人基礎力の自己認知から自分の性格や価値観を客観的に把握し、自分なりの目標とする人材像を認識する。 ②観光における職業や業界について、指導することができる。 ③キャリア教育の一科目であることを自覚し、他に厳しくする以前に、自己を厳格に管理できる能力を身に着ける。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					
20.参考文献	必要に応じて提示します。					
21.成績評価	■社会人基礎力における個人ワーク、グループワークの取り組み及び確認テスト 40% ■講義ごとに実施する講義内容のまとめを通じた授業理解度 30% ■企業分析における財務および労働法に関する確認テスト 30%					
22.コメント	・仕事とキャリア形成Ⅰは全学共通プログラムでしたが、この到達点を活かし、秋学期においては社会人基礎力と観光業界における人材像についての理解を深めます。 ・外部講師を招きますので、その際は、失礼の無い対応をお願いします。					
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ■ 春学期の振り返りと全体スケジュールについての説明			○ 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の復習 150 分 ○ 本時の復習 30 分		

【第2回】	【講義】企業の仕組みとマネジメント 企業がなぜ存在するのか、その中で働くということとはどのような意味があるのかについて講義を行う。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から企業や組織についてのニュースなどを検索し、その内容と講義内容を比較検討する。 60分
【第3回】	【講義＆演習】社会人基礎力 ■社会人基礎力とはどのようなものを講義する。 ■社会人基礎力およびセルフコントロールに関するアンケートに回答する。(第4回以降の講義で自己認知の資料として活用する)	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第4回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「前に踏み出す力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第5回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「チームで働く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第6回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「考え抜く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第7回】	【講義および演習】社会人基礎力のまとめ&4年生の就活報告 (1) 社会人基礎力に関する確認テスト (2) この夏就活を経験した先輩に今、皆さんにやっておいて欲しいことなどを語ってもらう。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。
【第8回】	業界研究(旅行業界) 外部講師を招聘し、業界説明、特にその業界で求められる人材像を中心にお話し頂く。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業(自分の関心のある職業や知らない職業)について調べ、その内容を理解する。 120分
【第9回】	業界研究(エアライン業界) ANA 関西空港から外部講師を招き、エアライン業界の現状と将来、さらに空港で働くスタッフの仕事や求め	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット

	る人材像について講義を行う。	情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 10 回】	業界研究（ホテル業界） 外部講師を招聘し、業界について説明頂く。特にその業界で求められる人材像を中心にお話し頂く。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 11 回】	【講義】企業研究 財務編 経営資源の一つである資金についての理解を深める。財務諸表への理解と簡単な分析による企業の経営力の分析を行う。尚、最後に確認テストを実施する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 12 回】	【講義】企業研究 労働編 経営資源の一つである人財、特に労働法規等についての理解を深める。労働 3 法への理解と派遣労働や委託業務など態様の異なる働き方についての理解を深める。尚、最後に確認テストを実施する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 13 回】	【講義】企業研究 財務編と労働編の解説 第 11 回と第 12 回で実施したテストの答え合わせを行いながら、財務と労働のポイントを再確認する。	○就活の不安について取りまとめ、授業の中で積極的に質問できる準備を行う。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 14 回】	【講義】インターンシップに向けて インターンシップに向けて具体的なエントリーの方法や学生全体、大学の特徴などについて就活支援の担当者からお話し頂く。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 15 回】	【講義】講義全体の振り返り 講義全体を振り返り、この科目で学んだことについて整理する。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CRE307-Y74	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅲ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久、行木敬					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	仕事とキャリア形成 1 を履修済		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面での講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	2 年次の「仕事とキャリア形成Ⅰ」及び「仕事とキャリア形成Ⅱ」等で得たキャリアに関する知識や各手法を元に各経験学習や専門的学びを整理統合し、これを材料に自己分析や産業・企業研究を行うことで、これから本格化する就職活動への最終的な進捗確認と調整と行っていく。 そのため、本講義では就職活動の実践的スキルと知識の獲得に重点を置いており、模擬面接や模擬グループワーク、新聞読み込み等を行うと共に、企業の採用担当者や早期内定者との交流によってモチベーションと意識も高めていく。 そして、こうした活動を契機として今後					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシーの(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門知識に関連 ①様々な職業や業界について関心を持ち、自身で調べ幅広い知識を獲得する。 ②自分の視点や価値観を持ち、そこから問題発見と解決する最適解を考察する。 ③将来の目標に向けた今後のキャリアマップを描く。 ④上記を自分の言葉で言語化し、他人に説明し理解を得る。					
19.教科書・教材	藤木清・竹田茂生編 (2023)『大学生のための実践キャリア・デザイン』くろしお出版 定価 1,650 円 (1,500 円＋税) ISBN：978-4-87424-945-1 ※「仕事とキャリア形成 1」の指定テキストを使用 ※適宜、必要な資料を配布					
20.参考文献	適宜、必要な資料を配布					
21.成績評価	・各日程の課題ワークシート：5 点×8 回 40％ ・面接・グループワーク/ディスカッション：各 10 点 30％ ・振り返りエントリーシート/ライフラインチャート：20％ ・e ポートフォリオ記事投稿：10％					
22.コメント	受講にあたり、事前に以下の準備を行っておくこと ・マイナビ 2027 への登録とログイン確認 (My CareerID の取得と確認) ・現段階での自己 PR400 文字を最低 1 個作成 ・現段階での志望業種の確認 ・パソコンの利用可能確認 ※スマホ利用は不許可 ・ZOOM の利用環境確認 ・就活用のスーツ等の準備 生成 AI 利用：条件付きで認める。(様々な状況を勘案し個別に対応・指導します)					
23.オフィスアワー	x 曜日 x 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日目 1 限目	オリエンテーション (授業趣旨、進行、就活情報の整理)			オンラインでの合同形式		
第 1 日目 2 限目	インターンシップ検索セミナー予約講座 ・効率的な選考企業の探し方・増やし方			○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x (エントリー実績の提出)		

	・検索設定の注意事項とポイント ・エントリーとセミナー予約の方法とポイント	
第 1 日目 3 限目	エントリーシート・面接対策講座（自己 P R ・ガクチカ編） ・強み・特性・価値観の言語化 ・自問自答による深化方法	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（自己 PR、ガクチカ、弱み等の作成）
第 1 日目 4 限目	ビジネスマナー＆実践トレーニング講座 ・服装等のチェック ・基本的なビジネスマナー講座 ・ビジネスマナーの実践練習・ロールプレイング	○各キャンパスで個別実施 ◎ワーク x-x（ビジネスマナー・服装チェックの振り返り）
第 2 日目 1 限目	業界・企業研究講座（各キャンパス 3 社×25 分） ・企業説明会のポイント ・実際の企業説明会と同じ動画を 3 社実施 ・それを視聴し、まとめて情報化	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（企業研究シートの提出）
第 2 日目 2 限目	エントリーシート・面接対策講座（志望動機・将来の取り組み編） ・企業特長の掴み方 ・志望動機作成のポイント	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（模擬志望動機等を提出）
第 2 日目 3 限目	グループワーク・ディスカッション講座① ・グループワーク・ディスカッションのポイント解説 ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施
第 2 日目 4 限目	グループワーク・ディスカッション講座② ・模擬グループワーク ・模擬ディスカッション	○各キャンパスで実施 ◎ワーク x-x（GW/GD の振り返り）
第 3 日目 1・2 限目	先輩・早期内定者セッション ・パネルディスカッション ・インタビュー ・Web 座談会	○ブレンド形式で実施 ◎☆ワーク x-x（パネルディスカッションと Web 座談会の振り返り）
第 3 日目 3・4 限目	面接実践講座 ・集団・個人面接とプレゼンのポイント解説 ・模擬集団面接 ・模擬個人面接 ・模擬プレゼン ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎ワーク x-x（集団／個人面接の振り返り）
第 4 日目 1・2 限目	ジョブフェア(業界研究フェア)	○三木 C で対面実施 ◎企業訪問シートを提出
第 4 日目 3 限目	模擬 ES 作成・今後の学修・活動計画作成・まとめ/総括 ・これまでの学びを活かしたエントリーシート作成について説明 ・今後の学修・活動・成長のライフラインチャート作成について説明 ・授業の総括 ・振り返りワークシートを提出	○ブレンド形式で実施 ◎：模擬 ES と模擬ライフラインチャート、振り返りワークシートを提出

1.授業コード (ナンバリング)	CRI101-Y01	2.科目名	犯罪学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科	9.履修学年	1 年生～		
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、最広義の犯罪学（刑事学）の学びとして、犯罪情勢や警察が行う各種取り組み内容を理解することを目的とします。 【概要】 具体的には、犯罪情勢の把握と各種犯罪の問題点や対策について、刑事、生活安全部門に重点をおいた警察活動を通じて学びます。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(2)社会的貢献性、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです ? 犯罪の発生実態と対応策について理解できるようになる ° 犯罪の抑止活動について理解できるようになる ? 警察活動について理解できるようになる				
19.教科書・教材	○ WebClass で配付する ○ ノートパソコンを毎回持参して下さい				
20.参考文献	令和 6 年版警察白書(警察庁ホームページからダウンロード可能)				
21.成績評価	・ 中間効果測定（WebClass テスト） 3 5 % ・ 総括効果測定（WebClass テスト） 4 5 % ・ レポート(治安と安全安心に関するテーマ) 1 0 % ・ レポート(指定された犯罪に関するテーマ) 1 0 %				
22.コメント	生成 AI の利用:条件付きで認めるが、レポート作成では使用不可とする。 - 条件 1 :情報の真偽を確認すること。 - 条件 2 :個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 - 条件 3 :AI 活用の更新情報の収集と理解に努めること。				
23.オフィスアワー	月曜昼：センターオフィスアワー 火曜昼：研究室オフィスアワー				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○ オリエンテーション ガイダンス、犯罪学の成り立ちについて		各回ごとに、警察白書の該当箇所を読んでから授業に臨むこと。 さらに、該当項目を情報検索するなど GW（グループワーク）等に備えること。		
第 2 回	? 日本の治安 日本の犯罪情勢について学びます。		「日本の治安は良いのか」「私たちに出来ることは何か」を考えて授業に臨む		
第 3 回	○ 警察本部講義(生活安全部生活安全企画課) 防犯活動の重要性、特殊詐欺について 犯罪の起きにくいまちづくり について学びます。		防犯の重要性や特殊詐欺の現状と対策について理解する。		
第 4 回	○ 刑法について		刑法の基本的な考え方について理解する		

	刑法の仕組みや原則について学びます。	
第 5 回	○ 警察本部講義(刑事部組織犯罪対策局薬物銃器対策課) 薬物犯罪の現状、問題点、対策について	薬物犯罪の現状と対策について理解する
第 6 回	○ 警察本部講義(刑事部捜査第一課) 性犯罪の現状と対応について	性犯罪の現状や対応について理解する
第 7 回	○ 振り返り 薬物犯罪や性犯罪についての振り返り ○ 総警務警察について 警察の組織等について学びます。 ○ 地域警察について 110番対応の仕組みや、職務質問の根拠等について学びます。	○ 薬物犯罪や性犯罪について の振り返り ○ 警察組織、110番処理、職務質問について理解する
第 8 回	○ 中間効果測定	※ ノートパソコン、レジメ(1～7回)必携 (ウェブクラスでの5者択一の試験)
第 9 回	○ 警察本部講義(刑事部組織犯罪対策局暴力団対策課) 暴力団の現状や排除対策等について学びます。	暴力団の反社会性(悪性)と排除要領について理解する
第 10 回	○ 刑事警察について 刑事警察の役割りや捜査活動について学びます。 ○ 暴力団等組織犯罪を考察 暴力団対策、トクリュウとは	刑事警察の役割りや暴力団排除について理解する
第 11 回	○ 刑事警察について 捜査や取調べがどのようにして行われているのかを学びます。	捜査や取調べの適正確保方策等について理解する
第 12 回	○ 警察本部講義(生活安全部少年課) 少年非行や児童虐待の現状、問題点や対策などについて学びます。	少年非行や児童虐待の現状について理解する。
第 13 回	? 警察本部講義(人身安全対策課) ストーカー(ST)やドメスティックバイオレンス(DV)の現状、問題点、対策などについて学びます。 ○	STやDVの現状や対策について考えてみる。
第 14 回	? 生活安全警察(振り返り) 少年非行、児童虐待やストーカー(ST)、ドメスティックバイオレンス(DV)の現状、問題点、対策などについて振り返ります。	少年非行、児童虐待、ST・DVについて、警察白書や情報検索等で振り返る。
第 15 回	○ 総括効果測定	※ ノートパソコン、レジメ(9～14回)必携 (ウェブクラスでの5者択一の試験)

1.授業コード (ナンバリング)	CRI203-Y03	2.科目名	犯罪・災害報道論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠、大松光寿					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目で身につける知識・技法 ① 犯罪・災害の報道が理解できる。 ② マスメディアに関する知識が獲得できる。 ③ マスメディア情報に対する客観的な対応が身に付く。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 マスメディアの犯罪・災害報道のあり方について学ぶ 犯罪・災害報道と人権の問題について学ぶ 犯罪・災害報道が社会に及ぼす作用について学ぶ					
19.教科書・教材	資料を配付する ※ 災害報道論は、WebClass 上での配付					
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	①犯罪について 実名報道に関するレポート 10% ②犯罪についての筆記試験 40% ③災害想定に基づいた記者会見資料作成 10% ④災害報道についての筆記試験 40%					
22.コメント	(1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識+自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 試験問題について 試験は毎回の講義で配付する資料から出題するので、試験前には配付資料をきちんと復習してから受験すること 記述式の場合には、必ず最初に、講義で習ったことをきちんと書くこと その上で、自分の考えを述べるのは良いが、きちんとした理論について触れることなく、勝手な意見を書いても、得点にはならない また、制限字数を大幅に下回るような状態で提出された答案は、60 点に満たないと心得ておくこと 文字が読みにくい、日本語の文章になっていない場合は、内容にかかわらず、単位を取得する権利を放棄したものと見なすので、その点を留意しておくこと					

		(3) 生理心理学の実験に参加した者はボ-ナス加点する 実験参加は生理心理学の理解に役立つので、任意に参加してくれた学生には、試験の結果に点数を加点するので、ぜひ協力して欲しい ※ 生成 AI の利用:条件付きで認めるが、レポートや課題資料の作成では使用不可とする。 ・ 条件 1 :情報の真偽を確認すること。 ・ 条件 2 :個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 ・ 条件 3 :AI 活用の更新情報の収集と理解に努めること。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス	
第 2 回	マスコミュニケーションとはなにか 犯罪報道の問題点について（講義）	
第 3 回	「実名報道について」講義	
第 4 回	被害者の実名報道、少年の実名報道 実名報道の是非にかかるレポートをまとめる準備を行う	
第 5 回	報道協定 実名報道に関するグループ討議	
第 6 回	てるくはのる事件を通じてメディアスクラムの弊害を学ぶ	
第 7 回	名張毒ぶどう酒事件をめぐる報道についてー今後の犯罪報道のあるべき姿ー	
第 8 回	犯罪報道に関する試験	
第 9 回	災害とは何か 災害の種別とその概要について 災害時のマスコミの役割について	各回、あらかじめ、情報検索（信頼できるサイト）等で内容を調べてから授業に臨むこと。
第 10 回	阪神淡路大震災から学ぶ 初動対応の遅れとマスコミ作用について 被災者の実名報道について	阪神淡路大震災と報道について考える
第 11 回	警察本部講義 災害時における警察活動について	災害時の警察活動について理解する
第 12 回	東日本大震災から学ぶ 避難報道の評価について	東日本大震災と報道について考える
第 13 回	事例検討 災害想定に基づいて記者会見資料を策定する	災害等緊急時の報道の役割をを考え、記者対応要領の実技訓練を行う
第 14 回	緊急時の広報と記者会見（現役記者による講義、模擬	記者会見資料、想定問答の作成

	記者会見) 事前準備と適切な報道対応について	
第 1 5 回	災害報道についての筆記試験	

1.授業コード (ナンバリング)	CRI205-Y01	2.科目名	防災・防犯心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦、大松光寿、高橋浩樹、中山誠					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 目的：現代社会において、災害や犯罪は連日のように起こっており、その被災者・被害者のケア・支援は必要不可欠なものとなっています。そこで「被害が起きない為に必要なものは何か。」「どうすれば被害に遭わないのか。」を習得することを目的としています。 【概要】 本授業では、防災・防犯に関する専門的知識を学び、効果的な防災、防犯に必要な要因、意識向上のためのメカニズム、安心・安全な生活のために必要な心理学の専門的知識を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本学科の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、①自律性、②社会的貢献性、③多様性理解、④問題発見解決力（発見力・論理的思考判断力・解決力）の学習に関連します。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	令和 6 年版警察白書					
21.成績評価	4 名の教員各 25％（計 100％） 【村田担当分】（25％） ミニレポート 3 回 （学習目標②、③、④に対応） 【中山担当分】（25％） ウェブクラスによるミニテスト （学習目標②、③、④に対応） 【大松担当分】（25％） ウェブクラスによるミニテスト （学習目標②、③、④に対応） 【高橋担当分】（25％） ミニレポート 3 回 （学習目標②、③、④に対応）					
22.コメント	※ 生成 AI の利用:条件付きで認めるが、レポートや課題資料の作成では使用不可とする。 ・ 条件 1 :情報の真偽を確認すること。 ・ 条件 2 :個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 ・ 条件 3 :AI 活用の更新情報の収集と理解に努めること。					
23.オフィスアワー	【村田】 センターオフィスアワー：別途実施 研究室オフィスアワー：月曜昼休み 【中山】 センターオフィスアワー：火曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜 4 限 【大松】 センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み 【高橋】 センターオフィスアワー：火曜日昼休み					

研究室オフィスアワー：金曜日昼休み		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス 授業の進め方、評価方法等について	
第 2 回	村田担当 日本人の災害観 ～西欧と東洋の自然観・災害観を歴史的に比較し、日本人の災害観（災害時の心理）の根底を探る～	
第 3 回	村田担当 様々なパニックの理解と対策 ～パニックが発生する要素を学び、2024 年 1 月 2 日の羽田空港日航機衝突事故等を題材に、実際にパニック発生時の心の葛藤、行動を、クロスロードゲームの手法を用いて、グループで考える～	
第 4 回	村田担当 ～災害発生時に、意思決定の迷いが生じる事例（クロスロードゲームのお題）をグループで決めて、全員がその課題についてクロスロードゲームを通じて解決策を考える。	
第 5 回	兵庫県警察本部 災害対策課 担当警察官の講義（担当大松） 「警察と災害対策（過去の現場活動状況等）」	
第 6 回	中山担当 子どもの防犯 学校における事件事故の防止	
第 7 回	中山担当 児童虐待の事例紹介とその対策	
第 8 回	中山担当 闇バイトを使った事件の発生防止	
第 9 回	大松担当 一般防犯理論（割れ窓理論等）、日米の防犯対策の違い	
第 10 回	大松担当 防犯活動の重要性と具体的かつ効果的な活動方法を考察する。	
第 11 回	大松担当 特殊詐欺を高齢者から守るための効果的な予防策を考える。	
第 12 回	高橋担当 サイバー空間における防犯（サイバー対処能力強化）	ミニレポートの作成
第 13 回	高橋担当 若者の消費者被害の心理的要因	ミニレポートの作成
第 14 回	高橋担当 若者の消費者被害の心理的要因②	ミニレポートの作成
第 15 回	振り返り、総括（感想等）	感想アンケートの作成

1.授業コード (ナンバリング)	CRI206-Y01	2.科目名	司法・犯罪心理学（2022 年度生以前 春秋通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山昂、寺村堅志					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた専門家の関わりや心理学的支援について学習することを目的とする。 犯罪の発生原因に関わる理論や犯罪捜査、近年問題となっている犯罪、裁判などを取りあげる。 本授業では、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深める。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 2025 春 ：寺村 ?一連の司法矯正手続きの中で、心理的介入がどのように役立つのか理解する。 ?犯罪に関連する事象を多面的に捉えることができる。 2025 秋 ：板山 ? 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ④ 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ⑤ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ⑥ ③④⑤の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。					
19.教科書・教材	・ 2025 年春 適宜 WEBCLASS にアップする ・ 2025 年秋 入門 司法・犯罪心理学 -- 理論と現場を学ぶ 法と心理学会／監修(2022).有斐閣. 定価 2,530 円（本体 2,300 円） ISBN 978-4-641-17474-0					
20.参考文献	?ボンタ・アンドリュース著「犯罪行動の心理学」北大路出版 2018 年 ?シャッド・マルナ著「犯罪からの離脱と『人生のやり直し』：元犯罪者のナラティブから学ぶ」明石書店 2013 年 ③森丈弓著「犯罪心理学：再犯防止とリスクアセスメントの科学」ナカニシヤ出版 2017 年 ④藤岡淳子著「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用：治療教育の実践」誠信書房 2014 年					

	⑤大上渉編「犯罪を生む心、社会を守る心 - 心理学ビジュアル百科 司法・犯罪心理学編」2025年	
21.成績評価	・2025年春学期（矯正心理学） 毎回の感想レポート・理解度確認クイズ：15%（目標？，？に該当） 犯罪者の社会復帰に関するレポート：15%（目標？に該当） 総括試験：20%（目標①，②に該当） ・2025年秋学期（司法・犯罪心理学） 授業毎ミニレポート（学習目標③④⑤⑥を問う）：20% 総括試験（学習目標④？を問う）：30%	
22.コメント	2025年春学期 第01回～15回が寺村担当 生成AI利用：条件付きで認める。 ただし，レポート・テストでは使用不可とする。 2025年秋学期 第16回～30回が板山担当	
23.オフィスアワー	・板山：研究室オフィスアワー 水曜昼休み ・寺村：研究室オフィスアワー 金曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第01回 第16回 犯罪心理学が対象とする領域 ・司法・犯罪領域とは何をさすのか。 ・心理職がどのように活躍しているか。 第02回 犯罪・非行の移り変わり ・時代背景と犯罪・非行との関係性 ・近年注目されている犯罪	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASSの資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
	第03回 犯罪理論の概要 ・性悪説，性善説 ・原因重視，目的重視 ・発達障害との関係 第04回 犯罪行為のアセスメント① ・財産犯	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASSの資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
	第05回 犯罪行為のアセスメント？ ・粗暴犯 第06回 犯罪行為のアセスメント③ ・性犯，薬物犯	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASSの資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
	第07回 リスクアセスメント ・リスクアセスメントの歴史 ・RNR原則 第08回 介入の実際① ・認知行動療法に基づくアプローチ	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASSの資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
	第09回 介入の実際② ・動機づけ面接法 第10回 介入の実際？ ・社会復帰支援	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASSの資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
	第11回 介入の効果検証 ・プログラム評価と効果検証の必要性和手法 第12回 再犯・再非行に及ぶ理由 生活環境の重要性等	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASSの資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ，③非行・犯罪からの社会復帰のために有

		効と思われる介入についての中間レポート提出
	第 13 回 立ち直りの過程 ・グッドライフモデル ・犯罪者のナラティブに関する研究 第 14 回 事例検討 ・架空の事例を用いて、犯罪に至った背景要因の見立て、支援の方法について考える。	復習：授業の内容をノートにまとめる 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
	第 15 回 前半の総括試験 ・示された事例について，①なぜ犯罪行為に及んだのか，②これからどのような介入が必要なのか考えて記載する。 第 16 回 後半ガイダンス、犯罪心理学とは何か、犯罪統計 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。 犯罪心理学とはどういう学問か、アプローチの仕方によって犯罪・非行についての 切口が異なることを確認する。	前半最終回課題：感想レポート(総括) 以下は後半アサインメント 教科書 第 8 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 17 回 犯罪の原因論① 犯罪の原因について生物学的要因の観点から説明する。 第 18 回 犯罪の原因論② 犯罪の原因について、性格の要因など心理学的要因の観点から説明する。	教科書 第 9 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 19 回 犯罪の原因論③ 犯罪の原因について、物理的・状況的な「環境」、人間関係などの社会的観点から説明する。 第 20 回 DV について 親密な関係の中で起こる暴力について説明する。	授業資料を振り返る（60 分）
	第 21 回 虐待について 子ども虐待や高齢者虐待に関する現状を解説するとともに、発生や防止に関わる心理的問題について解説する。 第 22 回 ストーカーについて ストーカー加害者の特徴などについて解説する。	教科書第 11.12 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 23 回 物質・プロセス依存について 物質・プロセス依存の原因や治療について概説する。 第 24 回 窃盗について 窃盗の原因、動機、対策について解説する。	教科書 第 13 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 25 回 犯罪捜査・プロファイリング 犯罪捜査とそれにかかわる心理学的問題について解説する。 第 26 回 聴取・目撃証言 被害者や被疑者への聴取、目撃者の証言に関する心理学的問題について解説する。	教科書 第 14 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 27 回 裁判について学ぶ	教科書 第 15 章に目を通しておく（予習 2 時間）

	裁判について、主に裁判員裁判について解説する。 第 28 回 加害者支援について 再犯リスク低減のための取り組みについて学ぶ。	間)
	第 29 回 犯罪被害者について 被害者が受ける心理的な問題・被害などについて取りあげる。 第 30 回 後半の総括テスト ・持ち込み不可	これまでの授業を復習し、試験に備える。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI208-Y01	2.科目名	矯正心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 非行・犯罪をした者の特徴把握及び立ち直りの支援過程について理解することを目的とする。 【概要】 司法矯正領域における心理職がどのような役割を担っているのか総合的に理解できるような講義を目指す。特に、非行・犯罪の背景要因のアセスメント、対象者個々の問題に焦点を当てた処遇、更生に必要な社会復帰支援を学ぶことに重点を置く。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP のうち、多様性理解、問題発見・解決力、専門知識・技能の活用力と関連する。 【学習目標】 ①一連の司法手続きの中で、心理的介入がどのように役立つのか理解する。 ②非行・犯罪に関連する事象を多面的に捉えることができる。					
19.教科書・教材	適宜 WEBCLASS にアップする					
20.参考文献	①法と心理学会監修「入門 司法・犯罪心理学」有斐閣 2021 年 ②ボンタ・アンドリュース著「犯罪行動の心理学」北大路書房 2018 年 ③森丈弓著「犯罪心理学：再犯防止とリスクアセスメントの科学」ナカニシヤ出版 2017 年 ④藤岡淳子著「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用：治療教育の実践」誠信書房 2014 年 ⑤シャッド・マルナ著「犯罪からの離脱と『人生のやり直し』：元犯罪者のナラティブから学ぶ」明石書店 2013 年					
21.成績評価	毎回の感想レポート：1 点×15 回 15 %（目標①，②に該当） 理解度確認クイズ：1 点×15 回 15 %（目標①，②に該当） 犯罪者の社会復帰に関する中間レポート：30 %（目標①に該当） 総括試験：40 %（目標①，②に該当）					
22.コメント	質問や疑問点のある方は感想レポートに記載をお願いします。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	犯罪心理学・矯正心理学が対象とする領域 ・司法・犯罪領域とは何をさすのか。 ・心理職がどのように活躍しているか。 ・犯罪心理学の下位領域としての矯正心理学			復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ		
第 2 回	犯罪・非行の移り変わり ・時代背景と犯罪・非行との関係性 ・近年注目されている犯罪			復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ		
第 3 回	犯罪理論の概要 ・性悪説，性善説 ・原因重視，目的重視			復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ		

	・発達障害との関係	
第 4 回	犯罪行為のアセスメント① ・財産犯	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 5 回	犯罪行為のアセスメント② ・粗暴犯	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 6 回	犯罪行為のアセスメント③ ・性犯，薬物犯	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 7 回	リスクアセスメント ・リスクアセスメントの歴史 ・RNR 原則	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 8 回	介入の実際① ・認知行動療法に基づくアプローチ	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 9 回	介入の実際② ・動機づけ面接法	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 1 0 回	介入の実際③ ・社会復帰支援	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 1 1 回	介入の効果検証 ・プログラム評価と効果検証の必要性和手法 ・効果検証と EBP/EBPM	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ，③非行・犯罪からの社会復帰のために有効と思われる介入についての中間レポート提出
第 1 2 回	再犯・再非行に及ぶ理由 生活環境の重要性等	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 1 3 回	立ち直りの過程 ・グッドライフモデル ・犯罪者のナラティブに関する研究	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ
第 1 4 回	事例検討 ・架空の事例を用いて，犯罪に至った背景要因の見立て，支援の方法について考える。	復習：授業の内容をノートにまとめる。 予習：WEBCLASS の資料を読む 課題：①感想レポート，②理解度確認クイズ，③試験準備のためのまとめの作業
第 1 5 回	総括テスト 示された事例について，①なぜ犯罪行為に及んだのか，②これからどのような介入が必要なのか考えて記載する。	課題：①感想レポート（総括）

1.授業コード (ナンバリング)	CRI306-Y01	2.科目名	サイバー犯罪論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学科（対面授業を原則とする）			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	サイバー犯罪論ⅠⅡの両講義を履修することを前提としています。 Ⅰにおいては、サイバー犯罪の現状や基本的事項、法制度に加えて犯罪の実例やサイバーセキュリティ対策についても学習します。講義への出席が原則です。					
17.授業の目的と概要	目的：情報収集、分析力を身に付け、データに基づく論理的思考力を養うことを目標とします。 サイバー犯罪の現状、傾向を学ぶことにより、現代社会において必要とされるサイバーセキュリティに関する知識・サイバーリスクマネジメント力を養成すること目的としています。 概要：現代社会がおかれている「サイバー空間の脅威」を正しく認識し、そのリスク軽減を図るため、サイバー犯罪の手口やその対策、法制度に関する知識を習得します。					
18.学習目標と DPとの関連	DPの(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①サイバー犯罪等が社会の中で問題となっている論点を述べることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。					
20.参考文献	警察白書、青林出版 概説サイバー犯罪 法令解説と捜査・公判の実際 授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	・第8回講義終了後レポート「サイバー空間の現状、サイバー犯罪に関する法制度について」の提出 40% 学習目標①に対応 ・総括効果測定 「違法有害情報、虚偽情報等に対する対策に関するレポート」の提出 60% 学習目標②、③に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提となるので注意すること					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。 ・レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する			ノートパソコン等を持参して下さい。		

	説明	
第 2 回	サイバー空間の脅威 現状、傾向	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	サイバー攻撃、サイバー犯罪 定義、対策	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	サイバー空間の歴史	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	国際的な秩序形成 サイバー犯罪条約	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	サイバー犯罪等に関する法制度 刑法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	サイバー犯罪等に関する法制度 不正アクセス法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	サイバー犯罪等に関する法制度 サイバーセキュリティ基本法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	違法有害情報に対する対策 フィルタリング、青少年インターネット環境整備法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	違法有害情報に対する対策 被害防止教室	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	ネットワーク上の虚偽情報 フェイクウェブ、フィッシング	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	サイバー犯罪の各種手口 実例	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 13 回	サイバー犯罪の各種手口 実例、事件例	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑

		ノートパソコン等を持参して下さい。
第 14 回	サイバーインテリジェンス、テロ 実情	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、事例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	総括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	CS2302-Y01	2.科目名	専門研究Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光 ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、航空産業論、航空実務		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の課題は「関西圏における 3 空港を比較する中で、神戸空港の魅力を向上させる施策を考え、提案す					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	PM演習Ⅲ 個人調査の成果物（ガイドに従い作成）：50％・・・学習目標①② 行程表（ガイドに従い作成）：30％・・・学習目標④ 専攻研究のまとめ：20％・・・学習目標② PM演習Ⅳ 中間発表 PPT（チームで作成）：20％・・・学習目標②④ 最終発表 PPT（チームで作成）：30％・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50％・・・学習目標①②					

	※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。 ※本授業は主体的な学習活動を中心と	
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。 ②フィールドワークや先行研究により課題への理解を深める。 ③就活に向けて企業の活動を理解する。 尚、原則として本演習で作成した課題研究論文をもとに4年次に取り組む卒業研究における企画提案書を作成していきます。 生成AI利用：条件付きで認める。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス3号館 3302号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	第1回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第2回：2年次の研究内容の発表 グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第3回 第4回	第3回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第4回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は5月から6月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第5回 第6回 第7回	第5回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第6回&第7回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第8回 第9回	第8回：成果計画表の作成 第9回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第10回 第11回	第10回：合同発表会に向けて準備 第11回：テーマ発表会 ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第12回～第14回 第15回	第12回～第14回：企業からのアドバイスや他大学の発表から最終発表に向けて新たに追加すべき活動や見直すべき活動を再検討 第15回：夏休みに向けての課題	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第16回 第17回～第22回	第16回：研究テーマの確認 第17回～第22回：中間報告に向けて発表準備（毎回発表を行います）	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第23回 第24回～第28回	第23回：中間報告会 第23回～第28回：個人研究作業およびグループ発表作業	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第29回 第30回	第29回：合同研究発表会 ANA 総研による採点 第30回：個人課題研究提出	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CS2401-Y01	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済 みのこと		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(遠隔授業の場合は、ZOOM などを使用 する)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	経済・経営学に関係した自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。 その中で、資料の収集、データの集計や統計的分析の力も身に着けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー) の S1. 修得した知識・技能を通して、現代社 会の諸問題を総合的に理解する力、S2. 社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関 連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的な心理学論文を執筆できる。					
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。					
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆：70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。					
22.コメント	これまでに学んできた心理学の知識をベースに研究を進めることになります。できるだけ早い 段階で関心があるテーマを見つけ、卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文の執筆で きるように心掛けてください。データの分析方法についてはこれまでの授業の復習を行うこ とを推奨します。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	ガイダンス ・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する 自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第 2 回～第 4 回】	研究計画の作成 ・実習 関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第 5 回～第 7 回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第 8 回～第 10 回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第 11 回～第 14 回】	研究準備 ・決まった研究手法に沿って研究準備を行う。質問紙調査の場合は質問紙の作成などを行う	課題：今までの研究の進捗状況の発表の準備を行う
【第 15 回】	発表会 ・研究の進捗状況について発表する	課題：夏休み中に研究を進め、次回発表する資料を作成する
【第 16 回】	報告会 ・夏休み中の研究の進捗状況を発表する	課題：発表の際に受けた指摘を受け、修正を行い、卒業論文の執筆を進める
【第 17 回・第 18 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 19・第 20 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 21・第 22 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 23・第 24 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 25・第 26 回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 27 回・第 28 回】	ゼミ発表会 ・卒業研究について発表を行い、ディスカッションを行う	課題：発表におけるディスカッションやフィードバックを基に自分の研究を見直す
【第 29 回】	卒論発表会準備 ・査読結果を結果を返却し、フィードバックをうけ、卒論発表会に向けた準備を行う	課題：卒論発表会に向けた資料の準備
【第 30 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CS2401-YH1	2.科目名	卒業研究（春）		3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済みのこと		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 関心のあるテーマについて問いを立て、専門的知識を用いてその問いへの答えを導き出し、論証する能力を養うことを目的とします。 【概要】 自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。その中で、資料の収集、データの分析の力も身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー) の S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、S2. 社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的で説得力のある論文を執筆できる。					
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。					
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集、分析：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆: 70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。					
22.コメント	これまでに学んできた知識をベースに研究を進めることになります。関心があるテーマについて卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文を執筆できるよう心掛けてください。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					

		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	ガイダンス ・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する 自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第2回】	研究計画の作成 ・実習 関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第3回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第4回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第5回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第6回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第7回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第8回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第9回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第10回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第11回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第12回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第13回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。

		課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 14 回】	卒業論文の執筆指導 ・ 卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 15 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CS2402-Y01	2.科目名	卒業論文・制作・設計		3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済みのこと		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 関心のあるテーマについて問いを立て、専門的知識を用いてその問いへの答えを導き出し、論証する能力を養うことを目的とします。 【概要】 自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。その中で、資料の収集、データの分析の力も身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー) の S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、S2. 社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的で説得力のある論文を執筆できる。					
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。					
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集、分析：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆: 70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。					
22.コメント	これまでに学んできた知識をベースに研究を進めることになります。関心があるテーマについて卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文を執筆できるよう心掛けてください。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					

		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	ガイダンス ・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する 自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第2回】	研究計画の作成 ・実習 関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第3回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第4回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第5回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第6回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第7回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第8回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第9回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第10回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第11回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第12回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第13回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。

		課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 14 回】	卒業論文の執筆指導 ・ 卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 15 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CS2402-YH1	2.科目名	卒業論文・制作・設計（春）		3.単位数	4
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習または課題研究、専門演習を履修済 みのこと		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 関心のあるテーマについて問いを立て、専門的知識を用いてその問いへの答えを導き出し、論証する能力を養うことを目的とします。 【概要】 自分自身の関心に基づいたテーマを設定し、卒業論文を執筆します。その中で、資料の収集、データの分析の力も身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー) の S1, 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、S2, 社会や文化について科学的に理解する力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 学習目標は以下の通りです。 ①関心があるテーマから、卒業論文のテーマを具体化し、仮説を立てることができる。 ②科学的で説得力のある論文を執筆できる。					
19.教科書・教材	教科書は指定せず、適宜プリントを配付します。					
20.参考文献	関連する文献情報は初回授業でアナウンスし、授業中にも適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・卒業研究のための資料収集、分析：30 点【学習目標の①②に対応】 ・卒業論文の執筆: 70 点【学習目標①②に対応】 上記を合計し、60 点以上を取ることが合格基準となります。					
22.コメント	これまでに学んできた知識をベースに研究を進めることになります。関心があるテーマについて卒業研究の方向性を定め、余裕をもって卒業論文を執筆できるよう心掛けてください。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					

		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	ガイダンス ・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて説明する 自己紹介を行う）	復習：今回の復習 予習：次回の予習（講義終了時に次回テーマを伝える）
【第2回】	研究計画の作成 ・実習 関心があるテーマを探し、研究計画を作成する	課題：研究計画を作成する
【第3回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第4回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第5回】	資料の収集 ・実習 自分の関心があるテーマに関する先行研究などの資料を調べる	課題：調べた資料をまとめる
【第6回】	研究準備 ・調査などの研究手法について決め、その準備を行う	課題：自分の研究テーマに合った研究手法を選びそのための準備を行う
【第7回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第8回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第9回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第10回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第11回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第12回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第13回】	卒業論文の執筆指導 ・卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。

		課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 14 回】	卒業論文の執筆指導 ・ 卒業論文を執筆し、個別に指導を受ける	復習：指摘された問題について再考・改善する。 課題：指摘された問題を踏まえて、論文の執筆を進める。
【第 15 回】	総括	復習：授業を通して学んだことを整理する

1.授業コード (ナンバリング)	ECO103-Y01	2.科目名	経済学		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、今日の経済社会を理解するうえで必要となる経済的知識および経済学的な発想方法を身につけることを目的とする。 本講義の学習内容は以下のとおりである。 ・ 経済学における基本的な概念や専門用語を説明し、それらの活用の仕方を学習する。 ・ 身近な事例、新聞記事、統計等を題材として、様々な経済現象をとりあげ、経済学で扱われている主要なテーマを具体的に学習する。 ・ 個々の経済現象がどのようなメカニズムで起こるのかを理論的に学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	・ 経済学の専門用語の意味を理解し活用することができる ・ データから経済現象を読み取ることができる ・ 身近な経済現象について経済理論に基づいて他人に説明することができる					
19.教科書・教材	伊藤元重 入門経済学 日本評論社					
20.参考文献	伊藤元重 はじめての経済学 上・下 日経文庫 マンキュー 入門経済学 第3版 東洋経済新報社					
21.成績評価	評価・評定については下記項目をもとに総合的に行う ・ 授業中の提出物 20% ・ 小テスト 30% ・ 総括試験 50%					
22.コメント	経済学は人々の生活や社会のあり方を理解するうえで重要な考え方を教えてくれます。 難しく考えすぎずに取り組んでみることをおすすめします。 わからないことがあれば、そのままにせず積極的に質問してください。 .生成 AI 利用に関してはいかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手1号館2階ラーニングコモンズ）：月、4限 研究室オフィスアワー（神戸山手3号館2階207室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
4/8 4/15	第1回 経済学とはどのような学問か 経済をマクロからとらえる 第2回 有効需要と乗数メカニズム			アサインメント： ・ 教科書の該当箇所の復習 ・ 授業ノートの整理 持参物 ・ 教科書、ノート ・ パソコン		
4/22 5/6	第3回 貨幣の機能 第4回 マクロ経済政策			アサインメント： ・ 教科書の該当箇所の復習 ・ 授業ノートの整理 持参物 ・ 教科書、ノート ・ パソコン		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ECO201-M01	2.科目名	国際経済論		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2～	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	経済学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	為替レートの変動、インバウンド旅行者など日々のニュースや新聞記事で報道されるものだけではなく、私たちが何気なく通っているカフェやお気に入りのスニーカーなど、国際経済との関係なしには私たちの経済生活は成り立っていない。こうしたことを理解するために国際経済の知識が必要になるが、「鏡を見て自分の顔がわかる」ように、国際経済学の最も重要な対象は私たちの日本経済である。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国境を					
18.学習目標と DPとの関連	本講義の学習内容は、以下のとおりである。 （１）国際経済学における基本的な概念や、専門用語を理解する。 （２）資料、統計、新聞や雑誌記事などを用いることで現在の世界経済の動きについて理解する。 （３）（１）および（２）により現在の国際情勢、そして日本経済について自分なりの視点を確立する。 学科のDPの（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布					
20.参考文献	授業内に適宜紹介					
21.成績評価	ミニ課題：20％、レポート課題：30％、期末試験：50％					
22.コメント	ロシアのウクライナへの侵攻などの国際経済や日本経済に及ぼしている影響など、新しいテーマについても、適宜、理解を深めます。 生成AIの使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	世界の中の日本					
第2回	国際経済の変貌と日本経済					
第3回	為替レートと日本経済					
第4回	為替レートの決定と変動の理論					
第5回	固定相場制					
第6回	国際化するマクロ経済					
第7回	国際収支					
第8回	国際マクロ経済学					
第9回	国際金融取引					
第10回	累積債務問題					
第11回	日本経済と国際貿易					
第12回	貿易の基礎理論					
第13回	通商問題の変貌					

第 1 4 回	直接投資と企業のグローバル展開	
第 1 5 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	ECO201-y01	2.科目名	国際経済論		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 ～	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	経済学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	為替レートの変動、インバウンド旅行者など日々のニュースや新聞記事で報道されるものだけではなく、私たちが何気なく通っているカフェやお気に入りのスニーカーなど、国際経済との関係なしには私たちの経済生活は成り立っていない。こうしたことを理解するために国際経済の知識が必要になるが、「鏡を見て自分の顔がわかる」ように、国際経済学の最も重要な対象は私たちの日本経済である。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国際経済の視点を持つことで、はじめて日本経済の姿が明らかになってくる。国境を					
18.学習目標と DPとの関連	本講義の学習内容は、以下のとおりである。 （１）国際経済学における基本的な概念や、専門用語を理解する。 （２）資料、統計、新聞や雑誌記事などを用いることで現在の世界経済の動きについて理解する。 （３）（１）および（２）により現在の国際情勢、そして日本経済について自分なりの視点を確立する。 学科のDPの（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布					
20.参考文献	授業内に適宜紹介					
21.成績評価	ミニ課題：２０％、レポート課題：３０％、期末試験：５０％					
22.コメント	ロシアのウクライナへの侵攻などの国際経済や日本経済に及ぼしている影響など、新しいテーマについても、適宜、理解を深めます。 生成AIの使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第１回	世界の中の日本					
第２回	国際経済の変貌と日本経済					
第３回	為替レートと日本経済					
第４回	為替レートの決定と変動の理論					
第５回	固定相場制					
第６回	国際化するマクロ経済					
第７回	国際収支					
第８回	国際マクロ経済学					
第９回	国際金融取引					
第１０回	累積債務問題					
第１１回	日本経済と国際貿易					
第１２回	貿易の基礎理論					
第１３回	通商問題の変貌					

第 1 4 回	直接投資と企業のグローバル展開	
第 1 5 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	ECO202-Y01	2.科目名	経済学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	徐慧					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科・観光学科			9.履修学年	1 年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では食事、恋愛、お住まいなど身近なものを経済学に通じて考えられ、楽しい経済学を学ぶことができます。具体的には、市場メカニズム、供給と需要、競争、政府の役割など、経済活動の基本的な構造について学びます。また、経済学的な思考法を身につけ、経済政策や実務に関する問題を分析する能力を養います。 【概要】 経済学の基本概念である「需給の法則」や「市場の均衡」などを理解し、経済主体（消費者、企業、政府など）の行動について考察します。その後、マクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論を学び、経済活動がどのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1、ミクロ経済学の基本的な専門用語とモデルを認識することができる。 2、モデルに基づいて簡単な計算をすることができる。 3、授業で紹介した消費者行動や企業活動を理論的に分析することができる。 [関連するディプロマポリシー] (2)社会的貢献性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	マンキュー入門経済学 N・グレゴリー・マンキュー（著），足立 英之（翻訳），石川 城太（翻訳），					
20.参考文献						
21.成績評価	授業中課題 60％（毎回 5 点、合計 12 回） 総括試験 40％					
22.コメント	生成 AI の利用可					
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	経済学の 10 大原理について学び、経済学がどのような問題を解決するかを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。			PC 必要 授業後復習必要		
第 2 回	前回復習 生産可能性フロンティアの定義と、資源の限界による生産の選択肢を学びます。 比較優位の概念を学び、異なる国や企業がどのようにして貿易を行い、利益を得るのかを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。			PC 必要 授業後復習必要		
第 3 回	前回復習 市場の概念と種類、需要の法則、価格の決定メカニズムについて学び、需要曲線を理解します。			PC 必要 授業後復習必要		

	授業で課題を解き、提出した後に解説します。	
第 4 回	前回復習 供給の法則、供給曲線、曲線のシフトを理解します。 授業で課題を解き、解説した後に提出するのが必要	PC 必要 授業後復習必要
第 5 回	前回復習 価格規制について理解し、 価格弾力性、価格弾力性の計算方法を学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 6 回	前回復習 消費者余剰と生産者余剰の定義とその計算方法を学び、経済的な福利を理解する。市場の効率性と余剰の最大化について考えます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 7 回	前回復習 市場の効率性、外部性、公共財など、市場の失敗について学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 8 回	ミクロ経済学について復習	
第 9 回	マクロ経済学の基本概念、GDP、インフレの定義とその相互関係について学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 1 0 回	前回復習 消費者物価指数とインフレ率の計算、利率の区別を学びます。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 1 1 回	前回復習 IS-LM モデルの構築 授業で課題を解き、解説した後に提出するのが必要	PC 必要 授業後復習必要
第 1 2 回	前回復習 総需要曲線（AD）と総供給曲線（AS）の定義とその動きについて学びます。AD-AS モデルを用いて経済全体の価格と産出量がどのように決まるかを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 1 3 回	前回復習 金融システムの構造と機能を理解し、貯蓄と投資の関係について学びます。金融市場の役割、金融機関、利率の決定メカニズムを理解します。 授業で課題を解き、提出した後に解説します。	PC 必要 授業後復習必要
第 1 4 回	総復習 総括試験	
第 1 5 回	総復習 総括試験返却	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE201-A01	2.科目名	英語科教育法Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目- 各教科の指導法	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	中学(英語) コアカリ対応科目		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	<目的> Students understand the basic concepts about English language teaching and decide to start teacher's license course. <概要> This is an introductory course on English language teaching (ELT), so that students learn the basic knowledge on the purpose of E				
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（１）自律性、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①第２言語習得理論や中学校外国語科における４技能など外国語（英語）を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。				
19.教科書・教材	１）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 ２）白畑知彦・富田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典 第３版』大修館書店 ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB 資料, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf } ４）『高等学校学習指導要領解説 -外				
20.参考文献	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校英語) {WEB 資料, https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_gaikokg.pdf } 樋口忠彦・高橋一幸（編）（2015）『Q&A 中学英語指導法事典―現場の悩みに答える―』教育出版 Reference books will be announced in the class.参考書は授業で指示します。				
21.成績評価	Quiz 10 点 x3 回=30%, Report 10 点 x3 回=30%, 統括試験 40% 英語小テスト 10 点を 3 回で 30 点、レポート 10 点を 3 回で 30 点、総括試験で 40 点				

22.コメント	Attend all the classes if you wish to be a teacher.教員を志望するなら、授業は欠席しないこと	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	Syllabus シラバスの説明 Introduction: Why do you want to be an English Teacher? (Writing) 導入：なぜ英語教師になりたいのか（英作文）	○Read the textbook: Chapter 1 & watch video clip (40 min) 教科書第1章を読み、web でビデオ視聴（反転授業用）
第2回	Purpose of ELT, Concept of EIL, English as a subject in schools: Chapter 1 第1章：英語教育の目的、国際語としての英語の概念、科目としての英語科、グループ討論	○Read the textbook: Chapter 2 & watch video clip (40 min) 教科書第2章を読みビデオ視聴
第3回	Teaching Goals of ELT, Four Skills & Language Activity, Presentation on reference paper: Chapter 2 第2章：英語教育の目標、四技能と言語活動、参考資料の発表	○Prepare for the Discussion (60 min) 討論の準備
第4回	Discussion 1 (Reflecting your English Classes in high school days), Quiz 1 討論1：中高時代の英語授業を振り返る・発表、小テスト1	○Read the Course of Study, watch a short video clip & Write a Report 1 (100 min) 学習指導要領（中学）を読みビデオ視聴。レポート1作成
第5回	The Course of Study by MEXT (given in Japanese): Bring two textbooks. 中高の学習指導要領を読む（日本語で実施）：指導要領を持参する 3)『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB資料, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf }	★Report 1 レポート1提出 ○Read the textbook & watch video clip: Chapter 3 (40 min) 教科書第3章を読みビデオ視聴
第6回	Learner Factors (foreign language learning and age, foreign language aptitude, strategies of good learners) 第3章：学習者の要因（外国語学習と年齢、外国語の適性、良い学習者のストラテジー）	○Read the textbook & watch video clip: Chapter 4 (40 min) 教科書第4章を読みビデオ視聴
第7回	Conditions of a good teacher (Role of a teacher, Conditions of a good teacher, Qualifications of an English teacher) 第4章 良い教師の条件(教師の役割、良い英語教師の条件、英語教員の資格) グループ討論	○Prepare for the Discussion (60 min) 討論の準備
第8回	Discussion 2 (Ideal English Teachers), Quiz 2 討論2（理想的な英語教師像）と発表、小テスト2	○Write a Report (90 min) & watch a video clip (10 min) レポート作成、ビデオ視聴
第9回	Present Japanese Situation on ELT 1	★Report 2 レポート提出

回	日本の英語教育の現状 1、グループ討論と発表	○Read the textbook: Chapter 5 & watch a video clip (40 min) 教科書第 5 章を読みビデオ視聴
第 10 回	Theoretical theories of language acquisition (role of first language, grammar learning and communicative competence, input and output, psychological factors: second language learning anxiety and motivation) 第 5 章 言語習得の理論上の諸問題 (第 1 言語の役割、文法学習とコミュニケーション能力、インプット)	○Preparation for Materials (60 min)教材準備
第 11 回	Teaching Materials: Arrangement of Materials, Teaching with a Textbook, Material Development & its Ideas 教材論：教材の配列、教科書で教える、教材の開発とアイデア、グループ討論	○Preparation for the Discussion (60 min)討論の準備
第 12 回	Discussion 3 (Teaching English through English), 小テスト 3 討論 3：英語で英語の授業を実施する、発表	○Write a Report (90 min)レポート 3 作成
第 13 回	Present Japanese Situation on ELT 2 日本の英語教育の現状 2、グループ討論	★Report 3 レポート 3 提出 ○Read the textbook & watch a video clip: Chapter 6 (40 min)教科書第 6 章を読みビデオ視聴
第 14 回	Transition of Teaching Method 1: From Grammar Translation Method to Audio Linguistic Method 第 6 章 指導法の変遷 1：文法訳読式からオーディオ・リンガル法まで（日本語で実施）、音読の練習 Transition of Teaching Method 2: Post-Communicative Approach 第 7 章 指導法の変遷 2：コミュニカティブ・アプローチ以降	○Review (70 min)総復習
第 15 回	Consolidation 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE201-y01	2.科目名	英語科教育法Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目- 各教科の指導法	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学 期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学 年	2 年～	
10.取得 資格の 要件	中学(英語) コアカリ対応科目		11.先修条件			
12.研究 室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E- Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修 制限	特になし					
17.授業 の目的 と概要	<目的> Students understand the basic concepts about English language teaching and decide to start teacher's license course. <概要> This is an introductory course on English language teaching (ELT), so that students learn the basic knowledge on the purpose of E					
18.学習 目標と DP との関 連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（１）自律性、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①第２言語習得理論や中学校外国語科における４技能など外国語（英語）を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。					
19.教科 書・教 材	１）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 ２）白畑知彦・富田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典 第３版』大修館書店 ３）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf} ４）『高等学校学習指導要領解説 -外					
20.参考 文献	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校英語) {WEB 資料,https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_gaikokg.pdf} 樋口忠彦・高橋一幸（編）（2015）「Q&A 中学英語指導法事典―現場の悩みに答える―」教育出版 Reference books will be announced in the class.参考書は授業で指示します。					
21.成績 評価	Quiz 10 点 x3 回=30%, Report 10 点 x3 回=30%, 統括試験 40% 英語小テスト 10 点を 3 回で 30 点、レポート 10 点を 3 回で 30 点、総括試験で 40 点					

22.コメント	Attend all the classes if you wish to be a teacher.教員を志望するなら、授業は欠席しないこと	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	Syllabus シラバスの説明 Introduction: Why do you want to be an English Teacher? (Writing) 導入：なぜ英語教師になりたいのか（英作文）	○Read the textbook: Chapter 1 & watch video clip (40 min) 教科書第1章を読み、web でビデオ視聴（反転授業用）
第2回	Purpose of ELT, Concept of EIL, English as a subject in schools: Chapter 1 第1章：英語教育の目的、国際語としての英語の概念、科目としての英語科、グループ討論	○Read the textbook: Chapter 2 & watch video clip (40 min) 教科書第2章を読みビデオ視聴
第3回	Teaching Goals of ELT, Four Skills & Language Activity, Presentation on reference paper: Chapter 2 第2章：英語教育の目標、四技能と言語活動、参考資料の発表	○Prepare for the Discussion (60 min) 討論の準備
第4回	Discussion 1 (Reflecting your English Classes in high school days), Quiz 1 討論1：中高時代の英語授業を振り返る・発表、小テスト1	○Read the Course of Study, watch a short video clip & Write a Report 1 (100 min) 学習指導要領（中学）を読みビデオ視聴。レポート1作成
第5回	The Course of Study by MEXT (given in Japanese): Bring two textbooks. 中高の学習指導要領を読む（日本語で実施）：指導要領を持参する 3)『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB資料, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf }	★Report 1 レポート1提出 ○Read the textbook & watch video clip: Chapter 3 (40 min) 教科書第3章を読みビデオ視聴
第6回	Learner Factors (foreign language learning and age, foreign language aptitude, strategies of good learners) 第3章：学習者の要因（外国語学習と年齢、外国語の適性、良い学習者のストラテジー）	○Read the textbook & watch video clip: Chapter 4 (40 min) 教科書第4章を読みビデオ視聴
第7回	Conditions of a good teacher (Role of a teacher, Conditions of a good teacher, Qualifications of an English teacher) 第4章 良い教師の条件(教師の役割、良い英語教師の条件、英語教員の資格) グループ討論	○Prepare for the Discussion (60 min) 討論の準備
第8回	Discussion 2 (Ideal English Teachers), Quiz 2 討論2（理想的な英語教師像）と発表、小テスト2	○Write a Report (90 min) & watch a video clip (10 min) レポート作成、ビデオ視聴
第9回	Present Japanese Situation on ELT 1	★Report 2 レポート提出

回	日本の英語教育の現状 1、グループ討論と発表	○Read the textbook: Chapter 5 & watch a video clip (40 min) 教科書第 5 章を読みビデオ視聴
第 10 回	Theoretical theories of language acquisition (role of first language, grammar learning and communicative competence, input and output, psychological factors: second language learning anxiety and motivation) 第 5 章 言語習得の理論上の諸問題 (第 1 言語の役割、文法学習とコミュニケーション能力、インプット)	○Preparation for Materials (60 min)教材準備
第 11 回	Teaching Materials: Arrangement of Materials, Teaching with a Textbook, Material Development & its Ideas 教材論：教材の配列、教科書で教える、教材の開発とアイデア、グループ討論	○Preparation for the Discussion (60 min)討論の準備
第 12 回	Discussion 3 (Teaching English through English), 小テスト 3 討論 3：英語で英語の授業を実施する、発表	○Write a Report (90 min)レポート 3 作成
第 13 回	Present Japanese Situation on ELT 2 日本の英語教育の現状 2、グループ討論	★Report 3 レポート 3 提出 ○Read the textbook & watch a video clip: Chapter 6 (40 min)教科書第 6 章を読みビデオ視聴
第 14 回	Transition of Teaching Method 1: From Grammar Translation Method to Audio Linguistic Method 第 6 章 指導法の変遷 1：文法訳読式からオーディオ・リンガル法まで (日本語で実施)、音読の練習 Transition of Teaching Method 2: Post-Communicative Approach 第 7 章 指導法の変遷 2：コミュニカティブ・アプローチ以降	○Review (70 min)総復習
第 15 回	Consolidation 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE203-A01	2.科目名	英語科教育法Ⅲ			3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明						
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目-各教科の指導法	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	中学(英語) コアカリ対応科目			11.先修条件			
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Addresses	※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし						
17.授業の目的と概要	【Goal】 This subject matter is intended for individuals who have the future goal of becoming English language teachers. Through this course, students will acquire an understanding of the current state of foreign language education, specifically English lan						
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 具体的には、教職や英語に関する知識を活かした英語授業の活動を考えたり、活動の問題点を見つけ改善を検討したりします。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①日本の英語教育の流れがわかる ②第二言語習得理論と英語教育の関連がわかる ③学習指導要領での英語教育の目的が説明できる ④各学年の指導計画を目標に従って立てることができる						
19.教科書・教材	1）～5）は英語科教育法Ⅱ（尼崎キャンパス開講）と同じ。 1）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 2）白畑知彦・富田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典 第3版』大修館書店 3）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387						
20.参考文献	村野井仁他 「統合的英語科教育法」（成美堂）ISBN978-4-7919-5094-2 白井恭弘「英語教師のための第二言語習得論入門」（大修館書店）						

	渡邊時夫他「小中連携を意識した中学校英語の改善」(三省堂) 「中学校学習指導要領解説-外国語編」文部科学省(最新版) 「高等学校学習指導要領解説-外国語編 英語編」文部科学省(最新版) 高校の検定教科書(英語)	
21.成績 評価	Demonstration class: 20% (実演) Reading assignments: 30% (課題の読み取り) In class work: 20% (授業内課題・語彙確認タスクも含む) Final report :30% (最終レポート)	
22.コメ ント		
23.オフ イスア ワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授 業回 数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Course Orientation: Objectives and course work オリエンテーション	○Review of the class (60min.)
第 2 回	Objectives of English Education 英語教育の目的	
第 3 回	English Education in Japan & the world 日本と外国の英語教育	
第 4 回	MEXT guidelines 学習指導要領	○Reading MEXT Guidelines (120min.)
第 5 回	Teaching Methods 指導法の概説	
第 6 回	Teaching Plan 学習指導計画	○Make your own lesson plan (120min.)
第 7 回	Lesson Plan： Presentation& Discussion on each lesson plan 授業計画：学習指導案の作成と討論	◎Analyze and revise your lesson plan (120min)
第 8 回	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント：生徒の評価方法と妥当性	
第 9 回	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント：教員評価	
第 10	SLA and EFL	

回	第二言語習得と外国語学習	
第 11 回	Autonomy (Group discussion) 自律的な学習者の育成 Group Discussion グループ討論 Explanation of the final report 最終レポートの説明	
第 12 回	English Education in Elementary Schools 小学校の英語教育	◎Presentation of Group Discussion (90 min.)
第 13 回	Cross-cultural Education 異文化理解教育：「異文化理解」の意義	◎make a PPT presentation (60 min.)
第 14 回	Preparation for Mock lesson (Micro-teaching) 模擬授業（マイクロティーチング）の準備	
第 15 回	Demonstration class (10 minutes/ student)、Reflection (Group discussion) 振り返り	The submission of the final report

1.授業コード (ナンバリング)	EDE204-Y01	2.科目名	英語科教育法Ⅳ	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	高校 1 種(英語) 中学 1 種(英語)教 員免許	11.先修条件	英語科教育法 1 を履修済みであること 英語能力が基準を満たしている者 (英検 2 級 または TOEIC 550 以上)		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、模擬授業実施		
16.履修制限	英語能力が基準を満たしている者(英検 2 級または TOEIC 550 以上)				
17.授業の目的と概要	<概要>教材研究、授業の進め方を学び、指導案の作成(日英語の 2 通り)を通して、中学あるいは高校の検定教科書を教材にして、実際に指導計画を作成する。また、その仕上げとして模擬授業を実施し、教育実習への準備とする。 <目的>学習指導案が日英両言語で作成できる、指導案に沿って授業が実施できる。模擬授業では、自己評価だけでなく、他者の評価もできるようになる。				
18.学習目標と DP との関連	DP(6) 専門的知識の活用の学修に関連しています。 1) より良い授業を実施する為に、様々な教授法や教材などの情報を収集し、指導案に反映できる。 2) 英語科指導法の問題点を発見し、解決のための方策を考え工夫して、模擬授業ができる。 3) 日英語指導案および細案が作成できる。				
19.教科書・教材	1) 『新英語科教育法入門』(英語科教育法 1 ～ 3 で使用した教科書と同じ) 2) E-PILOT (英語資料集) 秀学社(教室で販売する) 3) ハンドアウト配付				
20.参考文献	『英語教育用語辞典』大修館書店 <改訂版> 中学・高校の検定教科書(図書館に設置) 中高の英語学習指導要領はファイルで配布				
21.成績評価	1) 教材研究 9+6=15 (2 回目は修正版) 学習目標 1 に対応 2) 指導案(日本語) 10+6+6=22 (2 回目は修正版、3 回目は完成版) 学習目標 1 に対応 3) 指導細案 10+6 = 16 (2 回目は模擬授業実施版) 学習目標 1 に対応 4) 指導案(英語) 10 学習目標 1 に対応 5) 模擬授業 30 (担当者および受講者による評価) 学習目標 2 に対応 6) 模擬授業のふりかえり 7 * 合格基準: 教材研究・指導案・細案を各々複数回提出し、模擬授業を実施 ◎模擬授業実施以外のレポート提出は、すべて Web C				
22.コメント	※教育実習と直結する科目なので、無欠席で受講することを求めます。 ※ 受講者数によって、模擬授業の回数を調整し、シラバスの一部を変更します。 ※英語能力が低い者は、英語教師に向いていません。 * 生成 AI の使用を禁止します。一部でも使用した提出物は、0 点の評価にします。 英検準 1 級または TOEIC 730 以上を、3 年終了時に取得、または、このレベルを目標にしておくことが望ましい。				
23.オフィスアワー	なし				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1	導入(シラバス説明、スケジュール) 講義: 教材研究 1			教材研究(60 分)	
2	講義: 教材研究 2、指導案の概略			教材研究レポート作成(90 分)	

	グループ討議：教材研究レポートについて	
3	指導案サンプルの説明と書き方の要点と細部について	指導案作成の準備(60分) 教材研究レポート：Web Class へ提出
4	教材研究レポートの講評、教材研究修正、観点別評価	教材研究レポートの加筆・修正(60分)
5	細案サンプルの説明と書き方の要点、音読指導の説明と実習	音読の練習(30分)、教材研究修正案作成(60分) Web Class へ提出
6	指導過程、指導案作成、音読の実際	指導案レポート1作成(90分) Web Class へ提出
7	指導案の講評および受講者間での評価、指導案修正、 板書計画の説明と実技 グループ討議：指導案の修正について	細案レポート作成(60分)
8	グループ討議：細案について、講義：ALTの活用とTT	指導案レポート1の加筆・修正(60分)
9	文法指導の在り方、語彙指導の工夫 グループ討議：文法指導の問題点について	細案レポートの作成(90分) Web Class へ提出
10	細案の講評および受講者間での評価、英語版指導案の要点	指導案2の作成(30分) 模擬授業の準備(60分)
11	英語による Oral Introduction から新語導入まで、教室英語の実際	細案修正し(45分)：Web Class へ提出 模擬授業の準備(45分)
12	細案に基づく模擬授業の練習と振り返り 模擬授業の評価基準とチェックポイントの説明	模擬授業の準備(70分)
13	模擬授業実施(相互評価)	指導案2の修正(30分) 模擬授業の準備(60分)
14	模擬授業実施(相互評価)	各レポートを Word ファイルで作成(90分)
15	模擬授業2のふりかえり+討論 講義：教育実習に向けて 模擬授業のふりかえり、指導案と細案の最終版、英語指導案の提出	指導案(日本語・英語)、細案、模擬授業の振り返りの4点を Word ファイルで作成し Web Class へ提出(90分)

1.授業コード (ナンバリング)	EDS201-M01	2.科目名	社会科教育法Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職 2 年	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における地理的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の地理教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる地理学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、地理学への理解を深めるとと					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に地理的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の地理的分野の教育に必要となる地理に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会科教科書『新しい社会 地理』（東京書籍） 『新しい社会科地図』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは地理学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総合的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために地理学の専門的学識が地理教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス、地理教育論総説：地理教育の意義、学習指導要領に基づく教育目標と課題					

第 2 回	地域学習の方法と課題：地誌的学習に関する留意点、 地理的条件から見る国際関係	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★模擬授業希望調査票提出
	諸資料に基づく地理学習の方法：地形図の読み取り （課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 4 回	地域学習の視点と教材開発Ⅰ：「産業を中核とした考 察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から経済地理 の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 5 回	地域学習の視点と教材開発Ⅱ：「人口や都市・村落を中 核とした考察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から 人口地理・都市地理の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 6 回	地域学習の視点と教材開発Ⅲ：「生活・文化を中核とし た考察」（学習指導要領）を中心に、文化地理の教材化 （課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 7 回	日本の諸地域の学習指導：近畿地方を例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 8 回	世界の諸地域の学習指導：ヨーロッパを例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 9 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及 び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作 成	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ◆ノートパソコン◆
第 10 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と 手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ◆ノートパソコン◆
第 11 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改 善・向上に向けての指導	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準 備、各自担当授業の予習（360 分）
第 12 回	模擬授業Ⅱ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改 善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	地理教育論の総括：模擬授業の総括的評価、地理教育 の課題及び関連知識に関する確認する総括試験	○総括試験の準備（360 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDS201-Y01	2.科目名	社会科教育法Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職 2 年	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における地理的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の地理教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる地理学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、地理学への理解を深めるとと					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に地理的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の地理的分野の教育に必要となる地理に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会科教科書『新しい社会 地理』（東京書籍） 『新しい社会科地図』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは地理学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために地理学の専門的学識が地理教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス、地理教育論総説：地理教育の意義、学習指導要領に基づく教育目標と課題					

第 2 回	地域学習の方法と課題：地誌的学習に関する留意点、 地理的条件から見る国際関係	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★模擬授業希望調査票提出
	諸資料に基づく地理学習の方法：地形図の読み取り （課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 4 回	地域学習の視点と教材開発Ⅰ：「産業を中核とした考 察」（学習指導要領）を中心に、系統地理から経済地理 の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 5 回	地域学習の視点と教材開発Ⅱ：「人口や都市・村落を中 核とした考察」（学習指導要領）を中心に、系統地理か ら人口地理・都市地理の教材化	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 6 回	地域学習の視点と教材開発Ⅲ：「生活・文化を中核とし た考察」（学習指導要領）を中心に、文化地理の教材化 （課題作業を含む）	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ★レポート提出
第 7 回	日本の諸地域の学習指導：近畿地方を例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 8 回	世界の諸地域の学習指導：ヨーロッパを例として	○復習及びノートの整理、予習（120 分）
第 9 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及 び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作 成	○復習及びノートの整理、予習（120 分） ◆ノートパソコン◆
第 10 回	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と 手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360 分） ◆ノートパソコン◆
第 11 回	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改 善・向上に向けての指導	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準 備、各自担当授業の予習（360 分）
第 12 回	模擬授業Ⅱ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改 善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 13 回	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 14 回	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360 分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第 15 回	地理教育論の総括：模擬授業の総括的評価、地理教育 の課題及び関連知識に関する確認する総括試験	○総括試験の準備（360 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDS301-Y01	2.科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（3年）	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習。 （うち、3回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限	教職課程履修者のみが履修してください。					
17.授業の目的と概要	本授業の目的 高校の公民科教員及び中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 高校公民科及び中学校社会科の公民教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察することができる。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる公民的分野の教科内容に					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の（1）自律的で主体的な態度（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 1 高校公民科の学習の意義、及び中学校社会科の学習の意義については、特に公民的分野の教育的特質を理解し説明することができる。 2 高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の教育に必要なような、人文・社会科学に関する専門的学識が習得できている。 3 高校公民科及び中学校社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、公民科及び社会科授業の理論と実践ができる。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば、講義中に配布する。					
20.参考文献	高等学校公民科の教科書各種、中学校社会科の教科書各種 その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは人文・社会科学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	神戸山手キャンパスと三木キャンパスで教職課程履修者向けの授業 2キャンパス対象のため、対面授業と遠隔授業を交互に実施予定。遠隔対応があるため、授業を ZOOM など で録画して授業内の WEB CLASS で公開することがある。 ★第1回目の授業は 神戸山手キャンパスから配信 三木キャンパスで受講用 ZOOM 案内 * オンデマンド回分の学習の確認は、Web Class でふりかえりコメントを投稿します。 * 生成 Ai の利活用に関しては、大学の基本方針の下、本授業では、「無条件で利用を認めます」。そのうえで、将来、学校で授業を行う際の利活用について、しっかりと自分の考えをまと					

	めることを期待します。なお、小テスト、レポート等の作成に際しては、生成 AI を利用したことを明記することを条件とします。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【 第 1 回 】	ガイダンス、公民科教育論総説：公民科教育の課題と方法、公民科の各科目（公共、倫理、政治・経済）についての性格と目標、学習指導要領（中・高校）の教育目標と課題、シティズンシップの確立をめざす教育について。 社会科・公民科教育法Ⅰは、特に科目「公共」について概説する。	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 2 回 】	「公共」の科目の性格と目標について （１）科目の性格 A.公共の扉、 B.自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち、 C.持続可能な社会づくりの主体となる私たち （２）目標 ・ 人間と社会の在り方についての見方・考え方 ・ 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかり となる各概念や理論について理解する ・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決 しようとする態度を養う	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 3 回 】	A:「公共の扉」（第 1 回） （１）公共的な空間を作る私たち ・ 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する （２）公共的な空間における人間としての在り方生き方 ・ 主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 4 回 】	A:「公共の扉」（第 2 回） （３）公共的な空間における基本的な原理 ・ 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、個人の尊厳、民主主義、法に支配、自由・権利と責任・義務など日本国憲法の基礎にある考え方を理解し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する ＊ 「公共の扉」に関する指導の目的・目標を総括し、公共性についての歴史的意義などについてまとめる ＊ 主権者としての自覚と判断・実践力を育成する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 5 回 】	<オンデマンド授業> ＊ 時事的課題を「公共」の概念から整理・分析・考	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習

	察し、公正・公平で、基本的人権に配慮した、自立的判断を養う。 * 直近での時事事項やニュースを多角的に調査・分析し、自立的な表現にまとめる	* 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 6 回 】	B:「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」(第1回) (1) 主として法に関わる事項 ①法や規範の意義及び役割など、②多様な契約など、③司法参加の意義など、それぞれ着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 7 回 】	B:「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」(第2回) (2) 主として政治にかかわる事項 ①政治参加と公正な世論の形成、地方自治、②国家主権、領土（領海、領空を含む）、③我が国の安全保障と防衛、などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 8 回 】	B:「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」(第3回) (3) 主として経済にかかわる事項 ①職業選択、②雇用と労働、③財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障に充実・安定化、④市場経済の機能と限界、⑤金融の働き、⑥経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）我が国の安全保障と防衛、などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 9 回 】	<オンデマンド授業> * 時事的課題を「法・政治・経済」等の概念から整理・分析・考察し、公正・公平で、基本的人権に配慮した、自立的判断を養う * 学習課題に即した、直近での時事事項やニュースを多角的に調査・分析し、自立的な表現にまとめる	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 10 回 】	C:「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」(第1回) 【 探究活動 】のススメ (1) 主題学習の課題と方法 「公共」を考えさせる授業の課題設定の仕方と工夫（資料及び社会科学的思考を養う発展的学習として）	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） * 模擬授業希望調査票提出
【 第 11 回 】	C:「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」(第2回) (1) 学習指導案作成及び教材構成の指導 I 学習指導案及び関連教材に関する説明（情報機器	* 学習指導案の作成と関連教材の準備 * レポート提出 * 情報機器の用意

	の活用を含む)と作成の演習 (2) 学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ 学習指導案作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	
【 第 1 2 回 】	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、さらなる改善・向上に向けての指導	* 各自担当授業の予習 * 各自の授業終了時に学習指導案提出
【 第 1 3 回 】	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の再検討 * 授業観察を経て、自己の模擬プランを再編集する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿
【 第 1 4 回 】	模擬授業Ⅱ：模擬授業の実施と結果の講評、さらなる改善・向上に向けての指導	* 各自担当授業の予習 * 各自の授業終了時に学習指導案提出
【 第 1 5 回 】	模擬授業Ⅲ：最終の学習指導案の完成に向けて	提出物：学習指導案提出 復習：今回の復習及び授業ノート・資料の整理

1.授業コード (ナンバリング)	EDS301-m01	2.科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（3年）	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習。 （うち、3回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限	教職課程履修者のみが履修してください。					
17.授業の目的と概要	本授業の目的 高校の公民科教員及び中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 高校公民科及び中学校社会科の公民教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察することができる。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる公民的分野の教科内容に					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の（1）自律的で主体的な態度（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 1 高校公民科の学習の意義、及び中学校社会科の学習の意義については、特に公民的分野の教育的特質を理解し説明することができる。 2 高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の教育に必要なような、人文・社会科学に関する専門的学識が習得できている。 3 高校公民科及び中学校社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、公民科及び社会科授業の理論と実践ができる。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば、講義中に配布する。					
20.参考文献	高等学校公民科の教科書各種、中学校社会科の教科書各種 その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは人文・社会科学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	神戸山手キャンパスと三木キャンパスで教職課程履修者向けの授業 2 キャンパス対象のため、対面授業と遠隔授業を交互に実施予定。遠隔対応があるため、授業を ZOOM など で録画して授業内の WEB CLASS で公開することがある。 ★第1回目の授業は 神戸山手キャンパスから配信 三木キャンパスで受講用 ZOOM 案内 * オンデマンド回分の学習の確認は、Web Class でふりかえりコメントを投稿します。 * 生成 Ai の利活用に関しては、大学の基本方針の下、本授業では、「無条件で利用を認めます」。そのうえで、将来、学校で授業を行う際の利活用について、しっかりと自分の考えをまと					

	めることを期待します。なお、小テスト、レポート等の作成に際しては、生成 AI を利用したことを明記することを条件とします。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【 第 1 回 】	ガイダンス、公民科教育論総説：公民科教育の課題と方法、公民科の各科目（公共、倫理、政治・経済）についての性格と目標、学習指導要領（中・高校）の教育目標と課題、シティズンシップの確立をめざす教育について。 社会科・公民科教育法Ⅰは、特に科目「公共」について概説する。	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 2 回 】	「公共」の科目の性格と目標について （１）科目の性格 A.公共の扉、 B.自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち、 C.持続可能な社会づくりの主体となる私たち （２）目標 ・ 人間と社会の在り方についての見方・考え方 ・ 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかり となる各概念や理論について理解する ・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決 しようとする態度を養う	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 3 回 】	A:「公共の扉」（第 1 回） （１）公共的な空間を作る私たち ・ 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する （２）公共的な空間における人間としての在り方生き方 ・ 主体的に社会に参画し、他者と協働することに向けて、幸福、正義、公正などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 4 回 】	A:「公共の扉」（第 2 回） （３）公共的な空間における基本的な原理 ・ 自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、個人の尊厳、民主主義、法に支配、自由・権利と責任・義務など日本国憲法の基礎にある考え方を理解し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する ＊ 「公共の扉」に関する指導の目的・目標を総括し、公共性についての歴史的意義などについてまとめる ＊ 主権者としての自覚と判断・実践力を育成する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 5 回 】	<オンデマンド授業> ＊ 時事的課題を「公共」の概念から整理・分析・考	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習

	察し、公正・公平で、基本的人権に配慮した、自立的判断を養う。 * 直近での時事事項やニュースを多角的に調査・分析し、自立的な表現にまとめる	* 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 6 回 】	B:「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」(第1回) (1) 主として法に関わる事項 ①法や規範の意義及び役割など、②多様な契約など、③司法参加の意義など、それぞれ着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 7 回 】	B:「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」(第2回) (2) 主として政治にかかわる事項 ①政治参加と公正な世論の形成、地方自治、②国家主権、領土（領海、領空を含む）、③我が国の安全保障と防衛、などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 8 回 】	B:「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」(第3回) (3) 主として経済にかかわる事項 ①職業選択、②雇用と労働、③財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障に充実・安定化、④市場経済の機能と限界、⑤金融の働き、⑥経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）我が国の安全保障と防衛、などに着目し、思考力・判断力・表現力等の育成を考察する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 9 回 】	<オンデマンド授業> * 時事的課題を「法・政治・経済」等の概念から整理・分析・考察し、公正・公平で、基本的人権に配慮した、自立的判断を養う * 学習課題に即した、直近での時事事項やニュースを多角的に調査・分析し、自立的な表現にまとめる	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿 予習：次回の学習（Web Class で事前提示）
【 第 10 回 】	C:「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」(第1回) 【 探究活動 】のススメ (1) 主題学習の課題と方法 「公共」を考えさせる授業の課題設定の仕方と工夫（資料及び社会科学的思考を養う発展的学習として）	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 予習：次回の学習（Web Class で事前提示） * 模擬授業希望調査票提出
【 第 11 回 】	C:「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」(第2回) (1) 学習指導案作成及び教材構成の指導 I 学習指導案及び関連教材に関する説明（情報機器	* 学習指導案の作成と関連教材の準備 * レポート提出 * 情報機器の用意

	の活用を含む)と作成の演習 (2) 学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ ・ 学習指導案作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	
【 第 1 2 回 】	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、さらなる改善・向上に向けての指導	* 各自担当授業の予習 * 各自の授業終了時に学習指導案提出
【 第 1 3 回 】	<オンデマンド授業> * 指示された動画を活用しての模擬授業の再検討 * 授業観察を経て、自己の模擬プランを再編集する	復習：今回の復習及び授業ノート・資料の復習 * 学習ふりかえり結果を Web Class に投稿
【 第 1 4 回 】	模擬授業Ⅱ：模擬授業の実施と結果の講評、さらなる改善・向上に向けての指導	* 各自担当授業の予習 * 各自の授業終了時に学習指導案提出
【 第 1 5 回 】	模擬授業Ⅲ：最終の学習指導案の完成に向けて	提出物：学習指導案提出 復習：今回の復習及び授業ノート・資料の整理

1.授業コード (ナンバリング)	EDU101-A01	2.科目名	教育学概論 (5月30日～7月18日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科			9.履修学年	1年生～	
10.取得資格の要件	保育士資格 小学校教諭一種免許 幼稚園教諭一種免許 中学校教諭一種免許 (英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、「教育」という営みに関して基本的な知識を獲得したうえで、「教育とはなにか」ということに関する自分なりの考えを確立することを最終目標とします。 そのためのステップとして、これまでの教育思想、教育の歴史、教育の制度、教育の理念・目的、教育内容、生涯学習と社会教育、現代の教育問題に関する基本的な理解と知識の獲得をめざします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (5) コミュニケーションスキル の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の下記のとおりです。 ①「教育とはなにか」という問題への関心をもつこと、②代表的な教育思想、教育の歴史、教育の制度、教育目的・教育内容・教育方法、生涯学習と社会教育、現代日本の教育問題に関して説明できるようになること、⑧教育に関するトピックに関し、自分で情報を収集し、自分の意見を持ち、他の学生と意見交換ができること					
19.教科書・教材	使用しません。各授業時に教材としてプリントと資料を配布するので、それをきちんとファイルする必要があります。					
20.参考文献	授業時に随時紹介します。					
21.成績評価	下記の4項目についてすべて取り組んだうえで、合計60点以上で単位修得となる。 ①総括試験 50% → 学習目標の①と② ②中間レポート 20% → 学習目標の①と② ③グループワーク時のワークシート (10%×2回) 20% → 学習目標の③ ④宿題提出 10% → 学習目標の①と②					
22.コメント	この科目は、教育学部の1年生対象の学部共通必修科目です。 生成AIの活用については条件付きで認めます。詳細は授業中に伝えます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等についてのオリエンテーション Ⅰ 教育とは何か：①人間形成と教育；人間の育ち方の特徴と教えるという行為			○「教育」と「発達」という言葉の語源を調べてくる (120分) ・各国の合計特殊出生率を調べてくる (120分)		
【第2回】	Ⅰ 教育とは何か：②子どもの生活：社会の変容に伴			○指定された教育思想家について調べてくる		

	う子どもの生活の変化 ③近代教育思想の系譜；西洋における教育思想の歩み（その１）	（240 分）
【第 3 回】	I 教育とは何か：③近代教育思想の系譜；西洋における教育思想の歩み（その２）	○・「日本国憲法」と「教育基本法」で、義務教育について書かれている条文を調べてくる（90 分） ・第 1 回グループワークに向けて、指定された事項をについて調べてくる（150 分）
【第 4 回】	I 教育とは何か：④義務教育の制度と課題：公教育はどのように成立したか、義務教育の成立過程 ◎グループワーク 1：義務教育学校の選択制をどう考える？	○・第 1 回グループワークのワークシートを完成させる（150 分） ★第 1 回グループワークのワークシート提出 ・「教育基本法」で教育の目的が書かれている箇所を調べてくる(90 分)
【第 5 回】	II 教育の目的・内容・方法：①日本の教育目的：日本の教育目的、各学校の教育目的はどうなっているか	○・日本の学習指導要領の変遷を調べてくる（240 分）
【第 6 回】	II 教育の目的・内容・方法：②日本の教育課程；教育課程とは何か、教育課程の類型、日本の教育課程の基準とその変遷 小学校から高校まで自分が使用した教科書を使い、グループワークを行う	○江戸時代の学校について調べてくる（240 分）
【第 7 回】	II 教育の目的・内容・方法：③教育の方法	第 9 回までに、中間レポート：テーマ「寺子屋の教育の特徴と現代教育への示唆」を書いてくる（240 分）
【第 8 回】	II 教育の目的・内容・方法：③教育の方法；教育方法の類型	○・「小学校指導要録」について調べてくる（120 分） ・「大村はま」さんの詩を読んで感想を書いてくる（120 分）
【第 9 回】	II 教育の目的・内容・方法：④教育評価；教育評価とは何か、教育評価の実践	○中間レポートを仕上げる（240 分） ★中間レポート提出
【第 10 回】	III 現代社会と教育：①日本の世界の教育制度；教育制度の類型、日本の学校制度の問題	○「義務教育学校」と「認定こども園」について調べてくる（240 分）
【第 11 回】	III 現代社会と教育：②幼児教育と初等中等教育；日本の幼児教育、初等中等教育の制度と現状	○指定された事項、人物について調べてくる（240 分）
【第 12 回】	III 現代社会と教育：③日本の教育制度の歴史；明治維新前後から現代までの学校制度の歴史	○「ミッションレポート」の内容をワークシートにまとめてくる（240 分）
【第 13 回】	III 現代社会と教育：④生涯学習と社会教育；生涯学習の考え方と日本の社会教育の現状 ⑤現代日本の教育問題；主な教育問題に関する基本的な理解（その１）	○第 2 回グループワークに向けて、指定された事項について調べてくる（240 分）

【第 14 回】	Ⅲ 現代社会と教育：⑤現代日本の教育問題；主な教育問題に関する基本的な理解（その 2） ◎グループワーク 2：「教育機会基本法」と夜間中学校について	○・第 2 回グループワークのワークシートを完成させる（240 分） ★第 2 回グループワークのワークシート提出
【第 15 回】	Ⅲ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU101-Y71	2.科目名	教育学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	廣岡義之					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科／社会学部社会学科／国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科・英語コミュニケーション学科／グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	中学校教諭一種免許（社会） 高等学校教諭一種免許（公民） 高等学校教諭一種免許（情報） 中学校教諭一種免許/高等学校教諭一種免許（英語）		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	教育の理念・歴史・思想を各論点において闡明しつつ統合的展開において考察する。理念に関しては、人格の完成を社会適応・内在本質の開花・自己超越等の視点から、歴史に関しては教育の課題とその解決への試行という視点から、思想に関しては現実主義・理想主義・人間主義等の視点から理解し、これらを総合的にその歴史的展開と現代との関連において解説する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. テーマ：教育とは何か、何のために教育はあるのか、といった教育の理念。目標：教育理念に関する様々な考え方を理解して自分の言葉で説明できるようになる。 2. テーマ：教育の歴史と現代の課題。目標：教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で説明できるようになる。 3. テーマ：古代から現代に至る代表的な教育思想。目標：歴史的に重要な教育思想の意義と内実を理解して自分の言葉で説明できるようになる。					
19.教科書・教材	広岡義之著『ボルノー教育学研究増補版 下巻』風間書房					
20.参考文献	適宜配布する。					
21.成績評価	授業への取り組み 50 点 確認テスト 50 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	1. 教育の理念：(1)教育を学ぶ意義			今回の復習 次回の予習		
【第2回】	2. 教育の理念：(2)教育を学ぶ課題			今回の復習 次回の予習		
【第3回】	3. 現代における信頼の教育的課題 安らぎと忍耐			今回の復習 次回の予習		
【第4回】	4. 古代ギリシアの教育とその歴史的意義			今回の復習 次回の予習		
【第5回】	5. 家庭教育の人間学的考察			今回の復習 次回の予習		
【第6回】	6. 平和教育の意義と課題			今回の復習 次回の予習		
【第7回】	7. 高齢者教育の意義と課題			今回の復習		

		次回の予習
【第 8 回】	8. フレーベルの教育理論	今回の復習 次回の予習
【第 9 回】	9. フレーベルの教育実践 恩物等	今回の復習 次回の予習
【第 1 0 回】	10. 近代の教育思想：(1)ルソー	今回の復習 次回の予習
【第 1 1 回】	11. 近代の教育思想：(2)ペスタロッチとフレーベル	今回の復習 次回の予習
【第 1 2 回】	12. 教育に関する集団討議あるいはスピーチ 1	今回の復習 次回の予習
【第 1 3 回】	13. 教育に関する集団討議あるいはスピーチ 2	今回の復習 次回の予習
【第 1 4 回】	14. 教育の原点としての家庭教育と社会教育	今回の復習 次回の予習
【第 1 5 回】	15. まとめと確認 確認テスト	今回の復習

1.授業コード (ナンバリング)	EDU102-M01	2.科目名	教職概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。				
17.授業の目的と概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身につけ、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。				
18.学習目標と DPとの関連	(1) 教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する (1-1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 (1-2)進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 (2) 教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 (2-1)教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。 (2-2)今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 (3) 教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 (3-1)生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の服務の全体像を理解している。 (3-2)教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 (3-3)教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。 (4) チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 (4-1)校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。				
19.教科書・教材	特になし。その都度、資料を配布。				
20.参考文献	田中耕二郎・井ノ口淳三編『教職概論 教師になるには』(ミネルヴァ書房、2008) 教育技術 MOOK『中学校・高校版 新任教師のしごと』(小学館、2007) 吉川寿一・中谷静夫編『教育法規の解説各年度版』(大阪教育図書株式会社) 時事通信社、内外教育研究会編『教職教養の過去問 (各年)』(時事通信社)				
21.成績評価	模擬授業 (教材研究の発表)・・・20％ 法規編のまとめテスト・・・30％ 各討論回のショートペーパー・・・30％ 最終回のリフレクション・レポート・・・20％				
22.コメント	生成 AI の利用■条件付きで認める 授業案作成等について、生成 AI 等の活用は許容範囲だが、授業実践は自らの責任において行う以上、授業案の内容についても授業者が責任を負うべきこと。それ以外のレポート等は自分の				

	言葉で書くべきこと	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 月4限（みさお館 2F） 研究室オフィスアワー 木4限(4号館5階26号室)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	教職課程ガイダンスと教育職員免許法の要点を知る （学年配当した科目の意義、採用試験スケジュール、 免許更新制等）	○自分自身の教職課程履修計画をシミュレーションして みること(1-2h、以下同様想定)
	公教育の目的と教員の存在意義を理解する (教育基本法と学校教育法の記述から基本理念を抽出する)	○各法規条文を予習する (事前配布した範囲)
	教職の職業的特徴（公務員としての要件のほか、他の 職業と何が違うのかを考える） 職業イメージを相互確認するためのディスカッション ワークを含む	○学校教育法と地方公務員法の該当部分を予習
	教職観の変遷と今日の教員に求められる役割 (小説や映画、ドラマに描かれた教師像を手掛かりに、 討論を進める)	○教師が描かれた文学作品、ドラマ等の情報 収集
	今日の教員に求められる基礎的な資質能力を知る (時代を超えて求められるものと、現代的課題に応じる ものを考える)	
	教師のしごとの多様性を知る (授業、生徒指導、対生徒以外の校務等、教員の職務の 全体像を俯瞰する) 自分の学校体験からどこまでイメージを広げられる か、討論	
	研修の意義と制度上の位置づけについて学ぶ	○教育基本法、教育公務員特例法等の対応条 文を予習
	教材研究の重要性を知る （生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する）	
	教員の服務上、身分上の義務と身分保障について知る （地方公務員法、教育公務員特例法その他の解説）	○地方公務員法、教育公務員特例法の該当箇 所を予習
	教師の日常業務にかかわるその他の法的要点について 知る （授業実践や生徒指導上知っておくべき法的知識をお さらいする） 教育法規編の復習テスト	○教育基本法、学校教育法の該当部分を予習
	チーム学校への対応 （内外の専門家等、多様な専門性を持つ人材との効果	

	的連携とはどういうものかを知り、さらに今後の可能性について自由にアイデアを出し合う)	
	模擬授業体験と相互評価 (短い時間で模擬授業を展開、そのための教材研究も事前し十分準備し、相互に評価しあう。受講生数によって、持ち時間を調整)	○○○模擬授業の準備と教材研究
	模擬授業体験と相互評価(続き)	
	模擬授業体験と相互評価(続き) 先輩の教育実習体験を聞く	
	今後の学習計画と自己の教職適性に関する自己分析をまとめる	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU102-Y01	2.科目名	教職概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井正朗					
5.授業科目の区分	教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応含む。）	6.必修・選択の区分	教職必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、グループワーク	
16.履修制限	教職課程の履修登録					
17.授業の目的と概要	本授業の目的は、教師という職業の意義・役割・職務内容等に関する学修を進め、将来、教育現場で活躍できる資質・能力を養うことです。同時に、「チーム学校」の一員として協働する姿勢を涵養します。授業の概要としては、教職観の変遷、教員養成の歴史、教職に関する法・制度、職場環境、教育現場の現状課題等を扱いつつ、新学習指導要領において求められる教師像についても外観します。さらに。事例研究を通じて、教職についての背景知識を強化します。					
18.学習目標とDPとの関連	①大項目 「問題解決能力を身につける」 中項目 「問題発見力 レベル2 〈現状を認識し、生じている問題に気づき、解決のための課題を見つける。〉」 教育現場では、「チーム学校」の下、教職員がそれぞれの役割を意識しながら保護者や地域の人々、産業界も巻き込みつつ、協働的に生徒の成長に関わることで不可欠です。その上で、教職員一人ひとりが、各自の課題解決に向けて具体的な目標を設定し、その実現に向けて PDCA サイクルを展開することが健全な学校運営とつながるという認識を深めていただきたいと思います。 ②大項目 「社会に貢献できる人間になる」 中項目 「社会的能動性 レベル2 〈集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動できる。〉」 一人一人の教師が、課題解決に向けての自己の役割を自覚しながら、チーム学校のスピリッツの下、同僚と協働する資質を育成することが重要です。そのような資質を本授業を通して養います。 学校では日々、様々な課題が発生します。それぞれの事象に対し、教職員は情報を共有、解決に向けて合意形成の下、説明責任を意識しながら解決に向けて取り組まなければなりません。授業改善については、教員の学び合いを基調とする効果的な OJT や Off-JT を例示しつつ、スキル・アップの方法論も紹介します。					
19.教科書・教材	教材として資料等を配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。					
20.参考文献	佐藤晴雄 「教職概論 第5次改訂版」学陽書房					
21.成績評価	① 教職概論に関する事例へのコメント 10 回 × 3 = 30 % ② 中間課題 1 回 × 30 = 30 % ③ 最終課題 1 回 × 40 = 40 % 最終評価は、①から③の合計とし、100 点満点とする。					
22.コメント	学校現場では、安心・安全の下、各自が設定した目標に向けて、地域と連携しつつ、人的・物的資源を有効活用し、「生きる力」となる確かな学力（知）、豊かな心（徳）、健やかな体					

		(体) をバランスよく育てることが必須です。その中で、学力の3要素となる基礎的な知識・技能の習得、思考・判断・表現する力の育成、学習に取り組む意欲の涵養が求められます。本授業では、実践事例も明示し、現場に役立つスキルを身につける授業でありたいと思います。現代社会は移り変わりが激しく、予測不能と言われる時代ですが、教師の”あるべき姿”について探究的に考えていきましょう。
23.オフィスアワー		なし
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目	・オリエンテーション (本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点) ・事例研究 ・教職論を学ぶ必要性についてー今、教師に求められるもの	配布されたプリントは各自でファイルし、毎回、持参すること。(以下、同様)
2回目	・講義：「日本の伝統的な教師像」(教職観) ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
3回目	・講義：「教師と教員養成の歴史」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
4回目	・講義：「新学習指導要領において求められる教師像」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
5回目	・講義「教員の任用と服務」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
6回目	・講義「教師の役割と仕事」「管理職・主任の役割」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
7回目	・講義「教材研究」「生涯教育」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
8回目	・講義「教師の職場環境」 ・与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出を	中間課題の提示

	もって出席とする。	
9 回目	・ 中間課題のグループ・プレゼンテーション (パワーポイント等を使用して、発表する)	中間課題の提出
10 回目	・ 講義「教育現場の課題」 ・ 与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・ 授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
11 回目	・ 講義「チーム学校」(新学習指導要領に対応する事例研究) ・ 与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・ 授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
12 回目	・ 講義「教師の資質向上と研修」(新学習指導要領に対応する事例研究) ・ 与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・ 授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
13 回目	・ 講義「ICT 活用の個別最適化学習」(新学習指導要領に対応する事例研究) ・ 与えられたテーマについてグループワーク、発表 ・ 授業終了時にコメントを記載し、提出。この提出をもって出席とする。	
14 回目	・ 模擬授業／模擬 HR 体験と相互評価 (時間制限付きで模擬授業・模擬 HR を展開、相互評価しあう)	最終課題の提示
15 回目	・ 模擬授業／模擬 HR 体験と相互評価 (続き) (現場教員の話を生放送で視聴)	最終課題の提出

1.授業コード (ナンバリング)	EDU202-A01	2.科目名	教職特論	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	幼稚園一種 小学校一種	11.先修条件	1 年生秋学期開講の「教職概論」を履修済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：専門職としての教職について理解を深めること。 概要：教師の教育実践に関する DVD を視聴したり、グループワークを行ったりして、授業を検討するうえでの視点を獲得するとともに、教師としての態度を身に付ける。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①授業を観察する視点を身に付ける。 ②教師としての態度を身に付ける。 ③大学で学修した概念や理論と、実習やインターンシップなどで経験したことを用いて、他者の教育実践を分析できるとともに、自分自身の実践のあり方を振り返ることができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	必要に応じて印刷資料を配布する。				
20.参考文献	必要に応じて印刷物の配布や文献等の紹介を行う。				
21.成績評価	1. 課題 a 25%【学習目標②】 教師集団の取り組みから学んだことをまとめる。 2. 課題 b 25%【学習目標①②③】 教育実践のカンファレンスを通して学んだことについて論じる。 3. 総括試験 50%【学習目標①②③】 ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が60%以上の評価で合格となる。				
22.コメント	グループ討議を取り入れた授業のため、他者のことを考えつつ、積極的に意見を述べること。 また、小学校教師に関するテーマを中心に扱うので、それに関心のある学生が受講することが望ましい。 生成 AI の活用は条件付きで認める。生成 AI の活用は条件付きで認める。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意すること。				
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	オリエンテーション ・講義の概要について理解する。また、自身の教職志望度について確認する。			○今回の授業の復習をする。(60 分)	
【第 2 回】	教師の専門性① ・教職の特徴について学ぶ。			○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)	
【第 3 回】	教師の専門性② ・学びの共同体とチーム学校について学ぶ。			○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)	

【第 4 回】	教師の専門性③ ・ 教師文化の変容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)
【第 5 回】	教師の専門性④ ・ 教師集団に関する事例の検討を通して、教師の専門性について考える。	○【課題】「DVD から学んだことをまとめる」(240 分) ○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分)
【第 6 回】	授業のカンファレンス ・ 前回の DVD で学んだことを発表する。また、授業のカンファレンスの意義と方法について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。また、教師の専門性について検討する。(240 分) ★課題提出
【第 7 回】	教育実践のカンファレンス① ・ 国語の授業実践の DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、教育実践のカンファレンスについて検討する。(240 分)
【第 8 回】	教育実践のカンファレンス② ・ 道徳の授業実践の DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、教育実践のカンファレンスについて検討する。(240 分)
【第 9 回】	教育実践のカンファレンス③ ・ いじめ対策の DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○復習 (360 分)
【第 10 回】	教育実践を取り巻く環境の変化① ・ 良妻賢母に関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。(240 分)
【第 11 回】	教育実践を取り巻く環境の変化② ・ 教育ママに関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、カンファレンスの意義について検討する。(240 分)
【第 12 回】	教育実践を取り巻く環境の変化③ ・ 1990 年代の子育てに関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、カンファレンスの意義について検討する。(240 分)
【第 13 回】	教育実践を取り巻く環境の変化④ ・ 三歳児神話に関する DVD 視聴とそのカンファレンスを行う。	○今回の授業の復習をする。また、カンファレンスの意義について検討する。(120 分) ○これまでの学修内容の復習 (300 分)
【第 14 回】	これまでのまとめ	○今回の授業の復習をする。(60 分)
【第 15 回】	総括試験	○今回の授業の復習をする。(60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EDU204-m01	2.科目名	教育制度論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種	11.先修条件	「日本国憲法」をあらかじめ履修しておくことが望ましいです。			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。なお、教育の事例や制度に対して受					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.教育制度の基本原則について説明できる。 2.学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 3.教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 4.教育制度の改善・改革案を提案することができる。					
19.教科書・教材	資料を適宜配布します。					
20.参考文献	坂田仰/黒川雅子共著『補訂版 事例で学ぶ"学校の法律問題"』教育開発研究所、2013 年。 篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013 年。 坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第2版】』玉川大学出版部、2017 年					
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 ○ふりかえり 12 回×2 点＝24 点（学習目標の 1、2、3 に対応） ○中間確認試験 26 点（学習目標の 2 に対応） ○総括試験 50 点（学習目標の 1、2、3、4 に対応）					
22.コメント	教職科目であるため、休まずまじめに授業を受講するとともに、授業時間外でも予習・復習など自主的な学習に取り組む姿勢を期待します。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	月曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	・ オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評価、授業の進め方、受講マナー等受講上の留意点） ・ 法律－教育行政－学校教育という制度の構造	○予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席停止の概要について学ぶ。(240 分)
【第 2 回】	・ 懲戒・体罰 ・ 出席停止 ・ 第 1 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。(60 分)
【第 3 回】	・ いじめ ・ 就学義務 ・ 第 2 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。(60 分)
【第 4 回】	・ 児童虐待 ・ 特別支援教育 ・ 第 3 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。(60 分)
【第 5 回】	・ 教員の服務 ・ 第 4 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。(60 分)
【第 6 回】	・ 分限処分 ・ 著作権 ・ 第 5 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。(60 分)
【第 7 回】	・ 教育課程の基準 ・ 教科書等の使用 ・ 第 6 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。(60 分)
【第 8 回】	・ 学校安全 ・ 学校事故 ・ 第 7 回のふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。(180 分) ○復習：配付資料に基づいて、初回から第 8 回の総復習を行い、中間確認試験に備える。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。(60 分)
【第 9 回】	・ 中間確認試験 ・ 学校組織 ・ 第 8 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。(60 分)
【第 10 回】	・ 学校評価と情報公開 ・ 開かれた学校 ・ 第 9 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。(60 分)
【第 11 回】	・ 教育の市場化 ・ 第 10 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。(60 分)

【第 12 回】	・ 教育行政制度 ・ 第 11 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育制度の基本原則について学ぶ。(60 分)
【第 13 回】	・ 教育制度の基本原則 ・ 第 12 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。(60 分)
【第 14 回】	・ 学校体系	○復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・ 教育制度のまとめ（総括試験と講評）	○これまでの総復習（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDU204-y01	2.科目名	教育制度論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	「日本国憲法」をあらかじめ履修しておくことが望ましいです。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。なお、教育の事例や制度に対して受					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.教育制度の基本原則について説明できる。 2.学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 3.教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 4.教育制度の改善・改革案を提案することができる。					
19.教科書・教材	資料を適宜配布します。					
20.参考文献	坂田仰/黒川雅子共著『補訂版 事例で学ぶ"学校の法律問題"』教育開発研究所、2013 年。 篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013 年。 坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第2版】』玉川大学出版部、2017 年					
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 ○ふりかえり 12 回×2 点=24 点（学習目標の 1、2、3 に対応） ○中間確認試験 26 点（学習目標の 2 に対応） ○総括試験 50 点（学習目標の 1、2、3、4 に対応）					
22.コメント	教職科目であるため、休まずまじめに授業を受講するとともに、授業時間外でも予習・復習など自主的な学習に取り組む姿勢を期待します。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	月曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	・ オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評価、授業の進め方、受講マナー等受講上の留意点） ・ 法律－教育行政－学校教育という制度の構造	○予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席停止の概要について学ぶ。(240 分)
【第 2 回】	・ 懲戒・体罰 ・ 出席停止 ・ 第 1 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。(60 分)
【第 3 回】	・ いじめ ・ 就学義務 ・ 第 2 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。(60 分)
【第 4 回】	・ 児童虐待 ・ 特別支援教育 ・ 第 3 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。(60 分)
【第 5 回】	・ 教員の服務 ・ 第 4 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。(60 分)
【第 6 回】	・ 分限処分 ・ 著作権 ・ 第 5 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。(60 分)
【第 7 回】	・ 教育課程の基準 ・ 教科書等の使用 ・ 第 6 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。(60 分)
【第 8 回】	・ 学校安全 ・ 学校事故 ・ 第 7 回のふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。(180 分) ○復習：配付資料に基づいて、初回から第 8 回の総復習を行い、中間確認試験に備える。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。(60 分)
【第 9 回】	・ 中間確認試験 ・ 学校組織 ・ 第 8 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。(60 分)
【第 10 回】	・ 学校評価と情報公開 ・ 開かれた学校 ・ 第 9 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。(60 分)
【第 11 回】	・ 教育の市場化 ・ 第 10 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。(60 分)

【第 12 回】	・ 教育行政制度 ・ 第 11 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育制度の基本原則について学ぶ。(60 分)
【第 13 回】	・ 教育制度の基本原則 ・ 第 12 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。(60 分)
【第 14 回】	・ 学校体系	○復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・ 教育制度のまとめ（総括試験と講評）	○これまでの総復習（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDU205-A01	2.科目名	教育課程論	3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	中学校（英語）一種 小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：教育課程について理解すること。 概要：学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解するために、教育課程の意義、編成方法、カリキュラム・マネジメントを学習する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ②教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 ③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材	田中耕治，水原克敏，三石初雄，西岡加名恵『新しい時代の教育課程 第5版』有斐閣 ISBN9784641222281 ※昨年度までのテキストと異なるので注意すること				
20.参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』最新版 文部科学省『小学校学習指導要領』最新版 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版 文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版 必要に応じて印刷物の配布や文献等の紹介を行う。				
21.成績評価	1. 課題① 20%【学習目標①に対応】 DVDの内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 2. 課題② 40%【学習目標②に対応】 自分が経験してきた教育内容や学校生活を、学習指導要領の変遷（教科書 pp.47-120 など）をもとに考察し、学校経験の自分史を書く。 3. 総括試験 40%【学習目標①②③に対応】 ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が60%以上の評価で合格となる。				
22.コメント	子どもたちのお手本となるような授業態度で受講すること。 生成AIの活用は条件付きで認める。なお、課題作成にあたって、生成AIの答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意すること。				
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第1回】	オリエンテーション ・講義の進め方、講義内容について理解する。			○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.1-18, pp.188-	

		192 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 2 回】	教育課程の概念と構造① … 教科書 pp.1-18, pp.188-192 ・教育課程の概念、役割、機能について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.149-178, pp.220-229 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 3 回】	教育課程の概念と構造② … 教科書 pp.149-178, pp.220-229 ・教育課程の思想と構造、教育課程編成論の変遷について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.267-269 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 4 回】	隠れたカリキュラム … 教科書 pp.267-269 ・これまでの学校生活を振り返り、カリキュラムとして学んできたものを考える。 ・ワークショップ「学校で学んできたもの」	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.19-46 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 5 回】	学習指導要領の変遷① … 教科書 pp.19-46 ※一部オンデマンド授業 ・近代日本の教育課程の歩みについて学ぶ。	※【課題①】DVD の内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.107-120 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 6 回】	学習指導要領の変遷② … 教科書 pp.107-120 現行の学習指導要領の基本構造について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-56 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 7 回】	学習指導要領の変遷③ … 教科書 pp.48-56 ・学習指導要領の変遷（前半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.56-120 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 8 回】	学習指導要領の変遷④ … 教科書 pp.56-120 ・学習指導要領の変遷（後半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分)
【第 9 回】	●学習指導要領の変遷⑤ ・学習指導要領と学力との関連について考察する。	※【課題②】自分史を書く。(360 分) ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.179-211 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 10 回】	教育課程の法と行政① … 教科書 pp.179-211 ・教育課程編成について学ぶ。 ・子どもの実態や地域の実態などをふまえた教育課程を検討することの重要性について理解する。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 p.56 を読み、わからないところをチェックする。また、教科書検定制度について調べて理解する。(120 分)
【第 11 回】	教育課程の法と行政② … 教科書 p.56 ・教科書制度の歴史と概要について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.213-244 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)

【第 12 回】	教育課程の経営と評価 … 教科書 pp.213-244 ・カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.245-270 を読んで、わからないところをチェックする。 (120 分)
【第 13 回】	社会における教育課程 … 教科書 pp.245-270 社会的・政治的パースペクティブからみた学校教育の現状と教育課程のあり方について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○これまでの学修内容について復習をする。 (360 分)
【第 14 回】	総括試験	○これまでの学習内容について復習をする。 (240 分)
【第 15 回】	まとめ ・これまでの復習を行い、本科目での学修到達度を認識する。	○総括試験の結果や中間レポートの評価などをふまえて、これまでの総復習をする。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED101-A71	2.科目名	保育実践観察法		3.単位数	1
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	保育は、子どもたちと保育者の生活での営みである。 保育のフィールドの中で、乳幼児とはどのように発達の姿を見せているのか？ 乳幼児の発達の姿と同じ発達年齢であっても、一人一人個別な存在である。そんな乳幼児の発達の多様性を学ぶ。 また、保育者が年齢や個性や様々な状況に応じて、どのように保育をしているのか。専門的な対応について学ぶ。 保育の一日の生活の流れの組み立て方、環境構成のあり方、幼児への対応の仕方、指導と援助考え方などを観点を決めつづさに観察することで、幼児理解と保育について理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	学科 DP との関連 (1) 自律的で主体的な態度 (自律性) 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性) 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 学修目標 ○ 乳幼児の発達についての理解を深める。 ○ 保育者の仕事内容を理解し、その専門性について知る。 ○ 保育の流れ、乳幼児の理解、幼児の発達とその特徴、保育者の動きと意図、環境構成のあり方な どを理解する。 ○ 幼児の行動観察を行い、行動から幼児の気持ちを推し量り、幼児理解を深める。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書					
21.成績評価	実習先でのワークシートなどによる評価 60 % レポート課題 40 %					
22.コメント	幼稚園・保育所実習、インターンシップに行く前に、保育を学ぶ学生として是非とも履修してもらいたい。 乳幼児を大切に思い、愛を以ってクラス運営（園）をしていくかわりを学びましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【日程】 1 日目 1・2 限目 事前講義 2 日目 認定こども園立花愛の園幼稚園（尼崎市）で					

	の保育観察実習（9時～15時）4コマ分 3日目 認定こども園立花愛の園幼稚園（尼崎市）での保育観察実習（9時～17時）4コマ分 4日目 認定こども園立花愛の園幼稚園（尼崎市）での保育観察実習（9時～17時）5コマ分 （※なお、大学での教室は授業前に掲示板にて報告する） 【概要】 この授業は、幼稚園・保育園で、子どもたちとのかかわりと観察（保育実践を観察する）を行います。 そのための事前講義として、子どもたちや保育実践に	
	保育場面での保育者のあり方：乳幼児にとっての保育者の存在の意味	・記録用バインダー ・筆記用具 ・昼食 ・お茶 ・上靴 ・下運動靴 ・学校用ジャージ ・名札 ○ 園に行く際には、スーツ着用（上着は不要） ○ 園内では、学校のジャージ ○ 髪の毛は、基本的は実習としてふさわしい状況。 ○ ピアス、ネックレス、指輪などは、はずしておく。
	保育実践観察：3歳未満児のクラスの保育に参加し、保育者と乳児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察：3歳未満児のクラスの保育に参加し、保育者と乳児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察：3歳未満児のクラスの保育に参加し、保育者と乳児とかかわりながら観察する。	
	保育観察：3歳未満児の乳幼児を観察し、発達を理解する。	
	保育観察：幼稚園にて幼児を観察し、発達と個人差を理解する。	
	保育観察：保育に参加し、幼児とかかわりのなかで、発達や個人差を理解する。	
	保育観察の振り返り：保育後に、保育と幼児を観察したことがらの振り返りと評価を行なう。	
	保育実践行動観察：特定の幼児を抽出し、行動観察を行なう。	
	保育実践観察：幼稚園のクラスの保育に参加し、保育者と幼児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察：幼稚園のクラスの保育に参加し、保育者と幼児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察：幼稚園のクラスの保育に参加し、	

	保育者と幼児とかかわりながら観察する。	
	保育実践観察　：　保育後に、保育と幼児を観察した ことからの振り返りを行なう。	
	保育実践観察　：　保育後に、保育と乳児を観察した ことからの振り返りと評価を行なう。	

1.授業コード (ナンバリング)	EED201-A01	2.科目名	保育原理		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士資格必修		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 保育に保育に関する法令および制度を知ることから、保育の基本および保育の思想の歴史的変遷、現代の保育の現状と課題について理解することを目的とする。 【授業の概要】 テキストを基に保育の意義および目的、保育に関する制度、保育の基本について解説する。また、保育の歴史的変遷における人物(西洋・日本) 調べについては各自で教材研究などの課題に取り組み、それぞれの学びを共有する。特殊な保育方法については視聴覚資料などを用いて理解を深める。さらに、保育の現状と課題については現場の具体的事例を提示し、考察に					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 1.保育の原点である保育の思想史および保育の基本的理念を理解するため、自ら努力することができる(学科 DP6)。 2.保育に関する法令及び制度、保育の意義と目的、子育て支援の在り方についても理解し、専門的知識を保育現場で活用することができる力を身に付ける(学科 DP5)。 3.保育の現状および世界にも視野を広げ、子どもの問題についてその課題解決のために自ら考察することができる(学科 DP4)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材	「新・保育の学びファーストステップ」第2版(2025年4月1日発行) 瀧川光治 小栗正裕 宮地あゆみ 編著 青踏社 ISBN902636-60-4					
20.参考文献	厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成30年3月』 フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。					

	・課題①：配慮を必要とする子どもへの支援教材づくり・発表 30点(30%)〔学習目標①に対応〕 ・課題②：世界における保育の課題調べ・発表 20点(20%)〔学習目標③に対応〕 ・総括テスト：50点(50%)〔学習目標①～③に対応〕	
22.コメント	保育原理の基礎的な専門知識を身に付けていただきたいと思います。できれば楽しみながら意欲的に学習していただければと思います。尚、総括テスト(筆記試験)ではテキストのみ持ち込み可とします。教材作成時は費用がかかることがあります。授業についての連絡はWeb Classよりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようお願いいたします。また、担当教員へのご連絡は s-baba@kuins.ac.jp までお願いいたします。試験時はテキストのみ持ち込み可能とします。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	保育とは-専門的な仕事としての「保育」・子どもにかかわる法令-	個人作業 ・復習：テキスト第1章を読み、保育とは何かを理解しておく。(60分) ・予習：テキスト第2・3章を読んでおく。(60分)
2 回目	保育の制度・保育の方法-さまざまな保育施設・遊びを通しての総合的指導・保育の指導形態-	個人作業 ・復習：保育の制度・保育の方法について理解しておく。(60分) ・予習：テキスト第4章を読んでおく。(60分)
3 回目	保育の内容-内容とねらい・養護と教育を一体的に行う保育- ・世界における保育の課題調べ・発表の準備	個人作業 ・復習：保育の内容について理解しておく。(60分) ・予習：テキスト第5章を読んでおく。(60分)
4 回目	保育の環境-保育における「環境」とは- ・世界における保育の課題調べ・発表の準備	個人作業 ・復習：適切な環境とは何かについて理解しておく。(60分) ・予習：テキスト第6・7章を読んでおく。(60分)
5 回目	保育者の専門性と成長-子ども理解の意義・保育の基盤としての養護- ・世界における保育の課題調べ・発表	個人作業 ・復習：保育者の専門性・保育の基盤としての養護について理解しておく。(60分) ・予習：テキスト第8章を読んでおく。(60分)
6 回目	領域「健康」の全体構成 ・世界における保育の課題調べ・発表	個人作業 ・復習：領域「健康」の全体構成について理解しておく。(60分)

		・ 予習：テキスト第 9 章を読んでおく。(60 分)
7 回目	領域「人間関係」の全体構成 配慮を必要とする子どもへの支援教材づくり	個人作業 ・ 復習：領域「人間関係」の全体構成について理解しておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 10 章を読んでおく。(60 分)
8 回目	領域「環境」の全体構成 配慮を必要とする子どもへの支援教材づくり	個人作業 ・ 復習：領域「環境」の全体構成を理解しておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 11 章を読んでおく。(60 分)
9 回目	領域「言葉」の全体構成 配慮を必要とする子どもへの支援教材づくり	個人作業 ・ 復習：領域「言葉」の全体構成について理解しておく。(60 分) 予習：テキスト第 12 章を読んでおく。(60 分)
10 回目	領域「表現」の全体構成 配慮を必要とする子どもへの支援教材の発表	個人作業 ・ 復習：領域「表現」の全体構成を理解しておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 13 章を読んでおく。(120 分)
11 回目	保育の計画と記録及び評価-全体的な計画と指導計画の関係- 配慮を必要とする子どもへの支援教材の発表	個人作業 ・ 復習：保育の計画と記録及び評価について理解しておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 14・15 章を読んでおく。(60 分)
12 回目	幼児期から小学校への接続-生活科とのつながり- 子育て支援-相談援助の方法-	個人作業 ・ 復習：幼児期から小学校への接続・子育て支援について理解しておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 16 章を読んでおく。(60 分)
13 回目	保育の歴史(西洋) 特殊な保育思想と保育方法：フレーベル幼稚園を例に	個人作業 ・ 復習：保育の西洋史について理解しておく。(60 分) ・ 予習：テキスト第 17 章を読んでおく。(60 分)
14 回目	保育の歴史(日本) 特殊な保育思想と保育方法：モンテッソーリ幼稚園を例に	個人作業 ・ 復習：保育の日本史について理解しておく。(60 分) ・ 予習：総括テストの準備。(60 分)
15 回目	総括テスト	個人作業 ・ 復習：授業全体を振り返り、習ったことを復習する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED202-A01	2.科目名	社会的養護		3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会的養護とは、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに養育困難を抱える家庭への支援を行うことである。現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷を学び、社会的養護と子ども家庭福祉の関連及び子どもの権利擁護について理解を深める。社会的養護の制度や実施体系を学び、現状と課題について考察し、社会的養護のあり方を学ぶ。 【概要】 ・ 貧困や虐待から子どもの命と人権を守るためにはどうすれば良いのか、子どもにとっての最善の利益とはどのようなことなのだろうかを常に問いながら学んでいく。 ・ 社会的養護の歴史的					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的を達成するために、以下の学習目標を設定する。 1、現代社会における社会的養護の意義について説明できる。 2、社会的養護の制度や実施体系について説明できる。 3、社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について説明できる。 4、社会的養護の現状と課題について指摘できる。 本授業は、学位授与方針（DP）の(2)社会的貢献性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』 中山正雄（監修） 浦田雅夫（編著）教育情報出版 【第2版】2023 年					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）＝60％：学習目標①②③④⑤ ②期末レポート＝30％：学習目標⑤ レポート課題「社会問題となった社会的養護に関する記事を1つ選び、自分なりに考察し、その課題にどのように対応していけば良いのか論じてください」1600 字以上、参考文献を2本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート＝10％：①②③④					
22.コメント	・ 資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・ 毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・ 日頃から児童養護に関するニュースに関心を持ち、ニュース記事をスクラップし、自分のコメントを書いていきましょう。随時、授業でも使うので、記事を集めておいてください。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					

	・情報の正確性（出典）を確認しましょう。	
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション、社会的養護とは ・社会的養護についてのイメージを出し合う ・児童養護に関するニュース記事をスクラップし、自分のコメントを書く	○【予習】社会的養護について調べておくこと ○【課題】ワークシート①（90分）
第2回	社会的養護の理念と概念 ・社会的養護の理念、原理を理解する ・児童の権利条約を理解する ・児童養護に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】社会的養護の理念と概念について教科書を読んでおくこと ○【課題】ワークシート②（90分）
第3回	社会的養護の歴史 ・戦前・戦後と社会的養護の必要な子どもがおかれていた状況を理解する。 ・家庭的養護が推進されるようになった経緯と意義を理解する。 ・「児童福祉」から「子ども家庭福祉」へと変化してきた背景を知り、子育て世帯を支える意義を理解する。	○【予習】社会的養護の歴史について調べておくこと ○【課題】ワークシート③（90分）
第4回	児童虐待と子どもの貧困 ・児童虐待の定義を理解する ・子どもの貧困について理解する ・児童虐待に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】児童虐待と貧困について調べる ○【課題】ワークシート④（90分）
第5回	児童養護施設について ・児童養護施設の役割と意義について理解する ・児童養護施設で暮らす子どもを理解する	○【予習】児童養護施設について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑤（90分）
第6回	乳児院について ・乳児院の役割と意義について理解する ・乳児院で暮らす子どもを理解する	○【予習】乳児院について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑥（90分）
第7回	里親について ・里親の役割と意義について理解する ・里親家庭で暮らす子どもを理解する	○【予習】里親について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑦（90分）
第8回	母子生活支援施設について ・母子生活支援施設の役割と意義について理解する ・母子生活支援施設で暮らす子どもと母親を理解する ・DV（ドメスティックバイオレンス）に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】DV（ドメスティックバイオレンス）に関するニュース記事を探しておくこと ○【課題】ワークシート⑧（90分）
第9回	ファミリーホームについて ・ファミリーホームの役割と意義について理解する ・ファミリーホームで暮らす子どもを理解する	○【予習】ファミリーホームについて調べておくこと ○【課題】ワークシート⑨（90分）
第10回	児童心理治療施設について ・児童心理治療施設の役割と意義について理解する	○【予習】児童心理治療施設について調べておくこと

	・ 児童心理治療施設で暮らす子どもを理解する	○【課題】ワークシート⑩ (90 分)
第 1 1 回	障害児施設について ・ 障害児施設の施設体系を理解する ・ 施設の役割と意義について理解する ・ 知的障害児入所施設で暮らす子どもを理解する ・ 障害児への虐待に関するニュース記事についてグループ討議する	○【予習】障害児の施設について調べておくこと ・ 障害児への虐待に関するニュース記事を探しておくこと ○【課題】ワークシート⑪ (90 分)
第 1 2 回	児童発達支援センターについて ・ 児童発達支援センターの役割と意義について理解する ・ 児童発達支援センターと児童発達支援事業所の違いを理解する	○【予習】児童発達支援センターについて調べておくこと ○【課題】ワークシート⑫ (90 分)
第 1 3 回	児童自立支援施設について ・ 児童自立支援の役割と意義について理解する ・ 児童自立支援で暮らす子どもを理解する	○【予習】児童自立支援施設について調べておくこと ○【課題】ワークシート⑬ (90 分)
第 1 4 回	自立援助ホームについて ・ 自立援助ホームの役割と意義について理解する ・ 自立援助ホームで暮らす若者を理解する ・ 施設を退所した若者の抱える困難についてグループ討議する	○【予習】自立援助ホームについて調べておくこと ・ 施設を退所した若者の抱える困難について記事をさがしておくこと ○【課題】ワークシート⑭ (90 分)
第 1 5 回	・ 学習のまとめ ・ ふりかえりシート	

1.授業コード (ナンバリング)	EED203-A01	2.科目名	保育内容総論		3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	保育士 幼稚園教諭一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 保育所保育指針等に示された保育の内容と目標を基に、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景を踏まえ、子どもの実態に即した具体的な保育の内容・保育の過程・保育の展開について演習を通じて具体的な理解を深めることを目的とする。 【授業の概要】 「保育内容」をどのように捉え、実践につなげるかをテキストを基に解説する。保育内容の歴史の変遷を知ることから、現代の子どもの生活や活動、環境や遊びについて考える。また、保育内容を計画し、実践し、評価する具体的方法や配慮を必要とする子どもの保育、小学校との連					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.「保育内容」の歴史の変遷を踏まえた上で、現代の子どもを取り巻く環境や生活、園における活動や行事について理解することができる(学科 DP6)。 2.「保育内容」において、遊びをどのように計画し、どのように実践するか、指導計画をどう評価し、次の保育に繋げるについて考えることができる(学科 DP4)。 3.多様化する社会における「保育内容」のあり方や小学校との連携、配慮を必要とする子どもの「保育内容」についてもグループワークなどを通じて考えることができる(学科 DP4)。 4.「保育内容」の実際について自ら調べたり、意見交換をしたりして、手作り教材の作成や模擬保育に取り組むことができる(学科 DP5)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材	前田和代編著 『新・保育内容総論 保育って,おもしろい』 教育情報出版 ISBN978-4-909378-50-7C3337					
20.参考文献	厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月』 フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館					

21.成績評価	課題①「保育内容総論」についての知識を問う試験を行う。50 点(50%)〔学習目標の①、②に対応〕 課題②現代の子どものさまざまな課題についてグループディスカッションを通して考える。2 点×5=10 点(10%)〔学習目標の③に対応〕 課題③「絵本の読み聞かせと POP カードづくり」：絵本の POP カードづくりを通して絵本の紹介と読み聞かせを実践する。20 点(20%)〔学習目標の④に対応〕 課題④「かるた遊び」：かるた遊びについて調べ、オリジナルのかるたを作成し、保育内容の一例としてかるた遊びの実践をする。20 点	
22.コメント	さまざまな演習を通して基礎的な専門知識とともに保育実践力を身に付けていただきたいと思います。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。※一部教材づくりで各自で準備していただくものがあります。適宜授業内でご案内します。試験についてはテキストのみ持ち込みを可とします。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	保育内容をどう捉え、どう実践につなげるか-保育内容と領域・保育内容の歴史の変遷-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 1 章を読む。保育内容と領域・保育内容の歴史の変遷について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
2 回目	遊びをどう捉え、保育をどう実践するか-乳児・幼児の遊びと保育-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 2 章を読む。乳児・幼児の遊びと保育について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
3 回目	生活をどう捉え、保育をどう実践するか-乳児・幼児の生活と保育-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 3 章を読む。乳児・幼児の生活と保育について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
4 回目	活動・行事をどう捉え、どう実践するか-園における活動・行事-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 4 章を読む。園における活動と行事について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
5 回目	環境をどう捉え、どう構成するか-環境を通して行う保育の実践-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 5 章を読む。さまざまな環境を通して行う保育について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
6 回目	保育内容を計画し、実践し、評価するには-遊び・活動・行事の計画と実践・指導計画の評価を次の保育につなげる-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 6 章を読む。遊び・活動・行事の計画と実践 指導計画について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
7 回目	さまざまな配慮を必要とする子どもの保育とは-障害のある子ども・外国にルーツのある子どもの保育 貧困・ジェンダー-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 7 章を読む。さまざまな配慮を必要とする子どもの保育について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
8 回目	小学校との接続・連携を踏まえた保育とは-教育要領・保育指針における小学校との連携の工夫 具体的にどう連携するか-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 8 章を読む。幼稚園・認定こども園・保育所と小学校との連携について授業で

		学んだことをまとめておく。(120 分)
9 回目	多様化する社会に保育はどう対応するか-保育を取り巻く社会的状況・保護者や地域・関係機関と具体的にどう連携するか-	教室外学習（予習、復習） テキスト第 9 章を読む。保護者・地域・関係機関とどう連携するかについて授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
10 回目	保育者の専門性を向上させるには-クラス運営・個と集団 保育者の資質向上と連携-	教室外学習（予習、復習） テキスト 第 10 章を読む。保育者の専門性・保育者の資質向上・クラス運営の方法・個と集団についての捉え方について授業で学んだことをまとめておく。(120 分)
11 回目	絵本の POP カードづくりと絵本の読み聞かせ(1)-年齢別絵本調べ・絵本の POP カードづくり-	教室外学習（予習、復習）年齢別絵本調べをする。絵本の POP カードづくりの準備をする。POP カードづくりをする。(120 分)
12 回目	絵本の POP カードづくりと絵本の読み聞かせ(2)-絵本の読み聞かせの留意点の理解・読み聞かせの実践と振り返り-	教室外学習（予習、復習） 絵本の読み聞かせの留意点を理解する。読み聞かせの練習をし、実践の準備をする。実践を振り返る。(120 分)
13 回目	かるたづくりと遊びの実践(1)-年齢別かるた遊びのねらいと保育の方法についての理解・かるたづくり-	教室外学習（予習、復習） 年齢別かるた遊びのねらいと保育の方法について理解する。かるたづくりをする。(120 分)
14 回目	かるたづくりと遊びの実践(2)-かるた遊びの保育内容の実践と振り返り-	教室外学習（予習、復習） かるた遊びの保育内容の実践の準備と実践後の振り返りをする。(120 分)
15 回目	総括-保育内容について学んだことのまとめ(授業内試験)-	教室外学習（予習、復習）授業で学んだことを自身の知識として整理する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED212-A01	2.科目名	乳児保育Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 乳児保育の重要性が高まっており、保育所保育指針において、乳児保育および1歳以上3歳未満児保育に関する記載が充実している。授業では、3歳未満児の「保育のねらい及び内容」や、「養護と教育が一体的となって展開される」ことを理解する。乳児の発達過程や関わり、保育内容を理解することで、乳児保育に必要な基本的なスキルや知識を習得することを目的とする。 【授業の概要】 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2 保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3 3					
18.学習目標と DPとの関連	乳児保育Ⅰの学習目標は、講義編で次の通りです。(乳児保育Ⅱは演習編です。) 1 乳児保育の意義と役割を学ぶ。 2 乳児保育の歴史を学ぶ。 3 乳児の生活と遊びの基本事項を理解する。 4 愛着形成、手指と身体の育ち、こころと言葉の育ち、認知能力・非認知能力の育ちについて理解する。 5 乳児の発達の理解と保育内容を理解する。 6 子どもの病気、健康・安全等の基本的な知識を理解する。 7 乳児保育の環境構成、指導計画について理解する。 7 保護者への子育て支援、乳児保育における連携と協働について理解する。 関連する DP は、(1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	保育所保育指針 適宜配布する					
20.参考文献	授業にて適宜配布する					
21.成績評価	授業の振り返りシート（8回分を総合的に評価する） 30% ワークシート 10% 課題レポート 10% 総括試験 50%					
22.コメント	・この授業は、毎回授業の終わりに振り返りシートを記入します。記入後ウェブクラスに提出します。振り返りシートも評価の対象になります。 ・乳児保育Ⅰは講義が主になります。乳児保育Ⅱは演習が主になります。 ・乳児保育のニーズは高まっています。保育現場で対応できるようにしっかり学びましょう。 ・ウェブクラスに事前に授業の資料は見れるようにしておきます。目を通して授業に望みまし					

	よう。 ・授業を欠席しないようにしましょう。 ・提出物は期限を守りましょう。期日を過ぎたものは受け取りません。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	オリエンテーション（この授業の目的、シラバスの説明、授業のすすめかた、受講者に望むことなど）	
2 回目	乳児保育の歴史 乳児保育の意義・役割について 振り返りシート①の記入	次週までに振り返りシート①をウェブクラスに提出
3 回目	乳児保育の現状・多様な場における乳児保育の展開 保育所保育指針における「乳児保育」の内容について 振り返りシート②記入	次週までに振り返りシート②をウェブクラスに提出
4 回目	子どもの発達における愛着形成（アタッチメントについて）、手指と身体の育ち、心と言葉の育ちなどについて 振り返りシート③記入	次週までに振り返りシート③をウェブクラスに提出
5 回目	0 歳児の発達と保育内容	今日の学びの復習
6 回目	1 歳児の発達と保育内容	今日の学びの復習
7 回目	2 歳児の発達と保育内容 課題レポート作成（0 歳児から 2 歳児に発達を歳児別のまとめる）	課題レポートをウェブクラスに次週までに提出
8 回目	乳児の生活の基本について 振り返りシート④記入	振り返りシート④を次週までにウェブクラスに提出すること。 乳児の手遊びや絵本を調べておく。
9 回目	乳児の遊びについて（手遊び・おもちゃ・絵本など） 各自で調べてワークシート記入	次回までにワークシートをウェブクラスに提出
10 回目	乳児保育の環境構成について 振り返りシート⑤記入	今日の学びの復習 次週までに振り返りシート⑤をウェブクラスに提出
11 回目	乳児の健康・安全管理・事故予防などについて 振り返りシート⑥記入	次週までに振り返りシート⑥をウェブクラスに提出
12 回目	乳児保育における指導計画 振り返りシート⑦記入	今日の学びの復習 次週までに振り返りシート⑦をウェブクラスに提出
13 回目	乳児保育を支える連携と協働について 乳児保育の ICT 活用について 振り返りシート⑧記入	今日の学びの復習 次週までに振り返りシート⑧をウェブクラスに提出
14 回目	保護者への子育て支援 乳児保育の今後の課題	授業の振り返り。配布資料をまとめておく。 総括試験に備える
15 回目	授業のまとめ。総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	EED214-A01	2.科目名	障害児保育Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（うち 6 回はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 障害児保育の理念や概要、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の現状と課題について理解し、保育士に求められる障害児保育に必要な基本的姿勢や基本的知識、保育方法・技術について学ぶことを目的とする。 【概要】 ・ 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学ぶことにより、どのようにして、現在の障害児保育に至っているのかを理解する。 ・ それぞれの障害特性、子どもの発達レベルを理解しつつも、「ひとりの子ども」として成長を支えていくための支援方法を獲得する。 ・ 対象となる子どもの保護者の心情を理解し、子					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。 ②個々の障害特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 ③障害児やその他の特別な配慮を要する子どもの保育における援助の具体的な方法について説明できる。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について指摘できる。 本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(3)多様性理解に関連している。					
19.教科書・教材	特に指定しません。					
20.参考文献						
21.成績評価	1,ワークシート（13 回）=50%：学習目標①②③ 2,小テスト（持ち込み不可）=10%：学習目標②③ 3,グループ発表（視覚的支援の教材）=10%：②③ 4,期末ふりかえりシート=10%：学習目標①②③④ 5,まとめテスト（持ち込み不可）=20%①②③④					
22.コメント	・ 資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・ 毎回ノートパソコンを持ってくるください。 ・ 各障害の理解と支援（第 5～第 9 回）と第 14 回はオンデマンド授業になります。オンデマンド回分の学習の確認は、課題ワークシートの WebClass 提出によって行います（出欠確認に相当します）。繰り返し、何度も視聴し、勉強してください。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまと					

	めたりすることが重要です。 ・情報の正確性（出典）を確認しましょう。	
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	1, オリエンテーション 2, 障害児保育の理念 ・医学モデルと社会モデルを理解する ・国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）を理解する ・合理的配慮を理解する	○【課題】ワークシート①（90分）
第2回	障害児保育の歴史と役割 ・障害児保育の歴史を理解する ・障害児保育の役割を理解する ・合理的配慮を理解する	○【課題】ワークシート②（90分）
第3回	ことば・コミュニケーションの発達 ・ことば・コミュニケーションの発達過程を理解する ・ことばの遅れのある子どもへの援助を理解する	○【課題】ワークシート③（90分）
第4回	知的障害児の理解と支援①（ダウン症児） ・知的障害の定義や特徴を理解する ・ダウン症候群について理解をする	○【課題】ワークシート④（90分）
第5回（オンデマンド授業）	身体障害児の理解と支援②（視覚障害児・聴覚障害児） ・視覚障害の定義や特徴を理解する ・聴覚障害の定義や特徴を理解する	○【課題】ワークシート⑤（90分）
第6回（オンデマンド授業）	身体障害児の理解と支援③（肢体不自由児） ・肢体不自由の定義や特徴を理解する ・脳性麻痺について理解する ・医療的ケアの定義や特徴を理解する	○【課題】ワークシート⑥（90分）
第7回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援① ・発達障害の定義や分類を理解する ・LDの特徴を理解する	○【課題】ワークシート⑦（90分）
第8回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援② ・ADHDの特徴を理解する	○【課題】ワークシート⑧（90分）
第9回（オンデマンド授業）	発達障害児の理解と支援③ ・自閉スペクトラム症（ASD）の特徴を理解する	○【課題】ワークシート⑨（90分）
第10回	発達障害児の理解と支援④ 高機能の自閉スペクトラム症（ASD）の特徴を理解する	○【課題】ワークシート⑩（90分）
第11回	1, 小テスト 2, 環境の設定と視覚的支援	○【課題】ワークシート⑪（90分）

	・視覚的支援（見てわかる支援）を理解する	
第12回	環境の設定と視覚的支援の教材研究① ・視覚的支援の教材作りをする（グループワーク）	○【課題】グループ発表の準備と練習（90分）
第13回	環境の設定と視覚的支援の教材研究① ・視覚的支援の教材のグループ発表	○【課題】ワークシート⑬（90分）
第14回（オンデマンド授業）	障害受容と保護者支援 ・保護者の障害受容のプロセスを理解する ・保護者支援を理解する	○【課題】ワークシート⑭（90分）
第15回	・期末テスト ・ふりかえりシート	

1.授業コード (ナンバリング)	EED218-A01	2.科目名	保育実習Ⅰ 事前事後指導①（保育所）（2024年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	保育士資格：必修		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 保育実習の意義・目的を理解する。 【概要】 1 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 2 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 3 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 4 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP の（2）（4）（5）の学修に関連している。 1 保育所実習の意義を知る ・実習の目的 ・実習の概要 2 実習の内容と課題の明確化 3 実習に際しての留意事項 ・子どもの人権と最善の利益の考慮 ・プライバシーの保護と守秘義務 ・実習生としての心構え 4 保育所実習の指導計画と実習記録の書き方を学ぶ 5 事後指導における実習の総括と課題の明確化 ※これからの社会で求められる人材を育成していくため、本授業では、ICT を活用した保育の展開方法の検討や、DX 教材の 360 度カメラを用いた、振り返りを実施します。					
19.教科書・教材	名須川 知子 監修・大方 美香 監修・亀山 秀郎 編著（2018）『保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習』ミネルヴァ書房					
20.参考文献	関西国際大学の保育所実習ハンドブック（配布する）					
21.成績評価	・ワークシート 5 点（学習目標 ①に対応） ・絵本 1 冊読み聞かせ、手遊び 3 つの動画提出（各 5 点） 20 点（学習目標 ①に対応） ・保育記録作成 20 点（学習目標 ②に対応） ・保育指導案作成 10 点（学習目標④に対応） ・ちびっこウエルカム指導案作成 5 点学習目標④に対応） ・ゲストティーチャーの感想 5 点（学習目標②③に対応） ・先輩の話を					
22.コメント	この科目は、事前指導 13 回、事後指導 2 回の計 15 回です。 実習で戸惑わないようにこの授業でしっかりと事前学習しましょう。 そのためにも、休んだり、遅刻しないということは大原則です。 提出物はウェブクラスに期日を守って提出すること。					
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み（椋田）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目 4月10日	・授業のオリエンテーション ・保育実習1履修登録の確認 ・保育実習Ⅰの意義・目的 ・ハンドブック配布 ・グループワーク（実習のルールを決める。） ・ワークシート① Webclassにてワークシート①を次週までに提出する。	○ワークシート①作成、2回目までに提出（120分）
2回目	・絵本・手遊び動画提出について ・保育所ってどんなところ？ ・保育所実習の1日の流れについて	○絵本・手遊び動画作成 7月2日までにウェブクラスに提出（120分）
3回目	・実習記録の書き方について① ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○実習記録①作成、5月8日までに提出（120分）
4回目	・実習記録の書き方について② ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○実習記録②作成、15日までに提出（120分）
5回目	・実習記録の書き方について③ ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○指導案作成①、22日までに提出（120分）
6回目	・指導案の書き方 ※変更があるかもしれません。	○指導案の書き方復習（120分）
7回目	・3年生の実習の話聞く。質問する。 。感想を記入 ※変更があるかもしれません。	○感想を次週までにウェブクラスに提出（120分）
8回目	・ゲストティーチャーの話聞く。 ・感想を書く。 ※変更があるかもしれません。	○模擬保育の準備（120分）
9回目	・保育所実習の関係書類作成 ・ハンドブックの説明 - 個人票の作成 - 誓約書の作成（印鑑持参のこと） ・学修支援室からのお知らせ（書類、検便等） ・ちびっこウエルカム学校探検準備（グループで取り組む） ※変更があるかもしれません。	○個人票清書、写真用意、実習ハンドブック復習（120分）
10回目	・ウエルカム学校探検準備（ペープサート、手遊び、絵本） ※変更があるかもしれません。	○指導案作成 120分）
11回目	・ウエルカム学校探検準備 ※変更があるかもしれません。	○指導案の修正を次週提出（120分）
12回目 6月25日	・ウェウカム学校探検 ※変更があるかもしれません。	○実習に向けて授業の振り返り（120分）

13回目	・ウエルカム学校探検振り返り ・実習直前最終指導 オリエンテーションについて 巡回指導の先生への依頼 お礼状の書き方 ※変更があるかもしれません。	○実習ハンドブックを復習（120分）
14回目	・事後指導 面談 報告書作成 ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○実習振り返り、4コマ漫画作成、実習報告書をウェブクラスに12月末までに提出（120分）
15回目	・事後指導 ・今後の実習について ・事前に PowerPoint や資料を Webclass にて配布する。 ※変更があるかもしれません。	○保育所実習記録整理、提出（120分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED218-A03	2.科目名	保育実習Ⅰ事前事後指導②（施設）（2024年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	松本恵美子、馬場住子					
5.授業科目の区分	専攻選択基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育・保育コース			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	保育士資格：必修		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この科目は、保育実習（施設）の意義・目的と内容を理解し、自らの課題を明確にする力を身につけることを目的とします。 事前指導では、施設実習に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行います。 事後指導では、実習の総括と自己課題を確認し、施設における保育士の役割についての考察を深めます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 事前指導 ①児童福祉施設実習の目的と意義を理解する。 ②児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己課題を明確にする。 ③実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ④実習施設における支援について適切に記録する方法を理解する。 事後指導 ⑤実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	保育実習・施設実習ハンドブック（配布します）					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 実習事前指導：70％ ・課題Ⅰ～Ⅵ（各10点=60％）〔学習目標①、③、④に対応〕 ワークシートの中から指定した6点を提出 ・自己紹介書（10点=10％）〔学習目標②に対応〕 実習事後指導：30％〔学習目標⑤に対応〕 ・実習報告レポート作成 ・実習報告(実習体験を個別発表し、相互評価を行うことで、実習体験の共有をする) ・個別面談により実習の振り返りをする					
22.コメント	実習で戸惑わないようにこの授業でしっかりと事前学習しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室(馬場) 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)(馬場)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	実習全体の注意 施設実習の概要			○指定したワークシート		
2 回目	施設の特徴と実習の内容①			○指定したワークシート		
3 回目	施設の特徴と実習の内容②			○指定したワークシート		

4 回目	施設長の講話を聴く①	○指定したワークシート
5 回目	施設長の講話を聴く②	○指定したワークシート
6 回目	実習先別グループワーク	○指定したワークシート
7 回目	個人票の作成	○指定したワークシート
8 回目	記録の書き方	○指定したワークシート
9 回目	発達について	○指定したワークシート
1 0 回目	障害のある子どもの遊ばせ方・かかわり方	○指定したワークシート
1 1 回目	実習直前指導	○指定したワークシート
1 2 回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
1 3 回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
1 4 回目	全体での実習報告 ・一人ずつ、まとめたレポートをもとに、実習での学びと課題について発表 ・全員で実習の振り返りと課題を共有する	○指定したワークシート
1 5 回目	実習の総括	○指定したワークシート

1.授業コード (ナンバリング)	EED220-A01	2.科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（２）（４）（５）の学修に関連している。 ①大学で学んだ知識と、現場実習の経験を結び付けて、保育者としての実践力を身につけるための自分の課題を明確にする。 ②現場での子どもとの関わりから子ども理解を深めるとともに、保育所の役割などを知る。 ③現場で、保育者などと、コミュニケーションをとりながら責任ある行動をとり、実習を行うことができる。 ④実習を振り返り、課題を見つけ、課題解決取り組もうとする。					
19.教科書・教材	・ 関西国際大学の保育所実習ハンドブック（授業にて配布する） ・ 関西国際大学の保育記録（実習前に配布）					
20.参考文献	・ 保育所保育指針 ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
21.成績評価	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ・ 保育の計画、観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・ 実習日誌の記述、整理など (50 点・・・学習目標①②に対応) 2 ・観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ・ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者との関わりについて総合的に学ぶ。 ・ 実習園からの評価 ・					
22.コメント	・ 実習では、保育者の意図が読み取れるように、何事にも主体的、意欲的に取り組んでいきましょう。 ・ 当大学の学びのテーマである「安全・安心」について、実習先で子どもの命を守るためにどのような取り組みをされているかも、学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー	月曜日昼休み（下里） 火曜日昼休み（椋田）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	・ 主に観察実習（夏学期 10 日間 80 時間以上） 保育所実習の内容 保育所の役割と機能を学ぶ 子どもの理解を学ぶ 保育内容・保育環境を学ぶ			・ その日の記録や、指導計画の作成（20 時間）		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	EED221-A02	2.科目名	保育実習Ⅰ（施設）（2024年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	松本恵美子、馬場住子					
5.授業科目の区分	専攻選択基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育・保育コース			9.履修学年	2年	
10.取得資格の要件	保育士資格：必修		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この科目は、保育実習（施設）の意義・目的と内容を理解し、自らの課題を明確にする力を身につけることを目的とします。 事前指導では、施設実習に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行います。 事後指導では、実習の総括と自己課題を確認し、施設における保育士の役割についての考察を深めます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 事前指導 ①児童福祉施設実習の目的と意義を理解する。 ②児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己課題を明確にする。 ③実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ④実習施設における支援について適切に記録する方法を理解する。 事後指導 ⑤実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	保育実習・施設実習ハンドブック（配布します）					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 実習事前指導：70% ・課題Ⅰ～Ⅵ（各10点=60%）〔学習目標①、③、④に対応〕 ワークシートの中から指定した6点を提出 ・自己紹介書（10点=10%）〔学習目標②に対応〕 実習事後指導：30%〔学習目標⑤に対応〕 ・実習報告レポート作成 ・実習報告(実習体験を個別発表し、相互評価を行うことで、実習体験の共有をする) ・個別面談により実習の振り返りをする					
22.コメント	実習で戸惑わないようにこの授業でしっかりと事前学習しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室（馬場） 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)（馬場）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1回目	実習全体の注意 施設実習の概要			○指定したワークシート		
2回目	施設の特徴と実習の内容①			○指定したワークシート		
3回目	施設の特徴と実習の内容②			○指定したワークシート		

4 回目	施設長の講話を聴く①	○指定したワークシート
5 回目	施設長の講話を聴く②	○指定したワークシート
6 回目	実習先別グループワーク	○指定したワークシート
7 回目	個人票の作成	○指定したワークシート
8 回目	記録の書き方	○指定したワークシート
9 回目	発達について	○指定したワークシート
1 0 回目	障害のある子どもの遊ばせ方・かかわり方	○指定したワークシート
1 1 回目	実習直前指導	○指定したワークシート
1 2 回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
1 3 回目	実習の振り返りと課題の明確化（個別面談） 面談を待つ間に実習で学んだ事についてレポートにまとめる	○指定したワークシート
1 4 回目	全体での実習報告 ・一人ずつ、まとめたレポートをもとに、実習での学びと課題について発表 ・全員で実習の振り返りと課題を共有する	○指定したワークシート
1 5 回目	実習の総括	○指定したワークシート

1.授業コード (ナンバリング)	EED226-A01	2.科目名	こどもと環境	3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種	11.先修条件	2 年生春学期の保育内容 5 領域の全ての科目 を履修すること		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 現代の子どもを取り巻く環境について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを踏まえた上で、保育施設における環境構成を考える力を身に付けることを目的とする。 【授業の概要】 現代の子どもを取り巻く環境やその課題についてテキストを基に解説する。子どもと環境とのかかわりについての専門的事項を踏まえ、子どもの発達に即した環境の在り方について具体例を挙げながら説明する。また、さまざまな環境における各年齢にふさわしい指導方法を考えていくことから、教材作成や指導案立案などの演習に				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.現代の子どもを取り巻く環境について知り、子どもがどのように環境とかかわりながら育つことが望ましいかを理解できるようにする(学科 DP4)。 2.保育施設における物的環境を捉え、さまざまな環境構成を考えることができるようにする(学科 DP4)。 3.子ども理解に基づく環境を通した保育実践計画を立てることができるようにする(学科 DP4)。 4.さまざまな素材でイメージを広げるための遊びにおける教材見本を作成することができる(学科 DP6)。 5.保育における環境の重要性および具体的な指導方法や環境構成について説明することができる(学科 DP5)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	小櫃智子編著『実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法』わかば社 厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月』 フレーベル館				

文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』フレーベル館		
21.成績評価	(1) 具体的な保育実践について学び、自らも調べ、知識の獲得に向かって努力することができる。 「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識のノート作成、発表：20 点×2 回(40%) (2) 保育施設の環境について知ることから、どのような環境が子どもたちにふさわしいかを考えることができる。 「保育室、園庭マップ」保育室の環境構成図作成、園庭マップの作成、発表：保育室の環境構成図 10 点、園庭マップ 10 点(20%) (3) 現代の子どもを取り巻く環境について学ぶことから、子どもが保育の場で出会う多様な	
22.コメント	実際の保育現場にての演習を行います。できればお休みされませんようにお願いします。さまざまな演習を通して基礎的な専門知識とともに保育実践力を身に付けていただきたいと思います。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。教材見本づくりによっては作成費用がかかることがあります。授業についての連絡は Web Class よりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようにお願いします。また、担当教員へのご連絡は s-baba@kuins.ac.jp までお願いします。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	子どもと環境-環境とは何か-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part1 を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識のノート(1)を作成する。(120 分)
第 2 回	保育の展開と指導法(1)-ものとのかわり-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 1 章を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識のノート(2)を作成する。(120 分)
第 3 回	保育の展開と指導法(2)-自然とのかわり-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 2 章を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識のノート(1)の発表準備をする。(120 分)
第 4 回	保育の展開と指導法(3)-数量・図形とのかわり- 保育の展開と指導法(4)-標識・文字とのかわり-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 3 章を読む。「科学する心を育てる保育実践に必要な知識調べ」知識のノート(2)の発表準備をする。(120 分)
第 5 回	保育園見学(園庭)-実際の園庭を見学し、環境マップ作製の演習をする-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 4 章を読む。「園庭マップ」を作成する。(120 分)
第 6 回	保育園の見学(保育室など)-実際の保育室の環境構成図を描く演習をする-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 5 章を読む。「保育室マップ」を作成する。(120 分)
第 7 回	保育の展開と指導法(6)-身近な施設・地域、さまざまな文化とのかわり-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 6 章を読む。指導案の作成準備をする。(120 分)
第 8 回	保育の展開と指導法(7)-保育施設における行事とのかわり-	教室外学習(予習、復習) テキスト Part2 第 7 章を読む。指導案を作

		成する。(120 分)
第 9 回	保育の展開と指導法(8)-子どもと遊びと環境のかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3 第 1 章を読む。指導案発表の準備をする。(120 分)
第 1 0 回	保育の展開と指導法(9)-小学校との連携・接続における環境を通したかかわり-	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3 第 2 章を読む。指導案発表の振り返りをする。(120 分)
第 1 1 回	環境にかかわる現代の課題(1)ESD と保育	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3 第 3 章 1.を読む。「芝坊や」づくりの準備をする。(120 分)
第 1 2 回	環境にかかわる現代の課題(2)多文化共生と保育	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3 第 3 章 2.を読む。「芝坊や」づくりをする。(120 分)
第 1 3 回	環境にかかわる現代の課題(3)ユニバーサルデザインと保育	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3 第 3 章 3.を読む。「芝坊や」の観察記録を作成する。(120 分)
第 1 4 回	環境にかかわる現代の課題(4)インクルーシブ保育	教室外学習（予習、復習） テキスト Part3 第 3 章 4.を読む。「芝坊や」の観察記録発表の準備をする。(120 分)
第 1 5 回	総括-これまでの学びを振り返り、確認する-	教室外学習（予習、復習） 「芝坊や」の観察記録発表の振り返りをする。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED227-A01	2.科目名	こどもと言葉		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 言語表現分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 領域「言葉」の内容に関する基礎的知識について学修することを目的とする。					
	[概要] 幼児が言葉を獲得する意義について理解する。					
	幼児の発達に対して果たす言葉の役割について考える。					
	多様な児童文化財の内容と価値について知る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力に関連する。 ?言葉のもつ意義について、幼児の言葉獲得の視点から説明することができる。 ?児童文化財の特徴を知り、工夫して活用することができる。 ?言葉の果たす役割について多様な面から考察することができる。					
19.教科書・教材	適宜授業中に資料プリントを配布する。					
20.参考文献	幼稚園教育要領解説（平成 30 年）文部科学省 保育所保育指針解説（平成 30 年）厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年）内閣府、文部科学省、厚生労働省					
21.成績評価	レポート?「言葉の不思議」（第 3 回提出）1 0 % レポート②「言葉遊び」グループ実践案（第 8 回提出）1 0 % レポート?「言語獲得の環境」調べ（第 11 回提出）1 0 % 総合レポート（第 14 回授業時作成提出）4 0 %					
22.コメント	言葉に対する意識を新たにするとともに、言葉に興味・関心を持ち、言葉を育てることの魅力 を実感しましょう。 生成 Alno 利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	月 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	授業の概要説明 「言葉の不思議」について ワークショップ（グループワーク）を行う。			「言葉の不思議」レポートを作成する。(120 分		
2	言葉の意義と機能 言語と非言語との比較を通して、 言葉の意義と役割について考える。			身の回りにある「オノマトペ」を 2 0 集め る。(120 分)		
3	幼児の言葉の獲得 オノマトペに着目して、 言葉の獲得について考える。			?「言葉の不思議」レポート提出。 「美しい言葉」を収集する。(120 分)		

4	言葉に対する感覚を確かめる。 「美しい言葉」を身近な言語生活から収集し、 「言葉の美しさ」について考える。	これまでに学習・体験した「言葉遊び」を思い出しメモする。(120 分)
5	言葉に対する感覚を豊かにする。 いろいろな「言葉遊び」を体験する。	新たに知った「言葉遊び」をふり返り整理する。(120 分)
6	幼児に対する言葉遊びの実践を計画する。 グループに分かれて、実践案を検討計画する。	◎グループで実践案を練る。(120 分)
7	「言葉遊び」実践発表会? 実践案をもとに実際に行う。	◎発表を終えたグループは反省会を開く。次回発表グループは今回のグループの発表を踏まえて実践案を再考する。(120 分)
8	「言葉遊び」実践発表会? 実践案をもとに実際に行う。	「言語獲得の環境」について、下調べを行う。(120 分)
9	言葉獲得の環境について調べる。 幼児の言語獲得時に必要な環境とはどのようなものかを調べる。	「言語獲得の環境」について追加調べを行う。(120 分)
10	言葉獲得の環境について調べたことを発表する。 発表内容を相互交流し、 言語獲得の環境についての知見を広げる。	「児童文化財」の推移について調べる。(120 分)
11	児童文化財の意義 児童文化財とは何かについて知る。	?「言語獲得の環境」レポート提出。 「児童文化財」の具体を調べる。(120 分)
12	児童文化財の実際 児童文化財の実際について知る。	「児童文化財」の活用場を調べる。(120 分)
13	児童文化財の有効活用について考える。 自らの体験を基に、児童文化財の有効活用について 意見交流する。	総合レポート作成のための準備（これまでの学修内容の復習を行う。(120 分)
14	総合レポートを授業内に作成する。 テーマは 「児童文化財が幼児の言語獲得に果たす役割と意義について」	総合レポートについて自らのふり返りをまとめる。(120 分)
15	総合レポートを踏まえての意見交流を通して、 改めて「こどもと言葉」をふり返る	意見交流を自分なりにまとめ、「こどもと言葉」の学修全体をふり返る。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED228-A01	2.科目名	こどもと表現		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史、島川香織					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士 幼稚園		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 模擬保育などは、集中講義になる可能性あり		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、幼児が表現する姿や、その発達を理解することです。概要としては、様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにします。それに加えて、その過程を通して?ら表現する喜びを味わい、保育者に必要とされる豊かな感性を??の中に育てます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) ?律的で主体的な態度 (6) 専?的知識・技能の活?、の学修に関連しています。 本科?の学習?標は次のとおりです。 ・ 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明でき、表現を生成する過程について理解します。 ・ 幼児の素朴な表現を見つけ出し、受け止め、共感することができ、様々な表現を感じたり、見たり、楽しむことを通してイメージを豊かに保ち、身のまわりのものを身体感覚でとらえ、素材の特性を生かして表現することを身につけます。 ・ 表現することの楽しさを感じ、楽しみを生み出す要因について分析し、協働して表現する体験を通して、他者の表現を受け止めて共感し、より豊かな表現につなげていくことができるようにします。また、それらの体験をもとに表現の基礎的な知識技能を生かして、幼児の表現活動に展開できるようにします。					
19.教科書・教材	?橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030 本書は「造形 I」（1 年春学期）で購?したものです。 無藤隆監修浜口順子編者代表『新訂事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現』 2019. 萌文書林					
20.参考文献	槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 2008.ISBN 978-4893471314 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社					
21.成績評価	担当教員 2 名が 50% ずつ評価します。 【大西】①受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ②個?ワーク（活動①～④e ポートフォリオの内容）=30% ③グループワーク 10% 【島川】①子どもの音楽表現①～④ 振り返りレポート 200 字程度 20%					

	②子どもの音楽表現⑤～⑦ 振り返りレポート 150 字程度 15% ③グループワーク 5% ④音楽表現(実技)10% ・それ	
22.コメント	幼児の未分化な表現を豊かに引き出すにあたって、指導者??が表現する?量は必要ではありません。幼児の世界観を理解し受容し反応すること、つまり幼児の表現を"みとる?"が必要なのです。屈託のない無限の可能性が感じられる幼児の表現世界を体験しましょう。そして、仲間と?緒に表現することの楽しさを味わっていきましょう。 そうすることで、魅?ある指導者への第?歩を踏み出せるでしょう。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な?具（絵の具、クレパス、?鉛筆、?紙など）については?分で?意することになります。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定します。	
23.オフィスアワー	木曜昼休み 毎週月曜日昼休み（大西）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（本授業の?標・内容・評定算出の?法・進め?の確認、e ポートフォリオのアップ、受講上の留意点などについて） 保育所指針・幼稚園要領における「表現」とは	
第 2 回	子どもの造形表現—造形表現の源（伝え合い受け止め合う）に気づき、領域「表現」のねらい及び、内容について理解する。（グループワーク）	○復習及び授業ノートの整理（60 分）
第 3 回	乳幼児期の造形表現に関わる発達について理解する。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 4 回	子どもの造形表現の体験①「まぜまぜ～色水あそび～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 5 回	子どもの造形表現の体験②「こねこね、むぎゅー～こむぎこねんどであそぼう～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 6 回	子どもの造形表現の体験③「すみながし～マーブリングであそぼう～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 7 回	子どもの造形表現の体験④「ちょきちょきかざり～おり紙であそぼう～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）

第 8 回	子どもの造形表現の体験⑤「まるめて、みがいて～びかぴか泥粘土づくり～」 子どもの表現を考えながらイメージを膨らませ、色や形の多様性を楽しむ。	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ○提出課題作成と画像整理（60 分）
第 9 回	子どもの音楽表現① 「発達に応じた音遊びをしよう」 乳幼児期の発達を理解したうえで、感性和創造性につながる遊びを考えよう。	
第 10 回	子どもの音楽表現② 「自然や生活のなかにあるもの味わって表現しよう」 季節や動物との触れ合いを通して感じたことを音や動きで表現することの意味を考えよう。	
第 11 回	子どもの音楽表現③ 「コミュニケーションを通して表現しよう」 他者とのかわりから表現に結びつける援助や環境を考えよう。 SA: 604 音楽室	○子どもの音楽表現①～③振り返りレポート (120 分)
第 12 回	子どもの音楽表現④ 「音楽に関わる活動を通して表現しよう」 表現活動における「感じる・考える・工夫する」意味を考え教員を交えて意見交換しよう。 SA: 604 音楽室	
第 13 回	子どもの音楽表現⑤ 「楽器を通して表現しよう」 教育用楽器について理解しよう。 SA: 604 音楽室	
第 14 回	子どもの音楽表現⑥ 「言葉とリズムを通して表現しよう」 日本語のリズムを知ったうえでリズム遊びを楽しもう。 SA: 604 音楽室	
第 15 回	子どもの音楽表現⑦ 「身体を通して表現しよう」 基本的な運動を理解して表現を理解してみよう。 SA: 604 音楽室	○子どもの音楽表現④～⑦振り返りレポート (120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED303-A01	2.科目名	子どもの保健Ⅰ（4月12日～6月28日）		3.単位数	2
4.授業担当教員	細川愛美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	人の生涯の健康活動において、胎児期から幼児期や学童期、思春期の心身の発育・発達を生理学を中心に理解し、子どもの保健活動の役割の意義を理解する。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、子どもが成長段階で自己実現していくための基礎として養護と教育の意識の向上を目指す。子どもの疾病やその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	保育士として子どもの心身の健康増進を図る保健活動を進めるため、日常生活の中で子どもを取り巻く環境としての社会や地域、家庭の在り方について考えることのできる基礎の知識の習得を目指す。 ①専門分野を学んでいる意識を持ち、新しい知識を意欲的に学ぶ。 ②子どもの心身の健康の概念と保健の意義について説明できる。 ③子どもの疾病の予防及適切な対応を理解し、母子保健対策を考える。 ④子どもの身体的発育・発達と保健について関連を説明できる。 ⑤疾患のある子どもの保護者理解を深め、支援の方法を考える。 ⑥保健・健康に関心を持ち、自ら調べ探求する意欲を高める。 ⑦現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を知り、地域における保健活動を考える。 ⑧将来の就職に向けて、グループ討議、発表等を通じて必要な準備、行動化ができるようにする。					
19.教科書・教材	・授業で現場で役に立つ 子どもの保健テキスト改訂第2版 小林美由紀編著 診断と治療社 授業中に印刷した資料を配付します。WebClassにて資料等配付することもあります。					
20.参考文献	・保育を学ぶ人のための子どもの保健 堀浩樹・梶美保編著 建帛社 ・おかあさんに伝えたい「子どもの病気・ホームケアガイド」 日本外来小児科学研究会編著 医歯薬出版 ・幼児と健康 日常生活・運動発達・こころとからだの基礎知識 小野次朗・榊原洋一編著 ジアース教育新社					
21.成績評価	1. 課題レポート・授業中の課題レポート 40% 2. 授業中の小テスト 40% 3. 授業内確認プリント・振り返りシート等 20%					

22.コメント	専門職として、子どもに関わるうえで基礎基本となる講義です。知的好奇心をもって参加してください。命の大切さ、子どもの周囲の他の人たちとの関係についても考えていきましょう。自分自身の健康、自己管理についても学びましょう。 ☆1日に2コマの8日間（4月～6月）で実施します。できるだけ欠席しないようにしてください。 ☆質問等があれば授業後声をかけてください。あるいはe-mailでご連絡ください。 ★生成AI利用に関して、条件付きで認める。 ★成績評価に関わる課題・レポートには必ず授業内容を取り入れ、学生自身の考察を加えて書いてください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 4月12日 (土)1限	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認・受講上の留意点など） 講義「子どもの健康と保健」教科書 P1～P13 行動「子どもの区分を理解し、関連法及び理念から子どもについて考える」	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出
第2回 4月12日 (土)2限	講義「現代社会における子どもの健康に関する現状と課題」 活動「年齢別死因順位から保育所等で保育をするときどんな知識が必要かを考える」教科書 P21～P29	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第3回 4月19日 (土)1限	講義「地域における保健活動と子ども虐待防止」 活動「児童虐待の具体的な対応を調べる」教科書 P53～P61	準備：教科書持参 児童虐待のレポート提出 小テスト
第4回 4月19日 (土)2限	講義「子どもの身体的発育・発達と保健」教科書 P30～P37	準備：教科書持参 授業内課題提出 小テスト
第5回 4月26日 (土)1限	講義「乳幼児の発育曲線、運動機能の発達」教科書 P38～P43	準備：教科書持参 小テスト
第6回 4月26日 (土)2限	講義「生理機能の発達と保健」教科書 P44～P52 行動「生理機能と関連する生活習慣をまとめる」	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第7回 5月24日 (土)1限	講義「子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握」教科書 P62～P66 行動「体調不良時の主な症状とその評価、対応をまとめる」	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第8回 5月24日 (土)2限	講義「子どもの健康診断とその把握」教科書 P132～P141 行動「健診の内容と意義、関係機関との連携の実際をまとめる」	準備：教科書持参 小テスト
第9回 6月7日	講義「子どもの病気 子どもの免疫の発達と感染症の特徴」教科書 P67～P75	準備：教科書持参 小テスト

(土) 1 限		
第 1 0 回 6 月 7 日 (土) 2 限	講義「子どもの疾病の予防及び適切な対応」教科書 P76～P83 行動「予防接種の計画を立てる」	準備：教科書持参 小テスト
第 1 1 回 6 月 14 日 (土) 1 限	講義「救急疾患の特徴と適切な対応」教科書 P 84～P93	準備：教科書持参 授業内課題レポート提出 小テスト
第 1 2 回 6 月 14 日 (土) 2 限	講義「新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応」教科書 P 94～P100	準備：教科書持参 小テスト
第 1 3 回 6 月 21 日 (土) 1 限	講義「アレルギー疾患の特徴と適切な対応」教科書 P 101～P108	準備：教科書持参 (WebClass にて確認) 小テスト
第 1 4 回 6 月 21 日 (土) 2 限	講義「慢性疾患の特徴と適切な対応」教科書 P 109 行動「保護者の役割や病気のある子どもの保護者への対応を考える」	準備：教科書持参 疾病のある子どもの保護者への対応についての課題レポート提出 ※生成 AI：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。 小テスト (WebClass にて確認)
第 1 5 回 6 月 28 日 (土) 1 限	講義「保護者との情報共有と家族の支援」 行動「まとめの最終課題，小テスト」	まとめの課題レポート提出 ※生成 AI：条件付きで認める。授業内容を取り入れること。 小テスト (WebClass にて確認)

1.授業コード (ナンバリング)	EED305-A01	2.科目名	子どもの食と栄養		3.単位数	2
4.授業担当教員	水野和代					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科教育保育コース 教育福祉学科福祉保育コース			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	<目的> 生涯にわたり心身の健康に影響を与える子どもたちの食生活について、子どもの生活の場である保育所等で食生活支援ができるように、保育士等に必要とされる食に関する基礎知識を身に付ける。 <概要> 食生活と健康の関りを理解し、栄養に関する基礎知識を習得する。人生 100 年時代の各ライフステージにおける健康・栄養課題と関連性を学ぶことで、子どもの食の大切さを理解する。グループワーク、実習などを通じて、保育の現場で、子どもの発育に合わせた効果的な取り組みが実践できる力を身に付ける。					
18.学習目標と DPとの関連	本課目の学習目標は次の通りです。 ①栄養に関する基本的な知識を取得し、子どもの食・栄養と生涯の健康との関りを理解して説明できる。 ②自らの食生活を、健康的な習慣として実践できる。 ③保護者の食への負担感、不安感に寄り添えるような支援の方法を習得する。 ④子どもの食・栄養の特徴を理解し、実習や演習を通じて実践できるようにする。 ⑤グループワークにより、他の人の考えも取り入れながら総合的にまとめる能力を身につける。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	子どもの食と栄養 第3版 保育現場で活かせる食の基本 太田百合子他編著 羊土社 ISBN 978-4-7581-1380-9					
20.参考文献	授業で配布する資料					
21.成績評価	(1) 各回の授業で出された課題、グループワークなどに取り組み提出する。 30% (2) 調理実習のレポート 20% (3) 食育活動の企画作成と発表 10% (4) 期末試験 40%					
22.コメント	・ 20 分以上の遅刻、早退は欠席扱いとする。 ・ 期末試験の受験、単位取得には 2/3 以上の出席が必要。 ・ 毎回の授業に、必ず教科書を持参すること。 ・ 実習や演習には安全、衛生に配慮した服装や身だしなみで臨むこと。 ・ 食を取り巻く社会情勢や変化に興味をもち、新聞、図書、インターネットなどから新しい情報を収集を心がける。 ・ 生成 AI 利用 ・ ・ 条件付きで認める。ただし、レポート、試験では使用不可とする。					
23.オフィスアワー	教室、講師控室で応じる。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】 【第2回】	○オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ○自分自身の食生活をチェックする ○現在の日本人の食と栄養の問題点を考える ○食事と健康の関連性を考える ○子どもの発育・発達の過程を理解し、栄養との関係性を理解する	・教科書
【第3回】 【第4回】	○栄養に関する基礎知識① ・栄養素の種類と働きを理解し、それぞれの栄養素の過不足によって生じる健康上の問題を理解する ・栄養素の消化・吸収・代謝を理解する ・体内での水分代謝を理解し、水分補給の重要性を理解する	・教科書
【第5回】 【第6回】	○栄養に関する基礎知識① ・栄養素の種類と働きを理解し、それぞれの栄養素の過不足によって生じる健康上の問題を理解する ・栄養素の消化・吸収・代謝を理解する ・体内での水分代謝を理解し、水分補給の重要性を理解する	・教科書
【第7回】 【第8回】	○栄養に関する制度 ・食事・栄養摂取量の目安と評価 食事バランスガイド、日本人の食事摂取基準 ・献立、調理への展開 ・食品表示の見方 ○食中毒予防を衛生管理	・教科書 ・ノートパソコン
【第9回】 【第10回】	○妊娠期と授乳期の食生活 ・妊娠前の食生活での問題点と注意点 ・妊娠期、授乳期の身体的変化と食生活の特徴 食生活での注意点	・教科書
【第11回】 【第12回】	○乳児期の食生活 ・乳汁栄養（母乳栄養と人工栄養）について ・離乳の意義とその実践 乳児期の口腔機能の発達に対応した食の進め方 保護者の悩みを知り、支援を考える	・教科書
【第13回】 【第14回】	○幼児期の発育・発達と食生活 ・咀嚼機能、食べ方の機能の発達を理解し、食事の形態や食事環境への配慮と支援方法を学ぶ ・食事や間食の適量、与え方などを学び、正しい食習慣がつく方法を考える	・教科書
【第15回】	○学童期・思春期の発育・発達と食生活	・教科書

【第 16 回】	・学童期・思春期の心身の発達の特徴を理解し、その年代特有の問題点を見つけて対処方法を考える ・学校給食の役割、食育について学ぶ	
【第 17 回】 【第 18 回】	○生涯発達と食生活 ・成人期、高齢期の健康上の課題と対策を理解する ・人生 100 年時代の健康をマネジメントするために必要なことを考える ・超高齢社会における高齢者支援の実態を学ぶ	・教科書
【第 19 回】 【第 20 回】	○調理実習 - 離乳食（保護者の食事からの展開） - おやつ	・エプロン ・三角巾 ・布巾 ・手拭き
【第 21 回】 【第 22 回】	○特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ・急な体調不良、障害をもつ子どもの特性と支援方法を理解する	・教科書 ・前回調理実習のレポート
【第 23 回】 【第 24 回】	○アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 ・食物アレルギーの定義、疫学、症状、対処方法を学ぶ ・保育の現場での具体的な食品の選択や提供方法を知る ○窒息。誤嚥 ○災害支援	・教科書
【第 25 回】 【第 26 回】	○食育の基本と内容 ・食育とは何か、そのねらいと取り組みを学ぶ ・様々な場所、様々な職種で、すべての年代を対象に行われている食育の制度と取り組みを学ぶ	・教科書 ・ノートパソコン
【第 27 回】 【第 28 回】	○食育の実践 ・食育媒体作成 - テーマを検討し、媒体を作成、取り組みの PDCA サイクルを確認する。	・教科書 ・ノートパソコン ・媒体作成に必要な文具など
【第 29 回】 【第 30 回】	○食育媒体発表（グループ単位） ○期末試験	・教科書 ・ノートパソコン ・筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	EED307-A01	2.科目名	保育実習Ⅱ 事前事後指導		3.単位数	1										
4.授業担当教員	下里里枝															
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期											
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～											
10.取得資格の要件			11.先修条件	保育実習Ⅰ 保育実習Ⅰ 事前事後指導												
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※												
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習												
16.履修制限																
17.授業の目的と概要	【目的】 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 【概要】 1 実習や既習の教科目の内容や、その関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 2 保育の観察、保育記録及び保育指導案の書き方などを学び、保育実践や事例を通して理解する。 3 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 4 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。															
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①保育実習Ⅰを振り返り、自分自身の課題を明らかにし、それを乗り越えるための技能を身に付ける。 ②模擬保育を通して、具体的に保育内容を考え、指導計画が作成できる。 ③模擬保育後の振り返りを行い、実習Ⅱのイメージを持つことができる。 ④実習に際して必要な知識・技能を様々な場面を想定し、そこで取るべき行動や子どもへの影響などを深く考えることができる。 ⑤実習後の振り返りを行い自分の今後の課題を明確にする。 関連する DP 2（社会的貢献性） 3（多様性理解） 4（問題発見・解決力） 5（コミュニケーションスキル） 6（専門的知識・技能の活用力）															
19.教科書・教材	保育実習ハンドブックを授業にて配布する 適宜資料を配布する															
20.参考文献	「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」															
21.成績評価	<table><tr><td>◆ワークシート（5×5）</td><td>25 点・・・学習目標④に対応</td></tr><tr><td>◆模擬保育（指導案含む）</td><td>25 点・・・学習目標②③に対応</td></tr><tr><td>◆課題レポート</td><td>10 点・・・学習目標①に対応</td></tr><tr><td>◆実習後の評価と、最終レポート</td><td>20 点・・・学習目標①⑤に対応</td></tr><tr><td>◆手遊び 2 つと絵本の読み聞かせ（2 冊）の動画提出</td><td>20 点・・・学習目標②③に対応</td></tr></table> ※ワークシート、課題レポートなど提出物は、期日までに提出すること。期日を過ぎたら受け取り						◆ワークシート（5×5）	25 点・・・学習目標④に対応	◆模擬保育（指導案含む）	25 点・・・学習目標②③に対応	◆課題レポート	10 点・・・学習目標①に対応	◆実習後の評価と、最終レポート	20 点・・・学習目標①⑤に対応	◆手遊び 2 つと絵本の読み聞かせ（2 冊）の動画提出	20 点・・・学習目標②③に対応
◆ワークシート（5×5）	25 点・・・学習目標④に対応															
◆模擬保育（指導案含む）	25 点・・・学習目標②③に対応															
◆課題レポート	10 点・・・学習目標①に対応															
◆実習後の評価と、最終レポート	20 点・・・学習目標①⑤に対応															
◆手遊び 2 つと絵本の読み聞かせ（2 冊）の動画提出	20 点・・・学習目標②③に対応															
22.コメント	・この授業は、春学期の事前指導が 13 回、秋学期の事後指導が 2 回の計 15 回からなります。 ・実習のための大切なアナウンスや手続きがあるので、遅刻や欠席は原則として認めません。 また、ウェブクラスで連絡事項などを知らせることもあるのでよく見る癖をつけましょう。 ・有意義な実習ができるように事前指導でしっかりと学びましょう。															

	・実習は、社会へ踏み出すスタートです。実習現場では、社会人としての自覚や行動が求められます。	
	・日頃からの学習態度も重要視します。	
	・ピアノの練習もしておきましょう。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ガイダンス・ 「保育実習Ⅱ 事前事後指導」の授業の進め方・評価について シラバスを見ておくこと ・絵本の読み聞かせと手遊びの動画撮影（ウェブクラスに提出） ・第 5 回目に発表・評価 ・実習Ⅱに向けて ★授業の資料やワークシートは webclass にて配布する ○webclass にてワークシート①を提出する。 テーマ「実習Ⅰと実習Ⅱの違いについて」 ○保育所実習 1 ファイル返却	○ワークシート①作成、次週までにウェブクラスに提出 (120 分)
2 回目	・1 回目の資料を復習 履修登録の確認（保育実習Ⅱと保育実習Ⅱ 事前事後指導を履修登録） ・保育実習Ⅰの振り返り ・webclass にてワークシート②を実施、作成し提出する。	○ワークシート②作成、次週までにウェブクラスに提出 ◎手遊び、絵本の読み聞かせ動画撮影
3 回目	・安全・安心な保育について グループワーク ワークシート③作成 ※変更があるかもしれません	★ワークシート③は次週までにウェブクラスに提出（120 分）
4 回目	・保育士の社会的役割と保育倫理 ワークシート④の作成と提出 ※変更があるかもしれません	○ワークシート④作成、次週までに提出（120 分） ・絵本の読み聞かせ、手遊びの動画撮影次週までにウェブクラスに提出
5 回目	・手遊び、絵本読み聞かせ動画発表 ※変更があるかもしれません	○ワークシート⑤作成、次週までに提出（120 分）
6 回目	・手遊び、絵本読み聞かせ動画発表 ・評価	○個人票・誓約書の作成（120 分）
7 回目	・個人票・誓約書作成 ・指導案の書き方の復習 保育日誌の書き方の復習 資料は webclass にて事前配布するワークシート⑥	○ワークシート⑥（指導案作成、提出） ★個人票下書き提出 ★写真を用意しておく（120 分）
8 回目	・模擬保育の実施の仕方について ・模擬保育の指導案作成（ワークシート⑦）	○指導案作成（ワークシート⑦）作成、提出 ・各自模擬保育の指導案作成

	※変更があるかもしれません。	・ 模擬保育実施後、振り返りレポート、修正指導案作成等 (120 分)
9 回目	・ 模擬保育の実施 ※変更があるかもしれません。	★写真を貼った個人票提出 ★誓約書提出 ☆模擬保育振り返り (120 分)
10 回目	模擬保育の実施 ※変更があるかもしれません。	○実習先へのアポイントをとる ☆模擬保育振り返り (120 分)
11 回目	模擬保育の実施 ※変更があるかもしれません。	○実習先へオリエンテーションに行く準備 ☆模擬保育振り返り (120 分)
12 回目	・ 模擬保育の実施 ・ 学修支援室より、実習について連絡、配布資料など	○模擬保育の振り返り ○実習の準備 (120 分)
13 回目	○実習直前指導 実習ハンドブックを確認 ・ 実習後、実習園へのお礼状の書き方について ・ 実習記録の提出について ・ 巡回教員へのあいさつ ・ オリエンテーションの確認 ※変更があるかもしれません。	○実習先の確認 ○実習ハンドブックを見て、準備物など確認しておく。(120 分)
14 回目と 15 回目の日時と教室は後日掲示する (秋学期)	○事後指導 面談 自己評価 実習の総括	★課題レポート作成、15 回目終了までにウェブクラスに提出 (120 分)
15 回目	○事後指導 (面談と、課題レポート作成)	★実習ファイルを整理して提出 (120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED308-A01	2.科目名	保育実習Ⅲ事前事後指導 (2023 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	松本恵美子、馬場住子					
5.授業科目の区分	展開科目 児童家庭福祉分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件	保育実習Ⅰを履修済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	施設が果たす役割を知り、施設保育士の専門性について学ぶ ①施設で暮らす子ども達の抱える問題とその生活を知り、子ども達の思いを理解し、共感しながら毎日共に生活できるようになる。 ②子ども支援を確実なものにするために、施設がどのような点に努力をし、職員同士の連携、多機関との連携、地域との連携、保護者支援等がどのように行われているのかを理解できるようになる ③施設の子子ども達への専門的な支援の方法や技術を学び、一人一人の子子どもに必要なコミュニケーションの取り方、関わり方ができるようになる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの 1) 自律的で主体的な態度、 4) 問題発見力・解決力、6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連している ①施設保育の専門性を身に付けることで、児童問題や障害者問題に積極的に取り組むことができるようになる。 ～自立的で主体的な態度～ ②施設保育士として、子ども達が抱える問題を把握し、援助の見通しを論理的に組み立て、問題を解決できるようになる。 ～問題発見力・解決力～ ③子どものニーズに対し、実際に専門的な知識や技術を可能な限り駆使し、専門性の高い保育支援を行える様になる。 ～専門的知識・技術の活用力～					
19.教科書・教材	保育実習・施設実習ハンドブック(配布する)					
20.参考文献	適時紹介する					
21.成績評価	①実習施設からの評価 40％(学習目標①?③に関連する) ②実習観察記録記述 30％(学習目標②?③に関連する) ?各資料整理・提出、事後報告発表 30％(学習目標②?③に関連する)					
22.コメント	実習Ⅰで学んだことを住まえて、施設における保育者の役割とその専門性について、考察を深めてください。そして何より、子どもが施設というところで生活することの意義をしっかりと理解し、子どもの気持ちに寄り添い、支えることの意味を自分なりに考え、行動できるようになってください。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)(馬場)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	* 実習Ⅲで学ぶことの概要説明 ●実習Ⅰで学んだことを振り返る ●実習Ⅲで学びを深める点について 確認する			?レポート① 子どもが、児童養護施設で暮らすことを、どのように感じるか、Web でレポート提出。 (次週までに提出)		

		○ゲストスピーカーに対する質問を2個以上考えておく
第2回	* 児童養護施設職員の話聞く ● 実習Ⅰと実習Ⅲの学びの違い ● 入所児童に対する関わり方を深めるためのポイント ● 保育士が、施設で仕事をするために持つべき専門性とは？ 等について、現場の話聞かせて頂く ★レポート①Webで提出締め切り	?レポート② ゲストスピーカーの話から学んだことと、実際に実習で実践してみたいと思ったこと等についてまとめ、Webでレポート提出。 (次週までに提出)
第3回	* 施設実習の意義と目的 ● 施設がなぜ、存続を求められるのかその背景と意義について学ぶ ● 施設の保育者になるために必要な知識とは何かを学ぶ ● 施設という現場で、保育体験をすることの意味について学ぶ 以上のことを理解したうえで子どもの心を理解し、適切な支援をするための専門性について学ぶ。 ★レポート② Webで提出締め切り	○グループワーク・ディスカッション 決められたグループで、ZOOM会議を開く 実習先での施設入所児に対する自分の態度や言動で、注意すべき点について、話し合ってみておく。 (次週発表)
第4回	★プレゼンテーション 施設入所児童に対する態度や接し方について話し合ったことを発表し、皆で、情報を共有し学びを深める。(発表：グループ) * 実習中の態度について 実習中の子どもに対して、職員に対して、保護者に対して、職業倫理に照らして、どの様にあるべきかについて学ぶ * 実習計画の作成 施設実習の課題を考え、実際に施設実習計画を書いてみる	?実習計画を作る 授業の続きを書きあげ、Webで提出 (次週提出) ○児童養護施設について調べ学習をしておく。 (第7回目の授業で発表をする)
第5回	* 実習日誌の書き方 ● 実習日誌を記録する目的 ● 日誌に記録する内容 ● 実習日誌の留意点 について学ぶ ?実際の記録をもとに、いい記録の書き方について学ぶ ★実習計画 Web 提出締め切り	?提示した事例に添って実習日誌を Web で書く (次週提出) ○バイステックの7原則について、復習しておく
第6回	* 保育士の仕事とソーシャルワーク	○乳児院の概要について調べておくこと

	●施設におけるソーシャルワークについて学ぶ ●対人援助技術の原理・原則がどのように施設内の支援場面で使われているのかについて学ぶ ★実習日誌 Web で提出締め切り	(次週発表)
第 7 回	★プレゼンテーション 乳児院について調べてきたことを発表する (3 名) * 乳児院での実習について ●D V Dを見て乳児院について理解する ●乳児院での実習の準備と実際 ●記録の書き方 ★プレゼンテーション 児童養護施設について調べたことを発表(3 名) * 児童養護施設での実習について ●児童養護施設での実習準備と実習の実際 ●児童養護施設実習における記録の書き方について	?自己紹介カード 自分で記入してみる (1 2 0 分) カードは配付する
第 8 回	* 実習前の事務手続きなどの準備作業 ★自己紹介カードの添削⇒清書 ●オリエンテーションのガイダンス ●実習にかかる書類の整理 等 ★実習ノートブックを必ず持参すること	?母子生活支援施設、児童自立支援施設について調べておく (次週発表)
第 9 回	★プレゼンテーション 母子生活支援施設について調べたことを発表(3 人) * 母子生活支援施設での実習について ●母子生活支援施設での実習準備と実習の実際 ●母子生活支援施設における記録の書き方について ★プレゼンテーション 児童自立支援施設について調べたことを発表(3 人) * 児童自立支援施設での実習について ●児童自立支援施設での実習準備と実習の実際 ●児童自立支援施設における記録の書き方について	?知的障害児施設、重症心身障害児施設の概要について、調べておく (次週発表)
第 1 0 回	★プレゼンテーション 知的障害児施設の概要について調べたことを発表 (3 人) * 知的障害児施設での実習について ●知的障害児施設での実習準備と実習の実際 ●知的障害児施設における記録の書き方について ★プレゼンテーション	?絵本の概説ノート作成 1 ～ 5 歳の各年齢に適した絵本を、年齢ごとに 2 冊ずつ選び、合計 1 0 冊の概説ノートを作る。 (次週提出) このアサメントについては手書きで作成。実物を提出。 (状況によっては Web で写真撮影した物を提出する)

	重症心身障害児施設の概要について調べたことを発表 * 重症心身障害児施設での実習について ●重症心身障害児施設での実習準備と実習の実際 ●重症心身障害児施設における	
第 1 1 回	* 実習後の提出物、報告について 日誌の実習先への提出にあたっての留意点 実習終了後の御礼状について * 施設の保育現場で楽しむ遊び 特に知的障害児を想定しての簡単な遊びをやるみる ★絵本の概説ノートを提出	?御礼状作成 実習終了後すぐに、(1週間以内)お礼状に下書きをする ⇒でき次第提出 ⇒添削後返却 ⇒すぐに清書してポストへ * 研究室の扉の投函ボックスを通じて、やりとりするので、必ず提出・受け取りをしに来ること * 状況によっては WEB でのやり取りになる ?レポート③ 実習から学んだこと、今後の課題と思ったことなどについてレポートにまとめる (提出は、事後指導開始時)
第 1 2 回	* 施設実習から学んだことと今後の課題 ★発表 施設実習から学んだことや感じたことを各自が発表 ★レポート③Web で提出	
1 2 回以降、 時期的には 2 0 1 9 年 2 月 末～3 月初め 頃になります		
第 13～14 回	* 個別事後指導面接の実施 状況によっては ZOOM 面談になる) * 実習中、子ども達が喜んだ遊びや本についてまとめる 個別面談実施中、待機している者は、実習中の子ども達が喜んだ遊びや 本、あるいはこんな遊びを提供したかったと思った創作遊び・創作絵本についてファイリングノートを作成する。	ファイリングノートを作る (最終講義時に提出) これも実物を提出。 状況によっては Web で提出
第 15 回	* 実習Ⅲについての振り返り 実習での経験を今後の糧と課題に ★ファイリングノートの提出 (状況によっては Web で提出)	

1.授業コード (ナンバリング)	EED309-A01	2.科目名	保育実習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	1. 保育所の役割や機能について,,具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関りの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の(2) (4) (5) (6) の学修に関連している。 ①保育所の役割や機能の具体的展開。 ②観察に基づく保育理解。 ③子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携。 ④指導計画の作成、実践、観察、記録、評価。 ⑤保育士の業務と職業倫理を理解する。 ⑥自己の課題の明確化					
19.教科書・教材	関西国際大学の保育所実習ハンドブック 関西国際大学の実習記録					
20.参考文献	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
21.成績評価	・実習園からの評価 (60 点・・・学習目標①②③⑤に対応) ・実習記録記述 (30 点・・・学習目標④⑤に対応) ・実習振り返り、資料整理 (10 点・・・学習目標⑥に対応)					
22.コメント	保育園での 2 回めの実習です。自分の実習目標を持っのぞみ、子ども達と積極的に関わり実践力をつけましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
10 日間 80 時間の実習	★部分実習 ★責任実習 ・保育所の役割や機能について学ぶ。 ・子どもの心身の状態や活動の観察、保育士の動きや実践の観察、保育所生活や流れや展開の把握。 ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解。 ・指導計画などを作成し、可能な範囲で部分実習、半日実習、全日実習を行う。実施後、評価をする。 ・保育士の業務と職業倫理を理解する。			その日の記録や指導計画の作成 (20 時間)		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	EED310-A02	2.科目名	保育実習Ⅲ (2023 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	松本恵美子					
5.授業科目の区分	展開科目 児童家庭福祉分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件	保育実習Ⅰを履修済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	施設が果たす役割を知り、施設保育士の専門性について学ぶ ①施設で暮らす子ども達の抱える問題とその生活を知り、子ども達の思いを理解し、共感しながら毎日共に生活できるようになる。 ②子ども支援を確実なものにするために、施設がどのような点に努力をし、職員同士の連携、多機関との連携、地域との連携、保護者支援等がどのように行われているのかを理解できるようになる ③施設の子ども達への専門的な支援の方法や技術を学び、一人一人の子どもに必要なコミュニケーションの取り方、関わり方ができるようになる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの 1) 自律的で主体的な態度、4) 問題発見力・解決力、6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連している ①施設保育の専門性を身に付けることで、児童問題や障害者問題に積極的に取り組むことができるようになる。 ～自立的で主体的な態度～ ②施設保育士として、子ども達が抱える問題を把握し、援助の見通しを論理的に組み立て、問題を解決できるようになる。 ～問題発見力・解決力～ ③子どものニーズに対し、実際に専門的な知識や技術を可能な限り駆使し、専門性の高い保育支援を行える様になる。 ～専門的知識・技術の活用力～					
19.教科書・教材	保育実習・施設実習ハンドブック(配布する)					
20.参考文献	適時紹介する					
21.成績評価	①実習施設からの評価 4 0 % (学習目標①?③に関連する) ②実習観察記録記述 3 0 % (学習目標?②に関連する) ?各資料整理・提出、事後報告発表 3 0 % (学習目標?②?に関連する)					
22.コメント	実習Ⅰで学んだことを住まえて、施設における保育者の役割とその専門性について、考察を深めてください。そして何より、子どもが施設というところで生活することの意義をしっかりと理解し、子どもの気持ちに寄り添い、支えることの意味を自分なりに考え、行動できるようになってください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・主に観察実習(夏学期10日間 80時間以上) ＜児童福祉施設等(保育所以外)における実習＞ ・施設の役割と機能、子どもの理解、施設における子どもの生活と			・その日の記録や、指導計画の作成(20時間)		

	環境等、実習Ⅰで学んだことを、現場での実践に反映させながら、実習に取り組む。 ・計画と記録を学びの通り、公益な記録として適切に表記できるようになる ・専門職としての保育士の役割と倫理を実習の中に反映させて行動する	
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回	*	
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
1 2 回以降、 時期的には 2 月末～3 月初め頃になります		
第 13～14 回		
第 15 回		

1.授業コード (ナンバリング)	EED317-A01	2.科目名	環境（指導法）		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件	2 年生春学期の保育内容 5 領域の全ての科目 を履修すること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」は「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」観点から子どもの育ちを考えていく領域である。そのためには乳幼児自身の活動を通して好奇心・探究心がどのように育ち、保育者はどのように援助していけばよいかを理解しなければならない。この授業では、乳幼児自身の好奇心・探究心の育ちと、それを育てるための保育者の援助・指導法について理解を深める。 <「保育内容・環境」で学ぶ主な内容> ■幼稚園教育要領・保育所保育指針における「					
18.学習目標と D P との関連	【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。 【本授業の学修目標】 ・5 領域の中の「環境」の位置づけ、その目標と内容について理解します。 ・乳幼児特有の思考と表現の過程を学んだり、追体験したりすることを通して、乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えることができるようにします。 ・保育実践を進めていくことの重要性及び具体的な指導方法や環境構成について把握します。					
19.教科書・教材	配布物で資料を配るため、特に必要はありません。					
20.参考文献	・瀧川光治・小栗正裕編『改編 保育の考え方と実践』久美出版、2012 年 ・「保育所保育指針」 ・「幼稚園教育要領」					
21.成績評価	(1) 乳幼児特有の思考と表現の過程を学んだり、追体験することを把握し、説明できるようになる。5 領域の中の「環境」の位置づけ、その目標と内容について説明できるようになる。 ワークシートや感想（毎回）・・・3 点×15 回＝45 点 Webclass で提出 (2) 乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えて、保育実践（落ち葉図鑑や絵本の作成）を進めていくことができるようになる。 課題（落ち葉図鑑・フォトブック）（第13回まで）・・・20 点					

	Webclass で提出 (3) 乳幼児期の思考や表現をトータルに捉えて、保	
22.コメント	1. プリント（ワークシート等）を配布するので、ノートは要りません。プリントの中に重要事項、メモ等を記入してください。また、欠席などで、プリント類を受け取っていない場合は、翌週に申し出る。 2. 【学びの記録シート】の「学習目標に対しての気づき・学び」は授業の中での新たな気づきや学びを書き、「今日の感想・質問」は感想や質問・疑問事項を記入する。2行半にまとめる（1行程度は不可）。 また、＜自己チェック＞欄の集中度・学習目標到達度は、5段階で自己評価する。 3. 演習としてグループワーク、ロールプレイングを行います。 2回目までは ZOOM にて遠隔授業を実施します。それ以降は変更の可能性があるため、Webclas・Universalpassport をよく見ておいてください。	
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	NO.1：ガイダンス／保育内容「環境」の意義 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を取り上げつつ「環境」の意義を説明する。 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。 ZOOM での講義と WS の提出	○HW-WS①を実施する。(120 分)
第2回	NO.2：保育内容「環境」と幼児理解 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成を仕上げる。 ZOOM での講義と WS の提出	● 課題1「落ち葉図鑑 or フォトブックづくり」の説明（120分） ○HW-WS②を実施する。(120 分)
第3回	NO.3：好奇心・探求心を育てる指導方法 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用していく。 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成を仕上げる。	○HW-WS③を実施する。(120 分)
第4回	NO.4：思考力の芽生えをはぐくむ指導 「環境」領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 思考力の芽生えをはぐくむ指導実践を考えた後、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS④を実施する。(120 分)

第 5 回	NO.5：人的環境として友だち、保育者 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑤を実施する。(120 分)
第 6 回	NO.6：物的環境としての園具・遊具・素材 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 写真を使った保育展開を学ぶ。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑥を実施する。(120 分)
第 7 回	NO.7：自然環境としての動植物 保育内容「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した上で、パワーポイント・Excel で環境構成図を仕上げる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑦を実施する。(120 分)
第 8 回	NO.8：日常生活のなかでの興味や関心 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容を取り上げつつ「環境」の意義を説明する。 日常生活の興味関心が小学校の教科等とどのようにつながっているかを理解する。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑧を実施する。(120 分)
第 9 回	NO.9：地域（小学校など）・行事とのかかわり、保育実践の具体例－いろいろな糸電話の教材研究 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑨を実施する。(120 分)
第 10 回	NO.10：「環境」からみた道徳性の芽生えを培う、保育実践の具体例－糸電話、音の教材の教材研究 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑩を実施する。(120 分)
第 11 回	NO.11：乳幼児の安全環境 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。	○HW-WS⑪を実施する。(120 分)

第 1 2 回	NO.12：保育内容「環境」からみた実践的課題 行われた実践についての評価を行う。 保育で行われた実践が小学校の教科等とのつながりを持っているか、確認していく。 振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○HW-WS⑫を実施する。(120 分)
第 1 3 回	NO.13：自然・動植物や季節の変化に触れる保育実践－ 「落ち葉図鑑」「フォトブック」の作品鑑賞会 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解した上で自然・動植物や季節の変化に触れる保育実践を考える。 幼稚園教育における保育実践の振り返りを行う際の評価の考え方を理解する。	○HW-WS⑬を実施する。(120 分)
第 1 4 回	NO.14：保育における環境（物的環境、自然環境、環境構成）とは？ 幼稚園教育における環境構成などについての評価の考え方を理解する。	○HW-WS⑭を実施する。(120 分)
第 1 5 回	NO.15：まとめ（授業内での「最終まとめ」プリント） これまで身に付けた力を総括して確認する。	○HW-WS⑬を実施する。(120 分) ○最終回まとめのレポートを実施する。 (120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED318-A01	2.科目名	言葉（指導法）	3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子				
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件	保育士資格必修 幼稚園教員免許必修		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 領域「言葉」に関する専門的事項とその指導法を理解すること、および、保育内容「言葉」の基本的事項を踏まえて、児童文化財を用いた教材を創意工夫し、その作成に取り組むことを目的とする。 【授業の概要】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」の指導において必要な専門的事項と指導法をテキストを基に解説する。また、乳幼児期の言語の発達過程や児童文化材について学び、保育者が言葉の発達をどのように援助していくかを考え、保育実践力を身に付けるためさまざまな演習に				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.領域「言葉」に関する専門的事項を理解することができる(学科 DP6)。 2.保育内容「言葉」の指導法について理解することができる(学科 DP6)。 3.保育内容「言葉」の基本的事項を踏まえて、年齢の発達段階に配慮し、児童文化財を用いた教材の作成に取り組むことができる(学科 DP4)。 4.保育内容「言葉」の基本的事項を踏まえて、児童文化財を用いた教材の発表(ミニ模擬保育)に取り組むことができる(学科 DP5)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	秋田喜美代 三宅茂夫監 秋田喜美代 砂上史子編 『子どもの姿から始める領域・言葉』 みらい 厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 平成 30 年 3 月』 フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月』 フレーベル館				
21.成績評価	教材研究：「電子紙芝居」作品・発表 30 点(30%)〔学習目標の③に対応〕				

	教材研究：「紙皿シアター」作品・発表 30点(30%)〔学習目標の③に対応〕 学びのレポート：4点×10(40%)〔学習目標の①、②、④に対応〕	
22.コメント	さまざまな演習を通して基礎的な専門知識とともに保育実践力を身に付けていただきたいと思います。 と思っています。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。※一部教材づくりで各自準備 していただくものがあります。適宜授業内でご案内します。	
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日 昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	言葉の働きと言葉を育むもの-学びのレポート①-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第1章を読む。 言葉の働きと言葉を育むものについてまとめて おく。(120分)
2 回目	言葉の楽しさ・美しさ-学びのレポート②-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第2章を読む。 言葉の楽しさ・美しさについてまとめてお く。(120分)
3 回目	発達段階や場面などに応じた絵本・紙芝居の読み聞か せ 児童文化財-学びのレポート③-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第3章を読む。 発達段階や場面などに応じた絵本・紙芝居の 読み聞かせと 児童文化財についてまとめて おく。(120分)
4 回目	文字や記号に対する感覚や興味・関心をはぐくむ保育 実践-学びのレポート④-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第4章 第1,2節を読む。文 字や記号に対する感覚や興味・関心をはぐく む保育実践についてまとめておく。(120分)
5 回目	乳幼児期の言語発達・乳児の保育における言葉を育む 保育実践-学びのレポート⑤-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第4章 第3・4節を読む。乳 幼児期の言語発達・乳児の保育における言葉 を育む保育実践についてまとめておく。(120 分)
6 回目	1歳以上3歳未満児の保育における言葉を育む保育実践 -学びのレポート⑥-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第5章 を読む。1歳以上3 歳未満児の保育における言葉を育む保育実践 についてまとめておく。(120分)
7 回目	3歳以上児の保育における言葉を育む保育実践-学びの レポート⑦-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第6章 を読む。3歳以上児 の保育における言葉を育む保育実践について まとめておく。(120分)
8 回目	3歳以上児の保育における言葉のやり取りを育む保育実 践-学びのレポート⑧-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第7章 を読む。3歳以上児 の保育における言葉のやり取りを育む保育実 践についてまとめておく。(120分)
9 回目	言葉の感覚やイメージをはぐくむ保育の構想-学びのレ ポート⑨-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第8章 を読む。言葉の感覚 やイメージをはぐくむ保育の構想についてま とめておく。(120分)

1 0 回目	領域「言葉」と10の姿・小学校教育との連携・特別なニーズを持つ子ども-学びのレポート⑩-	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第9章を読む。領域「言葉」と10の姿・小学校教育との連携・特別なニーズを持つ子どもについてまとめる。(120分)
1 1 回目	遊びの実践(1)「紙皿シアター」づくり	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第10章第1.2節を読む。紙皿シアターづくりをする。(120分)
1 2 回目	遊びの実践(2)「紙皿シアター」の発表(ミニ模擬保育)	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第10章 第3節を読む。紙皿シアターを使ったミニ模擬保育の準備をする。(120分)
1 3 回目	遊びの実践(3)「電子絵本」づくり	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第11章を読む。電子絵本作りをする。(120分)
1 4 回目	遊びの実践(4)「電子絵本」の発表	教室外学習（予習、復習） テキスト第1部 第12章を読む。電子絵本の発表準備をする。(120分)
1 5 回目	総括-保育内容「言葉」の指導法-	授業で習ったこと全般を振り返り、復習する。(120分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED320-A01	2.科目名	表現（指導法）Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日常の身の回りの音に耳を傾け、そこから音楽を知覚・感受した内容を手遊び、身体表現(リトミック)や音楽表現に結びつける。お話の内容を理解し、場面にふさわしい音楽の挿入や即興表現する。演習を通して、保育現場で使われる行事・季節・生活の歌、リズム曲、合奏を実践する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性）に関連しています。 ・「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」という幼稚園教育要領・保育所保育指針、「表現」領域の基本を理解する。 ・「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」を体得するための演習に意欲的に取り組むことができる。 ・演習を通して、幼児の認識・思考・動き等を視野に、指導上の留意点を理解する。 ・幼児の表現活動(音楽)の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。					
19.教科書・教材	楽譜及び資料は、必要に応じてプリントを配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	発表 音表現 6 % 手遊び 6 % 音楽づくり 1 2 % 合奏 1 2 % 活動の様子 音表現 4 % 音楽づくり 8 % 小テスト 歌唱 6 % + 伴奏 6 % = 1 2 % 身体表現 6 % + 伴奏 6 % = 1 2 % グループワークシート 5 % + 個人ワークシート 1 0 % = 1 5 % 保育指導案作成 1 3 %					
22.コメント	授業での演習が、子どもたちとの現場に生かせる実践となるよう取り組む。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
43199	■オリエンテーション 授業の組み立て(15 回)を通して、「表現」領域の基本となる演習の目的を理解する。 ■身近な音を探してみよう・歌ってみよう・弾いてみよう 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ活動として、 身近に感じることのできる音を探して、音日記をつける。			○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h		

	音のイメージに合う楽器を選択し、グループで表現する。 幼児の認識・思考を視野に、指導上の留意点に結びつける活動として グループワークシート記入する いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、 季節・行事	
43206	■音表現発表 音日記でつけた音のイメージに合う楽器を選択、グループで音表現を発表する。 ■歌ってみよう・弾いてみよう 季節・行事・生活の歌を歌う。歌の伴奏パートを鍵盤楽器で演奏する。 グループワークシート提出	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の旋律と伴奏パートを練習する。1h
43213	■歌ってみよう・弾いてみよう ヘッドホンを使用して、歌に合わせて伴奏パートを演奏する。 ■手遊びしてみよう ペアまたは3人で、手遊びする。	◎いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として、歌の伴奏と手遊びをパートナーと合わせて練習する。1h
43227	■小テスト 歌唱パートと伴奏をパートを交替して小テストを実施する。 ■手遊び発表 ペアまたは3人で、手遊びを発表する。	
43234	■音楽劇をつくろう① 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、 こども人形劇場のお話の内容を理解しお話にふさわしい音楽劇を検討する。 語り手・登場人物・音楽表現等の役割を決める。 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動として ワークシートに記入する	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う 1.5h
43241	■音楽劇をつくろう② お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動とし	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う 1.5h

	てワークシート記入	
43248	■音楽劇をつくろう③ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動として てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う 1.5h
43255	■音楽劇をつくろう④ お話にふさわしい音楽劇を検討し、歌唱、身体表現、 鍵盤楽器、打楽器を使って表現をグループで工夫する。 幼児の認識・思考・動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動として てワークシート記入	◎感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ活動として、グループで音楽劇の役割・内容を話し合う 1.5h
43262	■音楽劇を発表しよう グループごとに作成した音楽劇を発表し教員を交えて意見交換する ワークシート記入・提出	
43269	■乳幼児の発達と楽器の奏法を理解しよう 合奏課題曲の練習に向け、楽器の奏法(カスタネット・タンブリン・すず・木琴・鉄琴・ハンドベル・電子ピアノ)を理解する。 楽曲の担当パートを決定し、読譜する。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43276	■合奏しよう グループに分かれ合奏する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	○いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性を育む活動として担当パートを練習する。1.5h
43283	■合奏グループ発表 ■保育指導案の構成をグループで考える。	
43290	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション等を身体表現する。 ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは3人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を工夫して練習する。1h
43297	■音楽にあわせて身体表現しよう 演習を通して、リトミック、ボディパーカッション	◎幼児の動きを視野に、指導上の留意点に結びつける活動としてパートナーと身体表現を

	等を身体表現する。 ピアノ演奏にあわせて身体表現をペアまたは３人で工夫する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	工夫して練習する。1h
43304	■身体表現を発表しよう 工夫した身体表現をペアまたは３人で発表する。 ■保育指導案の構成をグループで考える。	★ 保育指導案提出

1.授業コード (ナンバリング)	EED401-A01	2.科目名	幼稚園教育実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	小学校一種、幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・ 幼稚園教育実習は、幼稚園教諭の免許取得に必要な単位である。 ・ 幼稚園教育実習では、幼稚園教諭としての在り方を学ぶ。 ・ ここでは、クラス担任の意図を把握して助手的な役割を務めるとともに、部分的に（部分実習）あるいは、1 日中の（責任実習）指導計画の立案・実践を行う。 ・ これらを通じて、幼児期の子ども達の発達の過程や遊びの様子、友達との関わり方など具体的に学ぶ。また、幼稚園教諭として、記録の取り方、指導計画の書き方、環境構成や援助のあり方、保育の振り返り方等を具体的に学ぶ。				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力 それぞれの学修に関連している。 【本授業の学修目標】 (1) 幼稚園教諭の役割を知り、仕事内容（実習記録など）を体験的に理解し、実践できるようになる。 (2) 子どもについての理解を深め、年齢に応じた子どもへの対応をすることができる。 (3) 幼稚園の家庭や地域社会への対応について理解し、説明することができる。 (4) 保育者としての自らの資質を高め、保育者と具体的な事例から振り返ることができる。				
19.教科書・教材	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 関西国際大学の「幼稚園教育実習ハンドブック」「実習記録」				
20.参考文献					
21.成績評価	・ 実習園の評価 50 点 ・ 実習記録記述 40 点 ・ 各資料整理 10 点				
22.コメント	・ 大学で学んだことを活かし、現場で具体的に学ぶこと。 ・ 積極的に実習に取り組み、実りの多い実習にすること。 ・ 常に自分を振り返りながら、考えて行動すること。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
10 日間の実習	○ 本学関連の、難波愛の園幼稚園、立花愛の園幼稚園、武庫愛の園幼稚園で実習する。 ○ 実習前には実習園にオリエンテーションに行く。 ○ 観察実習 主に保育の実際を観察し、具体的な理解を深める。 ・ 指導教師の意図的な関わりを、詳細に記録する。			○ その日の実習記録や、部分実習をするときの指導計画の作成	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	EED402-A02	2.科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	3.単位数	2
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	小学校一種、幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・幼稚園教育実習は、幼稚園教諭の免許取得に必要な単位である。 ・幼稚園教育実習では、幼稚園教諭としての在り方を学ぶ。 ・ここでは、クラス担任の意図を把握して助手的な役割を務めるとともに、部分的に（部分実習）あるいは、1 日中の（責任実習）指導計画の立案・実践を行う。 ・これらを通じて、幼児期の子ども達の発達の過程や遊びの様子、友達との関わり方など具体的に学ぶ。また、幼稚園教諭として、記録の取り方、指導計画の書き方、環境構成や援助のあり方、保育の振り返り方等を具体的に学ぶ。				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力 それぞれの学修に関連している。 【本授業の学修目標】 (1) 幼稚園教諭の役割を知り、仕事内容（実習記録など）を体験的に理解し、実践できるようになる。 (2) 子どもについての理解を深め、年齢に応じた子どもへの対応をすることができる。 (3) 幼稚園の家庭や地域社会への対応について理解し、説明することができる。 (4) 保育者としての自らの資質を高め、保育者と具体的な事例から振り返ることができる。				
19.教科書・教材	幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 関西国際大学の「幼稚園教育実習ハンドブック」「実習記録」				
20.参考文献					
21.成績評価	・実習園の評価 50 点 ・実習記録記述 40 点 ・各資料整理 10 点				
22.コメント	・大学で学んだことを活かし、現場で具体的に学ぶこと。 ・積極的に実習に取り組み、実りの多い実習にすること。 ・常に自分を振り返りながら、考えて行動すること。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
10 日間の実習	○2 回目の幼稚園教育実習 自分で選んだ希望する幼稚園で実習する。 ○実習前には実習園にオリエンテーションに行く。 ○部分実習・責任実習 主に保育の実際を観察し、具体的な理解を深める。 ・指導教師の意図的な関わりを、詳細に記録する。			○その日の実習記録や、部分実習をするときの指導計画の作成	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	ENV101-Y51	2.科目名	環境と生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、そして、次世代が持続可能な社会を受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかについて考えることを目的とします。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性 （2）社会的貢献性 （3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④「個人の尊厳」を守り、「より良く生きる」ために、様々な問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「1. あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」「2. 飢餓を終わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様さの損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安全・安心－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するように心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なるとしても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					

22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、私たちが「より良く生きる」とともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこと。 ②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。 ③生成 AI 利用：いかなる利用も認めません。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一私たちが「個人の尊厳」を守るとともに、子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐために― ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～39 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.117～145 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.323～341 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.341～358 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.91～96 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.96～113 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.157～177 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.177～192	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）

	・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	★この日までに、第2回レポートをWebclassにて提出。
第10回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.195～203 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き起こしている様々な問題について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第11回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.263～278 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品等の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第3回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclassにて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第13回の講義の日までにWebclassにて提出。
第12回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.281～319 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第13回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.227～262 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第3回レポートをWebclassにて提出。
第14回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第15回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE101-A01	2.科目名	体育指導Ⅰ（1/3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	今中洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件	3 回生・4 回生秋学期開講の「幼児指導法」を履修することで、より深く実技と理論の両方を学ぶことが出来る。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	履修の制限として、実技を含みますので最大 50 名までとします。					
17.授業の目的と概要	幼児期の子どもたちに相応しい運動プログラムやふれあいゲームの内容を講義・実技を通して学びます。また、幼児の特性を理解した指導上の「展開」「配慮」「適切な援助やかかわり」など、指導者として必要な資質を身につけます。その他、幼児の運動プログラムを通して、子どもの発育・発達などに触れ、身体面・精神面での特徴（子ども理解）などの知識を深めます。					
18.学習目標と DPとの関連	※この科目では、講義やグループでの演習（実技）にて共に活動を体験し、考えや意見を出し合いながら、以下の事柄を学びます。 主に【専門的知識・技術活用力】・【コミュニケーションスキル】を身に着けます。 具体的には... ①幼児に相応しい運動プログラムの理論と実践を学ぶ。 ②幼児の発育発達を理解し、それを踏まえた指導法を学ぶ。 ③幼児の特性を理解し、適切な配慮と援助（かかわり方）を学ぶ。					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリント・テキストを配布。（Web クラスにて配信）					
20.参考文献	幼児期運動指針（文部科学省より）					
21.成績評価	①授業の振り返りレポート＝30％ （実技演習の際、授業の振り返りレポートを A4 レポート用紙にまとめ翌週に提出。） ②グループワークシート（2 回）＝20％ （グループワークを行った授業の際、もしくは翌週に提出。） ③総括試験＝50％					
22.コメント	■「実技演習」の際には、必ず大学指定のジャージ上下を着用のこと。毎回、インシューズを持参。 また、アクセサリ類（ピアス・指輪・ネックレス）などは、事前にはずしておくこと。 ■コミュニケーション力・リーダーシップ・メンバーシップを高める為に、授業の中にグループワークを取り入れる。 ■演習（実技）では、自ら学ぶことと楽しむことを忘れず、仲間と共に積極的に参加すること。					
23.オフィスアワー	金曜日 2 限目・3 限目の時間帯に講師控室にて質問などを受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	春学期オリエンテーション＝「講義」 ※年間授業のテーマと概要の説明。 ※春学期授業の具体的な内容とテーマの解説。 ※授業シラバス持参。			○幼児の運動プログラムについて自分なりに調べる（120 分） ○シラバスの内容を事前に確認しておく。		

第 2 回目	ふれあいあそび/ゲーム = 「実技」 ※手具・道具などを使わない様々なふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※子ども同士がふれあう場面を生み出す指導展開。	○ふれあいあそび/ゲームの復習としてポイントやねらい書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○ふれあいあそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 3 回目	マットを使った運動あそび/ゲーム = 「実技」 ※マットの特性を活かした運動あそびの指導法。 ※マットを使った運動種目、あそび/ゲームの紹介。	○マットを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○マットを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 4 回目	イスなどを使った保育室(室内)でも楽しめる運動あそび/ゲーム = 「実技」 ※イスなどを使って子ども同士が主体的に活動できるあそびの指導展開。 ※保育室(室内)でも十分に満足できるあそびの指導展開。	○イスなどを使った運動あそび/ゲームの復習とポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○イスなどを使った運動あそび/ゲームの指導展開補法を実践できるようにイメージを深めておく。(60 分)
第 5 回目	フープを使った運動あそび/ゲーム = 「実技」 ※フープあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※フープの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	○フープを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○フープを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 6 回目	子どもたちを取り巻く環境と発育発達 = 「講義」 ※幼児期の子どもたちの現状と発育発達について理解を深める。 ※幼児期の現状や発育発達を踏まえた、幼児期に相応しい運プログラムを考察。	○幼児期の子どもたちの現状やカラダの仕組みなどを事前に調べておく(120 分) ○幼児期に相応しい運動あそびを復習としてポイントやねらいをまとめておく。(60 分) ※ノート PC を持参。
第 7 回目	技能指導Ⅰ = 「実技」 ※マットの技能指導、段階指導(幼児) ※マットの技能指導、安全な補助法(幼児)	○マットの技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○マットの技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 8 回目	技能指導Ⅱ = 「実技」 ※跳び箱の技能指導、段階指導(幼児) ※跳び箱の技能指導の安全な補助法(幼児)	○跳び箱の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○跳び箱の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 9 回目	技能指導Ⅲ = 「実技」 ※鉄棒の技能指導、段階指導(幼児)	○鉄棒の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料として

	※鉄棒の技能指導の安全な補助法（幼児）	まとめておく。（60 分） ○鉄棒の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める（60 分）
第 10 回目	技能指導Ⅳ＝「講義」 ※マット/跳び箱/鉄棒の技能指導・段階指導・安全な補助法の振り返り＆まとめ ※体操づくりの内容説明・グループ決め。	○すべての技能指導・安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。（60 分） ○グループ内での検討・イメージして体操を創作する。（60 分） 13 回目の授業にて発表。 ※ノート PC 持参。
第 11 回目	ボールを使った運動あそび＝「実技」 ※ボールあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※ボールの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	○ボールを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。（60 分） ○ボールを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。（60 分）
第 12 回目	バルーンあそび～バルーン演技＝「実技」 ※バルーンを使ったふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※バルーンあそび、演技の紹介。	○バルーンを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。（60 分） ○バルーンを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。（60 分）
第 13 回目	体操づくり＝「実技」 ※グループごとで創作した「リズム体操」の発表。 ※「リズム体操」づくりの復習としてポイントねらいを書きだして資料としてまとめておく。	○いろんな体操を実践できるようにイメージを深める（60 分） ○グループ内で検討、イメージして体操を創作する。（60 分）
第 14 回目	幼児のプールあそび＆指導法「講義」 春学期の振り返り＆まとめ ※幼稚園・保育園の園生活におけるプールあそびの指導展開。 ※プールあそびでの安全の配慮と注意点。 ※春学期の実技・講義のまとめ＆振り返り。	資料としてまとめておく。（60 分） ○プール指導展開方法を実践できるようにイメージを深めておく。 ○春学期の実技・講義を振り返り、まとめておく。 ◆ノート PC 持参。
第 15 回目	総括試験（春学期）	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE101-A02	2.科目名	体育指導Ⅰ (2/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野における実務経験のある教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修し、不安感を改善する。 ・ボール運動プログラム ・体づくり運動プログラム（主として縄を使って） ・陸上運動プログラム 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にあることから想定される課題解決に取り組む。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ④知識と経験の総合化 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	使用しない。					
20.参考文献	「小学校学習指導要領 体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる ひろげる ふかめる」（光文書院）					
21.成績評価	①授業の振り返りレポート 30% （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2回） 30% （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験 40% 実技科目なので、①、②は出席が前提です。					
22.コメント	■注意事項 ・授業は挨拶から始めましょう。 ・感染予防の観点から、専用のマスクを準備すること。 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 * 体育館の使用時は、挨拶等のマナーを守り行動すること。					
23.オフィスアワー	火曜日（12：10～13：10）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】(4/12) (SA)	■オリエンテーション ・体育指導Iについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり(自己紹介に変更) ・新聞紙ボールづくり ・新聞紙フリスビーづくり	○ストレッチについて調べておく 50分 ○新聞紙ボールについて調べておく 30分
【第2回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム① ・ボール運動につながる動きの習得と新聞紙ボールによるゲーム	○新聞紙ボールを使った準備運動について調べておく。 50分
【第3回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム② ・ポートボールをしよう	○ボールを持たない動きについて調べておく。 50分
【第4回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム? ・ゴール型ゲーム(バスケットボール)をしよう ・タスクゲームについて学ぼう	○バスケットボールのルールについて調べておく。 40分 ○タスクゲームについて調べておく。 50分
【第5回】対面授業 体育館 (SA)	ボール運動プログラム? ・ゴール型ゲーム(バスケットボール 大会とその運営) - 生涯にわたって楽しむために	○大会運営について企画しておく。 40分。
【第6回】教室(SA)	ボール運動プログラムのまとめ(グループワーク1) まとめ 幼稚園、保育所、小学校でボール運動を進めるには	○PC持参。付箋、マジック等の準備。 ○幼稚園、保育所、小学校でボール遊びを指導する際の留意点について調べておく。 50分
【第7回】対面授業 体育館 (SA)	体づくり運動プログラム① ・バランスボールを使った体づくり運動	○バランスボールの効果的な活用について調べておく。 50分
【第8回】対面授業 体育館(SA)	体づくり運動プログラム② ・縄を使った体づくり運動(主として小学校低学年)	○自らの経験を振り返りつつ、低学年児童の特徴についてまとめておく。 50分 ○ふりかえりを踏まえ、高学年児童が取り組む縄跳びについて調べておく 50分
【第9回】対面授業 体育館 (SA)	体づくり運動プログラム? ・縄を使った体づくり運動(主として小学校高学年)	○学習カードに個人の学習成果を記入し、まとめておく。 40分 ○集団で楽しむ縄跳びについて調べておく。 50分
【第10回】対面授業 体育館 (SA)	体づくり運動プログラム? ・縄を使った体づくり運動(集団型)	○集団で楽しむ縄跳びについてまとめておく。 40分 ○支援・指導の観点から縄跳びについてまと

		めておく。 50 分
【第 11 回】教室(SA)	体づくり運動のまとめ（グループワーク 2） 縄を使った体づくり運動についてまとめる。 活用方法についてまとめ、グループで交流する。	○さまざまなかけっこについて調べておく。 50 分
【第 12 回】対 面授業 体育館 (SA)	陸上運動プログラム ・さまざまなかけっこ（幼保小 低学年向き）	○体験したさまざまなかけっこについてまと めておく。 50 分
【第 13 回】対 面授業 体育館 (SA)	陸上運動プログラム② ・さまざまな障害走	○さまざまな障害走についてまとめておく。 50 分
【第 14 回】体 育館 (SA)	陸上運動プログラム？ ・さまざまなリレー	○さまざまなリレーについてまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅰを受講して、体育に対する考え 方がどのように変化したのかについてまとめ ておく。 50 分
【第 15 回】教室(SA)	体育指導Ⅰのまとめ・レポート課題	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE101-A03	2.科目名	体育指導Ⅰ (3/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	今中洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件	3 回生・4 回生秋学期開講の「幼児指導法」を履修することで、より深く実技と理論の両方を学ぶことが出来る。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限	履修の制限として、実技を含みますので最大 50 名までとします。					
17.授業の目的と概要	幼児期の子どもたちに相応しい運動プログラムやふれあいゲームの内容を講義・実技を通して学びます。また、幼児の特性を理解した指導上の「展開」「配慮」「適切な援助やかかわり」など、指導者として必要な資質を身につけます。その他、幼児の運動プログラムを通して、子どもの発育・発達などに触れ、身体面・精神面での特徴（子ども理解）などの知識を深めます。					
18.学習目標と DP との関連	※この科目では、講義やグループでの演習（実技）にて共に活動を体験し、考えや意見を出し合いながら、以下の事柄を学びます。 主に【専門的知識・技術活用力】・【コミュニケーションスキル】を身に着けます。 具体的には... ①幼児に相応しい運動プログラムの理論と実践を学ぶ。 ②幼児の発育発達を理解し、それを踏まえた指導法を学ぶ。 ③幼児の特性を理解し、適切な配慮と援助（かかわり方）を学ぶ。					
19.教科書・教材	授業内に適宣プリント・テキストを配布。(Web クラスにて配信)					
20.参考文献	幼児期運動指針（文部科学省より）					
21.成績評価	①授業の振り返りレポート＝30％ （実技演習の際、授業の振り返りレポートを A4 レポート用紙にまとめ翌週に提出。） ②グループワークシート（2 回）＝20％ （グループワークを行った授業の際、もしくは翌週に提出。） ③総括試験＝50％					
22.コメント	■「実技演習」の際には、必ず大学指定のジャージ上下を着用のこと。毎回、インシューズを持参。 また、アクセサリ類（ピアス・指輪・ネックレス）などは、事前にはずしておくこと。 ■コミュニケーション力・リーダーシップ・メンバーシップを高める為に、授業の中にグループワークを取り入れる。 ■演習（実技）では、自ら学ぶことと楽しむことを忘れず、仲間と共に積極的に参加すること。					
23.オフィスアワー	金曜日 2 限目・3 限目の時間帯に講師控室にて質問などを受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	春学期オリエンテーション＝「講義」 ※年間授業のテーマと概要の説明。 ※春学期授業の具体的な内容とテーマの解説。 ※授業シラバス持参。			○幼児の運動プログラムについて自分なりに調べる（120 分） ○シラバスの内容を事前に確認しておく。		

第 2 回目	ふれあいあそび/ゲーム = 「実技」 ※手具・道具などを使わない様々なふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※子ども同士がふれあう場面を生み出す指導展開。	○ふれあいあそび/ゲームの復習としてポイントやねらい書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○ふれあいあそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 3 回目	マットを使った運動あそび/ゲーム = 「実技」 ※マットの特性を活かした運動あそびの指導法。 ※マットを使った運動種目、あそび/ゲームの紹介。	○マットを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○マットを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 4 回目	イスなどを使った保育室(室内)でも楽しめる運動あそび/ゲーム = 「実技」 ※イスなどを使って子ども同士が主体的に活動できるあそびの指導展開。 ※保育室(室内)でも十分に満足できるあそびの指導展開。	○イスなどを使った運動あそび/ゲームの復習とポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○イスなどを使った運動あそび/ゲームの指導展開補法を実践できるようにイメージを深めておく。(60 分)
第 5 回目	フープを使った運動あそび/ゲーム = 「実技」 ※フープあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※フープの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	○フープを使った運動あそび/ゲームの復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○フープを使った運動あそび/ゲームの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 6 回目	子どもたちを取り巻く環境と発育発達 = 「講義」 ※幼児期の子どもたちの現状と発育発達について理解を深める。 ※幼児期の現状や発育発達を踏まえた、幼児期に相応しい運プログラムを考察。	○幼児期の子どもたちの現状やカラダの仕組みなどを事前に調べておく(120 分) ○幼児期に相応しい運動あそびを復習としてポイントやねらいをまとめておく。(60 分) ※ノート PC を持参。
第 7 回目	技能指導Ⅰ = 「実技」 ※マットの技能指導、段階指導(幼児) ※マットの技能指導、安全な補助法(幼児)	○マットの技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○マットの技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 8 回目	技能指導Ⅱ = 「実技」 ※跳び箱の技能指導、段階指導(幼児) ※跳び箱の技能指導の安全な補助法(幼児)	○跳び箱の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○跳び箱の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める(60 分)
第 9 回目	技能指導Ⅲ = 「実技」 ※鉄棒の技能指導、段階指導(幼児)	○鉄棒の技能指導、安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料として

	※鉄棒の技能指導の安全な補助法（幼児）	まとめておく。(60 分) ○鉄棒の技能指導、安全な補助法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 10 回目	技能指導Ⅳ＝「講義」 ※マット/跳び箱/鉄棒の技能指導・段階指導・安全な補助法の振り返り＆まとめ ※体操づくりの内容説明・グループ決め。	○すべての技能指導・安全な補助法の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○グループ内での検討・イメージして体操を創作する。(60 分) 13 回目の授業にて発表。 ※ノート PC 持参。
第 11 回目	ボールを使った運動あそび＝「実技」 ※ボールあそびを通したふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※ボールの特性を活かし、操作性を高めるあそびの指導法。	○ボールを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○ボールを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 12 回目	バルーンあそび～バルーン演技＝「実技」 ※バルーンを使ったふれあいあそび/ゲームの指導展開。 ※バルーンあそび、演技の紹介。	○バルーンを使った運動あそび/ゲームの復習復としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○バルーンを使った運動あそび〔/ゲームの指導展開を実践できるようにイメージを深める。(60 分)
第 13 回目	体操づくり＝「実技」 ※グループごとで創作した「リズム体操」の発表。 ※「リズム体操」づくりの復習としてポイントねらいを書きだして資料としてまとめておく。	○いろんな体操を実践できるようにイメージを深める (60 分) ○グループ内で検討、イメージして体操を創作する。(60 分)
第 14 回目	幼児のプールあそび＆指導法「講義」 春学期の振り返り＆まとめ ※幼稚園・保育園の園生活におけるプールあそびの指導展開。 ※プールあそびでの安全の配慮と注意点。 ※春学期の実技・講義のまとめ＆振り返り。	資料としてまとめておく。(60 分) ○プール指導展開方法を実践できるようにイメージを深めておく。 ○春学期の実技・講義を振り返り、まとめておく。 ◆ノート PC 持参。
第 15 回目	総括試験（春学期）	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE103-A01	2.科目名	造形Ⅰ (1/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山口由紀子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種(通信) 小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 幼保連携型こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」につ いて考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深めます。 【概要】 本授業では特に幼児造形について取り扱い、造形表現活動の援助についての基礎的な 理論や方法、所 謂その環境について考察します。個人や仲間と共同で取り組む作品制作を通して、さまざまな 材料や画材、表現 方法に触れ、つくる・かく・みる・感じる等の活動を通して互いの「違い」の面白さに気づ き、色や形を介し てのコミュニケーションの意義を認識します					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の (5) コミュニケーションスキル (6) 専門 的知識・技能の活 用力、の学修に関連しています。 ①5 領域の中の「表現」の位置付けと、その目標と内容について理解することができる。 ②幼児の造形の発達や特性について理解することができる。 ③様々な素材、道具や画材等に触れてその特性を理解し、造形表現の基礎的な知識や技能を身 につけることが できる。 ④個人や仲間と共同で作品制作に取り組み、造形表現活動に関心を持つことができる。					
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論(改訂版)』 2019.ISBN978-4-536-60021-7					
20.参考文献	厚生労働省・文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所 保育指針』 チャ イルド社 厚生労働省『保育所指針解説』 フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル社 文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』 日本文教出版					
21.成績評価	評価の方法は、下記の 3 項目を基に総合的に判断します。 課題 1：制作活動・その過程と作品 40% [学習目標③④に対応] 課題 2：各課題のワークシート作成・授業ファイル 40% [学習目標①②③④に対応] 課題 3：課題レポート 20% [学習目標①②に対応] ※全てについて提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準 とします。					
22.コメント	結果よりもそれまでの過程を大切に、丁寧に経験しながらそれぞれが関わっているそのまわり に存在するモノ との面白いコトを、みんなで一緒に発見して感じていきたいと思います。					

		生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。
23.オフィスアワー		授業の前後に教室で質問を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション (本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認、 受講における留意点について) ・活動 1 ミニディスカッション「表現すること」 領域「表現」の目標と内容について	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認) ノートパソコンを持参すること (各回必要) 各授業内課題が未完了の場合は 次回までに達成させておくこと
第 2 回	・活動 2 「こどもの表現との対話」 こどもの表現の姿-描画の発達	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 3 回	・活動 3 「イロと対話する」様々な画材を知る	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 4 回	・活動 4 「センやメンやイロと対話する」技法あそび の展開 1 手足の感覚を通して関わる技法あそび	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 5 回	・活動 5 「センやメンやイロやオトと対話する」技法 あそびの展開 2	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 6 回	・活動 6 「文化との対話」児童文化財-絵本の活用 技 法遊びの展開 3	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 7 回	・活動 7 「空間と対話する」 空間を諸感覚で楽しむ活動 情報機器の活用-教材研究のあり方	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 8 回	・活動 8 グループワーク「まわりとの対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 9 回	・活動 9 「素材を感じてみよう」	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 10 回	・活動 10 「素材との対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)

第 11 回	・活動 11 「カミを感じてみよう」 うつつして表現する版画活動	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 12 回	・活動 12 「カミとの対話」 空間を使った身体表現活動 「モノで遊ぶ」の発想を大切に教材研究	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 13 回	・活動 13 「自然を感じてみよう」 自然の色や形に触れる活動 生活と造形-染色活動	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 14 回	・活動 14 「自然との対話」 生活と造形-鑑賞	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認)
第 15 回	・活動 15 こどもの造形表現活動の支援について 学びや鑑賞、活動のまとめ	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ

1.授業コード (ナンバリング)	EPE103-A02	2.科目名	造形Ⅰ (3/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山口由紀子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種(通信) 小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 幼保連携型こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」につ いて考察し、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深めます。 【概要】 本授業では特に幼児造形について取り扱い、造形表現活動の援助についての基礎的な 理論や方法、所 謂その環境について考察します。個人や仲間と共同で取り組む作品制作を通して、さまざまな 材料や画材、表現 方法に触れ、つくる・かく・みる・感じる等の活動を通して互いの「違い」の面白さに気づ き、色や形を介し てのコミュニケーションの意義を認識します					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の (5) コミュニケーションスキル (6) 専門 的知識・技能の活 用力、の学修に関連しています。 ①5 領域の中の「表現」の位置付けと、その目標と内容について理解することができる。 ②幼児の造形の発達や特性について理解することができる。 ③様々な素材、道具や画材等に触れてその特性を理解し、造形表現の基礎的な知識や技能を身 につけることが できる。 ④個人や仲間と共同で作品制作に取り組み、造形表現活動に関心を持つことができる。					
19.教科書・教材	大橋功『美術教育概論(改訂版)』 2019.ISBN978-4-536-60021-7					
20.参考文献	厚生労働省・文部科学省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所 保育指針』 チャ イルド社 厚生労働省『保育所指針解説』 フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 フレーベル社 文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』 日本文教出版					
21.成績評価	評価の方法は、下記の 3 項目を基に総合的に判断します。 課題 1：制作活動・その過程と作品 40% [学習目標③④に対応] 課題 2：各課題のワークシート作成・授業ファイル 40% [学習目標①②③④に対応] 課題 3：課題レポート 20% [学習目標①②に対応] ※全てについて提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準 とします。					
22.コメント	結果よりもそれまでの過程を大切に、丁寧に経験しながらそれぞれが関わっているそのまわり に存在するモノ との面白いコトを、みんなで一緒に発見して感じていきたいと思います。					

	生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション (本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認、 受講における留意点について) ・活動 1 ミニディスカッション「表現すること」 領域「表現」の目標と内容について	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 予習；次回の予習 (Web Class の確認) ノートパソコンを持参すること (各回必要) 各授業内課題が未完了の場合は 次回までに達成させておくこと
第 2 回	・活動 2 「こどもの表現との対話」 こどもの表現の姿-描画の発達	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 3 回	・活動 3 「イロと対話する」様々な画材を知る	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 4 回	・活動 4 「センやメンやイロと対話する」技法あそび の展開 1 手足の感覚を通して関わる技法あそび	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 5 回	・活動 5 「センやメンやイロやオトと対話する」技法 あそびの展開 2	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 6 回	・活動 6 「文化との対話」児童文化財-絵本の活用 技 法遊びの展開 3	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 7 回	・活動 7 「空間と対話する」 空間を諸感覚で楽しむ活動 情報機器の活用-教材研究のあり方	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 8 回	・活動 8 グループワーク「まわりとの対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 9 回	・活動 9 「素材を感じてみよう」	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 10 回	・活動 10 「素材との対話」	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 11 回	・活動 11 「カミを感じてみよう」 うつして表現する版画活動	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 12 回	・活動 12 「カミとの対話」 空間を使った身体表現活動 「モノで遊ぶ」の発想を大切に教材研究	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 13 回	・活動 13 「自然を感じてみよう」 自然の色や形に触れる活動 生活と造形-染色活動	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ

第 14 回	・活動 14 「自然との対話」 生活と造形-鑑賞	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ
第 15 回	・活動 15 こどもの造形表現活動の支援について 学びや鑑賞、活動のまとめ	復習；今回の復習及び活動の記録・ワークシートの整理 課題提出 まとめ

1.授業コード (ナンバリング)	EPE103-A03	2.科目名	造形Ⅰ (2/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	辻田美和					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(講義・実技を含む)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針及び幼稚園教育要領における領域「表現」の造形表現について学び、作品制作活動などの実技を通して、幼児の未分化な表現とその指導についての理解を深めます。 【概要】 幼保連携型認定こども園教育・保育指導についての理解を深めます。本授業では特に、幼児の造形について取り扱い、造形表現活動の支援についての基礎的な理論と方法、技術を学びます。個人や仲間と共同で取り組む作品制作活動を通して、様々な材料や、画材、表現方法に触れ、実践に活かすことので					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学修目標は次の通りです。 ①5 領域の中の「表現」について、その目標と内容について理解することができる。 ②幼児の造形の発達や特性について理解することができる。 ③様々な材料、画材、表現方法に触れ、その特性を理解し、造形表現の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 ④個人や仲間と共同で、作品制作に取り組み、造形表現活動に関心を持つことができる。 [関連するディプロマ・ポリシー] (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	『美術教育概論（改訂版）』大橋功 監修・編著，日本文教出版，2018 年，ISBN9784536601030					
20.参考文献	厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領保育所保育指針』チャイルド社 厚生労働省『保育所指針解説』フレーベル社 厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル社					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。全ての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)テーマごとのワークシート作成とポートフォリオとしての授業ファイル（学習目標①②③④に対応）40% (2)制作活動への取り組みと作品（学習目標③④に対応）40% (3)課題レポート（学習目標①②に対応）20%					

22.コメント	みなさんの中には、造形表現は、「苦手」という不安があるかもしれませんが、「上手に描く、上手に作る」ことではなく、「表現する」ということを、仲間とともに楽しんで体験してください。積極的な取り組みを歓迎します。 「SDGs（持続可能な開発目標）12.持続可能な消費と生産の形態を確保する」への取り組みとして、リサイクル画材の利用にも取り組みます。 授業内に作品が仕上がらなかった場合は、教室外学習として、次の回までに取り組んでおいてください。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室にて	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
[第1回]	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） 講義「表現するって、何をすること？」 ミニディスカッション「表現とは」 領域『表現』の目標と内容について	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第2回]	講義 画材を知ろう ～えんぴつ・パス・絵具～	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第3回]	活動 パスを使って表現してみよう 児童文化財・絵本の活用	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第4回]	講義 色彩について・色を混ぜるとどうなるのか？	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第5回]	活動 色を混ぜて表現してみよう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第6回]	活動 絵具で遊ぼう、表現しよう 児童文化財・絵本の活用	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第7回]	活動 紙を切る・折る・はる・織る	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第8回]	講義 うつして表現しよう①版画について	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習

[第 9 回]	活動 うつして表現することを楽しもう②凸凹をうつそう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 10 回]	活動 うつして表現することを楽しもう③絵具でうつそう リサイクル材料を活かしてみよう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 持参するもの：リサイクル材料 ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 11 回]	講義・活動 子どもの造形表現活動を観察して、保育を構想しよう 課題レポートについて	復習：今回の復習及びワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング 予習：次回の予習
[第 12 回]	活動 粘土の感触を楽しもう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、完成させておこう 予習：次回の予習 ・レポート課題の提出（期日までに Web Class から提出
[第 13 回]	活動 グループワーク 作品を展示しよう・作品の鑑賞を楽しもう	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 14 回]	活動 手のひらで感じて作ろう ころころフェルトボール	復習：今回の復習と活動記録、ワークシートの整理、授業ファイルへのファイリング ・作品が未完成の場合は、次回授業までに完成させておこう 予習：次回の予習
[第 15 回]	活動 子どもの造形表現活動支援について、学びと活動の振り返り	ポートフォリオとしての授業ファイルの持参及び提出

1.授業コード (ナンバリング)	EPE107-A01	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽 (1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、青山洋子、井手智佳子、森玉美穂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の2つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番 ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト: 原					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた 100					
20.参考文献	こどものうた 200					
21.成績評価	コース A: 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12% ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番 12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 3%×7=21% 表現のための学修意欲 11% コース B: 確認テスト: ちょうちょう 5% チューリップ 5%					

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/04/14	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/04/21	確認テスト課題を学修する 4/28 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/04/28	【オンデマンド学修 1】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/12	確認テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する 5/19 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/05/19	【オンデマンド学修 2】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/26	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/06/02	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/06/09	【オンデマンド学修 3】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワ	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

	ークシートに記述し提出する	「弾き歌い曲」30分
2025/06/16	中間テスト&個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/23	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/30	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/07	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/14	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/21	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/28	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE107-A02	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽 (2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、青山洋子、井手智佳子、森玉美穂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番 ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト: 原					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた 1 0 0					
20.参考文献	こどものうた 200					
21.成績評価	コース A: 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12% ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番 12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 3%×7=21% 表現のための学修意欲 11% コース B: 確認テスト: ちょうちょう 5% チューリップ 5%					

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/04/14	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/04/21	確認テスト課題を学修する 4/28 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/04/28	【オンデマンド学修 1】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/12	確認テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する 5/19 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/05/19	【オンデマンド学修 2】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/26	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/06/02	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/06/09	【オンデマンド学修 3】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワ	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

	ークシートに記述し提出する	「弾き歌い曲」30分
2025/06/16	中間テスト&個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/23	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/30	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/07	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/14	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/21	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/28	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE107-A03	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽 (3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の2つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番 ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト: 原					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた 100					
20.参考文献	こどものうた 200					
21.成績評価	コース A: 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12% ドレミ読みテスト 8% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番 12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 3%×7=21% 表現のための学修意欲 11% コース B: 確認テスト: ちょうちょう 5% チューリップ 5%					

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/04/14	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/04/21	確認テスト課題を学修する 4/28 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/04/28	【オンデマンド学修 1】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/12	確認テスト 課題の確認 5/19 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/05/19	【オンデマンド学修 2】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/26	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/06/02	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/06/09	【オンデマンド学修 3】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2025/06/16	中間テスト&個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/23	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/30	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/07	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/14	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/21	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/28	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE107-A04	2.科目名	音楽Ⅰ・器楽 (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、井手智佳子、田中慈子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番 ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト: 原					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、 楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、 内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた 1 0 0					
20.参考文献	こどものうた 200					
21.成績評価	コース A: 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 12％ ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12％ 中間テスト: バイエル 70 番 12％ ドレミ読みテスト 8％ 期末テスト:原則としてバイエル 83 番 12％ 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12％ web class 学修 3％×7＝21％ 表現のための学修意欲 11％ コース B: 確認テスト: ちょうちょう 5％ チューリップ 5％					

	中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2025/04/14	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2025/04/21	確認テスト課題を学修する 4/28 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/04/28	【オンデマンド学修 1】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/12	確認テスト 教員からのフィードバックをもとに今後の課題を理解する 5/19 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/05/19	【オンデマンド学修 2】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/05/26	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2025/06/02	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2025/06/09	【オンデマンド学修 3】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワ	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分

	ークシートに記述し提出する	「弾き歌い曲」30分
2025/06/16	中間テスト&個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/23	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/06/30	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/07	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/14	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/21	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2025/07/28	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード (ナンバリング)	FLC101-A01	2.科目名	中国語Ⅰ（2024 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子、横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。）	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業 1 コマ、オンデマンド授業 1 コマのブレンド授業です。 オンデマンドで学習した内容を対面授業で復習、練習します。 また、自習用に e-learning アプリを利用した学習などを行うこともあります。		
16.履修制限	とくになし。ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません					
17.授業の目的と概要	【目的】 中国語の発音、イントネーション、文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで使える簡単な表現ができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、日本に来た中国語圏の方とコミュニケーションが取れるように「使える」表現を少しずつ学びます。 また、できる限りネイティブスピーカー（留学生など）と交流する機会を設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音をだいたい結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や質問ができる。 3）オンライン辞書を用いて単語の意味や発音を調べることができる。 4）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教材は Webclass を使って配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業の中で指示をします。					
21.成績評価	①オンデマンド授業の課題（12 回）30％：学習目標（1）、（3）、（4）に対応 ②対面授業での発音・暗唱小テスト（12 回）30％：：学習目標（1）、（2）に対応 ③中間試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 ④総括試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 このほか、下記の課題を行った場合は、加点します。 ⑤Quizlet での課題 10％（学習目標（1）に対応） ⑥中国人学修支援チューターとの練習 10％（学習目標（2）に対応） 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とし					
22.コメント	初回授業でオンデマンド授業のやり方を説明します。初回は必ず出席してください。出席できなかった場合は、必ず資料をみて方法を確認してください。正しく課題ができていない場合は欠席となり、通常授業と同様に、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は資格喪失となります					

す。 中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本やほかのアジアの国にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時に役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。 ?本授業では、生成 AI 利用に関しては条件付きで認めることとします。 ※使用して良い条件については、授業中に指示をします。その範囲を超えての利用は認めません。 ?成績評価に関わる課題・テストでは生成 AI の利用は認めません。 ※課題やテストは、みなさん自身の能力の到達度や理解度を測るものです。生成 AI の利用は禁止します。		
23.オフィスアワー 火曜日 5 時間目（研究室） 水曜日 昼休み（学習支援室）		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	【講義と演習】 ・オリエンテーション ・中国語とは ・第 1 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習①	発音や練習問題の復習をする。
第 3 回 第 4 回	【講義と演習】 第 1 課 発音や声調の復習 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第 5 回 第 6 回	【講義と演習】 第 1 課 単母音、複母音、鼻音のある母音の復習 第 2 課 子音 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第 7 回 第 8 回	【講義と演習】 第 2 課 子音の復習 復習小テスト 第 3 課 軽声、声調変化、ピンインのまとめ	発音や練習問題の復習をする。
第 9 回 第 10 回	【講義と演習】 第 3 課 軽声、声調変化、ピンインのまとめ 復習 復習小テスト 第 4 課 「こんにちは」（自己紹介）	発音や練習問題の復習をする。
第 11 回 第 12 回	第 4 課 こんにちは（自己紹介）復習 第 5 課 「疲れていますか」 Quizlet の使い方の説明 中間試験（ローマ字ピンイン）	各自で発音練習や文法の復習をする。

第 1 3 回 第 1 4 回	第 5 課 「疲れていますか？」復習 復習小テスト 第 6 課 「これは私の名刺です」	・各自で発音練習や復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 5 回 第 1 6 回	第 6 課 「これは私の名刺です。」復習 復習小テスト 第 7 課 「これはなんですか」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 7 回 第 1 8 回	第 7 課 「これはなんですか」復習 復習小テスト 第 8 課 「いくら両替しますか」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 9 回 第 2 0 回	第 8 課 「いくら両替しますか」 復習小テスト 第 9 課 「二個買いましょう」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 1 回 第 2 2 回	第 9 課 「2 個買いましょう」復習 復習小テスト	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 3 回 第 2 4 回	第 9 課 「2 個買いましょう」復習 復習小テスト 第 10 課 「旅館を予約」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 5 回 第 2 6 回	第 1 0 課 「旅館を予約」 復習 復習小テスト 第 1 1 課 「道を尋ねる」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 7 回 第 2 8 回	第 1 1 課 「道を尋ねる」復習 復習小テスト 第 1 2 課 「薬を買いに行く」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 9 回 第 3 0 回	第 1 2 課 「薬を買いに行く」復習 総括試験（～第 1 3 課まで）	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC101-M01	2.科目名	中国語Ⅰ（2024 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子、横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。）	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業 1 コマ、オンデマンド授業 1 コマのブレンド授業です。 オンデマンドで学習した内容を対面授業で復習、練習します。 また、自習用に e-learning アプリを利用した学習などを行うこともあります。		
16.履修制限	とくになし。ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません					
17.授業の目的と概要	【目的】 中国語の発音、イントネーション、文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで使える簡単な表現ができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、日本に来た中国語圏の方とコミュニケーションが取れるように「使える」表現を少しずつ学びます。 また、できる限りネイティブスピーカー（留学生など）と交流する機会を設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音をだいたい結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や質問ができる。 3）オンライン辞書を用いて単語の意味や発音を調べることができる。 4）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教材は Webclass を使って配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業の中で指示をします。					
21.成績評価	①オンデマンド授業の課題（12 回）30％：学習目標（1）、（3）、（4）に対応 ②対面授業での発音・暗唱小テスト（12 回）30％：：学習目標（1）、（2）に対応 ③中間試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 ④総括試験（対面で実施）20％：学習目標（1）、（2）に対応 このほか、下記の課題を行った場合は、加点します。 ⑤Quizlet での課題 10％（学習目標（1）に対応） ⑥中国人学修支援チューターとの練習 10％（学習目標（2）に対応） 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とし					
22.コメント	初回授業でオンデマンド授業のやり方を説明します。初回は必ず出席してください。出席できなかった場合は、必ず資料をみて方法を確認してください。正しく課題ができていない場合は欠席となり、通常授業と同様に、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は資格喪失となります					

		す。 中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本やほかのアジアの国にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時に役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。 ?本授業では、生成 AI 利用に関しては条件付きで認めることとします。 ※使用して良い条件については、授業中に指示をしますので、その範囲を超えての利用は認めません。 ?成績評価に関わる課題・テストでは生成 AI の利用は認めません。 ※課題やテストは、みなさん自身の能力の到達度や理解度を測るものですので、生成 AI の利用は禁止します。
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：火曜日 5 限 センタープログラム：水曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	【講義と演習】 ・オリエンテーション ・中国語とは ・第 1 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習①	発音や練習問題の復習をする。
第 3 回 第 4 回	【講義と演習】 第 1 課 発音や声調の復習 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第 5 回 第 6 回	【講義と演習】 第 1 課 単母音、複母音、鼻音のある母音の復習 第 2 課 子音 復習小テスト	発音や練習問題の復習をする。
第 7 回 第 8 回	【講義と演習】 第 2 課 子音の復習 復習小テスト 第 3 課 軽声、声調変化、ピンインのまとめ	発音や練習問題の復習をする。
第 9 回 第 10 回	【講義と演習】 第 3 課 軽声、声調変化、ピンインのまとめ 復習 復習小テスト 第 4 課 「こんにちは」（自己紹介）	発音や練習問題の復習をする。
第 11 回 第 12 回	第 4 課 こんにちは（自己紹介）復習 第 5 課 「疲れていますか」 Quizlet の使い方の説明	各自で発音練習や文法の復習をする。

	中間試験（ローマ字ピンイン）	
第 1 3 回 第 1 4 回	第 5 課 「疲れていますか？」復習 復習小テスト 第 6 課 「これは私の名刺です」	・各自で発音練習や復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 5 回 第 1 6 回	第 6 課 「これは私の名刺です。」復習 復習小テスト 第 7 課 「これはなんですか」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 7 回 第 1 8 回	第 7 課 「これはなんですか」復習 復習小テスト 第 8 課 「いくら両替しますか」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 9 回 第 2 0 回	第 8 課 「いくら両替しますか」 復習小テスト 第 9 課 「二個買いましょう」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 1 回 第 2 2 回	第 9 課 「2 個買いましょう」復習 復習小テスト	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 3 回 第 2 4 回	第 9 課 「2 個買いましょう」復習 復習小テスト 第 10 課 「旅館を予約」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 5 回 第 2 6 回	第 1 0 課 「旅館を予約」 復習 復習小テスト 第 1 1 課 「道を尋ねる」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 7 回 第 2 8 回	第 1 1 課 「道を尋ねる」復習 復習小テスト 第 1 2 課 「薬を買いに行く」	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 2 9 回 第 3 0 回	第 1 2 課 「薬を買いに行く」復習 総括試験（～第 1 3 課まで）	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC101-Y01	2.科目名	中国語Ⅰ（2024 年度生以前）・グローバル学部		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野、横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語Ⅱが未履修でも履修できます。） ただし、中国語を母語とする中国の留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクやディスカッションなども行います。 なお、この授業は、1，2 時限の 2 コマからなりますが、そのうちの 1 コマ（1 時限目）はオンデマンド授業をし、もう 1 コマ（2 時限目）は対面授業となります。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースであり、発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得(日本語との比較の中で)を重視します。と同時に、実用性も重視して、旅行や留学などの実際場面で使える実用的な中国語表現の習得をはかります。授業内容でも書いていますが、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。（秋学期の中国語Ⅱを先に受講した人も受講できます。中国語Ⅱとは、また内容が違います。）					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●基本的な中国語力を身に着けることができる ●中国社会や文化に対する理解が深まる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業の時に教材を配布します。					
20.参考文献	NHK ラジオ中国語 Duolingo 中国語学習アプリ					
21.成績評価	① 2，3 週間ごとに行うウェブクラスの小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%、②最終試験 30%、③タスクシート＋Duolingo での課題 20%、④中国語スピーチ 10%					
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話しま					

す。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 この授業では、映画などの映像資料を時々用いながら、できるだけ楽しめる形で実用的な中国語を確実に身につけていくことをめざしています。空港や観光地や買い物の時の会話など、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。中国語を初めて学ぶ初心者のための授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。中国語を一から学べる授業ですし、秋学期の「中国語Ⅱ」を履修しなくても大丈夫ですし、中国語が全く初心者の方でも履修できる授業です。 授業では、就職活動の時に役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、こうした語学試験に挑戦する方を全力でサポートします。		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	発音や声調の練習、挨拶と自己紹介に関する表現の練習(日本語との比較)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 2 回	数字とお金に関する表現の練習、一年と天気に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 3 回	買い物や食事の時に使う表現（値段を尋ねたり、値段交渉したり、料理を注文する時に使う表現）の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 4 回	時間・月日に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 5 回	学校訪問・会社訪問などで使う表現の練習、ホテルなどで使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 6 回	中国の友達と交流を深めるための表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 7 回	恋愛・結婚などに関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 8 回	健康・エステ関連の表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 9 回	観光などで使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 10 回	中国映画の鑑賞	
第 11 回	旧正月を過ごす時などに使う表現の練習、中国伝統文化に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 12 回	別れを告げる時などに使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 13 回	乗り物（タクシーやバスなど）に乗る時に使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 14 回	授業のまとめと復習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 15 回	期末テスト	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC103-A01	2.科目名	中国語（2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子、横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。）	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド授業ですが、初回のオリエンテーション、中間試験と総括試験は対面で実施します。 また、自習用に e-learning アプリを利用した学習などを行うこともあります。		
16.履修制限	とくになし。ただし、中国語（華語、普通話）を母語とする留学生は履修が出来ません					
17.授業の目的と概要	【目的】 中国語の発音、イントネーション、文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで使える簡単な表現ができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、日本に来た中国語圏の方とコミュニケーションが取れるように「使える」表現を少しずつ学びます。 また、できる限りネイティブスピーカー（留学生など）と交流する機会を設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音をだいたい結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や質問ができる。 3）オンライン辞書を用いて単語の意味や発音を調べることができる。 4）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教材は Webclass を使って配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業の中で指示をします。					
21.成績評価	①オンデマンド授業の課題（12 回）30％：学習目標（1）、（3），（4）に対応 ②中間試験（対面で実施）25％：学習目標（1）、（2）に対応 ③総括試験（対面で実施）25％：学習目標（1）、（2）に対応 ④Quizlet での課題 10％（学習目標（1）に対応） ⑤中国人学修支援チューターとの練習 10％（学習目標（2）に対応） 全部の成績の合計が6 0 点以上の場合、合格とします。					
22.コメント	初回授業でオンデマンド授業のやり方を説明します。初回は必ず出席してください。出席できなかった場合は、必ず資料をみて方法を確認してください。正しく課題ができていない場合は欠席となり、通常授業と同様に、授業回数の3 分の1 以上欠席した場合は資格喪失となります。 中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいで					

			す。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本やほかのアジアの国にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。
23.オフィスアワー			火曜日 5 時間目（研究室） 水曜日 昼休み（学習支援室）
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	【講義（対面）】 ・ オリエンテーション ・ 中国語とは	第 1 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習① を視聴	
第 2 回	【オンデマンド講義】 第 2 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習②	発音や練習問題の復習をする。	
第 3 回	【オンデマンド講義】 第 3 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習③	発音や練習問題の復習をする。	
第 4 回	【オンデマンド講義】 第 4 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習④	発音や練習問題の復習をする。	
第 5 回	【オンデマンド講義】 第 5 課 自己紹介	発音や練習問題の復習をする。	
第 6 回	【オンデマンド講義】 第 6 課 自己紹介（名前の言い方） オンライン辞書の使い方の説明 【対面】 中間試験	各自で発音練習や文法の復習をする。	
第 7 回	【オンデマンド講義】 第 6 課 自己紹介②（国籍、身分、職業の言い方） ・ Quizlet の使い方の説明	・ 各自で発音練習や復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。	
第 8 回	【オンデマンド講義】 第 7 課 食べたいものや、飲みたいものをいう言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。	
第 9 回	【オンデマンド講義】 第 8 課 好きなものを言う言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。	

第 1 0 回	【オンデマンド講義】 第 9 課 場所を表す表現	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 1 回	【オンデマンド講義】 第 1 0 課 数の言い方	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 2 回	【オンデマンド講義】 第 1 1 課 依頼の表現	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 3 回	【オンデマンド講義】 第 1 2 課 年月日、曜日、年齢の言い方	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 4 回	【オンデマンド講義】 第 1 3 課 時間の言い方	・各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 5 回	【オンデマンド講義】 第 1 4 課 時間の長さを表す言い方 総括試験（～第 1 3 課まで）	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC103-M01	2.科目名	中国語（2025 年度生）		3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子、横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。） ただし、中国語（華語、北京語）を母語とする留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド授業ですが、初回のオリエンテーション、中間試験と総括試験は対面で実施します。 また、自習用に e-learning アプリを利用した学習などを行うこともあります。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 中国語の発音、イントネーション、文法などの基礎事項の習得を目的とします。と同時に、旅行や留学などで使える簡単な表現ができるようになることも目的とします。 【概要】 本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースです。まず発音をしっかりと身に着けた後、日本に来た中国語圏の方とコミュニケーションが取れるように「使える」表現を少しずつ学びます。 また、できる限りネイティブスピーカー（留学生など）と交流する機会を設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音をだいたい結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や質問ができる。 3）オンライン辞書を用いて単語の意味や発音を調べることができる。 4）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	教材は Webclass を使って配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業の中で指示をします。					
21.成績評価	①オンデマンド授業の課題（12 回）30％：学習目標（1）、（3），（4）に対応 ②中間試験（対面で実施）25％：学習目標（1）、（2）に対応 ③総括試験（対面で実施）25％：学習目標（1）、（2）に対応 ④Quizlet での課題 10％（学習目標（1）に対応） ⑤中国人学修支援チューターとの練習 10％（学習目標（2）に対応） 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とします。					
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人					

		には勉強しやすい理由のひとつです。 話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本やほかのアジアの国にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。 授業では、就職活動の時に役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、ぜひこうした資格試験にもチャレンジしてください。
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：火曜日 5 限 センタープログラム：水曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【講義（対面）】 ・オリエンテーション ・中国語とは	第 1 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習① を視聴
第 2 回	【オンデマンド講義】 第 2 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習②	発音や練習問題の復習をする。
第 3 回	【オンデマンド講義】 第 3 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習③	発音や練習問題の復習をする。
第 4 回	【オンデマンド講義】 第 4 課 発音や声調、コミュニケーション表現の練習④	発音や練習問題の復習をする。
第 5 回	【オンデマンド講義】 第 5 課 自己紹介	発音や練習問題の復習をする。
第 6 回	【オンデマンド講義】 第 6 課 自己紹介（名前の言い方） オンライン辞書の使い方の説明 【対面】 中間試験	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 7 回	【オンデマンド講義】 第 6 課 自己紹介②（国籍、身分、職業の言い方） ・ Quizlet の使い方の説明	・ 各自で発音練習や復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 8 回	【オンデマンド講義】 第 7 課 食べたいものや、飲みたいものをいう言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 9 回	【オンデマンド講義】 第 8 課 好きなものを言う言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 10 回	【オンデマンド講義】	各自で発音練習や練習の復習をする。

	第 9 課 場所を表す表現	・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 1 回	【オンデマンド講義】 第 1 0 課 数の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 2 回	【オンデマンド講義】 第 1 1 課 依頼の表現	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 3 回	【オンデマンド講義】 第 1 2 課 年月日、曜日、年齢の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 4 回	【オンデマンド講義】 第 1 3 課 時間の言い方	・ 各自で発音練習や練習の復習をする。 ・ Quizlet を使って単語を復習する。
第 1 5 回	【オンデマンド講義】 第 1 4 課 時間の長さを表す言い方 総括試験（～第 1 3 課まで）	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC103-Y01	2.科目名	中国語 (2025 年度生)		3.単位数	1
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語Ⅱが未履修でも履修できます。） ただし、中国語を母語とする中国の留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクやディスカッションなども行います。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースであり、発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得(日本語との比較の中で)を重視します。と同時に、実用性も重視して、旅行や留学などの実際場面で使える実用的な中国語表現の習得をはかります。授業内容でも書いていますが、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。(秋学期の中国語Ⅱを先に受講した人も受講できます。中国語Ⅱとは、また内容が違います。)					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●基本的な中国語力を身に着けることができる ●中国社会や文化に対する理解が深まる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業の時に教材を配布します。					
20.参考文献	NHK ラジオ中国語 Duolingo 中国語学習アプリ					
21.成績評価	① 2, 3 週間ごとに行うウェブクラスの小テスト（計 4 回：1 回 10 点）40%、②最終試験 30%、③タスクシート + Duolingo での課題 20%、④中国語スピーチ 10%					
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけを見ると、中国語を話す人の人口は世界で最も多いです。また、日本にとって中国は、経済・文化・政治面でもいろいろと関わりが深い隣国です。そういう国の言葉である中国語を習得することは、非常に重要です。特に、真の国際人になることをめざしている人にとって、中国語の習得は今後ますます重要になってくると思います。					

		この授業では、映画などの映像資料を時々用いながら、できるだけ楽しめる形で実用的な中国語を確実に身につけていくことをめざしています。空港や観光地や買い物の時の会話など、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。中国語を初めて学ぶ初心者のための授業ですので、履修しようか迷っている方も気軽に見学に来てください。中国語を一から学べる授業ですし、秋学期の「中国語Ⅱ」を履修しなくても大丈夫ですし、中国語が全く初心者の方でも履修できる授業です。 授業では、就職活動の時にも役に立つ、中国語検定試験（英語検定試験に該当）や HSK 試験（TOEIC 試験に該当）の資格取得のための情報提供もします。英語関連の語学の資格だけでなく、社会的ニーズの高い中国語関連の語学の資格も持っている、就職活動の時に良いアピールができるので、こうした語学試験に挑戦する方を全力でサポートします。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	発音や声調の練習、挨拶と自己紹介に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 2 回	数字とお金に関する表現の練習、一年と天気に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 3 回	買い物や食事の時に使う表現（値段を尋ねたり、値段交渉したり、料理を注文する時に使う表現）の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 4 回	時間・月日に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 5 回	学校訪問・会社訪問などで使う表現の練習、ホテルなどで使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 6 回	中国の友達と交流を深めるための表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 7 回	恋愛・結婚などに関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 8 回	健康・エステ関連の表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 9 回	観光などで使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 10 回	中国映画の鑑賞	
第 11 回	旧正月を過ごす時などに使う表現の練習、中国伝統文化に関する表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 12 回	別れを告げる時などに使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 13 回	乗り物（タクシーやバスなど）に乗る時に使う表現の練習(日本語との比較の中で)	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 14 回	授業のまとめと復習	各自で発音練習や文法の復習をする。
第 15 回	期末テスト	各自で発音練習や文法の復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC202-Y01	2.科目名	中国語基礎 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件	HSK3 級～		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中国経験のある人、留学した人、第二外国語として学んできた人、中国語履修者（HSK 3～4 級レベルの中国語科目）が対象です。履修する前にメールでご相談ください。					
17.授業の目的と概要	本講義は「聴く・話す・書く・訳す・調べる」能力の向上に重点を置きながら、中国ビジネスでは常識といえるフレーズ、日中間ビジネスの最前線で活躍する上で必要不可欠とされる「言葉・表現」を、シチュエーション別に受講者とともに確認し、シミュレーションなどを通してその応用力の養成を目指します。また、メールなどを含む中国語ビジネス文章の「構成・表現」を、実例を取り上げながら紹介し、その基本的な書き方の習得を目標とします。日中ビジネス慣習の差異を、社会的、文化的、心理的な側面から解説し、中国人ビジネスマンとの円滑なコミュ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の2、主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。K2、グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ。 K4、異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 1. 社内で使われる①上司とのやりとり、②同僚とのやりとり、などのビジネス中国語を身に付けます。 2. 取引先に対する①電話応対、②ビジネスメール、③面談、などのビジネスシーンの基本を身につけます。					
19.教科書・教材	『ストーリーで学ぶビジネス中国語』 山田留里子ほか 駿河台出版社					
20.参考文献	特になし					
21.成績評価	授業ノートの提出 30 点（学習目標 1、2 に対応） 授業課題の完成度 30 点（学習目標 1、2 に対応） 総括レポート 40 点（学習目標 1、2 に対応）					
22.コメント	第一線で活躍するビジネスマンの姿を常に想像しながら授業に臨んでほしいと思います。授業は進行状況に応じて順序を前後したり、内容を変更する場合があります。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日 3 限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	あいさつ			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 2 回】	電話連絡			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 3 回】	ランチタイム			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 4 回】	アポイントメント			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 5 回】	電子メール			中国語で電子メールを作成する		
【第 6 回】	出張			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 7 回】	空港			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 8 回】	宴会			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 9 回】	工場見学			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 10 回】	ビジネスレター			中国語でビジネスレターを作成する		

【第 11 回】	交渉	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 12 回】	クレーム	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 13 回】	総合練習①	レポート課題について調べる
【第 14 回】	総合練習②	レポート課題を作成する
【第 15 回】	総合練習③	レポート課題を作成する

1.授業コード (ナンバリング)	FLE101-A01	2.科目名	基礎英語（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、佐橋謙一					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成AI利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半			Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半					
第4週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	① Activity : Unit 02 "What do you do?" 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar : 012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 中間テスト Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar : 015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity : Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar : 024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity : Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar : 030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : 033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity : BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE101-M01	2.科目名	基礎英語（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半			Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半					
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞①			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）		

	Activity : Unit 02 "What do you do?" 後半	
第 5 週	Grammar : 009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar : 012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity : Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar : 024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity : Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar : 030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : 033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity : BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE101-Y01	2.科目名	基礎英語（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半			Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞① Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半					
第4週	Grammar：009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）		

	Activity : Unit 02 "What do you do?" 後半	
第 5 週	Grammar : 012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar : 015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 8 週	Grammar : 018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 9 週	Grammar : 021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity : Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar : 027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity : Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar : 033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	
第 15 週	Grammar : これまでの復習 Activity : BONUS 4-6	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A01	2.科目名	総合英語Ⅰ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子、和泉有香					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成AI利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	Grammar 担当：月曜1限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第4週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第5週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第6週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M01	2.科目名	総合英語Ⅰ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 ＊他のしい授業ですから良かったら受講してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第4週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第5週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					

第 6 週	Grammar : 051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y01	2.科目名	総合英語Ⅰ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリカン社）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第4週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第5週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第6週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語彙）		

第 7 週	Grammar：中間テスト Activity：中間テスト	
第 8 週	Grammar：054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 9 週	Grammar：057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity：Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar：060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity：Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar：063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity：Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar：066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity：Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar：069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity：Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar：期末テスト Activity：期末テスト	
第 15 週	Grammar：072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity：BONUS 10-12	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y02	2.科目名	総合英語Ⅰ 【観光2年】		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 また、1 学年で学んだ英語基礎の内容に加え、複文、重文などのより複雑な文章を運用できることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	英語のハノン（中級） 筑摩書房					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 教科書の次の部分については、ポイントの簡単な説明のみとし、授業ではほとんど扱いません。 U12(後半), Unit 13(後半)					
23.オフィスアワー	決まった時間は設定しませんが、質問や相談があれば、研究室（3310）に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	第1回：オリエンテーション Unit 1 接続詞(1) 第2回：Unit 1 接続詞(1)					
第2週	第3回：Unit 1 接続詞(1) 第4回：Unit 2 接続詞(2)					
第3週	第5回：Unit 3 接続詞(3) 第6回：Unit 3 接続詞(3)					
第4週	第7回：Unit 4 接続詞(4) 第8回：Unit 5 接続詞(5)					
第5週	第9回：Unit 6 接続詞(6) 第10回：Unit 6 接続詞(6)					
第6週	第11回：Unit 7 同格節					

	第 12 回 : Unit 8 過去完了形・未来完了形	
第 7 週	第 13 回 : Unit 8 過去完了形・未来完了形 第 14 回 : Unit 9 間接話法	
第 8 週	第 15 回 : Unit 9 間接話法 第 16 回 : 中間テスト	
第 9 週	第 17 回 : Unit 10 疑問詞節 第 18 回 : Unit 11 比較(1)原級	
第 10 週	第 19 回 : Unit 11 比較(1)原級 第 20 回 : Unit 11 比較(1)原級	
第 11 週	第 21 回 : Unit 12 比較(2) 比較級 第 22 回 : Unit 12 比較(2) 比較級	
第 12 週	第 23 回 : Unit 12 比較(2) 比較級 (P164-180 の部分 は授業では扱いません) 第 24 回 : Unit 13 比較(3) 最上級	
第 13 週	第 25 回 : Unit 13 比較(3) 最上級 第 26 回 : Unit 13 比較(3) 最上級 (P195-203 の部分 は、授業では扱いません)	
第 14 週	第 27 回 : Unit 14 倒置 第 28 回 : Unit 14 倒置	
第 15 週	第 29 回 : 進度調整 第 30 回 : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ（再）※再履修の 学生のみが履修		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition]（桐原書店）					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点：50 点 授業への貢献度：20 点 期末テスト：30 点					
22.コメント	* 前年度使用した教科書と同じものなので、毎回持参してください。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 * 楽しい授業ですから良かったら受講してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					
第 5 回	Unit 05					
第 6 回	Unit 06					
第 7 回	Unit 07					

第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-M01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ (再)		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R300 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点：50 点 授業への貢献度：20 点 期末テスト：30 点					
22.コメント	* 前年度使用した教科書と同じものなので、毎回持参してください。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 * 楽しい授業ですから良かったら受講してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					
第 5 回	Unit 05					
第 6 回	Unit 06					
第 7 回	Unit 07					

第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ (再)		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					
第 5 回	Unit 05					
第 6 回	Unit 06					
第 7 回	Unit 07					
第 8 回	Unit 08					

第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	期末テスト	
第 15 回	Unit 14	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE104-A71	2.科目名	インテンシブ イングリッシュ I （2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、400 点を目標に 学習したい」 「TOEIC の受験予定があり、準備学習をし たい」		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 400 点以上を取得できるような基礎 的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけま す。学習した英文法を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体 化も目指します。					
18.学習目標と DP との関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	T O E I C L & R テスト戦略的トレーニング：レベル 4 0 0 改訂版 （朝日出版社） ISBN (9784255157313)					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	授業参加度 30 点…学習目標②に対応 小テスト 30 点…学習目標①に対応 最終試験 40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる					
22.コメント	・ 授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト			必ず教科書を持参すること。プレテストの結 果を分析し、自分の弱点を客観的に把握す る。		
第 2 回	Unit R-1：品詞（名詞・形容詞） Unit R-2：品詞（動詞・副詞）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 3 回	Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 4 回	Unit R-3：代名詞・動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-4：動詞のかたち 2（時制、その他）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 5 回	Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：機能別疑問文			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 6 回	Unit R-5：前置詞／接続詞 Unit R-6：長文穴埋め問題			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		

第 7 回	Unit L-5：選択疑問文、Yes/No 疑問文 Unit L-6：応答問題の総合演習	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 8 回	読解問題の学習 Unit R-7：広告 Unit R-8：チャット、E メール 1 Unit R-9：E メール 2	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：全体問題と詳細問題 Unit L-8：職業、提案、次の行動を問う問題 Unit L-9：トピック、目的、依頼を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-10：手紙 Unit R-11：告知、社内回覧	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、広告 Unit L-11：アナウンス、トーク、ニュース	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-12：ダブルパッセージ リスニングの学習 Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード (ナンバリング)	FLE104-M71	2.科目名	インテンシブ・イングリッシュⅠ（2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上仲淳					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じる。 目的：TOEIC テストの得点向上を目指す。					
18.学習目標と DP との関連	TOEIC L&R400 点以上を取得する。 DP ④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連する。					
19.教科書・教材	『KEY STRATEGIES FOR SUCCESS ON THE TOEIC L&R TEST Level 400』朝日出版社					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 30 点 小テスト 20 点 最終テスト 50 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後に教師に直接コンタクトしてください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1 Unit R-1					
第 2 回	Unit L-2 Unit R-2					
第 3 回	Unit L-3 Unit R-3					
第 4 回	Unit L-4 Unit R-4					
第 5 回	Unit L-5 Unit R-5					
第 6 回	Unit L-6 Unit R-6					
第 7 回	Unit L-7 Unit R-7					
第 8 回	Unit L-8 Unit R-8					
第 9 回	Unit L-9 Unit R-9					
第 10 回	Unit L-10 Unit R-10					
第 11 回	Unit L-11 Unit R-11					
第 12 回	Unit L-12 Unit R-12					

第 13 回	Unit L-13 Unit R-13	
第 14 回	Unit L-14 Unit R-14	
第 15 回	模擬テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE104-Y71	2.科目名	インテンシブ イングリッシュ I （2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、400 点を目標に 学習したい」 「TOEIC の受験予定があり、準備学習をし たい」		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 400 点以上を取得できるような基礎 的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけま す。学習した英文法を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体 化も目指します。					
18.学習目標と DP との関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	T O E I C L & R テスト戦略的トレーニング：レベル 4 0 0 改訂版 （朝日出版社） ISBN (9784255157313)					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	授業参加度 30 点…学習目標②に対応 小テスト 30 点…学習目標①に対応 最終試験 40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる					
22.コメント	・ 授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト			必ず教科書を持参すること。プレテストの結 果を分析し、自分の弱点を客観的に把握す る。		
第 2 回	Unit R-1：品詞（名詞・形容詞） Unit R-2：品詞（動詞・副詞）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 3 回	Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 4 回	Unit R-3：代名詞・動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-4：動詞のかたち 2（時制、その他）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 5 回	Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：機能別疑問文			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 6 回	Unit R-5：前置詞／接続詞 Unit R-6：長文穴埋め問題			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		

第 7 回	Unit L-5：選択疑問文、Yes/No 疑問文 Unit L-6：応答問題の総合演習	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 8 回	読解問題の学習 Unit R-7：広告 Unit R-8：チャット、E メール 1 Unit R-9：E メール 2	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：全体問題と詳細問題 Unit L-8：職業、提案、次の行動を問う問題 Unit L-9：トピック、目的、依頼を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-10：手紙 Unit R-11：告知、社内回覧	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、広告 Unit L-11：アナウンス、トーク、ニュース	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-12：ダブルパッセージ リスニングの学習 Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード (ナンバリング)	FLE108-Y03	2.科目名	英語基礎 1 【観光】(再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半			Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半					
第 4 週	Grammar：006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞①			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）		

	Activity : Unit 02 "What do you do?" 後半	
第 5 週	Grammar : 009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar : 012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity : Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar : 024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity : Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar : 030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : 033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity : BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE110-Y02	2.科目名	オーラル・コミュニケーション1 【観光】 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修・選択の区 分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1st year students	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture, presentation and 演習		
16.履修制限	First year students should take the placement test.					
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to communicate their thoughts, present ideas and share information through in-class activities and presentation.					
18.学習目標と DPとの関連	1. Enable students to express their goals in class through effective oral communication. 2. Enable students to understand English topics and statements. 3. Enable students to create a comprehensive presentation about a topic that will be given to each of them.					
19.教科書・教材	Textbook title: Smart Choice 1 (Student Book) Publisher: Oxford University Press Author: Ken Wilson ISBN: 978-0-19-406099-8					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group Task 20% 3. Homework 10% 4. Midterm Task 20% 5. Final Task 30%					
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.					
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Course Introduction Unit 1: Nice to meet you! Grammar: Statements and questions Class room task					
	Unit 2: What do you do? Grammar: The simple present Class room task					

	Unit 3: Do you like noodles? Grammar: The simple present: Questions with 'do' Class room task	
	Unit 4: How often do you exercise? Grammar: Frequency adverbs Class room task	
	Unit 5: I'm listening to music Grammar: The present continuous Class room task	
	Unit 6: Where were you yesterday? Grammar: The past tense of 'be' Class room task	
	Midterm Task Midterm Test	
	Unit 7: Which one is cheaper? Grammar: Comparative Adjectives Class room task	
	Unit 8: They're very friendly Grammar: be like/ look like Class room task	
	Unit 9: You can visit the zoo Grammar: can and can't Class room task	
	Unit 10: Is there a coffee shop? Grammar: There is and There are Class room task	
	Unit 11: I had a good time Grammar: The simple past Class room task	
	Unit 12: I'm going to go by car. Grammar: be going to+ verb Class room task	
	Final Task: Presentation	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE118-Y71	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅢ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade、未定					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year -	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture, discussion and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	The purpose of this course is to enable students to have a grasp of the fundamentals of all the skill ar eas: grammar, reading, writing, speaking and listening. In this way, students will become indispensabl e for communication in English.					
18.学習目標と D P との関連	The learning objectives (skills to acquire) of this subject are as follows. ① Students will be able to learn essential expressions in hospitality situations through actual conversa tions. ② Students will be able to improve their vocabulary in hospitality industry and management. able to develop skills in hospitality such as; teamwork, flexibility, time management, communication, in terpersonal skills, and problem-solving.					
19.教科書・教材	Title: Hospitality on the Scene Publisher: Kinseido Publishing Co., Ltd. Authors: Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiko Kozue and Jacob Sch ere ISBN: 978-4-7647-4067-9					
20.参考文献						
21.成績評価	1. Classroom Activities 40% (Discussions, presentations and skits) 2. Quizzes and Drills 30% 3. Final Tasks 30%					
22.コメント	Attendance and active participation of students in classroom activities are highly encouraged.					
23.オフィスアワー	Monday-Friday Kobe Yamate Campus Bldg. 3 Global Gakushu Plaza Rm 016					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Course Introduction Unit 1: Transportation In-class activity					
	Unit 2: At a Check-in Counter (hotel) In-class activity					
	Unit 3: Facilities and Services					

	In-class activity	
	Unit 4: Giving Directions In-class activity	
	Unit 5: Recommending a Trip In-class activity	
	Unit 6: Dining in Japan In-class activity	
	Unit 7: Dining in Japan 2 In-class activity	
	Unit 8: Arranging a Tour In-class activity	
	Unit 9: Staying at a Ryokan In-class activity	
	Unit 10: Culture Experience in Japan In-class activity	
	Unit 11: Culture Experience in Japan 2 In-class activity	
	Unit 12: Japanese Souvenirs In-class activity	
	Unit 13: Dealing with Health Problems and Emergencies In-class activity	
	Unit 14: Dealing with Complaints and Accidents In-class activity	
	Unit 15: Upon Departure In-class activity Final Task	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-A01	2.科目名	英語総合 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	高校教諭 1・2 種(英語) 中学教諭 1・2 種(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	pair work, presentation, group work		
16.履修制限	クラス指定あり					
17.授業の目的と概要	[目的] 英語プレゼンテーションの基礎として、英語で原稿を書き、パワーポイントファイルを作成し、短いプレゼンテーションができる能力を習得します。					
	[概要] 5つのテーマ毎に発表内容を考えて、文法的に正しい英文を作成すること、映像資料(ppt ファイル)を作成し、 プレゼンテーションの補助として活用すること、および英語の発音・音声表現・アイコンタクトなどが学習できます。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標：プレゼン原稿の基礎的な構成を理解し作成できる。 プレゼンで使用する基本表現を使えるようになる。 効果的なパワーポイントファイルを作成できる。 プレゼンの手法や表現を学び、人前で発表できる。 DP(4) 問題発見・解決力、コミュニケーション・スキル					
19.教科書・教材	教科書は使用せず、Web Class で教材や資料・Worksheet を配付します。					
20.参考文献	文法チェックを行うために Grammarly（無料アプリ）を PC にインストールしてください。					
21.成績評価	Homework：4 回×3 点+3 回×4 点 = 24 学習目標 1・2・3 に対応 Presentation：7 点+3 回×9 点+12 点=46 学習目標 4 に対応 Report：5 回×6 点=30 学習目標 1・2・3 に対応 * 最終回を含む 4 回以上のプレゼンを行い、4 回以上レポートを提出し、合計が 60 点以上で合格です。 * 宿題は、レポートとプレゼンの準備段階で作成するので、宿題の提出が少ないとレポートの評価は低くなります。 * 総括試験はありません。					
22.コメント	1) 授業は水曜の 3・4 限連続のため、授業中に原稿・ppt 作成や発表の練習時間を確保します。 2) 必ず、PC と英語の辞書を授業に持参し使用してください（スマホ辞書は不可）。PC がないと、授業に参加できません。 3) 宿題とレポートの提出と返却は、Web Class を通じて行います。提出期限に遅れた場合は、受け取りません。 4) 担当者への連絡は、WebClass のメッセージを使用すること。それ以外のメールは受け取りません。 5) 交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。 その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。					

		本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 6) 授業中のスマホ使用は禁止します。 7) 生成 AI の使用を禁止します。一部でも使用した提出物は、0 点の評価にします。
23.オフィスアワー		なし
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1. 2.	1. Introduction (シラバス説明、Web Class の説明、使用アプリ・提出用フォーマットの説明)、教材 1 説明とグループワーク、プレゼンについての説明 2. Self-introduction 1(英文作成), ppt 作成法の説明	1. 毎回、PC と英語辞書を持参すること 2. HWK 1(英語で下書き) 毎回 PC を持参する。
3. 4.	3. Self-introduction 2 (英文完成・ppt 作成・プレゼン評価基準説明) 4. Self-introduction 3 (相互評価: pair work, 英文・ppt 完成), Practice	4. 発表練習
5. 6.	5. Presentation 1 (相互評価: group work)、Report 評価基準説明 6. Hometown 1 (教材 2)	6. Report 1 作成
7. 8.	7. Report 1 (相互評価: pair work), Hometown 2 (英文作成) 8. Hometown 3 (相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成)、評価基準説明	8. HWK 2 (英語で下書き)
9. 10.	9. Practice Presentation 2 (英文・ppt 完成)、最終確認 10. Presentation 2 (相互評価: group work)、Report 評価基準説明	9. 発表練習 10. Report 2 作成
11. 12.	11. Report 2 (相互評価: pair work), Sightseeing Spots 1 (教材 3) 12. Sightseeing Spots 2 (英文作成)	12. HWK 3 (英文追加・修正)
13. 14.	13. Sightseeing Spots 3 (相互評価: pair work, 英文修正, ppt 作成) 14. Sightseeing Spots 4 (英文・ppt 完成・practice)、評価基準説明	14. 発表練習
15. 16.	15. Practice Presentation 3、最終確認 16. Presentation 3 (相互評価: group work)、Report 評価基準説明	16. Report 3 作成
17. 18.	17. Report 3 (相互評価), Free Time 1 (教材 4) 18. Free Time 2 (英文作成)	18. HWK 4 (英文追加・修正)
19. 20.	19. Free Time 3 (相互評価: pair work, 英文修正・ppt 作成) 20. Free Time 4 (英文・ppt 完成)、評価基準説明	20. HWK 5 (英文追加・修正)
21. 22.	21. Practice Presentation 4、最終確認 22. Presentation 4 (相互評価: group work)、Report 評価基準説明	22. Report 4 作成
23. 24.	23. Report 4 (相互評価), In my Opinion 1 (教材 5) 24. In my Opinion 2 (下書き作成)	24. HWK 6 (英語で下書き)
25. 26.	25. In my Opinion 3 (相互評価: pair work, 下書き修正) 26. In my Opinion 4 (下書き修正・ppt 作成・Excel 説	26. HWK 7 (英文加筆・修正)

	明)	
27. 28.	27. In my Opinion 5 (相互評価: pair work, 下書き・ppt 完成) 28. Practice Presentation 5、評価基準説明、最終確認	28. 発表練習・ppt 確認
29. 30.	29. Presentation 5 (相互評価: group work) 30. Report 5 評価基準説明、ふり返し	30. Report 5 作成 提出期限に注意

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-Y01	2.科目名	英語総合 1 【観光】 a		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この授業では、英語によく使われるチャンク（単語のかたまり）表現をスラスラ言えるようになることを目指し、チャンク表現を繰り返し口頭トレーニングしていきます。またそのトレーニングをするにあたり、必要最低限の文法事項についても随所に解説をしますので、1年生の時に学んだ文法項目を思い出しながらパターン・プラクティスすることで、よりそのチャンク表現の定着と応用を図ります。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	英語のハノン フレーズ編 筑摩書房					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 中間テスト、期末テスト、TOEIC IP TEST の日程は、A クラスと B クラスのテスト日をそろえるために、シラバスどおりに実施しない可能性があります。テスト日を変更する場合は、余裕をもって前もって連絡をします。 第 29 回目の授業時に行う TOEIC IP Test は、成績評価には反映させませんが、入学後必修科目として学んできた英語基礎、総合英語等の総まとめとして、2 学年春学期末の自身の英語力を測る重要なテストと位置付けます。					
23.オフィスアワー	原則として毎週火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	第 1 回：オリエンテーション Unit 1 Is this seat taken? 第 2 回：Unit 1 Is this seat taken?					
第 2 週	第 3 回：Unit 2 Would you like to join us? 第 4 回：Unit 3 I appreciate your advice					
第 3 週	第 5 回：Unit 3 終了までの進度調整 第 6 回：Unit 4 What kind of movies do you watch?					
第 4 週	第 7 回：Unit 5 You could visit Furano in Hokkaido 第 8 回：Unit 6 I applied for the internship program					

	for this spring	
第 5 週	第 9 回 : Unit 7 Are you familiar with audio equipment? 第 10 回 : Unit 7 終了までの進捗調整	
第 6 週	第 11 回 : Unit 8 What if you happen to see Steven Lucas? 第 12 回 : Unit 9 I might have a fever	
第 7 週	第 13 回 : Unit 10 You're meant to be here 第 14 回 : Unit 10 終了までの進捗調整	
第 8 週	第 15 回 : 中間テスト 第 16 回 : Unit 11 How about if we have a big lunch today?	
第 9 週	第 17 回 : Unit 12 If you ask me, Megaflux is the best 第 18 回 : Unit 13 Company employees usually retire at the age of 65	
第 10 週	第 19 回 : Unit 13 終了までの進捗調整 第 20 回 : Unit 14 I'm having trouble downloading the audio file	
第 11 週	第 21 回 : Unit 15 I was wondering if you could help me 第 22 回 : Unit 16 How many more tickets can you buy?	
第 12 週	第 23 回 : Unit 17 You remind me of my first year here 第 24 回 : Unit 17 終了までの進捗調整	
第 13 週	第 25 回 : Unit 18 How can we make a fantasy movie with as little as 500 dollars? 第 26 回 : Unit 19 I didn't think my dad joke would crack them up	
第 14 週	第 27 回 : Unit 20 Working with you means a lot to me 第 28 回 : Unit 20 終了までの進捗調整	
第 15 週	第 29 回 : TOEIC IP Test (授業時に行う) 第 30 回 : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-Y02	2.科目名	英語総合1 【観光】b		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この授業では、英語によく使われるチャンク（単語のかたまり）表現をスラスラ言えるようになることを目指し、チャンク表現を繰り返し口頭トレーニングしていきます。またそのトレーニングをするにあたり、必要最低限の文法事項についても随所に解説をしますので、1年生の時に学んだ文法項目を思い出しながらパターン・プラクティスすることで、よりそのチャンク表現の定着と応用を図ります。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	英語のハノン フレーズ編 筑摩書房					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 中間テスト、期末テスト、TOEIC IP TEST の日程は、A クラスと B クラスのテスト日をそろえるために、シラバスどおりに実施しない可能性があります。テスト日を変更する場合は、余裕をもって前もって連絡をします。 第 29 回目の授業時に行う TOEIC IP Test は、成績評価には反映させませんが、入学後必修科目として学んできた英語基礎、総合英語等の総まとめとして、2 学年春学期末の自身の英語力を測る重要なテストと位置付けます。					
23.オフィスアワー	原則として毎週火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	第 1 回：オリエンテーション Unit 1 Is this seat taken? 第 2 回：Unit 1 Is this seat taken?					
第 2 週	第 3 回：Unit 2 Would you like to join us? 第 4 回：Unit 3 I appreciate your advice					
第 3 週	第 5 回：Unit 3 終了までの進度調整 第 6 回：Unit 4 What kind of movies do you watch?					
第 4 週	第 7 回：Unit 5 You could visit Furano in Hokkaido 第 8 回：Unit 6 I applied for the internship program					

	for this spring	
第 5 週	第 9 回 : Unit 7 Are you familiar with audio equipment? 第 10 回 : Unit 7 終了までの進捗調整	
第 6 週	第 11 回 : Unit 8 What if you happen to see Steven Lucas? 第 12 回 : Unit 9 I might have a fever	
第 7 週	第 13 回 : Unit 10 You're meant to be here 第 14 回 : Unit 10 終了までの進捗調整	
第 8 週	第 15 回 : 中間テスト 第 16 回 : Unit 11 How about if we have a big lunch today?	
第 9 週	第 17 回 : Unit 12 If you ask me, Megaflux is the best 第 18 回 : Unit 13 Company employees usually retire at the age of 65	
第 10 週	第 19 回 : Unit 13 終了までの進捗調整 第 20 回 : Unit 14 I'm having trouble downloading the audio file	
第 11 週	第 21 回 : Unit 15 I was wondering if you could help me 第 22 回 : Unit 16 How many more tickets can you buy?	
第 12 週	第 23 回 : Unit 17 You remind me of my first year here 第 24 回 : Unit 17 終了までの進捗調整	
第 13 週	第 25 回 : Unit 18 How can we make a fantasy movie with as little as 500 dollars? 第 26 回 : Unit 19 I didn't think my dad joke would crack them up	
第 14 週	第 27 回 : Unit 20 Working with you means a lot to me 第 28 回 : Unit 20 終了までの進捗調整	
第 15 週	第 29 回 : TOEIC IP Test (授業時に行う) 第 30 回 : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-Y04	2.科目名	英語総合1 【G コミ】 L3 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(1) Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. (2) Can deal with most situations likely to arise while travelling in an area where the language is spoken (3) Can produce					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標はD P（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 1) Listening for comprehension 2) Conversation strategies (reactions, follow-up questions, discussion questions, etc.) 3) Reading for comprehension 4) Writing to express thoughts, ideas, and opinions					
19.教科書・教材	グローバルリーダーに学ぶビジネス戦略 Global Business Case Studies 中谷 安男 / Ryan Smithers 共著					
20.参考文献						
21.成績評価	・ Quiz & Mid-term test 40% ・ Final Test 20% ・ class activity and task 40%					
22.コメント	テキストは毎回必ず持参すること。					
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Chapter 1 Marketing Mix in Emerging Countries (Business Case Shiseido Thailand / (株)資生堂)			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Chapter 2 Confectionery Marketing in Overseas Business (Business Case Morinaga America, Inc. /森永製菓(株))			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Chapter 3 Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value (Business Case MUJI: Ryohin			Check vocabulary Listening Task Review questions		

	Keikaku / (株)良品計画)	
	Chapter 4 Globalization or Localization (Business Case Kao USA Inc. /花王(株))	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 5 Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger (Business Case Coca-Cola in Loas / コカ・コーラ・カンパニー)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 6 Countering Innovators' Dilemma (Business Case Toshiba Vietnam / (株)東芝)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 7 Enhancing Internal Communication of a Global Company (Business Case Honda Motor / 本田技研工業(株))	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 8 Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry (Business Case Hatchando Vietnam / (株)八ちゃん堂)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 9 Most Luxurious and Practical Accommodations (Business Case Imperial Hotel / (株)帝国ホテル)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 10 Creating a Japanese Luxury Brand (Business Case Toyota Lexus / トヨタ自動車 レクサスブラ ンドマネジメント部)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 11 The Species That Survives is the One That is the Most Adaptable to Change (Business Case Tashiro Alloy Inc. / (株)田代合金所)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 12 BOP Business Enhancing Sustainable Development Goals (Business Case Yamaha Motor's business in Indonesia and Africa /ヤマハ発動機(株))	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 13 Connecting People with What's	Check vocabulary

	Happening (Business Case Twitter Japan / Twitter Japan (株))	Listening Task Review questions
	Chapter 14 Uniting the World for a Better Tomorrow (Business Case IC Net Limited / アイ・シー・ネット(株) Review Final Test	Check vocabulary Listening Task Review questions

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-Y06	2.科目名	英語総合1 【G コミ】 L3 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(1) Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. (2) Can deal with most situations likely to arise while travelling in an area where the language is spoken (3) Can produce					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標はD P（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 1) Listening for comprehension 2) Conversation strategies (reactions, follow-up questions, discussion questions, etc.) 3) Reading for comprehension 4) Writing to express thoughts, ideas, and opinions					
19.教科書・教材	グローバルリーダーに学ぶビジネス戦略 Global Business Case Studies 中谷 安男 / Ryan Smithers 共著					
20.参考文献						
21.成績評価	・ Quiz & Mid-term test 40% ・ Final Test 20% ・ class activity and task 40%					
22.コメント	テキストは毎回必ず持参すること。					
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Chapter 1 Marketing Mix in Emerging Countries (Business Case Shiseido Thailand / (株)資生堂)			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Chapter 2 Confectionery Marketing in Overseas Business (Business Case Morinaga America, Inc. /森永製菓(株))			Check vocabulary Listening Task Review questions		
	Chapter 3 Exploring Global Business and			Check vocabulary		

	Enhancing People's Sustainable Value (Business Case MUJI: Ryohin Keikaku / (株)良品計画)	Listening Task Review questions
	Chapter 4 Globalization or Localization (Business Case Kao USA Inc. /花王(株))	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 5 Using a New Guerrilla Marketing Strategy as a Challenger (Business Case Coca-Cola in Laos / コカ・コーラ・カンパニー)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 6 Countering Innovators' Dilemma (Business Case Toshiba Vietnam / (株)東芝)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 7 Enhancing Internal Communication of a Global Company (Business Case Honda Motor / 本田技研工業(株))	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 8 Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry (Business Case Hatchando Vietnam / (株)八ちゃん堂)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 9 Most Luxurious and Practical Accommodations (Business Case Imperial Hotel / (株)帝国ホテル)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 10 Creating a Japanese Luxury Brand (Business Case Toyota Lexus / トヨタ自動車 レクサスブランドマネジメント部)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 11 The Species That Survives is the One That is the Most Adaptable to Change (Business Case Tashiro Alloy Inc. / (株)田代合金所)	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 12 BOP Business Enhancing Sustainable Development Goals (Business Case Yamaha Motor's business in Indonesia and Africa /ヤマハ発動機(株))	Check vocabulary Listening Task Review questions

	Chapter 13 Connecting People with What's Happening (Business Case Twitter Japan / Twitter Japan (株))	Check vocabulary Listening Task Review questions
	Chapter 14 Uniting the World for a Better Tomorrow (Business Case IC Net Limited / アイ・シー・ネット(株)) Review Final Test	Check vocabulary Listening Task Review questions

1.授業コード (ナンバリング)	FLE120-Y01	2.科目名	英語総合2 【G コミ】 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard Leckie					
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 Students will develop their academic English skills in the four areas of speaking, listening, reading and writing. A special emphasis will be placed on discussion strategies enabling students to express their thoughts and opinions on a wide variety o					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 1. Students will improve their English speaking, listening, reading and writing skills. 2. Students will become more comfortable with academic English content, including academic lectures and discussions. 3. Students will acquire discussion strategies enabling them to converse on a wide variety of topics, including business-related ones. 【関連する DP】 (1)自律性 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	Contemporary Topics 3 Fourth Edition (David Beglar & Neil Murray) Pearson, ISBN: 978-0134400792					
20.参考文献	None					
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Classroom Participation 30% (学習目標 1, 3 に対応) (2) Textbo					
22.コメント	Students should bring their textbook and have access to a dictionary every class.					
23.オフィスアワー	Speak to the instructor before or after class, or contact by email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Meeting 1: Introductions and course explanation Meeting 2: Text Unit 1 (introduction to the topic)			Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)		
Week 2	Meeting 1: Text Unit 1 (listening & discussion) Meeting 2: Text Unit 1 (presentations & discussion)			Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)		
Week 3	Meeting 1: Text Unit 3 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Unit 3 (listening & discussion)			Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)		
Week 4	Meeting 1: Text Unit 3 (presentations & discussion) Meeting 2: Text Unit 4 (introduction to the topic)			Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)		
Week 5	Meeting 1: Text Unit 4 (listening & discussion) Meeting 2: Text Unit 4 (presentations & discussion)			Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)		
Week 6	Meeting 1: Text Unit 5 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Unit 5 (listening & discussion)			Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)		

Week 7	Meeting 1: Text Unit 5 (presentations & discussion) Meeting 2: Text Unit 6 (introduction to the topic)	Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)
Week 8	Meeting 1: Text Unit 6 (listening & discussion) Meeting 2: Text Unit 6 (presentations & discussion)	Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)
Week 9	Meeting 1: Text Unit 7 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Unit 7 (listening & discussion)	Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)
Week 10	Meeting 1: Text Unit 7 (presentations & discussion) Meeting 2: Text Unit 9 (introduction to the topic)	Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)
Week 11	Meeting 1: Text Unit 9 (listening & discussion) Meeting 2: Text Unit 9 (presentations & discussion)	Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)
Week 12	Meeting 1: Text Unit 10 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Unit 10 (listening & discussion)	Textbook tasks and assignment preparation (4hrs/week)
Week 13	Meeting 1: Text Unit 10 (presentations & discussion) Meeting 2: Final Presentations	Preparing presentations and writing reports (4hrs/week)
Week 14	Meeting 1: Final Presentations, submit final reports Meeting 2: Text Unit 12 (introduction to the topic)	Preparing presentations and writing reports (4hrs/week)
Week 15	Meeting 1: Text Unit 12 (listening & discussion) Meeting 2: Text Unit 12 (presentations & discussion), final feedback	Textbook tasks and review (4hrs/week)

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-Y01	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション1 【観光】 a		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	.必修・選択の区 分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture, presentation and 演習		
16.履修制限	This course is offered to 2nd year Tourism department students who pass the section A placement test at the beginning of the semester.					
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester the students will be able to: 1. To efficiently and effectively use the four major skills of the English Language: Speaking, Listening, Reading and Writing. 2. To develop communication skills in a wide range situations. To confidently express their thoughts and feelings on topics such as life, education, success, motivation, etc.					
19.教科書・教材	Title: Stretch 2 Publisher: Oxford University Press Author: Susan Stempleski ISBN: 978-0-19-460313-3					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group Task (cooperation and attitude) 20% 3. Homework: 10% 3. Midterm Task: 20% 4. Final Task: 30%					
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.					
23.オフィスアワー	Monday-Friday Global Gakushu Plaza, Room 016 Kobe Yamate Building 3					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Course Introduction and orientation					

	Unit 1: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 2: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 3: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 4: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 5: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 6: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Midterm Test	
	Unit 7: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 8: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 9: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 10: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 11: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Unit 12: Lesson Introduction and Discussion In-class Activity	
	Final Task: Presentation	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-Y02	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション1 【観光】 b		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修・選択の区 分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture, presentation and 演習		
16.履修制限	Kindly bring your own laptop in class for presentation tasks and discussions.					
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester the students will be able to: 1. To efficiently and effectively use the four major skills of the English Language: Speaking, Listening, Reading and Writing. 2. To develop communication skills in a wide range situations. 3. To confidently express their thoughts and feelings on topics such as life, education, success, motivation, etc.					
19.教科書・教材	Title: Stretch 2 Publisher: Oxford University Press Author: Susan Stempleski ISBN: 978-0-19-460313-3					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group Task (cooperation and attitude) 20% 3. Homework: 10% 3. Midterm Task: 20% 4. Final Task: 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Course Introduction and Orientation Unit 1: Lesson Introduction and Discussion In-class activity					
	Unit 2: Lesson Introduction and Discussion In-class activity					

	Unit 3: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 4: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 5: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 6: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Midterm Test	
	Unit 7: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 8: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 9: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 10: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 11: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Unit 12: Lesson Introduction and Discussion In-class activity	
	Final Task: Presentation	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-Y05	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション1 L3 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard Leckie					
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 Students will develop their English communication ability, particularly their speaking and listening skills, through presentation practice and extensive listening. They will learn to communicate and present on a variety of topics, including business-					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. Students will improve their English communication skills, particularly speaking and listening. 2. Students will get used to listening to longer English passages, including specialized presentations and lectures. 3. Students will become able to present in English on a wide variety of topics, including business-related ones. 【関連する DP】 (1)自律性 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	Lecture Ready 2 Second Edition (Peg Sarosy & Kathy Sherak) Oxford University Press, ISBN: 978-0194417280					
20.参考文献	None					
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Classroom Participation 30% (学習目標 1 に対応) (2) Textbook					
22.コメント	Students should bring their textbook and have access to a dictionary every class.					
23.オフィスアワー	Speak to the instructor before or after class, or contact by email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Meeting 1: Introductions and course explanation Meeting 2: Text Chapter 1 (introduction to the topic)			Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)		
Week 2	Meeting 1: Text Chapter 1 (listening) Meeting 2: Text Chapter 1 (presentations)			Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)		
Week 3	Meeting 1: Text Chapter 2 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Chapter 2 (listening)			Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)		
Week 4	Meeting 1: Text Chapter 2 (presentations) Meeting 2: Text Chapter 3 (introduction to the topic)			Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)		
Week 5	Meeting 1: Text Chapter 3 (listening) Meeting 2: Text Chapter 3 (presentations)			Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)		
Week 6	Meeting 1: Text Chapter 4 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Chapter 4 (listening)			Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)		

Week 7	Meeting 1: Text Chapter 4 (presentations) Meeting 2: Text Chapter 5 (introduction to the topic)	Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)
Week 8	Meeting 1: Text Chapter 5 (listening) Meeting 2: Text Chapter 5 (presentations)	Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)
Week 9	Meeting 1: Text Chapter 7 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Chapter 7 (listening)	Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)
Week 10	Meeting 1: Text Chapter 7 (presentations) Meeting 2: Text Chapter 8 (introduction to the topic)	Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)
Week 11	Meeting 1: Text Chapter 8 (listening) Meeting 2: Text Chapter 8 (presentations)	Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)
Week 12	Meeting 1: Text Chapter 9 (introduction to the topic) Meeting 2: Text Chapter 9 (listening)	Assigned textbook tasks and presentation preparation (4hrs/week)
Week 13	Meeting 1: Text Chapter 9 (presentations) Meeting 2: Final Presentations	Presentation preparation and report writing (4hrs/week)
Week 14	Meeting 1: Final Presentations, submit final reports Meeting 2: Text Chapter 10 (introduction to the topic)	Presentation preparation and report writing (4hrs/week)
Week 15	Meeting 1: Text Chapter 10 (listening) Meeting 2: Text Chapter 10 (presentations), final feedback	Assigned textbook tasks and review (4hrs/week)

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-Y06	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション1 L3 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川真理子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門 的事項-英語コミュニケーション			9.履修学年	2	
10.取得資格の要件	教科及び教科の指導に関する科目- 教科に関する専門的事項-英語コミ ュニケーション		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students will make successssful presentations by learning the following: delivery. preparation, good content, planning, visual aids and performance.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1) 自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2) 問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3) コミュニケーションスキル Communication skills					
19.教科書・教材	Successful Presentations - An Interactive Guide 1 (Mark D. Stafford) ISBN 9784863124134					
20.参考文献						
21.成績評価	Presentations (Details to be announce in class) - 40%; Weekly tasks and class contributions - 20%; Finals (Details to be announce in class)- 40%					
22.コメント	PC を持参してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Meeting 1: Introductions, ice breaker, course requirements, assessment Meeting 2: UNIT 1: self introduction, first impressions Skills: Delivery - Posture, Content Introduction, Visual Aids, Title Slide			Prepare for mini presentation 1		
Week 2	Meeting 3: Mini presentations 1 in groups of 3 or 4, and giving feedback. UNIT 2: Hometown, No Place like Home Skills: Delivery - Eye Contact, Content overview, Visual Aids, Overside Slide Meeting 4: Continue UNIT 2, Mini Presentations, 3 preparation			Prepare for mini presentation 2		
Week 3	Meeting 5: Mini presentations 2 (in groups of 3 or 4 & giving feedback) UNIT 3: Family, All in Family Skills: Delivery - Gestures Content Details, Visual Aids, Detail Slides			Prepare for mini presentation 3		

	Meeting 6: Continue UNIT 3, Mini presentations 3 preparation	
Week 4	Meeting 7: Mini presentation 3 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 4: Pastimes, Personality Skills Delivery: Stage position, Content-conclusion, Visual Aids, Conclusion slide Meeting 8: Continue UNIT 4, mini presentation 4 preparation	Prepare for mini presentation 4
Week 5	Meeting 9: Mini presentation 4 in groups of 3 or 4, giving feedback Prepare for the first PBL presentation Choose 1 topic on page 33 and make it a problem based learning topic for your presentation Meeting 10: Continue preparing for first PBL presentation	Prepare for the first PBL presentation
Week 6	Meeting 11: First PBL presentation Meeting 12: UNIT 5 - Education, An A for Effort Skills: Delivery - Projection, Content-Introductory Phrases, Visual Aids: layout	Prepare for mini presentation 5
Week 7	Meeting 13: Mini presentation 5 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 6: Culture shock, When in Rome Skills: Delivery - Enunciation, Content - signpost expressions, Visual Aids: Presenting Meeting 14: Continue UNIT 6, Mini presentation 6 preparation	Prepare for mini presentation 6
Week 8	Meeting 15: Mini presentation 6 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 7: Stereotypes, What is Your Blood type? Skills: Delivery - Intonation, Content - Facts and Opinions, Visual Aids: Explaining Meeting 16: Continue UNIT 7, mini presentation 7 prepar	Prepare for mini presentation 7
Week 9	Meeting 17: Mini presentation 7 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 8: Population, What is this World coming to? Skills: Delivery - Phrasing, Content - supporting Evidence, Visual Aids: varieties Meeting 18: Continue UNIT 8, mini presentation 8 prep	Prepare for mini presentation 8
Week 10	Meeting 19: Mini presentation 8 in groups of 3 or 4, giving feedback. Prepare for the Second PBL presentation Choose one topic on page 61, and make it a PBL topic for the presentation Meeting 20: Continue preparing for second PBL presentation, practice	Prepare for second PBL presentation

Week 11	Meeting 21: Second PBL presentation Meeting 22: UNIT 9 - Events, a Special Occasion Skills: Delivery - Anticipating questions, Informing, Visual aids: Graphs	Prepare for mini presentation 9
Week 12	Meeting 23: Mini presentation 9 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 10: Places, Location X 3 Skills: Delivery - Understanding Questions, Content - Describing, Visual Aids: Images Meeting 24: Continue UNIT 10, mini presentation 10 preparation	Prepare for mini presentation 10
Week 13	Meeting 25: Mini presentation 10 in groups of 3 or 4, giving feedback UNIT 12: Opinions, In My Own Opinion Skills: Delivery - Staying in Control, Content - Persuading, Visual aids: Strategies Meeting 26: Prepare for the final presentation PBL	Prepare for the final PBL presentation
Week 14	Meeting 27: Final presentation of PBL (first groups) Meeting 28: Final presentation PBL (second groups) CHOOSE THE TOP 3 BEST out of ALL the 2nd year PBL presentations!	Prepare for the final PBL presentation
Week 15	Meeting 29: All Second Year PBL presentations! Choose the 3 winners Meeting 30: Class evaluation, consultation about progress and grades, absences and EXTRA WORK to do if absent, etc	Online consultation for further questions

1.授業コード (ナンバリング)	FLE122-Y01	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教科及び教科の指導に関する科目-教科に関する専門 的事項-英語コミュニケーション			9.履修学年		
10.取得資格の要件	教科及び教科の指導に関する科目- 教科に関する専門的事項-英語コミ ュニケーション		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students will make successful presentations by learning the following: delivery, preparation, good content, planning, visual aids and performance.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1) 自律的で主体的な態度（自律性） Autonomous and independent attitude (autonomy) 2) 問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3) コミュニケーションスキル Communication skills					
19.教科書・教材	21st Century Communication 3 Second Edition (e-book), National Geographic Learning (ISBN: 9780357855829)					
20.参考文献						
21.成績評価	In-Class Activity: 20% Assignment: 20% Group Work: 20% Final Presentation: 40%					
22.コメント	毎授業 PC を持参すること。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	月曜 1 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Orientation（授業の進め方、成績評価の方法、 学習方法、WebClass の使い方等について）			ノートパソコン持参（毎授業） シラバスで授業予定を確認する		
Week 2	Unit 1: Identify main points			Assignment に取り組む		
Week 3	Unit 2: Ask questions while listening			Assignment に取り組む		
Week 4	Unit 3: Listen for explanations			Assignment に取り組む		
Week 5	Unit 4: Listen for cause and effect			Assignment に取り組む		
Week 6	Unit 5: Recognize signpost questions			Assignment に取り組む		
Week 7	Unit 6: Understand figurative language			Assignment に取り組む		
Week 8	Unit 7: Understand unfamiliar terms			Assignment に取り組む		
Week 9	Unit 8: Listen for rhetorical questions			Assignment に取り組む		
Week 10	Review 1			Assignment に取り組む		
Week 11	Group Work 1			グループで課題に取り組む		
Week 12	Group Work 2			Group Work 課題を WebClass へ提出する		
Week 13	Review 2			Final Presentation に向けてこれまでの学修内 容を復習する		

Week 14	Final Presentation	Final Presentation 課題を WebClass へ提出する 課題の相互評価を行う
Week 15	まとめとふりかえり	本科目のふりかえりを WebClass へ提出する

1.授業コード (ナンバリング)	FLE122-Y02	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2~
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	**Objectives** The aim of this course is to enhance students' presentation, debate, and listening skills. **Abstract** This course provides students with numerous opportunities to deliver effective presentations and participate in debates, while also					
18.学習目標と DPとの関連	Students can 1. give effective presentations and engage in debates 2. hone their listening skills 3. increase their knowledge and vocabulary about current issues 4. form well-informed opinions DP: 問題解決 (problem-solving)					
19.教科書・教材	Which side are you on? Gillian Flaherty, SEIBIDO, ¥2,310, 978-4-7919-6028-6					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	In-class activities (discussion, debate, mini presentation) 50% Quizzes 20% Presentation 30% * To receive credit, two presentations are required. *As this course emphasizes debate and presentation, your attendance will significantly impact your g					
22.コメント	*Generative AI may be used only if permitted by the teacher. Its use is prohibited during exams and for reports. * Credit will not be granted without having the textbook. * The syllabus may be adjusted based on the size of the class. * In the event of severe weather, the class will be held online. Please remember to check WebClass occasionally for updates. * If you are too ill to attend class, please send me an email.					
23.オフィスアワー	available before or after class, and via email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	1. Orientation Review how to give a mini presentation. 2. mini presentation. pair/group work			Prepare for Unit 1		
Week 2	1. Unit 1 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 1 writing, debate			Prepare for the debate and Unit 2.		
Week 3	1. Unit 2			Prepare for the debate and		

	reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 2 writing, debate	Unit 3
Week 4	1. Unit 3 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 3 writing, debate	Prepare for the debate and Unit 4
Week 5	1. Unit 4 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 4 writing, debate	Prepare for the debate and Unit 5
Week 6	1. Unit 5 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 5 writing, debate	Prepare for the debate
Week 7	1. Preparation for Presentation 1 2. Presentation 1	Prepare for Presentation 1
Week 8	1. Unit 6 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 6 writing, debate	Prepare for the debate and Unit 6 and 7
Week 9	1. Unit 7 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 7 writing, debate	Prepare for the debate and Unit 8
Week 10	1. Unit 8 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 8 writing, debate	Prepare for the debate and Unit 9
Week11	1. Unit 9 reading, listening, pair/group discussion 2. Unit 9 writing, debate	Presentation 2 prep
Week 12	Presentation 2	
Week 13	Presentation 2	Prepare for a quiz covering Units 10 to 15.
Week14	Review Quiz Unit 10~15	
Week 15	Consolidation	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE123-Y71	2.科目名	リーディング・ライティング1		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以て TOEIC (R)L&R テストで 400 点以上のスコア取得を目指します。					
	概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結す る英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。					
	【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人（読む人）が理解しやすい情報の提示 法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と 英語力を身につける。					
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC (R) L&R TEST（センゲージ ラーニング）					
20.参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。					
21.成績評価	・ 授業参加度： 30 点（学習目標②に対応） ・ 小テスト： 30 点（学習目標①に対応） ・ 期末テスト： 40 点（学習目標①に対応）					
22.コメント	・ 教科書を購入していない学生は、評価の対象外とすることがあります。 ・ 音読に力を入れます。 ・ 発表・発言など、積極的な授業態度を求めます。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	ガイダンス、Unit 1 Shopping Unit 2 Office Work 単語テスト 1			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱 った文書を自力で訳せるように／学習箇所全 ての音読		
2 日目	単語テスト 2, 3 Unit 2 Office Work Unit 3 Transportation			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱 った文書を自力で訳せるように／学習箇所全 ての音読		
3 日目	単語テスト 4, 5 Unit 3 Transportation Unit 4 Travel & Eating Out			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱 った文書を自力で訳せるように／学習箇所全 ての音読		
4 日目	単語テスト 6, 7					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	FLE125-Y01	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ（1/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル学部の3つの専門領域（観光まちづくり／グローバルビジネス／日本語・日本文化）およびSDGsからレレバントなテーマを命題に、ディベートの1st Round（立論）までを実践する。英語ディベートの実践を通して、グローバルコミュニケーションの基本となるクリティカル・シンキングの習得を目指す。Using relevant topics based on the three areas of specialization in the Faculty of Global Studies—Tourism a					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Learning Objectives ディベートの1st Roundの立論（1分～3分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の立論スピーチを準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 Students will be able to deliver a 1st Round constructive speech (1?3 minutes) in an impromptu format. In addition, as a post-class assignment, they will prepare a prepared constructive speech and be able to memorize and deliver it without a script. 【DPとの関連】 Relation to the Diploma Policy この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。This course is particularly related to points (3) and (5) of the university's Diploma Policy: the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and communication skills. Learning a foreign language inherently involves understanding the people who use that language and the regions where it is spoken. In this sense, learning English through this course is directly connected to comprehensive studies of English-speaking regions. Furthermore, mastering the four language skills is essential for cultivating communication skills. By learning English, students naturally come to view their native language from a broader perspective, which can enhance not only their English communication abilities but also those in their mother tongue.					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 Class Participation 60点 中間テスト Midterm Exam 20点 期末テスト Final Exam 20点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	Syllabus explanation/Orientation					

	ディベート概論 ディベートとは？ What is debate? ディベートをどう行うか？ How to conduct a debate 英語の議論の組み立て方（AREA） How to structure arguments in English (AREA method) 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?	
第 2 回	グローバルビジネス① コンビニの 24 時間営業は禁止すべきか？ Should 24-hour convenience store operations be prohibited?	
第 3 回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?	
第 4 回	グローバルビジネス③ リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ （ジェンダー） Should affirmative action for women be implemented? (gender)	

第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか（環境） Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？（健康） Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE125-Y02	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ（2/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル学部の3つの専門領域（観光まちづくり／グローバルビジネス／日本語・日本文化）およびSDGsからレバントなテーマを命題に、ディベートの2nd Round（反論）までを実践する。英語ディベートの実践を通して、グローバルコミュニケーションの基本となるクリティカル・シンキングの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 春学期に作成した1st Roundの立論を前提に、2nd Roundの反論（1分～3分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の反論を準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ディベート概論 ディベートの反論をどう行うのか？ 英語の議論の組み立て方（AREA） 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?					
第2回	グローバルビジネス① コンビニの24時間営業は禁止すべきか？ Should 24-hour convenience store operations be prohibited?					
第3回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?					
第4回	グローバルビジネス③					

	リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ (ジェンダー) Should affirmative action for women be implemented? (gender)	
第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか (環境) Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？ (健康) Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE125-Y03	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ (3/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語ディベートの実践の中で、とりわけクリティカルシンキングの力を養う。ディベートの実践の中で、英語コミュニケーションの本質である他者意識を養い、独立思考ができるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ディベートの 1st Round の立論（1 分～3 分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の立論スピーチを準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント	パソコンを毎回持参してください。					
23.オフィスアワー	月曜 1 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ディベート概論 ディベートとは？ ディベートをどう行うか？ 英語の議論の組み立て方（AREA） 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?					
第 2 回	グローバルビジネス① コンビニの 24 時間営業は禁止すべきか？ Should 24-hour convenience store operations be prohibited?					
第 3 回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?					
第 4 回	グローバルビジネス③					

	リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ (ジェンダー) Should affirmative action for women be implemented? (gender)	
第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか (環境) Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？ (健康) Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE125-Y04	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ (4/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語ディベートの実践の中で、とりわけクリティカルシンキングの力を養う。ディベートの実践の中で、英語コミュニケーションの本質である他者意識を養い、独立思考ができるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ディベートの 1st Round の立論（1 分～3 分）が「即興型」でできるようになる。また、授業後の課題として「準備型」の立論スピーチを準備し、原稿なしで暗唱できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ディベート概論 ディベートとは？ ディベートをどう行うか？ 英語の議論の組み立て方（AREA） 日本の学校は制服を廃止すべきか？ Should school uniforms be abolished in Japan?					
第 2 回	グローバルビジネス① コンビニの 24 時間営業は禁止すべきか？ Should 24-hour convenience store operations be prohibited?					
第 3 回	グローバルビジネス② ベーシックインカムを導入すべきか？ Should a basic income be implemented?					
第 4 回	グローバルビジネス③					

	リモートワークを禁止すべきか？ Should remote work be banned?	
第 5 回	日本語・日本文化① 多言語の世界よりも一つの言語しかない世界の方がよいか？ Would a world with only one language be better than a multilingual world?	
第 6 回	日本語・日本文化② 日本は英語を第二公用語とすべきか？ Should Japan make English the second official language?	
第 7 回	日本語・日本文化③ 日本は首都機能を東京から移転すべきか？ Should Japan move the capital functions away from Tokyo?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	観光まちづくり① ツーリズムと伝統文化は両立するのか？ Can tourism and traditional culture coexist?	
第 10 回	観光まちづくり② 日本は観光税を導入すべきか？ Should Japan introduce a tourism tax?	
第 11 回	観光まちづくり③ ジェントリフィケーションを推進すべきか？ Should gentrification be promoted?	
第 12 回	SDGs① 女性のアファーマティブアクションを導入すべきか？ (ジェンダー) Should affirmative action for women be implemented? (gender)	
第 13 回	SDGs② 使い捨てプラスチックは禁止すべきか (環境) Should single-use plastics be banned? (environment)	
第 14 回	SDGs③ 脂肪税を導入すべきか？ (健康) Should a fat tax be implemented? (health)	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE125-Y05	2.科目名	英語ディベートで知る現代世界Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	face to face		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Based on a foundation of English education that teaches the etiquette of global communication (logical thinking) through English, students will develop critical thinking skills through English debate practice. Through debate practice, students will develo					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Students will be able to improvise their first round debate argument (1-3 minutes). Students will also be able to prepare a prepared speech for a post-class assignment and recite it without a script.					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Handouts, etc.					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	Introductions/Questions for the teacher Introduction to Debating Basics (AREA)					
第2回	Education 1 Do you need to have a university degree to get a good job?					
第3回	Education 2 Should university education be free?					
第4回	Education 3 Should all Japanese universities require students to study English?					
第5回	Technology/Science 1 Is technology making people's lives easier, or more difficult?					
第6回	Technology/Science 2					

	Should animal testing be allowed?	
第 7 回	Technology/Science 3 Do smartphones help university students learn English?	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	Environment/Society 1 Should the Japanese government ban plastic bags and packaging?	
第 10 回	Environment/Society 2 Should Japan ban tourism in some places to protect the environment?	
第 11 回	Environment/Society 3 Which is more important for success in society, hard work or talent?	
第 12 回	Culture/Ethics 1 Should wealthy nations like Japan be obligated to accept refugees?	
第 13 回	Culture/Ethics 2 Should artists be allowed to borrow from other cultures besides their own?	
第 14 回	Ethics/Culture 3 Does social media have a positive or negative influence on culture?	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE126-Y01	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ (1/5)		3.単位数	2	
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga						
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻					9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態				
16.履修制限							
17.授業の目的と概要	This course builds on basic English lessons that teach how to think clearly and logically when talking with people from other countries. Students will practice giving English speeches to improve their thinking skills. They will also learn the basics of pu						
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 身近なトピックをテーマに、1分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 Students will learn to give a 1-minute impromptu speech on familiar topics. They will also write a prepared speech on the same topic with feedback from the teacher. Then, they will memorize the speech and practice giving a presentation with good delivery and eye contact. 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。 This course is especially connected to our university's diploma policies (3) understanding and accepting people from different cultures and backgrounds, and (5) developing communication skills. Learning a foreign language means learning about the people and places where the language is used. In this way, learning English in this course is directly linked to a deeper study of English-speaking regions. Also, practicing the four English skills—reading, writing, listening, and speaking—helps students build strong communication skills. By learning English, students will also start to see their own language from a new point of view. This can improve not only their English, but also their communication skills in their native language.						
	19.教科書・教材						
	20.参考文献						
	21.成績評価 Class participation 平常点 20点 Midterm test 中間テスト 20点 Final test 期末テスト 60点						
	22.コメント						
	23.オフィスアワー						
	24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第1回	オリエンテーション					

	自己紹介 Self-introduction	
第 2 回	私の家族 My Family	
第 3 回	私の故郷 My Hometown	
第 4 回	私の一日の過ごし方 My Daily Routine	
第 5 回	私が先週末にしたこと What I Did Last Weekend	
第 6 回	私の好きな食べ物・料理 My Favorite Food and Dishes	
第 7 回	私の好きな音楽とアーティスト My Favorite Music and Artists	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	関西国際大学の好きなところ What I Like about KUISs	
第 10 回	関西国際大学の嫌いなところ What I Don't Like about KUISs	
第 11 回	放課後の活動 My After School Activities	
第 12 回	私が一番嬉しかったこと My Happiest Memory	
第 13 回	私の親友 My Best Friend	
第 14 回	私の夏休みの予定 My Plans for Summer Vacation	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE126-Y02	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ (2/5)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	??英語スピーチで語る現代世界 英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語スピーチの実践の中でさらにロジカルシンキングの力を養う。グローバル学部の専門科目として、アイコンタクトやデリバリーなど、パブリックスピーキングの基礎を身につける。 ??英語ディベートで学ぶ現代世界 英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語ディベートの実践の中で、とりわけクリティカルシンキングの力を養う。ディベ					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 身近なトピックをテーマに、1分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 自己紹介 Self-introduction					
第2回	私の家族 My Family					
第3回	私の故郷 My Hometown					

第 4 回	私の一日の過ごし方 My Daily Routine	
第 5 回	私が先週末にしたこと What I Did Last Weekend	
第 6 回	私の好きな食べ物・料理 My Favorite Food and Dishes	
第 7 回	私の好きな音楽とアーティスト My Favorite Music and Artists	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	関西国際大学の好きなところ What I Like about KUISs	
第 10 回	関西国際大学の嫌いなところ What I Don't Like about KUISs	
第 11 回	放課後の活動 My After School Activities	
第 12 回	私が一番嬉しかったこと My Happiest Memory	
第 13 回	私の親友 My Best Friend	
第 14 回	私の夏休みの予定 My Plans for Summer Vacation	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE126-Y03	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ (3/5)	3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	英語を通してグローバルコミュニケーションの作法（ロジカルシンキング）を学ぶ基盤英語教育の上に立ち、英語スピーチの実践の中でさらにロジカルシンキングの力を養う。グローバル学部の特設科目として、アイコンタクトやデリバリーなど、パブリックスピーキングの基礎を身につける。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 身近なトピックをテーマに、1分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	オリエンテーション 自己紹介 Self-introduction				
第2回	私の家族 My Family				
第3回	私の故郷 My Hometown				
第4回	私の一日の過ごし方 My Daily Routine				
第5回	私が先週末にしたこと What I Did Last Weekend				
第6回	私の好きな食べ物・料理 My Favorite Food and Dishes				

第 7 回	私の好きな音楽とアーティスト My Favorite Music and Artists	
第 8 回	中間テスト Mid-term Test	
第 9 回	関西国際大学の好きなところ What I Like about KUISs	
第 10 回	関西国際大学の嫌いなところ What I Don't Like about KUISs	
第 11 回	放課後の活動 My After School Activities	
第 12 回	私が一番嬉しかったこと My Happiest Memory	
第 13 回	私の親友 My Best Friend	
第 14 回	私の夏休みの予定 My Plans for Summer Vacation	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE126-Y04	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ (4/5)	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 身近なトピックをテーマに、1 分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 Self-introduction				
第 2 回	私の家族 My Family				
第 3 回	私の故郷 My Hometown				
第 4 回	私の一日の過ごし方 My Daily Routine				
第 5 回	私が先週末にしたこと What I Did Last Weekend				
第 6 回	私の好きな食べ物・料理 My Favorite Food and Dishes				
第 7 回	私の好きな音楽とアーティスト My Favorite Music and Artists				
第 8 回	中間テスト				

	Mid-term Test	
第 9 回	関西国際大学の好きなところ What I Like about KUISs	
第 10 回	関西国際大学の嫌いなところ What I Don't Like about KUISs	
第 11 回	放課後の活動 My After School Activities	
第 12 回	私が一番嬉しかったこと My Happiest Memory	
第 13 回	私の親友 My Best Friend	
第 14 回	私の夏休みの予定 My Plans for Summer Vacation	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE126-Y05	2.科目名	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ (5/5)	3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態			
16.履修制限					
17.授業の目的と概要					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 身近なトピックをテーマに、1分程度の impromptu speech が作れるようになる。また、同じテーマで教員の添削を受けながら prepared speech を作成、それを暗唱し、適切なデリバリーやアイコンタクトでプレゼンテーションできるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材					
20.参考文献					
21.成績評価	平常点 60 点 中間テスト 20 点 期末テスト 20 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	オリエンテーション 自己紹介 Self-introduction				
第2回	私の家族 My Family				
第3回	私の故郷 My Hometown				
第4回	私の一日の過ごし方 My Daily Routine				
第5回	私が先週末にしたこと What I Did Last Weekend				
第6回	私の好きな食べ物・料理 My Favorite Food and Dishes				
第7回	私の好きな音楽とアーティスト My Favorite Music and Artists				
第8回	中間テスト				

	Mid-term Test	
第 9 回	関西国際大学の好きなところ What I Like about KUISs	
第 10 回	関西国際大学の嫌いなところ What I Don't Like about KUISs	
第 11 回	放課後の活動 My After School Activities	
第 12 回	私が一番嬉しかったこと My Happiest Memory	
第 13 回	私の親友 My Best Friend	
第 14 回	私の夏休みの予定 My Plans for Summer Vacation	
第 15 回	期末テスト Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A01	2.科目名	英語の論理Ⅰ T1	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。				
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A02	2.科目名	英語の論理Ⅰ T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A03	2.科目名	英語の論理Ⅰ T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A04	2.科目名	英語の論理Ⅰ T4		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A05	2.科目名	英語の論理Ⅰ T5	3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄				
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-A06	2.科目名	英語の論理Ⅰ T6		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第 1 回、第 8 回、 第 15 回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6 点×12 回／72 点） 中間テスト 14 点 期末テスト 14 点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第 1 回（オリエンテーション）、第 8 回（中間テスト）、第 15 回（期末テスト）のみ対面、他の 12 回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第 1 回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M01	2.科目名	英語の論理Ⅰ 経営 T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M02	2.科目名	英語の論理Ⅰ 看護 T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M03	2.科目名	英語の論理Ⅰ 経営 T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香、横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ・ 課題については使用可 ・ ただしテストでは使用不可					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエ					

	ンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」	
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か） Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M04	2.科目名	英語の論理Ⅰ 看護 T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香、横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。 生成AI利用：条件付きで認める。 ・課題については使用可 ・ただしテストでは使用不可					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエ					

	ンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」	
第 2 回	第 2 文型：形容詞が C になる（事実か意見か） Drill 1	動画提出課題 Drill 2
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M05	2.科目名	英語の論理Ⅰ 経営 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	家村雅子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー	第1回、第8回、第15回のみ対面授業の前後（それ以外は Webclass か e-mail での連絡）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-M06	2.科目名	英語の論理Ⅰ 看護 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	家村雅子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー	第1回、第8回、第15回のみ対面授業の前後（それ以外はWebclass か e-mail での連絡）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y01	2.科目名	英語の論理Ⅰ T1	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y02	2.科目名	英語の論理Ⅰ T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	友繁義典、横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y03	2.科目名	英語の論理Ⅰ T3	3.単位数	1
4.授業担当教員	井上加寿子、横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー	月曜1限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y04	2.科目名	英語の論理Ⅰ T4	3.単位数	1
4.授業担当教員	井上加寿子、横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。				
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー	月曜1限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y05	2.科目名	英語の論理Ⅰ T5	3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y06	2.科目名	英語の論理Ⅰ T6	3.単位数	1
4.授業担当教員	友繁義典、横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。				
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y07	2.科目名	英語の論理Ⅰ T7	3.単位数	1
4.授業担当教員	友繁義典、横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べるができるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y08	2.科目名	英語の論理Ⅰ T8		3.単位数	1
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	オリジナル					
20.参考文献						
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。					
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」					
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2		

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE128-Y09	2.科目名	英語の論理Ⅰ T9	3.単位数	1
4.授業担当教員	岡本由紀子				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	ブレンド型オンデマンド（第1回、第8回、 第15回のみ対面）	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	グローバル・コミュニケーションの「作法」としての英語の「ロジック」を明示的に学び、オーディオ・リンガル・メソッドによって、オーラシー（話すこと）で無意識のうちに運用できるようになることを目指す。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 英語の「心の習慣」としての「ロジック」を学び、英語の世界において、相手の発言が「事実」なのか「意見」なのかを判別できるようになる。その上で、自分自身が正しく（ロジカルに）意見を述べることができるようになる。				
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	オリジナル				
20.参考文献					
21.成績評価	課題点（6点×12回／72点） 中間テスト 14点 期末テスト 14点 ＊中間テスト・期末テストは、動画で学んだ「知識」を中心に、筆記の形式で行われます。課題の音声ドリルをこなすだけではなく、講義部分の解説も、しっかり聞くようにしてください（しっかり聞いていれば、解けるものばかりです）。				
22.コメント	授業は、第1回（オリエンテーション）、第8回（中間テスト）、第15回（期末テスト）のみ対面、他の12回は、すべてオンデマンドで行われます。みなさんは、期限内に動画を視聴し、精一杯課題に取り組んだ上で、その成果を録画して提出します。担当教員がみなさんの動画にコメントやアドバイスをフィードバック、それを繰り返すことで、授業が進められます。出欠のチェック、動画アップロードの方法など、詳しいことは、第1回のオリエンテーションで説明されますので、必ず注意して聞いてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	本授業の進め方及び課題提出方法等についてのオリエンテーション 三角ロジック：英語の「心の習慣」				
第2回	第2文型：形容詞がCになる（事実か意見か）			動画提出課題 Drill 2	

	Drill 1	
第 3 回	第 2 文型 名詞が C になる Drill 3	動画提出課題 Drill 4
第 4 回	弱い助動詞(1) will 単純未来（事実）か意志未来（意見）か Drill 5	動画提出課題 Drill 6
第 5 回	弱い助動詞 (2) Drill 7	動画提出課題 Drill 8
第 6 回	弱い助動詞(3) Drill 9	動画提出課題 Drill 10
第 7 回	弱い助動詞(4) Drill 11	動画提出課題 Drill 12
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	強い助動詞(1) Drill 13	動画提出課題 Drill 14
第 10 回	論証責任をたずねる Drill 15	動画提出課題 Drill 16
第 11 回	強い助動詞(1) Drill 17	動画提出課題 Drill 18
第 12 回	論証責任をたずねる Drill 19	動画提出課題 Drill 20
第 13 回	強い助動詞(2) Drill 21	動画提出課題 Drill 22
第 14 回	論証責任をたずねる Drill 23	動画提出課題 Drill 24
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-A01	2.科目名	英語コミュニケーション I T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	face to face	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global communication while strengthening their critical thinking skills.					
18.学習目標と D P との関連	Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication.					
	[Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions skill skills where it is used, and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language is nothing less than cultivating communication. Learning English skills eventually puts one's native language into perspective, which will lead to improving communication skills in not only English but also one's native language.					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	Midterm exam: 30 points					
	Final exam: 30 points					
	Regular grades: 40 points					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Orientation					
	UNIT1:Social Psychology					
	p.2-6					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.6-11					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.12-16					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.16-21					
	UNIT2: Education					
	p.22-28					
	UNIT2: Education					
	p.28-34					
	UNIT2: Education					
	p.35-39					
	Mid-term test					

	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
	UNIT4: Sociology p.58-64	
	UNIT4: Sociology p.65-71	
	UNIT4: Sociology p.71-75	
	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-A02	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T2	3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。				
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking				
20.参考文献					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6				
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11				
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16				
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21				
Week 5	UNIT2: Education p.22-28				
Week 6	UNIT2: Education				

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-A03	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	Michael Heller					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-A04	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T4		3.単位数	1
4.授業担当教員	Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	In class: 15 minutes before the lesson and 15 minutes after					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-A05	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T5		3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-A06	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T6		3.単位数	1
4.授業担当教員	Ian Matthew Allensworth					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-M01	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ 経営 T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-M02	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ 看護 T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-M05	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ 経営 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	Michael Heller					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-M06	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ 看護 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	Michael Heller					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際のコミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT5: Architecture p.76-82					
Week 2	UNIT5: Architecture p.82-86					
Week 3	UNIT5: Architecture p.86-92					
Week 4	UNIT5: Architecture p.93-97					
Week 5	UNIT6: Health Science p.98-106					
Week 6	UNIT6: Health Science					

	p.106-111	
Week 7	UNIT6: Health Science p.112-119	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT7: Global Studies p.120-127	
Week 10	UNIT7: Global Studies p.128-135	
Week 11	UNIT7: Global Studies p.136-143	
Week 12	UNIT8: Technology p.144-151	
Week 13	UNIT8: Technology p.152-157	
Week 14	UNIT8: Technology p.158-163	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y01	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T6		3.単位数	1
4.授業担当教員	Louisa Green					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y02	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	Louisa Green					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y03	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T9		3.単位数	1
4.授業担当教員	Daniel David Scott					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	リスニングとスピーキング中心のアクティビティを通して、クリティカルシンキングの能力を強化しながら、グローバルコミュニケーションに必要な英語力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 クリティカル・シンキングを実際の英語コミュニケーションの中で習得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 平常点 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation UNIT1 :Social Psychology p.2-6					
Week 2	UNIT1: Social Psychology p.6-11					
Week 3	UNIT1: Social Psychology p.12-16					
Week 4	UNIT1: Social Psychology p.16-21					
Week 5	UNIT2: Education p.22-28					
Week 6	UNIT2: Education					

	p.28-34	
Week 7	UNIT2: Education p.35-39	
Week 8	Mid-term test	
Week 9	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
Week 10	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
Week 11	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
Week 12	UNIT4: Sociology p.58-64	
Week 13	UNIT4: Sociology p.65-71	
Week 14	UNIT4: Sociology p.71-75	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y05	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T5		3.単位数	1
4.授業担当教員	Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	face to face		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global communication while strengthening their critical thinking skills.					
18.学習目標と DPとの関連	Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication.					
	[Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used, and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which will lead to improving communication skills in not only English but also one's native language.					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	Midterm exam: 30 points Final exam: 30 points Regular grades: 40 points					
22.コメント						
23.オフィスアワー	In class: 15 minutes before the lesson and 15 minutes after					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Orientation					
	UNIT1:Social Psychology					
	p.2-6					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.6-11					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.12-16					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.16-21					
	UNIT2: Education					
	p.22-28					
	UNIT2: Education					
	p.28-34					
	UNIT2: Education					
	p.35-39					

	Mid-term test	
	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
	UNIT4: Sociology p.58-64	
	UNIT4: Sociology p.65-71	
	UNIT4: Sociology p.71-75	
	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y06	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T6		3.単位数	1
4.授業担当教員	Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	face to face	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global communication while strengthening their critical thinking skills.					
18.学習目標と D P との関連	Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication.					
	[Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions skill skills where it is used, and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language is nothing less than cultivating communication. Learning English skills eventually puts one's native language into perspective, which will lead to improving communication skills in not only English but also one's native language.					
19.教科書・教材	Q: Skills for Success 3rd Edition: Intro: Listening & Speaking					
20.参考文献						
21.成績評価	Midterm exam: 30 points Final exam: 30 points Regular grades: 40 points					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Orientation					
	UNIT1:Social Psychology					
	p.2-6					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.6-11					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.12-16					
	UNIT1: Social Psychology					
	p.16-21					
	UNIT2: Education					
	p.22-28					
	UNIT2: Education					
	p.28-34					
	UNIT2: Education					
	p.35-39					
	Mid-term test					

	UNIT3: Cultural Studies p.40-45	
	UNIT3: Cultural Studies p.45-51	
	UNIT3: Cultural Studies p.52-57	
	UNIT4: Sociology p.58-64	
	UNIT4: Sociology p.65-71	
	UNIT4: Sociology p.71-75	
	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y07	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T7	3.単位数	1										
4.授業担当教員	Stelen E.Siagto														
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期										
8.履修可能な専攻				9.履修学年											
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし											
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture, Group discussions, Student Presentations, Worksheets, Videos and other media, Online Applications, on demand lessons											
16.履修制限															
17.授業の目的と概要	This course develops foundational English and academic skills using Skills for Success Intro. Students will improve communication, critical thinking, and confidence in real-world and academic settings.														
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the course, students will be able to: - Build interpersonal skills through group work and projects. - Develop independent learning using apps with instructor guidance. - Create reports and presentations in English by applying lecture insights and relevant tools. - Explore global topics through readings and videos in and outside class.														
19.教科書・教材	Title: Skills for Success Intro (Third Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1														
20.参考文献	Additional references will be provided in class.														
21.成績評価	<table border="0"> <tr> <td>Written Output: Worksheets/ Quizzes</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>Class Participation (group work / presentation)</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Midterm Test</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Final Test</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>Total</td> <td>100%</td> </tr> </table>					Written Output: Worksheets/ Quizzes	30%	Class Participation (group work / presentation)	20%	Midterm Test	20%	Final Test	30%	Total	100%
Written Output: Worksheets/ Quizzes	30%														
Class Participation (group work / presentation)	20%														
Midterm Test	20%														
Final Test	30%														
Total	100%														
22.コメント	1. This course is conducted in English 2. Always bring your textbooks to class. 3. If you have any questions or problems, it is important to see me as soon as possible so we can address the situation appropriately.														
23.オフィスアワー															
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)												
	Day 1: Greetings, Syllabus Discussion, Unit 1														
	Day 2: Unit 1 Vocabulary														
	Day 3: Unit 1 Listening														
	Day 4: Speaking														
	Day 5: Unit Test 1 Unit 2 Vocabulary														
	Day 6: Unit 2 Listening														
	Day 7: Unit 2 Speaking														

	Unit test 2	
	Day 8: Midterm Test	
	Day 9: Unit 3	
	Day 10: Unit 3	
	Day 11: Review and Unit Test 3	
	Day 12: Unit 4	
	Day 13: Unit 4	
	Day 14: Review and Unit test 4	
	Day 15: Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y08	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T8	3.単位数	1
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	グローバル, 心理, 社会			9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global Communication while transforming their critical thinking skills.				
18.学習目標と DPとの関連	(Learning Objectives) Acquire critical thinking through actual English communication. [Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used, and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which leads to improving communication skills not only English but also one's native language.				
19.教科書・教材	Title: Q:Skills for Success Intro: Listening & Speaking (3rd Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT 1: Social Psychology				
Week 2	UNIT 1: Social Psychology				
Week 3	UNIT 1: Social Psychology				

	Quiz 1	
Week 4	UNIT 2: Education	
Week 5	UNIT 2: Education	
Week 6	UNIT 2: Education Quiz 2	
Week 7	Review and Review Test: Units 1 and 2	
Week 8	Midterm Test	
Week 9	UNIT 3: Cultural Studies	
Week 10	UNIT 3: Cultural Studies	
Week 11	UNIT 3: Cultural Studies Quiz 3	
Week 12	UNIT 4: Sociology	
Week 13	UNIT 4: Sociology Quiz 4	
Week 14	Review and Review Test: Units 3 and 4	
Week 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE131-Y09	2.科目名	英語コミュニケーションⅠ T3	3.単位数	1
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Through listening and speaking activities, students will develop the English skills necessary for global Communication while transforming their critical thinking skills.				
18.学習目標と DPとの関連	(Learning Objectives] Acquire critical thinking through actual English communication. [Relationship to DP] This class is related to our university's diploma policy, particularly (3) the ability to understand and accept diverse cultures and backgrounds, and (5) communication skills. Learning a foreign language means understanding the people who use that language and the regions where it is used,and in that sense, learning English through this class is directly linked to comprehensive Anglo-American regional studies. Furthermore, acquiring the four language skills is nothing less than cultivating communication skills. Learning English inevitably puts one's native language into perspective, which leads to improving communication skills not only English but also one's native language.				
19.教科書・教材	Title: Q:Skills for Success Intro: Listening & Speaking (3rd Edition) Authors: Kevin McClure / Mari Vargo ISBN: 978-0-19-490512-1				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Orientation UNIT 1: Social Psychology				
Week 2	UNIT 1: Social Psychology				
Week 3	UNIT 1: Social Psychology				

	Quiz 1	
Week 4	UNIT 2: Education	
Week 5	UNIT 2: Education	
Week 6	UNIT 2: Education Quiz 2	
Week 7	Review and Review Test: Units 1 and 2	
Week 8	Midterm Test	
Week 9	UNIT 3: Cultural Studies	
Week 10	UNIT 3: Cultural Studies	
Week 11	UNIT 3: Cultural Studies Quiz 3	
Week 12	UNIT 4: Sociology	
Week 13	UNIT 4: Sociology Quiz 4	
Week 14	Review and Review Test: Units 3 and 4	
Week 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE133-Y01	2.科目名	英文法と英音法 T1-3		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分	英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語 4 技能の基本となる「英文法」と「英音法」を学ぶ。異文法は英文を組み立てる際のルール、英音法は英文を「音」にするときのルールであり、これらはいわば「車の両輪」である。ただし、これらのルールは単に知っているだけでは、実際のコミュニケーションでは役に立たない。大切なのは、スポーツと同じように、不断の練習によって血肉化させることであり、この授業の目的もそこにある。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、いわゆる「5 文型」を実際に口頭で運用できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	『英語のハノン——やりなおし英文法スーパードリル／初級』筑摩書房					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 小テスト 20 点 平常点 20 点					
22.コメント	教科書は、必ず指示に従って購入すること（第 1 回の授業で指示する）。教科書を持参していない学生は、他の学生の迷惑となるため、出席を認めない（教科書を忘れて出席しても、その回は欠席扱いとする）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	Unit 0 (0.2.1～0.2.2)					
第 2 回	Unit 0 (0.2.3～0.2.4)					
第 3 回	Unit 0 (0.2.5～0.2.6)					
第 4 回	Unit 1 (Track No. Unit 1.1-1.5)					
第 5 回	Unit 1 (Track No. Unit 1.6-1.9)					
第 6 回	Unit 2 (Track No. Unit 2.1-2.3)					

第 7 回	Unit 2 (Track No. Unit 2.4-2.6)	
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	Unit 3 (Track No. Unit 3.1-3.4)	
第 10 回	Unit 3 (Track No. Unit 3.5-3.8)	
第 11 回	Unit 4 (Track No. Unit 4.1-4.3)	
第 12 回	Unit 3 (Track No. Unit 4.4-4.5)	
第 13 回	Unit 5 (Track No. Unit 5.1-5.3)	
第 14 回	Unit 5 (Track No. Unit 5.4-5.6)	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE133-Y02	2.科目名	英文法と英音法 T4-5		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分	英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語 4 技能の基本となる「英文法」と「英音法」を学ぶ。異文法は英文を組み立てる際のルール、英音法は英文を「音」にするときのルールであり、これらはいわば「車の両輪」である。ただし、これらのルールは単に知っているだけでは、実際のコミュニケーションでは役に立たない。大切なのは、スポーツと同じように、不断の練習によって血肉化させることであり、この授業の目的もそこにある。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、いわゆる「5 文型」を実際に口頭で運用できるようになる。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	『英語のハノン——やりなおし英文法スーパードリル／初級』筑摩書房					
20.参考文献						
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 小テスト 20 点 平常点 20 点					
22.コメント	教科書は、必ず指示に従って購入すること（第 1 回の授業で指示する）。教科書を持参していない学生は、他の学生の迷惑となるため、出席を認めない（教科書を忘れて出席しても、その回は欠席扱いとする）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	Unit 0 (0.2.1～0.2.2)					
第 2 回	Unit 0 (0.2.3～0.2.4)					
第 3 回	Unit 0 (0.2.5～0.2.6)					
第 4 回	Unit 1 (Track No. Unit 1.1-1.5)					
第 5 回	Unit 1 (Track No. Unit 1.6-1.9)					
第 6 回	Unit 2 (Track No. Unit 2.1-2.3)					

第 7 回	Unit 2 (Track No. Unit 2.4-2.6)	
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	Unit 3 (Track No. Unit 3.1-3.4)	
第 10 回	Unit 3 (Track No. Unit 3.5-3.8)	
第 11 回	Unit 4 (Track No. Unit 4.1-4.3)	
第 12 回	Unit 3 (Track No. Unit 4.4-4.5)	
第 13 回	Unit 5 (Track No. Unit 5.1-5.3)	
第 14 回	Unit 5 (Track No. Unit 5.4-5.6)	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A01	2.科目名	総合英語Ⅱ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Grammar 担当：月曜1限 Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A02	2.科目名	総合英語Ⅱ T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A03	2.科目名	総合英語Ⅱ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A04	2.科目名	総合英語Ⅱ T4		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A05	2.科目名	総合英語Ⅱ T5		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Ian Matthew Allensworth					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成AI利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A06	2.科目名	総合英語Ⅱ T6		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Michael Heller					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M01	2.科目名	総合英語Ⅱ 経営 T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M02	2.科目名	総合英語Ⅱ 看護 T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成AI利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M03	2.科目名	総合英語Ⅱ 経営 T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Duane Edward Rowe					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M04	2.科目名	総合英語Ⅱ 看護 T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Duane Edward Rowe					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M05	2.科目名	総合英語Ⅱ 経営 T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Michael Heller					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成AI利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M06	2.科目名	総合英語Ⅱ 看護 T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Michael Heller					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 生成AI利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語彙）
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習（語彙）
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習（語彙）
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習（語彙）
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y01	2.科目名	総合英語Ⅱ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Louisa Green					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y02	2.科目名	総合英語Ⅱ T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Louisa Green					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y03	2.科目名	総合英語Ⅱ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Daniel David Scott					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y04	2.科目名	総合英語Ⅱ T4		3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y05	2.科目名	総合英語Ⅱ T5		3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるように なる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能 動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエー ションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶと いうことは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、 その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。ま た、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶこと で必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めること にもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とす ることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とす る。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞 ⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語 彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞 ② Activity：Unit 02 “I think it’s boring!” 前半					
第4週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where’s the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y06	2.科目名	総合英語Ⅱ T6		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上加寿子、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activityでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DPとの関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点） Activity：50点（中間テスト・期末テスト各15点、平常点20点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Grammar 担当: 月曜1限 Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第2週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第3週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE202-A01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅡ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Ian Matthew Allensworth					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	的と概要 本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOE					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	TOEIC L&R 全パート・コースブック】 一歩上を目指す TOEIC? L&R TEST: Level 1 [二訂版] STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC? L&R TEST: Level 1 ?Basic? [2nd Edition] ISBN: 978-4-255-15736-8					
20.参考文献						
21.成績評価	単語 Quiz：60 点（5 点×12 回） Mid-term Test：20 点 Final Test：20 点					
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること（出版社からの直接購入）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Unit 1 Eating Out／文法： 動詞（1）					
Week 2	Unit 2 Travel／文法： 動詞（2）					
Week 3	Unit 3 Amusement／文法： 動詞（3）					
Week 4	Unit 4 Meetings／文法： 代名詞					
Week 5	Unit 5 Personnel／文法： 不定詞と動名詞（1）					
Week 6	Unit 6 Shopping／文法： 不定詞と動名詞（2）					
Week 7	Unit 7 Advertisement／文法： 名詞・冠詞・数量詞（1）					

Week 8	Mid-term test	
Week 9	Unit 8 Daily Life／文法： 名詞・冠詞・数量詞 (2)	
Week 10	Unit 9 Office Work／文法： 仮定法	
Week 11	Unit 10 Business／文法： 分詞	
Week 12	Unit 11 Traffic／文法： 関係詞	
Week 13	Unit 12 Finance and Banking／文法： 接続詞	
Week 14	Unit 13 Media／文法： 前置詞	
Week 15	Final Exam	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE202-M01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅡ（2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R400 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Seisuke Yasunami 他 Starting on the TOEIC Test（朝日出版）978-4-255-15500-5					
20.参考文献	適宜指示する					
21.成績評価	平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 初日に教室で WEB 上で購入手続きをしていただきますから、必ず教科書を購入すること。 長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 将来就職に役立てるために、TOEIC の受験や高得点を取ることをまじめに考えている人向きの楽しい授業であり、同時に攻略法も指導します。よかったらぜひ受講してください。					
23.オフィスアワー	授業終了後教室で応じます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					
第 5 回	Unit 05					
第 6 回	Unit 06					
第 7 回	Unit 07					

第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE202-Y01	2.科目名	オーラルイングリッシュⅡ（2024 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	By the end of the semester, students will strengthen their English skills to work toward a TOEIC? L&R score of 450 or higher. They will expand their vocabulary, improve grammar comprehension, and become familiar with key exam themes. Through structured le					
18.学習目標と DPとの関連	Relationship to DP - Autonomous and independent attitude (autonomy) - Problem finding and solving ability - Communication skills - Understanding diversity					
19.教科書・教材	Title: Step-up Skills for the TOEIC@ L&R TEST: Level 1 (Basic) 2nd Edition] Author: Yasuyuki Kitao, Harumi Nishida, Shiho Hayashi, Brian Covert ISBN: 978-4-255-15736-8					
20.参考文献	Additional references will be provided in class.					
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 30% - Class Participation (groupwork/presentation): 20% - Midterm Test: 20% - Final Test: 30% TOTAL: 100%					
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.					
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Day 1	Orientation UNIT 1: Eating Out					
Day 2	UNIT 2: Travel					
Day 3	UNIT 3: Amusement					
Day 4	UNIT 4: Meetings					
Day 5	UNIT 5: Personnel					
Day 6	UNIT 6: Shopping					
Day 7	UNIT 7: Advertisement					
Day 8	Midterm Test					
Day 9	UNIT 8: Daily Life					
Day 10	UNIT 9: Office Work					
Day 11	UNIT 10: Business					

Day 12	UNIT 11: Traffic	
Day 13	UNIT 12: Finance and Banking	
Day 14	UNIT 13: Media	
Day 15	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE206-Y01	2.科目名	アカデミック英語 L5		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	専門英語	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年次以上	
10.取得資格の要件	中学・高校英語 1 種免許		11.先修条件	Writing Integrated 1 & 2		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	Level 5					
17.授業の目的と概要	[目的] Students will learn how to organize and develop their ideas in academic writing from paragraph to essay level. They will learn how to write in well-structured paragraphs with a clear main idea, supporting details, and a conclusion. Finally, they wil					
18.学習目標と DP との関連	[学習目標] 1. Students will become able to plan, revise, and edit their academic writing effectively. 2. Students will become aware of weaknesses in their writing, which will lead to improvement in their grammar, vocabulary, spelling, and punctuation. 3. Students will improve their ability to research academic topics and write about them in their own words. [関連する DP] (1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	Elwood, K. & L. Yoffe (2023) From Paragraph to Essay, 南雲堂, ISBN978-4-523-17727-2 ¥2,420					
20.参考文献	an English dictionary					
21.成績評価	Homework: 3 × 3 = 9, Report: 6 × 6 = 36, Essay: 2 × 15 = 30, Final Essay: 25					
22.コメント	1. In every class, bring textbook, and a dictionary. If you do not buy a textbook, you are considered as abandoned the class. 2. Unfortunately, your submission after the deadline will not be accepted except due to unavoidable circumstances. All the submissions will be restricted in time for each class. 3. Use the format for all your submissions. If you do not use the format, you will lose points. 4. Use "Message" in the WebClass when you send an email to me. Do NOT use Outlook! 5. Ask any questions in the class or write a question on the attendance card. If you do not write anything, you are treated as leaving the class early. 6. Even in bad weather or when train service is temporarily stopped, we have a class via Zoom. In that case, please check “Message on Web Class.” I will send you the Zoom information (URL) in the early morning. 7. Do not use your smartphones in class! 8. Homework will be assigned in the course of the class. 9. Do NOT use generative AI such as Chat GPT. If you use one, your submission will get zero points.					
23.オフィスアワー	none					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Introduction (syllabus, course objectives, class					

	rules), Review of a Paragraph (Unit 1) 2. Review of a Paragraph (Unit 1) & Trying to Be Polite 1 (Unit 2)	
	3. Writing an Opinion Paragraph 1 (Unit 3), Notes, Peer Evaluation 4. Writing an Opinion Paragraph 2 (Unit 3), References	3. Paragraph 1
	5. Writing an Opinion Paragraph 3 (Unit 3), Peer Evaluation 6. Writing a Problem-Solution Paragraph 1 (Unit 4)	5. Paragraph 2
	7. Writing a Problem-Solution Paragraph 2 (Unit 4), Peer Evaluation 8. Writing a Problem-Solution Paragraph 3 (Unit 4)	7. Paragraph 3
	9. Writing a Cause and Effect Paragraph 1 (Unit 5), Peer Evaluation 10. Writing a Cause and Effect Paragraph 2 (Unit 5)	9. Paragraph 4
	11. Writing a Cause and Effect Paragraph 3 (Unit 5) 12. Writing a Cause and Effect Paragraph 3 (Unit 5) Introduction to Essay Writing 1 (Unit 6)	
	13. Introduction to Essay Writing 2 (Unit 6) , Peer Evaluation 14. Introduction to Essay Writing 3 (Unit 6)	13. Paragraph 5
	15. Introduction to Essay Writing 3 (Unit 6) Writing Your Own Outline 1 (Unit 7) 16. Writing Your Own Outline 1 (Unit 7)	
	17. Writing Your Own Outline 2 (Unit 7) 18. Writing Persuasive Essays 1: Health Issues (Unit 10) Peer Evaluation	18. Paragraph 6
	19. Writing Persuasive Essays 2: Health Issues (Unit 10) 20. Writing Persuasive Essays 3: Health Issues (Unit 10)	
	21. Writing Persuasive Essays 1: Health Issues (Unit 11) 22. Writing Persuasive Essays 2: Health Issues (Unit 11)	
	23. Writing Persuasive Essays 3: Health Issues (Unit 11), Peer Evaluation 24. Writing Comparison Essays 1: Education (Unit 12)	23. Essay 1
	25. Writing Comparison Essays 2: Education (Unit 12) 26. Writing Comparison Essays 3: Education (Unit 12)	
	27. Writing Comparison Essays 1: Education (Unit 13) 28. Writing Comparison Essays 2: Education (Unit 13)	
	29. Writing Comparison Essays 3: Education (Unit 13), Peer Evaluation,	29. Essay 2

	Reflection	
	30. Final Examination: Essay Writing: Essay 3	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE208-A71	2.科目名	実用英語 B		3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	専門教育／実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義+演習		
16.履修制限	40 名程度 *ただし履修希望者多数の場合は対応を検討する。					
17.授業の目的と概要	コロナによる中断はあったものの、訪日旅行客が戻ってきており、日本国内の様々な観光地では、外国人観光客を目にすることが多くなってきた。 私たちが日常生活で英語を使う可能性が高いのは、外国人観光客に対してである。この授業では、日本国内の観光地を英語で説明する教科書を用い、知識を得るのはもちろん、英語で日本の歴史や文化を説明できるようにすることを目的とする。また、「読む、聞く、話す」は教科書を用いて、「書く」は演習形式にて実践し、バランスよく英語を習得できるようにする。					
18.学習目標と DP との関連	DP(5)「コミュニケーションスキル」、(3)「多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）に関連し、外国人旅行者へ観光地への行き方や、名所旧跡、日本文化、飲食店で注文の受付や料理の説明など、簡単であっても英語で説明できるようにすること。また各授業前に提出する英語のエッセイや説明文の作成を通じ、英語のお知らせ等の書類作成ができるようにする。					
19.教科書・教材	Hospitality English 「おもてなしの観光英語」三修社 2016 年					
20.参考文献	特になし。適宜講義中に紹介する。					
21.成績評価	①毎日最終コマで提出するレポート 33%（4 回予定、授業中に Web Class へ提出） ②小テスト 33%（各日ごとに 4 回実施） ③各講義時の発表 33%（事前予習、発表内容などを総合評価）					
22.コメント	①各講義の内容や順序は、9 月時点のものであり、履修人数、学生諸君の理解度、進捗状況により、適宜変更されることがある。 ②授業の進め方 【各日 1～3 時間目】※最終日のみ 1～2 時間目 教科書の 1 単元を 1 コマで、日により 2～3 単元を進める。各単元の進め方は下記の通り。 1, 読み合わせ（段落ごとに 指名する。その段落について、意味の通訳をすること） 2, True False クイズ（本文の内容と説明文があるか回答する） 3, リスニング（単語の穴埋め。予習は不要） 4, 選択問題 1（予習は不要） 5, 英訳（正確な訳というより、意味が通じる訳を） 6, 選択問題 2、3 【各日 4 時間目】※最終日は 3 時間目 ・当日学習した 3 単元（最終日は 2 単元）のまとめテストを Webclass で行う ・日替わりのミニセッションと、残り時間は英作文の時間となり、時間内に Webclass に提出する。 ③予習・復習 ・この授業は、『予習が必須』である。授業前日までに、A,本文の読み合わせ、B,不明単語の意					

			味調べ、C,日本語による内容の説明（翻訳ではない）を行っておくこと。授業では、当てられた者が速やかに答えていかねばならない。自宅では、翌日の予習の時間をきっちり取り（目安 60～90 分）、準備を怠らないこと。（予習ができていない学生は、出席しても授業についていけず、単位の取得が困難になる） ・なお、各日に当日行った項目の小テストがあるので、帰宅後の「復習」は必須ではない。 ④注意事項 ・机の上には、授業と関係のないものは乗せないこと。（スマートフォン、飲み物、菓子等） ・教科書の Lesson は、コマ数の関係上、飛ばしているものがあるので、誤った項目を予習しないように、十分に注意すること。 ・予習のため、電子辞書や、翻訳サイトの使用しても構わないが、文章を翻訳させたものをそのまま授業に使用することは推奨しない。自身で必ず内容の意味が通るかを確認し、内容を頭に入れてから受講すること。 ・授業中も、単語の意味調べなどで電子辞書や、翻訳サイトの使用しても構わないが、同じく自身で説明ができていない場合は、予習がされていないとみなすこともあるので、注意すること。 ・各日には Webclass でのテストがあるため、PC/タブレットを持参すること。スマートフォンによる受験は認めない。 ⑤留学生対応 本講義は日本語を用い、英語を学習する。よって日本語が母国語でない場合は、英語の意味を日本語で説明する（外国語同士の訳）必要がある。しかしながら、実用的な英語を学ぶだけでなく、日本語学習の面でもプラスになるので、頑張って勉強してほしい。
23.オフィスアワー			授業の前・後に適宜対応する。また、Eメールでの質問は随時受け付ける。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
1 日目 (2/5)	Introduction and Orientation ・ 講師紹介 ・ 授業中のルール ・ この授業のねらい 事前講義 ・ 英作文 エッセイと説明文の違い、書き方 ・ 注意が必要な英語表現	【予習必須】 Lesson 1. An Attitude of Hospitality / Welcome to Japan Lesson 4. Sapporo Snow Festival 以上の各項の本文を予習し、分からない単語を調べ、日本語で意味が説明できるようにすること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行うので、予習は必須ではない。	
1 日目 (2/5)	Lesson 1. An Attitude of Hospitality / Welcome to Japan		
1 日目 (2/5)	Lesson 4. Sapporo Snow Festival ☆☆☆☆注意！ Lesson 2、Lesson 3 は飛ばします！ ☆☆☆☆		
1 日目 (2/5)	・ 1 日目 まとめテスト ・ Mini Session 「交通関係の英語」 ・ Writing Workshop エッセイの書き方を練習し、特定のトピックについて、自身の意見について英語で作文してみよう		
2 日目 (2/6)	Lesson 6. Yokohama Port	【予習必須】 Lesson 6. Yokohama Port Lesson 7. Mt. Fuji Lesson 9. The Deer in Nara 以上の各項の本文を予習し、分からない単語を調べ、日本語で意味が説明できるようにす	

		ること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行うので、予習は必須ではない。
2 日目 (2/6)	Lesson 7. Mt. Fuji	
2 日目 (2/6)	Lesson 9. The Deer in Nara ☆☆☆☆注意！Lesson 8 は飛ばします！☆☆☆☆	
2 日目 (2/6)	・2 日目 まとめテスト ・Mini Session「レストランやお店での英語」 ・Writing Workshop 説明文の書き方を練習し、特定のトピックについて、 中立的立場から英語で作文してみよう	
3 日目 (2/7)	Lesson 10. Kyoto Station	【予習必須】 Lesson 10. Kyoto Station Lesson 11. Let's explore Osaka Lesson 12. Port City Kobe: Phoenix Rises 以上の各項の本文を予習し、分からない単語 を調べ、日本語で意味が説明できるようにす ること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行 うので、予習は必須ではない。
3 日目 (2/7)	Lesson 11. Let's explore Osaka	
3 日目 (2/7)	Lesson 12. Port City Kobe: Phoenix Rises	
3 日目 (2/7)	・3 日目 まとめテスト ・Mini Session「ホテルや観光地での英語」 ・Writing Workshop 特定のトピックについて、自身の意見について英語で 作文してみよう	
4 日目 (2/8)	Lesson 14. The Atomic Bomb Dome ☆☆☆☆注意！Lesson 13 は飛ばします！ ☆☆☆☆	【予習必須】 Lesson 14. The Atomic Bomb Dome Lesson 15. Dazaifu 以上の各項の本文を予習し、分からない単語 を調べ、日本語で意味が説明できるようにす ること。 聞き取りや、穴埋め問題などは、授業中に行 うので、予習は必須ではない。
4 日目 (2/8)	Lesson 15. Dazaifu	
4 日目 (2/8)	・4 日目まとめテスト ・Mini Session「学校での英語」 ・Writing Workshop 特定のトピックについて、中立的立場から英語で作文 してみよう	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE209-Y71	2.科目名	リーディング・ライティング 3		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力＋テスト知識」を以て TOEIC (R)L&R テスト 500 点以上のスコア取得を目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結する英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人（読む人）が理解しやすい情報の提示法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と英語力を身につける。					
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC (R) L&R TEST（センゲージ ラーニング）					
20.参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。					
21.成績評価	・ 授業参加度： 30 点（学習目標②に対応） ・ 小テスト： 30 点（学習目標①に対応） ・ 期末テスト： 40 点（学習目標①に対応）					
22.コメント	・ 教科書を購入していない学生は、評価の対象外とすることがあります。 ・ 授業中に自発的に発言した学生には、評価点を加算します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	Unit 11 Personnel Unit 11 確認テスト			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読		
2 日目	Unit 12 Business Ventures Unit 12 確認テスト			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読		
3 日目	Unit 13 Media Unit 13 確認テスト			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全ての音読		
4 日目	Unit 14 Entertainment Unit 14 確認テスト			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱った文書を自力で訳せるように／学習箇所全		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	FLE307-Y01	2.科目名	エアライン実務英語Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修・選択の区 分	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3rd year	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture, presentation and exercises		
16.履修制限	This course is for the 3rd year Tourism students who plan to plan to pursue a career in the airline indu stry.					
17.授業の目的と概要	This course aims to develop students' English skills in airport ground staff roles as well as in-flight co mmunication in the airline industry.					
18.学習目標と DPとの関連	1. The students will be able to develop confidence and competence in the use of the English language in hospitality roles. 2. Students will be able to communicate effectively and accurately with future colleagues and guests t hrough role-play exercises, audio-visual materials and discussion in class. 3. The students will be able to have a grasp of the kind of hospitality that is required in the services pr ovided by airlines.					
19.教科書・教材	Textbook title: Hospitality English (ANA Strategic Research Institute) Publisher: Halico Creative Education ISBN: 9784909730329					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities 30% 2.Group task, Speaking task and Presentation 20% 3. Midterm Task 20% 4. Final Task 30%					
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson session s this semester.					
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Day 1 Course Introduction Lesson Discussion: Ground Staff Unit 1: Lesson Introduction In-class activity					

	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 1: Practical Training Lesson Discussion: Ground Staff Unit 2: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 2: Practical Training	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 3: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 3: Practical Training	
	Midterm Task and Midterm Test	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 4: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 4: Practical Training In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 5: Lesson Introduction In-class activity	
	Lesson Discussion: Ground Staff Unit 5: Practical Training In-class activity	
	In-class activity Lesson Discussion: Ground Staff Unit 6: Lesson Introduction In-class activity	
	In-class activity Lesson Discussion: Ground Staff Unit 6: Practical Training In-class activity	
	Final Speaking Task: Airline Announcement	
	Final Speaking Task: Airline Announcement Part 2	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLK101-A01	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅰ (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学生 (現代社会学部生除く)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 (うち 1 5 回分はオンデマンドで実施)		
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4. 異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①日本語と比較しながらハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% (学習目標の①④に対応) 総合テスト 50% (学習目標の①～④に対応)					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びリボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一步でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあります。 ※※【火曜 3 限はオンデマンド動画／4 限は教室にて対面授業】※※					
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 【第 2 回】 ・韓国・韓国語の紹介、韓国語と日本語の比較 【第 2 回】 韓国・韓国語の紹介、韓国語と日本語の比較／ワークシート			・シラバスの確認 ・ハングルの理解		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 文字と発音 1：母音字①② ー基本母音を中心に母音を習得する ー日本語の母音と韓国語の母音の比較 【第 4 回】 文字と発音 1：母音字①② ー基本母音を中心に母音を習得する／ワークシート ー日本語の母音と韓国語の母音の比較			次回の授業までに基本母音を読めて書けるようになるまで練習すること		

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する －日本語の子音と韓国語の子音の比較 【第 6 回】 文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する／ワークシート －日本語の子音と韓国語の子音の比較	次回の授業までに基本子音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する 【第 8 回】 文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する／ワークシート	次回の授業までに激音・濃音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する 【第 10 回】 文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する／ワークシート	次回の授業までに合成母音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 文字と発音 5：パッチム －日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する 【第 12 回】 文字と発音 5：パッチム －日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する／ワークシート	次回の授業までにパッチムを読めて書けるようになるまで練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 文字と発音 6：発音のルール －発音法則を理解し、発音の練習をする 【第 14 回】 文字と発音 6：発音のルール －発音法則を理解し、発音の練習をする／ワークシート	次回の授業までに発音法則に沿った発音の練習をすること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 第 1 課「私の名前は藤井恵美です」① －「A は B ですか?」「A は B です」の表現を学ぶ 【第 16 回】	・名詞文の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	第1課「私の名前は藤井恵美です」② －「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ	
【第17回】 【第18回】	【第17回】 第2課「学生ではありません」① －「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ 【第18回】 第2課「学生ではありません」② －「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第19回】 【第20回】	【第19回】 第3課「携帯の番号は何番ですか」① －「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ 【第20回】 第3課「携帯の番号は何番ですか」② －「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ	・漢数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第21回】 【第22回】	【第21回】 第4課「私の辞書は家にあります」① －???体の終結語尾と存在詞について学ぶ 【第22回】 第4課「私の辞書は家にあります」② －???体の終結語尾と存在詞について学ぶ	・動詞、形容詞、存在詞の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第23回】 【第24回】	【第23回】 第5課「誕生日はいつですか」① －年月日の言い方を学ぶ 【第24回】 第5課「誕生日はいつですか」② －年月日の言い方を学ぶ	・～年～月～日の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第25回】 【第26回】	【第25回】 第6課「私より2歳年下です」① －固有数詞と用言の否定文を学ぶ 【第26回】 第6課「私より2歳年下です」② －固有数詞と用言の否定文を学ぶ	・固有数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第27回】 【第28回】	【第27回】 第7課「授業は何時に終わりますか」① －「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ 【第28回】 第7課「授業は何時に終わりますか」② －「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ	・～時～分の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

【第 2 9 回】 【第 3 0 回】	【第 2 9 回】 今まで学んだ文法のまとめ① 【第 3 0 回】 今まで学んだ文法のまとめ②	総復習

1.授業コード (ナンバリング)	FLK101-M01	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅰ (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学生 (現代社会学部生除く)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習 (うち 1 5 回分はオンデマンドで実施、 うち 1 5 回分はオンライン(ZOOM)で実施)	
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の 3、多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1、修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4、異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①日本語と比較しながらハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% (学習目標の①④に対応) 総合テスト 50% (学習目標の①～④に対応)					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一歩でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあります。 ※※【木曜 1 限はオンライン(ZOOM)授業／2 限はオンデマンド動画】※※					
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 【第 2 回】 ・韓国・韓国語の紹介、韓国語と日本語の比較 【第 2 回】 韓国・韓国語の紹介、韓国語と日本語の比較／ワークシート			・シラバスの確認 ・ハングルの理解		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 文字と発音 1：母音字①② －基本母音を中心に母音を習得する －日本語の母音と韓国語の母音の比較 【第 4 回】 文字と発音 1：母音字①② －基本母音を中心に母音を習得する／ワークシート －日本語の母音と韓国語の母音の比較			次回の授業までに基本母音を読めて書けるようになるまで練習すること		

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する －日本語の子音と韓国語の子音の比較 【第 6 回】 文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する／ワークシート －日本語の子音と韓国語の子音の比較	次回の授業までに基本子音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する 【第 8 回】 文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する／ワークシート	次回の授業までに激音・濃音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する 【第 10 回】 文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する／ワークシート	次回の授業までに合成母音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 文字と発音 5：パッチム －日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する 【第 12 回】 文字と発音 5：パッチム －日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する／ワークシート	次回の授業までにパッチムを読めて書けるようになるまで練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 文字と発音 6：発音のルール －発音法則を理解し、発音の練習をする 【第 14 回】 文字と発音 6：発音のルール －発音法則を理解し、発音の練習をする／ワークシート	次回の授業までに発音法則に沿った発音の練習をすること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 第 1 課「私の名前は藤井恵美です」① －「A は B ですか?」「A は B です」の表現を学ぶ	・名詞文の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	【第16回】 第1課「私の名前は藤井恵美です」② －「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ	
【第17回】 【第18回】	【第17回】 第2課「学生ではありません」① －「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ 【第18回】 第2課「学生ではありません」② －「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第19回】 【第20回】	【第19回】 第3課「携帯の番号は何番ですか」① －「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ 【第20回】 第3課「携帯の番号は何番ですか」② －「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ	・漢数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第21回】 【第22回】	【第21回】 第4課「私の辞書は家にあります」① －???体の終結語尾と存在詞について学ぶ 【第22回】 第4課「私の辞書は家にあります」② －???体の終結語尾と存在詞について学ぶ	・動詞、形容詞、存在詞の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第23回】 【第24回】	【第23回】 第5課「誕生日はいつですか」① －年月日の言い方を学ぶ 【第24回】 第5課「誕生日はいつですか」② －年月日の言い方を学ぶ	・～年～月～日の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第25回】 【第26回】	【第25回】 第6課「私より2歳年下です」① －固有数詞と用言の否定文を学ぶ 【第26回】 第6課「私より2歳年下です」② －固有数詞と用言の否定文を学ぶ	・固有数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第27回】 【第28回】	【第27回】 第7課「授業は何時に終わりますか」① －「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ 【第28回】 第7課「授業は何時に終わりますか」② －「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現	・～時～分の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	を学ぶ	
【第 2 9 回】 【第 3 0 回】	【第 2 9 回】 今まで学んだ文法のまとめ① 【第 3 0 回】 今まで学んだ文法のまとめ②	総復習

1.授業コード (ナンバリング)	FLK101-Y01	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅰ (2024年度生以前)・グローバル学部		3.単位数	2
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学生 (現代社会学部生除く)			9.履修学年	1年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習 (うち15回分はオンデマンドで実施、 うち15回分はオンライン(ZOOM)で実施)	
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP (ディプロマ・ポリシー) の3、多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1、修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4、異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①日本語と比較しながらハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% (学習目標の①④に対応) 総合テスト 50% (学習目標の①～④に対応)					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一歩でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましょう。 ※スケジュールは変更することがあります。 ※※【木曜1限はオンライン(ZOOM)授業／2限はオンデマンド動画】※※					
23.オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 【第2回】 ・韓国・韓国語の紹介、韓国語と日本語の比較 【第2回】 韓国・韓国語の紹介、韓国語と日本語の比較／ワークシート			・シラバスの確認 ・ハングルの理解		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 文字と発音1：母音字①② ー基本母音を中心に母音を習得する ー日本語の母音と韓国語の母音の比較 【第4回】 文字と発音1：母音字①② ー基本母音を中心に母音を習得する／ワークシート ー日本語の母音と韓国語の母音の比較			次回の授業までに基本母音を読めて書けるようになるまで練習すること		

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する －日本語の子音と韓国語の子音の比較 【第 6 回】 文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する／ワークシート －日本語の子音と韓国語の子音の比較	次回の授業までに基本子音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する 【第 8 回】 文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する／ワークシート	次回の授業までに激音・濃音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する 【第 10 回】 文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する／ワークシート	次回の授業までに合成母音を読めて書けるようになるまで練習すること
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 文字と発音 5：パッチム －日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する 【第 12 回】 文字と発音 5：パッチム －日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する／ワークシート	次回の授業までにパッチムを読めて書けるようになるまで練習すること
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 文字と発音 6：発音のルール －日本語にはない韓国語の発音法則を理解し、発音の練習をする 【第 14 回】 文字と発音 6：発音のルール －日本語にはない韓国語の発音法則を理解し、発音の練習をする／ワークシート	次回の授業までに発音法則に沿った発音の練習をすること
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 第 1 課「私の名前は藤井恵美です」①	・名詞文の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書

	ー「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う 【第16回】 第1課「私の名前は藤井恵美です」② ー「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う	けるようになるまで練習すること
【第17回】 【第18回】	【第17回】 第2課「学生ではありません」① ー「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う 【第18回】 第2課「学生ではありません」② ー「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第19回】 【第20回】	【第19回】 第3課「携帯の番号は何番ですか」① ー「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う 【第20回】 第3課「携帯の番号は何番ですか」② ー「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う	・漢数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第21回】 【第22回】	【第21回】 第4課「私の辞書は家にあります」① ー???体の終結語尾と存在詞について学ぶ ー日本語との対照・比較を行う 【第22回】 第4課「私の辞書は家にあります」② ー???体の終結語尾と存在詞について学ぶ ー日本語との対照・比較を行う	・動詞、形容詞、存在詞の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第23回】 【第24回】	【第23回】 第5課「誕生日はいつですか」① ー年月日の言い方を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う 【第24回】 第5課「誕生日はいつですか」② ー年月日の言い方を学ぶ ー日本語との対照・比較を行う	・～年～月～日の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第25回】 【第26回】	【第25回】 第6課「私より2歳年下です」① ー固有数詞と用言の否定文を学ぶ	・固有数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること

	－日本語との対照・比較を行う 【第 2 6 回】 第 6 課「私より 2 歳年下です」② －固有数詞と用言の否定文を学ぶ －日本語との対照・比較を行う	
【第 2 7 回】 【第 2 8 回】	【第 2 7 回】 第 7 課「授業は何時に終わりますか」① －「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ －日本語との対照・比較を行う 【第 2 8 回】 第 7 課「授業は何時に終わりますか」② －「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ －日本語との対照・比較を行う	・～時～分の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第 2 9 回】 【第 3 0 回】	【第 2 9 回】 －日本語との対照・比較を行いながら今まで学んだ文法のまとめ① 【第 3 0 回】 －日本語との対照・比較を行いながら今まで学んだ文法のまとめ②	総復習

1.授業コード (ナンバリング)	FLK103-A01	2.科目名	韓国・朝鮮語（2025 年度生）（オンデマン ド）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学生			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4. 異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①日本語と比較しながらハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% （学習目標の①④に対応） 総合テスト 50% （学習目標の①～④に対応）					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一步でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましよう。 ※スケジュールは変更することがあります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 ・韓国語の紹介、韓国語と日本語との比較			・シラバスの確認 ・ハングルの理解		
【第 2 回】	文字と発音 1：母音字①② －基本母音を中心に母音を習得する －日本語の母音と韓国語の母音の比較			次回の授業までに基本母音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 3 回】	文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する －日本語の子音と韓国語の子音の比較			次回の授業までに基本子音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 4 回】	文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する			次回の授業までに激音・濃音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 5 回】	文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する			次回の授業までに合成母音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 6 回】	文字と発音 5：パッチム			次回の授業までにパッチムを読めて書けるよ		

	ー日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する	うになるまで練習すること
【第7回】	文字と発音6：発音のルール ー発音法則を理解し、発音の練習をする	次回の授業までに発音法則に沿った発音の練習をすること
【第8回】	第1課「私の名前は藤井恵美です」 ー「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ	・名詞文の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第9回】	第2課「学生ではありません」 ー「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第10回】	第3課「携帯の番号は何番ですか」 ー「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ	・漢数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第11回】	第4課「私の辞書は家にあります」 ー???体の終結語尾と存在詞について学ぶ	・動詞、形容詞、存在詞の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第12回】	第5課「誕生日はいつですか」 ー年月日の言い方を学ぶ	・～年～月～日の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第13回】	第6課「私より2歳年下です」 ー固有数詞と用言の否定文を学ぶ	・固有数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第14回】	第7課「授業は何時に終わりますか」 ー「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ	・～時～分の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第15回】	今まで学んだ文法のまとめ	総復習

1.授業コード (ナンバリング)	FLK103-M01	2.科目名	韓国・朝鮮語（2025 年度生）（オンデマン ド）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学生			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4. 異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①日本語と比較しながらハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% （学習目標の①④に対応） 総合テスト 50% （学習目標の①～④に対応）					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一步でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましよう。 ※スケジュールは変更することがあります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 ・韓国語の紹介、韓国語と日本語との比較			・シラバスの確認 ・ハングルの理解		
【第 2 回】	文字と発音 1：母音字①② －基本母音を中心に母音を習得する －日本語の母音と韓国語の母音の比較			次回の授業までに基本母音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 3 回】	文字と発音 2：子音字(平音) －平音を中心に子音を習得する －日本語の子音と韓国語の子音の比較			次回の授業までに基本子音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 4 回】	文字と発音 3：子音字(激音、濃音) －日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する			次回の授業までに激音・濃音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 5 回】	文字と発音 4：母音字③ －日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する			次回の授業までに合成母音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 6 回】	文字と発音 5：パッチム			次回の授業までにパッチムを読めて書けるよ		

	ー日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する	うになるまで練習すること
【第7回】	文字と発音6：発音のルール ー発音法則を理解し、発音の練習をする	次回の授業までに発音法則に沿った発音の練習をすること
【第8回】	第1課「私の名前は藤井恵美です」 ー「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ	・名詞文の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第9回】	第2課「学生ではありません」 ー「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第10回】	第3課「携帯の番号は何番ですか」 ー「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ	・漢数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第11回】	第4課「私の辞書は家にあります」 ー???体の終結語尾と存在詞について学ぶ	・動詞、形容詞、存在詞の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第12回】	第5課「誕生日はいつですか」 ー年月日の言い方を学ぶ	・～年～月～日の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第13回】	第6課「私より2歳年下です」 ー固有数詞と用言の否定文を学ぶ	・固有数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第14回】	第7課「授業は何時に終わりますか」 ー「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ	・～時～分の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第15回】	今まで学んだ文法のまとめ	総復習

1.授業コード (ナンバリング)	FLK103-Y01	2.科目名	韓国・朝鮮語（2025 年度生）（オンデマン ド）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高秀美					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学生			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	入門クラスなので、はじめて韓国語を学ぶ学生が望ましいです。					
17.授業の目的と概要	様々な形で韓国語と韓国の生活文化を学び、日本語、日本文化との比較を行いながら基礎的な文法、日常会話などの学習を進めて行きます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力、S1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、K4. 異なる価値観を理解意し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーションを備える、の学修に関連しています。 ①日本語と比較しながらハングル文字の仕組みを理解し説明できる。 ②自由に文章を組み立て、会話に生かすことができる。 ③韓国の生活文化を学ぶ。					
19.教科書・教材	『パランセ韓国語初級(三訂版)』、金京子/喜多恵美子、朝日出版社、2021 発売					
20.参考文献	授業時に紹介します。					
21.成績評価	課題の提出 50% （学習目標の①④に対応） 総合テスト 50% （学習目標の①～④に対応）					
22.コメント	どの国の言葉もそれを共に学ぶ人たちの心を結びボンの役割をすると信じています。一つの単語を知り、少しずつ韓国語で会話できる楽しさをぜひ感じてほしいです。韓国語の最初の一步でつまづかないように少しでも疑問があれば授業終了後に質問するようにこころがけましよう。 ※スケジュールは変更することがあります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション：授業の流れや成績評価についての説明 ・韓国語の紹介、韓国語と日本語との比較			・シラバスの確認 ・ハングルの理解		
【第 2 回】	文字と発音 1：母音字①② ー基本母音を中心に母音を習得する ー日本語の母音と韓国語の母音の比較			次回の授業までに基本母音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 3 回】	文字と発音 2：子音字(平音) ー平音を中心に子音を習得する ー日本語の子音と韓国語の子音の比較			次回の授業までに基本子音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 4 回】	文字と発音 3：子音字(激音、濃音) ー日本語にはない子音「激音」と「濃音」を中心に子音を習得する			次回の授業までに激音・濃音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 5 回】	文字と発音 4：母音字③ ー日本語にはない母音「合成母音」を中心に母音を習得する			次回の授業までに合成母音を読めて書けるようになるまで練習すること		
【第 6 回】	文字と発音 5：パッチム			次回の授業までにパッチムを読めて書けるよ		

	ー日本語にはない音節末の子音「パッチム」を習得する	うになるまで練習すること
【第7回】	文字と発音6：発音のルール ー発音法則を理解し、発音の練習をする	次回の授業までに発音法則に沿った発音の練習をすること
【第8回】	第1課「私の名前は藤井恵美です」 ー「AはBですか?」「AはBです」の表現を学ぶ	・名詞文の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第9回】	第2課「学生ではありません」 ー「～ではありません」、「～ではなく」の表現を学ぶ	・否定形の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第10回】	第3課「携帯の番号は何番ですか」 ー「いち、に、さん」の漢数詞と「～しています」の表現を学ぶ	・漢数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第11回】	第4課「私の辞書は家にあります」 ー???体の終結語尾と存在詞について学ぶ	・動詞、形容詞、存在詞の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第12回】	第5課「誕生日はいつですか」 ー年月日の言い方を学ぶ	・～年～月～日の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第13回】	第6課「私より2歳年下です」 ー固有数詞と用言の否定文を学ぶ	・固有数字の暗記 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第14回】	第7課「授業は何時に終わりますか」 ー「～時～分」の言い方と「～しましょうか」の表現を学ぶ	・～時～分の練習 ・次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるようになるまで練習すること
【第15回】	今まで学んだ文法のまとめ	総復習

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A01	2.科目名	初年次セミナー（教育福祉 1/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組めます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組めます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整			【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの：第1回】 履修要項		
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩たちへのインタビューをもとに-』			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿		

	①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生生活で実現したいことは何?』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（1）(グループワーク)』 ①地域の人との交流としてインタビューやアンケート	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	調査を実施(1) ②仲間との連携(1)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする(2)(グループワーク)』 ①地域の人との交流(2) ②仲間との連携(2)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築 活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A02	2.科目名	初年次セミナー（教育福祉 2/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI の利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整			【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩た			【教室外学習：次週までに】		

	ちへのインタビューをもとに-』 ①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	◎記事投稿 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何?』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（1）(グループワーク)』	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	①地域の人との交流(1) ②仲間との連携(1)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする(2)(グループワーク)』 ①地域の人との交流(2) ②仲間との連携(2)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築 活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A03	2.科目名	初年次セミナー（教育福祉 3/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組めます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組めます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整			【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩たちへのインタビューをもとに-』			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿		

	①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【持参するもの：第2回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第3回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何?』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第4回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第5回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第6回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第7回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第8回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第9回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第10回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（1）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(1)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	②仲間との連携(1)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリピックの実践をする(2)(グループワーク)』 ①地域の人との交流(2) ②仲間との連携(2)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築 活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1 週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A04	2.科目名	初年次セミナー（教育福祉 4/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組めます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組めます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス』 ①本科目の内容、ねらいについてのガイダンス ②入学前課題の確認 ③履修登録の確認 ④新入生アンケートへの回答 ⑤個別面談の予約調整			【教室外学習】 他者インタビューの確認 履修登録の確認 新入生アンケートへの回答 【持参するもの：第1回】 履修要項		
第 2 回	キャリアビジョン『大学生活をイメージしよう-先輩たちへのインタビューをもとに-』			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿		

	①先輩にインタビューする ②インタビュー内容のチーム内共有 ③インタビュー内容の全体共有 ④大学生活の過ごし方(1 年次)(WebClass への記事投稿) ⑤人間関係構築(講義)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	キャリアビジョン『大学生活で実現したいことは何?』 ①目標(実現したいこと)設定 ②目標発表(チーム) ③取り組み計画の立案 ④取り組み計画の発表(チーム) ⑤全体共有(もっともよい取り組み計画) ⑥人間関係構築(アイスブレイク)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 取り組み計画の立案と共有
第 4 回	キャリアビジョン『夢を実現するために(タイムマネジメント)』 ①タイムマネジメントについて学ぶ ②1 週間の予定を可視化する(ワークシート) ③やりたいことを組み込む ④人間関係構築(関係づくり)のワーク(cf.WebClass カスタマイズ教材)	【教室外学習：次週までに】 提出物：1 週間の予定ワークシート（以後、ワークは WebClass に提出すること）
第 5 回	『情報検索学習』 メディアライブラリーにて実施	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 6 回	考える力『現象から問題を発見する-地域の問題を発見する-』 ①実施までの計画の共有 ②計画に必要なものを考える(個人) ③計画に必要なものを共有(チーム)、作成方法を考える	【教室外学習：次週までに】 作成に必要なものを準備する
第 7 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の仮説を立てる』 ①『赤ちゃんはいはいオリンピック』地域の課題解決について考える(個人) ②地域の課題解決についての発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 地域の課題解決についての結果をまとめる ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴっくに向けての抱負」
第 8 回	考える力『赤ちゃんはいはいオリンピック実施の準備をする(個人ワーク)』 ①準備物作成への準備と取り組み(個人) ②準備物作成への準備と取り組み(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成への準備
第 9 回	人間関係の構築『仲間とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの準備をする(グループワーク)』 ①実践準備物の作成(チーム) ②実践準備物の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 準備物作成
第 10 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリンピックの実践をする（1）(グループワーク)』 ①地域の人との交流(1)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿の準備

	②仲間との連携(1)	
第 11 回	人間関係の構築『仲間や地域の人とともに赤ちゃんはいはいオリピックの実践をする(2)(グループワーク)』 ①地域の人との交流(2) ②仲間との連携(2)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「赤ちゃんはいはいおりんぴくを実践して」
第 12 回	人間関係の構築 活動を振り返り、今後の学生生活や学びにどう活かすか、活かせるかを考える ①1週間の計画を立てる ②実行計画の作成(個人) ③実行計画の発表(チーム)	【教室外学習：次週までに】 実行計画の作成
第 13 回	プレゼン『チーム内発表と発表資料の作成』 ①チーム内発表 ②発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第 14 回	プレゼン『チーム内発表とゼミ内発表』 ①チーム内発表とチーム代表の決定 ②チーム代表の発表	
第 15 回	プレゼン『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり(WebClass 記事投稿)	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「初年次セミナーを振り返って」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A07	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 1/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水昼休み 研究室ーオフィスアワー：火 5 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー		

	1 年次の科目の履修を確定します。	【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。授業中に指示します。	
第9回（6/5）	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回（6/12）	【考える力①】『現象から問題を発見する』社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回（6/19）	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』問題設定の仮説を立てます。「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回（6/26）	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回（7/3）	【考える力④】『主張を定める』あなたの主張を明確に定めます。「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回（7/10）	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回（7/17）	『初年次セミナーふりかえり』初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A08	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 2/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水昼休み 研究室ーオフィスアワー：火 5 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー		

	1 年次の科目の履修を確定します。	【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。授業中に指示します。	
第9回（6/5）	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回（6/12）	【考える力①】『現象から問題を発見する』社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回（6/19）	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』問題設定の仮説を立てます。「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回（6/26）	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回（7/3）	【考える力④】『主張を定める』あなたの主張を明確に定めます。「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回（7/10）	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回（7/17）	『初年次セミナーふりかえり』初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A09	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 3/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	指定されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー		

	1 年次の科目の履修を確定します。	【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。授業中に指示します。	
第9回（6/5）	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回（6/12）	【考える力①】『現象から問題を発見する』社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回（6/19）	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』問題設定の仮説を立てます。「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回（6/26）	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回（7/3）	【考える力④】『主張を定める』あなたの主張を明確に定めます。「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回（7/10）	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回（7/17）	『初年次セミナーふりかえり』初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A10	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 4/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水昼休み 研究室ーオフィスアワー：火 5 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー		

	1 年次の科目の履修を確定します。	【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。授業中に指示します。	
第9回（6/5）	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回（6/12）	【考える力①】『現象から問題を発見する』社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回（6/19）	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』問題設定の仮説を立てます。「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回（6/26）	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回（7/3）	【考える力④】『主張を定める』あなたの主張を明確に定めます。「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回（7/10）	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回（7/17）	『初年次セミナーふりかえり』初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A11	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 5/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	セミナー		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	初年次セミナーは1年生を中心として行なう。テキストを利用して大学で学ぶプロセスについて今後必要な基礎知識を重点的に身につけられるようにする。 続いて各自に関心のあるテーマを選んで報告を行ってもらい質疑・討論の仕方についても訓練を行なえるようにしたい。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解(4)問題発見・解決力に関連しています。 学習目標： 学術研究のプロセスを理解する。 データを分析し、プレゼンテーション、討論ができるようになる。					
19.教科書・教材	必要な資料配布。					
20.参考文献	新聞、ビジネス関係雑誌、日本語新聞、英字新聞、DVD など。必要に応じてプリントを配る。					
21.成績評価	レポート（80％）・授業態度（20％）					
22.コメント	本学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションする授業展開を目指します。スライドの配布はしません。 学習意欲のある学生の受講を希望します。私語をしない、携帯電話は使用しない（メールや時計利用も含む）、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しない、ルールの厳守。					
23.オフィスアワー	?曜?昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション、学習?標と評価?法の確認等			PC 持参		
第2回	大学で学ぶということ			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第3回	批判的思考とは何か			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第4回	コミュニケーションが批判的思考を育てる			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第5回	学術研究とは			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第6回	学術研究のプロセス①			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第7回	学術研究のプロセス②			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第8回	聴く・大学教員の講義スタイル			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第9回	講義中のポイント・講義後のポイント			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第10回	読む・文章の要約・学術書籍の読み方			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第11回	文献の批判的読解・図表の批判的読解			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第12回	調べる・情報の鮮度と信頼性・文献を調べ・政府刊行物			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第13回	データを収集する・データを分析する・伝える～プレゼンテーション			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		

第 14 回	わかりやすい日本語を書く・レポート・論文の書き方・レポートの構成	前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参
第 15 回	まとめ	レポート作成・提出

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A12	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 6/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み（神戸山手キャンパス） 学修支援センター：木曜昼休み（尼崎キャンパス）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』			【教室外学習：次週までに】		

(4/10)	本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。	他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの 大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませ ましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは 何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定し ます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を 設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使 い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませ ましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章 を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章 を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリー	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ

	の活用について学びます。教室でのガイダンス後に実際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。授業中に指示します。	と)
第9回 (6/5)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回 (6/12)	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回 (6/19)	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回 (6/26)	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回 (7/3)	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回 (7/10)	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回 (7/17)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A13	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 7/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20% ○WebClass への記事投稿 10% ○時事ワークシート 10% ○プレゼンテーションの作成と発表 20% ○期末レポート 30% ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10% ① 生成 AI 利用に関して、■条件付きで認めます。AI 生成された内容のコピーは認められません。 ② 成績評価に関わる課題・レポートについて、AI 生成を利用する内容は、提出物の分量の 50%以下のである					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日昼休み					

研究室－オフィスアワー：水曜日 3 限		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。	【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起らないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起らないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起らないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起らないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起らないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起らないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起らないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起らないのか』第 4 章

		を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実際にメディアライブラリー（1 号館 3 階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ 2 ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。授業中に指示します。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 9 回 (6/5)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 10 回 (6/12)	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 11 回 (6/19)	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 12 回 (6/26)	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 13 回 (7/3)	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第 14 回 (7/10)	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回 (7/17)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミの WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00。（評価の 30%に相当） ○WebClass への記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-A14	2.科目名	初年次セミナー（経営尼崎 8/8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	研究室ーオフィスアワー：火昼休					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第1回】		

		履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実際にメディアライブラリー（1 号館 3 階）に移動し、高	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室 変更するゼミがあります。授業中に指示します。	
第9回 (6/5)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回 (6/12)	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確に します。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と）
第11回 (6/19)	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と）
第12回 (6/26)	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改 善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と）
第13回 (7/3)	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回 (7/10)	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ う。
第15回 (7/17)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグルー プ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミの WebClass へ提出す る。提出期限は 7/25（金）17：00。（評価の 30％に相当） ○WebClass への記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M01	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 1）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー		

	1 年次の科目の履修を確定します。	【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。 第8回 5/29 上村ゼミ・百済ゼミ：4-204 第9回 6/5 北村ゼミ・浮田ゼミ：4-203	
第9回（6/5）	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回 （6/12）	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回 （6/19）	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回 （6/26）	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回 （7/3）	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回 （7/10）	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回 （7/17）	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17：00。（評価の30％に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M02	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 2）		3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/10)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー		

	1 年次の科目の履修を確定します。	【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリーの活用について学びます。教室でのガイダンス後に実	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。 第8回 5/29 上村ゼミ・百済ゼミ：4-204 第9回 6/5 北村ゼミ・浮田ゼミ：4-203	
第9回（6/5）	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回 （6/12）	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回 （6/19）	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回 （6/26）	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回 （7/3）	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回 （7/10）	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回 （7/17）	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M03	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』			【教室外学習：次週までに】		

(4/10)	本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。	他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの 大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませ ましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは 何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定し ます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を 設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使 い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませ ましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章 を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ と） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こ らないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章 を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリー	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参するこ

	の活用について学びます。教室でのガイダンス後に実際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。 第8回 5/29 上村ゼミ・百済ゼミ：4-204 第9回 6/5 北村ゼミ・浮田ゼミ：4-203	と)
第9回 (6/5)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回 (6/12)	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回 (6/19)	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回 (6/26)	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回 (7/3)	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回 (7/10)	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回 (7/17)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17:00。（評価の30%に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M04	2.科目名	初年次セミナー（経営三木 4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたゼミで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミの活動ではメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのよ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※「学習技術」教科書					
21.成績評価	○ワークシートの完成と提出 20％ ○WebClass への記事投稿 10％ ○時事ワークシート 10％ ○プレゼンテーションの作成と発表 20％ ○期末レポート 30％ ※期末レポートは各担当者の WebClass へ提出する。提出期限は 7/25（金）17：00 ○入学前 KUIS s ドリル課題の達成度 10％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜日・4 限 研究室ーオフィスアワー：木曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』			【教室外学習：次週までに】		

(4/10)	本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。	他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項
第 2 回 (4/17)	【キャリアビジョン①】『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回 (4/24)	【キャリアビジョン②】『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 ※生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	【持参するもの】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 4 回 (5/1)	【キャリアビジョン③】『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 ※生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章を読んでおく。
第 5 回 (5/8)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 1 章の復習 朝日新聞『天声人語』とは？ 「時事ワークシート」の実施①	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章を読んでおく。
第 6 回 (5/15)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 2 章 「時事ワークシート」の実施②	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：次週までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章を読んでおく。
第 7 回 (5/22)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 3 章 「時事ワークシート」の実施③	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） ○第 5～9 回課題図書『勉強する気はなぜ起こらないのか』 【教室外学習：第 9 回までに】 『勉強する気はなぜ起こらないのか』第 4 章を読んでおく。
第 8 回 (5/29)	『情報検索実習』 インプット作業の基本となる、メディアライブラリー	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）

	の活用について学びます。教室でのガイダンス後に実際にメディアライブラリー（1号館3階）に移動し、高校までの図書室との違いを体験します。 ※『情報検索実習』の回のみ2ゼミ合同で実施。教室変更するゼミがあります。 第8回 5/29 上村ゼミ・百済ゼミ：4-204 第9回 6/5 北村ゼミ・浮田ゼミ：4-203	と)
第9回 (6/5)	『勉強する気はなぜ起こらないのか』第4章 「時事ワークシート」の実施④	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回 (6/12)	【考える力①】『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第11回 (6/19)	【考える力②】『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。 「時事ワークシート」の実施⑤	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第12回 (6/26)	【考える力③】『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。 「時事ワークシート」の実施⑥	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第13回 (7/3)	【考える力④】『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。 「時事ワークシート」の実施⑦	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 スライド作成など発表準備を行う。
第14回 (7/10)	『ゼミ内発表と最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内で発表し、最優秀発表を決めます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回 (7/17)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【持参するもの】 ○ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポートをゼミのWebClassへ提出する。提出期限は7/25（金）17：00。（評価の30％に相当） ○WebClassへの記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M06	2.科目名	初年次セミナー（看護1）		3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、西村美登里、吉井ひろ子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習・グループワーク		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 15% WebClass への記事投稿 40% 課題シート 5 % 第 13 回目発表に対する他者評価 5 %と自己評価 1 5 % 看護職講話レポート 20% 26.アサイメント（宿題）などの欄で成績評価対象となるものに対しては■が表示されています。					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4 月 8 日 (火) 3 限	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項 P C（以後毎回持参する）		

第 2 回 4 月 1 5 日 (火) 3 限	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「自己紹介」 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること） 【アサイメント】 「私を表す 5 つのキーワード」を考えてくる。
第 3 回 4 月 22 日 (火) 3 限	ウォーミングアップ ゼミナール入門（続編） 仲間に質問してみよう（課題図書 13 章 質問力を鍛える）	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回 5 月 13 日 (火) 3 限	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	記事投稿 ■「大学生活の過ごし方（1 年次）2025 年 4 月」 文字数 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 5 回 5 月 20 日 (火) 3 限	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	ワークシート ■計画ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 6 回 5 月 27 日 (火) 3 限	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。	ワークシート ■週間予定ワークシート ■取組分類ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 7 回 5 月 30 日 (金) 2 限※各グループの状況により設定	アドバイザー学生企画 懇親会 予算と時間が決められたルールの中でメンバーと協力しながら、懇親会を企画実施をしてみよう。 ※開催日時はアドバイザーの先生方と相談して決めて下さい。	■記事投稿 「懇親会を企画して」 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 8 回	情報検索実習 2 クラスに分かれて行います。自分の参加日を確認して下さい。 6 月 3 日（火）4 限 A クラス LC（1～8） 6 月 4 日（水）3 限 B クラス LC（9～18） ※教室は 1－201（PC を忘れると情報検索できませんので、必ず持参）	
第 9 回 6 月 13 日 (金) 2 限	LC 課題ワーク（ひととの交流） 交流する日はアドバイザーと相談して決めて下さい。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること） 【アサイメント】 ■記事投稿 「（ひと）と交流して」 ひとは LC ごとに設定された対象を記載する。 文字数：400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 10 回	「現象から課題を発見する」	提出

6 月 20 日 (金) 2 限		ワークシート (グループワーク) LC グループで代表者が 1 枚提出する。 【アサイメント】 ■原因の根拠を収集する課題シート (個人ワーク) ※次回授業に持参する。
第 11 回 6 月 27 日 (金) 2 限	「問題設定の仮説を立てる」	
第 12 回 7 月 4 日 (金) 2 限	「問題解決の仮説を立てる」 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。	【アサイメント】 発表準備 次回の授業までに提出 L C 発表資料 ※L C グループ代表者が提出
第 13 回 7 月 11 日 (金) 2 限	「発表」 あなたの主張を他の LC グループメンバーに発表します。	【アサイメント】 自分の関心興味がある看護職について考えてくる。
第 14 回 7 月 18 日 (金) 2 限	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」 期限：次回の授業日 9 時まで
7 月 21 日 (月) 2 限	先輩看護職の話をきく この日はすべてのグループが 1 教室に集合して先輩の話を聞きます。 看護師・保健師・助産師の先輩が来て話をしてくれます。 自分が目指したい専門職を明確にしたり、4 年間でどのように計画的に過ごしていくとよいのかをヒントをもらいましょう。	【アサイメント】 ■看護職講話レポート 「先輩看護職の話を聞いて」 文字数：1000 文字以上 提出期限：7 月 28 日 (月) 9 時まで

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M07	2.科目名	初年次セミナー（看護2）		3.単位数	1
4.授業担当教員	櫻井信人、中山和美、西村美登里					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習・グループワーク		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 15％ WebClass への記事投稿 40％ 課題シート 5％ 第13回目発表に対する他者評価5％と自己評価15％ 看護職講話レポート20％ 26.アサインメント（宿題）などの欄で成績評価対象となるものに対しては■が表示されています。					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 4月8日 (火) 3限	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第1回】 履修要項 P C（以後毎回持参する）		

第 2 回 4 月 1 5 日 (火) 3 限	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「自己紹介」 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること） 【アサイメント】 「私を表す 5 つのキーワード」を考えてくる。
第 3 回 4 月 22 日 (火) 3 限	ウォーミングアップ ゼミナール入門（続編） 仲間に質問してみよう（課題図書 13 章 質問力を鍛える）	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回 5 月 13 日 (火) 3 限	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	記事投稿 ■「大学生活の過ごし方（1 年次）2025 年 4 月」 文字数 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 5 回 5 月 20 日 (火) 3 限	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	ワークシート ■計画ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 6 回 5 月 27 日 (火) 3 限	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。	ワークシート ■週間予定ワークシート ■取組分類ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 7 回 5 月 30 日 (金) 2 限※各グループの状況により設定	アドバイザー学生企画 懇親会 予算と時間が決められたルールの中でメンバーと協力しながら、懇親会を企画実施をしてみよう。 ※開催日時はアドバイザーの先生方と相談して決めて下さい。	■記事投稿 「懇親会を企画して」 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 8 回	情報検索実習 2 クラスに分かれて行います。自分の参加日を確認して下さい。 6 月 3 日（火）4 限 A クラス LC（1～8） 5 月 28 日（水）2 限 B クラス LC（9～18） ※教室は 1－201（PC を忘れると情報検索できませんので、必ず持参）	
第 9 回 6 月 13 日 (金) 2 限	LC 課題ワーク（ひととの交流） 交流する日はアドバイザーと相談して決めて下さい。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること） 【アサイメント】 ■記事投稿 「（ひと）と交流して」 ひとは LC ごとに設定された対象を記載する。 文字数：400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 10 回	「現象から課題を発見する」	提出

6 月 20 日 (金) 2 限		ワークシート (グループワーク) LC グループで代表者が 1 枚提出する。 【アサイメント】 ■原因の根拠を収集する課題シート (個人ワーク) ※次回授業に持参する。
第 11 回 6 月 27 日 (金) 2 限	「問題設定の仮説を立てる」	
第 12 回 7 月 4 日 (金) 2 限	「問題解決の仮説を立てる」 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。	【アサイメント】 発表準備 次回の授業までに提出 L C 発表資料 ※L C グループ代表者が提出
第 13 回 7 月 11 日 (金) 2 限	「発表」 あなたの主張を他の LC グループメンバーに発表します。	【アサイメント】 自分の関心興味がある看護職について考えてくる。
第 14 回 7 月 18 日 (金) 2 限	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」 期限：次回の授業日 9 時まで
7 月 21 日 (月) 2 限	先輩看護職の話をきく この日はすべてのグループが 1 教室に集合して先輩の話を聞きます。 看護師・保健師・助産師の先輩が来て話をしてくれます。 自分が目指したい専門職を明確にしたり、4 年間でどのように計画的に過ごしていくとよいのかをヒントをもらいましょう。	【アサイメント】 ■看護職講話レポート 「先輩看護職の話を聞いて」 文字数：1000 文字以上 提出期限：7 月 28 日 (月) 9 時まで

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M08	2.科目名	初年次セミナー（看護3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	有本梨花、炭野実千、西村美登里、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習・グループワーク		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 15％ WebClass への記事投稿 40％ 課題シート 5％ 第 13 回目発表に対する他者評価 5％と自己評価 15％ 看護職講話レポート 20％ 26.アサイメント（宿題）などの欄で成績評価対象となるものに対しては■が表示されています。					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4 月 8 日 (火) 3 限	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項 P C（以後毎回持参する）		

第 2 回 4 月 1 5 日 (火) 3 限	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「自己紹介」 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること） 【アサイメント】 「私を表す 5 つのキーワード」を考えてくる。
第 3 回 4 月 22 日 (火) 3 限	ウォーミングアップ ゼミナール入門（続編） 仲間に質問してみよう（課題図書 13 章 質問力を鍛える）	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回 5 月 13 日 (火) 3 限	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	記事投稿 ■「大学生活の過ごし方（1 年次）2025 年 4 月」 文字数 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 5 回 5 月 20 日 (火) 3 限	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	ワークシート ■計画ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 6 回 5 月 27 日 (火) 3 限	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。	ワークシート ■週間予定ワークシート ■取組分類ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 7 回 5 月 30 日 (金) 2 限※各グループの状況により設定	アドバイザー学生企画 懇親会 予算と時間が決められたルールの中でメンバーと協力しながら、懇親会を企画実施をしてみよう。 ※開催日時はアドバイザーの先生方と相談して決めて下さい。	■記事投稿 「懇親会を企画して」 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 8 回	情報検索実習 2 クラスに分かれて行います。自分の参加日を確認して下さい。 6 月 3 日（火）4 限 A クラス LC（1～8） 5 月 28 日（水）2 限 B クラス LC（9～18） ※教室は 1－201（PC を忘れると情報検索できませんので、必ず持参）	
第 9 回 6 月 13 日 (金) 2 限	LC 課題ワーク（ひととの交流） 交流する日はアドバイザーと相談して決めて下さい。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること） 【アサイメント】 ■記事投稿 「（ひと）と交流して」 ひとは LC ごとに設定された対象を記載する。 文字数：400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 10 回	「現象から課題を発見する」	提出

6 月 20 日 (金) 2 限		ワークシート（グループワーク） LC グループで代表者が 1 枚提出する。 【アサイメント】 ■原因の根拠を収集する課題シート（個人ワーク） ※次回授業に持参する。
第 11 回 6 月 27 日 (金) 2 限	「問題設定の仮説を立てる」	
第 12 回 7 月 4 日 (金) 2 限	「問題解決の仮説を立てる」 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。	【アサイメント】 発表準備 次回の授業までに提出 L C 発表資料 ※L C グループ代表者が提出
第 13 回 7 月 11 日 (金) 2 限	「発表」 あなたの主張を他の LC グループメンバーに発表します。	【アサイメント】 自分の関心興味がある看護職について考えてくる。
第 14 回 7 月 18 日 (金) 2 限	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」 期限：次回の授業日 9 時まで
7 月 21 日 (月) 2 限	先輩看護職の話をきく この日はすべてのグループが 1 教室に集合して先輩の話を聞きます。 看護師・保健師・助産師の先輩が来て話をしてくれます。 自分が目指したい専門職を明確にしたり、4 年間でどのように計画的に過ごしていくとよいのかをヒントをもらいましょう。	【アサイメント】 ■看護職講話レポート 「先輩看護職の話を聞いて」 文字数：1000 文字以上 提出期限：7 月 28 日（月）9 時まで

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-M09	2.科目名	初年次セミナー（看護4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	細川由美子、志保田幸子、西村美登里、野村浩					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習・グループワーク		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 15％ WebClass への記事投稿 40％ 課題シート 5％ 第 13 回目発表に対する他者評価 5％と自己評価 15％ 看護職講話レポート 20％ 26.アサイメント（宿題）などの欄で成績評価対象となるものに対しては■が表示されています。					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4 月 8 日 (火) 3 限	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項 P C（以後毎回持参する）		

第 2 回 4 月 1 5 日 (火) 3 限	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「自己紹介」 【提出物：第 2 回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること） 【アサイメント】 「私を表す 5 つのキーワード」を考えてくる。
第 3 回 4 月 22 日 (火) 3 限	ウォーミングアップ ゼミナール入門（続編） 仲間に質問してみよう（課題図書 13 章 質問力を鍛える）	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第 4 回 5 月 13 日 (火) 3 限	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	記事投稿 ■「大学生活の過ごし方（1 年次）2025 年 4 月」 文字数 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 5 回 5 月 20 日 (火) 3 限	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	ワークシート ■計画ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 6 回 5 月 27 日 (火) 3 限	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。	ワークシート ■週間予定ワークシート ■取組分類ワークシート 期限：次回の授業日 9 時まで
第 7 回 5 月 30 日 (金) 2 限※各グループの状況により設定	アドバイザー学生企画 懇親会 予算と時間が決められたルールの中でメンバーと協力しながら、懇親会を企画実施をしてみよう。 ※開催日時はアドバイザーの先生方と相談して決めて下さい。	■記事投稿 「懇親会を企画して」 400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 8 回	情報検索実習 2 クラスに分かれて行います。自分の参加日を確認して下さい。 6 月 3 日（火）4 限 A クラス LC（1～8） 6 月 4 日（水）3 限 B クラス LC（9～18） ※教室は 1－201（PC を忘れると情報検索できませんので、必ず持参）	
第 9 回 6 月 13 日 (金) 2 限	LC 課題ワーク（ひととの交流） 交流する日はアドバイザーと相談して決めて下さい。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること） 【アサイメント】 ■記事投稿 「（ひと）と交流して」 ひとは LC ごとに設定された対象を記載する。 文字数：400 文字以上 期限：次回の授業日 9 時まで
第 10 回	「現象から課題を発見する」	提出

6 月 20 日 (金) 2 限		ワークシート（グループワーク） LC グループで代表者が 1 枚提出する。 【アサイメント】 ■原因の根拠を収集する課題シート（個人ワーク） ※次回授業に持参する。
第 11 回 6 月 27 日 (金) 2 限	「問題設定の仮説を立てる」	
第 12 回 7 月 4 日 (金) 2 限	「問題解決の仮説を立てる」 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。	【アサイメント】 発表準備 次回の授業までに提出 L C 発表資料 ※L C グループ代表者が提出
第 13 回 7 月 11 日 (金) 2 限	「発表」 あなたの主張を他の LC グループメンバーに発表します。	【アサイメント】 自分の関心興味がある看護職について考えてくる。
第 14 回 7 月 18 日 (金) 2 限	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」 期限：次回の授業日 9 時まで
7 月 21 日 (月) 2 限	先輩看護職の話をきく この日はすべてのグループが 1 教室に集合して先輩の話を聞きます。 看護師・保健師・助産師の先輩が来て話をしてくれます。 自分が目指したい専門職を明確にしたり、4 年間でどのように計画的に過ごしていくとよいのかをヒントをもらいましょう。	【アサイメント】 ■看護職講話レポート 「先輩看護職の話を聞いて」 文字数：1000 文字以上 提出期限：7 月 28 日（月）9 時まで

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y01	2.科目名	初年次セミナー（グローバル）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：水曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/8)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』			【教室外学習：次週までに】		

(4/15)	他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第2回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第2回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回 (5/20)	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回 (5/27)	※延長授業（4限+5限） 1. 『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 2. 『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。	
第5回 (6/3)	※延長授業（4限+5限） 1. 『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 2. 『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第6回 (6/10)	情報検索実習 フィールドワークのテーマに沿って情報検索を行います。	
第7回 (6/17)	リサーチ前の準備① 1 現象から課題を発見する 2 問題設定の仮説を立てる	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第8・9回 (6/24)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ1」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 1. 現象から課題を発見する。 2. 問題設定の仮説を立てる。	
第10回 (7/1)	リサーチ前の準備② 3 問題解決の仮説を立てる	
第11・12回 (7/8)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ2」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 3. 問題解決の仮説を立てる 4. 主張を定める	
第13回 (7/15)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備

第 14 回 (7/22)	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ う。
第 15 回 (7/29)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグルー プ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y02	2.科目名	初年次セミナー（グローバル）		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤恭仁彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	追ってお知らせします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/8)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回 (4/15)	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）		

		【提出物：第2回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回 (5/13)	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回 (5/27)	※延長授業（4限+5限） 1. 『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 2. 『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。	
第5回 (6/3)	※延長授業（4限+5限） 1. 『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 2. 『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第6回 (6/10)	情報検索実習 フィールドワークのテーマに沿って情報検索を行います。	
第7回 (6/17)	リサーチ前の準備① 1 現象から課題を発見する 2 問題設定の仮説を立てる	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第8・9回 (6/24)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ1」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 1. 現象から課題を発見する。 2. 問題設定の仮説を立てる。	
第10回 (7/1)	リサーチ前の準備② 3 問題解決の仮説を立てる	
第11・12回 (7/8)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ2」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 3. 問題解決の仮説を立てる 4. 主張を定める	
第13回 (7/15)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第14回 (7/22)	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。

第 15 回 (7/29)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y03	2.科目名	初年次セミナー（社会1）		3.単位数	1
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」		

		【持参するもの：第2回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第2回】 ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回	『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	
第5回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	
第6回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。	
第7回	『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第8回	情報検索実習 第5回～8回までに実施します。	
第9回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。なぜその問題が起こるのか、さまざまな角度から考えます。	
第11回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。	
第12回	『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。	
第13回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します。	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第14回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y04	2.科目名	初年次セミナー（グローバル）		3.単位数	1
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 30% 期末レポート 40%					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：水曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/8)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回 (4/15)	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】		

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第2回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回 (5/13)	『私が大切にしていることは何?』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回 (5/27)	※延長授業（4限+5限） 1.『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 2.『大学生活で実現したいことは何?』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。	
第5回 (6/3)	※延長授業（4限+5限） 1.『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 2.『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第6回 (6/10)	情報検索実習 フィールドワークのテーマに沿って情報検索を行います。	
第7回 (6/17)	リサーチ前の準備① 1 現象から課題を発見する 2 問題設定の仮説を立てる	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第8・9回 (6/24)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ1」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 1. 現象から課題を発見する。 2. 問題設定の仮説を立てる。	
第10回 (7/1)	リサーチ前の準備② 3 問題解決の仮説を立てる	
第11・12回 (7/8)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ2」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 3. 問題解決の仮説を立てる 4. 主張を定める	
第13回 (7/15)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第14回 (7/22)	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ

		う。
第 15 回 (7/29)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)		FYE101-Y06	2.科目名	初年次セミナー（グローバル）		3.単位数	1
4.授業担当教員		李容淑					
5.授業科目の区分		コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻		グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		なし		11.先修条件	なし		
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限		配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要		「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材		・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献		特にありません。					
21.成績評価		ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 30% 期末レポート 40%					
22.コメント		遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー		センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：水曜 3 限					
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/8)		『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回 (4/15)		『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】		

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第2回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回 (5/13)	『私が大切にしていることは何?』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回 (5/27)	※延長授業（4限+5限） 1.『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 2.『大学生活で実現したいことは何?』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。	
第5回 (6/3)	※延長授業（4限+5限） 1.『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 2.『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第6回 (6/10)	情報検索実習 フィールドワークのテーマに沿って情報検索を行います。	
第7回 (6/17)	リサーチ前の準備① 1 現象から課題を発見する 2 問題設定の仮説を立てる	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第8・9回 (6/24)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ1」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 1. 現象から課題を発見する。 2. 問題設定の仮説を立てる。	
第10回 (7/1)	リサーチ前の準備② 3 問題解決の仮説を立てる	
第11・12回 (7/8)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ2」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 3. 問題解決の仮説を立てる 4. 主張を定める	
第13回 (7/15)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第14回 (7/22)	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ

		う。
第 15 回 (7/29)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y07	2.科目名	初年次セミナー（グローバル）		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：水曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (4/8)	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回 (4/15)	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】		

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第2回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回 (5/13)	『私が大切にしていることは何?』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回 (5/27)	※延長授業（4限+5限） 1.『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 2.『大学生活で実現したいことは何?』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。	
第5回 (6/3)	※延長授業（4限+5限） 1.『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。 2.『大学生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第6回 (6/10)	情報検索実習 フィールドワークのテーマに沿って情報検索を行います。	
第7回 (6/17)	リサーチ前の準備① 1 現象から課題を発見する 2 問題設定の仮説を立てる	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生活をデザインする」
第8・9回 (6/24)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ1」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 1. 現象から課題を発見する。 2. 問題設定の仮説を立てる。	
第10回 (7/1)	リサーチ前の準備② 3 問題解決の仮説を立てる	
第11・12回 (7/8)	学外フィールドワーク テーマ「隠れたグルメ2」 神戸市内を実際に訪れ、以下の課題にしたがってフィールド調査を行います。 3. 問題解決の仮説を立てる 4. 主張を定める	
第13回 (7/15)	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第14回 (7/22)	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ

		う。
第 15 回 (7/29)	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y08	2.科目名	初年次セミナー (心理 1)		3.単位数	1
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	○ 目的 「キャリアビジョン」の育成と「考える」スキルの醸成 学期目標:「心理学をどう活かせるか」を考えよう！ ○ 概要 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・ WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 20％ Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料		
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。			【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）		

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第 6 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第 10 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14 回授業）のテーマ ① 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第 11 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第 12 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	解決策（課題に向けた対策）についてのワークシート作成
第 13 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第 14 回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ

		う。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)		FYE101-Y09	2.科目名	初年次セミナー（社会 2）		3.単位数	1
4.授業担当教員		渡辺卓也					
5.授業科目の区分		コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室				13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address				15.授業形態	演習		
16.履修制限		配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要		「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組めます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組めます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材		・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献		特にありません。					
21.成績評価		ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 30％ 期末レポート 40％					
22.コメント		遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー		センターオフィスアワー： 研究室ーオフィスアワー：					
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回		『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明します。 1 年次の科目の履修を確定します。			【教室外学習：次週までに】 他者インタビュー 【持参するもの：第 1 回】 履修要項		
第 2 回		『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。			【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「プロフィール」 【持参するもの：第 2 回以降】		

		ノートパソコン（以後、毎回持参すること） 【提出物：第2回】ワークシート（以後、毎回 WebClass に提出すること）
第3回	『私が大切にしていることは何?』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	【教室外学習：次週までに】 先輩数人にインタビューを実施する
第4回	『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	
第5回	『大学生生活で実現したいことは何?』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	
第6回	『夢を実現するために』 タイムマネジメントについて学び、あなたの時間の使い方を考えます。	
第7回	『大学生生活をデザインする』 本当にやりたいことを実現するために行動実験を行います。	【教室外学習：次週までに】 行動実験を行い、結果をまとめる ◎記事投稿 「大学生生活をデザインする」
第8回	情報検索実習 第5回～8回までに実施します。	
第9回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を明確にします。	【教室外学習：次週までに】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第10回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。なぜその問題が起こるのか、さまざまな角度から考えます。	
第11回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。どうすればその問題が改善、解決するのか、さまざまな角度から考えます。	
第12回	『主張を定める』 あなたの主張を明確に定めます。	
第13回	『グループ内発表と発表資料の作成』 あなたの主張をグループ内で発表します。	【教室外学習：次週までに】 発表準備
第14回	『ゼミ内プレゼンと最優秀プレゼンの決定』 ゼミ内最優秀発表を決めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動を振り返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y10	2.科目名	初年次セミナー（心理 2）		3.単位数	1
4.授業担当教員	河田慈人					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組めます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩いていこうとしているのかを考えることに取り組めます。自分が大切にしていること（価値観）を軸に、自分を確立していくための最初の一步を踏み出しましょう。 2つ目は「					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 20％ Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル		
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」			【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）		
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』			WebClass への記事投稿		

	他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第 6 回	『私が大切にしていることは何?』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『大学生活で実現したいことは何?』 実現に向けた取組計画を考えましょう	
第 10 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第 11 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第 12 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第 13 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第 14 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y11	2.科目名	初年次セミナー（心理3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミにはメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 20% KUISs ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10% 期末レポート 40%					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第1回】 ノートパソコン、履修要綱等 FMW で使用したデータファイル		
第2回 4/15	アイスブレイク：『パースデー・チェーン』『意外な共					

	通点探し』 仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	【持参するもの：第2回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第3回 4/22	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第4回 5/13	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第5回 5/20	情報検索実習	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第6回 5/27	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	
第7回 6/3	『私が大切にしていることは何？』 あなたの価値観について考えることであなたの人生の指針となるものを探します。	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第8回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ること、これからの大学生活をイメージします。 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう。	WebClass への記事投稿
第9回	『大学生活で実現したいことは何？』 本当にやりたいことを実現するために、目標を設定します。 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します。	
第10回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	
第11回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。	
第12回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	
第13回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	
第14回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第15回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y12	2.科目名	初年次セミナー（心理 4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	○ 目的 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミにはメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 ○ 概要 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10% 期末レポート 40%					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむを得ず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料		
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』			【持参するもの：第 2 回以降】		

	仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第 6 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第 10 回	『現象から問題を発見する』 社会で起きている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14 回授業）のテーマ ？ 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第 11 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第 12 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	解決策（課題に向けた対策）についてのワークシート作成
第 13 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第 14 回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート

		あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y13	2.科目名	初年次セミナー (心理 5)		3.単位数	1
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	○ 目的 「キャリアビジョン」の育成と「考える」スキルの醸成 学期目標:「心理学をどう活かせるか」を考えよう！ ○ 概要 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・ WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 20％ Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料		
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共					

	通点探し』 仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	【持参するもの：第2回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第3回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第4回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第5回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第6回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第7回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第8回	情報検索実習 第5回～8回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第9回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第10回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14回授業）のテーマ ？ 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第11回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第12回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	解決策（課題に向けた対策）についてのワークシート作成
第13回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第14回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】

		◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y14	2.科目名	初年次セミナー (心理 6)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	○ 目的 「キャリアビジョン」の育成と「考える」スキルの醸成 学期目標:「心理学をどう活かせるか」を考えよう！ ○ 概要 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大学生活を送るのか、そしてどちら（未来）に向かって歩んでいこうとしているのかを考えることに取り組みます。自分が大切にしていること（価値観）を					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・ WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30％ WebClass への記事投稿 20％ Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10％ 期末レポート 40％					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。 生成 AI 利用に関しては、特に制限を設けずに使用を認めます。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料		
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』			【持参するもの：第 2 回以降】		

	仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第 6 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第 10 回	『現象から問題を発見する』 社会で起きている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14 回授業）のテーマ ？ 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第 11 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第 12 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	解決策（課題に向けた対策）についてのワークシート作成
第 13 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第 14 回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート

		あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y15	2.科目名	初年次セミナー（心理 7）		3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	○ 目的 ？ 大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者と なり、各ゼミにはメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 ？「キャリアビジョン」の育成と「考える」スキルの醸成 学期目標:「心理学をどう活かせるか」を考えよう！ ○ 概要 1 つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10% 期末レポート 40%					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料		
第 2 回	アイスブレイク:『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』			【持参するもの：第 2 回以降】		

	仲間を知ろう。 講義：「よい人間関係を築くには」	ノートパソコン（以後、毎回持参すること）
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第 6 回	『大学生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生活を知ることで、これからの大学生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第 10 回	『現象から問題を発見する』 社会で起きている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14 回授業）のテーマ ？ 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第 11 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第 12 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	解決策（課題に向けた対策）についてのワークシート作成
第 13 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第 14 回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート

		あなたの主張をレポート形式でまとめましょう。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE101-Y16	2.科目名	初年次セミナー（心理 8）		3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	【目的】 「初年次セミナー」とは、新入生のみなさんが大学生活へスムーズに適応することを目的に設けられた科目です。アドバイザーが科目担当者となり、各ゼミにはメンターと呼ばれる先輩学生がサポートします。 【概要】 「初年次セミナー」では、2つの課題に取り組みます。 1つ目は「キャリアビジョン」の育成です。キャリアビジョンとは「自分のなりたい姿（目的地）」のことです。 過去→現在→未来へと自分の姿に連続性をみつけることで、これまでの経験（過去）が育んできた自分（現在）は、なぜ大学進学を選んだのか、どのような大					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自己理解の方法を学ぶことで、自分について深く考えることができる。 ②やりたいことを実現するために具体的な目標設定ができる。 ③やりたいことを実現するために具体的な行動計画を立てることができる。 ④現象の中から問題を発見することができる。 ⑤仮説を立てることができる。 ⑥自分の意見を決めることができる。					
19.教科書・教材	・WebClass でワークシートをダウンロードしてください。 ・ノートパソコンを毎回持参してください。					
20.参考文献	特にありません。					
21.成績評価	ワークシートの完成と提出 30% WebClass への記事投稿 20% Kuis ドリルの取組成果（ベーシックコース：英数国） 10% 期末レポート 40%					
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。 やむをえず遅刻・欠席する際には、必ず連絡すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 曜 研究室ーオフィスアワー： 曜					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	『ガイダンス、履修指導』 本科目の内容、ねらいについて説明する。 1 年次の科目の履修を確定する。			【持参するもの：第 1 回】 ノートパソコン、履修要項等 FMW で使用した履修関係資料		
第 2 回	アイスブレイク：『バースデー・チェーン』『意外な共通点探し』 仲間を知ろう。			【持参するもの：第 2 回以降】 ノートパソコン（以後、毎回持参すること）		

	講義：「よい人間関係を築くには」	
第 3 回	『仲間を知ろう。自分らしさを発見しよう』 他者インタビューと好きなこと（人）からあなたらしさをみつけます。	WebClass への記事投稿
第 4 回	『他己紹介』 他人を知り、紹介しよう	
第 5 回	『NASA で行われた人材教育』 宇宙船の不時着事例について 自ら考え、グループで自分の考えを説明し、討議します。	ワークシートの作成
第 6 回	『大学生生活をイメージしよう』 さまざまな先輩の大学生生活を知ることで、これからの大学生生活をイメージします 生成 AI との壁打ちを通して、イメージをふくらませましょう	○先輩への事前インタビュー ○WebClass への記事投稿
第 7 回	『大学生活で実現したいことは何？』 実現に向けた取組計画（取組目標）を考えましょう 生成 AI との壁打ちを通して、明確で具体的な目標を設定します	WebClass への記事投稿
第 8 回	情報検索実習 第 5 回～8 回までに実施します。	【教室外学習】 情報検索（以降、適宜情報検索をすること）
第 9 回	『夢を実現するために』 実現に向けたタイムマネジメントを考えよう	ワークシートの作成
第 10 回	『現象から問題を発見する』 社会で起こっている現象から解決すべき問題を発見します。 ※ 考える力（10～14 回授業）のテーマ ① 効果的な学習方法を提案せよ ② 学生生活におけるストレスマネジメントを提案せよ ③ 集団活動へのモチベーションをあげるにはどうすればよいか ④ 対人関係を円滑にすすめるにはどうすればよいか	ワークシート、課題シートの作成
第 11 回	『問題設定の仮説を立てる』 問題設定の仮説を立てます。	要因（主要な原因）についての情報検索、図示化
第 12 回	『問題解決の仮説を立てる』 問題解決の仮説を立てます。	解決策（課題に向けた対策）についてのワークシート作成
第 13 回	『主張を定める』 自分の主張を明確に定めます。	課題に向けた対策について、自身の意見を具体的に主張し、グループ内の意見を取りまとめる。
第 14 回	グループ内発表と発表資料の作成	【教室外学習：次週までに】 ◎期末レポート あなたの主張をレポート形式でまとめましょ

		う。
第 15 回	『初年次セミナーふりかえり』 初年次セミナーふりかえり初年次セミナーでのグループ活動をふり返り、来学期の目標を立てます。	【教室外学習：次週までに】 ◎記事投稿 「春学期を終えて」

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A01	2.科目名	学習技術		3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サントイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】	パソコンによるライティング・スキル（１）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

	ト第 10 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】	全体のまとめ ・第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A02	2.科目名	学習技術		3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習科目	
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/17	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A03	2.科目名	学習技術		3.単位数	1
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日・3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】4/9	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/16	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/30	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/7	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/14	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/21	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 5/28	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/25	ト第 10 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)		FYE103-A05	2.科目名		学習技術		3.単位数	1
4.授業担当教員		岩本裕子						
5.授業科目の区分		コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻		教育福祉学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件					11.先修条件			
12.研究室			※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address			※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限		再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。						
17.授業の目的と概要		【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。						
19.教科書・教材		<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。						
20.参考文献								
21.成績評価		○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を						
22.コメント		「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。						
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)			

【第1回】 4/9	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/16	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 4/30	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/7	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/14	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

5/21	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/28	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop~Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1~4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 6/25	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A06	2.科目名	学習技術 (1/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成AIのいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日2限 センターオフィスアワー：月曜日1限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】4/14	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて20分)
【第2回】4/21	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】4/28	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】5/12	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】5/19	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】5/26	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】6/2	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 6/9	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/16	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/23	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/30	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 7/7	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/14	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/21	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/28	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A07	2.科目名	学習技術 (2/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】 4/14	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/21	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/28	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/12	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/19	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/26	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 6/2	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 6/9	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/16	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/23	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/30	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 7/7	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/14	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/21	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/28	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A08	2.科目名	学習技術 (3/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日3限 研究室オフィスアワー：火曜日4限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

4/11	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/18	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/25	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/2	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/9	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/16	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/23	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 5/30	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/6	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/13	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 6/20	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/27	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/4	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/11	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/18	全体のまとめ ・ 第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A09	2.科目名	学習技術（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習科目	
16.履修制限	1)留学生で、指定された人しか履修できません。 2)再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の 10 のテーマは SDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じて SDG's への理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	火曜日 5 時間目（研究室） 水曜日 昼休み（学習支援室）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 4/9	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/16	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/23	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 4/30	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/7	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/14	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)

【第 7 回】 5/21	情報収集（3）・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 5/28	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/4	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/11	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 6/18	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリン

		グする。(5 分)
【第 12 回】 6/25	パソコンによるライティング・スキル (2) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/2	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/9	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/16	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)		FYE103-M01	2.科目名	学習技術（三木経営_1/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員		上村和美					
5.授業科目の区分		コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻		経営学科				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件				
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限		再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要		【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材		<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献							
21.成績評価		○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント		「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/17	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/15	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

5/22	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)		FYE103-M02	2.科目名		学習技術 (三木経営_4/4)		3.単位数		1
4.授業担当教員		浮田泉							
5.授業科目の区分		コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分		必修		7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻		経営学科					9.履修学年		1 年～
10.取得資格の要件					11.先修条件				
12.研究室			※※※		13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address			※※※		15.授業形態		演習科目		
16.履修制限		再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。							
17.授業の目的と概要		【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行							
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。							
19.教科書・教材		<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。							
20.参考文献									
21.成績評価		○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を							
22.コメント		「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。							
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜日・4 限							
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)				

【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/17	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/15	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

5/22	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-M03	2.科目名	学習技術 (三木経営_2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・4 限 センターオフィスアワー：月曜日・4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/17	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-M04	2.科目名	学習技術 (三木経営_3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/17	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-M05	2.科目名	学習技術（看護）		3.単位数	1
4.授業担当教員	岩下真由美、梅田智子、志保田幸子、中山和美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日 12:15～13:15（岩下） センターオフィスアワー：水曜日 12:15～13:15（岩下）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】 4/14 4限 岩下・梅田・志保田・中山・SA	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/21 4限 岩下・志保田・SA	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/28 4限 中山・梅田・SA	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/12 4限 志保田・梅田・SA	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/19 4限 志保田・梅田・SA	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/26 4限 岩下・中山・SA	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

6/24限 岩下・志保 田・SA	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 6/9 4 限 梅田・岩下・ SA	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/16 4 限 中山・梅田・ SA	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/23 4 限 梅田・岩下・ SA	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/30 4 限 岩下・志保 田・SA	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 7/7 4 限 中山・岩下・ SA	パソコンによるライティング・スキル（2）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/14 4 限 梅田・岩下・ SA	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/21 4 限 志保田・岩 下・SA	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/28 4 限 梅田・中山・ SA	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y01	2.科目名	学習技術（グローバル_1/3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	渡邊陽介					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習科目	
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/17	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y05	2.科目名	学習技術（グローバル_3/3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明			○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。		

	・テキストおよび専用ファイルの販売	○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/17	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認す

	理する技術 (Excel を使用)	る。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop~Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1~4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル (2) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9>	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティ

	・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	ング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.150-162を読み返し、p162の「まとめ」を確認する。(5分) ○Task5～10で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180分) ★小課題を印刷して提出する。
【第13回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第11章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第11章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.165-180を読み返し、p180の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第14回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第12章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第12章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.181-197を読み返し、p197の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第15回】 7/17	全体のまとめ ・ 第14回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClassへ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y06	2.科目名	学習技術 (2/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習科目	
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センターオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】4/8	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/15	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/27	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 6/3	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 6/10	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/24	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 7/1	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/8	ト第10章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162の「まとめ」を確認する。(5分) ○Task5～10で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180分) ★小課題を印刷して提出する。
【第13回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第11章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第11章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第14回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第12章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第12章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第15回】 7/29	全体のまとめ ・ 第14回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)		FYE103-Y07	2.科目名		学習技術 (1/3)		3.単位数		1		
4.授業担当教員		岡本久									
5.授業科目の区分		コモンベーシックス		6.必修・ 選択の区分		必修		7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻		社会科学科						9.履修学年		1 年～	
10.取得資格の要件						11.先修条件					
12.研究室		※※※				13.電話番号		※※※			
14.E-Mail Address		※※※				15.授業形態		演習科目			
16.履修制限		再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。									
17.授業の目的と概要		【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行									
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。									
19.教科書・教材		<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。									
20.参考文献											
21.成績評価		○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を									
22.コメント		「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。									
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み									
24.授業回数		25.授業内容					26.アサインメント(宿題など)				

【第1回】 4/10	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/17	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.3-14を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.17-28を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.29-41を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』pp.43-53を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/15	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.57-76を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

5/22	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop~Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1~4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 6/26	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y09	2.科目名	学習技術 (心理_1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーション力、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] ※本シラバスの[26.アサイントメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限					

	成長確認シートの記入や KUISs 学びのショーケースについても、記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)	
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 4/8	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/15	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/27	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分)

		○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】6/3	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術(Excelを使用)	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』pp.76-100を読み返し、p82とp99の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第8回】6/10	レポートを書く <テキスト第8章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート(論文)を書くための基礎的な技術(=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第08章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125を読み返し、p124の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第9回】6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG'sに関連した10のテーマの中から1つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60分)
【第10回】6/24	わかりやすい表現<テキスト第9章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術(文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第09章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140を読み返し、p139の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第11回】7/1	パソコンによるライティング・スキル(1)<テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Workshop~Task4を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149を読み返す。(5分) ○Task1~4で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作

		成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】 7/8	パソコンによるライティング・スキル (2) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/29	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y10	2.科目名	学習技術 (心理_2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】4/8	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/15	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/27	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 6/3	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 6/10	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/24	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 7/1	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/8	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/29	全体のまとめ ・ 第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y11	2.科目名	学習技術 (心理_3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】4/8	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/15	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サントイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/13	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/20	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/27	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 6/3	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 6/10	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 6/24	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 7/1	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

7/8	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/29	全体のまとめ ・ 第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y12	2.科目名	学習技術 (心理_4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。 なお、最終課題（レポート）作成にあたり、生成 AI のいかなる利用も認めません。					
23.オフィスアワー	授業後の教室にて ※質問等はメールでも対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】 4/8	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	○次回までにテキスト『知へのステップ』の目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第2回】 4/15	学習技術とは <テキスト第1章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第01章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第3回】 4/22	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第2章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第02章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5分) ○ダウンロードデータ集・第2章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第4回】 5/13	概要・要点をよみとる <テキスト第3章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第03章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第5回】 5/20	要約から感想・意見を書く <テキスト第4章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第6回】 5/27	情報収集(1)(2) <テキスト第5・6章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第05章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70とp83の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第7回】 6/3	情報収集(3)・情報の整理 <テキスト第7章・ワー	◆ノートパソコン使用◆

	クシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 6/10	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート (論文) を書くための基礎的な技術 (=アカデミック・ライティングスキル)	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/17	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/24	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 7/1	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)

【第 12 回】 7/8	パソコンによるライティング・スキル（２）＜テキスト第 10 章・ワークシート No.9＞ ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時まで完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（180 分） ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/15	プレゼンテーションの準備をする＜テキスト第 11 章・ワークシート No.10(1)(2)＞ ・ プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 14 回】 7/22	わかりやすいプレゼンテーションのために＜テキスト第 12 章・ワークシート No.11(1)(2)＞ ・ より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（130 分） ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 15 回】 7/29	全体のまとめ ・ 第 14 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・ これまでの授業のまとめ ・ 授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分） ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（WebClass へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y16	2.科目名	学習技術（グローバル_2/3)		3.単位数	1
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目		
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第5版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席（公欠も含む）は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第11-12回の授業でWord,Excelを使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] 最終課題の10のテーマはSDG's（持続可能な開発目標）に関連しており、その中から1つのテーマを選択し、最終課題（レポート）を作成することを通じてSDG'sへの理解を					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：火曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

4/10	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/17	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/24	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 5/1	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 5/8	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 5/15	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/22	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 8 回】 5/29	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 9 回】 6/5	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60 分)
【第 10 回】 6/12	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 11 回】 6/19	パソコンによるライティング・スキル（１）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。(5 分) ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 12 回】	パソコンによるライティング・スキル（２）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

6/26	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 7/3	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 7/10	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 7/17	全体のまとめ ・第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	GEO101-Y01	2.科目名	地理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面またはリモート)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	〔目的〕 地理的基礎を養い、地形・気候など自然環境の成立の様相を理解する。 〔概要〕 地表面で展開するさまざまな現象は地域ごとに異なる。こうした差異を生み出すのが地理的条件で、諸現象と自然・人文環境との関係性を描出するというのが地理学の基本的思想である。一般に地理学は諸現象に主眼をおく系統地理学と地域を中心にまとめる地誌学に大別され、前者はさらに人文地理学と自然地理学に分類される。人文地理学については別の講義で学ぶため、本講義では地理的特徴に関する基礎知識を学習した上で、主に自然地理学の分野を取扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②地理学とくに自然地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な自然環境についての理解を深める。					
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。					
20.参考文献	田林明・浅川俊夫・榎本康司・久保純子『最新世界地図』東京書籍 ※他の高校地理学習用地図帳でも可 杉谷隆・平井幸弘・松本淳『風景のなかの自然地理』古今書院 山岡信幸『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加え、自宅周辺や通学途中の車窓など、身近な風景がすべて参考教材である。					
21.成績評価	総括試験 50％・小テスト(各章終了後に実施)35％・課題等 15％とする。 ※学習内容の復習・実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課す。					
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカーション)も実施したい。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 地理学と世界のしくみ (1)地理学の目的と体系			復習：ノート整理		
第 2 回	Ⅰ 地理学と世界のしくみ (2)経緯度と時差			復習：ノート整理		
第 3 回	Ⅰ 地理学と世界のしくみ (3)世界の地域区分と地誌学の課題			復習：ノート整理		
第 4 回	Ⅱ 地図について (1)地図の特性と図法			復習：ノート整理		
第 5 回	Ⅱ 地図について (2)地形図とその利用			定規を持参する 復習：ノート整理		
第 6 回	Ⅲ 地形と生活 (1)プレートテクトニクスと大地形の形成			復習：ノート整理・地名確認		
第 7 回	Ⅲ 地形と生活 (2)氷河性海面変動と地形			復習：ノート整理・地名確認		
第 8 回	Ⅲ 地形と生活 (3)河川の地形と営力			復習：ノート整理・地名確認		

第 9 回	Ⅲ 地形と生活 (4)気候と特殊地形	復習：ノート整理・地名確認
第 10 回	Ⅲ 地形と生活 (5)地形図から読み解く地形と生活	復習：ノート整理・地名確認
第 11 回	Ⅳ 気候と生活 (1)気候要素と気候因子	復習：ノート整理・地名確認
第 12 回	Ⅳ 気候と生活 (2)気候因子と気候の地域性	定規を持参する 復習：ノート整理・地名確認
第 13 回	Ⅳ 気候と生活 (3)気候区分と植生・土壌—熱帯・乾燥帯—	課題提出 復習：ノート整理・地名確認
第 14 回	Ⅳ 気候と生活 (4)気候区分と植生・土壌—温帯・亜寒帯・寒帯—	復習：ノート整理・地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	GEO101-m51	2.科目名	地理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面またはリモート)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	〔目的〕 地理的基礎を養い、地形・気候など自然環境の成立の様相を理解する。 〔概要〕 地表面で展開するさまざまな現象は地域ごとに異なる。こうした差異を生み出すのが地理的条件で、諸現象と自然・人文環境との関係性を描出するというのが地理学の基本的思想である。一般に地理学は諸現象に主眼をおく系統地理学と地域を中心にまとめる地誌学に大別され、前者はさらに人文地理学と自然地理学に分類される。人文地理学については別の講義で学ぶため、本講義では地理的特徴に関する基礎知識を学習した上で、主に自然地理学の分野を取扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②地理学とくに自然地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な自然環境についての理解を深める。					
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。					
20.参考文献	田林明・浅川俊夫・榎本康司・久保純子『最新世界地図』東京書籍 ※他の高校地理学習用地図帳でも可 杉谷隆・平井幸弘・松本淳『風景のなかの自然地理』古今書院 山岡信幸『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加え、自宅周辺や通学途中の車窓など、身近な風景がすべて参考教材である。					
21.成績評価	総括試験 50％・小テスト(各章終了後に実施)35％・課題等 15％とする。 ※学習内容の復習・実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課す。					
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカージョン)も実施したい。 生成 AI 利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 地理学と世界のしくみ (1)地理学の目的と体系			復習：ノート整理		
第 2 回	Ⅰ 地理学と世界のしくみ (2)経緯度と時差			復習：ノート整理		
第 3 回	Ⅰ 地理学と世界のしくみ (3)世界の地域区分と地誌学の課題			復習：ノート整理		
第 4 回	Ⅱ 地図について (1)地図の特性と図法			復習：ノート整理		
第 5 回	Ⅱ 地図について (2)地形図とその利用			定規を持参する 復習：ノート整理		
第 6 回	Ⅲ 地形と生活 (1)プレートテクトニクスと大地形の形成			復習：ノート整理・地名確認		
第 7 回	Ⅲ 地形と生活 (2)氷河性海面変動と地形			復習：ノート整理・地名確認		
第 8 回	Ⅲ 地形と生活 (3)河川の地形と営力			復習：ノート整理・地名確認		

第 9 回	Ⅲ 地形と生活 (4)気候と特殊地形	復習：ノート整理・地名確認
第 10 回	Ⅲ 地形と生活 (5)地形図から読み解く地形と生活	復習：ノート整理・地名確認
第 11 回	Ⅳ 気候と生活 (1)気候要素と気候因子	復習：ノート整理・地名確認
第 12 回	Ⅳ 気候と生活 (2)気候因子と気候の地域性	定規を持参する 復習：ノート整理・地名確認
第 13 回	Ⅳ 気候と生活 (3)気候区分と植生・土壌—熱帯・乾燥帯—	課題提出 復習：ノート整理・地名確認
第 14 回	Ⅳ 気候と生活 (4)気候区分と植生・土壌—温帯・亜寒帯・寒帯—	復習：ノート整理・地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	GLB101-Y01	2.科目名	言語と文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義やディスカッションなどを中心に行う授業です。映像資料も適時使用します。また、プレゼンテーションも行います。 This class will proceed with lectures and discussions. Visual materials such as movies will be used occasionally. There will be a presentation by students as well.		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、言語と文化の関係について考え、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題に対する理解を深めるための授業です。とりわけ、英語圏の国や地域の歴史、社会、文化についての基本的な状況を踏まえつつ、英語がどのように話されているかを体験的に学んでいきます。より具体的には、歌の歌詞やスピーチや映画のセリフやCM広告のセリフなどにも目をむけて、言語の重要性や魅力について様々な角度から比較文化的に考えていきます。また、異文化コミュニケーション（異文化交流）における言語の役割や、メディアにおける言語					
18.学習目標と DPとの関連	●言語と文化の関係について考え、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題に対する理解を深めることができる ●英語圏の国や地域の歴史、社会、文化についての基本的な状況を踏まえつつ、歌の歌詞やスピーチや映画のセリフやCM広告のセリフなどにおいて、英語がどのように話されているかを具体的に理解することができる ●言語の重要性や魅力について、様々な角度から比較文化的に考えることができるとともに、異文化コミュニケーション（異文化交流）における言語の役割や、メディアにおける言語の使用のあり方などについても理解を深めることができる (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	Some printed materials will be distributed in class （教材資料などを授業中に配布します）					
20.参考文献						
21.成績評価	Assignments（授業内の課題）30%, Final Report（期末レポート）40%, Presentation（プレゼンテーション）20%, Reaction Paper（授業内容のまとめと感想を書いて提出するリアクションペーパー）10%					
22.コメント	この授業では、言葉というものを多様な観点から様々な文化の中で捉えていきます。普段のコミュニケーションの中で使われる言葉についてだけではなく、外国人とのコミュニケーションで気をつけるべき言葉の特徴についても考えていきます。また、映画のセリフやCMのセリフ、歌の歌詞やスピーチの言葉などについても幅広く取り上げ、言葉の重要性について理解を深めていきます。もし言葉に興味があったら、この授業を楽しめると思います。					

	* 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Course Introduction (授業の紹介)	
第 2 回	Introduction of various functions and features of language (言葉の様々な特徴と機能についての紹介)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 3 回	Introduction of history and culture of English speaking countries/Comparison of English spoken in different countries (英語圏の国や地域の歴史、社会、文化についての紹介と世界の異なる英語の比較)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 4 回	Introduction of cultural diversity and importance of intercultural communication (世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの課題についての紹介)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 5 回	Experiential learning by using on-line language learning system (オンライン語学学習システムを使った体験学習)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 6 回	language and songs in the world (歌における言葉についての紹介：様々な国の歌を取り上げ比べます)：Experiential learning through a group task (グループワークを通した体験学習)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 7 回	language and TV commercials in the world (CM などにおける言葉について紹介：様々な国の CM を取り上げ比べます)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 8 回	movie appreciation and discussion (言葉と文化に関する映画鑑賞とディスカッション)	
第 9 回	movie appreciation and discussion (言葉と文化に関する映画鑑賞とディスカッション)	
第 10 回	language and speech in the world (スピーチにおける言葉の紹介：様々な国のスピーチを取り上げ比べます)：Experiential learning through a group task (グループワークを通した体験学習)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 11 回	language and intercultural communication (異文化コミュニケーションと言葉の関係についての紹介)：Experiential learning through a group task (グループワークを通した体験学習)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(120 minutes)
第 12 回	Presentation (プレゼンテーション)	
第 13 回	Presentation (プレゼンテーション)	
第 14 回	Presentation (プレゼンテーション)	
第 15 回	Course conclusion (まとめ)	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-A71	2.科目名	異文化理解		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴニー啓子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Objectives:					
	This course aims to foster cross-cultural understanding.					
18.学習目標と DPとの関連	Abstract:					
	Students will observe what culture is, identify aspects of cultural diversity, research the surface culture and deep culture of English-speaking countries, and appreciate people					
19.教科書・教材	You can...					
	1. observe and identify what culture and cultural diversity are. 2. understand the society, cultures and communication styles of English-speaking countries 3. appreciate people and cultures in other countries. 4. identify the important attitudes of a multi-cultural society					
20.参考文献	DP: 多様性理解					
21.成績評価	How Culture Affects Communication, Kinseido, Paul Stapleton, ￥1400					
22.コメント	to be announced in class					
23.オフィスアワー	In-class report 各 10 点 (50%) Reading Quizzes (20%) Essay exam (20%) Report (10%) - A reading comprehension quiz for each unit will be given every class. - An essay exam will take place on the last day. - All quizzes and the exams are open-book; however					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Day 1-1	Orientation: Self-Introduction, syllabus, class rules, etc 1. What is culture? Stereotype and Generalization Pair/group discussion					

	Writing an in-class report	
Day1-2	2. World Englishes and English Speaking Countries Lecture, pair/group work, Research Writing a report	
Day 1-3	3. English Proverbs and Expressions Text Unit 9, 10, 12 lecture, pair/group discussion research, writing an in-class report	Homework Assignment Reading text Unit 1, 3, 4, 5 Prepare for Quiz 1 (U1, U5) and Quiz 2 (U 3, U 4) Reading newspaper articles.
Day 2-1	4. Text Unit 1 and Unit 5 Quiz 1 (U1, U5) lecture pair/group discussion writing an in-class report	
Day 2-2	6. Verbal Communication : Small Talk Unit 3 and Unit 4 Quiz 2 Lecture, role play, pair/group discussion Writing in-class report	
Day 2- 3	5. High Context and Low Context Lecture Presentation: USA, Canada Writing in-class report pair/group discussion	Homework Assignment Reading Text Unit 2, Unit 6 Prepare for Quiz 3 (U2, U6)
Day 3-1	7. Verbal Communication : 1. Bowling Style and Ping-pong Style 2, formal/informal language Quiz 3 (U 2, U6) Lecture pair/group discussion Writing in-class report	
Day 3-2	8. Verbal Communication : Face to Face Communication Quiz 4 (U8) Lecture pair/group discussion, role-playing writing an in-class report	
Day 3 - 3	9. Nonverbal Communication : gestures, facial expressions, movement	Homework Assignment Reading Text U13, U16

	Lecture pair/group discussion Writing in-class report	Prepare for Quiz 4 (U13) and Quiz 5 (U16). Reading 3 newspaper articles
Day 4-1	10. Political Correctness Quiz 4 (U13) Lecture pair/group discussion Research Writing in-class report	
Day 4-2	11. Cultural Stereotypes, Prejudice, Discrimination Quiz 5 (U16) Lecture, pair/group discussion Research Writing in-class report	
Day 4-3	12. English Speaking Countries Prepare for the presentation Submit power point material	Submit power point material Homework Assignment Prepare for presentation and final essay exam
Day 5 -1	13. Group Presentation Writing in-class report	
Day 5- 2	14. Writing research report Group work Prepare for the final essay exam	
Day 5- 3	15. Essay exam and Consolidation Essay exam review Writing reflection paper	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y01	2.科目名	グローバル化と社会 (1/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤恭仁彦					
5.授業科目の区分	グローバル学部グローバル学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	配当されたクラスで履修					
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?グローバルな社会を考えるために、私たちの社会を知る概要? 「グローバル」という言葉は日常的に使用されています。世界とつながる、といったイメージがあるかもしれません。ではつながっているという、私たちの社会はどのようなもののでしょうか。本授業では「社会学」をベースとし、日本社会について考えます。社会といっても漠然としているかもしれません。そこで本授業では統計資料について読むということを大切にします。社会の動向を知るとともに、その実態についてデータを通じて考えることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. 日本社会に関する基本知識を説明できる。 2. 日本社会とグローバル社会の関連を説明できる。 3. 日本社会の状況について、自らの関心について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	関連資料は WEBCLASS にて配布します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 15% (2) ペーパーメディアを参照しよう (?標 1 に対応) 30% (3) ネットメディアを参照しよう (?標 2 に対応) 30% (4) 最終課題：学びのポスター制作 (学習?標 3 に対応) 25%					
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなどもおこないます。					
23.オフィスアワー	追ってお知らせします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 2 回	グローバル化とは (メディア/文化/サブカル)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 3 回	社会を考えよう (人口減少・過疎)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 4 回	グローバル化と観光 (オーバーツーリズム)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 5 回	グローバル化と経営 (多国籍企業/地域経済)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 6 回	グローバル化と経済格差 (貧困)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 7 回	グローバル化と社会問題 (ジェンダー)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 8 回	グローバル化と社会問題 (SDGs/DEI)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/ペーパ		

		ーメディアを参照しよう
第 9 回	グローバル化とナショナリズム（伝統）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 10 回	グローバル化と国際協力（国際協力）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 11 回	グローバル化と市民（市民とまちづくり）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 12 回	グローバル化と移民（移民/外国人）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/ネット メディアを参照しよう
第 13 回	社会を考えよう（家族）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 14 回	社会を考えよう（経済）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 15 回	まとめと学びのポスター作製	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y02	2.科目名	グローバル化と社会 (2/4)	3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb				
5.授業科目の区分	グローバル学部グロー バル 学科?	6.必修・ 選択の区分	必修?	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～?
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?グローバルな社会を考えるために、私たちの社会を知る概要? 「グローバル」という?葉は?常的に使?されています。世界とつながる、といったイメージがある かもしれません。ではつながっているという、私たちの社会はどのようなものでしょうか。本授業で は「社会学」をベースとし、?本社会について考えます。社会といっても漠然としているかもしれま せん。そこで本授業では統計資料について読むということを?切にします。社会の動向を知るととも に、その実態についてデータを通じて考えることを?指します。				
18.学習目標と D P との関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1.?本社会に関する基本知識を説明できる。 2.?本社会とグローバル社会の関連を説明できる。 3.?本社会の状況について、?らの関?について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	関連資料は WEBCLASS にて配布します。?				
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) ?学習?誌「今?学んだこと」の投稿×15 回 ? (?標 1・2・3 に対応) ?15% (2) ?ペーパーメディアを参照しよう? (?標 1 に対応) ?30% (3) ?ネットメディアを参照しよう? (?標 2 に対応) ?30% (4) ?最終課題?学びのポスター制作? (学習?標 3 に対応) ?25%				
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなど もおこないます。??				
23.オフィスアワー	Tuesdays, Lunchtime				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	ガイダンス?			【WEBCLASS】 今?学んだことの投稿??	
	グローバル化とは (メディア/?化/サブカル)			【WEBCLASS】 今?学んだことの投稿??	

	社会を考えよう（??減少・過疎）	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と観光（オーバーツーリズム）？	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と経営（多国籍企業/地域経済）？	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と経済格差（貧困）	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と社会問題（ジェンダー）？	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と社会問題（SDGs/DEI）	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化とナショナリズム（伝統）？	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と国際協?（国際協?）？	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と市?（市?とまちづくり）	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	グローバル化と移?（移?/外国?）？	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	社会を考えよう（家族）	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	社会を考えよう（経済）	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??
	まとめと学びのポスター作製?	【WEBCLASS】今?学んだ ことの投稿??

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y03	2.科目名	グローバル化と社会 (3/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	グローバル学部グロー バル学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?グローバルな社会を考えるために、私たちの社会を知る概要? 「グローバル」という言葉は日常的に使用されています。世界とつながる、といったイメージがあるかもしれません。ではつながっているという、私たちの社会はどのようなものでしょうか。本授業では「社会学」をベースとし、日本社会について考えます。社会といっても漠然としているかもしれません。そこで本授業では統計資料について読むということを大切にします。社会の動向を知るとともに、その実態についてデータを通じて考えることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. 日本社会に関する基本知識を説明できる。 2. 日本社会とグローバル社会の関連を説明できる。 3. 日本社会の状況について、自らの関心について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	関連資料は WEBCLASS にて配布します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 15% (2) ペーパーメディアを参照しよう (?標 1 に対応) 30% (3) ネットメディアを参照しよう (?標 2 に対応) 30% (4) 最終課題：学びのポスター制作 (学習?標 3 に対応) 25%					
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなどもおこないます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 2 回	グローバル化とは (メディア/文化/サブカル)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 3 回	社会を考えよう (人口減少・過疎)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 4 回	グローバル化と観光 (オーバーツーリズム)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 5 回	グローバル化と経営 (多国籍企業/地域経済)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 6 回	グローバル化と経済格差 (貧困)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 7 回	グローバル化と社会問題 (ジェンダー)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 8 回	グローバル化と社会問題 (SDGs/DEI)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/ペーパ		

		ーメディアを参照しよう
第 9 回	グローバル化とナショナリズム（伝統）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 10 回	グローバル化と国際協力（国際協力）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 11 回	グローバル化と市民（市民とまちづくり）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 12 回	グローバル化と移民（移民/外国人）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/ネット メディアを参照しよう
第 13 回	社会を考えよう（家族）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 14 回	社会を考えよう（経済）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 15 回	まとめと学びのポスター作製	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y04	2.科目名	グローバル化と社会 (4/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	展開科??	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	「グローバル化」という言葉で取りあげられてきたさまざまな事象は、人びとにどのように経験されてきたのであろうか。グローバル化は、たんに企業や自治体のキャッチフレーズだけでなく、人びとの生活に直接的な影響を及ぼしてきた。経験のあり方は、住んでいる場所や階級、人種や性別などによって大きく異なる。グローバル化がもっとも強く表れる場のひとつとして労働の場がある。					
18.学習目標と DPとの関連	企業の国際経営に関わる基本的な理論を理解し、国境を越えて経営活動を行う際に起こり得る問題及びその対応策について考察し、将来のビジネス現場で、臨機応変的な対応ができるようになる。?					
19.教科書・教材	未定					
20.参考文献	講義において都度提?する?					
21.成績評価	テストおよびレポート 80 点、討論や質問など 20 点					
22.コメント	講義では、パワーポイントによるスライドで概念図を示し、概要や基本的用語などの説明と、事例となる顧客満足の取り組みを写真や動画を活用して紹介していく。 本講義は学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションがとれる授業展開を目指す。講義は、テキストを参照しながらの受講を求める。掲示スライドの配布は実施しない。? 国際化関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望する。私語をしない、携帯電話は使用しない（メールや時計利用も含む）、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しないなど。					
23.オフィスアワー	未定					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	?オリエンテーション ■?講義内容?講義概要、学習?標、評価?法等			授業の内容説明する		
第 2 回	グローバリゼーションは、新しい現象である			いろいろと比較を試みながら実態を知っていく。とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする		
第 3 回	グローバリゼーションは、新しい現象である			いろいろと比較を試みながら実態を知っていく。とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする		
第 4 回	グローバリゼーションは、無秩序な自由主義の勝利である」のか			現在問われている最重要なもんだいとして論じよう		
第 5 回	グローバリゼーションは、雇用を破壊する			とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする。		
第 6 回	グローバリゼーションによって、“世界市民”が誕生			現在問われている最重要なもんだいとして論じよう		

第 7 回	グローバリゼーションは、民主主義や人権を無視	現在問われている最重要なもんだいとして論じよう。
第 8 回	グローバリゼーションは、先進国だけに利益をもたらす課題	現在問われている最重要なもんだいとして論じよう。
第 9 回	グローバリゼーションによって、世界は“グローバル・ヴィレッジ”になった	現在問われている最重要なもんだいとして論じよう。
第 10 回	グローバリゼーションは、環境を破壊する	とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする。
第 11 回	グローバリゼーションによって、人々の移動は容易になる	とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする。
第 12 回	グローバリゼーションは世界の貧困をより深刻について	とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする。
第 13 回	グローバリゼーションは世界の貧困をより深刻について バングラデシュの事例	とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする。
第 14 回	グローバリゼーションは世界の貧困をより深刻について バングラデシュの事例	とくにアジア諸国の追い上げの特性を明らかにする。
第 15 回	総括試験？	レポート課題

1.授業コード (ナンバリング)	GLB103-Y01	2.科目名	グローバル概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡邊陽介					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・経験学習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 ①今、世界で何が起きているのかを理解する（To understand what is happening in the world ） ②それによって自分の居場所を確認する（To know where you are） ③未来の自分を想像する（To try to know where you will be） 【概要】 グローバリゼーションは現在の国際情勢を横糸で貫くキーワードです。この現象を理解しつつ、米国、中国、ロシア、中東などの具体的な地域情勢を学んでいきます。また、経験学習や外部講師の講					
18.学習目標と DPとの関連	グローバリゼーションの現状と世界各地の情勢を学び「多様性理解」を深めます					
19.教科書・教材	授業中に適宜、配布する					
20.参考文献	Globalization-A very short introduction(Oxford University Press) ISBN 978-0-19-288619-4					
21.成績評価	クラスで適宜行う小テスト、中間テスト、期末レポート 1 回 小テスト 2 0 % 中間テスト 3 0 % 期末レポート 5 0 %					
22.コメント	世界を知ることとは自分を理解することにつながる					
23.オフィスアワー	水曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	グローバリゼーションの現状と定義を理解する			グローバル化の定義について自身で調べてみる		
第 2 回	反グローバルを掲げる米トランプ政権の登場で戦後秩序は危機に瀕している			トランプ米大統領について調べてみる		
第 3 回	経験学習①＝グローバルな課題に取り組む万博（事前学習）			万博の意義について考えてみよう		
第 4 回	経験学習②＝神戸ウォーカー			神戸の歴史を振り返ってみよう		
第 5 回	トランプ政権再登板の背景には性自認などをめぐる米国社会の分断がある。			LGBTQ について調べてみよう		
第 6 回	米国の分断の背景にネット社会の情報流通の問題がある。フェイクニュースへの対応も考える。			ネット情報に自分はどうか接しているか。考えてみよう。		
第 7 回	グローバリゼーションの優等生と言われる中国。改革開放でどのように変化したのか。独自の政治体制、メディアの在り方も学ぶ。			中国の急速な発展の理由は何だと思うか		
第 8 回	米国と中国は 2 つの超大国としてライバル関係にある。現状と双方の思惑を探る。この回に中間テストも			米中両国は新冷戦下にあると思うか		

	予定。	
第 9 回	ウクライナ戦争の背景には西欧主導のグローバル化への反発がある。グローバルガバナンスは崩壊の危機に瀕している。	ウクライナ戦争がなぜ起きたか、考えてみよう
第 1 0 回	英国はなぜ EU を離脱したか。移民への反発と自国の主権、文化を失うことへの恐怖＝反グローバル化の感情があった。	日本の移民政策について考えてみる。
	中東情勢の混乱が続いているのは、米国が「民主主義の輸出」を狙ったことも遠因となっている。	パレスチナとイスラエルの対立についてどう思うか。
	地球温暖化、テロ、難民問題をグローバル化の動きの中で考えていく。	地球温暖化をどう受け止めているか。
	外務副大臣特別講義 日程は調整中	
	日本酒のグローバル化について製造業者に聞く 日程は調整中	
	今期の講義のまとめとディスカッション	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB103-Y02	2.科目名	国際コミュニケーション概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡邊陽介					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部グローバル学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・経験学習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 ①今、世界で何が起きているのかを理解する（To understand what is happening in the world ） ②それによって自分の居場所を確認する（To know where you are） ③未来の自分を想像する（To try to know where you will be） 【概要】 グローバリゼーションは現在の国際情勢を横糸で貫くキーワードです。この現象を理解しつつ、米国、中国、ロシア、中東などの具体的な地域情勢を学んでいきます。また、経験学習や外部講師の講					
18.学習目標と DPとの関連	グローバリゼーションの現状と世界各地の情勢を学び「多様性理解」を深めます					
19.教科書・教材	授業中に適宜、配布する					
20.参考文献	Globalization-A very short introduction(Oxford University Press) ISBN 978-0-19-288619-4					
21.成績評価	クラスで適宜行う小テスト、中間テスト、期末レポート 1 回 小テスト 2 0 % 中間テスト 3 0 % 期末レポート 5 0 %					
22.コメント	世界を知ることとは自分を理解することにつながる					
23.オフィスアワー	水曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	グローバリゼーションの現状と定義を理解する			グローバル化の定義について自身で調べてみる		
第 2 回	反グローバルを掲げる米トランプ政権の登場で戦後秩序は危機に瀕している			トランプ米大統領について調べてみる		
第 3 回	なぜ米国でトランプ政権が生まれたのか。米国の分断を探る。			米国の LGBTQ 論議を調べてみる		
第 4 回	米国の分断の背景にネット社会の情報流通の問題がある。フェイクニュースへの対応も考える。			ネット情報に自分はどう接しているか。考えてみよう。		
第 5 回	英国はなぜ EU を離脱したか。移民への反発と自国の主権、文化を失うことへの恐怖＝反グローバル化の感情があった。			日本の移民政策をどう思うか、考えてみる。		
第 6 回	ウクライナ戦争の背景には西欧主導のグローバル化への反発がある。グローバルガバナンスは崩壊の危機に瀕している。			ウクライナ戦争がなぜ起きたか、考えてみよう		
第 7 回	中国はグローバリゼーションの優等生。改革開放でどのように変化したのか。			中国の急速な発展の理由は何だと思いませんか		

第8回	米国と中国は2つの超大国としてライバル関係にある。現状と双方の思惑を探る。この回に中間テストも予定。	米中両国は新冷戦下にあると思いますか
第9回	中東情勢の混乱が続いているのは、米国が「民主主義の輸出」を狙ったことも遠因となっている。	パレスチナとイスラエルの対立についてどう思いますか
第10回	地球温暖化、テロ、難民問題をグローバル化の動きの中で考えていく。	地球温暖化をどう受け止めていますか
	経験学習① 日程については調整中	
	経験学習② 日程は調整中	
	外務副大臣特別講義 日程は調整中	
	日本酒のグローバル化について製造業者に聞く 日程は調整中	
	今期の講義のまとめとディスカッション	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB207-Y01	2.科目名	グローバル事情		3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件	無し			11.先修条件	無し	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習、グループワーク、Presentation	
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	This course aims to develop students' discussion skills through engaging with global issues such as social media, environmental challenges, and education reform. By practicing key discussion techniques—including expressing opinions, agreeing and disagreei					
18.学習目標と DPとの関連	①Autonomy (自律性) Students will develop self-directed learning habits by actively participating in discussions, setting goals for improvement, and enhancing their ability to express ideas confidently.					
	②Social Contribution (社会的貢献性) Through collaborative discussions on global issues, students will learn to engage with peers, listen to different perspectives, and contribute constructively to group discussions.					
	③Understanding of Diversity (多様性理解) By exploring global topics such as cultural differences, environmental challenges, and social issues, students will deepen their appreciation of diverse perspectives and enhance their intercultural communication skills.					
	④Problem-Solving Skills (問題発見・解決力) Students will develop critical thinking abilities by analyzing multiple viewpoints, discussing pros and cons, and constructing well-supported arguments to address global challenges.					
	⑤Communication Skills (コミュニケーションスキル) The course will enhance students' ability to articulate opinions, agree and disagree effectively, summarize discussions, and lead conversations in both academic and professional contexts.					
	⑥Application of Specialized Knowledge and Skills (専門的知識・技能の活用力) Students will apply discussion strategies and structured communication techniques to real-world scenarios, improving their ability to engage in meaningful and well-reasoned discussions.					
19.教科書・教材	An Introduction to Discussion Skills Global Issues ISBN: 978-4-7919-7225-8 Authors: Garry Pearson, Graham Skerritt Seibido					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	① 5 Quizzes = 20% ② Tasks (from the textbook, not from the textbook) = 20% ③ Speaking/Discussion: 20% ④ Final Discussion (both speaking & written): 40%					
22.コメント	自分の意見をしっかり伝える力を身につけましょう！この授業では、ソーシャルメディアや教育改革などのグローバルな課題をテーマに、意見を述べる、賛成・反対を表現する、議論をリ					

	ードする、要点をまとめるといったディスカッションスキルを磨いていきます。これらのコミュニケーション力は、授業だけでなく、将来の就職活動や仕事の場面でも大きな強みになります。	
23.オフィスアワー	Check out the Learning Support schedule	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1-1. Course Orientation & Getting to Know Each Other (Syllabus overview, discussion expectations, icebreaker activities) 1-2. Introduction to Discussion Skills (Basic expressions for discussions, active listening, turn-taking strategies)	Read the syllabus and prepare questions about the course structure. Write a self-introduction (1 paragraph) and be ready to share in class.
	2-1. The Cashless Society (Learning how to discuss opinions) 2-2. Fast Fashion (Learning how to ask questions if you didn't hear or understand)	Research one pro and one con of cashless payments and bring notes.
	3-1. Plastic Packaging (Learning how to agree and disagree) 3-2. Cell Phone Etiquette (Learning how to give yourself time to think)	Complete the task in the textbook (agree/disagree practice). Find one real-life example of poor cell phone etiquette and bring a short summary.
	4-1. Vegetarianism (Learning how to support reasons with examples) 4-2. Social Media (Learning how to continue a discussion)	Prepare 2 arguments for and 2 against vegetarianism with examples.
	Quiz 1 about 2-1 ~ 4-2 5-1. The Soda Tax (Learning how to expand your answer) 5-2. Overtourism (Learning how to ask for, make, and respond to suggestions)	Write a short paragraph (5 sentences) explaining your opinion on the soda tax. Research a popular tourist site suffering from overtourism and bring data/facts.
	6-1. Improving Education (Learning how to support your opinion with multiple reasons) 6-2. Voting Age (Learning how to check your understanding)	Prepare an argument for or against lowering the voting age to 16.
	7-1. Rethinking Zoos (Learning how to lead a discussion) 7-2. Alternative Energy (Learning how to discuss the pros and cons of something)	Find a news article about a zoo controversy and summarize key points. Bring an example of a country successfully using alternative energy.
	Quiz 2 about 5-1 ~ 7-2 8-1. Equal Pay in Sports (Learning how to discuss both sides of an argument) 8-2. Gaming Addiction (Learning how to interrupt politely and deal with interruptions)	Find statistics about gender pay gaps in a sport of your choice.
	9-1. Britain's Royal Family (Learning how to summarize a discussion)	Prepare a summary (5-7 sentences) of a past discussion topic.

	9-2. Review & Practice Discussions on Previous Topics	Bring notes for a 5-minute discussion practice session.
	Quiz 3 about 8-1 ~ 9-2 10-1. Group Discussion Practice (Mixed-topic discussions, rotating group leaders) 10-2. Mini-Discussion Assessment 1 (Students discuss a topic from previous weeks and receive feedback)	Task Submission (all completed textbook tasks so far). Prepare a discussion topic and 3 supporting points.
	11-1. Advanced Discussion Strategies (Clarifying, challenging ideas, asking follow-up questions) 11-2. Research and Preparation for Debate (Choosing a topic, gathering information, structuring arguments)	Research and choose a global issue for debate. Write a 250-word argument with 3 supporting points.
	12-1. Practice Debate 1 (Students participate in structured debates) 12-2. Practice Debate 2 (Feedback and reflection on debate techniques)	Prepare counterarguments to classmates' debate topics.
	13-1. Group-Led Discussions (Each group chooses a topic and facilitates a discussion) 13-2. Advanced Summarizing & Reporting Discussion Outcomes (Students practice summarizing key points from discussions)	Write a one-page reflection on your strongest and weakest discussion skills. Bring a transcript or notes from a recorded discussion.
	14-1. Mock Final Discussion (Simulating final discussion with self and peer evaluations) 14-2. Strategies for Improving Discussion Skills Beyond the Course (Reflection and goal setting)	Prepare for final discussion with notes and structured arguments. Write a personal learning plan for improving discussion skills.
	15-1. Final Discussions ? Part 1 (Students engage in their final discussion assessment) 15-2. Final Discussions ? Part 2 & Course Wrap-Up (Final feedback, self-assessment, and closing remarks)	Final Discussion (Speaking & Written Assessment, 40%) Submit final self-evaluation form and reflection essay (250 words).

1.授業コード (ナンバリング)	GLB208-Y01	2.科目名	国際関係		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川眞理子					
5.授業科目の区分	Basic education	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	Open to All departments			9.履修学年	the second year and above	
10.取得資格の要件	None		11.先修条件	None		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture-style course (two-way interactions expected)		
16.履修制限	none					
17.授業の目的と概要	To become capable of explaining, for example, "Why Tik-Tok should be/should not be banned". Once you learn how to relate the big picture and your life, the newly acquired skill will further enable you to open up your horizon, helping you to act on your wi					
18.学習目標と D P との関連	This course takes the CLIL format of learning English while studying theories and topics of international relations. Students are expected to develop attitudes and skills to relate international relations to themselves in as concrete a way as possible. Through the exercise, it is expected to contribute to developing capabilities to objectively recognize the current situation, a prerequisite for acting as a global citizen, and to propose and act on problem-solving proposals shared with people and organizations from different backgrounds (DP ② Social contribution, ③ Understanding diversity, ④ Problem finding and solving skills) このコースは、国際関係の理論やトピックを学びながら英語を学ぶという CLIL の形式をとり、履修者は国際関係を自分自身にできるだけ具体的に関連付ける態度とスキルを身につけることが期待される。これを通して、地球市民として行動するための前提条件である現状を客観的に認識し、異なる背景を持つ人々や組織と共有する問題解決案を提案し行動する能力の育成に寄与することが期待される (DP ②社会貢献、③多様性の理解、④問題発見・解決力)。					
19.教科書・教材	International Relations (2016) Stephen McGlinchey, ISBN 13: 9781910814185 (下記どちらからでもダウンロードできます) https://open.umn.edu/opentextbooks/textbooks/448 https://www.e-ir.info/publication/beginners-textbook-international-relations/ Download the textbook in the P					
20.参考文献	国際ニュースを見聞きして、事象が生起している現場の「地理」と「歴史」を思い浮かべることができると試してみてください。まったく分からないならば、それはこれから社会に出るときに最低限必要なレベルの知識を身につけておかねばならない気づきの第一歩です。中高で履修したとかしなかったとかに関わらず、社会人として活動できる基礎として、高校レベルの社会科科目の教科書の内容を確認しておきましょう。 授業ではそのときどきのニュースに触れることがあります。日常的にニュースをフォローしておいてください。					
21.成績評価	The following activities will be discussed on the 1st day. Preview & Review (WebClass で課される課題を期日までに仕上げて提出する) 30% Contribution to Classes (Active participation in discussions, Raising Informed Questions, etc.) 20% The end-of-term examination constitutes 50%					
22.コメント	この授業科目は、英語で実施する科目と指定されています。 授業を英語で実施するか、日本語で実施するか、あるいは、折衷とするか、第 1 回で皆さんに					

		伺いますので、教科書をざっと最後まで見たあとで、どういう割合がよいか考えておいてください。 ただし、多数決ですべて決めることはいたしません。一人でも反対意見があれば、その意見を反映させる努力をします。 また、ロシアーウクライナ（EU）ーアメリカ、パレスチナーイスラエルなど、現実世界の動きに注目していくので、授業内容をシラバスから変更することがあります。授業内、または、WebClass でお知らせします。
23.オフィスアワー		To be announced 調整中
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Depending on the real life/real world situation, change(s) in the following plan may be proposed. You are requested to follow current international affairs so that you could make informed decision if/when such a proposal is given. What is international	
第 2 回	International Laws and me, you, and us. ・ Universal Declaration on Human Rights (1948) ・ Convention on the Rights of the Child 子どもの権利条約 ・ Convention on the Elimination of All Forms of Discrimination against Women 女子差別撤廃条約 References: Chapter 5."INTERNATION	WebClass に掲載されている課題を実施し、期日内に提出しておくこと。第 3 回以降の講義も同じ。
第 3 回	International Theories: "Realism" and "Liberalism" Chapter 4. "INTERNATIONAL RELATIONS THEORY" Chapter 1. "THE MAKING OF THE MODERN WORLD"	
第 4 回	International Theories 2: Using theories Chapter 4. "INTERNATIONAL RELATIONS THEORY" Chapter 1. "THE MAKING OF THE MODERN WORLD" Chapter 2. "DIPLOMACY"	
第 5 回	Conflicts on the Eurasian Continent, Middle East, and Japan Chapter 2. "DIPLOMACY" Chapter 4. "INTERNATIONAL RELATIONS THEORY" Chapter 5. "INTERNATIONAL LAW"	
第 6 回	Security and Human Security 1 Chapter 11. "PROTECTING PEOPLE"	
第 7 回	Security and Human Security 2 Chapter 8 "GLOBAL POLITICAL ECONOMY" Chapter 10 "GLOBAL POVERTY AND WEALTH"	
第 8 回	Security and Human Security 3	

	Chapter 15. "THE ENVIRONMENT" Chapter 16. "FEEDING THE WORLD"	
第 9 回	Security and Human Security 4 Chapter 7. "GLOBAL CIVIL SOCIETY" Chapter 13. "VOICES OF THE PEOPLE" Reference to Chapter 3. "ONE WORLD, MANY ACTORS" Chapter 6. "INTERNATIONAL ORGANISATIONS"	
第 10 回	GAFA, Echo-Chamber and Filter Bubble Chapter 12. "CONNECTIVITY, COMMUNICATIONS AND TECHNOLOGY" Chapter 8 "GLOBAL POLITICAL ECONOMY"	
第 11 回	Security and Human Security 5 Chapter 14. "TRANSNATIONAL TERRORISM" Chapter 9. "RELIGION AND CULTURE" Chapter 10 "GLOBAL POVERTY AND WEALTH"	
第 12 回	Chapter 13. "VOICES OF THE PEOPLE" Reference to: Chapter 12. "CONNECTIVITY, COMMUNICATIONS AND TECHNOLOGY" Chapter 5. "INTERNATIONAL LAW" Chapter 6. "INTERNATIONAL ORGANISATIONS" Chapter 7. "GLOBAL CIVIL SOCIETY"	
第 13 回	Poverty, Health, Fairness Discussion on the Covid-19 Experiences through IR perspectives	
第 14 回	Sovereignty and Human Rights Chapter 17. "MANAGING GLOBAL SECURITY BEYOND 'PAX AMERICANA'"	
第 15 回	My interests, my objectives, and my roles in international relations Chapter 18. "CROSSINGS AND CANDLES"	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB211-Y01	2.科目名	グローバルアントレプレナー論		3.単位数	2
4.授業担当教員	芦沢真五					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	グローバル・コミュニケーション学科 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2, 3	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	レクチャーおよびディスカッション		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	国際的に活躍しうる人材に求められる能力の中で、リスクを取りながらも創造的なビジネス、社会事業を実現する力はますます重視されている。こうした起業家に必要なマインド（起業家精神）は、実際に起業する人材にだけ求められているのではない。既存の企業や NPO においても組織内で起業家精神をもった取り組みを展開することが期待されている。本授業においては、受講者は起業家精神について学ぶことに加えて、社会的に意義のあるビジネスや非営利活動を実際にグループワークを通じて構想し、事業プランを発表する。このプロセスを通じて、起業家					
18.学習目標と D P との関連	起業をおこすうえで求められる資質、知識、経験則、人的ネットワークなどを学ぶことを通じて、起業家マインドの醸成のための基盤となる知見を獲得する。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP(2)社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP(3)多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） ・ DP(4)問題発見・解決力の内容も含みます。 <SDGs の 17 の目標との対応> 本授業は以下の項目に対応している。 3.すべての人に健康と福祉を 9.産業と技術革新の基盤をつくろう 16.平和と公正をすべての人に 17.パートナーシップで目標を達成しよう					
19.教科書・教材	特に定めない					
20.参考文献	Business Model Generation: A Handbook for Visionaries, Game Changers, and Challengers (Osterwalder and Pigneur) , 2010, Wiley 授業の進捗にあわせてオンラインで配布する。					
21.成績評価	毎回授業の小テスト、クラス内ワークなどを評価する（60%）。 中間レポート、最終発表を評価する（40%）。生成 AI 利用に関して、原則として使用を認める。ただし、最終発表で使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。					
22.コメント	本授業では、グループワークやディスカッションを重視し、シュミレーションゲームなどを取り入れる。体調不良などで出席できない場合はメールで連絡すること。 生成 AI 利用に関して、原則として使用を認める。ただし、最終発表で使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。					
23.オフィスアワー	授業前および授業後に実施する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 日?	導入：授業概要および目的、課題などの説明			ノートなどを持参		
第 1 日?	イノベーションがなぜ必要なのか？社会的ニーズについて学ぶ。授業内でシュミレーション・ゲームを実施			指定された資料を読んでくこと		

	する。	
第 1 日?	起業という概念：起業は決して新しい概念ではなく、歴史的にも多くの起業家が存在してきた。この歴史を学ぶとともに第 4 次産業革命を迎えた現代において、起業家精神を持つことの意義が高まっていることを学習する。	指定された事前学習資料を読むこと
第 1 日?	起業のためのリソース調達（資金：多様な調達方法）	指定された事前学習資料を読むこと
第 2 日?	起業のためのリソース調達（人・モノ）：他の機関とのリソースシェアリングなど	指定された事前学習資料を読むこと
第 2 日?	Customer Segment（マーケティング入門） 顧客がその商品を手に入れることで顧客にもたらされる明確で実証可能な利益とその基本概念について学ぶ。	指定された事前学習資料を読むこと
第 2 日?	Value Proposition 顧客に提供する価値を明示し、製品やサービスのメリット、自社の存在価値や独自性を顧客に伝えるために、どのような手法があるかを考え、具体例から基本概念を学ぶ。	指定された事前学習資料を読むこと
第 2 日?	組織デザインとリーダーシップ	指定された事前学習資料を読むこと
第 3 日?	ソーシャルビジネス（ゲスト・スピーカー 1）	指定された動画を視聴してくること
第 3 日?	ビジネス構想への展開（グループワーク 1）	グループワークの準備をしてくること
第 3 日?	起業に向けた発想転換（ゲスト・スピーカー 2）	指定された動画を視聴してくること
第 3 日?	起業の理論とベンチャー・エコについて学ぶ。スタートアップ起業が誕生して成熟するまでのプロセスについては、生態系になぞらえて「ベンチャー・エコ」と呼ばれてきた。参考文献を手掛かりにベンチャー・エコのメカニズムについて学ぶ。	指定された事前学習資料を読むこと
第 4 日?	NPO・行政機関と起業家精神（ゲスト・スピーカー 3）	指定された事前学習資料を読むこと
第 4 日?	ビジネス提案（グループワーク 2）	ビジネス提案の発表準備をしてくるとともに、他の学生の発表に対して評価コメントをまとめる。
第 4 日?	ビジネス提案（グループワーク 3）	ビジネス提案の発表準備をしてくるとともに、他の学生の発表に対して評価コメントをまとめる。なお、最終発表で生成 AI を使用する場合は、自分なりのコメントを付記して編集すること。

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A71	2.科目名	リサーチ入門 (再)		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾河 勇太					
5.授業科目の区分	共通教育科目 コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	指定されたクラスで受講すること					
17.授業の目的と概要	この授業では、おもにグローバルスタディをはじめ、体験型プログラムで必要な定性型の調査方法の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	具体的な調査方法として、観察調査法を取り上げ、調査の基礎、仮説の設定、観察力、分析を演習形式で身につける。 ・問題発見力=社会の中で問題になっていることを、理解することができる → 本授業では観察調査を実施する。調査対象に関する様々な問題に気づいてほしい。(調査の企画および実施を通して) ・論理的思考／判断力=根拠を?しつつ意?や判断を?することができる → 調査を通して根拠を示す方法を経験して学んでほしい。(仮説の設定から検証、考察まで→観察調査の発表資料で表現)					
19.教科書・教材	・竹田茂生・藤木清 著 『知的な論文・レポートのための リサーチ入門』 くろしお出版 2013 ※教科書は下記 URL で購入指定ください (詳細はユニパの「夏学期教科書販売についてのお知らせ」参照)。 https://smarts.maruzen.co.jp/myapp/TOS20100/9323/xp53gnvHD6lfBL9N ・学習技術研究会 編 『知へのステップ第3版』 くろしお出版 2011 ※1 年春学期の「学修技術」で使用した教科書を持参してください。 (発表用資料作成時に参照)					
20.参考文献	・大谷信介 他編著 『社会調査へのアプローチ (第2版)』 ミネルヴァ書房 2005 ISBN 4623041042 ・佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308					
21.成績評価	・ワークシート1： 15％ ・ワークシート3： 15％ ・調査研究計画書： 20％ ・プレゼンテーション： 40％ ・ふりかえり：10％					
22.コメント	・調査に必要な費用は各自負担 (商品の購入など) ・実査時を除き、ノートパソコンを使用します。 ・生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
◇第1日目◇ 【1 限目】	« 科学する心、調査する意義を学ぶ» ・シラバスに基づいて、本授業の説明を行う。 ・テキスト第1章			教室外学習 (予習、復習)、教室外グループ学修、提出物、持参物など		

	・ワークシート１：個人ワーク	※この授業では、実査を除き、すべての時間でノートパソコンを使用します。
【２限目】	«調査の基本概念を知る» ・テキスト第２章、第３章 ・ワークシート３：個人ワーク＋グループ又は全体ワーク	
【３限目】	«観察調査の理解と仮説さがし» ・テキスト第４章 ・事前調査：グループ又は全体ワーク ①観察する店舗を決める ②変化を見る	
【４限目】	«調査研究計画書の作成» ・ワークシート４：グループ又は全体ワーク 仮説、調査時間、調査場所を確認する ・調査研究計画書：個人ワーク 構成を考え、書く内容を書き	
◇第２日目◇ 【１限目】	«調査研究計画書の作成と発表» ・調査研究計画書の作成（つづき）：個人ワーク ・発表	
【２限目】	«調査研究計画書の発表と観察シートの作成» ・観察シートの作成：個人ワーク	
【３限目】	実査	
【４限目】	実査	
◇第３日目◇ 【１限目】	«調査結果の整理» ・テキスト第６章 ・仮説検証の確認、定性データの整理、評価得点の集計：グループ又は全体ワーク	
【２限目】	«調査結果の分析» ・定性データの整理、評価得点の分析：個人ワーク	
【３限目】	«発表用資料» ・パワーポイントで、発表用資料を作成：個人ワーク	
【４限目】	«読み原稿の作成» ・ワードで、読み原稿を作成（1,000～1,250字）：個人ワーク	○発表用資料と読み原稿の完成
◇第４日目◇ 【１限目】	«他者の発表を聞き、自ら発表する» ・クラス内で発表＝一人５分	
【２限目】	«他者の発表を聞き、自ら発表する» ・クラス内で発表＝一人５分 ・全体発表	
【３限目】	«ふりかえり» ・この授業で身に付いたこと ・総括	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-A71	2.科目名	グローバルスタディⅠ（国内/2025 夏神戸）		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、大平誠也					
5.授業科目の区分	体験学修	6.必修・ 選択の区分	必修あるいは選 択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	・「リサーチ入門」修得済み	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義、演習、調査	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・ブラジル移民の歴史、ブラジルでの日系人の活躍と現在の状況、在日のブラジルを含む外国人の状況と課題、NPO 法人関西ブラジル人コミュニティ CBK の活動内容とその意義ならびにこれまでの実績、受け入れ側の日本社会に対して望むことを、事前学習、施設での経験学修を通して、理解する。 ・日本で生まれ、ブラジルと日本、どちらの文化も、十分にわからないまま育っている日系ブラジル人の子どもたちに対するポルトガル語と日本語、算数、社会、理科の学修支援教室に参加し、日本文化を紹介する音楽を通した身体表現活動の学修支援を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	【多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力(多様性理解)】 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め世界市民として行動する ブラジルや多国籍の国々と日本における移住の歴史や現状に関心を持ち、必要な知識を習得し、活動先の現状と課題が理解いたうえて、グループメンバーと協働して活動をするを通して、教育・福祉の観点から、多文化共生としての文化交流の在り方について、貢献可能性を考える。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・ワークシート① ブラジルと日本における地理、歴史、季候、風土、文化の基礎知識 10% ・ワークシート② グループでの活動計画 10% ・グループによるプレゼン(PPT+発表) 10% ・ブラジルと日本の移住の歴史や現状を理解したうえての施設での活動の主旨、目的、方法を 800 字～1000 字でワード原稿にまとめる。15% ・施設の活動の振り返り 4 日間 5%×4=20% ・施設での活動を通して、学修支援と多文化共生としての文化交流の在り方を考える グループによるプレゼン(ポスター+発表) 10%～15					
22.コメント	・移民をテーマとした海外や国内でのボランティアへの参加等、体験学修で学んだことを、自身の今後の活動に結びつける認識をもって参画すること。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
<事前学習> 【第 1 回】	オリエンテーション 1 ・授業のねらいと今後の予定の確認					
【第 2 回】	・グループ編成 ブラジルと日本の移住について ・先行研究の整理			◎ブラジルと日本の移住の歴史と現状をまとめる（120 分）		
【第 3 回】				◆ノート P C 持参◆		

	・先行研究の整理と施設での学修支援の在り方を検討する	◎施設での活動について検討する（120分）
【第4回】	子どもたちへの学修支援の方法・構成をグループで考案し、指導案を作成する	◆ノートP C持参◆ ◎施設で活動をまとめ、PPTを作成する。（60分） ◎グループ発表の準備を行う。（60分）
【第5回】	施設での子どもたちへの学修支援の具体的指導案を作成する 事前学習のまとめとしてのPPTを作成する	◆ノートP C持参◆ ◎学修支援の指導案作成し プレゼンテーションの準備をする。（60分） ◎グループ発表の準備を行う。（60分）
【第6回】	事前学習のまとめとしてPPTを使用し、グループで発表を行う	◆ノートP C持参◆ ★PPTデータ提出
<施設での活動> 1日目	施設での活動	◆ノートP C持参◆ ★活動の振り返りをまとめる （60分）
2日目	施設での活動	◆ノートP C持参◆ ★活動の振り返りをまとめる （60分）
3日目	施設での活動	◆ノートP C持参◆ ★活動の振り返りをまとめる （60分）
4日目	施設での活動 子どもたちへの学修支援を実施する	◆ノートP C持参◆ ★活動の振り返りをまとめる （60分）
【第7回】	施設での活動の前半グループによる報告	◆ノートP C持参◆ ★前半グループの報告と後半グループの活動内容の再検討 （60分）
<事後学習> 【第1回】	活動結果の分析とまとめ1 ・活動内容を振り返り、発表の準備を行う。	◆ノートP C持参◆ ◎各グループ、活動内容を振り返り分析する。（240分）
【第2回】	活動結果の分析とまとめ2 ・活動内容を振り返り、発表の準備を行う。	◆ノートP C持参◆ ◎各グループ、活動内容を振り返り分析する。（240分）
【第3回】	活動結果の分析とまとめ3 ・活動内容を振り返り、発表の準備を行う。	◆ノートP C持参◆ ◎各グループ、活動内容を振り返り分析する。（240分）
【第4回】	報告会 ・各グループによるプレゼンテーション。	★各グループのプレゼンテーション ★最終レポート作成・提出（事前学修時に提示）（270分） ◆ノートP C持参◆ ◎グローバルウィークでの報告会準備

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-Y72	2.科目名	グローバルスタディⅠ（韓国/2025 夏ソウル）		3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑、寺井太郎					
5.授業科目の区分	2025 年度 夏学期開講 海外渡航	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～夏学期	
8.履修可能な専攻	専門型プログラムとして、観光・社会問題であるので、観光関連授業の履修者が望ましい。			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	・ 2 年生以上で、担当教員による説明動画を視聴していること ・ 所定の学費を納入していること ・ 事前・事後学習、ならびに学内、学外に向けた活動報告会に参加すること		11.先修条件	このプログラムでは、観光戦略について議論・考察するため、以下を先修条件とする。 ・「リサーチ入門」を修得済みであること ・ 観光系科目を習得済みまたは履修中であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	学外学習（海外学習） 定員：20 人		
16.履修制限	一定の GPA に満たしていて、エントリーシートを提出後、選抜された学生。希望する学生が多い時は面接を行う。					
17.授業の目的と概要	このプログラムの目的の 1 つ目は、極端な「ソウル一極集中」が進む韓国において、その対策としての先進的な観光政策を学び、ソウルと地方双方の現状に直接触れることで、日本における将来の観光戦略の方向性と具体案を見極めることである。韓国人口約 5,100 万人のうち、ソウル都市圏に 50%以上が集中しており、ソウルの人口密度は東京の 2 倍となっている。地方においては過疎化・産業の空洞化が進行しており、その対策の柱の一つとして観光産業が期待されている。いわば「日本の近未来」を先取りしている韓国の地方における観光戦略を学び					
18.学習目標と DP との関連	このプログラムのテーマでは「都市一極集中」韓国から学ぶ今後の観光戦略と、インバウンド観光客向け日韓協業の可能性探求」で韓国の提携校教授・学生とともに、観光戦略を通じた社会問題の解決策や、観光産業における日韓協業について議論を行うことで下記のことができることを目標にする。 ① 都市一極集中などの社会課題に強い関心を持ち、観光戦略と結び付けて思考することができる ② 日韓をはじめとする東アジアの歴史・文化に強い関心を持ち、基本的な知識を有する ③ 客観的な根拠を元にした自らの主体的意見を持ち、他者と建設的な議論ができる					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	事前学習・現場学習・事後学習・報告会、全てに 100%出席する状況で 4 段階の振り返りのレポート、ディスカッション、PPT 資料作成、報告会での発表を合算して評価する。 事前学習 25% 現場学習 40% 事後学習 25% 報告会 10%					
22.コメント	国際的な感覚を持ち、貢献心、自発的、積極性、リーダーシップ、団体行動のルールを守るなど模範的な学生は大歓迎します。 ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント					

		自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	9月8日(月) 2～4限 事前学習 1日目	全授業、パソコン持参
	9月11日(木) 2～5限 事前学習 2日目	パソコン持参
	9月14日(日) 現場学習 1日目 関西国際空港出発～ソウル着 ソウル駅～(高速鉄道 KTX)～釜山駅 21時日程と企画点検などの全体集合(門限) (釜山泊)	パソコン持参
	9月15日(月) 現場学習 2日目 提携大学訪問(釜山・東西大学) 21時全体集合(門限)1日の振り返りとディスカッション (釜山泊)	パソコン持参
	9月16日(火) 現場学習 3日目 提携大学訪問(釜山外国語大学) 釜山駅～(高速鉄道 KTX)～ソウル駅 21時全体集合(門限)1日の振り返りとディスカッション (ソウル泊)	
	9月17日(水) 現場学習 4日目 韓国テーマパーク視察(ロッテワールド) 21時全体集合(門限)1日の振り返りとディスカッション (ソウル泊)	
	9月18日(木) 現場学習 5日目 DMZ(南北軍事境界線)ツアー 21時全体集合(門限)1日の振り返りとディスカッション (ソウル泊)	
	9月19日(金) 現場学習 6日目 ソウル発→関西国際空港着 到着後、解散	
	9月20日(土) 3～5限 事後学習 1日目 現場学習の振り返りと、成果プレゼンテーションのためのグループワーク	
	9月22日(月) 2～4限 事後学習 2日目 現場学習の振り返りと、成果プレゼンテーションのためのグループワーク	パソコン持参
	11月8日(土) 終日 成果報告会(全員参加必須)	パソコン持参

1.授業コード (ナンバリング)	GLS103-A01	2.科目名	地域研究（北米圏）		3.単位数	2
4.授業担当教員	服部聡					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本と比較しながら、アメリカという国の特徴を多面的に理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	アメリカについての基本的知識と理解のしかたを修得することを狙います。					
19.教科書・教材	久保文明ほか編『アメリカ政治 第3版』（有斐閣）					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の授業で提出するサマリーペーパーをA B Cの三段階で評価します。（合計4 5点） 最後に筆記試験を課します。（合計5 5点） 両方のスコアを合計して、1 0 0点満点で最終的な成績評価を算出します。					
22.コメント	クラスの静粛と秩序を維持するために、私語に対しては厳しく対処します。改善が見られない場合は、出席取り消しや履修取り消しも検討します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	アメリカ植民地の形成			プリントを配ります		
第2回	アメリカの独立			プリントを配ります。		
第3回	アメリカの連邦制　－連邦と州の関係			教科書の第9章を読んてくること。		
第4回	アメリカの連邦制　－州内政治と州と州の関係			教科書の第9章を読んてくること。		
第5回	大統領制のしくみ			教科書の第6章を読んてくること。		
第6回	アメリカの議会制度　－上院と下院の関係			教科書の第7章を読んてくること。		
第7回	司法の政治的役割			教科書の第8章を読んてくること。		
第8回	アメリカの政党と利益集団について			教科書の第4章を読んてくること。		
第9回	アメリカにおける移民問題			プリントを配ります。		
第10回	アメリカにおける黒人問題			教科書の第12章を読んてくること。		
第11回	アメリカにおける女性問題			教科書の第12章を読んてくること。		
第12回	アメリカにおける環境問題			プリントを配ります。		
第13回	アメリカにおける宗教　－キリスト教の影響			教科書の第11章を読んてくること。		
第14回	アメリカにおける政策形成過程			教科書の第5章を読んてくること。		
第15回	アメリカ外交と安全保障			教科書の第13章を読んてくること。		

1.授業コード (ナンバリング)	GLS103-m01	2.科目名	地域研究（北米圏）		3.単位数	2
4.授業担当教員	服部聡					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本と比較しながら、アメリカという国の特徴を多面的に理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	アメリカについての基本的知識と理解のしかたを修得することを狙います。					
19.教科書・教材	久保文明ほか編『アメリカ政治 第3版』（有斐閣）					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の授業で提出するサマリーペーパーをＡＢＣの三段階で評価します。（合計４５点） 最後に筆記試験を課します。（合計５５点） 両方のスコアを合計して、１００点満点で最終的な成績評価を算出します。					
22.コメント	クラスの静粛と秩序を維持するために、私語に対しては厳しく対処します。改善が見られない場合は、出席取り消しや履修取り消しも検討します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第１回	アメリカ植民地の形成			プリントを配ります		
第２回	アメリカの独立			プリントを配ります。		
第３回	アメリカの連邦制　－連邦と州の関係			教科書の第９章を読んてくること。		
第４回	アメリカの連邦制　－州内政治と州と州の関係			教科書の第９章を読んてくること。		
第５回	大統領制のしくみ			教科書の第６章を読んてくること。		
第６回	アメリカの議会制度　－上院と下院の関係			教科書の第７章を読んてくること。		
第７回	司法の政治的役割			教科書の第８章を読んてくること。		
第８回	アメリカの政党と利益集団について			教科書の第４章を読んてくること。		
第９回	アメリカにおける移民問題			プリントを配ります。		
第１０回	アメリカにおける黒人問題			教科書の第１２章を読んてくること。		
第１１回	アメリカにおける女性問題			教科書の第１２章を読んてくること。		
第１２回	アメリカにおける環境問題			プリントを配ります。		
第１３回	アメリカにおける宗教　－キリスト教の影響			教科書の第１１章を読んてくること。		
第１４回	アメリカにおける政策形成過程			教科書の第５章を読んてくること。		
第１５回	アメリカ外交と安全保障			教科書の第１３章を読んてくること。		

1.授業コード (ナンバリング)	GLS106-A01	2.科目名	日本文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山中美佳					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：「文化」に対する見方を養えるようになることを最終目的とする 概要：日本文化の基盤となる思想、宗教観、生活習慣、文学作品、芸能とその歴史的背景を通じて、現代の日本文化がいかに成立したかを学ぶ。その学びを通じて、現代人の我々が信じる「文化」とはどのような定義で、どのような枠組みなのか、また、はたして我々の文化の捉え方は確かといえるのかどうかを確認する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】それぞれ下の DP に対応する ?日本の文化（思想、宗教観、文学作品、芸能など）について説明できるようになること。?DP（3）（5）? ②授業内で扱ったトピックのうち、一つでも対外的に説明できるようになること。?DP（5）? ③「文化とは何か」ということについて自分の考えを論述できるようになること。?DP（1）（3）（4）? ④「文化」という概念を理解することで、社会や世界に出た時に深い見識を持つこと。?DP（2）（3）（6）? 【DP】 （1）自律的で主体的な態度（自律性） （2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） （3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） （4）課題発見・解決力 （5）コミュニケーション力 （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業中にプリントを配布する。初回からすべての配布物は、きちんとファイリングしておくこと。 また、WebClass に配布資料を提示するので、気を付けて見ておくこと。					
20.参考文献	随時、授業中に紹介する。					
21.成績評価	■成績：以下の配点でつける（状況により配点が変わることもある） 【試験】 ・ 中間テスト 100 点満点（成績には 20 % 換算配分） 《学習目標①に対応》 ・ 総括テスト 100 点満点（成績には 30 % 換算配分） 《学習目標①②③に対応》 ・ 知識テスト 10 点（5 点×2 回） 《学習目標①に対応》 【提出物】 リフレクションシート提出 24 点（3 点×8 回） 《学習目標①に対応》 【活動】 ★ワーク A 「私の考える《文化》とは」 6 点 《学習目標①②③④に対応》 ★ワーク B 「文化の性質」 10 点 《学習目標①②③④に対応》 【学外見学					
22.コメント	授業で使用した PPT やプリント類は WebClass で随時公開する。					

		なお、中間テスト、総括テスト、 また、学外見学レポートなど 論述形式のテストやレポートがあった場合、 生成 AI は、 いかなる利用も認めないこととする。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 (4/14)	[ガイダンス] 授業のねらいと運用についての説明。	【提出】 出席カードに記入の上提出
【第 2 回】 (4/21)	[グループワーク] ・ 普段自分はどんな意味で「文化」という言葉を使っているか考えてみる。 ・ グループごとに自分たちが考えた文化とはどのようなものか経験から出した考えをいくつかのキーワードで表現してみる。全員で共有する。	【提出】 ★ワーク A 「《文化》とは何かを考える」を完成させて提出
【第 3 回】 (4/28)	[文化の基底] ・ 日本語の成立 ・ 万葉仮名で自分の名前を書いてみよう。 ・ 神代から平安末期の宗教観の変遷 ・ 陰陽師の功績（暦の作成） ・ 十二支・方角・時刻・月の異名	【提出】 リフレクションシート No.1 【宿題】 知識テスト?のための学習 十二支・方角・時刻・月の異名を覚える
【第 4 回】 (5/12)	■ <知識テスト?>十二支・方角・時刻・月の異名テスト [王朝文学の歴史背景] 『源氏物語』の大まかなあらすじを知る 『源氏物語』の書かれた理由と歴史的背景を知る 『源氏物語』の享受史	【提出】 知識テストを提出。 欠席の場合は、次回内容を変えた同等のテストを受験する。
【第 5 回】 (5/19)	[平家物語の時代] ・ 武士の台頭 ・ 勢力図（比叡山・南都、そして京） ・ 治承・寿永の乱一源平の合戦 ・ 略年表 ・ 思想 ・ 戦の美学――甲冑・弓矢・刀剣―― ・ だれが、何のために起こした戦か――	【提出】 リフレクションシート No. 2
【第 6 回】 (5/26)	[平家物語・語るということ] ・ 『平家物語』 ・ 『平家物語』の観念 ・ 読み本系と語り本系―誰が語り、誰が聴いたか ・ 平曲を聞いてみよう ・ 軍記物が流行した時代とその背景 ・ 『平家物語』の影響力	【提出】 リフレクションシート No. 3

【第7回】 (6/2)	[中間テスト]	持ち込みなし。 欠席した場合は、後日内容を改変した同等のテストを受けること。
【第8回】 (6/9)	[禅] ・宗教か文化か ・鎌倉仏教の分かれ道 ・禅の総本山 ・永平寺の雲水が求めるもの ・実は最先端の思想 ・精進料理に見る精神	【提出】 リフレクションシート No.4
【第9回】 (6/18)	[能を知る] ・始まりは、猿楽 ・室町時代の文化 ・観阿弥と世阿弥 ・『風姿花伝』に説く「花」とは	【提出】 リフレクションシート No.5 【宿題】 知識テスト?の学習 室町時代に興った文化を覚え、それらを誕生させた要素を覚えておく。
【第10回】 (6/23)	■ <知識テスト?> 室町時代に興った文化とその誕生の要素 [文楽を知る] ・文楽の基礎知識 ・近松門左衛門とは――尼崎との縁 ・文楽を見る	【提出】 知識テストを提出。 欠席の場合は、次回内容を変えた同等のテストを受験する。
【第11回】 (6/30)	[歌舞伎を知る] ・阿国から現代の歌舞伎までの流れ ・「勸進帳」を見ながら、歌舞伎の基礎知識を学ぶ ・現代の歌舞伎 ・観衆をカブク歌舞伎と魅せる「宝塚歌劇団」との相違点	【提出】 リフレクションシート No.6
【第12回】 (7/7)	[相撲を知る] ・現代の日本大相撲の見どころ ・相撲を支える人々と技術 ・相撲の歴史――神事、そして、大衆の関心	【提出】 リフレクションシート No. 7
【第13回】 (7/14)	[日本刀を知る] ・神代における剣の意味 ・日本刀への移行 ・海外での「日本刀」への認識――武器から美術品へ	【提出】 リフレクションシート No. 8 【宿題】 ・総括テストに備えて復習をする ・授業を全て受けて、自身の捉えていた「文化」観はどう変化したかを考えておく。
【第14回】 (7/21)	[グループワーク&ディスカッション] 最初に自分が定義づけしていた「文化」というものと、授業を全て受けた後で考える「文化」の定義は、どう変わったか。簡単に発表しあう。	【提出】 ★ワーク B「文化の性質」 【宿題】 総括テストに備えて復習をする

【第 15 回】 (7/28)	[総括テスト] ・ 基礎知識 ・ 論述	【提出】 受けた試験を提出。 ・ 授業で配布したプリントと自筆ノートのみ、持ち込み可。他人の書いたもののコピーやその他コピーしたものは一切不可。

1.授業コード (ナンバリング)	GLS106-M01	2.科目名	日本文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（世界と日本を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、文学作品と伝統芸能から日本文化にアプローチし、時代が移り変わっても感動を覚える「普遍性」について考える。 【概要】前半では、古典文学、芸能について学び、視聴覚資料も用いて理解を深める。また、後半は指定テキストを用いて芥川龍之介の作品について学び、映画などの現代芸術にも触れる。これらのことから、日本における文化的歴史的特性を知ると同時に、真の国際人となるための視野を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	①文化の普遍性について理解できる。 ②日本の伝統芸能についての理解を深め、知識が持てる。 ③文化に対する視点を養うことができる。 ④特定のトピックの日本文化について説明ができる。					
19.教科書・教材	新潮文庫『文豪ナビ 芥川龍之介』（新潮社）2004 ISBN:4-10-102500-2 C0195 その他、プリントを授業中に配付する。					
20.参考文献	随時、授業の中で紹介する。					
21.成績評価	①小課題：10%（5点*2回） ②小テスト：10%（2回実施：点数の高いほうを採用） ③中間テスト：25%（100点満点を25%に換算） ④作品の暗誦：10% ⑤総括テスト：35%（100点満点を35%に換算） ⑥学外見学レポート：10%					
22.コメント	授業で使用した PPT や、配付資料は WebClass で随時公開していきます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・1 限 センターオフィスアワー：月曜日・昼休み（水竿館 2 階 ALR）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4/8	ガイダンス ・授業のねらいと運用について説明する。					
【第 2 回】 4/15	川柳を知る・作る ・韻文と散文の違い、短歌と川柳の違い、川柳とはどのようなものかについて学ぶ。 ・自身の大学生生活を見つめなおし、川柳を作る。●＜小課題 1＞ ・学外見学について			○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ★期日までに指定された Webclass へ 1～2 句の川柳を投稿する。：＜小課題 1＞（60 分） ★期日までに学外見学を実施し、所定のレポートを提出する。：＜学外見学レポート＞（予備学習＋現地での活動＋レポート作成：(300 分) ○4 作品中から暗誦課題を選び、7 月末までに暗誦を完成する。(300 分)		
【第 3 回】 4/22	作品の舞台を知る ・王朝文学の傑作である『源氏物語』が書かれた時代			○配付された資料を見て、復習する。(15 分) ○第 7 回授業で実施する＜小テスト①＞（源		

	背景を知る。 ・身近な場所を舞台として描かれた巻について学ぶ。	氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30分)
【第4回】 5/13	語りの文学とは ・『平家物語』を琵琶の語りによって鑑賞する。 ・『平家物語』の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○第7回授業で実施する<小テスト①>(源氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30分)
【第5回】 5/20	古典芸能(1) ●<小テスト①> 能を鑑賞しながら、能の基礎知識について学ぶ。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○第7回授業で実施する<小テスト①>(源氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(30分)
【第6回】 5/27	古典芸能(2) 歌舞伎を鑑賞しながら、歌舞伎の基礎知識について学ぶ。 ・中間テストについて	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○第7回授業で実施する<小テスト①>(源氏物語・巻の名)の準備を行う。(30分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60分)
【第7回】 6/3	古典芸能(3) ・文楽を鑑賞しながら、文楽の基礎知識について学ぶ。 ・中間テストについて	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○中間テストに向けての準備を行う。(60分)
【第8回】 6/10	中間テスト これまでの内容を再確認し、評価する。 ・<小テスト②>の範囲について(プリント配付)	○第11回授業で実施する<小テスト②>(月の異名、十二支)の準備を行う。(60分)
【第9回】 6/17	現代の芸術(1) ・映画『羅生門』についての事前学習。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○中間テストの内容について復習する。(60分) ○第11回授業で実施する<小テスト②>(月の異名、十二支)の準備を行う。(60分)
【第10回】 6/24	現代の芸術(2) 芥川龍之介の小説『藪の中』をモチーフとする映画『羅生門』(監督:黒澤明)を鑑賞する。●<小課題2>	★<小課題2>を総括テスト実施日(7/30)までに提出する。(60分) ○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○テキスト『文豪ナビ 芥川龍之介』全体に目を通して、印象に残った個所にマーキングしておく。(90分) ○第11回授業で実施する<小テスト②>(月の異名、十二支)の準備を行う。(90分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60分)
【第11回】 7/1	現代の芸術(3) ●<小テスト②> 芥川龍之介の人生をふりかえりながら、作品を鑑賞する。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30分)
【第12回】 7/8	現代の芸術(4) ・演劇やミュージカルとは一線を画す宝塚歌劇の特徴について、上演作品を鑑賞しながら考える。	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○総括テストに向けての準備を行う。(30分)
【第13回】 7/15	現代の芸術(5) ・落語の歴史について学び、落語を鑑賞する。 ・総括テストについて ・課題提出状況について	○配付された資料を見て、復習する。(15分) ○総括テストに向けての準備を行う。(60分)
【第14回】	まとめ	○配付された資料を見て、復習する。(15分)

7/22	・第 2～13 回の授業まとめ ・総括テストについて ・課題提出状況について	○総括テストに向けての準備を行う。(60 分)
【第 15 回】 7/29	- 総括テスト：理解度を確認し、評価する。 ・授業アンケートの実施。	

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-A01	2.科目名	生涯スポーツⅠ ※希望者が多い場合は初回授業で 選考		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「屋内ペタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第10回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第11回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第12回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第13回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第14回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第15回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-A02	2.科目名	生涯スポーツⅠ ※希望者が多い場合は初回授業で選考		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「屋内ペタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第10回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第11回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第12回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第13回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第14回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第15回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-A71	2.科目名	生涯スポーツ ※希望者が多い場合は初回授業で 選考		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・5・6・8・9・11・12・13 回実技評価：54 点→学習目標①～④に対応 第 4・7・10 回課題:24 点→学習目標①に対応 第 14・15 回課題：14 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		
【第 2 回】	【実技】 「インディアカ」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲ			【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。		

	ーム形式	【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン」 ・種目紹介 ・ルールを理解 ・ペアのコミュニケーションドリル ・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第4回】	【講義】 「健康管理（救急法・救急搬送を含む）について考える」 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第5回】	【実技】 「屋内テニス」 ・種目紹介 ・基本スキル ・シングルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール」 ・種目紹介 ・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に ・ルール説明 ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆
【第8回】	【実技】 『ドッチビー』 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「アルティメット」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【講義】 『大学スポーツの組織育成について』 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第11回】	【実技】 「屋内ベタンク」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第12回】	【実技】 「フットサル」 ・種目紹介 ・基本スキルを習得 ・ルールの理解 ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール」 ・ 基本スキル ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「振り返りとまとめ」	◆筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M01	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	秋学期開講科目「生涯スポーツⅡ」を合わせて履修することがのぞましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回:受講理由と目標：5 点 ・ ・ ・ 学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・13・14 回実技評価：55 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 8 回：中間レポート：10 点 ・ ・ ・ 学習目標①に対応 第 12 回：最終レポート：20 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】	【オリエンテーション】 授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第2回】	【実技】 バレーボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第3回】	【実技】 バレーボール-2 ウォーミングアップ、グループごとに練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第4回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第5回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-2 ウォーミングアップ、グループごとに練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第6回】	【実技】 アルティメット-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第7回】	【実技】 アルティメット-2 ウォーミングアップ、グループごとに練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第8回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第9回】	【実技】 バドミントン-1 シングルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第10回】	【実技】 バドミントン-2 ダブルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ

【第 11 回】	【実技】 バドミントン-3 団体戦 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 13 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦） 最終レポート提出	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M02	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	秋学期開講科目「生涯スポーツⅡ」を合わせて履修することがのぞましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回:受講理由と目標：5 点 ・ ・ ・ 学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・13・14 回実技評価：55 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 8 回：中間レポート：10 点 ・ ・ ・ 学習目標①に対応 第 12 回：最終レポート：20 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点 ・ ・ ・ 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】	【オリエンテーション】 授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第2回】	【実技】 バレーボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第3回】	【実技】 バレーボール-2 ウォーミングアップ、グループごとに練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第4回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第5回】	【実技】 ソフトボール又はフットサル-2 ウォーミングアップ、グループごとに練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第6回】	【実技】 アルティメット-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第7回】	【実技】 アルティメット-2 ウォーミングアップ、グループごとに練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第8回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第9回】	【実技】 バドミントン-1 シングルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第10回】	【実技】 バドミントン-2 ダブルス ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ

【第 11 回】	【実技】 バドミントン-3 団体戦 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 13 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-1 ウォーミングアップ・グループ分け・基礎的な練習・ルール説明・簡易ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技】 ニュースポーツ又はバスケットボール-2 ウォーミングアップ、グループごとで練習と戦術の確認、ゲーム（トーナメント又はリーグ戦） 最終レポート提出	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M03	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「屋内ペタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ◆
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M71	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・5・6・8・9・11・12・13 回実技評価：54 点→学習目標①～④に対応 第 4・7・10 回課題:24 点→学習目標①に対応 第 14・15 回課題：14 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		
【第 2 回】	【実技】 「インディアカ」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲ			【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。		

	ーム形式	【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン」 ・種目紹介 ・ルール理解 ・ペアのコミュニケーションドリル ・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第4回】	【講義】 「健康管理（救急法・救急搬送を含む）について考える」 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第5回】	【実技】 「卓球」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ダブルスゲーム	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール」 ・種目紹介 ・肩慣らしからパスワーク ・サーブを確実に ・ルール説明 ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆
【第8回】	【実技】 『ドッチビー』 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「アルティメット」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【講義】 『大学スポーツの組織育成について』 ・講義概要をまとめ、感想を加え課題を作成	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第11回】	【実技】 「屋内ベタンク」 ・種目紹介 ・基本スキル ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第12回】	【実技】 「フットサル」 ・種目紹介 ・基本スキルを習得 ・ルールの理解 ・ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール」 ・ 基本スキル ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「振り返りとまとめ」	◆筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-Y01	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「ベタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第10回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第11回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第12回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第13回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第14回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第15回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-Y02	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「屋内ペタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題:「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-Y03	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「屋内ペタンク」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題:「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具◆ ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M01	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が20名を越える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第4回】	【実技】 「企画種目1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第5回】	【実技】 「企画種目2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「企画種目3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【実技】 『企画種目4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第8回】	【実技】 「企画種目5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「企画種目6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【実技】 「企画種目7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「 企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「 企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「 企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HIS104-Y01	2.科目名	近代社会論 (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 (webclass でのオンデマンド授業)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、オーストリアの首都ウィーンの歴史をたどりながら、近代社会の発展を見ていきます。 私たちの社会の基礎となっている近代社会は、およそ 19 世紀のヨーロッパにおいて形作られました。ヨーロッパ各地では、都市の発展にともない、政治体制、経済システム、文化、宗教において様々な変化が生じました。ハプスブルク家の宮廷都市として発展し、様々な人々が集まっていたウィーンも、19 世紀に大きな発展を遂げます。ウィーンという一都市を通じて、近代社会の成り立ちや構造を学んでいきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 具体的な学習目標は以下の通りです。 ①ヨーロッパにおける近代社会の成り立ちを理解できる ②近代社会においてどのような課題があったのか。 ③上記の目標を通じて、自分たちの社会への理解を深める。					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。					
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。					
21.成績評価	・ webclass で提示される課題 50% (毎回の授業時に webclass に課題 (授業に対する質問等や授業内容に関するクイズなど) を提示します。) ・ 総括試験テスト 50% (授業内容に関する論述問題を webclass で出題します。)					
22.コメント	授業では、ウィーンを中心にオーストリアの街を映像を交えて紹介します。実際の街の様子や人々の暮らしぶりを通じて、近代社会について理解を深めてください。 生成 AI の利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業時間前後 web-class のメッセージにて、質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス ・ 講義「イントロダクション：世紀末のウィーンから」 ・ webclass で提示される課題			・ 復習および授業ノートの整理		
第 2 回	・ 講義「前近代社会①：宮廷都市ウィーン」 ・ webclass で提示される課題			・ 復習および授業ノートの整理		
第 3 回	・ 講義「前近代社会②：信仰の場としての都市」 ・ webclass で提示される課題			・ 復習および授業ノートの整理		

第 4 回	・ 講義「前近代社会③：包囲される都市」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 5 回	・ 講義「近代社会の萌芽：啓蒙思想の広がり」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 6 回	・ 講義「近代社会の萌芽②：都市における余暇と娯楽」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 7 回	・ 講義「近代社会の成立①：フランス革命後のウィーン」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 8 回	・ 講義「近代社会の成立②：市民文化の時代「ビーターマイヤー」」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 9 回	・ 講義「近代社会の転機①：ウィーンの 3 月革命」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 10 回	・ 講義「近代社会の転機②：都市の拡大と経済の発展」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 11 回	・ 講義「近代社会の発展①：リベラリズムとナショナリズム」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 12 回	・ 講義「近代社会の発展②：ウィーン黄金時代」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 13 回	・ 講義「大戦間期の社会：「赤いウィーン」からナチズムへ」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 14 回	・ 講義「まとめ：近代社会の日欧比較」 ・ webclass で提示される課題	・ 復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験（webclass）	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS104-m01	2.科目名	近代社会論 (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 (webclass でのオンデマンド授業)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、オーストリアの首都ウィーンの歴史をたどりながら、近代社会の発展を見ていきます。 私たちの社会の基礎となっている近代社会は、およそ 19 世紀のヨーロッパにおいて形作られました。ヨーロッパ各地では、都市の発展にともない、政治体制、経済システム、文化、宗教において様々な変化が生じました。ハプスブルク家の宮廷都市として発展し、様々な人々が集まっていたウィーンも、19 世紀に大きな発展を遂げます。ウィーンという一都市を通じて、近代社会の成り立ちや構造を学んでいきます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 具体的な学習目標は以下の通りです。 ①ヨーロッパにおける近代社会の成り立ちを理解できる ②近代社会においてどのような課題があったのか。 ③上記の目標を通じて、自分たちの社会への理解を深める。					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。					
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。					
21.成績評価	・ webclass で提示される課題 50% (毎回の授業時に webclass に課題 (授業に対する質問等や授業内容に関するクイズなど) を提示します。) ・ 総括試験テスト 50% (授業内容に関する論述問題を webclass で出題します。)					
22.コメント	授業では、ウィーンを中心にオーストリアの街を映像を交えて紹介します。実際の街の様子や人々の暮らしぶりを通じて、近代社会について理解を深めてください。 生成 AI の利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業時間前後 web-class のメッセージにて、質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス ・ 講義「イントロダクション：世紀末のウィーンから」 ・ webclass で提示される課題			・ 復習および授業ノートの整理		
第 2 回	・ 講義「前近代社会①：宮廷都市ウィーン」 ・ webclass で提示される課題			・ 復習および授業ノートの整理		
第 3 回	・ 講義「前近代社会②：信仰の場としての都市」 ・ webclass で提示される課題			・ 復習および授業ノートの整理		
第 4 回	・ 講義「前近代社会③：包囲される都市」			・ 復習および授業ノートの整理		

	・webclass で提示される課題	
第 5 回	・講義「近代社会の萌芽：啓蒙思想の広がり」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 6 回	・講義「近代社会の萌芽②：都市における余暇と娯楽」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 7 回	・講義「近代社会の成立①：フランス革命後のウィーン」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 8 回	・講義「近代社会の成立②：市民文化の時代「ビーダーマイヤー」」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 9 回	・講義「近代社会の転機①：ウィーンの 3 月革命」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 10 回	・講義「近代社会の転機②：都市の拡大と経済の発展」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 11 回	・講義「近代社会の発展①：リベラリズムとナショナリズム」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 12 回	・講義「近代社会の発展②：ウィーン黄金時代」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 13 回	・講義「大戦間期の社会：「赤いウィーン」からナチズムへ」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 14 回	・講義「まとめ：近代社会の日欧比較」 ・webclass で提示される課題	・復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験（webclass）	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS105-M01	2.科目名	近現代の歴史		3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、中央ヨーロッパ地域の歴史を中心に、近現代におきた歴史的な出来事を学ぶことを目的とします。 ハプスブルク家が長く統治した中央ヨーロッパ地域では、宗教や民族をめぐって様々な対立があり、その中で大きな戦争や体制転換が繰り返されてきました。なぜ人々は対立し、どのようにして対立を克服しようとしてきたのでしょうか。また、どのような対立が現在でも残されているのでしょうか。これらの問題に焦点を当てることで、日本を含めたグローバルな視点を獲得することを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の具体的な学習目標を以下の通りです。 ①近現代の歴史に関する基本的な知識を身につける。 ②外国史に関する知識を身につける。 ③上記の知識に基づいて、異なる文化や価値観に対する理解を深める。					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。					
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。					
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30％ （毎回の授業終了時に感想や質問などを記してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20％ （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50％ （授業内容に関する論述問題を出题します。）					
22.コメント	この授業では、高校までの世界史の知識を前提とはしませんが、分からないことがある場合は、まずは自分で調べてみてください。そのうえで分からないことがあれば積極的に質問してください。 生成 AI の利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業前後、教室にて。 それ以外の時間は、web-class のメッセージで質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：ハプスブルク家とヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成			・復習および授業ノートの整理		
第 2 回	・質問への回答 ・講義「神聖ローマ帝国とハプスブルク君主国」 ・コメントペーパーの作成			・復習および授業ノートの整理		

第 3 回	・ 質問への回答 ・ 講義「フランス革命と戦争」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 4 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ウィーン体制下のヨーロッパ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 5 回	・ 質問への回答 ・ 講義「国民国家の形成：ドイツの統一」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 6 回	・ 質問への回答 ・ 講義「多民族国家ハプスブルク帝国：アウスグライヒ体制の成立」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 7 回	・ 質問への回答 ・ 講義「第一次世界大戦の勃発」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 8 回	・ 質問への回答 ・ 講義「第一次世界大戦と日本：日本における捕虜収容所」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 9 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ポスト・ハプスブルクの国々」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 10 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ナチ化するドイツ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 11 回	・ 質問への回答 ・ 講義「オーストリア合邦から第二次世界大戦へ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 12 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ナチスの経験とその克服」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 13 回	・ 質問への回答 ・ 講義「東欧革命と EU 拡大」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 14 回	・ 質問への回答 ・ 講義「まとめ：対立と融和の近現代史」	・ 復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS105-Y01	2.科目名	近現代の歴史		3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、中央ヨーロッパ地域の歴史を中心に、近現代におきた歴史的な出来事を学ぶことを目的とします。 ハプスブルク家が長く統治した中央ヨーロッパ地域では、宗教や民族をめぐって様々な対立があり、その中で大きな戦争や体制転換が繰り返されてきました。なぜ人々是对立し、どのようにして対立を克服しようとしてきたのでしょうか。また、どのような対立が現在でも残されているのでしょうか。これらの問題に焦点を当てることで、日本を含めたグローバルな視点を獲得することを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の具体的な学習目標を以下の通りです。 ①近現代の歴史に関する基本的な知識を身につける。 ②外国史に関する知識を身につける。 ③上記の知識に基づいて、異なる文化や価値観に対する理解を深める。					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。					
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。					
21.成績評価	・コメントペーパーの作成 30% （毎回の授業終了時に感想や質問などを記してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・授業への参加度 20% （担当教員の質問に対する積極性） ・総括試験テスト 50% （授業内容に関する論述問題を出题します。）					
22.コメント	この授業では、高校までの世界史の知識を前提とはしませんが、分からないことがある場合は、まずは自分で調べてみてください。そのうえで分からないことがあれば積極的に質問してください。 生成 AI の利用：いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	授業前後、教室にて。 それ以外の時間は、web-class のメッセージで質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ガイダンス ・講義「イントロダクション：ハプスブルク家とヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成			・復習および授業ノートの整理		
第 2 回	・質問への回答 ・講義「神聖ローマ帝国とハプスブルク君主国」 ・コメントペーパーの作成			・復習および授業ノートの整理		

第 3 回	・ 質問への回答 ・ 講義「フランス革命と戦争」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 4 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ウィーン体制下のヨーロッパ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 5 回	・ 質問への回答 ・ 講義「国民国家の形成：ドイツの統一」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 6 回	・ 質問への回答 ・ 講義「多民族国家ハプスブルク帝国：アウスグライヒ体制の成立」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 7 回	・ 質問への回答 ・ 講義「第一次世界大戦の勃発」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 8 回	・ 質問への回答 ・ 講義「第一次世界大戦と日本：日本における捕虜収容所」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 9 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ポスト・ハプスブルクの国々」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 10 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ナチ化するドイツ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 11 回	・ 質問への回答 ・ 講義「オーストリア合邦から第二次世界大戦へ」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 12 回	・ 質問への回答 ・ 講義「ナチスの経験とその克服」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 13 回	・ 質問への回答 ・ 講義「東欧革命と EU 拡大」 ・ コメントペーパーの作成	・ 復習および授業ノートの整理
第 14 回	・ 質問への回答 ・ 講義「まとめ：対立と融和の近現代史」	・ 復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-M01	2.科目名	人間学Ⅰ（Aグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、櫻井信人、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	< DP との関連性 > 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 < SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応 > 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も < 平等・職業 > 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで 5 回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この 5 回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第 4 次産業革命の到来、とりわけ AI やロボット技術の急速な進歩により、“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、産業構造や職業構造が大きく変化し、職業生活の内容も変貌していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。他方、就職活動の在り方も大きく変化してきており早期化と二極化が顕著になってきている。それだけに、自らのライフプランを考え、人生と職業との関係を考えることは、学生生活の早いうちから考え					

	ていく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担当では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <生きる> 櫻井信人 ここでは「生きる」というテーマで5回講義を行う。人間学を学ぶこと、大学で学ぶ意味を理解したうえで、人の健康、生命、こころについて考える。授業内容は一つの解を求めるものではない。議論を通して思考力を高め、視点を広げていくことを目的としている。そのため受講者全員が主体的に発言することが求められる。授業を通して学んだことは、今後の様々な課題に対して、自身の考えを持ち、他者と意見交換できる力につながる。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書 2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書 2021 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書 2017 ◎山田 昌弘『新型格差社会』朝日新書 2021 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグス）たちー』光	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤> 第1回 職業とは何か？ 職業とはどのような情報を指すのか、自分たちの人生の中でどのような重みや意味があるのだろうか。何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用ー非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どの

	かについて、受講者一人一人に自問してもらう。	ような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1－2	第 2 回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1－3	第 3 回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ 少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。併せて、職種転換	【アサインメント】 ①第 4 次産業革命や生成 AI の登場で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに W
輪講 1－4	第 4 回 少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考える。 女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・子育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考える。	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか (400 字)。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければ

	少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	ならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1－5	第 5 回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM でのディスカッションを実施します。	【アサインメント】なし
輪講 2－1	<濱名陽子> 第 1 回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講 2－2	第 2 回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2－3	第 3 回 学校教育と教育機会の平等（その 1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァースタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2－4	第 4 回 学校教育と教育機会の平等（その 2） 第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<櫻井信人> 第1回 人間学とは何か 人間学とは何か。生きる意味について考える。 「善く生きる」とはどういうことか。グループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：大学で学ぶ意味について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-2	第2回 大学で学ぶ意味について考える 日本国憲法23条について考え、大学で学ぶことについての理解を深める。学問の自由についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：健康とは何かについて、説明できるように調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-3	第3回 健康とは何か。 WHOの健康の定義から、健康について考える。 健康という視点から、障がい者、マイノリティ、高齢者など、様々な人の健康についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○本日の課題：尊厳死、安楽死について調べ、説明できるようにしておく。【所要時間 60分】
輪講 3-4	第4回 尊厳死、安楽死について考える。 尊厳死および安楽死について、世界および日本の現状を学ぶ。事例を通してグループワークを行い、尊厳死や安楽死についての考えを深める。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60分】
輪講 3-5	第5回 ころについて考える。 ころとは何か。ころはどこにあるのか。相手のころを理解することはできるのか。グループワークを通して学びを深める。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業で説明する）。 【所要時間 360分】 課題A：大学で学ぶ意味を考えよう。あなたが4年間の大学生活でやるべきことを述べなさい。 課題B：尊厳死や安楽死について調べよう。あなたの考えを述べなさい。 課題C：健康について調べよう。他者の健康を維持す	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-M02	2.科目名	人間学Ⅰ（Bグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、櫻井信人、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	< DP との関連性 > 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 < SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応 > 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も < 平等・職業 > 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで 5 回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この 5 回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第 4 次産業革命の到来、とりわけ AI やロボット技術の急速な進歩により、“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、産業構造や職業構造が大きく変化し、職業生活の内容も変貌していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。他方、就職活動の在り方も大きく変化してきており早期化と二極化が顕著になってきている。それだけに、自らのライフプランを考え、人生と職業との関係を考えることは、学生生活の早いうちから考え					

	ていく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担当では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <生きる> 櫻井信人 ここでは「生きる」というテーマで5回講義を行う。人間学を学ぶこと、大学で学ぶ意味を理解したうえで、人の健康、生命、こころについて考える。授業内容は一つの解を求めるものではない。議論を通して思考力を高め、視点を広げていくことを目的としている。そのため受講者全員が主体的に発言することが求められる。授業を通して学んだことは、今後の様々な課題に対して、自身の考えを持ち、他者と意見交換できる力につながる。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書 2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書, 2014 ◎濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書 2021 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書 2017 ◎山田 昌弘『新型格差社会』朝日新書 2021 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグス）たちー』光	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤> 第1回 職業とは何か？ 職業とはどのような情報を指すのか、自分たちの人生の中でどのような重みや意味があるのだろうか。何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用ー非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どの

	かについて、受講者一人一人に自問してもらう。	ような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1－2	第 2 回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1－3	第 3 回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ 少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。併せて、職種転換	【アサインメント】 ①第 4 次産業革命や生成 AI の登場で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに W
輪講 1－4	第 4 回 少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考える。 女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・子育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考える。	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか（400 字）。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければ

	少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	ならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1－5	第 5 回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM でのディスカッションを実施します。	【アサインメント】なし
輪講 2－1	<濱名陽子> 第 1 回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講 2－2	第 2 回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2－3	第 3 回 学校教育と教育機会の平等（その 1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァースタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2－4	第 4 回 学校教育と教育機会の平等（その 2） 第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<櫻井信人> 第1回 人間学とは何か 人間学とは何か。生きる意味について考える。 「善く生きる」とはどういうことか。グループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：大学で学ぶ意味について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-2	第2回 大学で学ぶ意味について考える 日本国憲法23条について考え、大学で学ぶことについての理解を深める。学問の自由についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：健康とは何かについて、説明できるように調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-3	第3回 健康とは何か。 WHOの健康の定義から、健康について考える。 健康という視点から、障がい者、マイノリティ、高齢者など、様々な人の健康についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○本日の課題：尊厳死、安楽死について調べ、説明できるようにしておく。【所要時間 60分】
輪講 3-4	第4回 尊厳死、安楽死について考える。 尊厳死および安楽死について、世界および日本の現状を学ぶ。事例を通してグループワークを行い、尊厳死や安楽死についての考えを深める。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60分】
輪講 3-5	第5回 ころについて考える。 ころとは何か。ころはどこにあるのか。相手のころを理解することはできるのか。グループワークを通して学びを深める。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業で説明する）。 【所要時間 360分】 課題A：大学で学ぶ意味を考えよう。あなたが4年間の大学生活でやるべきことを述べなさい。 課題B：尊厳死や安楽死について調べよう。あなたの考えを述べなさい。 課題C：健康について調べよう。他者の健康を維持す	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-M03	2.科目名	人間学Ⅰ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、櫻井信人、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	< DP との関連性 > 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 < SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応 > 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も < 平等・職業 > 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで 5 回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この 5 回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに 2006 年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第 4 次産業革命の到来、とりわけ AI やロボット技術の急速な進歩により、“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、産業構造や職業構造が大きく変化し、職業生活の内容も変貌していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。他方、就職活動の在り方も大きく変化してきており早期化と二極化が顕著になってきている。それだけに、自らのライフプランを考え、人生と職業との関係を考えることは、学生生活の早いうちから考え					

	ていく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担当では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <生きる> 櫻井信人 ここでは「生きる」というテーマで5回講義を行う。人間学を学ぶこと、大学で学ぶ意味を理解したうえで、人の健康、生命、こころについて考える。授業内容は一つの解を求めるものではない。議論を通して思考力を高め、視点を広げていくことを目的としている。そのため受講者全員が主体的に発言することが求められる。授業を通して学んだことは、今後の様々な課題に対して、自身の考えを持ち、他者と意見交換できる力につながる。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書 2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書 2021 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書 2017 ◎山田 昌弘『新型格差社会』朝日新書 2021 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグス）たちー』光	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤> 第1回 職業とは何か？ 職業とはどのような情報を指すのか、自分たちの人生の中でどのような重みや意味があるのだろうか。何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用ー非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どの

	かについて、受講者一人一人に自問してもらう。	ような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1－2	第 2 回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1－3	第 3 回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ 少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのよって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。併せて、職種転換	【アサインメント】 ①第 4 次産業革命や生成 AI の登場で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに W
輪講 1－4	第 4 回 少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考える。 女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・子育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考える。	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか（400 字）。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければ

	少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	ならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1－5	第 5 回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM でのディスカッションを実施します。	【アサインメント】なし
輪講 2－1	<濱名陽子> 第 1 回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。。【所要時間 60 分】
輪講 2－2	第 2 回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2－3	第 3 回 学校教育と教育機会の平等（その 1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァースタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2－4	第 4 回 学校教育と教育機会の平等（その 2） 第 3 回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<櫻井信人> 第1回 人間学とは何か 人間学とは何か。生きる意味について考える。 「善く生きる」とはどういうことか。グループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：大学で学ぶ意味について調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-2	第2回 大学で学ぶ意味について考える 日本国憲法23条について考え、大学で学ぶことについての理解を深める。学問の自由についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：健康とは何かについて、説明できるように調べてくる。【所要時間 60分】
輪講 3-3	第3回 健康とは何か。 WHOの健康の定義から、健康について考える。 健康という視点から、障がい者、マイノリティ、高齢者など、様々な人の健康についてグループワークを行う。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○本日の課題：尊厳死、安楽死について調べ、説明できるようにしておく。【所要時間 60分】
輪講 3-4	第4回 尊厳死、安楽死について考える。 尊厳死および安楽死について、世界および日本の現状を学ぶ。事例を通してグループワークを行い、尊厳死や安楽死についての考えを深める。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60分】
輪講 3-5	第5回 ころについて考える。 ころとは何か。ころはどこにあるのか。相手のころを理解することはできるのか。グループワークを通して学びを深める。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業で説明する）。 【所要時間 360分】 課題A：大学で学ぶ意味を考えよう。あなたが4年間の大学生活でやるべきことを述べなさい。 課題B：尊厳死や安楽死について調べよう。あなたの考えを述べなさい。 課題C：健康について調べよう。他者の健康を維持す	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-Y01	2.科目名	人間学Ⅰ（Aグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、鍛冶澤千重子、濱名篤					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式			
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。					

	<SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <SDGs> 鍛冶澤千重子 気候変動、感染症、貧困、紛争、飢餓、高齢化など世界には様々な課題が存在している。国際社会や日本はこれらの課題をどのようにとらえ、どのように解決しようとしているのか。そして、私たちはどのように考え、どのように行動していくべきなのか。SDGsと国際協力に関する講義から、履修者自身が自ら考えるための視点を得ることを目標とする。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。
19.教科書・教材	各担当教員が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する）48点

	最終課題（共通課題）予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの担当者が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成 AI を利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	<濱名 篤> 第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人 種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
【第2回】	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から1つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま

	学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	
【第3回】	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなかった場合に、自分はどのようにするだろう？ また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AIやロボットの発達などのによって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されてい	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webcl

	る職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とされない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える	
【第4回】	第4回 少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形で影	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか(400字)。【所要時間 20分】 ② 「人生100年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならないと予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
【第5回】	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024年問題”や”2025年問題”	アサインメント】なし

	が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施し	
【第 6 回】	<鍛冶澤千重子> 第 1 回 SDGs とは何か？ 持続的な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) は、2030 年までに日本を含む国際社会全体が取り組むべき目標を定めたものである。日本では、私たちの暮らしに身近になっている SDGs であるが、私たちは正しく SDGs を理解しているだろうか。 この講義では、	【アサインメント】 ・ SDGs の 17 の目標のうち、自分自身の関心のある目標を 1 つ挙げ、その理由を 400 字程度でまとめて持参して下さい。 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

	SDGs が定められた背景（国際社会と持続可能な開発）、SDGs の概要、SDGs の 17 の目標、国際社会と日本の取組みについて説明し、SDGs とは何かについての理解を深	
【第 7 回】	第 2 回 SDGs 達成に向けた日本の国際協力 ・日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、独立行政法人国際協力機構（JICA）は途上国の「人間の安全保障」と質の高い成長の実現を目指している。なぜ日本が途上国の支援を行っているのかを理解するため、ODA の歴史を振り返り、今後 2030 年の SDGs 達成に向けた JICA の取組みを紹介する。	【アサインメント】 ・以下の映像を見て、SDGs の実現に向け、JICA がどんな取り組みを行っているのか、その取り組みに対するその自分自身の感想を 400 字程度でまとめ持参して下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=5sxOY8sUKks（約 6 分）
【第 8 回】	第 3 回 SDGs を考える（1）「健康」 ・第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目の講義では、国際社会の課題の中から「人」に関するトピックを取り上げる。まずは、健康。SDGs3「すべての人に健康と福祉を」というゴールについて、世界の人々の健康に関す	【アサインメント】 ・以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】母子手帳を世界に～途上国における導入と普及～ https://www.youtube.com/watch?v=jB1DooUEDao（約 30 分）

	るデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。人々の健康を守るために JICA が行っているアプローチの中から、「母子健康手帳」を活用した母子の健康を守る取り組みと、みんなが病院に通える取組を紹介する。	
【第 9 回】	第 4 回 SDGs を考える (2) 「高齢化」 第 4 回目の講義では、「高齢化」をトピックとして取り上げる。日本は超高齢社会であり、高齢化は日本にとっても課題が多い。世界に目を向けると、欧米諸国のみならず、アジア、中南米、アフリカでも高齢化が進行している。これらの状況をデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。高齢化が進むタイにおいて、JICA が実施した国際協力を事例に紹介しながら、日本がどう貢献できるのかを考える。 クール小課題 ・講義の中で取り	【アサインメント】 以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】 アジアの高齢化に挑む JICA の高齢者介護・福祉への取組み https://www.youtube.com/watch?v=CDr9Uqe9nxU&list=PLSQ54HoCvj5jw15JJ0tc87YdXKMkRBoVc&index=2 (約 30 分)

	上げた①健康、②高齢化、	
【第10回】	第5回 SDGsを考える(3)「栄養」、2030年以降の未来に向けて ・「栄養」をテーマに、SDGsを考える。健康な未来へ導くために、適切な栄養をすべての人々に届ける必要があるが、途上国の子どもを中心に栄養に関する課題が多く存在する。この講義では、世界の栄養の現状について、データから理解する。そして、SDGsで掲げられている目標との関係性を理解し、課題を改善するために必要なアプローチについて理解を深める。 ・SDGsは2030年の国際社会の姿を現したものであるが、その未来の社会において、自分はどのような人	【アサインメント】なし
【第11回】	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60分】
【第12回】	第2回 家庭教育と親 人間が生まれて	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60分】

	はじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードから、ペアワークで考える。	
【第13回】	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
【第14回】	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360 分】 課題A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ、	
【第15回】	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	○アサインメント なし

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-Y02	2.科目名	人間学Ⅰ（Bグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、鍛冶澤千重子、濱名篤					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式			
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。					

	<SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <SDGs> 鍛冶澤千重子 気候変動、感染症、貧困、紛争、飢餓、高齢化など世界には様々な課題が存在している。国際社会や日本はこれらの課題をどのようにとらえ、どのように解決しようとしているのか。そして、私たちはどのように考え、どのように行動していくべきなのか。SDGsと国際協力に関する講義から、履修者自身が自ら考えるための視点を得ることを目標とする。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。
19.教科書・教材	各担当教員が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する）48点

	最終課題（共通課題）予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの担当者が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成 AI を利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	<濱名 篤> 第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人 種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
【第2回】	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま

	学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	
【第3回】	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなかった場合に、自分はどのようにするだろう？ また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AIやロボットの発達などのによって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されてい	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webcl

	る職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とされない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える	
【第4回】	第4回 少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・子育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形で影	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか(400字)。【所要時間 20分】 ② 「人生100年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならないと予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
【第5回】	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024年問題”や”2025年問題”	アサインメント】なし

	が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施し	
【第 6 回】	<鍛冶澤千重子> 第 1 回 SDGs とは何か？ 持続的な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) は、2030 年までに日本を含む国際社会全体が取り組むべき目標を定めたものである。日本では、私たちの暮らしに身近になっている SDGs であるが、私たちは正しく SDGs を理解しているだろうか。 この講義では、	【アサインメント】 ・ SDGs の 17 の目標のうち、自分自身の関心のある目標を 1 つ挙げ、その理由を 400 字程度でまとめて持参して下さい。 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

	SDGs が定められた背景（国際社会と持続可能な開発）、SDGs の概要、SDGs の 17 の目標、国際社会と日本の取組みについて説明し、SDGs とは何かについての理解を深	
【第 7 回】	第 2 回 SDGs 達成に向けた日本の国際協力 ・日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、独立行政法人国際協力機構（JICA）は途上国の「人間の安全保障」と質の高い成長の実現を目指している。なぜ日本が途上国の支援を行っているのかを理解するため、ODA の歴史を振り返り、今後 2030 年の SDGs 達成に向けた JICA の取組みを紹介する。	【アサインメント】 ・以下の映像を見て、SDGs の実現に向け、JICA がどんな取り組みを行っているのか、その取り組みに対するその自分自身の感想を 400 字程度でまとめ持参して下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=5sxOY8sUKks（約 6 分）
【第 8 回】	第 3 回 SDGs を考える（1）「健康」 ・第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目の講義では、国際社会の課題の中から「人」に関するトピックを取り上げる。まずは、健康。SDGs3「すべての人に健康と福祉を」というゴールについて、世界の人々の健康に関す	【アサインメント】 ・以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】母子手帳を世界に～途上国における導入と普及～ https://www.youtube.com/watch?v=jB1DooUEDao（約 30 分）

	るデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。人々の健康を守るために JICA が行っているアプローチの中から、「母子健康手帳」を活用した母子の健康を守る取り組みと、みんなが病院に通える取組を紹介する。	
【第 9 回】	第 4 回 SDGs を考える（２）「高齢化」 第 4 回目の講義では、「高齢化」をトピックとして取り上げる。日本は超高齢社会であり、高齢化は日本にとっても課題が多い。世界に目を向けると、欧米諸国のみならず、アジア、中南米、アフリカでも高齢化が進行している。これらの状況をデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。高齢化が進むタイにおいて、JICA が実施した国際協力を事例に紹介しながら、日本がどう貢献できるのかを考える。 クール小課題 ・講義の中で取り	【アサインメント】 以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】 アジアの高齢化に挑む JICA の高齢者介護・福祉への取組み https://www.youtube.com/watch?v=CDr9Uqe9nxU&list=PLSQ54HoCvj5jw15JJ0tc87YdXKMkRBoVc&index=2 （約 30 分）

	上げた①健康、②高齢化、	
【第10回】	第5回 SDGsを考える(3)「栄養」、2030年以降の未来に向けて ・「栄養」をテーマに、SDGsを考える。健康な未来へ導くために、適切な栄養をすべての人々に届ける必要があるが、途上国の子どもを中心に栄養に関する課題が多く存在する。この講義では、世界の栄養の現状について、データから理解する。そして、SDGsで掲げられている目標との関係性を理解し、課題を改善するために必要なアプローチについて理解を深める。 ・SDGsは2030年の国際社会の姿を現したものであるが、その未来の社会において、自分はどのような人	【アサインメント】なし
【第11回】	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60分】
【第12回】	第2回 家庭教育と親 人間が生まれて	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60分】

	はじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードから、ペアワークで考える。	
【第13回】	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
【第14回】	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360 分】 課題A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ、	
【第15回】	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	○アサインメント なし

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-Y03	2.科目名	人間学Ⅰ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、鍛冶澤千重子、濱名篤					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	3 人の教員による輪講形式			
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。					

	<SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。 これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <SDGs> 鍛冶澤千重子 気候変動、感染症、貧困、紛争、飢餓、高齢化など世界には様々な課題が存在している。国際社会や日本はこれらの課題をどのようにとらえ、どのように解決しようとしているのか。そして、私たちはどのように考え、どのように行動していくべきなのか。SDGsと国際協力に関する講義から、履修者自身が自ら考えるための視点を得ることを目標とする。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。
19.教科書・教材	各担当教員が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート（800字以上） 18点×3＝54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する）48点

	最終課題（共通課題）予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの担当者が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノート PC を使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成 AI を利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	<濱名 篤> 第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	【アサインメント】 ①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人 種、民族、性、年齢・世代、職業、正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。 【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
【第2回】	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から1つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま

	学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	
【第3回】	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか？～ 就職活動をしていても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなかった場合に、自分はどのようにするだろう？ また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AIやロボットの発達などのによって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されてい	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webcl

	る職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とされない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える	
【第4回】	第4回 少子高齢社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子高齢化の原因とみなされ、「働き方改革」が検討されている。共働き・共育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような形で影	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか(400字)。【所要時間 20分】 ② 「人生100年時代」になると、現在の両親の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならないと予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
【第5回】	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024年問題”や”2025年問題”	アサインメント】なし

	が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施し	
【第 6 回】	<鍛冶澤千重子> 第 1 回 SDGs とは何か？ 持続的な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) は、2030 年までに日本を含む国際社会全体が取り組むべき目標を定めたものである。日本では、私たちの暮らしに身近になっている SDGs であるが、私たちは正しく SDGs を理解しているだろうか。 この講義では、	【アサインメント】 ・ SDGs の 17 の目標のうち、自分自身の関心のある目標を 1 つ挙げ、その理由を 400 字程度でまとめて持参して下さい。 https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

	SDGs が定められた背景（国際社会と持続可能な開発）、SDGs の概要、SDGs の 17 の目標、国際社会と日本の取組みについて説明し、SDGs とは何かについての理解を深	
【第 7 回】	第 2 回 SDGs 達成に向けた日本の国際協力 ・日本の政府開発援助（ODA）の実施機関として、独立行政法人国際協力機構（JICA）は途上国の「人間の安全保障」と質の高い成長の実現を目指している。なぜ日本が途上国の支援を行っているのかを理解するため、ODA の歴史を振り返り、今後 2030 年の SDGs 達成に向けた JICA の取組みを紹介する。	【アサインメント】 ・以下の映像を見て、SDGs の実現に向け、JICA がどんな取り組みを行っているのか、その取り組みに対するその自分自身の感想を 400 字程度でまとめ持参して下さい。 https://www.youtube.com/watch?v=5sxOY8sUKks（約 6 分）
【第 8 回】	第 3 回 SDGs を考える（1）「健康」 ・第 3 回目、第 4 回目、第 5 回目の講義では、国際社会の課題の中から「人」に関するトピックを上げる。まずは、健康。SDGs3「すべての人に健康と福祉を」というゴールについて、世界の人々の健康に関す	【アサインメント】 ・以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】母子手帳を世界に～途上国における導入と普及～ https://www.youtube.com/watch?v=jB1DooUEDao（約 30 分）

	るデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。人々の健康を守るために JICA が行っているアプローチの中から、「母子健康手帳」を活用した母子の健康を守る取り組みと、みんなが病院に通える取組を紹介する。	
【第 9 回】	第 4 回 SDGs を考える（２）「高齢化」 第 4 回目の講義では、「高齢化」をトピックとして取り上げる。日本は超高齢社会であり、高齢化は日本にとっても課題が多い。世界に目を向けると、欧米諸国のみならず、アジア、中南米、アフリカでも高齢化が進行している。これらの状況をデータから現状を読み解き、SDGs で掲げられている目標との関係性を整理・理解する。高齢化が進むタイにおいて、JICA が実施した国際協力を事例に紹介しながら、日本がどう貢献できるのかを考える。 クール小課題 ・講義の中で取り	【アサインメント】 以下の映像を視聴ください。 【JICA-Net ライブラリ】 アジアの高齢化に挑む JICA の高齢者介護・福祉への取組み https://www.youtube.com/watch?v=CDr9Uqe9nxU&list=PLSQ54HoCvj5jw15JJ0tc87YdXKMkRBoVc&index=2 （約 30 分）

	上げた①健康、②高齢化、	
【第10回】	第5回 SDGsを考える(3)「栄養」、2030年以降の未来に向けて ・「栄養」をテーマに、SDGsを考える。健康な未来へ導くために、適切な栄養をすべての人々に届ける必要があるが、途上国の子どもを中心に栄養に関する課題が多く存在する。この講義では、世界の栄養の現状について、データから理解する。そして、SDGsで掲げられている目標との関係性を理解し、課題を改善するために必要なアプローチについて理解を深める。 ・SDGsは2030年の国際社会の姿を現したものであるが、その未来の社会において、自分はどのような人	【アサインメント】なし
【第11回】	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60分】
【第12回】	第2回 家庭教育と親 人間が生まれて	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60分】

	はじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードから、ペアワークで考える。	
【第13回】	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
【第14回】	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。 【所要時間 360 分】 課題A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考	○クールレポート課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	えを述べなさい。 課題B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ、	
【第15回】	第5回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方が生まれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	○アサインメント なし

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-A01	2.科目名	人間学Ⅱ (A グループ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、佐藤恭仁彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川 脇)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリシップで目標を達成しよう <グローバル社会を生きる視点> （佐藤恭仁彦） 「国際社会のグローバル化」とは、「人・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に移動し、結びつき、世界の一体化が進むこと」をさす。日本でも、インバウンド観光客の増加や、外国人の働き手によって支えられている地域社会など、社会のグローバル化が急速に進んでいる。 これまで日本国内であたりまえとされていたものが、実は世界の中ではあたりまえでなかった。そのような、社会を共に生きていく上での視点を学ぶ。 <災害を生き抜くために> （田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この 5 回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が必要なかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意					

	識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること。 <佐藤恭仁彦> ◎『哲学古典授業 ミル「自由論」の歩き方』 児玉聡著 光文社新書 2024年12月 ◎『科学史家の宗教論ノート』 村上陽一郎著 中公新書クラレ 2025年1月 ◎『ひとはなぜ戦争をするのか』 A.アインシュタイン/S.フロイト 講談社学術文庫 2016年6月 ◎『緒方貞子ー難民支援の現場から』 東野真取材・編集 集英社新書 2003年6月 ◎『グッド・モーニング・トゥ・ユー! ケニアで障	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート(3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する) 48点 最終課題(共通課題) 予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか? 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰しも「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕なぜ人間は悩むのか?「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える(ロジックツリー) 論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECEは、論理的思考(ロジカル・シンキング)のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークで	〔事前準備〕自分自身や身近な悩み事や迷い事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時

	も活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<佐藤恭仁彦> 第1回：自由について 日本国憲法は、私たちが持つさまざまな自由を「基本的人権」として規定し、その内容を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて…侵すことのできない永久の権利」であると述べる。私たちが「人類の努力の成果」として持つ「自由」とはどのようなものか、生まれた国によって国民の自由が異なるのはなぜか。「自由」とそれをささえる（はずの）「民主主義」について考える。"	〔事前準備〕 日本国憲法の以下の条文を、読んでください。11条～13条、14条、19条～28条、31条～40条、79条。その上で、あなたにとって「これは自分には絶対必要」と思う権利（自由）と、「これは自分にはなくてもよい」と思う権利（自由）を挙げ、理由を考えてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－2	第2回：信仰と宗教について 日本では、大多数の人が「無宗教」であることが当然	〔事前準備〕 世界三大宗教と言われる、仏教、キリスト教

	のように思われている。しかし、例えばアジアのイスラム教の国々へ行って「私は無宗教です」と言うと、「いったいこの人はまともな人間なのだろうか」と疑われることになる。一方、信仰・宗教の違いは、ときとして対立や紛争の理由となる。世界の人々にとっての宗教とその意味について考える。	及びイスラム教（＋あなたが信じる宗教があればその宗教）の「教え」について調べ、あなたが納得または共感しやすい宗教があるか否かと、理由を考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－3	第3回：戦争について 戦争をやめ、平和な世界をつくろうという試みは、古くからあった。1920 年代には多くの国が参加した「不戦条約」が結ばれ、国際的な軍縮が試みられたが、そのような企ては失敗し、第二次世界大戦に至った。戦後、1990 年代に東西冷戦が終わった後には、国対国の戦争だけでなく、内戦や、国をまたいだ武装集団によるテロなど、対立と争いも多様になった。世界で続く戦争、紛争と、難民など争いによって苦しむ人々について考える。"	〔事前準備〕 現在起きている戦争、国際紛争、内乱を一つ選び、概要をまとめ、過去どうしていたらその争いが防げたか、今後どうしたら争いを止めることができるのか、考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－4	第4回：貧困について 世界にはどうして豊かな国と貧しい国があるのか。また、一国の中でも貧富の格差、不平等が生じるのはなぜか。「貧しいが幸せ」ということはどのような状態を指すのか。貧困や格差をなくすためにはどのような方法が考えられるか。世界の貧困問題について考える。"	〔事前準備〕 世界で最も豊かな国々と最も貧しい国々との間で、国の政治や経済、人々の暮らし、子供の教育などにどのような差があるか、インターネットなどで調べたうえで、こうした貧困や格差をなくすにはどのような手立てが必要、有効か、考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－5	第5回：国際協力について グローバル社会の中で私たち世界市民が共に発展し、幸せになっていくために、どのような国際協力が必要なのか。日本政府や地方自治体が行っている国際協力や、NGO や個人の活動を通じた国際協力、さらに、日本国内のグローバル化に対応して地域社会で行われている「国内の国際協力」について考える。 〔クール小課題〕 あなたが、これから地域社会や国際社会でグローバルに活躍、貢献するとしたら（注：してください）、どのような分野で何ができるか。そのためには、関西国際大学で今後どのような学びを深め、学生	〔事前準備〕 事前配布資料に目を通しておいってください。（30 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 3－1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間 30 分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間30分】 アサインメント：地震による被害について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間30分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例についてwebクラスの資料を閲覧する【所要時間30分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】 クール小課題【所要時間300分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 災害関連死について、①具体的な例（環境要因と行動要因）をあげ、②必要な事前対策と事後対応について自身の考えを述べなさい。関連するデータを1つ以上示すこと。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間30分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-A02	2.科目名	人間学Ⅱ (B グループ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、佐藤恭仁彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <グローバル社会を生きる視点> （佐藤恭仁彦） 「国際社会のグローバル化」とは、「人・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に移動し、結びつき、世界の一体化が進むこと」をさす。日本でも、インバウンド観光客の増加や、外国人の働き手によって支えられている地域社会など、社会のグローバル化が急速に進んでいる。 これまで日本国内であたりまえとされていたものが、実は世界の中ではあたりまえでなかった。そのような、社会を共に生きていく上での視点を学ぶ。 <災害を生き抜くために> （田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この 5 回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が必要なかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意					

	識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること。 <佐藤恭仁彦> ◎『哲学古典授業 ミル「自由論」の歩き方』 児玉聡著 光文社新書 2024年12月 ◎『科学史家の宗教論ノート』 村上陽一郎著 中公新書クラレ 2025年1月 ◎『ひとはなぜ戦争をするのか』 A.アインシュタイン/S.フロイト 講談社学術文庫 2016年6月 ◎『緒方貞子ー難民支援の現場から』 東野真取材・編集 集英社新書 2003年6月 ◎『グッド・モーニング・トゥ・ユー! ケニアで障	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート(3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する) 48点 最終課題(共通課題) 予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか? 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰しも「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕なぜ人間は悩むのか?「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える(ロジックツリー) 論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECEは、論理的思考(ロジカル・シンキング)のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークで	〔事前準備〕自分自身や身近な悩み事や迷い事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時

	も活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<佐藤恭仁彦> 第1回：自由について 日本国憲法は、私たちが持つさまざまな自由を「基本的人権」として規定し、その内容を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて…侵すことのできない永久の権利」であると述べる。私たちが「人類の努力の成果」として持つ「自由」とはどのようなものか、生まれた国によって国民の自由が異なるのはなぜか。「自由」とそれをささえる（はずの）「民主主義」について考える。"	〔事前準備〕 日本国憲法の以下の条文を、読んでください。11条～13条、14条、19条～28条、31条～40条、79条。その上で、あなたにとって「これは自分には絶対必要」と思う権利（自由）と、「これは自分にはなくてもよい」と思う権利（自由）を挙げ、理由を考えてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－2	第2回：信仰と宗教について 日本では、大多数の人が「無宗教」であることが当然	〔事前準備〕 世界三大宗教と言われる、仏教、キリスト教

	のように思われている。しかし、例えばアジアのイスラム教の国々へ行って「私は無宗教です」と言うと、「いったいこの人はまともな人間なのだろうか」と疑われることになる。一方、信仰・宗教の違いは、ときとして対立や紛争の理由となる。世界の人々にとっての宗教とその意味について考える。	及びイスラム教（＋あなたが信じる宗教があればその宗教）の「教え」について調べ、あなたが納得または共感しやすい宗教があるか否かと、理由を考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－3	第3回：戦争について 戦争をやめ、平和な世界をつくろうという試みは、古くからあった。1920 年代には多くの国が参加した「不戦条約」が結ばれ、国際的な軍縮が試みられたが、そのような企ては失敗し、第二次世界大戦に至った。戦後、1990 年代に東西冷戦が終わった後には、国対国の戦争だけでなく、内戦や、国をまたいだ武装集団によるテロなど、対立と争いも多様になった。世界で続く戦争、紛争と、難民など争いによって苦しむ人々について考える。"	〔事前準備〕 現在起きている戦争、国際紛争、内乱を一つ選び、概要をまとめ、過去どうしていたらその争いが防げたか、今後どうしたら争いを止めることができるのか、考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－4	第4回：貧困について 世界にはどうして豊かな国と貧しい国があるのか。また、一国の中でも貧富の格差、不平等が生じるのはなぜか。「貧しいが幸せ」ということはどのような状態を指すのか。貧困や格差をなくすためにはどのような方法が考えられるか。世界の貧困問題について考える。"	〔事前準備〕 世界で最も豊かな国々と最も貧しい国々との間で、国の政治や経済、人々の暮らし、子供の教育などにどのような差があるか、インターネットなどで調べたうえで、こうした貧困や格差をなくすにはどのような手立てが必要、有効か、考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－5	第5回：国際協力について グローバル社会の中で私たち世界市民が共に発展し、幸せになっていくために、どのような国際協力が必要なのか。日本政府や地方自治体が行っている国際協力や、NGO や個人の活動を通じた国際協力、さらに、日本国内のグローバル化に対応して地域社会で行われている「国内の国際協力」について考える。 〔クール小課題〕 あなたが、これから地域社会や国際社会でグローバルに活躍、貢献するとしたら（注：してください）、どのような分野で何ができるか。そのためには、関西国際大学で今後どのような学びを深め、学生	〔事前準備〕 事前配布資料に目を通しておいってください。（30 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 3－1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間 30 分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間30分】 アサインメント：地震による被害について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間30分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例についてwebクラスの資料を閲覧する【所要時間30分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】 クール小課題【所要時間300分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 災害関連死について、①具体的な例（環境要因と行動要因）をあげ、②必要な事前対策と事後対応について自身の考えを述べなさい。関連するデータを1つ以上示すこと。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間30分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-A03	2.科目名	人間学Ⅱ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、佐藤恭仁彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポ					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <グローバル社会を生きる視点>（佐藤恭仁彦） 「国際社会のグローバル化」とは、「人・モノ・カネ・情報が国境を越えて自由に移動し、結びつき、世界の一体化が進むこと」をさす。日本でも、インバウンド観光客の増加や、外国人の働き手によって支えられている地域社会など、社会のグローバル化が急速に進んでいる。 これまで日本国内であたりまえとされていたものが、実は世界の中ではあたりまえでなかった。そのような、社会を共に生きていく上での視点を学ぶ。 <災害を生き抜くために>（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この 5 回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が必要なかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意					

	識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること。 <佐藤恭仁彦> ◎『哲学古典授業 ミル「自由論」の歩き方』 児玉聡著 光文社新書 2024年12月 ◎『科学史家の宗教論ノート』 村上陽一郎著 中公新書クラレ 2025年1月 ◎『ひとはなぜ戦争をするのか』 A.アインシュタイン/S.フロイト 講談社学術文庫 2016年6月 ◎『緒方貞子ー難民支援の現場から』 東野真取材・編集 集英社新書 2003年6月 ◎『グッド・モーニング・トゥ・ユー! ケニアで障	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート(3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する) 48点 最終課題(共通課題) 予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 生成AI利用に関しては、条件付きで認めます。最終レポート、クールレポート作成の際に、生成AIを利用してもかまいませんが、与えられたテーマについて最終的には自分で考えた結論を述べるようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか? 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰しも「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕 なぜ人間は悩むのか? 「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える(ロジックツリー) 論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。 MECEは、論理的思考(ロジカル・シンキング)のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークで	〔事前準備〕 自分自身や身近な悩み事や迷い事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時

	も活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<佐藤恭仁彦> 第1回：自由について 日本国憲法は、私たちが持つさまざまな自由を「基本的人権」として規定し、その内容を「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて…侵すことのできない永久の権利」であると述べる。私たちが「人類の努力の成果」として持つ「自由」とはどのようなものか、生まれた国によって国民の自由が異なるのはなぜか。「自由」とそれをささえる（はずの）「民主主義」について考える。"	〔事前準備〕 日本国憲法の以下の条文を、読んでください。11条～13条、14条、19条～28条、31条～40条、79条。その上で、あなたにとって「これは自分には絶対必要」と思う権利（自由）と、「これは自分にはなくてもよい」と思う権利（自由）を挙げ、理由を考えてください。（90分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－2	第2回：信仰と宗教について 日本では、大多数の人が「無宗教」であることが当然	〔事前準備〕 世界三大宗教と言われる、仏教、キリスト教

	のように思われている。しかし、例えばアジアのイスラム教の国々へ行って「私は無宗教です」と言うと、「いったいこの人はまともな人間なのだろうか」と疑われることになる。一方、信仰・宗教の違いは、ときとして対立や紛争の理由となる。世界の人々にとっての宗教とその意味について考える。	及びイスラム教（＋あなたが信じる宗教があればその宗教）の「教え」について調べ、あなたが納得または共感しやすい宗教があるか否かと、理由を考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－3	第3回：戦争について 戦争をやめ、平和な世界をつくろうという試みは、古くからあった。1920 年代には多くの国が参加した「不戦条約」が結ばれ、国際的な軍縮が試みられたが、そのような企ては失敗し、第二次世界大戦に至った。戦後、1990 年代に東西冷戦が終わった後には、国対国の戦争だけでなく、内戦や、国をまたいだ武装集団によるテロなど、対立と争いも多様になった。世界で続く戦争、紛争と、難民など争いによって苦しむ人々について考える。"	〔事前準備〕 現在起きている戦争、国際紛争、内乱を一つ選び、概要をまとめ、過去どうしていたらその争いが防げたか、今後どうしたら争いを止めることができるのか、考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－4	第4回：貧困について 世界にはどうして豊かな国と貧しい国があるのか。また、一国の中でも貧富の格差、不平等が生じるのはなぜか。「貧しいが幸せ」ということはどのような状態を指すのか。貧困や格差をなくすためにはどのような方法が考えられるか。世界の貧困問題について考える。"	〔事前準備〕 世界で最も豊かな国々と最も貧しい国々との間で、国の政治や経済、人々の暮らし、子供の教育などにどのような差があるか、インターネットなどで調べたうえで、こうした貧困や格差をなくすにはどのような手立てが必要、有効か、考えてみてください。（90 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 2－5	第5回：国際協力について グローバル社会の中で私たち世界市民が共に発展し、幸せになっていくために、どのような国際協力が必要なのか。日本政府や地方自治体が行っている国際協力や、NGO や個人の活動を通じた国際協力、さらに、日本国内のグローバル化に対応して地域社会で行われている「国内の国際協力」について考える。 〔クール小課題〕 あなたが、これから地域社会や国際社会でグローバルに活躍、貢献するとしたら（注：してください）、どのような分野で何ができるか。そのためには、関西国際大学で今後どのような学びを深め、学生	〔事前準備〕 事前配布資料に目を通しておいってください。（30 分） 〔アサインメント〕 なし
輪講 3－1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間 30 分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間30分】 アサインメント：地震による被害について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間30分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例についてwebクラスの資料を閲覧する【所要時間30分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】 クール小課題【所要時間300分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 災害関連死について、①具体的な例（環境要因と行動要因）をあげ、②必要な事前対策と事後対応について自身の考えを述べなさい。関連するデータを1つ以上示すこと。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間30分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM103-A01	2.科目名	倫理と社会生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田悠汰					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻 （生命と生活を考える）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この講義では、倫理学という学問と私たちが生きている社会の間の関係についてお話しします。受講者の皆さんには、日常生活ではなじみがないように思われる倫理学が、私たちの生きる社会と密接につながっていることを学んでもらいます。またそのうえで、当たり前のように営まれている社会生活の中に潜んでいる問題について自覚的に考えていくことが、本講義の大きな目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	①日常生活に潜んでいる倫理的な問題に気づき、問いを立てられるようになること。 ②その問いにたいして、様々な考え方を知ったうえで自分なりに考えられるようになること。					
19.教科書・教材	特に指定せず、授業資料を中心に進めていきます。					
20.参考文献	各回の授業中に参考文献を挙げていきます。					
21.成績評価	毎回のコメントシート 30 点（各回 2 点×15） 授業内容確認テスト（第 14 回講義） 20 点 期末レポート（第 15 回講義） 50 点 詳しい内容は授業で説明します。					
22.コメント	私たちの身の回りには、私たちが思っている以上に多くの問題が潜んでいます。これからの社会をより良くしていくためには、こうした問題に気づき、考えていくことが必要です。この授業では、こうした問題に簡単に答えを示すのではなく、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。問題を見つけて、自分なりに考える能力は、大学を出た後の社会生活でも必要な能力です。この講義を通して、自分で考えることの楽しさを感じるとともに、これからの社会に必要とされる能力を身につけてもらえたら幸いです。					
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【ガイダンス】 受講上の注意、成績評価について、講義で扱うテーマの紹介			【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を使うので、パソコンを持参してください。 毎回授業後にコメントシートを書いてもらいます。 授業資料も Web Class 上にアップロードします。		
第 2 回	【倫理、倫理学とはなにか】 高校科目「倫理」との違い、「道徳」との関係、「法」との関係を考えていきます。					
第 3 回	【「善さ」とはなにか①】 倫理学の扱う最も基本的なテーマである「善さ」について考えていきます。この回では、徳倫理学と共感理					

	論という 2 つの理論を紹介します。	
第 4 回	【「善さ」とはなにか②】 前回に引き続き「善さ」について考えていきます。この回では、義務倫理学と功利主義の 2 つの理論を紹介します。	
第 5 回	【「正義」とはなにか】 正義理論を紹介しつつ、「平等」をどのように実現できるのかを考えていきます。	
第 6 回	【生命倫理①】 この回からより具体的なテーマについて考えます。まずは、「生命」にかかわる問題について考えていきます。具体的には、生殖補助医療（男女の産み分け、出生前診断など）、人工妊娠中絶の問題を扱う予定です。	
第 7 回	【生命倫理②】 引き続き「生命」について考えていきます。具体的には、終末期医療や安楽死、臓器移植の問題を扱う予定です。	
第 8 回	【動物倫理①】 この回では、人間の権利だけでなく動物の権利について考えていきます。まずはペットのしつけという身近な問題や、肉食の問題を扱う予定です。	
第 9 回	【動物倫理②】 引き続き「動物の権利」について考えていきます。具体的には、動物実験（化粧品などの嗜好品開発、医療用の実験）、動物園・水族館のあり方に関する問題を扱う予定です。	
第 10 回	【ケアについて①】 この回では「ケア」について考えていきます。医療が発達し、高齢化社会が進む現代において、「ケア」はいかなる意味をもちうるのでしょうか？そして、看護やリハビリの現場だけでなく、皆さん全員が関わりうる家族のケアをどう考えていけばよいのでしょうか？	
第 11 回	【ケアについて②】 この回では、「ケア」において重要な「他者との関係」について、より詳しく考えていきます。そのなかで、医療と患者の関係のあり方について考えなおしつつ、「リハビリテーション」の問題を考察します。また「ケア」される側の「ケア」だけではなく、「ケア」する側の「ケア」についてもお話しする予定です。	
第 12 回	【現代技術】 この回では、「現代技術」とのかかわりを考えます。特に原子力と人工知能を話題にして、どのような議論がされているのかを紹介する予定です。	

第 13 回	【パンデミックと倫理学】 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、私たちの社会生活を一変させました。この回では、パンデミック下で出てくる倫理的な問題について考えていきます。	
第 14 回	【授業内容確認テストとレポート書き方講座】 この回の前半では、これまでの授業内容の理解を確認する小テストを行います。そのうえで後半では、期末レポート課題に向けての注意点についてお話しします。また授業時間内で、レポートについての個別の質問や相談にお答えしていく予定です。	
第 15 回	【まとめ&レポート相談会】 今までの授業内容をまとめたうえで、倫理が私たちの生きる現代社会とどのようにかわるのかを確認し、今後どのように生活していくべきかを考えていきます。 加えて授業時間内で、レポート課題についての質問・相談に答えていきます。	期末レポート提出（Web Class）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM103-Y01	2.科目名	倫理と社会生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田悠汰					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻 （生命と生活を考える）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この講義では、倫理学という学問と私たちが生きている社会の間の関係についてお話しします。受講者の皆さんには、日常生活ではなじみがないように思われる倫理学が、私たちの生きる社会と密接につながっていることを学んでもらいます。またそのうえで、当たり前のように営まれている社会生活の中に潜んでいる問題について自覚的に考えていくことが、本講義の大きな目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	①日常生活に潜んでいる倫理的な問題に気づき、問いを立てられるようになること。 ②その問いにたいして、様々な考え方を知ったうえで自分なりに考えられるようになること。					
19.教科書・教材	特に指定せず、授業資料を中心に進めていきます。					
20.参考文献	各回の授業中に参考文献を挙げていきます。					
21.成績評価	毎回のコメントシート 30 点（各回 2 点×15） 授業内容確認テスト（第 14 回講義） 20 点 期末レポート（第 15 回講義） 50 点 詳しい内容は授業で説明します。					
22.コメント	私たちの身の回りには、私たちが思っている以上に多くの問題が潜んでいます。これからの社会をより良くしていくためには、こうした問題に気づき、考えていくことが必要です。この授業では、こうした問題に簡単に答えを示すのではなく、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。問題を見つけて、自分なりに考える能力は、大学を出た後の社会生活でも必要な能力です。この講義を通して、自分で考えることの楽しさを感じるとともに、これからの社会に必要とされる能力を身につけてもらえたら幸いです。					
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【ガイダンス】 受講上の注意、成績評価について、講義で扱うテーマの紹介			【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を使うので、パソコンを持参してください。 毎回授業後にコメントシートを書いてもらいます。 授業資料も Web Class 上にアップロードします。		
第 2 回	【倫理、倫理学とはなにか】 高校科目「倫理」との違い、「道徳」との関係、「法」との関係を考えていきます。					
第 3 回	【「善さ」とはなにか①】 倫理学の扱う最も基本的なテーマである「善さ」について考えていきます。この回では、徳倫理学と共感理					

	論という 2 つの理論を紹介します。	
第 4 回	【「善さ」とはなにか②】 前回に引き続き「善さ」について考えていきます。この回では、義務倫理学と功利主義の 2 つの理論を紹介します。	
第 5 回	【「正義」とはなにか】 正義理論を紹介しつつ、「平等」をどのように実現できるのかを考えていきます。	
第 6 回	【生命倫理①】 この回からより具体的なテーマについて考えます。まずは、「生命」にかかわる問題について考えていきます。具体的には、生殖補助医療（男女の産み分け、出生前診断など）、人工妊娠中絶の問題を扱う予定です。	
第 7 回	【生命倫理②】 引き続き「生命」について考えていきます。具体的には、終末期医療や安楽死、臓器移植の問題を扱う予定です。	
第 8 回	【動物倫理①】 この回では、人間の権利だけでなく動物の権利について考えていきます。まずはペットのしつけという身近な問題や、肉食の問題を扱う予定です。	
第 9 回	【動物倫理②】 引き続き「動物の権利」について考えていきます。具体的には、動物実験（化粧品などの嗜好品開発、医療用の実験）、動物園・水族館のあり方に関する問題を扱う予定です。	
第 10 回	【ケアについて①】 この回では「ケア」について考えていきます。医療が発達し、高齢化社会が進む現代において、「ケア」はいかなる意味をもちうるのでしょうか？そして、看護やリハビリの現場だけでなく、皆さん全員が関わりうる家族のケアをどう考えていけばよいのでしょうか？	
第 11 回	【ケアについて②】 この回では、「ケア」において重要な「他者との関係」について、より詳しく考えていきます。そのなかで、医療と患者の関係のあり方について考えなおしつつ、「リハビリテーション」の問題を考察します。また「ケア」される側の「ケア」だけではなく、「ケア」する側の「ケア」についてもお話しする予定です。	
第 12 回	【現代技術】 この回では、「現代技術」とのかかわりを考えます。特に原子力と人工知能を話題にして、どのような議論がされているのかを紹介する予定です。	

第 13 回	【パンデミックと倫理学】 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、私たちの社会生活を一変させました。この回では、パンデミック下で出てくる倫理的な問題について考えていきます。	
第 14 回	【授業内容確認テストとレポート書き方講座】 この回の前半では、これまでの授業内容の理解を確認する小テストを行います。そのうえで後半では、期末レポート課題に向けての注意点についてお話しします。また授業時間内で、レポートについての個別の質問や相談にお答えしていく予定です。	
第 15 回	【まとめ&レポート相談会】 今までの授業内容をまとめたうえで、倫理が私たちの生きる現代社会とどのようにかわるのかを確認し、今後どのように生活していくべきかを考えていきます。 加えて授業時間内で、レポート課題についての質問・相談に答えていきます。	期末レポート提出（Web Class）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM104-A01	2.科目名	教育と人間形成		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 小学校 幼稚園 保育士	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この授業は、「人間形成」という視点から、主に家庭、学校、社会がそれぞれもっている働きや役割を考える ①家庭教育と人間形成との関連を考える。 ②学校教育と人間形成との関連を考える。 ③日本の現代の教育問題のうち、いくつかの問題の概要を理解する。 ④「教育機会の平等」の問題を考える。 SDGs（持続可能な開発目標）17 のゴール 中の「4. すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」という視点からも考察していきます。					
18.学習目標と DP との関連	DP の(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能 の活用力に関連している。 ①家庭、学校、社会における教育の概要と人間形成にとっての意義を説明できる。 ②教育機会の平等が現代社会でその程度実現しているのかを分析できる。 ③日本の教育問題の概要を説明できる。 ④「教育とは何か」ということに対して、自分の考えをもちそれを表現することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。 毎授業で教材を配布します。					
20.参考文献	中村高康他「現場で使える教育社会学」 ミネルヴァ書房 山野 則子 編著「子どもの貧困調査ー子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの」 明石書店					
21.成績評価	下記の3項目についてすべてに取り組んだうえで、合計 60 点以上で単位修得となる。 ①最終レポート : 50% → 学習目標の①、③、④ ②グループワーク: 45%（1回 15%×3回:グループワークのまとめと振り返り） → 学習目標の①、② ③宿題提出 : 5% → 学習目標の②、③					
22.コメント	・原則、尼崎 C での対面での授業実施 神戸山手 C は、遠隔受講になります。 ただし、3～4 回は神戸山手 C で対面で授業を実施します。その場合は、尼崎 C は、遠隔受講となります。神戸山手 C での対面の日程は事前に連絡します。 また、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場合は、遠隔での対応。その場合、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがあります。					
23.オフィスアワー	授業後に教室または非常勤講師室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法についてのガイダンスを行う			【復習】 授業で説明のあった関連資料などを自分で調べてみる、(120 分)		

	特に本授業の内容などの理解を深めることを目的としており、授業に関連する資料や参考文献を紹介する。	
【第2回】	I 家庭教育：①「家族」とは何か；家族という集団の特徴を知る	【復習】自分が受けた学校教育の中で最も印象に残ったことを書く。 【予習】WEB CLASS に関連する動画をアップしますので、視聴し自分の意見をまとめる
【第3回】	I 家庭教育：②日本人の子育て；日本人の子育ての特徴を知る	○・「現代の日本では、子どもは大切に育てられているか」について書いてくる（120分） ・「現代日本の家族の平均人員と核家族の比率」を調べてくる（120分）
【第4回】	I 家庭教育：③現代家族の変化と子ども；近年の家族の変化と、子どもへの影響を考える	◎次回までにグループで、「現代日本の子育ての困難とそこに必要な子育て支援」を考えてくる
【第5回】	I 家庭教育：④現代の子育ての困難と子育て支援（その1）：グループワーク I	○・「グループワーク I のまとめと振り返り」を書いてくる（120分） ・「現代日本における里親制度について」調べてくる（120分）
【第6回】	I 家庭教育：⑤現代の子育ての困難と子育て支援（その2）	○・「日本ではなぜ里親制度が広がらないか」について書いてくる（120分） ・「日本での教育を受ける機会を法律でどのように規定しているか」を調べてくる（120分） ★ワークシート I 提出
【第7回】	II 学校教育：①教育機会の平等（その1）	◎次回までにグループで、夜間中学校の現状について調べてくる（240分）
【第8回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その2）：グループワーク II	○「グループワークのまとめ」を書いてくる（240分）
【第9回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その2）：グループワーク II 結果の発表と振り返り	○・「グループワーク II の振り返り」を書いてくる（150分） ・「社会教育法の該当条文について」調べてくる（90分） ★ワークシート II 提出
【第10回】	III 社会教育：①社会教育とは何か；社会教育の種類と主な社会教育施設について知る	・「エリクソンの発達論について」調べてくる（120分）
【第11回】	III 社会教育：②ライフサイクル論と社会教育；ライフサイクルの実際の変化及びライフサイクルについての考え方が、社会教育にもたらした影響を知る	○・「発達課題論と社会教育の関係について」まとめてくる（120分） ・「現在の日本の非行率と都道府県別の統計」を調べてくる（120分）
【第12回】	IV 子どもの問題行動：①少年非行；少年非行について	◎次回までにグループで、「非行少年の処遇に

	て、その実態と少年非行のとらえ方を知る	ついて重要なこと」を考えてくる（240 分）
【第 13 回】	IV 子どもの問題行動：②グループワークⅢ	○・「グループワークのまとめと振り返り」を書いてくる（150 分） ・「現在日本の不登校の最新データ」を調べてくる(90 分)
【第 14 回】	IV 子どもの問題行動：③不登校；不登校について、その実態と不登校のとらえ方を知る	○・「自分は学校にいかないことをどのように考えるか」について書いてくる（120 分） ★ワークシートⅢ 提出
【第 15 回】	IV 子どもの問題行動：④いじめ；いじめについて、その実態ととらえ方を知る	○最終レポートに向けて、これまでの学修のまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM104-Y51	2.科目名	教育と人間形成		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 小学校 幼稚園 保育士	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この授業は、「人間形成」という視点から、主に家庭、学校、社会がそれぞれもっている働きや役割を考える ①家庭教育と人間形成との関連を考える。 ②学校教育と人間形成との関連を考える。 ③日本の現代の教育問題のうち、いくつかの問題の概要を理解する。 ④「教育機会の平等」の問題を考える。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴール 中の「4. すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」という視点からも考察していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	DPの(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能 の活用力に関連している。 ①家庭、学校、社会における教育の概要と人間形成にとっての意義を説明できる。 ②教育機会の平等が現代社会でその程度実現しているのかを分析できる。 ③日本の教育問題の概要を説明できる。 ④「教育とは何か」ということに対して、自分の考えをもちそれを表現することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。 毎授業で教材を配布します。					
20.参考文献	中村高康他「現場で使える教育社会学」 ミネルヴァ書房 山野 則子 編著「子どもの貧困調査ー子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの」 明石書店					
21.成績評価	下記の3項目についてすべてに取り組んだうえで、合計60点以上で単位修得となる。 ①最終レポート : 50% → 学習目標の①、③、④ ②グループワーク: 45%（1回15%×3回:グループワークのまとめと振り返り） → 学習目標の①、② ③宿題提出 : 5% → 学習目標の②、③					
22.コメント	・原則、尼崎Cでの対面での授業実施 神戸山手Cは、遠隔受講になります。 ただし、3～4回は神戸山手Cで対面で授業を実施します。その場合は、尼崎Cは、遠隔受講となります。神戸山手Cでの対面の日程は事前に連絡します。 また、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場合は、遠隔での対応。その場合、授業をZOOMなどで録画して授業内のWEB CLASSで公開することがあります。					
23.オフィスアワー	授業後に教室または非常勤講師室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法についてのガイダンスを行う			【復習】 授業で説明のあった関連資料などを自分で調べてみる、(120分)		

	特に本授業の内容などの理解を深めることを目的としており、授業に関連する資料や参考文献を紹介する。	
【第2回】	I 家庭教育：①「家族」とは何か；家族という集団の特徴を知る	【復習】自分が受けた学校教育の中で最も印象に残ったことを書く。 【予習】WEB CLASS に関連する動画をアップしますので、視聴し自分の意見をまとめる
【第3回】	I 家庭教育：②日本人の子育て；日本人の子育ての特徴を知る	○・「現代の日本では、子どもは大切に育てられているか」について書いてくる（120分） ・「現代日本の家族の平均人員と核家族の比率」を調べてくる（120分）
【第4回】	I 家庭教育：③現代家族の変化と子ども；近年の家族の変化と、子どもへの影響を考える	◎次回までにグループで、「現代日本の子育ての困難とそこに必要な子育て支援」を考えてくる
【第5回】	I 家庭教育：④現代の子育ての困難と子育て支援（その1）：グループワーク I	○・「グループワーク I のまとめと振り返り」を書いてくる（120分） ・「現代日本における里親制度について」調べてくる（120分）
【第6回】	I 家庭教育：⑤現代の子育ての困難と子育て支援（その2）	○・「日本ではなぜ里親制度が広がらないか」について書いてくる（120分） ・「日本での教育を受ける機会を法律でどのように規定しているか」を調べてくる（120分） ★ワークシート I 提出
【第7回】	II 学校教育：①教育機会の平等（その1）	◎次回までにグループで、夜間中学校の現状について調べてくる（240分）
【第8回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その2）：グループワーク II	○「グループワークのまとめ」を書いてくる（240分）
【第9回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その2）：グループワーク II 結果の発表と振り返り	○・「グループワーク II の振り返り」を書いてくる（150分） ・「社会教育法の該当条文について」調べてくる（90分） ★ワークシート II 提出
【第10回】	III 社会教育：①社会教育とは何か；社会教育の種類と主な社会教育施設について知る	・「エリクソンの発達論について」調べてくる（120分）
【第11回】	III 社会教育：②ライフサイクル論と社会教育；ライフサイクルの実際の変化及びライフサイクルについての考え方が、社会教育にもたらした影響を知る	○・「発達課題論と社会教育の関係について」まとめてくる（120分） ・「現在の日本の非行率と都道府県別の統計」を調べてくる（120分）
【第12回】	IV 子どもの問題行動：①少年非行；少年非行について	◎次回までにグループで、「非行少年の処遇に

	て、その実態と少年非行のとらえ方を知る	ついて重要なこと」を考えてくる（240 分）
【第 13 回】	IV 子どもの問題行動：②グループワークⅢ	○・「グループワークのまとめと振り返り」を書いてくる（150 分） ・「現在日本の不登校の最新データ」を調べてくる（90 分）
【第 14 回】	IV 子どもの問題行動：③不登校；不登校について、その実態と不登校のとらえ方を知る	○・「自分は学校にいかないことをどのように考えるか」について書いてくる（120 分） ★ワークシートⅢ 提出
【第 15 回】	IV 子どもの問題行動：④いじめ；いじめについて、その実態ととらえ方を知る	○最終レポートに向けて、これまでの学修のまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM105-A01	2.科目名	比較宗教論 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2024 年度以前入学生)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれていま					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ 授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・ 期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立 (1)			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立 (2)			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM106-A01	2.科目名	宗教と共生社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2025 年度以降入学生)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれていま					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 学習目標③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。 この授業の学習目標は DP の (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 6 回】	非ヨーロッパ世界の身体 ― マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立 (1)			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立 (2)			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病者との共生 1 ― 象徴論、あるいは病いを投げ捨てる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	病者との共生 2 ― 癒し、あるいは社会関係を作り直す技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	病者との共生 3 ― 物語論、あるいは「私の苦痛」を受け入れる技法	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	INF101-Y01	2.科目名	情報と社会 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	宮脇大					
5.授業科目の区分	特別研究 II	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学 (神戸山手 C)			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ChatGPT とは何か、なぜここまでニュースで話題になっているのか」 生成 AI がインターネット環境で広く利用可能となり、なおかつ日進月歩で技術開発が進められている。これに伴い、生成 AI を活用してできることが拡大し続けていることから、本学学生には、社会に出る前にこれらをさまざまな場面で有効活用できるようになっておくことを支援していきたいと考えています。 この講義では、生成 AI の基本から応用までを体系的に学び、実際に操作しながらその力を体験します。全 15 回の講義を通じて、生成 AI を使った情報収集やアウト					
18.学習目標と DP との関連	本科目では、生成 AI がビジネスに与える影響について学び、その応用方法を中心に探求する。本科目を修了すると、以下の学習目標に到達することができます。 1.生成 AI には、どのような種類があるのか、どのようなツールがあり、どのように操作すをすれば扱えるのか説明できる。 2.生成 AI に関連する倫理的および法的問題について、自分の意見に基づいて説明できる。 3.企業のビジネスで活用されている事例を理解し、その利点とリスク、課題を説明できる。 4. 情報収集・学習に活用できる。(インプットとしての活用) 5.発表・表現に活用できる。(アウトプットとしての活用) 【この科目の学びと関連する DP (ディプロマポリシー)】 (1) ?律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
20.参考文献	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
21.成績評価	1.講義への出席、講義における議論、質問へのアクティブな参加 40% 2.ケーススタディ分析のグループプレゼンテーション (学期終盤に実施) 60% 3.受講人数が大人数だった場合は、レポート提出にて評価 ※加点要素として、講義期間中に実施される民間企業の生成 AI ハッカソンやアクセラレータープログラムへのエントリーおよび活動も評価の対象とします。 ※受講人数が大人数になった場合、グループプレゼンテーションではなく、レポート提出に変更する場合があります。					
22.コメント	講師コメント：この講義は「AI」と名がついていますが、特別な技術やプログラミングの知識は一切必要ありません。パソコンやスマホで SNS や youtube が使えれば大丈夫です。具体的な操作例を通じて、知識のない人でも 1 から学べる内容になっています。文系の学部の学生さんも大歓迎です。今話題の ChatGPT をはじめとする生成 AI を実際に触りながら、何ができるのか、身の回りの生活にどのような影響がありそうか、一緒に考えながら学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	①生成 AI の実際のデモンストレーション (学生にも操作体験してもらう)			授業外学習 (予習・復習や課題、ワークなど ＝計 1~2 時間程度を想定)		

	②生成 AI がもたらす社会への影響 ③講義の概要説明	内容：講義で利用予定の ChatGPT のアカウント作成、操作練習、関連する WEB ページの閲覧による事前の情報収集
2	①第 2 回のゴール：学生による操作体験を交えて ChatGPT のプロンプトについての理 ②ChatGPT の基礎知識 ③プロンプトの書き方 ④ChatGPT の得意なことと不得意なこと ⑤質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 2 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習
3	① 第 3 回のゴール：ChatGPT を使って公開された情報をわかりやすくする ② ChatGPT のお作法の習得 ③ 実践演習 1？ 文章作成 ④ ChatGPT から品質の高い回答を得るためのコツの習得 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 3 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（大量の文字情報の要約、見せ換え、グラフ化など）
4	① 第 4 回のゴール：ChatGPT を使って、自分が伝えたい内容を表現する ② ChatGPT のプロンプト技術 ③ 実践演習 ④ 言い回しの変更と理解の深化 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 4 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（自身の考察、意見のアウトプットの生成、グラフやプログラミングを活用した描写）
5	① 第 5 回のゴール：画像生成 AI や音声生成 AI の種類・基本的な使い方を学ぶ ② 画像生成 AI の基礎知識 ③ 音声生成 AI の基礎知識 ④ その他の生成 AI ツール ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 5 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（画像生成 AI、音声生成 AI の操作の反復練習）
6	① 第 6 回のゴール：企業における生成 AI の活用事例を学ぶ ② 企業のマーケティングへの活用例 ③ 教育現場での利用例 ④ クリエイティブなプロジェクトでの利用例 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 6 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じた企業の生成 AI 活用の事例の検索と理解）
7	① 第 7 回のゴール：生成 AI におけるハルシネーションのリスクを理解する ② ハルシネーションとは何か ③ ハルシネーションが発生する原因 ④ハルシネーションの識別 ⑤ ハルシネーションのリスクと影響 ⑥ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 7 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたハルシネーションに対するリスク、回避策の検索と理解）
8	① 第 8 回のゴール：フェイクニュースのリスクを学ぶ ② フェイクニュースのリスク ③ 実践演習？ フェイクニュースの識別 ④事例と法的規制 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 8 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたフェイクニュースの事例の検索と理解）
9	① 第 9 回のゴール：著作権侵害リスクを学ぶ ② 生成 AI と著作権	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定）

	③ 実践演習？著作権のケーススタディ ④ 事例と法的規制 ⑤ 質疑応答とまとめ	内容：第9回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じた著作権侵害へのポジティブな反応とネガティブな反応の検索と理解）
10	① 第10回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの概要を理解する ② 期末レポートの概要 ③ プレゼンテーションの概要 ④ プレゼンテーション発表日の決定 ⑤ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
11	① 第11回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの参考例解説 ② 期末レポートの参考例解説 ③ プレゼンテーションの参考例解説 ④ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
12	① 第12回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4～10時間程度を想定
13	① 第13回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4～10時間程度を想定
14	① 第14回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4～10時間程度を想定
15	① 第15回のゴール：講義の総括 ② コース全体の振り返り ③ 未来展望と技術発展 ④ 講義全体を通して、質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計1～2時間程度を想定）

1.授業コード (ナンバリング)	INF102-Y01	2.科目名	情報倫理		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 絶えず変化し続ける情報社会において、適切な情報技術の利活?ができるようになるための判断と?構えを?動に移すことができるようになることを?指します。 概要： 本科?では、情報社会で活動する上で適切な判断と態度を取るために必要になる知識とスキルを事例調査などの学習を通して?に付けます。インターネット等の技術は日々進歩しており、情報社会は常に変化を続けています。このため、知識とスキルを?分でアップデートしていけるようになることを?指して、技術?、法律?、倫理?それぞれにおいて、データを参照しながら情報					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標（=?につくスキル）は次の通りです。 1. インターネット上での情報発信が他者に及ぼしうの影響について説明できる 2. プライバシー権、知的財産権など?他の権利について説明できる 3. 情報社会において、危機回避など安全な利活?のための?法について説明できる 4. データ・AI 活用上の課題について説明できる 5. 情報モラルに関する知識に基づいた適切な意思決定ができる [関連する DP（ディプロマポリシー）] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	適宜資料等を配付します。					
20.参考文献	『情報倫理_ネット時代のソーシャル・リテラシー』高橋 慈子ほか，技術評論社，2023 年 『教養としてのデータサイエンス』内田誠一ほか，講談社，2021 年 その他、授業中に適宜資料を配付します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 知識テスト（学習?標 1・2・3・4 に対応）10% →各テストは「満点」で合格です。（何度でもチャレンジできます） →実施時期は、授業の中で指?します。 (2) 各ブロックに関する小レポート×4（学習?標 1・2・3・4・5 に対応）40% (3) 情報倫理啓発チラシ（学習?標 1・2・3・4・5 に対応）10% (4) ふりかえりシート（学習?標 1・2・3・4・5 に対応）40%					
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個?差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワーは、月曜日昼休みです。 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ 授業概要説明／ICT ツールの利用環境確認 ・ 「情報倫理」の理解度確認ワーク：これまでに学んだ「情報倫理（モラル・セキュリティ）」についてグループディスカッション	授業外学習： シラバスの内容確認 教科書を概観して全体像をつかむ
第 2 回	ブロック(1)他者への影響① SNS と情報モラルについて考える	事前学習：教科書（第 3・4・5・13・14 章のうち指定の範囲）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 3 回	ブロック(1)他者への影響② SNS と情報モラルに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 4 回	ブロック(1)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（1）作成 WebClass から提出
第 5 回	ブロック(2)自他の権利① プライバシー権や個人情報保護について考える	事前学習：教科書（第 8・9 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 6 回	ブロック(2)自他の権利② プライバシー権や個人情報保護に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 7 回	ブロック(2)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（2）作成 WebClass から提出
第 8 回	ブロック(3)情報セキュリティ① 情報技術とセキュリティについて考える	授業外学習： 本日の内容を復習 ◆知識テスト の実施
第 9 回	ブロック(3)情報セキュリティ② 情報技術とセキュリティに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	事前学習：教科書（第 6・7 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 10 回	ブロック(3)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（3）作成 WebClass から提出
第 11 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題① データ倫理や「AI と倫理」について考える	事前学習：教科書（第 10・11・12 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 12 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題② データ倫理や「AI と倫理」に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 13 回	ブロック(4)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（4）作成 WebClass から提出
第 14 回	情報倫理啓発チラシ作成と共有	授業外学習： ◆作成したチラシの提出 事後学習：ここまでの学習内容を振り返り、自身の「態度」にどのような変化があったか

		考えてみる
第 15 回	学びのふりかえり、??評価、ポートフォリオ記述 / 総評	◆ふりかえりシート提出（WebClass：授業中提出）

1.授業コード (ナンバリング)	INF102-Y51	2.科目名	情報倫理 (留)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	留学生クラスです。					
17.授業の目的と概要	目的： 絶えず変化し続ける情報社会において、適切な情報技術の利活?ができるようになるための判断と?構えを?動に移すことができるようになることを?指します。 概要： 本科?では、情報社会で活動する上で適切な判断と態度を取るために必要になる知識とスキルを事例調査などの学習を通して?に付けます。インターネット等の技術は日々進歩しており、情報社会は常に変化を続けています。このため、知識とスキルを?分でアップデートしていけるようになることを?指して、技術?、法律?、倫理?それぞれにおいて、データを参照しながら情報					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. インターネット上での情報発信が他者に及ぼしうの影響について説明できる 2. プライバシー権、知的財産権など?他の権利について説明できる 3. 情報社会において、危機回避など安全な利活?のための?法について説明できる 4. データ・AI 活用上の課題について説明できる 5. 情報モラルに関する知識に基づいた適切な意思決定ができる [関連する DP (ディプロマポリシー)] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	適宜資料等を配付します。					
20.参考文献	『事例でわかる情報モラル&セキュリティ』実教出版, 2024 年 『情報倫理_ネット時代のソーシャル・リテラシー』高橋 慈子ほか, 技術評論社, 2023 年 『教養としてのデータサイエンス』内田誠一ほか, 講談社, 2021 年 その他、授業中に適宜資料を配付します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 知識テスト (学習?標 1・2・3・4 に対応) 10% →各テストは「満点」で合格です。(何度でもチャレンジできます) →実施時期は、授業の中で指?します。 (2) 各ブロックに関する小レポート×4 (学習?標 1・2・3・4・5 に対応) 40% (3) 情報倫理啓発チラシ (学習?標 1・2・3・4・5 に対応) 10% (4) ふりかえりシート (学習?標 1・2・3・4・5 に対応) 40%					
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワーは、月曜日昼休みです。 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け					

		付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ 授業概要説明／ICT ツールの利用環境確認 ・ 「情報倫理」の理解度確認ワーク：これまでに学んだ「情報倫理（モラル・セキュリティ）」についてグループディスカッション	授業外学習： シラバスの内容確認 教科書を概観して全体像をつかむ
第 2 回	ブロック(1)他者への影響① SNS と情報モラルについて考える	事前学習：教科書（第 3・4・5・13・14 章のうち指定の範囲）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 3 回	ブロック(1)他者への影響② SNS と情報モラルに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 4 回	ブロック(1)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（1）作成 WebClass から提出
第 5 回	ブロック(2)自他の権利① プライバシー権や個人情報保護について考える	事前学習：教科書（第 8・9 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 6 回	ブロック(2)自他の権利② プライバシー権や個人情報保護に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 7 回	ブロック(2)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（2）作成 WebClass から提出
第 8 回	ブロック(3)情報セキュリティ① 情報技術とセキュリティについて考える	授業外学習： 本日の内容を復習 ◆知識テスト の実施
第 9 回	ブロック(3)情報セキュリティ② 情報技術とセキュリティに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	事前学習：教科書（第 6・7 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 10 回	ブロック(3)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（3）作成 WebClass から提出
第 11 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題① データ倫理や「AI と倫理」について考える	事前学習：教科書（第 10・11・12 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 12 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題② データ倫理や「AI と倫理」に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 13 回	ブロック(4)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（4）作成 WebClass から提出
第 14 回	情報倫理啓発チラシ作成と共有	授業外学習： ◆作成したチラシの提出 事後学習：ここまでの学習内容を振り返り、

		自身の「態度」にどのような変化があったか 考えてみる
第 15 回	学びのふりかえり、??評価、ポートフォリオ記述 / 総評	◆ふりかえりシート提出（WebClass：授業中 提出）

1.授業コード (ナンバリング)	INF103-Y01	2.科目名	AI と次世代社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	宮脇大					
5.授業科目の区分	特別研究 II	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学 (神戸山手 C)			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ChatGPT とは何か、なぜここまでニュースで話題になっているのか」 生成 AI がインターネット環境で広く利用可能となり、なおかつ日進月歩で技術開発が進められている。これに伴い、生成 AI を活用してできることが拡大し続けていることから、本学学生には、社会に出る前にこれらをさまざまな場面で有効活用できるようになっておくことを支援していきたいと考えています。 この講義では、生成 AI の基本から応用までを体系的に学び、実際に操作しながらその力を体験します。全 15 回の講義を通じて、生成 AI を使った情報収集やアウト					
18.学習目標と DP との関連	本科目では、生成 AI がビジネスに与える影響について学び、その応用方法を中心に探求する。本科目を修了すると、以下の学習目標に到達することができます。 1.生成 AI には、どのような種類があるのか、どのようなツールがあり、どのように操作すをすれば扱えるのか説明できる。 2.生成 AI に関連する倫理的および法的問題について、自分の意見に基づいて説明できる。 3.企業のビジネスで活用されている事例を理解し、その利点とリスク、課題を説明できる。 4. 情報収集・学習に活用できる。(インプットとしての活用) 5.発表・表現に活用できる。(アウトプットとしての活用) 【この科目の学びと関連する DP (ディプロマポリシー)】 (1) ?律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
20.参考文献	必要な資料は授業内で適宜配付します。					
21.成績評価	1.講義への出席、講義における議論、質問へのアクティブな参加 40% 2.ケーススタディ分析のグループプレゼンテーション (学期終盤に実施) 60% 3.受講人数が大人数だった場合は、レポート提出にて評価 ※加点要素として、講義期間中に実施される民間企業の生成 AI ハッカソンやアクセラレータープログラムへのエントリーおよび活動も評価の対象とします。 ※受講人数が大人数になった場合、グループプレゼンテーションではなく、レポート提出に変更する場合があります。					
22.コメント	講師コメント：この講義は「AI」と名がついていますが、特別な技術やプログラミングの知識は一切必要ありません。パソコンやスマホで SNS や youtube が使えれば大丈夫です。具体的な操作例を通じて、知識のない人でも 1 から学べる内容になっています。文系の学部の学生さんも大歓迎です。今話題の ChatGPT をはじめとする生成 AI を実際に触りながら、何ができるのか、身の回りの生活にどのような影響がありそうか、一緒に考えながら学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	①生成 AI の実際のデモンストレーション (学生にも操作体験してもらう)			授業外学習 (予習・復習や課題、ワークなど ＝計 1~2 時間程度を想定)		

	②生成 AI がもたらす社会への影響 ③講義の概要説明	内容：講義で利用予定の ChatGPT のアカウント作成、操作練習、関連する WEB ページの閲覧による事前の情報収集
2	①第 2 回のゴール：学生による操作体験を交えて ChatGPT のプロンプトについての理 ②ChatGPT の基礎知識 ③プロンプトの書き方 ④ChatGPT の得意なことと不得意なこと ⑤質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 2 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習
3	① 第 3 回のゴール：ChatGPT を使って公開された情報をわかりやすくする ② ChatGPT のお作法の習得 ③ 実践演習 1？ 文章作成 ④ ChatGPT から品質の高い回答を得るためのコツの習得 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 3 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（大量の文字情報の要約、見せ換え、グラフ化など）
4	① 第 4 回のゴール：ChatGPT を使って、自分が伝えたい内容を表現する ② ChatGPT のプロンプト技術 ③ 実践演習 ④ 言い回しの変更と理解の深化 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 4 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（自身の考察、意見のアウトプットの生成、グラフやプログラミングを活用した描写）
5	① 第 5 回のゴール：画像生成 AI や音声生成 AI の種類・基本的な使い方を学ぶ ② 画像生成 AI の基礎知識 ③ 音声生成 AI の基礎知識 ④ その他の生成 AI ツール ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 5 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（画像生成 AI、音声生成 AI の操作の反復練習）
6	① 第 6 回のゴール：企業における生成 AI の活用事例を学ぶ ② 企業のマーケティングへの活用例 ③ 教育現場での利用例 ④ クリエイティブなプロジェクトでの利用例 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 6 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じた企業の生成 AI 活用の事例の検索と理解）
7	① 第 7 回のゴール：生成 AI におけるハルシネーションのリスクを理解する ② ハルシネーションとは何か ③ ハルシネーションが発生する原因 ④ハルシネーションの識別 ⑤ ハルシネーションのリスクと影響 ⑥ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 7 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたハルシネーションに対するリスク、回避策の検索と理解）
8	① 第 8 回のゴール：フェイクニュースのリスクを学ぶ ② フェイクニュースのリスク ③ 実践演習？ フェイクニュースの識別 ④事例と法的規制 ⑤ 質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定） 内容：第 8 回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じたフェイクニュースの事例の検索と理解）
9	① 第 9 回のゴール：著作権侵害リスクを学ぶ ② 生成 AI と著作権	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計 1~2 時間程度を想定）

	③ 実践演習？著作権のケーススタディ ④ 事例と法的規制 ⑤ 質疑応答とまとめ	内容：第9回の講義で説明したプロンプト操作の反復練習（Google や SNS を通じた著作権侵害へのポジティブな反応とネガティブな反応の検索と理解）
10	① 第10回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの概要を理解する ② 期末レポートの概要 ③ プレゼンテーションの概要 ④ プレゼンテーション発表日の決定 ⑤ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
11	① 第11回のゴール：期末レポートとプレゼンテーションの参考例解説 ② 期末レポートの参考例解説 ③ プレゼンテーションの参考例解説 ④ 質疑応答とまとめ	期末レポートの題材の検討（予習・復習や課題、ワークなど＝2時間程度を想定）
12	① 第12回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4～10時間程度を想定
13	① 第13回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4～10時間程度を想定
14	① 第14回のゴール：学生が準備したプレゼンテーションを発表し、実践的なスキルを磨く ② プレゼンテーション ③ フィードバックセッション ④ 質疑応答とまとめ	発表チームは、プレゼンテーションのスライド作成、およびプレゼンテーションの台本作成、リハーサルなど＝計4～10時間程度を想定
15	① 第15回のゴール：講義の総括 ② コース全体の振り返り ③ 未来展望と技術発展 ④ 講義全体を通して、質疑応答とまとめ	授業外学習（予習・復習や課題、ワークなど＝計1～2時間程度を想定）

1.授業コード (ナンバリング)		INF103-Y02	2.科目名		情報リテラシー (留)		3.単位数	2
4.授業担当教員		章志華						
5.授業科目の区分		コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻		社会学科				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件		データサイエンス・AI 探究 (MDASH リテラシー) プログラム データサイエンス副専攻		11.先修条件				
12.研究室		※※※		13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態		演習		
16.履修制限		※クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。						
17.授業の目的と概要		【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。 具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass (学習?援システム) などの学内ネットワークやクラウドサービス						
18.学習目標と DPとの関連		? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??						
19.教科書・教材		『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』 noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。						
20.参考文献		森本尚之・奥村晴彦、「基礎からわかる情報リテラシー」、技術評論社						
21.成績評価		以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む) 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】						
22.コメント		・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと)						
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)			

第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項： ・ 授業概要の説明 ・ PC 等、学習環境の確認 ・ 「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル)(続きは第 14 回) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項： ・ 「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・ WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・ 小テスト(情報セキュリティ確認テスト)実施(WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	第 3 回 Windows の基礎＋クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・ クラウド利用／データ管理運用(クラウド・ローカルの区別) 必須事項： ・ 教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・ クラウド利用 (Outlook／OneDrive) ／データ管理運用(クラウド・ローカルの区別)を解説 ・ 自分の PC の「ドキュメント」(ローカル)の中に授業用フォルダを作成する ・ ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す
第 4 回	大学のシステム理解 (WebClass 等各サービス) ／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・ 教職員学生専用メニューの概略説明(学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス(図書検索など)) ・ Outlook の利用(送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明)(アプリ設定資料あり) ・ ブラウザを使ったネット検索の説明(基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介) ・ Zoom の利用(アカウント登録)	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回 レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・ 教科書 (Section2 Step1 Lesson3) に沿って、サン	課題[1] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・ 授業中の操作結果ファイルの提出 ・ word のワーク(授業で取り組んだことを復

	プルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	習すること)
第 6 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・ グラフの作成・ 情報をまとめる・ 見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等	課題[4]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）

	・プレゼンテーション課題の提示	
第 13 回	・プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[4]を WebClass で提出 課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	INF103-Y03	2.科目名	情報リテラシー (2/2) (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	情報リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。さらに、最新の生成 AI 技術の基礎知識と操作方法を学ぶことで、実践的な ICT リテラシーを身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法、および最					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② 生成 AI の基礎知識と基本的な操作方法 ③ クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ④ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ⑤ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:生成 AI の基礎知識の確認と演習結果のレポート：10 点 【学習目標②に対応】 課題 2:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標③④に対応】 課題 3:指定された体裁の?書の作成 10 点 ? 【学習?標⑤に対応】 (※上述 10 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと ・ 生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー : 月曜日 昼休み その他、研究室でも質問対応しますので事前にメールでアポを取ってください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認 講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル、AI 倫理を含める) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・「セキュリティ・情報モラル③」(教科書 Section5 Step2 Lesson4～5) をスライドで解説 ・ AI 倫理の部分については、データサイエンスの教科書を参考に作った:「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・ WebClass の小テスト機能	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 15 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	講義 ・生成 AI の基礎知識:生成 AI とは、基本原理、代表的なサービス、利点と限界、倫理的側面、今後の展望 ・「生成 AI とどう向き合うべきか? について (第 2 報)」の説明と周知 操作の基本 初歩的な操作方法の解説 (例: ChatGPT・Copilot) (1) ログインなし ChatGPT による演習 操作例: 簡単な会話、文章の要約、表の作成、など (2) Copilot による演習 (組織アカウント利用) 操作例: 簡単な会話、文章の要約、表の作成、画像の生成、など	[授業外学習] 様々な生成 AI を使ってみる 課題[1]:「生成 AI を使って感じたこと」を 300 字程度にまとめて、担当教員の指示に従って Webclass から提出する。 手順: (1) ChatGPT または Copilot を使い、短い文章を作らせる (例: 環境問題についての短い意見文を書いて)。 (2) 生成 AI の出力をそのまま使うのではなく、自分で修正してみる。 (3) 生成 AI を使った感想 (便利さや限界、課題など) をまとめる。
第 4 回	Windows の基礎 + クラウド利用 ・ Windows の基本操作 ・クラウド利用 / データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook / OneDrive) / データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル) の中に授業用フォルダを作成する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出してから、生成 AI に直してもらってみる。 指定されたファイル (担当で指定: シラバス?) を学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。

	・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する ・学内	
第 5 回	大学のシステム理解（WebClass 等各サービス）／問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項： ・教職員学生専用メニューの概略説明（学生に関係する項目：WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス（図書検索など）） ・Outlook の利用（送受信などの操作：PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明）（アプリ設定資料あり） ・ブラウザを使ったネット検索の説明（基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介） ・Zoom の利用（アカウント登録	[授業外学習] 大学のメールアドレスを使い、Outlook のスマホアプリで日常的に連絡を取る習慣を定着させること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 6 回	レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step1 Lesson3）に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書（Section2 Step2 Lesson1）に沿って、サンプルデータを利用して指定されたチラシを作成する	課題[2] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 7 回	・レポート作成の作法② レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[3] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 8 回	・データ分析基礎演習① Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[3]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習② 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 10 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[4]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 11 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）

	・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[4]を WebCalss で提出
第 12 回	・ 中間試験（40 分） ・ ビデオレポートの作成練習 ・ Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・ 授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 13 回	・ プレゼンテーション作成① ・ PowerPoint 準備問題 ・ スライド作成の注意点 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・ 教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・ プレゼンテーション課題の提示	課題[5]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 14 回	・ プレゼンテーション作成② - スライドの作成 - プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・ 教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・ プレゼンテーション作成の指導	課題[5]を WebClass で提出 課題[6]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 15 回	・ 学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・ 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・ 学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	課題[6]を WebCalss で提出 課題[7]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	INF103-Y04	2.科目名	情報リテラシー (1/2) (4月8日～6月3日)		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	ICT リテラシーは、クラスが指定されていますので、履修登録の際にはご注意ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業の目的は大学での学修を行うために必要な ICT ツールの活用方法を身につけることです。具体的には、文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作・活用方法を中心に、その他の ICT システム、学習ツールの利用方法を身につけます。また、オンデマンド教材を用いた効果的な自主学習の方法についても身につけます。 【概要】 文書作成や表計算、プレゼンテーションの基本的な操作?法を身につけるほか、図書館システムや WebClass (学習?援システム) などの学内ネットワークやクラウドサービス					
18.学習目標と DPとの関連	? 情報セキュリティ・モラルに基づいて正しい態度をとれるように、関連知識を説明できる。 ② クラウド・ローカルを区別しながら、目的に合わせてデータ管理ができる。 ③ インターネットを利?して必要な情報を収集できる。 ④ 学術的なレポート作成に必要なコンテンツを作成できる。 ・ 指定された体裁の?書を作成できる。(レポート作成の作法) ・ 指定された体裁の図表・グラフを作成できる。 ・ 指定された体裁の発表スライドを作成できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『イチからしっかり学ぶ?Office 基礎と情報モラル Office365・Office2021 対応』noa 出版 その他、ワークシート等の資料を必要に応じて授業中に配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下のすべての項?について、課題提?の際に説明する要件を満たして提出することにより、本科?を合格 (60 点以上獲得) することができる。(×切厳守) ?テスト ((情報セキュリティ確認テスト)) 10 点 【学習?標①に対応】 課題 1:データ管理方法ミニレポート ?10 点 ? 【学習?標②に対応】 課題 2:指定された体裁の?書の作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】 (※上述 15 点には、授業中の操作結果ファイルの提出点 3 点を含む) 課題 3:指定された体裁の図表・グラフの作成 15 点 ? 【学習?標④に対応】					
22.コメント	・ クラス指定のため、?分が受講するクラスは掲?にて確認すること。(指定以外のクラスで受講した場合、単位の修得ができないこともあるため注意をすること。) ・ 毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと)					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (金曜) 3 限 研究室オフィスアワー (金曜) 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業計画について説明 各自のノート PC の環境について確認			[授業外学習] 各自の PC 環境整備		

	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主にセキュリティ)について 必須事項: ・授業概要の説明 ・PC 等、学習環境の確認 ・「セキュリティ・情報モラル①」(教科書 Section5Step1 Lesson1-3) をスライドで解説	セキュリティ・情報モラル既習分復習／第 2 回分予習
第 2 回	講義 「セキュリティ・情報モラル」(主に情報モラル) (続きは第 14 回) WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 必須事項: ・「セキュリティ・情報モラル②」(教科書 Section5Step2 Lesson1-3) をスライドで解説 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明	[授業外学習] 各自の PC 環境整備 セキュリティ・情報モラル既習分復習 ・小テスト (情報セキュリティ確認テスト) 実施 (WebClass 利用、第 10 回授業日 9:00 〆切)
第 3 回	第 3 回 Windows の基礎 + クラウド利用 ・Windows の基本操作 ・クラウド利用 / データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) 必須事項: ・教科書 (Section1 Step1, Step2) に沿って、Windows の基本操作およびファイル・フォルダ管理の基本を演習する ・クラウド利用 (Outlook / OneDrive) / データ管理運用 (クラウド・ローカルの区別) を解説 ・自分の PC の「ドキュメント」(ローカル) の中に授業用フォルダを作成する ・ローカルでのデータ管理を基本とすることを周知する	[授業外学習] 自分のデータ管理方法を考えて書き出す 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。
第 4 回	大学のシステム理解 (WebClass 等各サービス) / 問題解決のための情報収集・ネット検索 必須事項: ・教職員学生専用メニューの概略説明 (学生に関係する項目: WebClass、Unipa、Outlook、学外からアクセス (図書検索など)) ・Outlook の利用 (送受信などの操作: PC で大学のメニューから、スマホでアプリから、アクセス先は同じことを説明) (アプリ設定資料あり) ・ブラウザを使ったネット検索の説明 (基本 Microsoft Edge、他のブラウザも適宜紹介) ・Zoom の利用 (アカウント登録)	[授業外学習] 指定されたファイルを学内のプリンターで印刷して次回の授業時に持参すること。 初年次セミナー等のグループワーク課題に取り組む際に、各自で Zoom のホスト役を務めることができるように、練習しておくこと。
第 5 回	第 5 回 レポート作成の作法① Word 準備問題、チラシの作成 必須事項: ・教科書 (Section2 Step1 Lesson3) に沿って、サンプルデータを利用して指定された文書を作成する ・教科書 (Section2 Step2 Lesson1) に沿って、サン	課題[1] データ管理方法ミニレポートを WebClass で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 ・word のワーク (授業で取り組んだことを復習すること)

	プルデータを利用して指定されたチラシを作成する	
第 6 回	・レポート作成の作法② - レポートの作成 必須事項： ・教科書（Section2 Step2 Lesson2）に沿って、サンプルデータを利用してレポートを編集し仕上げる	・授業中の操作結果ファイルの提出 課題[2] 指定された体裁の?書の作成（練習 8 P98）
第 7 回	・データ分析基礎演習① - Excel 準備問題 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson1）に沿って、ブックの新規作成、範囲指定・データの入力・訂正・保存・簡単な数式の入力を演習する	課題[2]を WebCalss で提出 ・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 8 回	・データ分析基礎演習② - 成績データの整理 必須事項： ・教科書（Section3 Step2 Lesson3）に沿って、数値データの整理・整理したデータの利用・ルールに基づくデータ整理・関数の利用、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること）
第 9 回	・データ分析基礎演習③ （グラフの作成） 必須事項： ・教科書（Section3 Step3 Lesson1&2）に沿って、数値データの整理・グラフの作成・情報をまとめる・見栄えを整える、などを演習する。	・授業中の操作結果ファイルの提出 [授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]: 指定された体裁の図表・グラフの作成（練習 17 P163）
第 10 回	Word と Excel の統合利用 必須事項： ・これまでの Word と Excel の振り返り ・必要に応じて補足の説明や練習を行う ・Word と Excel の統合利用、および次回の中間試験について説明する	[授業外学習] Excel のワーク（授業で取り組んだことを復習すること） 課題[3]を WebCalss で提出
第 11 回	・中間試験（40 分） ・ビデオレポートの作成練習 ・Word&Excel の操作の習熟度を確保する目的で中間試験を実施する。 ・授業でビデオレポートを提出できるように、Zoom を用いたレコーディングについて説明する。	[授業外学習] Zoom を用いたレコーディングの練習をしておく。
第 12 回	・プレゼンテーション作成① ・PowerPoint 準備問題 ・スライド作成の注意点 必須事項： ・教科書（Section4 Step2 Lesson1）に沿って、プレゼンテーションの新規作成・保存、表示モード、スライドのコピー・移動スライドの編集の演習 ・教科書（Section4 Step2 Lesson2）に沿って、アニメーション効果の演習等 ・プレゼンテーション課題の提示	課題[4]: 指定された体裁の発表スライドの作成（練習 22 P220～221）
第 13 回	・プレゼンテーション作成②	課題[4]を WebClass で提出

	スライドの作成 プレゼンテーションの仕上げ、発表の準備・練習 必須事項： ・教科書（Section4 Step3 Lesson1&2）を参考に、スライドの設定、トピックに分ける、詳細内容、見栄え、見せ方の工夫、発表の準備などを説明 ・プレゼンテーション作成の指導	課題[5]: Zoom のレコーディング機能を利用し、プレゼンテーションの模様を 5 分以内の動画ファイルとして作成
第 14 回	講義 ・「セキュリティ・情報モラル」（主に AI 倫理） 必須事項： ・「セキュリティ・情報モラル③」（教科書 Section5 Step2 Lesson4～5）をスライドで解説 ・ データサイエンスの教科書を参考に作った：「AI 倫理について考える.pptx」を活用 ・生成 AI について（資料あり） ・資料に基づき、Copilot の演習	課題[5]を WebCalss で提出 [授業外学習] 小テスト（情報セキュリティ確認テスト）に取り組む
第 15 回	・学習振り返りアピールシート作成 必須事項： ・小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の締切を説明 ・学習振り返りアピールシートの作成と提出の指示	小テスト（情報セキュリティ確認テスト）の回答締切 課題[6]: 学習振り返りアピールシートを授業時間中に提出

1.授業コード (ナンバリング)	INF203-Y01	2.科目名	情報科学		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 情報社会を支える基本技術や概念を理解し、説明できるようになることを目指します。 【概要】 情報社会において、コンピュータは欠かせない道具で、ハードウェアとソフトウェアの組み合わせにより動作を実現する装置である。この科目では、情報とその表現、ハードウェアの仕組みと周辺装置、基本ソフトウェアの機能とアプリケーションの体系、情報処理システムとネットワークなどを学習し、コンピュータの基本構造とソフトウェアの基本原理に関する知識を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	① 情報科学の基礎として、情報とその表現に関する知識を説明できる ② コンピュータハードウェアの仕組みと周辺装置の基本について説明できる ③ 基本ソフトウェアの機能とアプリケーションの体系について説明できる ④ ネットワークの基本的仕組みについて説明できる ⑤ 応用事例に情報処理システムの基本的な知識を適用できる [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	IT パスポート試験のシラバス、解説テキスト					
21.成績評価	1. KPT シート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 25% 2. 毎回の授業の確認問題(25 点) 3. 総括試験(50 点)					
22.コメント	・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノート P C を持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと)					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	イントロダクション			今回の復習：配布資料の復習		
【第 2 回】	ハードウェア(1) コンピュータの構成			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 3 回】	ハードウェア(2) 基礎理論			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 4 回】	ソフトウェア(1) 基本ソフト			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 5 回】	ソフトウェア(2) アプリケーションソフト			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 6 回】	ソフトウェア(3) マルチメディア			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		

【第 7 回】	システム構成	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 8 回】	ネットワーク(1) ネットワークの方式	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 9 回】	ネットワーク(2) 通信サービス	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 10 回】	セキュリティ(1) マルウェア	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 11 回】	セキュリティ(2) 暗号化技術	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 12 回】	データベース(1) データベース設計	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 13 回】	データベース(2) データベース処理	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 14 回】	アルゴリズムとプログラミング	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 15 回】	まとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y71	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)(観光)		3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生		11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・2 年生 PM1 履修者 ・全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネ		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習		
16.履修制限	夏学期期間 2025 年 8 月～9 月中					
17.授業の目的と概要	授業では、事前学習、現場学習、事後学習などを通じて専門課程で学修した観光ビジネスに関する基本的な知識の理解・技能などの統合的活用力を高めるとともに、不足する知識や技能に気づき、事後の学修へとつなげることを目的としている。 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、20					
18.学習目標と DP との関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことがで					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y72	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)(心理)		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子、村田昌彦、山本喜晴					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考(書類選考、面接など)に合格した者に限り履修を認める。					
17.授業の目的と概要	学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ・事前学習 ・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の現					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	・事前学修時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況 10% ・リフレクションカレッジによる日報の作成 40% ・実習評価書(受入担当者からの評価) 20% ・実習報告書及びポスター作成 30%					
22.コメント	事前学習5コマ(7月10日Ⅰ～Ⅴ限)と事後学習2コマ(9月11日Ⅰ～Ⅱ限)にすべて出席できる人のみ履修してください(事前学習の補講はありません)。 各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 学修支援室 水曜1限(道免) 研究室オフィスアワー 水曜昼休み(道免)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回(7/10)	オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。(※インターンシップ経験者の話を聞く)					
第2回(7/10)	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y73	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤創、片山真理					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	英語コミ学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	インターンシップへの参加を認められた者					
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ・事前学習 ・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の					
18.学習目標と DPとの関連	・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中のリフレクションカレッジ投稿 ・事後学修 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。 なお、以上の4点をすべて参加、実施しない場合には単位を認定しない。					
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元氣よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー	越山：火曜日 3 時間目（研究室）、木曜日 4 時間目（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。 (※インターンシップ経験者の話を聞く) 実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業			実習先についての情報を調査し、まとめる		

	規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある 自己目標設定の考え方について	
【第2回】	ビジネスマナー研修 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション ・ 実習日誌の書き方について	実習先にむけて、見出しなみ・注意事項・服装チェックその他準備
【第3回】	リスクマネジメント研修・実習に向けての準備 実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。 * 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	実習先への質問事項まとめ（その意図を明確に）
【第4回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第5回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第6回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第7回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第8回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第9回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第10回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第11回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づ	実習企業の指示により対応する

	き、現場で実習する。	
【第 12 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 13 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	お礼状の作成
【第 14 回】	リフレクション 実習日誌と実習報告書に基づき、振り返りを行ない、実習を通じて身につけたことや学んだこと、今後の課題と行動計画を整理したうえ、報告会に向けた資料作成を行なう	グループワーク：PPT の完成と読み原稿の完成 パフォーマンスの確認
【第 15 回】	学内報告会の発表準備（開催）（実習先協力者 & 担当者を招く） 実習報告書の作成	

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y74	2.科目名	インターンシップⅠ（産学協議会の分類上『タイプ2』相当）（観光）		3.単位数	1
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生	11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・2 年生 PM1 履修者 ・全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネ			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習			
16.履修制限	夏学期期間 2023 年 8 月～9 月中					
17.授業の目的と概要	テーマ：「ニューノーマル時代におけるポスト万博のインバウンド観光と地域活性化の提案」 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、2025 年には関西地域において、国際的な大型交流イベントである大阪・関西万博の開催も控えている。 今般、2 年生を中心に、観光事業の総合型コーププログ					
18.学習目標と DP との関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことがで					

	き る。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができる。	
19.教科書・教材	特になし、担当教員の指示に従う。	
20.参考文献	特になし、	
21.成績評価	学外学習に当たるルーブリックによる。	
22.コメント	・現場学習実施に当たって、交通費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・希望者が多い場合は、成績（G P A）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・特に現場学習では、積極的に対応態度が、求められる。 ・協力観光事業体の都合により、時間日程など変更する場合がある。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）	
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室で実施する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回~第 4 回	事前学習（2 限~5 限） ①インターンシップの概要・目標の説明。 ・グループライン設定・資料・情報収集・事前準備 ・ミッション設定とグループ別の企画書を作成 ・派遣される地域の事前調査の内容に基づいて、コンテンツのテーマに沿ったシナリオ作成や必要備品などをチェック ②取組み地域（DMO）の説明や地域との事前ミーティング。	ノートパソコン持参
第 5 回~第 12 回	現場学習① 1 日目 現場学習② 2 日目 現場学習③ 3 日目 受入企業等にて実習 受入先が提供するプログラムに基づき、現場で実習する。	機関や企業訪問に相応しい服装で集合
第 13 回~第 15 回	事後学習（振り返り）（3 限~5 限） ・現場学習について、レポートにまとまる。 ・発表用（プレゼンテーション用）の資料として、スライドを作成。 ・発表の練習など。	報告会の準備と成果物の発表会、振り返り ノートパソコン持参
	報告会（1 限~3 限） 報告会での発表（全員参加）	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y75	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当) (観光)		3.単位数	1
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生以上	11.先修条件		原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・2 年生 PM1 履修者 ・全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネ		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋学外実習 (事前学習、学外学習、事後学習)		
16.履修制限	夏学期期間 2023 年 8 月～9 月中 ※先方の都合により、延長される場合があります。					
17.授業の目的と概要	テーマ：「ニューノーマル時代におけるポスト万博のインバウンド観光と地域活性化の提案」 《概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、2025 年には関西地域において、国際的な大型交流イベントである大阪・関西万博の開催も控えている。自分が卒業後に社会で活躍するうえで、こうした社会の動きのなかでどのよ					
18.学習目標と DPとの関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度 (自律性)、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性)、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解)、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学					

	習に 基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことができ る。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができる。	
19.教科書・教材	特になし、担当教員の指示に従う。	
20.参考文献	特になし。	
21.成績評価	学外学習に当たるルーブリックによる。 ※学外学習と報告会の参加は単位認定の必須条件です。	
22.コメント	・ 現場学習実施に当たって、交通費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・ 希望者が多い場合は、成績（G P A）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・ コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・ 特に現場学習では、積極的に対応態度が、求められる。 ・ 協力観光事業体の都合により、時間日程など変更する場合がある。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み@学修支援センター 水曜 3 限@研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1～4 回	事前学習（2 限～5 限） ①インターンシップの概要・目標の説明。 ・ グループライン設定・資料・情報収集・事前準備 ・ ミッション設定とグループ別の企画書を作成 ・ 派遣される地域の事前調査の内容に基づいて、コンテンツのテーマに沿ったシナリオ作成や必要備品などをチェック ②取組み地域（DMO）の説明や地域との事前ミーティング。	ノートパソコン持参
第 5 回～第 12 回	現場学習① 1 日目 現場学習② 2 日目 現場学習③ 3 日目 受入企業等にて実習 受入先が提供するプログラムに基づき、現場で実習する。	時期や企業訪問に相応しい服装で集合
第 13 回～第 15 回	事後学習（振り返り）（3 限～5 限） ・ 現場学習について、レポートにまとめる。 ・ 発表用（プレゼンテーション用）の資料として、スライドを作成。 ・ 発表の練習など。	報告会の準備と成果物の発表会、振り返り ノートパソコン持参
	報告会 （1 限～3 限） 報告会での発表（全員参加）	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT103-Y77	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当) (観光)		3.単位数	1
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング本部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	コーオプ・プログラムへの参加を認められた者					
17.授業の目的と概要	【目的】 学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界（例えば観光関連事業等）のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、ビジネス現場における様々なビジネス現象を、今後の大学での学（まなび）にフィードバックする。このように大学とビジネス現場の往還を通して、企業の仕組みや仕事の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で学んだ知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高めることを目的とする。 【概要】 本プログラムは、コロナ禍後の観光地域における観光立国実					
18.学習目標と DPとの関連	本プログラムは、新たな観光事業理解のための「コーオプ・プログラム」と位置づけ、学生（留学生を含む）等ゲストの視点、地域事業者等のホストの視点を交えて、地域マーケティング活動の実践として、地域観光資源を活用してのテーマの設定等を踏まえ、集客に向けたイベント実施・宿泊プラン等を提案することを目標とする。 本プログラムの学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連している。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	①事前学習（2日間、6コマ） ②南あわじ市における現場学習（2泊3日） ③事後学習（2日間、6コマ） ④成果報告会 以上4点への参加を必須とし、全てを総合したうえで評価する。一つでも不参加の場合は単位を認定しない					
22.コメント	2泊3日の現地学習（2025年8月19日(火)～8月21日(木)）の実費（宿泊代・交通費等）として、約15,000円程度を学生が負担する。 現場学習でたくさんの方にお世話になる。感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく、元気よく参加すること。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	【事前学習1日目】7月22日(火) 講義：オリエンテーション ・本プログラムの目的と目標の理解 ・本プログラムの概要、日程			7月22日(火)2限に行う 南あわじ市の概要（地理、歴史沿革、名所、観光資源など）をまとめる		

第 2 回	講義：マーケティング戦略の考え方 ・ 成果を出すための戦略的思考方法の講義	7 月 22 日(火) 3 限に行う
第 3 回	グループワーク：南あわじ地域を知ろう ・ 1 グループ 5 名で、南あわじ地域の観光資源について調べてまとめる	7 月 22 日(火) 4 限に行う
第 4 回	【事前学習 2 日目】8 月 18 日(月) プレゼンテーション：南あわじ地域を知ろう ・ グループワークの成果を発表し、教授および別のグループからのフィードバックを受け、理解を深める	8 月 18 日(月) 2 限に行う
第 5 回	講義：観光事業の現状と課題 ・ オーバーツーリズムなど観光事業における課題、南あわじ地域における課題	8 月 18 日(月) 3 限に行う
第 6 回	グループワーク：課題設定 ・ 南あわじ地域が抱える課題のうち、現地学習を通じて特に解決したい課題を設定する ・ 現地学習で行う消費者調査を設計・準備する	8 月 18 日(月) 4 限に行う
第 7 回	【現地学習 1 日目】8 月 19 日(火) 現地学習①：南あわじ地域の観光資源視察・取材 南あわじ市職員のご案内で、南あわじ地域の観光資源を視察し、現状と課題を取材する。合わせて、情報発信のための動画・画像撮影を行う 宿泊先：国立淡路青少年購入の家	8 月 19 日(火) 終日
第 8 回	【現地学習 2 日目】8 月 20 日(水) 現地学習②：消費者インタビュー 南あわじ地域最大の観光地である大鳴門橋記念館周辺で、観光客周遊・拡散に向けた消費者インタビューを行う 宿泊先：国立淡路青少年購入の家	8 月 20 日(水) 終日
第 9 回	【現地学習 3 日目】8 月 21 日(木) 現地学習③：現地での学びのまとめ 課題解決・プレゼンテーションに向けた、現地視察・取材と消費者インタビューのまとめを行う	8 月 21 日(木) 終日
第 10 回	【事後学習 1 日目】8 月 28 日(木) プレゼンテーション：現地での学びの交換 各々の現地での学びを発表し、共有する	8 月 28 日(木) 2 限に行う 現地学習の成果を振り返り、まとめて持ち寄ること
第 11 回	グループワーク：課題解決に向けて 課題解決の提案と情報発信の準備（動画作成など）	8 月 28 日(木) 3 限に行う

第 12 回	グループワーク：課題解決に向けて 課題解決の提案と情報発信の準備（動画作成など）	8 月 28 日(木) 4 限に行う
第 13 回	【事後学習 2 日目】8 月 29 日(金) プレゼンテーション：課題解決 各グループで設定した課題を解決するための提案を発表する	8 月 29 日(金) 2 限に行う
第 14 回	プレゼンテーション：情報発信 各グループで作成した情報発信ツール（動画など）を発表し共有する	8 月 29 日(金) 3 限に行う
第 15 回	グループワーク：学びのまとめと成果発表準備 各グループで、10 月に行われる成果発表会に向けた準備を進める	8 月 29 日(金) 4 限に行う

1.授業コード (ナンバリング)	INT104-Y01	2.科目名	インターンシップ II (産学協議会の分類上『タイプ2』相当) (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創、芦沢真五					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	日本語の構造 1 あるいは 2 を履修済みであることが望ましい (応相談)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要 本プログラムでは、学内の留学生 (正課留学生、別科留学生、交換留学生、山手中高に在籍する留学生、外国ルーツ学など) を対象とした日本語授業においてアシスタントとして活動する。履修者は授業外で担当教員と打ち合わせをしつつ、教材案を作成し、授業内外で留学生の日本語学習支援、および授業実践を行う。 授業の目的 日本語教育の実践を通じて、「外国語としての日本語」の特性を理解し、効果的な学習支援方法を学びます。 また日本語を学ぶ留学生の視点から、言語習得の課題や異文化適応の困難さを知り、日本語教育の現場にお					
18.学習目標と DP との関連	この授業では、以下を到達目標とする。 ・日本語学習者のニーズ、到達させたいレベル等を理解し、それらに応じた教材選択、(評価を含む) 授業デザインができる。 ・言語教育の知識を実際の指導経験を通して活かすことができる。 DP との関連 知識と経験の総合化 (レベル 2) 教室内外で学習した知識と実習などの経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる					
19.教科書・教材	適宜、レジュメ、参考資料を授業内で配布する。					
20.参考文献	「移民時代」の多文化共生論 松尾知明 (明石書店)					
21.成績評価	事前学習における課題 30% 教材作成を含む日本語教授活動 30% 最終プレゼンテーション 20% レポート 20%					
22.コメント	国や宗教といった背景に関わらず、平等に、偏見を持たず人と関われる学生を求めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション (本プログラムの目的、理解など) 日本国内の日本語学習者の状況、教員に求められる資質、支援の現状等について					
	本プログラムでの日本語教授支援の計画を立てる。 (学習者のレベル、ニーズの特定、適切な教育方法や教材の選択)					
	実際の活動の準備 (使用教材の選定、教材分析、授業					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT104-Y72	2.科目名	インターンシップⅡ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)(心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子、山本喜晴					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考(書類選考、面接など)に合格した者に限り履修を認める。					
17.授業の目的と概要	【目的】学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 【概要】 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ○事前学習 ・ ・ 受入企業及び業務の内容					
18.学習目標と DPとの関連	○企業の組織や業務について理解できる。 ○組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ○与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ○実習を通じて自己の課題を発見し、その後の学びに活かすことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	○評価は①～⑤に基づき総合的に行う。 ①事前学習時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況 10% ②リフレクションカレッジによる日報の作成 30% ③実習先への礼状 10% ④実習評価書(受入担当者からの評価) 20% ⑤実習報告書及びふりかえりレポート 30%					
22.コメント	○事前学習5コマ(7月14日Ⅰ～Ⅴ限)と事後学習2コマ(9月22日Ⅰ～Ⅱ限)にすべて出席できる人のみ履修してください(事前学習の補講はありません)。 ○各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回(7/14)	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。(※インターンシップ経験者の話を聞く)					
第2回 (7/14)	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT104-Y73	2.科目名	インターンシップⅡ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理、伊藤創					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	英語コミ学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	インターンシップへの参加を認められた者					
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ・事前学習 ・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の					
18.学習目標と DPとの関連	・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中のリフレクションカレッジ投稿 ・事後学修 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。 なお、以上の4点をすべて参加、実施しない場合には単位を認定しない。					
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元氣よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー	月曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。 (※インターンシップ経験者の話を聞く) 実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業			実習先についての情報を調査し、まとめる		

	規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある 自己目標設定の考え方について	
【第2回】	ビジネスマナー研修 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション ・ 実習日誌の書き方について	実習先にむけて、見出しなみ・注意事項・服装チェックその他準備
【第3回】	リスクマネジメント研修・実習に向けての準備 実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。 * 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	実習先への質問事項まとめ（その意図を明確に）
【第4回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第5回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第6回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第7回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第8回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第9回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第10回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第11回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づ	実習企業の指示により対応する

	き、現場で実習する。	
【第 12 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 13~28 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	お礼状の作成
【第 29 回】	リフレクション 実習日誌と実習報告書に基づき、振り返りを行ない、実習を通じて身につけたことや学んだこと、今後の課題と行動計画を整理したうえ、報告会に向けた資料作成を行なう	グループワーク：PPT の完成と読み原稿の完成 パフォーマンスの確認
【第 30 回】	学内報告会の発表準備（開催）（実習先協力者 & 担当者を招く） 実習報告書の作成	

1.授業コード (ナンバリング)	INT105-Y71	2.科目名	インターンシップⅢ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当) (心理)		3.単位数	4
4.授業担当教員	道免逸子、山本喜晴					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考（書類選考、面接など）に合格した者に限り履修を認める。					
17.授業の目的と概要	【目的】学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 【概要】 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ○事前学習 ・ 受入企業及び業務の内容					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。					
	本科目の学習目標は次のとおりです。					
	○企業の組織や業務について理解できる。					
	○組織内の人間関係を円滑に構築できる。					
	○与えられた業務に責任を持って遂行できる。					
	○実習を通じて自己の課題を発見し、その後の学びに活かすことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	○評価は①～⑤に基づき総合的に行う。					
	①事前学習時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況 10%					
	②リフレクションカレッジによる日報の作成 30%					
	③実習先への礼状 10%					
	④実習評価書（受入担当者からの評価）20%					
	⑤実習報告書及びふりかえりレポート 30%					
22.コメント	○事前学習5コマ（7月10日Ⅰ～Ⅴ限）と事後学習2コマ（9月11日Ⅰ～Ⅱ限）にすべて出席できる人のみ履修してください（事前学習の補講はありません）。					
	○各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回(7/10)	オリエンテーション ・ 本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。（＊インターンシップ経験者の話を聞く）					
第2回 (7/10)	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業す					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT109-A01	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三、馬場住子					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の概要 小学校の教育現場において、夏学期中（主に 9 月）に、各職場の通常業務を体験する。また、それに向けての事前学習および事後学習（体験の振り返り、発表など）を行う。具体的な内容は以下の通り。 ・小学校での体験活動の目的、ねらい、内容を学びます。 ・夏学期に行う「現場体験」に向けての準備と予備知識の獲得を目指します。 ・小学校の概要と、そこでの 1 日の生活内容、教師としての仕事の内容を学びます ・職場体験の基礎・基本を学びます。 ・社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解を深めます。					
18.学習目標と D P との関連	D P との関連：自律性、コミュニケーションスキル、専門的知識・技術の活用力 ①現場での体験活動に参加する目的（学びたいこと）を持ち、自らの進路や大学での学び（春学期の科目など）と関連付けながら説明することができる。 ②目的意識をもって小学校現場での体験活動に参加し、そこで得た知識・経験を記録としてまとめ、自己分析することができる。 ③学校の教職員との対応や子どもたちとの交流の際、教師としての自覚・責任を意識して行動することができる。 ④現場での活動を振り返り、そこから得た自己の課題について、その後の大学での学修と関連付けて説明することができる。					
19.教科書・教材	・特に定めず、必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	小学校学習指導要領					
21.成績評価	・ワークシートの記述 10 %・・・① ・小レポート① 20 %・・・① ・小レポート② 20 %・・・① ・活動記録 30 %・・・②③ ・最終レポート 20 %・・・④					
22.コメント	・小学校教諭をめざす学生で、3 年生からの本実習を前に現場体験をしてみたいと希望する者の受講を希望します。 ・特にボランティア活動に興味・関心の強い学生の参加を待っています。 ・実習現場は、こどもたちが主役となるところです。学生気分を捨て責任ある大人として行動できることが求められます。自分を厳しく律する覚悟が必要です。 ・実習先への事前の連絡や訪問（挨拶・打ち合わせ）等、時間や費用（交通費など）が必要となることもあります。 ・ボランティア保険への加入や実習先で必要となる諸費用（たとえば給食費、実習中の交通費など）は自己負担となります。 ・春学期の教職科目（教育学概論や発達心理学など）の理論をしっかり学び、小学校での教育					

	活動にどのように活かされるのかを自分なりに考察してください。（それらの科目で学んだことについて発表を求めることもあります。）	
23.オフィスアワー	火曜日昼休み(上原) 木曜日昼休み(馬場)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション シラバスについて、この科での学習の意義、内容、体験活動、教育実習との違いについて	○「教育保育インターンシップ手引き」を読み内容を理解しておく ○インターンシップに向けて春学期の教職科目で学んでおきたいこと (240 分)
	・小学校の概要 小学校とは？ 小学校の目的、教育内容、学校で働く人々、教師の仕事、小学校の1日等について概略的に学ぶ ・活動先希望調査（基本的には母校）	○文部科学省・学校等について調査し、理解したことを要約する（240 分）
	・インターンシップまでの予定や個人で行うことなどについて ・電話連絡や挨拶の仕方、言葉遣い等について…解説と練習 ・個人票の記入の仕方について…下書きを作成し提出	○個人票の下書き未提出者は、完成させ次回に提出（120 分）
	・個人票下書き返却。 ・体験先とのオリエンテーションや挨拶の仕方について聞き、グループでまとめる ・グループで話し合ったことを、全体の中で発表する	○個人票の清書（60 分） 次回に提出
	・体験マナーについて話を聞く ・手引きを参考に、グループで必要事項を書きとめる ・グループで話し合ったことを、全体の中で発表する	●個人票の清書提出 ○小レポート①作成「体験実習で何を学ぶのか？」5/31 までに WebClass へ提出
	・体験時期決定 ・「体験実習で何を学ぶのか？」について、書いたことをもとにグループで話し合う ・話し合ったことを、全体の中で発表する	○小レポート②作成…全体で聞いたことから、自分のレポートを見直して修正する（240 分） 7/18 までに WebClass へ提出
	・現場体験直前ガイド 「体験実習で特に注意すべきこと、心構え」 ・活動記録シートの書き方を聞く ・インターンシップに向けて、学内の学修で学べたこと。それを、どのように活かすか。について話し合う。	○第7回で学んだことをまとめる（120 分）
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）

		分)
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）
	・体験実習（夏学期開始日からリフレクションデーの前日までの範囲で、3～5 日間の職場体験）を行う。	○各体験実習日の活動記録・指導計画等を書く（各体験日につき、240×4 分） 1 事後指導で、体験を発表できるよう準備をおこなう（資料や発表原稿など）（240 分）
	振り返り ・「体験学習で学んだこと、印象に残ったこと、見つけた自分の課題 等」についてグループで交流する。 ・話し合ったことを発表する。	●活動記録提出 ○最終レポート「今回の体験実習で学んだこと」を作成し 10/31 までに Web Class へ提出。

1.授業コード (ナンバリング)	INT109-A02	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年次からの保育実習Ⅰや、教育保育インターンシップⅡ」に備え、職場体験の基礎・基本を学ぶ。 【概要】 ・大学生活の課題や自分の適性について考える機会とする。 ・社会人としてのマナー、法令遵守、守秘義務などについての理解をする。 ・保育現場を実際に体験することで保育者の仕事について理解をする。 ・保育現場の安心・安全について学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は教育学部 DP の（２）（５）の学修に関連しています。 ・現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 ・現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 ①授業やインターンシップ 1 を通して、保育の現場における「生命の保持」・「子どもの理解」・「職員の職務」などについて理解することができる。 ②職場体験を通して、社会のマナーや集団でのルールを守ることができる。 ③子どもや保育者とのかわりを通して自分の思いや考えを表現することができる。					
19.教科書・教材	特に定めず必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	平成 29 年告示 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
21.成績評価	ワークシート 2 回 20 点（学習目標①に対応） 課題レポート（報告発表も含む） 2 回 20 点（学習目標①③に対応） 活動記録 3 日分 60 点（学習目標②③に対応） ※必ず 3 日分提出すること。					
22.コメント	職場体験をすることで、社会の一員として働くことの意味を考えます。また、将来の職業として選んだ保育者が、自分にとっての適性があるのかどうかを考えるきっかけになります。					
23.オフィスアワー	下里・・・月曜日の昼休み 谷口・・・センタープログラム（理科）の他、研究室にいるときに問い合わせ等お願いします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目 2 回目	1 回目 ・オリエンテーション(授業の進め方、課題、評価など) ・「教育保育インターンシップの手引き」配布。 ・教育保育インターンシップ 1 について。			○「教育保育インターンシップの手引き」を復習しておく。 ○ワークシート①をウェブクラスに提出。		

	2 回目 ・ 保育者の仕事と役割について学ぶ ・ DVD を見てワークシート①の記入	
3 回目 4 回目	3 回目 ・ 多様化する就学前施設について ・ 手遊びを覚える、実践する 4 回目 ・ 活動記録の書き方 ・ 0 歳から 5 歳児の発達の特徴について	○活動記録の書き方を復習する ○手遊び練習
5 回目 6 回目	5 回目 ・ 安全・安心な保育について 6 回目 ・ ゲストティーチャーの話を聞く ・ 学んだことをワークシート②に書く	○ワークシート②を次週までにウェブクラスに提出
7 回目 8 回目	7 回目 ・ 個人票の下書き ・ 誓約書記入（印鑑持参） ・ 目標カード作成 8 回目 ・ 個人票完成（写真を貼る） ・ インターンシップ 1 の活動内容とその意義及び目的について。インターンシップ 1 で学びたいことを（目標）明確化する	○課題レポート①「私のインターンシップ 1 の目標」をウェブクラスに次回までに提出 ○名札作成
9 回目 10 回目	9 回目 ・ インターンシップ先発表 ・ インターンシップ 1 の心得を確認 ・ インターンシップで使用する名札を作って持ってくる（手作り、安全ピンは使用しない） 10 回目 ・ インターンシップ先を事前訪問 ※写真を貼った個人票は教員がまとめて事前訪問時にインターンシップ先に持参する。	○訪問先の情報収集 ○インターンシップの心得を復習する
11 回目・12 回目 目・13 回目	・ インターンシップ体験 ・ 活動記録作成 （※活動記録は 3 日間が終わったら、速やかにウェブクラスの提出ボックスに提出すること。1 週間以内に提出すること）	○3 日分の活動記録をウェブクラスにインターンシップが終わって 1 週間以内に提出すること。
14 回目 15 回目 16 回目 17 回目 ※これ以降については後日知らせる	14 回目以降 ・ 事後指導 グループワーク（インターンシップでの学び） グループでまとめて、パワーポイントで発表 質疑応答 感想 発表会に向けてポスター作成 最終課題レポート②	○課題レポート②をウェブクラスに提出

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT109-A03	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	尼崎市内の高齢者施設等を訪問し、そこで生活している地域の高齢者支援に関わることを通して、安全・安心の暮らしあり方を考えていきます。 ・高齢者が求める安全・安心な暮らしのあり方について考えます。 ・専門職が支援する安全・安心な暮らしのあり方について考えます。 本プログラムは、教育福祉学科1年生が参加することを想定しています。初年次セミナーのクリティカルシンキングのテーマである「安全・安心」を実際的に学ぶため、地域の高齢者施設等で活動します。活動での経験は、秋学期の基礎演習の学習内容へと接続していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の「社会的貢献性」「多様性理解」に関連しています。 ①高齢者が求める安全・安心な暮らしのあり方について説明することができる。 ②専門職が支援する安全・安心な暮らしのあり方について説明することができる。					
19.教科書・教材	資料を配付します。					
20.参考文献	適宜紹介していきます。 「昔の文化・風俗」に関する学びは重要です。図書館で高齢者関連の書籍を検索してみましょう。					
21.成績評価	■事前学習 20％×2 回 学習目標①③ * 個人によるレポート作成 ■期中活動 20％ 学習目標①② ・ ふりかえりシート（活動日誌）の作成 ■事後学習 40％ 学習目標①② ・ ポスター発表 ・ テーマ：高齢者施設等における安全・安心な暮らしのあり方を提案する ・ 発表の際にはステークホルダー関係者も参加予定 * 成果物はすべて webclass に提出します。					
22.コメント	実習は地域の高齢者が生活している場で活動します。他者を尊重し謙虚で誠実な態度で話を根気強く聴くことができる学生を求めます。活動先へは尼崎キャンパスにある大学所有の自転車を利用（自転車保険に加入していることが必要）、もしくは徒歩（15 分程度）で移動してください。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT203-M73	2.科目名	インターンシップⅠ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当) (経営)		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」、「事後のリフレクション」という3つの内容からなる。 ・事前学習：受入企業及び業界の内容を理解し、実習の現場					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ・企業の知識や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。 【ベンチマーク】 ・協働的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて、改善点を整理できる。 ・社会や組織との間で不正や偏見、無理な強要に対して批判的に捉え、それに屈することがないよう行動することができる。 ・コミュニケーションのための意見交換調整力					
19.教科書・教材	授業内で適宜プリントを配布する					
20.参考文献	授業内に適宜紹介する					
21.成績評価	・事前学習 ・インターンシップ中の WebClass 投稿 ・事後学習 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合したうえで評価する。					
22.コメント	受入企業への感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第1回 オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、実習先への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起がで					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT213-Y71	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ 【心理】		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子、村田昌彦、山本喜晴					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	エントリーシートを提出し、選考（書類選考、面接など）に合格した者に限り履修を認める。					
17.授業の目的と概要	学内での学修成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ・事前学習 ・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の現					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用せず。資料は適宜、配布する。					
20.参考文献	必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	・事前学修時のビジネスマナー及びリフレクションカレッジの活動状況 10％ ・リフレクションカレッジによる日報の作成 40％ ・実習評価書（受入担当者からの評価）20％ ・実習報告書及びポスター作成 30％					
22.コメント	事前学習5コマ（7月10日Ⅰ～Ⅴ限）と事後学習2コマ（9月11日Ⅰ～Ⅱ限）にすべて出席できる人のみ履修してください（事前学習の補講はありません）。 各企業は、学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 学修支援室 水曜1限（道免） 研究室オフィスアワー 水曜昼休み（道免）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回（7/10）	オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができる。（*インターンシップ経験者の話を聞く）					
第2回（7/10）	実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT213-Y72	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生	11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・ 2 年生 PM1 履修者 ・ 全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・ 留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・ 2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・ 3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネ			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習		
16.履修制限	夏学期期間 2025 年 8 月～9 月中					
17.授業の目的と概要	授業では、事前学習、現場学習、事後学習などを通じて専門課程で学修した観光ビジネスに関する基本的な知識の理解・技能などの統合的活用力を高めるとともに、不足する知識や技能に気づき、事後の学修へとつなげることを目的としている。 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、20					
18.学習目標と DP との関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことがで					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT213-Y73	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生	11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・ 2 年生 PM1 履修者 ・ 全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・ 留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・ 2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・ 3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネ			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習		
16.履修制限	夏学期期間 2023 年 8 月～9 月中					
17.授業の目的と概要	テーマ：「ニューノーマル時代におけるポスト万博のインバウンド観光と地域活性化の提案」 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、2025 年には関西地域において、国際的な大型交流イベントである大阪・関西万博の開催も控えている。 今般、2 年生を中心に、観光事業の総合型コーププログ					
18.学習目標と DP との関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習に基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことがで					

	き る。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができる。	
19.教科書・教材	特になし、担当教員の指示に従う。	
20.参考文献	特になし、	
21.成績評価	学外学習に当たるルーブリックによる。	
22.コメント	・現場学習実施に当たって、交通費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・希望者が多い場合は、成績（G P A）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・特に現場学習では、積極的に対応態度が、求められる。 ・協力観光事業体の都合により、時間日程など変更する場合がある。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）	
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室で実施する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回~第 4 回	【南あわじ市の観光による活性化に向けて、宿泊プランの提案】 ・テーマ - 世界一の食の島を目指して - ・ターゲット：インバウンド旅行者 事前学習、9 月 8 日（月）2 限～5 限（大学 3 号館教室） ①インターンシップの概要・目標の説明 ・グループライン設定・資料・情報収集・事前準備 ・ミッション設定とグループ別の企画書を作成 ・派遣される地域の事前調査の内容に基づいて、 ②淡路島の観光の現状と課題について、資料等まとめる。 ・南あわじ市の観光素材の分析 ・南あわじ市の宿泊事情について調査 ・南あわじ市のインバウンドの	ノートパソコン持参
第 5 回~第 12 回	現場学習：2 泊 3 日 1 日目： 9 月 9 日（火） ・11 時 南あわじ市役所集合 ・12 時 移動 市役所発⇒福良 ・12 時 20 分：昼食 レストランなないろ ・13 時 30 分：うずしおクルーズ（60 分）¥2,500 ・15 時：淡路人形座 戎舞&バックステージツアー（45 分） ・16 時：国立青少年交流の家（宿泊施設） 2 日目：9 月 10 日（水） ・9 時：若人広場公園 見学	・ノートパソコン持参 フィールドワークや役所・企業視察に相応しい服装で集合

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT213-Y74	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科全専攻対象			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年生以上		11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・2 年生 PM1 履修者 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネジメント、⑧ビジネスマナー		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋学外実習 (事前学習、学外学習、事後学習)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界（例えば観光関連事業等）のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、ビジネス現場における様々なビジネス現象を、今後の大学での学（まなび）にフィードバックする。このように大学とビジネス現場の往還を通して、企業の仕組みや仕事の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で学んだ知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高めることを目的とする。 【概要】 本プログラムでは、JTB 社と協力して実施されるもので、					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 【学習目標】 ① 地域の魅力を適切に理解し、伝えることができる。 ② 旅行業務の一つとして、旅程管理と安全管理を実践することができる。 ③ 地域の観光資源を取捨選択し、顧客のニーズを踏まえたコースを作成することができる。 【DP との関連】 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	特になし、担当教員の指示に従う。					
20.参考文献	特になし。					

21.成績評価	① 事前学習の課題・・・20% ② JTB 社による事前研修（1泊2日）でのワーク・・・20% ③ B&S プログラムの現地研修の報告・・・20% ④ 事後学習での課題・・・20% ⑤ 成果報告会の発表・・・20% 以上5点への参加を必須とし、一つでも不参加の場合は単位を認定しない。	
22.コメント	・現場学習実施に当たって、宿泊費・交通費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・希望者が多い場合は、成績（GPA）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・常に感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく、元気よく参加すること。 ・実際のお客様を預かって実務に参加するため、安全管理に留意し、責任を持って行動すること。 【生成AIについて】 生成AIの利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成AIで作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み@学修支援センター 水曜3限@研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1～2回	【事前学習1日目】 7月24日(木)3～4限 講義：オリエンテーション ・本プログラムの目的と目標の理解 ・本プログラムの概要、日程 講義：観光プランづくりの基本+神戸の観光事情 グループワーク：神戸の観光資源調査	ノートパソコン持参 予習：神戸市の観光資源をまとめる
第3回～第4回	【事前学習2日目】 7月25日(金)3～4限 講義：ガイディングの基本 グループワーク：B&S モデルコースの課題分析	予習：阪神淡路大震災について調べてくる
第5回～第7回	JTB 社による現地研修（1泊2日） 日程：8月18～19日（予定・変更の可能性あり） ・コースの現地研修 ・社員によるセミナー	現地研修のため、ふさわしい服装・持ち物で参加すること。 メモ帳・筆記用具持参。
第8～10回	B&S プログラム実践（1回/日×2～3回） 実際に中高生の修学旅行をアテンドし、神戸の1日ガイドを行う。	ガイドにふさわしい服装で参加すること。
第11～14回	【事後学習】 10月末 ・振り返り ・新しいB&S コースの提案を作成する。	報告会の準備と成果物の発表会、振り返り ノートパソコン持参
第15回	JTB 社へのプレゼンテーション	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT213-Y75	2.科目名	コーオブ・プログラムⅠ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	観光学科	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科対象（ホテルにおけるコーオブプログラムに興味がある人）			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	観光学科 2 年	11.先修条件	原則として以下の条件とする。尚、個別の企業の要望により別の条件が課される場合もあります。 ・2 年生 PM1 履修者 ・全学生：TOEIC400 点以上（選考審査までに）が望ましい。 ・留学生：N2 以上（選考審査までに）が望ましい。 ・2 年生：選考審査までに 32 単位以上取得していること。 ・3 年生：選考審査までに 64 単位以上取得していること。 また、次の科目を履修し、単位取得済であることが望ましい。 ①観光学概論、②観光産業論、③経営学概論、④リサーチ入門、⑤マーケティング論、⑥異文化理解、⑦ホスピタリティマネジ			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	事前学習、学外学習、事後学習			
16.履修制限	夏学期期間 2025 年 8 月～9 月中					
17.授業の目的と概要	授業では、事前学習、現場学習、事後学習などを通じて専門課程で学修した観光ビジネスに関する基本的な知識の理解・技能などの統合的活用力を高めるとともに、不足する知識や技能に気づき、事後の学修へとつなげることを目的としている。 《本プログラムの目的と概要》 COVID19 によりパンデミックが生じ、世界は大きく変化した。このような状況下で、特に観光産業においては、多大な影響を受けたが、一方でニューノーマル時代（コロナ禍後）における新たなビジネスモデルの構築に向けた展開が始まっている。このような流れの中で、20					
18.学習目標と DP との関連	『学習の目標』と DP との関連は、下記の通りである。 ・ディプロマポリシーの(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連している。 ①事前学習および調査に基づき、インターンシップ期間中に有効な実習計画を立て、計画に基づいたインターンシップ先において活動を行うことができる。 ②主体的、自律的な取り組みと臨機応変な対応により実習体験における課題を解決しながら業務を遂行することができる。 ③ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを適切に実践することができる。 ④必要に応じて、インターンシップ先などからの調査研究課題について、調査結果、経験学習					

	に 基づき、多角的かつ重層的に思考し、独自の視点から論理的かつ斬新な提案を行うことができる。 ⑤調査報告書及びプレゼンテーション資料を作成し、簡潔かつ論理的に報告することができる	
19.教科書・教材	特になし。担当教員の指示に従う。	
20.参考文献	特になし。	
21.成績評価	学外学習にあたるルーブリックによる。	
22.コメント	・現場学習実施に当たって、交通費・宿泊費などが発生するが、原則として自己負担である。 ・希望者が多い場合は、成績（G P A）、英語能力、日本語能力、参加希望理由により、選考する。 ・コミュニケーション能力があり、責任感が強く、積極的に授業に参加できる学生が求められる。 ・特に現場学習では、積極的に対応態度が、求められる。 ・受け入れ事業所の都合により、時間日程など変更する場合がある。	
23.オフィスアワー	原則として毎週火曜日の昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回～3回	事前学習（8月末に1日を設定する。AB両グループ合同で行う） 「コーオプ・プログラム（ホテル関係）の概要・目標の説明」 ・グループライン設定・資料・情報収集・事前準備 ・ミッション設定とグループ別の企画書を作成 ・昨年度のプログラムの分析と改善点をグループワークで実施 ・連携地域の事前調査の内容に基づいて、課題の抽出 ・現場学習時における必要備品などをチェック	ノートパソコン持参 事前資料等の作成
第4回～13回	・受入ホテル（ホテル北野プラザ六甲荘）での研修グループを2つの期間に分け、そのどちらかに学生を割り振る。 ・Aグループ（9月1日～3日の予定）Bグループ（9月8日～10日の予定） ・現場学習 ・ホテル従業員からの講話や指導 ・ホテル従業員との意見交換や情報収集。 ・各研修の2日目に1泊し、宴会などの研修も実施予定。 ・ホテル支配人からの講話など。	接客に従事するホテル業務にふさわしい服装で集合。
第14回～15回	事後学習（振り返り）Bグループの研修終了後に、AB両グループ合同で行う。 ・現場学習について、レポートにまとまる。 ・発表用（プレゼンテーション用）の資料として、スライドを作成。 ・発表準備	報告会の準備と成果物の発表 会、振り返り ノートパソコン持参
	報告会 報告会での発表（全員参加）	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT213-Y76	2.科目名	コーオプ・プログラムⅠ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング本部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科				9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	コーオプ・プログラムへの参加を認められた者					
17.授業の目的と概要	【目的】 学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界（例えば観光関連事業等）のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、ビジネス現場における様々なビジネス現象を、今後の大学での学（まなび）にフィードバックする。このように大学とビジネス現場の往還を通して、企業の仕組みや仕事の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で学んだ知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高めることを目的とする。 【概要】 本プログラムは、コロナ禍後の観光地域における観光立国実					
18.学習目標と DPとの関連	本プログラムは、新たな観光事業理解のための「コーオプ・プログラム」と位置づけ、学生（留学生を含む）等ゲストの視点、地域事業者等のホストの視点を交えて、地域マーケティング活動の実践として、地域観光資源を活用してのテーマの設定等を踏まえ、集客に向けたイベント実施・宿泊プラン等を提案することを目標とする。 本プログラムの学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連している。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	①事前学習（2日間、6コマ） ②南あわじ市における現場学習（2泊3日） ③事後学習（2日間、6コマ） ④成果報告会 以上4点への参加を必須とし、全てを総合したうえで評価する。一つでも不参加の場合は単位を認定しない					
22.コメント	2泊3日の現地学習（2025年8月19日(火)～8月21日(木)）の実費（宿泊代・交通費等）として、約15,000円程度を学生が負担する。 現場学習でたくさんの方にお世話になる。感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく、元気よく参加すること。 ■生成AI利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成AIを利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	【事前学習1日目】7月22日(火)			7月22日(火)2限に行う		

	講義：オリエンテーション ・本プログラムの目的と目標の理解 ・本プログラムの概要、日程	南あわじ市の概要（地理、歴史沿革、名所、観光資源など）をまとめる
第 2 回	講義：マーケティング戦略の考え方 ・成果を出すための戦略的思考方法の講義	7 月 22 日(火) 3 限に行う
第 3 回	グループワーク：南あわじ地域を知ろう ・1 グループ 5 名で、南あわじ地域の観光資源について調べてまとめる	7 月 22 日(火) 4 限に行う
第 4 回	【事前学習 2 日目】8 月 18 日(月) プレゼンテーション：南あわじ地域を知ろう ・グループワークの成果を発表し、教授および別のグループからのフィードバックを受け、理解を深める	8 月 18 日(月) 2 限に行う
第 5 回	講義：観光事業の現状と課題 ・オーバーツーリズムなど観光事業における課題、南あわじ地域における課題	8 月 18 日(月) 3 限に行う
第 6 回	グループワーク：課題設定 ・南あわじ地域が抱える課題のうち、現地学習を通じて特に解決したい課題を設定する ・現地学習で行う消費者調査を設計・準備する	8 月 18 日(月) 4 限に行う
第 7 回	【現地学習 1 日目】8 月 19 日(火) 現地学習①：南あわじ地域の観光資源視察・取材 南あわじ市職員のご案内で、南あわじ地域の観光資源を視察し、現状と課題を取材する。合わせて、情報発信のための動画・画像撮影を行う 宿泊先：国立淡路青少年購入の家	8 月 19 日(火) 終日
第 8 回	【現地学習 2 日目】8 月 20 日(水) 現地学習②：消費者インタビュー 南あわじ地域最大の観光地である大鳴門橋記念館周辺で、観光客周遊・拡散に向けた消費者インタビューを行う 宿泊先：国立淡路青少年購入の家	8 月 20 日(水) 終日
第 9 回	【現地学習 3 日目】8 月 21 日(木) 現地学習③：現地での学びのまとめ 課題解決・プレゼンテーションに向けた、現地視察・取材と消費者インタビューのまとめを行う	8 月 21 日(木) 終日
第 10 回	【事後学習 1 日目】8 月 28 日(木) プレゼンテーション：現地での学びの交換 各々の現地での学びを発表し、共有する	8 月 28 日(木) 2 限に行う 現地学習の成果を振り返り、まとめて持ち寄ること

第 11 回	グループワーク：課題解決に向けて 課題解決の提案と情報発信の準備（動画作成など）	8 月 28 日(木) 3 限に行う
第 12 回	グループワーク：課題解決に向けて 課題解決の提案と情報発信の準備（動画作成など）	8 月 28 日(木) 4 限に行う
第 13 回	【事後学習 2 日目】8 月 29 日(金) プレゼンテーション：課題解決 各グループで設定した課題を解決するための提案を発表する	8 月 29 日(金) 2 限に行う
第 14 回	プレゼンテーション：情報発信 各グループで作成した情報発信ツール（動画など）を発表し共有する	8 月 29 日(金) 3 限に行う
第 15 回	グループワーク：学びのまとめと成果発表準備 各グループで、10 月に行われる成果発表会に向けた準備を進める	8 月 29 日(金) 4 限に行う

1.授業コード (ナンバリング)	INT214-M72	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」、「事後のリフレクション」という3つの内容からなる。 ・事前学習 ・受入企業及び業務の内容を理解し、実					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。 【ベンチマーク】 ・協働的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて、改善点を整理できる（自律性:L2） ・社会や組織との間で不正や偏見、無理な強要に対して批判的に捉え、それに屈することがないよう行動することができる（規範順守:L2） ・コミュニケーションのための意見交換調整力（L2）					
19.教科書・教材	指定無し					
20.参考文献	指定無し					
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中の wbclass への実習日誌の記入 ・事後学修 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。					
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第1回 オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、実習先への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命			履修登録は教務課でまとめて行うので、学生は、履修登録の変更などをしないようにしてください。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT214-M73	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」、「事後のリフレクション」という3つの内容からなる。 ・事前学習：受入企業及び業界の内容を理解し、実習の現場					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ・企業の知識や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。 【ベンチマーク】 ・協働的な活動などで、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて、改善点を整理できる。 ・社会や組織との間で不正や偏見、無理な強要に対して批判的に捉え、それに屈することがないよう行動することができる。 ・コミュニケーションのための意見交換調整力					
19.教科書・教材	授業内で適宜プリントを配布する					
20.参考文献	授業内に適宜紹介する					
21.成績評価	・事前学習 ・インターンシップ中の WebClass 投稿 ・事後学習 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合したうえで評価する。					
22.コメント	受入企業への感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元気よく実習に励んでください。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第1回 オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、実習先への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起がで					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	INT215-A01	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡB		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦、吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 教育・保育現場における活動を中心として、教育現場への理解を深めることを目指す。 【概要】 コーオプ・プログラムⅡB では、教育現場における現状と課題を学習する。一人ひとりが課題を持ち、多様な体験することを通して問題解決の糸口を探ることができれば、教育・保育実習につながる。 また、グループワークを通して情報の共有を図り、研究を進めていくことにより、教育・保育現場理解という目的達成をより確かなものにする。 さらに毎回の活動記録を書くことや、担当教員の指導を受け、疑問や問題を解決し、実践					
18.学習目標と DP との関連	本科目は DP の(1)自律性、(2) 社会的貢献性に関連しています。 ①学内での科目と関連させて、職場体験を行うことにより、教員や保育者に必要な実践的能力を高める。 ②自らの社会性や人間性を培うこと。					
19.教科書・教材	適宜必要な資料配布					
20.参考文献	適宜配布					
21.成績評価	毎回の活動記録（25 回分） 6 0 点（学習目標の①に対応） 課題レポート（A.B の 2 つ） 4 0 点（学習目標の①②に対応）					
22.コメント	年間を通じて開講する。継続した現場体験となることで、実践力が身につくことを期待している。 授業に関するワークシートや、連絡事項などはウェブクラスにてお知らせします。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポートでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	中西：月曜 4 限 吉田：火曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	第 1 回 オリエンテーション 授業の進め方、評価について コーオプ・プログラム（教育現場体験活動）について 「コーオプ・プログラムの手引き」を配布して説明。 第 2 回 講義（学内活動）・活動記録の書き方について 実習先の選定・確定（担当教員決定）			【第 1 回】 ○「コーオプ・プログラムの手引き」をよく読んでおく。 【第 2 回】 ◎課題 A 「教育現場にある種々の仕事について調べ、まとめる」（60 分）		

	体験活動に向けて、学習計画をたてる。 実習種別によるグループワーク 連絡網作成	
【第 3 回】 【第 4 回】	第 3 回 教育・保育現場活動体験 第 4 回 教育・保育現場活動体験	【第 3 回】 および【第 4 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	第 5 回 教育・保育現場活動体験 第 6 回 教育・保育現場活動体験	【第 5 回】 および【第 6 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記 録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	第 7 回 教育・保育現場活動体験 第 8 回 教育・保育現場活動体験	【第 7 回】 および【第 8 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記 録を踏まえて、次週の課題を見つける。（120 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	第 9 回 教育・保育現場活動体験 第 10 回 教育・保育現場活動体験	【第 9 回】 および【第 10 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	第 11 回 教育・保育現場活動体験 第 12 回 教育・保育現場活動体験	【第 11 回】 および【第 12 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見付ける。（120 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	第 13 回 教育・保育現場活動体験 第 14 回 教育・保育現場活動体験 ※小学校現場が夏休み中でも、プール指導等お手 伝いできる ことはないか申し出る。	【第 13 回】 ○ 秋学期からの活動に向けて新たな課題 B を 考えておく。（240 分） 【第 14 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 15 回】 7 月 28 日 大学で授業 詳細はウェブ クラスで知ら	第 15 回 学内講義（春学期の振り返り・課題 B を考 える） 課題 B 「1 学期間の体験において学んだことや自分の課題 をまとめる」	【第 16 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）

せる 【第 16 回】 10月6日 大学で授業 詳細はウェブ クラスで知ら せる	第 16 回 学内講義 2 学期の目標など	
【第 17 回】 【第 18 回】	第 17 回 教育・保育現場体験活動 第 18 回 教育・保育現場体験活動	【第 17 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次回の課 題を見つける。（120 分） 【第 18 回】 ●課題 B を考察する
【第 19 回】 【第 20 回】	第 19 回 教育・保育現場活動体験 第 20 回 教育・保育現場活動体験	【第 19 回】 および 【第 20 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	第 21 回 教育・保育現場活動体験 第 22 回 教育・保育現場活動体験	【第 21 回】 ●課題 B 確認 【第 22 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	第 23 回 教育・保育現場活動体験 第 24 回 教育・保育現場活動体験	【第 23 回】 および 【第 24 回】 ○活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	第 25 回 教育・保育現場活動体験 第 26 回 教育・保育現場活動体験	【第 25 回】 および 【第 26 回】 ○活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課 題を見つける。（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	第 27 回 教育・保育現場活動体験 第 28 回 教育・保育現場活動体験	【第 27 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日） に提出。 ○グループ課題 B レポートをまとめる（120 分） 【第 28 回】 ○ 活動記録作成（120 分）☆翌日（火曜日）

		に提出。 ○返却された活動記録を踏まえて、次週の課題を見つける。(120 分)
【第 29 回】 インターンシップ最後です 【第 30 回】 1 月 2 7 日 (火) 大学で授業 詳細はウェブ クラスで知らせる	第 2 9 回 教育・保育現場活動体験 (最終の活動日となる) 第 3 0 回 講義 体験活動の振り返り、まとめ、発表 ※2, 3 月のインターンシップ先の継続についても実習先と協議する	【第 29 回】 ○ 活動記録作成 (120 分) ☆今までの活動記録未提出分は仕上げて提出。(120 分) 【第 30 回】 ☆課題 B レポートウェブクラスに提出 ○ワークシート「コーオプ・プログラムを終えて、学んだこと・気付いたこと」をウェブクラスに提出 (240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	INT215-A02	2.科目名	コーオプ・プログラムⅡB		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、潮江（小田地区）および三和本通商店街周辺（中央地区）をフィールドに、地域住民との協働活動をととして、住民主体の視点、地域特性の把握方法、地域問題の発見方法などの習得をめざします。また、多角的・多元的な視点を持ち、座学での学習（既有知識）を血肉化していくために、活動のふりかえりを重視します。 地域住民にとって安全・安心のまちづくりを基本コンセプトに、高齢者の防災、障害者/子育て世帯のつながりづくり、を具体的な活動テーマとして進めていきます。 活動趣旨：2015 年国連サミットにおいて、SDGs(持					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①専門演習Ⅰ活動企画書作成に向けた基礎データを収集できる ②活動企画書をもとに活動を実行できる ③活動における問題点を抽出できる ④問題の改善提案ができる ⑤活動報告書をまとめることができる 本授業は、DP（ディプロマポリシー）の（2）社会的貢献性、（4）コミュニケーション力、（5）問題発見・解決力と関連しています。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編集（2018）『体験の言語化実践ガイドブック』成文堂					
21.成績評価	【課題 1】フィールド概要ノート 40% 学習目標①に対応 ・活動企画書作成事前準備のために、各地域/団体をフィールドワークしたり対象者と関わったりし、その内容をまとめる。 【課題 2】活動報告書 50% 学習目標②③④⑤に対応 ・所定に様式に活動内容をまとめる。 【活動 3】ふりかえり ・活動を通した気づきを e ポートフォリオに記録する。					
22.コメント	・本授業は、「地域や実践現場の多様な課題に基づいた教育・福祉の安全・安心とは（地域住民によって安全・安心のまちづくり）」を学習テーマとし、専門演習ⅠおよびⅡと関連させて実施します。 ・本授業は、1 年間を通じて、事前-期中-事後活動を展開します。現地での活動日程は、受入団体との調整のうえ、決定します。 ・活動先訪問のために大学所有の自転車を利用する場合、損害賠償保険加入を証明する必要があります。 <生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める * レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション	
	・活動地域の学習①	○第5回目までに【課題1】を作成（各回で60分）
	・活動地域の学習②	
	・活動地域の学習③	
	・活動地域の学習④	
	・企画実行準備①	○活動準備
	・企画実行準備②	
	・企画実行準備③	
	・企画実施	
	・企画実施	
	・企画実施	◎【課題2】の作成（提出までの週で各120分）
	・活動後の問題点整理①	
	・活動後の問題点整理②	
	・活動後の問題点整理③	
	・プログラムのまとめ 【課題3】の作成	★【課題2】の提出 ★【課題3】の提出

1.授業コード (ナンバリング)	INT303-A71	2.科目名	インターンシップⅡ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)		3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	本演習は、これまでのインターンシップⅠと様々な専門的学習による専門知識を活かし、より高度な知識の統合と活用を行うスキル獲得を目的に実施される。そのため、このインターンシップは問題解決型として実施され、一般的な仕事体験型、問題発見型とは異なり、より積極的且つ能動的な行動が求められることに注意する必要がある。 この演習は基本的な知識の獲得を行う前期と、より専門的研究を行う後期に分類される。前期はレクチャーとプレゼンを行い、ビジネスの現場で必要な知識、企業に関する知識、そして企業分析、業界分析のスキルを獲得					
18.学習目標と DPとの関連	<ベンチマーク> 問題発見・解決力（問題発見力）レベル4 問題発見・解決力?（論理的思考/判断力）レベル4 問題発見・解決力??（問題解決力）レベル4 専門的知識・技能の活用力レベル4					
19.教科書・教材	特になし。必要な場合は適時、配布する。					
20.参考文献	特になし。必要な場合は適時、配布する。					
21.成績評価	前期プレゼンテーション（銘柄プレゼン）40% 後期プレゼンテーション（研究発表）50% eポートフォリオ 10%					
22.コメント	自律的且つ積極的な活動と学習が求められるため、その点を意識した学生に参加して欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回／第 02 回	○オリエンテーション ・授業の進め方 ・日程 ・詳細の説明 ・インターンシップへの心構えと準備 ○事前学習その① ・事前講座「株式会社の仕組み」					
第 03 回/第 04 回	○事前講座「証券業界とは」 ○事前講座「承継会社の役割」 ○事前講座「SDGs と企業戦略」					
第 05 回/第 06 回	○事前講座「日経新聞とは」 ○事前講座「日経新聞の読み合わせ方法」 ○事前講座「日経新聞の読み合わせ」					
第 07 回/第 08 回	前期現地活動 1 日目					

回/第 09 回		
第 10 回	前期現地活動 2 日目	
第 11 回	前期現地活動 3 日目	
第 12 回	前期現地活動 4 日目	
第 13 回	前期現地活動 5 日目	
第 14 回	前期事後学修 ○前期の学習のまとめ	
第 15 回	前期事後学修 ○研究テーマの設定	
第 16 回～第 28 回	○大学での個人研究と野村證券訪問を繰り返す ○研究成果プレゼン作成	○研究成果資料完成／提出
第 29 回	研究成果発表	
第 30 回	後期事後学修 ○後期研究活動振り返り ○e ポートフォリオ入力	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-A02	2.科目名	日本語Ⅰ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』 ISBN978-4-327-38465-4 C1081					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10%		課題提出：10%	N2 文法発表：10%		
	短作文発表：10%		中間試験：30%	総括試験：30%		
22.コメント	初回の授業からテキストを持ってくるようにしてください。 欠席するときは連絡してください。					

23.オフィスアワー		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第2回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第4回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第6回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第8回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第10回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短文作成	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第12回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●N2 文法発表 ・第9課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第14回】 ・第10課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	【第13回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第14回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第15回】	【第15回】	【第15回】

【第 16 回】	●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・総括試験返却、振り返り	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-A03	2.科目名	日本語Ⅰ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	李恒聡					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 短作文発表：10％		課題提出：10％ 中間試験：30％		N2 文法発表：10％ 総括試験：30％	
22.コメント	初回の授業からテキストを持参してください。					

	欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第2回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第4回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第6回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第8回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第10回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短作文作成	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第12回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分) ★使いましよう (練習 4, 5) 提出
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●N2 文法発表 ・第9課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第14回】 ・第10課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	【第13回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第14回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60 分)

		★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いましょうの練習問題（60 分） ★使いましょう（練習 4， 5）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 回】 ○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-Y02	2.科目名	日本語Ⅰ (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～4 年
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』 ISBN978-4-327-38465-4 C1081					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10%		課題提出：10%		N2 文法発表：10%	
	短作文発表：10%		中間試験：30%		総括試験：30%	
22.コメント	初回の授業からテキストを持ってくるようにしてください。 欠席するときは連絡してください。					

23.オフィスアワー		授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第2回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第4回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第6回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2 文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第8回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2 文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第10回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2 文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短文作成	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第12回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●N2 文法発表 ・第9課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第14回】 ・第10課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	【第13回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第14回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第15回】	【第15回】	【第15回】

【第 16 回】	●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・総括試験返却、振り返り	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-Y03	2.科目名	日本語Ⅰ (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田名清					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% 課題提出：10% N2 文法発表：10% 短作文発表：10% 中間試験：20% 総括試験：20% N2 文法試験：20%					

22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 ・N2文法プリント	【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第2回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・N2文法プリント 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法 AB 練習	【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第4回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法 C 練習 ・N2文法プリント 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第6回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●N2文法発表 ・第5課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 ・N2文法プリント 【第8回】 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第7回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第8回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●N2文法発表 ・第6課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法 CD 練習 ・N2文法プリント 【第10回】 ・第7課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第9回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第10回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●N2文法発表 ・第8課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第12回】 ・第9課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法 AB 練習 ・N2文法プリント	【第11回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第12回】 ○本文音読、使いましようの練習問題 (60分) ★使いましよう (練習4, 5) 提出
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●N2文法発表 ・第9課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習	【第13回】 ○本文音読、次回の予習 (60分) 【第14回】

	【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習 ・N2 文法プリント	○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-66] 文法 AB 練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント ・短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-76] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第 22 回】 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 17 課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第 26 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法 CD 練習 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法 AB 練習 【第 28 回】 ・第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法 CD	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習 4，5）提出

	練習 ●N2 文法試験	
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・N2 文法試験返却、解説 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 課】 ○復習 (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A01	2.科目名	日本語Ⅱ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK（ただし、単行本） プリント（N2 文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% 課題・発表：30% N2 語彙試験：20% 中間テスト・総括試験：40%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、クラス活動点を 0 点として処理することができます。 ②初回の授業からテキストを持参してください。ただし、電子書籍版のテキストは、上記①の理由から基本的に不可とします。必ず、単行本を持参するようにして下さい。					
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。					

緊急時などは上記メール・アドレスにご連絡ください。

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N2文字語彙）学習 【第2回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 「3, 練習してみよう」「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 【第 12 回】 第 1 課～第 5 課までの学習内容の復習・再整理 ・プリント（N2 文字語彙）学習	【第 11 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●中間テスト（第 1 課～第 5 課） ・中間テストの答え合わせと出題意図の解説 【第 14 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 13 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 14 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 15 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 16 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「書きましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 17 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 19 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 8 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89]	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出

	「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第22回】 ・第10課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 「1, グラフを見て考えよう」「2, ことばを増やそう」「3, 練習してみよう」	【第22回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ・第10課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 【第24回】 ●第1課～第9課の発表テスト	【第23回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第24回】 ○授業の復習、発表の練習（60分） ★スライド提出
【第25回】 【第26回】	【第25回】 プリント（N2文字語彙）学習 【第26回】 第1課～第9課までの学習内容の復習・再整理	【第25回】 ○授業の復習（60分） 【第26回】 ○授業の復習（60分）
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ●第1課～第9課の総括試験 ・総括試験の解答と出題意図の解説 【第28回】 ・N2文字語彙の再整理	【第27回】 ○授業の復習（60分） 【第28回】 ○授業の復習（60分）
【第29回】 【第30回】	【第29回】 ●N2文字語彙試験 【第30回】 ・N2文字語彙試験の解答と出題意図の解説 ・今期のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A02	2.科目名	日本語Ⅱ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	上仲淳					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業である。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できる。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。					
19.教科書・教材	『身近なテーマから広げる！にほんご語彙力アップトレーニング（音声ダウンロード版）』アスク出版 ISBN:9784866396156 プリント（N2 文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介する。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 課題 ：10％ 発表 ：20％ 小テスト ：20％ 最終発表：30％ 文字語彙試験：10％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意					
22.コメント	初回の授業からテキストを持参すること。 欠席するときは事前に連絡すること。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める（アイデアを得るのみ）がプレゼンテーションやテストでの使用は認めない。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付ける。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第2回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20]			【第1回】 ○授業の復習（60 分） 【第2回】 ○授業の復習（60 分）		

	語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第10回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●第1課～第5課の小テスト 【第14回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60]	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）

	語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 19 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応 用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持 参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発 表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】【第 28 回】 ●第 9 課の発表テスト ●第 6 課～第 9 課の小テスト	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 ●N2 文字語彙試験 【第 30 回】 ・生活の語彙、今期の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A03	2.科目名	日本語Ⅱ（留）T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	権田彩良					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『にはんご語彙力アップトレーニング』ASK（ただし、単行本） プリント（N2 文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% 課題・発表：30%					

	N2 語彙試験：20% 小テスト・総括試験：40%	
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、クラス活動点を 0 点として処理することがあります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。ただし、電子書籍版のテキストは、上記①の理由から基本的に不可とします。必ず、単行本を持参するようにして下さい。	
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メール・アドレスにご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 2 回】 ・第 1 課「料理」[教科書 pp.13-20] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 1 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 2 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・第 1 課「料理」[教科書 pp.13-20] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 4 回】 ・第 2 課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 3 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 4 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ●第 1 課の発表テスト ・第 2 課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 6 回】 ・第 3 課「服選び」[教科書 pp.29-36] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第 5 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 6 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●第 2 課のロールプレイテスト ・第 3 課「服選び」[教科書 pp.29-36] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 8 回】 ・第 4 課「性格」[教科書 pp.37-44] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」	【第 7 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 8 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 9 回】	【第 9 回】	【第 9 回】

【第10回】	●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 「3, 練習してみよう」「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	○授業の復習 (60 分) ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習 (60 分)
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 【第12回】 第1課～第5課までの学習内容の復習・再整理 ・プリント (N2 文字語彙) 学習	【第11回】 ○授業の復習 (60 分) ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習 (60 分)
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●小テスト (第1課～第5課) ・小テストの解答と出題意図の解説 【第14回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第13回】 ○授業の復習 (60 分) 【第14回】 ○授業の復習 (60 分)
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「ロールプレイをしましょう」の原稿作成 【第16回】 ・プリント (N2 文字語彙) 学習 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第15回】 ○授業の復習 (60 分) 【第16回】 ○授業の復習 (60 分)
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「書きましょう」の原稿作成 【第18回】 ・プリント (N2 文字語彙) 学習 ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	【第17回】 ○授業の復習 (60 分) ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習 (60 分)
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第7課の発表テスト ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」	【第19回】 ○授業の復習 (60 分) ★原稿提出 【第20回】

	・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 「1, 絵を見て考えよう」「2, ことばを増やそう」 「3, 練習してみよう」	○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 8 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 ・「発表しましょう」の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 「1, グラフを見て考えよう」「2, ことばを増やそう」「3, 練習してみよう」	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 「4, 聞いてみよう」「5, やってみよう」 【第 24 回】 ●第 1 課～第 9 課の発表テスト	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 第 1 課～第 9 課までの学習内容の復習・再整理	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 1 課～第 9 課の総括試験 ・総括試験の解答と出題意図の解説 【第 28 回】 ・N2 文字語彙の再整理	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●N2 文字語彙試験 【第 30 回】 ・N2 文字語彙試験の解答と出題意図の解説 ・今期のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y01	2.科目名	日本語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 【授業の概要】 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から ac					
18.学習目標と DP との関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 1. 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30%					

	課題・発表：30% 中間試験：20%、総括試験：20% 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。 ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。	
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第10回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52]	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

	語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●第 4 課のロールプレイテスト ・第 5 課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第 12 回】 ・プリント（N2 文字語彙）学習	【第 11 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 12 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 1 課～第 5 課の復習 【第 14 回】 ●中間試験	【第 13 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 14 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●第 5 課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 16 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 15 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 16 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・第 6 課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 18 回】 ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 17 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 18 回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 19 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応 用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持 参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出

	表のスライド作成	
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N2 試験	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y02	2.科目名	日本語Ⅱ T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳凱欽					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。					
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。 生成 AI の利用に関して、成績評価に関わる課題・レポート・テストにおいては、生成 AI の利用を認めません。ただし、日常の学習をサポートする目的での利用は認めます。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第2回】 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第4回】 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第10回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】	【第13回】	【第13回】

【第14回】	・第1課～第5課の復習 【第14回】 ●中間試験	○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第20回】 ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第19回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第20回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ●第7課の発表テスト ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第22回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第21回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第22回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ●第7課の発表テスト ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応 用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持 参） 【第24回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発 表のスライド作成	【第23回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第24回】 ○授業の復習、発表の練習（60分） ★スライド提出
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ●第8課の発表テスト ・プリント（N2文字語彙）学習 【第26回】 ・第10課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第25回】 ○授業の復習（60分） 【第26回】 ○授業の復習（60分）
【第27回】	【第27回】	【第27回】

【第 28 回】	●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N 2 試験	○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y03	2.科目名	日本語Ⅱ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 【授業の概要】 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から ac					
18.学習目標と DP との関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 1. 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30%					

	課題・発表：30% 中間試験：20%、総括試験：20% 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。 ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。	
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。	
23.オフィスアワー	学修支援センター：春学期 火曜昼休み / 秋学期 木曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み 授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第6回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第8回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）

	【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・第1課～第5課の復習 【第14回】 ●中間試験	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第20回】 ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第19回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第20回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ●第7課の発表テスト ・第8課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第22回】 ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第21回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第22回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ●第7課の発表テスト ・第9課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参）	【第23回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第24回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）

	【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N2 試験	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-A01	2.科目名	日本語Ⅲ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	①学習状況（授業参加）：10% ②各課課題：20% ③中間試験：25%					

	④総括試験：25% ?レポート課題：20%	
22.コメント	初回の授業からテキストを持ってくるください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文（課題）	
第5回	第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く（課題）	
第6回	アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く（課題）	
第8回	中間試験	
第9回	中間試験のフィードバック 第7課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く（課題）	
第10回	第8課 レポートを書くための基礎知識 ・レポートテーマを決める	

第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習 ・レポートを書く前の準備	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く ・レポートの序論を書く	
第 1 3 回	第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く ・レポートの本論を書く	
第 1 4 回	・レポートの結論を書く ・レポートの発表準備	
第 1 5 回	総括試験 ・レポート発表	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-A02	2.科目名	日本語Ⅲ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	佐々木瑞枝 他『大学で学ぶための日本語ライティング』（2006 年 2 月、ジャパントイムズ刊） ISBN: 978-4-7890-1221-8					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	授業態度：10% 毎週の課題：15% 作文課題 2 回（課題①②）：25% 中間テスト（作文）・期末テスト（作文）：50%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、学習態度点を 0 点として処理することがあります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。					
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メールアドレスにご連絡ください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1） プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第8回	中間試験（作文含む）	
第9回	中間試験のフィードバック 第7課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第10回	第8課 レポートを書くための基礎知識	
第11回	第8課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習	

	○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 1 3 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 1 4 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	
第 1 5 回	総括試験（作文含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-Y02	2.科目名	日本語Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 【授業の概要】 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 1.世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					

21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20% ③作文2回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30% 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。	
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第3回	第3課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1） プリント教材	
第7回	第6課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第8回	中間試験（作文含む）	

第 9 回	中間試験のフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第 1 0 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 1 3 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 1 4 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（2） プリント教材	
第 1 5 回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-Y03	2.科目名	日本語Ⅲ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井かおり					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2					
20.参考文献	授業中に適宜指示する。					
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間テスト（作文含む） 20% ③作文 2 回 30% ④期末テスト（作文含む） 30%					

22.コメント	初回の授業からテキストとノート PC を用意してください。 欠席するときは連絡してください。 ?生成 AI 利用に関して 日本語で書く練習の授業なので、利用は認めません。 ?成績評価に関わる課題・レポート・テストで利用した場合は採点しません。	
23.オフィスアワー	授業の前後またはメールで対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表	テキスト 「大学で学ぶための日本語ライティング」
第 2 回	第 2 課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表	テキスト PC
第 3 回	第 3 課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表	テキスト PC
第 4 回	第 4 課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く	作文①を完成させる。 テキスト PC
第 5 回	作文①の提出 第 5 課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	テキスト PC
第 6 回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (1) プリント教材	テキスト PC
第 7 回	第 6 課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	テキスト PC
第 8 回	中間テスト (作文含む)	テキスト PC
第 9 回	中間テストのフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	テキスト PC

第 1 0 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	テキスト PC
第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	テキスト PC
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く	作文②を完成させる。 テキスト PC
第 1 3 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	テキスト PC
第 1 4 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (2) プリント教材	テキスト PC
第 1 5 回	期末テスト (作文含む)	テキスト PC レポート自作資料

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-A01	2.科目名	日本語Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	李恒聡					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『必ずできる！ JLPT「読解」N2』 安藤 栄里子・足立 尚子 著 ISBN：9784757433953					
20.参考文献						
21.成績評価	学習状況(学習態度)20% 小テスト(2 回)20% 中間テスト 20%					

	期末テスト 40%	
22.コメント		
23.オフィスアワー	授業の前後	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション ○ 自己紹介 ○ 成績の構成を紹介 ○ 多様な分野の素材の読解 (N2 レベルの読解問題)	
第2回	[レベル1] ウォーミングアップ① [レベル2] 練習問題 1 日目～2 日目 + N2 読解の過去問題集	
第3回	[レベル1] ウォーミングアップ② [レベル2] 練習問題 3 日目～4 日目 + N2 読解の過去問題集	
第4回	[レベル1] ウォーミングアップ③ [レベル2] 練習問題 5 日目～6 日目 + 小テスト①	小テスト①
第5回	[レベル1] ウォーミングアップ④ [レベル2] 練習問題 7 日目～8 日目 + N2 読解の過去問題集	
第6回	[レベル1] ウォーミングアップ⑤+⑥ [レベル2] 練習問題 9 日目～10 日目 + N2 読解の過去問題集	
第7回	中間テスト + クラス活動① (詳細は指示する)	
第8回	中間テストのフィードバック [レベル3] ウォーミングアップ⑦ [レベル4] 練習問題 11 日目～12 日目 + N2 読解の過去問題集	
第9回	[レベル3] ウォーミングアップ⑧ [レベル4] 練習問題 13 日目～14 日目 + N2 読解の過去問題集	
第10回	[レベル5] ウォーミングアップ⑨ [レベル4] 練習問題 15 日目～16 日目 + N2 読解の過去問題集	
第11回	[レベル5] ウォーミングアップ⑩ [レベル6] 練習問題 17 日目～18 日目 + 小テスト②	小テスト②
第12回	[レベル6] 練習問題 19 日目～20 日目	

	+ N 2 読解の過去問題集	
第 1 3 回	[レベル 6] 練習問題日目 2 1 ~ 2 2 日目 + N 2 読解の過去問題集	
第 1 4 回	期末テスト	
第 1 5 回	期末テストのフィードバック + クラス活動② (詳細は指示する)	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-A02	2.科目名	日本語Ⅳ (留) T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	金石哲					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通 (留学生のみ)			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う (文単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	安藤栄里子・足立尚子『必ずできる！ JLPT「読解」N2』(2020 年 1 月、アルク刊) ISBN: 9784757433953					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	学習態度：10% 毎授業の課題提出：15% 要約メモ (2 回)：25% 中間テスト・期末テスト：50%					
22.コメント	①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、学習態度点を 0 点として処理することがあります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。					
23.オフィスアワー	基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メールアドレスにご連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	○授業オリエンテーション ○ウォーミングアップ 1, 2 (p.18 ~ p. 21) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 2 回	○ウォーミングアップ 3 (p. 22~ p. 23) ○練習問題 1, 2 日目 (p.30 ~ p.37) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 3 回	○ウォーミングアップ 4 (p. 24~ p. 25) ○練習問題 3, 4 日目 (p.38 ~ p.45) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 4 回	○ウォーミングアップ 5(p. 26~ p. 27) ○練習問題 5, 6 日目 (p.46 ~ p.53) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 5 回	○ウォーミングアップ 6(p. 28~ p. 29) ○練習問題 7, 8 日目 (p.54 ~ p.61) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (1 回目) の課題提出
第 6 回	○練習問題 9, 10 日目 (p.62 ~ p.69) ○要約メモのフィードバック	
第 7 回	○中間テスト ○中間テストの答え合わせと出題意図の解説	
第 8 回	○ウォーミングアップ 7(p. 72~ p. 73) ○練習問題 11, 12 日目 (p.76 ~ p.83) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 9 回	○ウォーミングアップ 8(p. 74~ p. 75) ○練習問題 13, 14 日目 (p. 88~ p. 98) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 0 回	○練習問題 15, 16 日目 (p. 100~ p. 110) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 1 回	○ウォーミングアップ 9(p. 112~ p. 113) ○練習問題 17, 18 日目 (p.116 ~ p.127) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 2 回	○ウォーミングアップ 10(p. 114~ p. 115) ○練習問題 19, 20 日目 (p.128 ~ p.139) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 3 回	○練習問題 21, 22 日目 (p.140 ~ p.153) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (2 回目) の課題提出

第 1 4 回	○要約メモのフィードバック ○半年間のまとめ	
第 1 5 回	○期末テスト ○期末テストの答え合わせと出題意図の解説	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-Y01	2.科目名	日本語Ⅳ T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	小川佐由理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writin					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文 法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあら すじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	必ずできる！ JLPT「読解」N2 安藤栄里子（著）、足立尚子（著） ISBN:978-4-7574-3395-3					

20.参考文献	授業時に適宜紹介します。	
21.成績評価	課題 20% 小テスト 20% 中間テスト 20% 期末テスト 40% 授業で具体的に課題や試験の内容について説明します。	
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。 生成 AI の利用に関して、 成績評価に関わる課題、レポート、テストにおいて、利用を認めません。 日常の学習をサポートする目的のみ、利用を認めます。	
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメール（ ps-ogawa@kuins.ac.jp ）で質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	授業オリエンテーション テキスト：ウォーミングアップ 1～6	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 2 回	テキスト：練習問題 1,2 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 3 回	テキスト：練習問題 3,4 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 4 回	テキスト：練習問題 5,6 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 5 回	テキスト：練習問題 7,8 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 6 回	テキスト：練習問題 9,10 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 7 回	中間試験 テキスト：ウォーミングアップ 7,8 日目	授業の復習 中間テストの準備 テキストの予習（練習問題をする）
第 8 回	テキスト：練習問題 11,12 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 9 回	テキスト：練習問題 12,13 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 10 回	テキスト：練習問題 14,15 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 11 回	テキスト：練習問題 16 日目 ウォーミングアップ 9.10	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 12 回	テキスト：練習問題 17,18 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 13 回	テキスト：練習問題 19,20 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 14 回	テキスト：練習問題 21,22 日目	授業の復習 テキストの予習（練習問題をする）
第 15 回	総括試験	授業の復習 期末テストの準備

1.授業コード (ナンバリング)		JAL113-Y02	2.科目名		日本語Ⅳ T3		3.単位数		2		
4.授業担当教員		金石哲									
5.授業科目の区分		コモンベーシックス		6.必修・ 選択の区分		選択		7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻		全学共通（留学生のみ）					9.履修学年		1 年～		
10.取得資格の要件						11.先修条件					
12.研究室		※※※				13.電話番号		※※※			
14.E-Mail Address		※※※				15.授業形態		演習			
16.履修制限											
17.授業の目的と概要		日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi									
18.学習目標と DPとの関連		日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。									
19.教科書・教材		安藤栄里子・足立尚子『必ずできる！ JLPT「読解」N2』（2020 年 1 月、アルク刊） ISBN: 9784757433953									
20.参考文献		授業時に適宜紹介します。									
21.成績評価		学習態度：10% 毎授業の課題提出：15% 要約メモ（2 回）：25% 中間テスト・期末テスト：50%									
22.コメント		①授業中は学習を目的としないスマートフォン・PC の操作を禁じます。これらの行為を含め、明らかに授業に参加していないと判断できる場合、学習態度点を 0 点として処理することがあります。 ②初回の授業からテキストを持参してください。									
23.オフィスアワー		基本的には、授業の前後に質問や相談を受け付けます。 緊急時などは上記メールアドレスにご連絡ください。									
24.授業回数		25.授業内容					26.アサインメント(宿題など)				

第 1 回	○授業オリエンテーション ○ウォーミングアップ 1, 2 (p.18 ~ p. 21) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 2 回	○ウォーミングアップ 3 (p. 22~ p. 23) ○練習問題 1, 2 日目 (p.30 ~ p.37) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 3 回	○ウォーミングアップ 4 (p. 24~ p. 25) ○練習問題 3, 4 日目 (p.38 ~ p.45) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 4 回	○ウォーミングアップ 5(p. 26~ p. 27) ○練習問題 5, 6 日目 (p.46 ~ p.53) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 5 回	○ウォーミングアップ 6(p. 28~ p. 29) ○練習問題 7, 8 日目 (p.54 ~ p.61) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (1 回目) の課題提出
第 6 回	○練習問題 9, 10 日目 (p.62 ~ p.69) ○要約メモのフィードバック	
第 7 回	○中間テスト ○中間テストの答え合わせと出題意図の解説	
第 8 回	○ウォーミングアップ 7(p. 72~ p. 73) ○練習問題 11, 12 日目 (p.76 ~ p.83) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 9 回	○ウォーミングアップ 8(p. 74~ p. 75) ○練習問題 13, 14 日目 (p. 88~ p. 98) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 0 回	○練習問題 15, 16 日目 (p. 100~ p. 110) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 1 回	○ウォーミングアップ 9(p. 112~ p. 113) ○練習問題 17, 18 日目 (p.116 ~ p.127) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 2 回	○ウォーミングアップ 10(p. 114~ p. 115) ○練習問題 19, 20 日目 (p.128 ~ p.139) ○5 分速読 (プリント学習)	
第 1 3 回	○練習問題 21, 22 日目 (p.140 ~ p.153) ○要約メモの作成 (プリント学習)	要約メモ (2 回目) の課題提出

第 1 4 回	○要約メモのフィードバック ○半年間のまとめ	
第 1 5 回	○期末テスト ○期末テストの答え合わせと出題意図の解説	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-A01	2.科目名	日本語Ⅴ（留）T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中典枝					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅴの学習目標は以下の通りである。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	(1) 各課の発表 20% (2) 小テスト 30% (3) 学期末発表と提出物 30% (4) 学習状況（授業への参加)20%					
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。 ?生成 AI 利用に関して 日本語で書く練習の授業なので、利用は認めません。 ?成績評価に関わる課題・レポート・テストで利用した場合は採点しません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第2回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い			テキスト		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 教育の文法・語彙 【第4回】			テキスト		

	教育の読解	
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 日本の教育問題 【第 6 回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い 各自の発表テーマ決定	発表準備
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表 1） 【第 8 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ②	テキスト PC
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ことば導入 【第 10 回】 慣用表現・擬音語擬態語など	テキスト
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 文法表現 【第 12 回】 ことば読解 1（読み練習）	自国の昔話について発表準備
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ことば読解 2 【第 14 回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表）	テキスト PC
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 小テスト①（教育・ことば） 【第 16 回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第 16 回】 文法表現	テキスト
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 コミュニケーション語彙、読解 1 【第 18 回】 読解 2	テキスト
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴	テキスト
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	テキスト PC
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 プレゼンテーションについて	テキスト
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	テキスト
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	テキスト PC

【第 29 回】	【第 29 回】 学期末発表①	テキスト
【第 30 回】	【第 30 回】 学期末発表②	PC

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-A02	2.科目名	日本語Ⅴ（留）T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	(1) 各課の発表：20% (2) 各課の小テスト：20% (3) 各課の漢字テスト：10% (4) 学習状況（授業への参加等）：20%					

	(5) 提出物：10% (6) 期末発表：20%	
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。 ※先輩から譲り受けたような既にかき込みのある教科書を使うことはできません。 初回の授業からテキストを持ってくるようにしてください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第2回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 教育の文法・語彙 【第4回】 教育の読解	
【第5回】 【第6回】	【第5回】 日本の教育問題 【第6回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定	発表準備（原稿作成・スライド作成）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表1） 【第8回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ② ●漢字テスト	
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ことば導入 【第10回】 慣用表現・擬音語擬態語など	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 文法表現 【第12回】 ことば読解1（読み練習）	自国の昔話について発表準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ことば読解2 【第14回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第15回】 【第16回】	【第15回】 小テスト①（教育・ことば） 【第16回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第16回】 文法表現	
【第17回】 【第18回】	【第17回】 コミュニケーション語彙、読解1 【第18回】 読解2	
【第19回】 【第20回】	【第19回】 昔話 導入 【第20回】 動画視聴 ●小テスト	

	●漢字テスト	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて （学期末 発表の説明） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-A03	2.科目名	日本語Ⅴ（留）T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：読みやすいテキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらについて、スピーチ、口頭発表をする。 目的;スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
18.学習目標と DPとの関連	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	(1) 各課の発表 20% (2) 小テスト 30% (3) 学期末発表と提出物 30% (4) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%					
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。よって、履修者は 10 数名が理想的です。 そのため履修人数の上限を 20 名とし、もしそれを超えた場合は先着順もしくは抽選とします。 ※先輩から譲り受けたような既にかき込みのある教科書を使うことはできません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第 2 回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い					
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 教育の文法・語彙 【第 4 回】 教育の読解					
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 日本の教育問題 【第 6 回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定			発表準備（原稿作成・スライド作成）		
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表 1） 【第 8 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ②					
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ことば導入 【第 10 回】 慣用表現・擬音語擬態語など					
【第 11 回】	【第 11 回】 文法表現			自国の昔話について発表準備		

【第 12 回】	【第 12 回】 ことば読解 1（読み練習）	
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ことば読解 2 【第 14 回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 小テスト①（教育・ことば） 【第 16 回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第 16 回】 文法表現	
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 コミュニケーション語彙、読解 1 【第 18 回】 読解 2	
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて（学期末発表の説明）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y01	2.科目名	日本語Ⅴ (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	(1) 各課の発表：20% (2) 各課の小テスト：20% (3) 各課の漢字テスト：10% (4) 学習状況（授業への参加等）：20%					

	(5) 提出物：10% (6) 期末発表：20%	
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。 ※先輩から譲り受けたような既にかき込みのある教科書を使うことはできません。 初回の授業からテキストを持ってくるようにしてください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第2回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い	
【第3回】 【第4回】	【第3回】 教育の文法・語彙 【第4回】 教育の読解	
【第5回】 【第6回】	【第5回】 日本の教育問題 【第6回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定	発表準備（原稿作成・スライド作成）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表1） 【第8回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ② ●漢字テスト	
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ことば導入 【第10回】 慣用表現・擬音語擬態語など	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 文法表現 【第12回】 ことば読解1（読み練習）	自国の昔話について発表準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ことば読解2 【第14回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第15回】 【第16回】	【第15回】 小テスト①（教育・ことば） 【第16回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第16回】 文法表現	
【第17回】 【第18回】	【第17回】 コミュニケーション語彙、読解1 【第18回】 読解2	
【第19回】 【第20回】	【第19回】 昔話 導入 【第20回】 動画視聴 ●漢字テスト	
【第21回】	【第21回】	

【第 22 回】	文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて （学期末 発表の説明） ●漢字テスト	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y02	2.科目名	日本語Ⅴ (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田名清					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通 (留学生のみ)			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う (文単位のライティング力の養成)。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等) 20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況 (授業への参加・パフォーマンス)20%					

22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1 課教育」漢字・語彙 【第2回】 ・ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い	【第1回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第2回】 授業の復習
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・「1 課教育」漢字クイズ ・「1 課教育」表現・本文 【第4回】 ・プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について ・活動：「教育」についてアンケート	【第3回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第4回】 授業の復習
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・「1 課教育」本文 【第6回】 ・グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第5回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第6回】 授業の復習
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・「1 課教育」小テスト ・「2 課言葉」漢字・語彙 【第8回】 ・発表：アンケートの結果からわかること ・グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第7回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第8回】 授業の復習
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・「2 課言葉」漢字クイズ ・「2 課言葉」表現・本文 【第10回】 ・発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第9回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第10回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・「2 課言葉」本文 【第12回】 ・発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第11回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第12回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・「2 課言葉」小テスト ・「3 課コミュニケーション」漢字・語彙 【第14回】 ・発表：自国のことわざ、名言について紹介	【第13回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第14回】 授業の復習
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ・「3 課コミュニケーション」漢字クイズ ・「3 課コミュニケーション」表現・本文 【第16回】	【第15回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第16回】 授業の復習

	・ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・「3 課コミュニケーション」本文 【第 18 回】 ・ディスカッション	【第 17 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 18 回】 授業の復習
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・「3 課コミュニケーション」小テスト ・「4 課昔話」漢字・語彙 【第 20 回】 ・ストーリー 説明練習	【第 19 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 20 回】 授業の復習
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・「4 課昔話」漢字クイズ ・「4 課昔話」表現・本文 【第 22 回】 ・発表：ストーリー	【第 21 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 22 回】 授業の復習
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・「4 課昔話」本文 ・ストーリーテラー準備 【第 24 回】 ・ストーリーテラー発表 ・昔話発表準備	なし
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・「4 課昔話」小テスト ・「5 課住宅」漢字・語彙 【第 26 回】 ・昔話発表	なし
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・「5 課住宅」漢字クイズ ・「5 課住宅」表現 ・「5 課住宅」本文 【第 28 回】 ・昔話発表続き ・期末発表準備、修正	期末発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・発表：期末発表 【第 30 回】 ・発表：期末発表 ・振り返りレポートについて	期末発表準備

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y03	2.科目名	日本語Ⅴ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳凱欽					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等) 20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%					
22.コメント	生成 AI の利用に関して、成績評価に関わる課題・レポート・テストにおいては、生成 AI の利用を認めません。ただし、日常の学習をサポートする目的での利用は認めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1課教育」漢字・語彙			【第1回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第2回】		

	【第2回】 ・ ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い	授業の復習
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ● 「1 課教育」 漢字クイズ ・ 「1 課教育」 表現・本文 【第4回】 ・ プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について ・ 活動：「教育」についてアンケート	【第3回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第4回】 授業の復習
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・ 「1 課教育」 本文 【第6回】 ・ グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第5回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第6回】 授業の復習
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ● 「1 課教育」 小テスト ・ 「2 課言葉」 漢字・語彙 【第8回】 ・ 発表：アンケートの結果からわかること ・ グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第7回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第8回】 授業の復習
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ● 「2 課言葉」 漢字クイズ ・ 「2 課言葉」 表現・本文 【第10回】 ・ 発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第9回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第10回】 ・ 授業の復習 ・ 発表の準備
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・ 「2 課言葉」 本文 【第12回】 ・ 発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第11回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第12回】 ・ 授業の復習 ・ 発表の準備
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ● 「2 課言葉」 小テスト ・ 「3 課コミュニケーション」 漢字・語彙 【第14回】 ・ 発表：自国のことわざ、名言について紹介	【第13回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第14回】 授業の復習
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ● 「3 課コミュニケーション」 漢字クイズ ・ 「3 課コミュニケーション」 表現・本文 【第16回】 ・ ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	【第15回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第16回】 授業の復習
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・ 「3 課コミュニケーション」 本文 【第18回】 ・ ディスカッション	【第17回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第18回】 授業の復習

【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ● 「3 課コミュニケーション」小テスト ・ 「4 課昔話」漢字・語彙 【第 20 回】 ・ ストーリー 説明練習	【第 19 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 20 回】 授業の復習
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ● 「4 課昔話」漢字クイズ ・ 「4 課昔話」表現・本文 【第 22 回】 ・ 発表：ストーリー	【第 21 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 22 回】 授業の復習
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 「4 課昔話」本文 ・ ストーリーテラー準備 【第 24 回】 ・ ストーリーテラー発表 ・ 昔話発表準備	なし
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ● 「4 課昔話」小テスト 【第 26 回】 ● 「5 課住宅」漢字・語彙 ・ 昔話発表	なし
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ● 「5 課住宅」漢字クイズ ● 「5 課住宅」表現 ● 「5 課住宅」本文 【第 28 回】 ・ 昔話発表続き ・ 期末発表準備、修正	期末発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ 発表：期末発表 【第 30 回】 ・ 発表：期末発表 ・ 振り返りレポートについて	期末発表準備

1.授業コード (ナンバリング)	JAL115-A01	2.科目名	プレ日本語Ⅰ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	柳川瀬真衣					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語はⅠ～Ⅳは、大学での学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的としています。 各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ ライティング プレ日本語Ⅳ 読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、 （プレ日本語Ⅰ）大学でレポートや論文を書くために必要な文型、文法を活用できるようになることで、 （プレ日本語Ⅱ） 様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、 （プレ日本語Ⅲ） 様々なトピックについて、自分の考えをレポートや論文の書式に合わせて書けるようになることで、 （プレ日本語Ⅳ） 様々なトピック、スタイルの文章を読み、必要な情報を得られるようになることで、 本授業は、以下の DP に関わる能力を育てます。 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％					
22.コメント	本授業では特に出席を重視します。 この授業では、生成 AI の 利用を無制限で認めます。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション主に授業の流れや成績評価について説明] ・実力試しテスト 【第2回】 ・実力試しテスト解説 ・第1課			【第1回】 復習(60 分間) 【第2回】 復習(60 分間)		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・2課 基礎問題			【第3回】 復習(60 分間)		

	【第 4 回】 ・ 2 課 応用問題	【第 4 回】 復習(60 分間)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・ 3 課 基礎問題 【第 6 回】 ・ 3 課 応用問題	【第 5 回】 復習(60 分間) 【第 6 回】 復習(60 分間)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・ 4 課 基礎問題 【第 8 回】 ・ 4 課 応用問題	【第 7 回】 復習(60 分間) 【第 8 回】 復習(60 分間)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・ 5 課 基礎問題 【第 10 回】 ・ 5 課 応用問題	【第 9 回】 復習(60 分間) 【第 10 回】 復習(60 分間)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ 6 課 基礎問題 【第 12 回】 ・ 6 課 応用問題	【第 11 回】 復習(60 分間) 【第 12 回】 復習(60 分間) 中間テスト勉強
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・ 中間テスト 【第 14 回】 ・ 7 課 基礎問題	【第 13 回】 中間テストの復習 【第 14 回】 復習(60 分間)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 7 課 応用問題 【第 16 回】 ・ 8 課 基礎問題・応用問題	【第 15 回】 復習(60 分間) 【第 16 回】 復習(60 分間)
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 9 課 基礎問題 【第 18 回】 ・ 9 課 応用問題	【第 17 回】 復習(60 分間) 【第 18 回】 復習(60 分間)
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 10 課 基礎問題 【第 20 回】 ・ 10 課 応用問題	【第 19 回】 復習(60 分間) 【第 20 回】 復習(60 分間)
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 11 課 基礎問題 【第 22 回】 ・ 11 課 応用問題	【第 21 回】 復習(60 分間) 【第 22 回】 復習(60 分間)
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 12 課 基礎問題 【第 24 回】 ・ 12 課 応用問題	【第 23 回】 復習(60 分間) 【第 24 回】 復習(60 分間)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 13 課 基礎問題 【第 26 回】 ・ 13 課 応用問題	【第 25 回】 復習(60 分間) 【第 26 回】 復習(60 分間)

【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ 14 課 基礎問題 【第 28 回】 ・ 14 課 応用問題	【第 27 回】 復習(60 分間) 【第 28 回】 復習(60 分間) 総括試験の勉強
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ 総括試験 【第 30 回】 ・ 総括試験の解説	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL115-Y01	2.科目名	プレ日本語Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	柳川瀬真衣					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語はⅠ～Ⅳは、大学での学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的としています。 各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ ライティング プレ日本語Ⅳ 読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、 （プレ日本語Ⅰ）大学でレポートや論文を書くために必要な文型、文法を活用できるようになることで、 （プレ日本語Ⅱ） 様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、 （プレ日本語Ⅲ） 様々なトピックについて、自分の考えをレポートや論文の書式に合わせて書けるようになることで、 （プレ日本語Ⅳ） 様々なトピック、スタイルの文章を読み、必要な情報を得られるようになることで、 本授業は、以下の DP に関わる能力を育てます。 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『ここがポイント！レポート・論文を書くための日本語文法』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％					
22.コメント	本授業では特に出席を重視します。 この授業では、生成 AI の 利用を無制限で認めます。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション主に授業の流れや成績評価について説明] ・実力試しテスト 【第2回】 ・実力試しテスト解説 ・第1課			【第1回】 復習(60 分間) 【第2回】 復習(60 分間)		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・2課 基礎問題			【第3回】 復習(60 分間)		

	【第 4 回】 ・ 2 課 応用問題	【第 4 回】 復習(60 分間)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・ 3 課 基礎問題 【第 6 回】 ・ 3 課 応用問題	【第 5 回】 復習(60 分間) 【第 6 回】 復習(60 分間)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・ 4 課 基礎問題 【第 8 回】 ・ 4 課 応用問題	【第 7 回】 復習(60 分間) 【第 8 回】 復習(60 分間)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・ 5 課 基礎問題 【第 10 回】 ・ 5 課 応用問題	【第 9 回】 復習(60 分間) 【第 10 回】 復習(60 分間)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ 6 課 基礎問題 【第 12 回】 ・ 6 課 応用問題	【第 11 回】 復習(60 分間) 【第 12 回】 復習(60 分間) 中間テスト勉強
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・ 中間テスト 【第 14 回】 ・ 7 課 基礎問題	【第 13 回】 中間テストの復習 【第 14 回】 復習(60 分間)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 7 課 応用問題 【第 16 回】 ・ 8 課 基礎問題・応用問題	【第 15 回】 復習(60 分間) 【第 16 回】 復習(60 分間)
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 9 課 基礎問題 【第 18 回】 ・ 9 課 応用問題	【第 17 回】 復習(60 分間) 【第 18 回】 復習(60 分間)
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 10 課 基礎問題 【第 20 回】 ・ 10 課 応用問題	【第 19 回】 復習(60 分間) 【第 20 回】 復習(60 分間)
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 11 課 基礎問題 【第 22 回】 ・ 11 課 応用問題	【第 21 回】 復習(60 分間) 【第 22 回】 復習(60 分間)
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 12 課 基礎問題 【第 24 回】 ・ 12 課 応用問題	【第 23 回】 復習(60 分間) 【第 24 回】 復習(60 分間)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 13 課 基礎問題 【第 26 回】 ・ 13 課 応用問題	【第 25 回】 復習(60 分間) 【第 26 回】 復習(60 分間)

【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ 14 課 基礎問題 【第 28 回】 ・ 14 課 応用問題	【第 27 回】 復習(60 分間) 【第 28 回】 復習(60 分間) 総括試験の勉強
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ 総括試験 【第 30 回】 ・ 総括試験の解説	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL116-A01	2.科目名	プレ日本語Ⅱ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	久次米都					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語Ⅰ～Ⅳは、大学の学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的にしています。各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ：ライティング プレ日本語Ⅳ：読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、以下の DP にかかわる能力を育てます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを明確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	新訂版 トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級前期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	?各課の発表 30％ ?小テスト 20％ ?学期末発表と提出物 30％ ?学習状況（授業態度、パフォーマンス）					
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数行います。 よって、履修者は10数名が理想的です。 そのため、履修人数の上限を20名とし、もしそれを超えた場合は先着順もしくは抽選とします。 *発表準備の日、発表当日はPCを持ってきてください。 *書き込みのある教科書は使えません。 生成AIの利用はいかなる場合も認めません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第一回】 【第二回】	【第1回】 オリエンテーション 自己紹介など 旅行の導入 【第2回】 グラフの読み方 旅行の語彙			テキスト購入		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 旅行の読解 文法 【第4回】 発表準備（自分の経験をまとめる）					
【第5回】 【第6回】	【第5回】 発表準備 スライドづくり 【第6回】 原稿づくり リハーサル			PC 持参 発表のスライド提出		
【第7回】 【第8回】	【第7回】 自分の経験に関するスピーチ①（発表1） 【第8回】 自分の経験に関するスピーチ② FB			PC 持参		

【第9回】 【第10回】	【第9回】 いつ、どこで買うの導入 グラフ 語彙 【第10回】 いつ、どこで買うの読解 文法	
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ペアでアンケート作り アンケート実施 【第12回】 集計 原稿づくり	
【第13回】 【第14回】	【第13回】 アンケート結果発表① 【第14回】 アンケート結果発表② 祭りの導入 語彙	小テスト（語彙、文法）にむけての復習
【第15回】 【第16回】	【第15回】 小テスト①（旅行 いつ、どこで買う） 祭りの読解 文法 【第16回】 自分の国の祭りについて 発表準備	PC 持参 発表のスライド提出
【第17回】 【第18回】	【第17回】 自分の国の祭りについてスピーチ①（発表2） 【第18回】 自分の国の祭りについてスピーチ② FB	PC 持参
【第19回】 【第20回】	【第19回】 贈り物 導入 グラフ 【第20回】 贈り物 語彙 読解 文法	小テスト（語彙 文法）にむけて復習
【第21回】 【第22回】	【第21回】 うれしかった贈り物 ミニスピーチ 【第22回】 小テスト②（祭り 贈り物） マスメディア 導入 グラフ 語彙	
【第23回】 【第24回】	【第23回】 マスメディア 読解 文法 【第24回】 学期末発表のテーマ（メディアに関するこ と）を決め、 アンケート作り	
【第25回】 【第26回】	【第25回】 アンケート実施 集計 【第26回】 学期末発表準備	PC 持参 発表のスライド提出
【第27回】 【第28回】	【第27回】 学期末発表① 【第28回】 学期末発表②	PC 持参
【第29回】 【第30回】	【第29回】 発表残り③ FB 【第30回】 授業を振りかえって スピーチ	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL116-Y01	2.科目名	プレ日本語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	久次米都					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語Ⅰ～Ⅳは、大学の学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的にしています。各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ：ライティング プレ日本語Ⅳ：読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DP との関連	本科目の目的は、様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、以下の DP にかかわる能力を育てます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを明確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	新訂版 トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級前期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	?各課の発表 30% ?小テスト 20% ?学期末発表と提出物 30% ?学習状況（授業態度、パフォーマンス）					
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数行います。よって、履修者は10数名が理想的です。 そのため、履修人数の上限を20名とし、もしそれを超えた場合は先着順もしくは抽選とします。 * 発表準備の日、発表当日はPCを持ってきてください。 * 書き込みのある教科書は使えません。 生成 AI の利用はいかなる場合も認めません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第一回】	【第1回】 オリエンテーション 自己紹介など 旅行の導入			テキスト購入		
【第二回】	【第2回】 グラフの読み方 旅行の語彙					
【第3回】	【第3回】 旅行の読解 文法					
【第4回】	【第4回】 発表準備（自分の経験をまとめる）					
【第5回】	【第5回】 発表準備 スライドづくり			PC 持参 発表のスライド提出		
【第6回】	【第6回】 原稿づくり リハーサル					
【第7回】	【第7回】 自分の経験に関するスピーチ①（発表1）			PC 持参		
【第8回】	【第8回】 自分の経験に関するスピーチ② FB					

【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 いつ、どこで買うの導入 グラフ 語彙 【第 10 回】 いつ、どこで買うの読解 文法	
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ペアでアンケート作り アンケート実施 【第 12 回】 集計 原稿づくり	
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 アンケート結果発表① 【第 14 回】 アンケート結果発表② 祭りの導入 語彙	小テスト（語彙、文法）にむけての復習
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 小テスト①（旅行 いつ、どこで買う） 祭りの読解 文法 【第 16 回】 自分の国の祭りについて 発表準備	PC 持参 発表のスライド提出
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 自分の国の祭りについてスピーチ①（発表 2） 【第 18 回】 自分の国の祭りについてスピーチ② FB	PC 持参
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 贈り物 導入 グラフ 【第 20 回】 贈り物 語彙 読解 文法	小テスト（語彙 文法）にむけて復習
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 うれしかった贈り物 ミニスピーチ 【第 22 回】 小テスト②（祭り 贈り物） マスメディア 導入 グラフ 語彙	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 マスメディア 読解 文法 【第 24 回】 学期末発表のテーマ（メディアに関するこ と）を決め、 アンケート作り	
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 アンケート実施 集計 【第 26 回】 学期末発表準備	PC 持参 発表のスライド提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 学期末発表① 【第 28 回】 学期末発表②	PC 持参
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 発表残り③ FB 【第 30 回】 授業を振りかえって スピーチ	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL117-A01	2.科目名	プレ日本語Ⅲ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	李恒聡					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	プレ日本語はⅠ～Ⅳは、大学での学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的しています。 各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ ライティング プレ日本語Ⅳ 読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、 （プレ日本語Ⅰ）大学でレポートや論文を書くために必要な文型、文法を活用できるようになることで、 （プレ日本語Ⅱ） 様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、 （プレ日本語Ⅲ） 様々なトピックについて、自分の考えをレポートや論文の書式に合わせて書けるようになることで、 （プレ日本語Ⅳ） 様々なトピック、スタイルの文章を読み、必要な情報を得られるようになることで、 本授業は、以下の DP に関わる能力を育てます。 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『どンドン使える!日本語文型トレーニング 中級』 加藤 文 (著), 小柏 有香 (著), 坂大 京子 (著), 安井 朱美 (著), 坂本 正 (読み手) ISBN-10 ? : ? 4893588303 ISBN-13 ? : ? 978-4893588302					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20% ③作文 2 回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30%					
22.コメント	本授業では特に出席を重視します。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 課 オリエンテーション ○ 自己紹介 ○ 成績の構成を紹介 ○ 授業の進め方の説明 教室活動：自己紹介文を作成する→発表（課題）					

第2回	第2課 【た】ばかりだ～【て】ばかりいる ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 教室活動：夏休みの過ごし方について文章を作成する →発表（課題）	
第3回	第3課 べきだ・べきではない～といっても ○表現の練習 ○文型を用いて例文を作る 教室活動：自分の夢についてまとめる→発表（課題）	
第4回	第4課 からといって～【だ】ものだ ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 作文①を書く（課題、詳細は指示する）	作文①を完成させる。翌週提出
第5回	作文①の提出 第5課 だけあって～かねない ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 教室活動：趣味について書く	
第6回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （1） プリント教材	
第7回	第6課 ほかない～たとえ～ても ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 教室活動：誇りに思うことについて文章を作成する→発表（課題）	
第8回	中間試験（作文含む）	
第9回	中間試験のフィードバック 第7課 ～ことはない～以上（は） ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 教室活動：自分をアピールする文を書く	
第10回	第8課 ついでに～次第 ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 教室活動：旅行について書く	
第11回	第9課 【て】以来～【ない】までも ○表現の練習 ○文型を用いて文章を作成する 教室活動：好きな季節について書く	
第12回	第10課 N3 文型問題練習 作文②を書く（課題、詳細は指示する）	作文②を完成させる。翌週提出
第13回	作文②の提出 第11課 N3 文型問題の練習	
第14回	作文②のフィードバックを受ける	

	アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (2) プリント教材	
第 1 5 回	総括試験 (作文含む)	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL117-Y01	2.科目名	ブレ日本語Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	権田彩良					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writi					
18.学習目標と DPとの関連	日本語Ⅰ～Ⅴの学習目標はそれぞれ以下の通りである。 「日本語Ⅰ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を使いこなすことができる。 「日本語Ⅲ」 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くことができる。 「日本語Ⅳ」 大学生活で使われる日常言語や、自分の学びに関する言葉で書かれたテキストが理解できる。 「日本語Ⅴ」 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる。自分の学びに関わる本や動画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる。 日本語Ⅰ～Ⅴは以下の DP に関わる能力を高める授業です。 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20%					

	③作文 2 回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30%	
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。	
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）	
第 2 回	第 2 課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）	
第 3 回	第 3 課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表（課題）	
第 4 回	第 4 課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く（課題）	作文①を完成させる。翌週提出
第 5 回	作文①の提出 第 5 課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第 6 回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習（1） プリント教材	
第 7 回	第 6 課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第 8 回	中間試験（作文含む）	
第 9 回	中間試験のフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	

第 1 0 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 1 1 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 1 2 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く（課題）	作文②を完成させる。翌週提出
第 1 3 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 1 4 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 （2） プリント教材	
第 1 5 回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL118-A01	2.科目名	プレ日本語Ⅳ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	入江沢竜					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語はⅠ～Ⅳは、大学での学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的しています。 各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ ライティング プレ日本語Ⅳ 読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、 （プレ日本語Ⅰ）大学でレポートや論文を書くために必要な文型、文法を活用できるようになることで、 （プレ日本語Ⅱ） 様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、 （プレ日本語Ⅲ） 様々なトピックについて、自分の考えをレポートや論文の書式に合わせて書けるようになることで、 （プレ日本語Ⅳ） 様々なトピック、スタイルの文章を読み、必要な情報を得られるようになることで、 本授業は、以下の DP に関わる能力を育てます。 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	人と社会をつなぐ日本語 中級 著者：ヒューマンアカデミー日本語学校 執筆者：辻和子 小座間亜衣 ISBN：978-4-86639-685-9 ※教科書販売サイトで入手できない場合は各自 Amazon 等で購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	各回の課題 30% プレゼンテーション 20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%					
22.コメント	本授業では特に出席を重視します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション このテキストで学ぶこと					
第 2 回	自己分析・自己 PR					
第 3 回	キャリアプランニング					

第 4 回	私の町	小テスト①
第 5 回	日本の文化①	
第 6 回	日本の文化②	
第 7 回	前半まとめ 中間テスト	
第 8 回	クールジャパン①	
第 9 回	クールジャパン②	
第 10 回	異文化理解①	
第 11 回	異文化理解②	小テスト②
第 12 回	地域社会との関わり①	
第 13 回	地域社会との関わり②	
第 14 回	後半まとめ 期末テスト	
第 15 回	期末テストの総評	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL118-Y01	2.科目名	プレ日本語Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	入江沢竜					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	プレ日本語はⅠ～Ⅳは、大学での学びに支障がないように N2 レベルまで日本語力をブラッシュアップすることを目的しています。 各科目で、それぞれ以下の能力を高めることに焦点をおいています。 プレ日本語Ⅰ：文法（語彙強化含む） プレ日本語Ⅱ：スピーキング（聴解含む） プレ日本語Ⅲ　ライティング プレ日本語Ⅳ　読解（語彙強化含む）					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的は、 （プレ日本語Ⅰ）大学でレポートや論文を書くために必要な文型、文法を活用できるようになることで、 （プレ日本語Ⅱ）　様々なトピックについて、自分の考えをアウトプットできるスピーキング力を育てることで、 （プレ日本語Ⅲ）　様々なトピックについて、自分の考えをレポートや論文の書式に合わせて書けるようになることで、 （プレ日本語Ⅳ）　様々なトピック、スタイルの文章を読み、必要な情報を得られるようになることで、 本授業は、以下の DP に関わる能力を育てます。 コミュニケーションスキル国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	人と社会をつなぐ日本語　中級 著者：ヒューマンアカデミー日本語学校 執筆者：辻和子　小座間亜衣 ISBN：978-4-86639-685-9 ※教科書販売サイトで入手できない場合は各自 Amazon 等で購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	各回の課題　30% プレゼンテーション　20% 中間テスト　20% 期末テスト　30%					
22.コメント	本授業では特に出席を重視します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション このテキストで学ぶこと					
第 2 回	自己分析・自己 PR					
第 3 回	キャリアプランニング					

第 4 回	私の町	小テスト①
第 5 回	日本の文化①	
第 6 回	日本の文化②	
第 7 回	前半まとめ 中間テスト	
第 8 回	クールジャパン①	
第 9 回	クールジャパン②	
第 10 回	異文化理解①	
第 11 回	異文化理解②	小テスト②
第 12 回	地域社会との関わり①	
第 13 回	地域社会との関わり②	
第 14 回	後半まとめ 期末テスト	
第 15 回	期末テストの総評	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL201-A01	2.科目名	アカデミック日本語Ⅰ (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) 大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取る。 (概要) さまざまな状況に対応する表現など、日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。日本の大学の授業で使用される表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べるができる。 DP: (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』 The Japan Times 佐々木瑞枝 その他 ISBN4-7890-1078-3					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動 (個人、ペア、グループワーク) 10 % 宿題 20 % (翌週の授業で提出、または発表) 小テスト 30 % 総括試験 40 %					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜日：2 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス (シラバスを使って授業内容や採点基準の説明) 日本語での自己紹介とウォーミングアップアクティビティ			○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)		
第 2 回	日本の大学で学ぶ： 教科書 pp.2-7 ・時間割、履修申請などで使われる語彙や表現を学ぶ。			○授業を復習し、教科書の問題を解答する。 さらに自分の時間割を作成する。(60 分)		
第 3 回	語彙、文法の復習：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。			○小テストに備えて、復習する。 ◎プリントの問題を解答する。(60 分)		
第 4 回	小テスト① 大学の講義①： 教科書 pp.8-11 ・授業を聞いて、キーワードや数字に注意しながら、内容を理解する。 ・内容を説明したり、まとめたりする。 ・授業内容について、友人と会話する。			○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)		

第 5 回	大学の講義②：教科書 pp.20-23 ・授業を聞いて、内容を表にまとめる。 ・レポートのテーマについて、友人や先生に相談する。 ・資料を集める。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 6 回	語彙、文法の復習：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	◎プリントの問題を解答する。(60 分)
第 7 回	情報の読み取り：教科書 pp.24-29 ・連絡や会話を通して、正確な情報を収集する。 ・情報について友人との会話、先生と会話する。 ・情報を簡単な日本語で伝える。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 8 回	読み物：プリント教材 ・日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第 9 回	小テスト② 読み物：プリント教材 日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ	◎授業でカバーされなかった部分をグループで読んで、内容をまとめる。(60 分)
第 10 回	大学の講義③：教科書 pp.30-33 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 11 回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 12 回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第 13 回	小テスト③ 語彙、文法の復習： ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。 ・総括試験に備えて、要点をまとめる。	○授業を復習して、分からないところをまとめる。(60 分)
第 14 回	まとめ ・学期の学習を振り返り、全体をまとめ最終評価のための準備につなげる。	○総括試験に備えて、復習する。(120 分)
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL201-Y01	2.科目名	アカデミック日本語Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	小川佐由理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取り、さまざまな状況に対応する表現などを学ぶ。 目的：日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	①日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。 ②日本の大学の授業で使用されうる表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べるができる。					
19.教科書・教材	初回までに各自、①か②のいずれかを購入してください。 ①『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 音声ダウンロード版 The Japan Times 佐々木瑞枝、その他 ISBN978-47890-1873-9 ②『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 CD 付 The Japan Times 佐々木瑞枝、その他 ISBN978-47890-1078-8					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	授業参加度と教室活動 30 % 小テスト 30 % 総括試験 40 % 授業で具体的な課題や試験内容について説明します。					
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。 生成 AI の利用に関して、 成績評価に関わる課題、レポート、テストにおいて、利用を認めません。 日常の学習をサポートする目的のみ、利用を認めます。					
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメール（ ps-ogawa@kuins.ac.jp ）で質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス（シラバスを使って授業内容や採点基準の説明） 日本語での自己紹介とウォーミングアップアクティビティ 文体について			○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)		
第 2 回	日本の大学で学ぶ： 教科書 pp.2-7 ・時間割、履修申請などで使われる語彙や表現を学ぶ。			○授業を復習し、教科書の問題を解答する。 さらに自分の時間割を作成する。(60 分)		
第 3 回	語彙、文法の復習 1：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。			○小テストに備えて、復習する。 ◎プリントの問題を解答する。(60 分)		
第 4 回	小テスト① 大学の講義①： 教科書 pp.8-11			○予習として、教科書を読んでわからないところをチェックする。(60 分)		

	・授業を聞いて、キーワードや数字に注意しながら、内容を理解する。 ・内容を説明したり、まとめたりする。 ・授業内容について、友人と会話する。	
第 5 回	大学の講義②：教科書 pp.20-23 ・授業を聞いて、内容を表にまとめる。 ・レポートのテーマについて、友人や先生に相談する。 ・資料を集める。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 6 回	語彙、文法の復習 2-1：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	◎プリントの問題を解答する。(60 分)
第 7 回	情報の読み取り：教科書 pp.24-29 ・連絡や会話を通して、正確な情報を収集する。 ・情報について友人との会話、先生と会話する。 ・情報を簡単な日本語で伝える。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 8 回	語彙、文法の復習 2-2：プリント教材 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第 9 回	小テスト② 読み物：プリント教材 日本語で書かれた小説、論説文を読んで内容を理解しながら、日本語らしい表現を学ぶ	◎授業でカバーされなかった部分をグループで読んで、内容をまとめる。(60 分)
第 1 0 回	大学の講義③：教科書 pp.30-33 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 1 1 回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○授業を復習して、問題に解答する。(60 分)
第 1 2 回	大学の講義④：教科書 pp.34-38 ・講義内容を理解して、文で表現する。 ・関連資料を読んで、内容を推測したり、自分の考えをまとめたりする。	○小テストに備えて、復習する。(60 分)
第 1 3 回	語彙、文法の復習 3 ・上級日本語に必要な、語彙や文法事項の復習と確認をする。 ・総括試験に備えて、要点をまとめる。	○授業を復習して、分からないところをまとめる。(60 分)
第 1 4 回	小テスト③ まとめ ・学期の学習を振り返り、全体をまとめ最終評価のための準備につなげる。	○総括試験に備えて、復習する。(120 分)
第 1 5 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL203-A01	2.科目名	日本語ライティングⅠ（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、「聞く」「読む」「書く」「やりとり」「発表」の能力を総合的に高めることを目的とする。 特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）					
18.学習目標と DPとの関連	①レポートや論文作成において必要な文章が書けること ②論理的な文章が書けること 本科目では、本学 DP のうち、特に以下の二つの力を涵養します。 大学生活や自分の学びに関わる話題について、つながりのあるテキストを書くために必要な文法、文の構造を理解している。					
19.教科書・教材	特になし。 自分で学びたい人は、参考図書として指定しているテキストを購入してください。					
20.参考文献	二通信子・佐藤不二子著 『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク					
21.成績評価	授業内・後の課題/小テスト：20% 中間テスト等：30% 総括試験：40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・レポートに使われる文体			【第 1 回】 ○適切な文体への変換（60 分）		
【第 2 回】	対象・動作主に焦点をあてた文。 動詞の自他・態			【第 2 回】 ○練習問題（動詞の自他）（60 分）		
【第 3 回】	「は」と「が」 名詞化 「段落」の構成			○復習テストに向けての練習、準備（90 分）		
【第 4 回】	仕組みの説明（あたらしい概念の説明）			○復習テストに向けての練習、準備（90 分）		
【第 5 回】	歴史的な経過の説明			○復習テストに向けての練習、準備（90 分）		
【第 6 回】	分類			○復習テストに向けての練習、準備（90 分）		

【第 7 回】	定義	中間テストの準備（120 分）
【第 8 回】	中間テスト （ここまでのまとめ）	中間テストの振り返り
【第 9 回】	・ 比較・ 対照	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 10 回】	・ 因果関係	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 11 回】	意見・ 根拠	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 12 回】	資料の利用・ 引用	○復習テストに向けての練習、準備（90 分）
【第 13 回】	総括レポートの作成	総括試験準備、復習（180 分）
【第 14 回】	総括試験とふりかえり	【第 14 回】 総括試験の振り返り
【第 15 回】	試験の返却・ 解説 これまでの総括	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL203-Y01	2.科目名	日本語ライティングⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	杉本泰子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	レポートや論文作成など大学で学ぶのに必要な文章が書けることを目的とし、基本的な文章から論理的な文章の書き方や論理的思考の組み立て方などを体系的に学んでいきます。					
18.学習目標と DPとの関連	①レポートや論文作成において必要な文章が書けること ②論理的な文章が書けること 本科目では、本学 DP のうち、特に以下の二つの力を涵養します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。					
19.教科書・教材	特になし (必要な場合は、参考図書に指定しているテキストを各自購入することをお勧めします。)					
20.参考文献	二通信子・佐藤不二子著 『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク					
21.成績評価	授業内外課題 30% 小テスト等：40% 総括レポート：30%					
22.コメント	授業中のスマホ等の使用は、減点対象になりますので注意してください。 課題は期限内に提出してください。遅れて提出した場合は、減点対象になります。 「ライティング」の授業ですので、丁寧な字を書くようにしてください。読めない場合は減点対象になります。 授業を欠席する場合は、メールで連絡してください。					
23.オフィスアワー	金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【第 1 回】 オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] レポートに使われる文体			【第 1 回】 ○適切な文体への変換 (60 分)		
【第 2 回】	【第 2 回】 対象に焦点をあてた文、動作主に焦点をあてた文 動詞の自他・態			【第 2 回】 ○教科書の練習問題 (60 分)		
【第 3 回】	【第 3 回】 「は」と「が」 名詞化			【第 3 回】 ○教科書の練習問題 (60 分)		

	「段落」の構成	
【第4回】	【第4回】 仕組みの説明 段落構成を学ぶ	【第4回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第5回】	【第5回】 歴史的な経過の説明 分類	【第5回】 ○教科書の練習問題（60分） ★小レポート①提出
【第6回】	【第6回】 定義	【第6回】 ○教科書の練習問題（60分） ○小レポート②作成（60分）
【第7回】	【第7回】 要約 総括レポート準備	【第7回】 ○教科書の練習問題（60分） ○総括レポートの準備（60分） ★小レポート②提出
【第8回】	【第8回】 比較・対照 総括レポートのアウトライン作成	【第8回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第9回】	【第9回】 因果関係 総括レポート準備	【第9回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第10回】	【第10回】 論説文 総括レポート準備	【第10回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第11回】	【第11回】 資料の利用 総括レポートの作成	【第11回】 ○教科書の練習問題（60分）
【第12回】	【第12回】 レポートの作成 総括レポートの作成	【第12回】 ○総括レポート作成準備（60分）
【第13回】	【第13回】 総括レポートの作成	【第13回】 ○総括レポート作成準備（60分）
【第14回】	【第14回】 総括レポートの作成	【第14回】 ★総括レポート提出
【第15回】	【第15回】 総括レポート返却・振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL206-A01	2.科目名	ビジネス日本語Ⅰ（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	日本語科目の卒業に必要な単位を満たした学生で、更なる日本語の向上を目指す学生向けの科目です。特に日本国内、あるいは日系の企業に就職を希望する留学生について、ビジネスシーンで必要とされる高度な日本語力を涵養することを目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	日本で働くために必要なビジネスシーンに適したマナーや言葉遣い、文書の作成などを身につけること					
19.教科書・教材	授業時にプリントを配布します。					
20.参考文献	『ビジネス日本語②<新入社員編>』 凡人社					
21.成績評価	クラス活動：10％ 課題：10％ ロールプレイ：20％ 中間試験：30％ 総括試験：30％					
22.コメント	日本語初級後半で学んだ尊敬語や謙譲語を知識としてだけでなく、応用できるようにロールプレイなどを通して実践的に身につけていきます。日本で就職、あるいは日系企業への就職を希望する留学生に役立つ内容です。					
23.オフィスアワー	月曜3限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・ウォーミングアップアクティビティ			【第1回】 ○予習として、教科書を読んでわからないところをチェック (60分)		
【第2回】	【第2回】 ・ビジネス電話（受ける①）：教科書 pp.10-24 ・ロールプレイ			【第2回】 ○復習 (60分)		
【第3回】	【第3回】 ・ビジネス電話（受ける②）：教科書 pp.25-43 ・ロールプレイ			【第3回】 ○復習 (60分)		
【第4回】	【第4回】 ・ビジネス電話Ⅱ（受ける）：教科書 pp.45-73 ・ロールプレイ			【第4回】 ○復習 (60分)		
【第5回】	【第5回】 ・ビジネス電話Ⅲ（かける）：教科書 pp.75-107 ・ロールプレイ			【第5回】 ○復習 (60分)		
【第6回】	【第6回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.110-126 ・ロールプレイ			【第6回】 ○復習 (60分)		

【第 7 回】	【第 7 回】 ・ 訪問のマナー①：教科書 pp.127-149 ・ ロールプレイ	【第 7 回】 ○復習（60 分）
【第 8 回】	【第 8 回】 中間試験	【第 8 回】
【第 9 回】	【第 9 回】 ・ 中間試験の振り返り ・ 訪問者を応接する①：教科書 pp.152-163 ・ ロールプレイ	【第 9 回】 ○復習（60 分）
【第 10 回】	【第 10 回】 ・ 訪問者を応接する②：教科書 pp.165-180 ・ ロールプレイ	【第 10 回】 ○復習（60 分）
【第 11 回】	【第 11 回】 ・ 社内コミュニケーション①（報告・連絡） ・ ロールプレイ	【第 11 回】 ○復習（60 分）
【第 12 回】	【第 12 回】 ・ 社内コミュニケーション②（相談・会議） ・ ロールプレイ	【第 12 回】 ○復習（60 分）
【第 13 回】	【第 13 回】 ・ いろいろなビジネス文書 ・ 文書作成	【第 13 回】 ○復習（60 分）
【第 14 回】	【第 14 回】 ・ 学期の総まとめ	【第 14 回】 ○復習（60 分）
【第 15 回】	【第 15 回】 ・ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL206-Y02	2.科目名	ビジネス日本語Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【授業の概要】 日本語科目の卒業に必要な単位を満たした学生で、更なる日本語の向上を目指す学生向けの科目です。 【授業の目的】 特に日本国内、あるいは日系の企業に就職を希望する留学生について、ビジネスシーンで必要とされる高度な日本語力を涵養することを目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	日本で働くために必要なビジネスシーンに適したマナーや言葉遣い、文書の作成などを身につけること					
19.教科書・教材	授業時にプリントを配布します。					
20.参考文献	『ビジネス日本語②<新入社員編>』 凡人社					
21.成績評価	クラス活動：20％ 課題：10％ ロールプレイ：20％ 中間試験：25％ 総括試験：25％ 課題は必要に応じ、適宜宿題として課す。また、試験については学習した項目を反映させた内容による試験を行う。					
22.コメント	日本語初級後半で学んだ尊敬語や謙譲語を知識としてだけでなく、応用できるようにロールプレイなどを通して実践的に身につけていきます。日本で就職、あるいは日系企業への就職を希望する留学生に役立つ内容です。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・ウォーミングアップアクティビティ			【第1回】 ○予習として、教科書を読んでわからないところをチェック (60分)		
【第2回】	【第2回】 ・ビジネス電話 (受ける①)：教科書 pp.10-24 ・ロールプレイ			【第2回】 ○復習 (60分)		
【第3回】	【第3回】 ・ビジネス電話 (受ける②)：教科書 pp.25-43 ・ロールプレイ			【第3回】 ○復習 (60分)		
【第4回】	【第4回】 ・ビジネス電話Ⅱ (受ける)：教科書 pp.45-73 ・ロールプレイ			【第4回】 ○復習 (60分)		
【第5回】	【第5回】			【第5回】		

	・ビジネス電話Ⅲ（かける）：教科書 pp.75-107 ・ロールプレイ	○復習（60分）
【第6回】	【第6回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.110-126 ・ロールプレイ	【第6回】 ○復習（60分）
【第7回】	【第7回】 ・訪問のマナー①：教科書 pp.127-149 ・ロールプレイ	【第7回】 ○復習（60分）
【第8回】	【第8回】 中間試験	【第8回】
【第9回】	【第9回】 ・中間試験の振り返り ・訪問者を応接する①：教科書 pp.152-163 ・ロールプレイ	【第9回】 ○復習（60分）
【第10回】	【第10回】 ・訪問者を応接する②：教科書 pp.165-180 ・ロールプレイ	【第10回】 ○復習（60分）
【第11回】	【第11回】 ・社内コミュニケーション①（報告・連絡） ・ロールプレイ	【第11回】 ○復習（60分）
【第12回】	【第12回】 ・社内コミュニケーション②（相談・会議） ・ロールプレイ	【第12回】 ○復習（60分）
【第13回】	【第13回】 ・いろいろなビジネス文書 ・文書作成	【第13回】 ○復習（60分）
【第14回】	【第14回】 ・学期の総まとめ	【第14回】 ○復習（60分）
【第15回】	【第15回】 ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE101-Y01	2.科目名	日本語の構造Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤 創					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語のシステムを、様々な観点から捉え直すことによって、日本語(ひいては言語そのもの)に対する知識を深め、また柔軟で論理的な思考を養うことを目的とする。特に、日本語が話せない外国人の視点から見た日本語とはどのようなものなのか、つまり「外国語としての日本語」の特徴を掴めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は、「外国語としての日本語」という観点から日本語の文法や構造を客観的に捉えなおすものである。 対照言語学的視点から日本語学習者の困難を理解できるようになること、また、談話や語用論にも着目し、実際のコミュニケーションにおける日本語の特徴を探ることで、学習者が多様な社会的文脈の中で日本語を適切に使えるために必要な学習項目を理解できるようになることを目標とする。 本授業は以下の DP の能力を涵養するものである。 1) 自律的で主体的な態度 (自律性) 自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (レベル3) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (レベル2)					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	『よくわかる言語学 (日本語教師・分野別マスターシリーズ)』 定延利之 著 アルク 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 庵功雄 他 著 スリーエーネットワーク 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 庵功雄 他 著 スリーエーネットワーク					
21.成績評価	授業内課題 30% 中間テスト 30% 総括試験 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【オリエンテーション】 「外国語としての日本語」について授業の進め方についてのオリエンテーションの後、学習者が日本語を学ぶ際にどのような困難に直面するのか、またそれを母語話者である我々が訂正するにはどうすれば良いか、					

	といったことを考え、対照言語学的視点から「外国語としての日本語」という視点を手に入れる。	
第 2 回	【文法とは(国語教育と日本語教育)】 そもそも「文法」とは何か、という基本的な問いから、「国語教育における文法」と「日本語教育における文法」の違いを学び、どのような規則体系であれば、学習者に日本語を理解、定着させる事ができるかを考える。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 3 回	【品詞、カテゴリー】 言語の基本単位である単語の分類の仕方、日本語の基本的な品詞を学ぶ。 これらの「品詞分類」すなわち「カテゴリー」が意味によって左右される段階性のある曖昧なものであるかを学ぶ。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 4 回	【動詞・事態の描き方】 述語の核となる動詞 動詞の活用、活用の種類	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	【名詞・形容詞】 名詞、形容詞	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	【副詞・助詞】 動詞、名詞、形容詞を関係づける助詞 「格」の概念 分類不能なカテゴリーとしての副詞	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 7 回	【直示・やりもらい】 「ウチ/ソト」の概念(情報のなわばり) 直示表現 授受表現とやりもらい	○これまでの復習 中間テストにむけての準備（120~180 分）
第 8 回	これまでの振り返り 中間テスト	中間テストを受けての復習（90 分）
第 9 回	中間テスト解説（ここまでの振り返り）	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	【テンス/アスペクトについて】 出来事の時間に関する情報を表す表現（テンス、アスペクト）について、その体系性を学ぶ。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	【埋め込み文】 名詞修飾節 埋め込み文 文の中に名詞節が埋め込まれている埋め込み文について学ぶ(特に名詞修飾節、また「の」「こと」によって構成される内容節に焦点をあてる)。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	【複文】	○個人ワーク

	文と文の独立度 理由・条件・逆接 埋め込み文とは異なり、文と文が独立度を保ったまま結びついている複文について学ぶ	次回復習課題に向けての復習（60分）
第13回	【主語と主題/語用論1】 文章における情報の提示のあり方、談話、文脈の中での発話の意味について考察する。	総括試験準備（180分）
第14回	【語用論2と談話構造】 「語用論的な意味」の成立のメカニズムに加え、日本語という言語における「語用論的な規範」を学ぶ。また談話というひとまとまりの単位を構成するための文同士の結束性の概念を理解する。	試験結果を受けての復習(90分)
第15回	【総括試験】 これまで学んだ日本語の文法体系から、日本語という言語の本質を考える。また、こうした日本語を如何に教えるか、ということについても考える。	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE201-Y01	2.科目名	日本語教育事情		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では以下の項目を学ぶ。 ■日本語がどのように教えられているのか、あるいは教えられてきたのか、日本語教育の現在の状況と 歴史について。 ■現在の日本にいる留学生や外国人労働者がどのような状況にあるのか、その実情と彼らが(ひいては 日本が)抱える課題について。 ■上記と関連して、そもそも、どのようにして日本語が今のようになっったのか、その成り立ちや日本語の位置づけについて。 これらを通じて、 日本語教育、日本語学習者を取り巻く環境の実態と課題を知り、それら課題を解決するための方策を考える能力を					
18.学習目標と DPとの関連	本授業では、上述の学びを通じて、DP に掲げる以下の能力を向上させる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (レベル2) (4) 問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。 (レベル2)					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	『日本語教育能力検定試験に合格するための世界と日本』16 岡田英夫 著 『日本語教育の過去・現在・未来』 第一巻(社会) 水谷修 監修 凡人社 『日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド』 第2版 翔泳社 『歴史と文字表記』 石村卓雄 著 ヒューマンアカデミー 文化庁 日本語教育実態調査 http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittaichousa/index.html					
21.成績評価	授業内課題 30% 中間テスト 30% 総括試験 40%					
22.コメント	資料等は Web class 等で、pdf、word 形式で配布します。 必ず PC を持参すること。 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に関り認める。 テスト等での使用は認めない。					
23.オフィスアワー	金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	【オリエンテーション/日本語教育の現状】 世界の中の「日本語」の位置付け、また国内外の日本語の学習者数とその推移、彼らがなぜ日本語を学ぶのか、等について考える。	
第 2 回	【日本在住の外国人】 日本在住の外国人の在留資格、歴史的背景、彼らが抱える問題等について理解する。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 3 回	【日本在住の学国人】 日本在住の外国人の在留資格・歴史的背景	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 4 回	【言語に関わる政策等】 日本在住の外国人の抱える様々な問題とその対策、また各国の言語政策などについて学ぶ。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	【日本語教育機関/日本語試験/外国語試験】 日本語教育を担っている機関、それらが行う試験（JLPT,EJU,BJT 等の High Stakes test）について学ぶ。また日本語以外の言語についても、教育実施機関や実施試験について同様の観点から学び、外国語の能力とそれに関わる施策についても学ぶ。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	【日本語教育史 1】 台湾における日本語教育	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 7 回	【日本語教育史 2】 朝鮮半島・満州国・南洋諸島における日本語教育 日本語教育史のまとめ	○中間テストに向けての復習、整理(120～180 分)
第 8 回	【日本語教育史 3 今後のあり方に対する考え方とその歴史】 国語国字問題、言文一致運動、ICT 技術の発展とその課題（著作権問題等）といった観点から、日本語・日本語教育のあるべき姿について考える。 中間テスト	中間テストの復習（90 分）
第 9 回	【現在の仮名遣い/常用漢字表など(現在の国語政策について)】 文字の歴史 1(平仮名、片仮名の歴史、仮名遣いについて) 文字の歴史 2(漢字の歴史、常用漢字表 送り仮名の規則などについて) 仮名や漢字の成り立ちやその変遷について学ぶ。また現代仮名遣いやローマ字表記の決まり、常用漢字表等の意味やその存在意義などについて も考える。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	【日本語の音韻体系・表記法・文体など】 日本語の音韻体系、表記体系（文体）が現在の様な体系に至るまでの過程について学ぶ。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	【ローマ字表記や文体史】 ヘボン式・訓令式・日本式ローマ字 文体の歴史	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	【日本語学史(文法学史)】	○個人ワーク

	これまでに学んだ日本語の歴史的変化を先人達がいかにして明らかにしていったのか、日本語学、国語学の歴史を学ぶ。	次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 13 回	【まとめと展望】 現在の日本語教育の現状、在日外国人の現状、そして日本語が経て来た歴史的変化と日本語に対する我々の意識、といったこれまでに学んだ 知見から、今後の日本語教育がどのようにあるべきか、ひいては外国語教育がどのような形をとるべきか、などについて考える。	○総括試験に向けた復習(120 分～180 分)
第 14 回	総括試験	総括試験結果を受けての復習(90 分)
第 15 回	【これまでの総括と総括試験解説】	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE303-Y01	2.科目名	日本語教授法		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	日本語教師養成		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この授業では、外国語として日本語を教えるための基礎知識について学びます。 (概要) 日本語の特徴を理解しながら、教案の組み立て方、授業の流れ、教材分析を通して、ことばを効果的に教える方法を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 外国語としての日本語基礎知識が日本語教育で使えるようになる。 2) 日本語を教えるための授業運営ができる。 3) 日本語教授の実践力を持つことができる。 (学科の教育目標) 教室内外で学習した知識と実習などの経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる。					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献						
21.成績評価	宿題 20% インクラス・アクティビティー 20 % ティーチング 20% 最終レポート 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前、あるいは後アポイントを取ってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス: (授業の内容、評価基準について説明) ・ 日本語ウォームアップアクティビティー ・ 外国語としての日本語とは? 日本語教師に求められる資質は?			○授業の復習とノートの整理 (120 分)		
第 2 回	日本語基礎知識① ・ 日本語の基礎知識について学ぶ。			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第 3 回	日本語基礎知識② ・ 日本語の基礎知識について学ぶ。			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第 4 回	日本語基礎知識③ ・ 日本語の基礎知識について学ぶ。			○授業の復習とノートの整理 (60 分) ○問題に答える。(60 分)		
第 5 回	カリキュラムと全体の流れ ・ 何をどう教えるか。 ・ コースデザインとシラバスデザインについて知る。			○授業の復習とノートの整理 (60 分) ○問題に答える。(60 分)		
第 6 回	教材の種類と選択 ・ さまざまな教材についてその特徴と使い方を学ぶ。			○授業の復習とノートの整理 (60 分) ○問題に答える。(60 分) ○教材分析 (360 分)		
第 7 回	ティーチングの実例 ・ 実際の日本語教育の現場のビデオを鑑賞し、モデル			○授業の復習とノートの整理 (60 分) ○問題に答える。(60 分)		

	授業から効果的な教え方について考える。	★レッスンプランの作成（360 分）
第 8 回	日本語の文字指導 ・日本語で使われる文字の指導方法について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
第 9 回	初級クラスの指導 ・日本語学習の初級者を教えるための方法や活動について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
第 10 回	中・上級クラスの指導 ・読解力を向上させる指導方法について学ぶ。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○問題に答える。（60 分）
伊 11 回	コミュニケーションの指導 ・コミュニケーション力を向上させる指導方法について学ぶ。 授業の進め方と教案の作成 ・授業の進め方とレッスンプラン	○授業の復習とノートの整理（120 分） ★レッスンプランの変更・修正（360 分）
第 12 回	ティーチング・デモンストレーションの準備 ・来るティーチングに備えて、ティーチング・プランを修正し、教材を選択してデモンストレーションに備える。	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○最終レポートの整備（180 分） ○ティーチング・デモンストレーションの準備（360 分）
第 13 回	ティーチング・デモンストレーション	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○最終レポートの整備（180 分）
第 14 回	ティーチング・デモンストレーション	○授業の復習とノートの整理（60 分） ○最終レポートの整備（180 分）
第 15 回	まとめ、最終レポート提出	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	JPN108-Y01	2.科目名	日本の文化 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特にありません	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特にありません					
17.授業の目的と概要	日本の食文化、ルーツを訪ねて：食文化とは何か、日本料理と和食、カレーライスは和食？ 食の話は国際コミュニケーション、外国人との話題では一番人気、内容がおもしろければ下手な英語でも十分通じます。だから話に詰まったら食、日本の食文化は昔から大人気です。関西のどこに、神戸や京阪のどこに楽しく美味しい店があるのか詳しくなってもらいます。もちろん大学の授業なので、日本の食文化の歴史がその美味しさの裏側にどう込められているか、調理師専門学校ではないので料理実習はしませんが、半端でない量の食の知識を提供します。あとは自					
18.学習目標と DPとの関連	日本の食文化を体系的に知り、現代日本で暮らす自分の食文化がどう形成されたものかを考える。多様な文化を理解する上で和食を原点に置き、歴史的な視点で広く世界を捉える視点を養う。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	『和食文化学入門』					
21.成績評価	最終レポート 50 点と出席点 50 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース (研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 9 月 29 日	食文化とは何か、日本料理と和食、カレーライスは和食？ 「日本の食文化」とは言いますが、皆さん毎日どんな食事をしていますか？日本人である皆さん自身の食生活が「日本の食文化」なのですが、毎日和食ばかり食べている訳ではないでしょう。カレーライスもハンバーグもファストフードもコンビニ弁当も、イタリアンやフレンチ、中華もインド料理もけっこう食べています。それが日本の食文化、こんなにいろいろな食事が可能な国は、実はけっこう珍しいのです。だから、最初に世界各地の食文化と比べ、日本の食文化の特徴をいろいろ考えてみます。			〈アサインメント〉 カレーライスとラーメン、どちらも色んな種類があります。それぞれの知っているお店を書き出して提出して下さい。(例えば、Coco 壱番館、第一旭など) 〈事前学習〉 皆さんが好きな食べ物の中を 10 品ほど選び、その中から日本の独自のもの、海外から入ってきたものに分けて書き出して下さい。		
第 2 回 10 月 6 日	食と文化、多様な日本の食文化、関西と関東、東西南北 皆さんの食生活を尋ねてみます。身近にも意外と多様な、というかバラバラの食生活があります。関東出身のお父さんと関西のお母さんでは食文化が違うことがあります。北海道から沖縄まで、南北にも長い日本列島には多様な食文化があります。もう一つ、友達とか恋人と食事をするときに感じる異文化、好き嫌いや食事の仕方、作法は文化ですが、その違いが気になるこ			〈アサインメント〉 関東と関西で食文化はどう違うか 〈事前学習〉一人で食べる(個食)、家族と食べる、友人や知人と食べる、皆さん自身のこの 1 週間の食事を振り返り、それぞれの回数を調べて表にして下さい。		

	とがあります。食と文化、多様な日本の食文化を探ります。	
第 3 回 10 月 13 日	現代社会の食問題、日本人の食文化を広く知る 「和食－日本人の伝統的な食文化」は、2013 年ユネスコの無形文化遺産に登録されました。その文化的価値は、自然を尊ぶ、四季折々の食材、調度品や器などにあります。でも、日本の伝統的な食文化は急速に失われています。伝統的な生活を送っている人は少なく、和食を食べることは決して簡単ではない、そのいろいろな理由を考えてみます。世界の多様な食文化を取り入れただけでなく、現代社会の孤立や貧困の問題があり、今晚の食事を満足に取れない子供も増えています。そのために「子供食堂」の活動	〈アサイメント〉 食の貧困について身近な問題を上げて紹介して下さい。 〈事前学習〉 縄文時代と弥生時代について、それぞれ 100 字以上で説明した文章を提出して下さい。
第 4 回 10 月 20 日	和食文化学①：縄文から弥生へ、狩猟採集から農耕への変化 さて、ここから 10 回に分けて日本料理の歴史をお話します。まず、原始時代、縄文時代と弥生時代です。狩猟採集が中心だったのが縄文時代、農耕、特に稲作が始まった弥生時代です。昆布、鰹節、茸や果実や山菜の多くは縄文時代からあり、米や麦は弥生時代のもので。縄文の名残は北海道東北と沖縄によく残っています。また、弥生時代は本州でも近畿から東海によく残っています。現代の日本の食文化の地域ごとの特徴は原始時代遡ります。	〈アサイメント〉 出汁とは何か。旨味成分にはグルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸、アスパラギン酸、コハク酸があります。それぞれを含む食材を書き出して下さい。 〈事前学習〉 平安時代について 100 字以上で述べて下さい。
第 5 回 10 月 27 日	和食文化学②：古代の食文化・神饌料理と大饗料理、その後、文明が発展するにつれて、人々の信仰が古代の社会の中心になります。シャーマニズムとかアニミズムと呼ばれます。日本では原始神道と呼ばれ、岩や山を崇め、神社を建て神を祀ったのですが、その際に神饌（神様のための料理）が生まれ、お供えの形ができました。この神様に捧げた料理が、飛鳥時代、奈良時代、平安時代と少しずつ貴族の料理として広がって大饗料理ができました。塩、酒、酢、醤、糖の使い方が定まった時代です。	〈アサイメント〉 平安時代の大饗料理ではどんな食材が食べられていましたか述べて下さい。 〈事前学習〉 鎌倉時代から武士の世が始まりました。貴族と武士の違いはどこなところですか。100 字以内で述べて下さい。
第 6 回 11 月 10 日	和食文化学③：鎌倉時代の食文化・精進料理の導入 鎌倉時代は武士の時代です。また南宋（中国）に渡った栄西が禅宗（臨済宗）を持ち帰り、道元は少し遅れて曹洞宗の禅を伝えました。禅の教えのなかに精進料理があります。それ以前から仏教は殺生を禁じ、肉食を避けました。精進料理は肉魚卵だけでなく、五葷（ごこん）といってニラやニンニクを禁じます。さらに、調理や食事の作法を詳しく決めました。日本の食文化にはその影響がたくさん残っています。肉魚の代わりに「もどき」料理ができ、雁の肉の代わりが雁（がん）もどき、色んな食材がありました。	〈アサイメント〉 授業で紹介した道元の「典座教訓」に書いてある食事作法を一つ紹介して下さい。 〈事前学習〉 皆さんはどんな宗教と関わりがありますか？家族や親戚の身近な宗教、お寺や神社を調べておいてください。
第 7 回 11 月 17 日	和食文化学④：精進料理と典座教訓、禅宗の食文化 この回は、本格的に禅宗と精進料理、道元の『典座教訓』のお話をします。日本の食文化には、お茶碗や鉢	〈アサイメント〉 皆さんが子供の頃から受けた食事の躰、特にしてはいけないことを思い出し、なぜダメな

	など精進料理の影響が和食にはとてもよく残っています。典座教訓は、中国留学の最初の日に道元が寧波の港であった僧侶との出会いの話から始まり、出会った典座と呼ばれるお寺の調理場（庫裏）の責任者から聞いた心得や調理技術を書いた本です。「えっその話、ここから来たの」というようにお母さんや料理人の皆さんがよく口にする内容が出てきます。今では内容がよく誤解されてもいますが。	のか書いてみて下さい。 〈事前学習〉 中世の人々は、何を食べていたか調べてみて下さい。
第 8 回 11 月 24 日	和食文化学⑤：室町時代の食文化・本膳料理の発展 鎌倉時代から室町時代と武士の時代が続くと、公家の作法でも寺の精進料理でもない武士特有の食文化が広がります。本膳料理です。やたら品数が多く、もちろん食べられませんからもち帰ってもらいます。持ち帰って家族や家来に上げるのです。そう、お土産、お持ち帰りの始まりです。現代の日本では独居が多いのに、持ち帰る人がいるのはこの名残です。当時の無題に贅沢な本膳料理も、田舎にはまだけっこう残っています。結婚式や葬式の御馳走です。そのルーツなのです。	〈アサイメント〉 結婚式とお葬式でどんな御馳走が出るか書き出してみてください。 〈事前学習〉 茶道にはどんな流派があるか調べてみて下さい。また、日本茶にはどんな種類があるか書き出してみてください。
第 9 回 12 月 1 日	和食文化学⑥：懐石料理と茶道、茶の普及と和食の確立 茶道が今でもよく伝わっているので、懐石料理から後の食文化は和食文化として大切に思う人がたくさんいます。とはいえ、若い皆さんに茶道が身近だとは思えません。茶道を嗜まない皆さんに懐石料理を、とても簡単に解説します。本格的な茶懐石を最初に紹介し、現代の懐石料理屋さんで楽しむ懐石料理、美味しく食べる方法をお話しします。	〈アサイメント〉 あまり行ったことはないと思いますが、関西の懐石料理店を調べて、リストにしてください。 〈事前学習〉 江戸時代は長く続きました。この間、どんな文化があったか調べて述べて下さい。
第 10 回 12 月 8 日	和食文化学⑦：会席料理、江戸料理と京大阪の料理、東西の食文化 江戸時代には飲食店が発展して豊かな人々が外食を楽しむように時代です。外でお酒を飲むのもこの時代に広がりました。薄茶で始まり濃茶で終わる懐石料理をアレンジして、酒で始まり酒で終わる会席料理、盃を交わす作法もお茶の影響があります。京都と大阪には贅沢な料理屋さんが増えました。一方、江戸の町が栄えたため江戸料理も広がりました。	〈アサイメント〉 江戸（東京）で生まれた料理にはどんなものがあるか探してみてください。 〈事前学習〉 江戸（東京）で有名な観光地を調べてみて下さい。
第 11 回 12 月 15 日	和食文化学⑧：近代化と西洋料理の導入、偽洋風料理と和食 それまでもポルトガルやスペインから、江戸時代にも出島を通じてオランダと中国から食文化が入っていましたが、江戸時代末の開国で西洋文化が一気に入ってきます。まず肉食、横浜と神戸の開港で滞在する欧米人が渴望した新鮮な牛肉は神戸では豊富で、横浜にも運ばれ「神戸ビーフ」として世界中に知られました。そう、だから神戸と横浜が洋食の本場だと知られました。でも、海外を知らない当時の日本人には変な誤解が多く、その後の間違った異文化理解に繋がりました	〈アサイメント〉 神戸ビーフはどこで作られているか調べて書いて下さい。また、牛肉をステーキで食べるか、焼肉で食べるか、どちらが日本的か意見を述べて下さい。 〈事前学習〉 肉ジャガの本場はどこでしょう。カレーの本場はどこでしょう。

	た。	
第 12 回 12 月 22 日	和食文化学⑨：明治の国民の食文化文化戦後の食文化 圧倒的な欧米諸国の軍事力、工業力を見た明治の日本人は、遅れた貧しい日本を富国強兵にしようと軍隊や工場では衣食住の生活面も欧米志向で進めます。ビーフシチューは肉ジャガに、トマトはケチャップにと日本独自の料理、食材が生まれました。洋菓子の多くも亡命ロシア人が神戸に伝え、リプトン紅茶やコーヒーも神戸から入ってきました。こうした明治の神戸と日本の食文化をお話しします。	〈アサイメント〉 神戸市内で一番古いコーヒーショップ、紅茶店、洋菓子屋、和菓子店を調べて下さい。 〈事前学習〉 皆さんの学校給食の思い出を書いて下さい。一番好きなメニューも思い出して下さい。
第 13 日 1 月 12 日	和食文化学⑩：戦後の食文化、ファストフードとファミレス 太平洋戦争が終わった当時、人々は食料不足に苦しみました。アメリカの援助で小麦粉と牛乳（脱脂粉乳）が大量に届き、早速栄養不足の子供たちの給食になりました。最初はタダでした。その 20 年後に最初の大阪万博が開かれます。その時にはケンタッキーとマクドナルドが華々しく入ってきました。国内資本も負けずにスカイラークやロイホが生まれました。この 1970 年当時の食生活が現在まで続いています。	〈アサイメント〉 一番好きなファストフードとファミレスを上げて下さい。また和食で好きな店を一つ加えて下さい。 〈事前学習〉 神戸、大阪、京都で一番行ってみたい飲食店を上げて下さい。
第 14 回 1 月 19 日	関西の食文化：食は大阪にあり、京料理とグルメ文化の神戸 関西は食の宝庫、食文化が発展した土地柄です。京都と大阪、そして神戸、それぞれに日本の食文化の発達に大きな役割を果たしました。これまでお話しした日本の食文化の歴史を振り返り、関西の 3 大都市の食文化史をまとめてお話しします。どれも大都市なので、食で見ていくといくつもの小さな拠点があります。加えてもう一つ 4 番目の堺市の食文化にも触れます。さらに、神戸の中華料理、大阪や京都の韓国料理にも触れますが、どちらも本国と違い日本かしたい中華であり、焼肉店になっています	〈アサイメント〉 神戸、大阪、京都の食文化の特徴を説明する際、何をどう語りますか？それぞれを上手にまとめてレポートして下さい。 〈事前学習〉 海外の日本料理店で働くとするどの国のどの町のどんな和店がいいか、あわせてその理由述べて下さい。
第 15 回 1 月 26 日	日本の食品産業：世界に広がる和食の世界、食品業界を就職先に狙うなら 和食がユネスコ無形遺産に登録され、その海外進出が盛んになりました。今や世界に 20 万店の日本料理店があり、日本国内の 30 万店に近づいています。一方で、家庭で料理しなくなった分、外食産業や食品加工業が盛んになりました。重工長大産業が栄えた昔と違い、生産額、事業所数、従業者数などどれを見ても食関連産業が大きくなりました。でも多くの人はその実態を知りません。特に関西には食品大手が集まっています。就活の参考に、関西の食品ビジネスを紹介します。	〈アサイメント〉 最終課題です。もし食関係に就職先を考えるなら、飲食店、食品製造業、食料品店、農業畜産業、漁業などどんな業種のどんな仕事がいいか述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	JPN205-Y01	2.科目名	アジア研究	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、韓国などの東アジアやカンボジア、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアなどの東南アジアの国や地域について紹介する授業です。日本と関係の深いこうしたアジア諸国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。In this course, students will learn about Asian countries such as China, Korea, Taiwa				
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる Can develop an interest in other cultures through the coursework. Can understand and respect the cultural differences between these Asian countries and Japan. Can reflect upon one's thoughts and actions. (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力				
19.教科書・教材	授業時に適宜配布します				
20.参考文献	授業時に適宜配布します				
21.成績評価	①授業内タスク（ミニテスト＆課題など）20%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）20%、④期末レポート 30% Course evaluation will be based on 1. assignments (20%), 2. presentation (30%), 3. reaction paper（20%）, and 4. final report (30%)				
22.コメント	アジアの隣国の人たちは、日本のことをよく知っているのに、日本の多くの学生は、彼ら・彼女らのことを十分によく知りません。この授業では、グローバルリサーチでも関わりの深いアジア諸国について、基本的なことを幅広く学びます。グローバル思考を持つにしても、まずは隣国のアジア諸国の事情に詳しくなる必要があります。ぜひアジアに対する理解を深めましょう。 ＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	授業の紹介、講師の紹介など				

	Course Introduction	
	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on China (history, culture, politics etc.)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	香港についての紹介（香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Hong Kong (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	台湾についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Taiwan (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Korea (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション Appreciation of Korean movie and discussion.	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション Appreciation of Korean movie and discussion.	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	カンボジアとフィリピンについての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Cambodia and Philippines (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	ベトナム、タイについての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Vietnam and Thailand (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	マレーシア、インドネシアについての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します） Lecture on Malaysia and Indonesia (history, politics, and culture)	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（１２０分）
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表） Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	

	Presentation on a country in Asia of students' choice.	
	授業のまとめと復習 Course Conclusion	

1.授業コード (ナンバリング)	JPN206-Y01	2.科目名	日本のポップカルチャー		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学科、(その他の学 科は履修要項で確認してください)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義やディスカッションなどを中心に行う授 業です。映像資料も適時使用します。また、 プレゼンテーションも行います。 This class will proceed with lectures and discussions. Visual materials such as movies will be used occasionally. There will be a presentation by students as well.	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、日本のポピュラーカルチャー（現代文化）について学ぶ授業です。アニメや漫画 やゲームや音楽やスポーツなど、日本のポピュラーカルチャーをいろいろと取りあげて比較 し、その歴史について学ぶとともに、ポピュラーカルチャーを通して日本社会についての理解 を深めることを目的とします。授業では、アニメ作品も鑑賞する予定です。 This survey course introduces the range of Japanese popular cultures such as animation, comics					
18.学習目標と DPとの関連	異なる文化や言語、自分と異なった考え方や行動する人たちがいる多様な社会を理解し大切に 考え、国際的な視点や環境保護の視点から世界市民として行動することができる よりよい問題解決のために、偏った判断をしない公正さを保ち、その時・その場の状況に応じ て、判断したり、アプローチの仕方を変えたりしながら、道筋を立てて論理的に考えることが できる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業で教材を配布します。 Some reference materials will be distributed in class					
20.参考文献						
21.成績評価	Assignments（授業内の課題）30%, Final Report（期末レポート）30%, Presentation（プレゼ ンテーション）20%, Participation（平常点：リアクションペーパー）20%					
22.コメント	この授業では、日本の様々なポピュラーカルチャー（現代文化）を多様な観点から捉えていき ます。日本の歴史や政治や伝統文化について学ぶ授業は多々ありますが、こうしたポピュラー カルチャー（現代文化）について学ぶ授業はそれほど多くありません。しかし、ポピュラーカ ルチャー（現代文化）も日本文化の重要な一部です。それについて理解を深めることは、日本 社会について理解を深めることにもつながってきます。また、日本文化を外国人に紹介する時 にも、こうしたポピュラーカルチャー（現代文化）についての知識は重要です。 もしアニメや漫画やゲームや音楽やスポーツなどを含むポピュラーカルチャーに興味があつた ら、この授業を楽しめると思います。ぜひ気軽に見学にきてください。 In this class, you will learn about Japanese popular culture from various angles. If you are interested in Japanese popular culture including manga, animation, music, sport, and game, I am sure you will enjoy this class. Looking forward to seeing you in class!					

		* 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Course Introduction (授業の紹介)	
第 2 回	Introduction of Japanese popular culture: overview (日本のポピュラーカルチャーについての概要の紹介)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 3 回	about manga culture (漫画文化について)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 4 回	about convenience store and part-time job (コンビニ文化について、および、アルバイトについて)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 5 回	about cell phone and internet (携帯文化について、および、ネットについて)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 6 回	about animation culture (アニメ文化について)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 7 回	movie appreciation and discussion (日本のポピュラーカルチャーに関する映画鑑賞とディスカッション)	
第 8 回	movie appreciation and discussion (日本のポピュラーカルチャーに関する映画鑑賞とディスカッション)	
第 9 回	about sport (スポーツについて)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 10 回	about music and movie (音楽と映画について)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 11 回	about music and movie (音楽と映画について)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 12 回	Presentation (プレゼンテーション)	
第 13 回	Presentation (プレゼンテーション)	
第 14 回	Presentation (プレゼンテーション)	
第 15 回	Course conclusion (まとめ)	

1.授業コード (ナンバリング)	JPN207-Y01	2.科目名	日本文学		3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard Leckie					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 This course will provide an overview of trends in modern and contemporary Japanese literary expression and help students become familiar with literary works published from the early Meiji period to the present day, as well as works published in Engli					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. Improve knowledge of modern and contemporary Japanese literature. 2. Read works from a variety of eras and literary movements. 3. Select what they want to read for homework. 4. Develop other skills such as speaking and writing. 5. Work both individually and cooperatively in pairs and groups. 6. Keep a weekly reading journal. 【関連する DP】 (1)自律性 (3)多様性理解 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	Course materials provided by teacher					
20.参考文献	None					
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Reading journal 30% (学習目標 2, 3, 6 に対応) (2) Written as					
22.コメント	Bring your laptop to all class meetings					
23.オフィスアワー	Speak to the instructor before or after class, or contact by email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Explanation of Course, Overview of Pre-Modern Literature			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		
Week 2	From Pre-Modern to Modern: Transitional Authors			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		
Week 3	Naturalism (shizenshugi) and Anti-Naturalism			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		
Week 4	The “I Novel”			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		
Week 5	The Shirakaba School			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		
Week 6	Other Taisho Era Writers			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		
Week 7	Proletarian Literature			Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)		

Week 8	Modernist Literature	Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 9	Conversion Literature and War Literature	Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 10	Women Writers	Reading Journal + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 11	Popular Literature	Homework Presentation (4hrs/week)
Week 12	The Decadent School (buraiha)	Homework Presentation (4hrs/week)
Week 13	First and Second Generation of Postwar Writers	Homework Presentation (4hrs/week), Final Report (4hrs/week)
Week 14	Third Generation of Postwar Writers, submit final reports	Homework Presentation (4hrs/week)
Week 15	Important Contemporary Writers, final feedback	

1.授業コード (ナンバリング)	JPN208-Y01	2.科目名	日本の伝統文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	2 回生～	
10.取得資格の要件	とくになし		11.先修条件	とくになし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（人数によっては演習方式も取り入れる）		
16.履修制限	とくになし					
17.授業の目的と概要	本授業の目的と概要：下記の学修 日本は、歴史的・文化的影響を絶えず海を隔てた大陸から受けつつ、それを醸成しながら自らの文化を育んできた。そのため、東・東南アジア世界の中で多くの共通点を持ちながらも独自の特徴的な文化が継承されている。 そうした伝統文化を育んだ気候風土、歴史、海外との関係について学ぶとともに、日本の行く末を考える糧とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業の学習目標は、観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）のうちとくに下記に関連しています。 ・ 自律的で主体的な態度（自律性） ・ 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） ・ 問題発見・解決力 本授業の学習目標：以下を説明できること。 ?日本の歴史の概略 ?日本と外国との歴史上の関わり ?20 世紀後半～現代の変化 ?外国から見た日本文化					
19.教科書・教材	特定の教科書は使わない。WebClass 上の授業資料の確認・復習を怠らないこと。					
20.参考文献	家永 三郎（1982）『日本文化史』 第 2 版岩波書店 大隈和雄（2017）『日本文化史講義』 吉川弘文館 尾藤 正英（2000）『日本文化の歴史』 岩波書店 など					
21.成績評価	課題の提出：30％（上記学習目標?～?） 中間試験：30％（学習目標?～?） 期末試験：40％（上記学習目標?～?）					
22.コメント	・ 最重要事項＝やる気、本気、根気、好奇心と情熱。 ・ 自分自身で調べ、考えること。					
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	イントロダクション：世界史のなかの日本史・日本人とは？			WebClass 上の授業資料の確認・復習		
【第 2 回】	気候風土と衣食住と民族			WebClass 上の授業資料の確認・復習		

【第 3 回】	縄文時代から弥生文化へ：日本の基層文化（1）	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 4 回】	縄文時代から弥生文化へ：日本の基層文化（2）	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 5 回】	日本神話：『古事記』『日本書紀』と天皇制	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 6 回】	世界と日本との接点	今日の人類の 99.999%を支える歴史的分岐点。
【第 7 回】	土着の宗教・外来の宗教	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 8 回】	中間試験	前半の振り返り
【第 9 回】	外国人から見た日本文化（1）：宣教師・研究者の記述	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 10 回】	外国人から見た日本文化（2）：ジャポニズム	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 11 回】	外国人から見た日本文化（3）：ステロタイプから真の理解へ	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 12 回】	20 世紀後半～現在（1）：戦後の復興と高度経済成長	WebClass 上の授業資料の確認・復習。
【第 13 回】	20 世紀後半～現在（2）：経済のグローバル化と産業空洞化問題	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 14 回】	20 世紀後半～現在（3）：大規模災害と危機管理、少子化、インターネット・SNS・IT 産業の普及	WebClass 上の授業資料の確認・復習
【第 15 回】	総括試験	総括

1.授業コード (ナンバリング)	LAW102-A01	2.科目名	人権と法		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	必須ではありませんが、興味のある学生には、「法律学概論」や「日本国憲法」を併せて受講することを勧めます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：現代社会の様々な現象や問題に対して、近代法の基本原理を踏まえたうえで、自立して取り組めることを目的とします。 概要：「法と道德の違い」「正義とは何か」「国家の存立基盤」「人権の基礎」など、現代国家の基礎を成す発想を学びます。講義では受講者に対して様々な質問を提起し、質疑応答を取り入れます。積極的な参加を期待します。					
18.学習目標と DPとの関連	現代社会学部の DP2（主体的な問題解決）、S1（現代社会の諸問題を理解）、S2（社会に対する科学的な理解）、K1（歴史・文化の理解）と関連します。具体的な到達目標は： (1)現代社会の様々な現象や問題に対して、近代法の基本原理を踏まえたうえで、意見形成できる。 (2)現代社会のさまざまな社会制度や法領域について、必要な背景知識を踏まえて論じられる。 (3)「権利」「国家」「正義」等の法的概念について、既往の議論を踏まえて取り組むことができる。					
19.教科書・教材	定期的に資料を配付します。教科書は使用しません。なお、レジュメや関連資料を、オンラインでも公開していく予定です。予習復習に活用して下さい。					
20.参考文献	講義中に適宜紹介します。					
21.成績評価	1. 講義中に、アンケートや簡単なテストを定期的に行います。また、講義中に質疑を行いますので、その際の応答や参加姿勢も考慮します。主に到達目標(1)、(2)に関連します。…合わせて40 点満点 2. 講義内容の理解度を確認するための期末試験を実施します。主に到達目標(2)(3)に関連します。…60 点満点 いずれも、そこまでの講義内容全体をカバーするかたちで行います。 全体で 60 点以上が単位認定となります。アンケートは、4 回中 3 回以上の提出を必要とします。					
22.コメント	社会的に重要な事件や出来事が、日々報道されています。そうした問題について考えるうえで、「何が正しいか」「正しいとはどういうことか」「何を基準にして判断すればよいか」を考えるうえで、法学は非常に有益な道具立てを提供してくれます。社会制度とその動きについて、日頃から関心をもって見聞を広めて下さい。 生成 AI に関しては、レポート作成の際に参考にはできます。しかし、内容が大きすぎて誤っていることも非常に多いため、生成 AI 等による情報はあくまで参考に留め、信頼できる書籍に当たって確認を取ることを強く推奨します。 大学での学問は、「正しい知識をどのようにして自分で見つけていくか」、そのための適切なやり方を学ぶことが重要です。生成 AI からの丸写しだけでは、あなた自身の能力を伸ばすことはできませんし、丸写しで間違ったレポートになって成績を落としても、生成 AI は責任を取ってくれません。					
23.オフィスアワー	質問や相談は、講義前後の時間に受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	イントロダクション（本講義の目標、概要、評価方式等について）。 講義：生活の中の法（※以下、ことわりのない限り講義形式）。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
2	ディスカッションと解説（アンケートに関して）。 法の基本的性質Ⅰ（そもそも「法」とは何か）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
3	ディスカッションと解説（アンケートに関して）。 法の基本的性質Ⅱ（近代法が備える4つの基本的性質）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
4	法の基本的性質Ⅲ（社会規範、制裁）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
5	法システムの社会的機能Ⅰ（社会統制、活動促進）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
6	法システムの社会的機能Ⅱ（紛争解決、資源配分）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
7	法と道徳Ⅰ（相互の異同と関係について）。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
8	法と道徳Ⅱ（具体的事例に即した検討）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
9	法と道徳Ⅲ（アンケートに対する解説）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
10	法と強制（法の実効性や強制の根拠）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
11	法と正義Ⅰ（正しさの様々な基準：適法的正義、形式的正義）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
12	法と正義Ⅱ（実質的正義、手続的正義）。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
13	法と正義Ⅲ（具体的事例に則した検討）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
14	期末試験（※オンライン授業になった場合は、レポート課題に変更する可能性がある）	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
15	期末試験の解説。 各国の法（法の多様性）。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。

1.授業コード (ナンバリング)	LAW102-Y01	2.科目名	人権と法		3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および講義前演習	
16.履修制限	特に設けないが、日本国憲法を既に履修したか、または同時並行的に履修していることが望ましい。					
17.授業の目的と概要	本科目は、日本国憲法で履修する基本的人権の知識を基礎に、我々が日常生活を送るうえで直面する様々な場面（誕生～就労～死亡）において、必要とされる法律知識とその根拠となる権利・自由について理解を深め、将来その知識を活用できるようにすることを目的としている。 具体的な一例をあげると、就職して退職するまで一労働者として勤務するが、労働者は雇用される立場にあるので、どうしても立場が弱くなりがちである。そこで、労働者の立場を守る様々な法律が制定され、労働者が不当な目に遭わないよう、法的な保護がなされている。それを踏					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①様々な生活場面における法律問題を理解し、法律的に適切な対処ができるようになる。 ②法律の条文に慣れ親しみ、条文の意味内容を理解できるようにする。 ③他者に対する人権や自由を尊重できるようにする。					
19.教科書・教材	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子 『ライフステージと法 第8版』 有斐閣アルマ					
20.参考文献	講義資料等は、WebClass を通じて配布する。					
21.成績評価	成績評価については、以下の全ての評価対象を実施した上で、合計が 60% 以上の場合に、合格とする。 ① 小テスト（2 回） 50%（各 25% の 2 回分で最大）・・・学習目標①に対応 ② 総括試験 50%（最大）・・・学修目標②と③に対応 ※ 2 回分の小テストは、5 回目と 10 回目の講義時間を使い、WebClass で実施するので（15 分程度）、少なくとも当日はパソコンを必携することを求める。 ※ ※ 出席点および平常点の評価は一					
22.コメント	①法律は独特の用語が目立ち、難解と思えそうだが、条文を読むことに慣れてしまうと苦にならない。講義を通じて、基本的な考えを理解することは大切であるが、分からないことがあれば積極的に質問してほしい。 ②生成 AI の利用を一切認めない。したがって、WebClass を利用した 2 回の小テスト、期末に実施する総括試験は、自力で受験するものとする。					
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能で問い合わせも可。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション（シラバス内容についての補足説明、受講上の注意点、講義の進め方など） （講義）本格的な講義を始める前に、講義の理解をスムーズにするために必要とされる法律概念や予備知識を説明する。			（予習） テキスト i - vi ページ（プレリユード）を読むしておくこと。 （復習） 講義ノートの整理		

第 2 回	(講義) テキスト stage1「社会人へのパスポート」をテーマに、年齢と法律との関係を見つつ、どのような場面で年齢が法律と関わってくるのかを理解する。また、法律によって個人に与えられた権利をどこで主張できるのか、誰によって守ってもらえるのかも講義する。テキスト 2-11 ページ該当 (講義前演習) 年齢と法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 2-11 ページを読んで、法律が年齢によって異なる扱いをするのはなぜかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 3 回	(講義) テキスト stage2「働く自由・女であることの自由」をテーマに、男女平等の時代にあっても、女性が見えないガラス張りの雇用環境によって劣遇されている現実を裁判例から見ていく。それを踏まえて、女性を法的に救済する立法にどのようなものがあるのかを講義する。ひいては、女性差別解消の方策と一緒に考えていきたい。テキスト 14-40 ページ該当 (講義前演習) 女性差別を解消する法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 14-40 ページを読んで、女性が差別される背景がどこにあるのか、また立法上の対応にどのようなものがあるかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 4 回	(講義) テキスト stage3「働きかたいろいろ」をテーマに、勤労の自己決定、非正規労働者の法律的保護とその限界を講義する。テキスト 42-68 ページ該当 (講義前演習) 労働法に関する確認テスト	(予習) テキスト 42-68 ページを読んで、労働者が法律的にどのような保護を受けているのかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	(講義) テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、消費者保護立法の基本的知識を習得する。そして、消費者はなぜ弱い立場に立たされるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 (講義前演習) 契約など民法の基本的知識に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (1 回目) の実施 ※	(予習) テキスト 70-111 ページを読んで、消費者保護が求められる場面と法律的対応との関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI による小テストの受験は不許可とする。※
第 6 回	(講義) テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、損害賠償制度について講義する。契約違反や法律上の権利や利益を侵害された場合に、どのように損害を賠償させるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 (講義前演習) 損害賠償制度に関する確認テスト	(予習) テキスト 70-111 ページを読んで、損害賠償制度について理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 7 回	(講義) テキスト stage5「恋愛のルール」をテーマに、恋人間で成立する法律問題、特に性的暴力、婚約、不倫など一般的なトピックを題材に、どのような法律的責任が発生するのかを説明していきたい。テキスト 114-135 ページ該当 (講義前演習) 男女間に適用される法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 114-135 ページを読んで、恋人間で適用される法律にどのようなものがあるか理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 8 回	(講義) テキスト stage6「結婚の夢と現実」をテーマに、結婚に関する法律を講義する。特に法律婚と事実婚の法律的な違い、夫婦別姓、相続など一般的なトピックを題材に、成立要件や効果を説明する予定である。テキスト 138-159 ページ該当	(予習) テキスト 138-159 ページを読んで、婚姻が成立するための条件や婚姻後夫婦にどのような権利義務が発生するのか確認する。 (復習)

	(講義前演習) 婚姻など夫婦間に適用される法律に関する確認テスト	講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 第 8 回までで講義できないトピック、特にテキストに言及されている Column のうち、幾つかを取り上げて、余録的なアプローチから「法律の別の顔」を講義する。	(予習) 第 1 回から第 8 回までの講義内容を整理し、中間確認テストに備える。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) テキスト stage7「子どもを産む・産まない」をテーマに、出産に関する自己決定(墮胎を含む。)、代理出産、生殖医療と法律・倫理について説明する。 テキスト 162-181 ページ該当 (講義前演習) 出産や子供の権利についての確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(2 回目)の実施 ※	(予習) テキスト 162-181 ページを読んで、女性の自己決定を中心に出産の自由について理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI による小テストの受験は不許可とする。※
第 11 回	(講義) テキスト stage8「子どもと親のピミョーな関係」をテーマに、法律的な親子関係、特に親権や養育・監護権、虐待など親子間で起こりうる法律的な問題について講義する。テキスト 184-210 ページ該当 (講義前演習) 親子関係の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 184-210 ページを読んで、親子関係に関する法律について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) テキスト stage9「ふたたびの出発」をテーマに、離婚にまつわる法律について講義する。特に、離婚の成立要件、離婚の効果などを中心に扱うことにする。テキスト 212-230 ページ該当 (講義前演習) 離婚の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 212-230 ページを読んで、どのような場合に離婚が成立し、離婚成立後の元夫婦間の法律関係について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	テキスト stage10「親の介護はだれが？」をテーマに、介護保険を軸とした法律問題について講義する。テキスト 232-251 ページ該当 (講義前演習) 介護保険に関する確認テスト	(予習) テキスト 232-251 ページを読んで、介護保険制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 14 回	(講義) テキスト stage11「親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら」をテーマに、法的な死亡の定義、遺言と相続、生存親族の義務などについて講義する。テキスト 254-273 ページ該当 (講義前演習) 相続に関する確認テスト	(予習) テキスト 254-273 ページを読んで、相続制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI による総括試験の受験は不許可とする。※

1.授業コード (ナンバリング)	LAW104-A01	2.科目名	日本国憲法		3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 副専攻(世界と日本を考える) 副専攻(平等を考える) 幼稚園一種		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けない。					
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。 憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。 加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。 また、教職課程の科目でもあるため、教員を					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの(2)社会的貢献性、(6)専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。 ②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。 ③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。					
19.教科書・教材	吉田仁美(編) 『スタート憲法 第4版』(2024 年) 成文堂					
20.参考文献	必要に応じて配布する。					
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト 1 回目(第 5 回目の講義時に実施) 最大 25% <学習目標①および③に対応> ②小テスト 2 回目(第 10 回目の講義時に実施) 最大 25% <学習目標①および③に対応> ③総括試験 (第 15 回目に実施) 最大 50% <学習目標②に対応> 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格(単位認定)とする。 ※ 小テストは、各回 15 分程度のものを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって					
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②憲法を中心に社会を見つめ、人権を尊重するということとはどのような意味を持つものなのかを考えながら、講義に参加して欲しい。 ③生成 AI の利用は一切認めないものとする。従って、WebClass を利用した 2 回の小テスト、最終回に実施する総括試験は、自力で受験することになる。					
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可(ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある)。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	（講義）講義の進め方と憲法の内容についての説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。	（復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）憲法史 憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト 1～7 ページ該当 （講義前演習）憲法の基本知識に関する確認テスト	（予習） テキスト 1-7 ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。
第 3 回	（講義）人権享有主体性（外国人の人権保障） 基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト 12～13 ページ該当 （講義前演習）人権享有主体に関する確認テスト	（予習） テキスト 12-13 ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）幸福追求権（新しい人権） 人権の一般規定である 13 条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト 22,24～29 ページ該当 （講義前演習）新しい人権に関する確認テスト	（予習） テキスト 22-29 ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）平等権 近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト 32～33,36-37 ページ該当 （講義前演習）平等権に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト（第 1 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	（予習） テキスト 32-37 ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理 ※生成 AI による小テストの受験は一切認めないものとする。※
第 6 回	（講義）思想良心の自由、信教の自由 憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 38～39,42～45 ページ該当 （講義前演習）精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 38-45 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）表現の自由 前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 46～49,52-55 ページ該当 （講義前演習）表現の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 46-49,52-55 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）人身の自由① 人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰	（予習） テキスト 64-71 ページを読んで、適正手続の

	したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここでは、奴隷的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト 64～71 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当範囲) に関する確認テスト	保障、令状主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 人身の自由② 前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト 64～67 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当部分) に関する確認テスト	(予習) テキスト 64-71 ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) 生存権 弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。 (講義前演習) 生存権について確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 2 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 76-77 ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI による小テストの受験は一切認めないものとする。※
第 11 回	(講義) 国会① 憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第 11 回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) 国会②、内閣 前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	(講義) 裁判所① 国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するために果たす役割、第 13 回では、司法権という概念、三審制 (司法制度)、司法権の独立を説明をする。テキスト 110～117 ページ該当	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。 (復習) 講義ノートの整理

	(講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	
第 14 回	(講義) 裁判所② 前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権（違憲立法審査権）が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト 110～117 ページ該当 (講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI による総括試験の受験は一切認めないものとする。※

1.授業コード (ナンバリング)		LAW104-M01	2.科目名		日本国憲法		3.単位数	2
4.授業担当教員		出嶋陽介						
5.授業科目の区分		人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期		
8.履修可能な専攻		全学共通			9.履修学年	1 年生～		
10.取得資格の要件		高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 副専攻(世界と日本を考える) 副専攻(平等を考える) 幼稚園一種		11.先修条件	特になし			
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	講義および講義前演習			
16.履修制限		特に設けない。						
17.授業の目的と概要		本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。 憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。 加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。 また、教職課程の科目でもあるため、教員を						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの(2)社会的貢献性、(6)専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。 ②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。 ③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。						
19.教科書・教材		吉田仁美(編) 『スタート憲法 第4版』(2024年) 成文堂						
20.参考文献		必要に応じて配布する。						
21.成績評価		評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト1回目(第5回目の講義時に実施) 最大25% <学習目標①および③に対応> ②小テスト2回目(第10回目の講義時に実施) 最大25% <学習目標①および③に対応> ③総括試験(第15回目に実施) 最大50% <学習目標②に対応> 以上の評価対象を実施した上で、合計60%以上となった場合に、合格(単位認定)とする。 ※ 小テストは、各回15分程度のものを予定しており、かつ講義中にWebClassのテスト機能を利用する。したがって						
22.コメント		①WebClassを利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②憲法を中心に社会を見つめ、人権を尊重するということとはどのような意味を持つものなのかを考えながら、講義に参加して欲しい。 ③生成AIの利用は一切認めないものとする。従って、WebClassを利用した2回の小テスト、最終回に実施する総括試験は、自力で受験することになる。						
23.オフィスアワー		研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClassのメール機能を使った問い合わせも可(ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある)。						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)			

第 1 回	（講義）講義の進め方と憲法の内容についての説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。	（復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）憲法史 憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト 1～7 ページ該当 （講義前演習）憲法の基本知識に関する確認テスト	（予習） テキスト 1-7 ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。
第 3 回	（講義）人権享有主体性（外国人の人権保障） 基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト 12～13 ページ該当 （講義前演習）人権享有主体に関する確認テスト	（予習） テキスト 12-13 ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）幸福追求権（新しい人権） 人権の一般規定である 13 条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト 22,24～29 ページ該当 （講義前演習）新しい人権に関する確認テスト	（予習） テキスト 22-29 ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）平等権 近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト 32～33,36-37 ページ該当 （講義前演習）平等権に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト（第 1 回目）を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	（予習） テキスト 32-37 ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 6 回	（講義）思想良心の自由、信教の自由 憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 38～39,42～45 ページ該当 （講義前演習）精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 38-45 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）表現の自由 前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 46～49,52-55 ページ該当 （講義前演習）表現の自由についての確認テスト	（予習） テキスト 46-49,52-55 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 8 回	（講義）人身の自由① 人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰	（予習） テキスト 64-71 ページを読んで、適正手続の

	したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここでは、奴隷的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト 64～71 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当範囲) に関する確認テスト	保障、令状主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 人身の自由② 前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト 64～67 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当部分) に関する確認テスト	(予習) テキスト 64-71 ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) 生存権 弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。 (講義前演習) 生存権について確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 2 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 76-77 ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。 (復習) 講義ノートの整理 ※生成 AI を利用した小テストの受験は不許可とする。※
第 11 回	(講義) 国会① 憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第 11 回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) 国会②、内閣 前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	(講義) 裁判所① 国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するために果たす役割、第 13 回では、司法権という概念、三審制 (司法制度)、司法権の独立を説明をする。テキスト 110～117 ページ該当	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。 (復習) 講義ノートの整理

	(講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	
第 14 回	(講義) 裁判所② 前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権（違憲立法審査権）が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト 110～117 ページ該当 (講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	※生成 AI を利用した総括試験の受験は不許可とする。※

1.授業コード (ナンバリング)	LIN101-D01	2.科目名	英語学Ⅰ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	専攻選択 展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	初等英語コース			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学・高校英語教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 英語学の基礎的知識を習得し、日本語との違いを分析できる力を養います。 【授業の概要】 英語ということばを学問的に研究するための基本的な知識と概念を学びます。オンデマンドで実施するので、毎回の詳細は WebClass で示します。説明のビデオを見て、日本語との違いなども考えながら、課題を提出します。 【学習目標】 1) 英語を分析するための考え方や分野を説明することができる 2) 日本語との違いを理解し、英語という言語における文や単語、音声などの基本的な構造について説明することができる					
18.学習目標と DPとの関連	知的好奇心：レベル2 英語学に対して知的好奇心を持つことができる 学期の目標：多様性理解。世界には様々な英語の変種があり、また日本語とは異なる構造を持っていることを理解する					
19.教科書・教材	石黒昭博ほか『現代の英語学』（金星堂）ISBN978-4-7647-3604-7					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の課題 50% 最終課題 50%					
22.コメント	●オンデマンドですが、授業配当日（金曜）の次の月曜日朝8時までには必ず課題を提出してください。その課題の提出で「出席」とみなします。また、提出された課題のフィードバックを授業の最初に行いますのでそれ以降の提出は得点になりません。 事情があって、期日までに課題を提出できない場合は、締め切りまでに必ずメールで連絡してください。 ●課題提出時に不明なことなどあれば、質問欄に記入するか、メールで尋ねてください。 *生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて AI で作成した場合は0点となりますので注意してください。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは神戸山手キャンパス、尼崎キャンパスへは金曜日にしかないため、メール等で連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション：授業の進め方などの説明 第1章 英語学とは			課題（90分） 復習（30分）		
第2回	第2章 国際語としての英語 ①			課題（90分） 復習（30分）		

第 3 回	第 2 章 国際語としての英語 ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 4 回	第 3 章 英語の音構造 ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 5 回	第 3 章 英語の音構造 ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 6 回	第 3 章 英語の音構造 ③	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 7 回	第 4 章 英語の語構造 ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 8 回	第 4 章 英語の語構造 ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 9 回	第 4 章 英語の語構造 ③	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 10 回	第 5 章 英語の文構造 (1) ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 11 回	第 5 章 英語の文構造 (1) ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 12 回	第 6 章 英語の文構造 (2) ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 13 回	第 6 章 英語の文構造 (2) ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 14 回	第 7 章 英語の文構造 (3)	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 15 回	総括	課題 (90 分) 復習 (30 分)

1.授業コード (ナンバリング)	LIN101-Y01	2.科目名	英語学Ⅰ（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	専攻選択 展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	初等英語コース			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学・高校英語教員免許			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	オンデマンド	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 英語学の基礎的知識を習得し、日本語との違いを分析できる力を養います。 【授業の概要】 英語ということばを学問的に研究するための基本的な知識と概念を学びます。オンデマンドで実施するので、毎回の詳細は WebClass で示します。説明のビデオを見て、日本語との違いなども考えながら、課題を提出します。 【学習目標】 1) 英語を分析するための考え方や分野を説明することができる 2) 日本語との違いを理解し、英語という言語における文や単語、音声などの基本的な構造について説明することができる					
18.学習目標と DPとの関連	知的好奇心：レベル2 英語学に対して知的好奇心を持つことができる 学期の目標：多様性理解。世界には様々な英語の変種があり、また日本語とは異なる構造を持っていることを理解する					
19.教科書・教材	石黒昭博ほか『現代の英語学』（金星堂）ISBN978-4-7647-3604-7					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の課題 50% 最終課題 50%					
22.コメント	●オンデマンドですが、授業配当日（金曜）の次の月曜日朝8時までには必ず課題を提出してください。その課題の提出で「出席」とみなします。また、提出された課題のフィードバックを授業の最初に行いますのでそれ以降の提出は得点になりません。 事情があって、期日までに課題を提出できない場合は、締め切りまでに必ずメールで連絡してください。 ●課題提出時に不明なことなどあれば、質問欄に記入するか、メールで尋ねてください。					
23.オフィスアワー	オフィスアワーは神戸山手キャンパス、尼崎キャンパスへは金曜日にしかいないため、メール等で連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション：授業の進め方などの説明 第1章 英語学とは			課題（90分） 復習（30分）		
第2回	第2章 国際語としての英語 ①			課題（90分） 復習（30分）		
第3回	第2章 国際語としての英語 ②			課題（90分） 復習（30分）		
第4回	第3章 英語の音構造 ①			課題（90分） 復習（30分）		
第5回	第3章 英語の音構造 ②			課題（90分）		

		復習 (30 分)
第 6 回	第 3 章 英語の音構造 ③	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 7 回	第 4 章 英語の語構造 ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 8 回	第 4 章 英語の語構造 ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 9 回	第 4 章 英語の語構造 ③	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 10 回	第 5 章 英語の文構造 (1) ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 11 回	第 5 章 英語の文構造 (1) ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 12 回	第 6 章 英語の文構造 (2) ①	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 13 回	第 6 章 英語の文構造 (2) ②	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 14 回	第 7 章 英語の文構造 (3)	課題 (90 分) 復習 (30 分)
第 15 回	総括	課題 (90 分) 復習 (30 分)

1.授業コード (ナンバリング)	LIN201-A01	2.科目名	英語音声学		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択（中高英語 教職課程必修）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)、 中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	英語学 1 を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 発音の確認や指導をするため、最大 24 名までとし、それ以上の場合は抽選をします。ただし、 中学英語免許を取得する予定の学生を優先的に受け入れます。					
17.授業の目的と概要	【目的】 英語音声学の理論を学び、その実践として、自分の発音を改善して EIL（国際語としての 英語）を基準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目的としています。 【概要】 調音音声学の各分野、prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理 論を学び、自らの発音を改善します。個別音についても、同様に理論と実践を行います。					
18.学習目標と DP との関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1) 日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる 2) EIL として通じる英語の発音ができる 3) 学んだ発音記号の表す音とその発音方法を説明できる					
19.教科書・教材	『改訂新版初級英語音声学』 竹林滋ほか （大修館書店）ISBN978-4-469-24851-3					
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。					
21.成績評価	1) 発音テスト：10 点×4 回=40 点 学習目標 2 に対応 2) レポート：10 点× 2 回=20 点 （綴り字など関する課題）学習目標 1 に対応 3) 総括試験：40 点 （筆記および発音実技） * 合格基準：発音テスト 3 回以上受験、レポートは 2 回とも提出、総括試験を受験のうえ、合 計 60 点以上					
22.コメント	授業内の発音練習だけでは身につかないので、授業外でも意識しながら練習をしてください					
23.オフィスアワー	尼崎キャンパスへは金曜日のためのため、メールで連絡ください。 オフィスアワーは神戸山手キャンパスで月曜日昼です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	導入 授業の進め方など説明、発音テスト 1 テストの解説			復習（60 分）		
2	第 1 章 現代英語の標準発音			復習（60 分）		
3	第 2 章 つづり字と発音			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）、課題 （小レポート：綴り字のルールについて、授 業中に詳細を説明します）		
4	第 3 章 音素			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）		
5.	発声器官			予習：教科書（30 分）、 復習（60 分）		
6	強勢とリズム （教科書第 7 章の一部、第 8 章）			予習：教科書 第 7,8 章、発音練習（60 分）		
7	第 9 章 イントネーション			発音練習（60 分）、小レポート 2（イントネー ションのまとめ）60 分		
8	プロソディのまとめ&発音テスト 2			予習：教科書（30 分）、練習（60 分）		

9	第 5 章 母音 1	予習：教科書 第 5 章、発音練習（60 分）
10	第 5 章 母音 2（中舌、後舌）	予習：教科書 第 5 章、発音練習（60 分）
11	第 5 章 母音 3（二重母音）、発音練習、	予習（30 分）、復習 & 発音練習（60 分）
12	第 5 章 母音の復習、発音テスト 3	復習、発音練習（50 分）
13	発音テスト 3 の返却と説明、 音声変化	復習、音読練習（90 分）
14	音声変化 2	復習、音読練習（90 分）
15	総括試験（筆記と発音実技）	

1.授業コード (ナンバリング)	LIN201-Y01	2.科目名	英語音声学（尼崎対面）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択（中高英語 教職課程必修）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)、 中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	英語学 1 を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 発音の確認や指導をするため、最大 24 名までとし、それ以上の場合は抽選をします。ただし、 中学英語免許を取得する予定の学生を優先的に受け入れます。					
17.授業の目的と概要	【目的】 英語音声学の理論を学び、その実践として、自分の発音を改善して EIL（国際語としての 英語）を基準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目的としています。 【概要】 調音音声学の各分野、prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理 論を学び、自らの発音を改善します。個別音についても、同様に理論と実践を行います。					
18.学習目標と D P との関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1)日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる 2) EIL として通じる英語の発音ができる 3) 学んだ発音記号の表す音とその発音方法を説明できる					
19.教科書・教材	『改訂新版初級英語音声学』 竹林滋ほか （大修館書店）ISBN978-4-469-24851-3					
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。					
21.成績評価	1) 発音テスト：10 点×4 回=40 点 学習目標 2 に対応 2) レポート：10 点×2 回=20 点 （綴り字など関する課題）学習目標 1 に対応 3) 総括試験：40 点 （筆記および発音実技） * 合格基準：発音テスト 3 回以上受験、レポートは 2 回とも提出、総括試験を受験のうえ、合 計 60 点以上					
22.コメント	授業内の発音練習だけでは身につかないので、授業外でも意識しながら練習をしてください。 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に限り認める。 各授業におけるテストでの使用は認めない。					
23.オフィスアワー	尼崎キャンパスへは金曜日のためのため、メールで連絡ください。 オフィスアワーは神戸山手キャンパスで月曜日昼です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	導入 授業の進め方など説明、発音テスト 1 テストの解説			復習（60 分）		
2	第 1 章 現代英語の標準発音			復習（60 分）		
3	第 2 章 つづり字と発音			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）、課題 （小レポート：綴り字のルールについて、授 業中に詳細を説明します）		
4	第 3 章 音素			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）		
5.	発声器官			予習：教科書（30 分）、 復習（60 分）		
6	強勢とリズム （教科書第 7 章の一部、第 8 章）			予習：教科書 第 7,8 章、発音練習（60 分）		
7	第 9 章 イントネーション			発音練習（60 分）、小レポート 2（イントネー		

		ションのまとめ) 60 分
8	プロソディのまとめ&発音テスト2	予習：教科書 (30 分)、練習 (60 分)
9	第 5 章 母音 1	予習：教科書 第 5 章、発音練習 (60 分)
10	第 5 章 母音 2 (中舌、後舌)	予習：教科書 第 5 章、発音練習 (60 分)
11	第 5 章 母音 3 (二重母音)、発音練習、	予習 (30 分)、復習 & 発音練習 (60 分)
12	第 5 章 母音の復習、発音テスト 3	復習、発音練習 (50 分)
13	発音テスト 3 の返却と説明、 音声変化	復習、音読練習 (90 分)
14	音声変化 2	復習、音読練習 (90 分)
15	総括試験 (筆記と発音実技)	

1.授業コード (ナンバリング)	LIN202-A01	2.科目名	英語音声学Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択（初等英語 コース必修）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部（初等英語教育コース）			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)、中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	英語学 1 を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 発音の確認や指導をするため、最大 24 名までとし、それ以上の場合は抽選をします。ただし、 中学英語免許を取得する予定の学生を優先的に受け入れます。					
17.授業の目的と概要	【目的】英語音声学の理論を学び、その実践として、自分の発音を改善して EIL（国際語としての英語）を基準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目的としています。 【概要】調音音声学の各分野、prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理論を学び、自らの発音を改善します。個別音についても、同様に理論と実践を行います。					
18.学習目標と DP との関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1)日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる 2) EIL として通じる英語の発音ができる 3) 学んだ発音記号の表す音とその発音方法を説明できる					
19.教科書・教材	『改訂新版初級英語音声学』 竹林滋ほか （大修館書店）ISBN978-4-469-24851-3					
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。					
21.成績評価	1) 発音テスト：10 点×4 回=40 点 学習目標 2 に対応 2) レポート：10 点×2 回=20 点 （綴り字など関する課題）学習目標 1 に対応 3) 総括試験：40 点 （筆記および発音実技） * 合格基準：発音テスト 3 回以上受験、レポートは 2 回とも提出、総括試験を受験のうえ、合計 60 点以上					
22.コメント	授業内の発音練習だけでは身につかないので、授業外でも意識しながら練習をしてください。 * 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に限り認めます。 各授業におけるテストでの使用は認めません。					
23.オフィスアワー	尼崎キャンパスへは金曜日のみのため、メールで連絡ください。 オフィスアワーは神戸山手キャンパスで月曜日昼です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	導入 授業の進め方など説明、発音テスト 1 テストの解説			復習（60 分）		
2	第 1 章 現代英語の標準発音			復習（60 分）		
3	第 2 章 つづり字と発音			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）、課題 （小レポート：綴り字のルールについて、授業中に詳細を説明します）		
4	第 3 章 音素			予習：教科書（30 分）、復習（60 分）		
5.	発声器官			予習：教科書（30 分）、 復習（60 分）		

6	強勢とリズム（教科書第7章の一部、第8章）	予習：教科書 第7,8章、発音練習（60分）
7	第9章 イントネーション	発音練習（60分）、小レポート2（イントネーションのまとめ）60分
8	プロソディのまとめ&発音テスト2	予習：教科書（30分）、練習（60分）
9	第5章 母音1	予習：教科書 第5章、発音練習（60分）
10	第5章 母音2（中舌、後舌）	予習：教科書 第5章、発音練習（60分）
11	第5章 母音3（二重母音）、発音練習、	予習（30分）、復習&発音練習（60分）
12	第5章 母音の復習、発音テスト3	復習、発音練習（50分）
13	発音テスト3の返却と説明、 音声変化	復習、音読練習（90分）
14	音声変化2	復習、音読練習（90分）
15	総括試験（筆記と発音実技）	

1.授業コード (ナンバリング)	MED101-M01	2.科目名	形態機能学Ⅰ（運動器・神経系）		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤永竜太郎					
5.授業科目の区分	人間と健康	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は、形態機能学Ⅱと共に医療従事者として活動する際の基本となる人体の構造と機能に関する知識を身につけることを目的とします。講義では、人体の見方や人体の階層性を含む概論的な内容に加え、各器官系の中でも特に運動器系、神経系、内分泌系の構造とその機能について解説します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①人体の構造や機能について、適切な言葉を用いて説明できる。 ②人体の構造や機能について、個別的にではなく、全体を統合的に理解できる。					
19.教科書・教材	教科書：坂井健雄・岡田隆夫：「系統看護学講座・解剖生理学」医学書院（形態機能学Ⅱと共通） 講義は毎回パワーポイントで行い、そのスライドを講義資料として配付します。					
20.参考文献	藤田恒夫 著：「入門人体解剖学」：南江堂 牛木辰男 著：「入門組織学」：南江堂 林正健二：「ナーシンググラフィカ・解剖生理学」メディカ出版 坂井健雄/河原克雅：「人体の正常構造と機能」日本医事新報社 J. W. Rohen/横地千/E. L.-Drecoll：「解剖学カラーアトラス」医学書院 A. R. Crossman/D. Neary 著；野村巖/水野昇 訳：「神経解剖カラーテキスト」医学書院					
21.成績評価	① 評価の方法（期末テスト） ② 成績の配分（テスト 95%、学習態度 5%） ③ 合格基準（60%以上の評価で合格となる）					
22.コメント	カリキュラム後に他の科目などの中でキーワードに出会う度に復習すること、また、日常生活の中で自分の体の構造や機能を意識するとよいかもしれません。その繰り返しが重要です。					
23.オフィスアワー	メールで連絡してください。いつでもどうぞ。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1～2 回	細胞から個体への階層性、人体の見方					
第 3～4 回	運動器系（骨組織、全身の骨格）					
第 5～6 回	運動器系（筋組織、全身の筋）					
第 7～11 回	神経系（神経組織、中枢神経系と末梢神経系）、感覚器系					
第 12～13 回	内分泌系（ホルモン分泌臓器）					
第 14 回	まとめ					
第 15 回	試験					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED103-M01	2.科目名	薬理学	3.単位数	1
4.授業担当教員	小茂池潤太				
5.授業科目の区分	人間と健康	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な「薬理学」に関する基礎的知識の習得をねらいとします。【概要】具体的には、疾病の予防あるいは治療に有益なアイテムとしての薬物の効果、作用機序、有害作用などについて学習するとともに、薬物の臨床的応用と使用上の注意・禁忌・倫理的配慮について学びます。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 学習目標：「薬理学」に関する基礎的知識の習得				
19.教科書・教材	「わかりやすい薬理学 第4版」安原一、小口勝司 編集：ヌーヴェルヒロカワ ISBN 978-4-86174-054-1				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	各講義の小テスト 10点×8回 80点（解答期間：講義終了後～次の講義の前日まで） 講義以外的小テスト 20点（解答期間：最終講義終了後～7月31日） 合計：100点満点とします。 各講義の小テスト問題は、講義の際に配布する過去の国家試験問題を中心に出題します。 講義以外的小テスト問題は、別途配布する過去の国家試験問題を中心に出題します。				
22.コメント	教科書に沿った授業展開を原則とします。加えて、必要に応じて追加資料を配布するなど知識の定着に努めます。				
23.オフィスアワー	講義開始前 30 分、講義終了後 30 分程度、講義控室での質問を受け付けます。また、メールでの質問を随時、受け付けます。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	第 1 章 総論 Ⅰ 薬理学の概念 Ⅱ 小児、妊婦、高齢者の薬物治療 Ⅲ 医薬品の管理				
第 2 回	第 2 章 末梢神経系作用薬 Ⅰ 自律神経作用薬 Ⅱ 筋弛緩剤 Ⅲ 局所麻酔薬 第 3 章 中枢神経系作用薬				
第 3 回	第 4 章 心臓・血管作用薬 Ⅰ 抗高血圧薬（降圧薬） Ⅱ 心臓作用薬				
第 4 回	第 4 章 心臓・血管作用薬 Ⅲ 輸液・腎臓作用薬 Ⅳ 血液・造血器系作用薬				
第 5 回	第 5 章 抗炎症薬				
第 6 回	第 6 章 呼吸器系作用薬				

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED105-M01	2.科目名	免疫学	3.単位数	1
4.授業担当教員	上田晴康				
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	看護学科
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 医療職者として必要な免疫学的基礎知識を習得する。これらを通じて、SDGs 4 「すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ものとする。 【概要】 病原体に対する生体防御機構としての免疫の仕組み、免疫の破綻・異常がもたらす疾患（アレルギーや自己免疫疾患、免疫不全など）について学ぶ。その他、がんに対する免疫応答や臓器移植に関わる免疫応答などについて学習する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①生体防御の仕組みとしての免疫を理解する。 ②感染症やがん、アレルギーなどの疾患のメカニズムを説明することができる。 [関連するディプロマ・ポリシー （6）専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	授業開始時にオリジナルテキストを配布				
20.参考文献	『インテグレートッドシリーズ2 免疫学・微生物学』 JEFFREY K. ACTOR 著 東京化学同人				
	『初めの一步は絵で学ぶ 免疫学 「わたしの体」をまもる仕組み』 田中稔之著 じほう				
21.成績評価	点数の配分詳細は次の通りです。全ての課題を実施・提出し、試験点数を合わせた合計が 60 点以上で合格となります。 （1）提出課題（学習目標 1・2 に対応） 50% （2）本試験（学習目標 1・2 に対応） 50%				
22.コメント	大学で初めて学ぶ「免疫学」は、耳慣れない言葉や用語も多く難解に思えるだろうが、知らない言葉が出てきたら、スルーせずにその都度、意味を調べて理解することに努めて欲しい。もちろん、質問は随時受け付ける。 生成 AI 利用に関して条件付きで認める。但し、成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は一切認めない。				
23.オフィスアワー	講義終了時あるいはメール（ueda-ph@hyo-med.ac.jp）にて対応する。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	免疫を構成する要素（免疫組織と免疫担当細胞／自己と非自己の識別）			★課題提出 復習：授業ノートの整理	
第 2 回	抗原抗体反応とその利用（検査・診断／予防接種と血清療法）			★課題提出 復習：授業ノートの整理	
第 3 回	免疫システム（1）～自然免疫と獲得免疫／免疫記憶			復習：授業ノートの整理	
第 4 回	免疫システム（2）～細胞性免疫と液性免疫／サイトカイン			復習：授業ノートの整理	
第 5 回	感染防御免疫／腫瘍免疫／分子標的薬			★課題提出 復習：授業ノートの整理	
第 6 回	移植免疫（移植片拒絶と移植片対宿主病）			★課題提出	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED206-Y01	2.科目名	精神疾患とその治療		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 ①代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援 ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化 ③医療機関との連携 【概要】 授業を通して、公認心理師として上記の 3 つの目的を理解する必要性について考える。 WebClass を使用し、目的の理解を進める。					
18.学習目標と DP との関連	公認心理師受験資格取得を目指す学生として、授業での課題に自律的に関わり、他職種のひととどのように関わるか、心理的支援を要する者とその関係者などとのコミュニケーションスキルを高める。 本科目の学習目標は、以下の 4 つである。 ①代表的な精神疾患について説明できる。 ②精神疾患と関わる薬物、心理療法について説明できる。 ③コンサルテーション・リエゾンについて理解する。 ④チーム医療について理解する。 【関連する DP(ディプロマポリシー)】 (1)自律性、(3)多様性理解、(5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	webclass に提示する。					
20.参考文献	公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 三村將他編著医歯薬出版 3,200 円＋税。その他、授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎の小テスト、レポート@5×13 点 webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が獲得されたか）35 点					
22.コメント	何が課題なのかを考えながら、受講して欲しい。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 水曜日昼休み 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法、心理学と精神医学の関連			予習：心理学と精神医学の関係を考える。 復習：授業内容をレポートとして報告する。		
第 2 回	精神疾患と精神医学			予習：テーマについて考える。 復習：小テスト		
第 3 回	精神疾患の診断と診断基準			予習：テーマについて考える。 復習：小テスト		

第 4 回	精神疾患の治療	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 5 回	統合失調症	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 6 回	うつ病と双極性障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 7 回	不安障害と強迫性障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 8 回	ストレスとストレス関連障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 9 回	心身症	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 10 回	アルコールと薬物	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 11 回	発達障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 12 回	摂食障害とパーソナリティ障害	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 13 回	認知症	予習：テーマについて考える。 復習：小テスト
第 14 回	総括試験	
第 15 回	まとめと解説	授業アンケート

1.授業コード (ナンバリング)	MNG101-A01	2.科目名	経営学概論		3.単位数	4
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	日本語 N3 以上		11.先修条件	日本語での理解		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的： 私たちが毎日使っているものは企業が作り出したものです。そして皆さんも数年後にはこの企業に加わるることになります。私たちのいる社会は企業の活動がなくては存在し得えない社会なのです。つまり、経営学を学ぶことは、これから皆さんが社会にはじめて踏み出すうえで、とても役立つ知識となります。経営学は、決して「お金儲け」の道具ではありません。現代社会に生きる人々にとって必須の入口であり、「良い経営をするための方法を研究する学問」です。しかしながら、経営学がうみだしてきた知識は膨大です。それだけに経営学の範囲は					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学の基礎的な知識を理解します。 (2) 自分の考えを、整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して、経営学のフレームを通して、その見方を説明する力をつけます。					
19.教科書・教材	・加護野忠男・吉村典久(2021)『1 からの経営学(第 3 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7					
20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも同じです。） ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2(今日の事例をあげて、経営を解説しています) ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511-9					
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：15%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。 ・小テストをおこないます。35% －学習目標の(1)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：50% －学習目標の(1)と(2)に対応します。					
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから、時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく現実の経営実践を理解するためには、理論的に依拠する基礎学問をもたなければなりません。既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかりと身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが、心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学習していきます。4 年間をかけて、『ゼミナール経営学入門』の 1 冊をしっかりと読み込んで経営					

		学を理解していくイメージです。「4年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この1冊をやり切ったことは、これから皆さんが、道を切り開いてくうえで、大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので、必ず「読む」という習慣をつけましょう。テキストには、どんどん書き込んで、自分だけのオリジナルのテキストにしていってください。 ・その際に、生成AI利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 そして、授業を通じて、思ったこと、考えたことを大切にメモするようにしてください。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ、その時わからなかったことも、4年後にはわかるようになり、自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。
23.オフィスアワー		・センターオフィスアワー：(前期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階学習支援室) ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第5限 16:30～18:00 (8階研究室 805)
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	●第1回：「オリエンテーション：経営学で学ぶことを学ぶ」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初に、皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、「経営」という言葉について考えます。 ●第2回：「企業とは何だろう」 企業とは何か、社会と経済、市場と流通、消費者の大きな視点から捉えて、世の中の構造を理解します。前回に考えた課題を、今度はグループになってディスカッションします。経営学を学ぶとどのようなことに役立つのかを一緒に考えていきます。	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけまう。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第3回 第4回	●第3回：「経営学の全体像①：まず大枠をつかむ。」 皆さんは、これから経営学の森に入っていきます。森の中の一本一本の木が、経営学の各科目分野です。経営学という森を作っているイメージです。木を見て森を見なければ迷子になります。経営学とは何かについて全体像をつかみます。経営学(広義:広い見方の経営学)には、どんな分野があるのか、広義の経営学の3本柱(経営学(狭義)、商学(マーケティング)、会計学)があることをつかみます。 ●第4回：「経営学の全体像②：もう少し詳しく経営学に接近してみる」 ・最初に大枠をつ	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、各自のラーニング・コミュニティで、内容を確認しておいてください。
第5回 第6回	●5回：「経営学はいつからはじまったのか」 ・経営学は、そんなに古い学問ではありません。20世紀のはじめあたりです。しかし、それ以前にも経営するという行為はあったはずで。当時の時代背景から、経営学が何故、生まれたのかを理解します。経営学の始まりを知ればその体系がわかります。「経営」と「経営学」について考えてみましょう。	・アサインメント 2人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、次

	●6 回：「会社には、どんなかたちがあるのか、企業形態を知る」 私たちの周りには多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも、現代社会の	回までに、各自のラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第 7 回 第 8 回	●第 7 回：「会社は、誰のものか、所有と経営を考える」 ・私たちの周りには、多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも、現代社会の発展に大きく寄与したのが株式会社という制度で、人類最大の発明ともいわれます。その株式会社の仕組みとその発展をみていきます。 ●第 8 回：「経営はだれにでもできるのか、マネジメントについて考える」 ・マネジメントとは何かを考えていきます。そして、内側のマネジメントと外側のマネジメントの 2 つのマネジメントにわけて経営学の中に入っていきます	・アサインメント 2 人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単な「読みもの」を伝えます。次回までに、しっかり読んで、自分の考えをまとめておいてください。
第 9 回 第 10 回	●第 9 回：「市場を理解しよう。外部環境のマネジメントについて考える」 ・カネを集めてくる(金融市場)、ヒトを集めてくる(労働市場)、製品・サービスを作って販売する(製品市場)、これらの市場との関係をどうマネジメントするのか、企業と市場との関わりを理解します。ここからの 4 回は、外部環境のマネジメントについて考えていきます ●第 10 回：「外部の環境のマネジメントについて考える① 経営戦略論」 ・経営戦略論は経営学の中心的分野のひとつです。経営戦略は、長期的な視野にたって、組織のヒト、モノ、カネを使って、未	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第 11 回 第 12 回	●第 11 回：「外部の環境のマネジメントについて考える② 競争戦略」 ・前回に引き続いて戦略論のその代表的なものを学習します。市場にいるのは自社の私たちだけではありません。そこには競争企業がいることを考えなければなりません。競争によって大きく企業の方向付けが変わることになります。事例から競争戦略について考えます。 ●12 回：「外部の環境のマネジメントについて考える③ 製品市場戦略」 ・製品には誕生してから、市場から消えるまでのライフ・サイクルがあります。製品ライフ・サイクルという視点で、経営戦略を捉えてみる	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第 13 回 第 14 回	●13 回：「人々は何をしているのか、内部の組織のマネジメントを考える」 ・ここからは、内部のマネジメントに目をむけます。前回までの企業の「外部」環境に対して「内部」の位	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルを

	置づけにある組織を対象にします。これは、さらに組織という視点と、その組織を構成する人の視点からわけていきます。組織とは何か、という議論から考えていきます。 ●14回：「組織のマネジメントを考える① どのような組織が作られてきたのか」1-10章 ・組織のかたち（組織構造）は様々にあります。これまでの企業の歴史的な経緯から、どのような組織が作	つけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第15回 第16回	●第15回：「組織のマネジメントを考える② どのような組織の形がいいのか」 ・前回に学習した組織構造のバリエーションをベースにして、その組織の利点や問題点を確認し、唯一ひとつの正しい組織構造があるのかを、議論します。 ●第16回：「組織のマネジメントを考える③ 人は労働力じゃない」 ・この回から組織を構成する「人」の内部に入っていきます。企業にとって従業員の活用はなぜ重要なのでしょうか、また、何によって動かされるのでしょうか。「やる気」を高めるにはどうすればいいでしょうか。動機づけ（モチベーション）の諸	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第17回 第18回	●第17回：「組織のマネジメント④ リーダーシップとは何か」 ・優れたリーダーとはどういう人でしょう。リーダーの資質はその人固有のものでしょうか。リーダーの役割とリーダーシップの概念を学びます。組織のマネジメントのなかでリーダーシップの位置づけを理解します。 ●第18回：「組織のマネジメント⑤ 学びをキャリア・デザインに応用する」(1:12章) これまでの学びから、自らのキャリアをどうデザインするか。過去も未来もキャリアの一部です。「流されるままの人生でいいのか」主体的にキャリアを考えるには、これまでの	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第19回 第20回	●第19回「イノベーションと経営者の役割を考える」 ・ここで、企業を動かす経営者の役割を考えます。そもそも経営者の範囲はどこまでを指すのでしょうか。経営者は何をしているのでしょうか。事例をみながら、企業が生み出すイノベーション（革新）とともに経営者の役割を考えます。 ●第20回「理念はなぜ重要なのか、経営理念と組織文化について考える」 ・組織を構成しているのは感情や違う考え方をもった生身の人間です。そういう企業組織の経営には、経営者がしっかり経営の理念を表明し、組織の文化を形成していくことが必要です。こ	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。。
第21回 第22回	●第21回：「利益の追求は正しいことなのか、企業の社会的責任を考える。」 経営の目的は何でしょうか。経営者の役割は、利益を	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょ

	上げることや、株主に報いることだけではありません。もっと社会性を帯びたもので、今日のSDGsにもつながります。そこに経営の規律づけとそのチェックの問題があらわれます。これはコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題として扱われます。事例をもとにしてこの問題を考えてみましょう。 ●第22回：「マーケティングのない企業に未来はない。マーケティングを学ぶ」 ・ここからは経営学分野にある他	う。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第23回 第24回	●第23回：「マーケティングとは何か、その基本概念を身につける」 ・前回に引き続きマーケティングはどのようなステップで進めていくのかを、理解します。マーケティングの基本的な理解が得られるよう皆さんに馴染みのある企業や製品を使って進めていきます。マーケティングを覚えるための知識ではなく、マーケティングという思考を日常に取り込むことを意識します。 ●第24回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営と会計の関係を理解する」 ・企業活動を会計の面から捉えておくことはとても重要です。会計の指標なく経営することは	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第25回 第26回	●第25回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営分析」 ・企業活動の結果である財務諸表はどんなものかをその構造を理解します。皆さんは就職活動のときに目にするものですから、経営の実体を数値で読みとく把握する練習をしてみます。 ・アサインメント： 来週は経営・マーケティング・会計の小テストです。第3回も見直しておきましょう。これらの内容やその関係が理解できているか確認します。経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感	経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。。
第27回 第28回	●第27回：「日本は世界で最も長寿企業が多いのはなぜか。ファミリー・ビジネスを考える」 ・日本は世界になかで、断トツに長寿企業が多い国で、海外からも注目されています。 何故、日本には、長寿企業が多いのでしょうか。それはファミリー・ビジネスにヒントがあります。いくつかのファミリー・ビジネスの事例をみて、その経営を考えてみます。 ●第28回：「国際化は決して遠い国の話ではない。国際経営について考える」（1:9章） ・今日、グローバル化は避けて通りようがありません。企業活動のグローバルでの地理的な拡大とつなが	経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第29回 第30回	●第29回：「まとめと総括：テストと経営学を通じて学んだこと」	・アサインメント 今日のテストを振り返って、経営学概論のノ

	・ようやく経営学の入口が終わりました。経営学にはどんな分野があって、その各論でどのようなことを学習したのか、テストをおこない、経営学概論で学んだ内容を確認します。 ●第30回：「テストのフィードバックとこれからの経営学について」 ・テストの結果を全体で講評します。をディスカッションします。経営学を全体的にとらえるアプローチには、経営管理論、経営組織論、経営戦略論があります。また、個別的、専門的には人的資源管理、マーケティング論、財務・会計学	ートを見直して補強してください。毎回のように感想や思ったことは簡単に WebClass にアップしておいてください。 ・アサインメント 次の経営学の学習にむけて、経営学概論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか、さらにどの分野を伸ばしたいのか、印象に残ったことは何か、自らの考えを整理してください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG101-M01	2.科目名	経営学概論		3.単位数	4
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目はマネジメントの基本を学び、企業経営の仕組や基本的な経営戦略を理解することを目的とします。 【授業概要】 ・経営学はどんな学問なのか ・金儲けは正しいことなのか ・現代社会の中にどんな企業があって、企業経営はどのように成り立っているか ・どの業界でもたくさんの企業があり、競争が繰り広げられているが、その競争の中で経営がうまくできている会社とうまくいかない企業の違いは何か 以上のことを具体的な事例を通して学修し、就職や起業の知識の土台を築いていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連している。 具体的には、以下の学習において、課題及びグループワークを通して、DP の向上を図ることができる。 ①経営学の領域と特徴を説明できる ②経営資源の意義を理解し、特徴を説明できる ③株式会社の仕組みを理解し、株主の責任や株主総会について説明できる ④経営戦略とは何か、基本的な競争戦略はどのようなものがあるかを把握することができる ⑤学修した知識を応用し、自分の興味を持つ業界や企業の競争戦略について、情報を収集し分析することができる					
19.教科書・教材	加護野忠男等編著『1 からの経営学』（第 3 版）碩学社					
20.参考文献	伊丹敬之、加護野忠男著『ゼミナール 経営学入門』（第 3 版）日本経済新聞社、2004 年					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 ・ワークシート・・・10 点 〈学習目標⑤に対応〉 ・第 1～3 章の小テスト・・・20 点 〈学習目標①～④に対応〉 ・第 4～6 章を対象に小テスト・・・20 点 〈学習目標⑤に対応〉 ・第 7～9 章のテスト・・・20 点 〈学習目標①～⑤に対応 ・グループ・ワーク・・・30 点（グループワーク 20 点、個人ワーク 10 点） 〈学習目標⑤に対応〉					
22.コメント	・経営学は主に企業を研究対象とする生きた学問です。日頃から企業や経済に関する様々な情報に関心を持ちましょう。 ・経営学概論は、秋学期に開講する『ファイナンス』と連携します。両科目では共通したグループワークを展開し、同じ業界や企業分析を行います。 ・生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課					

	題については、授業回ごとに指定する。	
23.オフィスアワー	春学期： 毎週火曜日昼休み 図書館閲覧ブース（1号館 3F） 毎週木曜日Ⅲ限 研究室オフィスアワー	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	オリエンテーション ■ 講義内容、学習目標、目指す KUINS ベンチマーク、アサインメント、教科書及び参考書、評価方法 ■ Web class の説明 ■ 企業のことを知ろう ○ワークシート-01 図書館で気になる企業に関する記事の一つ読んで、その内容を 300 字程度にまとめよう。	★ワークシート-01 提出 ○第 1 章の予習
2-3	○グループ分け ・役割分担を決める ・グループ単位で各自調べた結果(ワークシート-01)について発表 →グループ代表の発表 第 1 章 企業経営とは ■ 企業、企業と各市場、情動的経営資源 ■ ケーススタディ：ユニクロ ★個人ワーク & グループワーク ・グループ研究対象業界 & 個人の研究対象企業を決める 個人ワーク & グループワーク用のファイルを作る ・企業の HP など情報を収集してください。 各自の研究対象企業について最寄り 3 年間の売上、利益、店舗数 or 従業員数を調べて、その結果を個人研究ノート（P2）に	○企業の HP など情報を収集してください。 各自の研究対象企業について最寄り 3 年間の売上、利益、店舗数 or 従業員数を調べて、その結果を個人研究ノート P2 にまとめてください。 ○第 2 章の事例を予習
4-5	第 2 章 経営学とは ■ 広義・狭義の経営学 ■ 心理学などとの関係 ■ 経営学の面白さ・実践性 ■ 科学的管理・テイラー *もしドラの鑑賞→ワークシート-02（感想文） ◎GW：業界 4 社の概要比較表を作成してください。	○第 1 章の復習 ○第 3 章の予習 ◆次回も PC 持参
2025/06/08	第 3 章 企業と会社 ■ GW1 の発表 ■ 会社の形態 ■ 株式会社の基本的な仕組み ■ 株主総会	★ワークシート-02 （Web class に提出） ○第 1 章から第 3 章までの復習 ○各自で研究対象企業の筆頭株主について調べよう →個人研究ノートに追加（P3） ◎GW:業界 4 社の比較表を作ろう
2025/09/11	第 4 章 企業とインプット市場との関わり ■ 金融資本市場	◆PC ○GW:4 社筆頭株主一覧表の作成

	■ NISA ■ 労働市場（日本的経営の三種の神器） ■ 12 回目の授業に 第 1 ～3 章の小テスト（Web class にて実施）	
2025/12/13	第 5 章 経営戦略とは ■ 製品サービス市場 ■ 経営戦略の定義・階層性 ■ ケーススタディ：富士フィルム	○第 5 章の復習 ○各自の研究対象企業の経営戦略について調べよう。 →個人研究ノートに追加（P4）
14-16	第 6 章 競争戦略のマネジメント（1） ■ ポーター：5 つの競争要因 ■ 3 C 分析 ■ ケーススタディ：ソフトバンクモバイル	◆PC ○第 6 章の復習 ◎GW2 各グループの研究対象の業界競争構造について分析しよう →各自担当分を個人研究ノートに追加（P5,6）
17-18	◎GW の中間発表（予定）	◆PC ○第 4-6 章の復習 →翌週小テストあり
19-20	○第 7 章 競争戦略のマネジメント ■ 3 つの基本戦略 ■ 事業システム ■ ケーススタディ：スターバックス & ドトールコーヒー	◆PC ○第 8 章の予習 →個人研究ノートに追加（P7）
21-22	第 8 章 多角化戦略のマネジメント ■ 多角化戦略(市場のライフサイクル) ■ M&A と提携 ■ 第 4-6 章の小テスト	◆PC ○第 8 章の復習 →個人研究ノートに追加（P8）
23-24	第 9 章 国際化のマネジメント ■ グローバリゼーション ■ 国際化の進展 ■ ケーススタディ：HONDA	○第 9 章の復習 各自の研究対象企業の国際経営について調べよう。 →個人研究ノートに追加（P9）
25-26	・復習 ・グループワークの集約	○個人研究ノートの集約
27-28	■ 第 7-9 章の小テスト GW3 最終プレゼンの作成と総まとめ	○ 今学期の総復習 ● プレゼン資料の作成
29	プレゼンテーション	・GW プレゼン資料の修正と提出 ・個人研究ノートを PDF に変換し、Web class から提出
30	■プレゼンテーション（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG101-Y02	2.科目名	経営学概論 【G コミ 2023 年度以降・観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科・観光学科			9.履修学年	2 年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	遠隔による講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 私たちが毎日使っているものは企業が作り出したものです。そして皆さんも数年後にはこの企業に加わるることになります。私たちのいる社会は企業の活動がなくては存在し得えない社会なのです。つまり、経営学を学ぶことは、これから皆さんが社会にはじめて踏み出すうえで、とても役立つ知識となります。経営学は、決して「お金儲け」の道具ではありません。現代社会に生きる人々にとって必須の入口であり、「良い経営をするための方法を研究する学問」です。経営学がうみだしてきた知識は膨大です。それだけに経営学の範囲は広く、内容も複雑					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学の基礎的な知識を理解します。 (2) 自分の考えを、整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して、経営学のフレームを通して、その見方を説明する力をつけます。					
19.教科書・教材	・加護野忠男・吉村典久(2021)『1 からの経営学(第 3 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7					
20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも同じです。） ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2(今日の事例をあげて、経営を解説しています) ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511-9					
21.成績評価	・授業の振り返りアンケート：15%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。 ・小テストをおこないます。35% －学習目標の(1)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：50% －学習目標の(1)と(2)に対応します。					
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから、時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく現実の経営実践を理解するためには、理論的に依拠する基礎学問をもたなければなりません。既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかりと身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが、心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学習していきます。4 年間をかけて、『ゼミナール経営学入門』の 1 冊をしっかりと読み込んで経営					

		学を理解していくイメージです。「4年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この1冊をやり切ったことは、これから皆さんが、道を切り開いてくうえで、大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので、必ず「読む」という習慣をつけましょう。テキストには、どんどん書き込んで、自分だけのオリジナルのテキストにしていってください。 ・その際に、生成AI利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・そして、授業を通じて、思ったこと、考えたことを大切にメモするようにしてください。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ、その時わからなかったことも、4年後にはわかるようになり、自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。
23.オフィスアワー		尼崎キャンパス ・センターオフィスアワー：(前期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階学習支援室) ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第5限 16:30～18:00 (8階研究室 805)
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	第1回：「オリエンテーション：経営学で学ぶことを学ぶ」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初に皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、「経営」という言葉について考えます。	経営学のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。
第2回	「経営学の全体像：まず大枠をつかむ。」(第2章) 皆さんは、これから経営学の森に入っていきます。森の中の一本一本の木が、経営学の各科目分野です。経営学という森を作っているイメージです。木を見て森を見なければ迷子になります。経営学とは何かについて全体像をつかみます。経営学(広義:広い見方の経営学)には、どんな分野があるのか、広義の経営学の3本柱(経営学(狭義)、商学(マーケティング)、会計学)があることをつかみます。	日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう
第3回	「会社には、どんなかたちがあるのか、企業形態を知る」(3章) ・私たちの周りには多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも、現代社会の発展に大きく寄与したのが株式会社という制度で、人類最大の発明ともいわれます。その株式会社の仕組みとその発展をみていきましょう。	今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう
第4回	「市場を理解しよう。外部環境のマネジメントについて考える」(第4章) ・カネを集めてくる(金融市場)、ヒトを集めてくる(労働市場)、製品・サービスを作って販売する(製品市	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう

	場), これらの市場との関係をどうマネジメントするのか, 企業と市場との関わりを理解します。ここからの4回は, 外部環境のマネジメントについて考えていきます	
第5回	「外部の環境のマネジメントについて考える① 経営戦略論」(第5章) ・経営戦略論は経営学の中心的分野のひとつです。経営戦略は, 長期的な視野にたつて, 組織のヒト, モノ, カネを使って, 未来に向かって何をしようとするのか, その組織の方向付けをおこなうことです。戦略論は経営学のなかでもさまざま, その代表的なものを学習します。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第6回	「外部の環境のマネジメントについて考える② 競争戦略」(第6章) ・前回に引き続いて戦略論のその代表的なものを学習します。市場にいるのは自社の私たちだけではありません。そこには競争企業がいることを考えなければなりません。競争によって大きく企業の方向付けが変わることになります。事例から競争戦略について考えます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第7回	「外部の環境のマネジメントについて考える③ 製品市場戦略」(第7・8章) ・製品には誕生してから, 市場から消えるまでのライフ・サイクルがあります。製品ライフ・サイクルという視点で, 経営戦略を捉えてみます。これは企業の多角化にもつながり, 企業の買収や提携にもつながることを事例から確認します。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第8回	「経営はだれにでもできるのか, マネジメントについて考える」(第10章) ・マネジメントとは何かを考えていきます。そして, 内側のマネジメントと外側のマネジメントの2つのマネジメントにわけて経営学の中に入っていきます。内側のマネジメントは組織のマネジメントです。外側のマネジメントとは組織の外にある環境とのマネジメントです。内と外のこの2つの目をもって経営を考えることを学びます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。
第9回	「企業の人々は何をしているのか, 内部の組織のマネジメントを考える①」(第11章) ・ここからは, 内部のマネジメントに目をむけます。前回までの企業の「外部」環境に対して「内部」の位置づけにある組織を対象にします。これは, さらに組織という視点と, その組織を構成する人の視点からわけていきます。組織とは何か, という議論から考えて	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう

	いきます。	
第 10 回	「組織のマネジメントを考える②：人は労働力じゃない」(第 11 章) ・この回から組織を構成する「人」の内部に入っていきます。企業にとって従業員の活用はなぜ重要なのでしょうか、また、何によって動かされるのでしょうか。「やる気」を高めるにはどうすればいいでしょうか。動機づけ(モチベーション)の諸理論を学習します。優れたリーダーとはどういう人でしょう。リーダーの資質はその人固有のものでしょうか。リーダーの役割とリーダーシップの概念を学びます。組織のマネジメントのなかでリーダーシップの位置づけを理解します。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 11 回	「組織のマネジメント③ 学びをキャリア・デザインに应用する」(第 12 章) これまでの学びから、自らのキャリアをどうデザインするか。過去も未来もキャリアの一部です。「流されるままの人生でいいのか」主体的にキャリアを考えるには、これまでの経営学で学んできた概念が役に立ちます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 12 回	「利益の追求は正しいことなのか、企業の社会的責任を考える。」 経営の目的は何でしょうか。経営者の役割は、利益を上げることや、株主に報いることだけではありません。もっと社会性を帯びたもので、今日の SDGs にもつながります。そこに経営の規律づけとそのチェックの問題があらわれます。これはコーポレート・ガバナンス(企業統治)の問題として扱われます。事例をもとにしてこの問題を考えてみましょう。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 13 回	「日本は世界で最も長寿企業が多いのはなぜか。ファミリー・ビジネスを考える」(13 章) ・日本は世界になかで、断トツに長寿企業が多い国で、海外からも注目されています。 何故、日本には、長寿企業が多いのでしょうか。それはファミリー・ビジネスにヒントがあります。いくつかのファミリー・ビジネスの事例をみて、その経営を考えてみます。	授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう
第 14 回	「国際化は決して遠い国の話ではない。国際経営について考える」(9 章) ・今日、グローバル化は避けて通りようがありません。企業活動のグローバルでの地理的な拡大とつながりが深まっています。日本には、売上や従業員の数の大半が海外という企業も多くあります。この回では、	経営学の総括試験のために、ノートを補強し、ノートを完成させてください。毎回のよう感想や思ったことは簡単に WebClass にアップしておいてください。

	国際化の基礎を学びます。	
第 1 5 回	「まとめと総括：テストと経営学を通じて学んだこと」 ・ようやく経営学の入口が終わりました。経営学にはどんな分野があって、その各論でどのようなことを学習したのか、テストをおこない、経営学で学んだ内容を確認します。 経営学を全体的にとらえるアプローチには、経営管理論、経営組織論、経営戦略論があります。また、個別的、専門的には人的資源管理、マーケティング論、財務・会計学があります。経営学では、これらの各論を包括的に扱ってきました。最終では、これから経営学の深めるための広がりについて話します。	今日のテストを振り返って、経営学ノートを見直してノートを完成させてください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG101-y01	2.科目名	経営学概論 【英コミ 2022 年度以前入学生】		3.単位数	4
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	日本語での理解	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	遠隔による講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的： 私たちが毎日使っているものは企業が作り出したものです。そして皆さんも数年後にはこの企業に加わるることになります。私たちのいる社会は企業の活動がなくては存在し得えない社会なのです。つまり、経営学を学ぶことは、これから皆さんが社会にはじめて踏み出すうえで、とても役立つ知識となります。経営学は、決して「お金儲け」の道具ではありません。現代社会に生きる人々にとって必須の入口であり、「良い経営をするための方法を研究する学問」です。しかしながら、経営学がうみだしてきた知識は膨大です。それだけに経営学の範囲は					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営学の基礎的な知識を理解します。 (2) 自分の考えを、整理して他者に伝えることができようにします。 (3)現実企業経営の問題に対して、経営学のフレームを通して、その見方を説明する力をつけます。					
19.教科書・教材	・加護野忠男・吉村典久(2021)『1 からの経営学(第 3 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-37521-7					
20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第 3 版」でも同じです。） ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2(今日の事例をあげて、経営を解説しています) ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511-9					
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：15%(授業への貢献度として評価します) －学習目標の(2)に対応します。 ・小テストをおこないます。35% －学習目標の(1)に対応します。 ・総括試験(最終テスト)：50% －学習目標の(1)と(2)に対応します。					
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから、時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。それに惑わされることなく現実の経営実践を理解するためには、理論的に依拠する基礎学問をもたなければなりません。既存の基礎学問が作り上げてきた知識の基本をしっかりと身につけることが大切です。 ・参考書に指定している『ゼミナール経営学入門』は厚い本ですが、心配しないでください。その中から基礎的な部分を取り出して講義します。他の部分はこの後の経営科目でも使って学習していきます。4 年間をかけて、『ゼミナール経営学入門』の 1 冊をしっかりと読み込んで経営					

		学を理解していくイメージです。「4年間をかけて社会に入る前に経営学の知識を自分のものにするんだ」と考えてください。この1冊をやり切ったことは、これから皆さんが、道を切り開いてくうえで、大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので、必ず「読む」という習慣をつけましょう。テキストには、どんどん書き込んで、自分だけのオリジナルのテキストにしていってください。 ・その際に、生成AI利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・そして、授業を通じて、思ったこと、考えたことを大切にメモするようにしてください。この蓄積があなたを変えていきます。考えながら学ぶことを続ければ、その時わからなかったことも、4年後にはわかるようになり、自らの成長を実感できると思います。困ったことがあれば相談ください。
23.オフィスアワー		・センターオフィスアワー：(前期)月曜日第3限 13:15～14:45 (4階学習支援室) ・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第5限 16:30～18:00 (8階研究室 805)
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	●第1回：「オリエンテーション：経営学で学ぶことを学ぶ」 内容：これから使うテキストと授業の進め方の説明をします。最初に、皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、「経営」という言葉について考えます。 ●第2回：「企業とは何だろう」 企業とは何か、社会と経済、市場と流通、消費者の大きな視点から捉えて、世の中の構造を理解します。前回に考えた課題を、今度はグループになってディスカッションします。経営学を学ぶとどのようなことに役立つのかを一緒に考えていきます。	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉にしてタイトルをつけまう。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第3回 第4回	●第3回：「経営学の全体像①：まず大枠をつかむ。」 皆さんは、これから経営学の森に入っていきます。森の中の一本一本の木が、経営学の各科目分野です。経営学という森を作っているイメージです。木を見て森を見なければ迷子になります。経営学とは何かについて全体像をつかみます。経営学(広義:広い見方の経営学)には、どんな分野があるのか、広義の経営学の3本柱(経営学(狭義)、商学(マーケティング)、会計学)があることをつかみます。 ●第4回：「経営学の全体像②：もう少し詳しく経営学に接近してみる」 ・最初に大枠をつ	・アサインメント 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、各自のラーニング・コミュニティで、内容を確認しておいてください。
第5回 第6回	●5回：「経営学はいつからはじまったのか」 ・経営学は、そんなに古い学問ではありません。20世紀のはじめあたりです。しかし、それ以前にも経営するという行為はあったはずで。当時の時代背景から、経営学が何故、生まれたのかを理解します。経営学の始まりを知ればその体系がわかります。「経営」と「経営学」について考えてみましょう。	・アサインメント 2人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、次

	●6 回：「会社には、どんなかたちがあるのか、企業形態を知る」 私たちの周りには多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも、現代社会の	回までに、各自のラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第 7 回 第 8 回	●第 7 回：「会社は、誰のものか、所有と経営を考える」 ・私たちの周りには、多くの会社があります。我々の社会にはそれにはどんな形態の会社があるのでしょうか。そのなかでも、現代社会の発展に大きく寄与したのが株式会社という制度で、人類最大の発明ともいわれます。その株式会社の仕組みとその発展をみていきます。 ●第 8 回：「経営はだれにでもできるのか、マネジメントについて考える」 ・マネジメントとは何かを考えていきます。そして、内側のマネジメントと外側のマネジメントの 2 つのマネジメントにわけて経営学の中に入っていきます	・アサインメント 2 人のペアでこれまでの知識を整理してください。経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単な「読みもの」を伝えます。次回までに、しっかり読んで、自分の考えをまとめておいてください。
第 9 回 第 10 回	●第 9 回：「市場を理解しよう。外部環境のマネジメントについて考える」 ・カネを集めてくる(金融市場)、ヒトを集めてくる(労働市場)、製品・サービスを作って販売する(製品市場)、これらの市場との関係をどうマネジメントするのか、企業と市場との関わりを理解します。ここからの 4 回は、外部環境のマネジメントについて考えていきます ●第 10 回：「外部の環境のマネジメントについて考える① 経営戦略論」 ・経営戦略論は経営学の中心的分野のひとつです。経営戦略は、長期的な視野にたって、組織のヒト、モノ、カネを使って、未	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第 11 回 第 12 回	●第 11 回：「外部の環境のマネジメントについて考える② 競争戦略」 ・前回に引き続いて戦略論のその代表的なものを学習します。市場にいるのは自社の私たちだけではありません。そこには競争企業がいることを考えなければなりません。競争によって大きく企業の方向付けが変わることになります。事例から競争戦略について考えます。 ●12 回：「外部の環境のマネジメントについて考える③ 製品市場戦略」 ・製品には誕生してから、市場から消えるまでのライフ・サイクルがあります。製品ライフ・サイクルという視点で、経営戦略を捉えてみる	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことは WebClass にアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第 13 回 第 14 回	●13 回：「人々は何をしているのか、内部の組織のマネジメントを考える」 ・ここからは、内部のマネジメントに目をむけます。前回までの企業の「外部」環境に対して「内部」の位	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルを

	置づけにある組織を対象にします。これは、さらに組織という視点と、その組織を構成する人の視点からわけていきます。組織とは何か、という議論から考えていきます。 ●14回：「組織のマネジメントを考える① どのような組織が作られてきたのか」1-10章 ・組織のかたち（組織構造）は様々にあります。これまでの企業の歴史的な経緯から、どのような組織が作	つけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第15回 第16回	●第15回：「組織のマネジメントを考える② どのような組織の形がいいのか」 ・前回に学習した組織構造のバリエーションをベースにして、その組織の利点や問題点を確認し、唯一ひとつの正しい組織構造があるのかを、議論します。 ●第16回：「組織のマネジメントを考える③ 人は労働力じゃない」 ・この回から組織を構成する「人」の内部に入っていきます。企業にとって従業員の活用はなぜ重要なのでしょうか、また、何によって動かされるのでしょうか。「やる気」を高めるにはどうすればいいでしょうか。動機づけ（モチベーション）の諸	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第17回 第18回	●第17回：「組織のマネジメント④ リーダーシップとは何か」 ・優れたリーダーとはどういう人でしょう。リーダーの資質はその人固有のものでしょうか。リーダーの役割とリーダーシップの概念を学びます。組織のマネジメントのなかでリーダーシップの位置づけを理解します。 ●第18回：「組織のマネジメント⑤ 学びをキャリア・デザインに応用する」(1:12章) これまでの学びから、自らのキャリアをどうデザインするか。過去も未来もキャリアの一部です。「流されるままの人生でいいのか」主体的にキャリアを考えるには、これまでの	・アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第19回 第20回	●第19回「イノベーションと経営者の役割を考える」 ・ここで、企業を動かす経営者の役割を考えます。そもそも経営者の範囲はどこまでを指すのでしょうか。経営者は何をしているのでしょうか。事例をみながら、企業が生み出すイノベーション（革新）とともに経営者の役割を考えます。 ●第20回「理念はなぜ重要なのか、経営理念と組織文化について考える」 ・組織を構成しているのは感情や違う考え方をもった生身の人間です。そういう企業組織の経営には、経営者がしっかり経営の理念を表明し、組織の文化を形成していくことが必要です。こ	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。。
第21回 第22回	●第21回：「利益の追求は正しいことなのか、企業の社会的責任を考える。」 経営の目的は何でしょうか。経営者の役割は、利益を	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょ

	上げることや、株主に報いることだけではありません。もっと社会性を帯びたもので、今日のSDGsにもつながります。そこに経営の規律づけとそのチェックの問題があらわれます。これはコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題として扱われます。事例をもとにしてこの問題を考えてみましょう。 ●第22回：「マーケティングのない企業に未来はない。マーケティングを学ぶ」 ・ここからは経営学分野にある他	う。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第23回 第24回	●第23回：「マーケティングとは何か、その基本概念を身につける」 ・前回に引き続きマーケティングはどのようなステップで進めていくのかを、理解します。マーケティングの基本的な理解が得られるよう皆さんに馴染みのある企業や製品を使って進めていきます。マーケティングを覚えるための知識ではなく、マーケティングという思考を日常に取り込むことを意識します。 ●第24回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営と会計の関係を理解する」 ・企業活動を会計の面から捉えておくことはとても重要です。会計の指標なく経営することは	アサインメント： 経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第25回 第26回	●第25回：「企業の状況を数字から読んでみよう。経営分析」 ・企業活動の結果である財務諸表はどんなものかをその構造を理解します。皆さんは就職活動のときに目にするものですから、経営の実体を数値で読みとく把握する練習をしてみます。 ・アサインメント： 来週は経営・マーケティング・会計の小テストです。第3回も見直しておきましょう。これらの内容やその関係が理解できているか確認します。経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感	経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。。
第27回 第28回	●第27回：「日本は世界で最も長寿企業が多いのはなぜか。ファミリー・ビジネスを考える」 ・日本は世界になかで、断トツに長寿企業が多い国で、海外からも注目されています。 何故、日本には、長寿企業が多いのでしょうか。それはファミリー・ビジネスにヒントがあります。いくつかのファミリー・ビジネスの事例をみて、その経営を考えてみます。 ●第28回：「国際化は決して遠い国の話ではない。国際経営について考える」（1:9章） ・今日、グローバル化は避けて通りようがありません。企業活動のグローバルでの地理的な拡大とつなが	経営学概論のノートの続きに、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして、短いフレーズにしてタイトルをつけます。感想や思ったことはWebClassにアップしましょう。 テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までに、しっかり読んで、各ラーニング・コミュニティ内で内容を確認しておいてください。
第29回 第30回	●第29回：「まとめと総括：テストと経営学を通じて学んだこと」	・アサインメント 今日のテストを振り返って、経営学概論のノ

	・ようやく経営学の入口が終わりました。経営学にはどんな分野があって、その各論でどのようなことを学習したのか、テストをおこない、経営学概論で学んだ内容を確認します。 ●第30回：「テストのフィードバックとこれからの経営学について」 ・テストの結果を全体で講評します。をディスカッションします。経営学を全体的にとらえるアプローチには、経営管理論、経営組織論、経営戦略論があります。また、個別的、専門的には人的資源管理、マーケティング論、財務・会計学	ートを見直して補強してください。毎回のように感想や思ったことは簡単に WebClass にアップしておいてください。 ・アサインメント 次の経営学の学習にむけて、経営学概論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか、さらにどの分野を伸ばしたいのか、印象に残ったことは何か、自らの考えを整理してください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG201-M01	2.科目名	経営戦略論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	「経営学概論」の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 身近な企業の事例を通して、ビジネスの基礎知識として知っておくべき経営戦略を学習していく。 【授業概要】 経営戦略の定義および要素、自社の競争力や業界の競争構造を分析する手法として3C分析とSWOT分析、ファイブフォース分析、事業戦略としてのコスト・リーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略、更に、製品のライフサイクル別の戦略や市場ポジショニング戦略、自社競争力を高めるためのコア・コンピタンスの構築、事業ドメインの考え方、経営資源の戦略的配分（PPM）など、戦略の基本ツールや枠組みにつ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連している。 具体的には、 ①企業の情報収集、分析ができる ②経営環境の変化が企業に与える影響を理解することができる ③経営戦略の基本ツールや枠組みを理解することができる					
19.教科書・教材	『一からの戦略論』（第2版）嶋口充輝他、中央経済社、2010年5月					
20.参考文献	1.競争戦略論（単行本） 青島矢一，加藤俊彦著 東洋経済新報社 2.経営戦略論（単行本） 石井 淳蔵，加護野 忠男，奥村 昭博，野中 郁次郎著 有斐閣					
21.成績評価	①グループワーク：20点 ②個人ワーク：30点(WS 3点/枚×10枚) ③総括試験：50点					
22.コメント	「経営学概論」の上位科目になります。自分の関心を持っている業界や企業の動向を常にチェックしてください。 生成AI利用：条件付きで認める ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課題については、授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	春学期： 火曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日3限 研究室オフィスアワー 秋学期： 火曜日昼休み センターオフィスアワー 水曜日11限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

1	オリエンテーション ・経営戦略とは何か ・授業の狙いと流れについて説明する	○サイクルベースあさひについて調べよう (120分) ○テキスト P2-11 の予習 (120分)
2	【講義】序章 戦略とは ・ケース：あさひ ・戦略の定義 ・戦略の要素 【GW グループ】 グループを編成し、各グループの対象業界を決めたうえ、個人の研究対象企業を決める。	・序章復習 ・研究対象企業を決めたうえ、WS-1 を作成。
3	第1章 業界の構造 (1) ・ケース：シャープ ・ファイブ・フォース	・予習 第1章 90分 ・ワークシート2
4	第1章 (2) ・戦略グループ ・移動障壁 GW: ファイブ・フォースズ トピックの要約	・PC 持参 ・復習 ・次章の予習 ・研究対象企業の3年分データ
5	第2章 取り巻く環境 (1) ・ケース：トヨタ自動車 ・PEST 分析 GW:PEST 分析	・PC 持参 ・復習
6	第2章 (2) 3C 分析と SWOT 分析 ・3C 分析 ・SWOT 分析 ・KFS の導出と経営資源の展開 Column2-1 かんばん方式 Column2-2 カイゼン	・グループワーク ・次章の予習
7	第3章 基本戦略 (1) ・ケース：しまむら ・基本戦略 コスト・リーダーシップ戦略 差別化戦略 集中戦略	・グループワーク ・復習
8	GW 中間発表	・プレゼン内容の修正 ・次章の予習
9	第4章 製品ライフサイクル別戦略 ・ケース：富士ゼロックス ・製品ライフサイクル ・製品ライフサイクル別の戦略定石 Column4-1 さまざまな製品ライフサイクル Column4-2 採用者カテゴリー	・復習
10	第5章 市場地位別戦略	・PC 持参

	・ケース：アサヒビール ・市場地位の捉え方 ・市場地位別の戦略 Column5-1 市場地位の逆転が起こる条件 Column5-2 対象となる市場の選定	・グループワーク ・復習 & 予習
11	第 6 章 リソース・ベスト・ビュー ・ケース：富士フィルム ・社内の経営資源の捉え方 ・コア・コンピタンス Column6-1 見えざる資産 Column6-2 暗黙知と形式知	・復習 & 予習
12	第 7 章 事業システム ・ケース：アスクル ・事業システムに関わる諸概念 ・戦略的事業システムの構築 Column7-1 価値連鎖 Column7-2 専属的販売代理店	・復習 & 予習
13	第 8 章 事業領域 ・ケース：ふくや ・事業領域 ・ドメイン定義の考え方	・PC 持参 ・グループワーク ・復習 & 予習
14	GW2 最終発表	・PC 持参 ・グループワーク ・復習 & 予習
15	総括試験	レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG212-A01	2.科目名	中小企業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	専門科目 (実務経験のある教員 による授業)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	無し（経営学概論の履修済が望ましい）		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 (尼崎 C と神戸山手 C の合同授業) (尼崎は対面、神戸山手は遠隔授業)		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、日本の中小企業の経営をマネジメントの視点から捉えることを目的とします。 【概要】 皆さんは「中小企業」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか？ 実は、日本の企業数の 99.7%が中小企業で、66.0%の人が中小企業で働いています。つまり、中小企業は日本経済にとってとても大きな役割を果たしています。その中小企業の経営を、経営学（マネジメント）の視点から考えながら学修します。 ・ 中小企業とは ・ 中小企業の環境適応マネジメント ・ 中小企業の資源統合マネジメント 日本の中小企業の概況を理解し					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の次の 3 つに関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力、 本科目の学習目標は次の通りです。 ① 日本の中小企業の概況を説明できる。 ② 中小企業経営における社外環境適応マネジメントについて説明できる。 ③ 中小企業経営における社内資源統合マネジメントについて説明できる。 ④ 日本の中小企業の特徴・課題・可能性を説明できる。					
19.教科書・教材	『中小企業経営入門』（第 2 版）井上善海・木村弘・瀬戸正則（編著）中央経済社 2022 年					
20.参考文献	無し（授業の中で、必要に応じて紹介します）					
21.成績評価	・ 授業後の「毎回課題」（39 点）（毎回 3 点×13 回）〈学習目標①～④に対応〉 ・ 各部の「小テスト」による理解度（30 点）（小テスト 1 回 10 点× 3 回）〈学習目標①～③に対応〉 ・ 全体を振り返る「総括試験」（40 点）〈学習目標①～④に対応〉 ⇒ 「毎回課題」「小テスト」「総括試験」の合計点が 60 点以上で合格。					
22.コメント	・ 「経営学概論」の内容を再度確認しておくこと。 ・ 教科書を使用するので、毎回予習をしっかり行い授業に臨むこと。 ・ 予習で感じた疑問や興味を、授業を通じて積極的にディスカッションして理解につなげる。 ・ 授業に積極的に参加することで自らの考えをまとめていくこと。 ・ 生成 AI の利用に関しては、毎回課題・小テスト・総括試験での利用は認めない。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 3 限					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション ・「マネジメント」とは？ ・「経営学概論」の振り返り	準備学習：「経営学概論」で学んだことを振り返り、「マネジメント」とはどのようなものなのか、自分なりの考え方をノートに書いてくる。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。
【第 2 回】	第 I 部：中小企業とは 第 1 章：中小企業の特徴	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 3 回】	第 I 部：中小企業とは 第 2 章：中小企業の歴史	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 4 回】	第 I 部：中小企業とは 第 4 章：中小企業問題と中小企業政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 ★次週「小テスト」があるので、第 I 部を復習する。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 5 回】	第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント 第 5 章：経営環境の変容と戦略マネジメント ◆小テスト（第 I 部：中小企業とは）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 （生成 AI の使用は認めない） 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 6 回】	第 II 部：中小企業の環境適応マネジメント 第 6 章：分業構造の変容と下請マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。

		とめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第7回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第7章：企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第8回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第8章：産業構造の変容と地域産業マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第9回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第9章：世界市場の変容とグローバル・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 ★次週「小テスト」があるので、第Ⅱ部を復習する。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第10回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第10章：人材難と組織・人材マネジメント ◆小テスト（第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 （生成AIの使用は認めない） 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第11回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第11章：後継者難と事業継承マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第12回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第12章：研究開発力不足と製品開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。

【第 13 回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第 13 章：既存事業の衰退と事業開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 ★次週「小テスト」があるので、第Ⅲ部を復習する。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 14 回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第 14 章：資金難と財務マネジメント ◆小テスト（第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 （生成 AI の使用は認めない） 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 15 回】	・総括試験（教科書・手書きノートのみ持ち込みを認める） ・まとめと振り返り	準備学習：自作ノートを利用して 14 回の授業内容を再確認する。 総括試験では、教科書・各自が作成した手書きノート等の持ち込みを認める。 （生成 AI の使用は認めない）

1.授業コード (ナンバリング)	MNG212-Y01	2.科目名	ビジネスプレゼンテーション 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	グループワーク・講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目はビジネスにおける基本的なプレゼンテーション能力を修得することを目的とする。 【概要】 ●プレゼンテーションの基本を学び、構造・話し方・ビジュアル・巻き込みスキルをアップし、視覚・聴覚・言語情報からのアピールを工夫して、相手を動かすプレゼンテーションをめざす。 ●プレゼン内容をつくることと、その場をハンドリングすることの2方向の充実をはかる。 ●大勢の前でのプレゼンテーションだけでなく、会議場面など、少人数に対してのアサーティブコミュニケーションや商品説明などの営業場面もふくめ、あらゆる					
18.学習目標と DPとの関連	【関連する DP】 本科目の学習目標は、(1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力に関連する。 【学習目標と関連する DP】 ①プレゼンターションの対象者の研究と考察を学ぶ→ (4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力 ②プレゼンテーションのコンテンツについての論理的構築手法を獲得する→ (1) 自律性、(4) 問題発見・解決力 ③提案の論拠や課題の検証を行えるようになる→ (4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル ④説得力のあるプレゼンテーションを実施するとともに、聴取者からの質疑への的確な対応力を身に付ける→ (4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	●教材として「全員転職時代のポータブルスキル大全」 株式会社 KADOKAWA を使用します。 ●その他、必要な教材は Webclass で共有します。					
20.参考文献	●千葉大学 「大学生のためのプレゼンテーション基礎」 https://www.gshpa.chiba-u.jp/content/files/textbook/textbook_presentation2017.pdf ●立教大学 「プレゼンテーションとは」 https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/mknpps000001ri7e-att/MasterofPresentation.pdf ●「アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門:学生					
21.成績評価	1. 講義レポート・及び発表 (20%) 2. ワークへの参加態度・発表内容 (20%) 3. 授業内プレゼンテーション (30%) 4. 最終課題 (30%) ※それぞれの内容については、授業内で説明します。					
22.コメント	情報収集・ワーク・資料作成に使用するので毎回 PC を持参すること					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1・2回	1. オリエンテーション 2. 自己紹介 3. 声の表現力を上げる「はぁ?というゲーム」	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第3・4回	1. 話すことを楽しむ「つつこみかるた」 2. プレゼンテーションの基本 「PREP 法」「SDS 法」 3. 「PREP 法」「SDS 法」の実習	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第5・6回	1. 2種類のプレゼン「報告型プレゼン」「説得型プレゼン」 2. 目的を手放さない 3. オーディエンスは誰か 1.2.3の実習	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第7・8回	1. プレゼンの3要素「誰が」「何を」「どう話す」 2. プレゼンのゴールを明確にする 3. 相手中心に考えるポイント6つ 1.2.3の実習	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第9・10回	1. 左脳と右脳に訴えかけるプレゼン 左脳で理解し、右脳で共感を得る 2. 1週目から4週目までの学習ポイントを押さえて テーマ(仮)「自分が良いと思って勧めたいコトやモノを、 クラスのメンバーにプレゼンする」 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・ 「ポータブルスキル大全」第1章より、1つ選択して説明できるように準備しておく
第11・12回	1. 説明のスキル 構造的に説明するために 2. 「報告型(説明型)プレゼン」の実習① 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・ 「ポータブルスキル大全」第2章より、1つ選択して説明できるように準備しておく
第13・14回	1. プレゼン資料の作り方 パワーポイントを使って、ロジカルな資料を作成する 2. 「報告型(説明型)プレゼンの実習② 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第15・16回	1. 論理思考力と、仮説検証力 提案内容を筋道立てて構成していくための技術と、 相手の疑問を打ち消していく技術 2. 「報告型(説明型)プレゼン③ 発表&フィードバック	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第17・18回	● 6週目～8週目の復習と 学びを生かした「説得型」プレゼンテーション	・ 授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する

	「プレゼンテーションを成功させるために」(仮) 発表&フィードバック	
第 19・20 回	1. 「報告型(説明型)プレゼン」④ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表&フィードバック 2. 「話題提供型プレゼンテーション」 ・最新のニュースより ・自分の考えをまとめて話す	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 21・22 回	1. 「報告型プレゼンテーション」⑤ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表&フィードバック 2. プレゼンテーションをリファインする リファインしたプレゼンを再発表	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 23・24 回	1. 「報告型プレゼンテーション」⑥ ・アウトライン説明 ・事例紹介 発表&フィードバック 2. 同じテーマで、事例を考え合う 発表&フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 25・26 回	● 最終課題(仮)「ポータブルスキルのフレームを使ったプレゼンテーション」 メッセージを決める 内容と構成を考える チャート化する プレゼン資料を作成する	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する
第 27・28 回	●最終課題の仮発表 ・発表&フィードバック ・リファインのモミ会 ・チャートと内容の見直し ・修正していく	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する ・最終発表の準備
第 29・30 回	●最終課題プレゼンテーション ・発表&フィードバック	・授業内容やプレゼンテーションの振り返りを記録する

1.授業コード (ナンバリング)	MNG301-A01	2.科目名	国際経営論		3.単位数	2
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	展開科??	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	経営学		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	「国際経営学」では、初学者を対象に、具体的な経営管理論、企業経営の内容、企業の中身について紹介・解説をする。伝統的管理論から近代的管理論といった各経営学説の特徴および流れ、企業の戦略的意思決定、企業組織の構造が講義の中心的な内容となる。授業は教科書を中心とした講義となるが、必要に応じてプリント等を配布する予定である。					
18.学習目標と DP との関連	本科?の学習?標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解(4)問題発見・解決力に関連しています。 学習目標： アジアの主要な国や地域の特性を理解できる。 マーケティングの基礎を理解し、国や地域にあうビジネス提案ができる					
19.教科書・教材	未定					
20.参考文献	Philip Kotler Marketing Management International Edition 高橋 浩夫 最新国際経営					
21.成績評価	テストおよびレポート 80 点、討論や質問など 20 点					
22.コメント	学生が発言できる機会を積極的に取り入れ、双方向でコミュニケーションがとれる授業展開を目指す。示スライドの配布はしません。? 国際化関心を持ち学習意欲のある学生の受講を希望します。私語をしない、携帯電話は使用しない（メールや時計利用も含む）、事情のない限り、遅刻・早退・講義中の出入りはしない、講義室に入ったら、帽子は取る、その他、社会的ルールに反しない、ルールの厳守。					
23.オフィスアワー	木曜日の昼休み時間					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
15 回						
第 1 回	講義オリエンテーション、学習?標、評価?法等			PC 持参		
第 2 回	国際経営とは何か			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 3 回	企業の国際化と国際経営			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 4 回	多国籍企業への理論的アプローチ			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 5 回	海外進出戦略			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 6 回	現地所有方式			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 7 回	現地所有方式			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 8 回	海外撤退戦略			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 9 回	国際提携の組織構造			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 10 回	経営計画と管理			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 11 回	研究開発			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 12 回	生産・ロジスティックス			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		
第 13 回	マーケティング			前回提示の教科書範囲の事前学習、PC 持参		

第 14 回	総括試験?	レポート作成・提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG301-M01	2.科目名	国際経営論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	「経営学概論」の修得	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 ○経済のグローバル化の進展に伴い、企業の経営活動の範囲がますます拡がり、ヒト・モノ・カネ・情報の国境を超えた交流(流れ)が盛んに行われている。 ○多国籍企業による対外直接投資は、本国だけではなく、進出先の国や地域に経済、文化、政治などさまざまな影響を与えている。また、企業の経営も国内にとどまった時と大きく変化している。 ○本講義では、近年の激動する国際環境のトレンドを踏まえながら、できるだけ事例の解説を通じて、企業の国際経営に関わる基本的理論と最新課題について体系的に説明する。 【授業の概					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解、の学修に関連している。 具体的には、 ・ 国際ビジネスの歴史的推移と現状を把握する ・ 企業の国際経営に関わる基本的な理論を理解できる ・ 国境を越えて経営活動を行う際に起こり得る問題を想定できる ・ 将来のビジネス現場で、臨機応変的な対応ができるようになる					
19.教科書・教材	理論とケースで学ぶ国際ビジネス（4 訂版） 江夏 健一（著）、桑名 義晴（著）、IBI 国際ビジネス研究センター（著）					
20.参考文献	授業中適宜紹介する。					
21.成績評価	ワークシート：20 点 GW プレゼンテーション：30 点（個人ワークノート 10 点+GW プレゼン 20 点） 総括試験（筆記試験）：50 点					
22.コメント	・ 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課題については、授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	春学期： 火曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等			○個人ワーク：①講義ノート、教科書を用意する。②興味ある多国籍企業を 1 社選び、HP などでその会社の国際事業展開について調べてみよう。（120 分）		
	国際ビジネスとは(1)			○個人ワーク： 教科書 P16-Review &		

	講義内容：グローバル時代、海外直接投資 ワークシート 1	Discussion (1) *各自の研究対象企業について分析しよう。(90 分)
	国際ビジネスとは(2) 講義内容：多国籍企業の定義	○個人ワーク：教科書 P16-Review & Discussion (3) *各自の研究対象企業について分析しよう。(90 分)
	国際ビジネスの歴史 (1) 講義内容：多国籍企業の成立と海外展開	○ 個人ワーク：教科書 P17-24 を読んで、P30 の Review & Discussion(1)について考えよう。(90 分)
	多国籍企業と国家(1) 講義内容：多国籍企業と国家の関係 ワークシート 2	○ 個人ワーク：第 3 章の内容を復習し、教科書 P40-Review & Discussion の①について、自分の研究対象企業、もしくはその企業の属する業界について考えよう。(90 分)
	多国籍企業と国家(2) 講義内容：立地優位性とバーゲニング	○ 個人ワーク：第 3 章の内容を復習し、教科書 P40-Review & Discussion の②について、自分の研究対象企業、もしくはその企業の属する業界について考えよう。(90 分)
	多国籍企業の CSR 講義内容：グローバルな CSR とは、多国籍企業の CSR ワークシート 3	○ 個人ワーク：教科書 P66-72 を一読し、それを参考に研究対象企業の CSR を調べてみよう。(120 分)
	グローバル競争戦略(1) 講義内容：市場のグローバル化、競争優位の源泉	○個人ワーク：教科書 P87-Review & Discussion (1) *各自の研究企業を対象に (90 分)
	グローバル競争戦略(2) 講義内容：グローバル戦略の立案と構築 ワークシート 4	○個人ワーク：教科書 P87-Review & Discussion (2) *各自の研究企業を対象に (90 分)
	国際マーケティング-1 講義内容：国際市場細分化戦略と標的市場の設定	◎グループワーク：日本に進出している外国企業（グループごとに 1 社）のマーケティング戦略についてまとめよう。(120 分) プレゼン&レポート：『〇〇社の国際マーケティング戦略』、詳細用件は Web class 参照。
	国際マーケティング-2 講義内容：国際市場参入方式の選択、製品戦略	◎グループワーク（続き）(120 分)
	国際戦略提携と M&A 講義内容：競争と協調、戦略提携のタイプ	○個人ワーク：教科書 P99-Review & Discussion (1) (90 分)
	国際戦略提携と M&A(2) 講義内容：国際戦略提携のマネジメント	◎グループワーク（続き）(120 分)
	・グループワーク プレゼンテーション	◎プレゼン資料の見直し、提出 (120 分) ○総括試験の準備 (120 分)

	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG302-M51	2.科目名	コンプライアンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	どの企業でも重要視されているコンプライアンスですが、法令だけではなく、社会的規範などの順守も求められています。また、最近のコンプライアンス違反事例にあるように、その推進体制が適切なものでなければ、企業が倒産に追い込まれてしまう危険性もあります。授業では、コンプライアンスの意味をはじめ、重要性、違反事例から対策方法まで網羅的に解説します。また、個人としても、コンプライアンスについて十分に理解していなければ、無知によってコンプライアンス違反を起こすことにもなります。自分自身を守るためにも、コンプライアンスの基					
18.学習目標と DPとの関連	(1) コンプライアンスについて説明できる。 (2) パワハラ・セクハラについて説明できる。 (3) 自分自身を守ることについて実践できる。 DP の (1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連する。					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布					
20.参考文献	授業内に適宜紹介					
21.成績評価	ノートテイク：50％ 中間レポート：25％ 期末レポート：25％					
22.コメント	コンプライアンスは、あらゆる業種のあらゆる場面で必要とされるので、しっかりを理解しておきましょう。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	コンプライアンスとは					
第2回	公私混同					
第3回	消費者保護					
第4回	不正競争					
第5回	粉飾決算					
第6回	脱税					
第7回	中間レポート			中間レポート		
第8回	企業倫理					
第9回	知的財産保護					
第10回	労使関係					
第11回	パワハラ					
第12回	セクハラ					
第13回	アカハラ					
第14回	期末レポート			期末レポート		
第15回	総括			期末レポート		

1.授業コード (ナンバリング)	MNG305-M01	2.科目名	セーフティマネジメント論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 (防災・危機マネジメント専攻、災害心理学専攻 コア科目)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学科、心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	防災士資格取得希望者(春学期地域防災減災論履修)が望ましい。		11.先修条件	3・4 年生は、人間学Ⅱおよび「地域防災減災論」単位取得が望ましい。 「地域防災減災論」未受講の学生（主に 2 年生）は、今学期金曜 2 限の地域防災減災論との同時受講が望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、ワークショップ		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	具体的な各種の危機事案対応などを通じて、「地域防災減災論」で学んだ防災・減災についての体系的な知識をさらに深め、災害をイメージする力をより高めることにより、様々な危機に対する事前対策、予防、対応など、社会のいかなる分野においても有効となる安全・安心を担保する力を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	安全・安心社会の実現に向けて必要となる法体制、組織体制、自助・共助・公助の関係など、防災・減災の総合的な知識、技量を身につける					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	各回提出物（WebClass）：50% 総括試験(レポート)：50%					
22.コメント	地域防災減災論で学んだ基礎的な自然災害に対する知識に加えて、犯罪や事故など、他の危機事象も含めた災害対応経験者からの話により、様々な危機事象を人ごとではなく自分の身にも起こりうることであることを感じてください。そして、様々な危機をイメージして、果敢に立ち向かう力を身につけてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【金曜 3 限】 第 1 回 (4/11)	<講師名は 2022 年度のもの。現在調整中> ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- セーフティマネジメント総論 <安全安心を脅かすリスク> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦<三木>			☆毎回、WebClass により履修内容の確認をします。 授業資料は WebClass で電子配布するので、ノート PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可) ※ 2～14 回も同様		
第 2 回 (4/18)	防災法制度① <災害対策基本法/災害救助法> 講師：関西国際大学 村田昌彦					
第 3 回 (4/25)	防災法制度② <災害法制度の運用他> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦（三木）					

第 4 回 (5/2)	災害時避難行動要支援者対策<障がい者、高齢者、外国人など> 講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子<山手> 関西国際大学 村田昌彦（コメント：三木）	
第 5 回 (5/9)	災害ボランティア <災害事例をベースに、望ましいボランティア活動の仕組み、活動内容について学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子<山手> 関西国際大学 村田昌彦（コメント）	
第 6 回 (5/16)	災害とマスメディア<災害発生時におけるマスコミと行政との効果的な協力による情報収集や広報について、実際の災害報道などから学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦<三木>	
第 7 回 (5/23)	消防と救命救急体制<平時における安全・安心の確保、災害時の被災地、被災者対応に重要な役割を担う消防防災のシステムについて学ぶ> 講師：現代社会学部社会防災学科教授 松山 雅洋 <山手> 村田昌彦（コメント：三木）	
第 8 回 (5/30)	こころのケア<災害被災者、救助者に対するこころのケアについて学ぶ> 講師：関西国際大学人間心理学科教授 道免 逸子<遠隔> 村田昌彦（コメント）	
第 9 回 (6/6)	身近な犯罪と防犯<日常生活の安全・安心を突然脅かす、身近に忍び寄る犯罪とその防止策を学ぶ> 講師：関西国際大学 心理学科教授 大松 光寿（山手） 心理学科教授 村田 昌彦（三木：コメント）	
第 10 回 (6/13)	犯罪心理について<安全安心を脅かす犯罪者の心理、災害発生時の犯罪の増加傾向と、その有効な対策について学ぶ> 講師：関西国際大学 人間心理学科教授 高橋浩樹<山手> 村田昌彦（コメント）	
第 11 回 (6/20)	兵庫県の防災危機管理 講師；兵庫県広域防災センター長 <三木>、 関西国際大学 村田昌彦（コメント）	
第 12 回	大規模事故ほかの危機事案対策<災害対策基本法が所管	

(6/27)	する大規模事故災害ほか、新型インフルエンザ、国民保護事案などの危機事案について実例などから学ぶ> 講師：兵庫県危機管理部災害対策課 津田副課長<山手> 村田昌彦（コメント：三木）	
第 13 回 (7/4)	被災者心理について<災害発生時における被災者の心理状況、パニック発生、風評被害、警報が出てもなかなか避難しない人々をいかに避難させるか、また、災害時の犯罪発生などについて学ぶ> 講師：元関西国際大学人間心理学科教授 西岡敏成<三木> 関西国際大学 村田昌彦（コメント）	
第 14 回 (7/11)	セーフティマネジメント演習 <自然災害に対するハザードマップを確認して、自宅・実家等の潜在リスクを各自で調べる。避難所に避難した際に、どのような困難に直面するか、グループで議論する。> 講師：関西国際大学 村田昌彦<三木>	
第 15 回 (7/18)	総括レポートの提出 講師：関西国際大学 村田昌彦<三木>	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG306-Y01	2.科目名	e コマース		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2～4 回生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義は、観光産業の構造的イノベーションの先導的役割を果たしている e コマース に関する 具体的事例を基に e コマースのビジネスの仕組み、考え方、その効果、課 題、既存ビジネスや 市場への影響等について基本的に理解し、とりわけ、プラット フォーム・システム及び e コマ ースと物流との関係については、今後の展開につい考え させることにより、ビジネス・イノベ ーションの意味、あり方、観光産業の構造的変化に つながる可能性等について考えさせる。 本講義の到達目標は、受講生が、e-ビジネスの基本的な枠組みを分析し、様々な形態					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社 会的貢献性）と（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○E コマースの基礎知識と仕組みを理解できる。 ○E コマースの現状を理解できる。 ○E コマースの現代社会における価値を生かした未来の提案ができる。					
19.教科書・教材	永野修『リアル店舗生き残りの「答え」 コロナ・E コマース時代の商業のあり方』幻冬舎、 2020 年					
20.参考文献						
21.成績評価	総合評価は、ケーススタディと小テスト、学期末に行うテストで評価する。 ケーススタディとワークシート 40%、期末レポート 20%、最終プレゼンテーション 40% ① 生成 AI 利用に関して、■条件付きで認めます。AI 生成された内容のコピーは認められませ ん。 ② 成績評価に関わる課題・レポートについて、AI 生成を利用する内容は、提出物の分量の 50%以下であること、且つ自らパラフレーズ、編集を加えていることを条件とします。					
22.コメント	授業内容は前後したり変更する場合があります。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日 3 限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	教材の紹介とオリエンテーション					
	商業不動産の現在の展開について			ワークシート作成 & 提出		
	日本全体の市場規模とその苦境について			ワークシート作成 & 提出		
	スマホと E コマースの伸長の加速について			ワークシート作成 & 提出		
	事業スキームについて			ワークシート作成 & 提出		
	E コマースとリアル店舗の比較について			ワークシート作成 & 提出		
	顧客満足づくり、顧客満足と顧客価値の関係			ワークシート作成 & 提出		
	KOT 消費行動について			ワークシート作成 & 提出		
	新しいライフスタイルの時代を考える①ケーススタデ ィ			トピックス別レポート作成 & 提出		
	新しいライフスタイルの時代を考える②ケーススタデ ィ			トピックス別レポート作成 & 提出		

	新しいライフスタイルの時代を考える③ケーススタディ	トピックス別レポート作成&提出
	コミュニティとしてのショッピングセンター	ワークシート作成&提出
	EC サイト運営チャンネル別攻略法①	プレゼンテーション準備
	グループプレゼンテーション	プレゼンテーション発表
	グループプレゼンテーションと振り返り	プレゼンテーション発表

1.授業コード (ナンバリング)	MNG307-Y51	2.科目名	ビジネスプレゼンテーション 2		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3～4 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：企業において新商品の紹介や新たな事業への進出など様々なビジネス上のプレゼンテーションが求められる。その対応について、効果的かつ説得力のあるプレゼンテーションの具体的な手法を修得する。 概要：ビジネスプレゼンテーションについて具体例を交えて、そのポイントを理解する。特にプレゼンにおける重要事項の事前準備や相手が納得するために欠かせないストーリーの作成などについて講義とケーススタディにより学ぶ。また、例題について具体的なプレゼンテーション資料を作成し、発表を行い、実践の中で重要なポイントを確認する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、学科 DP における（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に該当する。 本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(4)問題発見・解決力】【(5)コミュニケーションスキル】【(6)専門的知識・技能の活用】に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①プレゼンテーションにおける効果などを理論的に理解することができる。 ②プレゼンテーションにおいてメッセージの純化やスライド作成における留意点やスキルを学修できる。 ③自己の就活におけるプレゼンテーションを題材に、実践を通して①、②を体感する中で学び、理解を深める。					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献	ロジカルプレゼンテーション 高田貴久 プレゼンテーションの技術 グロービス					
21.成績評価	①授業理解度・・・40 点 （講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む）※学習目標①、②、③に対応 ②例題によるプレゼンテーション・・・30 点 （ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・30 点 ※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション 授業の概要や成績評価の方法について詳述する。			講義レビュー・次回の予習		
【第 2 回】	プレゼンテーションの効果 「聴き手が動きたくなるプレゼン」とは？ プレゼンテーションの概要と効果について講義する。 また、履修生は自分自身のプレゼンテーションを実施する。			講義レビュー・次回の予習		

【第3回】	提案の前に考えること① 論理思考力（話をつなぐスキル）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第4回】	提案の前に考えること② 仮説検証力（疑問に答えるステップ）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第5回】	提案の前に考えること③ 会議設計力（議論をまとめるスキル）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第6回】	提案の前に考えること④ 資料作成力①（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第7回】	提案の前に考えること⑤ 資料作成力②（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。メッセージ編	講義レビュー・次回の予習
【第8回】	提案の前に考えること⑥ 資料作成力③（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。チャート編	講義レビュー・次回の予習
【第9回】	提案の前に考えること⑦ 資料作成力④（説得力ある文章や図表を作成するスキル）について理解する。スライド編	講義レビュー・次回の予習
【第10回】	提案の前に考えること⑧ ビジネスプレゼンテーションにおけるストーリーの重要性を理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第11回】	提案の前に考えること⑨ 自分自身のストーリーを作成のポイントを踏まえて作成する。	講義レビュー・次回の予習
【第12回】	プレゼンテーションの効果とリハーサル プレゼンのスライド以外の効果について学習する。また、状況に応じた対応など直前のリハーサルの心構えを理解する。	講義レビュー・次回の予習
【第13回】	プレゼンテーションの実践① 例題に対するプレゼンテーション	プレゼンテーションの反省点を取りまとめ、復習する。
【第14回】	プレゼンテーションの実践② 例題に対するプレゼンテーション	プレゼンテーションの反省点を取りまとめ、復習する。

【第 15 回】	講義全体のまとめと振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	MOR101-A01	2.科目名	生命と倫理 (2024 年度生以前) オンデマンド		3.単位数	2
4.授業担当教員	森本誠一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会) 副専攻 (生命と生活を考える)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は低いでしょう。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の冒頭でそれを取り上げます。また、授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起きているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、医療者としてだけでなく、患者やその家族としても直面する可能性の高い生命・医療倫理学上の問題を知り、そうした問題に対して私たちがどのように考え、対処したり振る舞ったりしたらよいのかを理解し実践できるようになることを目的としています。 【概要】 以上の目的を達成するために、この授業では倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題を概観しつつ、具体的な事例に基づいた事例検討をグループで行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる (2) 倫理学の基本的な概念と代表的な倫理理論を理解し説明できる (3) 生命倫理学上の基本的なテーマとその論点について理解し説明できる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	霜田求(編著)『テキストブック 生命倫理〔第2版〕』法律文化社、2022 年					
20.参考文献	柘植尚則『プレップ倫理学 増補版』弘文堂、2021 年 徳永哲也『ベーシック 生命・環境倫理——「生命圏の倫理学」序説』世界思想社、2013 年 児玉聡『功利主義入門——はじめての倫理学』ちくま新書、2012 年 ピーター・シンガー(山内友三郎、桧則章・監訳)『グローバリゼーションの倫理学』昭和堂、2005 年					

	ジェームズ・レイチェルズ（次田 憲和・訳）『新版 現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2017年 江口聡（監訳）『妊娠中絶の生命倫理——哲学者たちは何を議論したか』勁草書房、2011年	
21.成績評価	授業中課題（WebClassでのリフレクション提出） 15% グループワークのワークシート前半 20% グループワークのワークシート後半 20% 授業内容に関する課題調査 15% 定期試験 30%	
22.コメント	この授業では、みなさんが常識だと思っていること、当たり前だと思っていることを疑い、それらが本当に当たり前なのかどうかをみなさんに問いかけながら授業を進めていきます。一つ一つの問いかけはすぐには答えられないような難しい問題かもしれませんが、決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、ぜひ肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。	
23.オフィスアワー	履修上の相談がある場合には授業の前後に声をかけてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回「イントロダクション」	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第2回「現代社会の諸問題」	現代社会の倫理的問題について、写真などを交えて学修します。「なぜ倫理学を学ばなければならないのか」「なぜ倫理学が必要なのか」という疑問に答えるべく、現代社会で私たちが考えるべき倫理的諸問題を確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第3回「生命・医療倫理学」	古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから医療倫理の四原則まで、生命・医療倫理学の歴史を大まかに学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第4回「患者中心の医療」	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンといった患者中心の医療を特徴づける生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第5回「事例検討1回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての具体的な講義を受ける前に、まずはみなさんが漠然と抱いている倫理観・道徳観に基いて生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。第13回、14回の授業で再び同様の事例を検討することで、この講義を受講することによってみなさんがどのように成長したのかを実感します。事例検討は2回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出した意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向け	◎グループで発表後の反省会120分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第6回「事例検討1回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 7 回「安楽死・尊厳死」	国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死に対する倫理的な考え方を学習します。授業の中で尊厳死に関わる映像資料を視聴します。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 8 回「脳死・臓器移植」	脳死がどのようなものなのか、遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、日本における法制度の要点に触れながら脳死・臓器移植に対する倫理的な考え方を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 9 回「生殖に関する倫理学 (1)」	人工授精・体外受精・顕微授精、受精卵・精子・卵子の提供、および代理母ががどのようなものか確認した上で、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、私たちが素朴に抱きがちな「自然である」「不自然である」という感情が何なのかを授業を通して反省します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 10 回「生殖に関する倫理学 (2)」	着床前診断、出生前診断がどのようなものか確認したうえで、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、近年の高性能なエコー検査が投げかける新たな倫理的問題についても学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 11 回「選択的人工妊娠中絶」	胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。さて、胎児に障害があるという理由で中絶を決断することは、何か倫理的問題を引き起こすのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べることやそうした技術を開発して世に出していくことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 12 回「人工妊娠中絶」	現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 13 回「事例検討 2 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての一通りの授業を受けた結果どのような成長をしたのか確かめるため、生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向けて模造紙にまとめます。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 14 回「事例検討 2 回目後半」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分

		○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 15 回「総括 試験、まとめ、全体のふ り返し」	総括試験を行います。試験が終わったあとには試験問題について解説します。その際、授業全体をふり返りながら、これまで何を学修してきたのか一緒に確認します。さらに、成績評価の方法・基準についても再確認します。授業に対する質問や意見を出す時間も設けます。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○授業ノートの整理をしながら復習 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	MRK101-A01	2.科目名	マーケティング		3.単位数	4
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	基礎科目 マーケティング分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	高校（公民） 中学（社会）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	[目的] 本講義では、マーケティングの基礎理論、特にマーケティングの視点を体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であり、今後の様々な学修に大きく影響する。 [概要] 本講義では、マーケティング理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、マーケティングを実際に使える技術にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができる					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①マーケティングの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる=知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる=情報収集/分析力 ③マーケティング技術を高め、プランニングの為のツールとして活用できる=思考/構想 [関連するディプロマポリシー] (1) 自立性 (2) 社会的貢献 (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1 からのマーケティング(第 4 版)』 碩学舎 ,2019 年 ISBN:978-4-502-32771-1 定価:本体 2,400 円+税 *確認テスト等は、このテキストから出題されます。					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「マーケティングの概念を理解していること、それを用いた企業や商品事例の分析」:40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」:10 点					
22.コメント	マーケティングは、生活者や街・お店を観察すること、また、私達の身近な様々な製品やサービス、情報に興味を持つことから始まります。少し注意をすればその微妙な変化や違い、またその理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングの技術獲得の一步となります。人や街、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。					

	生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日 2 限 センターオフィスアワー：月曜日 1 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ●学生を知る ・各自の興味、関心を知る 第 2 回 ○マーケティングとは ・マーケティングの意味、マーケティングとは何か 継続的に「価値」を生み出すこと ・マーケティングはプランニングの為のツール	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回 第 4 回	第 3 回 ○ マーケティング事例を学ぶ①ロフト ・プランニングの意味、コンセプトのカタチ（触媒型と射抜き型） 第 4 回 ○マーケティング事例を学ぶ②ZARA とユニクロ ・ビジネスモデルとファッションビジネスの現場	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回 第 6 回	第 5 回 ○マーケティング事例を学ぶ③ファッションビジネスの課題と古着の可能性 ・SDGs、PEST 分析 第 6 回 ○マーケティング事例を学ぶ④キーアイテム ・4P とは ・Product の意味	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回 第 8 回	第 7 回 ○マーケティング事例を学ぶ⑤シャネル研究 ・ブランドビジネス 第 8 回 ○注目される直近のマーケティング領域： マーケティングの教科書、業界地図 ・どんな課題、業界に興味があるか	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回 第 10 回	第 9 回 ○自分をマーケティングする ・福本式就活法 → 自己分析 → 勝ち筋の発見 ・自己の価値の発見し、目標化する 第 10 回 ○マーケティングプロセス ・興味のある開発テーマを選択し、プランニングする	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回 第 12 回	第 11 回 ○マーケティングフレーム ： フレームワークの	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる（60

	色々 ・必要な情報を収集して整理する、そして活用する為のフレーム - PEST 分析、3C 分析、SWOT 分析、5 フォース分析 など 第 12 回 ○STP ・限られた経営資源を有効に投資する為の STP ・色んなセグメント手法 - デモグラフィック、ライフステージ、世代（Z 世代）、心理的セグメンテーション - 顧客ピラミッド（5 セグ）、イノベーター理論 など ・ポジショニングマップの種類	分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回 第 14 回	13 回 ○MM 戦術構築の要「4P」 ・4P「What」と C「Who」の組み合わせ = 「価値」 ○最も重要な P = 「Product」 ・キーアイテム ・製品のマネージメント 第 14 回 ○Price ・価格のマネージメント ・価格の決め方	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回 第 16 回	第 15 回 ○Place ・チャネル、流通の進化 ・チャネルのマネージメント 第 16 回 ○Promotion ・プロモーションの全体像 ・広告のマネージメント ・コミュニケーションデザインへ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] 作成と提出
第 17 回 第 18 回	第 17 回 ○コミュニケーションデザイン ・コミュニケーション戦略、時代の主役の変遷 ・What to Say × How to Say ・コミュニケーションアイデア、プロダクトアイデア 4 象限別対応 第 18 回 ○今注目されるメディア ・マスコミから WEB マーケティングへ ・注目されているアドテクノロジー SEO SEM リスティング広告 KPI	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 19 回 第 20 回	第 19 回 ○SNS とインフルエンサー ・Z 世代と SNS	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分）

	・インフルエンサー事例 ・AIDMA → AISAS モデルへ 第 20 回 ○クリエイティブワーク ・What to Say × How to Say プロダクト「アイデア」 × コミュニケーション「アイデア」 ○ロジカル × エモーショナル ・媒体の選択 ・キャッチコピー ボディコピー ・ショート動画	[復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 21 回 第 22 回	第 21 回 ○ブランド論 ・ブランドとは 記憶の小箱 : プロダクトに価値を見出した便益と独自性を記憶として残す ・ブランド論の変遷 ・ブランド構築のマネージメント 第 22 回 ○5 つ目 P Platform ・新しいビジネスモデル D2C(SHEIN)、楽天、amazon	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 23 回 第 24 回	第 23 回 ○マーケティングリサーチ : 調査 ・定量と定性の違い ・定量調査とは : クロス集計、誤差 第 24 回 ・定性調査とは : エスノグラフィ 顕在化していないニーズを発見してモノをつくる WALKMAN iPod iPhone	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 25 回 第 26 回	第 25 回 ○今注目の事業・商品開発手法 ・マスマーケティングから・顧客起点マーケティング (N=1) へ ・N=1 の重要性 9 セグマップから戦略を導く 第 26 回 ○商品開発ワークショップ : グループワーク * 選択式の課題を提示 授業時間以外でもグループで発表に向けた活動を自主的にを行うことを勧める	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 27 回 第 28 回	第 27 回 ○商品開発ワークショップ : グループワーク 第 28 回 ○商品開発ワークショップ : グループワーク	[予習][復習] グループワークを見直し完成させる
第 29 回 第 30 回	第 29 回 クループワーク発表 第 30 回	[予習] 総括試験の準備

	○総括試験	グループワークを見直し完成させ発表準備をする

1.授業コード (ナンバリング)	MRK101-M01	2.科目名	マーケティング		3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	本講義では、マーケティングの基礎理論、特にマーケティングの視点を体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であり、今後の様々な学修に大きく影響する。 そのため、授業中は事例紹介を交えながらできるだけ、分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学ではなく、ほぼ毎回、グループワークや個ワーク本講義は、3つの構成要素が盛り込み、学びの目標を明確して、多面的にメリハリのついた学習できるようになっている。 なお、テキストは毎回、次週の章を読み					
18.学習目標と DPとの関連	1. マーケティングの専門用語が理解できる＝知的好奇心 2. 組織の課題について、マーケティングの視点で分析できる＝思考／判断力 3. マーケティングのテーマ（社会現象）について理解できる＝情報収集／発見力					
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1からのマーケティング（第4版）』 碩学舎 ,2019 年 ISBN：978-4-502-32771-1 定価：本体 2,400 円＋税 *確認テスト等は、このテキストから出題されます					
20.参考文献	別途、紹介する。					
21.成績評価	本講義の到達目標を確認するため、下の4つの方法と視点から理解度を計り、単位を出し評価を行う。 (1)授業中の振り返り問題：15 点 (2)授業中のワーク：15 点 (3)中間レポート「光ライティングシステムの分析」：20 点 (4)総括試験「マーケティングの概念を理解していることと、それを用いた企業や商品の分析」：40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点					
22.コメント	マーケティングは、私達の身近な様々な製品やサービス、情報と密接に関連しています。少し、注意をすればその違いや理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングであり、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回 (xx/xx) 第 02 回 (xx/xx)	第 01 回：04 月 09 日：オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、テキスト等について説明を行う。また、これから学んでいくマーケティングについて身近な製品やサービスを事例として個人ワークとグループワークを行い、実感して貰う。 第 02 回：04 月 12 日：「マーケティングの発想」（第 1 章：マーケティング発想の経営） マーケティングが身近な製品やサービスに大きく関係			○テキスト第 2 章を読んでくる。(60 分)		

	しており、その目的や意図、定義について理解する。 また、マーケティングの視点から特定の商品を採り上げ、それを個人で分析する体験を行う。	
第 03 回 (xx/xx) 第 04 回 (xx/xx)	第 03 回：04 月 16 日：「マーケティングの誕生の歴史」（第 2 章：マーケティング論のなりたち） 歴史的なマーケティングの発生を学び、その存在理由を理解する。また、マーケティングと経営学の違いを知るため、マーケティングの目的と機能を自分の生活に置き換えて考え、理解する。 第 04 回：04 月 19 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）前半 マーケティングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4P s について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール	○テキスト第 3 章を読んでくる。(60 分)
第 05 回 (xx/xx) 第 06 回 (xx/xx)	第 05 回：04 月 23 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）後半 マーケティングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4P s について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール等を分析してみる。 第 06 回：04 月 26 日：「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）前半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品の一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。	○テキスト第 4 章を読んでくる。(60 分)
第 07 回 (xx/xx) 第 08 回 (xx/xx)	第 07 回：04 月 30 日「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）後半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品の一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。 第 08 回：05 月 07 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章 価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。	○テキスト第 5 章を読んでくる。(60 分)
第 09 回 (xx/xx) 第 10 回 (xx/xx)	第 09 回：05 月 10 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章 価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。 第 10 回：05 月 14 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）前半 4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を採り上げ、その販売促進戦略を考察する。	○テキスト第 6 章を読んでくる。(60 分)

第 11 回 (xx/xx) 第 12 回 (xx/xx)	第 11 回：05 月 17 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）後半 4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を探り上げ、その販売促進戦略を考察する。 第 12 回：05 月 21 日：「流通戦略」（第 7 章：チャンネルのマネジメント）前半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめる。	○テキスト第 7 章を読んでくる。(60 分)
第 13 回 (xx/xx) 第 14 回 (xx/xx)	第 13 回：05 月 24 日：「流通戦略」（第 7 章：チャンネルのマネジメント）後半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめる。 第 14 回：05 月 28 日：これまでのまとめ	
第 15 回 (xx/xx) 第 16 回 (xx/xx)	第 15 回：05 月 31 日：中間試験 第 16 回：06 月 04 日：中間試験総括	○テキスト第 8 章を読んでくる。(60 分) レポート課題提示
第 17 回 (xx/xx) 第 18 回 (xx/xx)	第 17 回：06 月 07 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）前半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各自で知っている大手企業を探り上げ、そのサプライチェーンについて調べて報告する 第 18 回：06 月 11 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）後半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各	○テキスト第 9 章を読んでくる。(60 分)
第 19 回 (xx/xx) 第 20 回 (xx/xx)	第 19 回：06 月 14 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）前半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。 第 20 回：06 月 18 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）後半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。	○テキスト 10 章を読んでくる。(90 分) レポート提出日
第 21 回 (xx/xx) 第 22 回 (xx/xx)	第 21 回：06 月 21 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 10 章：顧客関係のマネジメント） マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。 第 22 回 06 月 25 日：「顧客関係の理解とマネジメン	○テキスト第 11 章を読んでくる。(90 分)

	ト」(第 10 章：顧客関係のマネジメント) マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。	
第 23 回 (xx/xx) 第 24 回 (xx/xx)	第 23 回：06 月 28 日：「顧客関係の理解とマネジメント」(第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント) 前半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント(工夫)とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解する。 第 24 回：07 月 02 日：「顧客関係の理解とマネジメント」(第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント) 後半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント(工夫)とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解する	○テキスト第 12 章を読んてくる。(60 分)
第 25 回 (xx/xx) 第 26 回 (xx/xx)	第 25 回：07 月 05 日：「顧客の変化とその測定」(第 12 章：顧客理解のマネジメント) 前半 顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。 第 26 回：07 月 09 日：「顧客の変化とその測定」(第 12 章：顧客理解のマネジメント) 後半 顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。	○テキスト 13 章を読んてくる。(60 分)
第 27 回 (xx/xx) 第 28 回 (xx/xx)	第 27 回：07 月 12 日：「ブランド構築の論理」(第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」) 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイキティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。 第 28 回：07 月 16 日：(第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」) 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイキティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。	○e-ポートフォリオ「これまでの学修を使い、成功していると考えル企業や商品を一つ選び、その成功要因を分析して投稿しなさい。」
第 29 回 (xx/xx) 第 30 回 (xx/xx)	第 29 回：07 月 19 日：「企業の社会的責任と義務」(第 14 章：「社会責任のマネジメント」) これまでの総括 第 30 回：07 月 26 日：総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK101-y02	2.科目名	マーケティング		3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	本講義では、マーケティングの基礎理論、特にマーケティングの視点を体得することを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針であり、活動であり、今後の様々な学修に大きく影響する。 そのため、授業中は事例紹介を交えながらできるだけ、分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学ではなく、ほぼ毎回、グループワークや個ワーク本講義は、3つの構成要素が盛り込み、学びの目標を明確して、多面的にメリハリのついた学習できるようになっている。 なお、テキストは毎回、次週の章を読み					
18.学習目標と DPとの関連	1. マーケティングの専門用語が理解できる＝知的好奇心 2. 組織の課題について、マーケティングの視点で分析できる＝思考／判断力 3. マーケティングのテーマ（社会現象）について理解できる＝情報収集／発見力					
19.教科書・教材	石井 淳蔵・ 廣田 章光 『1からのマーケティング（第4版）』 碩学舎 ,2019 年 ISBN：978-4-502-32771-1 定価：本体 2,400 円＋税 ＊確認テスト等は、このテキストから出題されます					
20.参考文献	別途、紹介する。					
21.成績評価	本講義の到達目標を確認するため、下の4つの方法と視点から理解度を計り、単位を出し評価を行う。 (1)授業中の振り返り問題：15 点 (2)授業中のワーク：15 点 (3)中間レポート「光ライティングシステムの分析」：20 点 (4)総括試験「マーケティングの概念を理解していることと、それを用いた企業や商品の分析」：40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点					
22.コメント	マーケティングは、私達の身近な様々な製品やサービス、情報と密接に関連しています。少し、注意をすればその違いや理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングであり、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回 (xx/xx) 第 02 回 (xx/xx)	第 01 回：04 月 09 日：オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、テキスト等について説明を行う。また、これから学んでいくマーケティングについて身近な製品やサービスを事例として個人ワークとグループワークを行い、実感して貰う。 第 02 回：04 月 12 日：「マーケティングの発想」（第 1 章：マーケティング発想の経営） マーケティングが身近な製品やサービスに大きく関係			○テキスト第 2 章を読んでくる。(60 分)		

	しており、その目的や意図、定義について理解する。 また、マーケティングの視点から特定の商品を採り上げ、それを個人で分析する体験を行う。	
第 03 回 (xx/xx) 第 04 回 (xx/xx)	第 03 回：04 月 16 日：「マーケティングの誕生の歴史」（第 2 章：マーケティング論のなりたち） 歴史的なマーケティングの発生を学び、その存在理由を理解する。また、マーケティングと経営学の違いを知るため、マーケティングの目的と機能を自分の生活に置き換えて考え、理解する。 第 04 回：04 月 19 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）前半 マーケティングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4P s について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール	○テキスト第 3 章を読んでくる。(60 分)
第 05 回 (xx/xx) 第 06 回 (xx/xx)	第 05 回：04 月 23 日：「顧客の理解と 4P s」（第 3 章：マーケティングの基本概念）後半 マーケティングでの「顧客」という概念と、重要な視点である 4P s について理解する。また、学んだ 4P s の視点を活かし、4K テレビやチキンラーメン、アリエール等を分析してみる。 第 06 回：04 月 26 日：「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）前半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品の一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。	○テキスト第 4 章を読んでくる。(60 分)
第 07 回 (xx/xx) 第 08 回 (xx/xx)	第 07 回：04 月 30 日「製品戦略」（第 4 章：製品のマネジメント）後半 4P s の製品戦略を差別化戦略、市場細分化戦略、多様化戦略、計画的陳腐化戦略に分けて学ぶ。事例として商品の一つ採り上げ、それを元に戦略を分析してみる。 第 08 回：05 月 07 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章 価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。	○テキスト第 5 章を読んでくる。(60 分)
第 09 回 (xx/xx) 第 10 回 (xx/xx)	第 09 回：05 月 10 日：「価格戦略」（テキスト：第 5 章 価格のマネジメント）前半 4P s の価格戦略、特に均衡価格体系の形成と非価格競争と流通戦略への移行を学ぶ。身近な価格の違い、理由を考察する。 第 10 回：05 月 14 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）前半 4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を採り上げ、その販売促進戦略を考察する。	○テキスト第 6 章を読んでくる。(60 分)

第 11 回 (xx/xx) 第 12 回 (xx/xx)	第 11 回：05 月 17 日：「販売促進戦略」（第 6 章：広告のマネジメント）後半 4P s の販売促進戦略をメディアミックス戦略毎に分けて学ぶ。また、好きな商品を探り上げ、その販売促進戦略を考察する。 第 12 回：05 月 21 日：「流通戦略」（第 7 章：チャンネルのマネジメント）前半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめてみる。	○テキスト第 7 章を読んでくる。(60 分)
第 13 回 (xx/xx) 第 14 回 (xx/xx)	第 13 回：05 月 24 日：「流通戦略」（第 7 章：チャンネルのマネジメント）後半 4P s の流通戦略を、「流通系列化」、「販売価格維持制度」、そして商業とマーケティングの対立について学ぶ。身近な商品の流通を探し、まとめてみる。 第 14 回：05 月 28 日：これまでのまとめ	
第 15 回 (xx/xx) 第 16 回 (xx/xx)	第 15 回：05 月 31 日：中間試験 第 16 回：06 月 04 日：中間試験総括	○テキスト第 8 章を読んでくる。(60 分) レポート課題提示
第 17 回 (xx/xx) 第 18 回 (xx/xx)	第 17 回：06 月 07 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）前半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各自で知っている大手企業を探り上げ、そのサプライチェーンについて調べて報告する 第 18 回：06 月 11 日：「企業間、企業内でのサプライチェーン」（第 8 章：サプライチェーンのマネジメント）後半 企業間、企業内でのサプライチェーンについて、資生堂を事例に在庫からキャッシュの管理、同期化について学ぶ。各	○テキスト第 9 章を読んでくる。(60 分)
第 19 回 (xx/xx) 第 20 回 (xx/xx)	第 19 回：06 月 14 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）前半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。 第 20 回：06 月 18 日：「営業とは何か」（第 9 章：営業のマネジメント）後半 企業活動で最も重要な営業活動の本質と共に、その活動のマネジメント方法を学ぶ。また、好きな製品を一つ採り上げ、その営業戦略を検討する。	○テキスト 10 章を読んでくる。(90 分) レポート提出日
第 21 回 (xx/xx) 第 22 回 (xx/xx)	第 21 回：06 月 21 日：「顧客関係の理解とマネジメント」（第 10 章：顧客関係のマネジメント） マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。 第 22 回 06 月 25 日：「顧客関係の理解とマネジメン	○テキスト第 11 章を読んでくる。(90 分)

	ト」(第 10 章：顧客関係のマネジメント) マーケティングでの顧客の再確認と共に、顧客と企業の関係性の理解、そしてマネジメント方法を学ぶ。	
第 23 回 (xx/xx) 第 24 回 (xx/xx)	第 23 回：06 月 28 日：「顧客関係の理解とマネジメント」(第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント) 前半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント(工夫)とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解する。 第 24 回：07 月 02 日：「顧客関係の理解とマネジメント」(第 11 章：ビジネスモデルのマネジメント) 後半 ヒット商品を生み出すだけでは生き残れないのはなぜか、ビジネスモデルのマネジメント(工夫)とは何かについて、ビジネスモデルの重要性と競争優位性を理解する	○テキスト第 12 章を読んてくる。(60 分)
第 25 回 (xx/xx) 第 26 回 (xx/xx)	第 25 回：07 月 05 日：「顧客の変化とその測定」(第 12 章：顧客理解のマネジメント) 前半 顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。 第 26 回：07 月 09 日：「顧客の変化とその測定」(第 12 章：顧客理解のマネジメント) 後半 顧客、特に顧客ニーズは変化しやすいという特性があることの理解と、それを如何に測定し理解するかを学ぶ。	○テキスト 13 章を読んてくる。(60 分)
第 27 回 (xx/xx) 第 28 回 (xx/xx)	第 27 回：07 月 12 日：「ブランド構築の論理」(第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」) 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイキティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。 第 28 回：07 月 16 日：(第 13 章：「ブランド構築のマネジメント」) 顧客のブランド認知、深化を行うことで強力な競争優位であるブランドイキティを形成する、その理論と仕組みをを学ぶ。	○e-ポートフォリオ「これまでの学修を使い、成功していると考えル企業や商品を一ツ選び、その成功要因を分析して投稿しなさい。」
第 29 回 (xx/xx) 第 30 回 (xx/xx)	第 29 回：07 月 19 日：「企業の社会的責任と義務」(第 14 章：「社会責任のマネジメント」) これまでの総括 第 30 回：07 月 26 日：総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK202-Y01	2.科目名	マーケットリサーチ		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスの戦略立案→実行→検証のためには、「消費者の声に耳を傾ける」ことが必須です。この科目は、さまざまな手法を用いて消費者の声を客観的に収集・分析できるようになることを目的とします。 概要：戦略の成功のために必須となるマーケットリサーチの目的とやり方を、具体例に基づいて実践しながら習得します。数字やエクセル関数が苦手な方も、ご安心ください。数字をいじることが目的ではなく、ビジネスを成功させるためのマーケットリサーチの位置づけを理解することを目的として授業を設計しています。 授業中、Google F					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力の習得をいちばんの目的としつつ、(4)問題発見・解決力を磨き上げることを視野に入れています。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 13 点（各回 1 点×9 回、15 回目のみ 4 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点（各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：ガイダンス マーケットリサーチとは マーケットリサーチの意義			予習：なし 授業のまとめシート：提出 復習：マーケットリサーチの意義をまとめる		
第 2 回	講義：戦略構築とは マーケットリサーチは、ビジネス戦略の立案→実行→検証のためのツールです。マーケットリサーチとビジネス戦略の関係性について、ビジネス現場の実例を交えて講義します。			予習：なし 授業のまとめシート：提出 復習：戦略のフレームワークについてまとめる		

第 3 回	講義：市場分析 第 3 回以降は、実際のビジネスの例として「関西国際大学の学生募集」をテーマとして進行します。まずは、戦略のフレームワークのうち、市場分析について皆さん一緒にリサーチしていきます。	予習：18 歳人口の最近の傾向と今後の予測について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：大学の学生募集市場の状況についてまとめる
第 4 回	講義：競合分析 「大学の学生募集」について、競合の定義をするためのリサーチの準備をします。また、各種調査に有用な「Google Form」の基本的な使い方を習得します。 個人ワーク：競合を定義するための定性・定量調査を設計し、次回までに実際に実施します。そのための調査設計と Google Form の設定を行います。必ずノート PC を持参してください。	予習：関西国際大学の競合と思われる大学をリストアップする 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定性・定量調査を実行する
第 5 回	講義：リサーチ結果発表、定性調査設計 各自で実施・提出したリサーチ結果を集約し、競合を定義します。 グループワーク：志望校選びのポイントをデスクリサーチし、グループで仮説を立案します。仮説立案のための定性調査を設計し、次回までに実際に実施します。	予習：実施した定性・定量調査の結果をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定性調査を実行する
第 6 回	講義：定量調査設計 グループワーク：定性調査の結果を持ち寄り、志望校選びのポイントを厳選して、定量調査を設計します。設計した定量調査は、次回までに実際に実施します。必ずノート PC を持参してください。	予習：実行した定性調査のまとめ 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定量調査を実行する
第 7 回	グループワーク：「志望校選びのポイントを見抜く」 定量調査の結果をまとめて、志望校選びのポイントの厳選と、重みづけを行います。次回のプレゼンテーションの準備を進めます	予習：実行した定量調査のまとめ 授業のまとめシート：不要 復習：グループでワークを進行
第 8 回	プレゼンテーション：「志望校選びのポイントを見抜く」 講義：ここまでのまとめ、クロス定量調査設計、Google Form の使い方（条件分岐）。 グループワーク：「大学の強みと弱みを見極める」 競合と比較し強みと弱みを見つけるための定量調査を設計します。設計した定量調査は、次回までに実際に実施します。必ずノート PC を持参してください。	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：提出 復習：設計した定量調査を実行する
第 9 回	グループワーク：「大学の強みと弱みを見極める」 定量調査の結果をまとめて、大学の強みと弱みを見極めます。次回のプレゼンテーションの準備を進めます	予習：実行した定量調査のまとめ 授業のまとめシート：不要 復習：グループでワークを進行
第 10 回	プレゼンテーション：「大学の強みと弱みを見極める」 グループワーク：「オープンキャンパスの企画」 見出した強み、弱みを踏まえ、オープンキャンパスのコンセプト候補を 3 つ作ります。	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：提出 復習：グループでワークを進行
第 11 回	講義：コンセプト調査設計 グループワーク：「オープンキャンパスの企画」 オープンキャンパスのコンセプト候補比較するためのコンセプト調査を設計し、次回までに実際に実施しま	予習：コンセプトの候補をまとめる 授業のまとめシート：不要 復習：設計したコンセプト調査を実施する

	す。	
第 12 回	グループワーク：「オープンキャンパスの企画」 実施したコンセプト調査の結果をまとめて、オープンキャンパスのコンセプトを確定します。次回のプレゼンテーションの準備を進めます。	予習：実施したコンセプト調査のまとめ 授業のまとめシート：不要 復習：グループでワークを進行
第 13 回	プレゼンテーション：「オープンキャンパスの企画」 講義：ここまでのまとめ、総括試験に向けて	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	MRK206-Y51	2.科目名	マーケティング		3.単位数	2
4.授業担当教員	上瀬昭司					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか、そしてマーケティングをうまくやるために理論がどのように役立つのかを学びます。そのようなことを学ぶことは、さらに深くマーケティングを学ぶきっかけとなり、うまくマーケティングを行うための手がかりを得ることになるはずです。 【概要】 1回の授業で、テキストの1章分を進みます。初回は2つの章を進み、第15回に総括試験を行います。 授業の最初に、各回のテーマに沿った企業のマーケティング活動（事例）を説明しながら、そのマーケティングを					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(2)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①マーケティングについての基本的概念を理解できる。 ②新聞報道等で目にした企業のマーケティング行動について、理論的に整理できる。 ③企業のマーケティング行動について自分の考えを論理的に組み立て、他人に説明できる。					
19.教科書・教材	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング〈第4版〉』2020年、碩学舎					
20.参考文献	授業で使用した資料については、授業中に適宜指示する。 テキストの各章末に「参考文献」と「次に読んで欲しい本」が掲載されているので、授業内容に興味を持ち、もっと深く学びたいと思う学生は、それらの文献に当たってほしい。					
21.成績評価	成績評価の方法と配点は以下の通りです。 ・ディスカッションへの参加・・・30点〔学習目標③に対応〕 ・レポート・・・30点〔学習目標②に対応〕 ・総括試験・・・40点〔学習目標①に対応〕					
22.コメント	ディスカッションのテーマについては、以下のことに注意して、あらかじめ自分の意見をまとめておくといよ。 ディスカッションのテーマは、当該章の内容に沿ったものであることに注意すると、的外れな発言をすることがない。 あらかじめ考えてきた意見であっても、先に述べた人とまったく同じものならば、述べてはいけない。似たような意見の場合は、違いを明らかにすることで、別の意見とみなされる。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	マーケティング発想の経営 ・アサヒビールのスーパードライ開発のケースを通して、マーケティング発想の第一は、消費者志向であることを理解する。			テキスト第1章および第2章についてあらかじめ読んでおき、ディスカッションのテーマについて自分なりの考えをまとめておく。		

	・ 4 分の 1 インチのドリルのケースを通して、消費者の本当のニーズは製品そのものではなく製品が果たす機能にあることを理解する。 ・ ハーレーダビッドソンとコカ・コーラ「ニューコーク」のケースを通して、消費者が本当に欲しいものは何かについて考える。 テキスト第 1 章 ディスカッションのテーマ ・ 幾つかの製品を取り上げ、その製品が果たす機能とその製品を購入する目的について考えて	
第 2 回	マーケティングの基本概念 ・ サントリー食品の「クラフトボス」のケースを通じて、マーケティングの基本概念（STP と 4 P）について学ぶ。 テキスト第 3 章 ディスカッションのテーマ ・ 特定の製品市場を想定し、そこがどのようなセグメントに分けられるのか、考えてみよう。 ・ それらの製品市場における幾つかの具体的な製品を取り上げて、それぞれで組み合わせられている 4 P の共通点や相違点について、考えてみよう。 ・ それらの製品が 4 P の統合として何を目指していると思われるか、考えてみよう。	テキスト第 3 章をあらかじめ読んでおく
第 3 回	製品のマネジメント ・ 日清食品の「カレーメシ」の開発のケースを通して、マーケティングの 4 P の 1 つである製品のマネジメントについて学ぶ。 テキストの第 4 章 ディスカッションのテーマ ・ 特定の製品の製品コンセプトについて調べてみよう。 ・ カップ飯のライン拡張の方向について考えてみよう。 ・ 特定の製品のヒットの理由について、製品のマネイ面との観点から考えてみよう。	テキスト第 4 章をあらかじめ読んでおく
第 4 回	価格のマネジメント ・ 明治 ザ・チョコレートケースを通じて、価格設定のマネジメントにおいて、需要とその価格弾力性、代替品（競合製品）との関係性、マーケティング・ミックスとの一貫性を考慮しなければならないことを学ぶ。 テキスト第 5 章 ディスカッションのテーマ ・ 競合製品よりも高い価格設定を行った高付加価値のヒット商品の事例を見つけ、どうしてそのような価格設定が妥当であるのかを「需要」と「競合製品」との関係から考える。 ・ バンドリング製品の具体的な事例を見つけ、どのよ	テキスト第 5 章をあらかじめ読んでおく

	うな価格設定がなされているのか、売手に	
第5回	広告のマネジメント ファブリーズの事例を通して広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応）、そして、プロモーション・ミックスの中で広告の役割と他との連携、さらには、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせに6つについて学ぶ。 テキスト第6章 ディスカッションのテーマ ・今現在、携帯電話事業に参入しているすべての企業の主要な製品を挙げ、それらの具体的な広告表現の要素（ヘッドライン、キャッチコピー、タレント）を比較し、それぞれの広告マネジメント（消費者対応、競争対応、ブランド対応）を考えてみよう。	テキスト第6章をあらかじめ読んでおく ※レポート課題を出します。提出は3週間後のこの授業の前日までに、UNIVERSAL PASSPORT 上にアップすること。
第6回	チャネルのマネジメント ・資生堂が創り上げてきたチャネル別ブランド戦略を取り上げ、チャネル・マネジメント（チャネル選択とチャネル管理）という内容を中心に学ぶ。 テキスト第7章 ディスカッションのテーマ ・アネッサの主なチャネルとして、ドラッグストアを選択した理由を考えてみよう。 ・化粧品メーカーは、大きく精度品メーカーと一般品メーカーと訪販品メーカーに分けられる。チャネルの違いを中心に両者の違いを考えてみよう。 ・インターネットやスマートフォンなどの活用が当たり前となった現代における、化粧品メーカーのチ	テキスト第7章をあらかじめ読んでおく
第7回	サプライチェーンのマネジメント ・赤城乳業の事例を手がかりに、マーケティングとSCMのかかわりを学ぶ。 テキスト第8章 ディスカッションのテーマ ・企業が在庫を削減することのメリットとデメリットを整理してみよう。その上で、企業がSCMを導入すると、どのような効果が出るのかを考えてみよう。 ・SCMを導入している企業であっても、欠品を起したり、製品を販売中止にしたりすることがある。どういう原因でそうなるのかを考えてみよう。	テキスト第8章をあらかじめ読んでおく
第8回	営業のマネジメント ・サントリーのウイスキー事業の事例を取り上げ、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかを学ぶ。 テキスト第9章 ディスカッションのテーマ ・サントリーのウイスキー事業と同じように、製品ジャンルそのものを普及させなければならないような製品ジャンルを挙げてみよう。 ・上記で挙げた業界では、どんな営業活動が必要か考	テキスト第9章をあらかじめ読んでおく

	えてみよう。 ※3週間前に出したレポートの内容について幾人かに報告してもらう。	
第9回	顧客関係のマネジメント ・アウトドアブランド「スノーピーク」の事例を通して、この企業と顧客との良好な関係づくりについて学ぶ。 テキスト第10章 ディスカッションのテーマ ・1回ごとの交換を中心とした取引と、継続的な関係の構築を中心とした取引の具体例を挙げ、それぞれにどのような特徴があるか考えてみよう。 ・顧客をロイヤルカスタマーにするための取り組みについて具体例を挙げてみよう。 ・顧客との価値共創について、顧客が商品を使うことで新しい価値を創り出す事例と、顧客参加型の商品開発で新しい価値を創り出す事例を	テキスト第10章をあらかじめ読んでおく
第10回	ビジネスモデルのマネジメント ・タニタの製品開発の事例を通して、このビジネスモデルについて考える。 テキスト第11章 ディスカッションのテーマ ・ヒット商品を出しながら、最近あまり業績がよくない企業を一つ取り上げ、その原因を調べよう。 ・何か一つ、製品とサービスを組み合わせたビジネスモデルの例を挙げてみよう。 ・ビジネスモデルを考えると、消費者向け（BtoC）と企業向け（CtoC）で異なる点は何かを考えてみよう。	テキスト第11章をあらかじめ読んでおく
第11回	顧客理解のマネジメント マツダのCXシリーズの事例を通して、企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらのよう点について学ぶ。 テキスト第12章 ディスカッションのテーマ ・商品の改善点をグループにアンケートを取りまとめるのと、インタビューを通じて意見を聴くのとでは、得られるデータにどういった違いがあるのだろうか。比較して違いをまとめて見よう。 ・徹底した顧客理解を元に開発されたと思われる商品を挙げてみよう。その商品が顧客を理解していると感じできるのは、一体どの部分だろうか。	テキスト第12章をあらかじめ読んでおく
第12回	ブランド構築のマネジメント ・キットカットの事例を通して、ブランド構築のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第13章 ディスカッションのテーマ ・ブランドの機能や効能について考えてみよう。 ・特定の商品のブランド連想イメージを考えてみよう。	テキスト第13章をあらかじめ読んでおく

	う。 ・ブランドの連想イメージと企業によるコミュニケーション活動の関係について考えてみよう。	
第 13 回	ブランド組織のマネジメント コカ・コーラの事例を通して、ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から考える。 テキスト第 14 章 ディスカッションのテーマ ・コーラ市場において展開されるブランドにはそれぞれあなたのどのような体験が関与し、どのような印象を持っているのかを考えてみよう。 ・コーラ市場において展開される個々のブランドは、誰のどのような場面で飲用することをターゲットにしているのか。	テキスト第 14 章をあらかじめ読んでおく
第 14 回	社会的責任のマネジメント キリン CSV の取り組みから社会的責任のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第 15 章 ディスカッションのテーマ ・キリンの公式サイトで CSV の取り組みを調べ、CSR と事業がどのように結びついているのかを考えてみよう。 ・企業の公共性とはどのような考えか、どのような問題があるのかを考えてみよう。 ・知っている企業のウェブサイトでベンチャー型 CSR の取り組みが紹介されているかを調べ、取り組んでいる場合、どのような公共性を保つ工夫をしているのかを考えてみよう。	テキスト第 15 章をあらかじめ読んでおく
第 15 回	総括試験	筆記用具以外の持ち込みを禁止する。

1.授業コード (ナンバリング)	MRK207-Y01	2.科目名	商品企画論		3.単位数	2
4.授業担当教員	上瀬昭司					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ・ ケースを通して商品企画や、そのプロセスを理解する。 ・ 多様な市場調査の手法や理論を数多く理解する。 ・ 商品企画プロセスに関連付けて、マーケティングを理解する。 ・ 商品企画プロセスの実践的な進め方を理解する。 【概要】 1 回の授業で、だいたいテキストの 1 章分を進みます。教科書は 15 章構成なので、初めの 4 章は 2 章ずつ進み、8 回目（中間報告）と 15 回目（最終報告）にプレゼンテーションの時間を確保します。 授業の最初に、各回のテーマに沿った企業の商品企画における 1 プロセスに焦点を当てたケース（事例）					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①商品企画プロセスの各段階における進め方と気をつけることについて説明できる。 ②商品企画プロセスに従って商品企画書を作成できる。 ③商品企画についてプレゼンできる。					
19.教科書・教材	西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』2012 年、碩学舎					
20.参考文献	各章末に参考文献が掲載されている。 講義内容に興味を持った学生は、「次に読んで欲しい本」を手がかりにして発展的に学習することも可能である。 商品企画書作成上必要となる資料・文献等については、インターネット等を活用して各自で調べること。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 授業への貢献（発言）・・・20 点　〔学習目標の①に対応〕 グループワークの成果　・・・30 点　〔学習目標の③に対応〕 グループワーク内での貢献・・・50 点　〔学習目標の②に対応〕					
22.コメント	グループワークでは、各自が積極的に意見を述べるとともに、役割分担して課題に取り組むこと。 授業の各回ごとにテーマがあるので、それに沿って作業を進めると、最終的にプロセスに沿った商品企画書ができ上がる。 授業中に予定の作業が終わらない場合は、次回までにやってくることを決めておくと、作業がスムーズに進む。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第1回	商品企画プロセス ・ライオン「トップ ナノックス」の商品企画プロセスのケースを通じて、商品企画プロセスの進め方と商品企画プロセスで気をつけることについて学ぶ。 テキスト第1章 インタビュー法 ・資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法のケースを通じて、インタビュー法の進め方とインタビュー法で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第2章	テキストの第1章および第2章をあらかじめ読んでおくこと。
第2回	観察法 ・IDEO「ATM」の観察法のケースを通じて、観察法の進め方と、観察法で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第3章 リード・ユーザー法 ・フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法のケースを通じて、リード・ユーザー法の進め方と、リードユーザー法で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第4章	テキストの第3章および第4章をあらかじめ読んでおくこと。
第3回	アイデア創出 ・TOTO「クラッソ」のアイデア創出のケースを通じて、アイデア創出の進め方と、アイデア創出で気を付けることを学ぶ。 テキスト第5章 グループに分かれ、実際に新商品のアイデアの創出を行う。	テキスト第5章をあらかじめ読んでおくこと。 ここからグループワークが加わります。調べ物をしたり、メモを共有する上で、スマホの電池残量を事前に確認しておいてください。
第4回	コンセプト開発 ・エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発のケースを通じて、コンセプト開発の進め方とコンセプト開発で気を付けることを学ぶ。 テキスト第6章 グループワークで、知覚マップを作成し、新商品のコンセプトを開発する。	テキスト第6章をあらかじめ読んでおくこと
第5回	プロトタイピング（商品コンセプトを具現化して試作品を開発すること） ・IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピングのケースを通して、プロトタイピングの進め方とプロトタイピングで気を付けることについて学ぶ。 テキスト第7章 グループワークでは、さすがに試作品の作成まで行う時間的余裕はないであろうから、コンセプト実現のアイデアをもとに商品の設計図を描き、必要となる原材料や技術、克服すべき問題点について考えてみる。製作に幾らぐらいコストがかかるのかを見積もっておくと、後で価格設定の際に役立つ。	テキスト第7章をあらかじめ読んでおくこと
第6回	中間報告 ・これまでの成果をもとに、チームごとに中間報告を行う。	授業が始まる前に、報告資料を提出すること。 Microsoft ならワードかパワーポイントで、

	他のチームの報告をよく聞き、問題点があれば指摘し、改良点があれば提案する。	Google ならドキュメントかジャムボードで整理したものを使用すると、聞き手が理解しやすいですが、この段階ではメモ書きしたものを写メでとり、プロジェクターに投影してもかまいません。
第 7 回	市場規模の確認 ・ ロッテ「Fit's」に見る、市場規模の確認を通じて、市場規模の確認の進め方と市場規模の確認で気を付けることについて学ぶ。 テキスト第 8 章 グループワークで、類似性に基づく推定と比率連鎖法を用いて市場規模の確認を行う。	テキスト第 8 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 8 回	競合・技術の確認 ・ ホンダ「CR-Z」の競合・技術の確認のケースを通じて競合・技術の確認の進め方と、競合・技術の確認で気を付けることを学ぶ。 テキスト第 9 章 グループワークでは、3C 分析とポジショニング・マップの作成を通じて競合・技術の確認を行う。	テキスト第 9 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 9 回	顧客ニーズの確認 ・ ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の顧客ニーズの確認のケースを通して、顧客ニーズの確認進め方と顧客ニーズ確認で気をつけることについて学ぶ。 テキスト第 10 章 グループワークでは、商品コンセプトが受け入れられるかどうか、パッケージの形状やラベル、商品名が当該商品のベネフィットをイメージするのにふさわしいかどうかを考えてみよう。自分たちだけでなく、他のチームのメンバーにも確認してもらおうとよい。	テキスト第 10 章をあらかじめ読んでおくこと
第 10 回	販促提案 ・ サントリー「ハイボール」の販促提案のケースを通じて、販促提案の進め方と販促提案で気を付けることについて学ぶ。 グループワークでは、メディアの選択とメッセージの考案を行う。ターゲットは誰なのかを確認し、ターゲットにメッセージが届く方法を考える。	テキスト第 11 章をあらかじめ読んでおくこと
第 11 回	価格提案 ・ パステル「なめらかプリン」のケースを通して、価格提案の進め方と価格提案で気を付けることについて学ぶ。 テキスト第 12 章 グループワークでは、売って儲かる価格と、顧客が買ってもよいと思う価格と、競合他社の提示する価格を確認しながら、価格提案を行う。	テキスト第 12 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 12 回	チャネル提案 ・ 花王「ヘルシア緑茶」のチャネル提案のケースを通して、チャネル提案の進め方とチャネル提案で気を付	テキスト第 13 章をあらかじめ読んでおくこと。

	けることについて学ぶ。 テキスト第 13 章 グループワークでは、各チャンネルのメリット・デメリットを考えながら、チャンネル提案を行う。	
第 13 回	企画書作成 ・フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成のケースを通して、企画書作成の進め方と企画書で気を付けることについて学ぶ。 テキスト第 14 章 グループワークで、企画書を作成する	テキスト第 14 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 14 回	プレゼンテーション ・グリコ「メンズポッキー」のプレゼンテーションのケースを通じてプレゼンテーションの進め方とプレゼンテーションで気をつけることについて学ぶ。 テキスト第 15 章 グループワークでは、これまでに学んだことに注意して、翌週の最終報告に備えてプレゼンテーションの準備をする。	テキスト第 15 章をあらかじめ読んでおくこと。
第 15 回	グループごとに全員の前で最終報告を行う。 報告後、グループワークに対するチームメンバーの貢献度を、自分の貢献度も含めて評価する。	授業開始前までに企画書を提出すること。最終報告は、提出された企画書をプロジェクターに投影しながら行う。 他のチームの発表はしっかり聞くこと。

1.授業コード (ナンバリング)	MRK301-Y01	2.科目名	アジアマーケティング論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉川浩二					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバル学部			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	本講義ではマーケティングの基礎について学ぶ。さらにアジア企業がどのようなマーケティング活動をしているか理解する。マーケティングの視点を学び、体得することで世の中の動きを理解し、企業の戦略を読み解くことを目的としている。 授業は身近な事例紹介を交えながら、初心者でも分かるよう説明をする。講義は単なる座学ではなく、グループワークやディスカッションを行い、実践的な学問であるマーケティングを学習する。 毎回資料を配布（紙またはファイル）するのでテキストの購入は不要である。毎回、パソコンを利用して情報収集や報告					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）は次の通りです。 1. マーケティングの専門用語が理解できる＝知的好奇心 2. 世の中の動きをマーケティングの視点で分析できる＝思考／判断力 3. アジア企業のマーケティングについて理解できる＝情報収集／発見力					
19.教科書・教材	適宜資料配布					
20.参考文献	・『1からのマーケティング』（第4版）石井 淳蔵（著，編集），廣田 章光（著，編集）、碩学社 ・『1からのグローバルマーケティング』小田部 正明（編集），栗木 契（編集）、碩学社					
21.成績評価	プレゼンテーション：50％（どこかの企業について取り上げて発表する） 期末レポート：50％（どこかの企業について取り上げて報告する）					
22.コメント	マーケティングを理解し、世の中の動きを知ろう					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて）			PC 持参		
第2回	なぜマーケティングが必要か？			PC 持参		
第3回	マーケティングとは何か			PC 持参		
第4回	アジア企業事例 1			PC 持参		
第5回	顧客を理解する			PC 持参		
第6回	市場をとらえる			PC 持参		
第7回	アジア企業事例 2			PC 持参		
第8回	製品戦略			PC 持参		
第9回	価格戦略			PC 持参		
第10回	アジア企業事例 3			PC 持参		
第11回	流通戦略			PC 持参		
第12回	コミュニケーション戦略			PC 持参		
第13回	デジタルマーケティング			PC 持参		
第14回	アジア企業事例 4			PC 持参		
第15回	期末レポート提出および発表			PC 持参		

1.授業コード (ナンバリング)	MRK308-Y01	2.科目名	流通産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門教育科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学部他学科からの履修を歓迎します。			9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特にありません		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません					
17.授業の目的と概要	流通産業とは、主に小売と卸売の商業のことです。そこに物流と倉庫業が加わります。皆さんの消費生活を取り巻く環境は、近年急速に変化しました。大型ショッピングと各種の量販店、そしてコンビニで買物する人が多いと思います。しばらく前には、デパートとか商店街がにぎわった時代がありました。今は、ネットショッピングが広がり、スマホで選んだ商品が翌日に届きます。その分、お店が減り、商品を届ける物流業界が忙しくなりました。この授業では、こうして急速に変化が進む流通産業の全体像を知り、過去と現在、そして未来を考えます。求人の多					
18.学習目標と DPとの関連	日本の食文化を体系的に知り、現代日本で暮らす自分の食文化がどう形成されたものかを考える。多様な文化を理解する上で和食を原点に置き、歴史的な視点で広く世界を捉える視点を養う。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	宗田好史『中心市街地の創造力』額堤出版社、2007 年					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4 月 9 日	流通産業を知ろう。 「ショッピング」はどこでしますか？皆さんはどこなところで買物していますか？皆さんのご家族はどこがお好きでしょう。一人の消費者である皆さんの買物行動は「流通産業」の一部、安い店やささいな店、大きな店舗や高級ブランドショップ、いろいろありますが、その違いの裏にはどのような仕組みあるのでしょうか。 最初に皆さんの買物の様子を知り、様々なお店を分けて調べ、その多様ア世界を考えてみます。そこから、流通産業の特徴を学び始めます。			〈アサイメント〉 皆さんが知っているお店を書き出して提出して下さい。(例えば、イオン、ローソンなど) 〈事前学習〉 皆さんの洋服を 5 着ほど選び、それをどこにあるどの店で買ったか書いて下さい。		
第 2 回 4 月 16 日	「商業（流通）とその歴史」、流通産業は、農産物や食品、衣料薬品、電化製品など様々な品物を、生産者から消費者に届ける仕事、あるいは仕組みです。その仕事はとても多様、それもいろいろな変化を続けてきました。2 回目では、流通産業の歴史を簡単に振り返ります。関西と関東、日本の東西南北で、都市と田舎で、その歴史も少し違います。 歴史をたどる中で、市場、楽市楽座、商都大阪と城下			〈アサイメント〉 都会と田舎では買物はどう違うか 〈事前学習〉身近な流通業を調べてみよう。 家族で出かけるショッピング、一人で楽しむお買い物、皆さん自身のこの 1 週間の買物を振り返り、回数と何を買ったかを調べて表にして下さい。		

	町、問屋の発達、商店街、百貨店、スーパーマーケット、チェーンストア、ショッピングセンター、量販店、e-コマースなど、一つずつ簡単に紹介し、これか	
第3回 4月23日	「大きな店舗と小さなお店」、商店街には小さな店が、盛場や観光地にもっと小さな屋台もあります。フリマはとっても小さな店の集まりです。一方、一日では見て回れないような大型店があります。郊外のはショッピングセンターには巨大なスーパーと量販店、フードコートやゲームセンター、シネコンもあります。ちょっと遠くにはアウトレットモールもあります。 どの店が安く、どの店の品揃えがいいか、皆さんもお店を選んで買物に出かけます。安い高い、商品選びやその展示、店づくりはどう違うのでしょうか。どこの誰から仕入れて、どんなお客さんに売	〈アサイメント〉 皆さんが今まで行った大型店の中で一番大きな店を上げて紹介して下さい。 〈事前学習〉 大型店を三つ上げて、どんな店があるかリストにしてみてください。
第4回 4月30日	「百貨店の登場」、今回はデパート、百貨店のお話です。日本では江戸時代から明治時代へ近代都市に変わった東京や大阪に百貨店が生まれました。1904年、三井呉服店（着物）が「三越」百貨店になりました。大阪でも、大丸、高島屋、そごうが続きました。 世界初は1852年、フランス・パリの「ボン・マルシェ」やはり織物屋でした。続いてパリではプランタンとラファイエット、ロンドンではハロッズ、セルフリッジなど、ニューヨークではメイシーズやシアーズが有名です。 19世紀末から20世紀後半まで、このデパートが華やかなファッ	〈アサイメント〉 これまで訪れたことのあるデパートを上げ、何を買ったか思い出してリストにしてください。 〈事前学習〉 大阪、京都、神戸の三都にあるデパートをリストにしてください。あわせて、デパートのようなファッションビルも挙げてみてください。
第5回 5月7日	「スーパーマーケットの誕生」：デパートに少し遅れて、アメリカではスーパーマーケットが生まれました。着物など織物が中心の店が始めた百貨店と違い、グロサリーストア、食品店が大型化したものです。 1859年ニューヨークのマンハッタンに生まれた食品店A&Pが、1910年代に巨大店になったのが始まりです。その後またたく間に全米各地に広がり、大恐慌前のアメリカの繁栄の象徴でした。 日本でスーパーが生まれたのは1952年、大阪京橋の「京阪ストア」です。今では当たり前のセルフサービス、といっても店員がレジを打っていましたが	〈アサイメント〉 スーパーマーケットの歴史を調べ、特に神戸生まれで全国を制覇したダイエーがどこに店を開いたかを述べて下さい。 〈事前学習〉 皆さんの自宅の近くのスーパーを3つ挙げて下さい。どの資本系列化も調べて下さい。
第6回 5月14日	「コンビニエンスストア」、スーパーマーケットに続いてアメリカで誕生したのが、コンビニエンスストア、1927年テキサスでした。実は「氷」のお店、夏に「週7日毎日16時間」営業したので「セブン・イレブン」と名乗りました。1939年にはオハイオで「ミルク」を売る「ローソン」が、そこから「デイリーマート」生まれ、M&Aで「サークルK」に転換しました。 日本でコンビニが生まれたのは戦後、1970年大阪十三のKマート、1971年愛知県春日井のココストアなどが早く、1973年に「ファミリーマート」が日本生まれのコンビニ	〈アサイメント〉 皆さんはどのコンビニが好きですか？それぞれの店の特徴を上げて下さい。 〈事前学習〉 アメリカ生まれのコンビニは日本で独自に発達しました。特に、スイーツや総菜が発達し、競争も激しいのですが、好きな商品の一つ上げて下さい。

第 7 回 5 月 21 日	「量販店の拡大」、家電製品、パソコン/カメラ、カジュアル系衣料品、紳士服、カー用品、家具と建具、工具などのホームセンター、靴など、それぞれの商品分野で全国展開している店舗があります。少し遅れて広がったのが、ドラッグストア、薬中心の量販店です。とても安くて大助かりですが、1970 年代に全国に広がったスーパーマーケット以上に価格破壊を引き起こしました。「バーゲニング・パワー」と呼ぶ購買力を発揮するからです。これは、価格決定力となって、生産者を支配する力でもあります。つまり、生産者と消費者の間に立つ流通企業が、	〈アサイメント〉 いつもと同じように、皆さんの近くの量販店を上げてみて下さい。概要欄に載せたすべての種類のお店を探してリストにして下さい。 〈事前学習〉 それぞれの店で一番安いと思った商品を上げて下さい。
第 8 回 5 月 28 日	「Amazon：ネット通販サイトを支配」、Amazon はもちろん国際的、世界の流通産業の王者です。今日はそのお話し、いよいよ流通産業論の革新部分です。とはいえ、Amazon は 1993 年生まれ、今年で 30 歳になるとも若い企業です。急成長したのです。 この Amazon はネット通販と呼ばれますが、それまでの通信販売とどう違うのでしょうか。そして、我々の消費生活をどう変えたのか、またネット通販が当たり前な近未来社会はどう変わるのでしょうか。 創業時の Amazon のビジネスモデルは独創的でした。e-コマース（電子商取	〈アサイメント〉 アマゾンで頼むとどんなルートで商品が届くか、考えて下さい。 〈事前学習〉 Amazon で買ったことがありますか？何を買った教えて下さい。ない場合は家族や友人の話を聞いて下さい。
第 9 回 6 月 4 日	「流通産業と商業政策」、流通産業は市場の発達とともに拡大を続けてきました。その過程で、市民生活を便利にただけでなく、いろいろな問題を引き起こしてきました。買物客、消費者には安く、早く、豊かにそして便利に発達したとはいえ、百貨店やスーパーが登場するたびに、小さな店は寂れ、閉店に追い込まれました。そんな店が集まる地方都市の都心はすっかりさびれ、デパートも撤退しました。シャッター通りとか中心市街地の空洞化と言われます。 この問題に対処するのが、1990 年代から 2000 年にかけての「まちづくり三法」です。国や	〈アサイメント〉 「まちづくり三法」の三つの法律を上げて、その役割を簡単に述べなさい。 〈事前学習〉 寂れた商店街と聞いて思い浮かぶ町を簡単に紹介して下さい。
第 10 回 6 月 11 日	「流通革命を支えた交通機関と道路」、人口増加、特に都市集中で国民の消費は飛躍的に拡大した。これまで述べたように、生産と消費を結ぶ流通産業が急速に発達、その仕組みは大きく変化した。メーカーは販売店を系列化した。卸売業者などの中間業者が排除され、流通経路は短縮された。小売業者は大規模化し、POSなどを導入し販売技術を革新させた。こうした革新を支えたのが、この間のインフラストラクチャーの目覚ましい発展、特に高速道路網の整備だった。国内の農産地や漁港と年が直接結ばれただけでなく、国際港湾には大型コンテナ船が大量	〈アサイメント〉 神戸港から高速道路で長野市まで行く道筋を調べ、その所用時間を割り出して下さい。 〈事前学習〉 身近な食品の中で、海外から運ばれたものを調べてみて下さい。
第 11 回 6 月 18 日	「商業集積ガイドライン」、1990 年代には道路整備が進み、大歳の郊外に環状線や都心を迂回するバイパスが整備されました。その道沿いに、大規模小売店舗や量販店が並び、ロードサイド店が出揃いました。消費	〈アサイメント〉 皆さんが知っている商店街を教えて下さい。そこには、閉められた店がありますか。あればどんな商店だったか調べて下さい。

	者は車で買物に行き、便利な暮らしを楽しみました が、その反動で都心の商業施設は寂れ、空洞化が進みました。都心には、高齢者が遺され、商店街の店は減り、地方都市ではデパートも撤退しました。これを中心市街地の衰退、シャッター商店街問題といいます。そのため、主要な都市では商業集積ガイドラインを定め、郊外的大型店の増加を規	〈事前学習〉 商店街が栄えたのは何時頃でしょうか。その頃には、どんな店があったか調べて下さい。
第 12 回 7 月 5 日	「ヨーロッパの流通産業」、英国やフランス、ドイツ、イタリアにも大型商業施設、スーパーより大きなハイパーマーケットがあります。一方、都心には世界的なブランドの贅沢なブティックが集まっています。また、地方の小さな町でも都心の商店が残っています。こうして、様々な規模の小売店がバランスよく揃っています。しかし、日本のような多様な量販店はありません。ホームセンターもなければ、ドラッグストアも少ない、ワインやウイスキー等お酒の量販店があるくらいです。これは、西欧諸国と日本の流通産業の発展の歴史と現在の仕組みが違うから	〈アサイメント〉 ヨーロッパの有名なデパートとスーパーの名前を調べて下さい。 〈事前学習〉 皆さんの知っている Fashion Brand を三つ挙げて下さい。その出身国も調べて下さい
第 13 日 7 月 2 日	「アメリカの流通産業」、アメリカはスーパー、コンビニが生まれた国です。大規模小売店舗では、昔はカルフルーが有名、その後コストコも日本に進出しました。とはいえ、アマゾンもアメリカの企業、今や世界中に広がっています。人口も日本の二倍、消費量はそれ以上に大きく、流通産業の変化のスピードも世界一です。そのアメリカと日本は、1960 年代から日米貿易摩擦を起こしました。最初は繊維産業、次が自動車産業、そしてハイテク、1980 年代後半には流通産業が争点になりました。その背景には日米の流通産業の違いがあり、アメリカ政府の	〈アサイメント〉 アメリカの食品で一番好きなものを挙げて下さい。それは日本ではどんな店で買えますか？ 〈事前学習〉 アメリカを旅行したら見てみたいお店はありますか？ アメリカらしい巨大なスーパーを調べてみて下さい。
第 14 回 7 月 9 日	「アウトレットモールの登場は流通産業をどう変えたか？」もう一つのアメリカ生まれが Outlet Store 日本でいうアウトレットモールです。1930 年代アメリカ東部で生まれたのは、傷モノや出荷できない商品を従業員に捨て値で（安く）売った工場直営の店でした。直ぐに一般客も買いに来るようになり、次に紳士服ブランドが独立した店を街中にオープンしたのです。この傷物だけを売るアウトレットは、1974 年、VF（バニティフェア）が工場から出荷したばかりの商品を売るアウトレットセンターを始め、1990 年代にかけて米国内で急速	〈アサイメント〉 アウトレットモールでは、どんなものが売られているか調べて下さい。 〈事前学習〉 今まで行ったことのあるアウトレットモールを上げ、何を買ったかリストにして下さい。その店がいつ頃できたをご家族に尋ねて下さい。
第 15 回 7 月 16 日	「日本の世界の流通産業：世界に広がる日本の流通産業、流通業界に就職するなら」、ウォルマートやアウトレットが日本に進出しただけでなく、日本の流通業界も世界に進出しています。特に中国市場、東南アジアにも出ています。国際コミュニケーション学部を卒業し、海外に進出した日系流通産業に就職するなら、どんな会社が面白いかな見てみましょう。販売額、事業所数、従業者数など、どれを見ても流通産業は大きく、	〈アサイメント〉 最終課題です。もし流通関係に就職先を考えるなら、いろいろある企業の中で、どんな仕事がいいか述べて下さい。

	今では製造業より大きくなりました。でも多くの人はその実態を知りません。特に関西には海外展開する流通大手が集まっています。就	

1.授業コード (ナンバリング)	NAD402-M01	2.科目名	災害看護論		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	専門科目 総合看護	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	災害が健康と生活に及ぼす影響を知り、看護師としての役割を学ぶ。災害の種類やサイクル、法・制度・支援体制、看護の対象と活動の場などの基本的知識と、災害サイクル各期における人々の状況、および看護の役割と機能を理解し、被災者を身体的・精神的・社会的に支援する知識と技術を修得する。さらに看護師としての防災・減災対策を考察する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.災害の種類やサイクル、法・制度・支援体制、看護の対象と活動の場などの基本的な知識について説明できる。?授業内課題・定期試験 2.災害が人々の健康と生活に及ぼす影響を知り、看護師としての役割を説明できる。?授業内課題・定期試験 3.被災者を身体的・精神的・社会的に支援する知識を理解し、適切な技術を修得する。?第8回演習 【DPとの関連】 (1) 自律性:被災者が体験する困難さを理解し、自ら考え判断し行動できる。 (2) 社会的貢献性:人々の安全・安心を確保するための知識と技術を習得する。 (3) 多様性理解:あらゆる背景を持つ被災者の特徴を理解し説明できる。 (4) 問題発見・解決力:災害が健康と生活に及ぼす影響を理解し、被災者の安全・安心を提供する看護を考察できる。 (5) コミュニケーションスキル:被災者に対する傾聴の意義と手法を理解し実践できる。 (6) 専門的知識・技能の活用力:被災者を看護の対象として理解し、生命・健康・生活を護る支援を考察できる。					
19.教科書・教材	授業時に資料を配布					
20.参考文献	授業時に示す。					
21.成績評価	定期試験（筆記試験）＝60％， 授業内課題＝40％ *定期試験は、5月20日(火)2限目に実施します。					
22.コメント	国内外で発生した災害に興味を持ち、それらに関するニュースや新聞、本に触れてください。 あるいは被災した方のお話を聞いてみるのもよいでしょう。 いつ起こるかわからない災害に備え、自他を守る能力を身につける心づもりで授業に参加してください。 予習復習を怠らないようにしましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日 昼休み センターオフィスアワー：火曜日 昼休み（三木キャンパス図書館）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	1. 災害及び災害看護の概念			【アサインメント】		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAD403-M01	2.科目名	看護研究方法		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本梨花、岩下真由美、伊藤尚子、梅田智子、鵜飼知鶴、煤田恵子、蛭子真澄、紀ノ岡浩美、櫻井信人、白石夕起子、志保田幸子、杉野美礼、高見沢恵美子、高田美子、中世古恵美、西村美登里、野村浩、畑吉節未、平野通子、藤原和美、房間美恵、松尾ひとみ、吉沢豊子、未定					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学修目標】 DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮) 作成を試みる。					
19.教科書・教材	講義で資料を配布する。					
20.参考文献	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻 看護研究(第 2 版、3 刷).医学書院					
21.成績評価	課題への取り組み 40% 提出物①② 研究課題レポート 60% ③研究計画書の提出					
22.コメント	自己の研究課題を先行研究の文献検索、批判的読み方、要約について取り組みましょう。この後に続く卒論の「研究の背景」や「目的」につながる第 1 歩です。また、その目的を明らかにするための最適な研究方法については講義で学び、研究計画の要である研究疑問を明らかにしましょう。 授業の課題・レポート・研究計画書作成等に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：メディアライブラリー;火曜日 12：15 分から 13 時まで					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4 月 9 日(水)1 限 4-301	看護研究方法の授業のオリエンテーション 看護における研究の役割、看護研究における倫理 (担当：高見沢恵美子)					
第 2 回 4 月 11 日 (金) 1 限 4-301	研究のプロセス (担当：高見沢恵美子)			提出物① 取り組みたい研究課題の選定と研究目的・研究の意義の課題用紙を配布する・ 4 月 25 日授業時に各担当教員に提出し確認してもらうこと		

第3回 4月11日 (金)2限 4-301	質的研究の紹介(担当：畑)	
第4回 4月14日 (月)2限 4-301	系統的な文献の探し方(担当：藪本)	
第5回 4月16日 (水)1限 Aクラス 1-201 Bクラス 各教員 指示	Aグループ：文献検索(1-201)(担当：藪本), Bグループ：取り組みたい研究課題と意義(担当教員)	提出物②文献検索の結果を箇条書きにする
第6回 4月16日(水)2 限 Aクラス 各教員 指示 Bクラス 1-201	Aグループ：文献講読①(担当教員) Bグループ：文献検索(1-201)(担当：藪本)	提出物②文献検索の結果を箇条書きにする
第7回 4月21日(月)1 限 4-301	【web class オンデマンド授業】 量的研究の紹介(担当：有本)	
第8回 4月21日(月)3 限 4-301	文献研究の紹介(担当:高見沢)	
第9回 4月23(水)1 限 4-301	データ収集方法(担当：高見沢)	
第10回 4月25日(金)1 限 教室：各教員 指示	研究目的の明確化と研究の意義／担当教員毎	提出物①研究目的の選定と研究の意義を授業開始時に提出。 各担当教員に提出し確認してもらい修正する。
第11回 4月25日(金)2 限	研究計画書作成の基本(担当：高見沢)	

4-301		
第 1 2 回 4 月 28 日(月)1 限 教室：各教員 指示	研究計画書作成 / 担当教員毎	
第 1 3 回 4 月 28 日(月)2 限 教室：各教員 指示	研究計画書作成 / 担当教員毎	
第 1 4 回 5 月 2 日(金)1 限 教室：各教員 指示	研究計画書作成 / 担当教員毎	
第 1 5 回 5 月 2 日(金) 2 限 教室：各教員 指示	研究計画書作成 / 担当教員毎	提出物③研究計画書 5 月 8 日(木)13 時迄に研究計画書を web class に提出すること 確認 5 月 9 日金曜日

1.授業コード (ナンバリング)	NAD404-M01	2.科目名	実践看護学特演		3.単位数	3
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、岩下真由美、伊藤尚子、梅田智子、鶴飼知鶴、榎田恵子、蛭子真澄、紀ノ岡浩美、櫻井信人、白石夕起子、志保田幸子、杉野美礼、高見沢恵美子、高田美子、中世古恵美、西村美登里、野村浩、畑吉節未、平野通子、藤原和美、房間美恵、松尾ひとみ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学専攻 4 年生			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護師国家試験受験資格を得るために 4 年間で履修した看護学の総まとめを行う科目である。看護師国家試験出題の大項目に則り、1. 健康および看護における社会的・倫理的側面についての知識、2. 看護の対象および看護の活動の場と看護の機能についての知識、3. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての知識、4. 看護技術に関する知識の十分な獲得を目指し、演習（模試）、座学において知識の確認を行いながら看護師国家試験合格に必要な能力を養う。					
18.学習目標と DP との関連	看護学科の DP との関係 1. 自律性：自分で国試までの工程表を作成し、計画的に国試対策を行うことができる。 2. 問題発見・解決力：自身の弱点を見つけながら、それを克服できる勉強を見つけることができる 3. 専門的知識・技能の活用力：これまでの 4 年間で学修した知識を統合しながら、必要な解決策を導くことができる。DP の 6 つの能力のうち、3 つの能力が身につくことで、国家試験合格へとつながられる。					
19.教科書・教材	過去問完全攻略集（黒本）第Ⅰ章～第Ⅶ章（問題集・解説集） 必修過去問全問解説集					
20.参考文献						
21.成績評価	春・秋の通年科目であるため、小テスト 2 回を春学期、中間テスト、総括試験を秋学期に行う。 小テスト 1 回目は 6 月 評価割合は 10%、小テスト 2 回目 7 月 評価割合 20%である。秋学期中間テスト 11 月評価割合 10%、最終統括試験を 12 月に実施、評価割合 60%となる。 総括テストまでの累積が 60%に満たなかった場合は、再試験を行う。通年であるため最終の再試験は秋学期の 2 月に実施となり、統括試験で合格にならないと、2 月中旬に行われる卒業判定は保留となる。また、看護師国家試験等も中旬に行われるため、これも卒業見込みでの					
22.コメント	実践看護学特演は秋学期開講科目ですが、1 年間を通じて開講と考えてください。必修科目となっています。4 年生すべての学生が受講できるように設定しています。 この授業の課題・レポート・テストに関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	コンタクトを取りたい先生のオフィスアワー時間を確認すること					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回～3 回（4 月 8 日 3 限から 5 限）	第 114 回看護師国家試験問題の実施（災害看護学履修者は 4 限 5 限授業のため。1 限から 13 時半までに実施）			第 114 回国家試験問題は公表されているので、勉強しておくこと。		
第 4 回 5 月 1 日 4 限	第 114 回看護師国家試験解説講義			・すべては復習からです。答え合わせだけでなく、何故このかいつなのかについても解説します。理解を深めるのに役立ちます。 国家試験用紙（自分の答えが書いたものを		

		持参) ノート等もちろん持参
第 5 回～第 6 回 5 月 15 日 3 限 4 限	国家試験ガイダンス 第 114 回看護師国家試験解説講義 第 115 回国家試験に向けての準備と教員とは視点の異なる国家試験解説	第 114 回看護師国家試験問題を持参。
第 7 回～第 8 回 6 月 14 日 (土) 1 限・2 限	小テスト①回目 必修模試の実施	小テストの評価得点 10 点 必修模試の得点率が 75%で以上であった場合 10 点獲得
第 9 回～第 11 回 6 月 21 日 (土) 1 限～3 限	必修模試弱点補強講座 70 分 x 4	黒本等を持参
第 12～15 回 7 月 5 日 (土) 1 限～4 限	小テスト 2 回目 第 1 回看護師国家試験全国模試	小テスト 全国模試一般および状況設定問題得点率 60%・・5 点 必修得点率 80%・・5 点 合計 10 点
第 16 回～第 18 回 7 月 19 日 (土) 1 限～3 限 (15 時終了)	全国模試弱点補強講座 70 分 X4	黒本持参 模試問題持参
第 19 回～第 22 回 8 月 20 日 1 限 ～4 限	第 2 回看護師全国模試 (第 1 回テコム模試) * 公衆衛生看護学実習、助産学実習をこの時期に行っているものは、自宅受験とする	
第 23 回～第 26 回 9 月〇日 1 限～4 限	第 3 回看護師国家試験模試 (第 2 回テコム看護)	
第 27 回～第 30 回 11 月〇日 1 限 ～4 限	第 4 回目全国模試	中間テスト 評価得点 20 点 一般・状況 60%以上の場合 10 点、必修問題 80%以上の場合 10 点
第 31 回～第 33 回 11 月〇日 3 限分	全国模試弱点補強講座 70 分 X4	総
第 34 回～第 35 回	第 5 回全国模試	総括試験 評価得点 60 点 一般状況合計得点率 60%30 点、必修問題得点

12 月〇日		率 80%30 点
第 36 回～第 37 回 第 38 回～第 39 回 第 40 回～第 41 回 第 42 回～第 43 回 第 44 回～第 45 回 開講 12 月～1 月	基礎看護学関連特訓講座 成人看護学関連特訓講座 老年・地域在宅看護学特訓講座 小児・母性看護学関連特訓講座 精神看護学・保健統計、社会的倫理的、法律等の特訓 講座	12 月から 1 月までの間で、全領域の教員による特訓講座となります。

1.授業コード (ナンバリング)	NAD405-M04	2.科目名	統合看護実習（急性）(21 生以前)		3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	3 年次配当の実習科目の単位取得者					
17.授業の目的と概要	【目的】 実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生個々が関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【概要】 各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1. 既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2. 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3. 他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる。 4. 看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	必要時適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習課題 10%(課題 1.実習病棟で多い手術とその合併症・治療・検査・看護) 実習記録 20% 実習での看護実践 50% 実習中学修課題 10%(課題 2. 統合実習で学んだことと看護師としての課題、課題 3. 医療職者及び他機関との協働や連携) 実習態度 10% ※実習記録及び課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。					
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう、積極的に学んでください。 この実習の課題・レポート・実習記録に関する作成については、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター；火曜日昼休み、研究室；月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 週】	学内オリエンテーション、課題学習					

月曜日		
火曜日	学内演習 患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習 1名の受け持ち患者への看護過程の展開, リーダー看護師の役割見学	
木曜日	病棟実習 1名の受け持ち患者への看護過程の展開, リーダー看護師の役割見学	
金曜日	病棟実習 1名の受け持ち患者への看護過程の展開, 関連図についてのカンファレンス, 新たに受け持つ患者の情報収集	
【第2週】 月曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加	
火曜日	学内演習 患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加	
木曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加	
金曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加, 新たに受け持った患者の関連図についてのカンファレンス	
【第3週】 月曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加	
火曜日	学内演習 患者の看護計画立案に必要な文献検討・関連図作成	
水曜日	病棟実習 2名の患者を受け持ち看護過程の展開, 病棟カンファレンス参加, 看護専門職者としての自分自身の課題と目指す看護師像についての最終カンファレンス	
木曜日	病院実習 病院で活動している医療チーム活動(緩和ケア・排尿ケア・感染対策・NEST等)の見学実習	
金曜日	学内演習 医療職者及び他機関との協働や連携に関するレポート作成, 実習記録類の整理・提出	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAD405-M07	2.科目名	統合看護実習 (精神) (21 生以前)		3.単位数	3
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里、吉井ひろ子					
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による専門科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本実習の目的は、これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己キャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることである。概要は、2024 年度統合看護実習要項（精神看護学）を参照すること。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【統合看護実習（精神）の学習目標】 1） 既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2） 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3） 多職種との協働における看護専門者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提供の在り方について学ぶことができる 4） 看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行する準備ができる。 5） 看護専門職者としての役割・責務・態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を明確にできる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	実習目標の達成度、記録物、実習への取り組みから総合的に評価する。 詳細は、統合看護実習要項（精神）の評価表を参照すること。 1. 既習の知識や技術を応用展開し、対象者の特性および健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。(20 点) 1) 既存の知識や技術を応用展開し、精神健康上の問題を抱えた対象者の特性および健康上のニーズに応じたケアを提供することができる。 2. 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。(20 点) 1) 保健医療チームの一員として、対					
22.コメント	コロナウイルスの状況に合わせて、実習内容をその都度調整することになります。臨機応変に対応し、積極的に学びを深めていきましょう。					
23.オフィスアワー	(櫻井) センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日 2 時間目 (西村) センターオフィスアワー水曜日昼休み、研究室オフィスアワー水曜 1 限時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	統合看護実習要項を参照してください。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAD405-M08	2.科目名	統合看護実習（在宅）(21 生以前)		3.単位数	3
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、榎田恵子					
5.授業科目の区分	統合看護学実習（在宅看護）在宅看護学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必須専門科目を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	臨地実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	≪目的（全領域共通）≫ これまで学習した看護の知識とスキルの統合ならびに看護観を育成するとともに、看護専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にする。 ＜目的（地域・在宅看護学領域）＞ 地域包括ケアの考え方に立脚し、病気や障害があっても、対象者の希望の実現のために望む暮らしを継続することができるよう、地域での暮らしや見取りまでを見据えた看護を実践できる能力を修得する。 臨地実習の場所は、病院の地域連携室とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（１）自律性、（３）多様性理解、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連しています 1.尊厳ある人としての意思決定を支援し、希望を尊重できる 2.住み慣れた地域で暮らし続けるための生活者としての対象を理解する。 3.退院に向けた調整・指導ができる。 4.社会資源の活用の技術が展開できる。 5.多職種と協働し、地域を基盤にした医療保健福祉の資源を活用し看護職の果たす役割を理解できる。 6.看護専門職者としての課題を明確にし、将来に向けての自己の将来像を展望する。					
19.教科書・教材	臺有佳他（2020）.ナースンググラフィカ在宅看護論 地域を支えるケア，メディカ出版，大阪.					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習 20%、カンファレンス 10%、実習記録 50%、課題レポート 10%、実習態度 10%					
22.コメント	4 年間学んできた知識・技術・態度（各看護学を含む）の統合として実習になります。 病院に就職する方が多いかと思いますが、地域で療養する療養者の多様な価値観や生活をしっかりと身近で捉えることで、病院等でどのような看護が必要なのか（看護の原点）を十分考える機会となると思います。また、多職種との連携（特に介護支援専門員や訪問介護職員との同行訪問、サービス担当者会議等）等を体験できることで、退院調整・支援のあり方を学べる貴重な実習になると思います。 楽しみにしながら実習準備を進めて行ってください。がんばりましょう！					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑（水曜日昼休み）、鵜飼（水曜日昼休み）、榎田（水曜日昼休み） センターオフィスアワー：畑（木曜日昼休み）鵜飼（木曜日昼休み）、榎田（木曜日昼休み）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
5 月 20 日～6 月 21 日 の 4 週間中の	詳細については、統合看護実習（概要）および統合看護実習（在宅看護）要項を参照のこと。 ※状況で遠隔となる場合は別紙で対応する。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAD405-M09	2.科目名	統合看護実習（老年）(21 生以前)		3.単位数	4
4.授業担当教員	高田美子、中山和美					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 学年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	3 年次配当の実習科目の単位取得者 統合看護実習の希望調査に基づき調整を行う					
17.授業の目的と概要	【目的】実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生 個々に関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における 学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護 専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【概要】各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・ 技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、場 に応じ					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 ?既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することがで きる。 2．保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3．他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提 供の在り方について学ぶことができる。 4．看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行 する準備ができる。 5．看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を 明確にできる。 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP2 社会的貢献性 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決能力 DP5 コミュニケーションスキル DP6 専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 リンダ J. カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版, 医学書院					
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術, 医学書院. 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程, 医学書院. 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド, Gakken					
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。					
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう、積極的に学んでください。 遠隔になった場合は、改めて指示します。					
23.オフィスアワー	原本 曜 限 ： ～ ：（メディアライブラリー） 高田 曜 限 ： ～ ：（メディアライブラリー）					

八木 曜 限 : ~ : (メディアライブラリー)		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週 月曜	各分野実習要項参照 ※実習病院は要項に記載された 3 病院の何れかで行う。 詳細は別紙で説明する。 ※状況で遠隔となる場合は別紙で対応する。 9:00 集合 5 号館 4 階研究室 オリエンテーション 受け持ち患者紹介 リーダーに物品貸し出し	※「統合実習で学ぶこととは」を事前学習をもとに確認後に課題提出 課題は、要項 p1 に記載
火曜日	病院初日のみ 9:15 病院正面玄関横に集合 病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者の情報収集、コミュニケーション バイタルサイン測定	15:00～16:00 カンファレンス 「患者紹介、本日の学び」 ※明日から、目的、目標に沿って学生がテーマを考える ※所定の場所に記録を提出する
水曜日	2 日目以降、8:20 までに更衣し集合 受け持ち患者 1 名を受け持つ 申し送り、チームでのケアの見学、環境整備、バイタルサイン測定 初めてのケアは見学から実施へ ケア実施にあたっては、事前にバイタルサインを報告し、指導者に許可を得ておく	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
木曜日	情報収集 環境整備とバイタルサイン測定は自立 初めてのケアは見学から実施へ チームでのケアの見学、実施に向けた調整方法の把握 日課、週のスケジュール、リハビリ、検査等の計画の把握 翌週の予定、指示等の把握(月曜までは確実に) 看護の方向性、看護診断の決定	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
金曜日	記録の整理 患者紹介 看護診断に沿った介入計画の発表 看護技術の確認	学内 ※朝 9:10 記録を提出 学生が各自で進行し、看護過程を発表する
第 2 週 月曜日	フィジカルアセスメント開始(記録用紙⑦の裏面に記入病棟毎に学生がチームを組みケアを実施する。(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡も行う) 学生は協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う お互いの受け持ち患者とは、環境整備や、朝、夕の挨拶をとおり関係性をとれるようにする。	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する

	来週にかけて受け持ち患者の病棟カンファレンス、多職種カンファレンスの機会があれば事前に申し出て、参加させていただく。	
火曜日	病棟毎に学生がチームを組みケアを実施する。(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡も行う) 学生は協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
水曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアの優先度を考慮し介入計画実施、評価、修正(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡) 協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
木曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 学生の休憩時間が異なるときは、引継ぎはないか互いに確認をする。 翌週の予定、指示等の把握(月曜までは確実に)	15:00～16:00 中間カンファレンス 合同 各自、技術チェック
金曜日	記録の整理、実施、評価、修正 受け持ち患者について、病棟毎に補足し、情報を交換する 最終週に向け、申し送りやリーダー業務についての復習を行う。 来週に向けた、ケアの確認、スケジュールを立てる	学内 チーム内での患者の紹介と把握
第3週 月曜日	受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 今週の予定の確認 日課、週のスケジュール ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する 指導者と調整し、未経験のケアの見学など希望があれば申し出る。	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
火曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する	15:00～16:00 カンファレンス
水曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する	15:00～16:00 カンファレンス
木曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する	15:00～16:00 最終カンファレンス 技術チェックに指導者よりサインをいただく

金曜日	統合実習での学び 専門職業人としての自己の課題 自分の卒後のビジョンと今後の課題について 記録整理	学内 記録提出:教務課 来週月曜 17:00 まで

1.授業コード (ナンバリング)	NAH202-M01	2.科目名	急性・重症看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、野村浩、平野通子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師・助産師・保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学科					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、看護師として活動する際に必要な手術を受ける患者・家族への看護に関する基本的能力を身につけることを目的としています。 【概要】 急性・重症看護学の対象となる人々の健康問題の特性、ならびに看護の基盤となる理論や援助方法を学修する。さらに、健康問題・援助方法の知識を活用して、急性期にある患者・家族の事例の看護過程をグループワークを通して学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)自律性・(4)問題発見解決力・(6)専門的知識技能の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①急性・重症看護学の対象者の健康問題と援助を説明できる。 ②急性・重症看護学の対象者に対する看護過程を説明できる。 ③急性・重症看護学の対象者に対する看護計画を立案できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	それぞれの授業で提示する。 林直子、鈴木久美、酒井郁子他(2019) 成人看護学急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 (改定 3 版) 南江堂					
21.成績評価	事前学習課題：25%(具体的な課題内容はアサイメントに記載してある通りです) ・ムーアの術後回復過程、術後無気肺と看護、胸腔ドレナージを受けている患者の看護、無気肺があり肺炎に移行するおそれがある患者の関連図と看護計画 看護過程の展開グループワーク成果：25%(患者情報とアセスメント①～⑦・関連図・看護計画) 中間試験：20% 総括試験：30% ※事前学習課題及びグループワーク成果を提出することが、単位認定の前提となるので注意してください。					
22.コメント	この科目は、3年生からの急性看護学実習に必要な知識や考え方を学びます。1年生の形態機能Ⅰ・Ⅱ、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ、さらに成人看護学での知識を十分活用して、実際の対象者をイメージしながら学んでいきましょう。 課題・レポート・テストに関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター；火曜日昼休み、研究室；月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回				・資料は教室で配布する。		

4月8日(火)1 限 (2-401 教室) 第2回 4月8日(火)5 限 (2-401 教室)	ガイダンスー学修目標、注意事項、授業の進め方などの説明<高見沢> 周手術期看護① <高見沢>	・資料と教科書(P6～18、P38～64)を読んでください。 ・ムーア(Moore)の術後回復過程の4相)について説明しなさい(A4×1枚)。 ・課題レポートを、4月15日(火)に教室で提出してください。 ・課題の提出をもって、第1回第2回を出席とします
第3回 4月15日(火)1 限 (2-401 教室) 第4回 4月15日(火)5 限 (2-401 教室)	周手術期看護② <高見沢> 周手術期看護③ <高見沢>	・資料と教科書(P66～136)を読んでください。 ・術後無気肺と看護について説明しなさい(A4×1枚)。 ・課題レポートを、4月22日(火)に提出してください。 ・課題の提出をもって、第3回第4回周手術期看護②③を出席とします。
第5回 4月22日(火)1 限 (2-401 教室) 第6回 4月22日(火)5 限 (2-401 教室)	胃切除術を受ける患者の看護① <野村> 胃切除術を受ける患者の看護② <野村>	胃切除(教科書 p231～p248、資料)
第7回 5月13日(火)1 限 (2-401 教室) 第8回 5月13日(火)5 限 (2-401 教室)	ストーマ造設術を受ける患者の看護① <平野> 肺切除術を受ける患者の看護① <高見沢>	◆ストーマ造設術(教科書 p344～p363、資料)
第9回 5月20日(火)1 限 (2-401 教室) 第10回 5月20日(火)5 限 (2-401 教室)	ストーマ造設術を受ける患者の看護② <平野> 乳房切除術を受ける患者の看護ー<平野>	◆乳房切除術(教科書 p303～p320、資料)
第11回 5月27日(火)1 限 (2-401 教室)	人工股関節置換術を受ける患者の看護① <野村> 人工股関節置換術を受ける患者の看護② <野村>	◆人工関節置換術(教科書 p285～p302、資料) アンケート(授業内容確認)

第 1 2 回 5 月 27 日(火)5 限 (2-401 教室)		
第 1 3 回 6 月 3 日(火)1 限 (2-401 教室) 第 1 4 回 6 月 3 日(火)5 限 (2-401 教室)	肺切除術を受ける患者の看護② <高見沢> 急性期の患者・家族への看護に用いる看護過程① <高見沢>	・資料と教科書(P161～177)を読んでください。 ・胸腔ドレナージを受けている患者の看護について、説明しなさい(A4×1 枚) ・課題レポートを、6 月 10 日(火)に提出してください。 ・課題の提出をもって、第 8 回第 13 回肺切除術を受ける患者の看護①②を出席とします。 ・資料を読んでください。 ・資料の最後のページの事例を読み、関連図を描いてください(A4×1 枚)。
第 1 5 回 6 月 10 日(火)3 限 (2-401 教室) 第 1 6 回 6 月 10 日(火)4 限 (2-401 教室)	急性期の患者・家族への看護に用いる看護過程②<高見沢> 中間まとめ <高見沢・野村・平野>	・事例の「#1 無気肺があり肺炎に移行するおそれがある」という看護問題の看護計画を、指示された用紙に書き込みなさい。 ・課題レポートを、6 月 17 日(火)授業開始前に教室で提出してください。 ・課題の提出をもって、第 14 回第 15 回急性期の患者家族の看護過程①②を出席とします。
第 1 7 回 6 月 17 日(火)3 限 (2-401 教室) 第 1 8 回 6 月 17 日(火)4 限 (2-401 教室)	グループワークオリエンテーション<高見沢> (アクティブラーニング) 看護過程の展開－情報分析① <高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	
第 1 9 回 6 月 24 日(火)3 限 (2-301/304/305) 第 2 0 回 6 月 24 日(火)4 限 (2-301/304/305)	看護過程の展開－情報分析② <高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング) 看護過程の展開－アセスメント① <高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	・課題①～⑦を 6/24 (火) 16 時まで提出してください。 ・課題①～⑦の提出をもって、第 17・18・19・20・21 回を出席とします。
第 2 1 回 7 月 1 日(火)3 限	看護過程の展開－アセスメント② <高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	・発表を聞きながら、作成した課題①～⑦の足りない部分を各自修正すること。

(2-301/304/305) 第 2 2 回 7 月 1 日(火)4 限 (2-401)	情報(課題①～⑦)プレゼンテーション<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	
第 2 3 回 7 月 8 日(火)1 限 (2-301/304/305) 第 2 4 回 7 月 8 日(火)3 限 (2-301/304/305)	看護過程の展開－関連図②<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング) 看護過程の展開－関連図③<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	・作成した関連図を 7/8(火)16 時までに提出してください。 ・関連図提出をもって、第 22・23・24・25 回を出席とします。
第 2 5 回 7 月 8 日(火)4 限 (2-401) 第 2 6 回 7 月 15 日(火)1 限 (2-301/304/305)	関連図プレゼンテーション<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング) 看護過程の展開－看護計画①<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	・発表を聞きながら、作成した関連図の足りない部分を各自修正すること。
第 2 7 回 7 月 15 日(火)3 限 (2-301/304/305) 第 2 8 回 7 月 15 日(火)4 限 (2-301/304/305)	看護過程の展開－看護計画の立案②<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング) 看護過程の展開－看護計画の立案③<高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング)	・優先順位 1 位の問題について看護目標、看護計画を立案し、7/22 (火) 16 時までに提出してください。 ・看護計画の提出をもって、第 26・27・28・29 回を出席とします。
第 2 9 回 7 月 29 日(火)3 限 (2-401) 第 3 0 回 7 月 29 日(火) 試験 4 限 (2-401)	看護計画プレゼンテーション <高見沢・野村・平野> (アクティブラーニング) まとめ<高見沢・野村・平野>	・発表を聞きながら、作成した看護計画の足りない部分を各自修正すること。

1.授業コード (ナンバリング)	NAH203-M01	2.科目名	慢性看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩下真由美、白石夕起子、藤本美生、房間美恵、村上聖子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	慢性疾患や障がいとともに生活する成人患者とその家族の健康維持・回復を図るための看護援助について学修することをねらいとする。具体的には機能障害別に慢性期看護の対象となる人々の健康問題の特性、患者の特徴、アセスメントの視点、基本的援助方法について学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1) 自律性(2) 社会に能動的に貢献する姿勢(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力と関連しています。 ①慢性疾患や障がいとともに生活する成人患者とその家族の特徴と看護の役割について説明できる。 ②主要な慢性疾患や障がいについてアセスメントの視点および看護について説明できる。 ③事例を通して慢性疾患患者の看護過程を展開することができる。 ①②については、各援助論ごとに授業の中でお示ししています。					
19.教科書・教材	系統看護学講座専門分野Ⅱ 循環器・呼吸器・消化器・腎泌尿器・膠原病・血液造血器・脳神経・内分泌代謝					
20.参考文献	授業資料に提示する。					
21.成績評価	中間試験（第 1～12 回）総括試験（第 13～18 回）70% 事前課題・看護過程の展開 30%					
22.コメント	授業でわからないことは積極的に質問し、この科目での学びをもとに他の慢性疾患についても主体的に学びを深めていきましょう。この科目は病を持ちながら生活している方々にケアを提供するためにどのようなことを知っておかなければならないか、どのようなことを考えなければならぬかを学び、考えるきっかけになる科目です。また、この科目の内容は 3 年次の慢性看護学実習、国家試験、臨床へとつながっていく科目ですので、皆さんの積極的な参加を期待します。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー水曜 12:15-13:15、研究室オフィスアワー火曜 12:15-13:15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1・2 回	4/10 I・Ⅱ限目<岩下> ・オリエンテーション、シラバスの説明 ・慢性疾患の種類と特徴 ・慢性疾患における治療の特徴 ・慢性疾患をもつ人を取りまく療養環境の特徴 ・慢性疾患をもつ人に対する看護の役割 ・慢性疾患をもつ人に関わる専門職とチーム医療			成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 南江堂のテキストを持参		
第 3・4 回	4/17 I・Ⅱ限目 <岩下> 循環器機能障害患者の看護 ・虚血性心疾患患者（回復期）の看護 ・慢性心不全患者の看護			系統看護学講座専門分野Ⅱ循環器 成人看護学③医学書院のテキスト持参 事前学習課題：心臓の機能と働きについて		

第 5・6 回	4/24 I・II 限 <白石> 脳・神経系機能障害患者の看護 ・脳梗塞患者の看護 ・脳・神経系機能障害のアセスメントと日常生活上の看護	系統看護学講座専門分野II 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院のテキスト持参 事前学習課題：脳・神経系の構造と機能
第 7・8 回	5/1 I・II 限 <房間> 生態防衛機能障害患者の看護 ・関節リウマチ患者の看護 ・全身性エリテマトーデス患者の看護 ・ステロイド療法を受ける患者の看護	系統看護学講座専門分野II アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑩ 医学書院のテキスト持参 事前学習課題：ステロイド療法の副作用について
第 9・10 回	5/8 I・II 限 <岩下> 内分泌系機能障害患者の看護 ・糖尿病患者の看護	系統看護学講座専門分野II 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院のテキスト持参 事前学習課題：糖尿病の病気・糖尿病の診断・合併症について
第 11・12 回	5/15 I・II 限 <白石> 内部環境調節機能障害患者の看護 ・慢性腎臓病 (CKD) ・透析療法に伴う看護	系統看護学講座専門分野II 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院のテキスト持参 事前学習課題：腎臓の構造と機能について
第 13・14 回	5/22 I・II 限 <房間> 呼吸器機能障害患者の看護 ・慢性閉塞性肺疾患患者の看護 ・吸入療法・酸素療法・在宅酸素療法を受ける患者の看護	系統看護学講座専門分野II 呼吸器 成人看護学② 医学書院のテキスト持参 事前学習課題：呼吸器の構造・呼吸の生理について
第 15・16 回	5/29 I 限 血液・免疫系障害患者の看護<岩下> ・急性白血病 II 限 放射線治療を受ける患者の看護<藤本>	系統看護学講座専門分野II 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院のテキスト持参 事前学習課題：血液の成分と機能について
第 17・18 回	6/5 I 限 緩和ケアを受ける患者・家族に対する援助<村上> II 限 がん薬物療法における副作用の看護<岩下>	系統看護学講座専門分野II 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院のテキスト持参
第 19・20 回	6/12 I 限 まとめ：中間試験 <岩下 房間 白石> II 限 看護過程について<岩下>	
第 21・22 回	6/19 I・II 限 <岩下> 看護過程の展開① 事例紹介 情報収集・情報の分類	【アサインメント】 ゴードンのアセスメントツールおよび慢性心不全患者の事例を読んでおく
第 23・24 回	6/26 I・II 限 <岩下> 看護過程の展開② アセスメント	【アサインメント】 前回の授業までのところ 事例紹介 情報収集・情報の分類
第 25・26 回	7/3 I・II 限 <岩下> 看護過程の展開③ アセスメント・関連図	【アサインメント】 前回の授業までのところ アセスメント
第 27・28 回	7/10 I・II 限 <岩下>	【アサインメント】

	看護過程の展開④ 看護上の問題 看護計画立案	前回の授業までのところ アセスメント・関連図
第 29・30 回	7/17 I 限 まとめ：期末試験 <岩下 房間> II 限 看護過程の展開⑤ 実施・評価<岩下 >	【アサインメント】 前回の授業までのところ 看護上の問題 看護計画立案

1.授業コード (ナンバリング)	NAH206-M01	2.科目名	精神健康看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里、吉井ひろ子					
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（うち 6 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では、精神の健康の概念、精神保健福祉法、精神疾患や精神科医療の現状を理解し、精神看護の実践に向けた基礎的知識を習得することを目的としている。 【概要】 精神看護学Ⅰの教科書を中心に講義を進める。途中、知識の確認として中間テストを実施する。また「こころ」をテーマとしたグループワークと発表を行う。15 回中 6 回はオンデマンドを用いて実施し、毎回知識の確認テストおよび授業ノートの記載を求める。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神健康看護学概論の学習目標】 1）こころの働きを生物学・心理学・社会学的視点から述べることができる。 2）精神科医療の現状および歴史的変遷と法制度を理解し説明できる。 3）精神疾患を持つ人の「生きにくさ」について述べることができる。 4）精神疾患や治療について説明ができ、精神の病を持つ人を客観的に捉えることができる。					
19.教科書・教材	①系統看護学講座 専門看護分野Ⅱ 精神看護学 1 著者代表：武井麻子 医学書院 ②系統看護学講座 専門看護分野Ⅱ 精神看護学 2 著者代表：武井麻子 医学書院					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価の配分は以下のとおりです。 合計で 60%以上かつ統括テストで 6 割以上の得点を合格基準（単位認定）とします。 グループワーク（発表評価と振り返り、発表資料）25% 学習ノート 18% 中間テスト 17% 統括テスト 40% オンデマンド回は、動画の視聴、確認テストの実施、ノートのまとめをもって出席登録をします。					
22.コメント	目にみえない、わかりにくい内容が多いですが、精神看護には看護の本質がたくさん入っています。積極的に授業に参加しましょう。授業では教科書の内容をすべて行うことはできません。1 度ではわからないことも多いため、予習と復習を必ず実施してください。アクティブラーニングを意識しながら授業に参加してください。また、6 回分オンデマンドで実施します。受講計画を立て、正しく受講をしましょう。					
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー火曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み （西村）センターオフィスアワー木曜日昼休み、研究室オフィスアワー木曜日 2 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4 月 8 日 3 限 対面授業	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・進め方の確認、授業上の留意点などについて） 講義 第 1 章 精神看護学で学ぶこと（教科書①p2～			ノートのまとめ		

担当：櫻井	22) 精神看護学の基本的な考え方を学ぶ。精神科医療の現状を理解する。〔学習目標 2〕	
【第 2 回】 4 月 8 日 4 限 対面授業 担当：櫻井	第 2 章 精神保健の考え方（教科書①p24～53） 健康と不健康、危機介入、ストレス理論、心的外傷などについて学ぶ。〔学習目標 1〕	ノートのまとめ 次回授業範囲（第 3・4 章）を読んでおくこと
【第 3 回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 21 日 17 時 まで 担当：櫻井	第 3 章 心のはたらきと人格の形成（教科書①p56～114） こころの働きを生物学的・心理学的・社会的側面から理解する。〔学習目標 1〕	ノートのまとめ 第 3 章確認テストの実施
【第 4 回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 21 日 17 時 まで 担当：櫻井	第 4 章 関係のなかの人間（教科書①p116～142） 看護の基本となる人間関係、集団力動について学ぶ。〔学習目標 1〕	ノートのまとめ 第 4 章確認テストの実施 次回授業範囲（第 5 章）を読んでおくこと
【第 5 回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 28 日 17 時 まで 担当：西村	第 5 章 精神科疾患のあらわれ方（教科書①p144～182） 精神障害の診断と分類、統合失調症を中心に学び、疾患や障害について理解する。〔学習目標 3・4〕	ノートのまとめ 第 5 章確認テスト①の実施 5 月 13 日のグループワークに向けた準備を行う。
【第 6 回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：4 月 28 日 17 時 まで 担当：西村	第 5 章 精神科疾患のあらわれ方（教科書①p182～234） 気分障害、ストレス関連障害を中心に学び、疾患や障害について理解する。〔学習目標 3・4〕	ノートのまとめ 第 5 章確認テスト②の実施 次回授業範囲（第 6 章）を読んでおくこと
【第 7・8 回】 オンデマンド 視聴及び課題 提出期限：5 月 9 日 17 時 まで 担当：西村	第 6 章 精神科での治療（教科書 p236～296） 精神療法、環境療法、社会療法の特徴を理解する。 長期入院患者の地域移行に向けた具体的方策の概要について理解する。 精神科での治療、治療環境の特性、および薬物療法について理解する。〔学習目標 4〕	ノートのまとめ 第 6 章確認テストの実施 次回中間テストに向けた学習をしておくこと
【第 9・10 回】 5 月 13 日 3 限 4 限 対面授業	○中間テスト グループワーク	○学習ノートの提出 次回授業範囲（第 7 章）を読んでおくこと

担当：櫻井、 西村		
【第 11・12 回】 5 月 20 日 3 限 4 限 対面授業 担当：櫻井	第 7 章 社会のなかの精神障害（教科書①p298～ 370） 精神障害者の治療と人権問題についての歴史や現状を 理解する。また、精神科領域で必要な法律と制度につ いて理解する。〔学習目標 2〕	ノートのまとめ 発表資料とデータは 5 月 26 日 13 時までに提 出
【第 13・14 回】 5 月 27 日 3 限 4 限 対面授業 担当：櫻井、 西村、吉井	グループ発表 ○授業内課題提出（発表評価、振り返り）	統括テストに向けて、テスト範囲の学習を 行なう
【第 15 回】 6 月 3 日 3 限 対面授業 担当：櫻井、 西村、吉井	精神看護学概論の復習、まとめ ○統括テスト（60 分）	

1.授業コード (ナンバリング)	NBS102-M01	2.科目名	生化学		3.単位数	1
4.授業担当教員	岡田太郎					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、人体の構造と機能について生化学的に理解することをねらいとする。 【概要】 生体の構成成分である、糖質、脂質、タンパク質の生体における機能と代謝、およびエネルギーの生成過程などについて学ぶとともに、これらの異常がどのように疾患と関連するのかを学習する。また、遺伝子発現のしくみと臨床とのかかわりについて学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマポリシー）の（４）問題発見・解決力，（６）専門的知識・技能の活用力，の学修に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 （１）身体を構成する細胞内で行われている物質代謝の概要を説明できるようになる。 （２）健康と病気について，科学的な見地から理解できるようになる。 （３）得られた専門知識を，一般の人たちにわかりやすい言葉で伝達することができるようになる。					
19.教科書・教材	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ「臨床生化学」第7版 冊子版 業者さんを通じた販売がありますので，購入しておいてください。 （以前にオンライン版を指定図書としたことがあったのですが，授業期間後のアンケートで冊子版を希望する学生さんの方が多かったので，冊子版を指定図書とします。オンライン版を希望する方はそちらを購入していただいてもかまいません。）					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	成績評価は複数回のレポートの点数を合計して行います。レポートの提出は Web class 上で行います。 最終課題（レポート）の配点は 40%を予定しています。 レポートの提出がないと 0 点以外つけようがありませんので，忘れずに提出するようにしてください。					
22.コメント	生化学の授業では様々な化学物質の名前と化学反応を学ぶこととなり、糖質、脂質、タンパク質からどのようにエネルギーが取り出されるか、という大きな流れが見えなくなりがちです。こうなると、教えられることがただ無味乾燥な酵素反応の羅列に思えてきて「生化学嫌い」になりかねません。私自身も学生の頃は生化学が得意ではありませんでした。 しかし実際のところ、ひとつひとつの物質名や反応を丸暗記する必要はなく、将来必要となっ					

	たときに、「そういえば教科書のあのあたりに記述があったような・・・」と思いながら、教科書を調べる、それでいいのです。ただ、1度きちんと学んでおかなければ、教科書のどこを開いたらいいかもわからないでしょう。本授業では、なるべく「全体の流れ」を見失うことなく、みなさんの理解が進むように努力します。また、最新の医学的進歩についての話題も取り入れ、学生さんの学習意欲が高まるような授業にできたらな、と考えています。 教科書はメディカ出版の「臨床生化学」です。この教科書は生化学の教科書としては非常にシンプルで分かりやすいと思います。高校で生物を選択していなかった学生さん、あるいは化学が苦手だった学生さんでも大丈夫です。この8回の授業で、将来必要となる生化学の基礎をしっかり身につけましょう。 授業はホワイトボードに板書する形で進めますので、ノートと筆記用具を準備して授業に臨んでください。 教科書の図を見ながら説明することもあるので、これらの図については念の為にWebClassにもアップロードします。 またレポート作成時などの生成AIの使用は認めることとします。 ただし、生成AIを使って作成した文章の内容が間違っていることはよくあることですので、必ず自分で内容を理解し、間違っている記述については訂正してください。 何か質問があればメールで気軽に聞いてください。	
23.オフィスアワー	講義の日以外は、神戸大学医学部生化学分野にあります。質問等ありましたら、お気軽にe-mailをください。 (上記のアドレス参照) 講義の前後に質問などへの対応が可能です。講義の後はバスの時間が迫っているためあまり長い時間をとれないのですが(すみません)、時間がある限り対応します。講義の前でしたら1階の講師控え室に直接来てもらって大丈夫です。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	生化学では糖質、脂質、タンパク質、核酸といった、私たちの体を形作る基本分子の構造と機能、さらにこれらからエネルギーが取り出されるメカニズムについて学びます。 一回目の授業では、まず高校の化学の復習から入ります。そして、代謝によってエネルギーが取り出されるというのはどういうことか?、といったこれから先の授業の導入となる概説を行う予定です。	可能であれば、各回の授業範囲の部分について、教科書をざっと読んでおくとう理解の助けになると思います。
第2回	酵素について学びます。体内の化学反応を常温で進行させる「触媒」が酵素であり、生命現象の根本を担う重要な役者です。 さらに、糖質代謝の導入として、糖質の構造について学びます。	
第3回	糖質代謝について学びます。人種によって米、小麦、芋、トウモロコシ・・・と種類は違いますが、私たち人間は糖質を主なエネルギー源として生命を維持しています。糖質分子からエネルギーが取り出される仕組みは極めて重要で、臨床にも密接に関わっています。 高校で生物を選択した学生さんは復習になると思いますが、生物を選択していない学生さんはここでしっかり学んでおきましょう。	
第4回	脂質代謝について学びます。脂質は水に馴染まない性	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NBS103-M01	2.科目名	生物学基礎		3.単位数	1
4.授業担当教員	上田晴康					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	看護学科	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 医療職者として必要不可欠な生物学的基礎知識を習得する。これらを通じて、SDGs 4 「すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」ものとする。 【概要】 人体のなりたちを理解するうえで必要な、生物学の基本（細胞レベルでの構造と機能、生命の発生と連続性、遺伝）に加え、感染症を引き起こす病原体の種類やそれらに対する対処法について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①生物が持っている機能について説明できる。 ②病原体の種類や特性について概説できる。 ③主な感染症の種類や特徴を説明できる。 ④本邦における感染症対応について概説できる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義開始時にオリジナルテキストを配布					
20.参考文献	特になし					
21.成績評価	点数の配分詳細は次の通りです。すべての課題を実施・提出し、試験結果と合わせた合計が 60 点以上で合格となります。 （1）提出課題（学習目標 1・2・3・4 に対応） 50% （2）本試験（学習目標 1・2・3・4 に対応） 50%					
22.コメント	高校で習った生物学の振り返りに加え、看護師としては是非とも必要な病原微生物に対する知識を補完する講義であり、後に続く免疫学の理解を助ける意味においても重要な科目であるので、選択科目ではあるが本科目を履修しておくことが望ましい。 生成 AI 利用に関して条件付きで認める。但し、成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は一切認めない。					
23.オフィスアワー	授業後あるいはメール（ueda-ph@hyo-med.ac.jp）にて対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	生命の起源と進化～生殖・発生と連続性			★課題提出 復習：授業ノートの整理		
第 2 回	生命の設計図～遺伝の法則／遺伝子と染色体／ゲノム／セントラルドグマ			★課題提出 復習：授業ノートの整理		
第 3 回	生物の構成単位～細胞および組織の構造と機能			復習：授業ノートの整理		
第 4 回	生物の種類と生命活動～単細胞細胞と多細胞生物			復習：授業ノートの整理		
第 5 回	病原体の種類と分類 1～微生物学の歴史／細菌と真菌			復習：授業ノートの整理		
第 6 回	病原体の種類と分類 2～偏性細胞内寄生体（クラミジア、リッパ、ウイルス）			★課題提出 復習：授業ノートの整理		
第 7 回	感染症～感染と発病／病原因子／感染経路／院内感染			★課題提出		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NBS104-M01	2.科目名	化学基礎	3.単位数	1
4.授業担当教員	山口宏				
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面授業	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 身の回りの現象は化学的なもので溢れています。化学的知識があれば、簡単に理解できたりするものも多数あります。また、私たちが生きているということ自体も、体の中で起こっている化学反応や、化学的現象が基礎となっています。 本講義では、原?や分?の構造、?体関連物質の種類と性質、なぜ医薬品が働くのかなどの基礎を概説し、?命現象の理解するために、すなわち医療系専?科?を理解するために最低限知っておいて欲しい、溶液の濃度と性質、化学変化、化学現象などを取り上げ、化学の基本的な定義や法則に基づいた解説を行い、化				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①化学はなぜ大切なのが理解できる。 ②?近に起こる現象を化学的に分析し、理解できる。 ③化学?語を正しく理解し、使用できる。 ④化学の基礎的な概念を理解し、使用できる。?溶液の濃度の計算ができる。 特に基礎的な概念としては、「化学物質とは何か」、「溶液の濃度」、「酸・塩基」、「酸化・還元」、「物質の構造」、「化学反応」、「医薬品の作用機序」などを取り上げます。				
19.教科書・教材	講義資料を別途アップロードします。				
20.参考文献					
21.成績評価	講義の理解度を確認するため、講義後、各回の内容を中心に簡単な確認試問を Google Form などを用いて実施します。 最終回の講義で、講義全体に関する筆記試験を行い、講義内容を理解しているかを確認します。 出席、受講に対する姿勢、確認試問の結果および最終試験の結果を総合して判断します。 確認試問など平常点全体で 40%、最終試験 60%とするので、各回出席し、確認試問にきちんと解答・提出して下さい。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	非常勤のため、講義終了時の質問やメールでの質問をお願いします。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	科学とは何か？ 自然科学と社会・人文科学 疑似科学とは？ 化学とは何か？ 化学物質とは何か？ 天然物は安全か？ 身の回りの化学現象について考えてみよう 化学が対象とする範囲 化学と社会とのつながり			2 回目以降同様 講義資料が配布済みであれば持参すること 「復習」 講義後 Google Form （または Microsoft Forms ）で理解度確認を兼ねた試問を行います（行わない回もあります）。 掲示に注意して必ず回答してください。成績評価に含めます。 確認試問は、講義中ではないので、何を参考	

	生物が生きることと化学のつながり	にしても構いません。
第 2 回	化学物質の種類 有機物質、無機物質 天然物、非天然物 化学物質の状態 気体、液体、固体 ものが溶けるということ 溶液の濃度	繰り返し記載します。 各回に対応する確認試問を Google Form （または Microsoft Forms）を用いて行います。 成績にも反映するので、必ず解答して下さい
第 3 回	化学の三角形 構造と物性（物の性質）と反応は切っても切れない関係 構造とは？ 物質の構造 原子の構造 原子と元素 原子の性質 物性とは？ 物性を表す量 化学反応とは？ 身の回りの化学反応 体の中の化学反応 工場の中の化学反応	
第 4 回	色々な物質の構造 どうやって化学構造ができあがるのか？ 化学結合 強い結合と弱い結合（物質間相互作用） 化学構造と化学反応、物質の性質との関連	
第 5 回	化学反応 速い化学反応と遅い化学反応 平衡反応 化学反応はなぜ進行するのか？ エネルギー的な観点から	
第 6 回	変化の方向性を決めているものは何か？ 熱力学の第一法則 無限にエネルギーを取り出すことのできる機械（＝永久機関）は作ることができるか？ 熱力学の第二法則 物事の変化には方向性が決まっている エントロピーの概念 （第三法則もあるのですが割愛） 化学平衡	
第 7 回	生体物質の化学 生物の中で働く化学物質 生体内高分子	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NBS302-M01	2.科目名	多職種連携医療論		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤直美					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	看護学科 3 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 本講義では、保健医療分野で看護実践を行ううえで必要不可欠な多職種連携のあり方について理解することをねらいとする。具体的には、多職種連携の概念を学ぶとともに、保健医療分野で活躍する様々な各専門職の視点から、各々の職種のチーム医療における役割や活動の実例について学習し、多職種連携上の課題について考察する。					
18.学習目標と DPとの関連	保健医療分野で看護実践を行ううえで必要不可欠な多職種連携のあり方について理解する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	授業のまとめシート（50％）、最終レポート（50％）					
22.コメント	より良いケアの提供のために、他の専門職との連携は欠かせません。各講師の話をよく聴き、学びを深めてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	(看護師の活動 2 回（第 1 回、第 8 回） 担当 佐藤直美） チーム医療とは何か、多職種連携とは何かを学習する機会とする。チーム医療における看護師の活動の実例を取り上げ、看護師の役割・機能について講義する。					
第 2 回	(栄養士の活動 1 回 担当 田中悦子） チーム医療における活動の実例を取り上げ、栄養士の役割・機能について講義する。					
第 3 回	(薬剤師の活動 1 回 担当 高橋雅子） チーム医療における活動の実例を取り上げ、薬剤師の役割・機能について講義する。					
第 4 回	(理学療法士の活動 1 回 担当 北村和也） チーム医療における活動の実例を取り上げ、理学療法士の役割・機能について講義する。					
第 5 回	(作業療法士の活動 1 回 担当 山本勝仁） チーム医療における活動の実例を取り上げ、作業療法士の役割・機能について講義する。					
第 6 回	(医師の活動 1 回 担当 恒遠剛示） チーム医療における活動の実例を取り上げ、医師の役割・機能について講義する。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NCH101-M01	2.科目名	地域・在宅看護論		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴					
5.授業科目の区分	専門科目（基盤看護学）	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格	必須科目	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 15 回のうち 2 回はオンデマンド 第 6～7 講 上記以外は対面で講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地域で暮らす人々の生活習慣や生活様式などの“生活の仕方”に目を向け、人々の生活の仕方や考え方について、様々な健康レベルや発達段階の特性、健康レベルに応じ、地域でどのような資源を活用して暮らしているかについて教授する。 地域で暮らす人々の生活を理解することを通じて、「生活の中の健康」に関する考えを発展させ、看護援助を行う上で基盤となる生活観や健康観を深める。 本科目を通じて、多様な生活の場を理解し、地域包括システムの中で役割を発揮することのできる看護職の基盤となる視点を養うことができる。 「地域・在宅看護論					
18.学習目標と DPとの関連	【DP との関連】本科目の内容は看護学科 DP：3)多様性理解、4) 問題発見・解決力の基礎力構築の土台となる科目である。GW を主とした授業展開の中で DP:1)自律性、5) コミュニケーションスキルの強化・促進につながり、三木市という身近な地域、地域住民について理解を深める活動から DP：2)社会に能動的に貢献する視点を養う。地域・在宅看護論プロジェクトを通して DP4) 問題発見・解決力の基礎力を養う。 【到達目標】 1) 地域・在宅看護の目的および社会的背景が理解できる。 2) 地域で暮らす人々の健康に関連する要因、生活習慣や生活様式について説明できる。 3) 地域で暮らす人々（個人・家族）の生活の仕方の実際、行動や考え方について、各発達段階にある人を理解し、健康レベルとの関連で考えることができる。 4) 地域における支えあい（自助・互助・共助・公助）の活動、コミュニティについて説明できる。 5) 地域で生活する人々の健康を守るための社会資源（機関と職種）について説明できる。 6) 社会に求められる看護職の機能・役割について考察することができる。 7) 地域・在宅看護論プロジェクトでテーマに基づく内容をプレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材	河原加代子： 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論（1）地域・在宅看護の基盤 医学書院					
20.参考文献	講義時に示す					
21.成績評価	1)試験受験資格；授業回数の 2 / 3 以上の出席者とする。 ・出席（通常開講時）：オンデマンド授業は小テストあるいは課題レポートで確認する。 提出期限までに提出がない場合は欠席とする。 対面授業は、カードリーダーとコメント票の双方で確認する。 出席票を提出する場合は、授業開始までとする。 2)成績評価：30％とする課題レポート（30％）地域・在宅看護論プロジェクトの取り組み（20％）中間・最終テスト（50％）により評価する。					
22.コメント	グループで課題学習に取り組むアクティブな授業です。 夏学期の「地域ふれあい実習」につながる科目です。					

	事前課題に主体的に取り組み、授業当日のグループワークの準備学習を行いましょう。	
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑、鵜飼、樺田（水曜日昼休み）、 センターオフィスアワー：畑、鵜飼、樺田（木曜日昼休み）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 6/3(火) 3限 担当 鵜飼	1. 地域・在宅看護論 オリエンテーション ・講義内容について ・地域・在宅看護論プロジェクト始動 2. 人々の暮らしの理解 ・暮らしとは ・暮らしと健康 ・暮らしの中で健康を捉える ・グループワーク 「自分と友人の暮らし」	【事前課題】 ・テキスト該当ページ（序章 p1-10）を読み理解する。 ・授業までに以下の課題を実施する。1)自分の一日の過ごし方（平日/休日）についてタイムテーブルを作成し授業後提出 課題提出① 【事後課題】 ・テキスト 11-22 まで読み理解する。
第2回 6/10(火) 3限 担当 鵜飼	1. 地域・在宅看護の役割 ・地域・在宅看護の基盤となる考え方 ・地域・在宅看護に求められる役割 ・グループワーク「暮らしを支援する看護師の役割とは」 2. 暮らしと地域 ・地域とは ・人々暮らす地域の多様性 ・地域の産業構造の多様性	【事前課題】 ○テキスト該当ページ（p21-30）の予習 【事後課題】 グループワークを通して暮らしを支援する看護師の役割をどのように考えたのか記述し提出 課題提出②
第3回 6/10(火) 4限 担当 鵜飼	1. 地域在宅看護の対象者 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルによる多様性 2. 家族の理解 ・我が国における家族の現状 ・我が国における家族とその変遷 ・地域・在宅看護の対象者としての看護 ・グループワーク「家族を理解する」	【事前課題】 ○テキスト（p58-75）を読み理解する ○テキスト（p75-85）を読み理解する
第4回 6/17(火) 3限 担当 鵜飼	1. 暮らしを支える地域・在宅看護 ・「暮らしを支える看護」とは ・「暮らしを支える看護」の実践 2. 暮らしの環境を整える看護 ・暮らしに関連する環境 ・暮らしの環境を整える看護とは ・看護師に求められる態度・知識・姿勢 3. 広がる看護の対象者と提供方法 ・健康に対する人々のニーズ ・看護の実践方法の広がり	【事前課題】 ○テキスト（p32-38）を読み理解する。
第5回 6/17(火) 4限 担当 鵜飼	1. 地域におけるライフステージに応じた看護 ・ライフステージと人々の暮らし	【事前課題】 テキスト該当 117-133 を読み理解する。

	・ライフステージによる健康課題と予防 ・疾病とライフステージ ・家族とライフステージ	
第 6 回 オンデマンド 授業のため 6/24～7/8 ま でに視聴 担当 鵜飼	1. 地域で暮らす人々の暮らしと健康 ・休養（睡眠）と健康 ・運動と健康 ・栄養（食生活）と健康	【事後課題】 出席は課題レポート提出した人のみ出席とします。レポートの提出期限を確認して下さい。時間後は受付できません。③
第 7 回 オンデマンド 授業のため 6/24～7/8 ま でに視聴 担当 鵜飼	2. 地域で暮らす人々の暮らしと健康 ・飲酒・喫煙・薬物と健康 ・ストレスと健康	【事後課題】 出席は課題レポート提出した人のみ出席とします。レポートの提出期限を確認して下さい。④時間後は受付できません。
第 8 回 オンデマンド 授業のため 7/1～7/8 ま でに視聴 担当 鵜飼	1. 地域で暮らす人々の健康に関わる生活、健康意識、健康活動の理解 ・インタビュー方法、内容、マナー、個人情報保護等	【事後課題】 出席は課題レポート提出した人のみ出席とします。レポートの提出期限を確認して下さい。⑤時間後は受付できません。
第 9 回 オンデマンド 授業のため 7/1～7/8 ま でに視聴 担当 鵜飼	1. 健康教育の目的・対象 2. 健康教育のプロセス ・健康教育の目標設定 3. 健康教育の方法 ・企画書 ・企画時の検討項目 4. 健康教育の実施 ・計画書の作成及び健康教育の媒体	【事後課題】 出席は課題レポート提出した人のみ出席とします。レポートの提出期限を確認して下さい。⑥時間後は受付できません。
第 10 回 7/8(火) 3 時 限 担当 鵜飼	中間試験 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ・地域包括ケアシステム	【事前課題】 ○テキスト（p45-50）を読んで理解する。
第 11 回 7/8(火) 4 限 担当 三木市 保健師 鵜飼	健康とコミュニティ 1. 三木市の概要と特徴 三木市の歴史（社会文化的背景）、産業構造、人口・高齢化率・世帯、地域の成り立ち、暮らしを営む社会資源、交通アクセス、健康問題、 2. 健康を支える地域の活動とその内容	【事後課題】 講義終了後学んだことを webk クラスに提出する。
第 12 回 7/ 15（火）3 限 担当 畑	地域アセスメント ・地域アセスメントとその意義 ・地域アセスメントの活用 ・地域アセスメントの方法 ・包括的なケアシステムを担う地域	【事後課題】 講義で学んだことを次回の講義で活用できるようにまとめる。

第 13 回 7/15(火)4 限 担当 鵜飼	・グループワーク ①「暮らしと健康」を支援する目的で地域を知るにはどのようなデータが必要か考える ②考えた成果をもとに実習の地域に住む人々の健康と暮らしを支えるために必要な地域のデータをあげて具体的なデータの収集方法と担当を決める。 ③各自データを収集する。 ④収集したデータを一つにまとめる。	【事後学修】 本日の調べたことを各自まとめてグループとして次回授業開始前に提出する。これは実習の準備となる。
第 14 回 7/22(火) 3 限 担当 公民館 の方鵜飼	・三木市の地域住民活動と場（公民館） （緑が丘町公民館）	【事後課題】 総括試験に向けての学修
第 15 回 7/22(火)4 限 担当 鵜飼・ 煤田・畑	・総括試験 ・プレゼンテーション 「地域・在宅看護論プロジェクト」結果プレゼンテーション個人別	【事前課題】 模造紙に地域・在宅看護論プロジェクトのプレゼンテーション準備をする

1.授業コード (ナンバリング)	NCH215-M01	2.科目名	老年健康看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高田美子、炭野実千、中山和美					
5.授業科目の区分	専門科目／実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 内 7 回をオンデマンド実施		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、老年期を生きる人の理解を深め、その健康と暮らしを支える老年看護の基本となる知識を身につけることを目的とする。 【概要】 高齢者の特徴を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、それらが高齢者の生活にどのような影響をもたらしているのかを理解する。また、高齢者を取り巻く保健医療福祉の現状と課題を学び、超高齢社会における老年看護の役割と責務について考察する。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技術の活用力、の学修に関連する。本科目の学習目標は次のとおりである。 オンデマンド授業 ①加齢に伴う身体的、心理・精神的、社会的変化の特徴と、生活への影響を説明することができる。 ②わが国の高齢化現象の変遷、および高齢者を取り巻く社会の現状や課題を説明することができる。 ③高齢者の健康と暮らしを支える様々な保健医療福祉の活動や多職種連携、看護の役割を説明することができる。 ④高齢者に生じ得る倫理的課題について説明することができる。 対面授業（グループワーク・プレゼンテーション） ⑤高齢者の自尊心や価値観を尊重する態度と自己の老年観を説明することができる。 ⑥高齢者のライフレビューの傾聴を通し、生まれ育った時代背景や生き方の多様性と、それらが高齢者の現在に通ずる信念や価値観にどう反映されているかを考察することができる。 グループワークを通しプレゼンテーションを行い、その過程で課題解決について論理的思考及び話す力、聞き手の反応を見抜く力を備える。					
19.教科書・教材	『系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学』北川公子他著，医学書院（2025）10 版					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	オンデマンド授業 毎回小テスト 100 点取るまで実施 中間テスト（1.2.3.4.に対応）30％ グループワーク課題学習レポート（個人）（学習目標 5.6 に対応）20％ プレゼンテーション学習（学習目標 5.6 に対応）20％ 最終統括テスト（学習目標①～⑥に対応）30％					
22.コメント	本年よりオンデマンド授業が始まります。対面授業と違い自主的に勉強することになります。ある一定期間で勉強してください。皆さんの一つ一つの単元で知識がしっかり身についている					

	か確認のテストを行います。100 点を取るまで次にまないでください。オンデマンド授業での質問は、Webclass を使用して行います。対面授業開始までに、すべてのオンデマンド視聴が終了し小テストが終わっていることが必要です。対面の授業日に中間テストを実施します。 皆さんが学習者であることを前提に行うものです。学習者としての力に期待しています。 高齢者に関心を持つことが学習の第一歩です。本授業を機会に身近な高齢者と積極的に触れ合い、お話を聴いてみるなど、理解を深めていこうとする態度が望まれます。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 水曜日 1 限（図書館） 研究室オフィスアワー： 水曜日お昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 今回のみ変更 4 月 9 日 (水) 4 限目	対面授業 オンデマンド授業の進め方 オリエンテーション 授業構成と評価について NEWS IN Edcation 課題について 資料あり 課題提出日（6 月 6 日 対面授業開始日）	ノートパソコン持参 教室内外の予習・復習.課題の進め方（個人・グループ） 及び提出方法を含む 授業シラバス必携 News IN Edcation 資料配布
【第 2 回】 4 月 18 日 オンデマンド授業 のため 4 月 18 日から 6 月 5 日までの間に視聴してください。	オンデマンド 1 回目 20 分×2 老年看護学とは 1－① 高齢社会における人口学的特徴 老年看護の理念と役割 1－②	1－① 1－②それぞれの小テストを実施してください。 100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 3 回】 4 月 25 日 オンデマンド授業 のため 4 月 18 日から 6 月 5 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 2 回目 加齢と老化の概念 高齢者をとりまく保健・医療・福祉制度の概要と課題	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 4 回】 5 月 2 日 オンデマンド授業 のため 4 月 18 日から 6 月 5 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 3 回目 老人福祉法、ゴールドプラン、介護保険制度、医療制度	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。
【第 5 回】 5 月 9 日 オンデマンド授業 のため 4 月 18	オンデマンド授業 4 回目 加齢に伴う心理・精神的変化、老年期の知能と記憶	小テストを実施してください。100 点をとるまで次に進まないでください。

日 から6月5日 までの間に視 聴してくださ い。		
【第6回】 5月16日 オンデマンド 授業 のため4月18 日 から6月5日 までの間に視 聴してくださ い。	オンデマンド5回目 認知症の定義、認知症高齢者の理解	小テストを実施してください。100点をとる まで次に進まないでください。
【第7回】 5月23日 オンデマンド 授業 のため4月18 日から6月5 日までの間に 視聴してくだ さい。	オンデマンド6回目 老年期の衰退と喪失、セクシュアリティ	小テストを実施してください。100点をとる まで次に進まないでください。
【第8回】 5月30日 オンデマンド 授業 のため4月18 日から6月5 日までの間に 視聴してくだ さい。	オンデマンド7回目 高齢者ケアの場の特徴と看護の役割 高齢者の就労と社会参加、経済状況、疾病構造と介護 予防	小テストを実施してください。100点をとる まで次に進まないでください。
【第9回】 6月6日 これより対面 授業	オンデマンド授業のまとめと 中間テスト 授業アンケート	中間テスト News in Education 課題提出
【第10回】 6月13日	ライフヒストリー聴講	【予習】教科書の該当箇所の熟読 ゲストスピーカー予定 視聴後のレポート提出は授業内で指示しま す。
【第11回】 6月20日	高齢者疑似体験体験からの学びについて グループワーク、プレゼンテーション	【予習】 教科書の該当箇所の 高齢者総合機能評価（CGA）について熟読 pc持参してください。
【第12回】	ライフヒストリー聴講	【予習】教科書の該当箇所の熟読

6 月 27 日	課題提出された News in Education について	ゲストスピーカー予定 視聴後のレポート提出は授業内で指示します。
【第 13 回】 7 月 4 日	課題提出された News in Education についてグループワーク・発表	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し pc 持参してください。
【第 14 回】 7 月 11 日	高齢者の人生とスピリチュアリティの理解 意思決定への支援 家族への支援	【予習】教科書の該当箇所の熟読 【復習】配布資料の見直し pc 持参してください。
【第 15 回】 7 月 18 日	まとめ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	NCH217-M01	2.科目名	在宅看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、楳田恵子					
5.授業科目の区分	専門科目 在宅看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	看護学科				9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	看護師		11.先修条件	以下の地域・在宅看護の科目を修得していること ・地域・在宅看護論 ・地域ふれあい実習		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 15 回のうち 7 回はオンデマンド 第 2 ～ 8 講 9 講から対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目の目的は、地域の人々の尊厳と権利を守り、生活と健康を支援するための地域・在宅看護の基本的な理念や機能を修得することである。 さらに、地域全体を支える看護やケアのしくみを理解するとともに、地域で暮らす人々とその家族に看護を提供する際に必要な支援の基本とその根拠を修得することである。 【概要】 ・個性が高く、総合的な看護が求められる「地域・在宅看護」の特徴、地域・在宅看護に求められる専門性、多職種との連携を含め活動を支える社会システムの中で看護が担う役割と課題を学びます。 ・					
18.学習目標と DPとの関連	【本科目の学習目標】 1) 地域・在宅看護の変遷とその社会的背景について理解できる（前提目標） 2) 地域・在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解できる（中核目標） 3) 地域包括ケアシステムが目指すべきものが理解できる(前提目標) 3) 暮らしの場を支える制度やシステムについて理解できる（中核目標） 4) 暮らしの場を支える看護を実践するために身に着けるべき基本的能力を理解できる（中核目標） （1）尊厳を守る看護 （2）信頼関係を築く看護 （3）意思決定を支える看護 （4）暮らしの場における健康危機と管理 （5）支援体制を構築する看護 5) 地域・在宅看護を将来に向けて発展的に捉え、日本の先進事例や諸外国の在宅ケアの実際に関心を持つことが出来る（発展目標）。 【関連するディプロマポリシー】 （1）自律性 （3）多様性の理解 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能 の活用力					

19.教科書・教材	【教科書】 1) 臺有桂他編（2022）.ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（第2版）,メディカ出版. 2) 臺有桂他編（2022）.ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術（第2版）,メディカ出版. 【教材】 講義時資料を配布します。	
20.参考文献	1) 厚生労働統計協会（2022/2023）.国民衛生の動向 *この書籍は、日本における様々な統計結果や、本科目で講義する在宅看護の背景などまとめられています。図書館に蔵書があります。適宜参照しましょう。 2) 事前学習として、ARコンテンツ（動画視聴）を活用し、イメージを高める。 ★他各講義資料は、適宜紹介します。	
21.成績評価	1) 試験受験資格；授業回数の2/3以上の出席者とする。 ・出席（通常開講時）：オンデマンド授業は小テストあるいは課題レポートで確認 指定時間までの提出がない場合は欠席とする 対面授業は、カードリーダーとコメント票の双方で確認する。 出席票を提出する場合は、授業開始までとする。 2) 試験 70% ： 中間（第8回分までに相当）30%、統括（目標1～5に対応）40%とする。 3) 課題レポート ： 30%とする。	
22.コメント	・地域・在宅における看護は、超高齢社会のもとで、ますます必要とされる看護を学ぶ機会です。 地域の人の暮らしの中で、看護を提供することの意義や面白さに気づき、学習を深めてもらうことを期待します。皆さんが成人学習者であることを前提に主体的な学習を期待しています。 ・また在宅看護は日常性のある暮らしの場で展開する看護であり、対象となる人々が持つ力を最大限に引き出し、主体性と満足感のある生活を送ることを重視します。その意味で、在宅看護は看護の本質であり、原点ともいえます。大いに看護を探究しましょう。 ・本年度より、オンデマンド授業が始まります。オンデマンド授業ではより自己で学んでいく姿勢が必要となります。学習目標を明確にし、課題に取り組みましょう。 皆さんが各回（単元）で学習したことが身についたかどうかの確認テストを行います。100点が取れた段階で次に進んでください。このテストは出席確認に相当します。 対面の授業までにオンデマンドが終了している必要があります。対面の授業の中で中間テストや総括テストを行います。 また遠隔授業では、より自己で学んでいく姿勢が必要となります。学習目標を明確にし、課題に取り組みましょう。わからないことがあれば、webclassやメール等で畑に問い合わせてください。また全ての回を通して授業終了後やオフィスアワーを活用しメールで連絡後に研究室を訪ねてきてください。お待ちしております。	
23.オフィスアワー	オフィスアワー：畑、鶴飼、榎田（水曜日昼休み）、 センターオフィスアワー：畑、鶴飼、榎田（木曜日昼休み）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
対面授業 【第1回】 4/9 畑	・ガイダンス ・地域・在宅看護の場の広がり ・地域・在宅看護活動の原点とその後の変遷 ナイチンゲールが描いた21世紀の看護 ・地域・在宅看護が求められる社会的背景	ナイチンゲールに関する文献の課題レポートを4/15日16時までに畑の研究室前のボックスに提出（レポート課題1）

第2回 オンデマンド 授業のため 4/16～5/23 までに視聴 畑	地域・在宅看護の場と活動の特徴 ・地域・在宅看護の場の広がり ・地域・在宅看護の先駆的取り組み ・地域・在宅看護の特活動の特徴 ・地域・在宅看護を「生活モデル」で捉える	【事後】 課題レポートをWEB CLASSで23日9時までに提出（課題レポート2）
【第3回】 オンデマンド 授業のため 4/16～5/23 までに視聴 畑	地域・在宅看護とは何か ・地域・在宅看護の理念 ・地域看護の概念 ・在宅看護の概念 ・在宅看護の役割・機能 ・在宅療養の成立条件	【事後】 課題レポートをWEB CLASSで30日9時までに提出（課題レポート3）
【第4回】 オンデマンド 授業のため 4/16～5/23 までに視聴 鵜飼	地域・在宅看護の対象① 対象者の多様性 ・小児～高齢者、家族 ・生活の場に応じた看護、サービス機関 ・精神障がい者・小児 ・生活の場に応じた看護、制度、サービス機関	小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。
【第5回】 オンデマンド 授業のため 4/16～5/23 までに視聴 鵜飼	地域・在宅看護の対象② ・家族とは、家族の機能、家族の役割 ・在宅介護における家族の特徴 地域・在宅看護の対象③ ・家族を理解するための技法 ・家族を理解するための基礎理論 ・在宅看護における家族への支援	小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。
【第6回】 オンデマンド 授業のため 5/14～6/3 までに視聴 煤田	暮らしを支える地域・在宅看護のシステム 1 6-1 ・地域包括ケアシステムの発展の経緯 ・地域包括ケアシステムの具体的内容 ・地域包括ケアシステムにおける在宅ケア 6-2 ・地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメント	6-1,6-2 小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 授業内容から生成AIを使用するものではありません。使用は不可とします。
【第7回】 オンデマンド 授業のため 5/21～6/3 までに視聴 煤田	暮らしを支える地域・在宅看護のシステム 2 7 講-1 ・社会資源の活用・医療保険制度・後期高齢者医療制度 7 講-2 ・介護保険制度・生活保護・対象別の関連法規	小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。 授業内容から生成AIを使用するものではありません。使用は不可とします。
【第8回】 オンデマンド 授業のため 4/16～5/23 までに視聴	暮らしを支える地域・在宅看護のシステム 2 8-1 ・訪問看護ステーションの仕組み ・在宅看護の変遷と訪問看護制度 8-2	8-1,8-2 小テストを行ってください。 知識が定着するように満点名になるまでチャレンジしてください。次の授業を学ぶための前提となります。

鵜飼	・訪問看護ステーションにおける利用者の概要 ・訪問看護の実際	
対面授業 【第 9 回】 6/4 中間テスト 畑、鵜飼、煤田 授業 畑	中間評価 暮らしを支える地域・在宅看護の基本 1 在宅で必要なコミュニケーション 信頼関係を築く看護	中間試験 課題レポートは授業終了時にのみ提出 (レポート課題 4)
対面授業 【第 10 回】 6/11 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本 2-1 信頼関係を築く看護 ・家庭訪問マナー	課題レポートは授業終了時にのみ提出 (レポート課題 5)
対面授業 【第 11 回】 6/18 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本 2-2 信頼関係を築く看護 ・家庭訪問マナー	課題レポートは授業終了時にのみ提出 (レポート課題 6)
対面授業 【第 12 回】 6/ 25 畑	暮らしを支える地域・在宅看護の基本 2-3 信頼関係を築く看護 ・家庭訪問マナー	課題レポートは授業終了時にのみ提出 (レポート課題 7)
対面授業 【第 13 回】 7/2 鵜飼	暮らしを支える地域・在宅看護の基本 3 意思決定 を支援する看護 ・地域包括ケアシステムにおける意思決定支援 ・在宅への移行期における意思決定 ・ACP における意思決定	課題レポートは授業終了時にのみ提出 (レポート課題 8)
対面授業 【第 14 回】 7/9 煤田	暮らしを支える地域・在宅看護の基本 4 暮らしの 場における健康危機と管理 ・リスクマネジメントの概念 ・地域・在宅看護におけるアクシデント・インシデ ント防止 ・臨地実習の場におけるリスクマネジメント ・24 時間連絡体制からみた危機管理	知識確認小テスト
対面授業 【第 15 回】 7/16 試験 畑、鵜飼、煤田 まとめ 畑	統括試験（試験範囲：第 1 回～第 15 回、60 分） 【試験後のまとめ】 畑	試験

1.授業コード (ナンバリング)	NCH311-M01	2.科目名	老年看護学実習（21 生以前）		3.単位数	3
4.授業担当教員	高田美子、中山和美					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 学年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	1 年～4 年春配当の必修専門科目の修得		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	3 年次配当の実習科目の単位取得者 統合看護実習の希望調査に基づき調整を行う					
17.授業の目的と概要	【目的】実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、公衆衛生看護学選択分野のうち、学生 個々に関心のある 1 分野（実践看護学選択分野では 1 領域）を選択し、看護実践現場における 学習を通して理論と実践の統合、ならびに看護観を育成することをねらいとする。また、看護 専門職者としての自己のキャリア開発に向けて個人の課題を明確にすることをねらいとする。 【概要】各看護学選択分野の教育内容に適した病院、施設において、既習得の看護学の知識・ 技術・態度に基づき患者・利用者、集団と関わり、臨地における医療チームの一員として、場 に応じ					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 ?既習の知識や技術を応用し、対象者の特性や健康上のニーズに応じたケアを提供することがで きる。 2. 保健医療チームの一員として、計画的・継続的に提供される看護を学ぶことができる。 3. 他職種との協働における看護専門職者の役割・機能と、保健・医療・福祉の総合的ケア提 供の在り方について学ぶことができる。 4. 看護の専門性を理解し、専門職者としての自覚を高めるとともに、学生から社会人に移行 する準備ができる。 5. 看護専門職者としての役割、責務、態度について学習を深め、将来に向けての自己課題を 明確にできる。 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP2 社会的貢献性 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決能力 DP5 コミュニケーションスキル DP6 専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 リンダ J. カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版，医学書院					
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術，医学書院。 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程，医学書院。 藤崎郁；フィジカルアセスメント完全ガイド，Gakken					
21.成績評価	実習目標の達成度、出席状況、実習への取り組みから総合的に評価する。					
22.コメント	4 年間の集大成の実習です。自己を高められるよう、積極的に学んでください。 遠隔になった場合は、改めて指示します。					
23.オフィスアワー	原本 曜 限 ： ～ ：（メディアライブラリー） 高田 曜 限 ： ～ ：（メディアライブラリー）					

八木 曜 限 : ~ : (メディアライブラリー)		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週 月曜	各分野実習要項参照 ※実習病院は要項に記載された 3 病院の何れかで行う。 詳細は別紙で説明する。 ※状況で遠隔となる場合は別紙で対応する。 9:00 集合 5 号館 4 階研究室 オリエンテーション 受け持ち患者紹介 リーダーに物品貸し出し	※「統合実習で学ぶこととは」を事前学習をもとに確認後に課題提出 課題は、要項 p1 に記載
火曜日	病院初日のみ 9:15 病院正面玄関横に集合 病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者の情報収集、コミュニケーション バイタルサイン測定	15:00～16:00 カンファレンス 「患者紹介、本日の学び」 ※明日から、目的、目標に沿って学生がテーマを考える ※所定の場所に記録を提出する
水曜日	2 日目以降、8:20 までに更衣し集合 受け持ち患者 1 名を受け持つ 申し送り、チームでのケアの見学、環境整備、バイタルサイン測定 初めてのケアは見学から実施へ ケア実施にあたっては、事前にバイタルサインを報告し、指導者に許可を得ておく	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
木曜日	情報収集 環境整備とバイタルサイン測定は自立 初めてのケアは見学から実施へ チームでのケアの見学、実施に向けた調整方法の把握 日課、週のスケジュール、リハビリ、検査等の計画の把握 翌週の予定、指示等の把握(月曜までは確実に) 看護の方向性、看護診断の決定	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
金曜日	記録の整理 患者紹介 看護診断に沿った介入計画の発表 看護技術の確認	学内 ※朝 9:10 記録を提出 学生が各自で進行し、看護過程を発表する
第 2 週 月曜日	フィジカルアセスメント開始(記録用紙⑦の裏面に記入病棟毎に学生がチームを組みケアを実施する。(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡も行う) 学生は協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う お互いの受け持ち患者とは、環境整備や、朝、夕の挨拶をとおり関係性をとれるようにする。	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する

	来週にかけて受け持ち患者の病棟カンファレンス、多職種カンファレンスの機会があれば事前に申し出て、参加させていただく。	
火曜日	病棟毎に学生がチームを組みケアを実施する。(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡も行う) 学生は協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
水曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアの優先度を考慮し介入計画実施、評価、修正(日課や週のスケジュール、関係者への報告、相談、連絡) 協力して環境整備、シーツ交換、ケアの準備、後始末を行う	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
木曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 学生の休憩時間が異なるときは、引継ぎはないか互いに確認をする。 翌週の予定、指示等の把握(月曜までは確実に)	15:00～16:00 中間カンファレンス 合同 各自、技術チェック
金曜日	記録の整理、実施、評価、修正 受け持ち患者について、病棟毎に補足し、情報を交換する 最終週に向け、申し送りやリーダー業務についての復習を行う。 来週に向けた、ケアの確認、スケジュールを立てる	学内 チーム内での患者の紹介と把握
第3週 月曜日	受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 今週の予定の確認 日課、週のスケジュール ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する 指導者と調整し、未経験のケアの見学など希望があれば申し出る。	15:00～16:00 カンファレンス ※所定の場所に記録を提出する
火曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する	15:00～16:00 カンファレンス
水曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する	15:00～16:00 カンファレンス
木曜日	病棟毎に学生がチームを組み、ケアを実施する。 受け持ち患者のケアについて実施、評価、修正する。 ※今週中にリーダー業務のシャドーイングと夜勤への申し送りを各1回 実施する	15:00～16:00 最終カンファレンス 技術チェックに指導者よりサインをいただく

金曜日	統合実習での学び 専門職業人としての自己の課題 自分の卒後のビジョンと今後の課題について 記録整理	学内 記録提出:教務課 来週月曜 17:00 まで

1.授業コード (ナンバリング)	NCH312-M01	2.科目名	在宅看護学実習（21 生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、煤田恵子					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	基礎看護実習Ⅱ 在宅看護学概論 在宅看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【実習目的】 在宅看護学では、在宅ケア・看護の特徴と在宅療養者および家族について学習し、さらに在宅における看護実践について学習をすすめてきました。本実習では、在宅ケアの対象者やケアチームのメンバーに直接的に関わることを通じて、在宅ケアの対象者について理解を深めると共に、在宅での看護実践から地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の果たす役割と継続看護の必要性について、考察を深めることをねらいとします。					
18.学習目標と DPとの関連	以下、C (cognitive;知識)、P (psychomotor;技術)、A (affective;態度)を示す。 1．在宅療養者とその家族について理解する。 C1) 在宅療養者の日常生活の特徴を理解する。 C2) 在宅療養者の疾病・障害及び発達段階の特徴を理解する。 C3) 生活環境の特徴、介護状況・家族関係について把握し、療養生活への影響を理解する。 A4) 在宅療養者および家族の生活スタイルや生活信条に気づくことができる。 2．「対象者」と「療養の場」の特性に応じた看護援助の実践を理解し、その提供に努める。 P1) 直接的ケア、教育・指導的援助、介護負担の軽減、相談等の看護の実践について記述する。 P2) 実施された援助の意義について考察し、記述する。 P3) 訪問看護師の指導の下、必要な看護援助を実施する。 P4) 上記を通じて、訪問看護師の役割について理解する。 3．地域包括ケアシステムにおける多職種との協働・連携と看護の役割について理解する。 C1) 実習施設である訪問看護ステーションの設立目的・役割と機能・看護方針・スタッフ構成・利用方法・地域の特性等について理解する。 P2) 在宅療養者の社会資源の利用状況と導入方法を知り、その必要性を理解する。 P3) 関係他者（機関）との連携の方法を知り、その必要性を理解するとともに、看護の役割について説明できる。 4．専門職業人として人と関わる基本的態度を養う。 P1) 生活の場に出向く看護職に必要なマナーを理解し、実践する。 A2) 対象者の意思を尊重した関わりの必要性和援助の実践を理解する。					
19.教科書・教材	在宅看護学概論・在宅看護援助論等で配布された講義資料。テキスト					
20.参考文献	適宜、指示します。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NCH405-M01	2.科目名	公衆衛生看護方法論Ⅰ(個人・家族・集団の支援技術)		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉田哲也、中世古恵美、藤原和美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択(公衆衛生看護学分野を選択する学生は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件	保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護展開論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習(集中)		
16.履修制限	履修制限あり。 公衆衛生看護学分野選択学生のみが履修できる。					
17.授業の目的と概要	【目的】 保健師の基礎技術としての家庭訪問・健康診査・健康教育の基本的知識と技法を修得することを目的とする。 【概要】 家庭訪問では母子・高齢者・難病・精神障害者・感染症の領域における個に対する直接的支援に加え、多様な社会資源やサービスをつなぐコーディネートに関する基本的な知識と技術を含む。健康診査では乳幼児健康診査の方法及び問診技術を修得する。健康教育では知識伝達型一参加学習型の両方の要素を取り入れた講義と演習を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の、(1)自律性、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技術の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標(身につく知識とスキル)は以下の通りです。 1. 健康診査の理論と技術の要点について述べることができる。 2. 乳幼児の精神運動発達と母親の育児状況を確認するための乳幼児健診の問診を実際に展開することができる。 3. 家庭訪問の理論と技術の要点について述べることができる。 4. 新生児訪問の家庭訪問の計画を立案し、実際に展開することができる。 5. 健康教育の理論と技術の要点について述べることができる。 6. 健康教育の企画書を作成し、効果的な媒体を作成することができる。					
19.教科書・教材	医学書院 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術					
20.参考文献	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)、公衆衛生がみえる(メデイック・メディア)、保健師業務要覧(日本看護協会出版会)、					
21.成績評価	1) 講義持および終了時の課題 60%(健康診査10%、家庭訪問30%、健康教育20%) 目標1～6 2) 総括試験40% 目標1～6					
22.コメント	本科目では、保健師が行う公衆衛生看護活動の基礎技術としての健康診査・家庭訪問・健康教育の基本的知識と技法について学びます。本科目では、臨床看護で学んだ個々の患者に対する看護をする上で培った考え方や行動のあり方を超えて、地域の集団の健康課題を捉え、個人・家族だけではなく、集団や組織、そして地域全体に対する支援(看護)に必要な考え方・行動様式を獲得していくことが必要です。最初は少し戸惑うかもしれませんが、講義、演習に真剣に取り組むこと、そして「なぜ」この内容を学ぶことが必要なのか、常に疑問を持って考えてみてください。そうすることで、「保健師」とは何か、そしてその社会的意義を見つけることができます。このように常にリフレクション(自分や他者との対話)を行うことで、講義、演					

	習、実習が楽しくなると思います。長い道のりですが、一緒に歩いていきましょう。生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない	
23.オフィスアワー	藤原：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 倉田：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 講義	家庭訪問①家庭訪問の基本的技術と意義 中世古	
第 2 回 講義	家庭訪問②家庭訪問の計画の立案 中世古	新生児訪問 訪問計画の立案
第 3 回 講義	健康診査①乳幼児健康診査の基本技術と意義 1 倉田	
第 4 回 講義	健康診査②乳幼児健康診査の基本技術と意義 2 倉田	1 歳 6 ヶ月児健診注意・確認項目、アセスメント、指導内容
第 5 回 演習	健康診査③乳幼児健康診査における問診の実際 1 倉田	
第 6 回 演習	乳幼児健康診査④乳幼児健康診査における問診の実際 2 倉田	問診ワークシート 演習評価表
第 7 回 演習	家庭訪問③新生児訪問計画事例の訪問結果の提示 新生児訪問 観察・計測の技術 中世古	新生児訪問計画の修正 新生児訪問計画の評価
第 8 回 演習	家庭訪問④家庭訪問の実施(ロールプレイ) 中世古	
第 9 回 演習	家庭訪問⑤家庭訪問の実施(ロールプレイの発表) 中世古	
第 10 回 講義	家庭訪問⑥感染症、精神疾患、難病を有する対象者への家庭訪問 倉田	
第 11 回 講義	健康教育①健康教育の基本的技術と意義 藤原	
第 12 回 講義	健康教育②健康教育の企画 藤原	健康教育企画書・計画書、評価案を作成
第 13 回 演習	健康教育③健康教育の企画の総評、指導案の作成 倉田	
第 14 回 演習	健康教育④健康教育の指導案、媒体の作成 倉田	健康教育実施結果、評価を作成
第 15 回 総括試験		

1.授業コード (ナンバリング)	NCH406-M01	2.科目名	公衆衛生看護方法論Ⅱ(地域診断)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中世古恵美、倉田哲也、藤原和美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野選択の場 合は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件	保健師課程専攻に必要な科目全て		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	履修制限あり。 公衆衛生看護学分野選択学生のみが履修できる。					
17.授業の目的と概要	【目的】本科目は、行政保健師の行う地区診断の基本的考え方・知識・技術を習得することを目的とします。 【概要】 本科目では保健師活動の基礎となる地域診断（コミュニティ・ヘルス・アセスメント）の理論と技術について学びます。 地区診断とは保健所及び市町村などの行政の場で働く保健師に必須の専門技術として位置付けられています。保健師として地域の健康課題を明らかにし、そのニーズにあった保健事業及び保健政策を企画する能力です。本科目ではこの地域診断の技術を獲得するために、講義と演習（個人ワーク・グループワーク）を通し、					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマポリシー)の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は次の通りです。 1. 保健師が行う地区診断の目的と意義を説明できる。 2. 地区診断のモデルの要素とそれぞれの意味を説明できる 3. 地区診断のプロセスを説明できる。 4. 地域の健康度を説明する指標の種類とその意味を説明できる 5. 人々の行動に影響を与える社会的要因（社会環境や政策など）要因について説明できる。 6. 健康課題を解決するための保健計画、保健事業計画の立案の方法とプロセスについて説明できる。 7. 実習地域の二次データ(保健指標、市町村の発行する統計書など)をコミュニティ・アズパートナーモデルの枠組みに基づいて収集し、健康課題を明らかにすることができる。 8. 実習地域の健康課題の原因を行動的側面と社会環境的側面の両面から分析し、仮説（推測）を立てることができる。 9. 実習地域の仮説を検証するためのデータ収集（一次データ）計画を立案できる。 10. 地域集団の地域診断の結果（情報－診断結果）を第三者に向けて効果的に発表することができる。					
19.教科書・教材	メチカルフレンド社 保健学講座4 疫学/保健統計 医学書院 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 厚生労働統計協会 国民衛生の動向 2024/2025					
20.参考文献	エリザベス T. アンダーソン他編集、金川克子監訳 コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際 医学書院 金川克子・田高悦子編 地域看護診断（東京大学出版会） 佐伯和子編（2018）地域保健福祉活動のための 地域看護アセスメントガイド 第2版 地区					

	活動ならびに施策可のアセスメント・活動計画・評価計画の立案 医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社 基本からわかる看護疫学入門 第3版	
21.成績評価	1) 評価内容と配分 ①モデル地区の地区診断演習（個人ワーク） 30%（学習目標 3～5） ②実習地区の地区診断演習（グループワーク） 20%（学習目標 3、7～10） ③中間テスト（疫学・保健統計の基礎知識） 10%（学習目標 4） ④総括試験 40%（学習目標 1～6） 2) 合格基準 上記全ての評価の合計が 60%以上で合格とする	
22.コメント	本科目は保健師課程の要となる技術である地域診断の知識と技術を身につけるものです。病院での個々の患者のアセスメントでは、生物学的な要因（病態生理）や行動学的な要因（食生活など）に関する情報を集め分析し、患者の状態を判断してきたと思います。地域集団を対象とした分析では、これに加えて社会的・環境的要因の情報が必要になります。情報の量が増えることで、アセスメントが複雑になります。しかし、実際の人々の生活は複雑であり、多様な要因が絡み合い健康問題となっていきます。地域診断ではこれらの複雑な背景を情報を整理することで何が原因なのかを浮かび上がらせていく作業となります。Step-by-Setp で進めることで、一人一人がこの技術を獲得できるように一緒に頑張っていきましょう。生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない	
23.オフィスアワー	藤原： 研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 倉田：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回 講義	<第1回> 講義： 地域診断の理論 中世古 地域診断に活用する理論を学ぶ <第2回> 講義：地域診断のプロセス 中世古 地域診断のプロセス、地域診断で扱う情報の種類と収集方法について学ぶ	
第3回 第4回 講義	<第3回> 講義： コミュニティ・コアの情報とその見方？ 倉田 人口統計・健康指標のデータの収集、整理、解釈について学ぶ <第4回> 講義： コミュニティ・コアの情報とその見方② 倉田 人口統計・健康指標のデータの収集、整理、解釈について学ぶ	
第5～11回 講義・個人演習	<第5回> 小テスト（疫学・保健統計に関する基礎知識）Web モデル地区演習 1 コミュニティ・コア① モデル地区のコミュニティ・コアに関するデータの読み取り <第6回> モデル地区演習 2 コミュニティ・コア② モデル地区のコミュニティ・コアに関するデータの読み取り	①モデル地区の地域診断について、コミュニティ・アズ・パートナーモデルに基づき実施する。 課題の提出期限については別途指示する。

	<第7回> モデル地区演習3 コミュニティ・コア③ モデル地区の健康課題の特定 <第8回> モデル地区演習4 サブシステムと健康①健康指標とサブシステムの関係	
第12回 講義・個人演習	<第12回> 中世古 モデル地区演習8 情報の統合と推測 モデル地区の健康課題の明確化と仮説の立案 仮説を検証するための一次データの収集計画	②モデル地区のコミュニティコアとサブシステムの情報を統合し、健康課題の仮説を立案する。課題提出期限は別途指示する。
第13回 講義	<第13回> 講義：保健事業計画の策定 藤原 事業計画の立案の基礎的知識を学ぶ	保健所・市町村実習終了後、実習グループで抽出した健康課題に対する保健事業計画を立案する。
第14回 第15回 第16回 第17回 グループ演習 担当： 藤原・中世 古・ 倉田	<第14回> 演習：実習地区の情報収集と整理① 実習地区のコミュニティ・コアに関する情報収集（地域の優先課題の明確化に向けて） <第15回> 演習：実習地区の情報収集と整理② 実習地区のコミュニティ・コアに関する情報収集と整理（地域の優先課題の明確化に向けて） <第16回> 演習：実習地区の情報収集と整理③ 実習地区のコミュニティ・コアに関する情報収集と整理（地域の優先課題の明確化に向けて） <第17回> 演習：実習地区の情報収集と整理④ 実習地区のコミュニティ・コアに関する情報収集と	保健所・市町村実習のグループに分かれて演習をおこなう。 各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第17回終了時にコミュニティ・コアの演習シートを実習担当教員へ提出
18回 19回 グループ演習 担当： 藤原・中世 古・ 倉田	<第18回> 演習：実習地の優先課題の明確化① <第19回> 演習：実習地の優先課題の明確化②	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第19回終了時に演習シートを実習担当教員へ提出
第20回 第21回 グループ演習 担当： 藤原・中世 古・ 倉田	<第20回> 演習：実習地区の健康指標と関連要因の分析① 実習地区の優先課題に関する健康指標のリスクファクターを推定する。 <第21回> 演習：実習地区の健康指標と関連要因の分析② 実習地区の優先課題に関する健康指標のリスクファクターを推定する。	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第21回終了時に演習シートを実習担当教員へ提出
第22回 第23回 第24回 グループ演習 担当：	<第22回> 演習：実習地区の健康指標と関連要因の分析① 第21回で特定した実習地区の優先課題に関するリスクファクターに影響するサブシステム（社会環境要因）に関する情報の収集と分析を行う	各実習担当教員の指導の下に、演習シートを活用し演習を進める。 提出物 第24回終了時に演習シートを完成させ実習担当教員へ提出

藤原・中世古・倉田	<第23回> 演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析② 実習地区の優先課題に関するリスクファクターに影響するサブシステム（社会環境要因）に関する情報の収集と分析を行う <第24回> 演習： 実習地区の健康指標と関連要因の分析③ 実習地区の優先課題に関するリスクファクターに影響するサブシステム（社会環境要因）に関する	
第25回 第26回 グループ演習 担当： 藤原・中世古・倉田	<第25回> 演習： 健康課題の明確化と仮説の立案① <第26回> 演習： 健康課題の明確化と仮説の立案②	
第27回 グループ演習 担当： 藤原・中世古・倉田	<第27回> 演習：実習地での情報収集計画（一次データ） ・仮説を検証するために実習地で収集するデータ収集の計画を立案する（地区踏査、インタビュー、観察など）	
第28回 グループ演習 担当： 藤原・中世古・倉田	<第28回> 演習： 地区診断の結果の発表の準備 発表に用いる媒体を作成する（スライド・資料など） <第29回> 演習： 地区診断の結果の発表 各グループごとにクラス内で発表し、フィードバックを得る	・実習地域の地区診断演習シートを完成させ担当教員へ提出する。 ・公衆衛生看護学実習（保健所・市町村）初日の発表に向けて、発表時の意見や教員からの助言を元に発表スライドを修正し、担当教員へ提出し指導を受ける。
	<第30回> 総括試験 中世古・倉田 試験範囲：地区診断、疫学、保健統計に関する問題（国家試験に準ずる内容）を出題	

1.授業コード (ナンバリング)	NCH407-M01	2.科目名	地域ケアシステム論		3.単位数	1
4.授業担当教員	藤原和美、倉田哲也、中世古恵美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野選択の場 合は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習（集中）		
16.履修制限	履修制限あり。 公衆衛生看護学分野選択学生のみ受講できる。					
17.授業の目的と概要	【目的】 保健・医療・福祉行政で保健師に期待される地域包括ケアシステムの構築及び施策化に関する基本的知識・技術・態度を獲得することを目的とする。 【概要】 保健、医療、福祉のそれぞれの役割・機能を踏まえた効果的な他職種間協働・連携、また関係機関の調整に関する技術、及び地域ケアシステムにおける重要な要素であるソーシャルキャピタルの醸成に必要な住民の組織化に関する知識と技術を学ぶ。実習では修得が難しいため、学内演習とフィールドワークでケースメソッドを活用し、実践力が身につくようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の、（１）自律性、（２）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技術の活用力の学修に関連しています。本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は以下の通りです。 1)? 地域包括ケアシステム構築の特長と意義を説明できる。 2)? ソーシャル・キャピタルと地域力の特徴と意義を説明できる。 3)? ケースメソッドを通して、地域をアセスメントし、地域の健康課題を明らかにする方法を学ぶ。 4) 地域支援の実際から地域ケアシステムの構築について記述できる。					
19.教科書・教材	標準保健師講座 別巻 保健医療福祉行政論（医学書院） 授業の中で必要資料を配付します。					
20.参考文献	保健師業務要覧（日本看護協会出版会）、公衆衛生がみえる（メデイック・メディア）					
21.成績評価	1. ケースメソッドへの取り組み 60%（内訳は下記①～④） ①グループ課題 事例・地域への支援方法についてのグループでのアセスメント 20% ②個人課題 フィールドワーク事前学習 10% ③個人課題 庵の上に参加しての学び 10% ④グループ課題 フィールドワークを踏まえ、地域包括ケアシステムに中で庵の上の果たす役割と保健師の役割についてのグループでのアセスメント、発表 20% 2. 総括試験（事後課題レポート） 40%					
22.コメント	本科目では、ケースメソッドという方法で地域の困難事例（精神保健）への保健師としての支援方法について個人ワーク、小グループ討議、全体討議を通じて深めていきます。また、フィールドワークとして、加西市の地域活動センター庵の上を訪問し、利用者やスタッフと共にプログラムに参加し、地域ケアシステムの中での地域活動支援センターの役割や機能について学びます。 地域には様々な困難事例が存在し、保健師は日々の地区活動の中で様々な困難事例への支援を展開し、関係機関や職種と連携協働しながら地域ケアシステムを構築している職種であるといえます。本講義での学びを公衆衛生看護学実習、統合看護実習において生かされていくと思					

	います。皆さんの積極的な参加を期待しています。生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない	
23.オフィスアワー	藤原：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 倉田：研究室水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 演習	健康教育の実施	
第 2 回 演習	健康教育の評価	
第 3 回 講義	行政サービスとコミュニティ 藤原 ケースメソッドの説明	
第 4 回 演習	個人ワーク ・事例（精神疾患を有する対象者）の退院後の生活上の課題について個人でアセスメントする。 グループワーク ・グループで対象者の生活課題について討論する。	
第 5 回 演習	小グループ討議 ・対象者の生活する但馬地域の精神保健医療福祉の特徴についてまとめる。	
第 6 回 演習	小グループ討議 ・対象者の生活上の課題、地域の保健医療福祉の特性を踏まえて、対象者への支援について討議する。	
第 7 回 演習	全体討議 ・事例への支援方法についてグループで発表し、全体で討議する。	課題①（グループ） 事例への個別支援、地域支援についてのグループでのアセスメント
第 8 回 演習	フィールドワーク事前学習① ①加西市の障害者の現状と障害者を支える保健・医療福祉システムの現状と課題について既存資料から理解する。 ②地域活動支援事業、地域活動支援センターの法的根拠について理解する。 ③加西市における地域活動支援事業の現状と課題について既存資料から理解する。	
第 9 回 演習	フィールドワーク事前学習② ①庵の上の活動記録等既存資料から庵の上の目的、地域生活支援事業の概要と今までの経過について理解する。 ②庵の上での課外授業における行動計画と行動目標を明確化する。	課題②（個人） フィールドワーク事前学習シート ＜提出期限＞ 5月26日（月）17時 Web Class
第 10 回	フィールドワーク	
第 11 回	①利用者、スタッフと共に庵の上での活動プログラム	
題 12 回	に参加し、参加者の特性や活動の実際について学ぶ。	

第13回 学外演習 (フィールド ワーク)	②プログラムへの参加、利用者との交流、コミュニケーションを通して、利用者にとっての庵の上への参加の意義について考察する。 ③庵の上での地域活動支援活動の実際から利用者の社会参加や健康生活を促進するためのプログラムの工夫やスタッフの関わりについて学ぶ。 ④スタッフから庵の上の現状と課題、今後の展望などについての話を聞き、障害者を支える地域ケアシステムの中で庵の上が果たす役割や今後に向けての課題	
第14回 演習	フィールドワーク事後学習 ＜個人ワーク＞ 庵の上での課外授業を踏まえ、庵の上での地域支援活動に参加して感じたことや印象に残ったこと、加西市で生活する障害者にとっての庵の上の意義、障害者を支える地域ケアシステムの中で庵の上の役割について考察し、記述する(400字。後日、庵の上へ送付) ＜グループワーク＞ 個人のまとめをグループで共有し、以下について討議する。 ①加西市で生活する障害者にとっての庵の上の意義 ②障害者を支える地域ケアシステムの中で庵の上の役割 ③行政保健師として地域ケアシステムの中の1	課題③(個人) 庵の上への参加を通しての学び(400字) ＜提出期限＞ 5月29日(木)17時 Web Class 課題④(グループ) グループワークと発表内容①②③についてのまとめ ＜提出期限＞ 5月29日(木)17時 Web Class
第15回	まとめ(個人ワーク) 総括試験レポートをまとめる。 テーマ「健康に課題を抱える人が地域で生活できるための地域ケアシステムの中で保健師の役割について」 ・表紙にテーマ、学籍番号、氏名を記載する。 ・テーマには、副題(個々が深めたい内容)をつける。 ・2000字程度	総括試験レポート(2000字)＜提出期限＞ 6月6日(金)9:00 Web Class

1.授業コード (ナンバリング)	NCH408-M01	2.科目名	公衆衛生看護管理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、倉田哲也、中世古恵美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野選択の場 合は必修)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	保健師、看護師		11.先修条件	保健師課程専攻に必要な科目全て		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	履修制限あり。 公衆衛生看護学分野選択学生のみが履修できる。					
17.授業の目的と概要	【目的】 健康危機管理時に行政保健師に求められる基本的知識・技術及び学校教育・産業の場における健康管理に関する基本的知識・技術を修得することを目的とする。 【概要】 健康危機管理については災害・感染症に対する具体的な実践例を通し保健師に必要な役割・能力を考える。また、学校保健・産業保健の保健活動の特徴を理解し、地域包括ケアシステムにおける両者の位置付けと連携の必要性を考える。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の、（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は以下の通りです。 1)? 産業保健の制度と仕組みの要点を説明できる 2)? 産業活動における健康課題の特徴と支援方法の要点を説明できる。 3)? 学校保健の制度としくみの要点を説明できる。 4)? 学校保健における健康課題の特徴と支援方法の要点を説明できる。 5)? 健康危機管理システムの特徴を説明できる。 6)? 災害時-感染症発症時の保健師の活動の要点を説明できる。 7) 健康危機管理における主たる倫理的課題を説明できる。 8) 公衆衛生看護管理の目的と特徴について説明できる。 9) 公衆衛生看護管理の構造と機能について説明できる。					
19.教科書・教材	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論（医学書院） 標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）					
20.参考文献	国民衛生の動向（厚生労働統計協会、公衆衛生がみえる（メデイック・メディア）					
21.成績評価	1) 評価内容と配分 講義中あるいは事後の課題:学修目標 1) ～ 9) 40 % 中間テスト 学習目標 1) ～ 4) 20% 総括試験: :学修目標 1) ～ 9) 40%					
22.コメント	本科目は保健師課程の要となる健康危機管理時に行政保健師に求められる基本的知識・技術及び学校教育・産業の場における健康管理に関する基本的知識・技術を身につけることを目標にしています。健康危機管理については災害・感染症に対する具体的な実践例を通して、危機管理に対応できる能力を育成します。また、学校、産業というコミュニティーにおける保健活動の特徴を理解し、地域、職域、学校における連携を考察しながら、これから求められる地域包括ケアシステムの構築を考えられることを目標とします。					

	一人ひとりが、この技術を獲得できるように一緒に頑張っていきましょう。 生成 AI の活用についてはいかなる場合も認めない	
23.オフィスアワー	藤原： 研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 倉田：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	<第 1 回> 学校保健①養護教諭の職務内容 藤原	
第 2 回	<第 2 回> 学校保健②主な健康課題と養護教諭の活動 1 藤原	
第 3 回	<第 3 回> 学校保健③おもな健康課題と養護教諭の活動 2 藤原	アサインメント 学校「保健だより」の作成と評価
第 4 回	<第 4 回> 産業保健①産業活動に伴う健康問題 藤原	
第 5 回	<第 5 回> 産業保健②労働安全衛生管理と保健師活動 藤原	
第 6 回	<第 6 回> 保健行動論と保健指導で活用できる理論と保健指導① 中世古	
第 7 回	<第 7 回> 保健行動論と保健指導で活用できる理論と保健指導② 中世古	
第 8 回	第 1～7 回の授業の範囲での中間試験(web) <第 8 回> 健康危機管理①健康危機管理の定義と現状 倉田	
第 9 回	<第 9 回> 健康危機管理②感染症 倉田	
第 10 回	<第 10 回> 健康危機管理③感染症発生時に実際に起こりうる問題と保健師活動 倉田	
第 11 回	<第 11 回> 健康危機管理④災害保健活動 中世古	
第 12 回	<第 12 回> 健康危機管理⑤健康危機管理に対する保健活動（災害）の実際 特別講師	特別講師による講義終了後、事後レポート提出（Web Class）。成績評価③課題レポートに該当。
第 13 回	<第 13 回> 公衆衛生看護管理①公衆衛生看護管理の基本 藤原	
第 14 回	<第 14 回> 公衆衛生看護管理②公衆衛生看護管理の実際 特別講師	特別講師による講義終了後、事後レポート提出（Web Class）成績評価③課題レポートに該当。
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	NFN101-M01	2.科目名	基礎看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	看護学のメタパラダイムである、人、健康、環境、看護に関する理解を深め、看護観の基盤を構築することをねらいとする。看護の概念、看護の歴史、主要な看護モデル・理論、生命の尊厳と人権の尊重、看護専門職者に求められる役割・機能、倫理的感受性と看護倫理について学習する。また、看護学教育の歴史的・制度的背景をふまえ、看護の質を高め、看護専門職者としてのキャリア発達を促す看護教育の在り方についても学ぶ。					
18.学習目標と D P との関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 1. 看護の概念と歴史を学び、その概要を説明できる。 2. 主要な看護モデル・理論を学び、その考え方の基本事項を説明できる。 3. 看護専門職者に求められる生命の尊厳と人権の尊重について学び理解する。 4. 看護専門職者に求められる役割・機能を理解し説明できる。 5. 看護専門職者に求められる倫理的感受性と看護倫理について学び理解する。 6. 看護の質を高め、看護専門職者としてのキャリア発達を促す看護教育の在り方と今後の課題について考察する。					
19.教科書・教材	「ナースিং・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論」 河村佐和子・志自岐康子・松尾ミヨ子編、メディカ出版、2013 「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳 日本看護協会出版会 「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール 現代社					
20.参考文献	「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール 現代社 「臨床看護の本質」アーネスティン・ウィーデンバック、現代社 「オレム看護論」、ドロセア E. オレム 医学書院 「ペプロウ 人間関係の看護論」ヒルデガード E.ペプロウ、医学書院 「トラベルビー 人間対人間の看護」ジョイス・トラベルビー、医学書院 「キング看護論」 キング、医学書院 「ザ・ロイ適応看護モデル」、シスター・カリスタ・ロイ、医学書					
21.成績評価	グループワーク 10%、レポート課題 10%、講義整理ノート：40% 筆記試験：40%					
22.コメント	全時間、積極的に授業に参画し、予習復習を確実に行うこと。「自分の看護観」の確立に向けて興味関心をもって取り組むこと。 生成 AI に関して、いかなる利用も認めない					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
4月8日	導入・ガイダンス	「私の持っている看護のイメージ」A4レポート用紙(40×30)2枚以上(90分) (4月8日授業開始前に提出) (AIに頼らず、自分で考えて自分の言葉で書いてください) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
4月8日	看護の概念・健康の定義・看護の誕生と歴史的変遷	「講義整理ノート」(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/04/15	看護の対象と看護専門職者に求められる役割と機能	「講義整理ノート」(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/04/22	保健師助産師看護師法と看護専門職者教育の役割	「講義整理ノート」(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/06/03	援助的関係を構築するためのコミュニケーション	「講義整理ノート」(90分) 次回のグループワークに向けて準備する(270分)
2025/05/13	主要な看護モデル・理論(グループワーク)	次回のグループワークに向けて準備する(270分)
2025/05/20	主要な看護モデル・理論(グループワーク)	次回のグループワークに向けて準備する(270分)
2025/05/27	主要な看護モデル・理論(グループワーク)	次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
7月8日 7月15日	主要な看護モデル・理論(グループ発表・まとめ)	次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/06/10	ライフサイクルと健康	「講義整理ノート」(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/06/17	看護活動展開の場と保健・医療・福祉制度	「講義整理ノート」(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/06/24	看護の継続性と在宅看護	「講義整理ノート」(90分) 次回のグループワークに向けて準備する(270分)
2025/07/01	看護における倫理の必要性・看護実践の基盤となる観察の必要性	「講義整理ノート」(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
2025/07/22	看護ケアのマネジメント	「講義整理ノート」(90分)

		授業後、自宅等でオンデマンド資料を視聴して、授業内容を振り返る。
2025/07/29	まとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	NFN106-M01	2.科目名	看護倫理Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子、櫻井信人					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 基礎看護学	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	"その人"が生きていくことの意味を理解し、生命および人間の尊厳を守り、かつ安全を保障する看護の意義を倫理的な観点から考察する。 人間として、看護職として、患者として"よりよく生きる"ということを考えていく。 看護倫理の基礎を学び、実際の看護場面において倫理の原則を考え行動できるための基礎的能力を身につけ、看護専門職として、倫理の原則、看護ケアと倫理、日本人の文化・価値などを踏まえて看護と権利、パターンリズム、アドボカシー、インフォームド・コンセント、守秘義務、内的規範と外的規範（法律）、ケアリングと倫理の					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.倫理の意味について理解し、説明できる。?授業内課題・総括試験 2.倫理の原則について説明できる。?授業内課題・総括試験 3.看護における倫理の必要性を説明できる。?授業内課題・総括試験 4.ケアリング場面における倫理的行動を具体的に述べるができる。?授業内課題・総括試験 【DPとの関連】 本科目と関連する DP は（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（5）コミュニケーションスキルである。					
19.教科書・教材	宮坂道夫他：系統看護学講座 別巻 看護倫理（第2版）、医学書院、2018					
20.参考文献	日本看護協会監修：看護職の基本的責務 2023 年版、日本看護協会出版会、2023					
21.成績評価	授業内で提示される課題：40% 総括試験（筆記試験）：60%					
22.コメント	教科書の内容に沿いながら各授業で様々なトピックスに触れていきます。哲学や宗教・文化、戦争と平和、コンピューターの世界、臨床の実際の出来事など、人間が生きていく／死んでいく、あるいは幸福／絶望という普遍のテーマに看護職としていかに対峙していくか考えていきましょう。					
23.オフィスアワー	伊藤＝研究室オフィスアワー：水曜日昼休み、センターオフィスアワー：火曜日昼休み（図書館） 櫻井＝研究室オフィスアワー：水曜日2限、センターオフィスアワー：水曜日1限（図書館）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 4月11日(金)	1. 倫理学の基本的な考え方（伊藤） 1) 倫理とはなにか 2) 倫理理論 3) 他者理解と対話のための理論			予習：教科書「序章」「第1章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。		
第2回 4月18日(金)	2. 生命倫理（櫻井） 1) 生命倫理とはなにか 2) 生命倫理の理論 3) 生命倫理と看護職の責務			予習：教科書「第2章」を読んだうえで授業に臨むこと。 課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN203-M01	2.科目名	基礎看護技術Ⅲ（看護過程）		3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	健康上の問題や障害をもつ人々の生活上のニーズや諸問題を明らかにし、その解決に向けた確 な援助を提供するための系統的思考プロセスである看護過程の意義を理解し、具体的な展開方 法の習得を目指す。具体的には、紙上事例をとりあげ、看護実践上の科学的根拠として用いら れる代表的な看護理論を用いて、アセスメントから評価に至る一連の看護過程展開技術を学習 する。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 （多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技 術の活用力に対応しています。 ①看護過程の概要とプロセスを理解し説明できる。 ②情報を整理し、基本的な意味付け／分析、問題の明確化という一連のプロセスを理解し説明 できる。 ③基本的な計画を立案することができる。 ④計画に基づき看護介入することができる。 ⑤看護介入の評価を行うことができる。					
19.教科書・教材	系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 藤崎郁 川村治子著 医学書院 「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます・小玉香津子訳 日本看護協会出版会 [看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践] 秋葉公子他著 ヌヴェルヒロカワ 「看護覚え書き」フローレンス・ナイチンゲール 現代社					
20.参考文献						
21.成績評価	グループワーク、レポート課題、講義整理ノート：各 20% 合計 60% 筆記試験：40%					
22.コメント	看護過程展開においては、看護理論や看護観、身体構造や機能、疾病に関する知識などが必要 です 。既習の学修を復習し、全時間予習して臨むこと。 生成 AI に関していかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
4 月 9 日 I	導入・ガイダンス			「私の人間観」A4 レポート用紙（40×30）2 枚以上（90 分）		

		(4月9日授業開始時に提出) (AIに頼らず、自分で考えて自分の言葉で書いてください) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
4月14日Ⅰ・Ⅱ	看護過程の概念・看護過程のステップ 情報の種類、情報収集の方法、理論的枠組み、情報の解釈・分析	講義整理ノート(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
4月21日Ⅰ・Ⅱ	情報の種類、情報収集の方法、理論的枠組み、情報の解釈・分析 問題・ニーズの明確化	講義整理ノート(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
4月28日Ⅰ・Ⅱ	問題・ニーズの明確化 計画立案	講義整理ノート(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分) 「看護の基本となるもの」を熟読する(180分)
5月12日Ⅰ・Ⅱ	実施・評価 事例による看護過程展開	講義整理ノート(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
5月19日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	講義整理ノート(90分) 次回の予習としてテキスト該当部分を読み、自分なりに理解を深める(90分)
5月26日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	講義整理ノート(90分) 事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
6月2日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	講義整理ノート(90分) 事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
6月9日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
6月16日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
6月23日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
6月30日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
7月7日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
7月14日Ⅰ・Ⅱ	事例による看護過程展開	事例展開に必要な事項の理解を深める(180分)
7月21日Ⅰ・Ⅱ 7月28日Ⅱ	事例による看護過程展開 まとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	NFN303-Y01	2.科目名	セイフティマネジメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	危機管理論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】危機管理論においては純粋リスク、特に、経営上のリスクに焦点を当て、観光業における個別事象のリスク管理から事業経営継続におけるリスクマネジメントまで必要となる基本的な知識とスキルを修得しました。このセイフティマネジメントにおいては、危機管理論で習得したリスクマネジメントの基本的な手法や組織としてのリスクマネジメントについて復習した後、更に深くリスクマネジメントについての理解を深めます。 【概要】具体的には組織が抱える問題がリスク管理与える影響などについて、NASA の事例やアメリカの危機管理局などの対					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(1)自律性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用】に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①リスクマネジメントの手法を理解し、その手法を適切に活用することができる。 ②組織的なリスク管理の代表的なケーススタディを通じて組織におけるセイフティマネジメントの本質を把握し、対策案を検討することができる。 ③観光産業を例に②で学んだ組織的なリスク管理の本質から課題の抽出と対策案を検討、提案することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	①授業理解度・・・40 点 （講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む）※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・20 点 （ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・40 点 ※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	この講義では、セイフティマネジメントを理解するために動画などを含めケーススタディなどを活用していきます。エアラインの安全管理部門において、組織と安全について取り組んだ経験を活かし、履修する学生には、単なるリスクマネジメントだけではなく、会社の組織風土にまで踏み込んで安全の確保に向けた理解をしてもらいたいと考えています。 生成 AI 利用：条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義：オリエンテーション 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		
【第 2 回】	危機管理論の復習①			復習：今回の復習及び授業ノートの整理		

	リスクマネジメントの基本的な手法について復習します。	予習：次回の予習
【第3回】	危機管理論の復習② 組織で取り組むリスクマネジメントについて体制やマニュアル管理などについて復習します。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	危機管理論の復習③ 組織が抱えるハザードについて個別の事案などを踏まえて復習します。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第5回】	ケーススタディ① NASAにおけるスペースシャトルコロンビア号事故を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの理解
【第6回】	ケーススタディ① 前回に続きNASAにおけるスペースシャトルコロンビア号事故を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第7回】	ケーススタディ① 前回に続きNASAにおけるスペースシャトルコロンビア号事故を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	組織事故に関する講義 事故が発生しやすい組織と事故発生に強い組織の相違について講義を通じて考察します。 危機管理論の復習を含めた確認テスト①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	ケーススタディ② FEMA（連邦緊急事態管理庁）におけるハリケーンカトリーナの災害対応を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの理解
【第10回】	ケーススタディ② 前回に続きFEMA（連邦緊急事態管理庁）におけるハリケーンカトリーナの災害対応を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第11回】	ケーススタディ② 前回に続きFEMA（連邦緊急事態管理庁）におけるハリケーンカトリーナの災害対応を題材に組織としての安全に対する課題について考察していきます。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	ケーススタディ③ 近年発生した事例についてセイフティマネジメントの視点から、問題点と解決に向けた方策について考える。 事例案：軽井沢スキーバス事故などを予定	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	ケーススタディ③ 近年発生した事例についてセイフティマネジメントの視点から、問題点と解決に向けた方策について考え	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

	る。 事例案：軽井沢スキーバス事故などを予定	
【第 1 4 回】	ケーススタディ③ 近年発生した事例についてセイフティマネジメントの視点から、問題点と解決に向けた方策について考える。 事例案：軽井沢スキーバス事故などを予定	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 1 5 回】	全体の振り返りと確認テスト②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：確認テストに備えここまでの振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	NHF201-M01	2.科目名	小児健康看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾ひとみ					
5.授業科目の区分	専門科目 小児看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	子どもを理解する上で基礎となる諸理論や、国内外の子どもの実態を以下の点から概観する。 ①人のライフサイクルの観点における子どもという時期の意味、②子ども観の背景となる歴史的変化・文化的な違い、③子どもを看護する上で必要な倫理観、④大人と異なる子どもの生活者としての身体機能の変化（成長）、⑤子どもの思考や心理・社会性の変化（発達）					
18.学習目標と DPとの関連	DP1:子どもの目線に沿って、子どもに起こっている状況を考えることができる。 DP2:SDGs の観点から国内外の子どもの課題を理解し、小児医療における看護の役割を説明できる。 DP3:文化・歴史・制度等多角的な視点から子どもを理解し、小児看護の目的を説明できる。 DP4:子どもの解剖・生理の特徴を踏まえ、生活能力の獲得過程とその障害について説明できる。 DP5:子どもと協働し、子どものセルフケア能力を促進することを考えることができる。 DP6:看護倫理のツールを活用し、子どもと家を尊重することができる。					
19.教科書・教材	子どもの生活機能の発達とからだの仕組みー看護形態機能学の視点からー,金芳堂,ISBN978-4-7653-1992-8C3047 ナーシング・グラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護、中野綾美 編、株式会社メディカ出版 ISBN 978-4-8404-7842-7					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	1.課題 30% 2.総括試験 70% 事前学習課題の提出は、評価方法 1.の必須要件とする。 学習課題提出は 6 月 24 日					
22.コメント	生成 AI のいかなる利用も認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 (4/8) 担当: 松尾	○子どもとは? 歴史・文化・制度の背景が子どものとらえ方に与える影響を理解する。					
2 (4/15) 担当: 松尾	○世界の子ども達 SDGs の観点から国外の子どもの実態と課題を考える。					
3 (4/22) 担当: 松尾	こどもをとりまく環境の変化と実態					
4 (5/13) 担当: 松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（動く） 子どもの神経の発達と運動機能の発達の関係性を理解					

	する。	
5 (5/20) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（食べる） 大人と異なる子どもの「食べる」機能の獲得過程を理解する	
6 (5/27) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（トイレに行く・眠る） 大人と異なる子どもの「トイレに行く」「眠る」機能の獲得過程を理解する	
7 (6/3) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（お風呂に入る） 大人と異なる子どもの「お風呂に入る」機能の獲得過程を理解する	
8 (6/10) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（話す・聞く・視る） 大人と異なる子どもの「話す・聞く・視る」機能の獲得過程を理解する	
9 (6/17) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（子どもを産む） 大人と異なる子どもの「子どもを産む」機能の獲得過程を理解する	
10 (6/24) 担当：松尾	○子どもの社会性の発達 子どもの社会性の発達過程を理解する	
11 (7/1) 担当：松尾	○子どもの認知機能の発達 子どもの認知機能の発達過程を理解する	
12 (7/8) 担当：松尾	○家族の発達過程と小児看護 家族の発達過程と小児看護学に必要な家族看護学の概念を理解する	
13 (7/15) 担当：松尾	○生活者としての子どもの成長・発達（息をする・ポンプ機能） 大人と異なる子どもの「息をする・ポンプ機能」の獲得過程を理解する	
14 (7/22) 担当：松尾	○小児看護における看護倫理 小児看護特融の倫理と関わる概念を学ぶ	
15 (7/29) 担当教員	総括試験：試験範囲は 1-14 回	

1.授業コード (ナンバリング)	NHF203-M01	2.科目名	母性健康看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、堤綾子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験科目		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（うち 7 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【授業目的】 本科目の目的は、女性やその家族の特性を理解し、多様な性と生殖にかかわる健康課題を支援する専門職として、それらの課題を解決することができるための基礎的知識を身に着けることである。 【概要】 女性の生涯にわたる健康の特徴と健康課題を理解するために、その基盤となるウィメンズヘルス、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念について学ぶ。これらについては、オンデマンド授業で行う。さらにそれらに関する課題を解決するための力を身に着け、それを発信することができるために対面授業では、探究的学習					
18.学習目標と DP との関連	オンデマンド授業により 1）生涯における女性の心身の特徴について理解し説明できる。 2）ライフサイクル各期の健康課題について理解できる。 3）女性およびその家族がおかれている環境を理解し、それを示す母子保健統計の意味を説明できる。 4）セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツについて理解できる。 5）女性とその家族がその子どもの成長発達に必要な、家族中心ケア、コペアレンティング、愛着理論等について理解できる。 対面授業（グループワーク、プレゼンテーション） 6）女性、その家族がおかれている環境から課題を見つけ、その課題解決をグループワークを通し行い、プレゼンテーションを行い、論理的思考および話す力、聞き手の反応を見抜く力を備える。 関連する看護学科 DP（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・の活用力					
19.教科書・教材	助産師基礎教育テキスト 2025 版第 2 巻ウィメンズヘルスケア 尚、2 年次秋学期ウーマンズヘルスでも同じテキストを使用します。					
20.参考文献	必要時授業（オンデマンド授業中）に紹介予定。					
21.成績評価	オンデマンド授業 毎回小テスト x 7 回・・・全小テスト 100 点を取るまで実施 中間テスト（学習目標 1.2.3.4.5 に対応）30% グループワーク課題学習レポート（個人）（学習目標 6 対応）10% グループプレゼンテーション（学習目標 6 対応）10% 最終総括テスト（学習目標 1-6）50%					
22.コメント	本年より、オンデマンド授業が始まります。対面とは違い自主的に勉強することになりますが、ある一定期間で勉強してください。皆さんの一つ一つの単元で知識がしっかり身について					

		いるか確認の小テストを行います。100 点を取るまで、次には進まないでください。オンデマンド授業での質問は、WEBCLASS を使用して、吉沢に連絡をください。 対面の開講時期までに、すべてのオンデマンド視聴が終了し、小テストが満点となって終わっていることが必要です。対面の授業日に中間テストを行います。 皆さんが成人学習者であることを前提に行うものです。皆さんの学習者として力に期待しています。 最終的に、掲げられた学習目標に皆さんが到達できていることを望みます。
23.オフィスアワー		吉沢：水 2 時限 10：45～12：15（吉沢研究室）
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目対面 4 月 10 日	オンデマンド授業の進め方、オリエンテーション	PC を必ず持参すること
オンデマンド授業のため 4 月 17 日から 5 月 1 日の間に視聴してください。	オンデマンド授業 1 回目 母性看護学とウィメンズヘルス看護学 家族中心ケア、コペアレンティング、愛着理論について 家族を作ることの意味について	小テストを行ってください。100 点を取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 4 月 17 日から 5 月 1 日までの間に視聴してください。	オンデマンド授業 2 回目 30 分 X 2 で構成 2-1：日本の少子化（なぜ子供は生まれないのか 日本の子育事情 2-2：リプロダクティブヘルスに関する動向、リプロダクティブヘルスに関する法律 施策、支援	2-1、2-2 それぞれの小テストを行ってください。 100 点を取るまで次に進まないでください。
5 月 8 日 対面授業	対面 第 1 回と第 2 回のまとめ ・ウィメンズヘルス 女性の生涯の健康とは？ ・少子化とは、 ・母子保健統計のまとめ ・ジェンダー指数について	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 5 月 15 日～5 月 29 日までの間に視聴すること	オンデマンド授業 3 回目 1. 思春期の健康問題 思春期の定義、月経周期と月経に関連する健康 性感染症、人工妊娠中絶	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 5 月 15 日から 5 月 29 日の間に視聴してください。	オンデマンド授業 4 回目 1. 性成熟期の健康問題 男女の不妊症について リプロダクティブライフプランとプレコンセプションケア 性暴力	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド授業のため 5 月 17 日から 5 月 29 日までの間に視聴して	オンデマンド授業 5 回目 1. 更年期・老年期の健康問題 閉経のメカニズム 女性ホルモンと健康問題	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。

ください。		
対面 6 月 5 日	月経について 初経教育はどうあるべきか 男性不妊についてさらに考える 性感染症と予防	小テストを行ってください。 100 点取るまで次に進まないでください。
オンデマンド 授業 6 回目 6 月 12 日～6 月 19 日までに視 聴	第 6 回 オンデマンド授業 1.セクシュアリティ、セクシュアルヘルス 多様な性を考える	出席確認は行います。 PC は常に持参してください。
オンデマンド 授業 7 回目 6 月 12 日～6 月 19 日までに 視聴する	第 7 回 オンデマンド 1. 生殖器疾患を持った女性の健康と看護 子宮内膜症 子宮筋腫 子宮頸がん 子宮体がん	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 6 月 26 日	1. 女性の生涯にわたる健康課題とヘルスプロモーション行動を支援につてのグループワークとプレゼンテーション進め方のオリエンテーションおよび、グループ活動	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 3 日	1. 女性の生涯にわたる健康課題とヘルスプロモーション行動を支援につてのグループワークとプレゼンテーションの準備 プレゼンテーションを PPT 声付きを WEBCLASS に UP する	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 10 日	プレゼングループ発表と質疑応答 レポート作成 5 G	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 17 日	プレゼングループ発表と質疑応答 レポート作成 5 G	出席確認は行います。 PC は常に持参してください
対面授業 7 月 24 日	授業のまとめと総括試験	試験

1.授業コード (ナンバリング)	NHF403-M01	2.科目名	妊娠期の助産診断技術学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本梨花、堤綾子、細川由美子、松尾博哉、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	助産選択生必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目		11.先修条件	助産師選択分野選抜者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	助産学分野に選抜された者					
17.授業の目的と概要	【目的】 妊娠期にある女性と胎児の生理的变化とその逸脱状態を診断するために必要な知識及び助産診断技法を理解し、妊娠各期に必要な助産ケア技術および妊娠期に必要な健康教育手法を習得する。 【概要】 妊娠期にある女性と胎児の生理的变化とその逸脱状態を診断するために必要な知識・助産診断技法を学ぶ。演習を通して妊娠期の健康教育を実施する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、看護学科 DP(4)-(6)に該当する科目です (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力 【学習目標】 妊婦・胎児の正常経過について説明できる。 妊娠・胎児の各期のアセスメントの視点と必要な助産援助が説明できる。 妊婦・胎児の援助に必要な助産技術を習得することができる。 妊婦・胎児の事例を通して、助産過程を展開することができる。 妊婦に必要な健康教育を実施できる					
19.教科書・教材	1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第 4 版 南江堂 3. 図説 CTG テキストー助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)?レベルⅢ 認証 CTG 必須研修対応テキスト, 中井章人 , メジカルビュー社、2016. 4. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023					
20.参考文献	1. プリンシプル産婦人科学 2、坂元正一他、メディカルビュー社 2. 病気が見える 産科 医療情報科学研究所 メディックメディア 3. 助産業務ガイドライン 日本助産師会 最新版 4. 実践 マタニティ診断 第 5 版、日本助産診断実践学会編、医学書院. 5. マタニティサイクルの実践保健指導 妊娠期、鈴木由美、丸善プラネット、2013.					
21.成績評価	試験は、筆記試験と演習の演習レポート（健康教育企画書）、技術テスト（妊娠期健康教育）から構成される 総括試験 筆記試験 50％ 演習レポート（健康教育企画書）25％ 技術テスト（健康教育実施）25％					
22.コメント	健康教育は春学期に学生間で実施、秋学期の「あじあん祭」で実際の妊婦とその家族に行います					

		生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める 健康教育を考えるにあたり、アイデアや妊婦さんに伝えやすい言葉を考える際に生成 AI の利用を認める
23.オフィスアワー		有本研究室：毎週木曜日 昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
4 月 9 日 2 限 3 限 1 回 2 回	助産診断の考え方と立案 妊娠とそれに伴う母体の変化 担当（有本）	テキスト 1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第 4 版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4 月 10 日 3 限 4 限 3 回 4 回	胎児の発育と胎児付属物 担当（有本）	テキスト 1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第 4 版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4 月 14 日 3 限 目 5 回 4 月 15 日 4 限 6 回	5 回 NST モニタリング 担当(堤) 6 回 超音波画像診断 担当（有本）	テキスト 1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第 4 版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4 月 16 日 4 限 5 限 7 回 8 回	妊娠期技術演習 腹帯・レオポルド・NST 装着 担当（有本・細川・堤）	テキスト 1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第 4 版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4 月 18 日 3 限 4 限 9 回 10 回	妊娠期の助産診断（初期・中期・後期） 担当（有本）	テキスト 1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第 4 版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4 月 23 日 11 回	ペリネイタルロス	テキスト 1. 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第 6 版 妊娠期 医学書院

		2. 今日の助産 改訂第4版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4月24日 3限4限 12回 13回	妊娠期の健康教育指導案作成(個別指導) 担当(有本)	テキスト 1. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第4版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
4月28日3限 ~5限 14回 15回 16回	妊娠期の助産技術演習 妊婦健康診査と健康教育 担当(有本・細川・堤)	テキスト 1. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第4版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
5月1日1限2 限 17回 18回	ハイリスク妊婦への支援 担当(有本)	テキスト 1. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ 第6版 妊娠期 医学書院 2. 今日の助産 改訂第4版 南江堂 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編 , 日本産科婦人科学会 2023
5月7日1限2 限 19回 20回	総括試験 両親教室の企画 担当(有本)	
5月8日1限2 限 21回 22回	両親教室の企画 担当(有本)	
5月9日2限3 限 23回 24回	両親教室の企画 担当(有本)	
25回 26回	妊娠期の異常 担当(松尾:産婦人科医)	
5月23日2限 3限 27回 28回	両親教室の企画と運営 あじあん祭に向けてのデモンストレーション 担当(有本・細川・堤・吉沢)	
6月13日1限 2限 29回 30回	両親教室広報企画 両親教室の開催(あじあん祭)→10月26日(日) 担当(有本・細川・堤・吉沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	NHF404-M01	2.科目名	分娩期の助産診断学		3.単位数	2
4.授業担当教員	細川由美子、有本梨花、堤綾子、松尾博哉、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	助産選択生必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目		11.先修条件	助産師選択分野選抜者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	助産師選択分野選抜者					
17.授業の目的と概要	分娩期にある女性と胎児の生理的变化とその逸脱状態を診断するために、分娩期の助産過程の展開に必要な知識、助産診断技法を学ぶ。特に産婦の主体性を尊重した安全で快適な分娩をめざした助産ケアを学ぶ。具体的には、正常分娩の経過とそれに伴う助産診断、助産ケア、正常分娩介助技術を中心に、誘発分娩および異常分娩時の管理とケアを学ぶ。事例演習を通して分娩期の助産診断を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1.陣痛発来と分娩機転、分娩による生理的变化を説明できる。 2.分娩の 3 要素や関連情報から分娩経過、分娩時期を総合的に判断する方法を説明できる。 3.分娩監視装置による胎児管理法が説明でき、モニタリング結果の判読、胎児の健康状態のアセスメントと対処法を説明できる。 4.産婦のリスクアセスメントの方法が説明でき、分娩各期に起こる異常の早期発見、対処法を説明できる。 5.分娩期に必要な助産診断、産婦とその家族中心の助産ケアについて説明できる。 6.誘発分娩および異常分娩時の管理と助産ケアについて説明できる。					
19.教科書・教材	1.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 2.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 3.マタニティ診断 ガイドブック 第 5 版 4.日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生テキスト第 4 版 5.今日の助産 第 4 版 6.図説 CTG テキストー助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)?レベルⅢ 認証 CTG 必須研修対応テキスト (2016) 7.New 乳房ケア・母乳育児支援のすべて (ペリネイタルケア 2024 年夏季増刊) 8.助産業務ガイドライン (20					
20.参考文献	1. プリンシプル産婦人科学 2、坂元正一他、メディカルビュー社 2. 病気が見える 産科 医療情報科学研究所 メディックメディア 3. 助産師基礎教育テキスト 第 5 巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版 別途指示あり					
21.成績評価	筆記試験：70％ 演習（提出物）：30％					
22.コメント	授業前に該当箇所を教科書で読むこと。講義後には、教科書、参考文献で学習した知識をさらに広く調べて確認すること。授業時間は限りがあり、自己学習での習得が非常に重要です。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	1.分娩の生理			事前に教科書の該当箇所を読んでくこと 事後の復習を行うこと		
2 回	2.分娩の 3 要素「娩出力」					

3 回	3.分娩の 3 要素「骨産道と軟産道」	事前に教科書の該当箇所を読んてくること
4 回	4.分娩の 3 要素「胎児と胎児付属物」	事後の復習を行うこと
5 回	5. 分娩の影響	事前に教科書の該当箇所を読んてくること
6 回	6.分娩期の助産診断 分娩予測と分娩経過	事後の復習を行うこと
7 回	7.分娩第 1 期の助産診断と助産ケア ①	事前に教科書の該当箇所を読んてくること 事後の復習を行うこと
8 回	8.分娩第 1 期の助産診断と助産ケア ②	
9 回	9.胎児の健康状態のアセスメント	事前に教科書の該当箇所を読んてくること 事後の復習を行うこと
10 回	10.分娩第 2 期の助産診断と助産ケア ①	
11 回	11.分娩第 2 期の助産診断と助産ケア ②	事前に教科書の該当箇所を読んてくること 事後の復習を行うこと
12 回	12.出生直後における児の処置と観察	
13 回	13.分娩第 3 期・第 4 期の助産診断と助産ケア	事前に教科書の該当箇所を読んてくること 事後の復習を行うこと
14 回	14.分娩期の異常・偶発疾患	
15 回	15.誘発分娩・異常分娩時の管理とケア	事前に教科書の該当箇所を読んてくること 事後の復習を行うこと
16 回	16.中間筆記試験	
17 回	17.ハイリスク・異常分娩時の管理 ① (担当:松尾博哉医師)	事前に教科書の該当箇所を読んてくること 事後の復習を行うこと
18 回	18.ハイリスク・異常分娩時の管理 ② (担当:松尾博哉医師)	
19 回	19.(演習)入院～分娩第 1 期初期診断と助産ケア	講義資料並びに教科書、参考文献など広く情報収集すること
20 回	20.(演習)分娩第 1 期の産婦への助産診断とケア	
21 回	21.(演習)分娩第 1 期～分娩室入室 産婦への助産診断とケア	講義資料並びに教科書、参考文献など広く情報収集すること
22 回	22.(演習)分娩第 2 期分娩体位～児娩出 産婦への助産診断とケア	
23 回	23.(自己学習)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援①	講義資料並びに教科書、参考文献など広く情報収集すること
24 回	24.(自己学習)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援②	
25 回	25.(自己学習)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援③	講義資料並びに教科書、参考文献など広く情報収集すること
26 回	26.(自己学習)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援④	
27 回	27.(発表)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援	学生間のディスカッションでの意見、教員のコメントから、より適切なケアを検討しましょう。
28 回	28.(発表)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援	
29 回	29.(自己学習)ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援(修正)	学生間のディスカッションでの意見、教員のコメントから、より適切なケアを検討しましょう。
30 回	30.最終筆記試験	

1.授業コード (ナンバリング)	NHF405-M01	2.科目名	分娩期の助産技術学		3.単位数	2
4.授業担当教員	細川由美子、有本梨花、堤綾子、吉沢豊子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	助産選択生必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目		11.先修条件	助産師選択分野選抜者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	助産師選択分野選抜者					
17.授業の目的と概要	分娩期にある女性と胎児の生理的变化とその逸脱状態を診断するために必要な助産技術、助産ケアを習得する。産婦へのフィジカルイグザミネーションと正常分娩における基本的な介助技術、異常の早期発見・対処、新生児蘇生法、新生児への助産ケアを習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 分娩各期における産婦へのフィジカルイグザミネーションができる。 2. 分娩監視装置を用いて胎児モニタリングを行い、胎児健康状態のアセスメント、適切な対処ができる。 3. 正常分娩における分娩介助を実施できる 4. 出生直後の新生児へのケアが実施できる。 5. 産婦のリスクアセスメントを行い、分娩各期に起こる異常の早期発見・対処法、予防的介入ができる。					
19.教科書・教材	1.助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 2.助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 3.マタニティ診断 ガイドブック 第5版 4.日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生テキスト第4版 5.今日の助産 第4版 6.図説 CTG テキストー助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)?レベルⅢ 認証 CTG 必須研修対応テキスト (2016) 7.New 乳房ケア・母乳育児支援のすべて (ペリネイタルケア 2024 年夏季増刊) 8.助産業務ガイドライン (20					
20.参考文献	1. プリンシプル産婦人科学 2、坂元正一他、メディカルビュー社 2. 病気が見える 産科 医療情報科学研究所 メディックメディア 3. 新訂第2版 写真でわかる助産技術 アドバンス [動画付] インターメディカ					
21.成績評価	技術試験 2 回：90% 演習への参加度・態度：10%					
22.コメント	技術演習は連続授業です。健康管理に留意してください。 分娩介助技術は、自己学習時間を利用して繰り返し練習をしてください。 演習までに事前に関連した講義内容の復習をしておきましょう。 知識・根拠を用いて、分娩介助技術、助産ケアを行動レベルで実施し、技術の習得・向上を目指します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	1.正常経過の分娩第 1 期～第 4 期までの助産ケア			講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと		
2 回	2.分娩介助法①					
3 回	3.分娩介助法②			講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技		

4 回	4.分娩介助法③	術に関する資料を復習しておくこと
5 回	5.入院～分娩第 1 期 (RP)	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
6 回	6.分娩第 1 期 (RP)	
7 回	7.分娩第 1 期 (RP)	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
8 回	8.分娩第 2 期 (RP)	
9 回	9.分娩第 2 期 (RP)	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
10 回	10.分娩第 3 期 (RP)	
11 回	11.分娩第 4 期 (RP)	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
12 回	12.分娩第 4 期 (RP)	
13 回	13.分娩介助法 中間試験	
14 回	14.分娩介助法 中間試験 振り返り	
15 回	15.経産婦の分娩期初期診断・助産計画立案 ①	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
16 回	16.経産婦の分娩期助産診断と助産ケア (RP) ②	
17 回	17.経産婦の分娩期助産診断と助産ケア (RP) ③	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
18 回	18.分娩期シミュレーション 1.	
19 回	19.分娩期シミュレーション 2.	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
20 回	20.分娩期シミュレーション 3.	
21 回	21.分娩期シミュレーション 4.	講義、教科書、講義時に提示した分娩介助技術に関する資料を復習しておくこと
22 回	22.Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) ①	
23 回	23.Advanced Life Support in Obstetrics (ALSO) ②	日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキストー第 4 版
24 回	24.新生児蘇生法 (NCPR) ①	
25 回	25.新生児蘇生法 (NCPR) ②	日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキストー第 4 版
26 回	26.新生児蘇生法 (NCPR) ③	
27 回	27.新生児蘇生法 (NCPR) ④	日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキストー第 4 版
28 回	28.新生児蘇生法 (NCPR) ⑤	
29 回	29.30.分娩介助 最終試験	
30 回		

1.授業コード (ナンバリング)		NSC108-M81	2.科目名		グローバルヘルス		3.単位数	2
4.授業担当教員		伊藤尚子						
5.授業科目の区分		基盤教育科目 リベラルアーツ 科学と生活	6.必修・ 選択の区分		選択	7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻		全学共通				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件		保健医療学部 看護学科において看護グローバル専攻を選択する場合は、本科目 n の単位を修得すること			11.先修条件			
12.研究室		※※※			13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態		対面授業	
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		世界平和・全人類の繁栄と福祉の実現に向け、世界における健康格差の実態を知り、国際協力の必要性と意義を理解し、SDGs と関連付けて人々の健康や生活を支援する活動を地球的視野で認識する。国際協力の理論と実際を学びながら、国際協力に必要な知識や方法を習得する。						
18.学習目標と DP との関連		【学習目標】 1.グローバルヘルスの概念を説明できる。?授業内課題、総括試験 2.人々の健康や生活にかかわる国際協力の必要性と意義を説明できる。?授業内課題、総括試験 3.世界の健康問題がわかり、それらに対する国際的戦略および課題を説明できる。?授業内課題、総括試験 4.グローバルヘルスにおける活動の実践手法を説明できる。?授業内課題、総括試験 5. 異文化コミュニケーションの意義と手法を説明できる。?授業内課題、総括試験 【DP との関連】 本科目は、以下 5 つの DP に対応する。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル						
19.教科書・教材		講義において資料を配布する。						
20.参考文献		日本国際保健医療学会（2013）：国際保健医療学、医学書院 国際看護学入門（2020）：日本国際看護学会、医学書院（伊藤尚子執筆） 国際看護（2025）：森淑江ほか編、南江堂（伊藤尚子執筆） スフィアハンドブック 2018 日本語版（2018）、スフィアプロジェクト						
21.成績評価		授業内課題＝50％ 定期試験（筆記試験）＝50％ 定期試験日 7 月 23 日か 25 日のいずれかに実施						
22.コメント		世界の 7 割以上の国や地域が、国際協力による支援が必要とされています。世界が平和であるために、すべての人類が安全・安心のうちに生活できるために、日本人の立場として貢献できることを考えていきましょう。そのために必要な国際基準の知識と実践力を高めるための手法を学習します。						
23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー：水曜日 センターオフィスアワー：火曜日（三木キャンパス 図書館）						
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)			

第 1 回 4 月 11 日(金)2 限	1. グローバルヘルスの概念 1) 国際協力の必要性 2) グローバルヘルスの意義 * SDGs①「貧困をなくそう」 ②「飢餓をゼロに」 ③「質の高い教育をみんなに」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 2 回 4 月 18 日(金)2 限	2. グローバルヘルスの展望と課題 1 1) 人道憲章 2) スフィアプロジェクト * SDGs②「飢餓をゼロに」 ③「すべての人に健康と福祉を」 ⑥「安全な水とトイレを世界中に」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 3 回 4 月 25 日(金)2 限	3. グローバルヘルスの展望と課題 2 1) 人道支援の必須基準 2) 人間の安全保障 * SDGs⑩「平和と公正をすべての人に」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 4 回 5 月 2 日(金)2 限	4. グローバルヘルスの歴史と戦略の軌道 1 1) Health for All の概念 2) プライマリーヘルスケアの概念と実際 * SDGs③「すべての人に健康と福祉を」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 5 回 5 月 9 日(金)2 限	5. グローバルヘルスの歴史と戦略の軌道 2 1) MDGs 2) SDGs 3) Universal Health coverage (UHC) * SDGs③「すべての人に健康と福祉を」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 6 回 5 月 16 日(金)2 限	6. ヘルспロモーションの概念と実際 1) ヘルспロモーションの概念 2) ヘルспロモーションの介入と戦略 3) ヘルспロモーションの実際	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 7 回 5 月 23 日(金)2 限	7. 疫学的調査 1) 疫学的調査とは 2) 疫学調査の実際	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 8 回 5 月 30 日(金)2 限	8. グローバルヘルスにおける問題解決手法 1) Project Cycle Management(PCM)と PDCA 2) Project Design Matrix(PDM) 3) 演習	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 9 回 6 月 6 日(金)2 限	9. 異文化理解と異文化コミュニケーション 1) 文化の概念 2) 文化を形成する集団 3) 異文化折衝と異文化理解 4) 演習	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 10 回 6 月 13 日(金)2 限	10. 世界における母子保健とジェンダー 1 1) 世界における母子の健康格差と問題 2) 世界における母子保健の活動の実際 * SDGs⑤「ジェンダー平等を実現しよう」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する
第 11 回 6 月 20 日(金)2	11. 世界における母子保健とジェンダー 2 1) 世界における男女格差	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。

限	2) 世界におけるジェンダーの問題 * SDGs⑤「ジェンダー平等を実現しよう」	
第 12 回 6 月 27 日(金)2 限	12. 感染症への国際的な取り組み 1 1) 世界の 3 大感染症 2) 世界の 3 大感染症への取り組みと課題 3) 顧みられない熱帯病 * SDGs③「すべての人に健康と福祉を」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 13 回 7 月 4 日(金)2 限	13. 演習 「発展途上国の子どもの暮らし」 「健康格差のしくみ」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 14 回 7 月 11 日(金)2 限	14. 防災・減災への国際的な取り組み 1) 世界における災害の状況 2) 防災・減災への国際的な取り組み * SDGs⑬「気候変動に具体的な対策を」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。
第 15 回 7 月 18 日(金)2 限	15. 難民支援 1)世界における難民の実態 2)難民への支援活動 * SDGs⑯「平和と公正をすべての人に」	課題：授業内課題を提出。内容は授業中に提示する。

1.授業コード (ナンバリング)	NUT101-M01	2.科目名	食と健康		3.単位数	2
4.授業担当教員	橋本堂史					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	教務課の指示に従うこと。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、食の成分がヒトの健康や疾病と密接に関わっていることが理解できるようになることを目的とします。 【概要】 具体的には、食品の一次機能、二次機能、三次機能の基本的概念を学びます。さらに、それぞれの機能に関わる食品の成分について学ぶと共に疾病について学ぶことで、疾病予防を促す食生活を自ら考え、実施できるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 食の基本的な機能性の概念を説明できるようになる。 ② 三大栄養素および五大栄養素の重要性を説明できるようになる。 ③ おいしさの重要性が説明できるようになる。 ④ 食の成分が関与する疾病について説明できるようになる。 ⑤ 健康のために必要な食生活を実施できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	・『食と健康』中谷延二他 ・『食品健康学』中谷延二他 ・『食品機能性の科学』産業技術サービスセンター					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・総括試験（第 15 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～⑤に対応] ・中間試験（第 8 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～③に対応] ・プレゼンテーション・・・10% [学習目標④⑤に対応] ・小テスト（第 8 回と第 15 回の講義を除き、毎回実施）・・・50% [学習目標①～⑤に対応] 注意 1）評価方法はあくまでも目安であり、講義の進捗状況などにより若干の変更を行うこともあります。 注意 2）中間試験および総括試験は WebClass で行います。必ず受験時に充電された					
22.コメント	公欠・欠席・遅刻・早退などは大学の規則に従いますので、個別に特別な理由がある場合には教務課に相談ください。 公欠については必ず大学に申請してください。大学からの公欠連絡以外には受け付けません。					
23.オフィスアワー	キャンパス内での質問は講義時間の前後に教室で受け付けます。 また、メールでの質問などは随時受け付けます。ただし、takashi@kobe-u.ac.jp 宛のメールのみ受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（シラバスについて） ・講義「食品の機能性について」・・・食品機能の概念を学ぶ。 ・小テスト「食品の機能性について」			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		
【第 2 回】	・講義「糖質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「糖質			・WebClass で配布する資料をプリントして持		

	(炭水化物)」について学ぶ。 ・小テスト「糖質の科学」	参する、またはパソコンを持参すること。
【第3回】	・講義「脂質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「脂質」について学ぶ。 ・小テスト「脂質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第4回】	・講義「タンパク質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「タンパク質」について学ぶ。 ・小テスト「タンパク質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第5回】	・講義「微量栄養素の科学」・・・微量栄養素である「ビタミン」と「ミネラル」について学ぶ。 ・小テスト「微量栄養素の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第6回】	・講義「食品の味・香・色①」・・・味や味覚を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色①」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第7回】	・講義「食品の味・香・色②」・・・香や色を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色②」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第8回】	・中間試験・・・第1回から第7回までの講義内容についての試験を行う。 ・中間試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。	パソコンを持参すること。
【第9回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「酸化ストレス」・・・生体内酸化ストレスとそれに関連した疾病について学ぶ。 ・小テスト「酸化ストレス」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第10回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「肥満と食生活」・・・肥満に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「肥満と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第11回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「糖尿病と食生活」・・・糖尿病に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「糖尿病と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第12回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「動脈硬化症と食生活」・・・動脈硬化症に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「動脈硬化症と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第13回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「がんと食生活」・・・がんに関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッ

	・小テスト「がんと食生活」	ページに添付することで提出。)
【第 14 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「アレルギーと食生活」・・・アレルギーに関する基礎知識を学ぶと共にそれに関わる食生活について考える。 ・小テスト「アレルギーと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 15 回】	・総括試験・・・第 1 回から第 14 回までの講義内容についての試験を行う。 ・総括試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。 ・まとめ	パソコンを持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	PED103-A01	2.科目名	国語Ⅰ (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種 保育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 基礎的な国語力を高めることをめざす。 [概要] 新聞と読書を中心に「言葉を育てる」ことを学ぶ。 教育現場において行われる「聞く・話す、読む、書く」という言語活動について、文献や事例をもとに学ぶ。 読書タイムや書取テスト、スピーチの実践を通して、国語の知識と技能について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の(5)コミュニケーションスキルと(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 「聞く・話す、読む、書く」の技能を高めることで基礎的国語力形成をめざす。 ・漢字力は読解力につながること ・読書力は語彙力につながること ・スピーチと新聞はコミュニケーションという点で共通すること を実感し総合して「国語力」を改めて身につけます。					
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献	メディアライブラリー内にある大村はまの本 学生選書コーナーの本					
21.成績評価	授業記録（毎回の 100 字コメント、書取テスト含む） 30％ レポート（提出物） 30％（10％×3） 「投書」原稿（第 6 回提出） 「動詞人間学新聞」（第 10 回提出） 「はがき新聞」（第 13 回提出） 総合レポート（第 14 回提出） 40％					
22.コメント	「書くことを核にする」ことが何よりも大切である。書くことに慣れることから始めましょう。そしてカバンの中には、いつも 1 冊本があることを「あたりまえ」にしてください。 生成 AI の利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	月曜 4 限（1 5：0 0～1 6：3 0）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 漢字（四字熟語）100 問に挑戦 読書生活スタート（メディアライブラリーで本を 1 冊借りよう） 漢検準 2 級レベル漢字書取プリント確認			○漢字書取 1 練習（60 分） ○読書（100 分）		
第 2 回	【第 2 回】書くことのアイデア実践 1			○漢字書取 2 練習（60 分）		

	書取 1 実施 ブレイクストーミングを用いた言葉集め	○読書（100 分）
第 3 回	【第 3 回】書くことのアイデア実践 2 書取 2 実施 イメージマップによる文章構成作り ※今回から第 13 回まで、毎回スピーチ発表あり。 スピーチ 1 回目 (順番、テーマについては第 2 回に予告)	○漢字書取 3 練習（60 分） ○読書（100 分）
第 4 回	【第 4 回】書くことのアイデア実践 3 書取 3 実施 リラクスライティング（ダラダラ書き）による書き出し見つけと結び決め スピーチ 2 回目	○読書（60 分） ○原稿下書き（120 分） ○漢字書取 4 練習（60 分）
第 5 回	【第 5 回】書くことのアイデア実践 4 書取 4 実施 音読による下書き推敲から清書原稿提出へ。 スピーチ 3 回目	○読書（60 分） ○原稿清書（120 分） ○漢字書取 5 練習（60 分）
第 6 回	【第 6 回】動詞人間学新聞作り 1 書取 5 実施 特定の動詞が読み取れる新聞記事探し スピーチ 4 回目	○漢字書取 6 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分） ★投書原稿提出
第 7 回	【第 7 回】動詞人間学新聞作り 2 書取 6 実施 選んだ「動詞」に関連する新聞記事集め スピーチ 5 回目	○漢字書取 7 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 8 回	【第 8 回】動詞人間学新聞作り 3 書取 7 実施 「動詞人間学新聞」紙面下書き作成 スピーチ 6 回目	○漢字書取 8 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 9 回	【第 9 回】動詞人間学新聞作り 4 書取 8 実施 「動詞人間学新聞」仕上げ スピーチ 7 回目	○読書（100 分） ○動詞人間学新聞作成（140 分）
第 10 回	【第 10 回】レファレンスサービスに挑戦 メディアライブラリー（図書館）を使い倒しましょう。	○漢字書取 9 練習（60 分） ○読書（120 分） ★動詞人間学新聞提出
第 11 回	【第 11 回】読書シークレットブック 1 書取 9 実施 お気に入りの本 1 冊の選定とはがき新聞作り スピーチ 8 回目	○漢字書取 10 練習（60 分） ○シークレットブック準備（100 分） ○読書（80 分）
第 12 回	【第 12 回】読書シークレットブック 2 書取 10 実施 グループ内でのシークレットブック紹介 スピーチ 9 回目	○はがき新聞仕上げ（240 分）
第 13 回	【第 13 回】シークレットブックラリー	ス ○読書（120 分）

	ピーチ 10 回目 グループ代表者によるシークレットブック書評合戦。	○総合レポートに向けてのふり返し（120 分） ★推薦本はがき新聞提出
第 14 回	【第 14 回】総合レポート作成スピーチ 11 回目 「読書と新聞による国語力の習得について」の論述と漢字・視写の基礎的課題を授業内に仕上げて提出する。	○読書＋読書日記仕上げ（240 分） ★総合レポート提出
第 15 回	【第 15 回】総合レポートふり返しスピーチ 12 回目 「国語力」についての意見交流 漢字（四字熟語）100 問ふり返し	○総合レポートふり返し（80 分） ○漢字（四字熟語）100 問復習（80 分） ○読書生活ふり返し（80 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED103-A02	2.科目名	国語Ⅰ (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 基礎的な国語力を高めることをめざす。 [概要] 新聞と読書を中心に「言葉を育てる」ことを学ぶ。 教育現場において行われる「聞く・話す、読む、書く」という言語活動について、文献や事例をもとに学ぶ。 読書タイムや書取テスト、スピーチの実践を通して、国語の知識と技能について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の(5)コミュニケーションスキルと(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 「聞く・話す、読む、書く」の技能を高めることで基礎的国語力形成をめざす。 ・漢字力は読解力につながる ・読書力は語彙力につながる ・スピーチと新聞はコミュニケーションという点で共通すること を実感し総合して「国語力」を改めて身につけます。					
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献	メディアライブラリー内にある大村はまの本 学生選書コーナーの本					
21.成績評価	授業記録（毎回の 100 字コメント、書取テスト含む） 30% レポート（提出物） 30%（10%×3） 「投書」原稿（第 6 回提出） 「動詞人間学新聞」（第 10 回提出） 「はがき新聞」（第 13 回提出） 総合レポート（第 14 回提出） 40%					
22.コメント	「書くことを核にする」ことが何よりも大切である。書くことに慣れることから始めましょう。そしてカバンの中には、いつも 1 冊本があることを「あたりまえ」にしてください。 生成 AI の利用については、その都度指示する。					
23.オフィスアワー	月曜 4 限（15：00～16：30）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 漢字（四字熟語）100 問に挑戦 読書生活スタート（メディアライブラリーで本を 1 冊借りよう） 漢検準 2 級レベル漢字書取プリント確認			○漢字書取 1 練習（60 分） ○読書（100 分）		
第 2 回	【第 2 回】書くことのアイデア実践 1			○漢字書取 2 練習（60 分）		

	書取 1 実施 ブレイクストーミングを用いた言葉集め	○読書（100 分）
第 3 回	【第 3 回】書くことのアイデア実践 2 書取 2 実施 イメージマップによる文章構成作り ※今回から第 13 回まで、毎回スピーチ発表あり。 スピーチ 1 回目 (順番、テーマについては第 2 回に予告)	○漢字書取 3 練習（60 分） ○読書（100 分）
第 4 回	【第 4 回】書くことのアイデア実践 3 書取 3 実施 リラクスライティング（ダラダラ書き）による書き出し見つけと結び決め スピーチ 2 回目	○読書（60 分） ○原稿下書き（120 分） ○漢字書取 4 練習（60 分）
第 5 回	【第 5 回】書くことのアイデア実践 4 書取 4 実施 音読による下書き推敲から清書原稿提出へ。 スピーチ 3 回目	○読書（60 分） ○原稿清書（120 分） ○漢字書取 5 練習（60 分）
第 6 回	【第 6 回】動詞人間学新聞作り 1 書取 5 実施 特定の動詞が読み取れる新聞記事探し スピーチ 4 回目	○漢字書取 6 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分） ★投書原稿提出
第 7 回	【第 7 回】動詞人間学新聞作り 2 書取 6 実施 選んだ「動詞」に関連する新聞記事集め スピーチ 5 回目	○漢字書取 7 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 8 回	【第 8 回】動詞人間学新聞作り 3 書取 7 実施 「動詞人間学新聞」紙面下書き作成 スピーチ 6 回目	○漢字書取 8 練習（60 分） ○読書（100 分） ○新聞記事探し（80 分）
第 9 回	【第 9 回】動詞人間学新聞作り 4 書取 8 実施 「動詞人間学新聞」仕上げ スピーチ 7 回目	○読書（100 分） ○動詞人間学新聞作成（140 分）
第 10 回	【第 10 回】レファレンスサービスに挑戦 メディアライブラリー（図書館）を使い倒しましょう。	○漢字書取 9 練習（60 分） ○読書（120 分） ★動詞人間学新聞提出
第 11 回	【第 11 回】読書シークレットブック 1 書取 9 実施 お気に入りの本 1 冊の選定とはがき新聞作り スピーチ 8 回目	○漢字書取 10 練習（60 分） ○シークレットブック準備（100 分） ○読書（80 分）
第 12 回	【第 12 回】読書シークレットブック 2 書取 10 実施 グループ内でのシークレットブック紹介 スピーチ 9 回目	○はがき新聞仕上げ（240 分）
第 13 回	【第 13 回】シークレットブックラリー	ス ○読書（120 分）

	ピーチ 10 回目 グループ代表者によるシークレットブック書評合戦。	○総合レポートに向けてのふり返し（120 分） ★推薦本はがき新聞提出
第 14 回	【第 14 回】総合レポート作成スピーチ 11 回目 「読書と新聞による国語力の習得について」の論述と漢字・視写の基礎的課題を授業内に仕上げて提出する。	○読書＋読書日記仕上げ（240 分） ★総合レポート提出
第 15 回	【第 15 回】総合レポートふり返しスピーチ 12 回目 「国語力」についての意見交流 漢字（四字熟語）100 問ふり返し	○総合レポートふり返し（80 分） ○漢字（四字熟語）100 問復習（80 分） ○読書生活ふり返し（80 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED204-A01	2.科目名	教育相談		3.単位数	2
4.授業担当教員	多田智栄子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教職福祉学科／教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校（福祉） 小学校一種中学（英語） 中学（社会） 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・ 教師や保育士が行う教育相談について学修します。 ・ 教育や保育の中で教師や保育士が行う教育相談は、各教科と同じように重要とされています。その重要さは社会全体が求めるところと合致します。したがって、学校や保育と言う教育現場の実践の中で「重要」とされなければなりません。それゆえに、全体のカリキュラムに位置しており、つまり「ミニクリニック」ではなくて教育そのものと考えていきます。 ・ 教育実践の中で、どのような考えで具体的にどのような形で進められているのでしょうか。また、社会の中で期待されているのでしょうか。実					
18.学習目標と DPとの関連	・ 教育相談の授業での学習目標（身につくスキル）は次の通りです。 ①「教育相談」とは何かを自分の理解の中で説明できるようにします。 …現場で「役に立つ教育相談」について具体的な例を示して説明できるようにします。 ?教育相談の理論的背景を理解することが出来るようにします。 …実践の学、である教育相談の土台となる理論を学びます。また、個々人の適応の問題としての実に注目するのではなく、学校全体の中で、システム的な対応を考えることも大事であり、かつ、必要だということを理解することが出来るようにします。 ③教室で援助できる幼児、児童、生徒をイメージできるようにします。 …個々の幼児、児童、生徒の1対1の対応の教育相談も大事ですが、更に、学校生活のあらゆる場面（各教科指導も含めて）から生じる課題を考えていくことも重要です。問題の発端となることへの予防・開発的な理解が出来るようにすることを最も重要にしています。すべての幼児、児童、生徒などの課題として考えます。					
19.教科書・教材	大野精一【編著】 長谷川比呂美 橋本千鶴〔著〕 （2017） 教師・保育者のための教育相談 萌文書林					
20.参考文献	適宜紹介します。 資料も配布もします。					
21.成績評価	以下の内容で評価を行います。 ①中間テスト・・・20 点（学習①に対応します） 2 週間前にお知らせします。 ?課題レポート・・・3×10 点（授業の中で行います） レポート1 ? SDG s を保育や学校教育の中で具体的に生かす指導案の作成 レポート2 ? 危機管理について、震災を意識した具体的な指導案の作成 レポート3 ? 「理想的な教育相談」のポスター作成					

	③期末テスト・・・50点 学習①と②と③に対応します。	
22.コメント	・教育相談は、担当者、係の先生だけが行うものではありません。 ・子ども達に携わるすべての人たちが、すべての場所で、すべての機会を活用してなされることが期待されます。 ・他人事ではなく、実践現場ですぐに役立つ力、スキルとなるように学んでいきましょう。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・授業についてのオリエンテーション 授業の目指すところを、共通理解します。 そのために何をどのようにして学習を進めていくのかを理解します。 ・「教育相談」テキストの中から15回の説明をします。	[予習] ・テキスト p 1～p 11 までを読んで、教育相談の歴史的な整理をしておいてください。
【第2回】	・教育相談の考え方 …2回にわたり歴史的な整理をします。そのあとで、教育相談が今、求められている理由について考えます。 ・教師[保育者]が行う教育相談とは何か、についての概略を学びます。	[復習] /教育相談が歴史的に何を求められていたのかをまとめておきます。 [予習] ・テキスト p 8～p 11 までを再度読んでおきます。
【第3回】	・教育相談が社会の変化とともに求められることが変わってきました。今の社会やこれからの時代の中では、そのような教育相談が期待されるのでしょうか。イメージしてみましょう。実際の学校の中をイメージしましょう。SDG s からの理解をします。自分の興味関心がある内容をチェックします。	[復習] ・今回の授業でのまとめをしておきましょう。テキストや経験から「教育相談」とは何かを説明できるようにしておきます。 [予習] ・日常の中で広報されている SDG s を調べて来ましょう。
【第4回】	・SDG s についての理解を共有します。 日常の中で展開(広報)されている SDG s を紹介しながら、教育や保育にどのように落とし込んでいくかを話し合います。	[予習] ・テキスト p 20～p 27 を読んでおいてください。 ・「学校心理学」「アドラー心理学」について調べておきましょう。
【第5回】	・教育相談を学ぶにあたっての、基礎的学問の一つである「学校心理学」について学びます。また子供達にかかわるときに参考となる「アドラー心理学」についても学びます。 ・資料を配布します。	[復習] ・配布した資料についてまとめておきましょう。 [予習] ・テキスト p 47～p 58 までを読んでおいてください。
【第6回】	・教師の行う教育相談の進め方…具体的な進め方について学びます。 ・教育相談実践のとらえ方 ⇒今までを見て、これからを考えます。	[復習] ・今日の学習を実際の学校・保育現場の中でイメージしてまとめておきましょう。 [予習] ・テキスト p 59～65 までを読んでみましょう。
【第7回】	・教師・保育が行う教育相談…具体的な進め方 ・何をどのように観察するのか	[復習] ・テキスト p 66～p 77 までを読んでおいて

	何をどうやらせるのか⇒アセスメントについても触れます。	ください。
【第 8 回】	・教師・保育者の行う教育相談の進め方…具体的な進め方 - 何をどう聴いてみるか - 面接へのいくつかの視点を考えます。 - 日常の中からの観察アセスメントの実際を学びます。	「予習」 ・「チーム学校」について調べてきましょう。
【第 9 回】	「チーム学校」と教育相談について考えます。 テキストにはありませんので、資料を配布します。 ・社会が求めている「チーム学校」についての理解と教育相談の役割について考えましょう。 ・授業と教育相談の関係を紹介します。	「復習」 ・授業の中で教育相談ができる事をまとめておきます。 「予習」 ・テキスト p 7 7～8 7 までを読んでおきましょう。幼児理解を深めておきます。
【第 10 回】	・教師・保育者の行う教育相談の具体的展開 ・幼稚園や保育所における教育相談の考え方について学びます。 - 子ども理解からの教育相談を意識しながら幼児教育保育の中で独自性や特色などを学びます。	「復習」 ・幼児における教育相談と学校教育相談の違いや相違点を確認しておきましょう。
【第 11 回】	・実践例を学びながら、実際の場面をイメージしていきます。 ・授業と教育相談の関係をさらに詳しくイメージしていきます。 - 資料の配布をします。 ・実際の 3 年生、5 年生の「算数」や「国語」などの授業を想定して考えます。(3 歳児、5 歳児) ・予防的にも開発的な教育相談としてもかんがえます。	「復習」 ・授業案を作るつもりで、授業との関係を理解して、整理しておきましょう。 「予習」 ・テキスト p 8 9～9 5 を読んでおきます。
【第 12 回】	・保護者支援は大事な教育相談が担う役割です。 - 保護者支援の理解と実践について学びます。 ・保護者との信頼関係を築いていくための教育相談を考えます。	「予習」 ・テキスト p 1 0 0～1 1 0 をよく読んでおきましょう。
【第 13 回】	・保護者の養育力の向上を図った教育相談…テキストの中から学びます。 - 学校や園がどこまで家庭に介入できるのか、実際の例から考えてみましょう。保護者の養育力へのアプローチを考えてみます。 ・外部の専門機関との連携も大事です。 - 学校と他機関の連携について考えましょう。	「予習」 ・今までのテキスト・資料・自分の記録などをよく読んで総括をしておきましょう。
【第 14 回】	・期末テストをします。 ・教師のバーンアウトについて考えます。 - 教育相談が出来る役割を考えます。	「予習」 ・テキスト p 1 2 0～1 3 3 を読んできましょう。
【第 15 回】	・教育相談の事例から発展して、クラス全体で取り組むことが目指されます。 つまりは、日々の生活の中で出会う課題や問題に子供たちが自分自身でクラスで解決していく力を育てて行くということにつなげていくことができれば、と考え	「復習」 ・1 5 回の授業の振り返りをしておきましょう。

	ます。15回の授業の振り返りをしながら、教育相談を事例の中で確認します。 学習目標の①・②・③への到達を確認します。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED204-A02	2.科目名	教育相談	3.単位数	2
4.授業担当教員	多田智栄子				
5.授業科目の区分	教育福祉学科／こ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中 学(英語) 中学(社会) 認定心理士 保育士 幼稚園 一種	9.履修学年	3 年～		
10.取得資格の要件	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	・教師や保育士が行う教育相談について学修します。 ・教育や保育の中で教師や保育士が行う教育相談は、各教科と同じように重要とされています。その重要さは社会全体が求めるところと合致します。したがって、学校や保育と言う教育現場の実践の中で「重要」とされなければなりません。それゆえに、全体のカリキュラムに位置しており、つまり「ミニクリニック」ではなくて教育そのものと考えていきます。 ・教育実践の中で、どのような考えで具体的にどのような形で進められているのでしょうか。また、社会の中で期待されているのでしょうか。実				
18.学習目標と DPとの関連	・教育相談の授業での学習目標（身につくスキル）は次の通りです。 ①「教育相談」とは何かを自分の理解の中で説明できるようにします。 …現場で「役に立つ教育相談」について具体的な例を示して説明できるようにします。 ?教育相談の理論的背景を理解することが出来るようにします。 …実践の学、である教育相談の土台となる理論を学びます。また、個々人の適応の問題としての実に注目するのではなく、学校全体の中で、体系的な対応を考えることも大事であり、かつ、必要だということを理解することが出来るようにします。 ③教室で援助できる幼児、児童、生徒をイメージできるようにします。 …個々の幼児、児童、生徒の1対1の対応の教育相談も大事ですが、更に、学校生活のあらゆる場面（各教科指導も含めて）から生じる課題を考えていくことも重要です。問題の発端となることへの予防・開発的な理解が出来るようにすることを最も重要にしています。すべての幼児、児童、生徒などの課題として考えます。				
19.教科書・教材	大野精一【編著】 長谷川比呂美 橋本千鶴 [著] (2017) 教師・保育者のための教育相談 萌文書林				
20.参考文献	適宜紹介します。 資料も配布もします。				
21.成績評価	以下の内容で評価を行います。 ①中間テスト・・・20 点（学習①に対応します） 2 週間前にお知らせします。 ?課題レポート・・・3×10 点（授業の中で行います） レポート1 ? SDG s を保育や学校教育の中で具体的に生かす指導案の作成 レポート2 ? 危機管理について、震災を意識した具体的な指導案の作成 レポート3 ? 「理想的な教育相談」のポスター作成 ③期末テスト・・・50 点 学習①と②と③に対応します。				
22.コメント	・教育相談は、担当者、係の先生だけが行うものではありません。				

	・子ども達に携わるすべての人たちが、すべての場所で、すべての機会を活用してなされることが期待されます。 ・他人事ではなく、実践お腹ですぐに役立つ力、スキルとなるように学んでいきましょう。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1回目】	・授業についてのオリエンテーション 授業の目指すところを、共通理解します。 そのために何をどのようにして学習を進めていくのかを理解します。 ・「教育相談」テキストの中から15回の説明をします。	予習] ・テキストp1～p11までを読んで、教育相談の歴史的な整理をしておいてください。
【第2回】	・教育相談の考え方 …2回にわたり歴史的な整理をします。そのあとで、教育相談が今、求められている理由について考えます。 ・教師[保育者]が行う教育相談とは何か、についての概略を学びます。	[復習] /教育相談が歴史的に何を求められていたのかをまとめておきます。 [予習] ・テキストp8～p11までを再度読んでおきます。
【第3回】	・教育相談が社会の変化とともに求められることが変わってきました。今の社会やこれからの時代の中では、そのような教育相談が期待されるのでしょうか。イメージしてみましょう。実際の学校の中をイメージしましょう。SDGsからの理解をします。自分の興味関心がある内容をチェックします。	[復習] ・今回の授業でのまとめをしておきましょう。テキストや経験から「教育相談」とは何かを説明できるようにしておきます。 [予習] ・日常の中で広報されているSDGsを調べて来ましょう。
【第4回】	・SDGsについての理解を共有します。 日常の中で展開（広報）されているSDGsを紹介しながら、教育や保育にどのように落とし込んでいくかを話し合います。	[予習] ・テキストp20～p27を読んでおいてください。 ・「学校心理学」「アドラー心理学」について調べておきましょう。
【第5回】	・教育相談を学ぶにあたっての、基礎的学問の一つである「学校心理学」について学びます。また子供達にかかわるときに参考となる「アドラー心理学」についても学びます。 ・資料を配布します。	[復習] ・配布した資料についてまとめておきましょう。 [予習] ・テキストp47～p58までを読んでおいてください。
【第6回】	・教師の行う教育相談の進め方…具体的な進め方について学びます。 ・教育相談実践のとらえ方 ⇒今までを見て、これからを考えます。	[復習] ・今日の学習を実際の学校・保育現場の中でイメージしてまとめておきましょう。 「予習」 ・テキストp59～65までを読んでみましょう。
【7回】	・教師・保育が行う教育相談…具体的な進め方 ・何をどのように観察するのか 何をどうやらせるのか⇒アセスメントについても触れます。	[復習] ・テキストp66～p77までを読んでおいてください。
【第8回】	・教師・保育者の行う教育相談の進め方…具体的な進め方	[予習] ・「チーム学校」について調べてきましょう。

	何をどう聴いてみるか 面接へのいくつかの視点を考えます。 日常の中からの観察アセスメントの実際を学びます。	
【第 9 回】	「チーム学校」と教育相談について考えます。 テキストにはありませんので、資料を配布します。 ・社会が求めている「チーム学校」についての理解と教育相談の役割について考えましょう。 ・授業と教育相談の関係を紹介します。	「復習」 ・授業の中で教育相談ができる事をまとめておきます。 「予習」 ・テキスト p 77～87 までを読んでおきましょう。幼児理解を深めておきます。
【第 10】	・教師・保育者の行う教育相談の具体的展開 ・幼稚園や保育所における教育相談の考え方について学びます。 子ども理解からの教育相談を意識しながら幼児教育保育の中で独自性や特色などを学びます。	「復習」 ・幼児における教育相談と学校教育相談の違いや相違点を確認しておきましょう。
【第 11 回】	・実践例を学びながら、実際の場面をイメージしていきます。 ・授業と教育相談の関係をさらに詳しくイメージしていきます。 資料の配布をします。 ・実際の 3 年生、5 年生の「算数」や「国語」などの授業を想定して考えます。(3 歳児、5 歳児) ・予防的にも開発的な教育相談としてもかんがえます。	「復習」 ・授業案を作るつもりで、授業との関係を理解して、整理しておきましょう。 「予習」 ・テキスト p 89～95 を読んでおきます。
【第 12 回】	・保護者支援は大事な教育相談が担う役割です。 保護者支援の理解と実践について学びます。 ・保護者との信頼関係を築いていくための教育相談を考えます。	「予習」 ・テキスト p 100～110 をよく読んでおきましょう。
【第 13 回】	・保護者の養育力の向上を図った教育相談…テキストの中から学びます。 学校や園がどこまで家庭に介入できるのか、実際の例から考えてみましょう。保護者の養育力へのアプローチを考えてみます。 ・外部の専門機関との連携も大事です。 学校と他機関の連携について考えましょう。	「予習」 ・今までのテキスト・資料・自分の記録などをよく読んで総括をしておきましょう。
【第 14 回】	・期末テストをします。 教師のバーンアウトについて考えます。 教育相談が出来る役割を考えます。	「予習」 ・テキスト p 120～133 を読んでみましょう。
【第 15 回】	・教育相談の事例から発展して、クラス全体で取り組むことが目指されます。 つまりは、日々の生活の中で出会う課題や問題に子供たちが自分自身でクラスで解決していく力を育てて行くということにつなげていくことができれば、と考えます。15 回の授業の振り返りをしながら、教育相談を事例の中で確認します。 学習目標の①・②・③への到達を確認します。	「復習」 ・15 回の授業の振り返りをしておきましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	PED204-Y01	2.科目名	教育相談	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩岡眞弘				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年-
10.取得資格の要件	高校（英語） 高校（公民） 高校（福祉） 小学校一種 中学（英語） 中学（社会） 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、ペアディスカッション		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な、カウンセリングの意義・理論や技法を身につけることを目的とする。 【概要】 教育相談は、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸?や人格の成?を支援する教育活動である。本授業では、児童・生徒の教育上の問題に関し、教師が、適切な援助を実施するために何が必要かを、理論や事例を通して学修する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 学校における教育相談の意義と理論を説明することができる。 2 教育相談を進める際に必要なカウンセリングの基礎知識を説明することができる。 3 教 育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明することができる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (2)社会的責任性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力、				
19.教科書・教材	「現場で役立つ教育相談入門」(2023)春日由美,五十嵐亮(編著),北樹出版 * ISBN-10 ? : ? 4779307279 * ISBN-13 ? : ? 978-4779307270				
20.参考文献	「生徒指導提要」(2023)文部科学省				
21.成績評価	1.平常点(授業に関する発言、質問、毎回のコメントシート) 5 0 % 2.期末試験 5 0 %				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控え室等で、受講生からの質問に対応する。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 01 回	教育相談とは			復習と予習	
第 02 回	教育相談で大切なもの			復習と予習	

第 03 回	子どもたちを支えるための連携	復習と予習
第 04 回	子どもの発達と大人の関わり的重要性	復習と予習
第 05 回	不登校への支援	復習と予習
第 06 回	いじめへの対応	復習と予習
第 07 回	問題行動や非行への対応	復習と予習
第 08 回	個別の理解と支援	復習と予習
第 09 回	児童虐待への対応	復習と予習
第 10 回	保護者との関わり	復習と予習
第 11 回	危機場面での対応	復習と予習
第 12 回	心理的不適応と心理アセスメント	復習と予習
第 13 回	心理療法の基礎	復習と予習
第 14 回	開発予防的教育相談	復習と予習
第 15 回	まとめ	復習と予習

1.授業コード (ナンバリング)	PED204-m01	2.科目名	教育相談	3.単位数	2
4.授業担当教員	岩岡眞弘				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年-
10.取得資格の要件	高校（英語） 高校（公民） 高校（福祉） 小学校一種 中学（英語） 中学（社会） 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、ペアディスカッション		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な、カウンセリングの意義・理論や技法を身につけることを目的とする。 【概要】 教育相談は、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築きながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸?や人格の成?を支援する教育活動である。本授業では、児童・生徒の教育上の問題に関し、教師が、適切な援助を実施するために何が必要かを、理論や事例を通して学修する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 学校における教育相談の意義と理論を説明することができる。 2 教育相談を進める際に必要なカウンセリングの基礎知識を説明することができる。 3 教 育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を説明することができる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (2)社会的責任性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力、				
19.教科書・教材	「現場で役立つ教育相談入門」(2023)春日由美,五十嵐亮(編著),北樹出版 * ISBN-10 ? : ? 4779307279 * ISBN-13 ? : ? 978-4779307270				
20.参考文献	「生徒指導提要」(2023)文部科学省				
21.成績評価	1.平常点(授業に関する発言、質問、毎回のコメントシート) 5 0 % 2.期末試験 5 0 %				
22.コメント					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控え室等で、受講生からの質問に対応する。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 01 回	教育相談とは			復習と予習	
第 02 回	教育相談で大切なもの			復習と予習	

第 03 回	子どもたちを支えるための連携	復習と予習
第 04 回	子どもの発達と大人の関わり的重要性	復習と予習
第 05 回	不登校への支援	復習と予習
第 06 回	いじめへの対応	復習と予習
第 07 回	問題行動や非行への対応	復習と予習
第 08 回	個別の理解と支援	復習と予習
第 09 回	児童虐待への対応	復習と予習
第 10 回	保護者との関わり	復習と予習
第 11 回	危機場面での対応	復習と予習
第 12 回	心理的不適応と心理アセスメント	復習と予習
第 13 回	心理療法の基礎	復習と予習
第 14 回	開発予防的教育相談	復習と予習
第 15 回	まとめ	復習と予習

1.授業コード (ナンバリング)	PED208-A01	2.科目名	初等教育課程論 (2021 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	中学校 (英語) 一種 小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：教育課程について理解すること。 概要：学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解するために、教育課程の意義、編成方法、カリキュラム・マネジメントを学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標 (= 身につくスキル) は次の通りです。 ①学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。 ②教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 ③教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度 (自律性) (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	田中耕治, 水原克敏, 三石初雄, 西岡加名恵『新しい時代の教育課程 第5版』有斐閣 ISBN9784641222281 ※昨年度までのテキストと異なるので注意すること					
20.参考文献	文部科学省『幼稚園教育要領』最新版 文部科学省『小学校学習指導要領』最新版 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版 文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版 必要に応じて印刷物の配布や文献等の紹介を行う。					
21.成績評価	1. 課題① 20% 【学習目標①に対応】 DVDの内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 2. 課題② 40% 【学習目標②に対応】 自分が経験してきた教育内容や学校生活を、学習指導要領の変遷 (教科書 pp.47-120 など) をもとに考察し、学校経験の自分史を書く。 3. 総括試験 40% 【学習目標①②③に対応】 ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が60%以上の評価で合格となる。					
22.コメント	子どもたちのお手本となるような授業態度で受講すること。 生成AIの活用は条件付きで認める。なお、課題作成にあたって、生成AIの答えを (ある程度) そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意すること。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント (宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ・講義の進め方、講義内容について理解する。			○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.1-18, pp.188-		

		192 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 2 回】	教育課程の概念と構造① … 教科書 pp.1-18, pp.188-192 ・教育課程の概念、役割、機能について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.149-178, pp.220-229 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 3 回】	教育課程の概念と構造② … 教科書 pp.149-178, pp.220-229 ・教育課程の思想と構造、教育課程編成論の変遷について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.267-269 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 4 回】	隠れたカリキュラム … 教科書 pp.267-269 ・これまでの学校生活を振り返り、カリキュラムとして学んできたものを考える。 ・ワークショップ「学校で学んできたもの」	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.19-46 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 5 回】	学習指導要領の変遷① … 教科書 pp.19-46 ※一部オンデマンド授業 ・近代日本の教育課程の歩みについて学ぶ。	※【課題①】DVD の内容をまとめるとともに、それについての自分の意見を書く。 ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.107-120 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 6 回】	学習指導要領の変遷② … 教科書 pp.107-120 現行の学習指導要領の基本構造について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-56 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 7 回】	学習指導要領の変遷③ … 教科書 pp.48-56 ・学習指導要領の変遷（前半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.56-120 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 8 回】	学習指導要領の変遷④ … 教科書 pp.56-120 ・学習指導要領の変遷（後半）を理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分)
【第 9 回】	●学習指導要領の変遷⑤ ・学習指導要領と学力との関連について考察する。	※【課題②】自分史を書く。 (360 分) ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.179-211 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)
【第 10 回】	教育課程の法と行政① … 教科書 pp.179-211 ・教育課程編成について学ぶ。 ・子どもの実態や地域の実態などをふまえた教育課程を検討することの重要性について理解する。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 p.56 を読み、わからないところをチェックする。また、教科書検定制度について調べて理解する。(120 分)
【第 11 回】	教育課程の法と行政② … 教科書 p.56 ・教科書制度の歴史と概要について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.213-244 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)

【第 12 回】	教育課程の経営と評価 … 教科書 pp.213-244 ・カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.245-270 を読んで、わからないところをチェックする。 (120 分)
【第 13 回】	社会における教育課程 … 教科書 pp.245-270 社会的・政治的パースペクティブからみた学校教育の現状と教育課程のあり方について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○これまでの学修内容について復習をする。 (360 分)
【第 14 回】	総括試験	○これまでの学習内容について復習をする。 (240 分)
【第 15 回】	まとめ ・これまでの復習を行い、本科目での学修到達度を認識する。	○総括試験の結果や中間レポートの評価などをふまえて、これまでの総復習をする。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED209-A01	2.科目名	図画工作Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む) 作品制作については、集中講義になる可能性 あり			
16.履修制限	造形室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 48 人とします。人数 が多い場合には、初回の授業で抽選を行います。					
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製 作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値につ いての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら 授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量的形成をはかります。 特に、「造形遊び」、「絵や立体にあらわす」領域の題材について、製作を通して指導のポイント などの理解を深め、授業を計画実施できる能力を養います。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知 識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・図画工作科の指導理念，教材開発の視点，内容について理解を深めます。 ・子どもの視点に立った教科内容の理解を深め，図画工作科の具体的な指導方法の習得を目指 します。 ・児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反 応する 力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上，1・2 下，3・4 上，3・4 下，5・6 上，5・6 下』日 本文教出版 ①は「造形Ⅰ」（1 年春学期）、「保育内容・表現Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅰ」（2 年春学 期）、「図画工作科Ⅱ」（2 年秋学期）、「造形Ⅱ」（4 年秋学期）、「教職実践演習（幼）」（4 年秋学 期）と共通の教科書で、必ず購入すること。					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版，2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ② グループワーク（模擬授業）=20% ③ 個人ワーク（活動①～⑩）=20% ④ 作成した学習指導案=20% ⑤ 提出課題の内容=30% ・それぞれの評価基準は，1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる					
22.コメント	○本講義では，実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。					

		○受講生を3～4人を基準とするグループに分け、協調自立学習として展開します。したがって、欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく、グループのメンバーへの迷惑になるということを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。 ※受講者数を制限しますが、秋学期開講の「図画工作II」と併せて受講登録している人を優先します。 ※遠隔授業で対応できない内容については、集中講義になる可能性があります。 ※遠隔授業の場合、必要な用具（絵の具、クレパス、色鉛筆、用紙など）については自分で用意することになります。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定します。
23.オフィスアワー		木曜昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	ガイダンス(本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、準備物、課題提出の方法確認、受講上の留意点などについて) グループづくり 活動①「ならべてならべて!」(材料・素材からの造形遊び 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第2回	活動②「つなげてつなげて!」(材料・素材からの造形遊び 2)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第3回	活動③「こすりだして遊ぼう～フロッタージュ～」(技法・道具からの造形遊び 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第4回	活動④「うつして遊ぼう～影遊び～」(技法・道具からの造形遊び 2) 活動⑤「ちぎってはって」(技法・道具からの造形遊び 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第5回	「造形的遊び」のねらいと特徴について 教科書 pp.122～127 授業づくり①「造形遊び」領域の授業づくり 教科書 p.114～121	★学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第6回	活動⑥「アニメーションをつくろう」(絵や立体にあらわす 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第7回	活動⑧「型紙を使って描こう～ステンシル～」(絵や立体にあらわす 2)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第8回	活動⑨「おいしいおべんとう～粘土をつくろう」(絵や立体にあらわす 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第9回	活動⑩「回して刷って(回転版画)～3 原色の妙～」(絵や立体にあらわす 4) その1	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第10回	活動⑩「回して刷って(回転版画)～3 原色の妙～」(絵や立体にあらわす 4) その2	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第11回	「絵や立体にあらわす」のねらいと特徴について 教科書 pp.128～131 授業づくり②「絵や立体にあらわす」領域の授業づくり	★学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第12回	授業をつくる①	★◎学習指導案の作成 (60 分)

	指導案の書き方と留意点について 教科書 pp.112～117	○復習及び授業ノートの整理（60分）
第13回	授業をつくる② 模擬授業・リフレクションⅠ	○模擬授業の振り返り（60分） ○復習及び授業ノートの整理（60分）
第14回	授業をつくる③ 模擬授業・リフレクションⅡ	○模擬授業の振り返り（60分） ○復習及び授業ノートの整理（60分）
第15回	授業をつくる④ 模擬授業の評価とリフレクション 本講義の振り返り	○復習及び授業ノートの整理（60分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED212-A01	2.科目名	算数Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種幼 稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	<授業の目的> 小学生に興味深い算数指導を行うために、算数科の具体的な内容（教材）について理解を深め、必要な知識や考え方を身につけることを目的としています。 <授業の概要> この科目では、授業の目的を達成するため、講義、演習を通して次の①～④を行います。 ①算数指導を行うという視点で、算数の内容（知識や概念）について、改めて調べたり考察したりする。 ②児童に興味を持たせ、算数授業を深めるための算数・数学に関する知識や理論について学ぶ。 ③算数で子どもが「つまずきやすい事柄」について、調べたり考察したりす					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連：問題発見解決力、専門知識の活用力 【学習目標】 (1)学習指導要領等に記された算数科の具体的な内容に関する知識や概念および指導の工夫や考え方などについて説明することができる。 (2)算数科で指導される課題について、算数的な知識・技能・考え方を活用し解決することができる。また、その過程をわかりやすく説明することができる。 (3)「主体的」で「深い」学びに資する算数の具体的な教材を提案することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	特に指定しない					
21.成績評価	ワークシート：30％・・・（１）（２）（３）に対応 発表の振り返り：30％・・・（１）（３）に対応 教材作り：40％・・・（１）（２）（３）に対応					
22.コメント	○PCを常に準備するようにしてください。 ○座席指定です。 ○自ら考え、グループで考え、全員で考え、主体的に「考える」ことを楽しもう。 ○間違いから学ぶことが多いです。間違いをよりよい解決へと高めていくことを、この授業に参加する全員の協同の目的としたいです。 ○よりよい解決に達することを目指しますが、「解けたらいい」「分かったらいい」という自分本意な取り組み方は認めません。「解けること」「分かること」が、同じ授業で学ぶ全体の財産にしようとする態度を求めます。					
23.オフィスアワー	火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション ■この講座の学習目標について			◎提示された算数の用語や概念について、事前に調べておく（120 分）		

	■この講座の内容・方法・授業計画について ■評価の観点・方法 ■受講上の注意点 ■基礎力診断テスト、アンケート	
	◆算数・数学基礎力診断テスト、アンケート結果について ◆グループワークについて ・班分け ・課題の提示と発表形態、方法について説明 ◆算数指導の基礎知識① 指導する立場から、算数の内容を考察してみよう。 数の構造、演算（加減乗除）	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（60分） ◎提示された算数の用語や概念について、事前に調べておく（120分）
	◆算数指導の基礎知識② 指導する立場から、算数の内容を考察してみよう。 量と測定、図形	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（60分） ◎提示された算数の用語や概念について、事前に調べておく（120分）
	◆算数指導の基礎知識③ 指導する立場から、算数の内容を考察してみよう。 関数、資料の活用	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（60分） ◎身の回りにある算数場面を探しておく（120分）
	◆身近にある「算数」をさがそう。 日常にある、算数場面を見つけ話そう。 ・身近にある「算数」場面を見つける。 ・説明（どこがどのように算数なのか？）コメントを考える。 ・見つけた「算数」について話し合う。	○復習…講義ノートを整理しながら授業内容を再度確認しておく（60分） ◎活動の振り返り・・・「身近な事象を算数教材として活用することについて」
	◆小学校プログラミング教育を体験しよう プログラミングソフトを使った、5年生図形領域の学習を体験し、ソフトの使い方を習得する。さらに、次時でおこなう教材作りの構想を練る。	○復習・・・プログラミングソフトの使い方に慣れておく（60分） ◎作成したい図形を構想する（120分）
	◆算数科でのプログラミング教材をつくろう プログラミングを取り入れた授業に使える教材（課題）をつくり、その解説及び授業の流れ（案）を作成する。	◎教材づくりの作業を進めておく、また発表の準備をする（480分）
	◆作った教材を発表しよう 作成した教材について、趣旨や狙いなども含めを発表する。	◎発表後の意見や反省を踏まえて教材を修正する。（180分）
	◆算数におけるこどもの「つまずき」について考えよう① これまでの算数学習を振り返り、子供がつまずく場面（内容）について話し合う。	○復習…授業での意見交換をもとに子どもの「つまずき」について整理する（120分） ◎「つまずき」に関する資料を探しておく（120分）
	◆算数におけるこどもの「つまずき」について考えよう②	○復習…これまでの文献調査や意見交換をもとに子どもの「つまずき」について整理する

	こどもの「つまずき」に関する先行研究について調べ、話し合う。	(120 分)
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 オンラインでも使える学習材と、それについての解説（狙いや工夫など）を作成する。	◎教材づくりの作業を進めておく（４８０分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 オンラインでも使える学習材と、それについての解説（狙いや工夫など）を作成する。	◎教材づくりの作業を完成させ、発表の準備をする（４８０分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 作成した教材についてグループで検討する。	◎ 発表後の意見や反省を踏まえて教材を修正の上 WebClass 出する。（１８０分）
	◆「つまずき」を克服するためにに効果的な教材を作成しよう。 作成した教材についてグループで検討する。	◎ 発表後の意見や反省を踏まえて教材を修正の上 WebClass 出する。（１８０分）
	◆まとめ 15 回の授業を振り返る。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED222-A01	2.科目名	板書技術	3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦、上原昭三、松尾和宣、吉田武大				
5.授業科目の区分	展開 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	[目的] 教育実習に向かう実践力を身につけることをめざす。 [概要] 教育現場において、黒板・電子黒板の活用は必要不可欠である。子供たちの学習指導を支援するのは、効果的な板書である。そこで、黒板の効果的な書き方、電子黒板の使い方を伝授する				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 板書技術の要領を把握することに努め、実習時に成果を発揮できるようにする。 A 板書縦書き B 板書横書き C 板書用道具（定規、コンパス等）の使い方 D 電子黒板の使い方 それぞれの知識・技能を習得し、学習場面に応じて適切な板書を行えるようになることを目標とする。				
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。				
20.参考文献	関連サイトの URL 等は授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	具体的な板書（3 回）$25\% \times 3 = 75\%$ 電子黒板活用（1 回）$25\% \times 1 = 25\%$				
22.コメント	教育実習に行った際に「先生、字が上手だね」と子どもたちから言ってもらえましたという先輩受講生の報告もありました。時間を見つけては黒板に向かう姿勢を持って臨んでください。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポートでは使用不可とします。				
23.オフィスアワー	中西：月 4 限（15：00～16：30）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	A 板書縦書き 中西先生 B 板書横書き 松尾先生 C 板書用道具（定規、コンパス等）の使い方 上原先生 D 電子黒板の使い方 吉田先生 以上 4 通りのパターンを、受講者は 4 グループに分かれ、3 回 1 セットのローテーションによって、すべてのパターンを受講する。 1 セットは、模範例および書き方・使い方説明→演習・練習→成果を示す（評価）の形で行う。 全体：オリエンテーション（全体集合場所は			○板書技術についての説明を記録し、まとめる。(120 分) ○各担当者からの次時への課題を行う。(120 分)	

	WEBCLASS にて連絡) グループ分け・ローテーション順決定 板書技術を身	
第 2 回	A 板書縦書き 1 (主に国語：中西担当) 模範例および書き方説明	◎グループによる練習と相互批正 (240 分)
第 3 回	A 板書縦書き 2 (主に国語：中西担当) 演習・練習	○各自実技課題練習 (240 分)
第 4 回	A 板書縦書き 3 (主に国語：中西担当) 実技テスト	○板書縦書きの要領を記録にまとめる。(120 分) ○次期担当者からの課題を行う。(120 分)
第 5 回	B 板書横書き 1 (主に社会：松尾担当) 模範例および書き方説明	◎グループによる練習と相互批正 (240 分)
第 6 回	B 板書横書き 2 (主に社会：松尾担当) 演習・練習	○各自実技課題練習 (240 分)
第 7 回	B 板書横書き 3 (主に社会：松尾担当) 実技テスト	○板書横書きの要領を記録にまとめる。(120 分) ○次期担当者からの課題を行う。(120 分)
第 8 回	全体：中間ふり返り (指示された教室に全員集合)	○中間のふり返りを受けて不十分な部分を補うとともに、これまでの記録を整理する。(240 分)
第 9 回	C 板書用道具の使い方 1 (主に算数：上原担当) 定規やコンパス等の使い方説明	◎グループによる練習と相互批正 (240 分)
第 10 回	C 板書用道具の使い方 2 (主に算数：上原担当) 演習・練習	○各自実技課題練習 (240 分)
第 11 回	C 板書用道具の使い方 3 (主に算数：上原担当) 実技テスト	○板書用道具の使い方の要領を記録にまとめる。(120 分) ○次期担当者からの課題を行う。(120 分)
第 12 回	D 電子黒板の使い方 1 (吉田担当) 使い方の模範例と説明	◎グループによる使い方練習 (240 分) 時間指定あり
第 13 回	D 電子黒板の使い方 2 (吉田担当) 活用練習	◎グループによる活用練習 (240 分) 時間指定あり
第 14 回	D 電子黒板の使い方 3 (吉田担当) 活用テスト	○電子黒板の使い方の要領を記録にまとめる。(120 分) ○「板書技術からの学び」を考える。(120 分)
第 15 回	全体：リフレクション (指示された教室に全員集合) 「板書技術からの学び」についてグループワーク後に全体発表。	○「板書技術からの学び」について、全体リフレクションをふまえて、記録にまとめる。(240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED223-A01	2.科目名	生活	3.単位数	2										
4.授業担当教員	松尾和宣														
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期										
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～										
10.取得資格の要件			11.先修条件												
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義											
16.履修制限															
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校生活科の目標を理解し、指導力の基礎を身に付けることを目的とします 【概要】 ○小学校生活科の成立過程から、幼稚園・保育園との接続の重要性について学ぶ ○生活科の単元の概要を捉える ○学習内容に応じた活動計画の作成・活動案を立案する ○模擬授業やグループワークなどの体験を通して、授業の奥深さや面白さを体感する														
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP①自律性 ④問題発見・解決力 ⑥専門的知識・技能の活用力に関連しています (1)生活科成立の背景を知り、生活科の目標について説明することができる (2)単元構成を考え、学習活動案を作成することができる (3)生活科の学習評価の在り方を説明できる。 (4)グループ活動を通して、教材開発に取り組むことができる														
19.教科書・教材	○適宜資料を配布														
20.参考文献	○文部科学省学習指導要領 ○講義の中で資料を適宜配布														
21.成績評価	評価の j 方法と配点は次の通りです <table border="0"> <tr> <td>・毎時間の授業ワークシートの作成</td> <td>2 0 % 《学習目標(1)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・レポート「小1 プロBLEMについて</td> <td>1 0 % 《学習目標(1)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・レポート「まちたんけん」について</td> <td>1 0 % 《学習目標(3)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・学習活動案の作成</td> <td>2 0 % 《学習目標(2)(4)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・総括試験</td> <td>4 0 % 《学習目標 (3) に対応、総括》</td> </tr> </table>					・毎時間の授業ワークシートの作成	2 0 % 《学習目標(1)に対応》	・レポート「小1 プロBLEMについて	1 0 % 《学習目標(1)に対応》	・レポート「まちたんけん」について	1 0 % 《学習目標(3)に対応》	・学習活動案の作成	2 0 % 《学習目標(2)(4)に対応》	・総括試験	4 0 % 《学習目標 (3) に対応、総括》
・毎時間の授業ワークシートの作成	2 0 % 《学習目標(1)に対応》														
・レポート「小1 プロBLEMについて	1 0 % 《学習目標(1)に対応》														
・レポート「まちたんけん」について	1 0 % 《学習目標(3)に対応》														
・学習活動案の作成	2 0 % 《学習目標(2)(4)に対応》														
・総括試験	4 0 % 《学習目標 (3) に対応、総括》														
22.コメント	○生活科について学ぶことは、子どもを中心とした授業や指導・支援の原点をまなぶことです。また、みんなと学びあう時間を共有することが大切です。1 時間目から 1 5 時間目までしっかりと出席すること。														
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する														
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)											
【第 1 回】	オリエンテーション ○生活科 I の学習概要について ○受講のルールについて ○シラバスの解説			○生活科的、自己紹介（子ども向け）を考えてくる（90 分）											
【第 2 回】	生活科の特徴とは ○『単元名』から考える			○本時のふり返りと学びのまとめ（90 分）											

	○グループワークで情報交換 ○ワークシートの作成	
【第3回】	teacher or educator の問題 ○『身近な生きもの探検』から ○グループワークで情報交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第4回】	生活科のキーワード ○『気づき』の重要性 ○実践事例：「チューリップの観察」について検討する。 ○グループワークで情報交換 ○ワークシートの作成	○小課題：「小ープロブレム」について調べ、A4；1枚の小レポート作成をする（180分）
【第5回】	「小ープロブレム」について考える ○グループワークで情報交換と討議 ●小課題：「小ープロブレム」についての提出 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第6回】	子どもたちの発達と生活科 ○「絵」を比較検討して、子どもたちの発達と低学年特有の学習意欲について考える ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第7回】	生活科のねらい ○「気付き」とその階層について考える ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第8回】	生活科の教科目標① ○「目標設定」とその背景について考える ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	◎小課題：「町探検」と子どもの対応について考えをまとめ、A4；1枚の小レポート作成をする（240分）
【第9回】	生活科の教科目標② ○「目標」の分類と特徴 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第10回】	生活科と体験活動① ○実践事例：「○○の芽はどこから出るのか?!」について検討する。 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第11回】	生活科と体験活動②	◎グループワーク；アンケートの仕上げ（240

	○子どもたちの生活や体験をするためにアンケートをつくる。 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	分)
【第12回】	生活科と体験活動③&内容の全体構成 ○作成したアンケートの発表と討議 ●アンケート用紙の提出（各グループごと） ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第13回】	生活科年間指導計画 ○年間計画作成上の配慮事項 ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りと学びのまとめ（90分）
【第14回】	○年間計画作成上の配慮事項 ○グループワークで情報交換と討議の続き ○まとめのテスト	○本時のふり返りと学びのまとめ（60分）
【第15回】	これまでの学びの総まとめ ○グループワークで情報交換と討議 ○ワークシートの作成	○学習の総まとめ（180分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED301-A01	2.科目名	初等社会科教育法 (編入学生用)		3.単位数	2															
4.授業担当教員	松尾和宣																				
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期																
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～																
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許		11.先修条件																		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※																	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義																	
16.履修制限																					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として社会科の目標を理解し、授業の基礎を身に付けることを目的とします。 【概要】 ○小学校社会科の基本理念（目標・内容等）について学ぶ。 ○学習内容に応じた指導計画の作成法。指導計画に基づく指導案の作成。 ○作成した指導案の検討・分析などを通して、授業技術について学ぶ。 ○模擬授業やグループワークなどの体験を通して、授業の奥深さ、面白さを体感する。																				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DPの(1) 自律的で主体的な態度 (6) 専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 ①小学校社会科の全体目標や学年目標、各学年の学習内容などを説明することができる。 ②小学校社会科の目標に則し授業計画を立案することができる。 ③グループワークとして相互に模擬授業を提案する ④知り得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心をもち教材開発ができる																				
19.教科書・教材	①適宜、資料を配布します ②その他関連サイトの URL や関連資料について授業中に適宜紹介します																				
20.参考文献	○文部科学省学習指導要領（社会編） ○講義の中で適宜提示する																				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです <table border="0"> <tr> <td>・ 毎時間の授業ワークシートの作成</td> <td>20%</td> <td>【学習目標①に対応】</td> </tr> <tr> <td>・ 課題1：社会科新聞「わたしのまち自慢」</td> <td>10%</td> <td>【学習目標④に対応】</td> </tr> <tr> <td>・ 課題2：指導略案①</td> <td>15%</td> <td>【学習目標②③に対応】</td> </tr> <tr> <td>・ 課題3：指導略案②</td> <td>15%</td> <td>【学習目標②③に対応】</td> </tr> <tr> <td>・ 総括試験</td> <td>40%</td> <td>【学習目標①⑤に対応】</td> </tr> </table>						・ 毎時間の授業ワークシートの作成	20%	【学習目標①に対応】	・ 課題1：社会科新聞「わたしのまち自慢」	10%	【学習目標④に対応】	・ 課題2：指導略案①	15%	【学習目標②③に対応】	・ 課題3：指導略案②	15%	【学習目標②③に対応】	・ 総括試験	40%	【学習目標①⑤に対応】
・ 毎時間の授業ワークシートの作成	20%	【学習目標①に対応】																			
・ 課題1：社会科新聞「わたしのまち自慢」	10%	【学習目標④に対応】																			
・ 課題2：指導略案①	15%	【学習目標②③に対応】																			
・ 課題3：指導略案②	15%	【学習目標②③に対応】																			
・ 総括試験	40%	【学習目標①⑤に対応】																			
22.コメント	○授業とは奥深いものです。この講義を通して、社会科学学習のおもしろさ、難しさなどを一緒に体験しましょう。小学校学習指導要領での授業改善の視点として挙げられている「主体的・対話的で深い学び」について皆さんと共に考えを深めていきたいと思います。1時間目から15時間目までしっかり出席して、仲間と時間と場を共有できる人を待っています。																				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応をします。																				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																	

【第1回】	オリエンテーション ・受講のルールについて ・講義の概要について（シラバス） ・小学校社会科の目標について ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第2回】	社会科指導計画・指導案の作成 具体的な手順・作成方法 ・「一枚の絵」を使った授業（「3・4年生の内容」から） ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第3回】	3・4年の学習内容と指導計画づくり ・実践事例研究：「〇〇施設って」 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○小課題①（120分） ○本時のふり返りとまとめ（60分）
【第4回】 5/2	3・4年の学習内容と指導案づくり① ・実践事例研究：「地図」の授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第5回】	3・4年の学習内容と指導案づくり② ・実践事例研究：「都道府県名」の授業① ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第6回】	3・4年の学習内容と指導案づくり③ ・実践事例研究：「都道府県名」の授業② ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第7回】	3・4年の学習内容と指導案づくり④ ・実践事例研究：「スーパーマーケットで働く人」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第8回】	3・4年の学習内容と指導案づくり⑤ ・実践事例研究：「スーパーマーケットで働く人」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○小課題1「お店の仕事」指導略案作成

【第 9 回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑥ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業①～標識あれこれ～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 10 回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑦ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業②～火事を防ぐ～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	◎小課題②「写真から指導略案をつくる」（180 分） ○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 11 回】	3・4 年の学習内容と指導案づくり⑧ ・実践事例研究：「安全なくらし」の授業③～尼崎市の火災統計から～ ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 12 回】	指導計画・指導案づくり①（模擬授業に向けて） ・実践事例研究：「健康なくらし」の授業① ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 13 回】	指導計画・指導案づくり②（模擬授業に向けて） ・実践事例研究：「昔のくらし」の授業 ・プチ模擬授業 ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 14 回】	総括試験 「むかしのくらし」模擬授業ふりかえり	
【第 15 回】	総まとめ ◎グループでの情報交換と作業 ・ワークシートの作成	○ 全時のふり返りと総まとめ（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED302-A01	2.科目名	初等算数科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	< 授業の概要 > 小学校で実際に算数の授業を行うこと（教育実習含む）を念頭に置いて、それに必要な知識・技能・考え方について、学習指導要領等を踏まえて理論的に学ぶとともに、模擬授業づくりなどのグループワークや演習を通して実践的に磨いていく。 < 授業の目的 > 算数科における教育目標、目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる数学の理論や法則と関連させて理解を深めるとともに算数教育の理論をはじめとしたさまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連：問題発見解決力、専門知識の活用力 (学修目標) ①学習指導要領における算数科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 ②学習内容について指導上の留意点や評価の考え方を理解している。 ③数学の理論や法則（中・高で学ぶ内容を含む）との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 ④子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ⑤算数の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ⑥学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ⑦模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。					
19.教科書・教材	必要に応じて、プリント等を用意します					
20.参考文献	小学校学習指導要領解説（算数編）					
21.成績評価	○ワークシート：15%…①②③④ ○小課題「算数科1 単元についての教材観」：10%…①③④ ○ICT を活用した算数教材づくり：15%…①③⑤ ○模擬授業：20%…②④⑤⑦ ○模擬授業の展開例：15%…⑥ ○模擬授業指導案：15%…⑥⑦ ○模擬授業の振り返り：10%…②④⑤⑦					
22.コメント	○グループを組んで学習を進めていきます。座席を指定します。 ○よりよい算数の授業について考えよう。 算数 I および、これまでに学んだ教職科目（教育学概論、発達心理学、教育心理学、教職概論 初等教育課程論 初等教育方法論 等）について復習したうえで受講してほしいと考えています。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 オリエンテーション ・授業の概要、学修目標、授業の進め方	○小学校学習指導要領解説（算数編）第2章第1節「算数科の目標」と小学校算数教科書（図書館にある）に目を通し、双方に書かれていることがどのようにつながっているのか考えておく。（120分）
	第2回 学習指導要領を検討しよう ・算数教育の目標 具体的な算数科の内容を意識しながら、指導要領に書かれた算数教育の目標の意味するところを解釈し、6年間で児童にどんな学力を身につけさせるべきか検討する。	○指導要領に書かれた「第○学年の目標」が具体的に児童のどのような状態を示しているのか教科書の記述などを参考にしながら具体例を考えておく。（180分） ○小学校学習指導要領解説（算数編）第2章、第3章に目を通し、各領域（数と計算、量と測定、図形、数量関係）の系統性を整理し、中・高校の内容にどのようにつながっていくのか考えておく。（120分）
	第3回 学習指導要領を検討しよう ・算数教育の内容 学習指導要領解説（算数編）を基にしながら、各学年の内容を検討し6年間の算数教育の系統性や指導上の留意点について考察する。また、中学校・高校で学ぶ数学の内容や数学的理論・法則との繋がりについても整理する。	
	第4回 授業づくりの方法を学ぼう ・教材研究の意義と方法 算数授業の作り方、考え方、また教材研究、について学ぶ ・教具、学習の形態・方法について ICTを活用した、教材作りや授業方法またアクティブラーニングを取り入れた学習形態・方法についての考え方や留意点について実践例を検討しながら学ぶ。	○第4回まで内容踏まえ、指定する算数科単元について教材研究し、教材観としてまとめる。（360分）WebClass 提出（詳細は授業で説明）
	第5回 授業づくりの方法を学ぼう ・授業の技術（発問、板書、教具） 発問、板書などの指導技術や教具等、実際に授業を作っていくうえで必要な具体的知識・技能・考え方について学ぶ。	
	第6回 指導計画・指導案作成の方法 ・指導と評価の一体化を目指した授業計画 学習評価の意義と考え方、観点別の指導目標と評価規準の作り方、評価を見据えた授業の進め方等、指導と評価の一体化の視点に立った単元及び本時の指導案作りについて学ぶ。 ・良い指導案の書き方とそれに向けての考え方 指導案を書く目的や意義やよい授業につながる分かりやすい指導案作成の方法について、具体例を参照しながら学ぶ ・模擬授業に向けて グループ分け、担当学年・教材の選択	◎選択した教材を分析し、模擬授業の構想を話しあう（180分）
	第7回 授業を見る目を養おう	◎選択した教材を分析し、模擬授業の構想を

	実際に行われた授業の記録（教師の発問と児童の発言）を読みながら、教師の意図やねらい、技術について検討する	話しあう（１８０分）
	第８回 授業を見る目を養おう 達人（経験豊富な教員）の授業映像を観察しその意図やねらい、技術について検討する。	◎模擬授業台本づくりにむけて、具体的な発問や児童の反応を細かく予想しておく（１８０分）
	第９回 算数授業をつくろう① ・前時で行った構想に基づいて、指導と評価の計画、および具体的な授業の台本や板書計画をつくる ・必要に応じて教具なども作成する	◎模擬授業台本、板書計画を完成し、リハーサルを行うなど具体的に準備する（３００分）
	第１０回 算数授業をつくろう② ・前時で行った構想に基づいて、指導と評価の計画、具体的な授業の台本や板書計画をつくる ・必要に応じて教具なども作成する	◎模擬授業台本、板書計画を完成し、リハーサルを行うなど具体的に準備する（３００分）
	第１１回 模擬授業をしよう ・いくつかの班で１つの大きなグループを作り、１班ずつ残りの班の学生相手に模擬授業を行う。 ・１班３０分程度×２班が発表する ・発表後、全員で授業について検討を行い優れた点や問題点を出し合う	○模擬授業後の検討を踏まえ、振り返りをまとめる。（３６０分）WebCiassへ提出
	第１２回 模擬授業をしよう ・いくつかの班で１つの大きなグループを作り、１班ずつ残りの班の学生相手に模擬授業を行う。 ・１班３０分程度×２班が発表する ・発表後、全員で授業について検討を行い優れた点や問題点を出し合う	○模擬授業後の検討を踏まえ、振り返りをまとめる。（３６０分）WebCiassへ提出
	第１３回 模擬授業をしよう ・いくつかの班で１つの大きなグループを作り、１班ずつ残りの班の学生相手に模擬授業を行う。 ・１班３０分程度×２班が発表する ・発表後、全員で授業について検討を行い優れた点や問題点を出し合う	○模擬授業後の検討を踏まえ、振り返りをまとめる。（３６０分）WebCiassへ提出
	第１４回 模擬授業の振り返り ・班ごとに、模擬授業を振り返り、目標、教材、指導方法、発問、板書、評価などについて再度検討する。 ・検討の結果をもとに、指導案を修正する。	○教材観、本時展開例を修正するとともに児童観、指導観、指導と評価の計画等を加筆し、模擬授業指導案を完成させる。（３６０分）WebCiassへ提出する。（詳細は授業で提示）
	第１５回 まとめ １４回の授業をふりかえり、児童にとっても教師（自分自身）にとっても「よい」算数の授業を行うために、課題とすべき点についてできるだけ具体的に検	○教材観、本時展開例を修正するとともに児童観、指導観、指導と評価の計画等を加筆し、模擬授業指導案を完成させる。（３６０分）WebCiassへ提出する。（詳細は授業で提示）

	話し、交流しあう。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED303-A01	2.科目名	初等理科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) 小学校理科では、見通しを持って観察、実験などを行い、自然を愛する心情を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養うことが目標である。指導にあたっては、①日常生活と関連付けするなど児童が自分なりの考えを持って学習に臨むこと、②自然に親しめるよう楽しく学習できること、が重要である。本講義では、この2点重点を置き、小学校理科の指導に関して、教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、小学校理科の学習内容に関する理解を深めるとともに、評価方法や教材研究の方法を知り、授業設計を行う力を見につけることをねらいとする					
18.学習目標と DPとの関連	①小学校理科の目標及び内容を理解し、資料を用いながら説明することができる。 ②小学校理科の指導方法及び安全指導について理解し、その要点を説明することができる。 ③指導計画、指導案の作成方法を理解し、具体的な授業を想定した指導案とTP案を作成することができる。 ④小学校理科の内容理解のために、物理学の基礎的な現象を理解し、授業で取り扱った問題を解くことができる。					
19.教科書・教材	＊下記の教科書を必ず購入してください。ただし、2020 年度以降のものであれば最新版でなくても構いません。 【教科書】・オープンセサミシリーズ教員採用試験対策参考書 6 小学校全科【教科書販売あり】(授業内の演習で使します。) 【参考書】・教職教養の要点理解 2025 年度版 (時事通信社)【教科書販売あり】採用試験対策として活用してください。 【その他】 ・小学校学習指導要領解説理科編 (文部科学省、インターネットからダウンロード可)、小学校理科の観察、実験の手引き詳細 (文部科学省、インターネットからダウンロ					
20.参考文献	・小学校の教科書 (3、4、5、6 学年) ・「今こそ理科の学力を問う」日本理科教育学会、東洋館出版社 (2012/8/10) ISBN-13: 978-4491028279 ・「現代理科教育改革の特色とその具現化―世界の科学教育改革を視野に入れて」橋本 健夫、川上 昭吾、鶴岡 義彦、東洋館出版社 (2010/08) ISBN-13: 978-4491025803 ・「クラスが元気になる! 「学び合い」スタートブック」西川 純、学陽書房 ISBN-13: 978-4313652101					
21.成績評価	1. 学習成果レポート (25%) ワークシートに指示された内容を記述し、期日までに提出する。 2. 模擬授業 (10%) グループ 授業を分かりやすくするための教材準備を行い、模擬授業をグループ員と協力して行うことができる。 3. 中間試験 (15%) 小学校理科の目標、内容、指導方法、安全指導について、資料を閲覧しながら説明でき					

	る。物理学の基礎的な現象について、問題を解くことができる。 4. 学習指導案、TP 案（10%） 指導案をグループ員と協力して作成することができ、その内容に従い、個人でTP案を作る。	
22.コメント	・科学技術は日々進歩し生活を豊かにしてきましたが、課題も多くさらなる発展が必要です。また、科学的な見方・考え方や理科教育法の方法は日常生活のいろいろな場面で役に立つとともに、他の教科の指導にも有効です。身近で楽しい理科授業の実践のために、理科教育法の基礎を楽しみながら学んで下さい。 ・予備実験や試してみたい実験があれば、理科室の利用が可能です。 * 対面授業が出来ない場合は、授業方法・内容を大きく組み替えます。 成績評価の割合は、別途授業中に示しますが、Webclass への提出物が大きな割合を占めますので、提出物をきちんと提出してください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ 初等理科教育法の目的、方針について ・ 成績評価について ・ 理科教育の目的、歴史	○ 現行の学習指導要領解説 理科編の第 2 章第 1 節までを読み、理科の目標についてまとめること。(60 分)
第 2 回	学習指導要領と理科の内容 ・ 現行の学習指導要領の目標と内容 ・ 学習指導要領の変遷 ・ 国際比較調査と中央教育審議会の答申	○ 授業における観察、実験の役割と実験に対する自身の考えをまとめること。(60 分)
第 3 回	理科教育の指導方法 ・ 理科の指導方法と観察・実験の役割 ・ 子どもとのコミュニケーション ・ 理科の評価方法 ・ 教材研究への取り組み方 1（教育内容・キーワード、ねらい、基本実験、身近な教材、最先端科学、学び合い）	○ 物理基礎 1 の範囲の予習。(60 分)
第 4 回	授業設計基礎 1 ・ 単元構成と授業設計 ・ 物理基礎 1	○ 物理基礎 2 の範囲の予習。(60 分) ○ 実験・野外学習の際の安全に関する課題。(90 分)
第 5 回	授業設計基礎 2 ・ 理科学習指導案の内容と作成方法、情報機器の活用方法 ・ 教材研究への取り組み方 2 ・ 物理基礎 2	○ 物理基礎 3 の範囲の予習。(60 分)
第 6 回	授業設計基礎 3 ・ 発問の重要性及び TP 案の意義と作成方法 ・ 教材研究への取り組み方 3 ・ 物理基礎 3	◎ 次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180 分) ○ 物理基礎 4 の範囲の予習。(60 分)
第 7 回	中間試験 ・ 中間試験（学習指導要領、理科教育方法及び物理基礎 4 まで） ・ 安全指導の基本と発展	中間試験の準備をしっかりと行うこと。(120 分)
第 8 回	教材研究と実践 1	◎ 次回までに担当グループは模擬授業の準備

	・理科内容（3年）、模擬授業 ・物理基礎4	を行うこと。(180分) ○物理基礎5の範囲の予習。(60分)
第9回	教材研究と実践2 ・理科内容（4年）、模擬授業 ・物理基礎5	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180分) ○物理基礎6の範囲の予習。(60分)
第10回	教材研究と実践3 ・理科内容（5年）、模擬授業 ・物理基礎6	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180分) ○物理基礎7の範囲の予習。(60分)
第11回	教材研究と実践4 ・理科内容（5年）、模擬授業 ・物理基礎7	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180分) ○物理基礎8の範囲の予習
第12回	教材研究と実践5 ・理科内容（6年）、模擬授業 ・物理基礎8	◎次回までに担当グループは模擬授業の準備を行うこと。(180分) ○物理基礎9の範囲の予習。(60分)
第13回	教材研究と実践6 ・理科内容（6年）、模擬授業 ・物理基礎9	○物理基礎10範囲の予習。(60分)
第14回	・理科指導のポイント ・物理基礎10	・総括試験の準備をしっかりと行うこと。 (120分)
第15回	初等理科教育法の振り返り ・理科の教育目標と理科教育研究 総括試験 試験内容： ・実験や野外活動における安全管理 ・学習指導案に関して ・TP案 ・物理基礎4～10	

1.授業コード (ナンバリング)	PED304-A01	2.科目名	初等生活科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として生活科の目標を理解し、指導法の基礎を身に付けることを目的とします 【概要】 ○生活科の基本理念について理解する。 ○生活科の学習指導に必要な基礎知識や教育技術について学ぶ ○生活科の学習内容に応じた指導計画の作成法。指導計画に基づく指導案の作成法について学ぶ ○作成した指導案の検討・分析などを通して、授業技術について学ぶ ○発表活動やグループワークなどを通して、授業のおもしろさ難しさなどの体験をする。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は D P の（1）自律性 （2）専門的知識・技能の学習に関連しています。 ①生活科の理念や成り立ち、変遷について興味を持ち、生活科の基本理念について説明することができる。 ②生活科の目標に則した授業プランを立案することができる ③グループワークとして相互に模擬授業を提案することができる ④知り得た内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心をもち教材開発ができる					
19.教科書・教材	講義の中で適宜提示					
20.参考文献	○文部科学省小学校学習指導要領（生活） ○適宜資料を配布					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークの作成 2 0 % ・指導作成案① 2 0 % ・指導案作成② 2 0 % ・総括試験 4 0 %					
22.コメント	○毎時間、パソコンとイヤホン（ヘッドフォン）を準備しておきましょう。 ○低学年の子どもたちの発達特性に応じた、「生活科」の学習は、とてもおもしろいですよ。講義と言うものは、出てナンボの世界です。1 時間目から 1 5 時間目まで、しっかりと出席する意欲で受講してください。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応をします。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	○オリエンテーション 講義の概要と受講のルールについて ・ 受講のルールについて ・ 講義の概要についての説明（シラバス）	○小課題：生活科的自己紹介の作成（90分）
【第2回】	生活科の変遷 ・ 「単元名クイズ」 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第3回】	生活科の基本理念 ・ 「生活科ができて一番困ったのは？」 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第4回】	生活科設立の背景 ・ 実践事例研究：「学校探検」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第5回】	生活科と幼小の連携～小1ギャップの問題～ ・ 実践事例研究：「アサガオの栽培①」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○課題：「アサガオwぽそだてよう」指導案作成（90分）
【第6回】	グループでの中間まとめ①（小レポート作成） ・ 実践事例研究：「アサガオの栽培②」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第7回】	生活科「ヒト・モノ・コト」に関わる力 ・ 実践事例研究：「アサガオの栽培③」の検討 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分）
【第8回】	生活科の学習内容～生活実態調査から～ ・ 子どもの生活実態についての意見交換 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分） ◎生活調査のアンケート作成（180分）
【第9回】	生活科授業の指導案づくり① ・ 実践事例研究：「身近な植物探検」 ◎グループでの情報交換 ・ ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90分） ◎「指導案」の作成（180分）

【第 1 0 回】	生活科授業の指導案づくり② ・実践事例研究：「身近な生き物その①」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分） ◎「身近な自然」についての調査（180 分）
【第 1 1 回】	生活科の内容理解を深める① ・実践事例研究：「身近な生き物その②」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 1 2 回】	生活科の内容理解を深める② ・実践事例研究：「花や実の汁で遊ぼう」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：指導案作成「身近なものを使ってあそぼう」（90 分）
【第 1 3 回】	生活科の内容理解を深める② ・実践事例研究：「石で遊ぼう」 ◎グループでの情報交換 ・ワークシートの作成	○自己課題：本時のふり返りとまとめ（90 分） ◎単元計画の作成（180 分）
【第 1 4 回】	テスト＆レポート	
【第 1 5 回】	講義の総まとめ ・生活科の内容の階層性	○自己課題：総まとめ（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED307-A01	2.科目名	理科Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教員免許状取得予定者			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	人数上限：理科室収容人数				
17.授業の目的と概要	本演習では、主として、A 物質・エネルギーの領域で小学校理科の指導を行う上で、教師として習得していなければならない基本的な実験のスキルを中心に学びます。 また、小学校 4、5、6 年生の題材を取り上げ、模擬授業を行います。				
18.学習目標と DPとの関連	安全に留意し、主体的に実験に取り組む事ができる。 理科学習指導案を作成し、模擬授業を行う事ができる。 化学の基礎について理解できる。				
19.教科書・教材	・小学校理科の観察、実験の手引き詳細（文部科学省、インターネットからダウンロード可）、配布資料				
20.参考文献	・小学校の教科書（4、5、6 学年）				
21.成績評価	1 各実験等の後の実験レポートの評価（webclass へ提出） 40% 2 模擬授業の授業づくり（ワークシート、指導案、評価資料及び模擬授業評価） 20% 3 模擬授業（ワークショップによる授業分析） 20% 4 小テスト（化学基礎） 20%				
22.コメント	小学校で行われている実験と模擬授業を中心にを行います。小学校教諭志望の学生はぜひ履修してください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション ・理科Ⅰの演習概要（扱う小学校理科教材） ・HG（ホームグループ）編成				
第 2 回	小 4「電気の働き」、小 5「電磁石の働き」、「ものの溶け方」小 6「水溶液の性質」等について、「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。			○小 4 「金属、水、空気と温度」の実験について、実験 1～3 の実験を「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。（ 実験レポート提出 20 分）	
第 3 回	小 4「金属、水、空気と温度」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。			○小 4 「金属、水、空気と温度」の実験について、実験 6～8 の実験を「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。（ 実験レポート提出 20 分）	
第 4 回	小 4「電気の働き」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。			○小 4 「電気の働き」の実験について、実験 1～3 の実験を「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験	

		レポートとして提出する。(実験レポート提出 20分)
第5回	小5「物の溶け方」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。	○小5「物の溶け方」の実験について、実験1~3の実験を「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。(実験レポート提出 20分)
第6回	小5「物の溶け方」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。	○小5「物の溶け方」の実験について、実験4~5の実験を「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。(実験レポート提出 20分)
第7回	小5「電流の働き」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。	○小5「電流の働き」の実験について、実験1~2の実験を「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。(実験レポート提出 20分)
第8回	小6「燃焼の仕組み」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。	○小5「燃焼の仕組み」の実験について、実験1~2の実験を「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。(実験レポート提出 20分)
第9回	小6「水溶液の性質」の実験について、「観察・実験の手引き」に基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。	○小5「水溶液の性質」の実験について、実験1~2の実験を「観察・実験の手引きに基づき、小学校で扱う基本的な理科実験を行い、指導方法、安全指導の在り方を検討し、実験レポートとして提出する。(実験レポート提出 20分)
第10回	1 理科実験における安全指導 2 自然と学校における安全・安心	○学習指導案作成のための題材を選定し提出する。(実験レポート提出 20分)
第11回	指導計画(指導案、ワークシート、その他の教材)を作成し、各自模擬授業の準備をする。	○ 授業記録(指導計画案)を作成し、提出する。
第12回	小テスト ・化学基礎 ・理科実験の基本と注意事項	
第13回	模擬授業を実施し、ワークショップ形式の授業分析を行う。	○ 授業分析シート(ワークシート ワークショップのまとめ)を提出。 ○ 授業分析表を作成し、提出。
第14回	模擬授業を実施し、ワークショップ形式の授業分析を行う。	○ 授業分析シート(ワークシート ワークショップのまとめ)を提出。 ○ 授業分析表を作成し、提出。
第15回	模擬授業を実施し、ワークショップ形式の授業分析を行う。	○ 授業分析シート(ワークシート ワークショップのまとめ)を提出。

		○ 授業分析表を作成し，提出。

1.授業コード (ナンバリング)	PED311-A01	2.科目名	ボランティア実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	中学校教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教師としての資質向上をめざす態度を育成し、また、人間尊重について理解するために、実習施設である社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状などを理解するとともに、対象者の生活、障害の状況、特性など全体像の把握する。 ★ 体験は社会福祉施設で 5 日間、特別支援学校で 2 日間の計 7 日間実施する。(2024 年度は感染症の影響で特別支援学校での体験のみ)					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状を理解する。 ②社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心を持ち、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる。 ③社会福祉施設及び特別支援学校において、現場で求められるニーズに対して、他者と協働して積極的に行動できる。 ④教師としての資質向上する態度を身に付ける。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 5 訂版』 現代教師養成研究会編 大修館書店					
20.参考文献	適宜提示する。					
21.成績評価	体験計画書等の以下の提出物と、体験の総合評価による。(※感染症や介護等体験受け入れ先の状況により成績評価が変更になる場合がある) 1. 講義と体験の振り返りレポート 50%【学習目標①②③④に対応】 2. 計画書（10%×2 回） 20%【学習目標①に対応】 3. 介護等体験 30%【学習目標①②③④に対応】 4. 授業時のワークシート等が未提出の場合は減点 ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる。					
22.コメント	1 回目の授業時に授業内容と介護等体験のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。また、印鑑と昨年度の介護等体験のオリエンテーション時に配布された介護等体験に関するファイル持参すること。 体験証明書は、体験終了後に教職教育推進室（尼崎キャンパス 4 階）に提出しなければならない（小中教員免許申請に必要）。 生成 AI の活用は条件付きで認める。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになるので、注意すること。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション… 教科書 pp.8-10			○実習前までに、実習先（特別支援学校、社		

	・介護等体験実習の意義、この授業でのベンチマークなどについて理解する。	会福祉施設)の情報を収集するとともに、実習の目標をたてる。(随時)(240分) ○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.11-29 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第2回】	教師としての資質 … 教科書 pp.12-17 ・教師として必要な資質・能力について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.30-47 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第3回】	介護等体験への臨み方 … 教科書 pp.18-33 ・実習体験と手順、実習課題と自己目標の設定、実習記録の書き方、実習に関する注意について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-61 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第4回】	特別支援学校での介護等体験 … 教科書 pp.34-45 ・特別支援教育の歴史、特別支援学校の概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.62-73 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第5回】	社会福祉施設での介護等体験 … 教科書 pp.46-58 ・社会福祉施設の歴史と概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分)
【第6回】	特別支援学校実習① ・特別支援学校での実習(その1)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第7回】	特別支援学校実習② ・特別支援学校での実習(その2)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第8回】	社会福祉施設実習① ・社会福祉施設での実習(その1)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第9回】	社会福祉施設実習② ・社会福祉施設での実習(その2)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第10回】	社会福祉施設実習③ ・社会福祉施設での実習(その3)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第11回】	社会福祉施設実習④ ・社会福祉施設での実習(その4)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第12回】	社会福祉施設実習⑤ ・社会福祉施設での実習(その5)	○実習で学んだことを整理し、振り返りを行い、教育実習における課題を設定する。(随時)(120分)
【第13回】	介護等体験についての報告 ・介護等体験の内容と学んだことについて報告する。また、報告者の内容から学ぶ。	○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-86 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第14回】	実習総括、実習課題と自己目標について … 教科書 pp.60-70	○今回の授業の復習をする。(120分) ○介護等体験経験者の報告内容を通して、自

	・実習後の心得を学ぶ。	らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。 (120 分)
【第 15 回】	介護等体験実習のまとめ、実習記録物の提出（実習が終わったときに随時） ・介護等体験と講義の振り返りと提出物の確認をする。	○最終レポートの作成（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED311-M01	2.科目名	ボランティア実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	中学校教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	中学教員免許取得には必須。 高校教員免許のみの場合は不要。 教職履修登録者以外は不可。 事前に、介護等体験への参加申し込みが必要。		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教師としての資質向上をめざす態度を育成し、また、人間尊重について理解するために、実習施設である社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状などを理解するとともに、対象者の生活、障害の状況、特性など全体像の把握する。 ★ 実習は社会福祉施設で 5 日間、特別支援学校で 2 日間の計 7 日間実施する。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状を理解する。 ②社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心を持ち、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる。 ③社会福祉施設及び特別支援学校において、現場で求められるニーズに対して、他者と協働して積極的に行動できる。 ④教師としての資質向上する態度を身に付ける。					
19.教科書・教材	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 5 訂版』 現代教師養成研究会編 大修館書店					
20.参考文献	適宜提示する。					
21.成績評価	実習計画書等の提出物、実習の総合評価による。 1. 小課題（4%×5 回） 20%【学習目標①②③④に対応】 2. 講義と実習の振り返りレポート 20%【学習目標①②③④に対応】 3. 計画書（5%×2 回） 10%【学習目標①に対応】 4. 実習評価（特別支援学校 15%、社会福祉施設 35%） 50%【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	1 回目の授業時に授業内容と介護等体験実習のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 また、昨年度の介護等体験のオリエンテーション時に配布された介護等体験に関するファイル持参すること。 各実習証明書、記録日誌は、実習終了後に学修支援センターに提出しなければならない（小中教員免許申請に必要）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション… 教科書 p11 まで ・介護等体験実習の意義、この授業でのベンチマークなどについて理解する。			○実習前までに、実習先（特別支援学校、社会福祉施設）の情報を収集するとともに、実習の目標をたてる。(随時) (240 分) ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.11-29 を読ん		

		で、わからないところをチェックする。(120分)
【第2回】	教師としての資質 … 教科書 pp.12-17 ・教師として必要な資質・能力について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.30-47 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第3回】	介護等体験への臨み方 … 教科書 pp.18-33 ・実習体験と手順、実習課題と自己目標の設定、実習記録の書き方、実習に関する注意について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-61 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第4回】	特別支援学校での介護等体験 … 教科書 pp.34-45 ・特別支援教育の歴史、特別支援学校の概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.62-73 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第5回】	社会福祉施設での介護等体験 … 教科書 pp.46-58 ・社会福祉施設の歴史と概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分)
【第6回】	特別支援学校実習① ・特別支援学校での実習(その1)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第7回】	特別支援学校実習② ・特別支援学校での実習(その2)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第8回】	社会福祉施設実習① ・社会福祉施設での実習(その1)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第9回】	社会福祉施設実習② ・社会福祉施設での実習(その2)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第10回】	社会福祉施設実習③ ・社会福祉施設での実習(その3)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第11回】	社会福祉施設実習④ ・社会福祉施設での実習(その4)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第12回】	社会福祉施設実習⑤ ・社会福祉施設での実習(その5)	○実習で学んだことを整理し、振り返りを行い、教育実習における課題を設定する。(随時)(120分)
【第13回】	介護等体験についての報告 ・介護等体験の内容と学んだことについて報告する。また、報告者の内容から学ぶ。	○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-86 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第14回】	実習総括、実習課題と自己目標について … 教科書 pp.60-70 ・実習後の心得を学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分)
【第15回】	介護等体験実習のまとめ、実習記録物の提出(実習が	○最終レポートの作成(240分)

	終わったときに随時) ・介護等体験と講義の振り返りと提出物の確認をする。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED311-y01	2.科目名	ボランティア実習		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	中学校教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	中学校教員免許取得に必須。 高等学校のみの場合は不要。 教職志望者以外は不可（介護等体験 の事前申し込みが済んでいることが 必須）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教師としての資質向上をめざす態度を育成し、また、人間尊重について理解するために、実習施設である社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状などを理解するとともに、対象者の生活、障害の状況、特性など全体像の把握する。 ★ 実習は社会福祉施設で 5 日間、特別支援学校で 2 日間の計 7 日間実施する。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①社会福祉施設や特別支援学校の役割と機能、現状を理解する。 ②社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心を持ち、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って感じる、考える、想像するなどの共感的な態度や理解ができる。 ③社会福祉施設及び特別支援学校において、現場で求められるニーズに対して、他者と協働して積極的に行動できる。 ④教師としての資質向上する態度を身に付ける。					
19.教科書・教材	『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 5 訂版』 現代教師養成研究会編 大修館書店					
20.参考文献	適宜提示する。					
21.成績評価	実習計画書等の提出物、実習の総合評価による。 1. 小課題（4%×5 回） 20%【学習目標①②③④に対応】 2. 講義と実習の振り返りレポート 20%【学習目標①②③④に対応】 3. 計画書（5%×2 回） 10%【学習目標①に対応】 4. 実習評価（特別支援学校 15%、社会福祉施設 35%） 50%【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	1 回目の授業時に授業内容と介護等体験実習のオリエンテーションを行うので、必ず出席すること。 また、昨年度の介護等体験のオリエンテーション時に配布された介護等体験に関するファイル持参すること。 各実習証明書、記録日誌は、実習終了後に学修支援センターに提出しなければならない（小中教員免許申請に必要）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション… 教科書 p11 まで ・介護等体験実習の意義、この授業でのベンチマークなどについて理解する。			○実習前までに、実習先（特別支援学校、社会福祉施設）の情報を収集するとともに、実習の目標をたてる。(随時) (240 分) ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.11-29 を読ん		

		で、わからないところをチェックする。(120分)
【第2回】	教師としての資質 … 教科書 pp.12-17 ・教師として必要な資質・能力について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.30-47 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第3回】	介護等体験への臨み方 … 教科書 pp.18-33 ・実習体験と手順、実習課題と自己目標の設定、実習記録の書き方、実習に関する注意について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.48-61 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第4回】	特別支援学校での介護等体験 … 教科書 pp.34-45 ・特別支援教育の歴史、特別支援学校の概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.62-73 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第5回】	社会福祉施設での介護等体験 … 教科書 pp.46-58 ・社会福祉施設の歴史と概要、介護等体験の内容について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分)
【第6回】	特別支援学校実習① ・特別支援学校での実習(その1)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第7回】	特別支援学校実習② ・特別支援学校での実習(その2)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第8回】	社会福祉施設実習① ・社会福祉施設での実習(その1)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第9回】	社会福祉施設実習② ・社会福祉施設での実習(その2)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第10回】	社会福祉施設実習③ ・社会福祉施設での実習(その3)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第11回】	社会福祉施設実習④ ・社会福祉施設での実習(その4)	○実習の準備と振り返り(240分)
【第12回】	社会福祉施設実習⑤ ・社会福祉施設での実習(その5)	○実習で学んだことを整理し、振り返りを行い、教育実習における課題を設定する。(随時)(120分)
【第13回】	介護等体験についての報告 ・介護等体験の内容と学んだことについて報告する。また、報告者の内容から学ぶ。	○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-86 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第14回】	実習総括、実習課題と自己目標について … 教科書 pp.60-70 ・実習後の心得を学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○介護等体験経験者の報告内容を通して、自らの介護等体験を振り返る。あるいは、その内容から学び、自身の介護等体験にいかす。(120分)
【第15回】	介護等体験実習のまとめ、実習記録物の提出(実習が	○最終レポートの作成(240分)

	終わったときに随時) ・介護等体験と講義の振り返りと提出物の確認をする。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED312-A01	2.科目名	社会 I		3.単位数	2												
4.授業担当教員	松尾和宣																	
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期													
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～													
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義														
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、特に小学校 3 年・4 年生の社会科教材について、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業設計の基本を身に付けることを目的とします。 【概要】 ○学習指導要領における小学校社会科教育の目標・内容等のねらいやポイントを理解しつつ社会科の教育実践につなげる。 ・小学校社会科教育の目標・内容と具体的な実践との比較研究 ・社会科教育における資料の活用を中心として学習スキルを検討・研究する ・発表活動、グループワークなどの体験を通した指導法の研究																	
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、D P ①自律性 ④問題発見・解決力 ⑥専門的知識・技能の活用力に関連しています (1) 3 年・4 年の単元の概要について説明することができる (2) 「分かる授業」を目指し、1 時間の学習の構成を立案することができる (3) 発問・板書・ノート指導等を効果的に活用し模擬授業を行う (4) グループで模擬授業を実施し、改善策を立てることができる																	
19.教科書・教材	講義の中で適宜提示																	
20.参考文献	○文部科学省小学校学習指導要領 ○講義の中で適宜提示																	
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです <table border="0"> <tr> <td>・毎時間の授業ワークシートの作成</td> <td>20%</td> <td>《学習目標(1)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・学習指導案の作成</td> <td>20%</td> <td>《学習目標(2)(4)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・模擬授業の実施</td> <td>20%</td> <td>《学習目標(3)に対応》</td> </tr> <tr> <td>・総括試験</td> <td>40%</td> <td>《総括・ふりかえり》</td> </tr> </table>						・毎時間の授業ワークシートの作成	20%	《学習目標(1)に対応》	・学習指導案の作成	20%	《学習目標(2)(4)に対応》	・模擬授業の実施	20%	《学習目標(3)に対応》	・総括試験	40%	《総括・ふりかえり》
・毎時間の授業ワークシートの作成	20%	《学習目標(1)に対応》																
・学習指導案の作成	20%	《学習目標(2)(4)に対応》																
・模擬授業の実施	20%	《学習目標(3)に対応》																
・総括試験	40%	《総括・ふりかえり》																
22.コメント	学習指導要領を理解し、その上で資料の活用力を高め、実践力に結びつけましょう。アクティブラーニングの講義は集団思考に価値があります。従って、出てナンボの世界です。休むことは講義での時間をみんなと共有できていないことですから、1 時間目から 15 時間目までしっかりと出席しましょう！！																	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や研究室等で、受講生からの質問等への対応する																	
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)															
【第 1 回】	オリエンテーション ○社会科 I 学習内容の概要と受講のルール ○シラバスについての詳細な解説		○社会科的自己紹介クイズの作成 (90 分)															

【第2回】	新学習指導要領と教育基本法 ○学習指導要領社会科編改正の要点とポイントについて ○自己紹介クイズの発表と提出 ○ワークシートの作成	○学習指導要領社会科編の要点についてまとめる（180分）
【第3回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導① ○資料の読み取りのコツ ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○資料の読み取りのコツについてまとめる（180分）
【第4回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導② ○グラフ資料の読み取りと活用 ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○グラフ資料の読み取りの演習（180分）
【第5回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導③ ○写真資料の読み取りと活用 ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	◎資料（グラフと写真）を活用した指導略案の作成①（270分）
【第6回】	指導略案の検討会① ○各グループの指導案の発表と検討	○本時のまとめと指導案作成のふり返し（90分）
【第7回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導④ ○絵資料と写真資料の比較（それぞれの良い点とマイナスイ面他） ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○絵資料と写真資料の違いについてまとめる（180分）
【第8回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導⑤ ○地図帳の読み取り ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○地図の読み取りクイズを考える（180分）
【第9回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導⑥ ○文章資料の読み取り ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	◎資料（地図と文章資料）を活用した指導略案の作成②（180分）
【第10回】	指導略案の検討会② ○各グループの指導案の発表と検討	○本時まとめと指導案作成のふり返し（90分）

【第 1 1 回】	社会科学習スキルにおける資料の読み取り指導⑦ ○実物資料の活用 ○グループワークで意見交換 ○ワークシート	○実物資料の活用についてまとめる（180 分）
【第 1 2 回】	社会科学習スキルにおける調べ学習のコツ① ○導入の工夫、発問の工夫 ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○プチ指導案の作成（90 分）
【第 1 3 回】	社会科学習スキルにおける調べ学習のコツ② ○オープンエンドの授業 ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○プチ指導案の作成（90 分）
【第 1 4 回】	まとめのテストと指導案作成	
【第 1 5 回】	これまでの学びのまとめ ○グループワークで意見交換	○まとめのシート提出(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED316-A01	2.科目名	小学校教育実習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣、上山敏弘					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論 を受講済のこと			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験・実践するものです。 【概要】 教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の中で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 小学校教師					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP (1) 自律性 (3) 多様性理解 (6) 専門的知識・活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかりと積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる					
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本					
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック					
21.成績評価	①教育実習校での評価 70% ②実習日誌の記述 10%（評価後に返却） ③授業観察記録 10%（評価後に返却） ④資料等の整理 10%（評価後に返却）					
22.コメント	・4週間実習の人は、小学校教育実習Ⅰ 小学校教育実習Ⅱを併せて履修登録してください。 ・教育実習は、学校教育に実際の中で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	PED316-A02	2.科目名	小学校教育実習Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也				
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許（通信）	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論 を受講済のこと		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験・実践するものです。 【概要】 教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の中で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 小学校教師				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（1）自律性 （3）多様性理解 （6）専門的知識・活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかりと積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる				
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本				
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック				
21.成績評価	①教育実習校での評価 70% ②実習日誌の記述 10%（評価後に返却） ③授業観察記録 10%（評価後に返却） ④資料等の整理 10%（評価後に返却）				
22.コメント	教育実習は、学校教育に実際の中で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	PED317-A01	2.科目名	小学校教育実習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣、上山敏弘					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論 を受講済のこと			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験・実践するものです。 【概要】 教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の中で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 小学校教師					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（1）自律性 （3）多様性理解 （6）専門的知識・活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかり積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる					
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本					
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック					
21.成績評価	①教育実習校での評価 70% ②実習日誌の記述 10%（評価後に返却） ③授業観察記録 10%（評価後に返却） ④資料等の整理 10%（評価後に返却）					
22.コメント	・小学校4週間実習を希望する人は、小学校教育実習Ⅰ。小学校教育実習Ⅱを併せて履修してください。 ・教育実習は、学校教育に実際の中で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください					
23.オフィスアワー						

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	PED317-A02	2.科目名	小学校教育実習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許（通信）	11.先修条件	教育心理学 発達心理学 心理学概論 を受講済のこと			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	実習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教員になるにあたって実際の教育活動を直に体験・実践するものです。 【概要】 教育実習は、将来教師になろうとする人が、一定の期間、学校教育の実際の中で、経験豊富な教師の指導を受けながら、児童と直接交流し、実際の教育活動を身をもって体験、実践するものです。 実習において、小学校の校務や教科指導等全般にわたって理解を深め、教師の生き方や指導する姿に具体的に触れる機会であり、教師としての必要な知識、指導技術、姿勢・態度等を身に付けるための重要な役割を持っています。 小学校教師					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（1）自律性 （3）多様性理解 （6）専門的知識・活用力 ①様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解を深め、学習技術や学級経営を体験的に学ぶなどの実践演習をしっかりと積むことができる ③将来へのキャリア形成について考えることができる					
19.教科書・教材	実習校で使用している各教科の教科書及び副読本					
20.参考文献	文部科学省小学校学習指導要領 文部科学省小学校学習指導要領解説書 小学校教育実習ガイド（萌文書林） 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック					
21.成績評価	①教育実習校での評価 70% ②実習日誌の記述 10%（評価後に返却） ③授業観察記録 10%（評価後に返却） ④資料等の整理 10%（評価後に返却）					
22.コメント	教育実習は、学校教育に実際の中で、教育活動を自ら体験するもので、将来得難い経験や体験の宝庫です。教師になるために欠くことのできないものであり、責任を持って積極的に参加してください					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	PED318-A01	2.科目名	教育実習事前事後指導		3.単位数	1												
4.授業担当教員	大平誠也																	
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学 期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期													
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～													
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習														
16.履修制限	小学校教育判定で許可の出た者に限る。																	
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として教育現場での研究と指導力を身に付けることを目的とします。 【概要】 教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。さらに、人間を育てていくという学校教育の場で知っておかなければならないルールや守らなければならない規律・規則など事前に学んでおくべきことが多くある。それらを総じ																	
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP (1) 自律的で主体的な態度 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力 (6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①将来の夢や目標の実現に向けて、様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解、学習技術や学級経営を体験的に学ぶことで、実習への期待と意欲がもてるようにする																	
19.教科書・教材	・ 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック（無料） ・ 小学校教育実習ガイド（萌文書林 1890円）																	
20.参考文献	・ 文部科学省小学校学習指導要領 ・ 文部科学省小学校学習指導要領解説書 ・ 生徒指導提要																	
21.成績評価	①各回のワークシート（評価後に返却） 決められた学習終了時に課題を提示する。 課題報告書は次学習時提出する。 ②学習に積極的に、実習のための知識や技能を学ぼうとしているか（意欲・態度・熱意） ③実習で学んだことを、今後に生かそうとしているか <table border="0"> <tr> <td>・ 各回のワークシート</td> <td>50%</td> <td>(10×5回)</td> </tr> <tr> <td>・ 学習指導略案</td> <td>20%</td> <td>(5×4回)</td> </tr> <tr> <td>・ 中間レポート(実習前レポート)</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 最終レポート(実習ふりかえり)</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> </table> 中間レポート及び教育実習実施後（						・ 各回のワークシート	50%	(10×5回)	・ 学習指導略案	20%	(5×4回)	・ 中間レポート(実習前レポート)	15%		・ 最終レポート(実習ふりかえり)	15%	
・ 各回のワークシート	50%	(10×5回)																
・ 学習指導略案	20%	(5×4回)																
・ 中間レポート(実習前レポート)	15%																	
・ 最終レポート(実習ふりかえり)	15%																	
22.コメント	・ この授業は、教育実習を行うための基本的な事項を学習します。この学習で得た知識を正しく理解し、実習で実践するための大切な授業です。積極的に、欠席することなく参加し、ベンチマークを達成してください。 ・ 必ずパソコンを持参してください。																	
23.オフィスアワー																		
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)															
1 回目	「第 1 回」		○ ワークシート 1 「子どもたちの発達の															

	○オリエンテーション 学習の進め方・ルール ・評価について プロローグ 教育実習の意義 ・昨年度の教育実習から 小学校教育の概要と役割 ・小学校教員に期待されるものの 事前オリエンテーションについて ・連絡事項	姿」 ○復習 教育実習 事務手続き 1時間 ○次回予習 学校現場の1日の流れ 1時間
2回目	「第2回」 ○小学校教育実習全体の流れ ・小学校について ・小学校教育と関係法 ・文部科学省と教育委員会 ・学校現場 ・1日の流れ	○宿題 ワークシート2「特別支援教育について」 2時間
3回目	「第3回」 ○学習指導案を作成しよう？ ・算数科の授業の流れ ・3年「大きな数のわり算」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○ワークシート3「教育実習最初の挨拶は・・・（職員・全校児童・学級児童）」
4回目	「第4回」 ○算数3年「大きな数のわり算」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	課題○ ワークシート4「授業記録を書こう」（今回は授業後提出）
5回目	「第5回」 ○学習指導案を作成しよう？ ・道徳科の授業の流れ ・4年「すてきな家族に」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○復習 小学校の活動内容 1時間 ○予習 外国語活動 総合的な学習 特別活動 1時間
第6回	「第6回」 ○道徳4年「すてきな家族に」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	○宿題ワークシート6「人権教育について調べよう」 2時間
第7回	「第7回」 ○学習指導案を作成しよう？ ・国語科の授業の流れ ・3年「修飾語を使って書こう」教材研究（グループ） ・指導略案作成	◎宿題 グループワーク グループ課題「指導略案をつくろう」 各グループで2つの指導略案を作成する 5教科のうち 2教科提出 4時間 ◎宿題 挨拶作成 3時間
第8回	「第8回」 ○国語3年「修飾語を使って書こう」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施	○ワークシート8「指導略案をつくろう」 2時間

	・授業観察記録の取り方	
第 9 回	「第 9 回」 小学校現場で活躍されている先生の話聞く。 「学校現場の今～教育実習生に期待すること～」	I 講話からの学び 《レポート》
第 10 回	「第 10 回」 ○授業観察記録の取り方 ・授業 DVD 視聴 ・観察記録をとる	○ワークシート 9「研究会に向けた指導案 づくり」 3 時間
第 11 回	「第 11 回」 ○実習日誌・各記録の書き方 ○資料整理の仕方 ○挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙）《グループ ワーク》 【連絡】 今後 3 回【●月●日 ●月●日 ●月●日】 ・模擬授業集中講座 ・板書集中講座 いずれかに参加すること	○ワークシート 10「挨拶文 お礼の手紙 を書こう」
第 12 回 12 月予定	「第 12 回」 ○小学校教育実習報告 振り返り討論 ・最終レポート作成①（学んだこと・気付いたこと・考 えたこと・困ったこと・悩んだこと・感動したこと・印象 に残っていることなど） ・小グループでの協議 ・発表	実習日誌、指導案、各種記録の提出 ○各種記録の点検、整理 5 時間
第 13 回 12 月予定	「第 13 回」 ○小学校教育実習全体のまとめ ・最終レポート作成②（小学校教員について・自らの将来 について・これから目指すこと・・・） ・小グループでの協議 ・教育実習の成績評価について	課題 最終レポート 5 時間

1.授業コード (ナンバリング)	PED318-A02	2.科目名	教育実習事前事後指導		3.単位数	1												
4.授業担当教員	松尾和宣																	
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学 期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学 期													
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～													
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習														
16.履修制限	小学校教育判定で許可の出た者に限る。																	
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校教師として教育現場での研究と指導力を身に付けることを目的とします。 【概要】 教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。さらに、人間を育てていくという学校教育の場で知っておかなければならないルールや守らなければならない規律・規則など事前に学んでおくべきことが多くある。それらを総じ																	
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP (1) 自律的で主体的な態度 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力 (6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①将来の夢や目標の実現に向けて、様々な教育現場の問題点や課題を知る ②児童理解、学習技術や学級経営を体験的に学ぶことで、実習への期待と意欲がもてるようにする																	
19.教科書・教材	・ 関西国際大学小学校教育実習ハンドブック（無料） ・ 小学校教育実習ガイド（萌文書林 1890円）																	
20.参考文献	・ 文部科学省小学校学習指導要領 ・ 文部科学省小学校学習指導要領解説書 ・ 生徒指導提要																	
21.成績評価	①各回のワークシート（評価後に返却） 決められた学習終了時に課題を提示する。 課題報告書は次学習時提出する。 ②学習に積極的に、実習のための知識や技能を学ぼうとしているか（意欲・態度・熱意） ③実習で学んだことを、今後に生かそうとしているか <table border="0"> <tr> <td>・ 各回のワークシート</td> <td>50%</td> <td>(10×5回)</td> </tr> <tr> <td>・ 学習指導略案</td> <td>20%</td> <td>(5×4回)</td> </tr> <tr> <td>・ 中間レポート(実習前レポート)</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 最終レポート(実習ふりかえり)</td> <td>15%</td> <td></td> </tr> </table> 中間レポート及び教育実習実施後（						・ 各回のワークシート	50%	(10×5回)	・ 学習指導略案	20%	(5×4回)	・ 中間レポート(実習前レポート)	15%		・ 最終レポート(実習ふりかえり)	15%	
・ 各回のワークシート	50%	(10×5回)																
・ 学習指導略案	20%	(5×4回)																
・ 中間レポート(実習前レポート)	15%																	
・ 最終レポート(実習ふりかえり)	15%																	
22.コメント	・ この授業は、教育実習を行うための基本的な事項を学習します。この学習で得た知識を正しく理解し、実習で実践するための大切な授業です。積極的に、欠席することなく参加し、ベンチマークを達成してください。 ・ 必ずパソコンを持参してください。																	
23.オフィスアワー																		
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)															
1 回目	「第 1 回」		○ ワークシート 1 「子どもたちの発達の															

4/10	○オリエンテーション 学習の進め方・ルール ・評価について プロローグ 教育実習の意義 ・昨年度教育実習から 小学校教育の概要と役割 ・小学校教員に期待されるものの 事前オリエンテーションについて ・連絡事項	姿」 ○復習 教育実習 事務手続き 1時間 ○次回予習 学校現場の1日の流れ 1時間
2回目 4/17	「第2回」 ○小学校教育実習全体の流れ ・小学校について ・小学校教育と関係法 ・文部科学省と教育委員会 ・学校現場 ・1日の流れ	○宿題 ワークシート2「特別支援教育について」 2時間
3回目 4/24	「第3回」 ○学習指導案を作成しよう？ ・算数科の授業の流れ ・3年「大きな数のわり算」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○ワークシート3「教育実習最初の挨拶は・・・（職員・全校児童・学級児童）」
4回目 5/1	「第4回」 ○算数3年「大きな数のわり算」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	課題○ ワークシート4「授業記録を書こう」（今回は授業後提出）
5回目 5/8	「第5回」 ○学習指導案を作成しよう？ ・道徳科の授業の流れ ・4年「すてきな家族に」教材研究（グループ） ・指導略案作成	○復習 小学校の活動内容 1時間 ○予習 外国語活動 総合的な学習 特別活動 1時間
第6回 5/15	「第6回」 ○道徳4年「すてきな家族に」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施 ・授業観察記録の取り方	○宿題ワークシート6「人権教育について調べよう」 2時間
第7回 5/22	「第7回」 ○学習指導案を作成しよう？ ・国語科の授業の流れ ・3年「修飾語を使って書こう」教材研究（グループ） ・指導略案作成	◎宿題 グループワーク グループ課題「指導略案をつくろう」 各グループで2つの指導略案を作成する 5教科のうち 2教科提出 4時間 ◎宿題 挨拶作成 3時間
第8回 5/29	「第8回」 ○国語3年「修飾語を使って書こう」模擬授業 ・授業で大切にしたいこと ・模擬授業の実施	○ワークシート8「指導略案をつくろう」 2時間

	・授業観察記録の取り方	
第 9 回 6/5	「第 9 回」 ○授業観察記録の取り方 ・授業 DVD 視聴 ・観察記録をとる	
第 10 回 6/12	「第 10 回」 ○授業観察記録の取り方 ・授業 DVD 視聴 ・観察記録をとる	○ワークシート 9「研究会に向けた指導案づくり」 3 時間
第 11 回 6/19	「第 11 回」 小学校現場で活躍されている先生の話聞く。 「学校現場の今～教育実習生に期待すること～」	○講話からの学び（レポート）
第 12 回 6/26	「第 12 回」 ○実習日誌・各記録の書き方 ○資料整理の仕方 ○挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙）《グループワーク》 【連絡】 今後 3 回【7 月 3 日 7 月 10 日 7 月 17 日】 ・模擬授業集中講座 ・板書集中講座 いずれかに参加すること	実習日誌、指導案、各種記録の提出 ○各種記録の点検、整理 5 時間
第 13 回 12 月予定	「第 13 回」 ○小学校教育実習全体のまとめ ・最終レポート作成②（小学校教員について・自らの将来について・これから目指すこと・・・） ・小グループでの協議 ・教育実習の成績評価について	課題 最終レポート 5 時間
第 14 回 12 月予定	「第 14 回」 第 13 回 ○小学校教育実習全体のまとめ ・最終レポート作成②（小学校教員について・自らの将来について・これから目指すこと・・・） ・小グループでの協議 ・教育実習の成績評価について	

1.授業コード (ナンバリング)	PED320-A01	2.科目名	生徒・進路指導論 (小)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫					
5.授業科目の区分	基幹科目 道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に 関する科目 生徒指導 の理論及び方法 進路 指導 (キャリア教育に 関する基礎的な事項を 含む。) の理論及び方法 を含む)	6.必修・ 選択の区分	必修 教職必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福 祉) 小学校一種 中学(英語) 中学 (社会)	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習, グループワーク			
16.履修制限	小学校免許取得者					
17.授業の目的と概要	【目的】 小学校教育現場に即した生徒指導の活動と内容を理解すること。その上で、小学校の生徒指導について、その意義だけでなく、小学校生徒指導の目指す根幹に触れ、健全な人格形成に向けての支援と援助ができる力を身につけるようにする。 【概要】 様々な事例研究を通して、受容と共感的理解に基づく生徒指導の方法論や、小学校教育の重要な柱である教師と児童の人間関係づくり、及び組織的に教師が連携して生徒指導を展開する方法など理解し、身に付けることも大きなねらいの一つである。 大きな社会の変化に伴う、小学校での生徒指導の問題					
18.学習目標と DPとの関連	dp (6) 専門的知識・技能の活用力 ○一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高め組織的な生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身につける。 dp (5) コミュニケーションスキル ○ここでの学びが実際の教育現場での実践や指導に繋がり役立てるものである。					
19.教科書・教材	笑育ドリル 晃洋書房 笑育のすすめⅡ (さんだる文庫) * 講義の時に ¥500 で販売します。					
20.参考文献	笑育のすすめ エイチエス出版 文部科学省生徒指導の手引き 生徒指導提要					
21.成績評価	①ワークシートの作成…40% ②学級通信の作成 …30% ③最終テスト…………… 30% (生徒指導のまとめ)					
22.コメント	○教科書「笑育ドリル」を演習などに活用して進めます。必ず購入してください。 ○「笑育のすすめⅡ」の方は、講義の時間に ¥500 で販売します。					

		○小学校教育現場で役に立つ児童理解の基礎を学びます。教育実習や教員採用試験にも役立つので積極的に参加してください。 ○途中、第10回～第14回で、オンデマンド授業を実施する予定です。詳細は対面講義の中で説明します。webclassを活用しますから、その心づもりをしておきましょう。 ○警報等によってZOOMによる遠隔で対応する場合があります。必ず、webclass等を参照することを忘れないようにしてください。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【1回目】	○小学校生徒指導の目指すもの ・子どもの生活状況と子どもの変化	○社会の変化と生徒指導についての振り返り (2時間)
【2回目】	○小学校生徒指導の意義と概観 ・学習指導と生徒指導 学級経営と生徒指導 ・分かる授業、楽しい授業と生徒指導の関係	○学習指導と生徒指導についての考察と振り返り (2時間)
【3回目】	○児童理解の基本的立場 ・児童理解の方法 子どもを理解するとは…子どもの発達 ・自尊感情を育てるために子どもの内面を深く理解する ・子ども理解のための具体的方策	○子ども理解についての振り返り (2時間)
【4回目】	○小学校生活の支援と指導 ・生徒指導の校内体制 全校であたる生徒指導 緊急時の指導体制 ・みんなで協力する生徒指導体制 ・緊急時の対応と危機管理体制	○学校における緊急時の対応についての振り返り (2時間)
【5回目】	○教育相談と生徒指導児童理解の基本的立場 ・教育相談の基本 養護教諭の役割と連携 関係諸機関との連携 ・温かい児童理解を目指したカウンセリングマインドを通して	○教育相談の基本 養護教諭の役割と連携 関係諸機関との連携等についての振り返り (2時間)
【6回目】	○学級経営と生徒指導 ・集団のルールづくり 個を大切にすることの集団づくり ・学級経営と生徒指導も関係 ・集団の中で育つ規範意識と個を大切にすることの集団づくりとは ・ソシオメトリックテストとU-2テストについて	○学級経営と生徒指導についての振り返り (2時間)
【7回目】	○基本的生活習慣と学校生活 ・朝の会、帰りの会、給食、清掃 係活動、班活動等 ・基本的生活習慣のとは ・学校の役割と家庭との連携	○基本的生活習慣と学校生活、家庭との連携の重要性等についての振り返り (2時間)

【8 回目】	○様々な問題行動の理解と対応① ・いじめを作らない学級づくり 子どもの内面における問題行動 ・いじめの定義 なぜいじめが起こるのか ・子どもの内面の理解 ・いじめの予防とその対策について	○いじめの予防と対処についての振り返り（2 時間）
【9 回目】	○様々な問題行動の理解と対応② ・学級が機能しない状況とその対応 ・教師の指示が通らない学級とは ・学級崩壊を未然に防ぐために	○学級が機能しない状況とその対応等についての振り返り（2 時間）
【10 回目】	○進路と生徒指導 ・自己の将来に夢や希望を抱き将来の生き方や進路に関する学習 ・各教科とキャリア教育の関係	○進路と生徒指導についての振り返り（2 時間） ※学級通信作成課題の提示
【11 回目】	○学級経営と生徒指導 ・保護者との連携 ・保護者への説明責任	○生徒指導と保護者連携についての振り返り（2 時間）
【12 回目】	○普遍的な人権文化の確立を目指して ・男女共同参画社会 特別支援教育 ・人権の歴史から考える	○普遍的な人権文化から見た生徒指導のあり方についての振り返り（2 時間）
【13 回目】	○様々な問題行動とその対応① ・事例研究① ・事例集を基にグループワークで討論する	○事例集を基にした場面指導についての振り返り（1 時間）
【14 回目】	○テスト & レポート ○様々な問題行動とその対応② ・事例研究② ・事例集を基にグループワークで討論する	○第 1 回から 13 回までのワークシート及び全資料持参のこと ※学級通信づくり
【15 回目】	○小学校生徒指導のまとめ ・小学校生徒指導の実際	・事例集を元に、場面指導、ロールプレイについて復習する。(1 時間) ・全体のまとめ

1.授業コード (ナンバリング)	PED321-Y01	2.科目名	児童英語		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	専門・展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義＆演習	
16.履修制限	模擬授業を行ったりするため、人数が多すぎるときは抽選を行う可能性があります					
17.授業の目的と概要	【目的】子どもに英語を教えるために必要な知識や方法を学び、身に付けます。 【概要】子どもの発達や言語修得についての基本を学び、発達に応じた指導方法を学びます。 指導方法については、知識だけでなく、実際に模擬練習を通じて、スキルを身に着け、自分で指導内容を組み立てられることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業を通して、 ・子どもの言語発達について理解できるようになります。 ・子どもへの指導の方法の基本的な注意点を理解し、それをもとに実際にレッスンプランを立て実行することができます。 DP：(5) コミュニケーションスキル これを用いて、子どもとの意思疎通を図ることができます (6)専門的知識・技能の活用力 これまでの学習をもとに、指導の仕方を考えます。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。必要に応じ資料を配布します。					
20.参考文献	岡秀夫・金森強 編著『小学校英語教育の進め方(改訂版)』(成美堂)					
21.成績評価	・レッスンプランの作成 3 回 (10%×3 回)：30% ・グループワークや討論への貢献度：20% ・最終課題＆発表(指定されたトピックについて、レッスンプランを作り、模擬授業を行う：50% (レッスンプラン 25%+授業者としてのパフォーマンス 25%)					
22.コメント	子どもへの指導を想定しているので、人前で大きな声で話したり歌ったり、踊ったりすることがあります。上手下手は関係ありませんが、そのような活動ができない場合は履修は勧められません。 生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に限り認めます。 各授業におけるテストでの使用は認めません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション：授業の目標・進め方・評価方法などについて説明			予習：子どもの英語教育について授業中に指定された項目について調べる (30 分)		
第 2 回	日本の英語教育：子どもへの英語教育の歴史・現状			予習：子どもの英語教育について授業中に指定された項目について調べる (30 分) 復習 (30 分)		
第 3 回	子どもの発達：脳の発達と言語習得、発達心理学			復習 (60 分)		
第 4 回	国際理解教育：外国語学習と国際理解			復習		
第 5 回	指導法 1 TPR：TPR の考え方と実際			予習：TPR は日本のどこで、どのように利用されているか調べる(60 分)		

		課題：TPR の授業案に従って授業できるように準備する(60 分)
第 6 回	TPR の実践 各自に指示された内容にしたがって、「指導者」として模擬授業を行う	改善案を作る(30 分)
第 7 回	歌：指導に用いる歌とその効果	復習：学んだ歌を歌う（30 分） 課題：歌に合わせたジェスチャーを考える(60 分)
第 8 回	歌の実践：考えてきたジェスチャーを披露し、意図や効果について議論する	復習(30 分)
第 9 回	絵本：物語の利用と効果、代表的な作品	課題：絵本を用いた模擬授業を考え練習する（120 分）
第 10 回	絵本：絵本を用いた模擬授業の披露、討論	練習(60 分)
第 11 回	その他の活動	復習(60 分)
第 12 回	授業指導案：授業の計画を立てる 15 回分の流れ 各回の構成	課題：30 分の活動計画を立て、実際に指導する準備をする（120 分）
第 13 回	模擬授業、目標に対する効果等について討論	復習：自分の授業案を振り返り、改善案を作る（60 分）
第 14 回	模擬授業と討論の続き	他の授業を参考に改善案の作成(60 分)
第 15 回	最終発表 & 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	PED322-A01	2.科目名	外国語	3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明				
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	小学校教諭（コアカリ科目）		11.先修条件	「外国語の指導」（秋学期）も併せて履修することが望ましい	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、英語の言語の音声、文法、語彙についての知識を基盤として、小学校における外国語活動（中学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けることを目的とします 【概要】 具体的には、児童期の第 2 言語習得の特徴、4 技能の指導、評価等の外国語活動や外国語科を指導する上で必要な知識を学び、教材研究や模擬授業の中でそれらの知識や理解を活用します。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①児童期の第 2 言語習得理論や小学校外国語における 4 技能など外国語を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。				
19.教科書・教材	①樋口忠彦（代表）（2023）『最新 小学校英語教育入門』研究社 ②文部科学省 小学校外国語活動教材「Let's Try! 1 」東京書籍 （3 年生用） ③文部科学省 小学校外国語活動教材「Let's Try! 2 」東京書籍 （4 年生用） ※上記、教科書は全冊購入することになります。				
20.参考文献	樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子（2017）『Q&A 小学校英語指導法事典―教師の質問 112 に答える』教育出版. 小学校学習指導要領 最新版 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 最新版 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動 東洋館出版社 {WEB 資料,https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_gaikokg.pdf}				
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・課題 1：毎回のコメントと授業貢献度 2 0 % [学習目標①に対応] ・課題 2：小テスト（中間）、課題 3 0 % ? [学習目標①に対応] ・課題 3：教材研究発表 1 0 % [学習目標②に対応]				

	・課題4：模擬授業発表（学習指導案含む）20% [学習目標②に対応] ・課題5：レポート（総括振り返り）20% [学習目標①、②に対応]	
22.コメント	「外国語」（春学期）では小学校英語教育の基礎理論と「外国語活動」（中学年）における実践的な指導方法・評価規準の設定について、「外国語の指導」（秋学期）では、「外国語」（春学期）で学習した内容をふまえて、「外国語」（高学年）における、より実践的な指導方法・評価規準の設定について学びます。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション ・小学校外国語教育の目的と目標 テキスト pp.2-15 ・小学校英語授業体験	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第2回】	・「外国語教育の意義と方向性（児童期の第2言語習得の特徴）」 テキスト pp.16-27 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	・「指導者の役割、資質と研修」テキスト pp.28-41 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第4回】	・「教材の構成と内容」テキスト pp.42-66 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第5回】	・「指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例」 テキスト pp. 67-81 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第6回】	・「言語材料と4技能の指導」テキスト pp.82-91 ・スモールトーク	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第7回】	・「教材研究①－慣れ親しむ活動」テキスト pp.92-110 ・スモールトーク	復習：第1回から第7回までの復習、中間テスト準備
【第8回】	・「教材研究②－生き生きと英語を使う活動」テキスト pp.111-134 ・スモールトーク	復習：今回の復習 予習：次回の予習 中間テスト準備
【第9回】	・中間テスト（第1回～第7回までの内容） ※持ち込み可、対面で実施、PC持参のこと（60分）：選択問題＋論述問題 ・「指導方法と指導技術」テキスト pp.135-151（オンデマンド課題）	復習：今回の復習及びノートの整理 ・「いろいろな教材、教具の活用法」テキスト pp.139-150 を読んでおく。 予習：次回の予習
【第10回】	・「授業過程と学習指導案の作り方」 テキスト	復習：今回の復習及びノートの整理

	pp.182-203 ・スモールトーク	予習：次回の予習 グループワーク：学習指導案(第1案)の作成 第11回に提出
【第11回】	・「評価のあり方、進め方」 テキスト pp.167-181 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習 グループワーク：模擬授業準備
【第12回】	・「授業づくり事前準備から振り返りまで」 テキスト pp.204-217 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案完成
【第13回】	・マイクロティーチング（模擬授業） （1回目） ※自己紹介と授業の導入まで ※相互によるフィードバック	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業を行って振り返り記入 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案完成 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第14回】	・マイクロティーチング（模擬授業） （2回目） ※自己紹介と授業の導入まで	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業を行って振り返り記入 予習：次回の予習,レポート作成 第15回授業時に提出 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第15回】	・「豊かな小学校外国語教育をめざして」 pp.218-228 ・まとめ ・リフレクション（振り返り）	提出物：レポート

1.授業コード (ナンバリング)	PED325-M01	2.科目名	生徒・進路指導論（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井秀幸					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限	中・高免許取得希望者					
17.授業の目的と概要	【目的】○学校現場における生徒指導と進路指導の在り方を学ぶ。 ・生徒指導の定義、構造と目的、他の各教科等及び教育課程との関連性を理解する。 ・キャリア教育推進の経緯及びその理論や具体的な指導方法を理解する。 【概要】・講義で学んだ理論等を踏まえ、具体的な対応例を考えていく。 ・さまざまな事例への対応策を考え、グループで課題等について検討する。 ・これからの生徒指導及びキャリア教育の在り方を自分なりに考えて見る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DPの（３）多様性理解（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連します。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①生徒指導の構造や目標を教育活動全体と関連づけることができる。 ②進路指導の構造や目標を教育活動全体と関連づけることができる。 ③自分なりの生徒指導・進路指導の具体的な進め方を身につけることができる。					
19.教科書・教材	1 「生徒指導提要令和４年１２月年改訂版」（文部科学省ホームページ） 2 「中学校のキャリア教育の手引き」（教育出版）平成 23 年 5 月					
20.参考文献	1. 毎回授業プリントを配布。その他の関連資料は授業中にその都度配布や照会します。 2. 「中学校学習指導要領」（文部科学省）平成 30 年 3 月 3. 「中学校のキャリア教育の手引き」（教育出版）平成 23 年 5 月					
21.成績評価	○評価の方法と配点 ・課題レポート 3 回 30 点 ・授業中の課題発表 4t 回 20 点 ・最終確認テスト 50 点 専門用語の理解（選択問題及び記述問題） 30 点 課題への論述問題 20 点					
22.コメント	「中学校学習指導要領」（文部科学省）平成 30 年 3 月と「中学校のキャリア教育の手引き」（教育出版）平成 23 年 5 月 を、インターネットよりダウンロードするか、書店で購入をしてください。第一回のオリエンテーションで説明します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（・本講義の内容、目標、評価の方法・講義の進め方・受講する上での注意点・使用			復習：今回の復習、 授業プリントの整理		

	テキストについて) ○生徒指導の定義と目的について ○生徒指導の実践上の視点について ○生徒指導の構造について	予習 生徒指導体験発表の準備①
第 2 回	○生徒指導の基礎について ・生徒指導の方法について ・生徒指導の基盤について ・生徒指導の取組上の留意点について	復習 今回の復習及び授業プリントの整理 予習 (課題) 第 1 回レポートの作成
第 3 回	○生徒指導と教育課程について ・学習指導要領「総則」と生徒指導について ・生徒の発達をささえる教育課程について ・教科指導と生徒指導の関連性について ・道徳科を要とした道徳教育における生徒指導について	復習 今回の復習及び授業プリントの整理 予習 次回の予習
第 4 回	○「総合的な学習の時間」と「特別活動」と生徒指導・進路指導 ・総合的な学習の時間と生徒指導の関連性について ・特別活動における生徒指導の位置づけについて ・学級活動、HR 活動、生徒会活動、学校行事と生徒指導の関連性 ・特別活動におけるキャリア教育との関連性について	復習 今回の復習及び授業プリントの整理 予習 次回の予習 第 1 回レポート持参
第 5 回	○学校における生徒指導体制 1 ・チーム学校における生徒指導について ・学校における生徒指導体制（生徒指導主事、職員研修）について ・教育相談体制について ・生徒指導と教育相談が一体となった学校組織について	復習 今回の復習及び授業プリントの整理 予習 次回の予習 第 2 回レポート作成
第 6 回	○学校における生徒指導体制 2 ・危機管理体制（学校安全、安全教育）について ・生徒指導に関する法制度（校則、懲戒等）の運用体制について ・学校・家庭・関係機関との連携・協働について	復習 今回の復習及び授業プリントの整理 予習 いじめに関する体験発表の準備②
第 7 回	○個別の課題に対する生徒指導 1（いじめの実態と対応） ・いじめの防止対策推進法について ・いじめの防止等の対策のための組織と計画について ・いじめに対する重層的支援構造について ・関係機関との連携体制について	復習 今回の復習及び授業プリントの整理 予習 次回の予習

第 8 回	○個別の課題に対する生徒指導 2（暴力行為の実態と対応） ・暴力行為に関する対応指針等について ・学校の組織体制と年間指導計画について ・暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造について ・関係機関との連携体制について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 予習 次回の予習 第 2 回レポート持参
第 9 回	○個別の課題に対する生徒指導 3（少年非行の実態と対応） ・少年法・児童福祉法等について ・少年非行に対する視点について ・少年非行への対応の基本について ・関係機関との連携体制について ・喫煙・飲酒・薬物乱用について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 予習 次回の予習 第 3 回レポート作成
第 1 0 回	○個別の課題に対する生徒指導 4（児童虐待） ・児童福祉法・児童虐待の防止に関する法律について ・学校の体罰防止について ・児童虐待生徒の発見について ・児童虐待の通告義務及び関係機関との連携体制について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 予習 次回の予習
第 1 1 回	○個別の課題に対する生徒指導 5（自殺、中途退学） ・自殺対策基本法について ・自殺防止の学校の組織体制と年間指導計画について ・中途退学の関連法規と中途退学の理解について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 学習指導要領の確認 予習 次回の復習 第 3 回レポート持参
第 1 2 回	○個別の課題に対する生徒指導 6（不登校） ・不登校に関する関連法規及び学校の対応や指導計画について ・各市町のの不登校施策について ・不登校の増加と対応について	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 予習 次回の復習 中学時代の進路指導の 体験の発表準備③
第 1 3 回	○個別の課題に対する生徒指導 7（インターネット、携帯電話等） ・インターネットをめぐる課題に対する関係機関との連携体制について ・性に関する法律・方針等及び学校における指導について ○進路指導とキャリア教育について ・キャリア教育と進路指導の違いについて ・キャリア教育推進の背景及びキャリア教育が目指すもの	復習 今回の復習及び授業 プリントの整理 学習指導要領の確認 予習 次回の予習 トライやるウィーク体 験の発表準備④

	・「4 領域 8 能力」から「基礎的・汎用的能力」の育成へ ・勤労観・職業観の育成について	
第 1 4 回	○小中高等学校におけるキャリア教育の具体的な進め方 ・小中高等学校におけるキャリア発達の違いと目標について ・中学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について ・高等学校におけるキャリア教育のポイント及び実践例について	復習 今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理 予習 最終確認テストに向けて
第 1 5 回	○これからのキャリア教育の進め方について ・キャリア教育における家庭、地域、企業、職能団体との連携について ○これまでの学習内容を踏まえ、生徒指導・キャリア教育に関する基礎的知識の確認。 ・自分なりの生徒指導及びキャリア教育の指導方法をまとめる。 ○最終確認テスト	復習 今回の復習及びこれまでの授業プリントの整理

1.授業コード (ナンバリング)	PED402-A01	2.科目名	特別活動の指導法 (小)		3.単位数	2
4.授業担当教員	上山敏弘					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	教免取得必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	教員免許取得のための必修科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	新学習指導要領の中で、小学校特別活動が改善された基本方針、具体的事項を知り、この教育活動のめざしているものを確実に理解しておくことは大切である。 また、各活動・学校行事の改善のポイント・教育活動の内容・指導計画の作成・他の教育活動との関連等を具体的に調べることから、特別活動の基本的な性格と教育的意義の理解を深めることをねらいとしている。さらに、今小学校現場で取り組まれている特別活動の情報を収集して、グループワークなどから、具体的な活動計画の作成に取り組んでいきたい。 また、学校教育全体における特別活動の					
18.学習目標と DPとの関連	① 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解できる。 ② 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解できる。 ③ 学級活動・ホームルーム活動の特質を理解できる。 ④ 児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解できる。 ⑤ 教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解できる。 ⑥ 特別活動における取組の評価・改善活動の指導の在り方を理解できる。 ⑦ 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 ⑧ 特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解できる。					
19.教科書・教材	なし 適宜資料配布					
20.参考文献	小学校学習指導要領,みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 (小学校編)					
21.成績評価	①ワークシート・講義のまとめ 全15回 (60%)【学修目標①～⑧に対応】 ②小学校特別活動の各活動の指導計画・展開 (グループワーク) (20%)【学習目標④⑦に対応】 ③話す・聴く力、意見交換力 (グループ討議) (10%)【学習目標③④⑧に対応】 ④まとめレポート (10%)【学習目標①⑤⑥に対応】					
22.コメント	小学校特別活動は、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動です。学校が楽しい、仲間と活動することが楽しいなどと直接結びつく教育活動です。子どもたちが、楽しく、生き生きと活動できるものを一緒に考えましょう。					
23.オフィスアワー	金曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション 学習の進め方 グループ 作り 特別活動の基本事項			パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 アンケートを Webclass で提出		
【第2回】	入学式の様子・役割分担 (ワークシート 児童看護の仕方)			パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理		

		ワークシートを Webclass で提出
【第 3 回】	始業式の日、学級目標づくり、 (ワークシート 自己紹介案)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 4 回】	「自発的・自治的って？」 係と当番の違いは？ 係を考えよう (ワークシート 係の仕事)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 5 回】	校外学習について (ワークシート 振り返り)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 6 回】	特別活動とは？ 「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」 (ワークシート 地域との連携案)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 7 回】	学級会のもち方、教室掲示 (ワークシート 学級会の仕方)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 8 回】	代表委員会・委員会の仕組みと役割 (ワークシート ク卒業生を送る会案)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 9 回】	異学年・異校種交流集会の意義、計画・立案 (ワークシート 全学年 or 一部の学年の交流計画)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 10 回】	クラブ活動も目的と計画 地域との連携も考慮した計画 (ワークシート クラブ活動計画案)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 11 回】	学校行事の目的、就学時健康診断、避難訓練 (ワークシート 避難訓練)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 12 回】	引き渡し訓練、東日本大震災での避難の様子、不審者対応	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 13 回】	運動会の企画・立案 団体競技・団体演技の内容検討 (ワークシート 団体演技 or 競技の案)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 14 回】	宿泊行事の計画・立案 (ワークシート プログラム案)	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出
【第 15 回】	まとめ 特別活動はキャリア教育の要	パソコンを持参 復習：今回の授業ノートの整理 ワークシートを Webclass で提出

1.授業コード (ナンバリング)	PED402-Y01	2.科目名	特別活動の指導法 (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	松田忠喜					
5.授業科目の区分	教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科、英コミ学科、グローバルコミュニ ケーション学科、社会学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会、高校公民、中学英語、高 校英語、高校情報		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義科目 (うち 10 回はオンデマンド、5 回 は対面授業として実施)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 特別活動は、小・中・高・特別支援学校の教育課程に位置付く教育活動です。したがって、 学校現場では、自分が担当する教科に関わらず、すべての教師が特別活動の指導にあたること になります。 そこで、本授業では、特別活動の教育的意義や目標・内容、指導法や評価の在り方等につい て理解し、実践的な指導力を身に付けるとともに、学びを今後の自己の生き方に生かすことが できるようにします。 【概要】 近年、グローバル化・情報化・少子高齢化・核家族化など急速な社会変化の中で、人間関係 の希薄化が進み、子どもたちの自主性					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 特別活動の教育的意義を理解した上で、特別活動の目標を具現化する方法を明らかにし、実 践的な指導力を身に付ける。 ?特別活動の教育的意義や目標・内容を理解し、列挙することができる。 ②模擬授業、具体的事例などを通して指導方法の在り方を探求し、実践に生かせる指導力を身 に付けることができる。 ③自主的、主体的に授業に参加し、教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき 役割を説明できる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	21 世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践 第 3 版 中園大三郎・松田修 編著 学術研究出版 2000 円 (税抜) ISBN 978-4-910733-90-6					
20.参考文献	?文部科学省「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)」(東山書房・2017 年) ②文部科学省「高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)」(東山書房・2018 年) ③文部科学省「中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活動編」(東山書房・2017 年) ④文部科学省「高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 特別活動編」(東京書籍・2018 年) ⑤文部科学省「学級・学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」(東京書籍・2023 年) ⑥杉田洋 「よりよい人間関係を築く特別活動」 (図書文化社・2009 年)					
21.成績評価	評価に当たっては、上記 18 に示した学習目標?②③の達成度を授業中の取り組みも含めて総合					

	的に行います。 1. 評価の方法 ・ 毎回提出する振り返りの内容、小レポート、最終レポート、授業での自主的、主体的な態度等 2. 成績の配分 ・ 模擬授業、ディスカッション、主体的な参加（学習目標②③に対応）【15%】 ・ 授業での提出物（小レポート）（学習目標②に対応）【15%】 ・ 毎授業後に記入して提出する「振り返り」の内容（学習目標②③に対応）【30%】 ・ 最終レポート（学習目標②③に対応）【40%】 3. 単	
22.コメント	オンデマンドによる本授業ですが、「学級会（話し合い活動）」や「意見交流」を対面授業で体験することで、合意形成や意思決定の仕方をはじめ、より適切な指導のあり方を身に付けていきますので、5回の対面授業にも主体的に参加してください。なお、その時に質問等があればしてください。 * オンデマンド（10回分）の学習の確認は、その週内に Zoom を視聴するとともに WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。 「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を理解するためにも授業に自主的に参加することを期待します。 学校時代の思い出として特別活動（主に学校行事）を挙げる学生は多くいます。そこで、本授業では特別活動の教育的意義や価値をふまえ、生徒がより楽しく豊かな学級・学校生活をめざして自主的、実践的に活動できるための効果的な指導・支援の在り方を学生のみなさんとともに考えていきます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、「最終レポート」は、今までの自分の学びをまとめ、自分の考えを述べるため、AI の使用は不可とします。また、授業後に毎回提出する「課題」については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。授業（オンデマンドの回）では、学習内容を理解し、深めるために生成 AI の利用を認めますが、本講義は教職に関するものですので、学習指導要領の内容から外れないように注意してください。	
23.オフィスアワー	質問があれば毎回 WebClass に提出する「振り返り」に書いてください。 対面授業前後の教室内 WebClass のメッセージで質問や連絡等ができます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 (対面授業)	・ オリエンテーション（本授業の目標・内容、進め方、評定算出方法の確認、受講上の留意点についてなど） * 対面授業の受講の仕方（授業の終わりに「振り返りカード」に記入して提出することで、学習状況を把握します。） * オンデマンド授業の受講の仕方（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開しているその回の「資料」を熟読し、WebClass のレポートから Zoom で出された課題を含めた「振り返り」を投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・ 特別活動とは（教育課程における	復習： 今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）

【第2回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・ 特別活動の歴史の変遷 ・ 子どもたちを取り巻く現状と課題から見た特別活動への期待と役割	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第3回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・ 特別活動に関わる指導理論 ・ 特別活動の教育的意義	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第4回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・ 特別活動の目標 ・ 特別活動の内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【レポート作成】 特別活動の目標と内容 * 手書きで作成し、第9回対面授業時に手渡しで提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第5回】 （対面授業）	学級活動・ホームルーム活動（1） ・ 目標・内容、全体計画・年間指導計画、指導上の留意点 ・ 今までの授業への意見交流、質問等	* 次回（第9回の対面授業）の学級会（話し合い）の「議題」を考えておく。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第6回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・ 学級活動・ホームルーム活動（2） ・ 「話し合い活動」の指導ポイント	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）* 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【宿題】学級会プリントの作成 * 作成したプリントを第9回の模擬授業で使用する 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第7回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴する	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り

	とともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・生徒会活動：目標、内容、指導計画、指導上の留意点	り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）*課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 8 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・学校行事：目標、内容、指導計画、指導上の留意点	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）*課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 9 回】 (対面授業)	学級活動・ホームルーム活動（3） ・【演習】模擬授業（学級会：話し合い活動） ・今までの授業への意見交流、質問等	【提出】 ・第 4 回で課題として出された「特別活動の目標と各内容」の手書きプリント 【持参】 ・第 6 回の宿題で作成した学級会（話し合い活動）プリント 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 10 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動と生徒指導 ・学級経営との関連 ・特別活動における人間形成と部活動	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）*課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 11 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動と各教科との関連 ・特別活動と総合的な学習（探究）の時間との関連 ・特別活動と道德教育	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）*課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 12 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動におけるキャリア教育 ・言語活動の充実	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出）*課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【指導案作成】 * 第 15 回授業までに WebClass から提出

	・学級活動・ホームルーム活動（話し合い活動）における指導案作成の実際 ・最終レポート課題の提示と説明	【最終レポート作成】 * 生成 AI の使用不可 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 13 回】 （対面授業）	学級活動・ホームルーム活動（4） ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話し合い活動とゲーム集会活動） ・今までの授業への意見交流、質問等	【指導案作成】 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 【最終レポート作成】 * 背衛星 AI の使用不可 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 14 回】	* オンデマンド授業（その週の間に Zoom を視聴するとともに、WebClass で公開している「資料」を熟読し、「Zoom の中で出された課題を含めた振り返り」を作成し、WebClass のレポートから投稿（提出）します。その提出をもって、その回の出席とします。） ・特別活動の評価 ・家庭、地域社会、関係機関との連携	・ Zoom の中で出された課題を含めた「振り返り」を作成し、WebClass のレポートに投稿（提出） * 課題については生成 AI の使用可ですが、「振り返り」は、意見感想などを記入するので生成 AI の使用は不可です。 【指導案作成】 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 【最終レポート作成】 * 生成 AI の使用不可 * 第 15 回授業までに WebClass から提出 復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で事前提示された資料を読んでおく。）
【第 15 回】 （対面授業）	・これからの学校教育と特別活動 ・特別活動の指導法のまとめ ・最終レポート内容の確認 ・意見交流、質問等	復習：今回の復習、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	PSY106-A01	2.科目名	発達心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	西本望					
5.授業科目の区分	専攻必修基幹	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職、教育・保育コース			9.履修学年	第 1 学年	
10.取得資格の要件	保育士資格：資格必修 幼稚園教諭、小学校教諭：教職に関する科目必修 中学校教諭・高等学校教諭:選択 特別支援学校教諭：		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ひとは受胎から高齢期に至るまでさまざまに変化していく。その変化の中でも、心や身体の総合した変容については発達という概念を使う。とくに誕生から児童期にかけての発達の变化は大変大きい印象がある。家庭教育や学校教育の対象である子どもは、最も著しい発達の過程のなかにおり、それを支援する対人援助職者は、そのことを十分に理解した上で支援活動を行う必要がある。さらに生涯発達の視点をも本講義ではもちつつ、子どもの発達の理解をめざす。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性（3）多様性理解（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解する。 ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③子どもの学びの課程や特性について基礎的な知識を習得し、人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 ④生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	【総括試験】：定期試験期間中もしくは最終授業にて、試験を実施する予定です〔学習目標①～④に対応〕50%。 【平常点】：授業内(小)レポート及び授業のとりくみ姿勢〔学習目標①～④に対応〕50%。 ・平常点等内訳：授業内レポートおよび授業中への積極的取り組みを観点別評価として実施する。レポート内容についての観点別評基準：授業内容が的確に盛り込まれていること、さらに工夫や応用がされていることとします。授業前及び授業中に課題を提供します。〔学習目標②、③に対応〕 ・レポートにおいて用語使用等に誤謬等がある					
22.コメント	対人援助職者として、乳幼児・児童・生徒らの発達過程とともに自己の道筋も辿れます。専門用語についても、しっかりと理解していきましょう。 ・原則、全ての授業において対面で実施します。社会状況などによっては、オンデマンド（録画放送）で実施することもあります。 ・PDF の教材をアップすることがあります。必要に応じて、ご高覧ください。 ・講義形式で、講述が中心となります。心理検査などを取り入れた演習方式も検討しています。PC・タブレットなど情報機器端末からのワードやエクセルを使用した投函（提出）を指示します。指示以外となる行為や盗作・剽窃のほか手続不備レポートとしての評価を無効とする					

			ことがあります。ICT 関係の不具合は自己責任としてご留意ください。ICT 機器類の操作などにつきましては、メディアサポート室、メンター、チューター等にご相談ください。 ・生成 AI の利用につきましては、文章構成を検討することに使用されるのはかまいませんが、他の学生と内容が同様・類似しているときには盗作・剽窃と扱います。各学生の独自性（虚偽・作話のないようにして）を表現して記述してください。 ・PC、ノート、筆記用具以外にも持参の指示があるときには、それに従ってください。 ・授業中への積極的取り組みについては、受講上の注意・マナー心得てください。 ・欠席・遅刻・早退等については事前に担当者に伝え、必要な書類を提出してください。 ・実習などに該当するときには、当該実習に係る証明となる書類を提出するとともに、授業内レポート等の課題の要請を早めに担当者に行ってください。提出される期日は、欠席の最終日の翌日から翌週の同曜日までとします。関連部局での代替対応の手続、レポート等課題の要請と、期日までの提出をもって完了となります。ただし災害や事故など有事の際に、のような場合は自らの安全の確保したうえで余裕があれば担当者に伝えてください。 ・特別な配慮が必要な学生は事前に申し出てください。ただし、学業に支障を及ぼすようなアルバイトや私的旅行など学生の本分と異なる自己都合については不可とします。配慮を必要とする証明となる書類（教務課、学生課、キャリア支援室、教職センター・学修支援室、学生相談室など各専門部局や教職員からからの申し出等）を併せて提出してください。 ・種々の取扱いについても本学規程にもとづく。 【特別な配慮が必要な学生の皆様】 ・PDF の教材、課題に関しては、一般の履修講生と同じです。 ・各専門部局で事前に必要な届け出をして許可をもらって、担当者にもお知らせください。ただし内容によりましては対応ができないこともありますので、その際にはご容赦ください。
23.オフィスアワー			
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
1 回目	オリエンテーション：授業科目の概要、シラバス、授業運営、評価の方法 ・シラバス、授業資料、参考書を俯瞰する ・近接領域との関係について	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備	
2 回目	発達心理学の研究手法、発達課題 ・発達と学習の問題点 ・なぜ発達や学習（教育）を世界は重視するのか。 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備	
3 回目	発達にかかわる諸理論 ・発達の規定要因 ・遺伝と環境 ・オペラント条件付け（スキナー） ・輻輳説と相互作用説 【復習課題】 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備	
4 回目	発達・学習過程とターニングポイント I ・ヒトから社会的人間へ ・出生時のリスクと、その後の方策 【復習課題】 ・振り返りレポートシートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備	

5 回目	発達・学習過程とターニングポイントⅡ ・初期学習の重要性 ・アタッチメント形成理論（ボウルビィ） 【復習課題】 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備
6 回目	発達・学習過程とターニングポイントⅢ ・愛着障がい（不全） ・移行対象 ・親の養育態度と子どものパーソナリティ（性格・人格） 【復習課題】 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配布したプリントの疑問点などの整理
7 回目	発達・学習過程とターニングポイントⅣ ・基本的生活習慣の形成:自律と自立 ・仲間関係の発達と社会性の形成 ・出生順位によるパーソナリティ（性格・人格） 【復習課題】 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備
8 回目	発達課題Ⅰ ・精神分析の基底（S.フロイト） 【復習課題】 90 分 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備
9 回目	発達課題Ⅱ ・情緒的発達、ライフサイクル論と自我同一性（エリクソン） ・認知的発達、同化と調節（ピアジェ） 【復習課題】 ・振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備
10 回目	発達課題Ⅲ ・モラルジレンマ（コールバーグ） ・振り返りレポートの作成と提出 【予習課題】 ・授業資料、参考書 pp.57～66 を読む。	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備
11 回目	社会性の発達 発達・学習支援 ・発達・学習のつまずき ・支援の方策 【課題】 ・振り返りレポートの作成と提出 、	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備

12 回目	学習意欲と学習性無力感 ・ 学習性無力感（セリグマン） ・ 学習統制感：「わかりません」「たまたま、そうなった」 【復習課題】 ・ 振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配付資料等の準備
13 回目	動機づけ ・ 外発的動機づけと内発的動機づけ ・ 「学びに向かう力」（非認知的スキル、情動スキル） 【復習課題】 ・ 振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配布資料の熟読
14 回目	学習（教育）評価 ・ 診断、形成・統括 【復習課題】 ・ 振り返りレポートの作成と提出	個人作業 復習：授業内（小）レポートのための準備 予習：配布資料の熟読
15 回目	まとめと振り返り ・ 振り返りレポートの作成と提出 ・ 授業資料、参考書を含む全ての教材、ノートなどを復習する 【ふりかえり】 ・ まとめ課題の作成と提出	○ふりかえり ○当該授業の総括ととしての学習

1.授業コード (ナンバリング)	PSY106-Y01	2.科目名	発達心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、国際コミュニケーション学部、社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 ※教員免許取得のための必修科目 学芸員高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、生涯発達心理学の立場（人間は生涯を通して成長し続けるという立場）から、乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、高齢期の過程において、各発達期の特徴と支援のあり方を理解することを目的とする。 【概要】 発達の各領域、つまり、身体、運動、感覚・知覚・認知、注意・記憶、動機づけ・学習、言語・思考・知能、感情・パーソナリティ、コミュニケーション・社会性などを横糸、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、高齢期を縦糸とし、横糸と縦糸から発達を立体的に捉える。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①発達要因、発達の一般的傾向、発達理論、発達課題を理解し、説明できる。 ②身体と運動発達、感覚・知覚・認知発達、注意・記憶の発達、動機付け・学習の発達、言語・思考・知能の発達、感情・パーソナリティの発達、コミュニケーション・社会性の発達、発達障害について、各発達期における特徴を説明できる。 ③発達障害、愛着障害などの要因を検討し、どのような支援が行われているかを知り、説明できる。					
19.教科書・教材	「発達心理学をアクティブに学ぶ」 山本真由美編著 北大路書房					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	Webclass 課題・・・3×12＝36％ 中間レポート試験・・・15％ ルーブリック評価 3 項目 5 段階 総括レポート・・・15％ ルーブリック評価 3 項目 5 段階 総括テスト・・・34％					

22.コメント	教科書の内容で webclass の課題を実施します。 生成 AI 利用： 無制限で認める。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み：研究室オフィスアワー 木は三木にいます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の進め方，授業内容，評価方法	Webclass 課題
第 2 回	第 3 章 発達・発達段階・発達心理学研究法	第 3 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 3 回	第 4 章 発達要因・発達の一般的傾向・発達理論	第 4 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 4 回	第 5 章 身体と運動の発達	第 5 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 5 回	第 6 章 感覚・知覚・認知発達	第 6 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 6 回	第 7 章 注意・記憶の発達	第 7 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 7 回	第 8 回 動機づけ・学習の発達	第 8 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 8 回	中間レポート	レポート作成
第 9 回	第 9 章 言語・思考・知能の発達	第 9 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 10 回	第 10 章 感情・パーソナリティの発達	第 10 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 11 回	第 11 章 コミュニケーション・社会性の発達	第 11 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 12 回	第 12 章 発達障害と愛着障害 (1)	第 12 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 13 回	第 12 章 発達障害と愛着障害 (2)	第 12 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 14 回	総括レポート作成	レポート完成
第 15 回	総括試験	総括テスト、授業アンケート

1.授業コード (ナンバリング)	PSY108-Y01	2.科目名	教育心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実 務経験のある教員によ る授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	【三木キャンパス】 心理学科、人間心理学科、経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語) 高校(公民) 高校(福 祉) 小学校一種中学(英語) 中学 (社会) 公認心理師 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限	※三木キャンパスで受講する学生は、ノートパソコンとイヤホンを持参ください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的として います。 【概要】 教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習 の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・ 考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学 修に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができ る。					
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学 第 5 版」有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	Webclass 課題…50％ 期末試験…50％					
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み 学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ・授業の目的と概要、評価 ・遠隔授業の進め方					

第 2 回	教育心理学とは何か 学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	予習：第 1 章を熟読すること
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待・価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師・生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY109-M01	2.科目名	心理学基礎		3.単位数	1
4.授業担当教員	横川滋章、松井幸太					
5.授業科目の区分	臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、心理学的な考え方を身につけ、人の行動や心について理解し、自己理解、および他者理解を深めることをねらいとする。具体的には、「感覚」「知覚」「学習」「発達」「記憶」「人格」について取り上げ学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	①心理学がどのような学問かを説明することができる。(専門的知識・技能の活用) ②人間の行動を客観的・実証的に捉えるための研究法について説明できる。(専門的知識・技能の活用) ③心理学の専門用語・人名を理解し、説明することができる。(自律性) ④心理学が医療現場においてどのように役立つかを説明することができる。(専門的知識・技能の活用)					
19.教科書・教材	系統看護学講座 基礎分野 「心理学」 山村豊・高橋一公 2017 年 医学書院					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。資料も授業中に配布する。					
21.成績評価	①毎回の小レポート 5%×8 回 40% (①②③に対応) ②総括試験 (前半 30%、後半 30%) 60% (①③④に対応)					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。 ただし、小レポートおよび総括試験に関しては、利用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 横川 (三木 C：木曜日・5 時限)・松井 (三木 C：金曜日・昼休み) センターオフィスアワー 横川 (遠隔 ：月曜日・3 時限)・松井 (遠隔：火曜日・1 時限)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション～授業の説明 心理学とは			○予習：事前にテキスト第 1 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 2 回	感覚と知覚について学ぶ			○予習：事前にテキスト第 2 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 3 回	記憶について学ぶ			○予習：事前にテキスト第 3 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 4 回	学習について学ぶ。			○予習：事前にテキスト第 5 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 5 回	性格とパーソナリティについて学ぶ			○予習：事前にテキスト第 7 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 6 回	発達について学ぶ			○予習：事前にテキスト第 9 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 7 回	さまざまな心理療法・カウンセリングの基礎について 学ぶ。			○予習：事前にテキスト第 10 章を読み、内容 および疑問点を整理しておくこと。		
第 8 回	まとめ、総括試験			○予習：これまでの内容をふりかえり、各授		

		業での要点をまとめておくこと。
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

1.授業コード (ナンバリング)	PSY111-Y01	2.科目名	心理学概論	3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂、端本利江子				
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科、人間心理学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	心理学に相当する英語は psychology であり、「心（こころ）」についての学問という意味である。本講義は、心理学の概要について理解することを目的とするものである。そして、今後の心理学関連のさまざまな講義の理解・学習に必要な基礎知識を身につけるとともに、心理学の科目体系を理解することを目的とするものである。 具体的には、1)心理学の歴史、2)実験心理学を起点とするさまざまな研究法、3)これらのアプローチによる心理学的人間理解の概要、などについて学ぶ。そして、心理学の領域としては、「知覚」、「パーソナリ				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 本科目の学習目標は以下のとおりである。 ①心理学がどのような学問かを説明することができる。 ②人間の行動を客観的・実証的に捉えるための研究法について説明できる。 ③心理学の専門用語を理解し、説明することができる。 ④心理学を体系的に理解し、全体像を説明することができる。 ⑤心理学が現実社会でどのように役立つかを説明することができる。				
19.教科書・教材	特になし 毎回資料を配付する				
20.参考文献	講義中に紹介する				
21.成績評価	成績評価は以下のとおりであり、上記の学習目標との関連を示しておく。 ・端本： 各回のミニレポート 20% （①⑤に対応） 前半の中間試験 30% （①②③④に対応） ・板山： 毎回のミニレポート 20% （②③④⑤に対応） 後半の総括試験 30% （①②③④に対応） 計 100%で評価する。				
22.コメント	※心理学科での学びを進めていくのために、最低限必要となる心理学の知識を習得します。 この科目の理解が今後の学びに大きく影響します。 生成 AI 利用に関しては条件付きで認める。 授業内レポートの作成においての使用は認めない。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	第 1 回 ガイダンス 講義概要、学習目標、成績評価				

	の方法などについてシラバスを参照しながら理解する。また、授業外学修課題とその評価基準について、説明を受ける。	
	第2回 ?心理学の始まり・心理学とは	
	第3回 ?学習心理学1 レスポンデント条件づけとは	
	第4回 ?学習心理学2 オペラント条件付けとは	
	第5回 ?認知心理学1 認知心理学とは	
	第6回 ?認知心理学2 記憶とは1	
	第7回 認知心理学3 記憶とは2	
	第8回 専攻選択に向けて1: 臨床心理学,産業心理学について学ぶ	
	第9回 ?専攻選択に向けて2: 犯罪心理学、災害心理学について学ぶ	
	第10回 ?心理学は世の中でどのように役立つか1	
	第11回 ?心理学は世の中でどのように役立つか2	
	第12回 ?感情心理学	
	第13回 ストレスについて1 第14回 ?ストレスについて2	
	第15回 中間試験 第1回から第14回までの理解度を確認する	
】	第16回 ?後半のガイダンス あらためて心とは何か、心理学とは何か	
	第17回 知覚 錯視・錯覚「実在するものはあるがままた知覚されるのか」	
	第18回 パーソナリティ(1) パーソナリティの類型論、特性論などについて学習する。	
	第19回 パーソナリティ(2)ーパーソナリティの捉え方について、さまざまな検査法を理解する。	
	第20回 発達・教育 発達とは何か、発達段階と発達課題、発達の諸相について学習する。	
	第21回 欲求・動機 人を動かす欲求について学ぶ	
	第22回 産業(1) 企業・組織活動でのモチベーションについて学ぶ	
	第23回 産業(2) 職務ストレスとマネジメントについて学ぶ	

	第 24 回 社会(1) 社会的ネットワークについて学ぶ	
	第 25 回 社会(2) 印象形成について学ぶ	
	第 26 回 社会(3) 恋愛に関わる心理について学ぶ	
	第 27 回 社会(4) 対人コミュニケーションについて学ぶ	
	第 28 回 社会(5) 集団/集合の心理学について学ぶ	
	第 29 回 災害・パニックの心理学について学ぶ	
	第 30 回 期末テストー第 16 回から第 29 回までの理解度を確認する。	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY113-Y01	2.科目名	心理学研究法Ⅰ（2023～2025 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、各研究法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 心理学における実証的研究法について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	『公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4 心理学研究法』 監修 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編著 三浦麻子・小島康生・平井啓 ミネルヴァ書房					
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度、小課題を総合的に評価） (2)中間レポート 25% (3)期末レポート 25%					
22.コメント	※心理学研究法は必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。 生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第 2 回】	実験法（1）			授業内容の復習		
【第 3 回】	実験法（2）			授業内容の復習		
【第 4 回】	実験法（3）			授業内容の復習		
【第 5 回】	調査法（1）			授業内容の復習		
【第 6 回】	調査法（2）			授業内容の復習		
【第 7 回】	調査法（3）			授業内容の復習		
【第 8 回】	中間レポート			中間レポートの作成		
【第 9 回】	観察法（1）			授業内容の復習		
【第 10 回】	観察法（2）			授業内容の復習		
【第 11 回】	観察法（3）			授業内容の復習		
【第 12 回】	面接法（1）			授業内容の復習		
【第 13 回】	面接法（2）			授業内容の復習		
【第 14 回】	面接法（3）			授業内容の復習		
【第 15 回】	期末レポート			期末レポートの作成		

1.授業コード (ナンバリング)	PSY202-Y02	2.科目名	心理学研究法 (2022 年度生以前 春秋通年)		3.単位数	4
4.授業担当教員	斎藤元幸、端本利江子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、各研究法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。特に後半では、実験法と調査法に焦点をあてて学ぶ。また、統計的仮説検定や研究論文作成など、今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得も目指す。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、先行研究を収集し、特定の科学的データ収集を設計・実施できる。後半では、実験法および質問紙調査法の手法に対する理解を深め、仮説の設定やデータ分析を通して、卒業論文に向けて実践的な学びを身に着けることを目標とする。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	『公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4 心理学研究法』 監修 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編著 三浦麻子・小島康生・平井啓 ミネルヴァ書房					
21.成績評価	【第 1～15 回：前半】 ・平常評価 50% (出席、授業態度、小課題を総合的に評価) ・中間レポート 25% ・期末レポート 25% 【第 16～30 回：後半】 ・各回小課題 60% ・最終レポート 40%					
22.コメント	※心理学研究法は必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。 生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】実験法 1					
	【第 3 回】実験法 2 【第 4 回】実験法 3					
	【第 5 回】調査法 1 【第 6 回】調査法 2					
	【第 7 回】調査法 3 【第 8 回】中間レポート					

	【第 9 回】 観察法 1 【第 10 回】 観察法 2	
	【第 11 回】 観察法 3 【第 12 回】 面接法 1	
	【第 13 回】 面接法 2 【第 14 回】 面接法 3	
	【第 15 回】 期末レポート 【第 16 回】 ガイダンス、心理学研究法 I の振り返り	
	【第 17 回】 実験法①：実験を体験してみよう 【第 18 回】 実験法②：実験を振り返ってみよう	
	【第 19 回】 実験法③：方法の確認と記述 【第 20 回】 実験法④：結果の確認と分析・記述	
	【第 21 回】 実験法⑤：問題と目的の確認と記述 【第 22 回】 実験法⑥：考察と引用文献の確認と記述	
	【第 23 回】 調査法①：調査法の確認と個人テーマ決め 【第 24 回】 調査法②：質問紙の作成	
	【第 25 回】 調査法③：グループ分けとグループフォームへの入力 【第 26 回】 調査法④：調査実施前の確認・データ取得	
	【第 27 回】 調査法⑤：データ処理と入力 【第 28 回】 調査法⑥：分析の実施	
	【第 29 回】 調査法⑦：結果のまとめ 【第 30 回】 最終レポートについて	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY213-Y01	2.科目名	教育・学校心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 公認心理師 認定心理士 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 【概要】 教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学習に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。					
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学 第5版」 有斐閣アルマ 【 ISBN 】 9784641221468					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	Webclass 課題…50％ 期末試験…50％					
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み 学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の目的と概要、評価 ・ 遠隔授業の進め方					
第 2 回	教育心理学とは何か			予習：第 1 章を熟読すること		

	学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY213-m01	2.科目名	教育・学校心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	※教員免許取得のための必修科目 ※教育の基礎的理解に関する科目 高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 公認心理師 認定心理士 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、教師として活動する際に必要な教育心理学の知識を身に着けることを目的としています。 【概要】 教育心理学の意義および課題について考察した上で、知識の獲得過程、学習の動機づけ、学習の転移、個性・個人差と授業、学習指導について学ぶ。そして、教育心理学的なものの見方・考え方を養った上で、発達を踏まえた学習支援について基本的な考え方を理解する。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学習に関連しています。 【科目の到達目標】 ①教育心理学における基礎的知識を獲得する。 ②教育現場で起こる課題、問題について教育心理学の基礎知識を用いて考察することができる。					
19.教科書・教材	「やさしい教育心理学 第5版」 有斐閣アルマ 【ISBN】 9784641221468					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	Webclass 課題…50% 期末試験…50%					
22.コメント	火、水は神戸山手、木、金は三木にいます。					
23.オフィスアワー	火曜昼休み 学修支援センターオフィスアワー 火曜 4 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の目的と概要、評価 ・ 遠隔授業の進め方					
第 2 回	教育心理学とは何か			予習：第 1 章を熟読すること		

	学校教育、教育基本法、生きる力、社会人基礎力、教育心理学で扱う領域	
第 3 回	記憶とは何か（第 1 章） 短期記憶、長期記憶と意味づけ、忘却	予習：第 2 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 4 回	知識と思考（第 2 章） 表象、宣言的知識、手続き的知識、問題解決、メタ認知	予習：第 3 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域①)
第 5 回	子どもが「学ぶ」ために必要なこと（第 3 章） 古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習、自己強化	予習：第 4 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 6 回	「やる気」を出すには？（第 4 章） 期待 - 価値モデル、学習性無力感、自己効力感、動機づけ、原因帰属	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域②)
第 7 回	学校という場で起きること（第 5 章） 教師の影響、仲間関係、教師 - 生徒関係	予習：第 5 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 8 回	いじめはなぜおこるのか（第 5 章） いじめの発生原因、力とその資源、いじめの特徴、いじめを助長するもの	予習：第 6 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域③)
第 9 回	どのように教えるか（第 6 章） 行動主義心理学:プログラム学習、完全習得学習 認知心理学：発見学習、有意味受容学習	予習：第 7 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 10 回	学校における「評価」とは何か（第 7 章） 評価の目的、基準、学力を測る、知能を測る、性格を測る	予習：第 8 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域④)
第 11 回	ヒトの発達について考える（第 8 章） 発達と成長、発達段階、成熟と学習、遺伝と環境、学習の臨界期。敏感期	予習：第 9 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 12 回	知的発達のメカニズム（第 9 章） 知能指数、知能観、知能の発達	予習：第 11 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑤)
第 13 回	困難を抱える子どもたち（第 11 章） 知的障害、発達障害	予習：第 10 章を熟読すること 復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 14 回	人格発達の基礎（第 10 章） フロイトの発達段階、エリクソンの発達段階、愛着理論、自我同一性	復習：Webclass 課題(領域⑥)
第 15 回	最終試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY214-Y01	2.科目名	災害心理学 (2020～2022 年度生 春秋通 年)		3.単位数	4
4.授業担当教員	斎藤元幸、道免逸子、村田昌彦					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけること。 概要：まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。また自助力養成の一環として、生田警察署の協力により護身術を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	【前半（道免）】 50% 各授業における小レポート 13 回 26% 中間振り返り 2～7 回の内容 12% 総括振り返り 9～14 回の内容 12% 【後半（斎藤・村田）】 50% ①各授業におけるミニレポート（13 回分） 20% ②後半中間レポート 2 回～8 回の内容 15% ③後半期末レポート 9 回～15 回の内容 15%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	道免 センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：木曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		
第 2 回	災害の種類による被災者の心理の特徴					
第 3 回	過去の災害とそこから始まったもの			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業		

第 4 回	災害が直接心身に及ぼす影響 1 ト라우マ、解離、記憶	の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 5 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2 グリーフ 遺族の苦しみ	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 6 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3 うつと自殺	
第 7 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1 災害関連死 支援者のストレス	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 8 回	中間振り返りと講評	
第 9 回	災害の中・長期的影響 1 複雑性 PTSD 複雑性悲嘆 ハサミ状格差	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 10 回	災害の中・長期的影響 2 ビルディングブロックエフェクト	
第 11 回	災害の多角的視点 自助・共助・公助 難民問題	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。 護身術は体育館で実施する 上履き持参 事後の感想シートを忘れないこと
第 12 回	自助力 護身術の実習（生田警察の都合により前後することがあります）	
第 13 回	サイコロジカル・ファーストエイド	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 14 回	心的外傷後成長（PTG）	
第 15 回	総括振り返りと講評	
第 16 回	オリエンテーション	
第 17 回	安全・安心・災害	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 18 回	災害の種類と範囲	
第 19 回	自然災害と環境（1）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 20 回	自然災害と環境（2）	
第 21 回	自然災害と環境（3）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 22 回	災害情報の問題	
第 23 回	防災教育の問題	中間レポートの提出
第 24 回	災害と認知バイアス（1）	
第 25 回	災害と認知バイアス（2）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 26 回	災害と認知バイアス（3）	
第 27 回	災害とフェイクニュース（1）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 28 回	災害とフェイクニュース（2）	
第 29 回	災害における認知・行動	期末レポートの提出

第 30 回	総括および期末レポート	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY215-Y01	2.科目名	災害心理学Ⅱ (2023～2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけること。 概要：まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。また自助力養成の一環として、生田警察署の協力により護身術を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	各授業における小レポート 13 回 52% 中間振り返り 17～22 回の内容 24% 総括振り返り 24～29 回の内容 24%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み（道免） 研究室オフィスアワー： 木曜日昼休み（道免）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		
第 2 回	災害の種類による被災者の心理の特徴			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		
第 3 回	過去の災害とそこから始まったもの			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		

第 4 回	災害が直接心身に及ぼす影響 1 ト라우マ、解離、記憶	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 5 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2 グリーフ 遺族の苦しみ	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 6 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3 うつと自殺	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 7 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1 災害関連死 支援者のストレス	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 8 回	中間振り返りと講評	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 9 回	災害の中・長期的影響 1 複雑性 PTSD 複雑性悲嘆 ハサミ状格差	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 10 回	災害の中・長期的影響 2 ビルディングブロックエフェクト	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 11 回	災害の多角的視点 自助・共助・公助 難民問題	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 12 回	自助力 護身術の実習（生田警察署の都合で日程の前後がありえます）	護身術は体育館で実施 上履き持参 事後の感想シートを忘れないこと
第 13 回	サイコロジカル・ファーストエイド	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 14 回	心的外傷後成長（PTG）	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 15 回	総括振り返りと講評	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY215-Y02	2.科目名	知覚・認知心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 知覚心理学および認知心理学に関する基礎知識を学ぶ。 認知に関する知識は臨床心理学、犯罪心理学、災害心理学、産業・消費者心理学とも関連しており、人間を科学的に理解するためには必須である。 【概要】 知覚・注意・記憶・思考といった代表的な認知機能について解説する。 また、知覚や認知の個人差や障害についても理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。 (2)人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	萱村 俊哉・郷式 徹（2021）. 知覚・認知心理学——「心」の仕組みの基礎を理解する—— 川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト ミネルヴァ書房 箱田 裕司（編）（2020）. 知覚・認知心理学 野島 一彦・繁桝 算男（監修）公認心理師の基礎と実践 遠見書房					
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度、小課題を総合的に評価） (2)総括試験 50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第 2 回】	知覚（1）——視覚・聴覚——			授業内容の復習		
【第 3 回】	知覚（2）——体性感覚・味覚・嗅覚——			授業内容の復習		
【第 4 回】	知覚の障害			授業内容の復習		
【第 5 回】	注意			授業内容の復習		
【第 6 回】	記憶（1）——ワーキングメモリ——			授業内容の復習		
【第 7 回】	記憶（2）——長期記憶——			授業内容の復習		
【第 8 回】	記憶（3）——日常記憶——			授業内容の復習		
【第 9 回】	思考（1）——推論——			授業内容の復習		
【第 10 回】	思考（2）——問題解決——			授業内容の復習		
【第 11 回】	思考（3）——意思決定——			授業内容の復習		

【第 12 回】	認知の個人差	授業内容の復習
【第 13 回】	認知の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード (ナンバリング)	PSY312-Y01	2.科目名	災害心理学 (2019 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけること。 概要：まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。また自助力養成の一環として、生田警察署の協力により護身術を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	各授業における小レポート 13 回 52% 中間振り返り 17～22 回の内容 24% 総括振り返り 24～29 回の内容 24%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み（道免） 研究室オフィスアワー： 木曜日昼休み（道免）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		
第 2 回	災害の種類による被災者の心理の特徴			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		
第 3 回	過去の災害とそこから始まったもの			毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。		

第 4 回	災害が直接心身に及ぼす影響 1 ト라우マ、解離、記憶	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 5 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2 グリーフ 遺族の苦しみ	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 6 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3 うつと自殺	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 7 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1 災害関連死 支援者のストレス	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 8 回	中間振り返りと講評	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 9 回	災害の中・長期的影響 1 複雑性 PTSD 複雑性悲嘆 ハサミ状格差	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 10 回	災害の中・長期的影響 2 ビルディングブロックエフェクト	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 11 回	災害の多角的視点 自助・共助・公助 難民問題	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 12 回	自助力 護身術の実習（生田警察署の都合で日程の前後がありえます）	護身術は体育館で実施 事後の感想シートを忘れないこと
第 13 回	サイコロジカル・ファーストエイド	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 14 回	心的外傷後成長（PTG）	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 15 回	総括振り返りと講評	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY317-Y01	2.科目名	神経・生理心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	1-2 年生で学んだ心理学の概念の具体的な裏付けが生理心理学によって証明される。夢を見たり金縛りに遭ったときの睡眠段階と脳波による判定、ストレスを受けるとヒトの体はどのように対処するのか、記憶、知能、快中枢・不快中枢、情動と合理的判断をする脳の部位の違い、ウソ発見と心電図、認知症の原因など、脳の働きとところの世界の関連性を明らかにする					
18.学習目標と DPとの関連	学期の課題：未来に向けた持続可能性 kuis 学習ベンチマーク ①情報収集・活用力 レベル3：多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集して、要点を整理・保存しながら、自分の主張やアイデアを裏づけることができる ②論理的思考/判断力 レベル3：論証に基づいて論理的な意見や結論を導き出すことができる。 ③問題発見力 レベル3：現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる 学科の教育目標 人間の心理の客観的理解 レベル3：人間の心理的諸現象に対し個別の理論を適用して説明できる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・ワーク（ポリグラフ検査の回に実施予定） 20％ ・レポート 20％ ・期末試験 持ち込み不可の筆記試験 60％					
22.コメント	(1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識＋自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 試験問題について 試験は毎回の講義で配付する資料から出題するので、試験前には配付資料をきちんと復習してから受験すること 記述式の場合には、必ず最初に、講義で習ったことをきちんと書くこと その上で、自分の考えを述べるのは良いが、きちんとした理論について触れることなく、勝手な意見を書いても、得点にはならない					

		また、制限字数を大幅に下回るような状態で提出された答案は、60 点に満たないと心得ておくこと 文字が読みにくい、日本語の文章になっていない場合は、内容にかかわらず、単位を取得する権利を放棄したものと見なすので、その点を留意しておくこと (3) 生理心理学の実験に参加 実験参加は生理心理学の理解にひじょうに役に立つので、実験参加者になって実験を体験してほしい
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	ガイダンス	予習：脳の活動を測定する装置や指標について調べておく(150 分)
	生理心理学とはどのような学問か 脳の構造 生理心理学の指標（ERP PET fMRI NIRS）について解説する	
	大脳新皮質の 4 つの葉と連合野の役割について解説する	
	記憶と脳 海馬の役割について DVD を見ながら学ぶ	
	睡眠と脳波 睡眠の深さや夢を見ている状態を脳波で推定し、金縛りが起きる原因を明らかにする 試験前の徹夜の勉強は意味がなく、レム期の主な役割は記憶の定着を促すことについて解説する	
	睡眠と日常生活 睡眠不足と肌荒れ、時差ぼけ、アインシュタインはロングスリーパー、サーカディアンリズムについて解説する	
	認知症のアセスメントを学ぶ	
	認知症の支援を学ぶ	
	脳内自己刺激（快、不快）と情動の生理心理学について学ぶ	
	ストレスと生理心理学 ストレスに起因する精神疾患など、生理心理学的影響について解説する	
	ストレスへの対応 ストレスが生じた際の対応について解説する	
	ポリグラフ検査 生理指標を用いたウソ発見について、我が国と北米の検査方法の違いを具体的に解説する(group work ポリグラフ検査の質問紙を作成する 評価の 20%に相当する課題の実施)	
	犯罪と精神鑑定 1	

	パーソナリティ障害（DSMⅤ）と犯罪 池田小学校事件（無差別大量殺人）	
	犯罪と精神鑑定 2 自閉スペクトラム症 神戸連続児童殺傷事件、佐世保女子高校生殺人、奈良 の高校生自宅放火事件	
	ふりかえりと最終試験（資料持ち込み不可）	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY318-Y01	2.科目名	心理調査上級実習		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件	認定心理士（心理調査）		11.先修条件	心理学研究法Ⅰ・Ⅱ，心理学統計法，データ解析，心理学実験を受講済みである前提です すめる。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	・ 演習 ・ 教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック ・ 学生による学習のふりかえり ・ 学生同士の意見交換（グループ・ペアワーク、ディスカッション、ディベート等含む） ・ プレゼンテーション		
16.履修制限	履修者は 25 名～30 名以内とする。 履修者が多い場合には選抜，抽選をおこなう。					
17.授業の目的と概要	心理学では，調査・観察・実験などの研究法を用いてデータを収集・分析し、心と行動の関係を明らかにした上で、その結果を論理的に整理することが求められる。本授業では、各種の実証的なデータ収集法のなかでも社会心理学や産業心理学において多用されている「質問紙調査」あるいは「質問紙実験」を取り上げ、受講生各自の興味・関心に基づき構成されたグループごとに個別の調査課題を設定・実施し、一連の調査のプロセスを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 心理学研究の計画・実施・分析・報告という一連の過程について実践的な体験をすることにより、独力で研究を行えるだけの研究基礎力（特に「卒業研究」に直結する知識や技術）を身につけることを目標とする。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・ グループで協同し，研究テーマを設定し，研究計画を立てることができる。 ・ 計画に沿って，調査を実施することができる。 ・ 学術論文を作成するための基本的な作法を修得する。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献	・ 小宮あすか・布井 雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社 ・ 桐生 正幸・板山 昂・入山 茂（編）(2019).『司法・犯罪心理学入門 ――捜査場面を踏まえた理論と実務――』 福村出版. ・ 桐生正幸（編）『基礎から学ぶ犯罪心理学研究法』福村出版.					
21.成績評価	グループワークへの関与やプレゼンテーションなどの平常点（60％） 実習課題の個別レポート（40％）					
22.コメント	グループでの共同研究を実施していくため、欠席するとメンバーに迷惑をかけることになります。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合につ					

	いてのみ認める。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
○	【第 01 回】 オリエンテーション 【第 02 回】 グループ分け、調査テーマの検討、先行研究の輪読	
○	【第 03 回】 先行研究の紹介発表 【第 04 回】 先行研究の紹介発表・調査仮説の設定	
○	【第 05 回】 調査計画の発表① 【第 06 回】 調査計画の発表②	
○	【第 07 回】 質問項目の作成① 【第 08 回】 質問項目の作成②	
○	【第 09 回】 質問紙案、手続きの発表① 【第 10 回】 質問紙案、手続きの発表②	
○	【第 11 回】 質問紙案・実験手続きの確定、質問紙の作成① 【第 12 回】 質問紙案・実験手続きの確定、質問紙の作成②	
○	【第 13 回】 質問紙の完成 【第 14 回】 調査の開始	
○	【第 15 回】 データ収集① 【第 16 回】 データ収集②	
○	【第 17 回】 データ入力 【第 18 回】 データ入力とデータクリーニング	
○	【第 19 回】 データ分析① 【第 20 回】 データ分析②	
○	【第 21 回】 データ分析③ 【第 22 回】 データ分析④	
○	【第 23 回】 データ分析⑤ 【第 24 回】 データ分析⑥	
○	【第 25 回】 研究発表① 【第 26 回】 研究発表②	
○	【第 27 回】 レポート作成① 【第 28 回】 レポート作成②	
○	【第 29 回】 レポート作成③ 【第 30 回】 振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	RED115-Y02	2.科目名	リーディング総合1 L3 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岸田月穂					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	原則対面で実施。 6/23.26 はオンデマンド授業予定		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の概要】 Students will engage in business English readings like Case Studies and client dialogues to improve English abilities in Listening, Speaking, Writing and Reading in the working world. TOEIC Review-style tests are also a feature of this course. Cla					
18.学習目標と DPとの関連	By the end of this course, you should be able to successfully achieve the following Department benchmarks: 1. Autonomous and independent learning skills. 2. Problem identification & solving skills through task-based activities. 3. Communication skills both individual and group focussed.					
19.教科書・教材	"Work Advantage 3" by Joseph Henley. Publisher: Cengage ISBN: 978-9-86584-0648					
20.参考文献						
21.成績評価	Class Participation 20% Daily Word, grammar Quiz 30% Midterm Test 25% Final Test 25% Total 100%					
22.コメント	・ シラバスの内容は授業進捗、受講生の希望などにより変更される可能性があります。 ・ 障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。 ・ 基本は対面授業を行います。が、新型コロナウイルスの感染等特別な事情がある場合には適宜 zoom によるオンラインでの受講も認めます。その場合は事前に担当教員に申し出てください。 ・ 6/23. 26 は教員の出張により、オンデマンド授業とします。					
23.オフィスアワー	上記のメールアドレス宛に事前にご連絡ください。日程調整等含め、個別に対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Unit1 Building a Brand 4/10 Introductions/ Orientation Brand Power (p.6-9) 4/14 Public Relations (p.10-13)			Solve the exercises from the textbook section for the next class.		
Week 2	Unit2 Product Marketing 4/17 Finding Channels(p.14-17)			Solve the exercises from the textbook section for the next class.		

	4/21 Meeting 2: Brand Image(p.18-21)	
Week 3	Unit3 Product Procurement 4/24 Ordering Goods p22-25 4/28 Cash Flow p.26-29	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 4	Review1&Unit4 Sales Presentation 5/1 Review 1 UNITS 1-3 (Listening p30) Reporting Results p34-37 5/8 Green initiative p.38-41	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 5	Unit5 Quality Control 5/12 Quality Assurance p.42-45 5/15 Research and Development p.46-49	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 6	Unit6 Business Goals 5/19 Market Survey p.50-53 5/22 Globalize your product p.54-57	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 7	5/26 Midterm Test 5/29 Review the test	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 8	Review2&Unit7 Company Basics 6/2 Review 2 (Listening p58-61) Corporate Structure(p.62-65) 6/5 Corporate Strategy(p.66-69)	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 9	Unit8 Company Performance 6/9 Sales Results p.70-73 6/12 Profits p.74-77	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 10	Unit9 Business Ethics 6/16 Social responsibilities p.78-81 6/19 Corporate Espionage p. 82-85	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 11 (オンデマンド)	6/23 Review3&TOEIC Strategies p.118-128 6/26 the assignments given by your teacher	Solve the exercises from the textbook section for the next class.

Week 12	Unit10 Finances 6/30 Banking Sector (p.90-93) 7/3 Trade Company(p.94-97)	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 13	Unit11 Company Location 7/7 Relocation p.98-101 7/10 New Premises p.102-105	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 14	Unit12 Corporate Spirit 7/14 Company Culture p.106-109 7/17 Cultural Diversity p.110-113	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 15	Review4 and Final Test 7/21 Review4 & Final Test 7/28 Review the Test	

1.授業コード (ナンバリング)	RED115-Y03	2.科目名	リーディング総合1 L3 (2/2)	3.単位数	2
4.授業担当教員	岸田月穂				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	原則対面で実施。 6/23.26 はオンデマンド授業予定	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	Students will engage in business English readings like Case Studies and client dialogues to improve English abilities in Listening, Speaking, Writing and Reading in the working world. TOEIC Review-style tests are also a feature of this course. Class and g				
18.学習目標と D P との関連	By the end of this course, you should be able to successfully achieve the following Department benchmarks: 1. Autonomous and independent learning skills. 2. Problem identification & solving skills through task-based activities. 3. Communication skills both individual and group focussed.				
19.教科書・教材	"Work Advantage 3" by Joseph Henley. Publisher: Cengage ISBN: 978-9-86584-0648				
20.参考文献					
21.成績評価	Class Participation		20%		
	Daily Word, grammar Quiz		30%		
	Midterm Test		25%		
	Final Test		25%		
	Total		100%		
22.コメント	・ シラバスの内容は授業進捗、受講生の希望などにより変更される可能性があります。 ・ 障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。 ・ 基本は対面授業を行います。新型コロナウイルスの感染等特別な事情がある場合には適宜 zoom によるオンラインでの受講も認めます。その場合は事前に担当教員に申し出てください。 ・ 6/23. 26 は教員の出張により、オンデマンド授業とします。				
23.オフィスアワー	上記のメールアドレス宛に事前にご連絡ください。日程調整等含め、個別に対応します。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Unit1 Building a Brand 4/10 Introductions/ Orientation Brand Power (p.6-9) 4/14 Public Relations (p.10-13)			Solve the exercises from the textbook section for the next class.	
Week 2	Unit2 Product Marketing 4/17 Finding Channels(p.14-17) 4/21			Solve the exercises from the textbook section for the next class.	

	Meeting 2: Brand Image(p.18-21)	
Week 3	Unit3 Product Procurement 4/24 Ordering Goods p22-25 4/28 Cash Flow p.26-29	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 4	Review1&Unit4 Sales Presentation 5/1 Review 1 UNITS 1-3 (Listening p30) Reporting Results p34-37 5/8 Green initiative p.38-41	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 5	Unit5 Quality Control 5/12 Quality Assurance p.42-45 5/15 Research and Development p.46-49	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 6	Unit6 Business Goals 5/19 Market Survey p.50-53 5/22 Globalize your product p.54-57	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 7	5/26 Midterm Test 5/29 Review the test	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 8	Review2&Unit7 Company Basics 6/2 Review 2 (Listening p58-61) Corporate Structure(p.62-65) 6/5 Corporate Strategy(p.66-69)	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 9	Unit8 Company Performance 6/9 Sales Results p.70-73 6/12 Profits p.74-77	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 10	Unit9 Business Ethics 6/16 Social responsibilities p.78-81 6/19 Corporate Espionage p. 82-85	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 11 (オンデマンド)	6/23 Review3&TOEIC Strategies p.118-128 6/26 the assignments given by your teacher	Solve the exercises from the textbook section for the next class.

Week 12	Unit10 Finances 6/30 Banking Sector (p.90-93) 7/3 Trade Company(p.94-97)	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 13	Unit11 Company Location 7/7 Relocation p.98-101 7/10 New Premises p.102-105	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 14	Unit12 Corporate Spirit 7/14 Company Culture p.106-109 7/17 Cultural Diversity p.110-113	Solve the exercises from the textbook section for the next class.
Week 15	Review4 and Final Test 7/21 Review4 & Final Test 7/28 Review the Test	

1.授業コード (ナンバリング)	RED116-Y01	2.科目名	リーディング総合2 L4	3.単位数	2
4.授業担当教員	Binondo Fairlynn Dulla				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lectures, Worksheets, Presentations, Group Discussions, Videos, Face to face, on demand lessons	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	By the end of the semester, students are expected to communicate effectively in various business settings, using appropriate vocabulary and expressions for workplace interactions. They will analyze and discuss real-world case studies of major companies, e				
18.学習目標と DPとの関連	Relationship to DP - Autonomous and independent attitude (autonomy) - Problem finding and solving ability - Communication skills - Understanding diversity				
19.教科書・教材	Title: Work Advantage 2 Author: K.A. Wright ISBN: 9789865840631				
20.参考文献	Additional references will be provided in class.				
21.成績評価	- Quizzes/Activities/Homework: 35% - Class Participation (groupwork/presentation): 25% - Final Test: 40% TOTAL: 100%				
22.コメント	- English is the medium of instruction for this course. - Always bring your textbooks to class. - Do not use your smartphones in class.				
23.オフィスアワー	Monday-Friday (Global Gakushuu Plaza) Kobe Yamate Campus, Building 3, Room 3-016				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	DAY 1: Orientation, Syllabus UNIT 1: Team Spirit Reading, Listening, Case Study DAY 2: UNIT 1: Team Spirit Speaking, Writing, Grammar				
Week 2	DAY 3: UNIT 2: Forming a Team Reading, Listening, Case Study DAY 4: UNIT 2: Forming a Team				

	Speaking, Writing, Grammar	
Week 3	DAY 5: UNIT 3: Working with the World Reading, Listening, Case Study DAY 6: UNIT 3: Working with the World Speaking, Writing, Grammar	
Week 4	DAY 7: UNIT 4: Business Strategies Reading, Listening, Case Study DAY 8: UNIT 4: Business Strategies Speaking, Writing, Grammar	
Week 5	DAY 9: UNIT 5: Understanding Your Customers Reading, Listening, Case Study DAY 10: UNIT 5: Understanding Your Customers Speaking, Writing, Grammar	
Week 6	DAY 11: UNIT 6: Work Smart Reading, Listening, Case Study DAY 12: UNIT 6: Work Smart Speaking, Writing, Grammar	
Week 7	DAY 13: UNIT 7: Corporate Image Reading, Listening, Case Study DAY 14: UNIT 7: Corporate Image Speaking, Writing, Grammar	
Week 8	DAY 15: UNIT 8: Company Profits Reading, Listening, Case Study DAY 16: UNIT 8: Company Profits Speaking, Writing, Grammar	
Week 9	DAY 17: UNIT 9: Tactical Decisions Reading, Listening, Case Study DAY 18: UNIT 9: Tactical Decisions Speaking, Writing, Grammar	
Week 10	DAY 19: UNIT 10: Human Resources Reading, Listening, Case Study DAY 20:	

	UNIT 10: Human Resources Speaking, Writing, Grammar	
Week 11	DAY 21: UNIT 11: Entrepreneurship Reading, Listening, Case Study DAY 22: UNIT 11: Entrepreneurship Speaking, Writing, Grammar	
Week 12	DAY 23: UNIT 12: The Future Business Reading, Listening, Case Study DAY 24: UNIT 12: The Future Business Speaking, Writing, Grammar	
Week 13	TOEIC Strategies	
Week 14	Group Presentation Preparations Group Presentation	
Week 15	Final Test and Reflections	

1.授業コード (ナンバリング)	RED116-Y02	2.科目名	リーディング総合2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴーニ啓子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Objective: This course is for improving reading , vocabulary, grammar, and note-taking skills through a business-focused textbook. Abstract: Students will read passages about 12 Kansai-based companies, learning the histories, corporate cultures, prod					
18.学習目標と DPとの関連	Students can 1. improve comprehension of business related passages and learn about business matters 2. develop reading skills such as scanning, skimming, grasping main ideas 3. increase reading speed and fluency 4. strengthen grammar skills 5. improve note-taking skills 6. build vocabulary words to use in speaking and writing 7. give a presentation on one company they conduct research on DP: 自律性 (autonomy)					
19.教科書・教材	A Visit to Amazing Kansai-based Companies, 松柏社、井上治、他、¥2400 978-4-88198-663-9					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	In-class report=40% Quizzes = 40% Presentation= 20% - Submit an in-class report during each class period. - A reading comprehension quiz will be administered for each unit. - To receive credit, you must deliver a final presentation and comple					
22.コメント	1. Please bring your PC, a set of vocabulary cards, and B5 loose-leaf paper. 2. In the event of severe weather, the class will be held online. 3. Remember to check WebClass occasionally for any updates or notices. 4. If you are too sick to attend class, please let me know. 5.*Generative AI may be used only if permitted by the teacher. Its use is prohibited during exams and for reports.					
23.オフィスアワー	available before or after class, and via email					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Day 1 Orientation (Syllabus), Self-introduction Vocabulary practice Day 2 Chapter 1 Suntory (1)			Day 2 Homework Vocabulary		

	*Vocabulary practice, reading, discussion	
Week 2	Day 1 Chapter 1 Suntory (2) *Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 2 Nabel (1) *Reading, writing , Vocabulary *pair/group work	Day 1 Homework Reading Day 2 Homework Vocabulary
Week 3	Day 1 Chapter 2 Nabel (2) Vocabulary, reading, writing, grammar, vocabulary Quiz Day 2 Chapter 3 Zojirushi (1) reading, writing, vocabulary pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 4	Day 1 Chapter 3 Zojirushi (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 4 Takenaka (1) Reading, writing, vocabulary pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 5	Day 1 Chapter 4 Takenaka (2) reading, writing, grammar, vocabulary Quiz Day 2 Chapter 5 Suntory special edition reading, writing, vocabulary pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 6	Day 1 Chapter 6 Kokuyo (1) Vocabulary, reading, writing, vocabulary pair/group work Day 2 Chapter 6 Kokuyo (2) reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 7	Day 1 Chapter 7 KGK (1)	Day 1 Homework Vocabulary

	Vocabulary, reading, writing pair/group work Day 2 Chapter 7 KGK (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 8	Day 1 Chapter 8 Kohnan (1) Vocabulary, reading, writing pair/group work Day 2 Chapter 8 Kohnan (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 9	Day 1 Chapter 9 Montbell (1) Vocabulary, reading, writing, vocabulary pair/group work Day 2 Chapter 9 Montbell (2) Reading, writing, grammar, vocabulary Quiz	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 10	Day 1 Chapter 10 Takenaka, Zojirushi, Nabel special edition Vocabulary, reading, writing Day 2 Chapter 11 Totani (1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 11	Day 1 Chapter 11 Totani (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 12 Sunstar (1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 12	Day 1 Chapter 12 Sunstar (2) vocabulary, reading, writing, grammar Quiz	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary

	Day 2 Chapter 13 Takeda (1) *Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Review the unit
Week 13	Day 1 Chapter 13 Takeda (2) Vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Chapter 14 Glico (1) Reading, writing, vocabulary *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 14	Day 1 Glico (2) vocabulary, reading, writing, grammar Quiz Day 2 Research a company on your own prepare for a presentation group work	Day 1 Homework Preparation for the final exam
Week 15	Day 1 group presentation 1 Final day group presentation 2 consolidation	

1.授業コード (ナンバリング)	REG305-M01	2.科目名	コミュニティ防災		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 (防災・危機マネジメント専攻・災害心理学専攻 コア科目)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学部、心理学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	人間学Ⅱ、地域防災減災論を履修済みか履修中であることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害に際してきわめて重要となる自助・共助について、実際の災害事例などを通じて理解し、地域コミュニティの一員として災害に事前に備え、災害発生時には迅速的確な対応を、自ら率先して行える力を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	災害発生時に自ら考えて、最善の行動を自らとれる自律性を養う。 地域社会において、平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、社会に貢献できる能力を養う					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回提出物、中間評価：50% 総括レポート(到達確認小テスト含)：50%					
22.コメント	地域防災減災論、セーフティマネジメント論履修者は、より防災・減災の知見を深めるのに不可欠な科目です					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【金曜 4 限】 第 1 回 (4/11)	<講師名はすべて 2022 年度のもの。現在調整中> ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- コミュニティ防災・防犯の意義 <自主防災組織や消防団など、平時からのコミュニティレベルでの防災・減災への取り組みや、コミュニティぐるみの防犯活動などが、災害時にも有効に機能することを学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦 (三木)			☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)		
第 2 回 (4/18)	防災法制度 (地区防災計画) <地域固有の具体的な防災・減災に向けた地区防災計画の策定などについて、具体例を交えて学ぶ> 講師：関西国際大学教授 川脇康生 (山手) 村田昌彦(コメント：三木)			☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)		
第 3 回	市民における安全・安心についての心理			☆講師指定のリフレクション課題レポートの		

(4/25)	<日常生活における犯罪、事故の防止について、また、災害発生時の避難対応についての心理を学び、効果的な防犯や避難行動について考える> 講師：関西国際大学 経営学科准教授 田中綾子 関西国際大学 心理学科教授 村田昌彦(コメント)	提出(WebClass 使用：各回共通)
第 4 回 (5/2)	被災者の健康管理(医療・看護) <被災者、特に高齢者、障害者などの要援護者や女性、子供たちの避難生活における健康管理について学ぶ> 講師：関西国際大学 看護学科教授 畑 吉節未 村田昌彦(コメント：三木)	
第 5 回 (5/9)	過去災害における自助・共助 <平常時には行政主導の公助のシステムが機能するが、大災害発生時には行政のキャパシティを超えるため、自分たちの命や生活は自分で、あるいは地域で守ることの必要性和具体例を学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子(山手) 村田昌彦(コメント：三木)	
第 6 回 (5/16)	地域レベルにおける犯罪と防犯 <高齢者等は災害時のみならず、平時においても犯罪の標的として狙われやすい。地域の安全安心を脅かす高齢者等に対する犯罪事例とその防止策について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学科教授 大松 光寿(山手)	
第 7 回 (5/23)	防災訓練の実践 <コミュニティレベルで地区防災計画の立案に参画し、訓練で実践することは、災害に備える重要なステップであることから、実践的な訓練の先進事例について学ぶ> 講師：龍谷大学政策学部 准教授 石原凌河(遠隔) 村田昌彦(コメント：三木)	
第 8 回 (5/30)	避難所の開設と運営 <災害発生時の地域と連携した安全安心な避難所の開設手順、運営手法、福祉避難所の開設、ボランティアグループとの連携などについて考える> 講師：NPO スマイルネット代表理事 中村 伸一郎(三木) 村田昌彦(コメント：三木)	
第 9 回 (6/6)	地域レベルでの災害時避難要支援者対策<高齢者や障害者など、災害時の避難に支援を要する人々の避難対策について、行政と連携しながら、コミュニティ主体で支援体制を構築する先進的な取り組みについて学ぶ> 講師：兵庫県立大学減災復興政策研究科研究所 松川 杏寧(山手) 村田昌彦(コメント：三木)	

第 10 回 (6/13)	NPO/NGO、ボランティアの役割 ＜災害ボランティアのニーズ把握とコーディネーションが可能な受援体制の整備、大規模 NPO,NGO の災害対応における行政との効果的連携について学ぶ＞ 講師：プラスアーツ代表 永田宏和（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 11 回 (6/20)	地域の安全・安心確保への女性と子供の参画 ＜仙台防災枠組(2015)においてはオールインクルーシブ防災が提唱され、女性、子供も防災計画策定段階から参加することの重要性が確認されたことから、その先進的な実践的取組みについて学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 12 回 (6/27)	環境と防災 ＜災害発生の態様が変わり巨大化する一因は、地球温暖化などの気候変動であるとされることから、生活と密着した環境問題と災害との関連性について学び、今後の防災対策を考える＞ 講師：兵庫県環境部長 菅 範昭（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 13 回 (7/4)	災害廃棄物対策 ＜災害発生後に大量に発生する災害廃棄物対策は、地域の復旧・復興の初期の段階で顕在化する問題であることから、行政と連携しながら、地域においてどのように対処するかについて考える＞ 講師：大栄環境株式会社 関西営業部 福田 輔 村田昌彦(コメント：三木)	
第 14 回 (7/11)	食の安全、家畜伝染病対策 ＜日常生活で当然確保されると考えられている食の安全が、人為的に、あるいは家畜伝染病などによっても往々にして脅かされることについて実例を交えて学び、その対策について考える＞ 講師：関西国際大学教授 村田 昌彦 （三木）	
第 15 回 (7/18)	コミュニティ防災総論～レポート提出～ ＜自助、共助の重要性、災害へのコミュニティレベルでの備え、災害発生時のコミュニティが団結した対応などを総括し、総括レポートを作成する＞ 講師：関西国際大学教授 村田昌彦 （三木）	

1.授業コード (ナンバリング)	REG305-y01	2.科目名	コミュニティ防災		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 (防災・危機マネジメント専攻・災害心理学専攻 コア科目)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学部、心理学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	人間学Ⅱ、地域防災減災論を履修済みか履修中であることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害に際してきわめて重要となる自助・共助について、実際の災害事例などを通じて理解し、地域コミュニティの一員として災害に事前に備え、災害発生時には迅速的確な対応を、自ら率先して行える力を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	災害発生時に自ら考えて、最善の行動を自らとれる自律性を養う。 地域社会において、平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、社会に貢献できる能力を養う					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回提出物、中間評価：50% 総括レポート(到達確認小テスト含)：50%					
22.コメント	地域防災減災論、セーフティマネジメント論履修者は、より防災・減災の知見を深めるのに不可欠な科目です					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【金曜 4 限】 第 1 回 (4/11)	<講師名はすべて 2022 年度のもの。現在調整中> ---主に三木 C から発信して山手 C は遠隔で教室受講になります--- コミュニティ防災・防犯の意義 <自主防災組織や消防団など、平時からのコミュニティレベルでの防災・減災への取り組みや、コミュニティぐるみの防犯活動などが、災害時にも有効に機能することを学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦 (三木)			☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)		
第 2 回 (4/18)	防災法制度 (地区防災計画) <地域固有の具体的な防災・減災に向けた地区防災計画の策定などについて、具体例を交えて学ぶ> 講師：関西国際大学教授 川脇康生 (山手) 村田昌彦(コメント：三木)			☆講師指定のリフレクション課題レポートの提出(WebClass 使用：各回共通)		
第 3 回	市民における安全・安心についての心理			☆講師指定のリフレクション課題レポートの		

(4/25)	<日常生活における犯罪、事故の防止について、また、災害発生時の避難対応についての心理を学び、効果的な防犯や避難行動について考える> 講師：関西国際大学 経営学科准教授 田中綾子 関西国際大学 心理学科教授 村田昌彦(コメント)	提出(WebClass 使用：各回共通)
第 4 回 (5/2)	被災者の健康管理(医療・看護) <被災者、特に高齢者、障害者などの要援護者や女性、子供たちの避難生活における健康管理について学ぶ> 講師：関西国際大学 看護学科教授 畑 吉節未 村田昌彦(コメント：三木)	
第 5 回 (5/9)	過去災害における自助・共助 <平常時には行政主導の公助のシステムが機能するが、大災害発生時には行政のキャパシティを超えるため、自分たちの命や生活は自分で、あるいは地域で守ることの必要性和具体例を学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子(山手) 村田昌彦(コメント：三木)	
第 6 回 (5/16)	地域レベルにおける犯罪と防犯 <高齢者等は災害時のみならず、平時においても犯罪の標的として狙われやすい。地域の安全安心を脅かす高齢者等に対する犯罪事例とその防止策について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学科教授 大松 光寿(山手)	
第 7 回 (5/23)	防災訓練の実践 <コミュニティレベルで地区防災計画の立案に参画し、訓練で実践することは、災害に備える重要なステップであることから、実践的な訓練の先進事例について学ぶ> 講師：龍谷大学政策学部 准教授 石原凌河（遠隔） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 8 回 (5/30)	避難所の開設と運営 <災害発生時の地域と連携した安全安心な避難所の開設手順、運営手法、福祉避難所の開設、ボランティアグループとの連携などについて考える> 講師：NPO スマイルネット代表理事 中村 伸一郎（三木） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 9 回 (6/6)	地域レベルでの災害時避難要支援者対策<高齢者や障害者など、災害時の避難に支援を要する人々の避難対策について、行政と連携しながら、コミュニティ主体で支援体制を構築する先進的な取り組みについて学ぶ> 講師：兵庫県立大学減災復興政策研究研究所 松川 杏寧（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	

第 10 回 (6/13)	NPO/NGO、ボランティアの役割 ＜災害ボランティアのニーズ把握とコーディネーションが可能な受援体制の整備、大規模 NPO,NGO の災害対応における行政との効果的連携について学ぶ＞ 講師：プラスアーツ代表 永田宏和（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 11 回 (6/20)	地域の安全・安心確保への女性と子供の参画 ＜仙台防災枠組(2015)においてはオールインクルーシブ防災が提唱され、女性、子供も防災計画策定段階から参加することの重要性が確認されたことから、その先進的な実践的取組みについて学ぶ＞ 講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 12 回 (6/27)	環境と防災 ＜災害発生の態様が変わり巨大化する一因は、地球温暖化などの気候変動であるとされることから、生活と密着した環境問題と災害との関連性について学び、今後の防災対策を考える＞ 講師：兵庫県環境部長 菅 範昭（山手） 村田昌彦(コメント：三木)	
第 13 回 (7/4)	災害廃棄物対策 ＜災害発生後に大量に発生する災害廃棄物対策は、地域の復旧・復興の初期の段階で顕在化する問題であることから、行政と連携しながら、地域においてどのように対処するかについて考える＞ 講師：大栄環境株式会社 関西営業部 福田 輔 村田昌彦(コメント：三木)	
第 14 回 (7/11)	食の安全、家畜伝染病対策 ＜日常生活で当然確保されると考えられている食の安全が、人為的に、あるいは家畜伝染病などによっても往々にして脅かされることについて実例を交えて学び、その対策について考える＞ 講師：関西国際大学教授 村田 昌彦 （三木）	
第 15 回 (7/18)	コミュニティ防災総論～レポート提出～ ＜自助、共助の重要性、災害へのコミュニティレベルでの備え、災害発生時のコミュニティが団結した対応などを総括し、総括レポートを作成する＞ 講師：関西国際大学教授 村田昌彦 （三木）	

1.授業コード (ナンバリング)	RFB303-Y01	2.科目名	外書講読		3.単位数	2
4.授業担当教員	堀尾 強					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義の目的と概要は以下の通りである。 目的 ① 心理学系大学院への進学を希望する人、英語文献の読解力を高めたい人を対象とする ② まずは英文の意味を大づかみに理解する視点を養う ③ 心理学のテーマを扱った英語論文に触れることにより、心理学の基礎的知識も養う ④ 大学院入学試験および大学院での英語文献読解に必要なとなる英語力を育てる 概要 基礎心理学と臨床心理学のそれぞれの専門的な英文を読解する					
18.学習目標と D P との関連	・ 英語の基礎的事項（基礎文法、基礎構造）を理解できる ・ 心理学の基礎的知識、専門用語を修得できる ・ 英語論文を適切な日本語で和訳することができる 関連する DP コミュニケーション力、専門的知識・技能の活用力 授業の性格上、中辞典以上の英和辞典が必要である。したがって授業には毎回必ず持参することを受講ルールとしたい。電子辞書の使用は不可とする。遠隔授業の際にも必ず辞典を使用すること。					
19.教科書・教材	教科書は指定しない。 毎回の授業で扱うテキストは、Webclass 上にて配布する。					
20.参考文献	英語の基本構造の理解のためには、英語の文法書が必携である。各自かならず手元に準備すること。 その他として Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology(15th),2009. ⇒心理学の代表的教科書。入試問題に頻出している。 『ヒルガードの心理学』内田一成監訳，金剛出版，2012 年。 ⇒上記図書の翻訳書					
21.成績評価	コミュニケーション力、専門的知識・技能の活用力を養うために、 ・ アサインメントの提出 40% コミュニケーション力、専門的知識・技能の活用力を評価するために、 ・ 中間試験 30% ・ 総括試験 30% ・ 合計 100%					
22.コメント	だれでも英文和訳はにがてです。でもなんとかできます。 英文の意味をまずは大づかみにしてから、順次細かい部分もつかむように、トレーニングして					

		いきましよう。 授業で扱うテーマや進め方は、受講生のニーズと理解度によって柔軟に対応します。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション ・授業概要と受講の注意点を説明しますので、各自シラバスをかならず持参してください。 ・授業では英和中辞典（電子辞書の使用は認めません）を使って課題に取り組みます。初回からかならず持参すること。 ・アサインメントを出しますので次回までに自分で和訳して提出してもらいます。	◆持参物◆ ・英和中辞典（電子辞書不可） ・シラバス
【第2回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	・前回出されたアサインメントを提出する ・英和中辞典を持参する
【第3回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第4回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第5回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第6回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	次回の中間試験に備えてこれまでの授業中課題やアサインメントを振り返っておく
【第7回】	中間試験 これまでの学修をもとに、大学院入試を想定した英文問題を和訳する	
【第8回】	中間試験問題の解説を中心とする 再びアサインメントを課していく	・英和中辞典を持参する
【第9回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	・前回出されたアサインメントを提出する ・英和中辞典を用意する
【第10回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第11回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第12回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	同上
【第13回】	・前回アサインメントの解説 ・その他	次回の総括試験に向けてこれまでのアサインメントを中心に振り返りをしておきましょう
【第14回】	・総括試験（70分）	◆持参物◆ ・英和中辞典（電子辞書不可）
【第15回】	総括試験に関する解説を中心とする	◆持参物◆ ・英和中辞典（電子辞書不可）

1.授業コード (ナンバリング)	RSM101-M01	2.科目名	災害と安全 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	森永速男					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災前、そして直後から中長期まで					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - (増補改訂第 2 版)、ふくろう出版。					
20.参考文献	齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。					
21.成績評価	中間レポート 50%と最終レポート 50%の比率で成績を評価する。(1) 講義で紹介されたことが理解できているか、(2) 学んだことを日々の、また今後の生活でどう生かしていくか、がレポート中に書かれているかを中心に評価する。					
22.コメント	理科的な内容の講義であるが、できるだけ数式を用いず平易や言葉を使用して説明するので、「理科が苦手」といった思い込みや先入観を持たずに講義にのぞんでほしい。 なお、生成 AI を利用して情報を入手することは認めるが、得た情報をそのまま使用して (いわゆる、コピー＆ペーストして) レポートを作成することは一切認めない。もし、そのような行為が認められた場合にはすべて零点となる、または疑わしい場合にも減点されるので注意してください。					
23.オフィスアワー	毎回の講義終了後、およびメールを通して質問等の対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回：自然と災害：イントロダクション 本講義の目標：なぜ、地球や地球で起こる自然現象を理解する必要があるのか、を災害から身を守る方策 (防災・減災) として説明します。			事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。		

	第2回：宇宙・太陽系・地球 宇宙、太陽系と地球に関する基本的なこと；年齢、大きさ、密度や生命が存在できる理由などを理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第3回：年代決定法 地球の年齢が決められた歴史と年代を決める方法（年代決定法）について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第4回：プレートテクトニクス（1） 地球で起こる現象の原因、プレートテクトニクスについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第5回：プレートテクトニクス（2） プレートテクトニクスに基づいて地震や火山噴火が起こる原因と、日本がそういった自然現象の多いである理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第6回：六甲山のおいたちと地震 六甲山の形成と1995年に起こった阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとの関連について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第7回：東日本大震災と南海トラフ巨大地震 2011年に起こった東日本大震災について説明し、近い将来に起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第8回：火山の災害と恩恵 火山噴火に伴う災害と火山や火山噴出物がもたらす恩恵について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第9回：生命を守る地球磁場とオーロラ 生命の生存を守ってくれている地球磁場について、さらに地球磁場に関連して起こるオーロラについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第10回：生物が語る地球の歴史と環境 生物の行動や生物化石の特徴から読み解ける地球の歴史と環境変化について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第11回：降雨メカニズム：台風と豪雨災害 雨が降る理由を理解し、台風や豪雨災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を

		講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 12 回：六甲山と水害（阪神大水害） 神戸という町が水害（例えば、阪神大水害）の多い町であること、一方そのおかげで港町として発達してきた歴史や理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 13 回：地球温暖化 近年盛んに言われている「地球温暖化」について説明します。また、その原因や逆の「寒冷化」に関する説明も行います。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 14 回：環境変化と資源 地球の歴史、環境の変化、そして地球で得られる資源について説明します。その中で、地球という天体のすばらしさについて理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 15 回：放射線と原子力発電 まず、放射線そのもののについて説明します。さらに、2011 年の東日本大震災で事故を起こした福島第 1 原子力発電所と放射線災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM101-a01	2.科目名	災害と安全 (2024 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	森永速男					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災前、そして直後から中長期まで					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - (増補改訂第 2 版)、ふくろう出版。					
20.参考文献	齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。					
21.成績評価	中間レポート 50%と最終レポート 50%の比率で成績を評価する。(1) 講義で紹介されたことが理解できているか、(2) 学んだことを日々の、また今後の生活でどう生かしていくか、がレポート中に書かれているかを中心に評価する。					
22.コメント	理科的な内容の講義であるが、できるだけ数式を用いず平易や言葉を使用して説明するので、「理科が苦手」といった思い込みや先入観を持たずに講義にのぞんでほしい。 なお、生成 AI を利用して情報を入手することは認めるが、得た情報をそのまま使用して (いわゆる、コピー＆ペーストして) レポートを作成することは一切認めない。もし、そのような行為が認められた場合にはすべて零点となる、または疑わしい場合にも減点されるので注意してください。					
23.オフィスアワー	毎回の講義終了後、およびメールを通して質問等の対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回：自然と災害：イントロダクション 本講義の目標：なぜ、地球や地球で起こる自然現象を理解する必要があるのか、を災害から身を守る方策 (防災・減災) として説明します。			事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。		

	第2回：宇宙・太陽系・地球 宇宙、太陽系と地球に関する基本的なこと；年齢、大きさ、密度や生命が存在できる理由などを理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第3回：年代決定法 地球の年齢が決められた歴史と年代を決める方法（年代決定法）について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第4回：プレートテクトニクス（1） 地球で起こる現象の原因、プレートテクトニクスについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第5回：プレートテクトニクス（2） プレートテクトニクスに基づいて地震や火山噴火が起こる原因と、日本がそういった自然現象の多いである理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第6回：六甲山のおいたちと地震 六甲山の形成と1995年に起こった阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとの関連について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第7回：東日本大震災と南海トラフ巨大地震 2011年に起こった東日本大震災について説明し、近い将来に起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第8回：火山の災害と恩恵 火山噴火に伴う災害と火山や火山噴出物がもたらす恩恵について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第9回：生命を守る地球磁場とオーロラ 生命の生存を守ってくれている地球磁場について、さらに地球磁場に関連して起こるオーロラについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第10回：生物が語る地球の歴史と環境 生物の行動や生物化石の特徴から読み解ける地球の歴史と環境変化について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第11回：降雨メカニズム：台風と豪雨災害 雨が降る理由を理解し、台風や豪雨災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を

		講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 12 回：六甲山と水害（阪神大水害） 神戸という町が水害（例えば、阪神大水害）の多い町であること、一方そのおかげで港町として発達してきた歴史や理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 13 回：地球温暖化 近年盛んに言われている「地球温暖化」について説明します。また、その原因や逆の「寒冷化」に関する説明も行います。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 14 回：環境変化と資源 地球の歴史、環境の変化、そして地球で得られる資源について説明します。その中で、地球という天体のすばらしさについて理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 15 回：放射線と原子力発電 まず、放射線そのもののについて説明します。さらに、2011 年の東日本大震災で事故を起こした福島第 1 原子力発電所と放射線災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM102-M01	2.科目名	地域防災減災論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 (経営学科防災・ 危機マネジメント専攻 コア科目)	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学部 <春学期は三木開講> <冬学期は山手、三木で開講>			9.履修学年	2 年～ <春学期は全学科 2 年生以上>	
10.取得資格の要件	履修登録は春学期開始時までに行うこと。 防災士試験受験者は、普通救命士講習(本学あるいは近隣消防署等によるもの)を別途受講(3時間程度)する必要がある。なお、センタープログラムの一環として春学期に三木キャンパスにおいて講習を実施予定。		11.先修条件	人間学Ⅱを履修済みか履修中。 セーフティマネジメント論が履修済みか同時受講が望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義中心		
16.履修制限	80 人程度(可能な範囲で受け入れる)					
17.授業の目的と概要	本授業では、今後ますます頻発し巨大化する各種災害をたくましく生き抜くために必要となる災害に対する基礎的な知識、災害への備え、災害発生時の対応などについて体系的に学習する。 さらに、履修者には、全国的に認知されている「防災士」の資格試験の受験機会を提供し、履修者全員が「防災士」の資格取得を目指す <防災士教本、防災士試験受験料、防災士登録料(合計 12,000 円)の一部は、協力企業からの寄付金により補填され、自己負担金は 4,000 円。自己負担金は、指定する期日(授業開始前)に必要な書類に添えて納入すること					
18.学習目標と DPとの関連	将来各方面で活躍するなかで、地域や組織における防災リーダーとして安全・安心をけん引していける人材を育成することを目指す。					
19.教科書・教材	防災士教本、各講師作成資料 授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(最終日以外はスマホでも可)					
20.参考文献	防災リテラシー(森北出版)					
21.成績評価	各授業の予習・復習、防災士試験対策練習問題などの WebClass の取り組み: 50% 総括試験: 40% 防災士試験の合否: 10% <防災士試験受験は、WebClass の練習問題等を行い、総括試験 70%程度以上の成績を有する者に、原則受験資格を与える予定> WebClass にアクセスできる PC かタブレット等(授業はスマホでも可。総括テストはスマホ不可)、防災士教本を毎回持参のこと					
22.コメント	毎回の授業に加えて、授業前の練習問題、授業期間中の確認問題などをキッチリこなして、防災士資格の取得を目指してください。 救命士講習は、極力春学期期間中に最寄りの消防署で受講すること。					

	キャンパスでの救命士講習受講希望者は、Outlook Mail からの連絡などに速やかに対応してください。 連絡は Outlook Mail を主に使用するの、メールのチェック(携帯への自動転送)を必ず行ってください。 【講師名、設定日時は予定です。変更場合があります】	
23.オフィスアワー	センタープログラムの一環として、普通救命講座を春学期中に 3 時間程度実施予定（三木キャンパスで消防署に講師依頼）。その他、学内講師でも実施予定。 受講できない者は、自宅所在地の消防署、三木消防、尼崎消防、神戸市消防が毎月実施する普通救命士講習を、防災士試験日までに受講しておくこと。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【金曜 2 限】 第 1 回 (4 月 11 日)	ハザードと災害(防災と減災) 関西国際大学 教授 村田昌彦	毎回、WebClass を活用した事前学習、復習をします。 ノート P C, タブレット (スマホでも可)、防災士教本を持参のこと。 <全回共通>
第 2 回 (4 月 18 日)	行政対応と災害法制度 <地域防災計画、災害対策基本法、災害救助法> 講師：関西国際大学 教授 村田昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 3 回 (4 月 25 日)	災害発生の歴史と仕組みと被害 <台風、風水害、強風・竜巻、土砂災害> 講師：関西国際大学 教授 村田 昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 4 回 (5 月 2 日)	災害発生の歴史と仕組みと被害<地盤災害等：地震・津波> 講師：関西国際大学 教授 村田 昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 5 回 (5 月 9 日)	災害発生の歴史と仕組みと被害<火山・火災> 講師：経営学部 准教授 田中綾子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 6 回 (5 月 16 日)	ライフラインの被害と復旧<ライフライン・交通インフラ> 講師：関西国際大学 教授 村田 昌彦	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 7 回 (5 月 23 日)	防災情報 <予警報、緊急地震速報、被害・避難者情報> 講師：関西国際大学客員教授 齊藤容子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 8 回 (5 月 30 日)	企業・都市における防災総論 <都市経営と災害、BCP> 講師：経営学部 准教授 田中綾子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 9 回 (6 月 6 日)	災害医療・看護 <応急救急・救命、トリアージ、避難所と仮設住宅> 講師：関西国際大学保健医療学部教授 畑 吉節未	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 10 回 (6 月 13 日)	企業防災の実践と CSR <企業活動における防災・危機管理、災害発生時の社会的責任等> 講師：TOA (株)	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 11 回 (6 月 20 日)	被災者の心理<避難と避難行動、災害と流言・風評> 講師：関西国際大学 人間心理学科 教授 道免逸子	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 12 回	防災まちづくり <ハザードマップ・地域の復旧と復興>	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが

(6 月 27 日)	講師：関西国際大学客員教授 斉藤容子	平常点になります。
第 13 回 (7 月 4 日) 第 14 回 (7 月 11 日)	< 演 習 > 自助・共助・公助 <耐震診断と補強、身近でできる防災対策> 講師：関西国際大学教授 川脇康生 防災訓練の実践・避難所運営・危機管理 < 防災訓練・図上訓練、避難所運営 >	毎回の確認問題を必ず取り組むこと。これが平常点になります。
第 15 回 (7 月 18 日)	期末総括テスト 防災士試験対策	総括テストは WebClass を活用するので、ノート P C，タブレットを持参のこと（スマホは不可）
第 16 回（予定） (7 月 19 日)土曜日	第 16 回目に、履修者のうち受験資格が確認できた者は全員（原則）、日本防災士機構による防災士試験を受験	日本防災士機構による防災士試験を実施します。 受験には授業で案内した、申し込み書提出が事前に必要になります。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM103-M51	2.科目名	自然と災害 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	森永速男					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災前、そして直後から中長期まで					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - (増補改訂第 2 版)、ふくろう出版。					
20.参考文献	齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。					
21.成績評価	中間レポート 50%と最終レポート 50%の比率で成績を評価する。(1) 講義で紹介されたことが理解できているか、(2) 学んだことを日々の、また今後の生活でどう生かしていくか、がレポート中に書かれているかを中心に評価する。					
22.コメント	理科的な内容の講義であるが、できるだけ数式を用いず平易や言葉を使用して説明するので、「理科が苦手」といった思い込みや先入観を持たずに講義にのぞんでほしい。 なお、生成 AI を利用して情報を入手することは認めるが、得た情報をそのまま使用して (いわゆる、コピー＆ペーストして) レポートを作成することは一切認めない。もし、そのような行為が認められた場合にはすべて零点となる、または疑わしい場合にも減点されるので注意してください。					
23.オフィスアワー	毎回の講義終了後、およびメールを通して質問等の対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回：自然と災害：イントロダクション 本講義の目標：なぜ、地球や地球上で起こる自然現象を理解する必要があるのか、を災害から身を守る方策 (防災・減災) として説明します。			事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。		

	第 2 回：宇宙・太陽系・地球 宇宙、太陽系と地球に関する基本的なこと；年齢、大きさ、密度や生命が存在できる理由などを理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 3 回：年代決定法 地球の年齢が決められた歴史と年代を決める方法（年代決定法）について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 4 回：プレートテクトニクス（1） 地球で起こる現象の原因、プレートテクトニクスについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 5 回：プレートテクトニクス（2） プレートテクトニクスに基づいて地震や火山噴火が起こる原因と、日本がそういった自然現象の多いである理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 6 回：六甲山のおいたちと地震 六甲山の形成と 1995 年に起こった阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとの関連について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 7 回：東日本大震災と南海トラフ巨大地震 2011 年に起こった東日本大震災について説明し、近い将来に起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 8 回：火山の災害と恩恵 火山噴火に伴う災害と火山や火山噴出物がもたらす恩恵について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 9 回：生命を守る地球磁場とオーロラ 生命の生存を守ってくれている地球磁場について、さらに地球磁場に関連して起こるオーロラについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 10 回：生物が語る地球の歴史と環境 生物の行動や生物化石の特徴から読み解ける地球の歴史と環境変化について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 11 回：降雨メカニズム：台風と豪雨災害 雨が降る理由を理解し、台風や豪雨災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を

		講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 12 回：六甲山と水害（阪神大水害） 神戸という町が水害（例えば、阪神大水害）の多い町であること、一方そのおかげで港町として発達してきた歴史や理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 13 回：地球温暖化 近年盛んに言われている「地球温暖化」について説明します。また、その原因や逆の「寒冷化」に関する説明も行います。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 14 回：環境変化と資源 地球の歴史、環境の変化、そして地球で得られる資源について説明します。その中で、地球という天体のすばらしさについて理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 15 回：放射線と原子力発電 まず、放射線そのもののについて説明します。さらに、2011 年の東日本大震災で事故を起こした福島第 1 原子力発電所と放射線災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM103-a01	2.科目名	自然と災害 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	森永速男					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球で起こる自然現象の中には生物や人類に恩恵をもたらすものもあれば、突発的で破壊的な災害をもたらすものもある。恩恵と災害をもたらす自然現象の様相やそのメカニズムを理解することは、この天体で持続的に生きていくうえで極めて重要である。この授業の目的は、自然現象からの恩恵について理解し、それらをより正しく享受するためにどうあるべきかを考察し、また災害について正しく理解し、どうすれば災害による被害を低減できるかを考える。さらに、災害による、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災前、そして直後から中長期まで					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 ① 地球という生命のいる天体について理解する ② 地球で起こる自然現象のメカニズムについて理解する ③ 自然現象による恩恵と災害の多様性について理解する ④ 恩恵と災害がもたらす影響について多角的に理解し、対応できる ⑤ 自然災害による被災者・被害者への適切な支援ができる ⑥ 自然災害から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑦ 防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	森永速男、片尾浩、山本鋼志著；災害多発時代の今だからこそ地球の恵みに感謝!!-素晴らしい地球のシステム - (増補改訂第 2 版)、ふくろう出版。					
20.参考文献	齋藤富雄他編著；映画に学ぶ危機管理、晃洋書房。					
21.成績評価	中間レポート 50%と最終レポート 50%の比率で成績を評価する。(1) 講義で紹介されたことが理解できているか、(2) 学んだことを日々の、また今後の生活でどう生かしていくか、がレポート中に書かれているかを中心に評価する。					
22.コメント	理科的な内容の講義であるが、できるだけ数式を用いず平易や言葉を使用して説明するので、「理科が苦手」といった思い込みや先入観を持たずに講義にのぞんでほしい。 なお、生成 AI を利用して情報を入手することは認めるが、得た情報をそのまま使用して (いわゆる、コピー＆ペーストして) レポートを作成することは一切認めない。もし、そのような行為が認められた場合にはすべて零点となる、または疑わしい場合にも減点されるので注意してください。					
23.オフィスアワー	毎回の講義終了後、およびメールを通して質問等の対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回：自然と災害：イントロダクション 本講義の目標：なぜ、地球や地球で起こる自然現象を理解する必要があるのか、を災害から身を守る方策 (防災・減災) として説明します。			事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。		

	第 2 回：宇宙・太陽系・地球 宇宙、太陽系と地球に関する基本的なこと；年齢、大きさ、密度や生命が存在できる理由などを理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 3 回：年代決定法 地球の年令が決められた歴史と年代を決める方法（年代決定法）について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 4 回：プレートテクトニクス（1） 地球で起こる現象の原因、プレートテクトニクスについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 5 回：プレートテクトニクス（2） プレートテクトニクスに基づいて地震や火山噴火が起こる原因と、日本がそういった自然現象の多いである理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 6 回：六甲山のおいたちと地震 六甲山の形成と 1995 年に起こった阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとの関連について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 7 回：東日本大震災と南海トラフ巨大地震 2011 年に起こった東日本大震災について説明し、近い将来に起こる可能性の高い南海トラフ巨大地震について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 8 回：火山の災害と恩恵 火山噴火に伴う災害と火山や火山噴出物がもたらす恩恵について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 9 回：生命を守る地球磁場とオーロラ 生命の生存を守ってくれている地球磁場について、さらに地球磁場に関連して起こるオーロラについて説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 10 回：生物が語る地球の歴史と環境 生物の行動や生物化石の特徴から読み解ける地球の歴史と環境変化について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかり身につける。
	第 11 回：降雨メカニズム：台風と豪雨災害 雨が降る理由を理解し、台風や豪雨災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を

		講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 12 回：六甲山と水害（阪神大水害） 神戸という町が水害（例えば、阪神大水害）の多い町であること、一方そのおかげで港町として発達してきた歴史や理由について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 13 回：地球温暖化 近年盛んに言われている「地球温暖化」について説明します。また、その原因や逆の「寒冷化」に関する説明も行います。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 14 回：環境変化と資源 地球の歴史、環境の変化、そして地球で得られる資源について説明します。その中で、地球という天体のすばらしさについて理解します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。
	第 15 回：放射線と原子力発電 まず、放射線そのもののについて説明します。さらに、2011 年の東日本大震災で事故を起こした福島第 1 原子力発電所と放射線災害について説明します。	事前の準備は不要であるが、講義中に発する問いかけにしっかり対応しながら、考えるくせを身につける。また、提供される資料を講義後に読み返し、学んだ知識をしっかりと身につける。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM304-M01	2.科目名	危機管理リーダーシップ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子					
5.授業科目の区分	展開科目 (防災・危機マネジメント専攻コア科目)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学部、人間科学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「地域防災減災論」「セーフティマネジメント論」の単位取得が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】平時と危機では求められるリーダーシップ像も異なる。組織の存続をかけた決断、社会的影響の大きな事項の発表、限られた時間の中での情報収集、メンバーや外部との協力・連携など、危機において求められるリーダーシップや行動について学び、どのような知識・意識・行動が必要になるかを説明できるようになることを目的とする。 【概要】授業は、重要語句等を知識を身につける講義と、グループ内で議論して考え調整する力を身につけるワークショップによって構成する。過去の危機管理事例やゲーム・シミュレーション技法を取り入れ、その成					
18.学習目標と DPとの関連	さまざまなリーダーシップのあり方について危機事例から学び、決断のために必要な体制や情報などの条件を説明できる。また、自分の考え方の癖を知り、平時からの人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを身に付ける。 <特に関連性の高い DP 項目> (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (5) コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。					
19.教科書・教材	授業資料を web クラスで毎回データ配布します。また、ワークに必要な様式等は随時配布します。					
20.参考文献	◇『危機管理とリーダーシップ』 亀井利明 亀井克之 同文館出版 2013 年 ◇「自治体の地域防災・危機管理のしくみ（図解よくわかるシリーズ）」 鍵屋 一 学陽書房 2019 年 ◇『しんがりの思想 反リーダーシップ論』 鷺田清一 角川新書 2015 年					
21.成績評価	◆各回提出物：50% web クラスにおいて、用語確認と気づきについて提出する。過去の事例や自身の判断傾向を知ること、リーダーに求められるコミュニケーションについての考えをまとめ、リーダーシップやコミュニケーション能力の具体的な行動への表れ方を言語化できているかどうかを評価する。 ◆総括テスト／レポート：50% 重要語句の知識を問う空欄補充問題 20% 危機におけるシミュレーション対応記述問題 30% 提示された危機事案の①状況設定の詳細と、②起こり得るリスクを示し、③それに対応するために必要な情報入手手					
22.コメント	リーダーシップへの考察を通じて、多様な気質・性格・能力のあるそれぞれの人が活躍できる組織のあり方について考えます。活発な意見交換を期待します。					

23.オフィスアワー		金曜日昼休み 研究室（４号館５階）
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回（４/８）	<オリエンテーション> リスクマネジメントとクライシスマネジメントについて理解する。	☆リフレクション課題の提出(WebClass 使用：第１回から１４回まで各回共通)
第２回 （４/１５）	<ソーシャルリスクマネジメント> 地域と企業のリスク管理の違いについて学ぶ。	
第３回 （４/２２）	<チームワークとフォローアップ> 危機管理の場面においてリーダーシップが求められる理由を理解する。（メンバーの考え方の多様性を知るためのグループワーク）	
第４回 （５/１３）	<危機における情報管理> 危機における情報収集と情報発信の重要性について学ぶ。	
第５回 （５/２０）	<危機におけるリーダーの実像①> 実際の危機においてリーダーがどのように行動したか、事例から学ぶ。（災害対応とまちの再興）	
第６回 （５/２７）	<決断のシミュレーション①> 危機事例のタイムラインに沿って、どのような決断が求められるのかを疑似体験する。（地下鉄サリン事件発生時における聖路加病院等の対応事例）	
第７回（６/３）	<決断のシミュレーション②> 危機事例で求められる決断について、クロスロードゲームを通じて学ぶ。	
第８回 （６/１０）	<危機におけるリーダーの実像②> 実際の危機においてリーダーがどのように行動したか、事例から学ぶ。（東日本大震災における対応事例）	
第９回 （６/１７）	<歴史に学ぶ危機管理> 国内外の有名な危機事例について、リーダーシップの観点から読み解く。（江戸時代の諸藩の飢饉等への対応、フィンランドやアメリカの事例）	
第１０回 （６/２４）	<経営危機からの逆転事例> 企業における危機の発生から復旧・発展まで、リーダーの決断がターニングポイントになった事例を読み解く。	
第１１回 （７/１）	<経営危機への失敗事例> リーダーの決断によって危機を拡大してしまった事例について、実例や映画シナリオから学ぶ。	
第１２回 （７/８）	<コンピテンシーと共生> リーダーとしてチーム力を最大化するためには、どのように能力を認め合い、フォローしあう必要があるかについて考える。	
第１３回 （７/１５）	<平時の危機管理とリーダーシップ> 平時から危機に備える必要性をリーダーシップの視点で考える。	
第１４回	<多様なリーダー像>	

(7/22)	組織の目的やメンバー構成が様々であるように、リーダーのあり方もひとつではない。多様なリーダー像について、意見交換を行う。	
第 15 回 (7/29)	<総括レポート／テスト> web クラス上で 60 分の総括テストを行う。 ◆重要語句に関するテスト（語句入力） ◆提示された危機案件から 1 つを選び、求められるリーダーシップと取るべき行動について記述する。（自由記述）	web クラスを使用するため、ノート PC を持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM307-Y01	2.科目名	サイバーセキュリティ論Ⅰ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	全学科（対面授業を原則とする）			9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	サイバーセキュリティ論Ⅰ、Ⅱの両講義を履修することを前提としています。 Ⅰにおいては、サイバー犯罪の現状や基本的事項、法制度に加えて犯罪の実例やサイバーセキュリティ対策についても学習します。講義への出席が原則です。				
17.授業の目的と概要	目的：情報収集、分析力を身に付け、データに基づく論理的思考力を養うことを目標とします。 サイバー犯罪の現状、傾向を学ぶことにより、現代社会において必要とされるサイバーセキュリティに関する知識・サイバーリスクマネジメント力を養成すること目的としています。 概要：現代社会がおかれている「サイバー空間の脅威」を正しく認識し、そのリスク軽減を図るため、サイバー犯罪の手法やその対策、法制度に関する知識を習得します。				
18.学習目標と DPとの関連	DPの(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①サイバー犯罪等が社会の中で問題となっている論点を述べるができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。				
20.参考文献	警察白書、青林出版 概説サイバー犯罪 法令解説と捜査・公判の実際 授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	・第8回講義終了後レポート「サイバー空間の現状、サイバー犯罪に関する法制度について」の提出 40% 学習目標①に対応 ・総括効果測定 「違法有害情報、虚偽情報等に対する対策に関するレポート」の提出 60% 学習目標②、③に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提となるので注意すること				
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。 ・レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する			ノートパソコン等を持参して下さい。	

	説明	
第 2 回	サイバー空間の脅威 現状、傾向	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	サイバー攻撃、サイバー犯罪 定義、対策	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	サイバー空間の歴史	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	国際的な秩序形成 サイバー犯罪条約	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	サイバー犯罪等に関する法制度 刑法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	サイバー犯罪等に関する法制度 不正アクセス法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	サイバー犯罪等に関する法制度 サイバーセキュリティ基本法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	違法有害情報に対する対策 フィルタリング、青少年インターネット環境整備法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	違法有害情報に対する対策 被害防止教室	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	ネットワーク上の虚偽情報 フェイクウェブ、フィッシング	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	サイバー犯罪の各種手口 実例	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 13 回	サイバー犯罪の各種手口 実例、事件例	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑

		ノートパソコン等を持参して下さい。
第 14 回	サイバーインテリジェンス、テロ 実情	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、事例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	総括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	SE2206-Y01	2.科目名	マーケティング論	3.単位数	2
4.授業担当教員	上瀬昭司				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、マーケティングが世の中でどのような役割を果たしているのか、そしてマーケティングをうまくやるために理論がどのように役立つのかを学びます。そのようなことを学ぶことは、さらに深くマーケティングを学ぶきっかけとなり、うまくマーケティングを行うための手がかりを得ることになるはずです。 【概要】 1回の授業で、テキストの1章分を進みます。初回は2つの章を進み、第15回に総括試験を行います。 授業の最初に、各回のテーマに沿った企業のマーケティング活動（事例）を説明しながら、そのマーケティングを				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(2)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①マーケティングについての基本的概念を理解できる。 ②新聞報道等で目にした企業のマーケティング行動について、理論的に整理できる。 ③企業のマーケティング行動について自分の考えを論理的に組み立て、他人に説明できる。				
19.教科書・教材	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング〈第4版〉』2020年、碩学舎				
20.参考文献	授業で使用した資料については、授業中に適宜指示する。 テキストの各章末に「参考文献」と「次に読んで欲しい本」が掲載されているので、授業内容に興味を持ち、もっと深く学びたいと思う学生は、それらの文献に当たってほしい。				
21.成績評価	成績評価の方法と配点は以下の通りです。 ・ディスカッションへの参加・・・30点〔学習目標③に対応〕 ・レポート・・・30点〔学習目標②に対応〕 ・総括試験・・・40点〔学習目標①に対応〕				
22.コメント	ディスカッションのテーマについては、以下のことに注意して、あらかじめ自分の意見をまとめておくといよ。 ディスカッションのテーマは、当該章の内容に沿ったものであることに注意すると、的外れな発言をすることがない。 あらかじめ考えてきた意見であっても、先に述べた人とまったく同じものならば、述べてはいけない。似たような意見の場合は、違いを明らかにすることで、別の意見とみなされる。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第1回	マーケティング発想の経営 ・アサヒビールのスーパードライ開発のケースを通して、マーケティング発想の第一は、消費者志向であることを理解する。			テキスト第1章および第2章についてあらかじめ読んでおき、ディスカッションのテーマについて自分なりの考えをまとめておく。	

	・ 4 分の 1 インチのドリルのケースを通して、消費者の本当のニーズは製品そのものではなく製品が果たす機能にあることを理解する。 ・ ハーレーダビッドソンとコカ・コーラ「ニューコーク」のケースを通して、消費者が本当に欲しいものは何かについて考える。 テキスト第 1 章 ディスカッションのテーマ ・ 幾つかの製品を取り上げ、その製品が果たす機能とその製品を購入する目的について考えて	
第 2 回	マーケティングの基本概念 ・ サントリー食品の「クラフトボス」のケースを通じて、マーケティングの基本概念（STP と 4 P）について学ぶ。 テキスト第 3 章 ディスカッションのテーマ ・ 特定の製品市場を想定し、そこがどのようなセグメントに分けられるのか、考えてみよう。 ・ それらの製品市場における幾つかの具体的な製品を取り上げて、それぞれで組み合わせられている 4 P の共通点や相違点について、考えてみよう。 ・ それらの製品が 4 P の統合として何を目指していると思われるか、考えてみよう。	テキスト第 3 章をあらかじめ読んでおく
第 3 回	製品のマネジメント ・ 日清食品の「カレーメシ」の開発のケースを通して、マーケティングの 4 P の 1 つである製品のマネジメントについて学ぶ。 テキストの第 4 章 ディスカッションのテーマ ・ 特定の製品の製品コンセプトについて調べてみよう。 ・ カップ飯のライン拡張の方向について考えてみよう。 ・ 特定の製品のヒットの理由について、製品のマネイ面との観点から考えてみよう。	テキスト第 4 章をあらかじめ読んでおく
第 4 回	価格のマネジメント ・ 明治 ザ・チョコレートケースを通じて、価格設定のマネジメントにおいて、需要とその価格弾力性、代替品（競合製品）との関係性、マーケティング・ミックスとの一貫性を考慮しなければならないことを学ぶ。 テキスト第 5 章 ディスカッションのテーマ ・ 競合製品よりも高い価格設定を行った高付加価値のヒット商品の事例を見つけ、どうしてそのような価格設定が妥当であるのかを「需要」と「競合製品」との関係から考える。 ・ バンドリング製品の具体的な事例を見つけ、どのよ	テキスト第 5 章をあらかじめ読んでおく

	うな価格設定がなされているのか、売手に	
第5回	広告のマネジメント ファブリーズの事例を通して広告表現における3つの対応（消費者対応、競争対応、ブランド対応）、そして、プロモーション・ミックスの中で広告の役割と他との連携、さらには、広告媒体それぞれの特性とその組み合わせに6つについて学ぶ。 テキスト第6章 ディスカッションのテーマ ・今現在、携帯電話事業に参入しているすべての企業の主要な製品を挙げ、それらの具体的な広告表現の要素（ヘッドライン、キャッチコピー、タレント）を比較し、それぞれの広告マネジメント（消費者対応、競争対応、ブランド対応）を考えてみよう。	テキスト第6章をあらかじめ読んでおく ※レポート課題を出します。提出は3週間後のこの授業の前日までに、UNIVERSAL PASSPORT 上にアップすること。
第6回	チャネルのマネジメント ・資生堂が創り上げてきたチャネル別ブランド戦略を取り上げ、チャネル・マネジメント（チャネル選択とチャネル管理）という内容を中心に学ぶ。 テキスト第7章 ディスカッションのテーマ ・アネッサの主なチャネルとして、ドラッグストアを選択した理由を考えてみよう。 ・化粧品メーカーは、大きく精度品メーカーと一般品メーカーと訪販品メーカーに分けられる。チャネルの違いを中心に両者の違いを考えてみよう。 ・インターネットやスマートフォンなどの活用が当たり前となった現代における、化粧品メーカーのチ	テキスト第7章をあらかじめ読んでおく
第7回	サプライチェーンのマネジメント ・赤城乳業の事例を手がかりに、マーケティングとSCMのかかわりを学ぶ。 テキスト第8章 ディスカッションのテーマ ・企業が在庫を削減することのメリットとデメリットを整理してみよう。その上で、企業がSCMを導入すると、どのような効果が出るのかを考えてみよう。 ・SCMを導入している企業であっても、欠品を起したり、製品を販売中止にしたりすることがある。どういう原因でそうなるのかを考えてみよう。	テキスト第8章をあらかじめ読んでおく
第8回	営業のマネジメント ・サントリーのウイスキー事業の事例を取り上げ、営業部門がどのようにして人気商品を支えているのかを学ぶ。 テキスト第9章 ディスカッションのテーマ ・サントリーのウイスキー事業と同じように、製品ジャンルそのものを普及させなければならないような製品ジャンルを挙げてみよう。 ・上記で挙げた業界では、どんな営業活動が必要か考	テキスト第9章をあらかじめ読んでおく

	えてみよう。 ※3週間前に出したレポートの内容について幾人かに報告してもらう。	
第9回	顧客関係のマネジメント ・アウトドアブランド「スノーピーク」の事例を通して、この企業と顧客との良好な関係づくりについて学ぶ。 テキスト第10章 ディスカッションのテーマ ・1回ごとの交換を中心とした取引と、継続的な関係の構築を中心とした取引の具体例を挙げ、それぞれにどのような特徴があるか考えてみよう。 ・顧客をロイヤルカスタマーにするための取り組みについて具体例を挙げてみよう。 ・顧客との価値共創について、顧客が商品を使うことで新しい価値を創り出す事例と、顧客参加型の商品開発で新しい価値を創り出す事例を	テキスト第10章をあらかじめ読んでおく
第10回	ビジネスモデルのマネジメント ・谷田の製品開発の事例を通して、このビジネスモデルについて考える。 テキスト第11章 ディスカッションのテーマ ・ヒット商品を出しながら、最近あまり業績がよくない企業を一つ取り上げ、その原因を調べよう。 ・何か一つ、製品とサービスを組み合わせたビジネスモデルの例を挙げてみよう。 ・ビジネスモデルを考えると、消費者向け（BtoC）と企業向け（CtoC）で異なる点は何かを考えてみよう。	テキスト第11章をあらかじめ読んでおく
第11回	顧客理解のマネジメント マツダのCXシリーズの事例を通して、企業の多岐にわたる顧客理解の手法とそれらのよう点について学ぶ。 テキスト第12章 ディスカッションのテーマ ・商品の改善点をグループにアンケートを取りまとめるのと、インタビューを通じて意見を聴くのとでは、得られるデータにどういった違いがあるのだろうか。比較して違いをまとめて見よう。 ・徹底した顧客理解を元に開発されたと思われる商品を挙げてみよう。その商品が顧客を理解していると感じできるのは、一体どの部分だろうか。	テキスト第12章をあらかじめ読んでおく
第12回	ブランド構築のマネジメント ・キットカットの事例を通して、ブランド構築のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第13章 ディスカッションのテーマ ・ブランドの機能や効能について考えてみよう。 ・特定の商品のブランド連想イメージを考えてみよう。	テキスト第13章をあらかじめ読んでおく

	う。 ・ブランドの連想イメージと企業によるコミュニケーション活動の関係について考えてみよう。	
第 13 回	ブランド組織のマネジメント コカ・コーラの事例を通して、ブランドを成長させるための組織の仕組みについて、ブランド・ポジショニング、ブランド拡張の観点から考える。 テキスト第 14 章 ディスカッションのテーマ ・コーラ市場において展開されるブランドにはそれぞれあなたのどのような体験が関与し、どのような印象を持っているのかを考えてみよう。 ・コーラ市場において展開される個々のブランドは、誰のどのような場面で飲用することをターゲットにしているのか。	テキスト第 14 章をあらかじめ読んでおく
第 14 回	社会的責任のマネジメント キリン CSV の取り組みから社会的責任のマネジメントについて学ぶ。 テキスト第 15 章 ディスカッションのテーマ ・キリンの公式サイトで CSV の取り組みを調べ、CSR と事業がどのように結びついているのかを考えてみよう。 ・企業の公共性とはどのような考えか、どのような問題があるのかを考えてみよう。 ・知っている企業のウェブサイトでベンチャー型 CSR の取り組みが紹介されているかを調べ、取り組んでいる場合、どのような公共性を保つ工夫をしているのかを考えてみよう。	テキスト第 15 章をあらかじめ読んでおく
第 15 回	総括試験	筆記用具以外の持ち込みを禁止する。

1.授業コード (ナンバリング)	SE2209-Y01	2.科目名	中小企業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	専門科目 (実務経験のある教員 による授業)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	特になし			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	無し（経営学概論の履修済が望ましい）		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 (尼崎 C と神戸山手 C の合同授業) (尼崎は対面、神戸山手は遠隔授業)		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、日本の中小企業の経営をマネジメントの視点から捉えることを目的とします。 【概要】 皆さんは「中小企業」と聞いて、どのようなイメージを持ちますか？ 実は、日本の企業数の 99.7%が中小企業で、66.0%の人が中小企業で働いています。つまり、中小企業は日本経済にとってとても大きな役割を果たしています。その中小企業の経営を、経営学（マネジメント）の視点から考えながら学修します。 ・ 中小企業とは ・ 中小企業の環境適応マネジメント ・ 中小企業の資源統合マネジメント 日本の中小企業の概況を理解し					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の次の3つに関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力、 本科目の学習目標は次の通りです。 ① 日本の中小企業の概況を説明できる。 ② 中小企業経営における社外環境適応マネジメントについて説明できる。 ③ 中小企業経営における社内資源統合マネジメントについて説明できる。 ④ 日本の中小企業の特徴・課題・可能性を説明できる。					
19.教科書・教材	『中小企業経営入門』（第2版）井上善海・木村弘・瀬戸正則（編著）中央経済社 2022 年					
20.参考文献	無し（授業の中で、必要に応じて紹介します）					
21.成績評価	・ 授業後の「毎回課題」（39 点）（毎回 3 点×13 回）〈学習目標①～④に対応〉 ・ 各部の「小テスト」による理解度（30 点）（小テスト 1 回 10 点× 3 回）〈学習目標①～③に対応〉 ・ 全体を振り返る「総括試験」（40 点）〈学習目標①～④に対応〉 ⇒ 「毎回課題」「小テスト」「総括試験」の合計点が 60 点以上で合格。					
22.コメント	・ 「経営学概論」の内容を再度確認しておくこと。 ・ 教科書を使用するので、毎回予習をしっかり行い授業に臨むこと。 ・ 予習で感じた疑問や興味を、授業を通じて積極的にディスカッションして理解につなげる。 ・ 授業に積極的に参加することで自らの考えをまとめていくこと。 ・ 生成 AI の利用に関しては、毎回課題・小テスト・総括試験での利用は認めない。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 3 限					

研究室オフィスアワー：火曜日 4 限		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション ・「マネジメント」とは？ ・「経営学概論」の振り返り	準備学習：「経営学概論」で学んだことを振り返り、「マネジメント」とはどのようなものなのか、自分なりの考え方をノートに書いてくる。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。
【第 2 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 1 章：中小企業の特徴	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 3 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 2 章：中小企業の歴史	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 4 回】	第Ⅰ部：中小企業とは 第 4 章：中小企業問題と中小企業政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 ★次週「小テスト」があるので、第Ⅰ部を復習する。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 5 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 5 章：経営環境の変容と戦略マネジメント ◆小テスト（第Ⅰ部：中小企業とは）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 （生成 AI の使用は認めない） 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 6 回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第 6 章：分業構造の変容と下請マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめる。

		とめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第7回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第7章：企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第8回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第8章：産業構造の変容と地域産業マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第9回】	第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント 第9章：世界市場の変容とグローバル・マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 ★次週「小テスト」があるので、第Ⅱ部を復習する。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第10回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第10章：人材難と組織・人材マネジメント ◆小テスト（第Ⅱ部：中小企業の環境適応マネジメント）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 （生成AIの使用は認めない） 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第11回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第11章：後継者難と事業継承マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第12回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第12章：研究開発力不足と製品開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。

【第 13 回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第 13 章：既存事業の衰退と事業開発マネジメント	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 ★次週「小テスト」があるので、第Ⅲ部を復習する。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 14 回】	第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント 第 14 章：資金難と財務マネジメント ◆小テスト（第Ⅲ部：中小企業の資源統合マネジメント）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点や興味を持った点をノートに書く。 授業中は、積極的に授業に参加して疑問点を解決する。 ◆授業後半に小テストを実施 （生成 AI の使用は認めない） 復習：その日に学んだ事と感想をノートにまとめ、与えられた「毎回課題」を解く。
【第 15 回】	・総括試験（教科書・手書きノートのみ持ち込みを認める） ・まとめと振り返り	準備学習：自作ノートを利用して 14 回の授業内容を再確認する。 総括試験では、教科書・各自が作成した手書きノート等の持ち込みを認める。 （生成 AI の使用は認めない）

1.授業コード (ナンバリング)	SED204-A01	2.科目名	肢体不自由教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	<概要>肢体不自由児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、肢体不自由教育の歴史や学習指導要領の変遷をたどりながら、主に肢体不自由教育の全般的な理解について学習する。肢体不自由を主とした特別支援学校及び特別支援学級での指導の実際を学習する中で、特別な教育内容、領域教科を合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導）の授業、自立活動、教科の授業等について理解する。さらに「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」について、その基本的考え方や策定方法も理解する。 (目的)以上の学習によっ					
18.学習目標と D P との関連	学習目標 教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の概念から、体系的な知識を使って理論的に説明することができる。 ・肢体不自由児の教育について、特別支援教育や社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる。 DP <問題発見・解決力>新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる。 ・肢体不自由教育に関して興味、関心を持って調べることができる。 <多様性理解>自分とは異なる社会的文化的背景を持つ人たちがいることを理解することができる。 ・肢体不自由児・者を理解し、個のニーズにあった指導計画の概略を知る事ができる。					
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料等を配布する。					
20.参考文献	筑波大学付属霧が丘特別支援学校編 肢体不自由教育の理念と実践 ジアース教育新社 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部・高等部・自立活動編）					
21.成績評価	小テストおよび自由課題（20%） 授業への参加・協力態度、ワークシート及び発表（20%） レポート課題（20%） 最終テスト（40%）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業シラバスの説明および、最初の導入としての肢体不自由者理解の説明を行う。			○次回の予習として、肢体不自由関連の書籍を探し、目を通しておく。(120 分)		

第 2 回	肢体不自由とは何か 肢体不自由に関する基礎的な理解をする。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を読み、歴史についての質問を考えておく。(120 分)
第 3 回	肢体不自由教育の歴史 肢体不自由教育の歴史と変遷を知る。	○次回までに知的障害特別支援学校の学習指導要領（総則）を読んでおく。(120 分)
第 4 回	学習指導要領の変遷と教育課程 特別支援学校学習指導要領の変遷と教育課程の理解	○次回までに特別支援学校の学習指導要領（領域教科を合わせた指導）を読んでおく。(120 分) ○肢体不自由教育の変遷についてまとめておく(120 分)
第 5 回	肢体不自由児の遊びの指導及び日常生活の指導の実 ワークシート① 遊びの指導、日常生活の指導についての基礎的理解と指導の実 発表	○次回までに特別支援学校の学習指導要領（領域教科を合わせた指導）を読んでおく。(120 分) ○次回小テストのために 1～5 回の授業のまとめをしておく。(240 分) ○遊びの指導に関する略案作成(180 分) 次回提出
第 6 回	肢体不自由児の生活単元学習及び作業学習の指導の実 小テスト① ワークシート② 生活単元学習と作業学習についての基礎的理解と指導の実 グループワーク発表①	○次回までに肢体不自由特別支援学校の学習指導要領（各教科の指導）を読んでおく。(120 分) ○中間レポート作成のための構成とまとめ(360 分) ○領域教科を合わせた指導に関するまとめ(180 分)
第 7 回	肢体不自由児の各教科の指導の実 特別支援学校における教科の指導の実際を知る。	○次回までに特別支援学校の学習指導要領（自立活動）を読んでおく。(120 分) ○各教科に関するまとめ(120 分)
第 8 回	肢体不自由児の自立活動の指導の実際① ワークシ ート③ 特別支援学校における自立活動の実際を知る（健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成）。	○次回までに障害特別支援学校の学習指導要領（自立活動）を読んでおく。(120 分)
第 9 回	肢体不自由児の自立活動の指導の実際② ワークシ ート④ 特別支援学校における自立活動の実際を知る（身体の動き、環境の把握、コミュニケーション）。	○次回までに障害特別支援学校の学習指導要領（自立活動）をのまとめをしておく。(120 分) ○次回までに重複障害に関する文献を読んでおく。(120 分)
第 10 回	重度重複障害の発達と指導の実 重度重複障害の基礎的理解と指導の実際を知る。	○次回までに訓練法に関する文献を読んでおく。(120 分)

		○次回小テストのために 6～10 回の授業のまとめをしておく。(240 分)
第 11 回	肢体不自由児の訓練と指導の実際 小テスト② 肢体不自由児に関しての訓練法の種類と指導の実際を理解する。	○次回までに心の発達と最近の障害児に関する課題を調べておく。(120 分) ○最終レポートのための構成とまとめ。(240 分)
第 12 回	肢体不自由障害児の認知と心の問題 レポート提出 肢体不自由に見られる認知機能のシステムを理解する。	○次回までにてんかんに関する文献を読んでおく。(120 分)
第 13 回	肢体不自由児の生理と病理の背景を知る。 てんかん発作を中心に脳機能の障害と染色体や遺伝に関する問題を理解する。	○まとめのテストのための授業の振り返りをしておく。(360 分)
第 14 回	肢体不自由教育の今日的課題と就学前の療育	○まとめのテストのための授業の振り返りをしておく。(120 分)
第 15 回	まとめのテストと講義のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SED208-M01	2.科目名	特別支援教育基礎 (4月21日～6月16日)		3.単位数	1
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	・自由科目 ・特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (※教員免許取得希望者は必修)	7.開講学期・ 年度	2025年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2年生～	
10.取得資格の要件	・中学校1種教員免許 ・高等学校1種教員免許 (上記教員免許取得希望者は必修)	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態		講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録を行う必要がある。					
17.授業の目的と概要	この講義では、特別支援教育の対象となる各種の障害の主な特性（定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う学習上または生活上の困難、そして、必要とする教育的ニーズなど）と共に、インクルーシブ教育の推進について解説し、学校の組織や教員等が必要とする知識やスキルを理解する。 また、最近の教育的課題となっている通常の学級に在籍する発達障害（LD=学習障害、ADHD=注意欠如多動性障害、高機能自閉症など）や障害はないが特別な支援や配慮を要する児童生徒（来日・帰国した子ども・LGBTの子ども・経済的貧困状態にある子ども）					
18.学習目標と DPとの関連	・各種障害の定義・特性等の知識を習得する。 ・特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズを理解する。 ・学校での指導体制・支援方法などについて理解し、インクルーシブ教育を推進するための知識を習得する。 上記の目標を達成することで教員として必要とされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用することができる。					
19.教科書・教材	特に教科書は使用しない。毎回授業資料を配付する。					
20.参考文献	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校 高等部学習指導要領 文部科学省（2019） 特別支援教育の基礎基本（新訂版）国立特別支援教育総合研究所（2018）ジアース教育新社					
21.成績評価	①振り返り小レポート 50% ②総括レポート 50%					
22.コメント	この講義の内容は、各校種（幼小中高特別支援学校）における特別支援教育の指導場面では必ず必要とされるものです。望ましい子どもの支援や配慮の在り方について、その基本を学んでください。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	特別支援教育の基本的理念・制度・仕組みなど 特別支援学校・幼小中高等学校における特別支援教育（組織と指導体制など） インクルーシブ教育の推進			○次回講義の予習 ＝キーワード調べなど		
【第2回】	特別支援教育の基礎知識①			○配付資料を基に講義内容の理解を深める復		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SED208-y01	2.科目名	特別支援教育基礎（4月14日～6月9日）		3.単位数	1
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	・自由科目 ・特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 （＊教員免許取得希望者は必修）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	・中学校 1 種教員免許 ・高等学校 1 種教員免許 （上記教員免許取得希望者は必修）	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態		講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録を行う必要がある。					
17.授業の目的と概要	この講義では、特別支援教育の対象となる各種の障害の主な特性（定義・発達特性や認知特性、及びそれに伴う学習上または生活上の困難、そして、必要とする教育的ニーズなど）と共に、インクルーシブ教育の推進について解説し、学校の組織や教員等が必要とする知識やスキルを理解する。 また、最近の教育的課題となっている通常の学級に在籍する発達障害（LD=学習障害、ADHD=注意欠如多動性障害、高機能自閉症など）や障害はないが特別な支援や配慮を要する児童生徒（来日・帰国した子ども・LGBT の子ども・経済的貧困状態にある子ども）					
18.学習目標と DPとの関連	・各種障害の定義・特性等の知識を習得する。 ・特別な教育的支援を要する児童生徒の教育的ニーズを理解する。 ・学校での指導体制・支援方法などについて理解し、インクルーシブ教育を推進するための知識を習得する。 上記の目標を達成することで教員として必要とされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用することができる。					
19.教科書・教材	特に教科書は使用しない。毎回授業資料を配付する。					
20.参考文献	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）文部科学省（2018） 特別支援学校 高等部学習指導要領 文部科学省（2019） 特別支援教育の基礎基本（新訂版）国立特別支援教育総合研究所（2018）ジアース教育新社					
21.成績評価	①振り返り小レポート 50% ②総括レポート 50%					
22.コメント	この講義の内容は、各校種（幼小中高特別支援学校）における特別支援教育の指導場面では必ず必要とされるものです。望ましい子どもの支援や配慮の在り方について、その基本を学んでください。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	特別支援教育の基本的理念・制度・仕組みなど 特別支援学校・幼小中等学校における特別支援教育（組織と指導体制など） インクルーシブ教育の推進			○次回講義の予習 ＝キーワード調べなど		
【第 2 回】	特別支援教育の基礎知識①			○配付資料を基に講義内容の理解を深める復		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SED302-A71	2.科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義、高田哲					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特別支援学校教諭免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	脳原生疾患、脊髄疾患、末梢神経疾患に起因する肢体不自由児の心理・生理・病理についての基礎理解を深める。肢体不自由児の病理学、生理学を中心に脳の働き、中枢神経系の障害、認知神経心理学的な障害などについて最近の考え方を踏まえながら医療、教育からの支援について述べる。 肢体不自由児の心理及び発達と実態把握について概説すると共に、社会参加等の動向に関しても分かりやすく紹介し、肢体不自由教育に携わるための基礎的知識を理解する。肢体不自由児に対する様々な心理学的アプローチによって得られた知見や人に関する心理モデルを					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (3) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。 本科目の学習目標は以下の通りである。 ・ 肢体不自由児の起因疾患（脳原性、脊髄性、末梢神経性）となる病理と心理面・生理面の特徴及びそれらの相互作用について理解する。 ・ 脳性まひを中心とした肢体不自由児の認知面・心理面等の発達、生理・病理を理解し、児童生徒一人一人に応じた関わり方を実践することができる。 ・ 様々な肢体不自由に関する研究等の知見から課題を発見し、医療機関や家庭と連携しながら解決の手立てを導き出すことができる。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配布する。					
20.参考文献	授業中に随時紹介する。					
21.成績評価	・ 発表及びワークシート 20％ ・ 毎回の小テスト 40％ ・ 最終テスト 40％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回～第 8 回	1.小児の成長と発達 2.先天異常と染色体異常 3.先天代謝異常 4.代謝異常と内分泌疾患 5.免疫・アレルギー性疾患			毎回のテストを提出する。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SED306-A71	2.科目名	病弱教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	平賀健太郎					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	医療を継続的に必要とする病弱児・者への実態と適切な教育的支援について理解できる。小児医療や病弱教育の歴史的変遷をたどりながら、病弱教育の現代的課題を理解する。また、病院にある学校等における教育課程と指導法について理解する。具体的事例を通じて、病弱者に共通する、あるいは代表的な疾患における固有の配慮を理解し、関係者との連携を行いながらの適切な教育的支援を考えられるようになる。					
18.学習目標と DPとの関連	医療を継続的に必要とする病弱児・者への実態と適切な教育的支援について理解できるように学習します。小児医療や病弱教育の歴史的変遷をたどりながら、病弱教育の現代的課題を理解します。また、病院にある学校等における教育課程と指導法について理解します。具体的事例を通じて、病弱者に共通する、あるいは代表的な疾患における固有の配慮を理解し、関係者との連携を行いながらの適切な教育的支援を考えられるようになります。					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しません。 必要に応じてレジュメを配布します。					
20.参考文献	講義中に紹介します。					
21.成績評価	定期的な小レポート（30％） 授業への参加態度（20％） 最終試験（50％）					
22.コメント	講義では、病気が理由で、学校に通うことが制限される子どもたちの教育について説明しますが、その中で、病気の子どもだけでなく、すべての子どもにとっての教育の意義や役割について皆さんと一緒に考えていきたいと思います。					
23.オフィスアワー	授業の前後にメール等で質問等に対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	講義全体を通じて、講義実施時の状況によってはオンライン授業となる可能性もあるため、講義形態、学習目標および成績評価方法などについて柔軟に対応・変更できるよう準備を進めます。 病弱教育の定義と多様な教育の場					
	特別支援教育における病弱教育					
	病弱教育と教育課程					
	病弱児に対する自立活動の実践					
	病弱児が有する共通の教育・心理的課題					
	病弱児の教科指導					
	糖尿病への教育的支援					
	アレルギー性疾患への教育的支援					
	病弱児の復学支援における前籍校の役割					
	病弱児の復学支援における多職種連携の重要性					
	病弱者と心理的ストレス					
	病弱者の家族の心理とその支援					

	病弱者の自尊感情	
	義務教育以外の病弱教育の現状と課題	
	授業のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SED401-A09	2.科目名	聴覚障害・視覚障害教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	正井隆晶、西田和子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	聴覚障害教育に関する基本的な内容を講義する。聴覚障害に対する心理・生理・病理面からの理解を基盤として、わが国の聴覚障害教育の全体像を把握し、聴覚に障害のある幼児・児童・生徒のニーズに対応した教育と支援を進めるための基本的な方法を学ぶ。 視覚障害教育に関する基本的な内容を講義する。視覚障害の生理，病理及び心理について解説し，理解が深まるようにシミュレーションも取り入れた授業を行う。視覚障害教育の指導内容や方法では，視覚特別支援学校での指導経験で培った知見を取り入れた指導を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	1．聴覚障害教育の基本的な知識を身につける。 2．聴覚障害教育の実際について、各発達段階において展開される具体的な教育内容と方法を理解する。 3．聴覚障害教育の望ましい教育のあり方について自ら考える姿勢を身につける。 4．視覚障害教育の現在の制度及び教育課程等を含めて基本的な知識を身につける。 5．視覚障害の生理，病理及び心理の基本的な知識を身につける。 6．盲，弱視，視覚障害と他の障害との重複障害，中途視覚障害など，それぞれへの指導内容や方法 等の違いを含めて、視覚障害教育の望ましい教育のあり方について自ら考える姿勢を身につける。					
19.教科書・教材	視覚障害：毎時間、テキストは書き込み式のプリントを配布する。					
20.参考文献	視覚障害：参考図書については、テキストの資料に記載するとともに適宜、紹介する。					
21.成績評価	聴覚障害 5 0 % (5 回の小テスト 2 5 % レポート 2 5 %) 視覚障害 5 0 % (まとめプリント 2 8 % 小テスト 2 2 %)					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【聴覚障害① 西田】 聴覚障害とは ・小テスト					
第 2 回	【聴覚障害② 西田】 聴覚の機能（耳の構造） ・小テスト					
第 3 回	【聴覚障害③ 西田】 聴覚検査 補聴器 人工内耳 ・小テスト					
第 4 回	【聴覚障害④ 西田】 言語とコミュニケーション			各自持参するもの 紙コップ・ストロー・手鏡		

	・小テスト	
第 5 回	【聴覚障害⑤ 西田】 聴覚障害教育の歴史 ・小テスト	
第 6 回	【聴覚障害⑥ 西田】 聴覚障害児の教育①	
第 7 回	【聴覚障害⑦ 西田】 聴覚障害児の教育②	
第 8 回	【聴覚障害⑦ 西田】 聴覚障害児の教育③ レポート	
第 9 回	【視覚障害① 正井】 視覚障がいがある児童生徒の学びの場と教育課程 (視覚支援学校(盲学校)の概要／特別支援学級・通級による指導の概要 ／教育課程／カリキュラムマネジメント／個別の指導計画) ・まとめプリント	
第 10 回	【視覚障害② 正井】 眼の生理と視機能評価の基礎知識 (眼の構造と視機能／視覚の発達／視力検査／視野検査) ・まとめプリント	
第 11 回	【視覚障害③ 正井】 眼の病理と視覚障害 (視覚障害の病理／弱視体験と注意点／シミュレーション／視覚障害とは／盲と弱視の定義) ・まとめプリント ・小テスト	
第 12 回	【視覚障害④ 正井】 アセスメントと弱視への指導 (教育的視機能評価／弱視への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫) ・まとめプリント	
第 13 回	【視覚障害⑤ 正井】 アセスメントと盲への指導 (盲への教育的配慮の基本／点字の学び／教科での教材・教具の工夫) ・まとめプリント	
第 14 回	【視覚障害⑥ 正井】	

	自立活動の指導 (弱視：弱視レンズ指導／盲：墨字指導・触察の指導 ／共通：・PC・ 歩行指導) ・まとめプリント	
第 15 回	【視覚障害⑦ 正井】 重複障害への指導 (盲聾重複障害と視覚・知的重複障害への指導の実 際) ・まとめプリント ・小テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SED402-A01	2.科目名	重複障害教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	重複障害のある幼児児童生徒の障害の状態や特性及び発達の基礎・基本を学び、重複障害教育の実践に関する指導・支援の基本的知識と教育課程編成についての力を身につける。特に、自立活動を中心とした重複障害教育についての理解を深める。 この科目では、肢体不自由、知的障害等の重度重複障害、自閉症等の重度行動障害について学ぶ。特に、重複障害のある子どもの心と行動を理解するために、発達の観点と心理学的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。また、具体的なアセスメントの方策や実践的な援助の仕					
18.学習目標と DPとの関連	ディプロマポリシーの多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力と問題発見・解決力に関連しています。 教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習目標は以下の通りである。 ①重複障害のある幼児児童生徒の障害の状態や特性及び発達の基礎・基本を理解する。 ②重複障害教育に関する指導・支援の基本的知識と教育課程編成の方法を力を身につける。特に、自立活動を中心とした教育課程についての理解を深める。 ③重複障害を理解し、個のニーズに合った指導計画の概略が作成でき、指導上の問題解決を図る能力を身につける。 ④重複障害への対応体系の全体像と特別支援教育の基本的知識を身につける。 ⑤重複障害の特性（心理、生理、病理）についての基本的理解をする。 これらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、重複障害のある子ども一人ひとりへの具体的な指導・支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら重複障害の心理、生理及び指導法を理解し、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。					
19.教科書・教材	必要に応じてプリントを配布する。					
20.参考文献	中尾繁樹/「特別」ではない特別支援教育② みんなの「自立活動」 特別学校編/明治図書 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省					
21.成績評価	振り返り小レポート課題 30％ 学習目標 指導略案作成・発表 20％ 総括試験 50％					

22.コメント		
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション・シラバスの説明・授業の内容について	重複障害について調べておく
第 2 回	重複障害の概念 重複障害とはなにか	強度行動障害について調べておく。(120分)
第 3 回	重複障害の生理と病理について 中枢神経の障害と二次障害	中枢神経の機能について調べておく。(120分)
第 4 回	重複障害に関する教育課程について 教育課程の基本的枠組みと特例について	教育課程編成における重複障害の特例について予習しておく。(120分)
第 5 回	重複障害児の実態把握 重複障害児の心理教育的アセスメント	教育現場で活用できる発達検査について調べておく。(240分)
第 6 回	重度重複障害児の指導内容と方法① 様々の指導支援方法と特別支援学校での指導の実際	特別支援学校における実践例を調べておく。(120分)
第 7 回	重度重複障害児の指導内容と方法② 様々の指導支援方法と特別支援学校での指導の実際	特別支援学校における実践例を調べておく。(120分)
第 8 回	医療的ケアの実際 医療的ケアを必要とする幼児児童生徒への対応	医療的ケアについて調べておく。(120分)
第 9 回	重度重複障害の指導の実際① 感覚運動・認知の指導	重度重複障害児への指導について調べておく。(120分)
第 10 回	重度重複障害の指導の実際② 動作学習 による指導	重度重複障害児への指導について調べておく。(120分)
第 11 回	重度重複障害の指導の実際③ コミュニケーションの指導	重度重複障害児への指導について調べておく。(120分)
第 12 回	重度重複障害の指導の実際④ 授業づくり	重度重複障害児への指導について調べておく。(120分)
第 13 回	重度重複障害と医療 薬物療法と医療的ケア	医療的ケアについて復習しておく。(120分)
第 14 回	学校卒業後への移行支援	重度重複障害児への指導・支援についてまとめておく。(120分)
第 15 回	授業のまとめと総括試験	授業のまとめを行う。

1.授業コード (ナンバリング)	SED403-A01	2.科目 名	教育実習(特別支援学校)		3.単位 数	3
4.授業担当教員	梶正義、中尾繁樹、吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野 における実務経験 のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区 分	選択	7.開講学 期・ 年度	2025 年度 春学期 ～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学 年	4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条 件			
12.研究室	※※※		13.電話番 号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形 態	講義、実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育実習は、教職資格を取得するための必須の専門科目であり、教育の実際場面での研究と指導力を高めることがねらいである。 そのため、教育実習にあたっては、その意義や目的、教育指導上基本となる事項等について正しく、深く理解しておかねばならない。 実習事前事後指導は、教育実習で学ばなければならない事項の学習のみでなく、教師としてのあり方、姿勢も含め、きわめて重要な学習であるといえる。 教育実習は広い領域に渡って教員としての全てを学び取ろうとするものであるもので、事前事後指導の学習が実習だけでなく、今後の進路に					
18.学習目標と DPとの関連	学科目標 知り得た知識、経験を総合化し、まとめることができる。 ・特別支援学校の実習に向けて、教室内外で学習した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、卒業研究、教育実習等に体系的にまとめることができる。 学習ベンチマーク <自律性> 自分の行動や発言、役割や立場に責任があることを自覚し、ものごとを最後まで遂行できる。 ・特別支援学校での実習に必要な協働的な活動で、自分の役割を理解し、最後までやり遂げたことについて改善点を整理することができる。 <思考／判断力> よりよい問題解決のために、偏った判断をしない公正さを保ち、その時・その場の状況（TPO）に応じて、判断したり、アプローチの仕方を変えたりしながら、道筋を立てて論理的に考えることができる。 ・特別支援学校における教育活動の仕組み、専門領域の知識を理解し活用できる。					
19.教科書・教材	・関西国際大学特別支援学校教育実習ハンドブック					
20.参考文献	文部科学省特別支援学校学習指導要領 文部科学省特別支援学校学習指導要領自立活動解説書					

21.成績評価	①実習のための知識や技能を習得するための教材研究。 ②実習で学んだことを振り返りまとめる。 ③指導案の作成と検討会 ④事前調査（実習予定校に関して調べまとめる。） 指導案の作成・教材作成 20％ 特別支援学校実習 60％ 発表・レポート・検討会 20％	
22.コメント		
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回目 4/8	オリエンテーション 科目のねらい・学習の進め方・ルール・評価について 昨年度の教育実習から 連絡事項 プロローグ 特別支援学校教育の概要・役割 特別支援学校教師に期待されるもの 特別支援学校教育実習の意義と目的 児童生徒理解	○実習校の調査（120分）
第2回目 4/15	特別支援学校学習指導の実際① 授業参観（CDを見て） 授業参観記録の書き方（参観の視点・ポイント） 教育実習全体の流れ 教育実習の心得・心構え・・・積極的に 教育現場に学ぶための心構え、規範意識、 服装、挨拶、言葉づかい	○指導案作成に関して、文献及び 昨年度までのものを参考に研究 （120分）
第3回目 4/22	特別支援学校の1日・教員の1日（神戸市 S校の場合） 特別支援学校の教育実習の内容① A 学校経営・教育課程・学校行事 B 学校 安全・安全管理・学校保健 F 職員研 修・職員会・各委員会 指導案検討①	○次回までに指導案作成①（240 分）
第4回目 5/13	特別支援学校教育実習の内容② C 学年 経営・学級経営・集団づくり D 移動介助、給食介助 E 学校給食・食育教 育 特別支援学校学習指導の実際② 指導略 案 形式と内容（学習活動・留意点・支 援・評価・発問と板書・・・） 指 導案検討②	○次回までに指導案作成②（240 分）
第5回目 5/20	特別支援学校学習指導の実際③ 学習指導 案 形式と内容（単元目標・指導にあたっ	○次回までに指導案作成③（240 分）

	て・趣旨・指導計画・評価・教材観・児童観・指導観・・・本時の学習・・・・・・・・） 指導案検討③	
第 6 回目 5/27	実習日誌・各記録の書き方 資料整理 のし方 挨拶文作成（はじめと終わり・お礼の手紙） 連絡事項 指導案検討④	○次回までに指導案作成④（240分）
第 7 回目 6/3	指導案検討⑤。 指導案等作成、教材準備も、事前打ち合わせを含む	○次回までに指導案作成⑤（240分）
第 8 回目 6/10	特別支援学校教育実習報告会 振り返り 討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出	○次回までに指導案作成⑥（240分）
第 9,10,11,12,15 回目 6/17, 24,7/1, 8,29	特別支援学校教育実習 実習日誌、 指導案、各種記録の提出	○次回までに指導案作成⑦（240分） ○記録のまとめ
第 13 回目 7/15	特別支援学校教育実習報告会。 実習日誌、指導案、各種記録の提出	○次回までに指導案作成⑧（240分） ○記録のまとめ
第 14 回目 7/22	特別支援学校教育実習報告会 振り返り 討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 指導案検討	○次回までに指導案作成⑨（240分） ○記録のまとめ
第 16,17 回目 10/2, 10/9	特別支援学校教育実習報告会 振り返り 討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 指導案検討	○次回までに指導案作成⑩（240分） ○記録のまとめ
第 18,19,20,22,23,24,27,29,30 回目 10/16,10/23,10/30,11/13,11/20,11/27, 12/18,1/15,1/22	特別支援学校教育実習。（実習時間 90 時間 実時間と指導案等作成、教材準備も、事前打ち合わせを含む）	○次回までに指導案作成⑪（240分） ○記録のまとめ
第 21,26,27 回目 11/6,12/4,12/11	特別支援学校教育実習報告会 振り返り 討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 指導案検討⑦⑧	記録整理
第 28 回目 1/8	特別支援学校教育実習報告会 振り返り 討議 実習日誌、指導案、各種記録の提出 特別支援学校教育実習全体のまとめ 教育実習の成績評価について	実習のまとめをワークシートで行う。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-Y01	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目は、『PBL (Project-based Learning または Problem-based Learning : 課題解決型学習)』と呼ばれる学習法をつかって、企業や自治体、地域社会の問題の解決に『チーム』として協働して取り組むことを通じて、これまで学んできた知識や技術を『統合的に活用する力』を強化することにあります。 課題解決に共同しながら取り組む過程で、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析の手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」、「他					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 (2)課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 (3)他者貢献の意味を理解し、積極的にコミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加することができる。 (4)ビジネスマナーや知識を身につけ、学外の方々と適切なコミュニケーションを取ることができる。 【学習目標と DP との関連】 授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連しています。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配付・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。 ①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30%（学習目標との対応：1、2、） ②調査・グループワークでのワークシート作成およびアイディア発表：50%（学習目標との対応：1、3、4） ③本科目での活動や学びの振り返り（e ポートフォリオへの記事掲載：2 本）：20%（学習目標との対応：2）					
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。					

		企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。 【生成 AI について】 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。
23.オフィスアワー		水曜昼休み@学修支援センター 水曜 3 限@研究室
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	<オリエンテーション> ■ 授業の目的と進め方 ■ プロジェクトマネジメントとは ■ 2 回生の学修の流れ ■ AI の活用について	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 02 回	<キャリアワーク①> キャリア支援センター 就職ガイダンス マイナビ専門からの就職サイト設定、ガイダンス	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 03 回	<キャリアワーク②> キャリア支援センター 就職ガイダンス 藤井部長 就職の状況、準備、キャリア支援センターからの情報求め方法など	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 04 回	<外部講師講義①> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 質問など準備 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 05 回	<外部講師講義②> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 06 回	<外部講師③> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 講義内容を各自でまとめる
第 07 回	<PBL 型学習>事前学習① グループに分かれ、	課題：神戸の観光状況について調べてくる。 ノート PC 持参

	・神戸市の観光状況の分析 ・課題の抽出 ・観光素材の分析 等 を行います。	
第 08 回	<PBL 型学習> 事前学習② グループに分かれ、 ・現在の観光の動向 ・人々のニーズの分析 等 を行います。	課題：最近流行している観光や新しい観光商品について調べてくる。 ノート PC 持参
第 09 回	<PBL 型学習> 事前学習③ グループに分かれ、「観光を通じた神戸の活性化」というテーマに対して、 ・ターゲットの設定 ・提供する価値の検討 ・活用可能な神戸の資源 等 を検討します。	人々のニーズを的確にとらえた観光商品を探して調べてくる。 ノート PC 持参
第 10 回	<PBL 型学習> 現場学習① グループに分かれ、「観光を通じた神戸の活性化」というテーマに対して、活用可能な神戸の資源を設定し、フィールドワークの計画を立案します。 ・活用したい資源の確認 ・現場での聞き取り調査 等	フィールド調査（質問紙法、インタビューなど）について予習してくる。 ノート PC 持参
第 11 回	<PBL 型学習> フィールドワーク等、現場学習② 各グループごとに、テーマに沿ったフィールドワークの実施。 ・活用したい資源の確認 ・現場での聞き取り調査 等	授業後、フィールドワークの結果を自分なりに分析してみる。 ノート PC 持参
第 12 回	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 ノート PC 持参
第 13 回	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 ノート PC 持参
第 14 回	<PBL 型学習> プレゼンテーション① ・各グループごとにゼミ内でアイデアを発表 ・ゼミ内で代表 1～2 チームを選出します。	発表の際に必要なこと・大切なことについて調べてくる。 ノート PC 持参
第 15 回	<PBL 型学習> プレゼンテーション② 各ゼミの代表グループによるアイデア発表を行います。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 ※これまでの課題を持参すること

	そのなかから最優秀・優秀アイデアを選出し、表彰します。 最後に振り返りを行い、学んだこと・身に着いたこと、失敗したこと・不足したこと、について気づきをまとめます。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-Y02	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科				9.履修学年	2 学年
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の?的】 ?本科?は、『PBL (Project-based Learning または Problem-based Learning?課題解決型学習)』と 呼ばれる学習法をつかって、企業や?治体、地域社会の問題の解決に『チーム』として協働して取り 組むことを通じて、これまで学んできた知識や技術を『統合的に活?する?』を強化することにある ます。 ?課題解決に共同しながら取り組む過程で、「ものごとの??や考え?」、「資料・データの収集と分析の?法」、「議論の進め?」、「柔軟な発想?」、「深く考える?」					
18.学習目標と DPとの関連	【学習?標】 (1)学んだ知識や技能を統合的に活?することにより課題を発?し、解決することができる。 (2)課題解決あるいは?標達成のために必要となる知識・技能の不?に気づき、それを補うための主体 的学習ができる。 (3)他者貢献の意味を理解し、積極的にコミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参 加することができる。 (4)ビジネスマナーや知識を?につけ、学外の?々とも適切なコミュニケーションを取ることができる。 【学習?標と DP との関連】 授業の学習?標は、DP1 (??的で主体的な態度)、DP2 (社会に能動的に貢献する姿勢)、DP4 (問題発?・解決?)、DP6 (専?的知識・技能の活??「マーケティングの知識・?法に基づき、企業で求められる知識・技能を活?して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」)に関連してい ます。?					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配付・提?する。?					
20.参考文献	?指定する参考?献はないが、当該?治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて 収集し、分析することになる。必要に応じて、?らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキ ルアップを図る努?すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。 ①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成?30% ②調査・グループワークでのワークシート作成およびアイデア発表?50% ③本科?での活動や学びの振り返り (e ポートフォリオへの記事掲載?2 本) ?20%?					

22.コメント	当該授業は、演習科であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、の積極的な取り組みが、プロジェクト遂には不可欠である。学はその点をよく理解しチームとしてのを発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーをにつける必要がある。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日昼休み（研究室 3310）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	<オリエンテーション> ■ 授業の的と進め? ■ プロジェクトマネジメントとは ■ 2 回の学修の流れ ■ AI の活?について	合同ゼミ実施 ノート PC 持参
第 2 回	<キャリアワーク①> キャリア?援センター 就職ガイダンス マイナビ専?からの就職サイト設定、ガイダンス	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 3 回	<キャリアワーク②> キャリア?援センター 就職ガイダンス?藤井部? 就職の状況、準備、キャリア?援センターからの情報求め?法など	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 4 回	<外部講師講義①> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅?・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 質問など準備 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 5 回	<外部講師講義②> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅?・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる?
第 6 回	<外部講師③> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅?・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 講義内容を各?でまとめる
第 7 回	<PBL 型学習> 事前学習① グループに分かれ、 ・ 神?市の観光状況の分析	課題?神?の観光状況について調べてくる。 ノート PC 持参

	・課題の抽出 ・観光素材の分析?等? を?います。	
第 8 回	<PBL 型学習> 事前学習② グループに分かれ、 ・現在の観光の動向 ・?々のニーズの分析?等 を?います。	課題?最近流?している観光 や新しい観光商品について調 べてくる。 ノート PC 持参
第 9 回	<PBL 型学習> 事前学習③ グループに分かれ、「観光を通じた神?の活性化」とい うテーマに対 して、 ・ターゲットの設定 ・提供する価値の検討 ・活?可能な神?の資源?等 を検討します。	?々のニーズを的確にとらえ た観光商品を探して調べてく る。 ノート PC 持参
第 10 回	<PBL 型学習> 現場学習① グループに分かれ、「観光を通じた神?の活性化」とい うテーマに対 して、活?可能な神?の資源を設定し、フィールドワー クの計画を? 案します。? ・活?したい資源の確認 ・現場での聞き取り調査?等	フィールド調査（質問紙法、 インタビューなど）について 予習してくる。 ノート PC 持参?
第 11 回	<PBL 型学習> フィールドワーク等、現場学習② 各グループごとに、テーマに沿ったフィールドワーク の実施。 ・活?したい資源の確認 ・現場での聞き取り調査?等	授業後、フィールドワークの 結果を?分なりに分析してみ る。 ノート PC 持参
第 12 回	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、?分の作 業をまとめてくる。 ノート PC 持参
第 13 回	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、?分の作 業をまとめてくる。 ノート PC 持参?
第 14 回	<PBL 型学習> プレゼンテーション① ・各グループごとにゼミ内でアイデアを発表 ・ゼミ内で代表 1～2 チームを選出します。	発表の際に必要なこと・?切 なことについて調べてくる。 ノート PC 持参?
第 15 回	<PBL 型学習> プレゼンテーション② 各ゼミの代表グループによるアイデア発表を?いま す。 そのなかから最優秀・優秀アイデアを選出し、表彰 します。 最後に振り返りを?い、学んだこと・?に着いたこと、 失敗したこ と・不?したこと、について気づきをまとめます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 ※これまでの課題を持参する こと?

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-Y03	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 本科目は、『PBL (Project-based Learning または Problem-based Learning：課題解決型学習)』と呼ばれる学習法をつかって、企業や自治体、地域社会の問題の解決に『チーム』として協働して取り組むことを通じて、これまで学んできた知識や技術を『統合的に活用する力』を強化することにあります。 課題解決に共同しながら取り組む過程で、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析の手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」、「他					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 (2)課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 (3)他者貢献の意味を理解し、積極的にコミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加することができる。 (4)ビジネスマナーや知識を身につけ、学外の方々と適切なコミュニケーションを取ることができる。 【学習目標と DP との関連】 授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連しています。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、教員が PPT や資料を配付・提示する。					
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO 等の発信している情報を Web 等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。					
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。 ①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30% ②調査・グループワークでのワークシート作成およびアイディア発表：50% ③本科目での活動や学びの振り返り（e ポートフォリオへの記事掲載：2 本）：20%					
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。 ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント					

	自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み@学修支援センター 水曜 3 限@研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	<オリエンテーション> ■ 授業の目的と進め方 ■ プロジェクトマネジメントとは ■ 2 回生の学修の流れ ■ AI の活用について	合同ゼミ実施 ノート P C 持参
第 02 回	<キャリアワーク①> キャリア支援センター 就職ガイダンス マイナビ専門からの就職サイト設定、ガイダンス	合同ゼミ実施 質問などの準備 ノート PC 持参 講義内容をまとめる 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 03 回	<キャリアワーク②> キャリア支援センター 就職ガイダンス 藤井部長 就職の状況、準備、キャリア支援センターからの情報求め方法など	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 04 回	<外部講師講義①> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 質問など準備 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 05 回	<外部講師講義②> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 次回の外部講師について調べ、質問を作成してくる
第 06 回	<外部講師③> 3 回にわたって、ホテル・ブライダル、旅行・観光ビジネス、エアライン等の分野から外部講師をお招きし、各業界が消費者にどのようなサービス（価値）を提供しているかを学びます。	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 講義内容を各自でまとめる
第 07 回	<PBL 型学習>事前学習① グループに分かれ、 ・ 神戸市の観光状況の分析 ・ 課題の抽出 ・ 観光素材の分析 等 を行います。	課題：神戸の観光状況について調べてくる。 ノート PC 持参

第 08 回	<PBL 型学習> 事前学習② グループに分かれ、 ・現在の観光の動向 ・人々のニーズの分析 等 を行います。	課題：最近流行している観光や新しい観光商品について調べてくる。 ノート PC 持参
第 09 回	<PBL 型学習> 事前学習③ グループに分かれ、「観光を通じた神戸の活性化」というテーマに対して、 ・ターゲットの設定 ・提供する価値の検討 ・活用可能な神戸の資源 等 を検討します。	人々のニーズを的確にとらえた観光商品を探して調べてくる。 ノート PC 持参
第 10 回	<PBL 型学習> 現場学習① グループに分かれ、「観光を通じた神戸の活性化」というテーマに対して、活用可能な神戸の資源を設定し、フィールドワークの計画を立案します。 ・活用したい資源の確認 ・現場での聞き取り調査 等	フィールド調査（質問紙法、インタビューなど）について予習してくる。 ノート PC 持参
第 11 回	<PBL 型学習> フィールドワーク等、現場学習② 各グループごとに、テーマに沿ったフィールドワークの実施。 ・活用したい資源の確認 ・現場での聞き取り調査 等	授業後、フィールドワークの結果を自分なりに分析してみる。 ノート PC 持参
第 12 回	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）① ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 ノート PC 持参
第 13 回	<PBL 型学習> 事後学習（まとめ）② ・各グループごとに企画案の作成 ・発表に向けての PPT 等プレゼンテーションの準備 ・発表での役割分担等	資料作成を分担し、自分の作業をまとめてくる。 ノート PC 持参
第 14 回	<PBL 型学習> プレゼンテーション① ・各グループごとにゼミ内でアイデアを発表 ・ゼミ内で代表 1～2 チームを選出します。	発表の際に必要なこと・大切なことについて調べてくる。 ノート PC 持参
第 15 回	<PBL 型学習> プレゼンテーション② 各ゼミの代表グループによるアイデア発表を行います。 そのなかから最優秀・優秀アイデアを選出し、表彰します。 最後に振り返りを行い、学んだこと・身に着いたこと、失敗したこと・不足したこと、について気づきを	合同ゼミ実施 ノート PC 持参 ※これまでの課題を持参すること

	まとめます。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-A01	2.科目名	専門演習Ⅰ（教育福祉 1/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	子ども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	卒業必修		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅰ・Ⅱでは1年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 1年間の共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。地域の人々の生活に着目し、フィールドワークなどを通して、人々にとっての well-being や安全・安心について検討していきます。具体的に本授業では「子育て世帯」をキーワードとして、子育てをし					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性）②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①テーマに関する文献や資料を収集できる。 ②収集した文献や資料から、テーマに関連する客観的データ(統計データや事例)を整理できる。 ③課題解決のためにデータを分析し、結果をまとめて説明することができる。 ④地域の人々の課題を明確にし、大学生としてどのような支援ができるかを考えることができる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配付します。					
20.参考文献	戸田山和久 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』 NHK ブックス No.1272 2022					
21.成績評価	■ 課題1：文献リストの作成 10% 学習目標①に対応 ・ テーマに関連した文献・資料リストを作成する ■ 課題2：文献の要約 10% 学習目標②に対応 ・ 1つ文献を収集し、要約・発表する ■ 課題3：「子育て支援」の現状レポートの作成 40% 学習目標④に対応 ・ 子育て支援の現状を視察し、レポートを作成する。 ■ 課題4：最終レポート 40% 学習目標③・④に対応 ・ レポート課題「現代の子どもを取り巻く今日的課題について」					
22.コメント	課題に取り組むためにパソコンが必要です。 現場の見学においては服装や身なりに制限があることをご理解ください。 2年生から教育・保育分野に関する専門的な授業が始まります。本授業においては、1年生での学びや体験学習などを基に、現代の子どもや保護者を取り巻く課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、適切なレポート作成を目指していただければと思います。					
23.オフィスアワー	木曜日 昼休み 914 研究室 金曜日昼休み 学修支援室：センタープログラム(指導案の書き方・保育実践)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション			○履修内容について確認する。特に実習や、資格取得については必ず確認しておく。(120		

	■ 新しい学年を迎えるにあたっての心構えと具体的方策 ■ 履修ガイダンス 資格・進路に関わる履修登録の確認 ■ ゼミ内における係の選出 ■ これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う	分)
第 2 回	○共通テーマ「地域で安心した生活ができるまちづくり」について考える ○経験学習の振り返り ・ これまでの経験学習で学んだことを話し合う ・ 経験学習における自身の課題を見つける	○経験学習から捉えた現場での「地域における子育て世帯の生活」についての文献を調べる(30 分)
第 3 回	課題解決に向けて ○経験学習から捉えた現場での「地域における子育て世帯の生活」について考える ・ 経験学習での学びから ・ グループ内での相互の話し合いから	課題 1 文献リストの作成 テーマに関連した文献・資料リストを作成する(1)(30 分)
第 4 回	課題解決に向けて ○経験学習から捉えた現場での「地域における子育て世帯の生活」について考える ・ 文献から学ぶ ・ グループ内で文献を紹介し合う	課題 1 文献リストの作成 テーマに関連した文献・資料リストを作成する(2)(30 分)
第 5 回	論文作成に必要なライティングスキルの向上 ○自主的な情報収集を行う ・ 文献調査	課題 1 文献リストの提出 テーマに関連した文献・資料リスト 1 の提出(30 分)
第 6 回	論文作成に必要なライティングスキルの向上 ○自主的な文献の要約に取り組む(1)	課題 2：文献の要約 ・ 1 つ文献を収集し、要約する(1)(30 分)
第 7 回	論文作成に必要なライティングスキルの向上 ○自主的な文献の要約に取り組む(2)	課題 2：文献の要約 ・ 1 つ文献を収集し、要約する(2)(30 分)
第 8 回	論文作成に必要なライティングスキルの向上 ○論文要約をグループで共有する。	課題 2：文献の要約 文献要約の提出(30 分)
第 9 回	子育て支援の実情 子育て支援の現状を視察し、レポートを作成する(1)。	課題 3「子育て支援」の現状レポートの作成(60 分)
第 10 回	子育て支援の実情 子育て支援の現状を視察し、レポートを作成する(2)。	課題 3「子育て支援」の現状レポートの提出(60 分)
第 11 回	最終レポートに向けて(1) ○これまで収集したデータと子育て支援の現場での体験から「地域で子育て世帯が安心した生活ができるま	○課題 4 最終レポート課題「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」の作成 (60 分)

	ちや社会づくり」について考える	
第 12 回	最終レポートに向けて(2) ○これまで収集したデータと子育て支援の現場での体験から「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」についてまとめる	○課題 4 最終レポート課題「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」の作成 (60 分)
第 13 回	最終レポートに向けて(3) ○これまで収集したデータと子育て支援の現場での体験から「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」についてまとめる	○課題 4 最終レポート課題「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」の作成 (60 分)
第 14 回	最終レポートに向けて(3) ○これまで収集したデータと子育て支援の現場での体験から「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」についてグループで共有する	○課題 4 最終レポート課題「地域で子育て世帯が安心した生活ができるまちや社会づくり」の提出 (60 分)
第 15 回	○キャリアプログラム ■ 就職活動スケジュールと最近の就職活動環境等(キャリアセンター) ■ 公立小学校・幼稚園採用試験対策スケジュールと最近の状況分析 ■ 公立保育所・私立保育園、施設等採用試験対策スケジュールと最近の状況分析 ○授業の総括 ■ 春学期のまとめ ■ 秋学期に向けて	○学習内容についての成果(evidence)を整理し、e-portfolio 等に記録する。(150 分) ○夏休みの行動計画の策定。(90 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-A02	2.科目名	専門演習Ⅰ（教育福祉 2/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅰ・Ⅱでは1年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」・「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 専門演習Ⅰ・Ⅱを通して課題解決学習（PBL）に取り組めます。「地域や実践現場の多様な課題に基づいた保育・教育・福祉の『安全・安心』とは？」をメインテーマに、各実践現場の喫緊の課題である「安全・安心」を脅かす要因について調査・研究し、具体的な解決策を提案します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性） ②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①経験学習を基に、現場で「安全・安心」の脅威となる事案を捉えることができる。 ②テーマに沿って、課題解決のための情報収集をすることができる。 ③課題解決に向けて収集した情報を分析することができる。 ④自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料を整理することができる。 ⑤自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料から自分の考えを論述できる。					
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料を配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	■課題1：文献の要約 20% 学習目標①・②に対応 ・1つ文献を収集し、要約・発表する（20%） ■課題2：文献リストの作成 10% 学習目標③・④に対応 ・テーマに関連した文献・資料リストを作成する ■課題3（発信）：ポスター・模擬授業・模擬保育等 20% 学習目標④・⑤に対応 ■課題4：最終レポート 20% 学習目標⑤に対応 ・レポート課題「保育所・幼稚園・小学校の子どもを取り巻く今日的課題について」 ■課題5：具体的講話に関する事後レポートと kuis ドリル 30% ・要約文(web-clas					
22.コメント	○毎回パソコン・イヤフォン（ヘッドフォン）を持参します。 2回生は教育・保育分野における進路を決定していくための重要な時期となります。また、教育・保育分野に関する専門的な授業も増えます。この演習においては、これから始める授業や体験学習などからヒントを得て、今日的な課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、卒論の作成に向けて適切な準備が出来るようにしていきましょう。 生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、レポート・テストでは使用不可とします。また、課題については、以下の欄で授業回ごとに指定します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

2025/04/12	オリエンテーション ■ 新しい学年を迎えるにあたっての心構えと具体的方策 ■ 履修ガイダンス 資格・進路に関わる履修登録の確認 ■ ゼミ内における係の選出 ■ これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う	○履修内容の点検を行う。特に実習や、資格取得について注意する。(120 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/04/19	プロジェクト「実践現場での多様な課題に基づいた保育・教育・福祉の『安全・安心』とは？」について ○経験学習の振り返りと課題の表出 ・ これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う ・ 経験学習における自身の課題を見付ける	○経験学習から捉えた現場での「安全・安心」を脅かす事例についてまとめる(60 分) ○kuis ドリル (30 分)
2025/04/26	課題解決に向けて ○「安全・安心」を脅かす課題をどのように解決するか考える ・ 経験学習での学びから ・ グループ内での相互の話し合いから	○kuis ドリル(30 分)
2025/05/10	課題解決に向けて ○グループ内で話し合い、調査方法について考える ・ 情報収集の方法 ・ 情報整理の方法。	○課題解決に向けての情報収集の方法についてのまとめ(60 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/05/17	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・ 文献調査 ・ インタビュー等	○【課題 1】 自身で選択した文献を要約する ○kuis ドリル(30 分)
2025/05/24	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・ 文献調査 ・ インタビュー等	○【課題 2】 文献リストの作成(60 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/05/31	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理① ・ 集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ○kuis ドリル(30 分)
2025/06/07	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理② ・ 集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ★【課題 2】の提出 ○kuis ドリル(30 分)
2025/06/14	教育保育現場の実情と課題 ■ 保育園(所)、幼稚園、施設、特別支援についての具体的講話	○【課題 5】 講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClass に提出する。(60 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/06/21	課題解決に向けて ○客観的データから自分の考えを外化する①	○発信の手法に応じた準備 ・ ポスター作成

	・これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる ・発信の方法について話し合う	・模擬授業・模擬保育準備 ・【課題3】の作成（90分） ○kuisドリル(30分)
2025/06/28	課題解決に向けて ○客観的データから自分の考えを外化する② ・これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる	○発信の手法に応じた準備 ・ポスター作成 ・模擬授業・模擬保育準備 ・【課題3】の作成（90分） ○kuisドリル(30分)
2025/07/05	発信：次のいずれかの方法で発信する ○ポスター発表 ・グループのこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う ○模擬授業・模擬保育 ・学習の成果として模擬授業・模擬保育を行う	【課題4】の作成（90） ○kuisドリル(30分)
2025/07/12	発信：全体発表会（Zoom） ○各ゼミ代表の発信 ○感想を出し合う	○【課題4】の提出
2025/07/19	客観的データから自分の考えを再内化する ○ポスター発表・模擬授業・模擬保育での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	【課題5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClassに提出する。（60分）
2025/07/26	前半:合同 キャリアプログラム ■ 就職活動スケジュールと最近の就職活動環境等(キャリアセンター) ■ 公立小学校・幼稚園採用試験対策スケジュールと最近の状況分析 ■ 公立保育所・私立保育園、施設等採用試験対策スケジュールと最近の状況分析 後半:ゼミアワー ■ 春学期のまとめ ■ 秋学期に向けての課題 アドバイザーによる文献紹介	○学習内容についての成果(evidence)を整理し、e-portfolio等に記録する。(150分) ○夏休みの行動計画の策定。(90分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-A03	2.科目名	専門演習Ⅰ（教育福祉 3/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅰ・Ⅱでは1年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」・「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 専門演習Ⅰ・Ⅱを通して課題解決学習（PBL）に取り組めます。「地域や実践現場の多様な課題に基づいた保育・教育・福祉の『安全・安心』とは？」をメインテーマに、各実践現場の喫緊の課題である「安全・安心」を脅かす要因について調査・研究し、具体的な解決策を提案します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP①自律的で主体的な態度（自律性） ②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連しています。 ①経験学習を基に、現場で「安全・安心」の脅威となる事案を捉えることができる。 ②テーマに沿って、課題解決のための情報収集をすることができる。 ③課題解決に向けて収集した情報を分析することができる。 ④自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料を整理することができる。 ⑤自身の課題を明確にし、テーマに関連する文献や資料から自分の考えを論述できる。					
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料を配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	■課題1：文献の要約 20% 学習目標①・②に対応 ・1つ文献を収集し、要約・発表する（20%） ■課題2：文献リストの作成 10% 学習目標③・④に対応 ・テーマに関連した文献・資料リストを作成する ■課題3（発信）：ポスター・模擬授業・模擬保育等 20% 学習目標①・⑤に対応 ■課題4：最終レポート 20% 学習目標⑤に対応 ・レポート課題「保育所・幼稚園・小学校の子どもを取り巻く今日的課題について」 ■課題5：具体的講話に関する事後レポートと kuis ドリル 30% ・要約文(web-clas					
22.コメント	○毎回パソコン・イヤフォン（ヘッドフォン）を持参します。 2回生は教育・保育分野における進路を決定していくための重要な時期となります。また、教育・保育分野に関する専門的な授業も増えます。この演習においては、これから始める授業や体験学習などからヒントを得て、今日的な課題を見つけ出し、さまざまな情報を集め、卒論の作成に向けて適切な準備が出来るようにしていきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2025/04/12	オリエンテーション			○履修内容の点検を行う。特に実習や、資格取得について注意する。（120 分）		

	■ 新しい学年を迎えるにあたっての心構えと具体的方策 ■ 履修ガイダンス 資格・進路に関わる履修登録の確認 ■ ゼミ内における係の選出 ■ これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う	○kuis ドリル(30 分)
2025/04/19	プロジェクト「実践現場での多様な課題に基づいた保育・教育・福祉の『安全・安心』とは？」について ○経験学習の振り返りと課題の表出 ・ これまでの経験学習で学んだことをゼミで話し合う ・ 経験学習における自身の課題を見付ける	○経験学習から捉えた現場での「安全・安心」を脅かす事例についてまとめる(60 分) ○kuis ドリル (30 分)
2025/04/26	課題解決に向けて ○「安全・安心」を脅かす課題をどのように解決するか考える ・ 経験学習での学びから ・ グループ内での相互の話し合いから	○kuis ドリル(30 分)
2025/05/10	課題解決に向けて ○グループ内で話し合い、調査方法について考える ・ 情報収集の方法 ・ 情報整理の方法。	○課題解決に向けての情報収集の方法についてのまとめ(60 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/05/17	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・ 文献調査 ・ インタビュー等	○【課題 1】 自身で選択した文献を要約する ○kuis ドリル(30 分)
2025/05/24	課題解決に向けて ○自主的な情報収集 ・ 文献調査 ・ インタビュー等	○【課題 2】 文献リストの作成(60 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/05/31	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理① ・ 集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ○kuis ドリル(30 分)
2025/06/07	課題解決に向けて ○テーマに関する客観的データの整理② ・ 集めた資料を整理する。	○文献を入手し、概要を把握していく(60) ★【課題 2】の提出 ○kuis ドリル(30 分)
2025/06/14	教育保育現場の実情と課題 ■ 保育園(所)、幼稚園、施設、特別支援についての具体的講話	○【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClass に提出する。(60 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/06/21	課題解決に向けて ○客観的データから自分の考えを外化する① ・ これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる	○発信の手法に応じた準備 ・ ポスター作成 ・ 模擬授業・模擬保育準備 ・ 【課題 3】の作成 (90 分)

	・ 発信の方法について話し合う	○kuis ドリル(30 分)
2025/06/28	課題解決に向けて ○客観的データから自分の考えを外化する② ・ これまで収集したデータとその整理から、自分たちの課題とその解決法についてまとめる	○発信の手法に応じた準備 ・ ポスター作成 ・ 模擬授業・模擬保育準備 ・【課題 3】の作成 (90 分) ○kuis ドリル(30 分)
2025/07/05	発信：次のいずれかの方法で発信する ○ポスター発表 ・ グループのこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う ○模擬授業・模擬保育 ・ 学習の成果として模擬授業・模擬保育を行う	【課題 4】の作成 (90) ○kuis ドリル(30 分)
2025/07/12	発信：全体発表会 (Zoom) ○各ゼミ代表の発信 ○感想を出し合う	○【課題 4】の提出
2025/07/19	客観的データから自分の考えを再内化する ○ポスター発表・模擬授業・模擬保育での他者からの評価及び自らの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	【課題 5】講話内容のキーワードを挙げ、要約文を作成し、WebClass に提出する。 (60 分)
2025/07/26	前半:合同 キャリアプログラム ■ 就職活動スケジュールと最近の就職活動環境等(キャリアセンター) ■ 公立小学校・幼稚園採用試験対策スケジュールと最近の状況分析 ■ 公立保育所・私立保育園、施設等採用試験対策スケジュールと最近の状況分析 後半:ゼミアワー ■ 春学期のまとめ ■ 秋学期に向けての課題 アドバイザーによる文献紹介	○学習内容についての成果(evidence)を整理し、e-portfolio 等に記録する。(150 分) ○夏休みの行動計画の策定。(90 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-A04	2.科目名	専門演習Ⅰ（教育福祉 4/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：2 年生ゼミでは、1 年間の共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。地域住民の暮らしに着目し、フィールドワークを通して、その人たちの声/語りをもとに、人々にとっての well-being や安全・安心について検討していきます。具体的には、尼崎市から委託を受けて、本学学生と尼崎市が共同で、地域防災の取り組みや福祉実践を行います。 専門演習Ⅰ（春学期）では、地域の防災、民生児童委員等の活動の基礎知識を学ぶことから始まり、高齢者等の地域住民への見守り活動や地域サロン活動への参加をし					
18.学習目標と DP との関連	本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①テーマに関連する文献や資料を収集できる ②収集した文献や資料から、テーマに関連する客観的データ（統計データや事例）を整理できる ③質的調査の基礎を説明できる ④質的調査で得られたデータを整理できる ⑤④を用いて、地域住民の生活課題を抽出できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（6）専門知識・技能の活用力と関連しています。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門(第 3 版)」慶應義塾大学出版 白井利明・高橋一郎(2008)「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房※Ⅱ「ゼミでの学び方」に文献講読の方法がのっています 笠原千絵・永田祐編著(2013)「地域の＜実践＞を変える社会福祉調査入門」春秋社					
21.成績評価	■課題 1：文献リストの作成 10% 学習目標①②に対応 ・テーマに関連した文献リストの作成※指定フォーマット ■課題 2：質的分析シート 20% 学習目標③と④に対応 ・地域住民の見守り活動やつながりづくりの活動に参加し、フィールド調査を行ったデータを研究手法に基づいて整理する ■課題 3：パワーポイントを使った発表 30% 学習目標③と④に対応 ・地域住民の見守り活動やつながりづくりの活動に参加し、フィールド調査を行った結果をまとめて報告する。 ■課題 4：最終レポート 30% 学習目標⑤に対応 ・レポ					
22.コメント	1. 「コーオプ・プログラムⅡB」科目との関連で進めるため、「インターンシップⅡ」（春学期集中 尾崎慶太）を必ず履修してください。 2. 地域住民の見守り活動やつながりづくりの支援活動の日程は、尼崎市や町会との調整が必要なため授業開始後に皆さんの予定も聞きながら調整していきます。 <生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める					

	*レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 木曜日 4 限目 研究室オフィスアワー 水曜日 3 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	導入:専門演習Ⅰのねらいと進め方	○前学期のふりかえりを e ポートフォリオに記録してくる(60)
第 2 回	テーマのブレインストーミングと KJ 法での分類 ・テーマ「地域で暮らす高齢者・障害者」「地域での子育て」に関連するキーワードをブレインストーミングする ・KJ 法を用いて分類し、発表する	○文献リストの作成(60)
第 3 回	文献リサーチ 「地域で暮らす高齢者への見守り活動」、「障害者、子育て世帯の孤立を防ぐための活動」についての文献を検索する。 ・対象者はどのような人たちか ・どのような人や機関が見守りをしているのか ・見守り活動の目的や内容	○文献リストに基づく文献入手と要約(90) ★課題 1 の提出
第 4 回	文献をまとめて発表する① ・グループワーク「地域で暮らす高齢者への見守り活動」「障害者、子育て世帯の孤立を防ぐ・つながりを作るための活動」についての文献を発表、ディスカッションする。 ・グループで 1 つの発表資料を作り上げる。	○グループ発表の準備をする(90)
第 5 回	1. 文献をまとめて発表する② ・グループ発表 ・全体ディスカッション 2. 活動地区の「地域で暮らす高齢者の見守り活動」「障害者、子育て世帯の孤立を防ぐ・つながりを作るための活動」について調べる	○リサーチ入門テキストの質的研究法に該当する部分を復習してくる(60) ★課題 2 の提出
第 6 回	フィールドワークの手法を学ぶ ・フィールドワークとは ・研究倫理 ・活動する地区の特徴を調べる	◎課題 3 に取り組む(90)
第 7 回	ゲストスピーチとゲストへのインタビュー ・潮江地区での見守り活動や地域防災の取り組みについて知る ・インタビューをする	◎課題 3 に取り組む(90)
第 8 回	得られたデータの整理 グループワーク ・インタビュー調査で得られたデータを KJ 法などを用いて整理する	◎課題 3 に取り組む(90)
第 9 回	フィールドワーク① ・各活動に参加する	◎課題 3 に取り組む(90)

	・各活動の内容について体験を通して理解を深める	
第 10 回	フィールドワークの振り返り ・活動に参加した振り返りをする ・次回の活動に向けて、さらに、どのようなことを明らかにしたいのか目的をもつ（テーマの設定）	◎課題 3 に取り組む(90)
第 11 回	フィールドワーク② ・各活動に参加する ・各活動や地域の高齢者、障害者、子育ての現状について、観察や聞き取りを行う。	◎課題 3 に取り組む(90)
第 12 回	1. フィールドワークの振り返り ・見守り活動に参加した振り返りをする 2. 最終レポート執筆に向けた準備 ・これまで収集したデータとその整理から、自分の主張したいことをまとめる	○ポスター作成(90)
第 13 回	プレゼンテーション ・各自のこれまでの成果物をポスターにまとめてプレゼンテーションを行う	○課題 4：最終レポートの執筆(90)
第 14 回	自分の考えを再内化する ・プレゼンテーションでの気づきをふまえ、最終的なレポート完成を進める。	○課題 4：最終レポートの執筆(90)
第 15 回	授業のふりかえり	★課題 4、課題 5 の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y01	2.科目名	専門演習Ⅰ (G コミ)	3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、「グローバルリサーチ」のための準備を行う。 具体的には、特に以下の SDGs の目標を主要テーマに、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワ				
18.学習目標と DPとの関連	◎グローバルな活動に必要な実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎リサーチ対象の国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材					
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する				
21.成績評価	留学国やリサーチテーマ設定に関するプレゼンテーション (グループ) 30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション (個人) 30% リサーチの計画書(最終レポートに相当)40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	月曜 3 限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	オリエンテーション				
	リサーチテーマの設定・方法論 1 (SDGs4 つの領域の導入)				
	リサーチテーマの設定・方法論 2 (mind map 作成 関連領域の情報収集)				
	リサーチテーマの設定・方法論 3				

	(リサーチテーマの絞り込み、適切な主題の設定)	
	中間プレゼンテーション準備	
	中間プレゼンテーション準備	
	文献検索+危機管理講習* * 日程調整の可能性あり。	
	中間プレゼンテーション 1	
	中間プレゼンテーション 2	
	各個人の留学先大学についての情報収集 (各ゼミ)	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 3	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y02	2.科目名	専門演習Ⅰ (G コミ)	3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤 創				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、「グローバルリサーチ」のための準備を行う。 具体的には、特に以下の SDGs の目標を主要テーマに、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワ				
18.学習目標と DPとの関連	◎グローバルな活動に必要な実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎リサーチ対象の国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材					
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する				
21.成績評価	留学国やリサーチテーマ設定に関するプレゼンテーション (グループ) 30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション (個人) 30% リサーチの計画書(最終レポートに相当)40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	月曜 3 限				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	オリエンテーション				
	リサーチテーマの設定・方法論 1 (SDGs4 つの領域の導入)				
	リサーチテーマの設定・方法論 2 (SDGs4 つの領域の導入 2)				
	リサーチテーマの設定・方法論 3				

	(mind map 作成 関連領域の情報収集)	
	リサーチテーマの設定・方法論 4 (リサーチテーマの絞り込み、適切な主題の設定)	
	文献検索 (+危機管理講習*) * 日程調整の可能性あり。	
	中間プレゼン準備	
	中間プレゼンテーション準備	
	中間プレゼンテーション 1	
	中間プレゼンテーション 2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 3	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y03	2.科目名	専門演習Ⅰ (G コミ)	3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年春
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目の内容は、秋学期の「グローバルリサーチ」において、1 学期間の留学に行くことを前提としている。現地の大学内外において、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。				
18.学習目標と DP との関連	◎現地での活動に必要な実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎滞在国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力				
19.教科書・教材					
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する				
21.成績評価	クラス内タスク 30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション（個人） 20% リサーチの計画書(最終レポートに相当)50%				
22.コメント	＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	滞在国に関する事前調査（テーマや役割分担の決定）				
	各自ごとの事前調査 1				
	各自ごとの事前調査 2				
	（留学経験者による）現地情報提供・留学に関する諸注意その他情報提供（全体活動）				
	滞在国別にプレゼンテーション				
	リサーチテーマの設定、リサーチの方法論について				
	データ収集の方法				
	データ収集の方法				
	リサーチペーパーの執筆について（英語ライティングの基本も含む）				

	各個人の留学先大学についての情報収集	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定 1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定 2	
	危機管理講習（全体活動）	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y04	2.科目名	専門演習Ⅰ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、「グローバルリサーチ」のための準備を行う。 具体的には、特に以下の SDGs の目標を主要テーマに、現地社会・文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深めるために、その基盤となる知識やスキルを学ぶ。 1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワ					
18.学習目標と DPとの関連	◎グローバルな活動に必要な実践的な英語コミュニケーション力を身につける ◎リサーチ対象の国の文化、歴史、日本との関係などについて、基本的な情報を自分の言葉で語ることができる ◎自分とは異なる価値観を理解し、尊重するために、様々な事項をグローバルな視点から考えることができる (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材						
20.参考文献	必要に応じて資料を随時配布する					
21.成績評価	留学国やリサーチテーマ設定に関するプレゼンテーション (グループ) 30% 自らのリサーチテーマに関するプレゼンテーション (個人) 30% リサーチの計画書(最終レポートに相当)40%					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に関り認める。 各授業におけるテストでの使用は認めない。					
23.オフィスアワー	月曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション					
	リサーチテーマの設定・方法論 1 (SDGs4 つの領域の導入)					
	リサーチテーマの設定・方法論 2 (SDGs4 つの領域の導入 2)					

	リサーチテーマの設定・方法論 3 (mind map 作成 関連領域の情報収集)	
	リサーチテーマの設定・方法論 4 (リサーチテーマの絞り込み、適切な主題の設定)	
	文献検索 (+ 危機管理講習*) * 日程調整の可能性あり。	
	中間プレゼン準備	
	中間プレゼンテーション準備	
	中間プレゼンテーション 1	
	中間プレゼンテーション 2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 1	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 2	
	各個人のリサーチトピックの設定・情報収集・履修計画の設定など 3	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 1	
	リサーチ計画についてのプレゼンテーション/ディスカッション 2	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y06	2.科目名	専門演習Ⅰ（社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 異なる文化をもった人々（異なる考え方や異なる利害を持ち合わせた人々）が、同じ場所（同じ町で、同じ学校や会社で、同じ公共施設やお店、交通機関を使って…）うまく暮らすにはどうすればよいのか。すなわち多様な人々が多様なまま共生できる社会を実現するにはどうすればよいのか。それを考えるゼミです。 【概要】 ? A. 共生に関する自由研究（個人テーマ） 「共生」という大きなテーマのもと、ひとりひとり具体的なテーマを選び、調べ、考えてもらいます。重めのテーマ（移民との共生、性的少数者との共生、障害のある人との					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①地域文化や地域活性化について、基本的な知識や論点を説明できる 学習目標②自分の考えを説得力のあるデータを示しながら伝えることができる 学習目標③イベント運営やコンテンツ作成などに、自主的に、かつ他のゼミ生と協調しながら取り組むことができる この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・個人テーマの完成度（企画力、取材力、文章力、レイアウトや画像処理の能力）……50 点（学習目標①②に対応） ・全体テーマ（イベントや共同作業、討論など）における積極性（ゼミの一員としての取り組み）……50 点（学習目標③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 限目（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	ガイダンス			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 2 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 3 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 1（商店街）に関する作業			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 4 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 5 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 1（商店街）に関する作業			終わらなかった作業の持ち帰り		
【第 6 回】	[前半] 全体テーマ 3：ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業			終わらなかった作業の持ち帰り		

【第 7 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 1 (商店街) に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 8 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 9 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 1 (商店街) に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 10 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 11 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 1 (商店街) に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 12 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 13 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 全体テーマ 1 (商店街) に関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 14 回】	[前半] 全体テーマ 3 : ニュースレビュー [後半] 個人テーマに関する作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 15 回】	個人テーマ発表と総括	終わらなかった作業の持ち帰り

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y07	2.科目名	専門演習Ⅰ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 情報系の資格取得対策を通じて、データサイエンスの基本的な知識・技術を獲得する。 ICT(情報通信技術)に関する発表・討論を通じて、ICT についての可能性や課題についての理解を深める。 【概要】 ・「MOS(Microsoft Office Specialist) Excel」等の対策テキストを活用し、資格取得に必要な知識や操作方法を修得する。 ・毎回数名ずつ、ICT と社会に関する話題について調べたことを発表する。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標 ①資格に関する基本事項を説明でき、必要な操作ができる。 ②要点を的確にまとめて発表することができる。 ③他人の発表を聞き、質問およびコメントすることができる。 この授業の学習目標は DP の (4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	授業中に指示します。					
20.参考文献						
21.成績評価	ゼミノートの記入(毎回の授業の内容、理解したこと、今後の課題など) 40 点 [学習目標①に対応] 発表 30 点 [学習目標②に対応] 総括レポート 30 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室：火曜 4 限、学習支援センター：金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			ゼミノート		
第 3 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 3 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 4 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 5 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 6 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 7 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習			ゼミノート		
第 8 回	[前半] 発表・討論			ゼミノート		

	[後半] 資格取得対策演習	
第 9 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 10 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 11 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 12 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 13 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 14 回	[前半] 発表・討論 [後半] 資格取得対策演習	ゼミノート
第 15 回	まとめ	ゼミノート、総括レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y08	2.科目名	専門演習Ⅰ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業ではメディアを研究し、批評するために必要な知識と視点の獲得を目指します。 テキスト購読とグループワーク（ディスカッション）を通じて、メディアの特性と歴史的背景を理解し、適切な「問い」を立て、考察を深めるための力を身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルの学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①ワークシートを利用して、自分の経験や考えを整理することができる。 ②グループワークを通じて、考察を深めることができる。 ③メディア文化を読み解く視点を持ち、「問い」を立て、答えを導くことができる。					
19.教科書・教材	『基礎ゼミ メディアスタディーズ』石田佐恵子・岡井崇之編、2020、世界思想社					
20.参考文献						
21.成績評価	ワークシートの記入、授業の振り返り 40 点 [学習目標①に対応] グループワークの成果報告 40 点 [学習目標②に対応] 期末レポート 20 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：火曜 4 限、学修支援センター：木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ネットは「みんなの声」を伝えているか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
2	なぜフェイクニュースが生まれるのか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	スマートフォンは写真をどう変えたのか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	美容整形は個人的なことか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	CM のジェンダー表現はなぜ炎上しがち？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	障害者は「がんばる人」なのか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	女性被害者は本当に多いのか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	健康の不安はメディアで解消されるのか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	「外国人」選手はなぜ特別視されるのか？			復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
	クールジャパンって本当にクールなの？			復習:今回の復習及びワークシートの整理		

		予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	K-POP は誰のものか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	グーグルマップは世界を描いているか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	メディア経験から何がわかるのか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	地域の記憶は誰のものか？	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
	まとめ	復習:今回の復習及びワークシートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y09	2.科目名	専門演習Ⅰ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Addresses	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：社会的耳目を集めた事件や事故、ネット空間における問題点等を題材として、情報の収集と分析、グループ討議、プレゼンテーションを通して、物事、自己の主張を他者に正しく伝えるスキルを身に付けることを目的とします。 概要：各班においてテーマを選定し、情報検索、グループ討議（問題点、再発防止策等）、発表案（プレゼン資料、読み原稿等）の作成及び発表を行います。 ※各回ノートパソコンを持参して下さい。 初回にグループ分けを実施しますので、必ず出席して下さい。					
18.学習目標とDPとの関連	DP の(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教科書・教材	特にありません					
20.参考文献	適宜紹介します。					
21.成績評価	・ テーマレポート ・ プレゼンテーション		40%	学習目標①、②、⑤に対 学習目標③に対		

	応 ・ディスカッションにおける質疑・発言 20% 学習目標④に対応	
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、レポート作成に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション：演習の内容と進め方に関する説明 ・メンバー紹介：自己紹介、習得目標 ・班編 ・意見聴取、要望・質疑等	自己アピールポイントをまとめておくこと
第 2 回	研究発表 ・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。 ・第 5 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 3 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班） 役割分担の付与	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 4 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班）	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行う こと 各班代表者は終了時、資料を WebClass に掲載すること
第 5 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各班ごとの発表 ・ディスカッション 他班からの質疑応答にこたえ、各班ごとの良好点、欠点をお互い討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 6 回	研究発表 ・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。 ・第 9 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 7 回	・キャリア教育 5 月 24 日ウィークリーアワー（評価と実践 金曜日 1 限）の時間にゼミの振替として実施	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 8 回	・ディスカッション、グループワーク	各自が討議内容をまとめ班内に置いて

回	研究課題について発表に向けた作業（各班）	討議できる準備を行うこと 各班代表者は終了時、資料をWebClass に搭載すること
第 9 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各班ごとの発表 ・ディスカッション 同一テーマにおいて班毎の分析の相違等の要因等について討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 10 回	研究発表 ・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。 ・第 13 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 11 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班） 役割分担の付与	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 12 回	・ディスカッション、グループワーク 研究課題について発表に向けた作業（各班）	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行うこと 各班代表者は終了時、資料をWebClass に搭載すること
第 13 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各班ごとの発表 ・ディスカッション 同一テーマにおいて班毎の分析の相違等の要因等について討議する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 14 回	○ 統括、本演習を振り返り、各プレゼンテーションに関して補正すべき事項を考察する。（ディスカッション）	各自プレゼンテーション資料の再考を行うこと
第 15 回	○ 統括、まとめ 本演習を通して疑問点や課題について討議を行い、問題・課題解決をはかる。（ディスカッション）	各自自らの総括を行い、反省点・改良点等をまとめておくこと

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y10	2.科目名	専門演習Ⅰ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けることを目的とする。 この演習では、心理学の研究が世の中でどのような役割を持っており、学ぶことで何が得られるのか理解し、説明するできるようになることを目指す。また、ディスカッションや専門書の輪読、プレゼンテーション、ライティングを通して科学的な思考法の基盤を作る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）課題発見・解決力（5）コミュニケーション力、の学修に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ①自分の興味にそった心理学の領域を見つけることができる。 ②理解した内容を発表し、他者に伝えることができる。 ③グループ内で円滑にコミュニケーションができる。 ③レポートを執筆し、推敲することができる。					
19.教科書・教材	なし。ノートパソコンを毎回持参すること。					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	①各回の振り返りシート・・・1 点×15 回=15 点（学習目標③に対応） ②各回の OneMinutePaper・・・1 点×15 回=15 点（学習目標①に対応） ③中間発表および最終発表へのピア評価・・・25×2 回=50 点（学習目標②に対応） ④最終レポート・・・20 点×1 回=20 点（学習目標④に対応）					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 昨年度のふりかえりと今年度の目標設定 ベンチマーク、e ポートフォリオの作成 演習の目的の説明			★毎回持参：ノートパソコン 提出①：ブックレポートを Weclass に提出すること。 提出②：e ポートフォリオのふりかえりと目標設定		
第 2 回	課題設定とグループ分け			提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper		
第 3 回	グループワーク 1－① 注意事項の説明			提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper		
第 4 回	グループワーク 1－②			提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper		
第 5 回	グループワーク 1－③			提出①振り返りシート		

		提出②OneMinutePaper
第 6 回	中間発表資料の作り方	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 7 回	キャリア合同ガイダンス 5月31日（火）3限（ウィークリーアワー）で実施	
第 8 回	中間評価	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③ピア評価シート 提出④中間発表資料
第 9 回	グループワーク 2-①	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 10 回	グループワーク 2-②	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 11 回	グループワーク 2-③	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 12 回	最終発表準備	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper
第 13 回	最終発表	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③ピア評価シート 提出④最終発表資料
第 14 回	最終発表への学生間フィードバック レポートのまとめ方	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③改稿最終発表資料
第 15 回	まとめとふりかえり	提出①振り返りシート 提出②OneMinutePaper 提出③レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y11	2.科目名	専門演習Ⅰ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	専門演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 興味や関心のあるテーマに関する専門知識を学ぶ。 特に、認知や行動といった基礎心理学に関する知見を重点的に習得する。 【概要】 一般向けの専門書を題材として、関連資料をまとめ、グループで発表を行う。 テーマは教員とグループで相談して決定する。ゼミでは1人1回以上の発言が求められる。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)興味や関心のあるテーマについて、専門的内容を説明できるようになる (2)他者の発表に対して、疑問点を質問できるようになる 【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (2)社会的貢献性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	専門書を適宜紹介する。					
20.参考文献						
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度を総合的に評価） (2)発表評価 50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション			発表準備		
【第2回】	第1回テーマ選択			発表準備		
【第3回】	文献発表と質疑応答の進め方			発表準備		
【第4回】	第1回グループ発表（1）			発表準備		
【第5回】	第1回グループ発表（2）			発表準備		
【第6回】	第1回グループ発表（3）			発表準備		
【第7回】	第2回テーマ選択			発表準備		
【第8回】	第2回グループ発表（1）			発表準備		
【第9回】	第2回グループ発表（2）			発表準備		
【第10回】	第2回グループ発表（3）			発表準備		
【第11回】	第3回テーマ選択			発表準備		
【第12回】	第3回グループ発表（1）			発表準備		
【第13回】	第3回グループ発表（2）			発表準備		

【第 14 回】	第 3 回グループ発表（3）	発表準備
【第 15 回】	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y12	2.科目名	専門演習Ⅰ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：本演習の目的は、興味あるテーマについて探求する楽しさを知ることです。 概要：興味関心のあるテーマについて学期の終わりまでにパワーポイント資料を作成し、プレゼンを実施します。そのプロセスにおいて、以下のことを学びます。論文やサイトの検索、論文を読むこと、論文を要約すること、テーマのまとめ方等。個人の能力、進捗に合わせて、個別に指導をしますので、これらのことを学ぶことができます。また、ブレインストーミング、記録やまとめ等に有効とされる、マインドマップの使い方を身につけます。その他教員によるミニ講義を聞い					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.自律性、4.問題発見・解決力、5.コミュニケーションスキルの学修に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①心理学領域の中に、興味ひかれるテーマをみつけている ②心理学の専門書を読み、内容をまとめることができる ③探求する楽しさを知り、自ら進んで学ぶ姿勢を身につけている ④研究のための多様なアプローチを考えることができる ⑤仲間と協働する楽しさを知っている					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	①興味ある領域のプレゼンテーション・・・30 点（学習目標①②③④に対応） ②マインドマップを用いた数種要約の提出・・・30 点（学習目標②④⑤に対応） ③プレゼンに先立つ中間発表・・・10 点（学修目標①②③④に対応） ④アサインメントの提出・・・20 点（②③⑤に対応） ④総括レポート・・・10 点（学習目標③④⑤に対応）					
22.コメント	毎回ノートパソコンを持参してください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：木曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 進め方の説明 ゼミ代表決め 面談日等事務関係			パソコンを持参すること。		
第 2 回	マインドマップの説明 自己紹介ワーク 自分の自己紹介内容をマインドマップにして提出 最終プレゼンの課題と様式の説明			mindmeister で自己紹介 map の作成		
第 3 回	最終プレゼンの課題と様式の発表			次回、最終プレゼンの課題と様式の発表の準		

		備
第 4 回	臨床関連ミニ講義とグループディスカッション	次回輪読の下読み 最終プレゼンに向けた自主的調査研究
第 5 回	「脳と心」視聴 内容をグループでまとめて提出	内容要約 次回の分の下読み
第 6 回	キャリアガイダンスに振替	内容の要約
第 7 回	最終プレゼンの中間発表	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次 回中間発表の準備
第 8 回	輪読 1 論文を読んでみよう！	
第 9 回	輪読 2 論文を読んでみよう！	最終プレゼンに向けた自主的調査研究
第 10 回	災害心理学関係 ローリングストックと夏休み課題	最終プレゼンに向けた自主的調査研究
第 11 回	最終プレゼン 1 5 人	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次週発表者は発表前日までにパワポの提出
第 12 回	最終プレゼン 2 5 名	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次週発表者は発表前日までにパワポの提出
第 13 回	最終プレゼン 3 5 名	最終プレゼンに向けた自主的調査研究 次週発表者は発表前日までにパワポの提出
第 14 回	最終プレゼン 4 5 名	
第 15 回	まとめとふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y13	2.科目名	専門演習Ⅰ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習形式 (グループでの発表と討議中心)	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	犯罪に関連するテーマを決めて、グループで調べて発表し、全体で討議する 犯罪を題材として、社会の問題点を発見し、問題解決能力を身に着ける					
18.学習目標と DPとの関連	ゼミのメンバーを 4 人 1 組でグループ分けし、以下に示すような内容から、自分たちで選んで発表テーマを決める 1 犯罪心理学の主要理論 なぜ、人は罪を犯すのか 絆論、ルーチンアクティビティ理論、割れ窓理論 2 罪種別の発表テーマ 無差別大量殺人、特殊詐欺と闇バイト、性犯罪、薬物依存 3 犯罪に関する職業別テーマ 警察官・少年補導員・科捜研研究員 (ポリグラフ、プロファイリング)、法務教官・法務技官、児童自立支援職員、家庭裁判所調査官、保護観察官、児童相談所職員 (児童心理司、児童福祉司)、 4 犯罪者のパーソナリティに関する発表テーマ 犯罪者に多い性格特性、暴力性と攻撃性、パーソナリティ障害、クレプトマニア (窃盗症)、小児性愛 (ペドフェリア) 6 法律と犯罪に関するテーマ 懲役刑と拘禁刑、少年法の厳罰化と特定少年の実名公開、死刑判決の基準、精神鑑定と責任能力、犯罪報道と人権、被害者支援 7 その他の 非行少年の更生、児童虐待と児童相談所、カスタマーハラスメント、カルト宗教とマインドコントロール、テロ事件対策					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・グループでの発表 40% : 事件・事故についてプレゼンテーションを作成し口頭発表 ・討議への参加 20% : グループ討議に参加してコメントする。 ・最終レポート (webclass) 40% : 発表した資料の要約を提出 ・実験参加 : 生理反応を測定する卒業研究、学会発表に向けた実験に参加したものには 1 回につき、若干の加点をする					
22.コメント	(1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識 + 自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、					

		自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 発表について スライドは要点をキーワードのみで示す 読み原稿は別に作成し、発表者はスライドの文字を棒読みすることは避ける 問題点を明らかにし、その解決策と再犯防止への提案を必ず付け加えること 発表者は事前に指定討論者を決め、活発な討議のファシリテーションを行うこと 海外の事例は詳細が不明なことも多く、文化が異なるので避けること
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	ガイダンス グループ分け	
	事例 1 の発表と討議	
	事例 2 の発表と討議	
	グループ A、B による発表	
	グループ C,D による発表	
	グループ E,A による発表	
	グループ B,C による発表	
	グループ D,E による発表	
	グループ A,B による発表	
	グループ C、D による発表	
	グループ E,A による発表	
	グループ B,C による発表	
	グループ D,E による発表	
	テーマ別の全体討議	
	全体の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y14	2.科目名	専門演習Ⅰ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：これまでの災害から得られた教訓をベースにした災害への様々な備えを学び、その中でも兵庫県庁が現在懸案としている事項(ex.能登半島地震復興支援、フェニックス共済など)を題材として抽出します。それについて、学外活動を踏まえた事前調査、関係者からの説明、インタビューを行い、課題発見・解決のグループワークにより提案を取りまとめて、関係者に対してプレゼンテーションを行い、評価を受けます。 これらを通じて、課題発見・解決に向けた自己の主張を他者に正しく伝えるスキルを身に付けることを目的とします。 概要：各班に					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 防災・減災に関連する専門的知識を獲得することができる					

19.教科書・教材	なし。ノートパソコンを毎回持参すること。	
20.参考文献	適宜紹介します。	
21.成績評価	・ テーマレポート 40% 学習目標①、②、⑤に対応 ・ プレゼンテーション 40% 学習目標③に対応 ・ ディスカッションにおける質疑・発言 20% 学習目標④に対応	
22.コメント		
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 (4/09)	・ オリエンテーション：演習の内容と進め方に関する説明 ・ メンバー紹介：自己紹介、習得目標等 ・ 班編成 ・ ゼミの内容について意見を出し合う。 ・ 情報共有方法の確認	★毎回持参：ノートパソコン 自己アピールポイントをまとめておくこと
第2回 (4/16)	お互いを知り合う～自己紹介のワーク～ 【事例研究・発表（1）】 全国的に反響の大きい災害事案について学ぶ ①2023年2月 トルコ地震 ②2024年1月 能登半島地震、夏の水害 ③2025年3月 ミャンマー地震	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第3回 (4/23)	過年度ゼミでの先輩の取り組みに学ぶ ①2023年2月 トルコ地震 ②2024年1月 能登半島地震、夏の水害 ③2024年1月2日 羽田空港における日航機事故でのパニックの状況を考える	テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第4回 (4/30)	・ 能登半島地震被災地で支援活動を継続している兵庫県職員からの情報提供 能登半島地震での被災地支援を地震発生後60日間にわたり実施している兵庫県職員から、能登半島地震の特徴、被害状況、被災者のニーズの変遷、被災地復興に向けた今後の課題 などについて情報提供いただき、これまで調べてきた被災地についてより深く状況を把握する。	テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと

第 5 回 (5/7 水) 次回 は 5/16(金 2 限)	メディアライブラリーによるガイダンス(記事検索、文献検索) ①テーマ研究に必要となる記事検索、文献検索のやり方をメディアライブラリー職員から学ぶ ②検索機能を使って、能登半島地震についての基礎的情報について班に分かれて情報収集を行う。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 6 回 (5/16 金 2 限) 次回 は 5/21(水 2 限)	キャリア合同ガイダンス 5 月 16 日(金)のウィークリーで実施します(2-212 教室)。 →5 月 14 日の専門演習 I はありません。	○発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと○各自が学外研究のテーマ候補を選定し、班内での調査質問項目について考えをまとめておくこと
第 7 回 <5/21 水> →次 回は 5/24(土)の 人防 訪問	各班からの成果発表(プレゼンテーション) 人と防災未来センター 訪問準備 今回は、土曜日(5/24)の人防訪問研修	
第 8 回 (5/24 土) 第 9 回と 合併 のため 次回 は 6/11(水)	《学外学習(土曜日の 9 時 30 分～12 時 30 分に実施:現地集合現地解散)》 ・人と防災未来センター見学 日本、兵庫の防災減災を見直す契機となった 1995 阪神・淡路大震災の地震博物館を訪問し、施設の設立目的、展示・活動内容の説明、語り部講話などを通じ、震災の概観を把握する。	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での調査質問項目について考えをまとめておくこと
第 9 回 (5/24 土)	→5 月 28 日・6 月 4 日(水)の専門演習はありません。	

<第 8 回と合併>		
第 10 回 (6/11)	【事例研究・発表（2）】 ○兵庫県庁が現在懸案としている事項(ex.フェニックス共済など)を題材として、県庁の担当部局から説明を受け、関係者ヒアリングを行い、課題発見・解決のグループワークにより提案を取りまとめて、関係者に対してプレゼンテーションを行う。 <セーフティマネジメント論「兵庫県の防災危機管理」と連動> ・兵庫県庁の職員からフェニックス共済についての説明を受ける ・第 12-13 回授業において各班ごとに発表	各自が発表テーマ候補を選定し、班内での討議に備えて考えをまとめておくこと
第 11 回 (6/18)	ディスカッション、グループワーク-1 研究課題について発表に向けた作業（各班） 役割分担の付与	発表テーマに関して、班内での討議に備え、情報収集・分析、考察のまとめを行うこと
第 12 回 (6/25)	・ディスカッション、グループワーク - 各班からの成果発表-1	各自が討議内容をまとめ班内に置いて討議できる準備を行うこと 各班代表者は終了時、資料を WebClass に掲載すること
第 13 回 (7/2)	研究発表 ・プレゼンテーション 各班ごとの発表-2 ・ディスカッション 次週、兵庫県で発表する班を 2 つ選び、全員で発表内容を推敲する。	発表班はプレゼンテーションの準備を行っておくこと 発表班以外のゼミ員は、各自質問事項をまとめておくこと
第 14 回 (7/9)	成果発表会（兵庫県災害対策センター<予定>） 兵庫県担当者に、後半の調査研究成果を発表し、フィードバックを受ける。 その後、災害対策センター見学	各自プレゼンテーション資料の再考を行うこと
第 15 回 (7/16)	まとめとふりかえり 各自から発表し、質疑応答を踏まえて全体成果を WC に投稿する。	各自が自らの総括を行い、反省点・改良点等をまとめておくこと

1.授業コード (ナンバリング)	SMN201-Y15	2.科目名	専門演習Ⅰ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科 (エントリーシートに基づく配置)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身につけることを目的とする。 具体的には①心理学的視点で社会問題について考察し、②それぞれの関心に基づいてキーワードを考え、③図書、論文を検索し、読み、④Hand out を作成し、⑤発表し、⑥話合うこと、⑦レポート・ライティングのスキル、⑧プレゼンテーション法を磨くことを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力、の学習に関連しています。 科目の学習目標は以下の通りです。 ①心理学的問題に関する図書を読み解くことができる。 ②自分の興味にそった社会問題をみつけ、心理学的視点で考察することができる。 ③課題についてレポートを作成し、発表できる。					
19.教科書・教材	榎本博明著 <自分らしさ>って何だろう？ (1 年次の WUL で使用した図書) ノートパソコンは毎回持参すること。					
20.参考文献	適宜、紹介します。					
21.成績評価	①テーマへのレポート・・・30 点 (学習目標①に対応) ②関心のあるテーマの図書・論文の hand out 作成と発表・・・30 点 (学習目標②に対応) ③レポート(中間と総括)・・・40 点 (学習目標③に対応)					
22.コメント	自分の力を信じて、進みましょう。わからないことは、いろいろな人に助けてもらいましょう。 授業内容の順は、変更になる場合があります。 生成 AI 利用： 無制限で認める。					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み、木曜日は三木キャンパス					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	ガイダンス (ゼミメンバー別授業の進め方) 自己紹介のワーク			PC, シラバス		
2	ナラティブ・メディスンとは			PC, Web Class にレポート報告 (6)		
3	図書の検索, 生成 AI の利用			PC, Web Class にレポート報告 (6)		
4	パート 1: ナラティブ・メディスン パート 2: 自分のことを見つめる			PC, Web Class にレポート報告 (6)		
5	パート 1: ナラティブ・メディスン パート 2: 自分のことを見つめる			PC, Web Class にレポート報告 (6)		
6	パート 1: ナラティブ・メディスン パート 2: 自分のことを見つめる			PC, Web Class にレポート報告 (6)		
7	5 月 16 日のウィークリーアワーの振替			PC, 事前に指示のあったもの		
8	前半のまとめ			PC, e-ポートフォリオ, Webclass にレポート提出 (20)		

9	パート1：文献検索 パート2：自分のことを見つめる	PC, Web Class にレポート報告 (5)
10	パート1：hand out 作成法 パート2：自分のことを見つめる	PC, Web Class にレポート報告 (5)
11	パート1：まとめてみよう (目的) パート2：自分のことを見つめる	PC, Web Class にレポート報告 (5)
12	パート1：まとめてみよう (方法・統計含む) パート2：自分のことを見つめる	PC, Web Class にレポート報告 (5)
13	パート1：まとめて見よう (結果・統計含む) パート2：自分のことを見つめる	PC, Web Class にレポート報告 (5)
14	パート1：まとめて見よう (考察) パート2：自分のことを見つめる	PC, Web Class にレポート報告 (5)
15	秋学期に向けて	PC, e-ポートフォリオと Web Class にレポート報告 (20)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y01	2.科目名	専門演習Ⅱ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	学科の学生で、本ゼミを指定された者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文作成と卒業後の進路確保のための準備を行う。 論文の準備として、テーマを考えたり絞り込んだりできるよう、様々な文献を読み、研究方法等を学ぶ。卒業後の進路のために、キャリアサポート室と連携しながら、就職活動で必要となるエントリーシートや業界、就職試験に必要な知識等を学ぶ。 【概要】 様々な研究を学ぶ：学生は GR で行った研究を要約し発表し再分析・討論して、研究としての体裁や内容を再検討する。各自が興味・関心のある研究分野や、GR で行った調査において他にどのような研究があるのか、個別にも調					
18.学習目標と DP との関連	DP (4)問題発見・解決力・・・卒論のテーマを探す過程において、各種研究を参考に問題発見や解決方法を知り、学ぶ (5) コミュニケーションスキル・・・グループワークや討論を通じて、円滑に「協働」するためのコミュニケーション力を磨く (6) 専門的知識・技能 の活用力・・・研究テーマを考えるための参考文献等から、理解・考察を深めていく過程で今まで学んだ知識等を利用する					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	プレゼンテーション：40% (20%×2 回) 最終レポート：40% Classwork : 20%					
22.コメント	PC またはタブレットを毎回使用します。 ＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー	月曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week1	科目の目標・進め方・評価方法などの説明 卒業後に向けてのスケジュール確認			ラーニングルートマップの修正 (30 分)		
Week2	キャリアガイダンス (1)					
Week3	研究の再分析 (1)：自分が作成したものではないレポートを読み、要約して発表する (発表は次回以降)			担当となったレポートについて、PPT の発表資料を作成する (120 分)		
Week4	研究の再分析 (2)：要約を発表する、質疑応答、発表			自分のレポートについて、修正点とその方法		

	者の要約が作者が意図したものか、正しく伝わっているのか、なぜ伝わらなかったのかを討論しながら考える	を考える（60分）
Week5	研究の再分析（3）：前回の続き	前回の続き(60分)
Week6	研究の再分析（4）：生成 AI も用いた要約の分析	リサーチの再構成：改善すべき点についてまとめる（60分）
Week7	研究の再構築（1）：各自の再構築案を発表し、検討する	
Week8	研究の再構築（2）：続き	
Week9	研究テーマの設定（1）：GR の経験も踏まえつつ、卒業研究として扱いたい分野やテーマについて考え、関連する研究を調べる	先行研究を探し、読む(120分)
Week10	研究テーマの設定（2）：先行研究について、5つをまとめる	先行研究を読み、要約する（120分）
Week11	先行研究と、各自のテーマについて発表	発表準備(120分)
Week12	先行研究と、各自のテーマについて発表（2）	
Week13	研究の構成を考える：目的、リサーチクエスション、方法 設定が適切か、これまでの学習を踏まえて確認する	
Week14	キャリアガイダンス（2）	最終課題(180分)
Week15	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y02	2.科目名	専門演習Ⅱ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	学科の学生で、片山ゼミを指定された者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文作成と卒業後の進路確保のための準備を行う。 論文の準備として、テーマを考えたり絞り込んだりできるよう、様々な文献を読み、研究方法等を学ぶ。卒業後の進路のために、キャリアサポート室と連携しながら、就職活動で必要となるエントリーシートや業界、就職試験に必要な知識等を学ぶ。 【概要】 様々な研究を学ぶ：学生は GR で行った研究を要約し発表し再分析・討論して、研究としての体裁や内容を再検討する。各自が興味・関心のある研究分野や、GR で行った調査において他にどのような研究があるのか、個別にも調					
18.学習目標と DPとの関連	DP (4)問題発見・解決力・・・卒論のテーマを探す過程において、各種研究を参考に問題発見や解決方法を知り、学ぶ (5) コミュニケーションスキル・・・グループワークや討論を通じて、円滑に「協働」するためのコミュニケーション力を磨く (6) 専門的知識・技能 の活用力・・・研究テーマを考えるための参考文献等から、理解・考察を深めていく過程で今まで学んだ知識等を利用する					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	プレゼンテーション：40% (20%×2 回) 最終レポート：40% Classwork : 20%					
22.コメント	PC またはタブレットを毎回使用します。 ＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 また最終課題ですべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー	月曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week1	科目の目標・進め方・評価方法などの説明 卒業後に向けてのスケジュール確認			ラーニングルートマップの修正 (30 分)		
Week2	キャリアガイダンス (1)					
Week3	研究の再分析 (1)：自分が作成したものではないレポートを読み、要約して発表する (発表は次回以降)			担当となったレポートについて、PPT の発表資料を作成する (120 分)		
Week4	研究の再分析 (2)：要約を発表する、質疑応答、発表			自分のレポートについて、修正点とその方法		

	者の要約が作者が意図したものか、正しく伝わっているのか、なぜ伝わらなかったのかを討論しながら考える	を考える (60 分)
Week5	研究の再分析 (3) : 前回の続き	前回の続き (60 分)
Week6	研究の再分析 (4) : 生成 AI も用いた要約の分析	リサーチの再構成 : 改善すべき点についてまとめる (60 分)
Week7	研究の再構築 (1) : 各自の再構築案を発表し、検討する	
Week8	研究の再構築 (2) : 続き	
Week9	研究テーマの設定 (1) : GR の経験も踏まえつつ、卒業研究として扱いたい分野やテーマについて考え、関連する研究を調べる	先行研究を探し、読む (120 分)
Week10	研究テーマの設定 (2) : 先行研究について、5 つをまとめる	先行研究を読み、要約する (120 分)
Week11	先行研究と、各自のテーマについて発表	発表準備 (120 分)
Week12	先行研究と、各自のテーマについて発表 (2)	
Week13	研究の構成を考える : 目的、リサーチクエスション、方法 設定が適切か、これまでの学習を踏まえて確認する	
Week14	キャリアガイダンス (2)	最終課題 (180 分)
Week15	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y03	2.科目名	専門演習Ⅱ (G コミ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川真理子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	学科の学生で、實川ゼミを指定された者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業論文作成と卒業後の進路確保のための準備を行う。 論文の準備として、テーマを考えたり絞り込んだりできるよう、様々な文献を読み、研究方法等を学ぶ。卒業後の進路のために、キャリアサポート室と連携しながら、就職活動で必要となるエントリーシートや業界、就職試験に必要な知識等を学ぶ。 【概要】 様々な研究を学ぶ：学生は GR で行った研究を要約し発表し再分析・討論して、研究としての体裁や内容を再検討する。各自が興味・関心のある研究分野や、GR で行った調査において他にどのような研究があるのか、個別にも調					
18.学習目標と D P との関連	DP (4)問題発見・解決力・・・卒論のテーマを探す過程において、各種研究を参考に問題発見や解決方法を知り、学ぶ (5) コミュニケーションスキル・・・グループワークや討論を通じて、円滑に「協働」するためのコミュニケーション力を磨く (6) 専門的知識・技能 の活用力・・・研究テーマを考えるための参考文献等から、理解・考察を深めていく過程で今まで学んだ知識等を利用する					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	プレゼンテーション：40% (20%×2 回) 最終レポート：40% Classwork : 20%					
22.コメント	PC またはタブレットを毎回使用します					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week1	科目の目標・進め方・評価方法などの説明 卒業後に向けてのスケジュール確認			ラーニングルートマップの修正 (30 分)		
Week2	キャリアガイダンス (1)					
Week3	研究の再分析 (1)：自分が作成したものではないレポートを読み、要約して発表する (発表は次回以降)			担当となったレポートについて、PPT の発表資料を作成する (120 分)		
Week4	研究の再分析 (2)：要約を発表する、質疑応答、発表者の要約が作者が意図したものか、正しく伝わっているのか、なぜ伝わらなかったのかを討論しながら考える			自分のレポートについて、修正点とその方法を考える (60 分)		
Week5	研究の再分析 (3)：前回の続き			前回の続き(60 分)		

Week6	研究の再分析（4）：生成 AI も用いた要約の分析	リサーチの再構成：改善すべき点についてまとめる（60 分）
Week7	研究の再構築（1）：各自の再構築案を発表し、検討する	
Week8	研究の再構築（2）：続き	
Week9	研究テーマの設定（1）：GR の経験も踏まえつつ、卒業研究として扱いたい分野やテーマについて考え、関連する研究を調べる	先行研究を探し、読む(120 分)
Week10	研究テーマの設定（2）：先行研究について、5 つをまとめる	先行研究を読み、要約する（120 分）
Week11	先行研究と、各自のテーマについて発表	発表準備(120 分)
Week12	先行研究と、各自のテーマについて発表（2）	
Week13	研究の構成を考える：目的、リサーチクエスション、方法 設定が適切か、これまでの学習を踏まえて確認する	
Week14	キャリアガイダンス（2）	最終課題(180 分)
Week15	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-A01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習Ⅰの履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をする事が多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワーク					
18.学習目標と DPとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（1）（企業家研究1：事前学習）：10% ・グループワーク（2）（企業家研究1：事後学習）：10% ・グループワーク（3）（企業家研究2：事前学習）：10% ・グループワーク（4）（企業家研究2：事後学習）：20% ・企業家研究1レポート：10% ・企業家研究2レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（eポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日・時					

	間に授業を実施する可能性がある。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日 2 限 センターオフィスアワー：月曜日 1 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノート P C 持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究 1（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究 1（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究 1（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。（実際の見学日はグループで決定します）	・別途指示
第 06 回	■企業家研究 1（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究 2（企業家研究 1 発表会） 企業家研究 1 のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究 2（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究 2（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究 2（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。（実際の見学日はグループで決定します）	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究 2（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究 2（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。（つづき）	・別途指示
第 13 回	■企業家研究 2（企業家研究 2 発表会） 企業家研究 2 のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終	ノート PC 持参

	課題と評価方法について説明します。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-A02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習Ⅰの履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をする事が多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワーク					
18.学習目標と DPとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下のDP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（1）（企業家研究1：事前学習）：10% ・グループワーク（2）（企業家研究1：事後学習）：10% ・グループワーク（3）（企業家研究2：事前学習）：10% ・グループワーク（4）（企業家研究2：事後学習）：20% ・企業家研究1レポート：10% ・企業家研究2レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（eポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日・時					

	間に授業を実施する可能性がある。 ※生成 AI の利用については、レポート、課題での使用は認めない。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日 5 限 センタープログラム：水曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノート P C 持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究 1（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究 1（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究 1（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。（実際の見学日はグループで決定します）	・別途指示
第 06 回	■企業家研究 1（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究 2（企業家研究 1 発表会） 企業家研究 1 のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究 2（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究 2（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究 2（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。（実際の見学日はグループで決定します）	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究 2（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究 2（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。（つづき）	・別途指示
第 13 回	■企業家研究 2（企業家研究 2 発表会） 企業家研究 2 のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップ I のガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り	ノート PC 持参

	科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-A03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習Ⅰの履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をするが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワーク					
18.学習目標と DPとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（1）（企業家研究1：事前学習）：10% ・グループワーク（2）（企業家研究1：事後学習）：10% ・グループワーク（3）（企業家研究2：事前学習）：10% ・グループワーク（4）（企業家研究2：事後学習）：20% ・企業家研究1 レポート：10% ・企業家研究2 レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日・時					

	間に授業を実施する可能性がある。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日 2 限 センターオフィスアワー：月曜日 1 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノート P C 持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究 1（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究 1（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究 1（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。（実際の見学日はグループで決定します）	・別途指示
第 06 回	■企業家研究 1（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究 2（企業家研究 1 発表会） 企業家研究 1 のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究 2（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究 2（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究 2（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。（実際の見学日はグループで決定します）	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究 2（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究 2（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。（つづき）	・別途指示
第 13 回	■企業家研究 2（企業家研究 2 発表会） 企業家研究 2 のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	ノート PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-A04	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習Ⅰの履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をするが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワーク					
18.学習目標と DPとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（1）（企業家研究1：事前学習）：10% ・グループワーク（2）（企業家研究1：事後学習）：10% ・グループワーク（3）（企業家研究2：事前学習）：10% ・グループワーク（4）（企業家研究2：事後学習）：20% ・企業家研究1 レポート：10% ・企業家研究2 レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・生成 AI 利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整					

	理の工夫に使いましょう。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日・時間に授業を実施する可能性がある。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 2 限 研究室オフィスアワー：月曜日 5 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノート P C 持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究 1（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究 1（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究 1（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。（実際の見学日はグループで決定します）	・別途指示
第 06 回	■企業家研究 1（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究 2（企業家研究 1 発表会） 企業家研究 1 のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究 2（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究 2（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究 2（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。（実際の見学日はグループで決定します）	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究 2（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究 2（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。（つづき）	・別途指示
第 13 回	■企業家研究 2（企業家研究 2 発表会） 企業家研究 2 のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンス	ノート PC 持参

	を実施します。	
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	ノート PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-A05	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習Ⅰの履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をするが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワーク					
18.学習目標と DPとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（1）（企業家研究1：事前学習）：10% ・グループワーク（2）（企業家研究1：事後学習）：10% ・グループワーク（3）（企業家研究2：事前学習）：10% ・グループワーク（4）（企業家研究2：事後学習）：20% ・企業家研究1 レポート：10% ・企業家研究2 レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10%					
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日・時					

	間に授業を実施する可能性がある。 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み（神戸山手キャンパス） センターオフィスアワー：木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノート P C 持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究 1（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究 1（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究 1（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。（実際の見学日はグループで決定します）	・別途指示
第 06 回	■企業家研究 1（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムでの学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究 2（企業家研究 1 発表会） 企業家研究 1 のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究 2（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究 2（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究 2（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。（実際の見学日はグループで決定します）	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究 2（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究 2（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。（つづき）	・別途指示
第 13 回	■企業家研究 2（企業家研究 2 発表会） 企業家研究 2 のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップ I のガイダンスを実施します。	ノート PC 持参
第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終	ノート PC 持参

	課題と評価方法について説明します。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-A06	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	プロジェクトマネジメント演習Ⅰの履修が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	グループワークと学外施設の見学による実習型授業のため、原則として「オンライン受講」は許可しない。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会では企業体や組織の中で人と関わりながら、グループやチームで仕事をするが多くなる。 また、有期で（期限が決められていて）、特定のミッション（特別な目的や目標）を与えられた「プロジェクト」に取り組むことが多くある。 そういったことを踏まえてこの授業では、「プロジェクトマネジメント」に必要な基本的スキルを身につける。 さらに、経営学の実践事例となる「企業家」の研究を通じて、経営学の基礎を再確認し理解を深める。 【概要】 ・文献等の調査や検索の基礎知識を身につける。 ・複数名によるグループワーク					
18.学習目標と DPとの関連	■本科目の学習目標 ①互いにコミュニケーションを取りながら、グループワークに積極的に取り組むことができる。 ②文献検索や実際の活動記録などを調査・分析し、課題発見力と解決力を身につける。 ③実在する企業経営者の活動や業績の分析を通じて、経営学の実践面を学ぶ。 ④計画的に行動し、活動を記録・報告する能力を身につける。 ■本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 （1）自律性 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	指定しない。必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・グループワーク（1）（企業家研究1：事前学習）：10% ・グループワーク（2）（企業家研究1：事後学習）：10% ・グループワーク（3）（企業家研究2：事前学習）：10% ・グループワーク（4）（企業家研究2：事後学習）：20% ・企業家研究1 レポート：10% ・企業家研究2 レポート：10% ・総括レポート：20% ・修学カルテ（e ポートフォリオ）：10% ① 生成 AI 利用に関して、■条件付きで認めます。AI 生成された内容のコピーは認められません。					

	② 成績評価に関わる課題・レポートについて、AI 生成	
22.コメント	・各回ともノートパソコンを必ず持参すること。 ・企業家研究では学外での活動を予定している。したがって通常の授業コマとは異なる曜日・時間に授業を実施する可能性がある。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日 2 限 センターオフィスアワー：月曜日 1 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01 回	ガイダンス ■ 授業の目的と進め方	ノート P C 持参
第 02 回	■メディア・ライブラリー実習 本学のメディア・ライブラリー活用のための実習をおこないます。	ノート PC 持参
第 03 回	■企業家研究 1（事前学習①） グループ編成を行い、企業家研究の進め方を学びます。	ノート PC 持参
第 04 回	■企業家研究 1（事前学習②） 大阪企業家ミュージアムの見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 05 回	■企業家研究 1（大阪企業家ミュージアム見学） 大阪企業家ミュージアムを実際に見学し、関西出身の企業家の活動や実績を学びます。（実際の見学日はグループで決定します）	・別途指示
第 06 回	■企業家研究 1（事後学習①） 大阪企業家ミュージアムの見学での学びをまとめます。	・ノート PC 持参
第 07 回	■企業家研究 2（企業家研究 1 発表会） 企業家研究 1 のまとめを発表します。	・ノート PC 持参
第 08 回	■企業家研究 2（事前学習①） 特定の企業家（経営者）を選定し、調査分析を行います。	・ノート PC 持参
第 09 回	■企業家研究 2（事前学習②） その企業家に関連する企業博物館の見学計画書を作成します。	・ノート PC 持参
第 10 回	■企業家研究 2（企業博物館見学） その企業家の企業博物館を実際に見学します。（実際の見学日はグループで決定します）	ノート PC 持参
第 11 回	■企業家研究 2（事後学習①） その企業家の調査研究結果をまとめます。	・ノート PC 持参
第 12 回	■企業家研究 2（事後学習②） その企業家の調査研究結果をまとめます。（つづき）	・別途指示
第 13 回	■企業家研究 2（企業家研究 2 発表会） 企業家研究 2 のまとめを発表します。	ノート PC 持参
第 14 回	■インターンシップガイダンス 夏学期に実施するインターンシップⅠのガイダンスを実施します。	ノート PC 持参

第 15 回	■総括と振り返り 科目全体の総括と振り返りを行います。また、最終課題と評価方法について説明します。	ノート PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-M01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	地域防災減災論の受講を推奨		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたクラスにて履修すること					
17.授業の目的と概要	この授業では、実際のプロジェクトマネジメントに取り組む。 社会においてはチームで仕事をする機会も多く、与えられた条件の中で、決められた期限に、一定の成果を出していくことが求められる。このような「プロジェクト」をマネジメントするために必要なスキルを身につける。 ①プロジェクトマネジメントの基礎知識と、成果をあげるための計画立案と実施・評価・改善のための基本的なスキルを身につける。 ②三木市避難所運営サポーターに必要な以下の資質を身につけ、三木市長の委嘱を受ける準備を行う ・防災士資格の取得（別途地域防災減災論					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標① プロジェクトマネジメントに関する知識と技術を身につける 学習目標② 避難所運営に必要な知識と技術を修得する（定義、役割、応急手当手法） 学習目標③ 学園祭の企画立案ができる 学習目標④ インターンシップ参加への準備が整う（マナー、受け入れ先業務への理解等） 学修目標⑤ 探究に必要な文献を選び読み、条件を満たした文章作成ができる					
19.教科書・教材	『コンテナ物語』世界を変えたのは「箱」の発明だった，マルク・レビンソン 著，2019，日経BP ISBN:978-4822289935 ＊グループごとに担当章を決め、読み込んで発表します。図書はゼミとして準備します。					
20.参考文献						
21.成績評価	成績は、WebClas、eポートフォリオなどの提出データで評価します。 学習目標①チームでプロジェクトを実施するために必要な条件を説明できる 20% 学習目標②避難所運営に必要な知識、スキルを身につけている 10% 学習目標③地域で実施するプロジェクトの企画立案ができる 20% 学習目標④インターンシップに行く準備が整う 10% 学習目標⑤指定したテーマで 2000 字のレポートを作成できる 40%					
22.コメント	生成 AI の利用■条件付きで認める レポート等について、生成 AI 等の活用は許容範囲だが、最終的には執筆者としての責任を追うべきことを肝に銘じ、内容の見直しは自ら行うこと					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー月曜日 4 限 みさお館 2 階 研究室オフィスアワー木曜日 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4/14	◆オリエンテーション 授業の目的と進め方 ・ゼミ長、副ゼミ長とゼミルールの決定 ・授業内容の説明（テーマ、資料） ◆ゼミ活動 ・グループ分け（5 名以内）			ノートパソコン必携（全回共通）		

	・4/22 炊き出し訓練の役割分担 ・発表スケジュールの作成 ・面談スケジュールの作成	
第 2 回 4/21	◆課題図書 ・「まえがき」を読む ・第 1 章の解説 ・担当章の決定 ◆プロジェクト ・炊き出し訓練計画の作成	課題成果物の web クラスへの提出
第 3 回 4/28	◆プロジェクト ・炊き出し訓練の実施 ・ふりかえり	役割に応じた準備
第 4 回 5/12	< 共通プログラム > 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・到達確認試験について ・経験学習について（インターンシップ、グローバルスタディ、サービ斯拉ーニング） ・避難所運営プロジェクト、秋学期のゼミ活動（予告）	ワークシートの提出
第 5 回 5/19	◆プロジェクト ・避難所運営プロジェクト計画の立案 ◆課題図書 ・第 2 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆各自 10 分講義の計画と調整	課題成果物の web クラスへの提出
第 6 回 5/26	◆プロジェクト ・避難所運営プロジェクト計画書の提出 ◆課題図書 ・第 3 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・①②の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 7 回 6/2	< 共通プログラム > 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・避難所運営プロジェクト計画（ゼミ企画の全体調整） ・避難所運営サポーターについて	web クラスに計画書を提出
第 8 回 6/9	◆課題図書 ・第 4、5 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・③④⑤の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 9 回	◆課題図書	課題成果物の web クラスへの提出

6/16	・第 6、7 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・⑥⑦⑧の実施 ・相互コメント	
第 10 回 6/23	◆課題図書 ・第 8、9 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・⑨⑩⑪の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入 課題成果物の web クラスへの提出
第 11 回 6/30	◆課題図書 ・第 10、11 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・⑫⑬⑭の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入・ 修正 課題成果物の web クラスへの提出
第 12 回 7/7	◆課題図書 ・経営基礎科目との関連についての考察 ・課題に関する説明 ◆10 分講義 ・⑮⑯⑰の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 13 回 7/14	◆DX① ・ドローンと地域資源の活用（広報、地域産業・地域課題、防災） ・航空法 ◆10 分講義 ・⑱⑲⑳の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 14 回 7/21 【平常授業】	◆DX② ・ドローン操作体験 ・その他の DX（多言語翻訳ツール等） ◆10 分講義 ・??の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 15 回 7/28	◆課題図書 ・課題の確認 ◆ふりかえりと夏・秋学期の学びについて	E ポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-M02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	地域防災減災論の受講を推奨		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたクラスにて履修すること					
17.授業の目的と概要	この授業では、実際のプロジェクトマネジメントに取り組む。 社会においてはチームで仕事をする機会も多く、与えられた条件の中で、決められた期限に、一定の成果を出していくことが求められる。このような「プロジェクト」をマネジメントするために必要なスキルを身につける。 ①プロジェクトマネジメントの基礎知識と、成果をあげるための計画立案と実施・評価・改善のための基本的なスキルを身につける。 ②三木市避難所運営サポーターに必要な以下の資質を身につけ、三木市長の委嘱を受ける準備を行う ・防災士資格の取得（別途地域防災減災論					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標① プロジェクトマネジメントに関する知識と技術を身につける 学習目標② 避難所運営に必要な知識と技術を修得する（定義、役割、応急手当手法） 学習目標③ 学園祭の企画立案ができる 学習目標④ インターンシップ参加への準備が整う（マナー、受け入れ先業務への理解等） 学修目標⑤ 探究に必要な文献を選び読み、条件を満たした文章作成ができる					
19.教科書・教材	『コンテナ物語』世界を変えたのは「箱」の発明だった，マルク・レビンソン 著，2019，日経BP ISBN:978-4822289935 ＊グループごとに担当章を決め、読み込んで発表します。図書はゼミとして準備します。					
20.参考文献						
21.成績評価	成績は、WebClas、eポートフォリオなどの提出データで評価します。 学習目標①チームでプロジェクトを実施するために必要な条件を説明できる 20% 学習目標②避難所運営に必要な知識、スキルを身につけている 10% 学習目標③地域で実施するプロジェクトの企画立案ができる 20% 学習目標④インターンシップに行く準備が整う 10% 学習目標⑤指定したテーマで 2000 字のレポートを作成できる 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜日昼休み @研究室 セータープログラム「ドローン体験」 金曜日 2 限 @水埚館 2 階他					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4/14	◆オリエンテーション 授業の目的と進め方 ・ゼミ長、副ゼミ長とゼミルールの決定 ・授業内容の説明（テーマ、資料） ◆ゼミ活動 ・グループ分け（5 名以内） ・4/22 炊き出し訓練の役割分担 ・発表スケジュールの作成 ・面談スケジュールの作成			ノートパソコン必携（全回共通）		

第 2 回 4/21	◆課題図書 ・「まえがき」を読む ・第 1 章の解説 ・担当章の決定 ◆プロジェクト ・炊き出し訓練計画の作成	課題成果物の web クラスへの提出
第 3 回 4/28	◆プロジェクト ・炊き出し訓練の実施 ・ふりかえり	役割に応じた準備
第 4 回 5/12	<共通プログラム> 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・到達確認試験について ・経験学習について（インターンシップ、グローバルスタディ、サービスマーケティング） ・避難所運営プロジェクト、秋学期のゼミ活動（予告）	ワークシートの提出
第 5 回 5/19	◆プロジェクト ・避難所運営プロジェクト計画の立案 ◆課題図書 ・第 2 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆各自 10 分講義の計画と調整	課題成果物の web クラスへの提出
第 6 回 5/26	◆プロジェクト ・避難所運営プロジェクト計画書の提出 ◆課題図書 ・第 3 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・①②の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 7 回 6/2	<共通プログラム> 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・避難所運営プロジェクト計画（ゼミ企画の全体調整） ・避難所運営サポーターについて	web クラスに計画書を提出
第 8 回 6/9	◆課題図書 ・第 4、5 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・③④⑤の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 9 回 6/16	◆課題図書 ・第 6、7 章の発表 ・意見交換 ・小レポート	課題成果物の web クラスへの提出

	◆10分講義 ・⑥⑦⑧の実施 ・相互コメント	
第10回 6/23	◆課題図書 ・第8、9章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10分講義 ・⑨⑩⑪の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入 課題成果物のwebクラスへの提出
第11回 6/30	◆課題図書 ・第10、11章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10分講義 ・⑫⑬⑭の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入・ 修正 課題成果物のwebクラスへの提出
第12回 7/7	◆課題図書 ・経営基礎科目との関連についての考察 ・課題に関する説明 ◆10分講義 ・⑮⑯⑰の実施 ・相互コメント	課題成果物のwebクラスへの提出
第13回 7/14	◆DX① ・ドローンと地域資源の活用（広報、地域産業・地域課題、防災） ・航空法 ◆10分講義 ・⑱⑲⑳の実施 ・相互コメント	課題成果物のwebクラスへの提出
第14回 7/21【平常授業】	◆DX② ・ドローン操作体験 ・その他のDX（多言語翻訳ツール等） ◆10分講義 ・??の実施 ・相互コメント	課題成果物のwebクラスへの提出
第15回 7/28	◆課題図書 ・課題の確認 ◆ふりかえりと夏・秋学期の学びについて	Eポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-M03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会にでると会社や組織で人と関わりながら仕事をしますが、特にチームで仕事をするのが多くなります。また、ルーティンワークとは別に、有期で（期限が決められていて）、ミッション（特別な目的）を与えられたプロジェクトに取り組むこともあります。この授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的スキルを身につけます。 【概要】 以下の３つのプロジェクトを推進する。 ・ あじあん祭をマネジメントする「カンパニープロジェクト（物産展）」として参画する。 ・ 地元企業について知り、将来のキャリアプランを立てる。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 次の３つです。 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。 【DP：卒業の認定に関する方針】 ○問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 ○コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 ○専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配付します。					
20.参考文献	授業中に紹介します。					
21.成績評価	成績は、WebClas、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 ・ 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 30% ・ 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。20% ・ 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。30% ・ 総括レポート：秋学期の学びを統合化する 20%					
22.コメント	プロジェクトマネジメントは、チームワークとスケジュール管理が重要です。遊んでいる学生がいないように全員が前向きに参加することを前提とします。 地域と連携する機会に積極的に参加し、実践的な教育活動の成果とします。 なお、外部講師、学外活動のスケジュールにより、内容を変更することがあります。 生成 AI の使用を認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 木曜日 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム） 木曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回2回 (10/3)	Ⅰ ガイダンス、履修登録等 Ⅱ プロジェクトマネジメント演習Ⅲ（地域マネジメント専攻）の構成とコンセプト	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
3回4回 (10/10)	大学祭の意義、大学祭での地域マネジメントの学びを理解し、10月28日29日のあじあん祭に向けて、準備を始める。	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
5回6回 (10/17)	あじあん祭準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
7回8回 (10/24)	あじあん祭準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
9回10回 (10/28・29)	あじあん祭を運営する。【代休：10/31】	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
11回12回 (11/7)	あじあん祭ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
13回14回 (11/14)	Ⅰ 企業説明会事前学習 Ⅱ 大和ハウス工業 講話	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
15回16回 (11/21)	企業説明会	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：以下、各回共通＞
17回18回 (11/28)	Ⅰ 企業説明会ふりかえり Ⅱ 三木市危機管理課 講話	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
19回20回 (12/5)	Ⅰ 到達確認試験の準備① Ⅱ ナリス化粧品事前学習	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
21回22回 (12/12)	ナリス化粧品企業資料館 見学	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞

		まで：各回共通＞
23 回 24 回 (12/19)	ナリス化粧品 ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞
25 回 26 回 (1/16)	アスリートのセカンドキャリア	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞
27 回 28 回 (1/23)	到達確認試験の準備②③ 模擬試験	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞
29 回 30 回 (1/30)	Ⅰ 到達確認試験の準備④ Ⅱ 2 年生のふりかえり～3 年生に向けて	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-M04	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	地域防災減災論の受講を推奨		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたクラスにて履修すること					
17.授業の目的と概要	この授業では、実際のプロジェクトマネジメントに取り組む。 社会においてはチームで仕事をする機会も多く、与えられた条件の中で、決められた期限に、一定の成果を出していくことが求められる。このような「プロジェクト」をマネジメントするために必要なスキルを身につける。 ①プロジェクトマネジメントの基礎知識と、成果をあげるための計画立案と実施・評価・改善のための基本的なスキルを身につける。 ②三木市避難所運営サポーターに必要な以下の資質を身につけ、三木市長の委嘱を受ける準備を行う ・防災士資格の取得（別途地域防災減災論					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標① プロジェクトマネジメントに関する知識と技術を身につける 学習目標② 避難所運営に必要な知識と技術を修得する（定義、役割、応急手当手法） 学習目標③ 学園祭の企画立案ができる 学習目標④ インターンシップ参加への準備が整う（マナー、受け入れ先業務への理解等） 学修目標⑤ 探究に必要な文献を選び読み、条件を満たした文章作成ができる					
19.教科書・教材	『コンテナ物語』世界を変えたのは「箱」の発明だった，マルク・レビンソン 著，2019，日経BP ISBN:978-4822289935 ＊グループごとに担当章を決め、読み込んで発表します。図書はゼミとして準備します。					
20.参考文献						
21.成績評価	成績は、WebClas、eポートフォリオなどの提出データで評価します。 学習目標①チームでプロジェクトを実施するために必要な条件を説明できる 20% 学習目標②避難所運営に必要な知識、スキルを身につけている 10% 学習目標③地域で実施するプロジェクトの企画立案ができる 20% 学習目標④インターンシップに行く準備が整う 10% 学習目標⑤指定したテーマで 2000 字のレポートを作成できる 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜日昼休み @研究室 セータープログラム「ドローン体験」 金曜日 2 限 @水埚館 2 階他					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4/14	◆オリエンテーション 授業の目的と進め方 ・ゼミ長、副ゼミ長とゼミルールの決定 ・授業内容の説明（テーマ、資料） ◆ゼミ活動 ・グループ分け（5 名以内） ・4/22 炊き出し訓練の役割分担 ・発表スケジュールの作成 ・面談スケジュールの作成			ノートパソコン必携（全回共通）		

第 2 回 4/21	◆課題図書 ・「まえがき」を読む ・第 1 章の解説 ・担当章の決定 ◆プロジェクト ・炊き出し訓練計画の作成	課題成果物の web クラスへの提出
第 3 回 4/28	◆プロジェクト ・炊き出し訓練の実施 ・ふりかえり	役割に応じた準備
第 4 回 5/12	<共通プログラム> 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・到達確認試験について ・経験学習について（インターンシップ、グローバルスタディ、サービスマーケティング） ・避難所運営プロジェクト、秋学期のゼミ活動（予告）	ワークシートの提出
第 5 回 5/19	◆プロジェクト ・避難所運営プロジェクト計画の立案 ◆課題図書 ・第 2 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆各自 10 分講義の計画と調整	課題成果物の web クラスへの提出
第 6 回 5/26	◆プロジェクト ・避難所運営プロジェクト計画書の提出 ◆課題図書 ・第 3 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・①②の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 7 回 6/2	<共通プログラム> 2 年生の学びやキャリア形成に関する諸説明 ・避難所運営プロジェクト計画（ゼミ企画の全体調整） ・避難所運営サポーターについて	web クラスに計画書を提出
第 8 回 6/9	◆課題図書 ・第 4、5 章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10 分講義 ・③④⑤の実施 ・相互コメント	課題成果物の web クラスへの提出
第 9 回 6/16	◆課題図書 ・第 6、7 章の発表 ・意見交換 ・小レポート	課題成果物の web クラスへの提出

	◆10分講義 ・⑥⑦⑧の実施 ・相互コメント	
第10回 6/23	◆課題図書 ・第8、9章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10分講義 ・⑨⑩⑪の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入 課題成果物のwebクラスへの提出
第11回 6/30	◆課題図書 ・第10、11章の発表 ・意見交換 ・小レポート ◆10分講義 ・⑫⑬⑭の実施 ・相互コメント	インターンシップエントリーシートの記入・ 修正 課題成果物のwebクラスへの提出
第12回 7/7	◆課題図書 ・経営基礎科目との関連についての考察 ・課題に関する説明 ◆10分講義 ・⑮⑯⑰の実施 ・相互コメント	課題成果物のwebクラスへの提出
第13回 7/14	◆DX① ・ドローンと地域資源の活用（広報、地域産業・地域課題、防災） ・航空法 ◆10分講義 ・⑱⑲⑳の実施 ・相互コメント	課題成果物のwebクラスへの提出
第14回 7/21【平常授業】	◆DX② ・ドローン操作体験 ・その他のDX（多言語翻訳ツール等） ◆10分講義 ・??の実施 ・相互コメント	課題成果物のwebクラスへの提出
第15回 7/28	◆課題図書 ・課題の確認 ◆ふりかえりと夏・秋学期の学びについて	Eポートフォリオへの記事投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-A01	2.科目名	専門演習Ⅲ（教育福祉 1/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティ（LC）を効果的に活					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	ゼミ内で適宜提示する。					
21.成績評価	・e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・中間レポート(15%×2 回) ...30% ・最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	〇いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 〇コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！ 〇生成 AI の活用は条件付きで認めます。なお、課題作成にあたって、生成 AI の答えを（ある程度）そのまま書いてしまうと盗作とみなされることになりますので、注意しましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ゼミスタート活動 ・ゼミ方針策定 ・アドバイザーの指導方針の説明			◆ノートパソコン◆ 〇e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		

	・ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等	
【第2回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料を集める(180 分)
【第3回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第4回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通じた体験や課題の共有化 ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第5回】	就職ガイダンス(合同)	○ガイダンスのまとめとしてeポートフォリオに感想や考えを入れる(180分)
【第6回】	文献収集・情報整理② ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○中間レポートその①の作成 (270 分)
【第7回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第8回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第9回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○中間レポートその②の作成(270 分)
【第10回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆持参◆ ★中間レポートその② ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○最終レポートの作成 (270 分)
【第11回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第12回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第13回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第14回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答	◆ノートパソコン◆ ○研究発表の質疑を踏まえて、最終レポート

	・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	の仕上げ（270 分）
【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から） 春学期まとめと秋学期に向けて	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-A02	2.科目名	専門演習Ⅲ（教育福祉 2/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティ（LC）を効果的に活					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	ゼミ内で適宜提示する。					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 中間レポート(15%×2 回) ...30% ・ 最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	〇いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 〇コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ ゼミスタート活動 ・ ゼミ方針策定 ・ アドバイザーの指導方針の説明 ・ ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等			◆ノートパソコン◆ 〇e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	研究テーマの設定			〇本時で学んだ学習スキルを活用して、資料		

	・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通じた体験や課題の共有化 ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	○ガイダンスのまとめとして e ポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○中間レポートその①の作成 (270 分)
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○最終レポートの作成 (270 分)
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ (270 分)

【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・ 研究発表と質疑応答 ・ 相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から） 春学期まとめと秋学期に向けて	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-A03	2.科目名	専門演習Ⅲ（教育福祉 3/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティ（LC）を効果的に活					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	ゼミ内で適宜提示する。					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 中間レポート(15%×2 回) ...30% ・ 最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	〇いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 〇コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ ゼミスタート活動 ・ ゼミ方針策定 ・ アドバイザーの指導方針の説明 ・ ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等			◆ノートパソコン◆ 〇e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	研究テーマの設定			〇本時で学んだ学習スキルを活用して、資料		

	・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通じた体験や課題の共有化 ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	○ガイダンスのまとめとして e ポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○中間レポートその①の作成 (270 分)
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○最終レポートの作成 (270 分)
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ (270 分)

【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・ 研究発表と質疑応答 ・ 相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から） 春学期まとめと秋学期に向けて	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-A04	2.科目名	専門演習Ⅲ（教育福祉 4/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティ（LC）を効果的に活					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	ゼミ内で適宜提示する。					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 中間レポート(15%×2 回) ...30% ・ 最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	〇いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 〇コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ ゼミスタート活動 ・ ゼミ方針策定 ・ アドバイザーの指導方針の説明 ・ ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等			◆ノートパソコン◆ 〇e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	研究テーマの設定			〇本時で学んだ学習スキルを活用して、資料		

	・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	を集める(180 分)
【第 3 回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 4 回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通じた体験や課題の共有化 ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 5 回】	就職ガイダンス(合同)	○ガイダンスのまとめとして e ポートフォリオに感想や考えを入れる(180 分)
【第 6 回】	文献収集・情報整理② ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○中間レポートその①の作成 (270 分)
【第 7 回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 8 回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分)
【第 9 回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○中間レポートその②の作成(270 分)
【第 10 回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理 (180 分) ○最終レポートの作成 (270 分)
【第 11 回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 12 回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 13 回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第 14 回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ (270 分)

【第 15 回】	ゼミ内発表③ ・ 研究発表と質疑応答 ・ 相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から） 春学期まとめと秋学期に向けて	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-A05	2.科目名	専門演習Ⅲ（教育福祉 5/5）		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、卒業研究に向けた準備として、「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、卒業論文作成に発展できるよう、各自が研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 人々の安全・安心な暮らしを阻害する可能性のある格差、貧困、排除、孤立など現代の社会問題とそれを生み出すメカニズムに問題意識をもちながら、尼崎市と協働して地域の安全安心に関連する活動に参加します。そこで得られた具体的な体験を起点として、共通テーマをもとに、					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①テーマに関連する先行研究を収集し要約できる ②学外の具体的体験からテーマに関連する具体的事象を抽出できる ③学外の具体的体験から研究上の問いを設定できる ④問いに対する最適な研究方法を選択できる					
19.教科書・教材	資料を適宜配付します。					
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第3版」、慶應義塾大学出版 ■作文技術、文章の書き方 白井利明・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書					
21.成績評価	課題 a「地域住民のニーズを明らかにする」40％ （学習目標①②③④に関連） 課題 b「活動記録を適切に書くことができる」30％ （学習目標①②③④に関連） 課題 c「活動で得られた情報を深める文献研究に取り組む」30％ （学習目標①②③④に関連）					
22.コメント	夏休み期間中に自治会や民生児童委員と連携した活動に取り組みます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファ			※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 ○課題について情報収集しておく（180）		

	イルに添付していつでも参照できるようにしておくこと)。	
【第2回】	課題aに関するリサーチとブレインストーミング① ・昨年度（専門演習Ⅰ・Ⅱ）の振り返りとその共有 ・課題a（地域のニーズを明らかにする）に対するアプローチ方法の検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第3回】	課題aに関するリサーチとブレインストーミング② ・課題a（地域のニーズを明らかにする）に対するアプローチ方法の検討 ・個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第4回】	活動計画の立案（課題aを踏まえて） ・地域活動と情報収集の準備 ・調査（アンケート、インタビュー）の準備	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第5回】	活動計画の立案（課題aを踏まえて） ・地域活動と情報収集の準備 ・調査（アンケート、インタビュー）の準備 ・活動計画の発表と提出	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第6回】	高齢者・障害者・児童等の地域活動に参加し、活動先の方々にアンケートやインタビュー ・課題b活動記録の記入	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第7回】	・高齢者・障害者・児童等の地域活動に参加し、活動先の方々にアンケートやインタビュー ・課題b 活動記録の記入	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第8回】	高齢者・障害者・児童等の地域活動に参加し、活動先の方々にアンケートやインタビュー ・課題b 活動記録の記入	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第9回】	高齢者・障害者・児童等の地域活動に参加し、活動先の方々にアンケートやインタビュー ・課題b 活動記録の記入	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第10回】	〇ふりかえりと評価 ・地域活動と情報の整理（活動記録等） ・調査の分析 ・グループディスカッション ・考察	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第11回】	〇ふりかえりと評価 ・地域活動と情報の整理（活動記録等） ・調査の分析 ・グループディスカッション ・考察	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第12回】	〇ふりかえりと評価 ・これまでの活動の中から、各自が興味のある内容について、文献研究	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第13回】	〇ふりかえりと評価 ・これまでの活動の中から、各自が興味のある内容について、文献研究	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）

【第 14 回】	○ふりかえりと評価 ・ 報告会準備	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
【第 15 回】	活動報告会 ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y02	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。 【概要】具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性，課題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献	随時配布する					
21.成績評価	・ 各自の興味と関連する論文の要約と紹介：10％ 【学習目標①②に対応】 ・ 分析方法に関する発表：20％ 【学習目標④に対応】 ・ 個人の研究テーマに関する発表：20％ 【学習目標①②③④に対応】 ・ 卒業研究構想発表：30％ 【学習目標①②③④に対応】 ・ 各発表における質疑応答：10％ 【学習目標②に対応】 ・ その他（e ポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成等）：10％ 【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	この演習は秋の専門演習Ⅳと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとも重要なものです。 ① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める（得た情報等が正しいのか、元の情報源を見つける等必要） ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えが大半を占めている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容，進			持参物：ノートパソコン		

	め方について説明する。	課題：自己紹介，ゼミ気に対することを400字eポートフォリオにアップする。(120分)
2	論文の読み方，探し方 論文とは何なのかについて学び，論文を探すスキルを身につける。	持参物：ノートパソコン 課題：論文を検索し，その内容の要約を書く
3	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」	課題：自身のキャリアに関するレポート
4	論文の要約と内容の検討 自分が関心の持てる論文を探し，その内容についてしっかりと検討し，要約し蓄積することができるようになる。 ◎論文要約発表	持参物：ノートパソコン 学習：各自で興味のある分野の論文を検索し要約し蓄積する。
5	テーマ決め，鍵概念 テーマの決め方について理解し，各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め，発表準備を行う。 ◎論文要約発表	学習：次回までにどのような研究ができそうか，候補テーマについて情報を収集する。 (240分)
6	仮説の立て方と検証 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。 ◎論文要約発表	学習：各自のテーマ候補について紹介準備をする。(240分)
7	テーマ発表と質疑応答 このテーマを選んだ理由，仮説，検証方法についての構想について各自発表する。それに対して質疑応答を行う。 ◎テーマ発表	持参物：ノートパソコン 課題：テーマ発表に対する感想レポート 課題：今後の計画について
8	分析方法の検討 統計，分析の方法について分担して調査を行う ◎論文要約発表	学習：統計に関する発表の準備をグループで行う。
9	研究計画について 研究計画の立て方，立てる意味について考える。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240分)
10	研究テーマ，研究計画の検討 リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究について検討する ◎論文要約発表	学習：担当する分析方法について調べてまとめる
11	分析方法の発表 各グループで分析方法について発表する。 ◎分析方法発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240分)
12	研究の構想 研究の構想に必要な情報について各自で検討する。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240分)
13	構想発表1 各自で研究の構想を発表し，それに対して質疑応答	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通し

	を行う。	について構想を練る。(240 分)
14	構想発表 1 各自で研究の構想を発表し、それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成し提出する。また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	持参物：ノートパソコン 課題：今学期を振り返り、自己 PR を e-ポートフォリオに記載する。 課題：現時点での卒論の構想をレポートとしてまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y03	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ?興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献	随時配布する					
21.成績評価	・ 個人の研究テーマに関する発表：30％ 【学習目標①②③に対応】 ・ 学期末 卒業研究構想レポート：40％ 【学習目標①②③に対応】 ・ 各発表における質疑応答：20％ 【学習目標②に対応】 ・ e ポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成：10％ （キャリアデザイン 5％＋学期・科目の振り返り 5％） 【学習目標④に対応】					
22.コメント	この演習は秋の専門演習Ⅳと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとも重要なものです。					
23.オフィスアワー	水曜 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容，進め方について説明する。			◆ノートパソコン◆ ○課題 自己紹介（エピソードを含むこと） 400 字 e ポートフォリオにアップする。(120 分) ○課題 次回までに各人が興味・関心を持てる問題について書き出す。(120 分)		
2	問題の探索 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、整理統合の上で複数候補を挙げる。			◎課題 どのような研究ができそうか、候補テーマについて情報収集の仕方について調べておく。(240 分)		

3	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」	アサインメント：自身のキャリアに関するレポート
4	問題の探索（続き） 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う	◎課題 どのような研究ができそうか、候補テーマについて情報収集の仕方について調べておく。(240 分)
5	問題の探索（続き） 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。	◎課題 次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。(240 分)
6	問題の絞り込み 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。	◎課題 各自の候補テーマについて紹介準備をする。(240 分)
7	各自の興味と関連する論文の紹介（1） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
8	各自の興味と関連する論文の紹介（2） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
9	各自の興味と関連する論文の紹介（3） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
10	各自の興味と関連する論文の紹介（4） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
11	各自の興味と関連する論文の紹介（5） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
12	各自の興味と関連する論文の紹介（6） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
13	各自の興味と関連する論文の紹介（7） リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究を紹介する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
14	レポート作成の説明 これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成する	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)

15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り，現時点での研究の目的や計画，見通し等についてレポートを作成し提出する。また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	◆ノートパソコン利用◆ ◎課題 今学期を振り返り、卒業研究の見通しについて考える。(240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y04	2.科目名	専門演習Ⅲ (心理)	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：卒業研究に向けて、テーマ設定のための必要な基礎知識と技能を身に付けることを目的とします。また就職活動に向けて具体的な準備を進めます。 概要：研究テーマの選び方と資料の探し方を会得し、テーマに沿った先行論文等を要約します。 また就職活動に向けて基本となる自己PR文のモデルを作成します。面接練習を行うとともに本番に向けた想定問答を作成します。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①研究テーマに関する文献・情報収集力を高め、要約する力をつける。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③研究に必要な専門的知識を身に付けることができるようになる。 ④就職活の準備をすることで質疑に対する応答力を醸成し、コミュニケーションスキルを高めることができるようになる。 ⑤自らプランを立て、検討を加えながら実践する力を身に付ける。				
19.教科書・教材	特にありません。				
20.参考文献	随時配布します。				
21.成績評価	・ 卒業研究の研究テーマに関するレポート 2 回：40%（各 20%） 【学習目標①②③に対応】 ・ 先行論文の要約：30% 【学習目標①②③に対応】 ・ キャリア教育に関する課題（レポート）：10% 【学習目標④⑤に対応】 ・ 自己PR文・面接想定問答の作成：10% 【学習目標④に対応】 ・ 学習ポートフォリオへの記入：10% 【学習目標⑤に対応】				
22.コメント	卒業研究のテーマ設定と就職活動に向け、計画的に進めましょう。 ※ 生成AIの利用:条件付きで認めるが、レポート・論文や課題資料の作成では使用不可とする。 ・ 条件1:情報の真偽を確認すること。 ・ 条件2:個人情報の入力禁止を遵守し、出力情報の著作権侵害に留意すること。 ・ 条件3:AI活用の更新情報の収集と理解に努めること。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容、進め方についての説明 自己紹介（エピソードを含める）	毎回ノートパソコンを持参すること
第 2 回	論文作成の知識を持つ① ・論文の型とテーマづくり ・情報検索	関心・興味がありテーマとなりそうな事項（事件等）を考える
第 3 回	論文作成の知識を持つ② ・論文の型とテーマづくり ・情報検索	関心・興味がありテーマとなりそうな事項（事件等）を考える
第 4 回	論文作成の知識を持つ③ ・組立、執筆、点検	課題テーマに沿った資料を考える
第 5 回	リクルートによるキャリアガイダンス 5 月 14 日評価と実践（火曜日 2 限）にゼミの振替として実施	将来の職業について具体的に考えるをまとめる
第 6 回	面接練習（就活に向けて） ・模擬面接 ・想定問答の作成（30 問）	想定問答を作成する
第 7 回	研究テーマに関する調査① ・各自の関心や興味を抱く問題・課題について探求し、研究テーマを設定する ※ テーマについては、文献、先行論文の調査結果に基づき順次絞り込む ・調査した文献、先行論文について文献リストを更新する	文献リストの順次作成
第 8 回	研究テーマに関する調査？ ・各自の関心や興味を抱く問題・課題について探求し、研究テーマを設定する ※ テーマについては、文献、先行論文の調査結果に基づき順次絞り込む ・調査した文献、先行論文について文献リストを更新する	文献リストの順次作成
第 9 回	文献・先行論文の読み込み① ・要約	要約の作成
第 10 回	文献・先行論文の読み込み② ・要約	要約の作成
第 11 回	文献・先行論文の読み込み③ ・要約	要約の作成
第 12 回	自己 PR 文の作成 ・複数パターンの文章作成（400 文字・800 文字）	2 パターンの文章作成
第 13 回	研究テーマに関する発表 ・ワード、パワーポイント等により各自発表を行う	資料及び質疑の作成
第 14 回	研究テーマに関する発表 ・ワード、パワーポイント等により各自発表を行う	資料及び質疑の作成
第 15 回	研究テーマに関するレポート作成	課題レポートの作成・提出

	・現時点での研究テーマ、文献リストをレポートにまとめる ・今学期の振り返り ・学修ポートフォリオの点検・作成	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y05	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。 【概要】具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性，問題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献	随時配布する					
21.成績評価	・ 各自の興味と関連する論文の要約と紹介：10％ 【学習目標①②に対応】 ・ 分析方法に関する発表：20％ 【学習目標④に対応】 ・ 個人の研究テーマに関する発表：20％ 【学習目標①②③④に対応】 ・ 卒業研究構想発表：30％ 【学習目標①②③④に対応】 ・ 各発表における質疑応答：10％ 【学習目標②に対応】 ・ その他（e ポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成等）：10％ 【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	この演習は秋の専門演習Ⅳと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるととても重要なものです。 .生成 AI 利用に関しては条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、4 限 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容，進め方について説明する。			持参物：ノートパソコン 課題：自己紹介，ゼミ気に対することを 400		

		字 e ポートフォリオにアップする。(120 分)
2	論文の読み方、探し方 論文とは何なのかについて学び、論文を探すスキルを身につける。	持参物：ノートパソコン 課題：論文を検索し、その内容の要約を書く
3	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」	課題：自身のキャリアに関するレポート
4	論文の要約と内容の検討 自分が関心の持てる論文を探し、その内容についてしっかりと検討し、要約し蓄積することができるようになる。 ◎論文要約発表	持参物：ノートパソコン 学習：各自で興味のある分野の論文を検索し要約し蓄積する。
5	テーマ決め、鍵概念 テーマの決め方について理解し、各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。 ◎論文要約発表	学習：次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。 (240 分)
6	仮説の立て方と検証 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。 ◎論文要約発表	学習：各自のテーマ候補について紹介準備をする。(240 分)
7	テーマ発表と質疑応答 このテーマを選んだ理由、仮説、検証方法についての構想について各自発表する。それに対して質疑応答を行う。 ◎テーマ発表	持参物：ノートパソコン 課題：テーマ発表に対する感想レポート 課題：今後の計画について
8	分析方法の検討 統計、分析の方法について分担して調査を行う ◎論文要約発表	学習：統計に関する発表の準備をグループで行う。
9	研究計画について 研究計画の立て方、立てる意味について考える。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
10	研究テーマ、研究計画の検討 リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究について検討する ◎論文要約発表	学習：担当する分析方法について調べてまとめる
11	分析方法の発表 各グループで分析方法について発表する。 ◎分析方法発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
12	研究の構想 研究の構想に必要な情報について各自で検討する。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
13	構想発表 1 各自で研究の構想を発表し、それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)

14	構想発表 1 各自で研究の構想を発表し，それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り，現時点での研究の目的や計画，見通し等についてレポートを作成し提出する。 また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	持参物：ノートパソコン 課題：今学期を振り返り、自己 PR を e-ポートフォリオに記載する。 課題：現時点での卒論の構想をレポートとしてまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y06	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	専門演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 卒業研究に向けて、興味や関心のあるテーマに関する先行研究の知見を学ぶ。					
	【概要】 興味や関心のあるテーマに関する先行研究をまとめ、個人で発表を行う。 テーマは教員と相談して決定する。ゼミでは 1 人 1 回以上の発言が求められる。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 (1)興味や関心のあるテーマについて、先行研究を説明できるようになる (2)他者の発表に対して、批判的に検討できるようになる					
	【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (2)社会的貢献性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	文献検索により論文を入手する。					
20.参考文献						
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度を総合的に評価） (2)発表評価 50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			発表準備		
【第 2 回】	文献検索			発表準備		
【第 3 回】	第 1 回研究発表（1）			発表準備		
【第 4 回】	第 1 回研究発表（2）			発表準備		
【第 5 回】	第 1 回研究発表（3）			発表準備		
【第 6 回】	第 1 回研究発表（4）			発表準備		
【第 7 回】	第 2 回研究発表（1）			発表準備		
【第 8 回】	第 2 回研究発表（2）			発表準備		
【第 9 回】	第 2 回研究発表（3）			発表準備		
【第 10 回】	第 2 回研究発表（4）			発表準備		
【第 11 回】	第 3 回研究発表（1）			発表準備		
【第 12 回】	第 3 回研究発表（2）			発表準備		
【第 13 回】	第 3 回研究発表（3）			発表準備		
【第 14 回】	第 3 回研究発表（4）			発表準備		

【第 15 回】	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y07	2.科目名	専門演習Ⅲ (心理)		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。 【概要】 各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。					
18.学習目標と DPとの関連	①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関する発表・質疑応答：20% [学習目標①②]に対応 小レポート（10 本レポート）：30% [学習目標①②]に対応 学期末レポート：40% [学習目標①②]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% [学習目標③に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜お昼休み 研究室オフィスアワー：水曜お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4/10	オリエンテーション ブックレポート図書の紹介と興味を持っている領域の共有			ブックレポートの提出 (WebClass) 発表者は課題図書を持参すること！		
第 2 回 4/17	ブックレポート図書の紹介と興味をもっている領域の共有			発表者は課題図書を持参すること！		
第 3 回 4/24	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論、研究計画書を作成する過程を学ぶ			興味ある領域の文献検索 発表準備		
第 4 回 5/1	研究テーマに関する情報収集 興味あるテーマについて調べ、発表する。			興味ある領域の文献検索 発表準備		
第 5 回 5/8	研究テーマに関する情報収集			興味ある領域の文献検索		

	興味あるテーマについて調べ、発表する。	発表準備
第 6 回 5/15 (休み)	5 月 14 日 2 限、2-213、 就職活動に向けて（リクナビ）	興味ある領域の文献検索 発表準備
第 7 回 5/22	研究テーマに関する情報収集 興味あるテーマについて調べ、発表する。	興味ある領域の文献検索 発表準備
第 8 回 5/29	研究テーマに関する情報収集 興味あるテーマについて調べ、発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 9 回 6/5	研究テーマの検討 これまでのテーマ検索を踏まえ、 もっとも関心のある領域について発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 10 回 6/12	研究テーマの検討 これまでのテーマ検索を踏まえ、 もっとも関心のある領域について発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 11 回 6/19	研究テーマの検討 これまでのテーマ検索を踏まえ、 もっとも関心のある領域について発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 12 回 6/26	研究テーマに関する先行研究の収集と報告 研究テーマに的を絞って先行研究の報告を行う。	卒論に向けての文献検索 発表準備
題 13 回 7/3	研究テーマに関する先行研究の収集と報告 研究テーマに的を絞って先行研究の報告を行う。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 14 回 7/10	研究テーマに関する先行研究の収集と報告 研究テーマに的を絞って先行研究の報告を行う。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 15 回 7/17	まとめ これまでの文献検索をもとにレポートにまとめる。	レポートの提出（WebClass）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y08	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺村堅志					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。 【概要】具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち，自律性，問題発見解決力，専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献	随時配布する					
21.成績評価	・ 各自の興味と関連する論文の要約と紹介（分析方法含む）：40％【学習目標①②に対応】 ・ 個人の研究テーマに関する発表：40％【学習目標①②③④に対応】 ・ 各発表における質疑応答：10％【学習目標②に対応】 ・ その他（eポートフォリオへの記入・自己 PR 文の作成等）：10％【学習目標⑤に対応】 ※上記の観点から総合的に判断する					
22.コメント	この演習は秋の専門演習Ⅳと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとも重要なものです。 生成 AI 利用：条件付きで認める。 ただし，レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：金曜日昼休み センターオフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容，進め方について説明する。			持参物：ノートパソコン 課題：自己紹介，ゼミに対する意欲について提出する		
第 2 回	論文の読み方，探し方 論文とは何なのかについて学び，論文を探すスキルを身につける。			持参物：ノートパソコン 課題：論文を検索し，その内容の要約を書く		
第 3 回	合同ゼミ：キャリア教育「就職準備講座」			課題：自身のキャリアに関するレポート		
第 4 回	論文の要約と内容の検討			持参物：ノートパソコン		

	自分が関心の持てる論文を探し、その内容についてしっかりと検討し、要約し蓄積することができるようになる。 ◎論文要約発表	学習：各自で興味のある分野の論文を検索し要約し蓄積する。
第 5 回	テーマ決め、鍵概念 テーマの決め方について理解し、各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。 ◎論文要約発表	学習：次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。
第 6 回	仮説の立て方と検証 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。 ◎論文要約発表	学習：各自のテーマ候補について紹介準備をする。
第 7 回	テーマ発表と質疑応答 このテーマを選んだ理由、仮説、検証方法についての構想について各自発表する。それに対して質疑応答を行う。 ◎テーマ発表	持参物：ノートパソコン 課題：テーマ発表に対する感想レポート 課題：今後の計画について
第 8 回	分析方法の検討 統計、分析の方法について分担して調査を行う ◎論文要約発表	学習：統計に関する発表の準備をグループで行う。
第 9 回	研究計画について 研究計画の立て方、立てる意味について考える。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
第 10 回	研究テーマ、研究計画の検討 リサーチ・クエスションとその問題に興味を持ったいきさつ、先行研究について検討する ◎論文要約発表	学習：担当する分析方法について調べてまとめる
第 11 回	分析方法の発表 各グループで分析方法について発表する。 ◎分析方法発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
第 12 回	研究の構想 研究の構想に必要な情報について各自で検討する。 ◎論文要約発表	学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
第 13 回	構想発表 1 各自で研究の構想を発表し、それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
第 14 回	構想発表 1 各自で研究の構想を発表し、それに対して質疑応答を行う。	持参物：ノートパソコン 学習：各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。
第 15 回	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成し提出する。	持参物：ノートパソコン 課題：今学期を振り返り、自己 PR を e-ポートフォリオに記載する。

	また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出する。	課題：現時点での卒論の構想をレポートとしてまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y09	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：卒業論文を書くための基礎的能力を身につけることを目的とする。 概要：文献検索から文献講読、研究テーマの選定、プレゼンでの発表などを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	各自が関心のある文献を読み、書かれている内容を理解し、まとめる力を身につけるとともに、批判的な視点から独自の考えを主張する力を養うことを目指す。この授業は、DPの「コミュニケーション能力」「問題発見・解決力」「専門知識・技法の活用力」と関連している。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 授業でのディスカッション 15%（「コミュニケーション能力」の評価） 2. 毎回の授業における小レポート 15%（「問題発見・解決力」の評価） 3. プレゼン発表 40%（「コミュニケーション能力」の評価） 4. 最終レポート 30%（「問題発見・解決力」「専門的知識・技能の活用力」の評価）					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。ただし、小レポートおよび採収レポートに関しては、利用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜 2 限 センターオフィスプログラム：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、講読文献、担当・発表順の決定			課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備		
第 2 回	研究のテーマ設定とアウトライン			課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備		
第 3 回	研究進行の諸注意？			課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備		
第 4 回	研究進行の諸注意？			課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備		
第 5 回	文献講読①			課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備		
第 6 回	文献講読②			課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備		
第 7 回	文献講読③			課題：小レポートの提出		

		復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 8 回	文献講読④	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 9 回	文献講読⑤	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 10 回	文献講読②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 11 回	研究構想発表①	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 12 回	研究構想発表②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 13 回	研究構想発表③	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 14 回	研究構想発表④	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 15 回	まとめ	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y10	2.科目名	専門演習Ⅲ（心理）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒業研究にむけた準備として研究テーマの探索，研究方法，論文作成などについて自発的に取り組んでいくことをねらいとする。具体的には，春学期において受講生各自の興味や関心を意識化し整理した後に，複数のテーマについて文献検索などの情報収集や研究方法などの検討を行い，受講生は最終的に一つの研究テーマを決定する。その上で具体的なデータ収集とその整理・分析の方法を決定し、試行していく。					
18.学習目標と DPとの関連	①与えられた課題に対し、科学的なデータ収集を設計・実施できるようになる ②これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる 本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	随時配布する					
21.成績評価	・ 個人研究への取り組み状況（課題提出 2 回） 30％ ・ キャリア教育への取り込み状況（課題提出 1 回） 20％ ・ プレゼンテーション 30％ ・ e ポートフォリオへの記入 20％（キャリア教育関係学年共通 10％、振り返り 10％）					
22.コメント	この演習は秋の専門演習Ⅳと合わせて 1 年間かけて個人個人の興味関心を次第に掘り下げ、卒業研究につながるテーマの発見と追求を具体的に進めるとも重要なものです。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜 3 限 センターオフィスアワー:火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション：専門演習Ⅲのねらいや内容，進め方について説明する。			◆ノートパソコン◆ ○課題 自己紹介（エピソードを含むこと） 400 字 e ポートフォリオにアップする。(120 分) ○課題 次回までに各人が興味・関心を持てる問題について書き出す。(120 分)		
2	問題の探索 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、整理統合の上で複数候補を挙げる。 自己紹介（課題で提出した物を参考に）			◎課題 どのような研究ができそうか、候補テーマについて情報収集の仕方について調べておく。(240 分)		
3	「就職活動スタートガイダンス～就職活動・インターンシップについて～」(学科合同)			○課題 卒業後の人生設計について、仕事も含めた自分の将来を考える。(240 分)		

4	卒業後の人生設計についてーキャリアデザイン① 仕事も含めた自分の将来を考える。	○課題 卒業後のキャリアを含めた人生設計について、レポートにまとめる。(240 分)
5	問題の探索 (続き) 各自の興味や関心を抱く問題について探索・発見を進め、発表準備を行う。	◎課題 次回までにどのような研究ができそうか、候補テーマについて情報を収集する。(240 分)
6	問題の絞り込み 複数候補の問題の内容や重要性、探求可能性、方法などさまざまな観点から検討し、最終的に取り組むべきテーマを絞り込む。	◎課題 各自の候補テーマについて紹介準備をする。(240 分)
7	プレゼンテーション 各自考えている問題を紹介する。 リサーチ・クエスチョンとその問題に興味を持ったいきさつについて説明する。	◎課題 各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
8	情報の収集と読み込み (1) 情報の収集と読み込み テーマについて取り組むにあたり、テーマに関わるさまざまな情報をどのように収集していくかを検討し、情報収集を行い、情報の内容を理解し、問題点を整理する。	◎課題 各自の候補テーマに関連する論文収集と論文紹介準備をする。(240 分)
9	キャリアデザイン② 仕事をより具体的に考える。就職サイトの活用。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
10	情報の収集と読み込み (2) 情報の収集と読み込み テーマについて取り組むにあたり、テーマに関わるさまざまな情報をどのように収集していくかを検討し、情報収集を行い、情報の内容を理解し、問題点を整理する。	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
11	各自の興味と関連する論文の紹介 (1)	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
12	各自の興味と関連する論文の紹介 (2)	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
13	各自の興味と関連する論文の紹介 (3)	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
14	レポート作成の説明 これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成する	◎課題 各自の卒業研究の目的と方法の見通しについて構想を練る。(240 分)
15	今学期のまとめと振り返り これまでの経過を振り返り、現時点での研究の目的や計画、見通し等についてレポートを作成し提出する。 また、e ポートフォリオに今学期の振り返りを提出す	◆ノートパソコン利用◆ ◎課題 今学期を振り返り、卒業研究の見通しについて考える。(240 分)

	る。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y11	2.科目名	専門演習Ⅲ （社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科データサイエンス専攻			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 専門演習ⅢとⅣでは、以下のことに取り組むことを通して、1 年間を通して『卒業研究』の準備のための活動を行います。また、「マネジメント力」を身につけます、または、強化します。 このゼミでは、「学び続けられる人になる」ことをサポートします。 A. 生成 AI をツールとして有効活用する方法を考え、実践する B. 卒業論文（制作）のテーマを決める→卒論の研究計画を立てる C. 自分の将来設計を卒論テーマと関連づけて考える 概要： 授業では、ディスカッションや個別指導を通して、研究テーマの探究を行います。その					
18.学習目標と DP との関連	この科目を修了すると、以下の目標に到達します。 ① 生成 AI とその他のアプリを組み合わせ活用した活動の成果を生むことができる ② 卒業論文（制作）のテーマを決めることができる ③ 卒業研究の進め方・卒論の書き方、を説明できる ④ 自分の卒論テーマと将来設計の案を関連づけて提示できる [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	※必要に応じて印刷物等を配付します。					
20.参考文献	『#100 日チャレンジ』大塚あみ，日経 BP，2025 年 『ChatGPT と学ぶ Python 入門』熊澤秀道，翔泳社，2023 年 『プロジェクトマネジメントの基本が全部わかる本』橋本将功，2022 年 ほか					
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上で合格となります。 （1）アプリ制作 × 2 本 20％ ←学習目標①に対応 （2）設定した自分の研究テーマ（仮） 30％ ←学習目標②に対応 （3）指定された要領で執筆したエッセイ 40％ ←学習目標③に対応 （4）活動の記録（e ポートフォリオへの日誌・記事投稿） 10％ ←学習目標④に対応					
22.コメント	基本的に、来る 4 年生の卒業研究をいかに効果・効率的に進めるようにするか、に主眼を置いた学習活動をする場を設ける授業になります。教室では輪になって向き合い、ゼミ生のみなさんの間でいつもディスカッションが弾むようになればと願っています。同時に、みなさんの就活を支援します。できるだけ、卒研準備と就活の内容が相乗的にリンクできるようにすることを目指しましょう。 みなさんが個々に「目指す」ことを、授業内外で個別支援します。 ・生成 AI については、授業内容に関連して使用する場合は指示に従って活用してください。課題では、指示するもの以外で使用してはいけません。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワーは、月曜昼休みです。					

研究室でも随時（※事前アポを取って）質問等の対応を行います。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ゼミの目的／授業計画の説明 学習環境の確認と整備（e ポートフォリオ／Python など） ※e ポートフォリオ=ePF と表記します。WebClass の記事投稿機能を使います。	授業計画の確認 自宅等学外での学習環境整備の確認
第 2 回	活動日誌記述から始める（第 3 回以降も同様） 卒研テーマ探究：関心マップと初期アイデア エッセイ準備：構成とテーマ設定	研究テーマ探索 エッセイの構成検討
第 3 回	アプリ制作①：生成 AI と Python の活用体験	研究テーマ探索 エッセイのドラフト作成 アプリ制作作業
第 4 回	アプリ制作①：アイデア設計と開発着手	研究テーマ探索 エッセイのドラフト作成 アプリ制作作業
第 5 回	エッセイ執筆：テーマ・構成の検討と共有	研究テーマ探索 エッセイ執筆 アプリ制作作業
第 6 回	エッセイ執筆：執筆指導	研究テーマ探索 エッセイ執筆 アプリ制作作業
第 7 回	卒研テーマ探究：仮テーマの設定と先行研究探し	研究テーマ探索 エッセイ執筆 アプリ制作作業 課題：仮テーマ提出
第 8 回	アプリ制作①：発表会／相互レビュー	研究テーマ探索 エッセイ執筆 課題：制作したアプリについて ePF 記事投稿
第 9 回	輪読①：アカデミックライティングの確認	事前：論文精読 事後：輪読からの学びの出力
第 10 回	アプリ制作②：テーマ選定と開発開始	研究テーマ探索 エッセイ執筆 アプリ制作作業
第 11 回	アプリ制作②：中間報告とレビュー	研究テーマ探索 エッセイ執筆 アプリ制作作業
第 12 回	輪読②：社会学・データサイエンス関連論文に触れる	事前：論文精読 事後：輪読からの学びの出力
第 13 回	エッセイの共有	事前：エッセイの紹介準備 課題：エッセイ提出
第 14 回	アプリ制作②：発表会／相互レビュー	事前：制作したアプリの発表準備 課題：制作したアプリについて ePF 記事投稿
第 15 回	総括・振り返り	課題：仮テーマ提出（最終版）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y12	2.科目名	専門演習Ⅲ（社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	山本ゼミでは「共生」をテーマに調査・研究を行います。「共生」や「ダイバーシティ（多様性）」は重要な社会課題となりました。いかにもややこしそうです。ですが難しく考えることはありません。社会のあり方が変化するなかで、過去から守られてきたルールや規範だけでは社会を維持できなくなったからです。とはいえ、多くの学生は高校から大学までストレートに進学してきたのだから「共生」なり「ダイバーシティ」と縁があったわけではないでしょう。そこで、本授業では全員に現場での取材やフィールドワークを行ってもらいます。また、関連					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマを見つけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	別途指定します。					
20.参考文献	別途指定します。					
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・ミニレポート・・・30% ・アウトプットワーク・・・40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の全体像を説明する。			進捗レポートを作成する		
第 2 回	本調査を実施する（1） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 3 回	本調査を実施する（2） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 4 回	本調査を実施する（3） 本調査を実施し、経過を報告する。			進捗レポートを作成する		
第 5 回	調査のまとめを行う（1） 調査をまとめるため整理する。			進捗レポートを作成する		
第 6 回	調査のまとめを行う（2） 調査をまとめるため整理する。			進捗レポートを作成する		
第 7 回	調査のアウトプットを作成する（1） 調査のアウトプットを作成する。			進捗レポートを作成する		
第 8 回	調査のアウトプットを作成する（2） 調査のアウトプットを作成する。			進捗レポートを作成する		

第 9 回	調査のアウトプットを作成する（3） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 10 回	調査のアウトプットを作成する（4） 調査のアウトプットを作成する。	進捗レポートを作成する
第 11 回	調査の最終報告をする（1） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 12 回	調査の最終報告をする（2） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 13 回	調査の最終報告をする（3） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 14 回	調査の最終報告をする（4） 調査の最終報告をする。	進捗レポートを作成する
第 15 回	まとめ 夏秋冬学期にむけての計画をたてる	まとめのアウトプットを提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y13	2.科目名	専門演習Ⅲ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	データサイエンスの研究に必要なプログラミング能力をしっかりと身に着けます。その学習の過程や作品を作る過程で就職などに必要な技術や身に着けます。今までの授業で学んだプログラミングの内容を徹底的に体にしみこませます。 ① Python プログラミングや HTML+Javascript を手を動かしながら、実践する ② プログラミングを用いて、自分の作品を作成する ③ 卒業論文に取り掛かるためのプログラミングスキルを磨く 学生によってはプログラミング能力以外の能力の向上を目指すこともあるので、その際は学					
18.学習目標と DPとの関連	① Python プログラミングや HTML+Javascript を手を動かしながら、実践する ② プログラミングを用いて、自分の作品を作成する ③ 卒業論文に取り掛かるためのプログラミングスキルを磨く は (1) 自律的で主体的な態度 (自律性) (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力 に関係しています。					
19.教科書・教材	皆さんと相談しながら各自の教科書を指定します。					
20.参考文献						
21.成績評価	課題および議論への参加および作業報告 : 60% 中間報告 : 20% 最終報告 : 20%					
22.コメント	ゼミの皆さんと相談しながら個別・チームで作業をしてもらいます。 2 週間に 1 回程度、作業報告をまとめてもらいます。 その作業報告を見ながらフィードバックをして、作業を進め目標を達成できるようにサポートします。 そのため、私が説明する事はあっても、授業をする事はありません。 この 1 年で技術を身に着ける事と目標に向かって手をしっかりと動かす事です。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	今期の目標の設定および具体化			課題は毎回指定します。		
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (1)			課題は毎回指定します。		
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (2)			課題は毎回指定します。		
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (3)			課題は毎回指定します。		

	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (4)	課題は毎回指定します。
	中間報告に向けた整理・教員からのフィードバック(1)	課題は毎回指定します。
	中間報告に向けた整理・教員からのフィードバック(2)	課題は毎回指定します。
	中間報告	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (5)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (6)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (7)	課題は毎回指定します。
	プログラミングスキルの向上に向けた演習・作業および教員のフィードバック (8)	課題は毎回指定します。
	最終報告に向けた整理・フィードバック(1)	課題は毎回指定します。
	最終報告に向けた整理・フィードバック(2)	課題は毎回指定します。
	最終報告	課題は毎回指定します。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y14	2.科目名	専門演習Ⅲ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	3 年生ゼミにおける「文化・メディア専攻」の履修生のためのゼミです。 身近な文化や芸術、各種アートなどの調査研究や、各種コンテンツ制作や作品制作等の演習を行います。また必要に応じプログラミングなどの学習も行っています。状況によりますが地域イベントの実施や、メディア作品制作なども行っていきたいと考えています。これらの活動は 4 年生のゼミにおける卒業論文、卒業制作のための礎となります。 個別またはグループによる活動とし、それぞれの志向に沿った形で指導・アドバイスをを行います。したがって各回の授業は目安とし、フレ					
18.学習目標と DP との関連	学習目標は DP の (1) 社会や文化についての科学的理解力および 新たな文化創造、(2)主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力 (3) コミュニケーション力に関連しています。 ①地域の地理や歴史、文化芸術などについて調査活動が行える ②基本的なコンテンツ制作やプログラム作成が行える ③調査に基づくプレゼンテーションや情報発信、コンテンツ／プログラム作品などの制作・発表が行える					
19.教科書・教材	適宜、資料を配付または提示します					
20.参考文献	適宜、資料を配付または提示します					
21.成績評価	取組姿勢 (40%) [学習目標①②に対応] 提出物 (レポート、コンテンツなど) (40%) [学習目標③に対応] プレゼンテーション (20%) [学習目標①②③に対応]					
22.コメント	4 年次の卒業制作または卒業論文に向けて、調査・研究・制作のスキルを身に着けるための実践的な演習です。個人活動として自ら積極的に取り組むことが求められます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。(様々な状況を勘案し個別に対応・指導します)					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション (本授業の目標・内容・評価方法・受講上の留意点)			復習：学習内容の確認、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 2 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 3 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 4 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 5 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習な			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整		

	ど ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	理 予習：課題の自主制作
【第 6 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 7 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 8 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 9 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 10 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 11 回】	・調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 12 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 13 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 14 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 15 回】	プレゼンテーション、まとめ	復習：学習内容の総括、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-A01	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	この演習はこれまでの「プロジェクトマネジメント演習」(ⅠⅡⅢ)の最終段階となる。 3 年秋学期の「マネジメント専門演習」の経営学専攻に向けて「経営学」の学びの集大成とする。 本講では「経営学」の基本事項を「マネジメント検定試験Ⅲ級」の公式テキストを教科書として、各自の学びとグループワークによる討議を融合し相互の理解を深めて行く。 これまで基礎科目(経営学概論・経済学概論・マーケティング・ファイナンス)で学んできた知識を統合し、学生自身の力で学びを深化させると共にグループワークによる議論を通じ、「経営学」学修					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、以下の 4 つのディプロマ・ポリシー (DP) と関連しています。 (1)自律的で主体的な態度 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。 (4)問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。 (6) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。 【本科目の目標】 ・ 経営学全体の知識について整理・理解(教科書「マネジメント検定試験Ⅲ級」の理解と受験・合格) ・ 新聞・雑誌・Web による経済・ビジネス課題の把握と理解(各自・各グループの問題発見力の向上) ・ グループワークによるコミュニケーションとプレゼンテーションスキルの向上 ・ 企業博物館を利用した経営思想・経営戦略の分析力の向上 ・ 就職活動の準備と実践(SPI 対策、自己 PR 作成、自己目標の具体化)					
19.教科書・教材	一般社団法人 日本経営協会(編)『経営学の基礎』(マネジメント検定試験 Ⅲ級公式テキスト) ISBN : 978-4502435119 発行所:(株) 中央経済社 定価: 2,600 円					
20.参考文献	毎回の授業で適宜紹介する。					
21.成績評価	・ 時事問題(各自) 課題把握・分析・発表: 15% ・ グループワーク(1)(第1部・第2部まとめ): 20% ・ グループワーク(2)(第3部・第4部まとめ): 20%					

	・グループワーク（３）経営者・経営戦略・事業戦略分析：２０％ ・総括レポート：１０％ ・修学カルテ（eポートフォリオ）：５％ ・就職対策（自己PR作成・SPI対策）：１０％	
22.コメント	・毎回、教科書とPCを持参すること ・新聞・雑誌・Webによる経済・ビジネスニュースの把握を行うこと ・把握した時事問題に対する自分の疑問・意見を持つこと ・就職等のキャリア形成を早く計画的に固めていくこと	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日４限（４階学修支援室）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第１回 第２回	<第１回> ・春学期の履修登録等の確認 ・PM 演習Ⅳのオリエンテーション ・授業運営について（教科書・時事問題） <第２回> ・チームコミュニケーション ・チームビルディング ・図書館利用・資料検索の確認	・パソコン持参 ・各自成績表
第３回 第４回	<第３回> ・教科書：第１部（企業論） - 第１章：経営学から何を学ぶか - 第２章：企業のかたち ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第４回> ・時事問題の発表（全員） ・議論・理解	<予習> 第１部 第１章・第２章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 時事問題の選定理解（各自）
第５回 第６回	<第５回> ・教科書：第１部 - 第３章：大規模な株式会社における企業統治 - 第４章：日本型企业システム ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第６回> ・時事問題の発表（全員） ・議論・理解	<予習> 第１部 第３章・第４章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 時事問題の選定理解（各自）
第７回 第８回	<第７回> ・教科書：第２部（経営戦略論） - 第１章：企業経営と全社戦略 - 第２章：全社戦略としての成長戦略 ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第８回> ・時事問題の発表（全員） ・議論・理解	<予習> 第２部 第１章・第２章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 時事問題の選定理解（各自）
第９回 第１０回	<第９回> ・教科書：第２部 - 第３章：全社的な経営資源の配分 - 第４章：事業ごとの競争戦略（事業戦略） - 第５章：経営戦略の時代的変遷	<予習> 第２部 第３章・第４章・第５章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G）

	・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第 10 回> ・第 1 部・第 2 部まとめ（グループワーク）	時事問題の選定理解（各自）
第 11 回 第 12 回	<第 11 回> ・グループ成果発表（1）（第 1 部・第 2 部まとめ） <第 12 回> ・就職ガイダンス ・自己 PR 作成	<予習> 第 1 部・第 2 部の振り返り
第 13 回 第 14 回	<第 13 回> ・教科書：第 3 部（機能別戦略） - 第 1 章：マーケティング戦略の基礎 ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第 14 回> ・時事問題の発表（全員） ・議論・理解	<予習> 第 3 部 第 1 章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 時事問題の選定理解（各自）
第 15 回 第 16 回	<第 15 回> ・教科書：第 3 部 - 第 2 章：研究開発戦略と生産戦略の基礎 - 第 3 章：財務戦略の基礎（会計） ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第 16 回> ・時事問題の発表（全員） ・議論・理解	<予習> 第 3 部 第 2 章・第 3 章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 時事問題の選定理解（各自）
第 17 回 第 18 回	<第 17 回> ・教科書：第 3 部 - 第 3 章：財務戦略の基礎（会計） - 第 4 部（人的資源管理論・組織構造論） - 第 1 章：人と組織のマネジメント ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第 18 回> ・時事問題の発表（全員） ・議論・理解	<予習> 第 3 部 第 3 章 第 4 部 第 1 章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 時事問題の選定理解（各自）
第 19 回 第 20 回	<第 19 回> ・教科書：第 4 部 - 第 2 章：経営組織の形態 ・担当 G の発表と議論・理解（担当 G） <第 20 回> 第 3 部・第 4 部まとめ（グループワーク）	<予習> 第 4 部 第 2 章 の読み込み 発表資料の作成（担当 G） 第 3 部・第 4 部の振り返り
第 21 回 第 22 回	<第 21 回> ・グループ成果発表（2）（第 3 部・第 4 部まとめ） <第 22 回> ・グループワーク ・著名経営者・経営戦略・事業戦略の分析（1）	<予習> グループ成果のまとめ
第 23 回 第 24 回	<第 23 回> ・グループワーク ・著名経営者・経営戦略・事業戦略の分析（2） <第 24 回>	<予習> <復習> ・著名経営者分析 ・企業戦略分析 ・事業戦略分析

	・グループワーク ・著名経営者・経営戦略・事業戦略の分析（３）	
第 25 回 第 26 回	< 第 25 回 > < 第 26 回 > ・企業実地調査 ・企業博物館調査	< 実地調査 > ・写真撮影 ・インタビュー録音 等の準備と対応
第 27 回 第 28 回	< 第 25 回 > ・グループワーク ・調査結果整理・まとめ（１） < 第 26 回 > ・グループワーク ・調査結果整理・まとめ（２）	< 持参 > ・調査書籍 ・調査論文 ・企業資料
第 29 回 第 30 回	< 第 29 回 > ・グループ成果発表（３）（経営思想・経営戦略） < 第 30 回 > ・全体まとめ ・学習カルテ作成	< 課題 > ・総括レポート ・修学カルテ作成 ・自己 PR 見直し

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-A02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義及び演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	これまで経営学概論、経済学概論、マーケティング、ファイナンスなどの専門基礎科目、サービス企画論、発想法、などの専門基幹科目を学習してきたと思います。またコース別専門科目の学習も進めてきていると思います。そうした科目ごとの学習を総合化し、卒業研究に向けてさらに学習を深化させていくために、本授業はあると思います。「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」について、もう一度、考えていこうと思います。前半では共通の基礎知識を整理し、後半で卒業研究の研究テーマを探す事を目的とします。 また就職活動についても指導して					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 経営学全般の基本に対する理解を深めること。 卒業論文作成に向けて準備を行うこと。（テーマを探す） 個人ワーク、グループワークに取り組むこと。 プレゼンテーション・スキルの向上。 自己?の作成。 就活試験対策。					
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	・日経文庫 1915 武藤泰明著『ビジュアル 経営の基本 第3版』日本経済新聞社 ・高橋伸夫著『大学 4 年間の経営学が 10 時間でざっと学べる』株式会社 KADOKAWA ・PHP ビジネス新書ビジュアル 005 小宮一慶著『「60 分」図解トレーニング 経営戦略』株式会社 PHP 研究所 その他、必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	課題レポート×5 回 25% プレゼンテーション 20% SPI 対策 20% 最終レポート 25% e-ポートフォリオ 10%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日 2 限 センターオフィスアワー：金曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1/2 回	オリエンテーション ・プロジェクトマネジメント演習Ⅳの内容、授業の進め方確認 ・履修登録の確認			◆PC ○テキストの復習（経営学概論）		
第 3/4 回	振り返り、目標設定、個人面談実施			◆PC		

	・振り返りと目標をeポートフォリオに入力する ・個人面談を実施する	○eポートフォリオの入力が終わらなかった場合は、次回までに入力を終わておくこと ○テキストの復習(経済学概論)
第 5/6 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について① ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○テキストの復習（マーケティング）
第 7/8 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について② ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○テキストの復習(ファイナンス) ○プレゼン用 PPT 作成
第 9/10 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について③ ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 グループワークとプレゼンを行う	◆PC テーマⅠについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する
第 11/12 回	テーマⅡ「カネ」について① ・会計とは？ ・BS について ・PL について ・CF について レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート①を提出する○就活の準備（自己?）
第 13/14 回	テーマⅡ「カネ」について② ・会計とは？ ・BS について ・PL について ・CF について レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT 作成
第 15/16 回	テーマⅡ「カネ」について③ ・会計とは？ ・BS について	◆PC テーマⅡについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート②として提出準備する

	・ PL について ・ CF について グループワークとプレゼンを行う	る
第 17/18 回	テーマⅢ「モノ」について① ・ 品質について ・ 競争マーケティング ・ 流通について ・ 現代マーケティング レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート②を提出する○就活の準備 (SPII 対策)
第 19/20 回	テーマⅢ「モノ」について② ・ 品質について ・ 競争マーケティング ・ 流通について ・ 現代マーケティング レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT の作成
第 21/22 回	テーマⅢ「モノ」について③ ・ 品質について ・ 競争マーケティング ・ 流通について ・ 現代マーケティング グループワークとプレゼンを行う	◆PC テーマⅢについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する
第 23/24 回	テーマⅣ「情報」について ・ IT の活用 ・ データと情報 ・ ICT ・ 法規制 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート③を提出する○就活の準備 (一般常識)
第 25/26 回	テーマⅣ「情報」について② ・ IT の活用 ・ データと情報 ・ ICT ・ 法規制 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT 作成
第 27/28 回	テーマⅣ「情報」について ・ IT の活用 ・ データと情報 ・ ICT ・ 法規制 グループワークとプレゼンを行う 最終レポート課題の発表	◆PC テーマⅣについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する ○最終課題に取り組む
第 29/30 回	最終課題の中間報告 振り返り ・ e-ポートフォリオに入力する。	◆PC ●課題レポートⅣを提出する ○最終レポートを仕上げて提出する

	・授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-A03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	チョウドリ マハブブルアロム					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義及び演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	これまで経営学概論、経済学概論、マーケティング、ファイナンスなどの専門基礎科目、サービス企画論、発想法、などの専門基幹科目を学習してきたと思います。またコース別専門科目の学習も進めてきていると思います。そうした科目ごとの学習を総合化し、卒業研究に向けてさらに学習を深化させていくために、本授業はあると思います。「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」について、もう一度、考えていこうと思います。前半では共通の基礎知識を整理し、後半で卒業研究の研究テーマを探す事を目的とします。 また就職活動についても指導して					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーション・スキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 経営学全般の基本に対する理解を深めること。 卒業論文作成に向けて準備を行うこと。（テーマを探す） 個人ワーク、グループワークに取り組むこと。 プレゼンテーション・スキルの向上。 自己?の作成。 就活試験対策。					
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	・日経文庫 1915 武藤泰明著『ビジュアル 経営の基本 第3版』日本経済新聞社 ・高橋伸夫著『大学 4 年間の経営学が 10 時間でざっと学べる』株式会社 KADOKAWA ・PHP ビジネス新書ビジュアル 005 小宮一慶著『「60 分」図解トレーニング 経営戦略』株式会社 PHP 研究所 その他、必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	課題レポート×5 回 25% プレゼンテーション 20% SPI 対策 20% 最終レポート 25% e-ポートフォリオ 10%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日 2 限 センターオフィスアワー：金曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1/2 回	オリエンテーション ・プロジェクトマネジメント演習Ⅳの内容、授業の進め方確認 ・履修登録の確認			◆PC ○テキストの復習（経営学概論）		
第 3/4 回	振り返り、目標設定、個人面談実施			◆PC		

	・振り返りと目標をeポートフォリオに入力する ・個人面談を実施する	○eポートフォリオの入力が終わらなかった場合は、次回までに入力を終わておくこと ○テキストの復習(経済学概論)
第 5/6 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について① ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○テキストの復習（マーケティング）
第 7/8 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について② ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○テキストの復習(ファイナンス) ○プレゼン用 PPT 作成
第 9/10 回	テーマⅠ「ヒトと組織」について③ ・会社の仕組み ・コーポレートガバナンス ・マネジメントの階層 ・組織内の人間関係 グループワークとプレゼンを行う	◆PC テーマⅠについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する
第 11/12 回	テーマⅡ「カネ」について① ・会計とは？ ・BS について ・PL について ・CF について レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート①を提出する○就活の準備（自己?）
第 13/14 回	テーマⅡ「カネ」について② ・会計とは？ ・BS について ・PL について ・CF について レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT 作成
第 15/16 回	テーマⅡ「カネ」について③ ・会計とは？ ・BS について	◆PC テーマⅡについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート②として提出準備する

	・ PL について ・ CF について グループワークとプレゼンを行う	る
第 17/18 回	テーマⅢ「モノ」について① ・ 品質について ・ 競争マーケティング ・ 流通について ・ 現代マーケティング レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート②を提出する○就活の準備 (SPII 対策)
第 19/20 回	テーマⅢ「モノ」について② ・ 品質について ・ 競争マーケティング ・ 流通について ・ 現代マーケティング レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT の作成
第 21/22 回	テーマⅢ「モノ」について③ ・ 品質について ・ 競争マーケティング ・ 流通について ・ 現代マーケティング グループワークとプレゼンを行う	◆PC テーマⅢについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する
第 23/24 回	テーマⅣ「情報」について ・ IT の活用 ・ データと情報 ・ ICT ・ 法規制 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ●課題レポート③を提出する○就活の準備 (一般常識)
第 25/26 回	テーマⅣ「情報」について② ・ IT の活用 ・ データと情報 ・ ICT ・ 法規制 レクチャーとプレゼンを行う	◆PC ○プレゼン用 PPT 作成
第 27/28 回	テーマⅣ「情報」について ・ IT の活用 ・ データと情報 ・ ICT ・ 法規制 グループワークとプレゼンを行う 最終レポート課題の発表	◆PC テーマⅣについてプレゼン資料をブラッシュアップし、課題レポート①として提出準備する ○最終課題に取り組む
第 29/30 回	最終課題の中間報告 振り返り ・ e-ポートフォリオに入力する。	◆PC ●課題レポートⅣを提出する ○最終レポートを仕上げて提出する

	・授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-M02	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習はこれまでのプロジェクトマネジメント演習Ⅰ～Ⅲを受けての最終段階となります。ここではさまざまな業界・業種の現場からの、よりリアルで困難な課題を設定し、これまでに教室で学んできた専門知と現場で学んできた経験知を総動員しながら課題解決に取り組みます。 【概要】 専門知と経験知の統合をこれまで以上に強く求められており、一人ひとりの学生が自分自身の力で学びを深化させるとともに、グループワークによる一連の作業を通じ、学修の総仕上げとする演習です。学外見学やゲストスピーカーの講演を通して、地域スポン					
18.学習目標と DPとの関連	次のディプロマポリシーと関連しています。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標や組織や集団の目的を実現するために責任をもって、意欲的に行動することができる。 (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。					
19.教科書・教材	WebClass に資料を配信する。					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	成績は、WebClass、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 ・ 現地活動への参加、ゲストスピーカー講演： 30% (学習目標 1: 自律的で主体的な態度)」 ・ e ポートフォリオへの記事投稿：20% (学習目標 4: 問題発見・解決力)」 ・ グループワークへの参画： 30% (学習目標 1: 自律的で主体的な態度)」 ・ 総括レポート：春学期の学びを統合化する 20% (学習目標 6: 専門的知識技能の活用力)」					
22.コメント	授業日以外にも地域で行われるスポーツイベントの情報を流すので参加する事を奨める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日 3 限 センターオフィスアワー：火曜日 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1-2 回】 4/9	ガイダンス 履修登録について					
【第 3-4 回】 4/16	地域をまとめるスキルの実践 チームビルディングの体験					
【第 5-6 回】 4/23	地域をまとめるスキルの実践 コミュニティスポーツの体験					

【第 7-8 回】 4/30	地域をまとめるスキルの実践 スナックゴルフの体験	
【第 9-10 回】 5/7	三木市紹介ビデオの視聴及び三木市内のリソースのまとめ	
【第 11-12 回】 5/14	学外見学の事前学修 本学卒業生の地域作りの講演	
【第 13-14 回】 5/21	○三木市スポーツ推進計画について 学外見学事前調べ	
【第 15-16 回】 5/28	学外見学①ホースランドパーク及び三木市三木山総合体育館（未定） ※大学で集合し、現地移動、大学解散	
【第 17-18 回】 6/4	学外見学①ふりかえり	
【第 19-20 回】 6/11	学外見学②三木ゴルフ倶楽部及びネスタリゾート（未定） ※大学で集合し、現地移動。大学で解散。	
【第 21-22 回】 6/18	学外見学②ふりかえり	
【第 23-24 回】 6/25	学内スポーツイベントの企画準備	
【第 25-26 回】 7/2	学内スポーツイベントの実施	
【第 27-28 回】 7/9	学内スポーツイベントの評価分析 振り返りとレポート作成	
【第 29-30 回】 7/16	○まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-M03	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	なし。					
17.授業の目的と概要	【目的】 本演習では、これまでの様々な経験学習と専門科目で勉強してきた知識の統合を図ることを目的とする。 【概要】 それぞれの経験学習や専門科目の勉強において、興味関心の持つテーマを明確にし、関連学習を深め、各自のテーマに沿った研究を進めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連している。 具体的には、 ・これまで学習した専門知識に対する理解を深める ・インターンシップやサービラーニングなどのオフキャンパスでの経験を振り返り、特に関心を持つ課題について深堀し、専門知識や理論を用いて、問題の解明や課題解決の提案をすることができる ・個人学習やグループワークの内容をまとめ、他者に説明することができる					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	指定しない					
21.成績評価	レジュメ 30％ 個人読書・発表 30％ SPI・ES 作成 30％ e-ポートフォリオ 10％					
22.コメント	進路や卒論の作成を意識して研究対象業界＆企業を選定し、計画的な学習が望ましい。 ・生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、課題については、授業回ごとに指定する。					
23.オフィスアワー	春学期： 火曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2025/01/02	オリエンテーション ・ 総合マネジメント演習Ⅲの内容、授業の進め方確認 ・ 履修登録の確認 ・ 個人面談日程確認 ・ 宿題：自己紹介資料作成@5 分			経営学概論の復習(1 2 0 分)		
2025/03/04	・ 自己紹介 PPT&文献リスト用 Excel ファイルの作成 ・ 自己紹介			・ 配布した参考資料の予習(第 1 講)		

2025/05/06	・これまでの学習の振り返り & テーマ選定・選書	○読書 & レジューメまとめ (120 分)
2025/07/08	・企業にとって成長とは何か (2) ・「成長」と「成熟」の違い ・レジューメの作り方	○経営戦略 1 のレジューメ-01 の作成(継続) ○研究対象企業の DNA について調べる (120 分)
2025/09/10	・キャリアガイダンス(暫定)	※リクナビ、マイナビへの登録は Web から各自で行うので、書類は提出しないこと ※次回までのリクナビやマイナビ等の就職サイトに新規登録を行っておくこと
2025/11/12	・課外活動 (予定日)	○e-ポートフォリオに見学の感想文を登録する (120 分)
13-14	・工場見学の感想 & R キャップテスト結果で考える自分の職業選択 ==>e-ポートフォリオに ・第 1 章のレジューメ確認 「高品質+低価格」戦略 ・マイケル・ポーターの三つの基本戦略の有効性と限界 ・「スマート＊リーン」とは何か	
15-16	「スマート＊リーン」の事例学習 / 外部講師による講演会 (暫定) ・ユニクロ、ゲーム業界、コンビニ業界 ◎GW1: 各業界内企業別戦略の考察 (120 分)	
17-18	GW1 のまとめと発表 ○コメントや意見、質問を整理して次回までに中間レポートを作成する (120 分)	
19-20	バリューチェーンのデザイン ・体験価値ショッピング、資産のコラボレーション ・個人ワーク: 図表 1 作成	○レジューメ-02 の作成 (継続)、図表 1 を完成 (120 分)
21-22	スマート＊リーンの実現(1) ・東芝だけが TV 事業で黒字の理由 ・事業開発を成功させるカギ	○研究対象企業の弱点分析 (120 分) →次回グループ内発表
23-24	スマート＊リーンの実現(2) ・社内をつなぐ「ワイガヤ」 ・パナソニックの「ideas for life」 ・デジカメ一眼レフ成功の軌跡	○経営戦略 3 のレジューメ-03 の作成 (120 分)
25-26	グローバル勝者への道 (1) ・アジアのパワーを取り込むには ・資生堂の中国進出 ・MUJI の「わけあって高い」から売れた ・ユニクロは失敗から学んだこと	○個人レポートを作成する (120 分) ◎GW2 最終発表の準備をする (120 分)
27-28	グローバル勝者への道 (2) ・韓国や中国にはまねできない日本の匠 ・シマノのマーケティングは華僑が担う ・拡大の学習がグローバル化の最終段階	○個人レポートを作成する (120 分) ◎GW2 最終発表の準備をする (120 分)

29-30	最終発表、振り返り ・ GW2 の発表 ・ e-ポートフォリオに入力する。 ・ 授業アンケート ○発表後、レポートを完成し、Web class にて提出する（240 分）	

1.授業コード (ナンバリング)		SMN307-M04	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員		樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻						9.履修学年	
10.取得資格の要件				11.先修条件			
12.研究室		※※※		13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態		講義形式及び実習形式	
16.履修制限							
17.授業の目的と概要		1) かつての村（村落共同体）にはひとびとのつながりがあり地域課題の解決力があつた。都市でも、商店街や工場街には関係者のつながりがあり地域課題の解決力があつた。2) また、個人レベルで見ると、村には自給自足の技術（いわゆる「百姓」）や、自給自足を補う手間替え（お互いの得意なことで助け合う）の仕組みがあつた。3) その後、日本社会の産業化・近代化、分業化、あるいは効率化や大規模化に伴い、地域の解決力、個人の自給自足の技術に陰りが生じた。例えば身近なところでは家事、大工仕事の外注化、ケアの外注化、祭りの外注化、関係					
18.学習目標と DPとの関連		●自律的で主体的な態度（自律性）：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力：地域マネジメントの概念を理解し、地域マネジメントに関心を持ち、地域マネジメントの主体として地域に関わることができるようになる。コミュニティビジネスを中心にしつつ包括的に地域活性化の方法を理解する。					
19.教科書・教材		授業内で紹介する					
20.参考文献		授業の中で紹介する。					
21.成績評価		毎回の小レポート（10%）、中間レポート（40%）、最終レポート（50%）					
22.コメント		主体的・創造的に授業づくりに参加してください。楽しいこと、面白いことが大事だと考えています。					
23.オフィスアワー		春 水3 4号館5階 秋 木屋 4号館5階					
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1-2		・アイスブレイキング：授業の目的のシェア ・人と係わるとは：ホリスティックな係わり方			毎回、授業前に授業に関連する身の回りの出来事、記事やウェブのコンテンツ等に目を通しておく。毎回の授業後に小レポートを提出する。		
2025/03/04		・元気な地域の地域とは：北海道浦幌町、徳島県神山町、岡山県西栗倉村 ・元気な地域の特徴をあげてみよう					
2025/05/06		・私の大学生生活、 ・私の地域生活					
2025/07/08		・「地域」による解決の時代：地域マネジメントの目的／産業主義から地域主義／スモールビジネス、コミュニティビジネス ・地域に根付いた企業：「地方不動産の超地域密着経営術」「滋賀の和菓子屋」「スタバ」					

	・(宿題) 自分の地域の地域に根付いた企業	
9-10	宿題発表	中間レポート (1)
2025/11/12	・産業主義の生き方から地域主義の生き方へ ・産業主義の生き方から地域主義の生き方へ (事例)	
13-14	【この回以降の課題は企業活動・社会活動の変化】 ・消費者参加の潮流 共創 (co-creation)、生産消費 prosume (トインビー『第3の波』) - SNS の活用: 「イノベーション東北」、つばめの食器の転機 (デパートでの実演)、ワークマン公式アンバサダー、道の駅、昔の釣り道具屋さん ・生産者育成 (フェアトレード) の潮流 - カカオ、茶葉、蟹に 1000 万、地域を耕すレストラン、 (実習) フェアトレードを調べる	
15-16	・CSR (ボランティア) から CSV (共通価値の創造): 共通価値の創造 CSV (ポーター『戦略と競争優位』) ・CSV の可能性 (事例): (実習) CSV を調べよう (ポードレスジャパン他)	
17-18	・クライアントや対象者のどことつながるか: マズローの欲求段階のどこでつながるか... ・生存基盤 (第1段階)、便利さ/経済的裕福さ (第2段階)、所属 (第3段階)、社会的評価 (第4段階)、自己実現 (地域への思いの実現、家族への思いの実現。これらの場合、自己と地域、自己と家族が一体であることが前提条件) (第5段階)、自己超越 ・就活について	企業活動・社会活動の変化についての中間レポート
19-20	【この回以降の課題: 地域人材】 ・人的資本から社会関係資本 cf. 「風の人」 ・産業主義的人材=産業界と一緒に (一心同体の) 自己実現/地域主義的人材=地域と一緒に (一心同体の) 自己実現 ・目的と目標、方法を問う人材 - 実習「江ノ島に行こう」=方法は目標ではなく、目的で決まる	
21-22	・地域を巻き込むビジネス ・welfare から workfare へ ・町を耕すレストラン (価値協創) ・地元オーナーシップ・輪 (移) 入代替主義 LOIS=世界市場に巻き込まれない、信頼関係を使える (取引コストの低減にもなる) ・LOIS (地元オーナーシップ・輪 (移) 入代替)	

	主義 ・マイケル＝シューマン,『スモールマート革命』	
23－24	兵庫の地域人材に会う 1	
25－26	兵庫の地域人材に会う 2	
27－28	兵庫の地域人材に会う 3	
29－30	発表と授業のまとめ	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-M05	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	この演習はこれまでのプロジェクトマネジメント演習を受けた、最終段階となる。ここでは様々な業界・業種の現場からのリアルで困難な課題を設定し、これまでに教室で学んできた専門知と現場で学んできた経験知を総動員しながら課題解決に取り組んでいく。 専門知と経験知の統合をこれまで以上に強く求められ、学生自身の力で学びを深化させると共にグループワークによる一連の作業を通じ、学修の総仕上げとする。 特定の業界や企業に関する情報を収集すると共に新聞記事を題材にして幅広い知識を得ると共に、理解し説明や議論ができるようにな					
18.学習目標と DPとの関連	①大項目「問題解決能力を身につける」 中項目「問題発見力 レベル3（現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる）」 様々な企業の事業展開をサービスマーケティングの視点を活かして現状を把握し、何が問題であるか、どのような特徴があるかを発見することができるようになることを目指す。 ②大項目「問題解決能力を身につける」 中項目「計画・実行力 レベル3（見通しを持った計画を自ら立てて取り組み、計画の進行状況や課題の達成状況を確認し、必要に応じて修正しながら実行することができる）」 資格取得やキャリア形成に向け、計画的に実行できることを目指す。 ③大項目「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「自己表現力 レベル3（言語的・非言語的な表現方法を活用して、内容の構成を工夫しながら自分の思いや考えをわかりやすく表現することができる）」 研究成果を論理的なレポートにまとめ、自己分析を行って自己PRを行うことを目指す。 ④大項目「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「意見交換・調整力 レベル3（他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる）」 自分自身の学びの成果を資源に、グループワークを通じて課題解決を図ることを目指す。					
19.教科書・教材	石原武政・竹村正明・細井謙一 編『1からの流通論（第2版）』 ISBN：978-4-502-28361-1 価格：2,640 円 出版社：碩学舎					
20.参考文献	別途、配布する					
21.成績評価	授業中の提出物：40％ 中間発表（ゼミ内報告会等）：10％ 最終発表（最終レポート）：40％ Eポートフォリオ：10％					
22.コメント	①毎回、ノートパソコンの持参を求める。②新聞、ニュース、話題書等に目を向けておくこと。時事問題に関するワークも行う。③就職等のキャリア形成についても重視する。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 01/02 回 (xx/xx)	<第 01 回> ・PMIV イントロダクション ・諸注意 <第 02 回> ・就職活動について ・各種ワーク	<第 01 回> ◆パソコン ◆履修要項 ◆成績表 ○担当学生はレジメ準備 <第 02 回> ○第 1 章読み込み (60 分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 03/04 回 (xx/xx)	<第 03 回> ・第 1 章 流通とは (前半) ・新聞発表とディベート <第 04 回> ・自己分析 (自己 PR 作成) ・就職対策 (SPI) ・新聞発表とディベート	◆パソコン <第 03 回> ○新聞読み込み <第 04 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 05/06 回 (xx/xx)	<第 05 回> ・第 1 章 流通とは (後半) ・新聞発表 & ディベート <第 06 回> ・自己分析 (自己 PR 作成) ・就職対策 (SPI) ・新聞発表 & ディベート	◆パソコン <第 05 回> ○新聞読み込み <第 06 回> ○第 2 章読み込み (60 分) ○新聞読み込み
第 07/08 回 (xx/xx)	<第 07 回> ・第 2 章 百貨店と総合スーパー (前半) ・新聞発表 & ディベート <第 08 回> ・自己分析 (自己 PR 作成) ・就職対策 (SPI) ・新聞発表 & ディベート	◆パソコン <第 07 回> ○新聞読み込み <第 08 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 09/10 回 (xx/xx)	<第 09 回> ・第 2 章 百貨店と総合スーパー (後半) ・新聞発表 & ディベート <第 10 回> ・就職対策 (SPI) ・業界研究 ・新聞発表 & ディベート	◆パソコン <第 09 回> ○新聞読み込み <第 10 回> ○第 3 章読み込み (60 分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 11/12 回 (xx/xx)	<第 11 回> ・第 3 章 食品スーパーとコンビニエンス・ストア (前半) ・新聞発表 & ディベート <第 12 回> ・就職対策 (SPI) ・業界研究 ・新聞発表 & ディベート	◆パソコン <第 11 回> ○新聞読み込み <第 12 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 13/14 回 (xx/xx)	<第 13 回> ・第 3 章 食品スーパーとコンビニエンス・ストア (後半)	◆パソコン <第 13 回> ○新聞読み込み

	・新聞発表&ディベート <第14回> ・就職対策 (SPI) ・企業研究 ・新聞発表&ディベート	<第14回> ○第4章読み込み (60分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第15/16回 (xx/xx)	<第15回> ・第4章 ディスカウント・ストアとSPA (前半) ・新聞発表&ディベート <第16回> ・就活対策 (SPI) ・エントリー&志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第15回> ○新聞読み込み <第16回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第17/18回 (xx/xx)	<第17回> ・第4章 第4章 ディスカウント・ストアとSPA (後半) ・新聞発表&ディベート <第18回> ・就活対策 (SPI) ・エントリー&志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第17回> ○新聞読み込み <第18回> ○第5章読み込み (60分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第19/20回 (xx/xx)	<第19回> ・第5章 商店街とショッピングセンター (前半) ・新聞発表&ディベート <第20回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー&志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第19回> ○新聞読み込み <第20回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第21/22回 (xx/xx)	<第21回> ・第5章 商店街とショッピングセンター (後半) ・新聞発表&ディベート <第22回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー&志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第21回> ○新聞読み込み <第22回> ○第6章読み込み (60分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第23/24回 (xx/xx)	<第23回> ・第6章 小売業態とは何か (前半) ・新聞発表&ディベート <第24回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー&面接稽古 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第23回> ○新聞読み込み <第24回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第25/26回 (xx/xx)	<第25回> ・第6章 小売業態とは何か (後半) ・新聞発表&ディベート <第26回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー&面接稽古 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第25回> ○新聞読み込み <第26回> ○第7章読み込み (60分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み

第 27/28 回 (xx/xx)	<第 27 回> ・第 7 章 小売を支えるロジスティクス（前半） ・新聞発表 & ディベート <第 28 回> ・就職対策（SPI） ・エントリー & 面接稽古 ・新聞発表 & ディベート	◆パソコン <第 27 回> ○新聞読み込み <第 28 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 29/30 回 (xx/xx)	<第 29 回> ・第 7 章 小売を支えるロジスティクス（後半） ・新聞発表 & ディベート <第 30 回> ・サービスマーケティングのまとめ	○各自の研究成果を E ポートフォリオに入力 （120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN307-M06	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅳ		3.単位数	4
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	この演習はこれまでのプロジェクトマネジメント演習を受けた、最終段階となる。ここでは様々な業界・業種の現場からのリアルで困難な課題を設定し、これまでに教室で学んできた専門知と現場で学んできた経験知を総動員しながら課題解決に取り組んでいく。 専門知と経験知の統合をこれまで以上に強く求められ、学生自身の力で学びを深化させると共にグループワークによる一連の作業を通じ、学修の総仕上げとする。 特定の業界や企業に関する情報を収集すると共に新聞記事を題材にして幅広い知識を得ると共に、理解し説明や議論ができるようになる					
18.学習目標と DPとの関連	①大項目「問題解決能力を身につける」 中項目「問題発見力 レベル3（現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課題を提示することができる）」 様々な企業の事業展開をサービスマーケティングの視点を活かして現状を把握し、何が問題であるか、どのような特徴があるかを発見することができるようになることを目指す。 ②大項目「問題解決能力を身につける」 中項目「計画・実行力 レベル3（見通しを持った計画を自ら立てて取り組み、計画の進行状況や課題の達成状況を確認し、必要に応じて修正しながら実行することができる）」 資格取得やキャリア形成に向け、計画的に実行できることを目指す。 ③大項目「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「自己表現力 レベル3（言語的・非言語的な表現方法を活用して、内容の構成を工夫しながら自分の思いや考えをわかりやすく表現することができる）」 研究成果を論理的なレポートにまとめ、自己分析を行って自己PRを行うことを目指す。 ④大項目「コミュニケーション能力を身につける」 中項目「意見交換・調整力 レベル3（他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる）」 自分自身の学びの成果を資源に、グループワークを通じて課題解決を図ることを目指す。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	別途、配布する					
21.成績評価	授業中の提出物：40％ 中間発表（ゼミ内報告会等）：10％ 最終発表（最終レポート）：40％ Eポートフォリオ：10％					
22.コメント	①毎回、ノートパソコンの持参を求める。②新聞、ニュース、話題書等に目を向けておくこと。時事問題に関するワークも行う。③就職等のキャリア形成についても重視する。 生成AIの利用■条件付きで認める 自己PR文や各レポート等について、生成AI等の活用は許容範囲だが、最終的には書き手としての責任を追うべきことを肝に銘じ、内容の見直しを常に自ら行うこと					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 月4限（みさお館2F）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 01/02 回 (xx/xx)	<第 01 回> ・ PMIV イントロダクション ・ 諸注意 <第 02 回> ・ 就職活動について ・ 各種ワーク	<第 01 回> ◆ パソコン ◆ 履修要項 ◆ 成績表 ○ 担当学生はレジメ準備 <第 02 回> ○ 第 1 章読み込み (60 分) ○ 担当学生はレジメ準備 ○ 新聞読み込み
第 03/04 回 (xx/xx)	<第 03 回> ・ 第 1 章 流通とは (前半) ・ 新聞発表とディベート <第 04 回> ・ 自己分析 (自己 PR 作成) ・ 就職対策 (SPI) ・ 新聞発表とディベート	◆ パソコン <第 03 回> ○ 新聞読み込み <第 04 回> ○ 担当学生はレジメ準備 ○ 新聞読み込み
第 05/06 回 (xx/xx)	<第 05 回> ・ 第 1 章 流通とは (後半) ・ 新聞発表 & ディベート <第 06 回> ・ 自己分析 (自己 PR 作成) ・ 就職対策 (SPI) ・ 新聞発表 & ディベート	◆ パソコン <第 05 回> ○ 新聞読み込み <第 06 回> ○ 第 2 章読み込み (60 分) ○ 新聞読み込み
第 07/08 回 (xx/xx)	<第 07 回> ・ 第 2 章 百貨店と総合スーパー (前半) ・ 新聞発表 & ディベート <第 08 回> ・ 自己分析 (自己 PR 作成) ・ 就職対策 (SPI) ・ 新聞発表 & ディベート	◆ パソコン <第 07 回> ○ 新聞読み込み <第 08 回> ○ 担当学生はレジメ準備 ○ 新聞読み込み
第 09/10 回 (xx/xx)	<第 09 回> ・ 第 2 章 百貨店と総合スーパー (後半) ・ 新聞発表 & ディベート <第 10 回> ・ 就職対策 (SPI) ・ 業界研究 ・ 新聞発表 & ディベート	◆ パソコン <第 09 回> ○ 新聞読み込み <第 10 回> ○ 第 3 章読み込み (60 分) ○ 担当学生はレジメ準備 ○ 新聞読み込み
第 11/12 回 (xx/xx)	<第 11 回> ・ 第 3 章 食品スーパーとコンビニエンス・ストア (前半) ・ 新聞発表 & ディベート <第 12 回> ・ 就職対策 (SPI) ・ 業界研究 ・ 新聞発表 & ディベート	◆ パソコン <第 11 回> ○ 新聞読み込み <第 12 回> ○ 担当学生はレジメ準備 ○ 新聞読み込み

第 13/14 回 (xx/xx)	<第 13 回> ・第 3 章 食品スーパーとコンビニエンス・ストア (後半) ・新聞発表&ディベート <第 14 回> ・就職対策 (SPI) ・企業研究 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第 13 回> ○新聞読み込み <第 14 回> ○第 4 章読み込み (60 分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 15/16 回 (xx/xx)	<第 15 回> ・第 4 章 ディスカウント・ストアと SPA (前半) ・新聞発表&ディベート <第 16 回> ・就活対策 (SPI) ・エントリー & 志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第 15 回> ○新聞読み込み <第 16 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 17/18 回 (xx/xx)	<第 17 回> ・第 4 章 第 4 章 ディスカウント・ストアと SPA (後半) ・新聞発表&ディベート <第 18 回> ・就活対策 (SPI) ・エントリー & 志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第 17 回> ○新聞読み込み <第 18 回> ○第 5 章読み込み (60 分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 19/20 回 (xx/xx)	<第 19 回> ・第 5 章 商店街とショッピングセンター (前半) ・新聞発表&ディベート <第 20 回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー & 志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第 19 回> ○新聞読み込み <第 20 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 21/22 回 (xx/xx)	<第 21 回> ・第 5 章 商店街とショッピングセンター (後半) ・新聞発表&ディベート <第 22 回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー & 志望動機作成 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第 21 回> ○新聞読み込み <第 22 回> ○第 6 章読み込み (60 分) ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 23/24 回 (xx/xx)	<第 23 回> ・第 6 章 小売業態とは何か (前半) ・新聞発表&ディベート <第 24 回> ・就職対策 (SPI) ・エントリー & 面接稽古 ・新聞発表&ディベート	◆パソコン <第 23 回> ○新聞読み込み <第 24 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 25/26 回 (xx/xx)	<第 25 回> ・第 6 章 小売業態とは何か (後半) ・新聞発表&ディベート <第 26 回>	◆パソコン <第 25 回> ○新聞読み込み <第 26 回>

	・就職対策（SPI） ・エントリー＆面接稽古 ・新聞発表＆ディベート	○第 7 章読み込み（60 分） ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 27/28 回 (xx/xx)	<第 27 回> ・第 7 章 小売を支えるロジスティクス（前半） ・新聞発表＆ディベート <第 28 回> ・就職対策（SPI） ・エントリー＆面接稽古 ・新聞発表＆ディベート	◆パソコン <第 27 回> ○新聞読み込み <第 28 回> ○担当学生はレジメ準備 ○新聞読み込み
第 29/30 回 (xx/xx)	<第 29 回> ・第 7 章 小売を支えるロジスティクス（後半） ・新聞発表＆ディベート <第 30 回> ・サービスマーケティングのまとめ	○各自の研究成果を E ポートフォリオに入力（120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN309-Y01	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光 ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、航空産業論、航空実務		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の課題は「関西圏における 3 空港を比較する中で、神戸空港の魅力を向上させる施策を考え、提案す					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	PM演習Ⅲ 個人調査の成果物（ガイドに従い作成）：50％・・・学習目標①② 行程表（ガイドに従い作成）：30％・・・学習目標④ 専攻研究のまとめ：20％・・・学習目標② PM演習Ⅳ 中間発表 PPT（チームで作成）：20％・・・学習目標②④ 最終発表 PPT（チームで作成）：30％・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50％・・・学習目標①②					

	※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。 ※本授業は主体的な学習活動を中心と	
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。 ②フィールドワークや先行研究により課題への理解を深める。 ③就活に向けて企業の活動を理解する。 尚、原則として本演習で作成した課題研究論文をもとに4年次に取り組む卒業研究における企画提案書を作成していきます。 生成AI利用：条件付きで認める。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス3号館 3302号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	第1回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第2回：2年次の研究内容の発表 グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第3回 第4回	第3回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第4回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は5月から6月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第5回 第6回 第7回	第5回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第6回&第7回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第8回 第9回	第8回：成果計画表の作成 第9回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第10回 第11回	第10回：合同発表会に向けて準備 第11回：テーマ発表会 ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第12回～第14回 第15回	第12回～第14回：企業からのアドバイスや他大学の発表から最終発表に向けて新たに追加すべき活動や見直すべき活動を再検討 第15回：夏休みに向けての課題	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第16回 第17回～第22回	第16回：研究テーマの確認 第17回～第22回：中間報告に向けて発表準備（毎回発表を行います）	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第23回 第24回～第28回	第23回：中間報告会 第23回～第28回：個人研究作業およびグループ発表作業	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第29回 第30回	第29回：合同研究発表会 ANA 総研による採点 第30回：個人課題研究提出	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN309-Y02	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	指定なし				9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	マーケティング関連科目、および思考法の履修を推奨する。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	20 名					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を WEB 配信します。					
20.参考文献	適宜、授業中に指示します。					
21.成績評価	個人調査の成果物：50%・・・学習目標①② 行程表（個人課題に基づき提出したもの）：30%・・・学習目標④ 専攻分野学びについてのまとめ（2 本）：20%・・・学習目標② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別な事情の無い欠席については、基本的には認められませんので留意して下さい。					
22.コメント	コロナ禍によって人々の価値観は大きく変動し、観光に求めることもますます多様化しています。これからの観光にとって、ターゲットとなる客層のニーズを把握し、そのニーズに応える					

観光プロダクトを創り出す力を身につけることが大切です。ゼミでは、連携企業や団体から提示された観光の現場の課題について調査・分析し、その解決に取り組みます。 【注意点】 ※1 ホスピタリティ産業はマナーが第一です。連携先との打ち合わせやインタビューなどの際には常に身なりや行動に注意すること。 ※2 フィールドワークは原則必ず参加してください（実費です）。正当な理由がなく欠席した場合には、評価がマイナスされます。 ※ チームワークを大事にしてください。観光の仕事は相手の気持ちを考えることが大切です。お互いに高めうことができるように、相手を受け止め、働きかけてください。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）		
23.オフィスアワー 個人研究室：水曜日 3 時限（春） 学修支援センター：水昼休み（春）		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	《オリエンテーション》 ・ 授業の目的、学習目標、成績評価の方法、卒業研究、就活との関係についての理解 ・ 授業の進め方全体やゼミで目指す方向を確認 ・ チーム分け実施	・ パソコンを持参 ・ チーム分けによるグループ活動 ・ 課題については、チームごとに提出すること。
第 2 回 4 月 15 日	【キャリアワーク①】 ・ キャリアサポート室 ・ 就職ガイダンス ・ 3 年次春学期にすべきことについて等	・ パソコンを持参 ・ チーム分けによるグループ活動 ・ 課題については、チームごとに提出すること。
第 3 回 4 月 22 日	【キャリアワーク②】 ・ マイナビによる説明会 ・ 就職活動の動向、キャリア形成など	・ パソコンを持参 ・ チーム分けによるグループ活動 ・ 課題については、チームごとに提出すること。
第 4 回 5 月 13 日	【研究テーマについての検討①】 ・ チームごとに研究テーマを議論 ・ 地域の選定	・ パソコンを持参 ・ チーム分けによるグループ活動 ・ 課題については、チームごとに提出すること。
第 5 回 5 月 20 日	【研究テーマについての検討②】 ・ チームごとに研究テーマを議論 ・ 地域の選定	・ パソコンを持参 ・ チーム分けによるグループ活動 ・ 課題については、チームごとに提出すること。
第 6 回 5 月 27 日	産学官連携プロジェクト、キックオフセミナー実施（尼崎） 【チーム別、研究地域の決定、地域等の現状把握と分析①】 ・ 研究地域における現状の把握と分析 ・ 研究地域における課題の発見	・ パソコンを持参 ・ チーム分けによるグループ活動 ・ 課題については、チームごとに提出すること。
第 7 回	【チーム別、研究地域の決定、地域等の現状把握と分	・ パソコンを持参

6月3日	析②】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見	・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第8回 6月10日	【チーム別、研究地域の決定、地域等の現状把握と分析③】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第9回 6月17日	・ハイアットリージェンシーホテル箱根の紹介 【チーム別、研究地域の決定、地域等の現状把握と分析④】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第10回 6月24日	【チーム別、研究地域の課題解決に向けての提案①】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見 ・研究地域における課題解決に向けての提案の議論	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第11回 7月1日	【チーム別、研究地域の課題解決に向けての提案②】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見 ・研究地域における課題解決に向けての提案の議論	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第12回 7月8日	【チーム別、研究地域の課題解決に向けての提案②】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見 ・フィールドワーク実施 ・研究地域における課題解決に向けての提案の議論	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第13回 7月15日	【チーム別、研究地域の課題解決に向けての提案②】 ・研究地域における現状の把握と分析 ・研究地域における課題の発見 ・フィールドワーク実施 ・研究地域における課題解決に向けての提案の議論	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第14回 7月22日	【各チームによる発表】 ・研究地域における課題解決に向けての提案の発表	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。
第15回 7月29日	【秋学期に向けて提案事項の確認】 ・研究地域における課題解決に向けての提案の再考	・パソコンを持参 ・チーム分けによるグループ活動 ・課題については、チームごとに提出すること。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A01	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 1/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス)			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120		

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】 ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第 12 回】 ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議① [ゼミ内] 【第 14 回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議② [学年全体] ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 < 秋学期 > 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A02	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 2/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス)			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120		

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】 ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第 12 回】 ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議① [ゼミ内] 【第 14 回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議② [学年全体] ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 < 秋学期 > 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A03	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 3/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材	適宜、配布・案内します。					
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、卒業論文では使用不可とします。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダン			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクショ		

	ス) ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・ 研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	ン及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120 分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・ 研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】 (1 限目：評価と実践) ・ 卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・ テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・ テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・ 仮アウトラインの作成 ・ 関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・ 仮アウトラインの作成 ・ 関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・ 関連文献の調査と収集③ ・ 文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・ 関連文献の調査と収集④ ・ 文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第 12 回】 ・ ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・ 文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・ 春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・ 春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議②〔学年全体〕 ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 <秋学期> 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） <秋学期> ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120

	評) 【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	分) ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A04	2.科目名	卒業研究（教育福祉 4/9）		3.単位数	4
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法　〔第3版〕』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス)			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120		

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】 (1 限目：評価と実践) ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第 12 回】 ・ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議① [ゼミ内] 【第 14 回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議② [学年全体] ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 < 秋学期 > 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A05	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 5/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻				9.履修学年	4 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス)			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120		

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第2回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第4回】 (1 限目：評価と実践) ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第6回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第8回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第10回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第12回】 ・ポスターの作成① 【第12回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議① [ゼミ内] 【第14回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議② [学年全体] ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 < 秋学期 > 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A06	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 6/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日 2 限 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダン			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクショ		

	ス) ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第 2 回】 ・ 研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	ン及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120 分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・ 研究テーマの確定と発表② 【第 4 回】 (1 限目：評価と実践) ・ 卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・ テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第 6 回】 ・ テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・ 仮アウトラインの作成 ・ 関連文献の調査と収集① 【第 8 回】 ・ 仮アウトラインの作成 ・ 関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・ 関連文献の調査と収集③ ・ 文献の読解と整理① 【第 10 回】 ・ 関連文献の調査と収集④ ・ 文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・ ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第 12 回】 ・ ポスターの作成① 【第 12 回】 ・ ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・ 文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・ 春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議①〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・ 春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議②〔学年全体〕 ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 <秋学期> 【第 16 回】	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） <秋学期> ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120

	評) 【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	分) ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A07	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 7/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	三好徹明、吉田裕彦					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10%【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10%【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50%（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	三好：調整中					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス)			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120		

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第2回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第4回】 (1 限目：評価と実践) ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第6回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第8回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第10回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第12回】 ・ポスターの作成① 【第12回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議① [ゼミ内] 【第14回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議② [学年全体] ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 < 秋学期 > 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A08	2.科目名	卒業研究 (教育福祉 8/9)		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子、三好徹明					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	・ 途中経過報告書Ⅰ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈春学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈春学期終盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 途中経過報告書Ⅱ（これまでの研究の成果と今後への展望）〈秋学期当初〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ 中間発表〈秋学期中盤〉：10％【学習目標①②③④に対応】 ・ ゼミ内での最終発表〈秋学期終盤〉：10％【学習目標⑤に対応】 ・ 卒業論文：50％（「卒業論文ルーブリック」参照）【学習目標⑤に対応】					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。					
23.オフィスアワー	三好：春学期月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・ 春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス)			◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ Oe ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120		

	・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第2回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240 分)	分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120 分)
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第4回】 ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉 ※各ゼミ教室で ZOOM 配信。オンデマンド動画でも視聴あり。	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240 分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120 分)
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第6回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240 分)
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第8回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分)
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第10回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分) ○関連文献の調査と収集 (120 分) ○文献の読解と整理 (120 分)
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) 【第12回】 ・ポスターの作成① 【第12回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120 分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120 分)
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議① [ゼミ内] 【第14回】 ・春学期中間発表 (ポスターセッション) と討議② [学年全体] ※評価と実践の時間も活用	◆ノートパソコン持参◆ ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分) ○ポスター発表と意見交換のまとめ (240 分)

【第 15 回】 < 秋学期 > 【第 16 回】	【第 15 回】 ・ 春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・ 卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・ 秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・ e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・ 最終アウトラインの作成 ・ 論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・ 論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ・ 論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・ 論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・ 秋学期中間発表と討議① ・ 論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・ 秋学期中間発表と討議② ・ 論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・ 秋学期中間発表と討議③ ・ 論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑨ 【第 26 回】 ・ 論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分） ○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分）

	【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評） ※パワーポイントでの作成	○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A09	2.科目名	卒業研究 （教育福祉 9/9）		3.単位数	4
4.授業担当教員	山本秀樹、岩本裕子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 「卒業研究」では、各自の興味関心に基づいて教育に関する卒業論文を作成することを目的とする。 【概要】 卒業論文の作成にあたっては、論文作成に必要な手続きや書き方を学び、関心を持つ問題を絞り込む。また、これまでの専門演習において培ってきた知識や技能をベースにテーマ設定を行い、自ら研究計画を立て、先行研究や文献、データの収集・整理・まとめを行い、それらに基づいて説得力のある結論や提案を導く。					
18.学習目標と DPとの関連	○本科目の学習目標は、教育福祉学科の DP のうち、(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力、と関連します。 ①卒業論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ②自らの興味関心に基づき、研究するに相応しいテーマを設定する。 ③卒業論文完成までの研究計画を立て、研究完遂の見通しを得る。 ④先行研究を収集し、その内容をまとめ、整理した上で、自らの論立てに活用する。 ⑤卒業論文を完成させ、発表する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	・ 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019 年 ・ 古郡延治『論文レポートのまとめ方』ちくま書房、1997 年 ・ 戸田山和久『論文の教室ーレポートから卒論までー』NHK ブックス、2002 年					
21.成績評価	春学期 ・ 経過報告Ⅰ 30% ・ 経過報告Ⅱ 30% ・ 全体の構成 40% 秋学期 ・ 経過報告Ⅲ 30% ・ 経過報告Ⅳ 30% ・ 卒業論文 40%					
22.コメント	ゼミの仲間たちと共に励まし合い、切磋琢磨しながら、4 年間の総まとめとして、各自のテーマに基づいた卒業研究を遂行しましょう。 特に社会福祉士国家試験を受験する学生は、受験対策のため、提示スケジュールより前倒しで卒論完成が必須となります。夏学期終了時点（秋学期当初時点）での完成を目指します。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					

23.オフィスアワー		問い合わせには随時対応します。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 4/8 【第2回】 4/15	【第1回】 ・春学期オリエンテーション (本授業の概要と授業の進め方、評価方法のガイダンス) ・eポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入 【第2回】 ・研究テーマの確定と発表① ○研究テーマ確定への準備と発表準備 or 発表まとめ (240分)	◆ノートパソコン持参◆ ※以降、毎回必要！ ○eポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認 (120分) ○研究テーマ確定への準備と発表準備 (120分)
【第3回】 4/22 【第4回】 5/13	【第3回】 ・研究テーマの確定と発表② 【第4回】 (1限目：評価と実践) ・卒業論文作成ガイダンス〈全体会〉	◆ノートパソコン持参◆ ○研究テーマ確定への準備 or 発表まとめ (240分) ○卒業論文作成ガイダンスの復習 (120分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (120分)
【第5回】 5/20 【第6回】 5/27	【第5回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理① 【第6回】 ・テーマにした分野の基本概念、用語の整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240分) ○テーマにした分野の基本概念、用語の整理 (240分)
【第7回】 6/3 【第8回】 6/10	【第7回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集① 【第8回】 ・仮アウトラインの作成 ・関連文献の調査と収集②	◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120分) ○関連文献の調査と収集 (120分) ◆ノートパソコン持参◆ ○仮アウトラインの作成 (120分) ○関連文献の調査と収集 (120分)
【第9回】 6/17 【第10回】 6/24	【第9回】 ・関連文献の調査と収集③ ・文献の読解と整理① 【第10回】 ・関連文献の調査と収集④ ・文献の読解と整理②	◆ノートパソコン持参◆ ○関連文献の調査と収集 (120分) ○文献の読解と整理 (120分) ○関連文献の調査と収集 (120分) ○文献の読解と整理 (120分)
【第11回】 7/1 【第12回】 7/8	【第11回】 ・ポスターセッションのあり方と流れについて (発表と意見交換&まとめ⇒卒論完成へ) ・ポスターの作成① 【第12回】 ・ポスターの作成②	◆ノートパソコン持参◆ ・文献の読解と整理 (120分) ○ポスター作成準備 (これまでの研究の成果と今後への展望) の作成 (120分)
【第13回】	【第13回】	◆ノートパソコン持参◆

7/15 【第 14 回】 7/22	・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議① 〔ゼミ内〕 【第 14 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）と討議② 〔学年全体〕 ※評価と実践の時間も活用	○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分） ○ポスター発表と意見交換のまとめ（240 分）
【第 15 回】 7/29 < 秋学期 > 【第 16 回】 10/1	【第 15 回】 ・春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめと討議 ・卒論完成に向けて、春学期の成果と秋学期の計画の確認 ◇◇◇秋学期◇◇◇ 【第 16 回】 ・秋学期オリエンテーション （これまでの振り返りと今学期の見通し確認） ・e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入	◆ノートパソコン持参◆ ○春学期中間発表（ポスターセッション）のまとめ（240 分） < 秋学期 > ◆ノートパソコン持参◆ ○e ポートフォリオへの前学期のリフレクション及び今学期の目標記入の仕上げと確認（120 分） ○途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の作成（120 分）
【第 17 回】 10/8 【第 18 回】 10/15	【第 17 回】 ・最終アウトラインの作成 ・論文執筆と個別相談① 【第 18 回】 ・論文執筆と個別相談②	◆ノートパソコン持参◆ ●途中経過報告書 2（これまでの研究の成果と今後への展望）の提出 ○最終アウトラインの作成（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 19 回】 10/22 【第 20 回】 10/29	【第 19 回】 ・論文執筆と個別相談③ 【第 20 回】 ・論文執筆と個別相談④	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（240 分） ●論文題目変更届け提出（10/31 まで：該当者のみ） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備（120 分）
【第 21 回】 11/5 【第 22 回】 11/12	【第 21 回】 ・秋学期中間発表と討議① ・論文執筆と個別相談⑤ 【第 22 回】 ・秋学期中間発表と討議② ・論文執筆と個別相談⑥	◆ノートパソコン持参◆ ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○秋学期中間発表の準備 or 討議のまとめ（120 分）
【第 23 回】 11/19 【第 24 回】 11/26	【第 23 回】 ・秋学期中間発表と討議③ ・論文執筆と個別相談⑦ 【第 24 回】 ・論文執筆と個別相談⑧	◆ノートパソコン持参◆ ○秋学期中間発表の討議のまとめ（120 分） ○論文執筆（120 分） ○論文執筆（240 分）
【第 25 回】 12/3	【第 25 回】 ・論文執筆と個別相談⑨	○論文執筆（240 分） ○ゼミ内最終発表会準備（120 分）

【第 26 回】 12/10	【第 26 回】 ・論文執筆と個別相談⑩	○論文執筆（120 分）
【第 27 回】 12/17 【第 28 回】 1/7	【第 27 回】 ・ゼミ内最終発表会①（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 28 回】 ・ゼミ内最終発表会②（ゼミ内にて発表と質疑、講評）	◆ノートパソコン持参◆ ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○ゼミ内最終発表会準備 or 発表まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分）
【第 29 回】 1/14 【第 30 回】 1/21	【第 29 回】 ・ゼミ内最終発表会③（ゼミ内にて発表と質疑、講評） 【第 30 回】 ・卒業論文発表会〈全体会〉 （各ゼミ代表者による発表と質疑応答、講評）	◆ノートパソコン持参（発表者）◆ ○ゼミ内最終発表会まとめ（120 分） ○論文の推敲と最終調整（要旨作成を含む）（120 分） ○卒業論文発表会のまとめ（240 分） ●卒業論文の提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A10	2.科目名	卒業研究 （尼崎経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 これまで経営学を勉強してきた皆さんにとって、卒業研究は大学生の最後の総仕上げになります。卒業研究は、これから1年をかけて作成するものです。皆さんがこれまで履修してきた科目とは「まったく」異なります。問題意識のなから、テーマを設定し、その「問い」をたて「解答」を導きだします。自らが設定して「問い」に答えるための「方法論」を定めます。問いに答えるために必要なデータを収集し、3年の春のゼミで総復習した経営学のなかから見だし、そのフレームをさらに深掘りします。そのフレームを使って、分析検討し、緻密な論理					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の以下の学習に関連しています。 (1)自律的で主体的な態度 卒業研究には時間との自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 他者の考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。 (6) 専門的知識・技能 の活用力 論文作成にあたり、その分野の文献のレビューを行い、専門的知識・技能を高めること、的確なデータを収集し、帰納的に論理を組み立てることができる。					
19.教科書・教材	卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 3 年次使用の以下のテキストも利用する。 ・戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK 出版。ISBN：978-4-140-91272-0 ・日本経営協会(2023)『マネジメント検定試験公式テキスト(Ⅲ級)－経営学の基本』中央経済社。ISBN：978-4-502-43511-9					
20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第3版」でも内容は同じです）					
21.成績評価	研究計画書	20%				
	中間・最終報告会	20%				
	卒業論文	50%				
	学修カルテ	10%				
22.コメント	・卒論は、授業内でできることはわずかです。授業ではゼミでの報告が中心になります。ゼミで報告し、コメントをもらって授業外で、個人で書き上げ、仕上げていく個人ワークです。 ・ゼミで他のメンバーにしっかりと説明することで、自分の理解が不十分なところがわかってきます。					

	・その際に、生成 AI 利用も無制限で認めますが、決して正しいと信用してはいけません。自分の考えや整理の工夫に使いましょう。 ・毎回、必ず PC をもってくること。	
23.オフィスアワー	前期： ・センターオフィスアワー：月曜日第 3 限 13:15～14:45 (4 階学習支援室) ・研究室オフィスアワー：月曜日第 5 限 16:30～18:00 (8 階研究室 805) 後期： ・センターオフィスアワー：月曜日第 3 限 13:15～14:45 (4 階学習支援室) ・研究室オフィスアワー：月曜日第 4 限 15:30～16:30 (8 階研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、学修カルテ、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を学修カルテに入力する。 ・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●春課題の研究計画の報告 ・卒業論文のテーマと背景の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	第 1 回 学修カルテの入力を行う 春の課題の研究計画書の再検討 第 2 回 ○研究計画書の準備
第 3/4 回	第 3 回 ●研究計画の修正・報告 ・テーマ修正，論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究計画の立案・報告 ・研究計画書の作成 ・研究計画書の発表の準備	第 3 回 ○研究計画書の準備 第 4 回 ○研究計画書の作成
第 5/6 回	第 5 回 ●研究計画の報告 ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る 第 6 回 ●研究計画の報告 ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る	第 5 回 ・研究計画書の作成 第 6 回 ・研究計画書の完成
第 7/8 回	第 7 回 ●研究計画書の完成 ・研究計画書の様式を完成。 第 8 回 ●個別研究報告①	第 7 回 各自論文の執筆と報告者はその報告の準備 第 8 回 各自論文の執筆と報告者はその報告の準備

	・担当学生による研究報告。	
第 9/10 回	第 9 回 ●個別研究報告② ・担当学生による研究報告。 第 10 回 ●個別研究報告③ ・担当学生による研究報告。	第 9 回 各自論文の執筆と報告者はその報告の準備 第 10 回 各自論文の執筆と報告者はその報告の準備
第 11/12 回	第 11 回 ●個別研究報告④ ・担当学生による研究報告。 第 12 回 ●個別研究報告⑤ ・担当学生による研究報告。	第 11 回 各自論文の執筆と報告者はその報告の準備 第 12 回 各自論文の執筆と報告者はその報告の準備
第 13/14 回	第 13 回 ●個別研究報告⑥ ・担当学生による研究報告。 第 14 回 ●個別研究報告⑦ ・担当学生による研究報告。	第 13 回 ・各自論文の執筆と報告者はその報告の準備 第 14 回 ・各自論文の執筆と報告者はその報告の準備
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●卒論の中間発表と授業アンケート ・各自、卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を学修カルテに入力。	第 15 回 ・夏季休業中の卒論執筆 秋学期 第 16 回 ・卒論執筆
第 17/18 回	第 17 回 ●個別研究報告⑧ ・担当学生による研究報告。 第 18 回 ●個別研究報告⑨ ・担当学生による研究報告。	第 17 回 ・論文執筆，次回担当者は報告の準備 第 18 回 論文執筆，次回担当者は報告の準備
第 19/20 回	第 19 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。 第 20 回 ●個別研究報告⑪ ・担当学生による研究報告を行う。	第 19 回 ・論文執筆，次回担当者は報告の準備 第 20 回 ・論文執筆，次回担当者は報告の準備

第 21/22 回	第 21 回 ●個別研究報告⑫ ・担当学生による研究報告。 第 22 回 ●個別研究報告⑬ ・担当学生による研究報告。	第 21 回 ・論文執筆，次回担当者は報告の準備 第 22 回 ・論文執筆，次回担当者は報告の準備
第 23/24 回	第 23 回 ●個別研究報告⑭ ・担当学生による研究報告。 第 24 回 ●個別研究報告⑮ ・担当学生による研究報告。	第 23 回 ・各自論文の執筆と報告者はその報告の準備 第 24 回 ・各自論文の執筆と報告者はその報告の準備
第 25/26 回	第 25 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出 第 26 回 ●卒論提出の準備② ・論文を推敲し、提出期日までに提出	第 25 回 ・卒論提出の準備 第 26 回 ・卒論提出の準備
第 27/28 回	第 27 回 ●卒論提出の準備③ ・論文を推敲し、提出期日までに提出 第 28 回 ●卒論提出の準備④ ・論文を推敲し、提出期日までに提出。	第 27 回 ・卒論提出の準備 第 28 回 ・卒論提出の準備
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、クラス内での報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	第 29 回 ・報告会に向けた準備

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A11	2.科目名	卒業研究（尼崎経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	総合演習科目 マーケティング、プランニング分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修		7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	到達確認試験合格者		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	[目的] 本演習では、マーケティングの基礎理論の学びをベースに、それぞれが卒業研究テーマを定め、提出期限までに卒業論文を完成させることを目的とする。テーマ選定にあたっては、単に個人の興味からだけではなく、自身の将来獲得すべきキャリア像に近づくテーマ選定が重要である。また、研究を進めるのに十分なデータや事例のあるものが望ましい。 [概要] 本演習では、個人の研究を個別に支援できる状況を可能な限り確保し、授業を推進していく。また、全体で共有すべき内容については、全体授業を通じ周知していく。 なお、論文の進捗					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①マーケティングの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる＝知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる＝情報収集/分析力 ③マーケティング技術を高め、自身のキャリア育成のツールとして活用できる＝思考/構想 [関連するディプロマポリシー] （１）自立性 （２）社会的貢献 （４）問題発見・解決力（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	それぞれの研究テーマにより、教材や資料を提示する。					
20.参考文献	都度、紹介する					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)提出課題への対応:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)卒業研究の中間発表:20 点 (4)卒業研究の提出と完成度:40 点 (5)e-ポートフォリオ「卒業研究で学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10 点					
22.コメント	4 年間の学びの集大成となる卒業研究、かつ将来のキャリアの核となるべき知識の基礎となる卒業研究。その卒業研究に真摯に向き合って、優秀な卒業論文を作成してほしい。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日 2 限 センターオフィスアワー： 月曜日 1 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回			[予習]		
第 2 回	○オリエンテーション			・自己紹介を考えてくる		

	・講義の概要、講義の流れ ・卒論作成に向けての確認 第 2 回 ・研究テーマの選定について	5 分で、興味ある業界、領域を語れるように ・事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 3 回 第 4 回	第 3 回、第 4 回 ○「卒業研究」研究計画書の作成	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 5 回 第 6 回	第 5 回、第 6 回 ○「卒業研究」テーマに関する情報収集	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 7 回 第 8 回	第 7 回、第 8 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・シノプシスの構築 ・章立ての確定 ・6000 字程度の論文作成	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 9 回 第 10 回	第 9 回、第 10 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・シノプシスの構築 ・章立ての確定 ・6000 字程度の論文作成	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 11 回 第 12 回	第 11 回、第 12 回 ○中間発表会に向けて ・準備 ・発表	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 13 回 第 14 回	第 13 回、第 14 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・論文作成、完成型を目指す	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる [中間レポート] 作成と提出
第 15 回 第 16 回	第 15 回、第 16 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・論文作成、完成型を目指す	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 17 回 第 18 回	第 17 回、第 18 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・論文作成、完成型を目指す	[予習] 事前に提示された講義資料を読んてくる (60 分) [復習] グループワークを見直し完成させる
第 19 回	第 19 回、第 20 回	[予習]

第 20 回	○「卒業研究」論文の作成 ・論文作成、完成型を目指す	事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 21 回 第 22 回	第 21 回、第 22 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・論文作成、完成型を目指す	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 23 回 第 24 回	第 23 回、第 24 回 ○「卒業研究」論文の作成 ・論文完成	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 25 回 第 26 回	第 25 回、第 26 回 ○「卒業研究」論文の完成 ・論文完成	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 27 回 第 28 回	第 27 回、第 28 回 ○「卒業研究」論文の完成、提出 ・論文完成 ・提出	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] グループワークを見直し完成させる
第 29 回 第 30 回	第 29 回、第 30 回 ○「卒業研究」論文発表会に向けて ・発表会の準備 ・発表	[復習] 総括試験の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A12	2.科目名	卒業研究（尼崎経営）		3.単位数	4												
4.授業担当教員	河内山潔																	
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上													
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習														
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。 【概要】 必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。 ●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。																	
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。																	
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。																	
20.参考文献																		
21.成績評価	<table><tr><td>研究計画書</td><td>20%</td><td>（学習目標①）</td></tr><tr><td>中間・最終報告会</td><td>20%</td><td>（学習目標①）</td></tr><tr><td>卒業論文</td><td>50%</td><td>（学習目標③）</td></tr><tr><td>e-ポートフォリオ</td><td>10%</td><td>（学習目標②）</td></tr></table>						研究計画書	20%	（学習目標①）	中間・最終報告会	20%	（学習目標①）	卒業論文	50%	（学習目標③）	e-ポートフォリオ	10%	（学習目標②）
研究計画書	20%	（学習目標①）																
中間・最終報告会	20%	（学習目標①）																
卒業論文	50%	（学習目標③）																
e-ポートフォリオ	10%	（学習目標②）																
22.コメント																		
23.オフィスアワー																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、e-ポートフォリオ、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方と卒論提出ま			第 1 回 ○e-ポートフォリオの入力を行う ○研究計画書の下書きの準備 第 2 回 ○研究計画書の準備														

	でのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案① ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	★毎回 PC 持参
第 3/4 回	第 3 回 ●研究計画の立案② ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究計画の立案③ ・研究計画書の作成 ・研究計画書の発表の準備	第 3 回 ○研究計画書の準備 第 4 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ★毎回 PC 持参
第 5/6 回	第 5 回 ●研究計画の報告① ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る 第 6 回 ●研究計画の報告② ・修正した研究計画を再度報告する。 (研究計画書の提出の準備を行う。)	第 5 回 ○フィードバックを受け、計画を練る 第 6 回 ○研究計画書の完成させる ★毎回 PC 持参
第 7/8 回	第 7 回 ●研究計画書の完成 ・研究計画書の様式を完成させる。 第 8 回 ●個別研究報告① ・担当学生による研究報告を行う。	第 7 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ○次回担当者は報告の準備を行う 第 8 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 9/10 回	第 9 回 ●個別研究報告② ・担当学生による研究報告を行う。 第 10 回 ●個別研究報告③ ・担当学生による研究報告を行う。	第 9 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 10 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 11/12 回	第 11 回 ●個別研究報告④ ・担当学生による研究報告を行う。 第 12 回 ●個別研究報告⑤ ・担当学生による研究報告を行う。	第 11 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 12 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 13/14 回	第 13 回	第 13 回

	●個別研究報告⑥ ・担当学生による研究報告を行う。 第 14 回 ●個別研究報告⑦ ・担当学生による研究報告を行う。	○次回担当者は報告の準備を行う 第 14 回 ○フィードバックを受け、修正作業を行う ★毎回 PC 持参
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	第 15 回 ○夏季休業中の卒論執筆の推進。 秋学期 第 16 回 ○卒論執筆の推進 ★PC 持参
第 17/18 回	第 17 回 ●個別研究報告⑧ ・担当学生による研究報告を行う。 第 18 回 ●個別研究報告⑨ ・担当学生による研究報告を行う。	第 17 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 18 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 19/20 回	第 19 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。 第 20 回 ●個別研究報告⑪ ・担当学生による研究報告を行う。	第 19 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 20 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 21/22 回	第 21 回 ●個別研究報告⑫ ・担当学生による研究報告を行う。 第 22 回 ●個別研究報告⑬ ・担当学生による研究報告を行う。	第 21 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 22 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 23/24 回	第 23 回 ●個別研究報告⑭ ・担当学生による研究報告を行う。 第 24 回 ●個別研究報告⑮ ・担当学生による研究報告を行う。	第 23 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 24 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 25/26 回	第 25 回 ●個別研究報告⑯	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う

	・担当学生による研究報告を行う。 第 26 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。	第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。 第 28 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	第 27 回 ○卒論提出の準備 第 28 回 ○卒論提出の準備 ★PC 持参
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、クラス内での報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	第 29 回 ○報告会に向けた準備 ★PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A13	2.科目名	卒業研究（尼崎経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる（通年）。前半は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 ①適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ②テーマに関する研究計画書を作成することができる。 ③論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ④学びの集大成として、卒業論文を完成させる。					
19.教科書・教材	使用しない					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	文献研究・資料収集など課題への取り組み： 20％ 【目標①に対応】 研究計画書： 20％ 【目標②に対応】 中間報告会・最終報告会： 10％ 【目標③に対応】 卒業論文： 50％ 【目標④に対応】					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー（水曜）昼休み 研究室オフィスアワー（金曜）4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2022 年度春学期 第 1 回・第 2 回	ガイダンス、e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 研究計画（1） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。			○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。(60 分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180 分)		
第 3 回・第 4 回	研究計画（2） ・論文の目的、概要を整理する。 研究計画（3） ・資料、参考文献リストを作成する。			○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。(180 分) ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)		
第 5 回・第 6 回	中間発表（1） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 中間発表（2） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。			○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)		
第 7 回・第 8 回	論文構成の検討 ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。			○研究を進める。(180 分) ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期		

	研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	限（ 月 日（ ）） ○研究を進める。(180 分)
第 9 回・第 10 回	個別研究報告（1） 個別研究報告（2）	○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 11 回・第 12 回	個別研究報告（3） 個別研究報告（4）	○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 13 回・第 14 回	報告会準備 中間報告会（1） ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。(300 分) ○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 15 回 2022 年度秋学期 第 16 回	中間報告会（2） ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届提出(提出期限 月 日（ ）） ○冬期休暇中に、5,000 字以上を執筆する。 (1440 分) 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出（5000 字以上） ○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。(60 分) ○研究を進める。(300 分)
第 17 回・第 18 回	中間研究報告（1） 中間研究報告（2）	○研究を進める。(300 分) ○研究を進める。(300 分)
第 19 回・第 20 回	中間研究報告（3） 中間研究報告（4）	○研究を進める。(300 分) ○研究を進める。(300 分)
第 21 回・第 22 回	個別研究報告（5） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（6） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。(300 分) ○研究を進める。(300 分)
第 23 回・第 24 回	個別研究報告（7） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（8） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。(600 分) ○研究を進める。(600 分)
第 25 回・第 26 回	論文要旨 ・論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。(600 分) ★原稿提出 ○原稿を修正する。(300 分)
第 27 回・第 28 回	卒論提出 報告会準備	○原稿を修正する。(300 分) ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。(240 分)
第 29 回・第 30 回	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A14	2.科目名	卒業研究（尼崎経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる（通年）ことが目的である。 【概要】 春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。秋学期は論文作成が中心であり、最終的に研究成果を発表する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見・解決力、専門的知識・技術の活用力の学修に関連しています。 ①適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ②論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ③学びの集大成として、卒業論文を完成させることができる。					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	指定しない					
21.成績評価	e-ポートフォリオの作成状況：10％・・・自律性に関連し、学習目標①に対応しています。 課題：20％・・・課題発見・解決力に関連し、学習目標①に対応しています。 研究計画書（5月30日提出期限）：10％・・・専門的知識・技術の活用力に関連し、学習目標①、②に対応しています。 中間報告会・最終報告会（日程別途指示）：10％・・・専門的知識・技術の活用力に関連し、学習目標②、③に対応しています。 卒業論文（提出期限別途指示）：50％・・・専門的知識・技術の活用力に関連し、学習目標③に対応しています					
22.コメント	① 授業時間外の学習・指導も必要になる。 ② 自主的な学習・研究を求める。					
23.オフィスアワー	（春学期）研究室オフィスアワー：木曜昼休み 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜日 4 限 （秋学期）研究室オフィスアワー：火曜日 2 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜日 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回・第 2 回 (4/8・4/15)	ガイダンス、eポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定をeポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 研究計画（1） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。			○ベンチマークチェックを行い、eポートフォリオに入力する。(60分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180分)		
第 3 回・第 4 回	研究計画（2）			○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。		

回 (4/22・ 5/13)	・論文の目的、概要を整理する。 研究計画（３） ・資料、参考文献リストを作成する。	（180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。（180 分）
第 5 回・第 6 回 (5/20・ 5/27)	中間発表（１） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 中間発表（２） ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 7 回・第 8 回 (6/3・6/10)	論文構成の検討 ・研究計画書（目的・研究方法）を見直す。 研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。（180 分） ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期限（5 月 30 日（土）） ○研究を進める。（180 分）
第 9 回・第 10 回 (6/17・ 6/24)	個別研究報告（１） 個別研究報告（２）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 11 回・第 12 回 (7/1・7/8)	個別研究報告（３） 個別研究報告（４）	○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 13 回・第 14 回 (7/15・ 7/22)	報告会準備 中間報告会（１） ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。（300 分） ○研究を進める。（180 分） ○研究を進める。（180 分）
第 15 回・第 16 回 (7/29・ 10/1)	中間報告会（２） ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届提出(提出期限 7 月 31 日（金）） ○冬期休暇中に、5,000 字以上を執筆する。（1440 分） 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出（5000 字以上） ○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。（60 分） ○研究を進める。（300 分）
第 17 回・第 18 回 (10/8・ 10/15)	中間研究報告（１） 中間研究報告（２）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 19 回・第 20 回 (10/22・ 10/29)	中間研究報告（３） 中間研究報告（４）	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 21 回・第 22 回 (11/5・ 11/12)	個別研究報告（５） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（６） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。（300 分） ○研究を進める。（300 分）
第 23 回・第 24 回 (11/19・	個別研究報告（７） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（８）	○研究を進める。（600 分） ○研究を進める。（600 分）

11/26)	・ 章ごとに報告する。	
第 25 回・第 26 回 (12/3・ 12/10)	論文要旨 ・ 論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。(600 分) ★原稿提出 ○原稿を修正する。(300 分)
第 27 回・第 28 回 (12/17・ 1/7)	卒論提出 報告会準備	○原稿を修正する。(300 分) ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。(240 分)
第 29 回・第 30 回 (1/14・ 1/21)	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M01	2.科目名	卒業研究（三木経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。					
18.学習目標と DP との関連	●春学期 3 年次に設定した卒業論文のテーマについてデータを収集する。 ●秋学期 卒業論文を完成させる。 【特に次の DP との関連が強い】 (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。					
20.参考文献						
21.成績評価	議論への貢献度（出席含む） 20% 中間・最終報告会 20% 卒業論文完成度 60%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案 ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。			★毎回 PC 持参		
第 3/4 回	第 3 回					

	●研究① ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究② ・仮説あるいは社会課題を 800 字でまとめる。	
第 5/6 回	第 5 回 ●研究③ ・仮説、課題について、ゼミで議論する。 ・立証、提案に必要なデータをリストアップする。 第 6 回 ●研究④ ・立証、提案に必要なデータについて、ゼミで議論する。	卒業論文の目次案を作成する
第 7/8 回	第 7 回・第 8 回 ●研究⑤ ・研究計画を各自 5 分で発表する。	ゼミメンバーの研究計画に良い点と改善点を 1 つ以上コメントする。(web クラス)
第 9/10 回	第 9 回・第 10 回 中間報告会にむけて準備	報告書用の写真を 2 点以上撮影する (要現場許可)
第 11/12 回	第 11 回・第 12 回 中間報告会に向けて準備	視察報告書を作成する
第 13/14 回	第 13 回・第 14 回 中間報告会	個別に卒論を書き進め、章ごとに web クラスにアップする。
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	○夏季休業中を含め、卒論執筆の推進。
第 17/18 回	第 17 回・第 18 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 19/20 回	第 19 回・第 20 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う

第 21/22 回	第 21 回・第 22 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	視察報告書を仕上げてくる。 他者の報告にコメントする。(web クラス)
第 23/24 回	第 23 回・第 24 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	
第 25/26 回	第 25 回・第 26 回 卒論提出 報告会に向けて発表資料づくり	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回・第 28 回 ゼミ内卒論報告会	卒論提出の準備
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会 ゼミ内卒論報告会 ゼミ代表決定 第 30 回 ●卒論報告会 学科卒論報告会	報告会に向けた準備

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M02	2.科目名	卒業研究（三木経営）		3.単位数	4										
4.授業担当教員	樋田大二郎															
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期											
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上											
10.取得資格の要件				11.先修条件												
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習											
16.履修制限																
17.授業の目的と概要	4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。															
18.学習目標と DP との関連	●春学期 3 年次に設定した卒業論文のテーマについてデータを収集する。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 春学期の視察時に発見した課題に対し、提案書を作成する。 【特に次の DP との関連が強い】 (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。															
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。															
20.参考文献																
21.成績評価	<table><tr><td>議論への貢献度</td><td>20%</td></tr><tr><td>視察報告書の内容</td><td>10%</td></tr><tr><td>中間・最終報告会</td><td>20%</td></tr><tr><td>卒業論文</td><td>40%</td></tr><tr><td>課題解決提案内容</td><td>10%</td></tr></table>						議論への貢献度	20%	視察報告書の内容	10%	中間・最終報告会	20%	卒業論文	40%	課題解決提案内容	10%
議論への貢献度	20%															
視察報告書の内容	10%															
中間・最終報告会	20%															
卒業論文	40%															
課題解決提案内容	10%															
22.コメント																
23.オフィスアワー																
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)												
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案 ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。			★毎回 PC 持参												

第 3/4 回	第 3 回 ●研究① ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究② ・仮説あるいは社会課題を 800 字でまとめる。	
第 5/6 回	第 5 回 ●研究③ ・仮説、課題について、ゼミで議論する。 ・立証、提案に必要なデータをリストアップする。 第 6 回 ●研究④ ・立証、提案に必要なデータについて、ゼミで議論する。 ●視察計画 ・現場視察計画案を作成し、各自仮テーマを設定する。	卒業論文の目次案を作成する
第 7/8 回	第 7 回 ●研究⑤ ・研究計画を各自 5 分で発表する。 第 8 回 ●視察計画② ・視察スケジュールを確定する。	ゼミメンバーの研究計画に良い点と改善点を 1 つ以上コメントする。(web クラス)
第 9/10 回	第 9 回・第 10 回 ●現場視察① ・視察計画書に基づき、視察を行う。	報告書用の写真を 2 点以上撮影する（要現場許可）
第 11/12 回	第 11 回・第 12 回 ●現場視察② ・視察計画書に基づき、視察を行う。	視察報告書を作成する
第 13/14 回	第 13 回・第 14 回 ●個別研究指導	個別に卒論を書き進め、章ごとに web クラスにアップする。
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	○夏季休業中を含め、卒論執筆の推進。

第 17/18 回	第 17 回・第 18 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 19/20 回	第 19 回・第 20 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 21/22 回	第 21 回・第 22 回 ●視察を踏まえだ課題への提案と議論	視察報告書を仕上げてくる。 他者の報告にコメントする。(web クラス)
第 23/24 回	第 23 回・第 24 回 ●3-4 年合同ゼミ 3 年生の卒論について、意見交換を行う。 実施日程は調整します。	
第 25/26 回	第 25 回・第 26 回 ●個別研究指導	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回・第 28 回 ●卒論提出の準備 ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	卒論提出の準備
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、ゼミ報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	報告会に向けた準備

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M03	2.科目名	卒業研究（三木経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	マネジメント専門演習を履修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	各自のコース関連領域をテーマとした卒業研究を行う。ゼミ生同士の連携やコメント、議論を図りながら、4 年間の集大成である卒業論文作成を行う。そのため、論文テーマ検証から最終提出まで、計画的な卒論製作指導を行う必要がある。テーマは特に限定はしないがサービスマーケティングの視点を活かしながら作成することになる。そのため、より一層の専門的知識を学生は自ら積極的に得るようにして欲しい。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 組織経営の仕組みを理解できる ≪レベル3≫組織経営の具体的なケースについて問題点を指摘し、改善策を提案できる。 学習目標に従ってテーマを設定し、卒業論文としてまとめる。 ①卒業研究のテーマを設定し、研究計画に基づいた推進ができる。 ②資料や情報の収集力ならびに分析力の向上 ③4 年間学んだ専門知識を駆使してテーマに対する結論を導き出す ③卒業論文を期日通りに仕上げる 【ベンチマーク】この科目で重視する K U I S 学習ベンチマーク 卒業論文の制作を通じて自律性を養う（自分自身の力で完成させる） 【自律性 レベル★★★★】 卒業論文を完成させるために情報収集力や情報発見力を高める。 【情報収集力／発見力 レベル★★★★】 卒業論文の指導や中間発表、成果発表等を通じてプレゼンテーション能力、表現力を鍛える 【プレゼンテーション能力／表現力 レベル★★★★】					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献	特になし					
21.成績評価	e ポートフォリオ：10％ 中間発表：15％ 計画書：10％ 最終報告：15％ 卒業論文評価：50％					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回 (xx/xx)	・ 履修確認 ・ 卒業研究の進め方ガイダンス ・ e-ポートフォリオ入力			P C 持参		
第 02 回 (xx/xx)	・ 卒業論文執筆要領説明 ・ 書き方、まとめ方 過去の論文紹介 ・ スケジュール説明			P C 持参		
第 03 回	・ 論文テーマの検討と研究計画書の作成指導			P C 持参		

(xx/xx)		
第 04 回 (xx/xx)	・ 論文テーマの検討と研究計画書の作成指導	P C 持参
第 05 回 (xx/xx)	・ 論文テーマの検討と研究計画書の作成指導	P C 持参
第 06 回 (xx/xx)	・ 卒業論文研究計画書の発表	○研究計画書提出 (WebClass) P C 持参
第 07 回 (xx/xx)	・ 卒業論文執筆指導 (プロット作成) 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物は W o r d で作成し、WebClass にアップロードする。	P C 持参
第 08 回 (xx/xx)	・ 卒業論文執筆指導 (プロット作成) 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物は W o r d で作成し、WebClass にアップロードする。	P C 持参
第 09 回 (xx/xx)	・ 卒業論文執筆指導 (プロット作成) 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物は W o r d で作成し、WebClass にアップロードする。	P C 持参
第 10 回 (xx/xx)	・ 卒業論文執筆指導 (プロット作成) 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物は W o r d で作成し、WebClass にアップロードする。	P C 持参
第 11 回 (xx/xx)	・ 卒業論文執筆指導 (プロット作成) 順番で研究テーマに沿ったプロットを作成し、それを発表する。発表物は W o r d で作成し、WebClass にアップロードする。	P C 持参
第 12 回 (xx/xx)	・ 中間報告会準備 プロットに沿って、研究概要を PowerPoint にまとめる。	P C 持参
第 13 回 (xx/xx)	・ 中間報告会準備 プロットに沿って、研究概要を PowerPoint にまとめる。	P C 持参
第 14 回 (xx/xx)	・ 中間報告会準備 プロットに沿って、研究概要を PowerPoint にまとめる。	P C 持参
第 15 回 (xx/xx)	中間報告会	○卒業論文研究計画書と中間報告プレゼンを WebClass にアップロードする。 ○卒業論文研究計画書と中間報告プレゼンを WebClass を e-ポートフォリオに投稿し、今後の研究計画を記載する。 P C 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M04	2.科目名	卒業研究 (三木経営)		3.単位数	4
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 知識の統合と卒業論文の作成 【授業概要】 これまでの専門科目やゼミでの学修、インターンシップなどオフキャンパスの実践学修に基づき、各自の興味・関心を持つテーマに関し、骨子となるべき文献・著作についての更なる考察と分析を行い、必要に応じてフィールド調査やアンケート調査などを実施し、さまざまな学習の集大成として卒論の作成を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連している。 具体的には、様々な知識の統合を図り、業界や企業あるいは地域社会の組織経営の具体的ケースについて状況分析し、問題点を指摘し、改善策を提案できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・ e-ポートフォリオ 10% ・ 研究計画書 20% ・ 中間発表 10% ・ 期末発表 10% ・ 卒業論文 50%					
22.コメント	通算授業回数 30 回です。 春学期は 1 回目から 15 回目の内容で進みます。 生成 AI 利用：条件付きで認める。ただし、レポート・テストでは使用不可とする。 また、卒論については、卒業論文執筆要項に準ずる。					
23.オフィスアワー	春学期： 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館） 水曜日Ⅰ限 研究室オフィスアワー 秋学期： 木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日Ⅳ限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	ガイダンス、eポートフォリオ、卒論スケジュール ・ 前学期の振り返り、春学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・ 授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。			○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。(60 分) ○テーマを見直す。(180 分)		

2	研究計画（１） ・ 卒論執筆要領を説明する。 ・ テーマのねらい、研究方法を検討する。	○テーマを見直す。（180 分）
3	論文の書式 ・ 論文の書式について学ぶ。	○研究を進める。（180 分）
4	研究計画（２） ・ 論文の目的、概要を整理する。 ・ 資料、参考文献リストを作成する。	○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。 （180 分） ○資料、参考文献リストを完成させる。（180 分）
5	中間発表（１） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
6	中間発表（２） ・ テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。（180 分）
7	論文構成の検討（１） ・ 研究計画書（目的・研究方法）を見直す。	○研究を進める。（180 分）
8	論文構成の検討（２） ・ 資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。（180 分）
9	研究計画書の作成（１） ・ 研究計画書を修正する。	○研究を進める。（180 分）
10	個別指導	○研究を進める。（180 分）
11	個別指導	○研究を進める。（180 分）
12	個別指導	○研究を進める。（180 分）
13	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。（300 分）
14	中間報告会準備	○中間報告会資料を作成する。（300 分）
15	中間発表（３） ・ 現状、研究スケジュールを報告する。	○研究を進める。（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M05	2.科目名	卒業研究 (三木経営)		3.単位数	4										
4.授業担当教員	田中綾子															
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期											
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年生以上											
10.取得資格の要件				11.先修条件												
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習											
16.履修制限																
17.授業の目的と概要	4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。															
18.学習目標と DP との関連	●春学期 1. 卒業論文のテーマについて仮説を立ててデータを収集し、ゼミメンバーで議論する。 2. 「南海トラフ地震対策」「コロナ格差」または「難民支援」をテーマに時事に関するディベートを行う。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 春学期の視察時に発見した課題に対し、提案書を作成する。 【特に次の DP との関連が強い】 (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。															
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。															
20.参考文献	個別に適宜提示する。															
21.成績評価	<table><tr><td>議論への貢献度</td><td>20%</td></tr><tr><td>視察報告書の内容</td><td>10%</td></tr><tr><td>中間・最終報告会</td><td>20%</td></tr><tr><td>卒業論文</td><td>40%</td></tr><tr><td>課題解決提案内容</td><td>10%</td></tr></table>						議論への貢献度	20%	視察報告書の内容	10%	中間・最終報告会	20%	卒業論文	40%	課題解決提案内容	10%
議論への貢献度	20%															
視察報告書の内容	10%															
中間・最終報告会	20%															
卒業論文	40%															
課題解決提案内容	10%															
22.コメント																
23.オフィスアワー	金曜日昼休み															
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)												
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案 ・卒業論文執筆要領の説明			★毎回 PC 持参												

	・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。	
第 3/4 回	第 3 回 ●研究① ・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究② ・仮説あるいは社会課題を 800 字でまとめる。	
第 5/6 回	第 5 回 ●研究③ ・仮説、課題について、ゼミで議論する。 ・立証、提案に必要なデータをリストアップする。 第 6 回 ●研究④ ・立証、提案に必要なデータについて、ゼミで議論する。 ●視察計画 ・現場視察計画案を作成し、各自仮テーマを設定する。	卒業論文の目次案を作成する
第 7/8 回	第 7 回 ●研究⑤ ・研究計画を各自 5 分で発表する。 第 8 回 ●視察計画② ・視察スケジュールを確定する。	ゼミメンバーの研究計画に良い点と改善点を 1 つ以上コメントする。(web クラス)
第 9/10 回	第 9 回・第 10 回 ●現場視察① ・視察計画書に基づき、視察を行う。	報告書用の写真を 2 点以上撮影する（要現場許可）
第 11/12 回	第 11 回・第 12 回 ●現場視察② ・視察計画書に基づき、視察を行う。	視察報告書を作成する
第 13/14 回	第 13 回・第 14 回 ●個別研究指導	個別に卒論を書き進め、章ごとに web クラスにアップする。
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。 秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。	○夏季休業中を含め、卒論執筆の推進。

	●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	
第 17/18 回	第 17 回・第 18 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 19/20 回	第 19 回・第 20 回 ●個別研究報告 ・担当学生による研究報告を行う。	担当者は報告の準備を行う
第 21/22 回	第 21 回・第 22 回 ●視察を踏まえだ課題への提案と議論	視察報告書を仕上げてくる。 他者の報告にコメントする。(web クラス)
第 23/24 回	第 23 回・第 24 回 ●3-4 年合同ゼミ 3 年生の卒論について、意見交換を行う。 実施日程は調整します。	
第 25/26 回	第 25 回・第 26 回 ●個別研究指導	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回・第 28 回 ●卒論提出の準備 ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	卒論提出の準備
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、ゼミ報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	報告会に向けた準備

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M06	2.科目名	卒業研究（三木経営）		3.単位数	4
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる（通年）ことが目的である。 【概要】 春学期は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。秋学期は論文作成が中心であり、最終的に研究成果を発表する。					
18.学習目標と DPとの関連	○適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ○論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ○学びの集大成として、卒業論文を完成させることができる。					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	指定しない					
21.成績評価	○e-ポートフォリオの作成状況：10％ ○課題：10％ ◎研究計画書（5月30日提出期限）：10％ ◎中間報告会・最終報告会（日程別途指示）：10％ ◎卒業論文（提出期限別途指示）：50％ ○各種活動：10％ ※研究計画書の提出、中間報告会、報告会での報告が、単位認定の前提となります。					
22.コメント	① 授業時間外の学習・指導も必要になる。 ② 自主的な学習・研究を求める。					
23.オフィスアワー	（春学期）研究室オフィスアワー：火曜日昼休み 学修支援センターオフィスアワー：火曜日 4 限 （秋学期）研究室オフィスアワー：木曜日 4 限 学修支援センターオフィスアワー：火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回・第 2 回 (4/8・4/15)	ガイダンス、e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認する。 研究計画（1） ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。			○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。(60 分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180 分)		
第 3 回・第 4 回 (4/22・5/13)	研究計画（2） ・論文の目的、概要を整理する。 研究計画（3） ・資料、参考文献リストを作成する。			○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。(180 分) ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)		
第 5 回・第 6 回	中間発表（1）			○研究を進める。(180 分)		

回 (5/20・ 5/27)	・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 中間発表(2) ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。	○研究を進める。(180分)
第7回・第8回 (6/3・6/10)	論文構成の検討 ・研究計画書(目的・研究方法)を見直す。 研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	○研究を進める。(180分) ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期限(5月30日(土)) ○研究を進める。(180分)
第9回・第10回 (6/17・ 6/24)	個別研究報告(1) 個別研究報告(2)	○研究を進める。(180分) ○研究を進める。(180分)
第11回・第12回 (7/1・7/8)	個別研究報告(3) 個別研究報告(4)	○研究を進める。(180分) ○研究を進める。(180分)
第13回・第14回 (7/15・ 7/22)	報告会準備 中間報告会(1) ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。(300分) ○研究を進める。(180分) ○研究を進める。(180分)
第15回・第16回 (7/16・ 10/1)	中間報告会(2) ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、eポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定をeポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★(テーマ変更の場合)研究計画書変更届提出(提出期限7月31日(金)) ○休暇中に、5,000字以上を執筆する。(1440分) 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出(5000字以上) ○ベンチマークチェックを行い、eポートフォリオに入力する。(60分) ○研究を進める。(300分)
第17回・第18回 (10/8・ 10/15)	中間研究報告(1) 中間研究報告(2)	○研究を進める。(300分) ○研究を進める。(300分)
第19回・第20回 (10/22・ 10/29)	中間研究報告(3) 中間研究報告(4)	○研究を進める。(300分) ○研究を進める。(300分)
第21回・第22回 (11/5・ 11/12)	個別研究報告(5) ・章ごとに報告する。 個別研究報告(6) ・章ごとに報告する。	○研究を進める。(300分) ○研究を進める。(300分)
第23回・第24回 (11/19・ 11/26)	個別研究報告(7) ・章ごとに報告する。 個別研究報告(8) ・章ごとに報告する。	○研究を進める。(600分) ○研究を進める。(600分)
第25回・第26回 (12/3・	論文要旨 ・論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。(600分) ★原稿提出 ○原稿を修正する。(300分)

12/10)		
第 27 回・第 28 回 (12/17・ 1/7)	卒論提出 報告会準備	○原稿を修正する。(300 分) ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。(240 分)
第 29 回・第 30 回 (1/14・ 1/21)	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M09	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	総合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。 学修目標】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮) 作成を試みる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。 ※卒業論文を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。					
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻 看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	課題への取り組み 50% 研究課題レポート 50% 研究計画書・卒業論文の提出 ※ ルーブリック評価表に基づいて評価します					
22.コメント	実習等これまでの学修で疑問に思ったことや興味を持ったことについて、文献を調べ研究的に探究していきましょう。 課題・レポート・卒業論文の作成に関しては、生成 AI の利用を認めません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。			【最終提出物】 研究論文 1 部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M11	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	蛭子真澄					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師	11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は8実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は1領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること					
18.学習目標と D P との関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	課題への取り組み 50% 提出物 研究課題レポート 50% 研究計画書の提出 ※ 別紙 資料1 ルーブリック評価表(自己評価、教員評価)					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し4月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業			【最終提出物】 研究論文1部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M12	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	藤原和美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規定参照)			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択 (基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅) で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねら					
18.学習目標と DP との関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	適宜、参考資料を紹介する					
20.参考文献	適宜参考資料を紹介する。					
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組み状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより、担当教員が卒業論文ルーブリックにより成績評価する。					
22.コメント	公衆衛生看護学実習と並行して行うことが必要です。積極的かつ計画的に取り組んでいきましょう。					
23.オフィスアワー	研究室 水曜日 昼休み センターオフィスアワー 火曜日 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1) 選択分野は希望調査に基づき決定する。但し、公衆衛生看護学選択分野(保健師課程)の学生は公衆衛生看護学選択分野に配置となる。 2) 担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 3) 研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4) 研究は担当教員の指導のもとに行う。 5) 研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 6) 人を対象とする研究を立案し実施する場合は、			【最終提出物】 卒業論文 1 部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M14	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 統合看護	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねらいとする。疑問から研究テーマを導き、一連の研究プロセスを学ぶ。 主に、国内外の国際看護に関するテーマを扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	坂下玲子他：看護研究 第2版（系統看護学講座別巻）、医学書院、2022					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	ルーブリックに従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより卒業論文ルーブリックにて評価する。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 水曜日昼休み センターオフィスアワー 火曜日昼休み（図書館）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回～30回	1. ブレインストーミング 2. 文献検討 3. リサーチクエスション 4. 研究テーマの決定（仮） 5. 「はじめに」 6. 倫理的配慮について 7. 「研究計画書」			【最終提出物】 「卒業研究」1部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M15	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	櫻井信人				
5.授業科目の区分	総合看護	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【卒業研究の学修目標】 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。 ルーブリックの配点は以下の通りである。 研究課題の設定 20% 科学的研究方法の選択と分析 30% 関連研究の活用 20% 論証と帰結 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計			研究論文 1 部	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M18	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	房間美恵					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師	11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。 学修目標】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮) 作成を試みる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。 ※卒業論文を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。					
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻 看護研究(第1版、8刷).医学書院					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	課題への取り組み 50% 研究課題レポート 50% 研究計画書・卒業論文の提出 ※ ルーブリック評価表に基づいて評価します					
22.コメント	実習等これまでの学修で疑問に思ったことや興味を持ったことについて、文献を調べ研究的に探究していきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し4月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。			【最終提出物】 研究論文1部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M19	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	中世古恵美					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規定参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねら					
18.学習目標と DP との関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	適宜参考資料を紹介する。					
20.参考文献	適宜参考資料を紹介する。					
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組み状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより、担当教員が卒業論文ルーブリックにより成績評価する。					
22.コメント	公衆衛生看護学実習と並行して行うことが必要です。積極的かつ計画的に取り組んでいきましょう。					
23.オフィスアワー	研究室 水曜日 昼休み センターオフィスアワー 火曜日 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1) 選択分野は希望調査に基づき決定する。但し、公衆衛生看護学選択分野(保健師課程)の学生は公衆衛生看護学選択分野に配置となる。 2) 担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 3) 研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4) 研究は担当教員の指導のもとに行う。 5) 研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 6) 人を対象とする研究を立案し実施する場合は、			【最終提出物】 卒業論文 1 部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M21	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	倉田哲也					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必須	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規定参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択 (基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅) で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ることをねら					
18.学習目標と DP との関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	適宜参考資料を紹介する。					
20.参考文献	適宜参考資料を紹介する。					
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組み状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより、担当教員が卒業論文ルーブリックにより成績評価する。					
22.コメント	公衆衛生看護学実習と並行して行うことが必要です。積極的かつ計画的に取り組んでいきましょう。					
23.オフィスアワー	研究室 水曜日 昼休み センターオフィスアワー 火曜日 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1) 選択分野は希望調査に基づき決定する。但し、公衆衛生看護学選択分野(保健師課程)の学生は公衆衛生看護学選択分野に配置となる。 2) 担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 3) 研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4) 研究は担当教員の指導のもとに行う。 5) 研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 6) 人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書 (卒業の手引き			【最終提出物】 卒業論文 1 部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M22	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩下真由美					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけること。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は8実践看護学選択（基礎、急性、慢性・がん、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は1領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を					
18.学習目標と DPとの関連	1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。					
22.コメント	実習等これまでの学修で疑問に思ったことや興味を持ったことについて、文献を調べ研究的に探究していきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し4月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業研究の手引き			【最終提出物】 研究論文1部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)		SMN401-M24	2.科目名		卒業研究	3.単位数		4
4.授業担当教員		野村浩						
5.授業科目の区分		統合看護	6.必修・ 選択の区分		必修	7.開講学期・ 年度		2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻		保健医療学部看護学科				9.履修学年		4 年生
10.取得資格の要件		看護師			11.先修条件		卒業研究登録許可者 (履修規程参照)	
12.研究室		※※※			13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態		演習	
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		【授業の目的】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化し、研究目的、研究課題(仮) 作成を試みる。 【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。						
18.学習目標と DPとの関連		【学習目標】 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。 【関連するディプロマポリシーの項目】 (1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力 ※卒業論文を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。						
19.教科書・教材		坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2020)系統看護学講座別巻 看護研究(第 1 版、8 刷).医学書院						
20.参考文献		適宜、参考資料を紹介する						
21.成績評価		課題への取り組み 50％ 研究課題レポート 50％ 研究計画書・卒業論文の提出 ※ ルーブリック評価表に基づいて評価します						
22.コメント		興味・関心のある課題について一緒に取り組み探求しましょう。						
23.オフィスアワー		水曜 2 限 火曜昼休み（センターオフィスアワー）						
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
		1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。				卒業研究の手引き		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M26	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	西村美登里					
5.授業科目の区分	統合看護	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 看護研究の目的と必要性を理解し、研究に関する基礎的な知識・方法を習得する。看護研究の意義、文献検索方法、研究計画書の作成方法、調査方法について学修する。 【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につける。 【学修目標】 1.看護研究の意義、プロセスを説明できる。 2.基礎的な文献検索方法がわかり、実施できる。 3 看護研究で用いられる方法を凡そ理解できる。 4.研究計画書の作成の意義と方法を説明できる。 5.研究疑問を文章化					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門知識・技術の活用力と関連しています。 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。					
19.教科書・教材	坂下玲子,宮芝智子,小野博史.(2023)系統看護学講座別巻 看護研究(第2版).医学書院					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する					
21.成績評価	看護学科卒業研究のルーブリック評価基準(80%)に従って評価を行い、研究計画書や卒論への取り組み状況(20%)を加味して評価をおこなう。					
22.コメント	3 年までに学修したことを振り返り、自分の疑問や興味関心ごとを明確にした上で関連した文献を調べて探求してみましょう。 生成 AI の利用に関して ■文章作成にあたり、文章の校正等で使用する場合など条件付きで認める。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し 4 月上旬に発表する。			研究論文 1 部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M27	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	有本梨花				
5.授業科目の区分	看護分野の実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	看護学科	9.履修学年	4 年生		
10.取得資格の要件	保健師、助産師、看護師	11.先修条件	卒業研究登録許可者(履修規程参照)		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すとともに、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、国際看護分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は 8 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は 1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を				
18.学習目標と DP との関連	本科目は DP の（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技術の活用に該当する科目です。 １．看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ２．研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 ３．卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材	授業内に適宜提示する				
20.参考文献	適宜参考資料を提示する				
21.成績評価	卒業研究のルーブリック評価に従って評価する。 課題への取り組み 50%（研究課題の設定：20 点 研究方法の選択と分析方法：30 点） 卒業論文 50%（関連研究の活用：20 点 卒業論文の内容：30 点）				
22.コメント	自ら課題に興味を持ち、自主的に研究を進めていくことが必要です。探求心を持ち、計画的に取り組んでいきましょう。 生成 AI 利用に関して ■ いかなる利用も認めない				
23.オフィスアワー	月曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
	1) 選択分野は希望調査に基づき決定する。 2) 担当教員は選択分野内で 4 月上旬頃に発表する。 3) 研究は個人研究とし、グループ研究は認めない。 4) 研究は担当教員の指導のもとに行う。 5) 研究は研究課題に応じて担当教員と相談の上、計画的に行う。 6) 人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業研究倫理的配慮に関する申告書（卒業の手引き【別添 2】）』を作成し担当教員へ提出する。 7) 倫理的配慮に関連したインシデント・アクシデ		(最終提出物) 卒業論文一部		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M28	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	白石夕起子					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師・保健師・助産師		11.先修条件	卒業研究履修可能者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけること。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は8実践看護学選択（基礎、急性、慢性・がん、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は1領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。 【関連するディプロマポリシー】 (1) 自律性(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル(6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	指定はないが適宜紹介する					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	評価基準に従い担当教員が卒業論文ルーブリック評価表（自己評価、教員評価）により以下①～③を総合的に評価する。 ①ゼミでの取り組みの状況 ②卒業研究計画書 ③卒業論文					
22.コメント	慢性疾患を持つ患者さんのより良い看護支援について一緒に探求していきましょう					
23.オフィスアワー	－ 毎週水曜日 12:15～13:15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し4月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M30	2.科目名	卒業研究	3.単位数	4
4.授業担当教員	志保田幸子				
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は8実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は1領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を用いて解決を図ること				
18.学習目標と D P との関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する				
21.成績評価	課題への取り組み 50% 提出物 研究課題レポート 50% 研究計画書の提出 ※ 別紙 資料1 ルーブリック評価表(自己評価、教員評価)				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	1)選択分野は、希望調査に基づき決定する。 2)担当教員は、選択分野内で決定し4月上旬に発表する。 3)研究は、個人研究とし、グループ研究は認めない。 4)研究は、担当教員の指導のもとに行う。 5)研究は、担当教員と相談の上、研究課題に応じて計画的に行う。 6)人を対象とする研究を立案し実施する場合は、『卒業			【最終提出物】 研究論文1部	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M32	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	統合看護 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は9 実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅、国際）で構成され、学生は1 領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を					
18.学習目標と DPとの関連	【本授業の学修目標】 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。 本科目の学習目標は、以下のディプロマポリシーに関連する。 ①自律的で主体的な態度（自律性）、②社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）、③多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、④問題発見・解決力、⑥専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	看護研究方法の授業で使用した教科書					
20.参考文献	適宜、参考資料を紹介する。					
21.成績評価	評価基準に従って、ゼミでの取り組みの状況、卒業研究計画書、卒業論文などにより担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。 専門知識・技能の活用に関するルーブリック；研究課題の設定 20%、科学的研究方法の選択と分析 30%、関連研究の活用 20%、論証と帰結 30%					
22.コメント	研究対象となる看護の現象やそれらをとらえる研究方法は様々です。看護研究方法で研究についての基本的事項を学んだ知識とともに、臨床実習の経験もいかして研究課題の発見につなげていきましょう。将来、発表された研究の賢明な利用者、看護知識の蓄積に寄与する看護者になるための基本を理解しましょう。同時に、研究の楽しさを感じてください。 地域の人々の、その人らしい暮らしに伴走できる看護研究者をめざして取り組みましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー；木曜日昼休み オフィスアワー；水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-M34	2.科目名	卒業研究		3.単位数	4
4.授業担当教員	梅田智子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	看護師 保健師 助産師		11.先修条件	卒業研究登録許可者 (履修規程参照)		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 看護の課題を研究的に取り組み、科学的思考・態度の育成を目指すと共に、看護研究に必要な基礎的能力を身につけることをねらいとする。 【概要】 学生が各自の関心に基づき選択した実践看護学選択分野、助産看護学選択分野、あるいは公衆衛生看護学選択分野において履修する科目である。なお実践看護学選択分野は8実践看護学選択（基礎、急性、慢性、精神、小児、母性、老年、在宅）で構成され、学生は1領域を選択する。 本科目では、研究を知ること、および看護に関わる学習過程において芽生えた疑問について研究手法を					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. 看護の学修の中からの疑問に基づき、研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 2. 研究を通して一連の研究プロセスを知ることができる。 3. 卒業論文としてまとめることができる。 【関連するディプロマポリシー】 (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技術の活用					
19.教科書・教材	「看護研究方法」授業で用いた書籍・教科書					
20.参考文献	適宜参考資料を紹介します。					
21.成績評価	【評価方法】 評価基準に従って ①ゼミでの取り組みの状況 ②卒業研究計画書 ③卒業論文などにより、担当教員が卒業論文ルーブリックにより評価する。					
22.コメント	看護実践を行う上で看護研究（研究的思考）はより質の高い看護を提供するために必要なプロセスです。研究方法の基本的事項を学び、「今まで学んだ知識や経験」「過去の文献・歴史」「実践」の中から研究課題を探索し、新たな知見を知る・創出する楽しさを感じてください。研究の過程や結果が、個人の実践のみならず看護全体への提案や変革、そして意味付けに活かすことを体験し、これを積み重ねて研究結果に基づいた根拠ある科学的実践に寄与できる医療専門職者を目指しましょう。					
23.オフィスアワー	月曜日 12：15～13：15 その他随時、調整対応します。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y01	2.科目名	卒業研究（心理）		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。したがって各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また、絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。 【概要】 ① 論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ② 完成までの研究計画を立て、スケジュールに従って研究を進める。 ③ 先行研究を収集し、それらを整理した					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・ 自ら研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ・ 計画に沿って、自律的に研究を進めることができる。 ・ 学術論文を作成するための基本的な作法を修得する。					
19.教科書・教材	なし 必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	なし 必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・ 前半発表（春学期発表・報告状況）：10% ・ 卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・ 後半発表（秋学期発表・報告状況）：10% ・ 卒業論文作成提出後のふりかえり：10% ・ 卒論発表：10% ●卒業論文:50%					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますので Slack メール等でご連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【01】 オリエンテーション 【02】 「問題」部分検討					
2019.4.24	【03】 卒業研究合同ガイダンス 【04】 方法検討・調査等					
	【05】 方法検討・調査等 【06】 方法検討・調査等					

	【07】 方法検討・調査等 【08】 調査等	
	【09】 調査等 【10】 調査等	
	【11】 調査等 【12】 調査等	
	【13】 調査等 【14】 調査等	
	【15】 調査等 ————— 秋学期 ————— 【16】 調査等	【15】 中間提出
	【17】 調査等 【18】 調査等	
	【19】 調査等、分析・考察 【20】 調査等、分析・考察	
	【21】 分析・考察 【22】 分析・考察	
	【23】 分析・考察 【24】 分析・考察	
	【25】 分析・考察 【26】 要旨・文献整理・校正	
	【27】 卒業研究提出（担当教員あて） 【28】 卒業研究ゼミ内発表会①	
	【29】 卒業研究ゼミ内発表会② 【30】 合同卒業研究発表会	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y02	2.科目名	卒業研究 (英コミ)		3.単位数	4
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	Students will be selected by department. Most students will continue from 3rd year seminar.					
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, students are expected to utilize research in order to gather and analyze data on research topics related to the themes related to their future graduation essay. Students will be expected to present and discuss the results in pr					
18.学習目標と DPとの関連	Course Objectives This course is designed to start the research processes necessary for graduation thesis. By the time students have completed this course they should be able to: 1. Identify Different Ways to Evaluate the Credibility and Reliability of a Source 2. Distinguish between an Academic Topic and a Research Question 3. Show Understanding of Existing Research Literature by Formulating a Research Question that Builds on It. 4. Differentiate between Different Types of Research Data and Explain which Methods are Best to gather it. 5. Perform Needed Research Methods and Data Analysis. 6. Demonstrate Ability to Communicate Research Results through an Individual Presentation and Final Project.					
	Course Objectives #1-3 Will Prepare Students with Diploma Policy Outcome #6 --Expert Skills in Research. Course Objectives #4-5 will help students master Diploma Policy Outcome #4 --Problem Discovery and Solving Abilities; Couse Objective #6 will prepare students with Diploma Policy Outcome #5, Communication Skills.					
19.教科書・教材	Title: Social Science Research: Principles, Methods, and Practices (Revised Edition) Author: Anol Bhattacharjee Description: This textbook provides a comprehensive overview of research methods used in social sciences. It covers both qualitative and quanti					
20.参考文献	1)社会調査のための質的研究法 (Qualitative Research Methods for Social Surveys) Author: 佐藤郁哉 (Ikuya Sato) Description: This textbook provides a thorough introduction to qualitative research methods for social surveys. It covers a range of topics including interview tec					
21.成績評価	Reports 30%: Two Reports are meant to assess mastery of Course Learning Objectives #1-3. Presentations 20% Interim Presentations show mastery of Learning Objective #5. Graduation Thesis 50% (*Due in the Fall Term). Final Senior Research Project shows mast					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Fridays 12:120-13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Week 1: Course Introduction and Research Proposal Feedback Activity 1: Course Overview and Objectives (20 minutes)			Study Bhattacharjee, "Chapter 3 Research Process" --Translate (if needed) or refer to Sato.)		

	Introduce the course objectives, schedule, and assessments. Discuss the importance of research in history and social sciences. Activity 2: S	
Week 2	Week 2: Designing the Research Question #1 Activity 1: Workshop on Identifying Credible Sources (30 minutes) Lecture on evaluating the credibility and reliability of sources. Group discussions on examples of credible and non-credible sources. Activity 2:	Study Bhattacharjee, Chapter 5 (from "Popular research designs"). --Translate (if needed) or refer to Sato.)
Week 3	Week 3: Designing the Research Question #2 Activity 1: Lecture on Academic Topics vs. Research Questions (30 minutes) Discuss the difference between broad academic topics and specific research questions. Provide examples of well-formulated research questi	Submit Research Question and Write 1500 character Literature Review identifying common themes and important differences between 3 relevant academic articles on your topic.
Week 4	Week 4: Qualitative Research Methods - Part 1 Activity 1: Workshop on Conducting Interviews (30 minutes) Detailed guidance on designing interview questions. Role-playing exercises to practice conducting interviews. Activity 2: Focus Groups (30 minutes) Ho	Study Bhattacharjee, "Chapter 9 Survey Research" --Translate (if needed) or refer to Sato.)
Week 5	Week 5: Qualitative Research Methods - Part 2 Activity 1: Coding and Thematic Analysis Workshop (30 minutes) Workshop on coding qualitative data. Hands-on practice with coding sample data. Activity 2: Narrative Analysis (30 minutes) Introduction to analyz	Study Bhattacharjee, "Chapter 13 Qualitative Research" --Translate (if needed) or refer to Sato.)
Week 6	Week 6: Quantitative Research Methods - Part 1 (Survey Design and Question Prompt Creation) Activity 1: Overview of Survey Design Principles (30 minutes) Lecture on survey design principles. Discuss the importance of clear objectives and types of surveys.	Study Bhattacharjee, "Chapter 14 Quantitative Analysis--Descriptive Statistics Research" --Translate (if needed) or refer to Tanaka.)
Week 7	Week 7: Quantitative Research Methods - Part 2 Activity 1: Descriptive Statistics Workshop (30 minutes) Workshop on calculating and interpreting descriptive statistics. Hands-on practice with sample data sets. Activity 2: Inferential Statistics (30 minute	Study Bhattacharjee, "Chapter 14 Quantitative Analysis" --Continued --Translate (if needed) or refer to Sato.)

Week 8	Week 8: History Research Methods - Part 1 Activity 1: Identifying and Evaluating Sources (30 minutes) Workshop on distinguishing between primary and secondary sources. Hands-on practice with evaluating the credibility and reliability of historical sources	Study TBD related to Historical Research
Week 9	Week 9: History Research Methods - Part 2 Activity 1: Historiography (30 minutes) Introduction to historiography and the study of historical writing. Group discussions on different historiographical approaches and their implications. Activity 2: Oral Hist	Study Bhattacharjee, "Chapter 16 Research Ethics" --Translate (if needed) or refer to Sato.)
Week 10	Week 10: Mixed Methods Research Activity 1: Introduction to Mixed Methods Research (30 minutes) Overview of mixed methods research designs. Case studies of mixed methods research in history and social sciences. Activity 2: Combining Data (30 minutes) Tech	Research Presentation
Week 11	Week 11: Research Presentations #1 Activity 1: Student Presentations (60 minutes) Students present their research progress (10 minutes each). Peer feedback on presentations. Activity 2: Q&A Session (30 minutes) Engage the class with questions and discussi	Research Presentation
Week 12	Week 12: Research Presentations #2 Activity 1: Continuation of Student Presentations (60 minutes) Continuation of student presentations (10 minutes each). Instructor feedback on presentations. Activity 2: Q&A Session (30 minutes) Engage the class with que	Submit Interim Report
Week 13	Week 13: Polishing the Research Project #1 Activity 1: Workshop on Refining Research Projects (30 minutes) Provide guidance on refining research projects. Group discussions to identify areas for improvement. Activity 2: Peer Review Sessions (30 minutes) P	Submit Interim Report
Week 14	Week 14: Polishing the Research Project #2 Activity 1: Lecture on Writing a Research Report (30 minutes) Provide guidance on writing a research report.	Work on Research Plan for Fall

	Discuss the structure and components of a research report. Activity 2: Drafting Sections of the Final R	
Week 15	Week 15: Becoming a Self-Reflective Learner Activity 1: Reflection on the Semester (30 minutes) Reflect on the semester and the research process. Discuss what students have learned and how they have grown as researchers. Activity 2: Feedback Collection (3	Finish Research Plan for Fall

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y04	2.科目名	卒業研究（観光）		3.単位数	4
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門研究を修得済みであること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの学修の集大成として、秋学期末に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の準備をすることを目的とする。 これまで学修、修得した知識とスキルを統合的に活用し、調査研究活動を行い、その成果を、報告書／企画提案書としてまとめるための指導を行う。 とくに、研究及び執筆過程において深く思考するという体験をすることに重点を置く。 【概要】各自が設定する研究テーマについての現状調査、先行研究の収集、考察・分析など、秋学期に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の執筆の準備作業を進める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① 国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ② 先行研究を論理的に分析することができる。 ③ 研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④ 研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤ 研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥ 研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。					
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識 改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー					
21.成績評価	【課題 1～9】：計 40％（ルーブリックにより評価）					

	【課題 10】研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕：60%（ループリックにより評価） ⇒ 第 15 回目までに提出することが、本科目の単位取得の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可。	
22.コメント	？自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回 P C を持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。 生成 AI 利用：条件付きで認める。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・調査研究成果報告書／企画提案書のためのガイダンスとスケジュールの確認。	・調査研究、報告書作成に関する規則やルールの復習。 ・卒業論文作成に関する規則やルールの復習。 【課題 1】仮テーマ案を 3 つ程度考え提出する。 【課題 2】先輩の卒業論文を 1 つ読み、概要（テーマ、課題、課題解決方法、結論）についてレポートを提出する。
第 2・3 回	？【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ？卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
第 4・5 回	？【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ？これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ？テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。
第 6・7 回	？【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ？仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題 5】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
第 8・9 回	？【課題 5】の提出、発表及び質疑応答。 ？改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題 6】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
第 10・11 回	？【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ？アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注意。	【課題 7】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。
第 12・13 回	？【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ？研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】アンケート、インタビューの質問リストの校正 文献・資料調査の補足。

		【課題 9】夏休み中の作業計画書の提出 = 第 15 回目までに提出
第 14・15 回	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題 11】夏休み中の進行状況の確認 1 = 8 月末までに提出 【課題 12】夏休み中の進行状況の確認 2 = 秋学期開始前に提出
【第 16 回】	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】夏休み中に提出
【第 17～18 回】	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題 13】プレゼンテーションの中間発表会の実施
【第 19～26 回】	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出	【課題 14】最終原稿案の提出 10 月中旬 プレゼンテーションの準備・練習。
【第 27～28 回】	★調査研究成果報告書／企画提案書の提出 = 12 月下旬予定	【課題 15】最終原稿 2 部提出（紙媒体） ? プレゼンテーションの準備・練習。 ★プレゼンテーション = 1 月下旬までにゼミごとに実施
【第 29～30 回】	? 調査研究成果報告書／企画提案書の校正作業。 ? 口頭試問の準備・練習。 ★口頭試問 = 1 月下旬（ゼミごとに実施）	【課題 16】プレゼンテーションもしくは口頭試問

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y05	2.科目名	卒業研究（観光）		3.単位数	4
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門研究を修得済みであること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの学修の集大成として、秋学期末に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の準備をすることを目的とする。 これまで学修、修得した知識とスキルを統合的に活用し、調査研究活動を行い、その成果を、報告書／企画提案書としてまとめるための指導を行う。 とくに、研究及び執筆過程において深く思考するという体験をすることに重点を置く。 【概要】各自が設定する研究テーマについての現状調査、先行研究の収集、考察・分析など、秋学期に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の執筆の準備作業を進める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① 国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ② 先行研究を論理的に分析することができる。 ③ 研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④ 研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤ 研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥ 研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。					
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識 改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー					
21.成績評価	【課題 1～9】：計 40％（ルーブリックにより評価）					

	【課題 10】研究計画書（調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果）：60%（ループリックにより評価） ⇒ 第 15 回目までに提出することが、本科目の単位取得の絶対条件。未提出の場合は再履修、卒業研究 II の履修不可＝本年度の卒業不可。	
22.コメント	？自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょ。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回 P C を持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、または PC を持参して下さい。 ・授業計画に沿って段階を踏みながら取り組むことが重要です。 ？生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ？成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）	
23.オフィスアワー	水曜日 3 時限目神戸山手キャンパス 3 号館 3306 号室 センターオフィスアワー水曜日昼休み中（1 号館 2 階学修支援室）論文指導	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・調査研究成果報告書／企画提案書のためのガイダンスとスケジュールの確認。	・調査研究、報告書作成に関する規則やルールの復習。 ・卒業論文作成に関する規則やルールの復習。 【課題 1】仮テーマ案を 3 つ程度考え提出する。 【課題 2】先輩の卒業論文を 1 つ読み、概要（テーマ、課題、課題解決方法、結論）についてレポートを提出する。
第 2・3 回	？【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ？卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
第 4・5 回	？【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ？これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ？テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。
第 6・7 回	？【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ？仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題 5】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
第 8・9 回	？【課題 5】の提出、発表及び質疑応答。 ？改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題 6】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
第 10・11 回	？【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ？アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注	【課題 7】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。

	意。	
第 12・13 回	? 【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ? 研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】 アンケート、インタビューの質問リストの校正 文献・資料調査の補足。 【課題 9】 夏休み中の作業計画書の提出 = 第 15 回目までに提出
第 14・15 回	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題 11】 夏休み中の進行状況の確認 1 = 8 月末までに提出 【課題 12】 夏休み中の進行状況の確認 2 = 秋学期開始前に提出
【第 16 回】	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】 夏休み中に提出
【第 17～18 回】	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題 13】 プレゼンテーションの中間発表会の実施
【第 19～26 回】	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出	【課題 14】 最終原稿案の提出 10 月中旬 プレゼンテーションの準備・練習。
【第 27～28 回】	★調査研究成果報告書／企画提案書の提出 = 12 月下旬 予定	【課題 15】 最終原稿 2 部提出（紙媒体） ? プレゼンテーションの準備・練習。 ★プレゼンテーション = 1 月下旬までにゼミごとに実施
【第 29～30 回】	? 調査研究成果報告書／企画提案書の校正作業。 ? 口頭試問の準備・練習。 ★口頭試問 = 1 月下旬（ゼミごとに実施）	【課題 16】 プレゼンテーションもしくは口頭試問

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y06	2.科目名	卒業研究 (心理)		3.単位数	4
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	4 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	4 年間の大学での学修成果を、各自の問題意識に応じたテーマで論文の形にまとめ上げることを目的とする。必要に応じて、研究や論文作成のための指導を行うが、この科目は他の科目以上に各自の自発性が期待される科目である。個人指導を中心としたクラス運営を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	●春学期 1. 卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案する。 2. 卒業後の進路が明確化しており、そのための具体的な行動を行っている。 ●秋学期 3. 卒業論文を完成させる。 4. 進路が決定している。					
19.教科書・教材	特に指定しない。卒論のテーマに応じて、学生ごとに文献を紹介する。 また、必要に応じて教材を配布する予定である。					
20.参考文献						
21.成績評価	研究計画書 20% 中間・最終報告会 20% 卒業論文 50% e-ポートフォリオ 10%					
22.コメント	.生成 AI 利用に関しては条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、4 限 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
春学期 第 1/2 回	第 1 回 ●授業ガイダンス、e-ポートフォリオ、卒論スケジュール確認 ・シラバスに基づいた授業のガイダンス ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。・授業の進め方と卒論提出までのスケジュールを確認する。 第 2 回 ●研究計画の立案① ・卒業論文執筆要領の説明 ・テーマ、先行研究と目的、参考文献などを確認する。			第 1 回 ○e-ポートフォリオの入力を行う ○研究計画書の下書きの準備 第 2 回 ○研究計画書の準備 ★毎回 PC 持参		
第 3/4 回	第 3 回 ●研究計画の立案②			第 3 回 ○研究計画書の準備		

	・研究方法、論文構成を作成する。 第 4 回 ●研究計画の立案③ ・研究計画書の作成 ・研究計画書の発表の準備	第 4 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ★毎回 PC 持参
第 5/6 回	第 5 回 ●研究計画の報告① ・研究計画について、クラス内で報告する。 ・フィードバックを受け、さらに計画を練る 第 6 回 ●研究計画の報告② ・修正した研究計画を再度報告する。 (研究計画書の提出の準備を行う。)	第 5 回 ○フィードバックを受け、計画を練る 第 6 回 ○研究計画書の完成させる ★毎回 PC 持参
第 7/8 回	第 7 回 ●研究計画書の完成 ・研究計画書の様式を完成させる。 第 8 回 ●個別研究報告① ・担当学生による研究報告を行う。	第 7 回 ○研究計画書の作成・仕上げ ○次回担当者は報告の準備を行う 第 8 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 9/10 回	第 9 回 ●個別研究報告② ・担当学生による研究報告を行う。 第 10 回 ●個別研究報告③ ・担当学生による研究報告を行う。	第 9 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 10 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 11/12 回	第 11 回 ●個別研究報告④ ・担当学生による研究報告を行う。 第 12 回 ●個別研究報告⑤ ・担当学生による研究報告を行う。	第 11 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 12 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 13/14 回	第 13 回 ●個別研究報告⑥ ・担当学生による研究報告を行う。 第 14 回 ●個別研究報告⑦ ・担当学生による研究報告を行う。	第 13 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 14 回 ○フィードバックを受け、修正作業を行う ★毎回 PC 持参
第 15 回 秋学期 第 16 回	第 15 回 ●春学期のまとめと授業アンケート ・卒論執筆の進捗状況の確認。	第 15 回 ○夏季休業中の卒論執筆の推進。

	秋学期 第 16 回 ●卒論執筆の進捗状況の確認と秋学期のスケジュール確認。 ●前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e-ポートフォリオに入力する。	秋学期 第 16 回 ○卒論執筆の推進 ★PC 持参
第 17/18 回	第 17 回 ●個別研究報告⑧ ・担当学生による研究報告を行う。 第 18 回 ●個別研究報告⑨ ・担当学生による研究報告を行う。	第 17 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 18 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 19/20 回	第 19 回 ●個別研究報告⑩ ・担当学生による研究報告を行う。 第 20 回 ●個別研究報告⑪ ・担当学生による研究報告を行う。	第 19 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 20 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 21/22 回	第 21 回 ●個別研究報告⑫ ・担当学生による研究報告を行う。 第 22 回 ●個別研究報告⑬ ・担当学生による研究報告を行う。	第 21 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 22 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 23/24 回	第 23 回 ●個別研究報告⑭ ・担当学生による研究報告を行う。 第 24 回 ●個別研究報告⑮ ・担当学生による研究報告を行う。	第 23 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 24 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 25/26 回	第 25 回 ●個別研究報告⑯ ・担当学生による研究報告を行う。 第 26 回 ●個別研究報告⑰ ・担当学生による研究報告を行う。	第 25 回 ○次回担当者は報告の準備を行う 第 26 回 ○次回担当者は報告の準備を行う ★毎回 PC 持参
第 27/28 回	第 27 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	第 27 回 ○卒論提出の準備 第 28 回 ○卒論提出の準備

	第 28 回 ●卒論提出の準備① ・論文を推敲し、提出期日までに提出する。	★PC 持参
第 29/30 回	第 29 回 ●卒論報告会の準備 ・卒論報告会に向けて、クラス内での報告会を行う。 第 30 回 ●秋学期のまとめと授業アンケート ●卒業に向けた振り返り	第 29 回 ○報告会に向けた準備 ★PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y07	2.科目名	卒業研究 (心理)		3.単位数	4
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅲ、Ⅳで設定した研究テーマを基礎として、より深く追求することが卒業研究の目的としています。卒業論文の作成を通して、自律的・計画的に学ぶ態度と研究スキルを身につけることを目指します。 進行経過の報告、文献等の整理状況の確認を求めると共に、文章作成について随時指導していきます。 【概要】 ① 論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ② 完成までの研究計画を立て、スケジュールに従って研究を進める。 ③ 先行研究を収集し、それらを整理した上で自ら					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(4)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ○ 自ら研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる ○ 計画に沿って自律的に研究を進めることができる ○ 学術論文を作成するための基本的な作法を会得する					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	適宜紹介、配付します					
21.成績評価	○ 卒業研究への取組 50% ・卒業研究計画書 (7 月) 10% ・中間発表会 (7 月) 15% ・成果発表 (12・1 月) 15% ・卒業論文作成後の振り返り(学びのショーケース作成) 10% ? 卒業論文 50% ・卒業論文					
22.コメント	★ 質問紙調査は春学期に実施すること。 ? 卒業論文のゼミ内提出締切は 2020 年 11 月末とする。 ? 毎回、ノートパソコン・各自の卒論資料を持参すること。 春学期：火曜日 3 限 秋学期：水曜日 3 限 生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。但し、卒業論文執筆に関しては生成 AI の利用は一切認めないものとする。					
23.オフィスアワー	【春学期】 センターオフィスアワー：金曜日昼休み 研究室オフィスアワー：火曜日昼休み 【秋学期】					

センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：金曜日昼休み ※ 秋学期は随時空き時間に個別対応します。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 4/8 第2回	○ 春学期オリエンテーション（本授業の進め方、評価方法等について） ○ 研究テーマの確定、行程表の作成	持参するもの（毎回） ○ノートPC ○各自の卒論資料、
第3回 第4回	○ 卒業研究合同ガイダンス（予定） ○ 行程表の作成	
第5回 第6回	? 文献リスト及び概要の作成	
第7回 第8回	○ 仮アウトラインの作成（論文構成）	
第9回 第10回	○ 各文献の内容抽出と整理 質問紙の作成実施 ※ 6月末 卒業論文題目届	提出物：卒業論文題目届
第11回 第12回	○ 各文献の内容抽出と構成に従った順位付け 集計・分析 ○ 順位付けに従った仮アウトラインとの統合 集計・分析	
第13回 第14回	○ 春学期中間発表と討議①②	
第15回 7/29 第16回 10/1	○ 中間発表会と討議③ ○ 秋学期オリエンテーション（第16回）	提出物：卒業研究計画書
第17回 第18回	○最終アウトラインの作成①②	
第19回 第20回	○論文執筆と個別相談①② ※ 「卒業論文題目変更届」の提出締切・・・・・・・・10月末	
第21回 第22回	○論文執筆と個別相談③④	
第23回 第24回 11/26	○論文執筆と個別相談⑤⑥ ※ ゼミ内締切 11月末	
第25回 12/3 第26回 12/10	○卒業論文の第1回提出開始 締切12月10日ころ	提出物：卒業論文（本体）
第27回 12/17 第28回 1	○卒業研究プレゼン資料の作成（第27回） ○卒業研究ゼミ内発表会①（第28回） ※「卒業論文」最終提出期間	提出物：卒業論文（本体）

/7	1 月 日～1 月 2 0 日 ころ 予定	
第 2 9 回 第 3 0 回 1/21	○卒業論研究ゼミ内発表会②（第 29 回） ○卒業研究発表会（第 30 回予定 3 年 4 年ゼミ合同）	提出物：発表用資料（パワポ）と振り返りレポート（学びのショーケース）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y08	2.科目名	卒業研究 (心理)		3.単位数	4
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。 【概要】 各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また、絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。					
18.学習目標と DPとの関連	科学的手法に基づいた心理学的視点を踏まえた卒業研究を執筆できる。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて資料を配布する。					
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組 (50%) ・前半発表 (春学期発表) : 10% ・卒業研究計画書 (春学期中盤) : 10% ・中間報告書 (秋学期中盤) : 10% ・後半発表 (秋学期発表) : 10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり (e-ポートフォリオへの記入) : 10% ●卒業論文 (50%) ・「卒業論文」(卒業研究ルーブリック評価) および「卒業論文要旨」: 50%					
22.コメント	4 年間の集大成として納得のいく取り組みを期待しています。					
23.オフィスアワー	木曜日昼休み (研究室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。 卒業研究ガイダンス (合同)			○専門演習Ⅳで収集した資料をまとめる。		
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 5 回 第 6 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 7 回 第 8 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 9 回 第 10 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。			○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。		

	研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。 * 第 27 回卒業論文提出	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○e-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションループリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○e-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y10	2.科目名	卒業研究 (心理)		3.単位数	4
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。したがって各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また、絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。 【概要】 ① 論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ② 完成までの研究計画を立て、スケジュールに従って研究を進める。 ③ 先行研究を収集し、それらを整理した上					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）課題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・ 自ら研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ・ 計画に沿って、自律的に研究を進めることができる。 ・ 学術論文を作成するための基本的な作法を修得する。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて資料を配布する。					
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・ 前半発表（春学期発表）：10% ・ 卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・ 中間報告書（秋学期中盤）：10% ・ 後半発表（秋学期発表）：10% ・ 卒業論文作成提出後のふりかえり（e－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・ 「卒業論文」（卒業研究ルーブリック評価）および「卒業論文要旨」：50%					
22.コメント	4 年間の集大成として納得のいく取り組みを期待しています。 生成 AI 利用に関しては条件付きで認める。					
23.オフィスアワー	火曜・木曜昼休み 非常勤講師控室 ※質問や相談はメールでも対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。 卒業研究ガイダンス（合同）			○専門演習Ⅳで収集した資料をまとめる。		
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 5 回	研究デザインの検討			○目的と方法、結果の処理についての概要を		

第 6 回	先行研究のレビューと資料検索・収集を続けながら研究デザインをつくる。	まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 7 回 第 8 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集を続けながら研究デザインをつくる。	○目的と方法、結果の処理についての概要をまとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 9 回 第 10 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○e-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションルーズリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○e-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-Y11	2.科目名	卒業研究 (心理)		3.単位数	4
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。したがって各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また、絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。					
18.学習目標と DPとの関連	科学的手法に基づいた心理学的視点を踏まえた卒業研究を執筆できる。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて資料を配布する。					
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・前半発表（春学期発表）：10% ・卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・中間報告書（秋学期中盤）：10% ・後半発表（秋学期発表）：10% ・卒業論文作成提出後のふりかえり（e－ポートフォリオへの記入）：10% ●卒業論文（50%） ・「卒業論文」（卒業研究ルーブリック評価）および「卒業論文要旨」：50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。 ただし、卒業論文執筆に関しては、利用不可とする。 4 年間の集大成として納得のいく取り組みを期待しています。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜 2 限 センターオフィスプログラム：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	研究テーマの確認・研究計画書の作成 進捗状況の確認と研究計画書を作成する。 卒業研究ガイダンス（合同）			○専門演習Ⅳで収集した資料をまとめる。		
第 3 回 第 4 回	先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 5 回 第 6 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 7 回 第 8 回	研究デザインの検討 先行研究のレビューと資料検索・収集をを続けながら 研究デザインをつくる。			○目的と方法、結果の処理についての概要を まとめる。 ○先行研究、資料をまとめる。		
第 9 回 第 10 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。			○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。		

	研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	
第 11 回 第 12 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 13 回 第 14 回	研究の実施と報告 計画にしたがって具体的な研究を進める。 研究経過を報告し、質疑応答を重ねながら必要に応じて修正する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 15 回 第 16 回	・前半（春学期）発表 これまでの研究をまとめ、中間発表会（合同）をおこなう。 発表会を受け、必要な修正を行う。	○これまでの研究成果をまとめて資料を作成する。
第 17 回 第 18 回	研究の実施と報告 中間発表による課題を解決する。 研究経過を報告する。	○研究結果データの処理とまとめを行う。 ○先行研究、資料をまとめる。
第 19 回 第 20 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 21 回 第 22 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 23 回 第 24 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。	○計画にしたがって論文を作成する。
第 25 回 第 26 回	卒業論文の作成 卒業論文の下書きを作成し、加筆修正を行う。 * 第 27 回卒業論文提出	○計画にしたがって論文を作成する。
第 27 回 第 28 回	卒業論文提出 ゼミ内発表会	○研究の概要を資料にまとめる。 ○e-ポートフォリオへ記入する。
第 29 回 第 30 回	ゼミ内発表会 卒業研究発表会（全ゼミ合同）	○プレゼンテーションループリックを参考にプレゼンの練習を行う。 ○e-ポートフォリオへ振り返りを記入する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-YH2	2.科目名	卒業研究 (心理) (春)		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 専門演習Ⅲ・Ⅳにて行った研究テーマを基盤として、それをより幅広くかつ深く追求することがこの卒業研究の目的である。したがって各自のテーマ設定の確認の後、個別のテーマに沿った研究の進行とまとめを指導していく。また、絶えず進行経過の報告を求めると共に、情報の収集や結果の整理、報告書作成の技術などについても随時指導する。 【概要】 ① 論文作成に必要な手続きを確認し、論文の書き方について学ぶ。 ② 完成までの研究計画を立て、スケジュールに従って研究を進める。 ③ 先行研究を収集し、それらを整理した					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・ 自ら研究テーマを設定し、研究計画を立てることができる。 ・ 計画に沿って、自律的に研究を進めることができる。 ・ 学術論文を作成するための基本的な作法を修得する。					
19.教科書・教材	なし 必要に応じて適宜提示する。					
20.参考文献	なし 必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	卒業研究の成績評価については、下記の項目をもとに総合的に行う。 ●卒業研究への取組（50%） ・ 前半発表（春学期発表・報告状況）：10% ・ 卒業研究計画書（春学期中盤）：10% ・ 後半発表（秋学期発表・報告状況）：10% ・ 卒業論文作成提出後のふりかえり：10% ・ 卒論発表：10% ●卒業論文:50%					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますので Slack メール等でご連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【01】 オリエンテーション 【02】 「問題」部分検討					
2019.4.24	【03】 卒業研究合同ガイダンス 【04】 方法検討・調査等					
	【05】 方法検討・調査等 【06】 方法検討・調査等					

	【07】 方法検討・調査等 【08】 調査等	
	【09】 調査等 【10】 調査等	
	【11】 調査等 【12】 調査等	
	【13】 調査等 【14】 調査等	
	【15】 調査等 ————— 秋学期 ————— 【16】 調査等	【15】 中間提出
	【17】 調査等 【18】 調査等	
	【19】 調査等、分析・考察 【20】 調査等、分析・考察	
	【21】 分析・考察 【22】 分析・考察	
	【23】 分析・考察 【24】 分析・考察	
	【25】 分析・考察 【26】 要旨・文献整理・校正	
	【27】 卒業研究提出（担当教員あて） 【28】 卒業研究ゼミ内発表会①	
	【29】 卒業研究ゼミ内発表会② 【30】 合同卒業研究発表会	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN404-Y01	2.科目名	卒業研究Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学 文化・メディア専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	専門演習Ⅰ～Ⅳを履修済み		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 卒業研究を通じて調査・研究のプロセスを習得し、客観的なデータ収集と探索的なデータ分析を行うことで、データに基づく意思決定や問題解決に必要な能力を育成することを目的とする。 概要： 専門演習Ⅲ・Ⅳで学習した知識・技術と分析ツールのスキルを総合的に活用し、社会学的な観点に基づいて学生自身がテーマ設定からデータ収集・分析、結果の解釈までを一貫して行う。この過程を通して、卒業研究としての成果をまとめる。 「卒業研究Ⅰ」では、研究プロセスにおける論理的な思考と研究遂行の体験に重点を置き、学生の卒業研究・制作					
18.学習目標と DPとの関連	①. データサイエンスの基礎知識と応用技術の基本を理解する ②. 社会・地域課題のデータ分析に必要なスキルを習得する ③. 問題解決に必要なデータ収集、分析、可視化、提案の能力を理解する ④. 論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力の基礎を養う [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じてプリント（PDF 版）を配布する。					
20.参考文献	1. 明石芳彦,「社会科学系論文の書き方」, ミネルヴァ書房； 2. 白井利明, 高橋一郎,「よくわかる卒論の書き方[第2版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)」, ミネルヴァ書房； 3. 別府 俊幸, 渡辺 賢治,「まちがいだらけの文書から卒業しよう 基本はここだ! 工学系卒論の書き方」, コロナ社；					
21.成績評価	・研究計画書 20% 【対応目標①～④】 ・中間報告（1） 20% 【対応目標①～④】 ・中間報告（2） 20% 【対応目標①～④】 ・期末発表 40% 【対応目標①～④】					
22.コメント						
23.オフィスアワー	学習支援センターオフィスアワー 木曜3限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 1号館4階（403室） 木曜昼休み（神戸山手）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス - 本授業の概要と進め方、評価方法などの説明 - 専門演習Ⅳの振り返り - 卒論スケジュールおよび進め方			☆PC 持参（以降同様）☆ ・研究計画書の準備		
第2回	研究計画の立案（1）			・研究計画書の準備		

	・卒論研究テーマの決め方 ・研究の背景と目的、先行研究、参考文献などを確認する	
第 3 回	研究計画の立案（２） ・研究方法、使用ツール、論文の構成などを考える ・研究計画書を作成する	・研究計画書の準備
第 4 回	研究計画の立案（３） ・研究計画書の確認 ・個別指導、研究計画書を検討する	・フィードバックを受け、研究計画書のバージョンアップを行う
第 5 回	研究計画の報告（１） ・ゼミ内で個別による研究計画書を報告する ・フィードバックを受け、研究計画を改善する	・フィードバックを受け、研究計画書を完成する
第 6 回	研究計画の報告（２） ・ゼミ内で個別による研究計画書を報告する ・フィードバックを受け、研究計画を改善する	・フィードバックを受け、研究計画書を完成する
第 7 回	研究計画の遂行（１） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 8 回	研究計画の遂行（２） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 9 回	中間報告（１） ・学生による研究報告を行う ・フィードバックによる修正を行う	・フィードバックを受け、研究内容を練る
第 10 回	研究計画の遂行（３） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 11 回	研究計画の遂行（４） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 12 回	中間報告（２） ・学生による研究報告を行う ・フィードバックによる修正を行う	・フィードバックを受け、研究内容を練る
第 13 回	研究計画の遂行（５） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 14 回	研究計画の遂行（６） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する ・期末発表の準備
第 15 回	期末発表 ・ゼミ前半の発表 ・ゼミ後半の発表	・指摘を受け、研究内容を修正する ・夏季休業中に卒論執筆の準備をする

1.授業コード (ナンバリング)	SMN404-Y02	2.科目名	卒業研究Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	専門演習での議論や調査研究をふまえつつ、受講者各自が、卒業論文執筆のための発表と議論をおこなう。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標①研究計画書にもとづいた先行研究のレビューができている 学習目標②研究計画書にもとづいた調査（文献調査を含む）を実施する この授業の学習目標はDPの（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	受講態度、参加姿勢（30点）：学習目標①②に対応 授業内での発表内容（70点）：学習目標①②に対応					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	[活動] オリエンテーション			【予習・復習】 卒業論文執筆のための年間計画を考えること		
【第2回】	[活動] 研究計画書の作成			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】卒業論文提出までの具体的な研究計画を立てること。		
【第3回】	[活動] 研究計画書の作成			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って先行研究のまとめ・整理をおこなうこと。		
【第4回】	[活動] 研究計画書の作成			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って調査を進めること。		
【第5回】	[活動] 先行研究のレビュー			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って調査を進めること。		
【第6回】	[活動] 先行研究のレビュー			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。		
【第7回】	[活動] 先行研究のレビュー			【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。		
【第8回】	[活動] 調査（フィールドワーク/文献調査）の実施			前期のゼミでの議論および調査をふまえたうえで、卒業論文の執筆を進めること		

【第 9 回】	[活動] 調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 10 回】	[活動] 調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 11 回】	[活動] 調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 12 回】	[活動] 調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 13 回】	[活動] 調査（フィールドワーク/文献調査）の実施	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 14 回】	[活動] 調査結果の報告・議論	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 15 回】	[活動] 調査結果の報告・議論／まとめ	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN404-Y03	2.科目名	卒業研究Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	専門演習Ⅰ～Ⅳを履修済み	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 卒業研究を通じて調査・研究のプロセスを習得し、客観的なデータ収集と探索的なデータ分析を行うことで、データに基づく意思決定や問題解決に必要な能力を育成することを目的とする。 概要： 専門演習Ⅲ・Ⅳで学習した知識・技術と分析ツールのスキルを総合的に活用し、社会学的な観点に基づいて学生自身がテーマ設定からデータ収集・分析、結果の解釈までを一貫して行う。この過程を通して、卒業研究としての成果をまとめる。 「卒業研究Ⅰ」では、研究プロセスにおける論理的な思考と研究遂行の体験に重点を置き、学生の卒業研究・制作					
18.学習目標と DPとの関連	①. データサイエンスの基礎知識と応用技術の基本を理解する ②. 社会・地域課題のデータ分析に必要なスキルを習得する ③. 問題解決に必要なデータ収集、分析、可視化、提案の能力を理解する ④. 論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力の基礎を養う [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じてプリント（PDF 版）を配布する。					
20.参考文献	1. 明石芳彦,「社会科学系論文の書き方」, ミネルヴァ書房； 2. 白井利明, 高橋一郎,「よくわかる卒論の書き方[第2版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)」, ミネルヴァ書房； 3. 別府 俊幸, 渡辺 賢治,「まちがいだらけの文書から卒業しよう 基本はここだ! 工学系卒論の書き方」, コロナ社；					
21.成績評価	・研究計画書 20% 【対応目標①～④】 ・中間報告（1） 20% 【対応目標①～④】 ・中間報告（2） 20% 【対応目標①～④】 ・期末発表 40% 【対応目標①～④】					
22.コメント	この科目における生成 AI 利用ポリシー 1. 条件付き使用可： 生成 AI は知識習得、理解深化、創造的思考の促進など、目的に応じた場面でのみ利用可能です。 2. 卒論研究では、出力をそのまま、または一部を改変しただけで自分の作成物として提出することは禁止します。 3. 卒論執筆の利用： ？ 利用は、アイデア出し、テーマ探し、アウトライン作り、文章校正・表現改善などに限定してください。 4. 引用する場合のルール					

	生成 AI の出力を引用する必要がある場合は、通常の文献と同様に引用ルールに従い、出典を明示してください。 引用例： 「プロンプト: "〇〇について説明してください", 生成 AI ツール: Microsoft Copilot, 無料版, 使用日: 2025 年 3 月 26 日, URL: https://copilot.cloud.microsoft/ 」	
23.オフィスアワー	学習支援センターオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 1 号館 4 階（403 室） 木曜昼休み（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス ・ 本授業の概要と進め方、評価方法などの説明 ・ 専門演習Ⅳの振り返り ・ 卒論スケジュールおよび進め方	☆PC 持参（以降同様）☆ ・ 研究計画書の準備
第 2 回	論文を読む（1） ・ 他人の研究論文を読む ・ 研究の内容を理解し、論文のまとめ方を考える ・ 論文の内容を他人に説明できるようにプレゼン資料を作成する。	・ 研究計画書の準備
第 3 回	論文を読む（2） 内容発表第Ⅰ部 ・ プレゼン資料を用いて理解したことを皆に発表する ・ 質問応答を受けて資料を修正し、提出する	・ 研究計画書の準備
第 4 回	論文を読む（3） 内容発表第Ⅱ部 ・ プレゼン資料を用いて理解したことを皆に発表する ・ 質問応答を受けて資料を修正し、提出する	・ フィードバックを受け、研究計画書のバージョンアップを行う
第 5 回	研究計画の立案（1） ・ 卒論研究テーマの決め方 ・ 研究の背景と目的、先行研究、参考文献などを確認する ・ 研究方法、使用ツール、論文のまとめ方などを考える	・ フィードバックを受け、研究計画書を完成する
第 6 回	研究計画の立案（2） ・ 研究計画書を作成する ・ 個別指導、研究計画書を検討する	・ フィードバックを受け、研究計画書を完成する
第 7 回	研究計画の報告（1） ・ ゼミ内で個別による研究計画書を報告する ・ フィードバックを受け、研究計画を改善する	・ 研究を遂行する
第 8 回	研究計画の報告（2） ・ ゼミ内で個別による研究計画書を報告する ・ フィードバックを受け、研究計画を改善する	・ 研究を遂行する
第 9 回	中間報告 ・ 学生による研究報告を行う ・ フィードバックによる修正を行う	・ フィードバックを受け、研究内容を練る
第 10 回	研究計画の遂行（1） ・ 研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・ 必要に応じて個別指導を行う	・ 研究を遂行する
第 11 回	研究計画の遂行（2） ・ 研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する	・ 研究を遂行する

	・必要に応じて個別指導を行う	
第 12 回	進捗状況の報告 ・学生による研究報告を行う ・フィードバックによる修正を行う	・フィードバックを受け、研究内容を練る
第 13 回	研究計画の遂行（３） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する
第 14 回	研究計画の遂行（４） ・研究計画にしたがって、各自で研究を遂行する ・必要に応じて個別指導を行う	・研究を遂行する ・期末発表の準備
第 15 回	期末発表（研究の取組状況に関する中間報告） ・ゼミ前半の発表 ・ゼミ後半の発表	・指摘を受け、研究内容を修正する ・夏季休業中に卒論執筆の準備をする

1.授業コード (ナンバリング)	SMN404-Y04	2.科目名	卒業研究Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	テーマを決める?問題設定?調査を経て、卒業論文を執筆する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(S1)修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、(S2)社会や文化について科学的に理解する力 (S3) 新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力。 健やかで 調和のとれた人格と、しなやかで 豊かな知性を自ら形成で きる人間性の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①問題意識を具体化し、テーマを設定しその研究目的を説明できる。 ②調査を計画・実施し、収集したデータの分析ができる。 ③収集したデータをもとに考察し論文にまとめることができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	課題 1 : 卒論計画書…20 点[学習目標①に対応] 課題 2 : 卒業論文…70 点[学習目標②③に対応] 課題 3 : 口頭試問…10 点[学習目標①③に対応]					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。教員の指示に従うこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		
	中間報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		
	中間報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		
	中間報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		

		分)
	文献調査	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分） 課題1提出
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分）

		分) 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN404-Y05	2.科目名	卒業研究Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	専門演習 3, 4	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では卒業論文を執筆します。また、関連する文献を読みます。取材を通じて得たデータから文章を軸にした成果物を作成しますこのゼミを通じて、調査計画書や取材、文章作成、成果物の刊行などを行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマを見つけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	別途指定します。					
20.参考文献	別途指定します。					
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・ミニレポート・・・30% ・アウトプットワーク・・・40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の全体像を説明する。			進捗レポートを作成する		
第 2 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1）			進捗レポートを作成する		
第 3 回	卒論計画に沿って執筆を行う（2）			進捗レポートを作成する		
第 4 回	卒論計画に沿って執筆を行う（3）			進捗レポートを作成する		
第 5 回	卒論計画に沿って執筆を行う（4）			進捗レポートを作成する		
第 6 回	卒論計画に沿って執筆を行う（5）			進捗レポートを作成する		
第 7 回	卒論計画に沿って執筆を行う（6）			進捗レポートを作成する		
第 8 回	卒論計画に沿って執筆を行う（7）			進捗レポートを作成する		
第 9 回	卒論計画に沿って執筆を行う（8）			進捗レポートを作成する		
第 1 0 回	卒論計画に沿って執筆を行う（9）			進捗レポートを作成する		
第 1 1 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 0）			進捗レポートを作成する		
第 1 2 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 1）			進捗レポートを作成する		
第 1 3 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 2）			進捗レポートを作成する		
第 1 4 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 3）			進捗レポートを作成する		
第 1 5 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 4）			まとめのアウトプットを提出する。		

1.授業コード (ナンバリング)		SMN406-Y01	2.科目名		卒業論文・制作		3.単位数	2
4.授業担当教員		行木敬						
5.授業科目の区分		専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期		
8.履修可能な専攻		社会学科				9.履修学年		
10.取得資格の要件					11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室		※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態	演習		
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		専門演習での議論や調査研究をふまえつつ、受講者各自が、卒業論文執筆のための発表と議論をおこなう。						
18.学習目標と DPとの関連		学習目標①社会学に関する卒業論文を完成させること。 学習目標②卒業論文発表会にて、自身の卒論をプレゼンできる。 この授業の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。						
19.教科書・教材		なし						
20.参考文献		適宜紹介する						
21.成績評価		受講態度、参加姿勢（30 点）：学習目標①②に対応 卒業論文の内容（70 点）：学習目標①②に対応						
22.コメント								
23.オフィスアワー								
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】		[活動] オリエンテーション				【予習・復習】 卒業論文執筆の年間計画書を確認する		
【第 2 回】		[活動] 研究計画書の確認				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画書の確認・修正		
【第 3 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 4 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 5 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 6 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 7 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 8 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		

【第 9 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 10 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 11 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 12 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 13 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 14 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 15 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。

1.授業コード (ナンバリング)		SMN406-Y02	2.科目名	卒業論文・制作		3.単位数	2
4.授業担当教員		岡本久					
5.授業科目の区分		専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻		社会科学部			9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要		専門演習での議論や調査研究をふまえつつ、受講者各自が、卒業論文執筆のための発表と議論をおこなう。					
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S2、S3 の学修に関連しています。 ①文化・メディアに関する卒業論文または作品を完成させること。 ②卒業論文発表会にて、自身の卒論または仕様・報告書をプレゼンできる。					
19.教科書・教材		なし					
20.参考文献		適宜紹介する					
21.成績評価		受講態度、参加姿勢（30 点）：学習目標①②に対応 卒業論文の内容（70 点）：学習目標①②に対応					
22.コメント		生成 AI 利用：条件付きで認める。（様々な状況を勘案し個別に対応・指導します）					
23.オフィスアワー							
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】		[活動] オリエンテーション			【予習・復習】 卒業論文執筆の年間計画書を確認する		
【第 2 回】		[活動] 研究計画書の確認			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 研究計画書の確認・修正		
【第 3 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 4 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 5 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 6 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 7 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 8 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】 発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 9 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）			【予習】 ゼミ発表の準備を進めること。		

		【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 10 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 11 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 12 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 13 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 14 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 15 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC103-A01	2.科目名	社会学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 社会福祉士受験資格 小学校一種中学(社会) 保育士 幼 稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育・保育・福祉問題の背景にある、私たちの社会生活に関連するトピック（「地域社会」「文化と比較社会」「社会階層」「エスニシティ」「ジェンダー」「家族」）をとりあげていきます。現代社会の持つ特質と課題について、他者との意見交換や議論を重ねながら、客観的且つ多面的に考察を深めていきます。将来の変化を予測することが困難な時代を生き抜くための、多様で柔軟な視点をもった、持続可能な社会の担い手としての思考形成をめざします。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、社会的貢献性の学修に関連しています。 ①現代社会を概観するキーワードを説明することができる。 ②グローバルな社会問題の具体的な現象とその背景について、根拠をもとに説明することができる。 ③社会的に弱い立場に置かれている人々に対して、わたしたちはどうあるべきかを実現可能なレベルで説明することができる。					
19.教科書・教材	・教科書の購入は不要です。					
20.参考文献	・授業内で適宜紹介します。 ・図書館で社会学の基礎的なテキストが複数あります。予習の際に参照することをすすめます。					
21.成績評価	■LC 課題：1 回・10%（学習目標①②）1 年生 ■小課題：5 回・50%（学習目標①②）1 年生 ■小課題：6 回・60%（学習目標①②）2 年生～4 年生 ■学びのまとめのレポート：1 回・40%（学習目標①②③）全学年					
22.コメント	・LC メイン科目：テーマ「地域における教育・福祉のニーズを知り、今できることを考えよう。」 ・わからないことがあれば授業中もしくは授業終了後に質問してください。 ・資料の掲示や課題の提出は webclass を使います。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					
23.オフィスアワー	問い合わせには随時対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4/10	社会学とは何か ・教育や福祉と社会学の関連性について説明する。 ・授業シラバスを持参する（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにすること）。			【今回の復習】 ・シラバスとノートを用いて、科目の内容を再確認しておく。（90 分） 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。（90 分）		

【第2回】 4/17	地域社会① ・地域社会の概念について整理する。変遷する地域社会のあり方に関する社会学上の捉え方について学ぶ。 ・地域社会が求める学校や福祉施設、それらに勤務する教員や専門職のあり方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「地域社会①」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第3回】 4/24	地域社会② ・地域に関する諸問題を概観する。地域社会やグローバル化と教育や福祉の課題について学ぶ。 ・グローバル化におけるわが国の教育や福祉に関する制度や施策、実践上の課題について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「地域社会②」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分) 【次回までの提出物】 1年生（LC課題） ・商店街の課題と実際 ・観察とインタビュー 2年生～4年生 ・小課題①
【第4回】 5/1	文化と比較社会① ・規範や逸脱の背景や働きを学ぶ。 ・学校や学級経営、福祉施設運営上の規範や逸脱に関する捉え方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「文化と比較社会①」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第5回】 5/8	文化と比較社会② ・社会生活における地位や役割、準拠集団の機能について学ぶ。 ・集団活動における地位や役割とグループ・ダイナミクス、教育や自立生活支援における準拠集団について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「文化と比較社会②」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・小課題②
【第6回】 5/15	社会階層① ・社会階層の例について、アメリカ社会、インド社会、および近世以降の日本社会を比較する。 ・グローバリゼーションの進展と拡大する貧富の格差、教育や福祉資源の偏在について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「社会階層①」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第7回】 5/22	社会階層② ・共産主義の理論的背景となったマルクスの階級理論を概観する。 ・社会格差と貧困による教育や福祉における影響と課題を考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「社会階層②」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・小課題③
【第8回】 5/29	エスニシティ① ・人種と民族の相違や民族間の緊張関係について学	【今回の復習】 ・ノートに「エスニシティ①」のまとめをノ

	ぶ。 ・戦争等と教育や福祉の関連について近代史に沿って概観していく。	ートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第9回】 6/5	エスニシティ② ・日本社会におけるエスニシティと教育や福祉に関連する課題を理解する。 ・教育や福祉について、在留邦人や日系人、ニューカマーやオールドカマーといった観点から捉えていく。 ・教育現場での共生教育や、国際的な福祉実践のあり方を考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「エスニシティ②」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・小課題④
【第10回】 6/12	ジェンダー① ・性に関する3つの構成要素とセクシズムの現状と課題について学ぶ。 ・教育や福祉の実践現場におけるジェンダーの捉え方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー①」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第11回】 6/19	ジェンダー② ・日本における女性の就労問題と、教育や福祉との関連について学ぶ。 ・ジェンダーの観点から見た家庭教育、保育や介護、家事労働について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー②」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第12回】 6/26	ジェンダー③ ・ジェンダーについて well-being と多様性理解の観点で当事者との対話を試みる。	【今回の復習】 ・ノートに「ジェンダー③」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。 【次回までの提出物】 ・小課題⑤
【第13回】 7/3	家族① ・家族に関する概念について学ぶ ・家族機能の変遷と公教育や社会保障制度のあり方について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「家族①」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分)
【第14回】 7/10	家族② ・ライフサイクルとライフコースについて学ぶ ・「人生85年時代」に向けたリ・デザインと教育や福祉の役割と可能性について考察する。	【今回の復習】 ・ノートに「家族②」のまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・「重要語句」の意味を調べてノートに整理しておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・小課題⑥
【第15回】 7/17	教育や福祉と社会学の関連② ・学びのまとめとして、私たちの社会が抱える喫緊の	【今回の復習】 ・学びのまとめをする (90分)

	課題について、これまでに学んだ社会学上の重要語句を用いて、教育・福祉の立場から客観的で論理的に説明する。	【提出物】 ・学びのまとめのレポート

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-M71	2.科目名	社会階層と文化 (社会学)		3.単位数	2
4.授業担当教員	轟蕙菁					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校 (公民) 中学 (社会) 副専攻 (平等を考える)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、私たちが住む社会における格差の問題について学んでいきます。身近な題材を通して、自らの置かれた立場や、他者の立場を理解したうえで、すべての人が共生できる社会について考えていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	・社会階層と文化の結びつきは、いかに社会的不平等の問題と関連しているのかを、学問的、理論的に正しく理解することができる。 ・日常生活における私たちの意識的,無意識的に経験する文化的な差異が、いかに社会階層による不平等問題と結びついているのかを、個々の実体験を踏まえながら議論することで、社会問題をより身近なものとして考えることができる。 ・社会におけるいわゆるマイノリティの人々が直面する社会的問題について理解し、社会問題の解決策を考えることができる。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・小レポート (= 毎時間配布するワークシートへの取り組み) = 45% ※ワークシートの記述内容によっては加点有 ・最終レポート = 55% ※受講人数や受講生の取り組み状況に応じて、プレゼン発表を最終課題とする場合もある。					
22.コメント	本授業は講義を中心に進めつつ、ワークシートを用いた自身の考えを記入し、他者と意見を共有することを通して私たちの身近に潜む「格差と平等」に関する社会問題について考えていきます。よって本授業では、①授業のルールを守りながら、積極的に授業に参加する、②他者の考えを聞き、協力して学ぼうとする意欲のある学生を求めます。 また、受講者のみなさんの興味関心によって、選択的に最終課題としてプレゼン発表をしてもらうことを考えています。					
23.オフィスアワー	授業前後に適宜お声がけください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション ・社会の多様性について考える。 ・身近な問題関心から、社会の何によって人々の意識や行為が分化 (層化) するのか考える。					
第 2 回	社会階層とは何か ・社会階層についての基本的な考え方について紹介する。 ・社会において社会階層が存在していることの意義や問題点について考える。					
第 3 回	学歴について考える ・学歴によってどのような社会階層が生じ、何が問題					

	となるのか考える。	
第 4 回	教育格差について考える（学力問題） ・学歴と関わりの深い社会階層が、どのように形成されるのかを学校教育を通して考える。 ・学校教育における学力格差の視点から、社会においてどのように階層が形成されるのか考える。 ・どのような人が低学力傾向にあるのかという視点から、社会階層を不平等の問題として考える。	
第 5 回	男女平等について考える ・社会階層について性別の視点から考える。 ・性別による社会進出のなされかた、就業体系がどのように異なるのか、その背景にある問題を含めて考える。 ・性別による育児休業の取得率が異なる理由について考え、よりよい社会的制度設計について考える。	
第 6 回	セクシャルマイノリティについて考える ・女性、男性という性別分類では捉えきれない多様な性のあり方について考える。 ・女性、男性だけでなく、セクシャルマイノリティを含めたすべての性の人々を包摂する社会には何が必要なのか考える。	
第 7 回	セクシャルマイノリティについて考える（学校教育の視点から） ・学校現場においてセクシャルマイノリティの課題がどのように表出しているのか考える。 ・学校教育の何をどのように変えていけば、すべての性の子どもたちが過ごしやすい学校環境となるのか考える。	
第 8 回	子どもの貧困について考える ・子どもの貧困問題は、子どもたちや子どもたちが大人になってからどのような困難をもたらし、社会階層の形成に結びつくのか考える。 ・子どもの貧困問題を解消していくためには、どのような政策や学校での取り組みが必要なのか考える。	
第 9 回	障がい者について考える ・障がい者が抱えやすい課題について考える。 ・日常生活の中でどのような支援策が必要なのかについて考える。	
第 10 回	家族のかたちについて考える ・現代の家族のかたちと社会階層がどのように結びついているのか考える。 ・多様な家族のあり方が認められていく社会がどのように実現するのか考える。	
第 11 回	エスニックマイノリティについて考える ・「日本人」「外国人」という社会階層について考える。 ・学校現場に外国にルーツをもつ子どもたちが多く在籍するようになった背景について考える。	

	・外国にルーツをもつ子どもたちが学校教育のどのような面で難しさに直面するのか考える。	
第 12 回	コロナ禍がもたらす影響について考える ・社会階層間の差 ・マイノリティグループが抱える困難	
第 13 回	課題準備日 ・最終課題にむけた準備を行う。	
第 14 回	プレゼン発表 ・グループで取り組んだ社会階層と文化に関わるテーマについて発表する。	
第 15 回	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-Y01	2.科目名	社会階層と文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	基盤教育科目/人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	* 授業の概要 わたしたちの社会は多様な人々で構成されている。「ひとそれぞれ」という表現を日常的に使うこともしばしばである。こうした多様性を生きる一方で、「上流」「下流」「勝ち組」「負け組」といった社会集団をまとめる表現も使用する。 あるいはそれを大枠で「文化」と表現することもある。そしてそうした表現にはなんらかの「差」が前提とされる。この「差」は純粋なちがいともいえるが、格差や不平等と結びついていいる場合も多い。本授業では、社会における集団を「階層」として捉え、そこにある「文化」に注目しながら「格差」について					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 (1) 社会階層という枠組みについて理解する。(問題発見・解決力) (2) 社会階層と文化のちがいについて、自らの考えを提示することができる。(多様性理解) (3) 社会階層が生み出す格差について、自ら問題点を示すことがきでる。(社会的貢献性) (問題発見・解決力)					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	授業中に指示する。					
21.成績評価	(1) ディスカッション・ペーパーの作成 (2 回) 30% (2) 毎回のリアクション・ペーパーの作成 30% (3) 最終レポートの作成 40%					
22.コメント	本授業では、社会階層と文化という日常的だけれど悩ましい課題について考えていく。わたしたちの社会は多様な人々で構成されているが、そこにはただの違いに収まらない格差や不平等が存在している。無関心を装うならば「ひとそれぞれでしょ」というだけでよい。しかし、そうした「ひとそれぞれでしょ」という言葉がもつ暴力的な側面について、わたしたちは知っている。社会学はそうした格差や不平等に向きあう学問である。本授業を通じて、「ひとそれぞれ」だけではなく、わたしたちの問題として社会について考えてもらいたいと思います。					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜日昼休み (山本) 学修支援センター：水曜日昼休み (山本)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 イントロ	・ 授業の内容についての確認 ・ 社会階層とわたし、について考える			復習とアサインメント 「わたしと社会階層」についてのワークシートを作成する (所要時間 90 分)		
第 2 回 社会階層とは なにか	・ 社会階層の具体例として教育における格差について学ぶ ・ 社会階層と教育についてディスカッションをする			復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)		
第 3 回 文化とはなにか	・ 文化という概念について学ぶ ・ 文化の違いについて考える			復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)		
第 4 回	・ 社会階層と文化の違いが生み出す不平等について知			復習とアサインメント		

ちがいと不平等	る ・これまでの自らの経験を振り返る	★ディスカッション・ペーパーを完成させる (所要時間 90 分)
第 5 回 不平等を具体的に考える	・グループワークを通じて、周囲と自身の社会階層と不平等について考える	復習とアサインメント ★小レポートを作成する (所要時間 90 分)
第 6 回 社会階層と文化を考える (家族)	・家族を事例とし、とくに教育場面における社会階層と文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 7 回 社会階層と文化を考える (障害)	・障害を事例とし、社会生活における不平等を考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 8 回 社会階層と文化を考える (エスニシティ 1)	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 9 回 社会階層と文化を考える (エスニシティ 2)	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 10 回 社会階層と文化を考える (ジェンダー 1)	・ジェンダー平等について、具体的事例から考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 11 回 社会階層と文化を考える (ジェンダー 2)	・SOGI について具体的な事例から考える	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる (所要時間 90 分)
第 12 回 わたしたちの社会の不平等	・レポートの書き方を学ぶ ・ディスカッション・ペーパーを交換し、指定の社会問題についてディスカッションする	復習とアサインメント ★小レポートを作成する (所要時間 90 分)
第 13 回 不平等とどのように向き合うか (1)	・社会問題に対峙する活動を知り、ディスカッションをする	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる (所要時間 90 分)
第 14 回 不平等とどのように向き合うか	・グループで社会問題解決に向けた実践を考案する	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 15 回 まとめ	・社会階層と文化について、ふりかえる ・社会階層と文化について、社会問題解決にむけた実践についてふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-a01	2.科目名	社会階層と文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	基盤教育科目/人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	尼崎キャンパスへ遠隔発信する授業です。 * 授業の概要 わたしたちの社会は多様な人々で構成されている。「ひとそれぞれ」という表現を日常的に使うこともしばしばである。こうした多様性を生きる一方で、「上流」「下流」「勝ち組」「負け組」といった社会集団をまとめる表現も使用する。 あるいはそれを大枠で「文化」と表現することもある。そしてそうした表現にはなんらかの「差」が前提とされる。この「差」は純粋なちがいともいえるが、格差や不平等と結びついてい場合も多い。本授業では、社会における集団を「階層」として捉え、そこ					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 (1) 社会階層という枠組みについて理解する。(問題発見・解決力) (2) 社会階層と文化のちがいについて、自らの考えを提示することができる。(多様性理解) (3) 社会階層が生み出す格差について、自ら問題点を示すことがきでる。(社会的貢献性) (問題発見・解決力)					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	授業中に指示する。					
21.成績評価	(1) ディスカッション・ペーパーの作成 (2 回) 30% (2) 毎回のリアクション・ペーパーの作成 30% (3) 最終レポートの作成 40%					
22.コメント	本授業では、社会階層と文化という日常的だけれど悩ましい課題について考えていく。わたしたちの社会は多様な人々で構成されているが、そこにはただの違いに収まらない格差や不平等が存在している。無関心を装うならば「ひとそれぞれでしょ」というだけでよい。しかし、そうした「ひとそれぞれでしょ」という言葉がもつ暴力的な側面について、わたしたちは知っている。社会学はそうした格差や不平等に向きあう学問である。本授業を通じて、「ひとそれぞれ」だけではなく、わたしたちの問題として社会について考えてもらいたいと思います。					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜日昼休み（山本） 学修支援センター：水曜日昼休み（山本）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 イントロ	・ 授業の内容についての確認 ・ 社会階層とわたし、について考える			復習とアサインメント 「わたしと社会階層」についてのワークシートを作成する（所要時間 90 分）		
第 2 回 社会階層とは なにか	・ 社会階層の具体例として教育における格差について学ぶ ・ 社会階層と教育についてディスカッションをする			復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）		
第 3 回 文化とはなにか	・ 文化という概念について学ぶ ・ 文化の違いについて考える			復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）		
第 4 回	・ 社会階層と文化の違いが生み出す不平等について知			復習とアサインメント		

ちがいと不平等	る ・これまでの自らの経験を振り返る	★ディスカッション・ペーパーを完成させる (所要時間 90 分)
第 5 回 不平等を具体的に考える	・グループワークを通じて、周囲と自身の社会階層と不平等について考える	復習とアサインメント ★小レポートを作成する (所要時間 90 分)
第 6 回 社会階層と文化を考える (家族)	・家族を事例とし、とくに教育場面における社会階層と文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 7 回 社会階層と文化を考える (障害)	・障害を事例とし、社会生活における不平等を考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 8 回 社会階層と文化を考える (エスニシティ 1)	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 9 回 社会階層と文化を考える (エスニシティ 2)	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 10 回 社会階層と文化を考える (ジェンダー 1)	・ジェンダー平等について、具体的事例から考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 11 回 社会階層と文化を考える (ジェンダー 2)	・SOGI について具体的な事例から考える	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる (所要時間 90 分)
第 12 回 わたしたちの社会の不平等	・レポートの書き方を学ぶ ・ディスカッション・ペーパーを交換し、指定の社会問題についてディスカッションする	復習とアサインメント ★小レポートを作成する (所要時間 90 分)
第 13 回 不平等とどのように向き合うか (1)	・社会問題に対峙する活動を知り、ディスカッションをする	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる (所要時間 90 分)
第 14 回 不平等とどのように向き合うか	・グループで社会問題解決に向けた実践を考案する	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)
第 15 回 まとめ	・社会階層と文化について、ふりかえる ・社会階層と文化について、社会問題解決にむけた実践についてふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる (所要時間 90 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SOC105-Y01	2.科目名	社会学基礎Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	社会学部社会学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義中心に進めますが、アクティブラーニングも多いです。	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的: 本授業では、社会学の基本的な視点と方法論を学び、現代社会を客観的に分析する力を養う。 社会現象をどのように捉え、理解するかについての思考力を育てることを目的とする。 また、大学での学びの意義を考えながら、社会学がどのように実社会と関わるのかを探る。 概要: 1.社会学の基礎概念を身につける。 2.現代社会の諸問題について学ぶ。 3.社会的に考える方法を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は以下のとおり。 ・社会学の概要を理解することができる。 ・関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』、みらい、2019 年					
20.参考文献	授業のなかで必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	各授業時の課題（リアクションペーパー、グループワークなど）（30％）：授業の振り返り・意見の記述、積極的な発言や質問、聞く態度 中間レポート（30％）：指定テーマに基づくレポート 期末レポート（40％）：授業全体を踏まえたレポート。社会的分析を評価する。					
22.コメント	まずは大学での学びに慣れることから始めましょう。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	社会学とは何か：常識を疑う			テキスト序章の予習		
第 2 回	友人とは誰のことか？			テキスト 1 章の予習		
第 3 回	「絆」を強くすれば自殺は減るのか？			テキスト 2 章の予習		
第 4 回	美容整形のきっかけとは？（1）			テキスト 3 章の予習		
第 5 回	美容整形のきっかけとは？（2）			配付資料の予習		
第 6 回	日本人は宗教を信じていないのか？（1）			テキスト 4 章		
第 7 回	「未熟」な若者がフリーターやニートになるのか？（1）			テキスト 5 章の予習		
第 8 回	「未熟」な若者がフリーターやニートになるのか？（2）			テキスト 5 章の予習/中間レポートの提出		

第 9 回	日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？（１）	テキスト 6 章の予習
第 10 回	日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？（２）	配布資料の予習
第 11 回	「いい人」がボランティアになるのか？（１）	テキスト 7 章の予習
第 12 回	「いい人」がボランティアになるのか？（２）	配布資料の予習
第 13 回	「オタク」は孤独か？（１）	テキスト 8 章の予習
第 14 回	「オタク」は孤独か？（２）	配布資料の予習
第 15 回	まとめ	期末レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SOC108-Y02	2.科目名	神戸の社会と文化 【グローバル T2】		3.単位数	2
4.授業担当教員	表谷脩平					
5.授業科目の区分	グローバル学部グローバル学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?グローバルな社会を考えるために、私たちが学ぶ神戸を知る概要? 「グローバル」とは海外のことを意味するわけではありません。グローバル学部では多くの留学生と共に学んでいます。スマートフォンを使えば世界中の情報にアクセスすることができます。私たちの日常はすでにグローバルな社会と共にあります。そして「神戸」は、過去より日本のなかでもグローバルな社会でした。この授業では、各種のキーワードをきっかけとし神戸を学びます。地域に学ぶことを通じ、世界を知るための第一歩を踏み出してもらいます。 なお授業					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. 神戸に関する歴史的、社会的な基本知識を説明できる。 2. 神戸を学ぶことを通じ、グローバルな社会について説明できる。 3. 神戸をきっかけとし、自らの関心について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	神戸ビジョン 2025 教科書や資料は WEBCLASS に掲載します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 15% (2) ブロック課題：放課後の FW フォトエッセイ (?標 3 に対応) 30% (3) ブロック課題：帰り道の FW2 回 (?標 3 に対応) 30% (4) 最終課題：学びのカラーージュ (学習?標 3 に対応) 25%					
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなどもおこないます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 神戸ビジョン			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 2 回	神戸の歴史 (古墳/和田岬/平野/摂津国/有馬道)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 3 回	神戸の地理と港 (居留地・華僑/ニュータウン)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 4 回	神戸の経済 (表面) (鈴木商店/神戸御三家/現代)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 5 回	神戸の観光 (表面) (タウンガイド) (文藝・映画・上方落語・KITO)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/放課後の FW		
第 6 回	神戸の経済 (裏面) (ブラジル移民/賀川豊彦/港湾/被差別)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		

第 7 回	神戸の教育（裏面）（子どもの格差）（火垂るの墓/闇市/インナーシティ）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 8 回	神戸の文化（洋食・パン・酒・B 級）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 9 回	神戸と防災（阪神淡路大震災）（防災/まちづくりの光と影）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 10 回	神戸と市民（NPO 元年）（市民活動/サーピスラーニング等）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 11 回	神戸と外国の繋がり（在日/ベトナム/イスラーム）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 12 回	高齢化と神戸（山の手の高齢化/裏六甲/タワマン問題）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/帰り道の FW
第 13 回	学んだことを振り返ろう（神戸市長講演に向けて）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/帰り道の FW
第 14 回	神戸市長（仮）・コラージュ作成	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 15 回	神戸市長（仮）・コラージュ作成	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SOC108-Y03	2.科目名	神戸の社会と文化 【グローバル T1】		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	グローバル学部グローバル学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	?的?テーマ?グローバルな社会を考えるために、私たちが学ぶ神戸を知る概要? 「グローバル」とは海外のことを意味するわけではありません。グローバル学部では多くの留学生と共に学んでいます。スマートフォンを使えば世界中の情報にアクセスすることができます。私たちの日常はすでにグローバルな社会と共にあります。そして「神戸」は、過去より日本のなかでもグローバルな社会でした。この授業では、各種のキーワードをきっかけとし神戸を学びます。地域に学ぶことを通じ、世界を知るための第一歩を踏み出してもらいます。 なお授業					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 1. 神戸に関する歴史的、社会的な基本知識を説明できる。 2. 神戸を学ぶことを通じ、グローバルな社会について説明できる。 3. 神戸をきっかけとし、自らの関心について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	神戸ビジョン 2025 教科書や資料は WEBCLASS に掲載します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (?標 1・2・3 に対応) 15% (2) ブロック課題：放課後の FW フォトエッセイ (?標 3 に対応) 30% (3) ブロック課題：帰り道の FW2 回 (?標 3 に対応) 30% (4) 最終課題：学びのカラーージュ (学習?標 3 に対応) 25%					
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなどもおこないます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 神戸ビジョン			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 2 回	神戸の歴史 (古墳/和田岬/平野/摂津国/有馬道)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 3 回	神戸の地理と港 (居留地・華僑/ニュータウン)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 4 回	神戸の経済 (表面) (鈴木商店/神戸御三家/現代)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 5 回	神戸の観光 (表面) (タウンガイド) (文藝・映画・上方落語・KITO)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/放課後の FW		
第 6 回	神戸の経済 (裏面) (ブラジル移民/賀川豊彦/港湾/被差別)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		

第 7 回	神戸の教育（裏面）（子どもの格差）（火垂るの墓/闇市/インナーシティ）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 8 回	神戸の文化（洋食・パン・酒・B 級）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 9 回	神戸と防災（阪神淡路大震災）（防災/まちづくりの光と影）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 10 回	神戸と市民（NPO 元年）（市民活動/サーピスラーニング等）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 11 回	神戸と外国の繋がり（在日/ベトナム/イスラーム）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 12 回	高齢化と神戸（山の手の高齢化/裏六甲/タワマン問題）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/帰り道の FW
第 13 回	学んだことを振り返ろう（神戸市長講演に向けて）	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿/帰り道の FW
第 14 回	神戸市長（仮）・コラージュ作成	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 15 回	神戸市長（仮）・コラージュ作成	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SOC108-Y04	2.科目名	神戸の社会と文化 【グローバル T3】		3.単位数	2
4.授業担当教員	西村 尋					
5.授業科目の区分	グローバル学部グロー バル 学科	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的:テーマ:グローバルな社会を考えるために、私たちが学ぶ神戸を知る 概要: 「グローバル」とは海外のことを意味するわけではありません。グローバル学部では多くの留学生と共に学んでいます。スマートフォンを使えば世界中の情報にアクセスすることができます。私たちの日常はすでにグローバルな社会と共にあります。そして「神戸」は、過去より日本のなかでもグローバルな社会でした。この授業では、各種のキーワードをきっかけとし神戸を学びます。地域に学ぶことを通じ、世界を知るための第一歩を踏み出してもらいます。 なお					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標(=身につくスキル)は次の通りです。 1. 神戸に関する歴史的、社会的な基本知識を説明できる。 2. 神戸を学ぶことを通じ、グローバルな社会について説明できる。 3. 神戸をきっかけとし、自らの関心について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (1)自律性(3)多様性理解(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	神戸ビジョン 2025 教科書や資料は WEBCLASS に掲載します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 (目標 1・2・3 に対応) 15% (2) ブロック課題:放課後の FW フォトエッセイ (目標 3 に対応) 30% (3) ブロック課題:帰り道の FW2 回 (目標 3 に対応) 30% (4) 最終課題:学びのカラーージュ (学習目標 3 に対応) 25%					
22.コメント	かならず PC を持ち込んでください。授業教材は全てデジタル配布です。また、ワークショップなどもおこないます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 神戸ビジョン			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 2 回	神戸の歴史(古墳/和田岬/平野/摂津国/有馬道)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 3 回	神戸の地理と港(居留地・華僑/ニュータウン)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 4 回	神戸の経済(表面)(鈴木商店/神戸御三家/現代)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		
第 5 回	神戸の観光(表面)(タウンガイド)(文藝・映画・上方落)			【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿		

	語・KIT O)	
第 6 回	神戸の経済(裏面)(ブラジル移民/賀川豊彦/港湾/被差別)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 7 回	神戸の教育(裏面)(子どもの格差)(火垂るの墓/闇市/インナーシティ)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 8 回	神戸の文化(洋食・パン・酒・B 級)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 9 回	神戸と防災(阪神淡路大震災)(防災/まちづくりの光と影)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 10 回	神戸と市民(NPO 元年)(市民活動/サービスラーニング等)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 11 回	神戸と外国の繋がり(在日/ベトナム/イスラーム)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 12 回	高齢化と神戸(山の手の高齢化/裏六甲/タワマン問題)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 13 回	学んだことを振り返ろう(神戸市長講演に向けて)	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 14 回	神戸市長(仮)・コラージュ作成	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿
第 15 回	神戸市長(仮)・コラージュ作成	【WEBCLASS】 今日学んだことの投稿

1.授業コード (ナンバリング)	SOC112-Y01	2.科目名	ジェンダーと多様性 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	基盤教育 Consideration 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	特になし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	留学生は、日本語能力試験 (JLPT) 1 級レベルの者が望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	おおむね上限 100 人とします (上限を超えた場合は、2025 年度生優先)					
17.授業の目的と概要	多様性に富むグローバルな社会・文化を理解する上で、〈ジェンダー〉は重要な視点の一つです。授業では、社会現象や身の回りの出来事を、社会的・文化的な性の有り様としてのジェンダーの視点から考えます。私たちがふだん疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思い込みに気づき、それらを打ち破っていくことを目指します。					
18.学習目標と D P との関連	◎この科目の DP (ディプロマ・ポリシー) は、「多様性理解」の学修に関連しています。 ⇒性差・性別の多様性について理解し、多様な生き方を肯定する視点を身につけます。					
19.教科書・教材	◎教科書は使用しません ◎資料は一部をのぞき、WebClass にあげます					
20.参考文献	◎堀内かおる『10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話』岩波書店 (岩波ジュニア新書 979), 2023 年。 ISBN-978-4-00-500979-4 ※他の参考書については随時、授業の中で紹介します					
21.成績評価	○授業内の課題 (ワークシート、アンケートなど) ⇒計 75% ○最終課題の作成・発表 (レポート、発表) ⇒25%					
22.コメント	◎2024 年度以前入学生は、卒業要件の「自入学年度以外の開講科目」としてカウントされま す。 基盤教育科目の単位にはならないので注意してください。 ◎〈ジェンダー〉に関して基礎から学びたい人むけの内容です。これからジェンダーについて 学ぼうとしている人にとって導入になることを目指します。 ◎講義形式の授業を基本としますが、グループワークを行うこともあります。 ◎授業はパワーポイントを投影しながら行います。プリント (パワーポイントを印刷したも の) は配布しませんが、授業が始まるまでに WebClass にアップします。 ◎受講生の数により、順序や進め方を変更することがあります。ご了承ください。					
23.オフィスアワー	◎センターオフィスアワー (神戸山手キャンパス 1 号館 2 階) ⇒水曜昼休み ◎研究室オフィスアワー (神戸山手キャンパス 1 号館 2 階) ⇒木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○ガイダンス&イントロダクション ・授業のスケジュールと内容、進め方について ・大学でジェンダーを学ぶ意義について			○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題		
第 2 回	○〈ジェンダー〉とは何か ・ジェンダーという言葉の使われ方を理解したう えで、性差とは何か、性差と性役割はどのよう に異なるのかについて学びます。			○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題		
第 3 回	○性の多様性とジェンダー ・〈ジェンダー〉とは異なる概念として〈セク シュアリティ〉を把握したう えで、セクシュアル・マイノリ ティの存在と性の多様性について学びます。			○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題		

第 4 回	○つくられる「男の子」「女の子」 ・ジェンダーが幼いころから刷り込まれ、植えつけられていくことについて知ります。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 5 回	○学校とジェンダー① ・学校をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。教科書、制服、教員の配置などに着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 6 回	○学校とジェンダー② ・学校をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。教師と生徒の関係や進路選択などに着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 7 回	○職場とジェンダー① ・職場をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。賃金や管理職の男女差に着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 8 回	○職場とジェンダー② ・職場をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。日本の企業でありがちな慣習や意識に着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 9 回	○結婚とジェンダー 結婚をジェンダーの視点から見ると、どのような課題があるのでしょうか。結婚相手の選び方や家事に着目して考えます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
台 10 回	○子育てとジェンダー ・子育てをジェンダーの視点から考えると、どのような課題があるのでしょうか。働き方や教育に関する課題をふくめて見ていきます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 11 回	○政治参加とジェンダー ・日本は政治分野における男女の格差が非常に大きい国です。女性の政治参加が進んでいる諸外国の取り組みについて学びます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 12 回	○性的マイノリティとジェンダー ・LGBT などの性的マイノリティとジェンダーはどのような関係にあるのでしょうか。基礎知識や課題について学びます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 13 回	○ハラスメントとジェンダー ・セクハラやパワハラ、DV など現代社会にはさまざまなハラスメントが存在します。その問題点や対策について学びます。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題
第 14 回	○レポート発表会	○持参するもの：ノート PC ○提出物：最終課題 授業内課題
第 15 回	○全体のまとめ 授業全体をふりかえり、自分の到達点を確認します。	○持参するもの：ノート PC ○提出物：授業内課題

1.授業コード (ナンバリング)	SOC113-A01	2.科目名	SDGs と持続可能社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この科目では、持続可能な開発目標 (SDGs) の理念と実践を通じて、次世代社会の課題と可能性を学びます。 (内容) 各回の講義では、理論的知識を深めるとともに、実践的なワークを通じて理解を深めることを目指します。 (授業形態) 講義及びグループワーク、個人ワークを行います。積極的・主体的な参加をお願いします。					
18.学習目標と DPとの関連	①SDG s について理解し、その概要や自分の考えを説明することができる。 ②データや知識をもとに、様々な社会課題に関して、複眼的に考えることができる。 ③調べた情報をまとめ、自分の見解を発表することができる。					
19.教科書・教材	指定教科書はありません。					
20.参考文献	【参考書】 ・SDG s がよくわかる本 (秀和システム) ・FACT FULNESS (日経 B B)					
21.成績評価	1. 授業時間内の提出物 (3 点×15=45 点) ・チャットへの記入、アンケート回答、ワーク成果物の提出 2. 中間成果物 (10 点) ・word(500 字程度)・・・学習のまとめ、感想 3. 最終発表資料+プレゼン (30 点) ・パワーポイント 4. 最終成果物 (15 点) ・word(500 字程度)・・・学習のまとめ、感想					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回: オリエンテーション - SDGs とは何か ・講義内容: SDGs の概要、歴史、背景、17 の目標の紹介。 ・ワーク: 1. 興味のある SDGs を 3 つ選び、それぞれの理由を簡単に記述。 2. 1 つの SDGs について調べた内容をグループで共有し、感想を記述。					
第 2 回	第 2 回: 貧困と飢餓の撲滅 (目標 1, 2) ・講義内容: 貧困と飢餓の現状、課題、解決策。 ワーク: 1. 貧困問題に関連する統計データを読み取り、					

	課題を整理。 2. 仮想の地域に対して具体的な支援プランをグループで作成。	
第 3 回	第 3 回: 健康と福祉 (目標 3) ① ? 講義内容: グローバルヘルスの課題、パンデミックの影響、保健医療システム。 ? ワーク: 1. 世界の医療格差を示すデータを基に課題点を抽出。 2. 地域ごとの健康支援策を短いプレゼン形式で提案。	
第 4 回	第 4 回: 健康と福祉 (目標 3) ② ? 講義内容: グローバルヘルスの課題、パンデミックの影響、保健医療システム ? ワーク: 1. 世界の医療格差を示すデータを基に課題点を抽出。 2. 地域ごとの健康支援策を短いプレゼン形式で提案。	
第 5 回	第 5 回: 質の高い教育 (目標 4) ? 講義内容: 教育格差とその影響、デジタル教育の役割。 ジェンダー平等 (目標 5) ? 講義内容: ジェンダー平等の進展、課題、文化的背景。 水と衛生 (目標 6) ? 講義内容: 安全な水資源と衛生管理の重要性。	
第 6 回	第 6 回: 【中間ワーク】 目標 1～6 の中から 1 つ選択し、中間成果物を作成する。	
第 7 回	第 7 回: エネルギーと気候変動 (目標 7, 13) ① ? 講義内容: 再生可能エネルギー、気候変動の緩和策。	
第 8 回	第 8 回: エネルギーと気候変動 (目標 7, 13) ② ? 講義内容: 再生可能エネルギー、気候変動の緩和策。	
第 9 回	第 9 回: 不平等の削減 (目標 10) ? 講義内容: 経済的不平等の現状と対策。	
第 10 回	第 10 回: 消費と生産の責任 (目標 12) ? 講義内容: 持続可能な消費と生産の実現方	

	法。	
第 11 回	第 11 回:プレゼン資料作成に向けた調査	
第 12 回	第 12 回: パートナースhip (目標 17) ? 講義内容: 多様なステークホルダーの協力による課題解決。	
第 13 回	第 13 回: プレゼン①	
第 14 回	第 14 回: プレゼン②	
第 15 回	第 15 回: 振り返りと未来への展望 ? 講義内容: SDGs 達成に向けた自分自身の役割を再確認。 ? ワーク: 最終成果物の作成	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC113-m01	2.科目名	SDGs と持続可能社会 (2025 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この科目では、持続可能な開発目標 (SDGs) の理念と実践を通じて、次世代社会の課題と可能性を学びます。 (内容) 各回の講義では、理論的知識を深めるとともに、実践的なワークを通じて理解を深めることを目指します。 (授業形態) 講義及びグループワーク、個人ワークを行います。積極的・主体的な参加をお願いします。					
18.学習目標と DPとの関連	①SGD s について理解し、その概要や自分の考えを説明することができる。 ②データや知識をもとに、様々な社会課題に関して、複眼的に考えることができる。 ③調べた情報をまとめ、自分の見解を発表することができる。					
19.教科書・教材	指定教科書はありません。					
20.参考文献	【参考書】 ・SDG s がよくわかる本 (秀和システム) ・FACT FULNESS (日経 B B)					
21.成績評価	1. 授業時間内の提出物 (3 点×15=45 点) ・チャットへの記入、アンケート回答、ワーク成果物の提出 2. 中間成果物 (10 点) ・word(500 字程度)・・・学習のまとめ、感想 3. 最終発表資料+プレゼン (30 点) ・パワーポイント 4. 最終成果物 (15 点) ・word(500 字程度)・・・学習のまとめ、感想					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回: オリエンテーション - SDGs とは何か ・講義内容: SDGs の概要、歴史、背景、17 の目標の紹介。 ・ワーク: 1. 興味のある SDGs を 3 つ選び、それぞれの理由を簡単に記述。 2. 1 つの SDGs について調べた内容をグループで共有し、感想を記述。					
第 2 回	第 2 回: 貧困と飢餓の撲滅 (目標 1, 2) ・講義内容: 貧困と飢餓の現状、課題、解決策。 ワーク: 1. 貧困問題に関連する統計データを読み取り、					

	課題を整理。 2. 仮想の地域に対して具体的な支援プランをグループで作成。	
第 3 回	第 3 回: 健康と福祉 (目標 3) ① ? 講義内容: グローバルヘルスの課題、パンデミックの影響、保健医療システム。 ? ワーク: 1. 世界の医療格差を示すデータを基に課題点を抽出。 2. 地域ごとの健康支援策を短いプレゼン形式で提案。	
第 4 回	第 4 回: 健康と福祉 (目標 3) ② ? 講義内容: グローバルヘルスの課題、パンデミックの影響、保健医療システム ? ワーク: 1. 世界の医療格差を示すデータを基に課題点を抽出。 2. 地域ごとの健康支援策を短いプレゼン形式で提案。	
第 5 回	第 5 回: 質の高い教育 (目標 4) ? 講義内容: 教育格差とその影響、デジタル教育の役割。 ジェンダー平等 (目標 5) ? 講義内容: ジェンダー平等の進展、課題、文化的背景。 水と衛生 (目標 6) ? 講義内容: 安全な水資源と衛生管理の重要性。	
第 6 回	第 6 回: 【中間ワーク】 目標 1~6 の中から 1 つ選択し、中間成果物を作成する。	
第 7 回	第 7 回: エネルギーと気候変動 (目標 7, 13) ① ? 講義内容: 再生可能エネルギー、気候変動の緩和策。	
第 8 回	第 8 回: エネルギーと気候変動 (目標 7, 13) ② ? 講義内容: 再生可能エネルギー、気候変動の緩和策。	
第 9 回	第 9 回: 不平等の削減 (目標 10) ? 講義内容: 経済的不平等の現状と対策。	
第 10 回	第 12 回: 消費と生産の責任 (目標 12) ? 講義内容: 持続可能な消費と生産の実現方	

	法。	
第 11 回	第 11 回:プレゼン資料作成に向けた調査	
第 12 回	第 12 回: パートナースhip (目標 17) ? 講義内容: 多様なステークホルダーの協力による課題解決。	
第 13 回	第 13 回: プレゼン①	
第 14 回	第 11 回: プレゼン②	
第 15 回	第 15 回: 振り返りと未来への展望 ? 講義内容: SDGs 達成に向けた自分自身の役割を再確認。 ? ワーク: 最終成果物の作成	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC202-A01	2.科目名	社会調査論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会福祉援助活動全般を科学的根拠に基づいて進める上では、社会福祉現場での的確な調査が求められる。 本講義では、社会福祉分野における調査の意義や役割を理解し、調査の方法について学び、社会福祉の実践現場に役立てていくことを目的とする。 【概要】 社会調査の意義や役割、基本的な調査方法の種類、データ収集から分析方法までの過程を習得していく。社会で起きている現象や問題を科学的に把握し、解決方法を見出すことや仮説を立て、検証を行うための知識を身につける。さらに、リサーチクエストの立て方、社会					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の、(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力 の学修に関連しています。 本科目の目標は次のとおりです ①社会調査の意義と役割について理解する ②社会調査の方法について理解する ③統計的手法による量的データ、質的調査の質的データの基礎的な分析ができる ④社会調査における倫理や個人情報保護について理解する					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布する。					
20.参考文献	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）「最新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎」中央法規					
	笠原千絵・永田祐編著（2013）「地域の<実践>を変える 社会福祉調査入門」					
21.成績評価	・ 量的調査の分析結果（グラフ・表） 20％（学習目標①②③に対応） ・ 質的調査の分析結果図（KJ 法）20％（学習目標②③に対応） ・ グループ発表 20％（学習目標①に対応） ・ 授業内のワークシート等の課題 10％ （学習目標①②に対応） ・ 調査報告書（最終レポート） 30％ （学習目標①②③④に対応）					
22.コメント	社会調査は、社会福祉の実践をよりよくしていく上で大きな役割を果たします。そして社会には、多くの調査があります。この授業で、実践に役立つ調査方法を獲得しましょう。 ※毎回、必ず、ノートパソコンを持参してください。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・ 生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・ 生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。 ・ 情報の正確性（出典）を確認しましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	1. 社会調査の概要と歴史、社会調査の意義と目的 ・社会調査とそこから見えてくるものを学ぶ 2. マスメディアと調査、統計法、国勢調査等の公的統計 ・様々な社会調査を知る ワークシート①	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備 (以下、14 回まで同様)
第 2 回	1. リサーチクエスチョンをたてて育てる ・目的・課題の明確化、仮説 2. 社会調査における倫理と個人情報の保護を理解する 社会調査のデザイン ・考え方、プロセス ・データの収集・分析 ワークシート②	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 3 回	量的調査① 1. 特徴と種類、調査票の作成・配布・回収方法を理解する 2. データの整理と分析の概要を理解する	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 4 回	量的調査②演習 ・サンプルデータの入力をする ・単純集計（度数分布、記述時計） ・グラフ、表の作成	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 5 回	量的調査③演習 サンプルデータを分析する ・有意差検定とは ・クロス集計、 χ^2 検定の実施	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 6 回	量的調査④演習 テーマの設定とアンケート調査の設計 ・リサーチクエスチョン、目的、対象を設定する ・アンケート調査票の作成	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 7 回	量的調査⑤演習 1, アンケート調査の実施 ・調査の概要を説明する ・アンケート調査票の配布・回収をする 2, データの入力をする	○調査報告書を仕上げて、次回までに提出する
第 8 回	量的調査⑥演習 1, 分析 度数分布、記述時計、クロス集計、有意差の検定（t 検定、 χ^2 検定）を実施し、分析する 2, 分析結果 ・グラフ、表の作成 ・結果を文章で説明する	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 9 回	1, 量的調査⑦演習 アンケート調査結果を発表する（グループ発表）	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく

	2, 質的調査① 質的調査の概要と方法 ・ サンプリング、データの整理と分析方法を理解する	○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 10 回	質的調査②演習 テーマの設定 ・ リサーチクエスション、目的、対象を設定する ・ インタビューガイドの作成をする	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 11 回	質的調査③演習 1, インタビュー調査の実施 ・ 調査の概要を説明する ・ サンプリングの実施 2, 文字に起こす（逐語録作成）	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 12 回	質的調査④ データの整理と分析 ・ KJ 法を用いた分析方法を理解する	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 13 回	質的調査⑤演習 データの分析結果をまとめる ・ グループ発表準備	○授業で出てきたキーワードの意味を復習しておく ○課題ワークシート等の検討と記入、資料の準備
第 14 回	質的調査⑥ グループ発表 1, インタビュー調査の結果を発表する 2, 調査報告書の作成（レポート準備） ・ アンケート、インタビュー調査結果をまとめる ・ 調査結果を文章化する ・ 考察を書く	課題レポートの作成
第 15 回	・ 学習まとめ ・ レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC203-Y01	2.科目名	社会調査論Ⅱ（遠隔）		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（オンライン） 受講方法は第 1 回目の授業内にて説明しま す。 Zoom のアドレスは 4 月以降に webclass に 掲示します。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作 成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を習得する。質的調査につい ては文献購読によってフォローする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に 理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要な考え方を身につけ、調査企画書を作成することができる。 ②調査企画書にもとづいた調査票の作成と適切なサンプリングができる。 ③社会調査の実査の方法を身につけ、収集したデータを整理しまとめることができる。					
19.教科書・教材	毎回、テキストまたは資料を配布します。					
20.参考文献	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020 年 轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第 4 版]』、2021 年 盛山和夫『社会調査入門』有斐閣、2004 年 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会、2015 年					
21.成績評価	社会調査の企画書の作成…30 点 [学習目標①に対応] 量的調査の調査票の作成…30 点 [学習目標②に対応] 量的調査のサンプリングに関する課題…20 点 [学習目標②に対応] データセットの作成…20 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	第 2 回の授業までに「社会調査論」で学習した内容を復習しておくこと。 授業では適宜グループワークを実施します。 【追記】生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した 文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピーと同様の対応をしますの で注意してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4 月 11 日	イントロダクション：何のための社会調査か（前編）			復習：与えられた課題をする		
【第 2 回】 4 月 18 日	何のための社会調査か（後編）			準備学習：「社会調査論」のテキストを読む 復習：与えられた課題をする		
【第 3 回】 4 月 25 日	調査企画書の作成に向けて：「よい問い」とは何か			準備学習：あらかじめ配布された資料を読ん でおく 復習：与えられた課題をする		

【第4回】 5月9日	調査企画書の作成①：リサーチ・クエスチョン	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第5回】 5月16日	調査企画書の作成②：仮説を考える	準備学習および宿題：「調査企画書」を完成させる
【第6回】 5月23日	調査票の作成①：質問の形式を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第7回】 5月30日	調査票の作成②：質問文と選択肢を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第8回】 6月6日	調査票の作成③：質問文の配置を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第9回】 6月13日	調査票の作成④：質問文をならべなおし調査票を完成させる	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第10回】 6月20日	実査の方法：データを集める方法を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：調査票を完成させる
【第11回】 6月27日	社会調査とサンプリング①：標本抽出	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第12回】 7月4日	社会調査とサンプリング②：無作為抽出法	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第13回】 7月11日	データの入力（コーディング）①	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第14回】 7月18日	データの入力（コーディング）②	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第15回】 7月25日（補講予定）	まとめ／「みんなでつくる」調査データ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする

1.授業コード (ナンバリング)	SOC206-Y01	2.科目名	データ解析Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件	データ解析Ⅰを履修済み		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 初回に無断履修登録をしていない、無断欠席の場合、履修を認めません。その場合は履修を取り消します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。					
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、3 種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析、分散分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献	小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで 東京図書 小宮あすか・布井 雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社					
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。					
22.コメント	★注意★ ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。					
23.オフィスアワー	水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
○第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明を行う			心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく		
○第 2 回	心理学統計法・データ解析 1 の復習を行う。 平均値の差の検定、相関分析			授業課題を進める。		
○第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。			授業課題を進める		

○第 4 回	因子分析の基本① 考え方、用語、操作を説明する	因子分析とは何か、用語を復習する。 課題を進める。
○第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
○第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
○第 7 回	重回帰分析の基本①―考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、 重回帰分析を実施する。
○第 8 回	重回帰分析の基本②―結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
○第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
○第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
○第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
○第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
○第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析 を想定する。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC208-M01	2.科目名	家族社会学		3.単位数	1
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（一部演習を含む）		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消すことがあります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族をめぐる基礎的概念や近年の動向を理解するとともに、家族の過去・現在・未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考える姿勢を養うことを目的とします。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったとされています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているので					
18.学習目標と DP との関連	【目標】 この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「多様性理解」「コミュニケーションスキル」の学習に関連しています。 【概要】 ①自分の育った家族や家族イメージについて他人に語ることができる。（レポート課題 1） ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。（レポート課題 2） ③家族の基礎的概念や近年の動向について説明することができる。（ワークシート/アンケート） ④看護師国家試験の出題される家族社会学に関わる問題について知る。（小テスト）					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。資料は適宜、WebClass 等で配付します。					
20.参考文献	山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版、2019 年（朝日新書 717）					
21.成績評価	4 項目をもとに総合的に行います。 ○レポート（課題 1）：25％（目標①） ○レポート（課題 2）：25％（目標②） ○ワークシート・アンケート・オークション：35％（計 7 回を予定）（目標③） ○小テスト：15％（3 回を予定）（目標④）					
22.コメント	①～⑨を了解できる人のみ履修してください。 ①土曜日Ⅲ限・Ⅳ限（4 月 26 日、5 月 10 日、5 月 24 日、6 月 7 日）に出席できる ⇒8 回しかありませんので、3 回休むと資格喪失になります。 ②自分の家族・家庭や結婚観について語ることができる ⇒自己開示が苦手な人には不向きです。 ③正解がない課題に正面から向き合うことができる ⇒深く考えることが嫌いな人には不向きです。 ④出欠は原則として「ワークシート」「小テスト」で確認する ⇒ 課題を提出しなければ欠席になることがありますので、ご注意ください。 受講生数が少なければ口頭で出席をとることもあります。 ⑤何らかの事情で休講になった場合は補講をおこなうことがあります					

	⇒日程や進め方は追ってご連絡します。 ⑥8回を通して ZOOM を使い授業を行います。 ⑦WebClass を使って授業を行います。パソコンとスマートフォン両方を使います。 ノート P C のみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ⑧教室で受講する場合は、PC、スマホをフル充電し、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。	
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○研究室オフィスアワー⇒木曜IV限（1320 研究室） ○センターオフィスアワー⇒：水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ※遠隔授業ですので、WebClass、Outlook メール、ZOOM（予約制）で質問等を受けつけます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 4/26 III 限	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○講義：看護師国家試験出題基準にみる「家族」 ○第 1 回レポート課題告知：「家族へのメッセージ——今だから言えること」 ○ワーク：家族のイメージ	提出物：ワークシート
第 2 回 4/26 IV 限	○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） 家族構成やファミリーコンセプトを設定する。 ○ワーク：ファミリー紹介	提出物：小テスト ワークシート
第 3 回 5/10 III 限	○ワーク：第 1 回レポートの発表	提出物：第 1 回レポート
第 4 回 5/10 IV 限	○ワーク：第 1 回レポートの発表（続） ○講義：データでみる家族① ○ワーク：家族の範囲に関するアンケート	提出物：ワークシート 小テスト
第 5 回 5/24 III 限	○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出物：アンケート 復習：今回の復習
第 6 回 5/24 IV 限	○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○講義：データでみる家族② ○第 2 回レポート課題告知「結婚する？ しない？ ：わたしの結婚観」	提出物：オークション 小テスト 復習：今回の復習
第 7 回 6/7 III 限	○講義：オークション／アンケート結果の発表。 ○ワーク：結果をもとに現代の結婚観について考える。	提出物：ワークシート
第 8 回 6/7 IV 限	○講義：授業のふりかえり ○ワーク：授業アンケート	提出物：ワークシート

1.授業コード (ナンバリング)	SOC210-Y01	2.科目名	データ解析		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件	心理統計学（心理学統計法）を履修している ことが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。 なお、社会調査士資格取得希望者、産業心理学専攻生を優先します。					
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比 較・相関分析）の考え方と HAD,SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提として いる。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え 方と HAD,SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。					
18.学習目標と DPとの関連	与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、2 種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析）を行い、分 析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献	小宮あすか Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社 小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで 東京 図書					
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作 成。					
22.コメント	★注意★ ・心理学統計法（心理統計学）を履修していることが望まれます。 ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。 ・生成 AI の利用は認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明を行う			心理学研究法、心理統計学で学んだことを復 習しておく		
第 2 回	心理統計学（データ解析Ⅰ）の復習を行う。 平均値の差の検定、相関分析			授業課題を進める。		
第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 因子分析とはどのような分析法か説明し、実践す る。			授業課題を進める		
第 4 回	因子分析の基本①			因子分析とは何か、用語を復習する。		

	考え方、用語、操作を説明する	課題を進める。
第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
第 7 回	重回帰分析の基本①―考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、 重回帰分析を実施する。
第 8 回	重回帰分析の基本②―結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析 を想定する。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC210-Y02	2.科目名	データ解析	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	心理学科	9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件		11.先修条件	心理学統計法等を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。				
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、3 種類の変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析、分散分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで 東京図書 小宮あすか・布井 雅人 Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける 講談社				
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。				
22.コメント	★注意★ ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。 課題の作成においては、使用不可とする。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
○第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明を行う		心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく		
○第 2 回	心理学統計法・データ解析 1 の復習を行う。 平均値の差の検定、相関分析		授業課題を進める。		
○第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。		授業課題を進める		

○第 4 回	因子分析の基本① 考え方、用語、操作を説明する	因子分析とは何か、用語を復習する。 課題を進める。
○第 5 回	因子分析の基本②―結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
○第 6 回	因子分析の応用―因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
○第 7 回	重回帰分析の基本①―考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、 重回帰分析を実施する。
○第 8 回	重回帰分析の基本②―結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
○第 9 回	重回帰分析の応用①―重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
○第 10 回	重回帰分析の応用②―ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
○第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
○第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
○第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析 を想定する。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC213-Y01	2.科目名	社会調査法 (遠隔)		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（オンライン） 受講方法は第 1 回目の授業内にて説明しま す。 Zoom のアドレスは 4 月以降に webclass に 掲示します。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作 成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を習得する。質的調査につい ては文献購読によってフォローする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に 理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要な考え方を身につけ、調査企画書を作成することができる。 ②調査企画書にもとづいた調査票の作成と適切なサンプリングができる。 ③社会調査の実査の方法を身につけ、収集したデータを整理しまとめることができる。					
19.教科書・教材	毎回、テキストまたは資料を配布します。					
20.参考文献	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020 年 轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第 4 版]』、2021 年 盛山和夫『社会調査入門』有斐閣、2004 年 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会、2015 年					
21.成績評価	社会調査の企画書の作成…30 点 [学習目標①に対応] 量的調査の調査票の作成…30 点 [学習目標②に対応] 量的調査のサンプリングに関する課題…20 点 [学習目標②に対応] データセットの作成…20 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	第 2 回の授業までに「社会調査論」で学習した内容を復習しておくこと。 授業では適宜グループワークを実施します。 【追記】生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した 文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピーと同様の対応をしますの で注意してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4 月 11 日	イントロダクション：何のための社会調査か（前編）			復習：与えられた課題をする		
【第 2 回】 4 月 18 日	何のための社会調査か（後編）			準備学習：「社会調査論」のテキストを読む 復習：与えられた課題をする		
【第 3 回】 4 月 25 日	調査企画書の作成に向けて：「よい問い」とは何か			準備学習：あらかじめ配布された資料を読ん でおく 復習：与えられた課題をする		

【第4回】 5月9日	調査企画書の作成①：リサーチ・クエスチョン	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第5回】 5月16日	調査企画書の作成②：仮説を考える	準備学習および宿題：「調査企画書」を完成させる
【第6回】 5月23日	調査票の作成①：質問の形式を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第7回】 5月30日	調査票の作成②：質問文と選択肢を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第8回】 6月6日	調査票の作成③：質問文の配置を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第9回】 6月13日	調査票の作成④：質問文をならべなおし調査票を完成させる	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第10回】 6月20日	実査の方法：データを集める方法を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：調査票を完成させる
【第11回】 6月27日	社会調査とサンプリング①：標本抽出	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第12回】 7月4日	社会調査とサンプリング②：無作為抽出法	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第13回】 7月11日	データの入力（コーディング）①	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第14回】 7月18日	データの入力（コーディング）②	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする
【第15回】 7月25日（補講予定）	まとめ／「みんなでつくる」調査データ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読んでおく 復習：与えられた課題をする

1.授業コード (ナンバリング)	SOC214-Y51	2.科目名	労働社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	現在、日本は少子高齢化社会の進行の中で、仕事のあり方も大きく変化している。そういった状況下での職業、仕事、会社のありかたなどについての具体的な事例などを通して考えていく。現在、労働のあり方、雇用環境に大きな変化があり、大学生の就職、非正規労働力率の高まり、長期安定雇用の減少といったさまざまな課題を抱えている。 さらに外国人労働者などが日本の労働市場に多く参入するようになってきた。こうした変化の実態を映像資料や各種の統計などを通して理解し、今後の労働のあり方について検討することである。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は 総合社会学科の DP の「S1.修得した知識技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」「2.主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連している。 ①日本の雇用システムによって、家族のかたち、日本型福祉や社会政策がどのように規定されてきたのか、それが現在どのように変化してきたのかについて理解し説明できる。 ②女性、非正規労働者、高齢者など、多様な働き方の現状と課題に理解し、説明できる。 ③日本での外国人労働者の現状や抱える課題、日本の労働市場に与える影響などを理解し、説明できる。 ④グローバル化の進行の中で、今後の労働のあり方がどのように変換していくかについて理解し、説明できる。 ⑤現代日本企業のあり方やその変化の動向を学び、大学卒業後の自らの働き方や生活について理解し、説明することができる。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴール の中の 「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働きがいのある人間らしい（ディーセント・ワーク）を促進する」の視点からも考察していきます。					
19.教科書・教材	指定なし 必要な資料は授業中に配布するか、WEB CLASS にアップします					
20.参考文献	今野晴貴 『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』 文芸春秋 竹ノ下弘久 『仕事と不平等の社会学』 弘文堂 石田淳 『相対的剥奪の社会学：不平等と意識のパラドクス』 東京大学出版会.					
21.成績評価	授業で提出するレポート 40% （学習目標①と②と③に対応） 中間レポート 20% 最終レポート 40% （学習目標③と④と⑤に対応） 最終レポートは授業の関連する資料を読んで、現在の労働について社会学的な観点から考察する内容 レポートは採点・講評をして各自に返却します。基準に満たない場合は再提出が必要となります。					
22.コメント	原則、対面授業です。 ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場					

		合は、遠隔での対応となります。その場合、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがあります。 講義で事例として取り上げるのが日本での事例が中心のため、日本の現状に一定の理解が必要になります。 大学を卒業後、多くの学生が就職することになるであろう。職業、仕事、会社などについての疑問や関心などをデータなどを用いて現実を考えていくのが労働社会学です。それを通して自分がいま生きているこの社会のあり方を相対化することにつなげていくことが目的です。そのためには関連する情報を自分で集めたり、本を読んだりすることが必要です。
23.オフィスアワー		授業後に教室または非常勤講師室
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	日本の現状：少子高齢化の中での働くこと 高齢化社会の労働者 高齢者の労働状況	【復習】配布資料の復習
【第 2 回】	雇用システムの変化 ① 日本型雇用システム 日本の企業と働く社会を考える 自分が将来就きたい職業について考える	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)
【第 3 回】	雇用システムの変化 ② 雇用の多様化 日本型雇用慣行の今後 企業の経営戦略の変化と雇用の未来	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業資料配布
【第 4 回】	雇用システムの変化 ③ 非正規雇用 ニート、フリーター 1990 年代初頭のフリーターが登場した背景と非正規雇用の増加 非正規雇用から正規雇用への移行の困難さ	【復習】レジュメの復習 【次回の予習】中間レポートの課題を配布 課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください
【第 5 回】	女性と仕事 ① 就業構造の変化 社会の変化と岐路に立つ日本型福祉社会	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P229-233 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P229-233
【第 6 回】	女性と仕事 ② 均等法の成立・改正とその影響 職場における男女平等の道のりー男女雇用機会均等法施行以降	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P229-233 【予習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P224-254
【第 7 回】	女性と仕事 ③ 非正規雇用と女性 女性の貧困 性別役割分業 育児休業と継続就業 主婦パートの現在	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P224-254 【予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)
【第 8 回】	仕事を取りまく制度 働き始める前に知っておいて欲しいこと 労働に関する法のしくみ、労働基準法、労働組合、労使協議	【復習】中間レポートの提出締め切り 中間レポートは第 9 回目の授業に返却予定 【予習】授業の関連する動画の視聴し、課題を WEB CLASS で回答
【第 9 回】	働き方はどう変わってきたか：技術革新と職場の変化 情報通信技術が変える社会	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】次回のレジュメを配布しますので読んでください
【第 10 回】	過労死・過労自殺 ブラック企業 ブラック企業とは、低賃金・長時間労働、うつ病、過労死	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P123-P139 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P205-228

【第 11 回】	大学生の就活問題 日本のメリトクラシー 日本の学歴社会	【復習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】最終レポートの課題を配布。課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください
【第 12 回】	グローバル化と働くこと① 海外で働くとは	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 閣 P255-P260 【予習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業有斐閣テキスト P261-278
【第 13 回】	グローバル化と働くこと② 日本における外国人労働者 日本における外国人労働者：日系人と技能実習生	【復習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P123-P139 【次回の予習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P205-228
【第 14 回】	感情労働 感情労働の概念 対人サービス業における感情労働 感情労働—現代社会における労働の変容	【復習】 配布資料の復習 最終レポートの最終提出締切 最終レポートは 15 回目に返却
【第 15 回】	まとめ 最終レポートの返却と講評	コメントを書いた最終レポートを返却します。基準に達していない学生は再提出が必要となります。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC218-Y51	2.科目名	ソーシャルデザイン論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 対面授業を予定していますが、事情によりオンライン講義に変更する可能性があります。	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会におけるまちづくりのあり方について、公園・広場や商店街といった公共空間について講義します。都市では、さまざまな立場や考えを持った人びとが同じ地域や場所で生活しています。こうした、異なる人たちと共に（ときに折り合いをつけながら）どのようにして、いっしょに暮らしていけるのかは、都市でのまちづくりの重要なテーマです。この授業をとおして、「社会」という観点から、都市計画やまちづくりについて考える姿勢を身につけることが、本講義の目的です。 【概要】 授業ではまず、都市計画とまちづくりに関する基本					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1、S2 の学修に関連しています。 ①現代社会におけるまちづくりについての基本的な知識や考え方について述べるができる ②身近な公共空間に関心を持ち、そのあり方について自分なりの意見を持ち説明することができる。					
19.教科書・教材	使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。					
20.参考文献	ジェイン・ジェイコブズ（山形浩生 訳）『新版 アメリカ大都市の死と生』鹿島出版会、2010 年 中島直人・村山顕人ほか『都市計画学:変化に対応するプランニング』学芸出版社、2018 年 笹尾和宏『PUBLIC HACK:私的に自由にまちを使う』学芸出版社、2019 年 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書、2015 年 広井良典『商店街の復権——歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024 年 五十嵐太郎『誰のための排除アート？——不寛容と自己責任論』岩波ブックレット、2022 年 その他、適宜授業					
21.成績評価	都市計画に関する小課題：20 点（学習目標①に対応） 商業空間に関するレポート課題：40 点（学習目標②に対応） 公共空間に関するレポート課題：40 点（学習目標②に対応）					
22.コメント	生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピペと同様の対応をしますので注意してください。					
23.オフィスアワー	授業内にて説明します					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] イントロダクション			予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を		

		読み直し、整理すること。
【第2回】	〔講義〕都市計画とまちづくりの基本知識①	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第3回】	〔講義〕都市計画とまちづくりの基本知識②	予習：あらかじめ出題された課題に取り組むこと 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第4回】	〔講義〕公共空間とまちづくり①：都市公園とは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（公共空間）の提示】
【第5回】	〔講義〕公共空間とまちづくり②：都市公園政策の過去と現在	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第6回】	〔講義〕公共空間とまちづくり③：都市公園の管理をめぐる問題	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第7回】	〔活動〕公共空間とまちづくり④：公共空間の管理と「自由」	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第8回】	〔活動〕公共空間とまちづくり⑤：公共空間のデザイン	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第9回】	〔講義〕商店街とまちづくり①：商店街のなりたち（近現代を中心に）	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（商店街）の提示】
【第10回】	〔講義〕商店街とまちづくり②：商店街活性化政策の変遷	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第11回】	〔講義〕商店街とまちづくり③：商店街活性化の現代的課題	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第12回】	〔活動〕商店街とまちづくり④：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第13回】	〔活動〕商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること

【第 14 回】	〔活動〕 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 15 回】	まとめ	ミニテストに向けて対策をすること

1.授業コード (ナンバリング)	SOC222-Y01	2.科目名	メディア文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学部			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義ではメディア文化としてポピュラー音楽を取りあげる。20 世紀を通じて発展してきたポピュラー音楽は、われわれの日常生活において非常に身近なものであるが、アカデミックな、あるいはジャーナリスティックな視点から注目したとき、「メディア」「社会構造」「民族性」など、さまざまなテーマを見出すことができる。本講義ではそれらに関わるいくつかのトピックを取り上げ、メディアと社会に関連した研究を紹介しつつ、ひろく社会と音楽の関連について考察する。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の（S2）社会や文化について科学的に理解する力、（S3）新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①メディア文化としてのポピュラー音楽を題材に、メディアと社会の関係について説明できる。 ②メディア、情報化社会に関する理論を説明できる。					
19.教科書・教材	スライドと視聴覚メディアを利用した講義形式。教科書は使用せず PDF 資料を配布する。					
20.参考文献	『ポピュラー音楽理論入門』K. ニーガス＝安田昌弘（水声社） 『音楽化社会の現在』南田・木島・永井・小川先生編著（新曜社）					
21.成績評価	授業中におこなう小レポート（40 点） [学習目標①②に対応] 期末レポート（60 点） [学習目標①②に対応]					
22.コメント	生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限 学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] はじめに			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 2 回】	[講義] オーディエンス			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 3 回】	[講義] 産業			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 4 回】	[講義] メディア			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 5 回】	[講義] メディア			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 6 回】	[講義] 音楽のデジタル化			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 7 回】	[講義] 音楽とフェスティバル			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 8 回】	[講義] 音楽とイメージ：ミュージック・ビデオ			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 9 回】	[講義] 音楽の社会的影響			準備学習：与えられた課題をする（60 分）		

		復習：参考文献を読む（60 分）
【第 10 回】	〔講義〕 音楽と政治：ブリットポップとクールブリタニア	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 11 回】	〔講義〕 音楽とジェンダー、セクシュアリティ	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 12 回】	〔講義〕 音楽とエスニシティ	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 13 回】	〔講義〕 音楽と社会運動	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 14 回】	〔講義〕 音楽と震災	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 15 回】	〔講義〕 まとめ	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC223-Y01	2.科目名	ソーシャルメディア論		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学専攻、データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、ソーシャルメディアの特性と影響について学び、社会における役割や課題を理解することを目的とする。具体的には、歴史、利用動向、倫理的・法的課題、技術、経済的影響、社会への影響などを扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は次のとおりです。 ソーシャルメディアの基本概念と歴史的発展を説明できる。 ソーシャルメディアが社会に与える影響を多角的に分析できる。 倫理的・法的視点からソーシャルメディアの課題を議論できる。 ソーシャルメディアを活用した社会活動やビジネス戦略を理解できる。 最新のソーシャルメディアの動向を調査・分析できる。					
19.教科書・教材	藤代裕之（編著）2019『ソーシャルメディア論・改訂版 つながりを再設計する』青弓社					
20.参考文献	授業内で適宜紹介します					
21.成績評価	授業時の小レポート 50％ 期末レポート 50％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限 学修支援センター：木曜昼休み（永井）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	歴史――ソーシャルメディア社会の誕生			授業内容の復習		
2	技術――技術的に可能なオープンプライバシー社会とその功罪			ソーシャルメディアに関する資料集め		
3	法――ソーシャルメディア時代の制度はどうあるべきか			ソーシャルメディアに関する資料集め		
4	ニュース――ソーシャル時代で改めて問われるニュースの「質」			ソーシャルメディアに関する資料集め		
5	広告――「ルール間の摩擦」が生む問題			ソーシャルメディアに関する資料集め		
6	政治――すれ違う政治と有権者、理想なきインターネット選挙の解禁			企画書を作成する		
7	キャンペーン――ソーシャルメディア社会の透明な動員			企画書を作成する		
8	都市――都市の自由を私たちが維持するために			企画書を作成する		
9	コンテンツ――コンテンツの拡張と対抗			取材先にアポイントメントをとる		
10	モノ――「あらゆるモノがつながる社会」のメリットとデメリット			取材をする 記事を作成する		
11	地域――都市と地方をつなぎ直す			取材をする 記事を作成する		

12	共同規制——ルールは誰が作るのか	取材をする 記事を作成する
13	システム——システムで新たなつながりを作る	取材をする 記事を作成する
14	教育——「発信者」としての大学生はどうあるべきか	取材をする 記事を作成する
15	人——「別の顔」を制度化する	振り返りシートを提出する

1.授業コード (ナンバリング)	SOC307-Y01	2.科目名	現代家族論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科・人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	教員免許状 高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	「社会学概論」を履修済が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消す場合もあるので、注意してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族の過去、現在、未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考えるようになることを目指します。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているのでしょうか。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①自分の育った家族について他人に語ることができる。 ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。 ③ワークファミリーバランスの現状について、問題点を指摘することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の配布資料は WebClass 等に挙げます。					
20.参考文献	○山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版,2019 年（朝日新書 717） 他については適宜、紹介していきます。					
21.成績評価	・第 1 回レポート（テーマⅠ）⇒20％（目標①） ・第 2 回レポート（テーマⅡ）⇒20％（目標②） ・第 3 回レポート（テーマⅢ）⇒20％（目標③） ・授業中の課題（アサイメント含む）⇒40％（目標①～③）					
22.コメント	●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●受講生の数により、順序や進め方を変更することがあります。ご了承ください。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒木曜Ⅳ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？① ○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○ワーク：「家族」という言葉から何を連想するか？			提出物：ワークシート 復習：今回の復習		

第2回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？② ○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） ○ワーク：家族構成やファミリーコンセプトを設定し、発表する。 ○ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケート ●第1回レポート告知	提出物：ワークシート ：アンケート 復習：今回の復習
第3回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？③ ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケートの結果をもとに、家族の多様性について考える。	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第4回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？④ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第5回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？⑤ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表（続き） ○テーマのふりかえり	提出：アンケート 復習：今回の復習
第6回	テーマⅡ：「結婚」について考える① ○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出物：オークション 復習：今回の復習
第7回	テーマⅡ：「結婚」について考える② ○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○第2回レポート課題告知 「結婚する／しない？：わたしの結婚観」	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第8回	テーマⅡ：「結婚」について考える③ ○講義：オークション結果の発表 ○ワーク：アンケート結果をもとに結婚観について考える ○講義：データからみた日本の結婚（続）	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第9回	テーマⅡ：「結婚」について考える④ ○ワーク：第2回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第2回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第10回	テーマⅢ：家事と就労について考える① ○ワーク：第2回レポートの発表（続） ○第3回レポート課題告知 「ウィズコロナ、アフターコロナ時代の働き方と家族：私たちはこう考える」 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（ファミリー単位）	提出物：ワークシート 予習：資料収集
第11回	テーマⅢ：家事と就労について考える②	提出物：ワークシート

	○講義：新聞記事の検索：『聞蔵』を中心に ○ワーク：テーマに関する記事検索 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（2回目）	予習：資料収集
第12回	テーマⅢ：家事と就労について考える③ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（3回目） テーマと方向性、役割分担を決める。	○予習：資料の収集
第13回	テーマⅢ：家事と就労について考える④ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（4回目） 持ち寄ったデータを整理しまとめる。プレゼン資料の作成	持参するもの：ノートPC、調べてきた記事 授業外グループ学習：テーマについて分担して調査
第14回	テーマⅢ：家事と就労について考える⑤ ○ワーク：第3回レポートの発表（ファミリー単位）	提出物：ワークシート
第15回	テーマⅢ：家事と就労について考える⑥ ○ワーク：第3回レポートの発表（ファミリー単位）（続） ○講義：テーマのふりかえり ○授業アンケートの実施	提出物：ワークシート 第3回レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SOC309-Y02	2.科目名	社会調査演習		3.単位数	4
4.授業担当教員	永井純一、山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学部			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸だが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また、報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	期末レポート 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…20 点 [学習目標②に対応] SPSS の基本的な操作ができる…10 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。 生成 AI 利用に関しては、条件付きで認める。期末レポートの指示をよく読むこと。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限（永井） 月曜日昼休み（山本） 学修支援センター：木曜昼休み（永井） 水曜日昼休み（山本）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[活動] イントロダクション [活動] 調査の企画・設計			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 2 回】	[活動] 予備調査（1）先行研究・資料の収集 [活動] 予備調査（2）観察調査			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 3 回】	[活動] 予備調査（3）聞き取り調査 [活動] 予備調査の整理、まとめ			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 4 回】	[活動] 仮説の設定 [活動] 調査対象、抽出方法の決定			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 5 回】	[活動] 調査項目の決定 [活動] 調査票の設計・作成（1）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 6 回】	[活動] 調査票の設計・作成（2）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		

【第 7 回】	[活動] サンプルング (1) [活動] サンプルング (2)	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 8 回】	[活動] データ処理・クリーニング (1) [活動] データ処理・クリーニング (2)	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 9 回】	[活動] 調査票分析・基礎集計 (1) [活動] 調査票分析・基礎集計 (2)	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 10 回】	[活動] 調査票分析・クロス集計 (1) [活動] 調査票分析・クロス集計 (2)	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 11 回】	[活動] 調査票分析・相関係数 (1) [活動] 調査票分析・相関係数 (2)	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 12 回】	[活動] 調査票分析まとめ [活動] インタビュー調査・企画 (1)	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 13 回】	[活動] インタビュー調査・実習 (2) [活動] 報告書の書き方・作成	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 14 回】	[活動] 発表	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 15 回】	[活動] 発表 [活動] まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと

1.授業コード (ナンバリング)	SOC312-Y01	2.科目名	社会階層論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	＊授業の概要 私たちは自らの力でのみ、人生を選べるわけではない。私たちが社会的な存在である限り、文字通り「社会」の影響を受ける。それは最小単位である「家族」を出発点に、人生を左右する「学校」や「会社」、所属している「社会」「国」等、多様な集団や組織と私たちは無関係でいられないからである。社会階層論では、社会のありようを「階層」という集団を捉える観点から検討する。 ＊授業の目的 社会階層論では、多様な社会階層を析出し、分析してきた先行研究の知見を学ぶ。そして量的なデータを自ら分析する。社会階層という観点は					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 （１）社会階層という枠組みについて理解する。（問題発見・解決力） （２）社会階層に関わるデータを読み解き、自らの考えを提示することができる。（多様性理解） （３）社会階層に関わるデータを分析し、自ら問題点を示すことがきでる。（社会的貢献性）（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	授業中に指示する。					
21.成績評価	（１）毎回のリアクション・ペーパーの作成 60％ （２）最終課題 40％					
22.コメント	社会階層に関わるデータを読み解きます。これまで学習してきた「統計」の知識がおおいに役に立つはずです。「社会階層と文化」という授業と内容が重複しているところもありますのでご注意ください。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 イントロ	・ 授業の内容についての確認			復習とアサインメント ワークシートを作成する（所要時間 90 分）		
第 2 回 社会階層と社会階級	・ 社会階層と社会階級について学ぶ			復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）		
第 3 回 社会移動と教育	・ 社会移動と教育について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く			復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）		
第 4 回 教育から仕事への移行	・ 教育から仕事への移行について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く			復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）		
第 5 回 若者の生活	・ 若者の生活について、社会階層という観点から学ぶ ・ 関連するデータを読み解く			復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）		

第 6 回 若者の自立	・ 若者の自立について、社会階層という観点から学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 7 回 職業と社会階層	・ 職業について、社会階層という観点から学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 8 回 雇用形態と社会階層	・ 雇用形態と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 9 回 恋愛と社会階層	・ 恋愛と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 10 回 結婚と社会階層	・ 結婚と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 11 回 夫婦関係と社会階層	・ 夫婦関係と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 12 回 家族と社会階層	・ 家族と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 13 回 高齢化と社会階層	・ 高齢化と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 14 回 社会意識と社会階層	・ 社会意識と社会階層について学ぶ ・ 関連するデータを読み解く	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 15 回 まとめ	・ 社会階層について、ふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC313-Y01	2.科目名	ジェンダー論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「家族社会学」を履修済であることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	おおむね 30 名以内。原則として、第 1 回の授業に出席した者に限ります。履修希望者が多い場合は、選抜を行います（社会学科生優先）。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会のさまざまな場面に潜むジェンダーの課題に気づき、各人の問題意識が広がることをめざします。 【概要】 私たちは、ありとあらゆるものを〈分類〉しながら生活しています。そのなかで、「性別」は最も“自然”で“当たり前”な分類と思われるがちです。本科目では、性別が社会によって規定されてきたことを知り、性別に関する私たちの常識がいかに“不思議なこと”なのか、具体的なトピックを通して考えます。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の DP（ディプロマ・ポリシー）は、「多様性理解」「問題発見・解決力」の学修に関連しています。 ①ジェンダーに関する問題がいかに社会的な問題とつながっているのかを説明することができる。 ②ジェンダー平等な社会を実現するために私たちがすべきことを提案できる。					
19.教科書・教材	●堀内かおる『10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話』岩波書店（岩波ジュニア新書 979）、2023 年。 ISBN-978-4-00-500979-4					
20.参考文献	●瀬地山角・中村圭『図解ポケット ジェンダーがよくわかる本』秀和システム、2022 年 ●内閣府『令和 5 年版 男女共同参画白書』2023 年 ●森田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーの扉を開こう～自分らしく生きるために～』大和書房、2022 年 ※他の参考文献については、適宜、紹介します					
21.成績評価	○授業中の課題（ワークシート、アンケートなど）⇒計 50%・目標①② ○グループ発表（各章の紹介）⇒計 20%（10%×2 回）・目標① ○最終課題の作成・発表（レポート・発表）⇒計 30%・目標②					
22.コメント	●教科書を指定しています。必ず入手（購入）してください。 ●対面受講とします（遠隔受講申請所を提出し許可された場合のみオンライン受講を認めます）。 ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。					

	●受講生の数により、順序や進め方が変更になることがあります。ご了承ください。	
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1号館2階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320研究室）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 4月10日	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○教科書「はじめに」の輪読 ○ジェンダーに関するアンケート(WebClass)	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第2回 4月17日	○講義：ジェンダー入門 1.ジェンダーは現代の必修科目 2..ジェンダーって何？ 3.性別から自由になろう 4.世界標準のジェンダー常識 5.鍵はアンコンシャス・バイアス ○グループ編成と担当章の決定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第3回 4月24日	Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 ○発表準備	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第4回 5月1日	Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 1 ジェンダーってなんだ？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第5回 5月8日	Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 2 つくられる「女の子」「男の子」 ○グループ発表 ○講義（ふり返りと補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第6回 5月15日	Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 3 ジェンダー化の装置=学校？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第7回 5月22日	Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 4 他者のまなざしの中の自分 ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第8回 5月29日	Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 5 大人になっていく過程で出会うジェンダー ○グループ発表	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題

	○講義（ふりかえり+補足）	
第 9 回 6 月 5 日	○Ⅰ 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 6 ライフキャリアの実現に必要なこと ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足）	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第 10 回 6 月 12 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○グループ課題の説明 ○ワーク：問題の整理、課題の設定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：テーマについて調べてくる
第 11 回 6 月 19 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：グループ課題の決定 ○ワーク：企画書案の作成・提出 ○ワーク：資料の収集	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：企画書案 ○アサイメント：テーマに関する資料を収集しておく
第 12 回 6 月 26 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：資料の整理、切り口の検討	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：収集した資料を整理して切り口を決めておく ○アサイメント：分析・考察を完成させておく
第 13 回 7 月 3 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：発表資料の作成 ○発表順の決定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：発表資料を完成させておく
第 14 回 7 月 10 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○グループ設定課題の発表 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題
第 15 回 7 月 17 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○「当たり前」を見直す：だれもが活躍できる社会へ ○期末アンケートの実施 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○提出物：授業内課題

1.授業コード (ナンバリング)	SOC314-Y01	2.科目名	NPO・NGO 論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的は非営利組織・市民活動（NPO・NGO）について社会的に検討することにある。非営利組織は、日本においては大変微妙な位置づけにある。それはボランティアなどが「善意」や「心がけ」のように捉えられており、非営利組織もまた、そのような観点から捉えられがちである。しかし、非営利組織や市民活動とは「非営利」でなければならない理由がある。そしてそれゆえにできることもある。また、組織という観点では営利組織とあまり変わらない。 以上のような観点を踏まえつつ、本授業では NPO・NGO について受講者にとって					
18.学習目標と DP との関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。学修目標は以下の通りである。 （１）NPO・NGO の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） （２）NPO・NGO における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） （３）NPO・NGO の社会課題を社会的に説明することができる（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	適時提示する					
20.参考文献	適時提示する					
21.成績評価	（１）NPO 定款の作成・・・30% （２）NPO 企画書の作成・・・30% （３）NPO ミッションの設定・・・40%					
22.コメント	NPO・NGO はみなさんにとって将来関わりをもつ場合が少なくありません。就職先、としても選択肢になるはずです。					
23.オフィスアワー	研究室：水曜（昼） 学修支援室：金曜（昼）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	NPO・NGO とはなにか NPO・NGO と社会の関係について学ぶ			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（１）を記入する。		
第 2 回	「公共」を考える 社会学における「公共」について知る。			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 3 回	なぜ NPO・NGO なのか（１） 教育と福祉における NPO			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 4 回	なぜ NPO・NGO なのか（２） 国際協力と NPO			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（２）を記入する。		
第 5 回	非営利活動の歴史（国内編）			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 6 回	非営利活動の歴史（国外編）			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 7 回	企業と NPO の違い 企業における CSR と NPO			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（３）を記入する。		

第 8 回	ソーシャルデザインとソーシャルビジネス	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 9 回	NPO の課題／社会への貢献と問題	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（４）を記入する。
第 10 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（問題設定編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（定款編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（資金計画編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（５）を記入する。
第 13 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（活動スタッフ編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（まとめ） 発表をする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。
第 15 回	まとめ－社会と NPO の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC317-Y01	2.科目名	相互行為・社会関係論（遠隔）		3.単位数	2
4.授業担当教員	友枝敏雄					
5.授業科目の区分	社会学部社会学科	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	オンライン授業となります。 ZOOM の URL については、授業開始 1 週間 前に WEB CLASS より連絡します。 講義中心に進めますが、授業の後半で、20 分程度のグループワーク（4、5 名での議 論）を行うこともあります。	
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	目的： 社会学の研究対象は、ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルの 3 つのレベルに分かれてい る。 この講義では、ミクロレベル、メゾレベルにおいて、相互行為・社会関係の特色を学習した上 で、マクロレベルについても学習し、社会学的な分析方法を習得する。 概要： つぎの 4 つのテーマについて、15 回の授業で学習する。 各回の授業テーマについては、各回の授業内容のところに記しているので、そこを参照するこ と。 Ⅰ 社会学の方法 Ⅱ ミクロ社会学 Ⅲ メゾ社会学 Ⅳ マクロ社会学					
18.学習目標と DP との関連	この科目を学習すると、以下のような知識が身につきます。 1. 大学で学ぶことの意味 2. 自分自身を知る－アイデンティティとは何か－ 3. 私と他者との関係はどのようなものであるのか 4. 集団と組織 5. 現代社会がかかえる問題－マクロレベルでの社会の問題－					
19.教科書・教材	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂瑠編『社会学の力 改訂版』2023 年、有斐閣					
20.参考文献	授業のなかで必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	授業終了後メールで提出する「本日の授業内容についての感想とコメント」（20％） 中間レポート（40％） 期末レポート（40％）					
22.コメント	授業では、教科書を朗読してもらいます。明瞭な発音で朗読して下さい。 授業での質疑応答では、大きな声で答えて下さい。 皆さんの前で、自分の考えをまとめた上で、きちんと発表し説明する訓練の場としたいと思い ます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	Ⅰ 社会学の方法 1. イントロダクション、この授業の進め方			授業の感想・コメントの提出		

第 2 回	2. 「社会」の発見と社会学の誕生	授業の感想・コメントの提出
第 3 回	3. 社会的事実	授業の感想・コメントの提出
第 4 回	4. 存在と当為	
第 5 回	5. 方法論的個人主義と方法論的集合主義	授業の感想・コメントの提出
第 6 回	II ミクロ社会学 6. 社会的行為、行為類型	授業の感想・コメントの提出
第 7 回	7. 地位と役割、パターン変数図式	授業の感想・コメントの提出
第 8 回	8. 社会化	中間レポートの提出 授業の感想・コメントの提出
第 9 回	III メゾ社会学 9. 基礎集団と機能集団、官僚制と近代組織	授業の感想・コメントの提出
第 10 回	10. 社会関係資本	授業の感想・コメントの提出
第 11 回	11. 支配と権力	授業の感想・コメントの提出
第 12 回	IV マクロ社会学 12. 消費社会	授業の感想・コメントの提出
第 13 回	13. 受益圏と受苦圏、エスニシティとナショナリズム	授業の感想・コメントの提出
第 14 回	14. 地位の一貫性・非一貫性と政治的態度	授業の感想・コメントの提出
第 15 回	15. 機械的連帯から有機的連帯へ、個人化	期末レポートの提出 授業の感想・コメントの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SP1101-Y01	2.科目名	心理学概論 【総合社会学科 6月5日～】		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂、端本利江子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学に相当する英語は psychology であり、「心（こころ）」についての学問という意味である。本講義は、心理学の概要について理解することを目的とするものである。そして、今後の心理学関連のさまざまな講義の理解・学習に必要な基礎知識を身につけるとともに、心理学の科目体系を理解することを目的とするものである。 心理学の領域としては、「知覚」、「パーソナリティ」、「発達」、「社会」、「臨床」、「知覚」、「ストレス」、などを取り上げ、心理学の基礎について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 本科目の学習目標は以下のとおりである。 ①心理学がどのような学問かを説明することができる。 ②人間の行動を客観的・実証的に捉えるための研究方法について説明できる。 ③心理学の専門用語を理解し、説明することができる。 ④心理学を体系的に理解し、全体像を説明することができる。 ⑤心理学が現実社会でどのように役立つかを説明することができる。					
19.教科書・教材	特になし 毎回資料を配付する					
20.参考文献	講義中に紹介する					
21.成績評価	成績評価は以下のとおりであり、上記の学習目標との関連を示しておく。 毎回のミニレポート 40% （②③④⑤に対応） 総括試験 60% （①②③④に対応） 計 100%で評価する。					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 ガイダンス 心とは何か、心理学とは何か					
	第 2 回 知覚 錯視・錯覚「実在するものはあるがま まに知覚されるのか」					
	第 3 回 パーソナリティ(1) パーソナリティの類型 論、特性論などについて学習する					
	第 4 回 パーソナリティ(2) パーソナリティの文化差					
	第 5 回 発達 発達とは何か、発達段階と発達課題、 発達の諸相について学習する。					

	第 6 回 欲求・動機 人を動かす欲求について学ぶ	
	第 7 回 産業(1) 企業・組織活動でのモチベーションについて学ぶ	
	第 8 回 産業(2) 職務ストレスとマネジメントについて学ぶ	
	第 9 回 社会(1)社会的ネットワーク	
	第 10 回 社会(2)人の印象はどのようにつくられるのか、印象形成について	
	第 11 回 社会(3) 恋愛関係における心理学について学ぶ	
	第 12 回 社会(4)対人コミュニケーションについて学ぶ	
	第 13 回 社会(5)集団・集合の心理学について学ぶ	
	第 14 回 災害・パニックの心理学を学ぶ	
	第 15 回 期末テストー 理解度を確認する。	

1.授業コード (ナンバリング)	SP2205-Y01	2.科目名	認知心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 知覚心理学および認知心理学に関する基礎知識を学ぶ。 認知に関する知識は臨床心理学、犯罪心理学、災害心理学、産業・消費者心理学とも関連しており、 人間を科学的に理解するためには必須である。					
	【概要】 知覚・注意・記憶・思考といった代表的な認知機能について解説する。 また、知覚や認知の個人差や障害についても理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)人の感覚・知覚等の機序及びその障害について概説できる。 (2)人の認知・思考等の機序及びその障害について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	萱村 俊哉・郷式 徹（2021）. 知覚・認知心理学——「心」の仕組みの基礎を理解する—— 川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト ミネルヴァ書房 箱田 裕司（編）（2020）. 知覚・認知心理学 野島 一彦・繁桝 算男（監修）公認心理師の基礎と実践 遠見書房					
21.成績評価	(1)平常評価 50%（出席、授業態度、小課題を総合的に評価） (2)総括試験 50%					
22.コメント	生成 AI 利用に関して、無制限で認める。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第 2 回】	知覚（1）——視覚・聴覚——			授業内容の復習		
【第 3 回】	知覚（2）——体性感覚・味覚・嗅覚——			授業内容の復習		
【第 4 回】	知覚の障害			授業内容の復習		
【第 5 回】	注意			授業内容の復習		
【第 6 回】	記憶（1）——ワーキングメモリ——			授業内容の復習		
【第 7 回】	記憶（2）——長期記憶——			授業内容の復習		
【第 8 回】	記憶（3）——日常記憶——			授業内容の復習		
【第 9 回】	思考（1）——推論——			授業内容の復習		
【第 10 回】	思考（2）——問題解決——			授業内容の復習		
【第 11 回】	思考（3）——意思決定——			授業内容の復習		

【第 12 回】	認知の個人差	授業内容の復習
【第 13 回】	認知の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード (ナンバリング)	SP2207-Y01	2.科目名	発達心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実 務経験のある教員によ る授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	【神戸山手キャンパス】 心理学部、人間科学部、国際コミュニケーション学 部、社会学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 ※教員免許取得のための必修科目 学芸員高校(英語) 高校(公民) 高 校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 認定心理士 保育士 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、生涯発達心理学の立場（人間は生涯を通して成長し続けるという立場）から、 乳幼児期、児童期、思春期、青年期、成人期、高齢期の過程において、各発達期の特徴と支援 のあり方を理解することを目的とする。 【概要】 発達の各領域、つまり、身体、運動、感覚・知覚・認知、注意・記憶、動機づけ・学習、言 語・思考・知能、感情・パーソナリティ、コミュニケーション・社会性などを横糸、乳幼児 期、児童期、青年期、成人期、高齢期を縦糸とし、横糸と縦糸から発達を立体的に捉える。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。DP（ディプロマポリシー）のうち、 自律性、問題発見・解決力、専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①発達要因、発達の一般的傾向、発達理論、発達課題を理解し、説明できる。 ②身体と運動発達、感覚・知覚・認知発達、注意・記憶の発達、動機付け・学習の発達、言 語・思考・知能の発達、感情・パーソナリティの発達、コミュニケーション・社会性の発達、 発達障害について、各発達期における特徴を説明できる。 ③発達障害、愛着障害などの要因を検討し、どのような支援が行われているかを知り、説明で きる。					
19.教科書・教材	「発達心理学をアクティブに学ぶ」 山本真由美編著 北大路書房					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	Webclass 課題・・・3×12＝36％ 中間レポート試験・・・15％ ルーブリック評価 3 項目 5 段階 総括レポート・・・15％ ルーブリック評価 3 項目 5 段階 総括テスト・・・34％					

22.コメント	教科書の内容で webclass の課題を実施します。 生成 AI 利用： 無制限で認める。	
23.オフィスアワー	水曜昼休み：研究室オフィスアワー 木は三木にいます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション 授業の進め方，授業内容，評価方法	Webclass 課題
第 2 回	第 3 章 発達・発達段階・発達心理学研究法	第 3 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 3 回	第 4 章 発達要因・発達の一般的傾向・発達理論	第 4 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 4 回	第 5 章 身体と運動の発達	第 5 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 5 回	第 6 章 感覚・知覚・認知発達	第 6 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 6 回	第 7 章 注意・記憶の発達	第 7 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 7 回	第 8 回 動機づけ・学習の発達	第 8 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 8 回	中間レポート	レポート作成
第 9 回	第 9 章 言語・思考・知能の発達	第 9 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 10 回	第 10 章 感情・パーソナリティの発達	第 10 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 11 回	第 11 章 コミュニケーション・社会性の発達	第 11 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 12 回	第 12 章 発達障害と愛着障害 (1)	第 12 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 13 回	第 12 章 発達障害と愛着障害 (2)	第 12 章を読んで理解する。 Webclass 課題
第 14 回	総括レポート作成	レポート完成
第 15 回	総括試験	総括テスト、授業アンケート

1.授業コード (ナンバリング)	SP2212-Y01	2.科目名	心理データ解析法	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	社会調査士	11.先修条件	2 変量の分析を理解していること。 心理学統計法を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室のサイズ、教育効果を踏まえ、履修者を 30 名ほどに制限します。 初回に無断履修登録をしていない、無断欠席の場合、履修を認めません。その場合は履修を取り消します。 人数が多い場合、初回出席者の履修登録者の中から抽選を行います。				
17.授業の目的と概要	・心理学統計法（心理統計学）の内容を前提としている。 つまり、変数と仮説についての考え方ができ、かつ、二変量解析（クロス集計・平均値の比較・相関分析）の考え方と SPSS 等の統計ソフトの操作と記述ができることを前提としている。 ・本講義では、実際の社会調査データを用いて、多変量解析（因子分析・重回帰分析）の考え方と HAD 等の統計ソフトの操作と記述の仕方を習得する。 ・多変量解析を用いたレポート作成を指導する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データ収集を設計・実施できるようになる。 統計ソフトを活用して、2 種類の多変量解析（具体的には、因子分析、重回帰分析）を行い、分析結果からどういうことがいえるのかをエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 社会調査データを多変量解析し、その結果をもとにレポートを作成ができるようになる。				
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。				
20.参考文献	小塩真司 SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで 東京図書				
21.成績評価	・平常課題：50%（5%×10）・・・授業で学習した内容に関する演習問題を課す。 ・最終レポート 50%・・・実際の社会調査データを多変量解析により分析してレポートを作成。				
22.コメント	★注意★ ・心理学統計法（心理統計学）（春学期）を履修していることが望まれます。 ・毎回課題が出されますし、欠席するとついてこれなくなります。				
23.オフィスアワー	水曜昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
○第 1 回	オリエンテーション 授業概要の説明を行う			心理学研究法、心理統計学で学んだことを復習しておく	
○第 2 回	心理統計学（データ解析Ⅰ）の復習を行う。 平均値の差の検定、相関分析			授業課題を進める。	
○第 3 回	平均値の比較、相関分析から因子分析へ 因子分析とはどのような分析法か説明し、実践する。			授業課題を進める	

○第 4 回	因子分析の基本① 考え方、用語、操作を説明する	因子分析とは何か、用語を復習する。 課題を進める。
○第 5 回	因子分析の基本②—結果の読み方、解釈 因子数の決め方を理解し、実践する。	課題をすすめる。
○第 6 回	因子分析の応用—因子得点、合成変数 因子分析→因子の得点を算出し、その後の分析をする。	因子分析の結果の記述を復習する。 課題をすすめる。
○第 7 回	重回帰分析の基本①—考え方、用語、操作 重回帰分析とは何か、キーワードを理解し、重回帰分析を実施する。	重回帰分析とは何か、キーワードを復習し、 重回帰分析を実施する。
○第 8 回	重回帰分析の基本②—結果の読み方、記述 結果の解釈をし、結果を文章化する	結果を文章化する課題をすすめる。
○第 9 回	重回帰分析の応用①—重回帰モデルと説明力 様々な形で、重回帰分析を活用する。	分析課題をすすめる。
○第 10 回	重回帰分析の応用②—ファイルの分割による比較 様々な形で、重回帰分析を活用する。	重回帰分析の概念、方法を復習する。
○第 11 回	重回帰分析と分散分析① 分散分析を説明し、と重回帰分析との違いを学ぶ。	分散分析について復習する。
○第 12 回	重回帰分析と分散分析② 分散分析を実施する。	分析課題を進める。
○第 13 回	最終課題①：課題の説明 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 14 回	最終課題②：分析と結果の記述 学んだ多変量解析を駆使してレポートを作成する。	最終課題をすすめる
○第 15 回	最終課題③：提出 これまでのふりかえりと授業アンケートの実施	これまでの分析を復習し、卒業研究での分析 を想定する。

1.授業コード (ナンバリング)	SP2304-Y01	2.科目名	消費者の心理		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14 回＝60％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：40％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス					
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響力					
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学					
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法					
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング					
第 6 回	説得時における数字の効果					
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学					
第 8 回	職場のコミュニケーション					
第 9 回	特典付加の心理学					
第 10 回	広告・マーケティング①					
第 11 回	広告・マーケティング②					
第 12 回	心理的財布と支払い					

第 13 回	苦情行動・クレーマー	
第 14 回	ラストシーンの心理学	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SPB204-M51	2.科目名	生涯スポーツ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】本授業の目的は、生涯を通じてスポーツが社会的に求められる理由を理解し、各対象別のスポーツ実践に関する諸課題を学び、基本的教養を身につけることです。 【授業の概要】21 世紀に向けた社会の構造変動とスポーツの文化的、社会的意義との関係を歴史的、社会的に明らかにし、各対象別の課題を施設、プログラム、指導者、あるいは少年、女性、高齢者、障害者といった対象別内容に分けて概説します。また生涯スポーツイベントの現場で比較的多用されるスポーツ種目を数回に分けて体験します。					
18.学習目標と DP との関連	？ 学習目標: 1. スポーツとは何かについて説明できる。 2. 生涯スポーツに関わる組織や仕組みについて理解し説明できる。 3. 地域をマネジメントしていくためのスポーツの役割を実践できる。 4. スポーツに関わる対象者について興味をもち、社会とのつながりを考え、説明できる。 5. スポーツイベントの成り立ちやスポンサード、マネジメントについて理解し、説明できる。 【KUIS 学修ベンチマークとの関連性】 学習目標 スポーツとは何かについて説明できる。 生涯スポーツに関わる組織や仕組みについて理解し説明できる。 地域をマネジメントしていくためのスポーツの役割を実践できる。 スポーツに関わる対象者について興味をもち、社会とのつながりを考え、説明できる。 スポーツイベントの成り立ちやスポンサード、マネジメントについて理解し、説明できる。 ディプロマポリシー (DP) DP1: 専門知識の習得 DP2: 問題解決能力の向上 DP3: 社会的貢献性の発揮 DP4: コミュニケーション能力の向上 学習目標と DP の関連付け 学習目標 1: スポーツとは何かについて説明できる。 関連 DP: DP1 (専門知識の習得) 説明: スポーツの基本的な概念や定義を理解し、説明できることは、専門知識の習得に直結します。 学習目標 2: 生涯スポーツに関わる組織や仕組みについて理解し説明できる。 関連 DP: DP1 (専門知識の習得)、DP2 (問題解決能力の向上) 説明: 組織や仕組みを理解することで、専門知識が深まり、さらにその知識を活用して問題解決に役立てることができます。 学習目標 3: 地域をマネジメントしていくためのスポーツの役割を実践できる。 関連 DP: DP3 (社会的貢献性の発揮) 説明: 地域マネジメントにおけるスポーツの役割を実践することで、社会に貢献する姿勢が養われます。					

	学習目標 4: スポーツに関わる対象者について興味をもち、社会とのつながりを考え、説明できる。 関連 DP: DP3 (社会的貢献性の発揮)、DP4 (コミュニケーション能力の向上) 説明: 対象者との関わりを通じて社会とのつながりを考えることで、社会的貢献性が高まり、コミュニケーション能力も向上します。 学習目標 5: スポーツイベントの成り立ちやスポンサー、マネジメントについて理解し、説明できる。 関連 DP: DP1 (専門知識の習得)、DP2 (問題解決能力の向上) 説明: スポーツイベントの運営に関する知識を習得し、それを説明できることは、専門知識の習得と問題解決能力の向上に寄与します。	
19.教科書・教材	授業中に webclass を通じて資料提供をする	
20.参考文献	参考図書 (図書館所蔵) 「公認スポーツ指導者養成テキスト」財団法人日本体育協会 「生涯スポーツ実践論」川西正志・野川春男編著、市村出版 「生涯スポーツプログラム」日本レクリエーション協会編、遊技社	
21.成績評価	期末の総括テスト 50% 毎回のワークシート 30% スポーツイベント企画立案 20% (企画の完成度 10%、グループ貢献度 10%) ワークシートの提出をもって出席を確認します	
22.コメント	■履修条件・他の科目との関連 ・ 5 回の欠席で期末試験の受験資格を失います。 ・ 忌引き、法定伝染病罹患による公欠、ならびに教授会で認められた「欠席」以外はすべて欠席となります。 ・ 毎回の授業を聴き、資料に目を通し、ワークシートを作成しないと授業を理解することができません。 ・ 統括試験はワークシートの内容から問題を出します。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日 4 限 (学習支援センター) 研究室オフィスアワー：木曜日 3 限 (個人研究室 4-514)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス (シラバスの確認 (授業の進め方、授業日程、評価方法、諸注意)) 生涯スポーツに関わるキーワードクイズ	シラバスをしっかりとみて来ること。第 1 回目のスポーツ時事クイズを行うので、赤鉛筆あるいはボールペンを持参すること。
第 2 回	生涯スポーツとは スポーツ、生涯スポーツの歴史と定義	「する・みる・ささえる」の持つ意味について調べてくる 「する・みる・ささえる」の具体的な事例を新聞、ニュースより調べ、まとめておく。
第 3 回	我が国の生涯スポーツの推進施策 行政と法律	日本のスポーツを支える行政機関と組織団体について資料を事前に目を通してくること。期末試験で問う
第 4 回	地域スポーツと総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブについて事前に資料に目を通してくること。期末試験で問う。
第 5 回	発育発達から見たスポーツの指導	中高年期のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。
第 6 回	青少年のスポーツ指導の実践 楽しさ、やる気を科学する	青少年期のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。

第 7 回	中高齢者のスポーツ参加 中年層と高齢者スポーツの現状と課題 生活習慣病と老化	生活習慣病の予防や介護予防につながる運動について調べておく
第 8 回	女性のスポーツ参加 女性スポーツの現状と課題 ジェンダーフリーなスポーツを考える	女性のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。 前半部の従業内容をしっかりとまとめること
第 9 回	障がい者スポーツの参加 障がい者スポーツの現状と課題	障害者のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。パラリンピックの歴史についてもまとめておくこと。
第 10 回	地域スポーツ指導者に求められていること	スポーツ指導者に求められる資質、能力についてまとめ、自分自身にたりない部分をどう補うのかを考える
第 11 回	ニュースポーツの実践①	事前配布の資料に目を通し、ルールや特徴について理解を進めておくこと。3 年次の「スポーツによるまちづくり」に活かしていきます。
第 12 回	ニュースポーツの実践②	事前配布の資料に目を通し、ルールや特徴について理解を進めておくこと。3 年次の「スポーツによるまちづくり」に活かしていきます。
第 13 回	ニュースポーツの実践③	事前配布の資料に目を通し、ルールや特徴について理解を進めておくこと。3 年次の「スポーツによるまちづくり」に活かしていきます。
第 14 回	ニュースポーツの実践④	事前配布の資料に目を通し、ルールや特徴について理解を進めておくこと。3 年次の「スポーツによるまちづくり」に活かしていきます。
第 15 回	まとめと総括テスト	重要事項を問う。ワークシートを見直すこと

1.授業コード (ナンバリング)	SPB303-M01	2.科目名	スポーツ産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	堀込孝二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	3 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本授業では、スポーツ産業に関する基礎的な知識を幅広く学び、スポーツが経済・社会に果たす役割や可能性を理解することを目的とする。将来的にスポーツ関連の仕事に関心を持つ学生にとって、スポーツを「産業」として捉える視点を養うことを重視する。 【概要】 本授業では、スポーツ産業の構造、スポーツ組織とメディア、マーケティング、マネジメント、スポーツ政策、地域振興、国際化といった多様なテーマについて概観する。初学者にも分かりやすく解説しながら、スポーツとビジネスの接点に関する理解を深める講義である。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は次の通りです。 ①スポーツ産業の基本的な全体像と構造が理解できる ②スポーツマーケティングの基本的な考え方や事例が理解できる ③スポーツイベントの収益構造やスポンサーシップの仕組みが理解できる ④地域活性化や国際交流におけるスポーツの役割についての知識を得ることができる ⑤スポーツを「楽しむ」視点から「支える・創る・広げる」視点への発想転換ができる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『スポーツビジネス概論5』黒田次郎,石塚大輔,萩原悟一,秋山大輔 (著), 叢文社, 2024 年					
20.参考文献	関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。合計 60 点以上で合格となります。 (1) 授業内で課される課題・レポート 60% (2) 期中・末に課される課題・レポート (小テスト) 40%					
22.コメント	メールや WebClass などでの質問ができます。 ノート PC は必携です。					
23.オフィスアワー	特にないが授業の前後やメールなどで質問ができます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	授業オリエンテーション：現代のスポーツビジネス			ノートパソコンを持参すること 【事前】授業のシラバスを熟読し授業構成を理解する 【事後】オリエンテーションの説明内容にもとづきスポーツ事業の基礎知識を自修し、ノートを準備する		
【第2回】	スポーツ施設産業：公共・民間スポーツ施設のマネジメントを学ぶ			ノートパソコンを持参すること 【事前】今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「スポーツ施設産業」を参照のうえノートを加筆する		

【第3回】	プロスポーツマーケティング：スポーツマーケティングを学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「プロスポーツマーケティング」を参照のうえノートを加筆する
【第4回】	教育とスポーツビジネス：教育現場のスポーツビジネスを学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「教育とスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する
【第5回】	企業とスポーツビジネス：企業スポーツの歴史と今後を学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「企業とスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する
【第6回】	レジャースポーツ産業：レジャースポーツ産業の実例を学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「レジャースポーツ産業」を参照のうえノートを加筆する
【第7回】	地域活性化とスポーツビジネス：総合型地域スポーツクラブを学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「地域活性化とスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する
【第8回】	スポーツ事業論前半まとめ	【事前】第2回から第7回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく 【事後】第2回からこれまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する
【第9回】	プロスポーツの経営：日本のプロスポーツの現状と課題を学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「プロスポーツの経営」を参照のうえノートを加筆する
【第10回】	近年のアスリート支援：大学スポーツのマネジメントを学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「近年のアスリート支援」を参照のうえノートを加筆する
【第11回】	オリンピックの効果：オリンピックの開催意義や効果を学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】提示資料「オリンピックの効果」を参照のうえノートを加筆する
【第12回】	スポーツツーリズム：スポーツツーリズムの事例を学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく

		【事後】 提示資料「スポーツツーリズム」を参照のうえノートを加筆する
【第 13 回】	スポーツビジネスにおける人材：体育会系学生やセカンドキャリアについて学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】 提示資料「スポーツビジネスにおける人材」を参照のうえノートを加筆する
【第 14 回】	カレッジスポーツビジネス：日本とアメリカの大学スポーツの違いについて学ぶ	ノートパソコンを持参すること 【事前】 前週分のノートを復習し、今週分の範囲であるテキストを熟読しておく 【事後】 提示資料「カレッジスポーツビジネス」を参照のうえノートを加筆する
【第 15 回】	スポーツ事業論後半まとめ	【事前】 第 9 回から第 14 回のノートを復習し範囲であるテキストを熟読し再考しておく 【事後】 第 9 回からこれまでに学んだことの詳細をまとめ、その説明ができるようノートを再加筆する

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y03	2.科目名	特別研究Ⅱ（AI 社会のキャリア研究）		3.単位数	2
4.授業担当教員	福田美誉					
5.授業科目の区分	特別研究（IT 業界・教育業界における実務経験のある教員による授業科目）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学部			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習科目 一部の授業回においてオンライン授業及びオンデマンド授業を実施。詳しくはコメント欄を確認のこと。		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 DX（デジタルトランスフォーメーション）社会においては、AI の活用を活用して産業界や行政で活躍できるための知識やスキルが必要とされています。 この授業では、AI の基礎知識と幅広い ICT のスキルセット、そして活用に必要な汎用基礎能力（協働、コミュニケーション、問題解決、プレゼンテーション）を習得することを目的としています。 【概要】 この授業は、AI や ICT の活用を学習する中で、DX 社会における企業内での実務を疑似体験します。 そこで、以下の学習形態をとります。 ・対面授業： 授業時間内での調					
18.学習目標とDPとの関連	【学習目標】 ①チーム活動を通じて「協働」に必要な考え方を実践を通じて理解する ②DX 推進・AI 活用企業の活動を知り理解する ③課題解決策を考えるための知識や方法を実践を通じて理解する ④表現力を高める方法を知り、スライド作成や口頭プレゼンを実践できる 本科目は、本学の 6 つの{ディプロマ・ポリシーー,https://www.kuins.ac.jp/about/info/3policy.html}（DP）のうち、 1.自律性、2.社会的貢献性、4.問題発見・解決力、5.コミュニケーションスキルの 4 つに該当します。					
19.教科書・教材	【教科書】 なし、随時解説資料を WebClass 通じて配布します。 【教材】 一部の授業回でオンデマンド教材を活用します。詳しくは下記の「25.授業内容」の説明を確認してください。					
20.参考文献	・内閣府「{Society 5.0 資料,https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf}」 ・IPA「{デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進,https://www.ipa.go.jp/digital/dx/about.html}」 ・内閣府「{スマートシティとは,https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/index.html}」 ・日立東大ラボ 編集『Society5.0:					
21.成績評価	・第 5 回レポート課題（「協働」について、学習目標①に相当） 30％ ・第 10 回課題（AI 社会とそれを活用する産業界の調査結果：学習目標②に相当） 30％					

	・第 11 回～13 回の授業内での発表（学習目標③に相当） 10% ・最終日の提案発表会の口頭発表及びそのスライドの作成過程 30% ★評価観点については、授業開始までにループリックを提示します。	
22.コメント	本科目は DX 社会を疑似体験する学習活動を取り入れます。各回、以下の授業形態となります。当日滞りなく授業が受けられるよう、各実施回までにツールの設定や基本的な使い方を授業内で実践します。 ・第 1～3、7～9、11～15 回：神戸山手 C 教室での対面集合 ・第 4 回：オンライン授業(Zoom) ・第 5 回、第 6 回、第 10 回：オンデマンド授業（動画） ※オンライン授業時は顔と声を出しての参加が必要です。（ビデオ ON、ミュート OFF） ただし、カメラ機能がないノートパソコンを使用している学生は第 1 回授業において相談に応じます。 ※オンデマンド授業については動画視聴したことが分かる振り返りレポートをもって出欠確認いたします。また、視聴した結果を次の授業回で確認する時間帯を設けます。 ・対話型生成 AI（Copilot、ChatGPT）は、本学の使用ガイドラインの範囲内で積極的な利用を推奨します。	
23.オフィスアワー	時間帯：水曜日昼休み 場所：1 号館 4 階（予定）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション	★前日までの提出物 ・事前学習動画を視聴しての感想（フォームへの入力） ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 2 回	プロジェクト活動のチームワーク	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 3 回	リーダーシップとフォロワーシップ	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 4 回	働き方の変化「リモートワーク」	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC（Zoom インストール済みのもの） ・イヤフォン ※顔と声を出しての参加（ビデオ ON、ミュート OFF）が必要です。
第 5 回	前半振り返り 協働とは？	◆提出物◆ ・授業前に、指定期間（1 週間）に動画を視聴し、期日までに小レポートを提出

		・動画視聴後、レポート課題（「協働」について）を提出 ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 6 回	AI 社会の変化「Society5.0」「DX」「スマートシティ構想」	★指定期間（1 週間）に動画を視聴し、期日までに小レポートを提出してください。 ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 7 回	IT 業界・DX 企業研究①	★前日までの提出物 ・第 6 回の課題 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 8 回	IT 業界・DX 企業研究②	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 9 回	IT 業界・DX 企業研究③	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 10 回	中盤振り返り AI 社会とそれを活用する産業界の現状とは？	★指定期間（1 週間）に動画を視聴し、期日までに小レポートを提出してください。 ◆必要な用具◆ ・筆記用具 ・ノート PC ・イヤフォン
第 11 回	課題解決① 課題を見つける	★前日までの提出物 ・第 10 回の課題 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 12 回	課題解決② 深掘し解決策を出す	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 13 回	課題解決ワーク③解決策を具体化する	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具

		・ノート PC
第 14 回	提案資料をまとめる	★前日までの提出物 ・前回授業の振り返りをフォームで投稿 ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC
第 15 回	提案発表会、授業振り返り	★前日までの提出物 ・提案発表会のスライド ◆当日の持ち物◆ ・筆記用具 ・ノート PC

1.授業コード (ナンバリング)	SS2101-Y71	2.科目名	まちづくり論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 対面授業を予定していますが、事情によりオンライン講義に変更する可能性があります。	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会におけるまちづくりのあり方について、公園・広場や商店街といった公共空間について講義します。都市では、さまざまな立場や考えを持った人びとが同じ地域や場所で生活しています。こうした、異なる人たちと共に（ときに折り合いをつけながら）どのようにして、いっしょに暮らしていけるのかは、都市でのまちづくりの重要なテーマです。この授業をととして、「社会」という観点から、都市計画やまちづくりについて考える姿勢を身につけることが、本講義の目的です。 【概要】 授業ではまず、都市計画とまちづくりに関する基本					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1、S2 の学修に関連しています。 ①現代社会におけるまちづくりについての基本的な知識や考え方について述べるができる ②身近な公共空間に関心を持ち、そのあり方について自分なりの意見を持ち説明することができる。					
19.教科書・教材	使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。					
20.参考文献	ジェイン・ジェイコブズ（山形浩生 訳）『新版 アメリカ大都市の死と生』鹿島出版会、2010 年 中島直人・村山顕人ほか『都市計画学:変化に対応するプランニング』学芸出版社、2018 年 笹尾和宏『PUBLIC HACK:私的に自由にまちを使う』学芸出版社、2019 年 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書、2015 年 広井良典『商店街の復権——歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024 年 五十嵐太郎『誰のための排除アート？——不寛容と自己責任論』岩波ブックレット、2022 年 その他、適宜授業					
21.成績評価	都市計画に関する小課題：20 点（学習目標①に対応） 商業空間に関するレポート課題：40 点（学習目標②に対応） 公共空間に関するレポート課題：40 点（学習目標②に対応）					
22.コメント	生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピペと同様の対応をしますので注意してください。					
23.オフィスアワー	授業内にて説明します					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] イントロダクション			予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を		

		読み直し、整理すること。
【第2回】	〔講義〕都市計画とまちづくりの基本知識①	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第3回】	〔講義〕都市計画とまちづくりの基本知識②	予習：あらかじめ出題された課題に取り組むこと 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第4回】	〔講義〕公共空間とまちづくり①：都市公園とは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（公共空間）の提示】
【第5回】	〔講義〕公共空間とまちづくり②：都市公園政策の過去と現在	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第6回】	〔講義〕公共空間とまちづくり③：都市公園の管理をめぐる問題	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第7回】	〔活動〕公共空間とまちづくり④：公共空間の管理と「自由」	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第8回】	〔活動〕公共空間とまちづくり⑤：公共空間のデザイン	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第9回】	〔講義〕商店街とまちづくり①：商店街のなりたち（近現代を中心に）	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（商店街）の提示】
【第10回】	〔講義〕商店街とまちづくり②：商店街活性化政策の変遷	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第11回】	〔講義〕商店街とまちづくり③：商店街活性化の現代的課題	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第12回】	〔活動〕商店街とまちづくり④：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第13回】	〔活動〕商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること

【第 14 回】	[活動] 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 15 回】	まとめ	ミニテストに向けて対策をすること

1.授業コード (ナンバリング)	SS2104-Y01	2.科目名	メディア文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学部			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義ではメディア文化としてポピュラー音楽を取りあげる。20 世紀を通じて発展してきたポピュラー音楽は、われわれの日常生活において非常に身近なものであるが、アカデミックな、あるいはジャーナリスティックな視点から注目したとき、「メディア」「社会構造」「民族性」など、さまざまなテーマを見出すことができる。本講義ではそれらに関わるいくつかのトピックを取り上げ、メディアと社会に関連した研究を紹介しつつ、ひろく社会と音楽の関連について考察する。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の（S2）社会や文化について科学的に理解する力、（S3）新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①メディア文化としてのポピュラー音楽を題材に、メディアと社会の関係について説明できる。 ②メディア、情報化社会に関する理論を説明できる。					
19.教科書・教材	板書と視聴覚メディアを利用した講義形式。教科書は使用せず印刷物を配布する。					
20.参考文献	『ポピュラー音楽理論入門』K. ニーガス＝安田昌弘（水声社） 『音楽化社会の現在』南田・木島・永井・小川先生編著（新曜社）					
21.成績評価	授業中におこなう小レポート（40 点） [学習目標①②に対応] 期末レポート（60 点） [学習目標①②に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限 学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] はじめに			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 2 回】	[講義] オーディエンス			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 3 回】	[講義] 産業			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 4 回】	[講義] メディア			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 5 回】	[講義] メディア			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 6 回】	[講義] 音楽のデジタル化			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 7 回】	[講義] 音楽とフェスティバル			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 8 回】	[講義] 音楽とイメージ：ミュージック・ビデオ			準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）		
【第 9 回】	[講義] 音楽の社会的影響			準備学習：与えられた課題をする（60 分）		

		復習：参考文献を読む（60 分）
【第 10 回】	〔講義〕 音楽と政治：ブリットポップとクールブリタニア	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 11 回】	〔講義〕 音楽とジェンダー、セクシュアリティ	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 12 回】	〔講義〕 音楽とエスニシティ	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 13 回】	〔講義〕 音楽と社会運動	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 14 回】	〔講義〕 音楽と震災	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）
【第 15 回】	〔講義〕 まとめ	準備学習：与えられた課題をする（60 分） 復習：参考文献を読む（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SS2206-Y01	2.科目名	労働社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	現在、日本は少子高齢化社会の進行の中で、仕事のあり方も大きく変化している。そういった状況下での職業、仕事、会社のありかたなどについての具体的な事例などを通して考えていく。現在、労働のあり方、雇用環境に大きな変化があり、大学生の就職、非正規労働力率の高まり、長期安定雇用の減少といったさまざまな課題を抱えている。 さらに外国人労働者などが日本の労働市場に多く参入するようになってきた。こうした変化の実態を映像資料や各種の統計などを通して理解し、今後の労働のあり方について検討することである。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は 総合社会学科の DP の「S1.修得した知識技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」「2.主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連している。 ①日本の雇用システムによって、家族のかたち、日本型福祉や社会政策がどのように規定されてきたのか、それが現在どのように変化してきたのかについて理解し説明できる。 ②女性、非正規労働者、高齢者など、多様な働き方の現状と課題に理解し、説明できる。 ③日本での外国人労働者の現状や抱える課題、日本の労働市場に与える影響などを理解し、説明できる。 ④グローバル化の進行の中で、今後の労働のあり方がどのように変換していくかについて理解し、説明できる。 ⑤現代日本企業のあり方やその変化の動向を学び、大学卒業後の自らの働き方や生活について理解し、説明することができる。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴールの中の「8.包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働きがいのある人間らしい（ディーセント・ワーク）を促進する」の視点からも考察していきます。					
19.教科書・教材	指定なし 必要な資料は授業中に配布するか、WEB CLASS にアップします					
20.参考文献	今野晴貴『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文芸春秋 竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂 石田淳『相対的剥奪の社会学：不平等と意識のパラドクス』東京大学出版会.					
21.成績評価	授業で提出するレポート 40%（学習目標①と②と③に対応） 中間レポート 20% 最終レポート 40%（学習目標③と④と⑤に対応） 最終レポートは授業の関連する資料を読んで、現在の労働について社会学的な観点から考察する内容 レポートは採点・講評をして各自に返却します。基準に満たない場合は再提出が必要となります。					
22.コメント	原則、対面授業です。ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場					

			合は、遠隔での対応となります。その場合、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがあります。 講義で事例として取り上げるのが日本での事例が中心のため、日本の現状に一定の理解が必要になります。 大学を卒業後、多くの学生が就職することになるであろう。職業、仕事、会社などについての疑問や関心などをデータなどを用いて現実を考えていくのが労働社会学です。それを通して自分がいま生きているこの社会のあり方を相対化することにつなげていくことが目的です。そのためには関連する情報を自分で集めたり、本を読んだりすることが必要です。
23.オフィスアワー			授業後に教室または非常勤講師室
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	日本の現状：少子高齢化の中での働くこと 高齢化社会の労働者 高齢者の労働状況	【復習】配布資料の復習	
【第 2 回】	雇用システムの変化 ① 日本型雇用システム 日本の企業と働く社会を考える 自分が将来就きたい職業について考える	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)	
【第 3 回】	雇用システムの変化 ② 雇用の多様化 日本型雇用慣行の今後 企業の経営戦略の変化と雇用の未来	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業資料配布	
【第 4 回】	雇用システムの変化 ③ 非正規雇用 ニート、フリーター 1990 年代初頭のフリーターが登場した背景と非正規雇用の増加 非正規雇用から正規雇用への移行の困難さ	【復習】レジュメの復習 【次回の予習】中間レポートの課題を配布 課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください	
【第 5 回】	女性と仕事 ① 就業構造の変化 社会の変化と岐路に立つ日本型福祉社会	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P229-233 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P229-233	
【第 6 回】	女性と仕事 ② 均等法の成立・改正とその影響 職場における男女平等の道のりー男女雇用機会均等法施行以降	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P229-233 【予習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P224-254	
【第 7 回】	女性と仕事 ③ 非正規雇用と女性 女性の貧困 性別役割分業 育児休業と継続就業 主婦パートの現在	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P224-254 【予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)	
【第 8 回】	仕事を取りまく制度 働き始める前に知っておいて欲しいこと 労働に関する法のしくみ、労働基準法、労働組合、労使協議	【復習】中間レポートの提出締め切り 中間レポートは第 9 回目の授業に返却予定 【予習】授業の関連する動画の視聴し、課題を WEB CLASS で回答	
【第 9 回】	働き方はどう変わってきたか：技術革新と職場の変化 情報通信技術が変える社会	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】次回のレジュメを配布しますので読んでください	
【第 10 回】	過労死・過労自殺 ブラック企業 ブラック企業とは、低賃金・長時間労働、うつ病、過労死	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P123-P139 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学 P205-228	

【第 11 回】	大学生の就活問題 日本のメリトクラシー 日本の学歴社会	【復習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】最終レポートの課題を配布。課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください
【第 12 回】	グローバル化と働くこと① 海外で働くとは	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 閣 P255-P260 【予習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業有斐閣テキスト P261-278
【第 13 回】	グローバル化と働くこと② 日本における外国人労働者 日本における外国人労働者：日系人と技能実習生	【復習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P123-P139 【次回の予習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P205-228
【第 14 回】	感情労働 感情労働の概念 対人サービス業における感情労働 感情労働—現代社会における労働の変容	【復習】 配布資料の復習 最終レポートの最終提出締切 最終レポートは 15 回目に返却
【第 15 回】	まとめ 最終レポートの返却と講評	コメントを書いた最終レポートを返却します。基準に達していない学生は再提出が必要となります。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2215-Y01	2.科目名	社会調査法（２）（遠隔）		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（オンライン） 受講方法は第 1 回目の授業内にて説明しま す。 Zoom のアドレスは 4 月以降に webclass に 掲示します。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	データを収集し、それを分析可能な形に加工していくスキルを身につける。実際に調査票を作 成し、それをもとにデータのコーディング、クリーニングの手法を習得する。質的調査につい ては文献購読によってフォローする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に 理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要な考え方を身につけ、調査企画書を作成することができる。 ②調査企画書にもとづいた調査票の作成と適切なサンプリングができる。 ③社会調査の実査の方法を身につけ、収集したデータを整理しまとめることができる。					
19.教科書・教材	毎回、テキストまたは資料を配布します。					
20.参考文献	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020 年 轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法[第 4 版]』、2021 年 盛山和夫『社会調査入門』有斐閣、2004 年 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]』東京大学出版会、2015 年					
21.成績評価	社会調査の企画書の作成…30 点 [学習目標①に対応] 量的調査の調査票の作成…30 点 [学習目標②に対応] 量的調査のサンプリングに関する課題…20 点 [学習目標②に対応] データセットの作成…20 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	第 2 回の授業までに「社会調査論」で学習した内容を復習しておくこと。 授業では適宜グループワークを実施します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4 月 11 日	イントロダクション：何のための社会調査か（前編）			復習：与えられた課題をする		
【第 2 回】 4 月 18 日	何のための社会調査か（後編）			準備学習：「社会調査論」のテキストを読む 復習：与えられた課題をする		
【第 3 回】 4 月 25 日	調査企画書の作成に向けて：「よい問い」とは何か			準備学習：あらかじめ配布された資料を読ん でおく 復習：与えられた課題をする		
【第 4 回】 5 月 2 日	調査企画書の作成①：リサーチ・クエスチョン			準備学習：あらかじめ配布された資料を読ん でおく 復習：与えられた課題をする		

【第5回】 5月9日	調査企画書の作成②：仮説を考える	準備学習および宿題：「調査企画書」を完成させる
【第6回】 5月16日	調査票の作成①：質問の形式を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第7回】 5月23日	調査票の作成②：質問文と選択肢を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第8回】 5月30日	調査票の作成③：質問文の配置を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第9回】 6月6日	調査票の作成④：質問文をならべなおし調査票を完成させる	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第10回】 6月13日	実査の方法：データを集める方法を考える	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：調査票を完成させる
【第11回】 6月20日	社会調査とサンプリング①：標本抽出	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第12回】 6月27日	社会調査とサンプリング②：無作為抽出法	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第13回】 7月4日	データの入力（コーディング）①	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第14回】 7月11日	データの入力（コーディング）②	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする
【第15回】 7月18日	まとめ／「みんなでつくる」調査データ	準備学習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：与えられた課題をする

1.授業コード (ナンバリング)	SS2216-Y01	2.科目名	社会調査実習（1）		3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一、山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学部			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸だが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また、報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションできる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	期末レポート 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…20 点 [学習目標②に対応] SPSS の基本的な操作ができる…10 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限（永井） 水曜昼休み（秋）（山本） 学修支援センター：木曜昼休み（永井） 金曜昼（山本）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[活動] インTRODakション [活動] 調査の企画・設計			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 2 回】	[活動] 予備調査（1）先行研究・資料の収集 [活動] 予備調査（2）観察調査			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 3 回】	[活動] 予備調査（3）聞き取り調査 [活動] 予備調査の整理、まとめ			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 4 回】	[活動] 仮説の設定 [活動] 調査対象、抽出方法の決定			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 5 回】	[活動] 調査項目の決定 [活動] 調査票の設計・作成（1）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 6 回】	[活動] 調査票の設計・作成（2）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 7 回】	[活動] サンプリング（1）			準備学習：テキストを読むこと		

	[活動] サンプルング (2)	復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 8 回】	[活動] データ処理・クリーニング (1) [活動] データ処理・クリーニング (2)	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 9 回】	[活動] 調査票分析・基礎集計 (1) [活動] 調査票分析・基礎集計 (2)	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 10 回】	[活動] 調査票分析・クロス集計 (1) [活動] 調査票分析・クロス集計 (2)	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 11 回】	[活動] 調査票分析・相関係数 (1) [活動] 調査票分析・相関係数 (2)	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 12 回】	[活動] 調査票分析まとめ [活動] インタビュー調査・企画 (1)	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 13 回】	[活動] インタビュー調査・実習 (2) [活動] 報告書の書き方・作成	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 14 回】	[活動] 発表	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと
【第 15 回】	[活動] 発表 [活動] まとめ	準備学習: テキストを読むこと 復習: 授業内で出された課題に取り組むこと

1.授業コード (ナンバリング)	SS2302-Y01	2.科目名	社会的企業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的は非営利組織・市民活動（NPO・NGO）について社会学的に検討することにある。非営利組織は、日本においては大変微妙な位置づけにある。それはボランティアなどが「善意」や「心がけ」のように捉えられており、非営利組織もまた、そのような観点から捉えられがちである。しかし、非営利組織や市民活動とは「非営利」でなければならない理由がある。そしてそれゆえにできることもある。また、組織という観点では営利組織とあまり変わらない。 以上のような観点を踏まえつつ、本授業では NPO・NGO について受講者にとって					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。学修目標は以下の通りである。 （１）NPO・NGO の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） （２）NPO・NGO における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） （３）NPO・NGO の社会課題を社会学的に説明することができる（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	適時提示する					
20.参考文献	適時提示する					
21.成績評価	（１）ディスカッションペーパー（毎回）・・・30% （２）問題発見ペーパー（５回）・・・30% （３）課題レポート・・・40%					
22.コメント	NPO・NGO はみなさんにとって将来関わりをもつ場合が少なくありません。就職先、としても選択肢になるはずです。					
23.オフィスアワー	研究室：水曜（昼） 学修支援室：金曜（昼）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	NPO・NGO とはなにか NPO・NGO と社会の関係について学ぶ			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（１）を記入する。		
第 2 回	「公共」を考える 社会学における「公共」について知る。			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 3 回	なぜ NPO・NGO なのか（１） 教育と福祉における NPO			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 4 回	なぜ NPO・NGO なのか（２） 国際協力と NPO			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（２）を記入する。		
第 5 回	非営利活動の歴史（国内編）			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 6 回	非営利活動の歴史（国外編）			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 7 回	企業と NPO の違い 企業における CSR と NPO			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（３）を記入する。		

第 8 回	ソーシャルデザインとソーシャルビジネス	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 9 回	NPO の課題／社会への貢献と問題	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（４）を記入する。
第 10 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（問題設定編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（定款編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（資金計画編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（５）を記入する。
第 13 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（活動スタッフ編） 発表に向けてグループワークをする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	ワークショップ：NPO を作ってみる（まとめ） 発表をする	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。
第 15 回	まとめ－社会と NPO の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。

1.授業コード (ナンバリング)	STA101-A01	2.科目名	統計学Ⅰ（春夏集中）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～夏学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることが出来ます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようにしておきましょう。 ②開講日程は以下の予定です。 開講日程(予定) 第 1 回～第 4 回 6/21 土 3～6 限 第 5 回～第 8 回 6/28 土 3～6 限 第 9 回～第 10 回 7/5 土 1～2 限 第 11 回～第 15 回 7/12 土 1～5 限 以上の予定は日程変更があるかもしれません。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の進め方 ・ 表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・ 変数と尺度の種類を知る ・ アンケートに回答してみる ・ 質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計 (1) ・ 単純集計、クロス集計の方法 ・ 集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計 (1) ・ 階級別度数分布表を作成する ・ ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計 (2) ・ 代表値 ・ 散布度でデータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・ 中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・ 2 つの量的変数の関係 (1)	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・ 中間試験の解説 ・ 2 つの量的変数の関係 (2) 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計 (2) ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計 (3) 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計 (4) 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係 (3) 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計 (3) 複数回答の場合のクロス集計 (関数の利用)	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	STA101-Y01	2.科目名	統計学Ⅰ (1/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることが出来ます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）課題発見・解決力（5）コミュニケーション力（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようにしておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。 生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに关しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないた					

	め、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の進め方 ・ 表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・ 変数と尺度の種類を知る ・ アンケートに回答してみる ・ 質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計 (1) ・ 単純集計、クロス集計の方法 ・ 集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計 (1) ・ 階級別度数分布表を作成する ・ ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計 (2) ・ 代表値 ・ 散布度でデータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・ 中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・ 2 つの量的変数の関係 (1)	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・ 中間試験の解説 ・ 2 つの量的変数の関係 (2) 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計 (2) ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計 (3) 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計 (4) 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係 (3) 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計 (3) 複数回答の場合のクロス集計 (関数の利用)	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	STA101-Y02	2.科目名	統計学Ⅰ (2/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることが出来ます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）課題発見・解決力（5）コミュニケーション力（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようにしておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。 生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用する					

	ることに限しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 4 階 403 室）：火 昼休み およびメールにて対応	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の進め方 ・ 表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・ 変数と尺度の種類を知る ・ アンケートに回答してみる ・ 質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計（1） ・ 単純集計、クロス集計の方法 ・ 集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計（1） ・ 階級別度数分布表を作成する ・ ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計（2） ・ 代表値 ・ 散布度でデータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・ 中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・ 2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・ 中間試験の解説 ・ 2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計（2） ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計（3） 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計（4） 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係（3） 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計（3） 複数回答の場合のクロス集計（関数の利用）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験	この科目で学んだことを振り返る

	第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	

1.授業コード (ナンバリング)	STA101-Y03	2.科目名	統計学Ⅰ（3/4）		3.単位数	2
4.授業担当教員	端本利江子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることが出来ます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）課題発見・解決力（5）コミュニケーション力（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようにしておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。					
23.オフィスアワー	授業後の教室で対応します。 ※その他メールでも対応します。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の進め方 ・ 表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・ 変数と尺度の種類を知る ・ アンケートに回答してみる ・ 質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計 (1) ・ 単純集計、クロス集計の方法 ・ 集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計 (1) ・ 階級別度数分布表を作成する ・ ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計 (2) ・ 代表値 ・ 散布度でデータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・ 中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・ 2 つの量的変数の関係 (1)	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・ 中間試験の解説 ・ 2 つの量的変数の関係 (2) 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計 (2) ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計 (3) 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計 (4) 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係 (3) 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計 (3) 複数回答の場合のクロス集計 (関数の利用)	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	STA101-Y04	2.科目名	統計学Ⅰ (4/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることが出来ます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようにしておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日お昼休み センターオフィスアワー：金曜日お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の進め方 ・ 表とグラフの基本と書き方			授業で学んだ内容を復習する ?PC		

第 2 回	変数と尺度 ・変数と尺度の種類を知る ・アンケートに回答してみる ・質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計（１） ・単純集計、クロス集計の方法 ・集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計（１） ・階級別度数分布表を作成する ・ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計（２） ・代表値 ・散布度でデータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・2 つの量的変数の関係（１）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・中間試験の解説 ・2 つの量的変数の関係（２） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計（２） ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計（３） 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計（４） 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係（３） 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計（３） 複数回答の場合のクロス集計（関数の利用）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験 第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	この科目で学んだことを振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	STA101-Y05	2.科目名	統計学Ⅰ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 人間科学、社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠です。この授業では、情報を収集し活用するために必要なデータ分析（記述統計分析）の基礎的な方法を身に付けます。データ分析は心理学科での学びと、社会人として判断が求められるあらゆる場面で役立てることが出来ます。 【概要】 この科目では、データ分析（記述統計）の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を基礎から学びます。まずは変					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）課題発見・解決力（5）コミュニケーション力（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 具体的な学修目標は以下の通りです。 ①記述統計的分析手法の基礎概念や専門用語を説明できる。 ②表やグラフを作成でき、また、それらから事実を正しく読み取ることができる。 ③記述統計的分析手法を使用して分析できる。 ④記述統計的分析に Excel を使用することができる。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献						
21.成績評価	中間試験 20% 学修目標①②③ 平常課題 30%（ワークシート・練習問題）学修目標②③④ 総括試験 50% 学修目標①②③ ※この科目の単位を修得する目安として、平常の提出物の 6 割以上の提出、Excel 課題作業後の提出、 中間試験及び総括試験の 6 割以上の成績が必要です。					
22.コメント	①授業参加においては各自ノートパソコンを持参してください。パソコンの基本的な操作スキルとして、文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などは前もってできるようにしておきましょう。 ②毎回の授業の後、復習として授業内容のポイントをノート 1 枚程度に自分でまとめてみましょう。中間テストや総括テストの資料になります。わからないところがあれば教科書で確認したり、科目担当者に質問しましょう。 ③生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用する					

	ることに限っては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 2 階 210 室）：水 3 限目 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングcommons）：水 昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ 授業の進め方 ・ 表とグラフの基本と書き方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 2 回	変数と尺度 ・ 変数と尺度の種類を知る ・ アンケートに回答してみる ・ 質問項目を考えてみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 3 回	質的データの集計（1） ・ 単純集計、クロス集計の方法 ・ 集計された表の読み方	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 4 回	量的データの集計（1） ・ 階級別度数分布表を作成する ・ ヒストグラムを作成して分布の特徴をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 5 回	量的データの集計（2） ・ 代表値 ・ 散布度でデータの散らばりを表す	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 6 回	・ 中間試験【第 1 回から第 5 回の内容】 ・ 2 つの量的変数の関係（1）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 7 回	・ 中間試験の解説 ・ 2 つの量的変数の関係（2） 散布図と相関係数を使って 2 つの量的変数の相関関係をみる	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 8 回	質的データの集計（2） ピボットテーブルによる単純集計とクロス集計	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 9 回	量的データの集計（3） 分析ツールによる階級別度数分布表とヒストグラムの作成	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 10 回	量的データの集計（4） 分析ツールによる基本統計量の比較	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 11 回	2 つの量的変数の関係（3） 散布図の作成と分析ツールによる相関分析	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 12 回	質的データの集計（3） 複数回答の場合のクロス集計（関数の利用）	授業で学んだ内容を復習する ?PC
第 13 回	総合課題 学んだことを生かして課題に取り組む	課題に取り組む ?PC
第 14 回	総合練習 学んだ内容について総復習を行う。	総括試験にむけて全範囲を総復習する ?PC
第 15 回	総括試験	この科目で学んだことを振り返る

	第 1 回から第 14 回までの全範囲。PC の持込不可。電卓持込可。	

1.授業コード (ナンバリング)	STA103-Y01	2.科目名	統計学【国コミ観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート 25 点 [学習目標①に対応] ・計算課題 30 点 [学習目標②に対応] ・小テスト 45 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算			復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 3 回】	確率分布			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード (ナンバリング)	STA201-A01	2.科目名	ビジネス統計学		3.単位数	4
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 統計学は、データを利用して事実を把握したり、推測したりする方法を体系的に学ぶ学問であり、様々な分野で活用されている。本授業では、特にビジネスに関連するデータを取り扱いながら、統計学の基本的な概念を理解するとともに、統計的なものの見方、データの整理の仕方、基礎的な分析手法を身につけることを目的とする。 【概要】 この授業の前半では、記述統計的分析手法について学習し、データのまとめ方、読み取り方を習得する。後半では、推計統計的分析手法を扱い、身近な統計データを用いながら、推定問題と統計的仮説検定の					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルと関連します。 ①多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集めることができる ②データの処理（加工）・分析ができる ③客観的データを用いて自らの主張を行うことができる					
19.教科書・教材	経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ、竹内 広宜（著）、講談社（2021/9/24） ISBN-10：4065251613					
20.参考文献	書名：「ゼロからの統計学 ―使えるシーンが見える―」 著者：竹田茂生・藤木清 発行：くろしお出版 発行年：2010 年 4 月					
21.成績評価	1. ワークシートと Excel 作業ファイルの提出：24％（学習目標②） ※合格基準：すべての提出物の提出 2. 基礎的な統計分析の理解：ワークシート 12 回 36％（学習目標②） ※合格基準：正答率 70%以上 3. 最終課題：40％（学習目標①＋③） ※合格基準：データに基づくオリジナル案の提出					
22.コメント	★授業時間外学修 授業 1 コマ当たり、2 時間の時間外学修（復習、予習）を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用しながら充実した時間を持ちましょう。 ★ 全ての回で PC を持参する必要があります。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （水曜）昼休み 研究室オフィスアワー （金曜）4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	本科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 はじめに――統計学の役割と本書の構成 データ分析に使うソフト Excel の設定の確認			☆提出：授業中操作結果ファイル ○テキスト 0 章の復習と 1 章の予習		
【第 3 回】 【第 4 回】	第Ⅰ部 データの全体像をつかむ 第 1 章 データの可視化――数字の羅列をグラフにしよ う			授業中操作結果ファイル ○テキスト 1 章の復習と 2 章の予習 ○宿題：ワークシート 1（4 時間）		

	1.1 グラフの描画 1.2 グラフ作成の注意点と対数目盛	
【第 5 回】 【第 6 回】	第 I 部 データの全体像をつかむ 第 2 章 度数分布表・ヒストグラム——データの分布を可視化しよう 2.1 集計 2.2 度数分布表とヒストグラムのつくり方	☆提出：ワークシート 1 授業中操作結果ファイル ○テキスト 2 章の復習と 3 章の予習 ○宿題：ワークシート 2 (4 時間)
【第 7 回】 【第 8 回】	第 I 部 データの全体像をつかむ 第 3 章 代表値・分散——データ全体の特徴を数字で表そう 3.1 代表値 3.2 分散	☆提出：ワークシート 2 授業中操作結果ファイル ○テキスト 3 章の復習と 4 章の予習 ○宿題：ワークシート 3 (4 時間)
【第 9 回】 【第 10 回】	第 I 部 データの全体像をつかむ 第 4 章 散布図・相関係数——2 つの変数を同時に扱う 4.1 2 次元データ 4.2 散布図 4.3 相関係数 4.4 相関係数の解釈	☆提出：ワークシート 3 授業中操作結果ファイル ○テキスト 4 章の復習と 5 章の予習 ○宿題：ワークシート 4 (4 時間)
【第 11 回】 【第 12 回】	第 I 部 データの全体像をつかむ 第 5 章 単回帰分析——2 変数の関係を定式化しよう 5.1 最小 2 乗法と単回帰分析 5.2 回帰直線にもとづく予測	☆提出：ワークシート 4 授業中操作結果ファイル ○テキスト 5 章の復習と 6 章の予習 ○宿題：ワークシート 5 (4 時間)
【第 13 回】 【第 14 回】	第 I 部 データの全体像をつかむ 第 6 章 重回帰分析——複数の説明変数で目的変数を表そう 6.1 重回帰分析 6.2 重相関係数と決定係数 6.3 多重共線性	☆提出：ワークシート 5 授業中操作結果ファイル ○テキスト 6 章の復習と 7 章の予習 ○宿題：ワークシート 6 (4 時間)
【第 15 回】 【第 16 回】	第 II 部 観測されたデータの起こりやすさを測る 第 7 章 確率の定義と場合の数——確率的な現象を 3 種類の場合の数で表そう 7.1 確率の定義 7.2 場合の数 7.3 場合の数をを用いた確率の計算	☆提出：ワークシート 6 授業中操作結果ファイル ○テキスト 7 章の復習と 8 章の予習 ○宿題：ワークシート 7 (4 時間)
【第 17 回】 【第 18 回】	第 II 部 観測されたデータの起こりやすさを測る 第 8 章 事象の関係と確率の計算——計算を楽ちんにする事象のとらえ方を知ろう 8.1 事象の関係 8.2 確率の基本的性質 8.3 余事象の関係をを用いた確率の計算	☆提出：ワークシート 6 授業中操作結果ファイル ○テキスト 8 章の復習と 10 章の予習 ○宿題：ワークシート 7 (4 時間)
【第 19 回】 【第 20 回】	第 III 部 観測されたデータの背景を知る 第 10 章 確率変数、確率分布、期待値 10.1 確率変数 10.2 確率分布 10.3 期待値	☆提出：ワークシート 7 授業中操作結果ファイル ○テキスト 10 章の復習と 11,12 章の予習 ○宿題：ワークシート 8 (4 時間)

	10.4 分散	
【第 21 回】 【第 22 回】	第 III 部 観測されたデータの背景を知る 第 11 章 代表的な離散分布：二項分布 11.1 二項分布 11.2 二項分布の期待値・分散 第 12 章 代表的な連続分布①：正規分布 12.1 正規分布 12.2 任意の正規分布の確率を求める	☆提出：ワークシート 8 授業中操作結果ファイル ○テキスト 11,12 章の復習と 13,14 章の予習 ○宿題：ワークシート 9 (4 時間)
【第 23 回】 【第 24 回】	第 III 部 観測されたデータの背景を知る 第 13 章 代表的な連続分布②：カイ 2 乗分布と t 分布 13.1 カイ 2 乗分布(1)——カイ 2 乗統計量とは 13.2 カイ 2 乗分布(2)——分割表を使う考え方 13.3 t 分布 第 IV 部 データの背後にある確率分布を推測する 第 14 章 標本調査と標本からの推定 14.1 標本調査とは 14.2 大数の法則・中心極限定理	☆提出：ワークシート 9 授業中操作結果ファイル ○テキスト 13,14 章の復習と 15 章の予習 ○宿題：ワークシート 10 (4 時間)
【第 25 回】 【第 26 回】	第 IV 部 データの背後にある確率分布を推測する 第 15 章 区間推定 15.1 区間推定の考え方(1)——分散が既知の正規分布の平均を推定する 15.2 区間推定の考え方(2)——分散が未知の正規分布の平均を推定する	☆提出：ワークシート 10 授業中操作結果ファイル ○テキスト 15 章の復習と 16 章の予習 ○宿題：ワークシート 11 (4 時間)
【第 27 回】 【第 28 回】	第 IV 部 データの背後にある確率分布を推測する 第 16 章 仮説検定 16.1 仮説検定の考え方 16.2 t 検定 16.3 カイ 2 乗検定 (適合度検定)	☆提出：ワークシート 11 授業中操作結果ファイル ○テキスト 1-16 章の復習 ○宿題：ワークシート 12 (4 時間)
【第 29 回】 【第 30 回】	・総括試験 ・学習振り返りアピールシートの作成	☆提出：ワークシート 12 授業中操作結果ファイル ○総括試験 ・学習振り返りアピールシートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	STA201-M01	2.科目名	ビジネス統計学		3.単位数	4
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	昨今、ビジネスの現場では、統計の読み方および統計から事実を読み取ることが求められる。この授業では記述統計的分析手法を中心に学習したのち、実際に EXCEL や S P S S などを用いて、データのまとめ方、読み取り方を習得する。さらに、実際に経済・経営に関連する統計データをを用いて分析する方法を習得する。 【到達目標】 授業の目的は、統計学の基礎的な理論とトピックについての理解を深め、分析手法の基礎を知ることである。到達目標として、現実の経営・経済分析に広く用いられるいくつかの代表的な統計分析についての基礎理論を理解					
18.学習目標と D P との関連	①多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理し保存することができる ②データの収集方法を理解し、収集したデータの処理（加工）・分析ができる ③客観的データを用いて自らの主張を行なうことができる ④「統計で嘘をつく」、「統計に騙される」というリスクを低減させることができる					
19.教科書・教材	書名：「ゼロからの統計学　ー使えるシーンが見えるー」　著者：竹田茂生・藤木清 発行：くろしお出版　　発行年：2010 年 4 月					
20.参考文献						
21.成績評価	1.　ワークシート：3 0 %　→学習目標①②③④に対応 2.　中間テスト　　：3 0 %　→学習目標①②③④に対応 3.　最終レポート　：4 0 %　→学習目標①②④に対応					
22.コメント	生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに関しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。					
23.オフィスアワー	質問・相談があればメールで問い合わせください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 S A 【第 2 回】 S A	オリエンテーション 表とグラフの表現 1 ・基本的な表・グラフのマナー			☆提出：ワークシート 1 ○テキスト 1 章の復習と 3 章の予習 ○宿題：ワークシート 2　（2 時間）		
【第 3 回】 SA 【第 4 回】 SA	変数と尺度 ・質的変数と量的変数 ・4 つの尺度を知る ・「生活やイベントに関するアンケート」に答える 質的データの集計 1			☆提出：ワークシート 2、3－1 ○テキスト 3、4、5 章の復習と 6、7 章の予習 ○宿題：ワークシート 4（手集計）　（4 時間）		

	・単純集計・クロス集計の方法を知る	
【第 5 回】 SA 【第 6 回】 SA	量的データの集計 1 ・ヒストグラムの作成 ・代表値の話	☆提出：ワークシート 4 ○テキスト 6, 7 章の復習と 8, 9 章の予習 (4.5 時間)
【第 7 回】 SA 【第 8 回】 SA	量的データの集計 2 ・散布度の話 2 変数の関係をみる 1 ・散布図と相関係数	○テキスト 1～9 章の復習と 10 章の予習 (4.5 時間)
【第 9 回】 SA 【第 10 回】 SA	2 変数の関係をみる 2 ・相関から回帰へ 確認試験 1	○テキスト 9, 10 章の復習 (4.5 時間)
【第 11 回】 SA 【第 12 回】 SA	表とグラフの表現 2 ・Excel による表・グラフの表現 質的データの集計 3 ・データダウンロード ・ピボットテーブルを使った集計	○テキスト 1, 2, 3, 4, 5 章の復習 ○宿題：ワークシート 5 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 13 回】 SA 【第 14 回】 SA	質的データの集計 4 ・ピボットテーブルによる集計とグラフ表現 量的データの集計 3 ・Excel で基本統計量を算出する ・Excel でヒストグラムを作成する	☆提出：ワークシート 5 ○テキスト第 5, 6, 7, 8 章の復習 ○宿題：ワークシート 6, 7, 8 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 15 回】 SA 【第 16 回】 SA	量的データの集計 4 ・2 群のデータを比較する 2 変数の関係をみる 3 ・Excel による散布図の作成と相関行列の算出 ・散布図に回帰直線をひく	☆提出：ワークシート 6, 7, 8 ○宿題：ワークシート 9, 10 ○テキスト 1～10 章の復習 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 17 回】 SA 【第 18 回】 SA	2 変数の関係をみる ・分析ツールによる回帰分析 ・確認テスト 2	☆提出：ワークシート 9, 10 ○宿題：ワークシート 11 ○テキスト 11 章の復習とブランディングに関する事例検索 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 19 回】 SA 【第 20 回】 SA	企業ブランディング調査 1 ・調査票の作成 ・調査の実施	☆提出：ワークシート 11 ○データ入力 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 21 回】 SA 【第 22 回】 SA	企業ブランディング調査 2 ・データの基礎的な集計	○データの集計 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 23 回】 SA 【第 24 回】 SA	企業ブランディング調査 3 ・分析と結果のまとめ	○レポート 1 (4.5 時間) ◆ノート PC◆
【第 25 回】 SA	模擬店プランの作成 1 ・データにもとづいて、ターゲット、コンセプト、	☆提出：レポート 1 ○データの探索と企画案を考える (4.5 時

【第 26 回】 SA	マーケティングミックス（4P）を考える	間） ◆ノート PC◆
【第 27 回】 SA 【第 28 回】 SA	模擬店プランの作成 2 ・ データ分析の結果から企画案をブラッシュアップ する	○レポート 2 （4.5 時間） ◆ノート PC◆
【第 29 回】 SA 【第 30 回】 SA	模擬店プランの作成 ・ 企画案を報告する 総括	☆提出：レポート 2 ◆ノート PC◆

1.授業コード (ナンバリング)	STA201-Y71	2.科目名	ビジネス統計学		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 回生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	観光政策論を受講していること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	観光に関する統計を知り、経営・経済データに加えて経済統計を適切に理解し、正しく読み取る力を養います。統計学の基礎知識を学び、統計を正しく利用できること原始めます。統計学の基礎となる概念を知ります。この基礎理論の理解に加えて、理論に沿った分析手法を実際に使いこなせるようになることに重点を置いて授業を行ないます。そこで基礎理論のレクチャーの後、実際に練習問題に取り組んでもらいます。 この授業では、観光統計を中心に扱い、観光地の宿泊、飲食、小売等の関連事業所に関わる事業所統計を中心に学びます。経年変化を追う					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標と DPとの関連 【身につく力】：「知識・理解」「論理的思考力・分析力」「問題解決力」					
19.教科書・教材	別途指示します。					
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース (研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	ガイダンス					
【第 2 回】	観光統計の国際比較(1)：国連統計と各国統計、WTO の 予測、関連する統計の見方					
【第 3 回】	観光統計の国際比較(2)：WTO の予測を地域別、出発地 別に読む					
【第 4 回】	日本の観光統計：観光統計の蓄積と欠陥、問題点を探 る					
【第 5 回】	日本の観光統計(2)：観光庁の統計政策、新しい統計で 何が見えてきたか？					
【第 6 回】	日本の観光統計：都道府県の統計、市町村の統計、観 光施設に依存する統計と交通機関から得られるデー タの比較					
【第 7 回】	観光統計、変動の特性：分析を進め、増減だけでなく 質的な転換を知る					
【第 8 回】	異集団データの比較(1)：標準化					

【第 9 回】	異集団データの比較(2)：標準化と異集団データの比較	
【第 10 回】	異集団データの比較(3)：定率・定量変化	
【第 11 回】	観光の経済効果の分析(1)：成長率、物価上昇率	
【第 12 回】	観光の経済効果の分析(2)：交通統計との比較	
【第 13 回】	観光の経済効果の分析(3)：統計による政策立案、マーケットの変化を読む	
【第 14 回】	観光ビジネスで生きる統計分析とデータの利用	
【第 15 回】	まとめ ※上記は目安としての標準的な授業計画です。実際はクラスの進展度等により変更されます。	

1.授業コード (ナンバリング)	STA202-Y02	2.科目名	統計学Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士（2021 年度以前生）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 統計および統計的分析手法は、心理学、社会学、保健衛生、経営学など、さまざまな学問分野で広く活用されています。また、社会においても多くの職業で重要な役割を果たしています。本講義の目的は、統計学の基本的な考え方を理解し、特に推測統計的分析の基礎を習得することです。これにより、学習や研究、さらには職業においても統計的手法を効果的に活用できるようになります。 【概要】 本講義では、統計学Ⅰで学んだ基礎を活かし、推測統計的分析の理解に必要な背景知識を深めます。具体的には、確率、確率変数、確率分布、大数					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の「課題発見・解決力」に関連します。具体的な学習目標は以下の通りです。 ① 推測統計的分析手法を使用するための基礎的知識を活用できる ○主な項目： ・ 確率変数と確率分布 ・ 標準化 ・ 正規分布および正規分布表の活用 ② 推測統計的分析手法の理論的背景を理解し、説明できる ○主な項目： ・ 中心極限定理 ・ 不偏性と一致性（大数の法則） ・ 統計的仮説検定の 2 種類の誤り ③ 推測統計的分析手法を利用できる ○主な項目： ・ 母平均と母分散の点推定 ・ 母平均の区間推定 ・ 平均に関する仮説検定					
19.教科書・教材	プリントを配付する。					
20.参考文献	★山田 剛史, 村井 潤一郎 著『よくわかる心理統計（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房(2004/09) ISBN 4623039994 ★鳥居泰彦 著『はじめての統計学』日本経済新聞社（1994/11）ISBN4532130743					
21.成績評価	【成績評価の方法】 1. 確認問題（ほぼ毎回）：30 点（学習目標①） ・ 各授業後に確認問題を実施し、理解度をチェックします。 2. 課題（前半と後半の 2 回）：20 点（学習目標①および③の一部） ・ 学期の前半と後半にそれぞれ 1 回ずつ課題を提出します。課題は実践的な問題を含み、学習目標①および③の一部を評価します。 3. 総括試験（第 15 回目）：50 点（学習目標②および③）					

	・学期末に総括試験を実施し、全体の理解度を評価します。試験は学習目標②および③に基づいて行われます。 【単位修得の目安】 ・確認問	
22.コメント	1. ノート PC の持参 すべての授業でノート PC を使用しますので、必ず充電して持参してください。 2. 事前復習 この科目は「統計学Ⅰ」の発展科目です。受講する前に「統計学Ⅰ」の内容を復習しておきましょう。 3. 関連科目の受講 この科目の理解を深めるために、実際にデータを収集し、HAD や EXCEL などでのデータ分析を行う科目を受講するとよいでしょう。 4. 継続的な学習 推測統計的分析を習得するためには、知識を一つ一つ積み上げていくことが重要です。わからないことをそのままにせず、積極的に解決しましょう。 5. 復習の方法 毎回の授業で提示された資料を自分で理解し、ポイントを A4 用紙 1 枚程度にまとめましょう。資料でわからないことがあれば、参考書を参照してください。これらのまとめは総括試験の際に役立ちます。 6. 生成 AI の利用について ・平常課題や日々の予習復習については、計算や EXCEL 操作、統計数値の読み方などは自分の力でやることで初めて学修成果が上がるため、生成 AI は使用すべきではありません。ただし、統計の概念を理解したり、計算の仕方や操作の仕方を確認するなど、学修の補助として使用することに関しては制限しません。 ・試験では、ノート PC やスマホなど、通信機能付きの機器の持ち込みは原則として認めないため、生成 AI の利用も不可とします。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー（神戸山手 2 号館 2 階 210 室）：水 3 限目 学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：水 昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	統計学の基礎 ・記述統計的分析のおさらい ・推測統計的分析の全体像 事象	○記述統計的分析との違いに注意しながら、推測統計的分析手法の全体像を復習する。 (目安：2 時間)
第 2 回	確率 ・基本的な確率の概念及び性質を学ぶ	○確率の概念を復習する ○確認問題 1 = 確率を求める (目安：2 時間)
第 3 回	確率変数と確率分布 (1) ・離散型確率変数と離散型確率分布の概念を理解する ・標準化の概念を理解する	○離散型確率変数と確率分布、および標準化について復習する。 ○確認問題 2 = 標準化の事例 (目安：2 時間)
第 4 回	確率変数と確率分布 (2) ・連続型確率変数と連続型確率分布の概念を学ぶ ・代表的な連続型確率分布である正規分布を知る	○連続型の確率変数と確率分布、特に正規分布について復習する。 ○確認問題 3 = 正規分布の特徴 (目安：2 時間)

第 5 回	正規分布の活用（１） ・ 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る	○正規分布表を用いて、確率を求める方法を復習する。 ○確認問題 4 = 正規分布表の活用法 （目安：2 時間）
第 6 回	正規分布表の活用（２） ・ 確率からパーセント点を求める方法を知る	○正規分布表を用いてパーセント点を求める復習 （目安：2 時間） ○課題 1：正規分布表を用いて確率やパーセント点を求める課題 （目安：3 時間）
第 7 回	標本分布（１） ・ 母集団と標本の違いを理解する ・ 標本平均の性質を理解する	○母集団と標本の概念、標本平均に関する性質について復習する。 ○確認問題 5 = 標本平均の性質 （目安：2 時間）
第 8 回	標本分布（２） ・ 大数の法則の概要を知る ・ 中心極限定理の性質を知る ・ t 分布の性質と読み方を知る	☆提出：課題 1 ○大数の法則及び中心極限定理の概念及び、t 分布表の見方を復習する。 ○確認問題 6 = t 分布表の活用法 （目安：2 時間）
第 9 回	推定（１） ・ 推定の種類を理解する ・ 点推定の方法を理解する ・ 母平均に関する区間推定の方法（母分散が既知の場合）を理解する	○母平均、母分散の点推定、および母平均の区間推定の方法を復習する。 ○確認問題 7 = 点推定と母平均に関する区間推定 （目安：2 時間）
第 10 回	推定（２） ・ 母平均に関する区間推定の方法（母分散が未知の場合）を理解する	○母平均に関する区間推定の復習 （目安：2 時間） ○課題 2：母平均に関する区間推定を行う課題 （目安：3 時間）
第 11 回	統計的仮説検定（１） ・ 母平均の検定（母分散が既知の場合）の方法を知る	○統計的仮説検定の概要と母平均の検定について復習する。 ○確認問題 8 = 母平均の検定に関する問題（母分散が既知） （目安：2 時間）
第 12 回	統計的仮説検定（２） ・ 2 種類の過誤を理解する ・ 母平均の検定（母分散が未知の場合）を理解する	☆提出：課題 2 ○統計的仮説検定における 2 種類の過誤、および母平均の検定について復習する。 ○確認問題 9 = 母平均の検定に関する問題（母分散が未知） （目安：2 時間）
第 13 回	検定の応用 ・ 母比率に関する検定の方法を知る	○母比率の検定の概要と方法を復習する。 ○確認問題 10 = 母比率の検定に関する問題 （目安 2 時間）

第 14 回	ふりかえり ・この授業で学んだことをおさらいする	○全体を通して復習する。（目安：4 時間）
第 15 回	総括試験（対面試験） ※感染症の状況によっては、レポートに変更することがあります。	

1.授業コード (ナンバリング)	STA205-Y01	2.科目名	社会統計学		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 D 科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、データを定量的に分析するための統計学の基礎知識を修得することを目的とします。具体的には、データの集計と可視化のための基本的手法、代表値や散らばりを表す量、確率の基本定理、集団の推定や検定についての基本的な考え方、などを例題を通して理解し、基本問題を独力で解けるようになることを目指します。 【概要】 出来るだけ実際のデータにふれ、処理をすることで、社会における統計の役割について理解を深めることも目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①統計学の基本事項を理解し、説明できる。 ②統計学の問題を独力で解くことができる。 ③実際のデータを使った基本的な分析ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・ワークシート 25 点 [学習目標①に対応] ・計算課題 30 点 [学習目標②に対応] ・小テスト 45 点 [学習目標③に対応]					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明しますので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション・確率の計算			復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 2 回】	ランダム・サンプリングの意義			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 3 回】	確率分布			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 4 回】	確率論の振り返り・小テスト①			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 5 回】	推定の考え方：点推定と区間推定			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
【第 6 回】	母集団の推定：中心極限定理			復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		

【第 7 回】	母比率の推定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 8 回】	推定の振り返り・小テスト②	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 9 回】	相関係数の区間推定 検定の考え方・無相関の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 10 回】	平均値の差の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 11 回】	母比率の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 12 回】	クロス表の統計量・独立性の検定	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 13 回】	検定の振り返り・小テスト③	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 14 回】	変数の統制と偏相関係数	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
【第 15 回】	データの予測と回帰分析	復習：授業ノートの整理、課題作成

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-A01	2.科目名	データサイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年春	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動を特徴とするディジタル時代が到来し、経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになっている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要：					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：[改訂新版] AI データサイエンスリテラシー入門、吉岡剛志・森倉悠介・小林領・照屋健作 著、技術評論社、ISBN 978-4-297-14409-8 参考書：教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 /丸山宏・著、講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編、学術図書出版社） AI データサイエンスリテラシー入門、吉岡剛志、森倉悠介、小林領、照屋健作 著、技術評論社、ISBN 978-4-297-13042-8					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （水曜）昼休み 研究室オフィスアワー （金曜）4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション ・科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート					

第 2 回	社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
第 3 回	1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
第 4 回	社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
第 5 回	データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
第 6 回	1.4 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
第 7 回	1.4 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート① Q&A：掲示板：相互レビュー
第 8 回	1.5 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
第 9 回	1.6 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
第 10 回	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデー	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧

	タ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	
第 11 回	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
第 12 回	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
第 13 回	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
第 14 回	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
第 15 回	学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM102-Y01	2.科目名	データサイエンス入門		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年春	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年のビッグデータや AI 技術の発展により、データ駆動型社会が到来しています。データへの依存度が高まる中、データサイエンスは、ビジネス、政策立案、社会サービスなど幅広い分野で不可欠な役割を担っています。データサイエンスは科学と産業に革新をもたらす分野として注目を集めており、現代社会において職業人に求められる基本的なスキルとなっています。本科目では、データ思考力を育成することを目的とし、社会におけるデータと AI の活用方法、データリテラシー、およびデータと AI の活用における留意点について学習します。					
18.学習目標と DP との関連	1. データと AI が社会や生活に与える影響を説明できる。 2. データサイエンスの役割と重要性が高まっていることを説明できる。 3. データと AI の実際の利活用事例と最新動向を説明できる。 4. データを読み解く基礎的な概念と方法を理解している。 5. データ・AI 利活用における留意点とデータ保護の重要性を説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 / 丸山宏・著、講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト：10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	この科目における生成 AI 利用ポリシー ① 生成 AI 利用は、■条件付きで認める；適切な活用場面として、知識習得、理解深化、創造的思考の促進などの目的に応じた場面で利用可能です。 ② 成績評価に関わるテストの場合：小テスト・中間テスト・期末テストにおいては、生成 AI の利用を禁止します。 ③ 成績評価に関わる課題・レポート等：問題を直接解くための生成 AI 利用は原則これを認めません。 ④ 生成 AI の出力を引用する必要がある場合は、通常の文献と同様に引用ルールに従い、出典を明示してください。以下の記述例を参考してください： 「プロンプト:"〇〇について説明してください", 生成 AI ツール: Microsoft Copilot, 無料版, 使用日: 2025 年 3 月 26 日, URL: https://copilot.cloud.microsoft/」					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜日曜昼休み（神戸山手）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 イン트로ダクション ・ 科?の概要と?的, 到達?標, 全体の流れなどの説明 ・ WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・ 事前アンケート	
	第2回 社会でおきている変化(1) 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第3回 社会でおきている変化(2) 1.1.3 第4次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第4回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第5回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第6回 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ―予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ―グルーピングとクラス タリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ―発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第7回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第8回 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 前半(2～7)の振り返り 中間テスト(復習) KPT シート① Q&A: 掲示板: 相互レビュー
	第9回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	第10回 データを読む	

	2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	第 11 回 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI と GDPR 3.1.2 AI 倫理と AI 脅威論 3.1.3 ブラックボックス化と説明可能性 3.1.4 アカウンタビリティ，透明性，トラスト、公平性 3.1.5 負の事例学習--データの悪用・目的外利用 3.1.6 負の事例学習--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り 小テスト⑩
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM102-Y51	2.科目名	データサイエンス入門（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動を特徴とするデジタル時代が到来し、経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになっている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要：					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 /丸山宏・著、講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編、学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ノート PC を利?しますので、授業に使える PC を持参してください。					
23.オフィスアワー	金曜 3 限(学習支援室) 春学期 木曜 3 限(研究室) 秋学期 金曜 4 限(研究室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第1回 イン트로ダクション ・科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 ・WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート					
	第2回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ			配付資料・トピック動画		

	1.1.2 検索エンジンと SNS	小テスト① 課題①
	第 3 回 社会でおきている変化 (2) 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第 6 回 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラス タリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第 7 回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半 (2～7) の振り返り KPT シート① Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 8 回 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第 9 回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	第 10 回 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ, 層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧

	2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表, 相関係数行列, 散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	
	第 11 回 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ, 透明性, トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半 (8~12) の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	SVL101-Y71	2.科目名	サービスラーニング A (INT 安全安心)		3.単位数	1
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、県警本部サイバー企画課担当官等によるサイバー犯罪の現状、傾向、対策等に関する講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な対策を検討する。その上でサイバー犯罪防止に資する啓発資料としてのパワーポイントを作成し、県警サイバー企画課が実施する防犯啓発のキャンペーンにおいてプレゼンテーションを実施する。 ①講義、②実態調査活動、③パワポ作成等、④発表		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】日々巧妙化するサイバー犯罪に焦点を当て、その被害防止対策のための発表等を実施して広報啓発、地域貢献を行うことを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、プレゼンテーションを明石市内で行います。 ①犯罪発生実態等を新聞や Web にて把握する ②サイバー企画課から担当官を招致して実態調査を行う ③広く一般に浸透するプレゼンテーション資料としてパワーポイント等を作成する？ ④サイバー防犯キャンペーンにおいて市民の前でプレゼンテーションを実施する					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ？ サイバー犯罪の実態、被害防止に資する対策・知識を知ることができる・・・①、④ ？ 様々な問題点を発見し、幅広い年代層に対する防犯啓発を行うことができる・・・②、④ ？ プレゼンテーションをキャンペーン会場で行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・⑤ ？ 地域社会の安全意識の向上に資する社会貢献を担うことができる・・・②					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	① 事前学習及び活動時の取組姿勢態度 20％ ② プレゼン実施のための資料作り、練習における取組姿勢、態度 30％ ③ 発表等にあたっての姿勢態度 30％ ④ 総括振り返りレポート（総括はeポートフォリオに搭載） 20％					
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部署）や参加メンバーに迷惑をかけな					

		いよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。 生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認めるものとする。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【7 月 30 日】 ○ ガイダンス ・ サービスラーニングについての共通認識 ・ 課題選定理由の説明と理解促進 ・ 班編制とリーダー・サブリーダーの選出 ・	パソコン、ノート等持参
第 2 ～ 3 回	【7 月 30 日】 ・ 県警担当官による講習受講 ・ 各班によるテーマ選定と情報収集 ・ まとめ	パソコン、ノート等持参
第 4 ～ 9 回	【7 月 31 日、8 月 1 日】 ・ パワーポイント、原稿の作成 ・ プレゼンテーションの練習	パソコン、ノート等持参
第 10 ～ 13 回	【8 月 3 日】 ○ プレゼンテーション等の実施 イオン明石ショッピングモールにおけるサイバー防犯キャンペーンにおける発表と広報啓発活動への参加	プレゼンのファイル等
第 14 回	事後学習 報告会における発表のための予行演習 ※ 報告会の直前	パソコン、ノート等持参
第 15 回	【最終報告会】 日程は後日 ○ 実施内容及びまとめに関する発表	パソコン持参
	※ 短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、欠席しないこと。 ③ 市民に分かりやすい「プレゼンテーション」を実施するため、各人が創意工夫すること。	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL101-Y72	2.科目名	サービスラーニング A（高齢者特殊詐欺）		3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科 1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、県警担当官による特殊詐欺被害の現状、傾向、対策等の講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な対策を検討する。その上で特殊詐欺防止に資する寸劇等を制作し、高齢者に披露して防犯啓発を行う。活動はグループ単位で実施する。 ○ グループ編成 1 個班 5 名程度 ○ 形態 ①講義、②実態調査活動、 ③シナリオ・小道具類の作成 ④実演		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】社会問題化している特殊詐欺被害者の大半を占める高齢者に焦点を当て、防犯寸劇を披露して被害防止に資することを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、防犯寸劇を制作・実演し、防犯啓発に役立てる活動を行います。 ①特殊詐欺の発生実態等を各種情報検索により把握する ②県警担当官を招致して実態調査を行う ③高齢者の心に届く寸劇・紙芝居等の制作を行う ④神戸市内の高齢者向け防犯教室において、寸劇等の実演を行う ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ？ 社会問題化している特殊詐欺の実態を知ることができる・・・①、④ ？ 特殊詐欺の発生実態から様々な問題点を発見の上、主たる被害者である高齢者に対する防犯啓発を行うことができる・・・④、⑤ ？ 高齢者の被害防止という社会貢献を担うことができる・・・② ？ 規範意識を醸成することができる・・・①					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	① 事前学習及び活動時の取り組み姿勢態度 3 0 % ② 寸劇・紙芝居等の制作（共同作成）に当たっての姿勢態度 3 0 % ③ 実演や事後発表にあたっての姿勢態度 3 0 % ④ 総括振り返りレポート（総括はウェブクラス記事投稿に搭載） 1 0 %					
22.コメント	○ 高齢者に寸劇を披露するこから、はっきりと聞き取りやすい音量の声が出せること。					

		○ 真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部局）や参加メンバーに迷惑をかけないよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回～2回	【9月1日 午前中】 ○ ガイダンス ・ サービスラーニングについての共通認識について ・ 班編成とリーダー・サプリーダー等の選出 ・ その他	パソコン持参
第3回	【9月2日 午前中】 ○ グループ討議 ・ 発生実態を踏まえ、各グループ毎に情報の整理・分析 ・ 発表内容の選定とグループ間の調整 ○ 県警担当官による被害実態に関する研修・・・予定	各グループの討議内容に従ってシナリオ案を作成する
第4回～5回	【9月3日 1、2時限】 ○ グループ毎に発表内容（シナリオ）の原案作成 ・ 配役の決定 ・ 台本読み合わせ	パソコン持参
第6回～7回	【9月4日 1限、2限】 ○ 小道具の作成、寸劇の予行演習等舞台準備	シナリオの熟読、小道具の資材調達
第8回～9回	【9月5日 1限、2限】 ○ 寸劇の予行演習等舞台準備	
第10回	【9月8日 2時限】 ○ 予行演習最終確認	
第11回～14回	・ 9月中下旬頃（未定） 午後2時間程度 兵庫署管内 未定 ・ 9月中下旬頃（未定） 午後2時間程度 生田署管内 未定 2か所での寸劇披露、アンケート調査	小道具等の運搬
第15回	【9月下旬 実演後】 ○ 今回のサービスラーニングを通じての「総括の振り返り」を行い、 eポートフォリオに実施結果を掲載する ○ 最終報告会の発表資料作成	パソコン、各種記録を持参すること
	【12月頃】 ポスター展示での最終報告会	
	【注意事項】	

	① 最終日の報告会までに各種作業を完了させる必要があり、進捗状況によっては時間延長もあることから、期間中のアルバイト等の個人予定は、可能な限り事前調整しておくこと。 ② 短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、やむを得ない事情がある場合を除いては、欠席しないこと。 ④ より良い「作品」を作るため、各人が考えて知恵を出し、前向きな議論を実施すること。	

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-A01	2.科目名	サービスラーニング B(社会的孤立問題)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	わが国の社会的な問題として、社会的孤立があげられます。困ったときに相談できない、相談する相手がいないといったように、つながりが十分でない状況にある人がいます。とりわけ、家族のつながりも失ったホームレス状態にある人は、路上生活を余儀なくされ、十分な支援も受けられない状況が続いています。大阪市西成区のあいりん地域でフィールドワークを実施し、社会的孤立にどう立ち向かうのかを考えていきます。 ・文献を通して、ホームレス状態にある人の抱える問題とその背景について考えます。 ・大阪市西成区あいりん地域のフィールドワー					
18.学習目標と DPとの関連	本授業では、以下の学習目標を設定します。 「わが国における社会的孤立問題の実態を理解し、大学生として貢献できる活動を提案する」 ①ホームレス状態にある人の実態について説明できる ②ホームレス状態にある人が抱える問題について説明できる ③ホームレス状態にある人への支援活動をととして、社会問題に対する自己の気づきを記述できる ④ホームレス支援の現場で大学生が実践可能な活動を提案できる ⑤ホームレス状態にある人への支援活動をふまえ、教育・福祉の専門的学習を進めるための自己の課題を見出すことができる 本授業は、学位授与方針（DP）の（2）社会的貢献性と（4）問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	適宜資料を配布します					
21.成績評価	■事前学習レポート 30％・・・学習目標①②に対応 ・ホームレス状態にある人の実態および問題について整理する ※1,600 字以上 ■ふりかえりシート（活動日報）：20％・・・学習目標③に対応 ・毎回の活動後に日報を提出する ・ふりかえりシートの記入方法については別途指示する ■事後学習レポート 40％・・・学習目標④⑤に対応 事前学習レポート、ホームレス状態にある人への支援活動をふまえ、以下の点について論じること ①ホームレス状態にある人が安全・安心に地域生活するための課題は何か ②ホームレス支援の現場で					
22.コメント	・活動先は、大阪市西成区あいりん地域になります。コロナ感染症の影響により、活動地域や日程は流動的になります。 ・活動時期は、おおむね 8 月から 9 月を予定しています。現地のフィールドワークにくわえ、炊き出し支援団体の活動に参加します。 <生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める					

	*レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	・オリエンテーション（授業の概要）	
	・ホームレス状態にある人の実態を理解する	○授業内容の整理（60）
	・活動地域におけるホームレス状態にある人の実態を理解する	○授業内容の整理（60）
	・ホームレス状態にある人が抱える問題について議論する①	○授業内容の整理（60）
	・ホームレス状態にある人が抱える問題について議論する②	○授業内容の整理（60）
	・活動先とのマッチング	○事前学習レポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定①	○事前学習レポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定②	★事前学習レポートの提出
	・現地活動①	○活動日報（90）
	・現地活動②	○活動日報（90）
	・現地活動③	○活動日報（90）
	・現地活動④	○活動日報（90）
	・現地活動のふりかえり ・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーション準備（120）
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえり（60） ○事後レポートの執筆（120）
	・ふりかえり	★事後レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-A03	2.科目名	サービ斯拉ーニング B(地域子育て支援)		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	現代社会においては、少子化・核家族化・都市化が進み、地域における人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下などの課題が見受けられる。特に乳幼児の子育てにおいては両親が乳幼児にかかわった経験が少ないことから子育てに悩みをもつことも少なくない。そのため、地域においてはさまざまな子育て支援が行われている。そのような課題や子育て支援の現状を知り、実際の子育て支援の場に参加することを通してどのような子育て支援が望ましいかを考えることを本授業の目的とする。 【授業の概要】 1. 書物や文献を通して、乳幼児をもつ家庭の抱える問					
18.学習目標と DPとの関連	本授業では、以下の学習目標を設定します。 「わが国における乳幼児の子育ての課題および地域における子育て支援の現状を理解し、大学生として貢献できる活動を提案する」 ①わが国における乳幼児の子育ての課題について説明できる ②地域における子育て支援の現状について説明できる ③子育て支援における大学生として貢献できる活動を考えることができる。 ④子育て支援における大学生として貢献できる活動を実践することができる ⑤子育て支援における活動を通して、教育・保育の専門的学習を進めるための自己の課題を見出すことができる。 本授業は、学位授与方針（DP）の（2）社会的貢献性と（4）問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	適宜資料を配布します					
21.成績評価	■事前学習レポート 30％・・・学習目標①②に対応 ・わが国における乳幼児の子育ての課題および地域における子育て支援の現状についてまとめる。 ※1,600 字以上 ■ふりかえりシート（活動日報）：20％・・・学習目標③に対応 ・毎回の活動後に日報を提出する。 ・ふりかえりシートの記入方法については別途指示する。 ■事後学習レポート 40％・・・学習目標④⑤に対応 事前学習レポート、以下の点について論じること。 ①子育て支援における大学生として貢献できる活動はどのようなものか。 ②子育て支援において大学生とし					
22.コメント	・活動先は、おおむね尼崎市内的の子育て支援を実施している施設となります。実施日時、実施内容、参加者の人数などによって検討します。 ・活動時期は、おおむね 8 月から 9 月を予定しています。子育て支援の活動に参加します。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	・オリエンテーション（授業の概要）	
	・乳幼児の子育て家庭の実態を調べて理解する。	子育て家庭の現状と課題について調べる。（60分）
	・地域における子育て支援の実態を調べて理解する。	地域の子育て支援の現状と課題について調べる。（60分）
	・乳幼児を育てる家庭の抱える問題について各自が調べたことをもとに話し合う。	子育て家庭の現状と課題について調べたことをまとめておく。（60分）
	・地域の子育て支援の現状について各自が調べたことをもとに話し合う。	地域の子育て支援の現状と課題について調べたことをまとめておく。（60分）
	・活動先とのマッチング	事前学習レポートの作成(1)（60分）
	・活動目標の設定①	事前学習レポートの作成(2)（60分）
	・活動の準備	活動に必要な教材づくりなどの準備をする。
	・現地活動①	○活動日報（60分）
	・現地活動②	○活動日報（60分）
	・現地活動③	○活動日報（60分）
	・現地活動④	○活動日報（60分）
	・現地活動のふりかえり ・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーションの準備をする。（120分）
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえりと事後レポートの作成をする。（120分）
	・ふりかえり	ふりかえりと事後レポートの提出をする。

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-A04	2.科目名	サービスラーニング B(障害児との関わり)		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	経験学習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、障害のある子供やその保護者が抱える問題、放課後等デイサービスの役割を理解し、これらの関係者・機関に対する貢献活動を提案することを目的としています。 【概要】 この授業では、障害のある子どもを対象とした放課後等児童デイサービスの現場を訪問し、その子どもとや運営団体の職員との関わります。この活動を通して、障害のある子どもやその家族が抱える問題について理解するとともに、大学生として放課後等デイサービスにどのようにかかわることが可能かを検討していきます。具体的には、以下のとおりです。 ・					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(2)社会的貢献性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本授業では、以下の学習目標を設定します。 「わが国における障害のある子どもとその家族が抱える地域生活上の課題と、大学生としての貢献活動を提案できる」 ?障害のある子どもとその保護者が抱える問題を説明できる ?放課後等デイサービスの法体系とその役割を説明できる ?放課後等デイサービスを利用する子どもとその保護者の安全・安心な地域生活を妨げる問題を抽出できる ?放課後等デイサービスの現場で大学生が実践可能なプログラムを提案できる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	適宜資料を配布します					
21.成績評価	■事前学習ミニレポート 20%×2 回・・・学習目標?、?に対応 ①障害のある子どもとその保護者が抱える問題について ②放課後等デイサービスの法体系とその役割について ※各レポートとも 1,000 字以上 ■ふりかえりシート（日報）：20%・・・学習目標?に対応 ・毎回の活動後に日報を提出する ・学習目標?に記した内容に関連する場面を抽出して記述する ・ふりかえりシートの記入方法については別途指示する ■事後学習レポート 40%・・・学習目標④に対応 事前学習レポート①・②、放課後等デイサービスの活動で得られた					
22.コメント	活動先は、尼崎市にある、ケアスタッフサービスが運営する放課後等デイサービス事業所になります。 ※生成 AI 利用：条件付きで認めます。ただし、ふりかえりシート・レポートでは使用不可とします。					
23.オフィスアワー	月曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	・オリエンテーション（授業の概要）	○授業内容の整理（60）
	・障害のある子どもの実態を理解する	○授業内容の整理（60）
	・障害のある子どもの保護者の実態について理解する	○授業内容の整理（60）
	・放課後等デイサービス事業の法的根拠、サービス内容、実態について理解する？	○授業内容の整理（60）
	・放課後等デイサービス事業の法的根拠、サービス内容、実態について理解する？	○授業内容の整理（60）
	・活動先とのマッチング	○ミニレポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定？	★ミニレポート①の提出 ○ミニレポートの執筆（120）
	・チームビルディング、活動目標の設定？	★ミニレポート②の提出
	・現地活動①	○活動日報（90）
	・現地活動②	○活動日報（90）
	・現地活動③	○活動日報（90）
	・現地活動④	○活動日報（90）
	・プレゼンテーション準備	○プレゼンテーション準備（120）
	・プレゼンテーション	○プレゼンのふりかえり（60） ○事後レポートの執筆（120）
	・ふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-A05	2.科目名	サービスラーニング B(環境教育)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	体験学習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	地域活性化や小学校の環境教育に興味があり、ボランティア活動、小学校での授業支援に参加可能な者。また、前向きな姿勢で意欲を持って参加できる者。					
17.授業の目的と概要	地域活性化と開かれた小学校教育についての理解を深め、地域のために活動を行う。 これらの活動を通して、地域の良さや課題の理解、児童理解を深め、教育実践を行っていくことにより、社会的貢献性や問題発見・解決力、さらにはコミュニケーション能力を身につけていく。					
18.学習目標と DPとの関連	①都市部と農村地域の違いや地域課題について考えることができる。 ②小学校の教育活動に参加し、児童への理解を深める。 ③地域（児童、環境）に合った教材研究を行い、グループごとに授業を計画できる。 ④グループで協力して、授業実践ができる。 ⑤活動ごとにふりかえりを行い、その内容をまとめて発表し、その後の学修に活かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	①事前学修のワークシート及び課題（30％） ②地域活動の製作物及びレポート（40％） ③事後学修の発表スライド及び考察レポート（30％）					
22.コメント	・地域活性化や小学校教育に関心のある方の履修を歓迎します。 ・事前・事後学修は尼崎キャンパスで行います。教育支援は、尼崎キャンパス周辺の学校、丹波市への研修も検討しています。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
授業時に説明	1. 事前学修 ・ サービスラーニングとは ・ 尼崎の地域について ・ 地域活性化の現状 ・ 都市部、農村地、山間地の課題 ・ コミュニティースクール ・ 模擬授業 2. 現地活動 ①尼崎オープンカレッジでの研修会への参加（2 回程度） ②小学校での環境教育の見学、授業支援（計 3 回程度） ③ビオトープ、その他の環境支援への参加（2 回程度） 3. 事後学修 ・ 活動の振り返り ・ 地域課題に対する解決策の提案			①事前学修のワークシート及び課題 ②地域活動の製作物及びレポート ③事後学修の発表スライド及び考察レポート		

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y09	2.科目名	サービスラーニング B (子どもと学ぶ)		3.単位数	2																								
4.授業担当教員	松井幸太																													
5.授業科目の区分	共通教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期																									
8.履修可能な専攻	全学部・全学科			9.履修学年	全学年																									
10.取得資格の要件			11.先修条件																											
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※																										
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習																										
16.履修制限	前向きな姿勢で意欲的に参加できる者 欠席・遅刻連絡ができる者																													
17.授業の目的と概要	小学生を対象とした野外活動プログラムに参画し、サポートスタッフとしての経験を積んだ後、最後は自らプログラムを企画・立案し、実施・運営します。具体的な活動内容は、以下の通りです。 体験学習① ホースランドぶれいパーク (エオの森キャンプ場) →参加者の子ども達との関わりを通して、子どもの身体的・心理的・社会的な現状とその背景について学びます。 体験学習② 夏のちびっこアウトドア教室 (エオの森キャンプ場) →子どもの心身の成長のために、どのような野外活動プログラムが求められているかを考えます。 体験学習③																													
18.学習目標と DPとの関連	①子どもの心の動きを感じ取り、子どもの心の揺れ動きに合わせたコミュニケーション能力を身につけることができる。 ②プログラムを円滑に進行していくファシリテーション能力を身につけることができる。 ③自らプログラムを企画し、計画的に進めながら、実践できる主体的な行動力とマネジメント能力を身につけることができる。 ④現在の子ども達を取り巻く身体的・心理的・社会的問題について理解し、対応策を提案することができる。																													
19.教科書・教材	授業内で適宜、紹介する 資料は授業時に配布する																													
20.参考文献																														
21.成績評価	<table border="0"> <tr> <td>1. 体験学習①への取り組み</td> <td>10%</td> <td>学習目標①に対応</td> </tr> <tr> <td>2. 体験学習①レポート</td> <td>10%</td> <td>学習目標①に対応</td> </tr> <tr> <td>3. 体験学習②への取り組み</td> <td>10%</td> <td>学習目標②に対応</td> </tr> <tr> <td>4. 体験学習②レポート</td> <td>10%</td> <td>学習目標②に対応</td> </tr> <tr> <td>5. 体験学習③実施計画書</td> <td>10%</td> <td>学習目標③に対応</td> </tr> <tr> <td>6. 体験学習③への取り組み</td> <td>30%</td> <td>学習目標①②③に対応</td> </tr> <tr> <td>7. 体験学習③レポート</td> <td>10%</td> <td>学習目標①②③に対応</td> </tr> <tr> <td>8. 最終レポート</td> <td>10%</td> <td>学習目標④に対応</td> </tr> </table>						1. 体験学習①への取り組み	10%	学習目標①に対応	2. 体験学習①レポート	10%	学習目標①に対応	3. 体験学習②への取り組み	10%	学習目標②に対応	4. 体験学習②レポート	10%	学習目標②に対応	5. 体験学習③実施計画書	10%	学習目標③に対応	6. 体験学習③への取り組み	30%	学習目標①②③に対応	7. 体験学習③レポート	10%	学習目標①②③に対応	8. 最終レポート	10%	学習目標④に対応
1. 体験学習①への取り組み	10%	学習目標①に対応																												
2. 体験学習①レポート	10%	学習目標①に対応																												
3. 体験学習②への取り組み	10%	学習目標②に対応																												
4. 体験学習②レポート	10%	学習目標②に対応																												
5. 体験学習③実施計画書	10%	学習目標③に対応																												
6. 体験学習③への取り組み	30%	学習目標①②③に対応																												
7. 体験学習③レポート	10%	学習目標①②③に対応																												
8. 最終レポート	10%	学習目標④に対応																												
22.コメント	生成 AI 利用に関して、条件付きで認める。 ただし、レポートに関しては、利用不可とする。																													
23.オフィスアワー	毎週木曜日 12:20-13:00 (研究室)																													
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																										
第 1 回 _____	ガイダンス・諸注意 (日時は掲示を確認すること) 体験学習 1 について _____																													
第 2 回																														

	体験学習 1 ホースランドぶれいパーク	
第 3 回	体験学習 1 ホースランドぶれいパーク	体験学習 1 レポート
第 4 回	体験学習 1 ふりかえり	
第 5 回	体験学習 1 ふりかえり	
第 6 回	体験学習 2 事前学習	
第 7 回	体験学習 2 現地合同打ち合わせ	
第 8 回	体験学習 2 現地合同打ち合わせ	
第 9 回	体験学習 2 事前学習	
第 10 回	体験学習 2 ホースランドぶれいパーク	
第 11 回	体験学習 2 ホースランドぶれいパーク	体験学習 2 レポート
第 12 回	体験学習 2 ふりかえり	
第 13 回	体験学習 2 ふりかえり	
第 14 回	体験学習 3 事前学習	
第 15 回	体験学習 3 事前学習	
第 16 回	体験学習 3 事前学習	
第 17 回	体験学習 3 事前学習	デイキャンプ実施計画書
第 18 回	体験学習 3 プレキャンプ	
第 19 回	体験学習 3 プレキャンプ	
第 20 回	体験学習 3 プレキャンプ	
第 21 回	体験学習 3 事前学習	
第 22 回	体験学習 3 事前学習	
第 23 回	体験学習③サマースクール「デイキャンプ」	
第 24 回	体験学習③サマースクール「デイキャンプ」	
第 25 回	体験学習③サマースクール「デイキャンプ」	
第 26 回	体験学習③サマースクール「デイキャンプ」	
第 27 回	事後学習	体験学習 3 レポート
第 28 回	事後学習	
第 29 回	事後学習	最終レポート 活動報告プレゼン
第 30 回	事後学習	

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y18	2.科目名	サービスラーニング B（地域との協働）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	コミュニケーション科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	特に制限はない。				9.履修学年	1-4 年
10.取得資格の要件	特になし。		11.先修条件	特になし。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、文化イベントの企画・実施にあたって地域の多様な人々と協働することを通じて、地域の課題を理解し、外から人を呼び込む観光地域づくりの力を身につけることを目的としています。 【概要】 かつて地域住民の生活を支えてきた商店街の衰退は著しく、空き店舗が立ち並ぶ「シャッター街」と呼ばれる場所も多くなっています。また地方でも農山村地域の過疎化は深刻で、空き家対策が急務となっています。こうした課題を抱えた地域は、さまざまな取り組みに挑戦しながら活性化の道を探っています。例えば、空き家・空き店舗をリ					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ・ 地域の現状と問題・原因の関係を説明できる。 ・ 地域の人々の想いを理解できる。 ・ 計画的かつ戦略的に文化イベントを企画・実践できる。 【DP との関連】 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	資料は web class で配布					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習での課題・・・20％ 現地活動の報告・・・20％ 課題解決のアイデア提案：40％ 成果報告会・・・20％ ※成果報告会の参加は必須とする。					
22.コメント	現場学習でたくさんの方にお世話になる。感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく、元気よく参加すること。 活動にかかる制限はありません。ただし、以下の条件を理解して取り組んでください。 ①課題に対して真剣に向き合い、考える姿勢を持つこと。 ②自分の態度や言動などが相手に与える影響をよく考えること。 原則として、交通費・食費は実費です。 【生成 AI について】 条件付きで認めます。 ただし、成果物にそのまま生成 AI の内容を利用することは禁じます。 発覚した場合は相応のペナルティがあります。					
23.オフィスアワー	水曜昼休み・3 限@研究室					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1～4 回	【事前学習（第 1～4 回）】 5 月 1. オリエンテーション 授業の進め方、学習目標、成果のとりまとめ、評価法の確認 対象地域の紹介 2. 講義：文化イベントとまちづくり 3. 講義：地域との協働の在り方 4. 講義：文化イベントの企画と実施	
第 5-10 回	【地域での音楽イベント①準備】 地域の事業者と協力して音楽イベントを企画します。 ・地域打ち合わせ ・企画内容の検討 ・宣伝戦略の立案 ・集客活動 etc.	課題： ①地域の課題についてまとめる。 ②イベントスケジュールを考える。 ③広報戦略を考える。
第 11-14 回	【音楽イベント①実施】 地域と共同で音楽イベントを運営・実施します。 実施にあたっては、以下の点に留意して活動します。 ・会場設営 ・安全管理 ・来場者対応 ・スケジュール管理 ・備品運搬 etc.	課題：当日の運営マニュアルを作成する。
第 15 回	【振り返り】 イベントの準備から実施まで、地域との共同作業を振り返って、うまくいった点、良くなかった点を挙げる。 そのうえで、次回に向けての改善点を整理する。	
第 16-20 回	【地域での音楽イベント②準備】 地域住民と協力して音楽イベントを企画します。 ・地域打ち合わせ ・企画内容の検討 ・宣伝戦略の立案 ・集客活動 etc.	課題： ①地域の課題についてまとめる。 ②イベントスケジュールを考える。 ③広報戦略を考える。
第 21-25 回	【音楽イベント②実施】 地域と共同で音楽イベントを運営・実施します。 実施にあたっては、以下の点に留意して活動します。 ・会場設営 ・安全管理 ・来場者対応 ・スケジュール管理 ・備品運搬 etc.	課題：当日の運営マニュアルを作成する。
第 26 回	【振り返り】 イベントの準備から実施まで、地域との共同作業を振り返って、うまくいった点、良くなかった点を挙げ	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y19	2.科目名	サービスラーニング B（食文化ツーリズム）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	コミュニケーション科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	特に制限はない。			9.履修学年	1-4 年	
10.取得資格の要件	特になし。		11.先修条件	特になし。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、農山村地域の多様な人々と協働することを通じて、地域の課題を理解し、『食文化』の視点から地域資源を発見・活用して外から人を呼び込む観光地域づくりの力を身につけることを目的としています。 【概要】 日本の農山漁村地域の過疎化はますます深刻になっています。農業や漁業といった地域を支える第一次産業の後継者が不足し、水利環境や里山の管理も困難になり、結果として地域景観の悪化や獣害問題などさまざまな問題に悩まされています。一方で、世界から日本を訪れる訪日インバウンド観光客は、近年、都市部を離れ					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 ① 多自然地域（農山漁村）の『食』を取り巻く現状と課題の構造を説明できる。 ② 幅広い観点から『食文化』を活かした観光地域づくりのアイデアを提案できる。 ③ 地域課題の改善に取り組む上で必要な視点と姿勢を理解し、実践することができる。 【DP との関連】 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	資料は web class で配布					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	事前学習での課題・・・20％ 現地活動の報告・・・20％ 課題解決のアイデア提案：40％ 成果報告会・・・20％ ※成果報告会の参加は必須とする。					
22.コメント	現場学習でたくさんの方にお世話になる。感謝の気持ちを持ち、礼儀正しく、元気よく参加すること。 伝統的な日本の農山村地域（＝田舎）が好き、または行ってみたいという関心があり、地域課題の現場に立って、行動を通じて課題解決の取り組みを学んでみたいという意欲のある学生を求めます。 活動にかかる制限はありません。ただし、以下の条件を理解して取り組んでください。 ①課題に対して真剣に向き合い、考える姿勢を持つこと。 ②自分の態度や言動などが相手に与える影響をよく考えること。 原則として現地までの交通費、現地での飲食費がかかります。 【生成 AI について】 条件付きで認めます。 ただし、成果物にそのまま生成 AI の内容を利用することは禁じます。					

	発覚した場合は相応のペナルティがあります。	
23.オフィスアワー	春学期 水曜昼休み・水曜 3 限@研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【事前学習（第 1～4 回）】5 月 1. オリエンテーション 授業の進め方、学習目標、成果のとりまとめ、評価法の確認 対象地域の紹介 2. 講義：農山村の現状と課題 ディスカッション：自分は農山漁村に移住できるか？	
第 2 回	1. 講義：地域活性化の最前線 先進的な取り組み事例の紹介 関係人口論について	次回予習：農山漁村の新しい観光アイデアを調べる
第 3 回	1. 講義：日本の観光事情と農山漁村の関係 現在の日本の観光状況、観光ニーズの多様化と地方観光のニーズ 2. 発表と意見交換：農山漁村の新しい観光アイデアと観光資源	次回予習：丹波篠山市の観光資源を調べて PPT にまとめてくる。
第 4 回	1. グループワーク：丹波篠山市の観光資源を調べる 発表と情報共有 2. フィールドワークについて	
第 5-6 回	【第 1 回現地活動（6 月上旬）】 ・丹波篠山市の観光関連事業者のインタビュー ・福住まちづくり協議会の方からの地域の現状・課題・取り組みの説明 ・住民の方々との意見交換会	課題：フィールドワークのまとめ
第 7-9 回	【学内活動】 振り返りとアイデア検討 ・グループワーク：地域の課題と要因について考える ⇒後半：発表とディスカッション ・観光の観点から課題解決のアイデアを考える（ブレスト） ○モニター体験（9 月実施）の原案 ・活用する資源とルートの仮案作成 ・第 2 回フィールドワークの準備（関係者との調整など）	
第 10-11 回	【第 2 回現地活動】6 月下旬 モニター企画の調査・関係者打ち合わせ	

第 12-13 回	【学内活動】7 月上旬 モニター企画の完成・販売準備 ※7 月中下旬に販売開始	課題：モニター企画の内容を検討し、自分の提案をまとめる
第 13-14 回	【第 3 回現地活動】7 月末 ・祭りのお手伝い&地域調査 伝統的な祭りに参加し、歴史や住民の想い、現在の課題を学ぶ。 ・地域資源調査	課題：地域の祭りについて歴史と特色をまとめる。
第 15-16 回	【第 4 回現地活動】8 月末 ・モニター体験打ち合わせ ・農家の方からの講義：黒豆農家の現状と課題 ・黒枝豆収穫 & 販売企画を考える	課題：現地で伺った黒豆農家課題についてまとめる。
第 17-18 回	【学内活動】8 月末 ・地域活性化プランの作成 ・モニター体験の準備	
第 19-20 回	【第 4 回現地活動】9 月中旬 モニター体験の実施 黒枝豆販売企画の打ち合わせ	課題：モニターツアーを実施したうえでの気づきをまとめる。
第 21-22 回	【学内活動】9 月下旬 モニター体験の検証 地域活性化プランの作成 黒枝豆 & 販売企画の準備	
第 23-24 回	【学内活動】10 月上旬 地域活性化プランのまとめ 黒枝豆 & 販売企画の準備	観光プランコンテストへの参加
第 25-30 回	第 25-26 回 【学内活動】10 月上旬 地域活性化プランのまとめ 黒枝豆 & 販売企画の準備 第 27-29 回 【事後学習】 振り返りと報告プレゼン準備 ・グループワーク：現地活動の振り返りを整理し、地域の課題とその要因、地元住民の想い、その他気づいたことを共有する。 第 30 回 活動報告会	※課題：持続可能な地域づくりについて、観光の視点からなにができるか提案をまとめる （個人ワーク：PPT 4 枚程度）

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y71	2.科目名	サービスラーニング B (INT 安全安心 E)	3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科
10.取得資格の要件			11.先修条件	SVL103-Y71 サービスラーニング A 履修者 に限る	
12.研究室	※※※	13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態		サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、県警本部サイバー企画課担当官等によるサイバー犯罪の現状、傾向、対策等に関する講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な対策を検討する。その上でサイバー犯罪防止に資する啓発資料としてのパワーポイントを作成し、県警サイバー企画課が実施する防犯啓発のキャンペーンにおいてプレゼンテーションを実施する。 ①講義、②実態調査活動、③パワポ作成等、④発表	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】日々巧妙化するサイバー犯罪に焦点を当て、その被害防止対策のための発表等を実施して広報啓発、地域貢献を行うことを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、明石市内でプレゼンテーションを行います。 ①A コース受講者の指導、助言、進行管理 ②サイバー防犯キャンペーンにおけるプレゼンテーションの進行役 ④振り返りの実施 ⑤報告会への参加				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。B コース者は下記の進行管理を行うことでリーダーシップが習得できます。 ? サイバー犯罪の実態、被害防止に資する対策・知識を知ることができる・・・①、④ ? 様々な問題点を発見し、幅広い年代層に対する防犯啓発を行うことができる・・・②、④ ? プレゼンテーションをキャンペーン会場で行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・⑤ ? 地域社会の安全意識の向上に資する社会貢献を担うことができる・・・②				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	① 取組姿勢態度 20 % ② 指導助言における取組姿勢、態度 30 % ③ 発表等にあたっての進行管理 30 %				

	④ 総括振り返りレポート（学修ポートフォリオに搭載） 20%	
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部署）や参加メンバーに迷惑をかけないよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。 生成 AI 利用に関しては、情報収集、考え方の確認等においての利用を認める。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【7月30日】 ○ ガイダンス ・ サービスラーニングについての共通認識 ・ 課題選定理由の説明と理解促進 ・ 班編制とリーダー・サブリーダーの選出 ・	パソコン、ノート等持参
第 2 ～ 3 回	以降の授業における指導助言 【7月30日】 ・ 県警担当官による講習受講 ・ 各班によるテーマ選定と情報収集 ・ まとめ	パソコン、ノート等持参
第 4 ～ 9 回	【7月31日、8月1日】 ・ パワーポイント、原稿の作成 ・ プレゼンテーションの練習	パソコン、ノート等持参
第 10～13 回	★ 進行管理 【8月3日】 ○ プレゼンテーション等の実施 イオン明石ショッピングモールにおけるサイバー防犯キャンペーンにおける発表と広報啓発活動への参加	プレゼンのファイル等
第 14 回	事後学習 進行管理 報告会における発表のための予行演習 ※ 報告会の直前	パソコン、ノート等持参
第 15 回	【最終報告会】 進行管理 日程は後日 ○ 実施内容及びまとめに関する発表	パソコン持参
	※ 短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、欠席しないこと。 ③ 市民に分かりやすい「プレゼンテーション」を実施するため、各人が創意工夫すること。	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y72	2.科目名	サービスラーニング B (高齢者特殊詐欺 E)	3.単位数	2
4.授業担当教員	大松光寿				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科 2 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件	前年度の本サービスラーニングプログラム A を受講した者	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関 する事前学習、県警担当官による特殊詐欺被 害の現状、傾向、対策等の講義を受けた後、 実態調査を実施して、効果的な対策を検討す る。その上で特殊詐欺防止に資する寸劇等を 制作し、高齢者に披露して防犯啓発を行う。 (指導助言と教員の補助活動) 活動はグループ単位で実施する。 ○ グループ編成 1 個班 5 名程度 ○ 形態 ①講義、②実態調査活動、 ③シナリオ・小道具類の作成 ④実演	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】社会問題化している特殊詐欺被害者の大半を占める高齢者に焦点を当て、防犯寸劇を 披露して被害防止に資することを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、防犯寸劇を制作・実演し、防犯啓発 に役立てる活動を行います。 ①特殊詐欺の発生実態等を各種情報検索により把握する ②県警担当官を招致して実態調査を行う ③高齢者の心に届く寸劇・紙芝居等の制作を行う ④神戸市内の高齢者向け防犯教室において、寸劇等の実演を行う ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミ ュニケーションスキル、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ? 社会問題化している特殊詐欺の実態を知ることができる・・・①、④ ? 特殊詐欺の発生実態から様々な問題点を発見の上、主たる被害者である高齢者に対する防犯 啓発を行うことができる・・・④、⑤ ? 高齢者の被害防止という社会貢献を担うことができる・・・② ? 規範意識を醸成することができる・・・①				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	① 事前学習及び活動時の取り組み姿勢態度 ② 寸劇・紙芝居等の制作（共同作成）に当たっての姿勢態度 ③ 実演や事後発表にあたっての姿勢態度				30 % 30 % 30 %

	④ 総括振り返りレポート（総括はウェブクラス記事投稿に搭載） 10%	
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部局）や参加メンバーに迷惑をかけないよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回～2回	【9月1日 午前中】 ○ ガイダンス ・ サービスラーニングについての共通認識について ・ 班編成とリーダー・サプリーダー等の選出 ・ その他	パソコン持参
第3回	【9月2日 午前中】 ○ グループ討議 ・ 発生実態を踏まえ、各グループ毎に情報の整理・分析 ・ 発表内容の選定とグループ間の調整 ○ 県警担当官による被害実態に関する研修・・・予定	各グループの討議内容に従ってシナリオ案を作成する
第4回～5回	【9月3日 1、2時限】 ○ グループ毎に発表内容（シナリオ）の原案作成 ・ 配役の決定 ・ 台本読み合わせ	パソコン持参
第6回～7回	【9月4日 1限、2限】 ○ 小道具の作成、寸劇の予行演習等舞台準備	シナリオの熟読、小道具の資材調達
第8回～9回	【9月5日 1限、2限】 ○ 寸劇の予行演習等舞台準備	
第10回	【9月8日 2時限】 ○ 予行演習最終確認	
第11回～14回	・ 9月中下旬頃（未定） 午後2時間程度 兵庫署管内 未定 ・ 9月中下旬頃（未定） 午後2時間程度 生田署管内 未定 2か所での寸劇披露、アンケート調査	小道具等の運搬
第15回	【9月下旬 実演後】 ○ 今回のサービスラーニングを通じての「総括の振り返り」を行い、 eポートフォリオに実施結果を掲載する ○ 最終報告会の発表資料作成	パソコン、各種記録を持参すること
	【12月頃】 ポスター展示での最終報告会	

	【留意事項:エキスパートとしての具体の活動内容】 ① シナリオ作成、演技や報告会発表要領等について、参加学生への指導助言、担当教員のアシスタント ？ 事前学習、実演当日の動画撮影 ？ 会場アンケートの集計分析	
	【注意事項】 ① 最終日の報告会までに各種作業を完了させる必要があり、進捗状況によっては時間延長もあることから、期間中のアルバイト等の個人予定は、可能な限り事前調整しておくこと。 ② 短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、やむを得ない事情がある場合を除いては、欠席しないこと。 ④ より良い「作品」を作るため、各人が考えて知恵を出し、前向きな議論を実施すること。	

1.授業コード (ナンバリング)	SVL104-A01	2.科目名	ボランティア論		3.単位数	2
4.授業担当教員	青山織衣					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学部生が対象			9.履修学年	1 年生から	
10.取得資格の要件	教員免許状（高・中・小・幼）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（6/30 は休講でオンデマンド補習を実施）		
16.履修制限	※※※					
17.授業の目的と概要	【目的】 このクラスでは、多くの人が言葉としては知っている「ボランティア」について、その本来の意味や意義を考えます。また、ボランティアについて考えることを通して、受講生のみなさんひとりひとりが自分と社会のつながりを意識し、社会で起きているさまざまな問題を自分自身と関連付けてとらえられることを目指します。 【概要】 多様な人々が協力して社会をつくる原動力としての「ボランティア」について、基礎的な知識を学び、さまざまな現場の事例から、今の社会に「ボランティア」が果たす役割について考察します。授業では、講師が					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP(デュプロマポリシー)の DP（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキルに深く関連しています。 【学習目標】 ・「ボランティア」の本来の理念や目的、歴史的背景を理解した上で、さまざまな領域でボランティアが果たしている役割について説明することができる。 ・社会生活を送る上で私たちが直面する様々な生活課題に気づき、それらの課題が生まれる背景や、原因について、自分の言葉で説明することができる。 ・ボランティア活動を支援することの必要性や、ボランティア活動支援の専門機関（ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター）の役割について説明できる。 ・講義を通じて、受講生自身が社会課題解決や価値創造に関心を持ち、自分にもできる行動について、「マイプロジェクト」に盛り込むことができる。					
19.教科書・教材	・以下のテキストを使用します。毎回の講義のミニレポートを含め、中間、最終のレポート課題についても、テキストを読んだ上で書く必要があるので、必ず購入してください。 『新・学生のためのボランティア論』発行：社会福祉法人大阪ボランティア協会 ・その他、授業資料やワークシートは WebClass で電子配布します。 ・毎回、PC かタブレットを持参してください(スマホでも可)					
20.参考文献	適宜、講義の中で参考文献についてお伝えします。					
21.成績評価	10 回の小課題（ミニレポートまたはアンケート） 3 点×10 回＝30 点 中間レポート 20 点 最終レポート 50 点					
22.コメント	・講義とあわせてグループ（ペア）ワークを行うことがありますので、積極的に参加してください。 ・遅刻はワークの妨げになるので、講義開始までに教室に入ってください。 ・この科目では、自分の考えを持ち、自分の言葉で表現することを大切にします。毎回のミニレポートやアンケートなどで生成 AI を活用してもよいですが、そのままコピー＆ペーストするのではなく、生成 AI からの情報と自分自身の考えを照らし合わせ、自分の言葉で記入してください。また、生成 AI からの情報を引用する場合は、その旨記載してください。					

23.オフィスアワー		特に設定していませんが、講義終了後、個別の質問や相談を受け付けます。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション (授業の進め方や大切にしたい姿勢、評価方法など) ・ウォーミングアップ (ひとりひとりが持っているボランティアのイメージを見つめなおす) ・ボランティアに関するミニクイズ(個人ワーク・グループワーク)	持ち物(2回目以降も同様): ①教科書(この時点で購入できていなくてもOK。できるだけ早めに購入してください) ②ノート PC またはタブレット(なければスマホでも可) 予習:自分のこれまでのボランティア活動体験や「ボランティア」という言葉に対して持っているイメージを振り返っておく 復習(ウォーミングアップ):授業内でのミニクイズを踏まえて、「ボランティア」に関する疑問を整理しておく【提出なし】
第 2 回	「ボランティア」を捉えなおす① ・ボランティア活動の3原則 ・ボランティアの歴史的背景 ・「ボランティア」という言葉の意味 【教科書 p.12-33】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.12-33 を事前に読む 復習(小課題①):Webclass で提示するミニレポートを作成する【提出期限→4月25日(金)】
第 3 回	「ボランティア」を捉えなおす② ・データで見る「ボランティア」の最前線 ・SDGs とボランティア 【教科書 p.34-47】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.34-47 を事前に読む 復習(小課題②):Webclass で提示するミニレポートを作成する【提出期限→5月2日(金)】
第 4 回	「ボランティア」を捉えなおす③ ・理論からみるボランティア ・ボランティア活動に参加する際に大切にしたいこと 【教科書 p.48-59】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.48-59 を事前に読む 復習(中間レポートの準備):これまでの学びを踏まえて、Webclass で提示するアンケートに回答する【提出期限→5月16日(金)】
第 5 回	ボランティア活動の実践に向けた準備① ・「自分・発」の思いを見つける 【教科書 p.86-89、p.165-168】 ★中間レポートについて説明	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.86-89、p.165-168 を事前に読む 復習(中間レポートの準備):授業内で行ったワークについて、さらに加筆する【提出なし】
第 6 回	ボランティアの多様な領域を知る① ・福祉に関するボランティア 【教科書 p.62-74】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.62-74 を事前に読む 復習(小課題③):Webclass で提示するミニアンケートに回答する【提出期限→5月30日(金)】
第 7 回	ボランティアの多様な領域を知る② ・医療・看護に関するボランティア 【教科書 p.75-85】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.75-85 を事前に読む 復習(小課題④):Webclass で提示するミニアンケートに回答する【提出期限→6月6日(金)】
第 8 回	ボランティアの多様な領域を知る③ ・こどもに関するボランティア 【教科書 p.90-100】 ★中間レポート提出週	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.90-100 を事前に読む 復習(小課題⑤):Webclass で提示するミニアンケートに回答する【提出期限→6月13日(金)】

		日（金）】 ★中間レポート提出 【提出期限→6月13日（金）】
第9回	ボランティア活動の実践に向けた準備② ・ボランティア活動に参加しやすい環境づくり ・ボランティアコーディネーションの基礎 【教科書 p.150-151、p.165-175】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.150-151、p.165-175 を事前に読む 復習（小課題⑥）：Webclass で提示するミニレポートを作成する 【提出期限→6月20日（金）】
第10回	ボランティア活動の実践に向けた準備③ ・マイプロジェクトを企画する 【教科書 p.160-163】 ★最終レポートについて説明	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.160-163 を事前に読む 復習（最終レポートの準備）：授業内で行ったワークについて、さらに加筆しておく 【提出なし】
第11回（休講）※補講をオンデマンド授業にて行います	ボランティアの多様な領域を知る④ ・地域（まちづくり）に関するボランティア 【教科書 p.102-115】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.102-115 を事前に読む 復習（小課題⑦）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する。提出期限→7月4日（金）
第12回	ボランティアの多様な領域を知る⑤ ・災害に関するボランティア 【教科書 p.116-126】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.116-126 を事前に読む 復習（小課題⑧）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する 【提出期限→7月11日（金）】
第13回	ボランティアの多様な領域を知る⑥ ・環境に関するボランティア 【教科書 p.127-138】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.127-138 を事前に読む 復習（小課題⑨）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する 【提出期限→7月18日（金）】
第14回	ボランティアの多様な領域を知る⑦ ・国際協力に関するボランティア 【教科書 p.139-149】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.139-149 を事前に読む 復習（小課題⑩）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する 【提出期限→7月25日（金）】
第15回	ボランティア活動の実践に向けてのワーク④ ・ボランティアと社会デザイン 【教科書 p.176-182】 ★最終レポート提出週	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.176-182 を事前に読む 復習：可能な範囲で自分の関心のあるボランティア活動に参加してみる ★最終レポート提出 【提出期限→7月29日（火）】

1.授業コード (ナンバリング)	SVL104-m01	2.科目名	ボランティア論（地域社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	青山織衣					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学部生が対象			9.履修学年	1 年生から	
10.取得資格の要件	教員免許状（高・中・小・幼）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（6/30 は休講でオンデマンド補習を実施）		
16.履修制限	※※※					
17.授業の目的と概要	【目的】 このクラスでは、多くの人が言葉としては知っている「ボランティア」について、その本来の意味や意義を考えます。また、ボランティアについて考えることを通して、受講生のみなさんひとりひとりが自分と社会のつながりを意識し、社会で起きているさまざまな問題を自分自身と関連付けてとらえられることを目指します。 【概要】 多様な人々が協力して社会をつくる原動力としての「ボランティア」について、基礎的な知識を学び、さまざまな現場の事例から、今の社会に「ボランティア」が果たす役割について考察します。授業では、講師が					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(デュプロマポリシー)の DP（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキルに深く関連しています。 【学習目標】 ・「ボランティア」の本来の理念や目的、歴史的背景を理解した上で、さまざまな領域でボランティアが果たしている役割について説明することができる。 ・社会生活を送る上で私たちが直面する様々な生活課題に気づき、それらの課題が生まれる背景や、原因について、自分の言葉で説明することができる。 ・ボランティア活動を支援することの必要性や、ボランティア活動支援の専門機関（ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター）の役割について説明できる。 ・講義を通じて、受講生自身が社会課題解決や価値創造に関心を持ち、自分にもできる行動について、「マイプロジェクト」に盛り込むことができる。					
19.教科書・教材	・以下のテキストを使用します。毎回の講義のミニレポートを含め、中間、最終のレポート課題についても、テキストを読んだ上で書く必要があるので、必ず購入してください。 『新・学生のためのボランティア論』発行：社会福祉法人大阪ボランティア協会 ・その他、授業資料やワークシートは WebClass で電子配布します。 ・毎回、PC かタブレットを持参してください(スマホでも可)					
20.参考文献	適宜、講義の中で参考文献についてお伝えします。					
21.成績評価	10 回の小課題（ミニレポートまたはアンケート） 3 点×10 回＝30 点 中間レポート 20 点 最終レポート 50 点					
22.コメント	・講義とあわせてグループ（ペア）ワークを行うことがありますので、積極的に参加してください。 ・遅刻はワークの妨げになるので、講義開始までに教室に入ってください。 ・この科目では、自分の考えを持ち、自分の言葉で表現することを大切にします。毎回のミニレポートやアンケートなどで生成 AI を活用してもよいですが、そのままコピー＆ペーストするのではなく、生成 AI からの情報と自分自身の考えを照らし合わせ、自分の言葉で記入してください。また、生成 AI からの情報を引用する場合は、その旨記載してください。					

23.オフィスアワー	特に設定していませんが、随時メール等で個別の質問や相談を受け付けます。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション (授業の進め方や大切にしてほしい姿勢、評価方法など) ・ウォーミングアップ (ひとりひとりが持っているボランティアのイメージを見つめなおす) ・ボランティアに関するミニクイズ(個人ワーク・チャットでの共有)	持ち物(2回目以降も同様): ①教科書(この時点で購入できていなくてもOK。できるだけ早めに購入してください) ②ノート PC またはタブレット(なければスマホでも可) 予習:自分のこれまでのボランティア活動体験や「ボランティア」という言葉に対して持っているイメージを振り返っておく 復習(ウォーミングアップ):授業内でのミニクイズを踏まえて、「ボランティア」に関する疑問を整理しておく【提出なし】
第 2 回	「ボランティア」を捉えなおす① ・ボランティア活動の3原則 ・ボランティアの歴史的背景 ・「ボランティア」という言葉の意味 【教科書 p.12-33】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.12-33 を事前に読む 復習(小課題①):Webclass で提示するミニレポートを作成する【提出期限→4月25日(金)】
第 3 回	「ボランティア」を捉えなおす② ・データで見る「ボランティア」の最前線 ・SDGs とボランティア 【教科書 p.34-47】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.34-47 を事前に読む 復習(小課題②):Webclass で提示するミニレポートを作成する【提出期限→5月2日(金)】
第 4 回	「ボランティア」を捉えなおす③ ・理論からみるボランティア ・ボランティア活動に参加する際に大切にしたいこと 【教科書 p.48-59】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.48-59 を事前に読む 復習(中間レポートの準備):これまでの学びを踏まえて、Webclass で提示するアンケートに回答する【提出期限→5月16日(金)】
第 5 回	ボランティア活動の実践に向けた準備① ・「自分・発」の思いを見つける 【教科書 p.86-89、p.165-168】 ★中間レポートについて説明	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.86-89、p.165-168 を事前に読む 復習(中間レポートの準備):授業内で行ったワークについて、さらに加筆する【提出なし】
第 6 回	ボランティアの多様な領域を知る① ・福祉に関するボランティア 【教科書 p.62-74】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.62-74 を事前に読む 復習(小課題③):Webclass で提示するミニアンケートに回答する【提出期限→5月30日(金)】
第 7 回	ボランティアの多様な領域を知る② ・医療・看護に関するボランティア 【教科書 p.75-85】	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.75-85 を事前に読む 復習(小課題④):Webclass で提示するミニアンケートに回答する【提出期限→6月6日(金)】
第 8 回	ボランティアの多様な領域を知る③ ・こどもに関するボランティア 【教科書 p.90-100】 ★中間レポート提出週	持ち物:教科書・ノート PC またはタブレット 予習:教科書 p.90-100 を事前に読む 復習(小課題⑤):Webclass で提示するミニアンケートに回答する【提出期限→6月13日(金)】

		日（金）】 ★中間レポート提出 【提出期限→6月13日（金）】
第9回	ボランティア活動の実践に向けた準備② ・ボランティア活動に参加しやすい環境づくり ・ボランティアコーディネーションの基礎 【教科書 p.150-151、p.165-175】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.150-151、p.165-175 を事前に読む 復習（小課題⑥）：Webclass で提示するミニレポートを作成する 【提出期限→6月20日（金）】
第10回	ボランティア活動の実践に向けた準備③ ・マイプロジェクトを企画する 【教科書 p.160-163】 ★最終レポートについて説明	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.160-163 を事前に読む 復習（最終レポートの準備）：授業内で行ったワークについて、さらに加筆しておく 【提出なし】
第11回（休講）※補講をオンデマンド授業にて行います	ボランティアの多様な領域を知る④ ・地域（まちづくり）に関するボランティア 【教科書 p.102-115】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.102-115 を事前に読む 復習（小課題⑦）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する。提出期限→7月4日（金）
第12回	ボランティアの多様な領域を知る⑤ ・災害に関するボランティア 【教科書 p.116-126】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.116-126 を事前に読む 復習（小課題⑧）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する 【提出期限→7月11日（金）】
第13回	ボランティアの多様な領域を知る⑥ ・環境に関するボランティア 【教科書 p.127-138】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.127-138 を事前に読む 復習（小課題⑨）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する 【提出期限→7月18日（金）】
第14回	ボランティアの多様な領域を知る⑦ ・国際協力に関するボランティア 【教科書 p.139-149】	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.139-149 を事前に読む 復習（小課題⑩）：Webclass で提示するミニアンケートに回答する 【提出期限→7月25日（金）】
第15回	ボランティア活動の実践に向けてのワーク④ ・ボランティアと社会デザイン 【教科書 p.176-182】 ★最終レポート提出週	持ち物：教科書・ノート PC またはタブレット 予習：教科書 p.176-182 を事前に読む 復習：可能な範囲で自分の関心のあるボランティア活動に参加してみる ★最終レポート提出 【提出期限→7月29日（火）】

1.授業コード (ナンバリング)	SVL105-Y01	2.科目名	サービスラーニングⅠ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	The purpose of this class is to do service learning in the local community. After learning the basic philosophy of service learning, students work as helpers supporting in NPO and other organizations.					
18.学習目標と DPとの関連	Through the experience of working as helpers off campus, students are given the chance to think about the reasons why people join volunteer works, which lead them to understand the benefits of participating in volunteer works and understand the differences between volunteer works and service learning. DP: (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができます。 (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	Activities 40% (including planning and preparation) Diary 30% (including e-portfolio) Reflective report 30% (evaluated by Report rubric)					
22.コメント	This class is open to all students. As this class is conducted in English, students are expected to speak in English ＊生成 AI 利用に関しては、課題やディスカッション時の調べ学習や考えの整理等に使用を認めます。毎回の課題の時に使っても構いませんが、その内容について、必ず自分で読んで理解してから提出してください。不適切だったり誤った内容の場合は、課題の評価が下がります。 最終課題で、すべて生成 AI で作成した場合は 0 点となります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【1】	Guidance Explanation of the programs and objectives. Checking schedule			Review (60min.)		
【2】	Volunteer organizations			Check the organizations on the Internet and make a report (90min.)		
【3】	Group Discussion: Volunteer ‘My volunteer experience.’ ‘Why do people join volunteer works?’ Benefits and Problems			Summarize your group discussion (60min.)		

【4】	What is Service learning Examples of service learning programs	Review and summarize the contents (60min.)
【5】	Introduction of service learning project. Grouping	Plan what you can do with group members (60min.)
【6】	Background study	Review and summarize the contents (60min.)
【7】	Background study ②	Review and summarize the contents (60min.)
【8】	Schedule arrangement: decide the date to observe Manners	Preparation for the work
【9】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Report of the activities
【10】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Review and summarize the contents (60min.)
【12】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Review and summarize the contents (60min.)
【13】	Exchanging information : reflect your activities or performance Plan and prepare for the next work	Review and summarize the contents (60min.)
【14-28】	Volunteer activities Group meeting (preparation, action and reflection) Diary and Reports	Review and summarize the contents (60min.)
【29】	Volunteer activities Group meeting (preparation, action and reflection) Diary and Reports	Review and summarize the contents (60min.)
【30】	Preparation for final report. Present at the Meeting of Service Learning in the end of the semester.	Final Report (120min.)

1.授業コード (ナンバリング)	SVL106-M01	2.科目名	サービスラーニング A (学習支援)		3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	リベラルアーツ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～夏学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1～2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限	8～10 名 子どもの心理・発達・教育・福祉・養育などに興味関心のある者 活動日である水曜日の 15 時～16 時に参加できる者					
17.授業の目的と概要	(目的) 社会的貢献である学習支援活動で体験した児童の発達や学習に関する知識やスキルを、大学で学ぶ心理学の授業でのより深い学びにつなげる。 (概要) 三木市立緑が丘小学校の 3～6 年生の児童 (各学年 10 名) に対して、水曜日の放課後 15 時～16 時に学習支援を行う 具体的には、「基礎学力の向上」を目指すことを目的とし、「算数科」「国語科」の自習プリントを活用した学習の個別支援を行う。 児童への支援は、緑が丘小学校の担当指導者の指示のもとに支援を行う。 支援活動の回数は通算 10 回程度である。					
18.学習目標と DPとの関連	大学での授業で学修する心理学的な知識を活用しながら、自らの自動機の経験を活かして、発達途上にある小学生の学びの実態を把握する。 算数科・国語科への学習支援を通して、児童がどこで何に困難を示しているのを知り、どのような支援の手立てで有効であるかを磁土の視点に立って考える。 児童と共に学修課題へ取り組むことにより、より望ましい子どもへの関わり方を学ぶ。 DP(ディプロマポリシー) の (2) 社会的貢献性、の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	特に指定なし					
20.参考文献	特に指定なし					
21.成績評価	ステークホルダー (緑が丘小学校) の評価 40% 支援活動記録 20% 振り返りレポート 20% プレゼンテーション 20%					
22.コメント	この活動は、大学の授業で学修した心理学的知識を児童支援で活用する。あるいは、児童支援の体験を心理学に関する授業でより確かな知識とスキルへと高める絶好の機会です。そして、学生の皆さんが有する力で社会貢献することが可能尾です。 ぜひ、このサービスラーニングへ参画してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション (シラバス概要説明・サービスラーニングの意義・支援活動の目標と内容・活動スケジュール) 学習支援活動における諸注意と留意事項 (安心安全の確保・個人情報保護・守秘義務など)			サービスラーニングの冊子に記述されている内容の理解と把握		
第 2 回	小学校算数科における各学年の目標と指導内容			授業内容の復習		

	小学校国語科における学年別配当漢字 学習支援活動のスケジュールの作成と確認	発達障害について調べる
第 3 回	発達障害についての理解（定義・行動特性・指導上の 配慮事項など）	学習支援活動における配慮事項と留意点につ いての再確認
第 4 回	学習支援活動①（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 5 回	学習支援活動②（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 6 回	学習支援活動③（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 7 回	学習支援活動④（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 8 回	学習支援活動⑤（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 9 回	学習支援活動⑥（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 10 回	学習支援活動⑦（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 11 回	学習支援活動⑧（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 12 回	学習支援活動⑨（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 13 回	学習支援活動⑩（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 14 回	学習支援活動の振り返り（総括） 記録の整理と集約 プレゼンテーション資料作成	プレゼンテーション資料作成準備

	サービスラーニング報告会の準備	
第 15 回	サービスラーニング報告会での発表	プレゼンテーション資料提出

1.授業コード (ナンバリング)	SVL106-M71	2.科目名	サービスラーニング A (学習支援)		3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	リベラルアーツ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1～2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	8～10 名 子どもの心理・発達・教育・福祉・養育などに興味関心のある者 活動日である水曜日の 15 時～16 時に参加できる者					
17.授業の目的と概要	(目的) 社会的貢献である学習支援活動で体験した児童の発達や学習に関する知識やスキルを、大学で学ぶ心理学の授業でのより深い学びにつなげる。 (概要) 三木市立緑が丘小学校の 3～6 年生の児童 (各学年 10 名) に対して、水曜日の放課後 15 時～16 時に学習支援を行う 具体的には、「基礎学力の向上」を目指すことを目的とし、「算数科」「国語科」の自習プリントを活用した学習の個別支援を行う。 児童への支援は、緑が丘小学校の担当指導者の指示のもとに支援を行う。 支援活動の回数は通算 10 回程度である。					
18.学習目標と DPとの関連	大学での授業で学修する心理学的な知識を活用しながら、自らの自動機の経験を活かして、発達途上にある小学生の学びの実態を把握する。 算数科・国語科への学習支援を通して、児童がどこで何に困難を示しているのを知り、どのような支援の手立てで有効であるかを磁土の視点に立って考える。 児童と共に学修課題へ取り組むことにより、より望ましい子どもへの関わり方を学ぶ。 DP(ディプロマポリシー) の (2) 社会的貢献性、の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	特に指定なし					
20.参考文献	特に指定なし					
21.成績評価	ステークホルダー (緑が丘小学校) の評価 40% 支援活動記録 20% 振り返りレポート 20% プレゼンテーション 20%					
22.コメント	この活動は、大学の授業で学修した心理学的知識を児童支援で活用する。あるいは、児童支援の体験を心理学に関する授業でより確かな知識とスキルへと高める絶好の機会です。そして、学生の皆さんが有する力で社会貢献することが可能尾です。 ぜひ、このサービスラーニングへ参画してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション (シラバス概要説明・サービスラーニングの意義・支援活動の目標と内容・活動スケジュール) 学習支援活動における諸注意と留意事項 (安心安全の確保・個人情報保護・守秘義務など)			サービスラーニングの冊子に記述されている内容の理解と把握		
第 2 回	小学校算数科における各学年の目標と指導内容			授業内容の復習		

	小学校国語科における学年別配当漢字 学習支援活動のスケジュールの作成と確認	発達障害について調べる
第 3 回	発達障害についての理解（定義・行動特性・指導上の 配慮事項など）	学習支援活動における配慮事項と留意点につ いての再確認
第 4 回	学習支援活動①（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 5 回	学習支援活動②（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 6 回	学習支援活動③（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 7 回	学習支援活動④（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 8 回	学習支援活動⑤（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 9 回	学習支援活動⑥（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 10 回	学習支援活動⑦（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 11 回	学習支援活動⑧（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 12 回	学習支援活動⑨（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 13 回	学習支援活動⑩（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 14 回	学習支援活動の振り返り（総括） 記録の整理と集約 プレゼンテーション資料作成	プレゼンテーション資料作成準備

	サービスラーニング報告会の準備	
第 15 回	サービスラーニング報告会での発表	プレゼンテーション資料提出

1.授業コード (ナンバリング)	SVL109-M71	2.科目名	サービスラーニング A（ゴルフのまち）		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	経験学修	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部・三木キャンパス			9.履修学年	1 年から	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 フィールド実践		
16.履修制限	10 名					
17.授業の目的と概要	【目的】 ■三木市の三大産業のひとつであるゴルフについて学び、ゴルフが重要産業として理解する。 ■三木市ゴルフ関係者からレクチャーを受け、課題を整理し、ゴルフを三木市に定着させるためのプランを策定したあと提案する。 ■大会スタッフとして大会に参加（調整中）し、運営マネジメント知る。 ■スナッグゴルフ体験や市内ゴルフ場見学（三木ゴルフ倶楽部を予定）、ゴルフミュージアム見学（廣野ゴルフ倶楽部併設）を通してゴルフの基本事項を学ぶ。 ■冬学期開講予定の「生涯スポーツⅠ（ゴルフ実技）」へ繋げる。 【概要】 授業は、					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ？ SNS 利活用について実践し、知識を知ることができる・・・①、④ ？ 様々な問題点を発見し、産業消費者の観点から実践的提案を行うことができる・・・②、④ ？ フィールド実習を行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・⑤ ？ 市内ゴルフ場の集客向上に資する社会貢献を担うことができる・・・②					
19.教科書・教材	活動時に WebClass を通じて配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	①ゴルフのまち三木活性化提案：40% ②一連の成果を基にした報告書作成（フィールド実習含む）：50% ③全活動終了後に e ポートフォリオへ個人の総括レポートを投稿する：10%					
22.コメント	フィールド実習の全日程に参加できることが履修条件となります。					
23.オフィスアワー	木曜 3 限 学習支援センター 木曜昼休み 研究室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	ガイダンス：授業の進行について説明する。 基礎講座：ゴルフとは、ゴルフ場の基礎知識、ゴルフのルール			パソコン、ノート持参		
【第 2 回】	ガイダンス：授業の進行について説明する。 基礎講座：ゴルフとは、ゴルフ場の基礎知識、ゴルフのルール			パソコン、ノート持参		

【第3回】	スナッグゴルフ体験（大学サッカーグラウンド）道具 の名称、基本的な打ち方	
【第4回】	スナッグゴルフ体験（大学サッカーグラウンド）コン ペ	
【第5回】	現地活動 ゴルフミュージアム見学（廣野ゴルフ場併設） 知識の確認	
【第6回】	事前学習① 三木市ゴルフのまち推進課・三木ゴルフ倶楽部をむか えてのレクチャー ゴルフのまち三木の概要をつかむ ゴルフのまち三木推進課の活動を見る	パソコン、ノート持参
【第7回】	学外学習 ゴルフ場見学（三木ゴルフ倶楽部） 支配人からのレクチャーおよびインタビュー	スマホ、ノート持参
【第8回】	プロゴルファーの視点から見たゴルフ場、ゴルフ産 業、ゴルフプレイヤーの現状と課題 プロゴルファー によりレクチャー	パソコン、ノート持参
【第9回】	教室学習 課題の洗い出しと整理（KJ 法による）	パソコン、ノート持参
【第10回】	ゴルフのまち三木活性化に向けた提案準備	パソコン、ノート持参
【第11回】	ゴルフのまち三木活性化に向けた提案準備	パソコン、ノート持参
【第12回】	関係者（三木市、三木ゴルフ倶楽部 など）への提案 発表	パソコン、ノート持参
【第13回】	ゴルフ場におけるイベント支援	記録をとる 写真を撮る
【第14回】	ゴルフ場におけるイベント支援	記録をとる 写真を撮る
【第15回】	これまでの振り返りと報告書作成にむけて	パソコン持参

1.授業コード (ナンバリング)	SVL203-Y01	2.科目名	サービスラーニングⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実習	
16.履修制限	担当者の許可がある場合のみ					
17.授業の目的と概要	(目的) このクラスでは、日本語を外国語として教える知識や教え方について学ぶ。 (概要) 地域で日本語を学ぶ外国人の日本語学習支援を行う。授業や活動を通して、異文化への理解や地域社会への貢献についての学びを深める。					
18.学習目標とDPとの関連	サービスラーニングを実施するにあたり、教室で学んだ学問的な知識・技能を社会活動の中で最大限に活かすことができる。それらの実践を通して様々な文化の人たちと交流することによって文化的・言語的多様性を理解し、また他のメンバーと協力し合いながら行動することによって、新たな学びへの気づきにつなげていくことができる。 DP: (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができます。 (4) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献						
21.成績評価	活動記録日誌 40% 中間発表 10% 最終報告 20% 最終レポート 20% 受け入れ先からの評価（A, B, C,D,F 評価）10% 詳細、評価基準は授業で説明					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前、あるいは後にアポイントを取ってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
事前学習 第1回～第6回	オリエンテーション（サービスラーニングの目的、理解など） 日本国内の日本語支援事情 サービスラーニング実践先について、マナー講習 日本語支援活動の方法① 日本語支援活動の方法② 実際の活動の準備					
活動	地域の日本語教室や大学内での日本語支援			活動記録日誌 中間レポート		
期中の活動報告と振り返り	活動の反省、課題の確認、目標の設定 必要であれば、ステークホルダーとの調整					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SWK101-A01	2.科目名	社会福祉概論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	こども学：選択 福祉学：必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格 保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	現代社会における福祉のありようを理解するために、私たちの今日の課題について分野横断的に概観していきます。具体的には「ケア」「貧困と格差」「ジェンダーギャップ」「コミュニティ」を取り上げます。資料から見えてくる構造やメカニズムを実際の事例にあてはめることで、より具体的な理解につなげていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、多様性理解、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①現代社会における生活課題・福祉課題を根拠をもとに説明することができる。 ②地域社会における多様な課題とその背景について具体的な事例を用いて説明することができる。 ③誰一人取り残さない社会のために何が必要なのかを分野横断的に説明することができる。					
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。					
20.参考文献	武川正吾、森川美絵、井口高志、菊地英明編著（2020）「よくわかる福祉社会学」ミネルヴァ書房					
21.成績評価	全て webclass に提出 ■小課題（3 回）：60％（学習目標①②） ■学びのまとめのレポート：40％（学習目標①②③） ■授業以外の貢献活動：加点 10％（福祉のボランティアや福祉のアルバイトを通した体験レポート）					
22.コメント	資料の掲示や課題の提出は全て webclass を使います。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					
23.オフィスアワー	問い合わせには随時対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【1 回目】 4/8	オリエンテーション ・福祉とは何か			【今回の復習】 ・シラバスとノートを用いて、科目の内容を再確認しておく。（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。（90 分）		
【2 回目】 4/15	リスク社会① ・リスク社会とは何か ・伝統的なリスクと新しい社会的リスク			【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。（90 分）		

【3回目】 4/22	リスク社会② ・ 具体的事例を通してリスク社会を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【4回目】 5/13	ケア① ・ ケアとは何か ・ ケアの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【5回目】 5/20	ケア② ・ 障がい、合理的配慮、自助・自立、自己決定について考える	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【6回目】 5/27	ケア③ ・ 具体的事例を通してケアのあり方を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・ 小課題①
【7回目】 6/3	貧困と格差① ・ 貧困とは何か ・ 貧困と格差の実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【8回目】 6/10	貧困と格差② ・ 社会的排除、女性・子供の貧困、貧困の再生産について考える	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【9回目】 6/17	貧困と格差③ ・ 具体的事例を通して貧困と格差を福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・ キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・ 小課題②
【10回目】 6/24	ジェンダーギャップ① ・ ジェンダーとは何か	【今回の復習】 ・ 今回の学びのまとめをノートに整理しておく

	・ジェンダーギャップの実態について統計資料から概要をつかむ	く。(90分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【11回目】 7/1	ジェンダーギャップ② ・アンペイドワーク、ジェンダーバイアス、セクシュアリティについて考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【12回目】 7/8	ジェンダーギャップ③ ・具体的事例を通してジェンダーギャップを福祉の観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分) 【次回までの提出物】 ・小課題③
【13回目】 7/15	コミュニティ① ・コミュニティとは何か ・コミュニティの実態について統計資料から概要をつかむ	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【14回目】 7/22	コミュニティ② ・まちづくり、社会的包摂について考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分)
【15回目】 7/29	コミュニティ③ ・具体的事例を通して誰一人取り残さないコミュニティを福祉的観点で考える	【今回の復習】 ・今回の学びのまとめをノートに整理しておく。(90分) 【次回の予習】 ・キーワードをもとに調べ学習をしておく。(90分) 【提出物】 ・小課題④ ・学びのまとめのレポート

1.授業コード (ナンバリング)	SWK102-A01	2.科目名	障害者福祉論		3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校（福祉）社会福祉士受験資格	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義と演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 障害の概念や特性、障害者の生活実態、障害福祉関連の施策を理解するとともに、障害者の権利に基づいた援助の知識を学ぶ。 【概要】 講義形式を主とするがグループワークを通じて意見交換を行い、自分の意見だけでなく客観的な見方ができるようになることを目指す。さらに、ICT を活用し、授業内で示す課題に応じて、ノートパソコン等のツールを用いて主体的に学び、実践に役立てる方法を獲得していく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的を達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉専門職としての適切な支援のあり方を理解する。 本科目は DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性、(3)多様性理解に関連している。					
19.教科書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2025）『障害者福祉』8（第2版）中央法規					
20.参考文献	二本柳覚 編（2022）『図解でわかる障害福祉サービス』中央法規					
21.成績評価	①ワークシート（14 回分）=60%：学習目標①②③ ②期末レポート=30%：学習目標④ 「重度障害のある人たちの尊厳と権利を守るための援助とは」1600 字以上 ③ふりかえりシート=10%：学習目標①②③④					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってくるください。 ※施設見学やゲストスピーチは先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもあります。事前に必ずアナウンスします。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。 ・情報の正確性（出典）を確認しましょう。 23.オフィスアワー					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	1.障害者福祉の理念：教科書 pp25-47 ・差別や偏見と障害者観、優性思想と障害者について学ぶ			○予習 教科書を読んでおくこと 【提出】		

	・ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンを学ぶ。 2.障害の概念と構造的な理解：教科書 pp16-24 ・医学モデルと社会モデルを理解する ・国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）を学ぶ。 ・障害の定義を学ぶ ワークシート①「障害とは？」	ワークシート①
第2回	障害者福祉制度の歴史：教科書 pp50-83 ・障害者処遇の変遷、障害者福祉制度と展開過程を学ぶ ・当事者運動を理解する ・障害者権利条約の経緯と障害者基本法の変遷を学ぶ。 ワークシート②	○予習 教科書を読んでおくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート②
第3回	1.障害者の生活実態：教科書 pp86-93 ・障害者数、地域移行、居住、就学、就労などの概要を知る。 2.障害の理解と支援：教科書 pp4-8 ・身体障害者福祉法を学ぶ ・身体障害の特徴を理解する ・身体障害者の生活を知る ワークシート③	○予習 教科書を読んでおくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート③
第4回	知的障害の理解と支援：教科書 pp8-9、pp122-126 ・知的障害者福祉法を学ぶ ・知的障害の特徴を理解する ・知的障害者の生活を知る ワークシート④	○予習 教科書を読んでおくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート④
第5回	精神障害の理解と支援：教科書 pp9-12、pp127-132 ・精神保健福祉法を学ぶ ・障害の特徴を理解する ・精神障害者の生活を知る ワークシート⑤	○予習 教科書を読んでおくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート⑤
第6回	発達障害の理解と支援①：教科書 pp13-14、pp139-143 ・発達障害者支援法を学ぶ ・自閉スペクトラム症(ASD)の特徴を理解する ・自閉スペクトラム症(ASD)のある人の生活を知る ワークシート⑥	○予習 教科書を読んでおくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート⑥
第7回	発達障害の理解と支援②：教科書 pp13-14、pp139-144 ・LD、ADHDの特徴を理解する ・LD、ADHDのある人の生活を知る ワークシート⑦	○予習 重症心身障害について調べておくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート⑦
第8回	重症心身障害の理解と支援（施設訪問予定） ・重症心身障害の特徴を理解する ・重症心身障害者の生活を知る ワークシート⑧	○予習 教科書を読んでおくこと（120分） 【次回までに提出】 ワークシート⑧

第 9 回	障害者に対する法制度①：教科書 pp144-154 ・ 障害者総合支援法、障害福祉計画を学ぶ。 ワークシート⑨ ・ 事例をもとに福祉サービスをコーディネートする（グループでの意見交換、発表）	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑨
第 1 0 回	障害者に対する法制度②（施設訪問予定） ・ 知的障害者の通所サービスを理解する ワークシート⑩	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑩
第 1 1 回	1.障害児に対する法制度③：教科書 pp133-138、pp236-239 ・ 児童福祉法における障害児支援を学ぶ ・ 医療的ケア児支援法を学ぶ 2.障害者を取り巻く社会環境①：教科書 pp94-108 ・ 障害者と暮らす家族を理解する ワークシート⑪	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑪
第 1 2 回	障害者を取り巻く社会環境②（ゲストスピーチ予定） ・ 障害者と性について理解する ワークシート⑫	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【提出】 ワークシート⑫
第 1 3 回	障害者に対する法制度④：教科書 pp160-178 ・ 障害者差別解消法、合理的配慮を理解する ・ 障害者雇用促進法、バリアフリー法を学ぶ ワークシート⑬	○予習 教科書を読んでおくこと（120 分） 【次回までに提出】 ワークシート⑬
第 1 4 回	障害者に対する法制度⑤ 教科書 pp155-159 ・ 障害者虐待防止法を理解する ・ 重度障害のある人たちの尊厳と権利について理解する ワークシート⑭	◎復習 これまで学んだところ（教科書、配布資料、ワークシート）を見直しておく。 【次回までに提出】 ワークシート⑭
第 1 5 回	・ 全体のまとめ ・ 期末レポート提出「重度障害のある人たちの尊厳と権利を守るための援助とは」	【提出】 ・ ふりかえりシート ・ 期末レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SWK104-A01	2.科目名	社会保障論		3.単位数	4
4.授業担当教員	道中 隆					
5.授業科目の区分	基幹科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会保障は、疾病・障害・高齢・失業などの社会的リスクに対応するしくみとして生まれ、社会保障の受給が権利として確立されてきた。その後、先進諸国は社会保障制度を充実させ福祉国家の確立を目指してきた。わが国においては 70 年代に始まるオイルショックや財政赤字の増大によって、「大きな政府」から「小さな政府」への転換ベクトルの動きを加速させ「福祉国家の危機」と言われてから久しい。現在、わが国の社会保障は大きな転換期を迎え、家族、雇用、人口減少といった激動の波を受けようとしている。国家が国民生活のすべてを					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の (2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性) (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 本科目の学習目標(=身につくスキル)は、次の通りです。 ①社会福祉の専門職として、福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 ②「多様性の理解」として 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し受け入れることができる。 ?ソーシャルワーカーとして、福祉現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し行動することができる。 ④ソーシャルワーカーとして、関係機関連携を図り福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができる。 ⑤専門分野について修得した知識・技能を問題解決に向けて活用することができる。					
19.教科書・教材	①日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021) 『7 社会保障』 中央法規					
20.参考文献	・道中隆(2016) 『第2版 貧困の世代間継承—社会的不利益の連鎖を断つ』 晃洋書房 ・駒村康平(2010) 『最低所得保障』 岩波書店					
21.成績評価	評価、評定については、下記の項目①②?の提出の要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出される必要があります。その上で④を加えた①～④の積算方式によって総括評価を行います。 ①小課題・ミニコメント(5%×4回)= 20% 【①②?に対応】 ②ワーク等ワークシート(5%×4回)= 20% 【②?に対応】 ③レポート(10%×2回)= 20% 【?④に対応】					

	④総括試験＝40% 【④に対応】	
22.コメント	厳しいリスク社会の中では、さなざまな生活課題に直面することがあります。社会保障制度は、その困難な社会経済的な課題に対処するためのリスクヘッジとして機能するものです。 この科目では、少々耳慣れない用語や難解なことばも多くでてきますが、これらは社会そのものが複雑なシステムとして成り立っていることからやむを得ないことなのです。社会の共通言語として理解しておく必要があります。社会保障制度の全体像をつかみ理解しておけば、社会にでてから必ず役に立つ、あなたの強い味方となります。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で受講生からの質問等への対応を行います。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1-2回】	【第1回】(4/11) オリエンテーション ○第1章 現代社会と社会保障 第1節 人口動態の変化 1 人口減少と少子高齢化 2 人口減少と少子高齢化が社会に与える影響 3 少子化対策と社会保障の課題 ・私たちの生活と社会保障 ・考えてみよう、卒業後のあなたの就労収入 ・計算してみよう、あなたの生活費シュミレーション ・社会が変われば社会保障も変わる ・ワーク①②③ 【第2回】(4/11) 第2節 経済環境の変化 1 経済の動向 2 低成長経済の影響 3 経済政策と社会保障の課題 ・ワーク	・シラバスと教科書を必携 ○次回「特別養護老人ホーム入所待機者52万4千人」について、何が問題なのか、現状と課題を調べてくる。(120分) ②教科書参照
【第3-4回】	【第3回】(4/18) 第3節 労働環境の変化 1 雇用・労働の動向 2 雇用・労働の変化がもたらす影響 3 雇用・労働政策と社会保障の課題 ・考えてみよう、卒業後のあなたの就労収入 ・計算してみよう、あなたの生活費シュミレーション ・なぜ社会保障制度が必要か? ・社会保障の制度設計、何が問題でどのような課題があるのか? ・セーフティネットとは何か、あなたのライフサイクル ・ワーク⑤⑥ 《小課題・ミニコメント1》 『特別養護老人ホーム入所待機者52万4千人』の問題および課題	○次回までに社会保険にはどんな種類があるのか調べてくる。(120分) ワークシート⑤⑥ 提出 《小課題・ミニコメント1》
【第5-6回】	【第5回】(4/25)	○次回までに『小野市福祉給付制度適正化条

	第3節 社会保障の理念 1 生存権 2 社会連帯 第4節 社会保障の対象 1 カバーする社会的リスクの範囲 2 人的適用範囲 ・《小課題・ミニコメント 2》 「2025 年問題」をめぐる政策課題とは ・⑦ワーカー社会保障制度の概要 ・⑧ワーカーQ1-Q4 公的年金の概要 【第6回】(4/25) 第5節 社会保障制度の展開 1 社会保障前史ー福祉制度の展開、「福祉六法制」度の概要 2 社会保険、社会手当、公的扶助の展開 3 第二次世界大戦後の社会保障の拡充と福祉国家体制の	例の社会的背景、課題について調べてくる。 (120 分) 《小課題・ミニコメント 2》 ・小テストⅠ 実施
【第7-8回】	【第7回】(5/02) ○第2章 第5節 社会保障の展開 ー事例 大阪市西成区あいりんの貧困の縮図ー DVD「かば」視聴 ?ワーカー「かば」を視聴して ・社会福祉協議会のしごと ○第3章 社会保障の財政 第1節 社会保障の財政 1 社会保障財政を支える財源 2 社会保障の主な財源 3 社会保障制度における財政調整 ・日本における社会保障の誕生・発展 ・社会保障の構造① ・社会保障制度の体系 ・社会保険の構造 【第8回】(5/02) 第2節 社会保障給付費・内訳・動向 1 社会	○次回までに『男女雇用機会均等法』の目的と社会的背景、課題について調べてくる。 (120 分)
【第9-10回】	【第9回】(5/09) ○第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第1節 保険と扶助の考え方 1 保険と扶助の概念 2 保険の理論 3 扶助の理論 ・社会保障制度と人間の尊厳 - 男女雇用機会均等法の考え方 ・《小課題・ミニコメント 3》 G○個人ワーク、グループワーク ・ワーク?	《小課題ミニコメント 3》 ○次回までに国民健康保険制度について調べてくる。(120 分) 。次回までに労災保険の保険料について調べてくる。(120 分) ・小テストⅡ

	『小野市福祉給付制度適正化条例』の論点(社会的背景、課題) ・ 社保審生活保護専門部会報告(2013.1.18)に基づく基準額 引き下げの影響 VTR 関西熱視線 NHK ナシヨ	
【第 11-12 回】	【第 11 回】(5/16) ○第 4 章社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第 1 節 保険と扶助の考え方 1 保険と扶助の概念 / 2 保険の理論 / 3 扶助の理論 ・ 国民健康保険制度の現状と課題 PW1-25 ワーク⑬ 第 2 節 社会保険と社会扶助の考え方 1 社会保険と社会扶助の考え方 / 2 日本の社会保険と社会扶助の理解 / 3 自助、共助、公助 ワーク⑭ 第 3 節 社会保険と民間保険の現状 1 社会保険と民間保険の種類 / 2 社会保険と民間保険の違い ○第 5 章社会保障制度の体系	○改正された最低賃金制度のポイントを調べてくる(90 分) ○労働保険制度について調べてくる。(60 分) ■■■レポート課題 I ■■■提出日
【第 13-14 回】	【第 13 回】(5/23) 最低賃金制度の概要 ⑮ワーク 最低賃金 7 項目 《小課題.ミニコメント 4》 第 2 節 介護保険制度の概要 1 介護保険制度の遠隔 2 介護保険制度の概要 ・ 介護保険制度のしくみ ・ 介護保険制度をめぐる最近の動向 【第 14 回】(5/23) 労働保険制度の概要 ⑯ワーク 応能二課、応益負担の具体事例 ⑰ワーク 労働関係法規 ⑱ワーク 雇用・労災 第 3 節 年金制度の概要 1 年金制度の概要と沿革 2 年金の加入と負担 3 年金の給付	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく。(90 分) ○生活保護制度について調べてくる(60 分) 《小課題.ミニコメント 4》
【第 15-16 回】	【第 15 回】(5/30) 公的扶助生活保護制度のしくみの理解 生活困窮者対策①.②.③ 制度のしくみ PW I. II. III ⑲ワーク 生活保護の削減 4 年金財政、5 企業年金と個人年金、6 最近の改正と課題	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(90 分) ○生活保護基準額の削減による影響について調べてくる。(120 分)

	「勤労者皆保険」の制度創設に向けて 【第16回】(5/30) ②⑩ワーク 業態別保険加入の状況 第4節 労災保険制度と雇用保険制度の概要 1 労働保険制度の概要	
【第17-18回】	【第17回】(6/06) 2 労働者災害補償保険制度 生活保護基準額の削減による影響とは 21 ワーク ナショナルミニマムの揺らぎ 【第18回】(6/06) 契約法とは何か(社会人として知っていなければならない知識) 22 ワーク ブラック会社とは何か 3 雇用保険制度 ・雇用保険制度の沿革	○生活保護の「補足性の原理」について調べてくる(90分) ○貧困ビジネスについて調べてくる。(120分) ○人権とは何か、さまざまな人権問題の形態を調べてくる(60)
【第19-20】	【第19回】(6/13) ・求職者支援制度の創設 ・DVD 貧困ビジネスを考える ・《小課題・ミニコメント 5》 ○世界人権宣言、 23 ワーク 「人権とは何か、さまざまな人権問題を考える」 【第20回】(6/13) 生活困窮者自立支援制度Ⅰ 第5節 生活保護制度の概要 1 生活保護制度の補足性 ・セーフティネットとしての救済的機能 ・小テストⅢ 「ナショナルミニマムの綻びと課題」	《小課題・ミニコメント 5》 ・小テストⅢ
【第21-22回】	【第21回】(6/20) 第5章第2節 介護保険制度Ⅰ pp.140-157 1 制度の沿革 2 制度の概要 ■■■■レポート課題Ⅱ■■■■ 適時課題を指示します 3,000字 【第22回】(6/20) 第5章第2節 介護保険制度Ⅱ pp.140-157 民間保険制度の概要 2 生活保護制度の概要 ・生活保護制度、公的扶助制度のしくみ ・対象、給付、財源の概要制度の沿革と概要 ・生活保護基準について VTR 関西熱視線 NHK ナショナル・ミニマム 生活困窮者自立支援制度Ⅱ	■■■■レポート課題Ⅱ■■■■ 授業時間内に提出
【第23-24回】	【第23回】(6/27) 生活困窮者自立支援制度Ⅲ	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(180分)

	・ 社会保障の制度設計と早期介入政策とは ー子育て支援をめぐる政策課題 Wー 【第 24 回】 6/27) 第 6 節 社会手当制度の概要 1 社会手当制度の概要 児童手当、児童扶養手当制度 2 地域包括ケアと高齢者の住まい PW 3 最低居住水準と住居のナショナル・ミニマムとは 4 地域包括ケアと医療 PW、高齢者を支えていくために PW ・ 小テスト IV	・ 小テスト IV
【第 25-26 回】	【第 25 回】 (7/04) 第 7 節 社会福祉制度の概要 1 社会福祉制度の概要 2 社会福祉制度の基本法 ・ 貧困問題、「子どもの貧困」の社会的不利益と世代間継承 ・ 《小課題・ミニコメント 6 》 【第 26 回】 (7/04) 3 高齢者福祉 4 児童福祉 5 障害者福祉 6 ひとり親家庭の支援	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(180 分) 《小課題・ミニコメント 6 》
【第 27-28 回】	【第 27 回】 (7/11) 第 6 章諸外国における社会保障制度 第 1 節 諸外国の社会保障 【第 28 回】 (7/11) ■■■総括試験■■■	■■■総括試験■■■ 実施
【第 29-30 回】	【第 29 回】 (7/18) 第 2 節 社会保障の国際比較 第 3 節 社会保障の国際化 【第 30 回】 (7/18) 《 最終授業 》 振り返りと全体のまとめ	○これまでの授業の復習、授業ノートを整理しておく(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SWK105-A01	2.科目名	権利擁護と成年後見制度		3.単位数	2
4.授業担当教員	竹元志保					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	こども学専攻、福祉学専攻			9.履修学年		
10.取得資格の要件	高校(福祉)	社会福祉士受験資格	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	誰もが安心して生活できる社会を実現するためには、私たち一人ひとりの権利が守られていることが不可欠です。そのため、各分野でさまざまな法律が制定され、その内容も時代の変化に応じて改正されています。 人権が守られる社会や権利侵害を許さない社会を目指すことは当然ですが、すべての人の人権を保障するためにはどのような制度が必要でしょうか。また、福祉サービスを必要とする人々の人権侵害を防ぐためにはどのような取り組みが求められるでしょうか。 この科目では、まず基本的人権をはじめとする基礎知識を学びます。さらに、相談					
18.学習目標と DPとの関連	①憲法・民法・行政法の基礎知識を習得し、人権や法律全体の仕組みを理解すること。 ②法律の条文を読み解く力を養い、自分で法律を使って考えられるようになること。 ③福祉領域で特に重要な「権利擁護」や「成年後見制度」について、具体的な説明ができるようになること。 ④特に社会福祉領域での法律トラブルへの対応力を身につけ、必要な相談機関に繋ぐ実践力を育てること。					
19.教科書・教材	最新社会福祉士養成講座 「権利擁護を支える法制度」 中央法規					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト1 (25%) DP1 および DP2 に関連し、憲法・民法・行政法の基本的知識を問う選択問題を中心に、法律の条文を読み解く力(学習目標②)の達成度を確認する内容 例：基本的人権に関する正誤問題、養子縁組、相続、親権に関する正誤問題、行政処分、行政事件訴訟、国家賠償法に関する正誤問題 小テスト2 (25%) 現状の記述: DP3 および DP4 に対応し、成年後見制度の法的知識を具体的な事例で適用する力を確認。 成年後見制度の具体的な事例(例: 判断能力の低下した高齢者の消費者契約問題)を基に、福祉領域					
22.コメント	法律の知識はソーシャルワーカーにとって不可欠ですが、職業や立場を問わず、すべての人にとっても重要です。法律の知識は私たちの生活をより安心できるものにし、自分自身を守る力となります。たとえば、法律の基本を知ることによって契約トラブルを未然に防いだり、権利が侵害されたときに正しい手段で問題を解決する道を見つけることができます。 「勉強させられている」という意識を捨て、人生に必要な知識として前向きに学びましょう。					
23.オフィスアワー	金曜日のお昼休み講師控室(尼崎キャンパス)で対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	・オリエンテーション ・権利擁護と成年後見制度の概要 ・社会福祉基礎構造改革と社会福祉制度 * DP①に関連し、法律の基礎的な知識の習得を目指す			復習として授業ノートを整理し、予習として次回範囲の教科書を読んでおく		

	す	
【第 2 回】	講義「権利擁護に必要な法制度」 ・ソーシャルワークにおいて想定される法律問題を学ぶ ・日本国憲法（特に基本的人権）を理解する * DP①と DP②（法律の条文を読み理解する）	復習として授業ノートを整理し、特に DP②の憲法の条文を読み理解することを意識したい。
【第 3 回】	講義「民法?」 ・民法の概要及び契約 ・不法行為と損害賠償責任等について学ぶ。 * DP①②（民法の条文を読み理解する）	復習として授業ノートを整理し、家族法の条文を確認すること。DP②を目指してほしい。
【第 4 回】	講義「民法②」 ・家族に関する法 * DP①②（民法の家族法の条文を読み理解する）	復習として授業ノートを整理し、予習として朝日訴訟の判例に目を通すこと。
【第 5 回】	講義「行政法」 ・行政処分 ・行政不服申立て ・行政事件訴訟 * DP①②③（不服申立てに関する法制度を理解する）	復習として授業ノートを整理し、小テストを準備をする。小テストでは DP①②を達成できているか確認する。
【第 6 回】	小テスト? 憲法・民法・行政法の内容について小テストを実施しその後解説をしながら知識を整理する * DP①②の到達度合いを確認する	小テストの見直しをして後半の講義に備える
【第 7 回】	講義「権利擁護の意義と支える仕組み」 ・権利擁護の意義 ・虐待や暴力から守る仕組み * DP③（虐待防止法に関する法律を読み理解する）	復習として授業ノートを整理する。特に DP③との関連が強く、ソーシャルワークの実務に深く関わる領域である。
【第 8 回】	講義「成年後見制度?」 ・成年後見が必要になった背景 ・成年後見制度の概要 DP③（成年後見制度に関する条文を理解する）	成年後見制度に関する条文を読み直し。 DP②③に関連する復習を意識してほしい。
【第 9 回】	講義「成年後見制度②」 ・任意後見の概要や成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の動向について学ぶ。 ・成年後見事件の最近の動向を理解する。 * DP③（法律の内容を理解する） DP④（実践で活用する力を養う）	復習として授業ノートを整理する。事例検討に備えて、成年後見制度について見直す。
【第 10 回】	講義「成年後見制度③」 ・事例検討 * DP③④（習得した知識を具体的な事例にあてはめて考えることができる）	成年後見制度を利用する具体的な事例をイメージし、その内容を説明できるようになることを目指してほしい（DP③④）。
【第 11 回】	講義「成年後見制度と消費者契約?」 ・民法	復習として授業ノートを整理し、小テストに備える。

	・消費者契約法 ・クーリングオフ * DP③（消費者保護に関する法制度を理解する）	
【第 12 回】	講義「成年後見制度と消費者契約②」 事例検討 小テスト②（成年後見制度に関する小テスト） * DP④の社会福祉領域における法律的トラブル（今回は判断能力の低下に伴うトラブル）に対して、具体的な備えや解決方法についての理解度を確認する内容。	小テストは、DP③④の到達度を確認するためのものである。到達度に応じて復習してほしい。
【第 13 回】	講義「日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業」 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度 ・成年後見制度利用支援事業	特に DP④の視点から、日常生活自立支援事業を理解できるよう復習したい。
【第 14 回】	講義「権利擁護にかかる組織・団体、専門職の役割」 ・裁判所の役割 ・児童相談所・婦人相談所等の専門機関 ・社会福祉協議会など	特に DP④の観点から、関連機関を総合的に理解できるよう復習してほしい。
【第 15 回】	総括試験 DP①～④（条文を読み理解する、ソーシャルワークに必要な法律を理解する、その知識を実践の場面で活用する）を段階的に小テストで確認しているため、最後に総合的な到達度を確認する総括試験を実施する。	総括試験の復習 授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	SWK106-A01	2.科目名	老人福祉論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では「加齢」に伴う様々な変化について幅広い視点で理解を進め、超少子高齢社会における諸課題に対し、どのような取組みが行われているのかを具体的に学んでいく。高齢者保健福祉領域における福祉・保健・医療の各種制度や施策、多面的なサービス供給システムのあり方、未来の高齢者福祉等について体系的に学んでいく。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、社会的貢献性、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①高齢者の特性が説明できる。 ②高齢者を支えるための各種制度がわかる。 ③地域社会におけるこれからの高齢者福祉のあり方を検討できる。					
19.教科書・教材	適宜提示します。					
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「最新社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉」中央法規出版、ISBN9784805882450					
21.成績評価	■小課題：30%（学習目標①②） ・webclass に提出する ■最終レポート：40%（学習目標①②③） ・webclass に提出する ■ふりかえり：30%（学習目標①②③） ・学習目標の 3 つの観点に照らし合わせて学びのふりかえりを行う ・webclass に提出する ■授業以外の貢献活動：加点 10%（福祉のボランティアや福祉のアルバイトを通した体験レポート） ・webclass に提出する					
22.コメント	・認知症サポーター資格を取得します。 ・老人福祉論は介護概論と同時期に履修することを推奨します。 ・資料の配付や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回グループワークを実施します。 ・パソコン必携です。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					
23.オフィスアワー	問い合わせには随時対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 4/14	高齢者と少子高齢社会 ・高齢者の定義と特性 ・少子高齢社会の到来			【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分）		

		【提出物】 ・小課題
【第 2 回】 4/21	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・高齢者の生活実態 ・高齢者を取り巻く社会環境	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 3 回】 4/28	高齢者福祉の歴史と理念 ・高齢者観の変遷 ・高齢者福祉の発展過程 ・高齢者福祉の理念	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 4 回】 5/12	介護保険制度① ・介護保険制度の概要	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 5 回】 5/19	介護保険制度② ・地域支援事業	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 6 回】 5/26	介護保険制度③ ・介護保険サービスの体系	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 7 回】 6/2	高齢者に対する関連諸制度① ・高齢者保健福祉の体系 ・老人福祉法 ・高齢者医療確保法	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 8 回】 6/9	高齢者に対する関連諸制度② ・高齢者虐待防止法	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・小課題
【第 9 回】 6/16	高齢者に対する関連諸制度③ ・バリアフリー法 ・高齢者住まい法	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【提出物】

		・小課題
【第 10 回】 6/23	高齢者に対する関連諸制度④ ・ 高齢者雇用安定法 ・ 育児・介護休業法 ・ 市町村独自の高齢者支援	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・ キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・ 小課題
【第 11 回】 6/30	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 ・ 関係機関の役割 ・ 関連する専門職等の役割	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・ キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・ 小課題
【第 12 回】 7/7	高齢者と家族等に対する支援の実際① ・ 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・ キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・ 小課題
【第 13 回】 7/14	高齢者と家族等に対する支援の実際② ・ 高齢者と家族等に対する支援の実際	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・ キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・ 小課題
【第 14 回】 7/21	未来の高齢者福祉 ・ 介護ロボット ・ 高齢者福祉のデジタルトランスフォーメーション（DX）	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・ キーワードしらべ（90 分） 【提出物】 ・ 小課題
【第 15 回】 7/28	学びのまとめ ・ 高齢者の特性 ・ 高齢者を支えるための各種制度 ・ 地域社会におけるこれからの高齢者福祉のあり方	【提出物】 ・ 最終レポート ・ ふりかえり 【今回の復習】 ・ 学びのまとめをする（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SWK201-A01	2.科目名	児童家庭福祉 ※福祉学 2 年～ こども学 3 年～		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業概要： 子どもの権利条約によって、子どもの権利は保障されているが、実生活において、子ども自身が社会に意思を主張したり、権利を守ったりすることは困難である。その状況について理解し、保護者とともに社会全体が子どもの権利や主体性の尊重、成長・発達の促進、自己実現を支える仕組み（児童家庭福祉）を学習することが、本講義の概要である。「児童家庭福祉」の理念、それに基づいた法制度、具体的なフォーマル・インフォーマルの支援（実践）内容について、体系的に学んでいくことになる。 授業目的： ・ 児童家庭の生活実態とこれを					
18.学習目標と DPとの関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています ①わが国の子どもを取り巻く問題とその背景を説明できる ②子どもの問題に対応する児童家庭福祉の法制度の概要を説明できる ③児童家庭福祉に携わる専門職の役割を説明できる ④子どもの権利や児童家庭福祉の理念を説明できる ⑤子どもの権利保障の観点から、児童家庭福祉制度の問題点を指摘できる ⑥⑤で指摘した問題点の改善案を提案できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（2）社会的貢献性と（5）問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	授業中に適宜資料等を提示する。					
20.参考文献	授業中に適宜資料等を提示する。					
21.成績評価	【課題 1】 児童虐待検討ワークシート①-③_30%：学習目標①-③に対応 ・ 児童虐待の実態と問題が発生する背景、法制度、専門職について学習するワークシートの作成 【課題 2】 子どもの権利検討ワークシート_20%：学習目標④に対応 ・ 子どもの権利について学習するワークシートの作成 【課題 3】 最終レポート_40%：学習目標⑤-⑥に対応 ・ 具体的なテーマは、自身の関心のある子どもの問題を設定し、授業時のディスカッションを通して検討する ・ 文字数は 2000 字以上とする ・ 参考文献等は 5 つ以上とする※web サイト等					
22.コメント	<生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める * レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 木曜日 4 限目 研究室オフィスアワー 水曜日 3 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	オリエンテーション ※シラバスを持参すること ・授業の進め方や評価に関する説明	◆できるだけノート PC を持参すること◆
	■子どもを取り巻く問題の理解 児童虐待事例をもとに、児童虐待の定義やその実態について理解する	○【課題 1】ワークシート① (90)
	■児童家庭福祉の法制度 児童虐待事例をもとに、法制度／既存の公的サービスによる支援内容について理解する	○【課題 1】ワークシート② (90) ★【課題 1】ワークシート①提出
	■児童家庭福祉の専門職 児童虐待事例をもとに、児童家庭福祉の専門職について理解する	○【課題 1】ワークシート③ (90) ★【課題 1】ワークシート②提出
	■子どもの権利保障の歴史的背景 文献をもとに、歴史的な側面から子どもの権利について理解する	○【課題 2】ワークシート (90) ★【課題 1】ワークシート③提出
	■子どもの権利条約① 子どもの権利条約の概要理解と、国内における実態を把握する	○【課題 2】ワークシート (90)
	■子どもの権利条約② 子どもの権利条約の概要理解と、国内における実態を把握する	○【課題 2】ワークシート (90) ★【課題 2】ワークシート提出
	■児童家庭福祉に関するソーシャルアクション① 児童虐待防止運動 or 社会を明るくする運動に参画する	◎児童家庭福祉のソーシャルアクションプランの検討 (90)
	■児童家庭福祉に関するソーシャルアクション② 児童虐待防止運動 or 社会を明るくする運動に参画する	◎児童家庭福祉のソーシャルアクションプランの検討 (90)
	■児童家庭福祉に関するソーシャルアクション③ 児童虐待防止運動 or 社会を明るくする運動に参画する	◎児童家庭福祉のソーシャルアクションプランの検討 (90)
	■児童家庭福祉が対象とする問題の理解① ・子育てで支援、ひとり親家庭、障害児支援、少年非行、子どもの貧困から関心のあるキーワードを選択してグルーピングし、各グループで学習をすすめる ・各グループでそのテーマに関連する実態を把握する	○【課題 3】最終レポートの執筆準備 (60) ◎グループで次週までの課題に取り組む (60)
	■児童家庭福祉が対象とする問題の理解② 各グループで、設定したテーマに関連する法制度の概要を理解し、問題点を抽出する	○【課題 3】最終レポートの執筆準備 (60) ◎グループで次週までの課題に取り組む (60)
	■児童家庭福祉が対象とする問題の理解③ 各グループで、設定したテーマに関連する法制度上の問題点とそれの改善案について検討する	○【課題 3】最終レポートの執筆 (60) ◎グループで次週までの課題に取り組む (60)
	■グループ内討議 最終レポート内容をもとにしたグループディスカッション(学びの外化)を行い、そのことを通した気づきを最終レポートに反映(再内化)する	○【課題 3】最終レポートの執筆 (120)
	■授業のまとめ ・授業のふりかえり ★【課題 3】の提出 ★【課題 4】の作成と提出	○【課題 4】ふりかえりシートの作成 (60)

1.授業コード (ナンバリング)	SWK302-A01	2.科目名	福祉サービスの組織と経営		3.単位数	2
4.授業担当教員	竹元志保					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	従来の福祉サービスは、行政主体ではなく、篤志家の寄付と家族の献身的な労働力によって支えられていました。その後、時代の変化に伴い、公的な助成と行政の規制のもと、画一的に提供されるようになりました。近年では、医療の発展や少子高齢社会の到来により、福祉サービスのニーズがさらに増加し、それは単なる量の変化ではなく質の変化を伴うものでした。その結果、社会福祉制度を根幹から改革する時代が到来し、社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の創設、障害者自立支援法（現在の障害者総合支援法）、新しい子育て支援の考え方など、福祉サー					
18.学習目標と DPとの関連	?時代の変化に応じた社会福祉の役割の変化、それに伴う社会福祉サービスの提供主体に求められる役割の変化を理解する ②福祉サービスに関わる組織や団体について理解する ③組織における戦略、管理運営、集団力学の作用、リーダーシップ論について理解する ④福祉サービスの質を向上させる仕組みを理解する ⑤これまでの学習で得た知識や価値観を通して、組織の中で働く自分をイメージし、仕事が円滑に進むために必要な能力や、自分自身で伸ばしたいスキルを具体的にイメージする ⑥?～⑤の学びを通して、社会福祉サービスの提供主体の在り方や、その中で働く人に求められるものについて考える					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する（webclass 内）					
20.参考文献	講義内で適宜指示する					
21.成績評価	小テスト①（25％） DP1、DP2 に関し、現在の社会福祉サービスの目的や、考え方の変化、社会福祉法人の役割についての理解を問う 例：社会福祉法の変遷における福祉サービスの役割の変化に関する正誤問題 小テスト②（25％） 学習目標③の到達度合いを確認する 例：集団力学に関する正誤問題、リーダーシップ論に関する正誤問題 総括問題（50％） 小テスト①②で、学習目標①～④について、段階的に到達度合いを確認した上で、総括テストでは、学習目標⑤⑥に関し、正誤問題による知識の確認及び記述式問題による総合的に考え					
22.コメント	・ 検討・考察時には、他の人と積極的に意見交換をするように努めてください。 ・ 最新のニュース等をご覧になると、理解が深まります。関連するニュースなどは講義内でも紹介しますが、日ごろからニュース等にも関心を持ちましょう。					
23.オフィスアワー	金曜日のお昼休みに講師控室（尼崎キャンパス）で対応します					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンスー講義全体の流れと授業の方法ー 福祉サービスにおける組織・経営 福祉サービスと制度			シラバスをみて、どのようなことを扱う科目 なのか確認する。 基礎構造改革以前と以後の福祉サービスの変		

		化について調べる
第 2 回	福祉サービスにかかわる組織や団体 社会福祉法人 NPO 法人 その他の団体	前回の講義の復習・見直し 福祉サービスにおける市場原理と社会福祉法人の意義について考えをまとめる
第 3 回	市場原理（競争の原理）と社会福祉サービス 社会福祉法人の意義 小テスト？ DP1、DP2 に関し、現在の社会福祉サービスの目的や、考え方の変化、社会福祉法人の役割についての理解を問う 例：社会福祉法の変遷における福祉サービスの役割の変化に関する正誤問題	前回の講義の復習・見直し 知っている企業の経営戦略や事業計画にを読んでみる
第 4 回	福祉サービス提供主体における経営戦略と事業計画 目標達成と成果	前回の講義の復習・見直し ピラミッド式と逆ピラミッド式と呼ばれる組織の特徴を整理する
第 5 回	組織構造と組織原則 管理運営の基礎理論	前回の講義の復習・見直し モチベーションを維持するために必要なことは何か、テキストや文献を参考にしてみよう
第 6 回	集団の力学に関する基礎理論 集団とモチベーション 集団の負の側面	前回の講義の復習・見直し どのようなリーダーのもとで働きたいか、どのようなリーダーになりたいか、具体的にイメージして考え、要点を整理する
第 7 回	リーダーシップに関する基礎理論 福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方についてグループで討議する（その際、そのようなリーダーを組織で育てていくためにはどのような視点が不可欠も広く考えること）。	前回の講義の復習・見直し 福祉サービス提供主体における人材育成に必要な視点は何か整理する。
第 8 回	福祉サービスの管理運営の方法 福祉とサービス サービスの価値 品質のマネジメント	前回の講義の復習・見直し（60 分） サービスの質の向上を目指してどのような制度が導入されているか、テキストや文献を調べてまとめる（60 分）
	サービスの質の向上 なぜ質の評価システムが導入されたのか 福祉サービスの第三者評価制度 自己評価・第三者評価の実際	前回の講義の復習・見直し ?社会福祉サービスを利用するにあたり（皆さん自身あるいは家族、友人も含めて）、皆さんがサービス提供事業者に対して不満を感じたことはないか②実習先などで利用者や家族等からあがった苦情等について見聞きしたことはなかったか を思い返し、苦情に対しどのような対応が必要か考えをまとめる。
	苦情対応とリスクマネジメント リスクマネジメントとは何か リスクマネジメントの方法	前回の講義の復習・見直し 自身のキャリアについて考え、どれくらいの年齢でどのような仕事ができるようになっていきたいか（あるいはどのような立場で仕事を

		したいか)などを具体的にイメージしてまとめ)。
	福祉サービスにおける人事・労務管理 小テスト② 学習目標③の到達度合いを確認する 例：集団力学に関する正誤問題、リーダーシップ論に関する正誤問題	前回の講義の復習・見直し バーンアウトを防ぎ、やりがいを感じながら仕事を続けるために、福祉サービスの提供者における人材育成のあり方について考えをまとめる
	福祉サービスにおける人材育成	前回の講義の復習・見直し 社会福祉法人に関する会計管理と財務管理に該当するテキストを読む
	福祉サービスの管理運営の方法 社会福祉法人の経営と財務管理・資金の流れ 社会福祉法人の財務管理の目的 社会福祉法人における会計制度	前回の講義の復習・見直し 介護サービスの情報の公表制度について調べ、第三者評価制度との違いを整理する
	情報化社会と福祉サービス 情報の活用 個人情報の保護と情報開示	前回の講義の復習・見直し 福祉サービス提供事業所における「質の向上」と「職員のモチベーションの維持」の両立について検討する。
テスト実施	テスト実施後総括 今後の社会福祉サービス提供事業所のあり方 福祉サービス提供事業所における人材育成のあり方 今後の展望と課題	講義ノートのまとめ

1.授業コード (ナンバリング)	SWK306-M01	2.科目名	保健医療福祉行政論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道中 隆					
5.授業科目の区分	専門基礎科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のあ る教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	看護学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、現在の医療体制が「入院から在宅」への方向が進む中、保健・医療・福祉の分野で人々の健康生活を守り、より向上させていくため領域横断的に相互の密接な連携が不可欠です。 保健医療分野において多様なニーズを抱える人々の生活が、社会福祉や社会保障の制度やサービスに繋がっていかねばなりません。そのため具体的な施策を通して保健医療福祉の連携のあり方と看護の役割を認識し実践力を身につけることを目的とします。 【概要】 看護師や保健師は住民の生活視点にたち、暮らしやすい地域づくりを具					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(2)社会的貢献性(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①保健医療福祉行政の理念と仕組みの基本的な考え方を説明できるようになる。 ②歴史的背景を理解し、最近の施策の動向をふまえ専門職として責任ある行動を取ることができる。 ③看護専門職としての実践や社会資源の活用ができるようになる。 ④専門分野について修得した知識、技能を、問題解決に向けて状況に応じて活用することができる。					
19.教科書・教材	標準保健師講座・別巻 1『保健医療福祉行政論』（2025）第 6 版 医学書院					
20.参考文献	健康支援と社会保障制度③『社会福祉』（2023）,メヂカルフレンド社、他授業内で論文等適宜紹介					
21.成績評価	評価・評定については、下記①②の項目が提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出されることが基本となり、③④と合わせて総合的に行います。 ①ワークシート ……………25 点（5 回×5 点） 【学習目標②に対応】 ②ふり返しシートⅠ・Ⅱ ……10 点（2 回×5 点） 【学習目標①に対応】 ③中間テスト（第 09 回） ……25 点 【学習目標③に対応】 ④総括試験（第 15 回） ……					
22.コメント	保健医療福祉の分野で求められていることの理解に努め、「入院から在宅」への流れが進んでいる中、課題となっている医療と介護の連携について向き合い、支援力のある専門職を目指してほしい。					

23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を行う。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 4/08 (火)	オリエンテーション、シラバス説明 ・支援をする人の適性とは、専門職 ○第1章 保健医療福祉行政の基本 教科書 pp.2～20 A 保健医療福祉行政の基本となるもの ・保健医療福祉行政の理念や公衆衛生の定義を理解する ・世界の公衆衛生のトレンドについて理解する ・保健医療福祉行政の目指すものを理解する 《①ワーカー支援する者の適性とは》	予習 『出生数 72 万人、9 年連続最少予想以上に悪化する少子化,過去最少(2025.2.28 読売)少子化加速について何が問題なのか調べてくる。
【第2回】 4/08 (火)	○基本的人権-新しい人権- ○第2章 保健医療福祉制度の変遷 教科書 p.22～58 A.公衆衛生の基盤形成 ・英国の近代公衆衛生の歴史を通して公衆衛生の本質を考える ・日本の近代公衆衛生の歴史、健康課題対応、その理念を理解する ・専門職と専門性 B 保健医療福祉行政の動向 ・地域保健の基盤となる法律、制度を理解する ・日本の保健・医療・福祉に関する政策 ・少子高齢化社会における保健。医療・福祉政策との相互の関連性 《②ワーカーさまざまな人権問題》	今回の復習、授業ノート整理 予習 保健福祉行政の実施機関について一どのような実施機関があるのか調べるー
【第3回】 4/09 (水)	「保健医療福祉行政の仕組みと役割」 ○第3章 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ I 教科書 p.60～78 ・保健医療福祉行政の体系、福祉三法、福祉六法、福祉八法 ・行政における保健師の役割と活動 ・福祉事務所、身障者・知的障者更生相談所、民生委員のしごと ・女性相談支援センターのしごと DVD 視聴「保健室からの SOS」 《?、④ワーカー子どもの貧困ー》 《⑤ワーカー保健福祉法制の理解ー》	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第4回】 4/09 (水)	「保健医療福祉行政の財政」 ○第3章 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ II 教科書 p.79～94 ・児童相談所のしごと、社会的養護、児童虐待の予防への取り組み ・財政の役割・機能と国及び地方公共団体の仕組みを理解する ・公衆衛生に関する国際的な活動を理解する DVD 視聴 関テレ「報道ランナー」15 分、【摂津市の三歳児虐待事案】	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく ???「ふり返しシート」???

	《⑥ワーカー摂津市の三歳児虐待事案を考えるー》 ???「ふり返しシートⅠ」??? は授業中に配布します」	
【第5回】 4/10 (木)	○第4章 地域保健に関する公的機関 教科書 pp.96.~121 A 地域保健に関する公的機関 ・地域保健の体系における都道府県と市町村の役割分担 ・地域保健法に基づく保健所の機能強化等 B 関係機関との連携 ○第5章 社会保障制度と政策 pp.124.~153 ・地域包括支援センター、高齢者虐待と予防への取り組み 《⑦グループワーカーコウノトリゆりかご Matrixー》 A 社会保障制度の理念としくみ 「社会保障制度①」 ・最低限度の生活を保障する社会保障制度を総論的に学ぶ ・日本の社会保障制度の	復習…今回の復習 授業ノートの整理 Web Class 資料を読んでおく
【第6回】 4/10 (木)	「社会保障制度②」 ○第5章 社会保障制度と政策 教科書 p.154~188 C 介護保険制度の概要について学ぶ 保健医療福祉行政の関係機関連携 【事例研究】 《⑨ワーカー「社会的養護遺棄事例」関係機関連携ー》 《?ワーカー「母現れる.親子再統合」関係機関連携ー》	予習 『特別養護老人ホーム入所待機者 52 万 4 千人』の問題および課題について調べる(60 分)
【第7回】 4/15 (火)	「社会保障制度③」 ○第5章 社会保障制度と政策 教科書 p.168~177 D 社会保障・社会福祉の制度 ・公的年金制度、労働保険(雇用保険・労災保険) ・児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉の概要	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…中間テストに備え今回までの整理
【第8回】 4/15 (火)	これまでに学んだ内容について確認する。 ○公的扶助(生活保護)制度のしくみ 《⑪ワーカーDVD 視聴「かば」あいりん》 ○DVD 視聴 NHK 生活保護基準の引下げー何が問題なのか	復習…試験内容の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第9回】 4/16 (水)	「社会保障制度④」 教科書 p.178~186 ○第5章 社会保障制度と政策 ・社会保障と国民健康保険制度の課題 pw.1-25 ・社会福祉の制度(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉)の現状と方向性について 《⑫ワーカー超高齢社会の課題とは》 ???中間テスト???	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく ???中間テスト???実施
【第10回】 4/16 (水)	「社会保障制度⑤」 教科書 p.187~188 ○第5章 社会保障制度と政策 ・子どもの貧困とウェルビーイング	???「ふり返しシートⅡ」???

	・ 成年後見制度と日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）について学ぶ。 - テストの内容について解説する。 ???「ふり返しシートⅡ」??? は授業中に配布します	
【第 11 回】 4/17 (木)	○第 6 章 保健医療福祉の計画と評価 A「地方公共団体の保健医療福祉計画」 教科書 p.190～200 ・ 各種保健医療福祉計画と国・都道府県・市町村の役割 ・ 地方公共団体では、地方自治法に基づく市町村総合計画を柱とし - てさまざまな分野の計画を策定していることを理解する ・ 各計画の整合性と指針に当たっての連携の重要性を学ぶ	予習 配布資料:「ヤングケアラーと子どもの貧困」(道中 2024)を読んでおく
【第 12 回】 4/17 (木)	「保健医療福祉計画の策定プロセス・推進と評価」 教科書 p201～248 ○第 6 章 保健計画の策定プロセス ・ 計画の策定プロセス・評価の進め方について学ぶ 《⑬ワークー 》	宿題…課題シートの作成 復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第 13 回】 4/22 (火)	「地域保健行政と保健師活動」 教科書 p.96～121 ○第 4 章 地域保健行政と保健師活動 A 地域保健に関する公的機関 ・ 地域保健の体系について理解する ・ 保健所と市町村保健センターの役割分担と相違点を学ぶ ・ 市町村保健センターと関係機関連携 B 関係機関との連携 ・ 地域保健と職域保健との連携 ・ 地域保健と学校保健の連携の課題 ・ NPO・ボランティアの概要、行政との協働 ・ ヤングケアラーと子どもの時間的貧困 《⑭ワークー子どもの時間的貧困の対策》	課題シートの提出 復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…教科書を読んでおく
【第 14 回】 4/22 (火)	「保健医療福祉行政論のまとめ」 プリント ・ 保健医療福祉行政の基礎的なことの理解を深める ・ これまでの学びのまとめなど試験アナウンス	復習…今回の復習 授業ノートの整理 予習…今回までの総まとめ
【第 15 回】 4/23 (水)	4 月 23 日 (水) ???総括試験???	???総括試験??? 実施

1.授業コード (ナンバリング)	SWS203-Y71	2.科目名	コミュニケーション演習 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	※教育効果を高めるために受講者を 15 名程（× 2 クラス）に制限する。 ※春学期の履修登録期間に履修登録を行うこと。 ※履修者が多い場合には抽選を行う。 その際、産業・消費者心理学専攻。学生メンター、COC、あじあん祭実行委員などの学内業務経験のある学生、志望している学生を優先する。 ※※夏学期期間に 2 クラスを別ゾーンで開講するが、このどちらのゾーンになるかの希望は受け付けません。					
17.授業の目的と概要	コミュニケーション力およびプレゼンテーション力は、社会人にとって必要不可欠な能力である。 コミュニケーションでは、言語によるものだけでなく、非言語的な要素もメッセージとなる。 メッセージの送り手だけでなく、受け手にはそれを読み取る力が求められる。それに加え、コミュニケーション場面で生じる様々な心理学的問題を理解し、その知識を活かした効果的なコミュニケーションスキルが必要である。 本科目では「コミュニケーションのスキル」を身につけるため様々な演習を実施する。 また、コミュニケーションとともにプレゼンテーション					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①コミュニケーションに必要な力・技能を理解し、会話時、プレゼンテーションにおいて適切に自己表現をすることができるようになる。 ②コミュニケーションに必要な力・技能を身につけ、積極的に他者と交流することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	橋本 剛著（2008）.『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社.					
21.成績評価	①プレゼンテーション・グループワーク：40% ②プレゼンテーション・グループワークの振り返り：40% ③レポート：20%					
22.コメント	※科目名のとおり、コミュニケーションの授業であり、課されるワークに積極的に参加することが求められる。 ※プレゼン、ディスカッション、などとにかく話すことが前提である。 ※ワークの中には恥ずかしさを感じるものが多々あるので十分に注意されたい。					
23.オフィスアワー	水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 授業内容・学習目標・授業の進め方などを説明する。 コミュニケーション・プレゼンテーションにおける自身の能力について理解する			授業で出された課題について調べる。		

第 2 回	コミュニケーションとは？ コミュニケーションに必要なものについて議論し、発表する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 3 回	コミュニケーションの基礎スキル コミュニケーションスキルの基礎について解説する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 4 回	自己主張のスキル① 自分の考えを主張するスキルを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 5 回	自己主張のスキル② 自分の考えを主張するスキルを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 6 回	意見交換のスキル① 主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 7 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解① 非言語コミュニケーションの重要性、表情からの「感情の読解」スキルについて学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 8 回	プレゼンテーションのスキル① プレゼンテーションスキルを実践する	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 9 回	意見交換のスキル② 主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 10 回	プレゼンテーションのスキル② プレゼンテーションにおける非言語情報の重要性について学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 11 回	対人信頼感とコミュニケーション 他者を信頼することの大切さを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 12 回	共同作業のスキル① チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 13 回	共同作業のスキル② チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 14 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解② 非言語によるコミュニケーションスキルを高める	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 15 回	まとめ：よりよいコミュニケーションを目指して振り返りをおこなう。	自分のコミュニケーションを振り返る。 最終レポートに取り組む。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS203-Y72	2.科目名	コミュニケーション演習 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	※教育効果を高めるために受講者を 15 名程 (× 2 クラス) に制限する。 ※春学期の履修登録期間に履修登録を行うこと。 ※履修者が多い場合には抽選を行う。 その際、産業・消費者心理学専攻。学生メンター、COC、あじあん祭実行委員などの学内業務経験のある学生、志望している学生を優先する。 ※※夏学期期間に 2 クラスを別ゾーンで開講するが、このどちらのゾーンになるかの希望は受け付けません。					
17.授業の目的と概要	コミュニケーション力およびプレゼンテーション力は、社会人にとって必要不可欠な能力である。 コミュニケーションでは、言語によるものだけでなく、非言語的な要素もメッセージとなる。メッセージの送り手だけでなく、受け手にはそれを読み取る力が求められる。それに加え、コミュニケーション場面で生じる様々な心理学的問題を理解し、その知識を活かした効果的なコミュニケーションスキルが必要である。 本科目では「コミュニケーションのスキル」を身につけるため様々な演習を実施する。 また、コミュニケーションとともにプレゼンテーション					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①コミュニケーションに必要な力・技能を理解し、会話時、プレゼンテーションにおいて適切に自己表現をすることができるようになる。 ②コミュニケーションに必要な力・技能を身につけ、積極的に他者と交流することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	橋本 剛著 (2008).『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社.					
21.成績評価	①プレゼンテーション・グループワーク：40% ②プレゼンテーション・グループワークの振り返り：40% ③レポート：20%					
22.コメント	※科目名のとおり、コミュニケーションの授業であり、課されるワークに積極的に参加することが求められる。 ※プレゼン、ディスカッション、などとにかく話すことが前提である。 ※ワークの中には恥ずかしさを感じるものが多々あるので十分に注意されたい。					
23.オフィスアワー	水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 授業内容・学習目標・授業の進め方などを説明する。 コミュニケーション・プレゼンテーションにおける自身の能力について理解する			授業で出された課題について調べる。		

第 2 回	コミュニケーションとは？ コミュニケーションに必要なものについて議論し、発表する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 3 回	コミュニケーションの基礎スキル コミュニケーションスキルの基礎について解説する。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 4 回	自己主張のスキル① 自分の考えを主張するスキルを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 5 回	自己主張のスキル② 自分の考えを主張するスキルを高めるワークを行う。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 6 回	意見交換のスキル① 主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 7 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解① 非言語コミュニケーションの重要性、表情からの「感情の読解」スキルについて学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 8 回	プレゼンテーションのスキル① プレゼンテーションスキルを実践する	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 9 回	意見交換のスキル② 主張・聴く、ディスカッションについて学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 10 回	プレゼンテーションのスキル② プレゼンテーションにおける非言語情報の重要性について学ぶ。	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 11 回	対人信頼感とコミュニケーション 他者を信頼することの大切さを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 12 回	共同作業のスキル① チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 13 回	共同作業のスキル② チームビルディングのためのスキルを学ぶ	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 14 回	非言語コミュニケーション：感情表現と読解② 非言語によるコミュニケーションスキルを高める	授業での自身のパフォーマンスについて振り返りを行う。
第 15 回	まとめ：よりよいコミュニケーションを目指して 振り返りをおこなう。	自分のコミュニケーションを振り返る。 最終レポートに取り組む。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS206-Y01	2.科目名	産業・組織心理学（2022 年度生以前 春秋通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって 続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえ において必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につ ける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる 様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャ リアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解 決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説 明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	成績評価は、各担当者 50％ずつ合わせて 100％です。 ・有吉（主に組織心理学を担当） 1. 各回の 1minutepaper：1％×14 回＝14％（学習目標の②③④に対応） 2. グループワーク時の相互評価：3％×4 回＝12％（学習目標の①②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：24％×1 回＝24％（学習目標の①②③④に対応） ・沼田（主に消費者心理学を担当） 1. 各回の小課題 25％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト 25％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させてい る場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	授業中に説明する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】ガイダンス：産業・組織心理学の歴史					
	【第 2 回】ガイダンス：産業・組織心理学とは					
第 2 回	【第 3 回】産業・組織心理学の研究領域 【第 4 回】説得における態度とは何か、説得の影響力					

第 3 回	【第 5 回】採用と就職Ⅰ：採用計画 【第 6 回】社会的証明とネットレビューの心理学	
第 4 回	【第 7 回】採用と就職Ⅱ 募集活動 【第 8 回】ネガティブポイントをポジティブに見せる方法	
第 5 回	【第 9 回】モチベーションⅠ モチベーションとは何か 【第 10 回】承諾を得やすくするためのユニットアスキング	
第 6 回	【第 11 回】モチベーションⅡ 内容理論 【第 12 回】説得時における数字の効果	
第 7 回	【第 13 回】モチベーションⅢ 過程理論 【第 14 回】従業員のモチベーションを高める心理学	
第 8 回	【第 15 回】リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論 【第 16 回】職場のコミュニケーション	
第 9 回	【第 17 回】リーダーシップⅡ リーダーシップの行動論 【第 18 回】特典付加の心理学	
第 10 回	【第 19 回】リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論 【第 20 回】広告・マーケティング①	
第 11 回	【第 21 回】ストレスⅠ ストレスとは何か 【第 22 回】広告・マーケティング②	
第 12 回	【第 23 回】ストレスⅡ 職業性ストレス 【第 24 回】心理的財布と支払い	
第 13 回	【第 25 回】ストレスⅢ メンタルヘルスとストレスコーピング 【第 26 回】苦情行動・クレマー	
第 14 回	【第 27 回】キャリアとキャリア発達 【第 28 回】ラストシーンの心理学	
第 15 回	【第 29 回】到達度確認テスト 【第 30 回】到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS207-A01	2.科目名	ソーシャルワーク論Ⅰ		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本講義ではソーシャルワーカーに求められる、ソーシャルワークの基本的な価値と知識の修得を目指します。 【概要】ソーシャルワークの基盤となる価値や倫理、概念・歴史・理論と実際と、社会福祉士（ソーシャルワーカー）専門職についてなど多岐に渡ります。具体的な事例を紹介しながら理解を進めていきます。くらしの安全・安心のために、実社会でソーシャルワークがどのように必要で、どのように用いられるのか、考えを深めていきましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①ソーシャルワークの歴史的発展過程と社会的背景の関連を説明することができる。 ②ソーシャルワークの基本的な特質をあげることができる。 ③社会福祉の価値に基づいた倫理的なソーシャルワークのあり方を考えることができる。					
19.教科書・教材	適宜配付します。					
20.参考文献	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）」中央法規出版 ISBN:9784805882412					
21.成績評価	■ワークシート：30% 学習目標①②③ ■確認テスト：30% 学習目標①②③ ■プレゼンテーション 10% 学習目標③ ■ふりかえりレポート：30% 学習目標①②③ ・学習目標の3つの観点に照らし合わせて学びのふりかえりを行います。					
22.コメント	・対人援助の専門職に求められる態度特性を身につけるために、授業の中にグループワークやペアワークを取り入れます。 ・資料や成果物の提出は webclass を使います。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】 4/11	■授業の進め方や内容、評価方法の説明 ■あなたが思うソーシャルワーカー ソーシャルワーカーが登場する事例をネット記事等で探す			【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90分）		
【第3回】 【第4回】 4/18	■福祉の仕事を考える 福祉の呼吸を極めよう			【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90分）		
【第5回】	■ソーシャルワークを事例から読み解く			【今回の復習】		

【第 6 回】 4/25		・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 7 回】 【第 8 回】 5/2	■ ソーシャルワークの概念 ・ソーシャルワークの定義 ・ソーシャルワークの構成要素	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 9 回】 【第 10 回】 5/9	■ ソーシャルワークの基盤となる考え方 ・ソーシャルワークの原理 ・ソーシャルワークの理念	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 11 回】 【第 12 回】 5/16	■ 小テスト① ■ ソーシャルワーカーの倫理① ・専門職倫理の必要性 ・倫理綱領 ・倫理的ジレンマ	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 13 回】 【第 14 回】 5/23	■ ソーシャルワーカーの倫理② ・専門職倫理の必要性 ・倫理綱領 ・倫理的ジレンマ 事例をどうよみとくか（グループワーク）	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 15 回】 【第 16 回】 5/30	■ ソーシャルワーカーの倫理 事例をどう読み解くか（発表） ■ シャルワークの形成過程① ・ソーシャルワークの基礎確立期（～1930 年代） ・ソーシャルワークの発展期（1940 代～50 年代半ば） ・ソーシャルワークの展開期（1950 年代半ば～1960 年代以降） ・日本のソーシャルワークの形成過程	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 17 回】 【第 18 回】 6/6	■ ソーシャルワークの形成過程② ・ソーシャルワークの基礎確立期（～1930 年代） ・ソーシャルワークの発展期（1940 代～50 年代半ば） ・ソーシャルワークの展開期（1950 年代半ば～1960 年代以降） ・日本のソーシャルワークの形成過程 ■ 社会福祉士・精神保健福祉士の法的な位置づけ	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 19 回】	■ ソーシャルワーカーの概念と範囲①	【今回の復習】

【第 20 回】 6/13	・ソーシャルワーカーの職域 ・ソーシャルワーカーの職場・職種	・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 21 回】 【第 22 回】 6/20	■ソーシャルワーカーの概念と範囲② ・ソーシャルワーカーの職域 ・ソーシャルワーカーの職場・職種	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 23 回】 【第 24 回】 6/27	■ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 25 回】 【第 26 回】 7/4	■ジェネラリストの視点と総合的かつ包括的なソーシャルワーク①	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 27 回】 【第 28 回】 7/11	■ジェネラリストの視点と総合的かつ包括的なソーシャルワーク②	【今回の復習】 ・要点を整理して授業ノートにまとめる（90 分） ・webclass で学びのふりかえりに取り組む 【次回の予習】 ・次回のキーワードを調べる（90 分）
【第 29 回】 【第 30 回】 7/18	■学びのまとめ ・これまでの学びを総括する。	【提出物】 ・学びのまとめのレポート ・ふりかえりレポート 【今回の復習】 ・学びのまとめをする（180 分） ・確認テストでできなかったところを復習する（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS209-A01	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（編入学生用）		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの目的・意義を理解し、自身がめざすソーシャルワーカー像や実習動機を具体化できるようになることを目的とします。 【概要】 授業では、個別および集団指導を通し、社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の役割について学習します。また、3年生夏学期および冬学期のソーシャルワーク実習に向けてモチベーションを高めるとともに、自身の思い描く将来のソーシャルワーカー像を具体化できることをめざします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用、に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定しています。 ①社会福祉士の倫理綱領および行動規範について説明できる ②社会福祉士を取り巻く社会状況を踏まえ、自身のめざすソーシャルワーカー像を記述できる ③ソーシャルワーク実習の意義・目的、めざすソーシャルワーカー像を意識した実習動機を記述できる ④ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要を説明できる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	・白澤政和・米本秀仁編（2009）日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規 ・社会福祉実習研究会（2000）『社会福祉実習サブノートー初めて実習生となるあなたへ』中央法規 ・小木曾宏、柏木美和子、宮本秀樹（2005）『よくわかる社会福祉現場実習』明石書店 ・栗山直子、與那嶺司（2006）『福祉実習に行くあなたのための準備本ーこんなときどうする?』相川書房 ・社会福祉実習研究会（2001）『社会福祉の実習事例から学ぶ 実習生のための対人援助技術』中央法規出版 ・対人援助実践研究会（2					
21.成績評価	【課題 1】確認テスト 20%【学習目標①に対応】 ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範に関するテスト 【課題 2】レポート 30%【学習目標②に対応】 ・テーマ：社会に求められる社会福祉士と自身のめざすソーシャルワーカー像 ・字数：1,200 字以上 【課題 3】実習動機の作成 20%【学習目標③に対応】 ・ソーシャルワーク実習の意義・目的、めざすソーシャルワーカー像を意識した実習動機 【課題 4】実習予定施設の概要整理ワークシート 20%【学習目標④に対応】 ・ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設に関する					
22.コメント	<生成 AI の利用について>					

		生成 AI 利用：条件付きで認める *レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ・授業概要、進め方、評価方法 ソーシャルワーク実習の全体像、意義・目的と評価の仕組み ・社会福祉士養成教育における相談援助実習の位置づけ、実習指導の流れ ・社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の内容理解を進める	◆ノート PC 持参を推奨します◆ ○ソーシャルワーク実習の内容に関する資料を読む (90)
【第 2 回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範① ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を確認する (90)
【第 3 回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範② ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を用いて事例を検討する (90)
【第 4 回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範③ ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する 【課題 1】確認テスト	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を用いて事例を検討する (90)
【第 5 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る① ・具体的事例を用いながら、ソーシャルワーカーのイメージをつかむ	○なりたいソーシャルワーカー像について 400 字程度でまとめてくる (90)
【第 6 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る② ・具体的事例を用いながら、ソーシャルワーカーのイメージをつかむ	○なりたいソーシャルワーカー像について修正する (90)
【第 7 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る③ ・自身のなりたいソーシャルワーカー像について記述する	○社会福祉士を取り巻く動向について資料を確認し、ソーシャルワーカー像との関連を検討する (90)
【第 8 回】	なりたいソーシャルワーク像を語る④ ・自身のなりたいソーシャルワーカー像について記述する	○社会福祉士を取り巻く動向について資料を確認し、ソーシャルワーカー像との関連を検討する (90)
【第 9 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る① ・ソーシャルワーク実習ⅠとⅡの実習のねらいや内容を理解する	○実習動機を 300 字程度で作成してくる (90)
【第 10 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る② ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○実習動機の修正を行う (90)
【第 11 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る③ ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○【課題 2】に取り組む (90)
【第 12 回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る④ ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○実習動機の修正を行う (90) ★課題 2 の提出
【第 13 回】	ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要理解① ・実習予定施設の概要を調べる	○【課題 4】に取り組む (90)

【第 14 回】	ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要理解② ・実習予定施設の概要を調べる	○【課題 4】に取り組む（90）
【第 15 回】	本授業のふりかえり ・実習に向けた心構え ★課題 5 の作成と提出	○3 年夏実習に向けた現時点の課題を整理しておく（90）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS210-Y01	2.科目名	消費者心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	認定心理士	11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	人の消費行動における、購買意欲や意思決定にどのような心理的メカニズムが働くか、消費者はどのようなことに心を動かされるのかなど、我々の日常における消費行動を多面的に捉え、自らがより良い消費行動を取ることができることはもちろん、ビジネスの場で活用することができる専門知識について学ぶ。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14回＝60％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：40％（学習目標の①②③④に対応）				
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポート・テストで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める				
23.オフィスアワー	オフィスアワー：水曜昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	ガイダンス				
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響力				
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学				
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法				
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング				
第 6 回	説得時における数字の効果				
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学				
第 8 回	職場のコミュニケーション				
第 9 回	特典付加の心理学				
第 10 回	広告・マーケティング①				
第 11 回	広告・マーケティング②				
第 12 回	心理的財布と支払い				
第 13 回	苦情行動・クレマー				
第 14 回	ラストシーンの心理学				

第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS301-A01	2.科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ（2020 年度生以前）		3.単位数	4
4.授業担当教員	長岡若葉					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 対人援助の専門職になりゆくためには、ソーシャルワークの価値を基盤に、理論的な裏付けのある技術を身につけ、実践できることが求められます。本科目では以下の内容に関する、ソーシャルワークの価値・知識・技術を理解することを目的とします。 【概要】 講義と演習を通じて、相談援助の実践を支える理論と方法を活用し、さまざまな事例について具体的に対応していく方法を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを用いて、さまざまな事例について説明できる。 ②ソーシャルワークに関連する技法について説明できる。 ③社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて説明できる。 【DP との関連】 本科目の学習目標は、DP（ディプロマシーポリシー）の、以下の内容と関連します。 （1）自律的で主体的な態度（自律性）、 （4）問題発見・解決力 （5）コミュニケーションスキル （6）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門] 6』中央法規出版。					
20.参考文献	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目] 12』中央法規出版。 ・岩間伸之（2014）『支援困難事例と向き合う 18 事例から学ぶ援助の視点と方法』中央法規出版 ・田中英樹・中野信彦編（2013）『ソーシャルワーク演習のための 88 事例 実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規出版					
21.成績評価	【小テスト】 20% ・ソーシャルワークの実践モデル/アプローチに関する基礎知識を問う問題を出題します。 ・講義時間内に実施します。 【ワークシート等の提出物】 60% ・事業内で扱う事例等について各自で作成し、提出していただきます。 【最終テスト】 20% ・ソーシャルワークの実践モデル/アプローチ、ソーシャルワークに関連する技法など授業内で扱った内容に関する基礎知識を問う問題を出題します。					
22.コメント	・この科目は「ソーシャルワーク論Ⅱ」の講義で使用した教科書も使用します。 ・講義に加え、グループワークの時間を多く設けます。 ・ワークシート等は授業内に回収するほか、webclass 等へ提出していただくこともあります（その都度指示します）。					

23.オフィスアワー		授業の前後に教室や講師控室で対応します。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1・2回	・授業の進め方、内容、シラバスの説明 ・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方（教科書⑫：119-122） ・グループを活用した支援（教科書⑫：255-277）	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第3・4回	・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ ・治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル（教科書⑫：123-128） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第5・6回	・心理社会的アプローチ（教科書⑫：128-131） ・機能的アプローチ（教科書⑫：131-233） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第7・8回	・問題解決アプローチ（教科書⑫：134-137） ・課題中心アプローチ（教科書⑫：138-141） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第9・10回	・行動変容アプローチ（教科書⑫：142-145） ・危機介入アプローチ（教科書⑫：150-156） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第11・12回	・エンパワメントアプローチ（教科書⑫：156-160） ・ナラティブアプローチ（教科書⑫：160-165） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第13・14回	・解決志向アプローチ（教科書⑫：166-1701） ・その他の関連するアプローチ（教科書⑫：170-183） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第15・16回	・小テスト ・総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実践①（教科書⑥：1-44） ・総合的かつ包括的な支援の考え方、家族支援の実際 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・テストの復習 ・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第17・18回	・総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実践②（教科書⑥：45-90） ・地域支援の実際、非常時や災害時支援の実際 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第19・20回	・ソーシャルワークにおける援助関係の形成（教科書⑥：91-118） ・援助関係形成の意義と概念、援助関係形成方法と留意点 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第21・22回	・ネットワークの形成（教科書⑥：119-149） ・ネットワーキング、コーディネーション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を

	・ワークシートを用いたグループディスカッション	記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 23・24 回	・ソーシャルワークに関連する技法（教科書⑥：251-315） ・ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューション、ファシリテーション、プレゼンテーション ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 25・26 回	・ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（教科書⑥：151-188） ・社会資源の活用、ソーシャルワーク実践と社会資源、社会資源開発の様々な方法 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 27・28 回	・カンファレンス（教科書⑥：199-220） ・会議の種類と方法、ミクロ・メゾ・マクロの会議 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 29・30 回	・授業の振り返り ・テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS311-A71	2.科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子、尾崎慶太、春木裕美、山本秀樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会福祉士受験資格に必要なソーシャルワーク実習は、ソーシャルワーク実習Ⅰ 60 時間、ソーシャルワーク実習Ⅱ 180 時間の合計 240 時間実習になる。実習内容については、実習ⅠとⅡあわせて、以下の 10 項目を実践的に理解することになる。 ソーシャルワーク実習Ⅰは、ソーシャルワーク実習Ⅱとは機能が異なる施設/機関で実習を行うことになり、実習中に取り組む 10 項目の内容を調整しつつ、実習に取り組むことになる。 ＜ソーシャルワーク実習のねらい＞ ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と知識と技術を統合し、社会福祉士					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①実習目標の達成に向けた具体的な取り組みができる。 ②実習日誌の項目に沿って観察と考察を書き分けることができる。 ③スペシフィックな場面からソーシャルワークのジェネリックな側面を見出すことができる。					
19.教科書・教材	・実習配置先の専門科目のテキスト（例：特別養護老人ホーム→「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を再度熟読しておきましょう。					
20.参考文献	・図書館に福祉実習関連の書籍が複数あります。自己課題に照らし合わせて実習前には必ず目を通しておきましょう。					
21.成績評価	・実習先施設・機関による評価 50％ ・教員による評価 50％（実習ノート、巡回指導）					
22.コメント	ソーシャルワーク実習Ⅰは、厚生労働省が指定し、つソーシャルワーク実習Ⅱとは機能が異なる施設/機関で必要がある。ソーシャルワーク実習Ⅰの実習期間は 60 時間である。実習中、教員が巡回もしくは帰校日を設定し、個別指導を行う。 生成 AI の利用：条件付きで認めます ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、情報の正確性を確認し、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	・実習は厚生労働大臣が定める「指定施設」で行う。 ・実習期間は 60 時間（8 日間） ・実習時期 ・実習判定会議の結果と受け入れ先との調整により a、b、c のパターンがある。 ・多くは a パターンの実習となる。 a：3 年生の夏学期期間中（8 月から 9 月） b：3 年生の冬学期期間中（2 月から 3 月） c：3 年生の秋学期期間中（週 2～3 回）			・実習先施設への礼状：実習終了後 1 週間以内 ・事後レポート「実習を終えて」：実習後終了後 1 週間以内に作成し、科目担当者へメール添付で提出 ・実習ファイル：実習ノートが実習先から返却され次第、科目担当者に提出		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SWS312-A01	2.科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ		3.単位数	4
4.授業担当教員	長岡若葉					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 対人援助の専門職になりゆくためには、ソーシャルワークの価値を基盤に、理論的な裏付けのある技術を身につけ、実践できることが求められます。本科目では以下の内容に関する、ソーシャルワークの価値・知識・技術を理解することを目的とします。 【概要】 講義と演習を通じて、相談援助の実践を支える理論と方法を活用し、さまざまな事例について具体的に対応していく方法を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①ソーシャルワークの実践モデルとアプローチを用いて、さまざまな事例について説明できる。 ②ソーシャルワークに関連する技法について説明できる。 ③社会資源の活用の意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて説明できる。 【DP との関連】 本科目の学習目標は、DP（ディプロマシーポリシー）の、以下の内容と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性）、 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門] 6』中央法規出版。					
20.参考文献	・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）『ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目] 12』中央法規出版。 ・岩間伸之（2014）『支援困難事例と向き合う 18 事例から学ぶ援助の視点と方法』中央法規出版 ・田中英樹・中野信彦編（2013）『ソーシャルワーク演習のための 88 事例 実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規出版					
21.成績評価	【小テスト】 20% ・ソーシャルワークの実践モデル/アプローチに関する基礎知識を問う問題を出題します。 ・講義時間内に実施します。 【ワークシート等の提出物】 60% ・事業内で扱う事例等について各自で作成し、提出していただきます。 【最終テスト】 20% ・ソーシャルワークの実践モデル/アプローチ、ソーシャルワークに関連する技法など授業内で扱った内容に関する基礎知識を問う問題を出題します。					
22.コメント	・この科目は「ソーシャルワーク論Ⅱ」の講義で使用した教科書も使用します。 ・講義に加え、グループワークの時間を多く設けます。 ・ワークシート等は授業内に回収するほか、webclass 等へ提出していただくこともあります（その都度指示します）。					

23.オフィスアワー		授業の前後に教室や講師控室で対応します。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1・2回	・授業の進め方、内容、シラバスの説明 ・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方（教科書⑫：119-122） ・グループを活用した支援（教科書⑫：255-277）	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第3・4回	・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ ・治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル（教科書⑫：123-128） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第5・6回	・心理社会的アプローチ（教科書⑫：128-131） ・機能的アプローチ（教科書⑫：131-233） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第7・8回	・問題解決アプローチ（教科書⑫：134-137） ・課題中心アプローチ（教科書⑫：138-141） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第9・10回	・行動変容アプローチ（教科書⑫：142-145） ・危機介入アプローチ（教科書⑫：150-156） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第11・12回	・エンパワメントアプローチ（教科書⑫：156-160） ・ナラティブアプローチ（教科書⑫：160-165） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第13・14回	・解決志向アプローチ（教科書⑫：166-1701） ・その他の関連するアプローチ（教科書⑫：170-183） ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第15・16回	・小テスト ・総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実践①（教科書⑥：1-44） ・総合的かつ包括的な支援の考え方、家族支援の実際 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・テストの復習 ・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第17・18回	・総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実践②（教科書⑥：45-90） ・地域支援の実際、非常時や災害時支援の実際 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第19・20回	・ソーシャルワークにおける援助関係の形成（教科書⑥：91-118） ・援助関係形成の意義と概念、援助関係形成方法と留意点 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第21・22回	・ネットワークの形成（教科書⑥：119-149） ・ネットワーキング、コーディネーション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を

	・ワークシートを用いたグループディスカッション	記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 23・24 回	・ソーシャルワークに関連する技法（教科書⑥：251-315） ・ネゴシエーション、コンフリクト・レゾリューション、ファシリテーション、プレゼンテーション ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 25・26 回	・ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（教科書⑥：151-188） ・社会資源の活用、ソーシャルワーク実践と社会資源、社会資源開発の様々な方法 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 27・28 回	・カンファレンス（教科書⑥：199-220） ・会議の種類と方法、ミクロ・メゾ・マクロの会議 ・ワークシートを用いたグループディスカッション	・事前に教科書を読み、不明点等を調べる。 ・授業中に配布したワークシート等の課題を記入する。 ・要点を整理して授業ノートにまとめる。
第 29・30 回	・授業の振り返り ・テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS313-A01	2.科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワーカーに求められる相談援助に係る知識と技術について、自己覚知をはじめ、基本的なコミュニケーション技術や面接技術の習得を目指します。 【概要】 他の科目との関連性も視野に入れつつ、個別ワークとグループワークを通し、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習を行います。学びを通して、社会福祉士の専門職としての持続可能性について理解を深めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、多様性理解、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①基本的なコミュニケーション技法を用いることができる。 ②自己覚知に基づいた行動修正ができる。 ③社会福祉の実践的価値に基づいた考察を深めることができる。					
19.教科書・教材	・適宜配付します。					
20.参考文献						
21.成績評価	1, 授業ごとの学びのふりかえり（毎回のワークシート）：50% 学習目標①② 2, グループワークへの積極的参加度：15%学習目標①② 3, 最終レポート：25% 学習目標③ テーマ：「高齢の母親と暮らす 50 代引きこもりの息子への効果的な相談支援技術を論じなさい。」 ※授業での学びとその他の科目を横断的に結びつける。 4, ふりかえりシート：10% 学習目標①②③					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってくるください。 ○生成 AI の利用：条件付きで認めます ワークシート、発表資料、レポート課題において、以下のことに注意をしてください。 ・生成 AI を利用して作成した文章をそのままコピペすることはできません。 ・生成 AI を利用する際は、そのアイデアを基にして、自分でよく考えたり、自分の意見をまとめたりすることが重要です。 ・情報の正確性（出典）を確認しましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	ガイダンスとクラスメンバーの理解 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う ・授業シラバス必携。このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと			【今回の復習】 ・クラスのメンバーでシラバスの内容を確認して授業の全体像を理解しておく（90 分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）		

【第 3 回】 【第 4 回】	自己覚知①② ・ 自己を客観的に理解する	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・ webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 5 回】 【第 6 回】	自己覚知③④ ・ 自己と自己に影響を与えた背景について理解する	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・ webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 7 回】 【第 8 回】	価値観の相違①② ・ 自他の価値観とその相違について学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・ webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 9 回】 【第 10 回】	個人の価値観と専門職の価値③④ ・ 個人の価値観と専門職の価値（社会福祉士の倫理綱領）について学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・ webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 11 回】 【第 12 回】	社会福祉士の行動規範①② ・ 社会福祉士の倫理綱領と行動規範について考える	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分） ・ webclass で学びのふりかえりに取組む（90 分） 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90 分）
【第 13 回】 【第 14 回】	基本的なコミュニケーション①② ・ クライアントに対する姿勢や距離の取り方について学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180 分）

		る (180 分) ・ webclass で学びのふりかえりに取組む (90 分) 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく (90 分)
【第 15 回】 【第 16 回】	基本的なコミュニケーション技術③④ ・ ボイスメッセージの点検を行う	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する (180 分) ・ webclass で学びのふりかえりに取組む (90 分) 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく (90 分)
【第 17 回】 【第 18 回】	基本的な面接技術①② ・ 相談援助における面接の目的と特性について学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する (180 分) ・ webclass で学びのふりかえりに取組む (90 分) 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく (90 分)
【第 19 回】 【第 20 回】	基本的な面接技術③④ ・ 面接における基本的応答技法を学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する (180 分) ・ webclass で学びのふりかえりに取組む (90 分) 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく (90 分)
【第 21 回】 【第 22 回】	マッピング技法①② ・ エコマップ、ジェノグラムの書き方を学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する (180 分) ・ webclass で学びのふりかえりに取組む (90 分) 【次回の予習】 ・ 授業テーマに関連するキーワードを調べておく (90 分) 【最終レポートに向けて】 ・ 最終レポートの執筆をすすめる
【第 23 回】 【第 24 回】	記録の方法①② ・ 観察記録の方法について学ぶ	【今回の復習】 ・ クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する (180 分)

		・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 25 回】 【第 26 回】	記録の方法③④ ・宿題の観察記録をもとに記録した内容の点検と改善を行う	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180分） ・webclass で学びのふりかえりに取組む（90分） 【次回の予習】 ・授業テーマに関連するキーワードを調べておく（90分） 【最終レポートに向けて】 ・最終レポートの執筆をすすめる
【第 27 回】 【第 28 回】	ソーシャルワーカーとしての自己課題 ・これまでの学びを踏まえて、ソーシャルワーカーとしての自己課題を検討する。 ・課題解決のための方策を具体的に設定する。	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180分） 【次回の予習】 ・最終レポートの内容をクラスのメンバーで共有する（180分） ・最終レポートの共有をふまえて内容を精査し完成させる（180分）
【第 29 回】 【第 30 回】	学びのまとめ ・学びのまとめと成果物の相互点検と修正を行う ・最終レポート提出 ・ふりかえりレポート提出	【今回の復習】 ・クラスのメンバーで授業の内容をふりかえり、学びを深めるための必要な文献を検索する（180分） 【復習】 ・相談演習で気付いた自己課題について行動修正に向けた計画を立てる（180分） 【宿題】 ・最終レポート ・ふりかえりレポート

1.授業コード (ナンバリング)	SWS315-A01	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの目的と意義、実習分野についての基本的理解を図ります。 【概要】 授業では、個別および集団指導を通し、社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の役割、実習分野と施設・利用者等について学習します。 また特に3年生夏学期のソーシャルワーク実習Ⅰに向けて、モチベーションを高めるとともに、実習先の理解や、記録等の必要なスキルについても学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用 の学修に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定しています。 ①ソーシャルワーク実習Ⅰで想定される実習施設・機関の概要、その地域の特性について説明できる ②ソーシャルワーク実習Ⅰの実習目標（実習計画）が記述できる 「ソーシャルワーク実習の意義・目的」、「目指すソーシャルワーカー像」を意識した実習動機を踏まえた実習目標（実習計画） ③実習で想定される社会福祉士の倫理や行動規範について説明できる。 ④ソーシャルワーク実習で求められる様式で、適切な記録を書くことができる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	・白澤政和・米本秀仁編（2009）日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規 ・社会福祉実習研究会（2000）『社会福祉実習サブノートー初めて実習生となるあなたへ』中央法規 ・小木曾宏、柏木美和子、宮本秀樹（2005）『よくわかる社会福祉現場実習』明石書店 ・栗山直子、與那嶺司（2006）『福祉実習に行くあなたのための準備本ーこんなときどうする?』相川書房 ・社会福祉実習研究会（2001）『社会福祉の実習事例から学ぶ 実習生のための対人援助技術』中央法規出版 ・対人援助実践研究会（2					
21.成績評価	■ワークシート 20%【学習目標①に対応】 ・想定される実習施設・機関の概要 ・想定される実習施設・機関の地域特性 ■実習で想定される倫理や行動規範について、グループワーク、プレゼンを踏まえてのレポート 20%【学習目標③に対応】 ■実習目標（実習計画）の作成とプレゼンテーション 30%【学習目標②に対応】 ■実習記録（仮）の作成 20% 【学習目標④に対応】 ■ふりかえりシート 10% ・授業の全体のふりかえりシートを提出する					

22.コメント	本授業は、3年夏学期に実施されるソーシャルワーク実習Ⅰの事前学習となります。実習に向けて履修学生の積極的で主体的な学習を期待します。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 4/8	授業ガイダンス ・授業の進め方、評価方法について ・相談援助実習の概要について	ワークシート① (120)
第2回 4/15	実習で求められる力 ～実習に向けて～ コンピテンスチェック	○ワークシート② (120)
第3回 4/22	実習先の理解①実習分野について ・実習を行う様々な分野（児童、障害、老人等）について理解する 動画等で実習先イメージを具体化する。 違う分野、施設種別のオススメ動画を見つけ、共有する	○ワークシート③ (120)
第4回 5/13	実習先の理解② 自分が興味のある分野・施設種別について考える（3つ） 実習経験者への質問作成	○ワークシート④
第5回 5/20	実習経験者の話を聞く	○ワークシート⑤ (120)
第6回 5/27	実習先での倫理① 実習中に想定されることを考えてみる。 実習先についての個別相談①	○ワークシート⑥ (120)
第7回 6/3	実習先での倫理② 実習中に想定されることを考えてみる 実習先についての個別相談②	○実習経験者の話を整理する (60)
第8回 6/10	実習先での倫理③ 発表	○実習経験者の話を整理する (60)
第9回 6/17	記録の書き方	○実習動機について、300字レポートを作成する (120)
第10回 6/24	実習先ワークシートの記入①	○社会に求められる社会福祉士について調べてくる (120)
第11回 7/1	実習先ワークシートの記入②	○プレゼンテーションの準備をする (120)
第12回 7/8	実習計画書の記入① 個人票の作成①	○実習動機を踏まえた実習先候補を検討する (120)
第13回 7/15	実習計画書の記入② 個人票の作成②	○実習動機を踏まえた実習先候補を検討する (120)
第14回 7/22	実習における留意点	
第15回 7/29	実習計画の報告会	◇

1.授業コード (ナンバリング)	SWS318-Y01	2.科目名	メディア心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	授業	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 メディアと心理学の関連性を深く理解することを目的とする。 【概要】 メディアが人々の心理や社会に与える影響を学ぶ。テレビ、映画、インターネット、SNS など、様々なメディアがどのように認知や感情、行動に影響を与えるかを理解し、心理学的視点からとらえる。					
18.学習目標と DPとの関連	①よりよく生きるためのメディア利活用のあり方を理解できる。 ②メディアが人々の心理や社会にどのような影響を与えるか説明できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	①総括試験（学習目標①②を問う）（50％） ②各回のミニレポート（学習目標①②を問う）（50％）					
22.コメント	① 生成 AI 利用に関して、条件付きで認める ② 成績評価に関わる課題・レポートで生成 AI の利用は、自身の考えを反映させている場合についてのみ認める					
23.オフィスアワー	火曜昼休みおよびメールにて対応					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	メディア心理学の概要と基本概念 ・メディア心理学とは？ ・メディアの種類とその影響 ・メディアの効果を測定する方法 ・グループディスカッション：メディアが個人に与える影響について考える			メディア心理学の概要と基本概念について復習する（120 分）		
第 2 回	メディアと認知心理学 ・認知心理学の基礎 ・メディアの情報処理 ・メディアによる認知の歪み ・グループワーク：ニュース報道におけるバイアスの分析			メディアと認知心理学について復習する（120 分）		
第 3 回	メディアと感情心理学 ・メディアが感情に与える影響 ・映画や音楽が感情に与える効果 ・メディア暴力と感情の関係 ・グループワーク：感情を喚起するメディアコンテンツの分析			メディアと感情心理学について復習する（120 分）		

第 4 回	メディアと社会心理学 ・メディアが社会的態度や行動に与える影響 ・社会的比較理論 ・メディアによるステレオタイプの形成 ・グループディスカッション: SNS での自己呈示と社会的影響	メディアと社会心理学について復習する (120 分)
第 5 回	メディアと発達心理学 ・子どもとメディア ・メディアが発達に与える影響 ・メディアと学習 ・グループワーク: 子ども向けメディアコンテンツの分析	メディアと発達心理学について復習する (120 分)
第 6 回	メディアと態度変更 ・プロパガンダと態度変更 ・メディアの説得技法 ・メディアリテラシー ・グループワーク: 広告と社会運動の影響力を分析	メディアと態度変更について復習する (120 分)
第 7 回	メディアの心理的効果: 暴力と攻撃性 ・メディア暴力の心理的影響 ・暴力的メディアと行動の関係 ・反社会的行動とメディア ・グループディスカッション: メディア暴力の影響に関する研究発表	メディアの心理的効果: 暴力と攻撃性について復習する (120 分)
第 8 回	メディアとジェンダー ・メディアにおけるジェンダー表象 ・性別に基づくメディアの描写 ・メディアと性役割の形成 ・グループワーク: 広告や映画におけるジェンダー分析	メディアとジェンダーについて復習する (120 分)
第 9 回	インターネットと SNS の心理学 ・SNS の心理的影響 ・オンライン・アイデンティティ ・SNS と社会的承認欲求 ・グループワーク: SNS の使用が心理に与える影響	インターネットと SNS の心理学について復習する (120 分)
第 10 回	メディアと自己認識 ・メディアと自己概念 ・メディアが自己評価に与える影響 ・自己呈示とメディア ・グループディスカッション: メディアと自己認識の関係	メディアと自己認識について復習する (120 分)
第 11 回	メディアと健康心理学	メディアと健康心理学について復習する (120 分)

	・健康メディアと心理的影響 ・メディアを通じた健康教育 ・メディアと健康行動 ・グループワーク：健康促進キャンペーンの効果を分析	分)
第 12 回	メディアと社会的影響 ・メディアと社会的行動 ・メディアの社会的責任 ・メディアによる集団圧力 ・グループディスカッション：メディアの社会的影響力	メディアと社会的影響について復習する（120 分）
第 13 回	メディアと危機管理 ・メディアとリスクコミュニケーション ・メディアの報道と危機対応 ・危機管理における心理的戦略 ・グループワーク：危機的状況下でのメディアの役割分析	メディアと危機管理について復習する（120 分）
第 14 回	メディアリテラシーと批判的思考 ・メディアリテラシーの重要性 ・批判的思考とメディア理解 ・メディアコンテンツの分析方法 ・グループディスカッション：メディアリテラシー教育の重要性	メディアリテラシーと批判的思考について復習する（120 分）
第 15 回	これまでの授業について振り返る（総括試験）	授業全体を復習する（300 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS403-A01	2.科目名	スクールソーシャルワーク実習指導	3.単位数	1
4.授業担当教員	西野緑				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	4 年
10.取得資格の要件			11.先修条件	スクールソーシャルワーク論、スクールソーシャルワーク演習履修済み	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、実習計画作成	
16.履修制限	5 人				
17.授業の目的と概要	[目的] この授業は、自ら課題を設定し、実習計画を作成することで、目的を持って実習に望むことができるような意識を身につけることを目的とする。 【概要】 この授業は、学校での実習に向けて、学校や学校組織についての理解を深め、実習校や地域の特徴を調べ、実習計画を作成する。				
18.学習目標と DPとの関連	(2) 社会的貢献性、(4) 問題発見・解決力 ① 実習校のある地域や学校の特徴を調べる。 ② 子どもや学校に関する自分の関心を深め、実習における自分の目的が発見できる。 ③ ①や②を踏まえて、実習計画を作成する。 ④ 自分の実習計画を授業で説明できる。				
19.教科書・教材	担当者が資料を用意する。				
20.参考文献	大塚美和子・西野緑・峯本耕治（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』、 明石書店。 西野緑（2018）『子ども虐待とスクールソーシャルワーク チーム学校を基盤とする「育む環境」の 創造』、明石書店。 門田光司・奥村賢一(2009 年)『スクールソーシャルワーカーの仕事 学校ソーシャルワーク実践ガイ ド』中央法規 米川和雄(2010)『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』北大路書房				
21.成績評価	○授業のまとめシート 20％（当日の学びのポイントと自分の考えたことをまとめ、担当教員は 毎回フィードバックする） ○実習計画書＝40％ ○総括試験＝40％				
22.コメント	スクールソーシャルワーク論やスクールソーシャルワーク演習を受講し、学校へ実習に行く人 を対象とする。具体的な実習校を決め、目的を持って実習を行うための準備を行い、実りの多 い実習となることをめざす。				
23.オフィスアワー	授業の前後に対応する。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	「スクールソーシャルワーク実習について」 授業の説明、評価方法				

	スクールソーシャルワーク実習の意義	
第 2 回	「スクールソーシャルワーカーの一日」 ○「スクールソーシャルワーカーの一日」を知って、自分の実習の1日の流れを考える。 ④グループワーク ・自分の小学生時代を語る。	実習に行くにあたって、期待することや不安を書いてくる。
第 3 回	「実習計画についての説明」 ○実習計画の内容6項目について、自分なりの考えをまとめてみる。	実習を希望する理由を考えてくる。
第 4 回	「スクールソーシャルワークに関わる法律」「実習計画作成」① 実習に関する法律を学び、自分が実習で学びたい法律を考える。 ◆ノートパソコン使用◆	ノートパソコン持参
第 5 回	「スクールソーシャルワークに関わる理論」「実習計画作成」② SSW に関する理論の中から、自分が実習で学びたい理論を考えて、実習計画に記述する。	ノートパソコン持参
第 6 回	「実習に関わるネットワーク」実習計画③ 関連する実習先の市町村の教育機関や福祉機関やシステムについて調べる。	ノートパソコン持参
第 7 回	「実習に関わる倫理」実習計画作成④ SSW の倫理について学び、実習で学びたい倫理と倫理的葛藤について、考える。	ノートパソコン持参
第 8 回	「実習を今後、どのように活かすか」実習計画作成⑤	ノートパソコン持参
第 9 回	実習計画完成と実習計画の発表 ・他の人の実習計画を聞いて、感じたことや質問を出し合う。	ノートパソコン持参
第 10 回	「実習記録の方法についての理解」 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務についての理解	実習記録の書き方を振り返る。
第 11 回	実習を振り返って ○実習記録の書き方を確認し、必要な場合は実習日誌の書き方を修正する。 ④グループワーク	実習日誌を書く。
第 12 回	「SSW 実習の振り返りと学校環境・地域環境のアセスメント」 ・実習を振り返って ○自分の学校環境、中学校区環境をアセスメントする。	実習日誌を書く。

第 13 回	「実習の振り返りと個別事例への注目」 ・実習の振り返り ・一人の子どもに焦点を当て、アセスメント・シートに記述する方法を学ぶ。	個別事例の子どもについて考える。
第 14 回	「SSW 実習を振り返って」 プレゼンテーション ・SSW 実習前半を振り返って、SSW 実習で得たことや課題を考え、報告し合う。 ・実習を振り返って ○自分の実習と SSW 論・SSW 演習で学んだこと、参考書に書かれていることの共通点と相違点を分析し、学校と SSW の活動をアセスメントする。	実習を振り返って課題の整理をする。
第 15 回	総括試験とまとめ	試験の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	SWS404-A01	2.科目名	スクールソーシャルワーク実習	3.単位数	2
4.授業担当教員	西野緑				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期～秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	4 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件	スクールソーシャルワーク論・演習・実習指導履修済み	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	学校現場での実習	
16.履修制限	5 人				
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、自ら課題設定した実習計画に従って、学校でスクールソーシャルワーク実践することを目的とする。 【概要】 この授業は、実際に学校に配置されているスクールソーシャルワーカーの指導を受けながら、学校での実習を行う。週 1 回、同じ曜日に SSW の配置されている中学校区の小学校および中学校で実施する。 ・実際のクラスに入って、子どもの行動や関係性をアセスメントしながら子どもや学級全体への支援を行う。 ・学校で行われるケース会議や支援会議に SSW と共に参加し、ケースや学校組織および SSW の仕事への理解を				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の (2) 社会的貢献性、(5) コミュニケーションスキルの学修に関連しています。				
19.教科書・教材	特になし				
20.参考文献	『生徒指導提要』(文部科学省)				
21.成績評価	①実習日誌 40% ②実習校での評価 40% ③実習報告書の発表と振り返り = 20%				
22.コメント	3 年のスクールソーシャルワーク論、スクールソーシャルワーク演習、夏学期スクールソーシャルワーク実習指導をすでに受講し、学校へ実習に行く人が受講する。週 1 回の実習で、実際に学校に入り、子どもや教職員と関わりながら、SSW について活動することは、貴重な経験となる。実習中の巡回指導や大学の授業での振り返り等で、実習中の葛藤を乗り越え、自分と向き合う良い機会となり、大きな達成感を味わうことができると考える。				
23.オフィスアワー	授業の前後や実習巡回の際に対応する。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	実習校への挨拶 実習計画書を持参し、担当 SSW や管理職の先生等に、自己紹介をする。管理職や SSW から、説明を受ける。			実習計画書を持参する。	
第 2 回	巡回指導 「学校になじむ」(規律遵守：状況に応じて必要なマナーやルールを考え、協調的に行動する) ○学校をアセスメントする。			実習を振り返り、実習日誌を書く。	
第 3 回	巡回指導 「好奇心を持つ」(知的好奇心：習得した知識・技能と学校の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぼうとする)			実習を振り返り、実習日誌を書く。	

	○学校の特徴や地域の課題など、実習計画との差異をまとめる。	
第 4 回	巡回指導「多様性理解：多様な子どもたちに関わる際に、客観的・理性的に受け入れ、柔軟な思考や行動ができる」 ○学校の多様な子ども（課題を抱える子ども）に対する理解と対応をまとめる。	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 5 回	回 巡回指導「共感的態度：子どもの感情や思考や行動、教職員の感情などを理解し、共感を示すことができる」 ○子どもや教職員に対して、共感的に関われているか、自分自身を振り返る。	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 6 回	授業（帰校）グループワーク① 実習で上手くいっていることと課題の整理 ○グループワークで他の人の意見を聞き、自分の上手くいっていることと課題を整理し、課題に対する方策や対応をまとめる。	まとめて、次回持参する。
第 7 回	「情報収集・活用力：教職員や SSW から収集した情報を分析・解釈し、子どもの行動のアセスメントに活用することができる」 ○観察や聞き取りや記録などから積極的に情報を収集し、気になる子どもの行動の背景をまとめる。	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 8 回	巡回指導「論理的思考力、判断力：客観的な事実や理論に基づいて状況を判断し、自分なりの仮説を組み立てることができる」 ○気になる子どもの背景から自分なりの仮説と手立てをまとめる。	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 9 回	巡回指導「計画・実行力：自ら立てた計画の進行状況を検証および修正しながら活動することができる」 ○自分の立てた実習計画を見直し、修正する。	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 10 回	巡回指導「自己表現力：自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表現するために、状況に応じて様々な方法を使うことができる」	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 11 回	授業（帰校）グループワーク② 自分の設定した課題についての発見や葛藤 ③ディスカッション ○グループワークを踏まえて、自分の考えをまとめる。次回提出する。	まとめたものを持参する。
第 12 回	巡回指導「調整力：他者の発言や文章の内容を理解した上で、自分と他者の主張の接点を見出し、意見交換を重ね、合意に向けて調整ができる」	実習を振り返り、実習日誌を書く。

第 13 回	巡回指導「自律性：自分で設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる」	実習を振り返り、実習日誌を書く。
第 14 回	実習報告書作成 ○実習報告書を完成し、プレゼンテーションの練習をする。 ⑤プレゼンテーション	3 年生の前で発表できるように、練習しておく。
第 15 回	授業 実習成果報告会 ⑤プレゼンテーション	実習記録に漏れがないか確認して、担当教員へ提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS405-A01	2.科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	選択		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	相談援助に係る知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的なものとして習得できることが本科目のねらいである。相談援助実習における学生の個別的な体験をベースに、集団指導並びに個別指導によって、知識と技術の定着を図っていく。具体的な授業の進め方は、学生が相談援助実習で体験した、特に困難事例に着目し、個別指導とグループディスカッションを行っていく。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は以下の学習目標を設定します。 ①実習経験の中から倫理的ジレンマに関する事例を記述できる ②社会福祉士の倫理綱領を用いて倫理的判断を説明できる ③事例内容に対する支援方法を、相談援助の実践モデルに関連付けて記述できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。					
19.教科書・教材	各自の実習日誌					
20.参考文献	田中秀樹・中野信彦 編 （2013）『ソーシャルワーク演習のための 88 事例-実践につなぐ理論と技法を学ぶ-』中央法規出版					
21.成績評価	■事例発表 20%【学習目標①に対応】 相談援助実習で経験した体験の中から、倫理的ジレンマや支援困難を感じた事例を抽出し、各自報告する。 ※実習を終えていない学生は、これまでの現場経験（インターンシップやサービ斯拉ーニング、ボランティアなど）をもとにすること。 ■各回のふりかえり 30%【学習目標②に対応】 ■小テスト 20%【学習目標③に対応】 社会福祉士国家試験の過去問題から出題する ■最終レポート 30%【学習目標③に対応】 テーマ：支援困難ケースに対するソーシャルワーカーの関わり 字数：20					
22.コメント	<生成 AI の利用について> 生成 AI 利用：条件付きで認める ＊レポート執筆にかかる情報収集等での利用は認めるが、生成 AI により作成された文章は利用不可とする。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 木曜日 4 限目 研究室オフィスアワー 水曜日 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1・2 回	・オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法など） ・実習経験から、相談援助の実際と課題についてグループで共有し、報告する			OSW の理論/アプローチに関する概要を調べ、発表資料にまとめる（120 分）		
第 3・4 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討			○事例検討のふりかえりを行う（90 分）		

	① ・各理論/アプローチの概要を発表する ・関連する事例をもとに、全体ディスカッションを行う ・事例を通して学んだことをふりかえる	
第 5・6 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討？ ・各理論/アプローチの概要を発表する ・関連する事例をもとに、全体ディスカッションを行う ・事例を通して学んだことをふりかえる	○事例検討のふりかえりを行う（90 分）
第 7・8 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討 ③ ・各理論/アプローチの概要を発表する ・関連する事例をもとに、全体ディスカッションを行う ・事例を通して学んだことをふりかえる	○事例検討のふりかえりを行う（90 分）
第 9・10 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討 ④ ・各理論/アプローチの概要を発表する ・関連する事例をもとに、全体ディスカッションを行う ・事例を通して学んだことをふりかえる	○事例検討のふりかえりを行う（90 分）
第 11・12 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討 ⑤ ・各理論/アプローチの概要を発表する ・関連する事例をもとに、全体ディスカッションを行う ・事例を通して学んだことをふりかえる	○事例検討のふりかえりを行う（90 分）
第 13・14 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討 応用編？ ・事例検討とディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○事例検討のふりかえりを行う（90 分）
第 15・16 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討 応用編？ ・事例検討とディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○事例検討のふりかえりを行う（90 分）
第 17・18 回	ソーシャルワークの理論/アプローチに関する事例検討 応用編？ ・事例検討とディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○事例検討のふりかえりを行う（90 分） ○SW 実習Ⅱにおける個別的な体験（困難を感じたもの）を事例として整理し、発表資料を作成する（120 分）
第 19・20 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション	○報告事例を通したふりかえりを行う（90 分）
第 21・22 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告事例を通したふりかえりを行う（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）

第 23・24 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告事例を通したふりかえりを行う（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 25・26 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	○報告事例を通したふりかえりを行う（90 分） ○最終レポート執筆（90 分）
第 27・28 回	事例検討 ・担当者による事例の報告とそれをもとにしたグループディスカッション ・国家試験過去問題の事例の検討	★最終レポート提出 ○小テストの学習（120 分）
第 29・30 回	・授業のふりかえり ・小テスト	○ふりかえりを e ポートフォリオに記事投稿する（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	TB2101-Y01	2.科目名	ホテルビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門教育科目/展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択 ホテル・ブライ ダル専攻必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ホテル旅館などの宿泊産業の事業環境や市場の動向を理解し、どの様なビジネスがあるのか、ホテルを中心に宿泊産業全体の概要を理解し、就活に活かすことを目的とします。 【概要】 旅館やホテルは古くからあります。日本では旅館が江戸時代に発達し、明治維新早々に様式のホテルも生まれました。その後、民宿や最近では住宅宿泊事業として B & B（民泊）が生まれました。国内経済はもとより、国際経済の影響を強く受けます。そのためホテル事業も、常に変化への対応が求められ、時代とともに変化してきました。ホテル、宿泊産業はサービス産					
18.学習目標と DPとの関連	【DP(ディプロマポリシー)】 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【学修目標】 この科目では、以下の目標を上げます。ポイントを押さえてレポートを書いて下さい。 ①旅の歴史を通して宿泊業のビジネスを説明できる。 ②西洋の歴史から近代ホテル産業の変遷を説明できる。 ③ホテル業のオペレーションが説明できる。 ④ホテルをマネジメントするために何が大切か説明できる。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	大谷晃・鈴木はるみ『旅館ホテル・観光の教科書: 初心者にやさしい』2020 年、キクロス出版 大谷晃・鈴木はるみ『「旅館ホテル」のおもてなし: サービスを超える極意』2020 年、キクロス出版 鈴木博・大庭祺一郎共著『基本ホテル経営教本』1999 年、柴田書店 この他、授業ではいろいろな参考書を案内します。					
21.成績評価	予定では、評価の方法と配点は次の通りです。 ①第 2 回～14 回 ミニペーパーの提出と理解度 30%〔学習目標①～④に対応〕 ?小テスト 20%〔学習目標③に対応〕 ?総括試験(記述式) 50%〔学習目標④に対応〕 但し、総括試験で正解率 20%以下は?の点数は加算されません。 毎回ペーパーを課さないこともあります。					
22.コメント	質問等はメールや WebClass 等で受け付けます。積極的に利用してください。 講義では必ずノートを取ってください。 *重要 遅刻 15 分を超える場合は欠席(早退は欠席)とします。					
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース(研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	講義：ガイダンス、授業の進め方をお話しします。 ①ホテルとは何かを知る。ホテルの歴史、ホテルの役割、ホテルの種類、現在のホテル、未来のホテル。?特に、今増えている外資系ホテルの特徴と就職活動について、③対話型で進める講義の内容と課外活動の進め方、④この授業の目標と評価の方法など	PC またはタブレット等は全回で必要 復習：今回の復習、授業ノートの整理
第 2 回	ホテルはヨーロッパ生まれ、宿がインになり、都市ではホテルに 旅の歴史は宿屋の歴史です。古代の旅にも、宿屋が登場しますし、その歴史がホテルにつながります。ヨーロッパ大陸各国のホテルの歴史を学びましょう。イギリス人がグランド・ツアー（大旅行）を始めた時に、パリやローマ、フィレンツェやヴェネツィアに生まれたのが、グランド・ホテルです。	復習：授業の復習とノート整理 予習：ローマ時代から産業革命までのヨーロッパの歴史をノートする
第 3 回	近代のホテルのお話しです。建物は大きく、設備は便利に、現在のホテルビジネスの原型が整った時代です。規模も大きくなり、ホテルが産業となった時代です。時に、新大陸（アメリカ）に大規模なホテルが生まれました。ヒルトン、インターコンチネンタルなどの今の老舗です。プラザホテルの名もよく知られています。	復習：授業の復習とノート整理 予習：アメリカの歴史を整理してノートする
第 4 回	講義：「日本史から学ぶ旅と宿」 平安時代から江戸時代、明治以降から太平洋戦争までの歴史から宿の変遷を理解する	復習：復習とノート整理 予習：平安時代以降の歴史を振り返り日本歴史をノートする
第 5 回	講義：「日本近代ホテル産業史」 戦後の復興と経済成長からホテルの変遷を考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：戦後の経済成長の歴史を調べノートする
第 6 回	講義：「グローバルホテルブランドとホテル事業」 世界のホテルブランドと経営戦略を考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテルブランドを web サイトで調べノートする
第 7 回	講義：「ホテル製品・サービスと差別化戦略」 競争の中でどの様に差別化を図り、競争優位にするかを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテルの製品・サービスの差別化とはどのようなことか考えノートする
第 8 回	講義：「バジェットホテルビジネス」 バジェットホテルのビジネスモデルを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：バジェットホテルを web サイトで検索し概要をノートする
第 9 回	講義：「ホテル運営・経営方式」 ホテルの運営・経営方式に焦点をあて、事業におけるメリット、デメリットを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：フランチャイズシステムとはどのようなビジネスかを調べノートする
第 10 回	講義：「ホテル再生事業」 事業の道を閉ざされたホテルがどのように再生されたのか事例をもとに考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：宿泊業の最近の倒産件数とその原因を調べノートする
第 11 回	講義：「MICE 事業」 MICE とはどのようなことか、観光立国を目指す日本の目	復習：授業の復習とノート整理 予習：観光庁 HP から MICE について調べノ

	標の一つである MICE について考察する	ートする
第 12 回	講義：「ホテルにおけるブライダル事業」 ブライダル事業のビジネスモデルを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテル HP からブライダル事業を調べノ ートする
第 13 回	講義：「ホテルのセールス&マーケティング」 ホテルのセールス体制やマーケティング戦略を考察す る	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテル web サイトやホテル予約サイトを調べ比較しノートする
第 14 回	講義：「ホテルと法律」 ホテル事業はどのような法律で規制されているのか考察 する	復習：授業の復習とノート整理 予習：旅館業法を調べその特徴をノートする
第 15 回	振り返りと統括試験	復習：授業の復習とノート整理

1.授業コード (ナンバリング)	TB2102-Y01	2.科目名	ブライダルビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は、ブライダル業界の事情を専門的に学習します。 この科目は、ブライダルビジネスの現状と課題を学び、プランニング、会場、サービスなどに関する知識やスキルを統合的に活用し、課題を発見し、課題を解決するための、実践的なビジネス能力を身につけることを目指します。将来、企業などの観光コンテンツの創出やマネジメントすることが目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の2.主体的行動力、問題解決力、3.多様な価値観受容、コミュニケーション能力、K1.地域資源の活用力の学修に関連しています。 ①日本ブライダル業界の仕組みについて概説し、各業種の役割とその特徴を説明できる。 ②客と企業とのバランスが取れたビジネスを提案できる。 ③ブライダルビジネスの構造を理解したマネジメントができる。 ④婚礼の歴史・伝統・文化を幅広く知り、観光立国の日本と結び付けて考えることができる。					
19.教科書・教材	糸美奈子著『ブライダル業界の動向とカラクリがよくわかる本』秀和システム、2018					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。学習成果の統合、リサーチ、プレゼンテーション等に関するルーブリックに基づいて評価します。ルーブリックに基づく評価方法については、第1回目の授業内で説明します。 1. 発問、ディスカッション、ウェディングプランのアウトラインの作成及びブライダルビジネスマナーの修得…25%【学修目標の①④に対応】 2. 課題1：ウェディングプランの作成（個人）…25%【学修目標の①②③に対応】 3. 課題2：ウェディングプランの修正（個人）…25%【学修目標の①②③に対応】 4. 課題3：ウェデ					
22.コメント	・授業時に配布されたプリントを毎回持参してください。質問は授業終了後に教室で受け付けます。 ※課題の作成はエクセル、パワーポイント、メールのスキルが求められます。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日3限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション・授業課題、評価基準の説明			教科書、筆記ノート、筆記用具必須。		
	結婚とフェミニズム					
	ブライダル業界の概況					
	ブライダル業界の収益構造とタイプ別挙式のプロセス			課題1 グループ分け ウェディングプランのアウトライン作成		
	振り返り①			課題1 ウェディングプランのアウトラインを提出		
	ドレスショップビジネスの現状と課題 (学外の元町付近のショップで受講する予定。服装の					

	注意点あり)	
	人前式の流れと披露宴司会者の心得と技術	
	婚活	
	海外の Wedding 事情	課題 2 ウェディングプラン完成案を作成
	披露宴会場と演出について	課題 2 ウェディングプラン完成案を提出
	振り返り②	
	フィールドワーク（ホテル式場、ゲストハウスなど関連施設の見学など）	
	ブライダル業界の課題と未来	課題 3 ウエディングプラン修正案を作成
	振り返り③	課題 3 ウエディングプラン修正案を提出
	優秀プランの選出と公表、学生のプレゼンテーション	

1.授業コード (ナンバリング)	TB2202-Y01	2.科目名	観光ビジネスモデル論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループ ディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスモデルとは何か？その意味を理解し、フレームワークを活用してビジネスモデルを読み解き、改善し、新たに構築する力を身に付けます 概要：ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支」によって語られます。それぞれの要素について、皆さんの身近なビジネス・サービス・商品の実例を用いながら、グループワークなどの演習を交えて具体的に理解を深めます。また、世の中の主なビジネスモデルについて、その内容を具体例を交えて解説していきます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。ビジネスモデルに関して、新規ビジネスの構築・運営や、既存ビジネスの分析・改善に広く活用できる汎用的なフレームワークを習得し、さまざまな場面で活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 13 点（各回 1 点×8 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 27 点（各回 9 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：ビジネスモデルとは ビジネスモデルは、大きく「コンセプト」「事業戦略」「スキーム」「収支計画」によって語られます。（もっと細かい要素に分けたり、違う切り口で分析されることもあります） 皆さんは、Youtube を見たことがありますよね？例えば Youtube のビジネスモデルを例にとって、ビジネスモデルとはどのようなものかを体感します。			予習：Youtube の収益源は何かを調べて書き出してくる。 授業のまとめシート：提出 復習：Youtube のコンセプトが他にないか考えてみる。		

第 2 回	講義：コンセプトとは ビジネスモデルの基本的な構成要素を一つ一つ理解していきます。まずは「コンセプト」について解説します。 グループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、そのコンセプトを読み解いていただきます。	予習：「コンセプトとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 3 回	グループワーク：コンセプトを読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：コンセプトを読み解こう 講義：コンセプトの具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なコンセプトの例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義：戦略とは もっとも重要な要素である「戦略」について、解説します。 2 回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その事業戦略を読み解いていただきます。	予習：「戦略とは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 6 回	グループワーク：事業戦略を読み解こう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 7 回	プレゼンテーション：事業戦略を読み解こう 講義：戦略の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な戦略の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 8 回	講義：スキームとは ビジネスモデルの構成要素の一つである「スキーム」について、解説します。 3 回目のグループワークを始めます。皆さんがよくご存知の商品やサービスを題材として、その売上を増やすための戦略を構築していただきます。	予習：「ビジネススキームとは何か」を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 9 回	グループワーク：売上を増やそう 前半 事業環境分析から、ターゲットの設定、届ける価値の仮説まで。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 10 回	グループワーク：売上を増やそう 後半 売上を増やすための具体的手法の検討。グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	講義：プラットフォームビジネス 長年プラットフォームビジネスに携わって来た方か	予習：プラットフォームビジネスについて、調べて書き出してくる

	ら、ビジネスモデルの現場と実践についてお話いただきます。	授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：売上を増やそう 後半 講義： 収支計画の具体例 世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸な収支計画の例を紹介し、理解を深めます。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義： ビジネスモデルデザイン まとめ ビジネスモデルとは何かを振り返り、世の中のビジネス・商品・サービスについて、特に秀逸なビジネスモデルの例を紹介し、理解を深めます。	予習：ビジネスモデルとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	TB2302-Y01	2.科目名	テーマパーク・リゾートビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ディズニーやU S J などのテーマパークを、経営学的観点から理解し、テーマパーク経営における問題発見と解決策を見出す能力を身につけます。 概要：テーマパークの収入は、おもに①入場料、②飲食、③お土産などの物販、で構成されます。どうやってそれぞれの収入を最大化するかについて、例えば「ユニバでいちばん人気のお土産やレストランメニューを企画してみよう！」といった実践的なワークを通じて、深く考察していきます。履修後には、テーマパークの収入・コスト・リスクなどについて、経営的な視点から批判し解決策を提案できるよう					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力と最も深く関連しています。テーマパーク経営において、ゲスト目線だけではなく経営者目線で問題点を発見し、それを解決できる能力を獲得します。その能力の裏付けとして、DP の(6)専門的知識・技能の活用力を、テーマパークの現場で起こっていることをベースに、テーマパーク事業の専門的知識を習得します					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 10 点（各回 1 点×6 回、15 回目のみ 4 点） ?グループワークのプレゼンテーション 30 点（各回 10 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（5 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！① 今やディズニーを超える人気のユニバ。しかし、過去にはゲストが集まらず、何度も何度も倒産の危機があったのです。つぶれかけのテーマパークが、どうやって大復活したのか？経営側の視点から講義します。			予習：U S J の入場者数の推移をまとめ、その変化の原因を考える 授業のまとめシート：提出 復習：U S J の入場者数の変化の原因をまとめる		
第 2 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！②			予習：ディズニーリゾートとU S J のお土産		

	ユニバの大復活の秘訣は、「マーケティング」です。テーマパーク経営において、マーケティングの果たす役割とは？ グループワークを始めます。ユニバでいちばん人気のお土産、または、いちばん人気のレストランメニューを企画します。	とレストランメニュー（メニュー、値段）をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 3 回	グループワーク：ユニバでいちばん人気のお土産 or レストランメニューを作ろう！ グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義：テーマパークビジネスの全体像① 日本国内主に国内において、アミューズメントパークの経営主体は誰か？歴史的背景と現状、将来について。ひらパーなど、比較的小規模な「遊園地」の経営についても一緒に考えてみましょう。	予習：国内の遊園地やテーマパークを経営しているのはどんな企業かをまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 6 回	講義：テーマパークビジネスの全体像② グローバルテーマパーク先進国であるアメリカや海外も含めて、テーマパークの経営主体は誰か？テーマパークビジネスの収入源は何か？収入を伸ばすために、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：海外のテーマパークの入場料金設定をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：テーマパークビジネスの全体像③ テーマパークの経営の基本は「来場者数 x 客単価」です。客単価を上げることの重要性について、学びます。 2 回目のグループワークを始めます。「赤字のテーマパークを救え！」。ここまでの議論・講義を受けて、テーマパークをもっと盛り上げるための具体的な施策を、ご提案ください。	予習：国内のテーマパークの入場料金設定をまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！前半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！後半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表	予習：グループで課題を発表できる状態にする

	講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	る 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 12 回	講義：テーマパーク経営のリスク テーマパークは、とてもリスクが高いビジネスです。日曜日の天気予報が雨。それだけで何割も収入が減ってしまいます。どのようなリスクがあるのか？そのリスクに対して、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：過去のテーマパークで発生した事故についてまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 13 回	講義：テーマパークビジネスの全体像④ まとめ 企業経営の使命は、顧客満足度を上げながら利益を確保し、次の拡大投資につなげることです。ここまで勉強してきた、テーマパーク事業における収支、リスクなどについて、すべてをまとめて整理します。	予習：これまでの学びを受けて、国内のテーマパークの、主な収入項目と支出項目を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	TOU101-Y01	2.科目名	観光学概論 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 この科目は、大学で『観光』について学ぶ上で必要となる基礎的な知識とさまざまな視点を学ぶことを目的としています。 【科目の概要】 グローバル化の進展は国際的な観光産業の成長を促進し、日本も「観光立国」を掲げて訪日インバウンド観光の発展に取り組み、観光を通じた地域創生を目指してきました。その結果、過剰な観光客の増加によるオーバーツーリズムの問題が注目されるまでになったところで、2020年にコロナ禍が発生し、状況が急変したのは皆さんもご存知の通りです。このように、社会や人々の行動様式と観光は密					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 (1) 自立的で主体的な態度 (4) 問題発見・解決力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①観光に関する基本的知識を説明できる。 ②現代社会と観光の幅広い関係性について説明できる ③観光の機能と効果を説明できる。 ④基本的な観光産業の仕組みとその特徴について説明できる。 ⑤観光が引き起こす問題とその仕組みについて説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	メラニー・スミス(原著) 小槻文洋ほか (翻訳)『観光研究のキーコンセプト』現代図書、2014 年 谷口知司・福井 弘幸 (編著)『これからの観光を考える』晃洋書房、2017 年					
21.成績評価	本科目の成績評価は以下の観点で行います。 小テスト・・・20% 【学習目標①②③④⑤に対応】 前半確認テスト・・・30% 【学習目標①②③に対応】 総括試験・・・50% 【学習目標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	観光を学ぶ上での基本的知識を身に付ける必修科目です。授業内で実施する、観光や観光産業についての意見交換・ディスカッションにも積極的に取り組むよう、心がけて下さい。 * 私語厳禁。授業中の PC、携帯電話の使用、飲食は禁止。 【生成 AI について】 生成 AI の利用については、条件付きで認めます。 ただし、課題の成果物に生成 AI で作成したものをそのまま使用することは認めません。 発覚した場合は相応のペナルティを課します。					
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜 4 限 (春) 学修支援センター：水曜昼休み (春)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション (本授業の目標・内容・評定算			シラバスをよく読んでおくこと		

	出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて) ・ディスカッション：観光に対するイメージ	
【第2回】	講義：現代社会と観光 ディスカッション：観光とは？	予習：観光に関するニュースに目を通しておく 復習：観光と社会の関係を概念図にまとめる
【第3回】	講義：観光の仕組み グループワーク：観光の構造を考える	予習：観光現象の構造について調べておく 復習：観光のさまざまなステークホルダーについてまとめる
【第4回】	講義：観光と旅行の歴史 ディスカッション：観光と旅行のちがい	予習：観光の起源について調べておく 復習：観光の変遷の背景について関連文献を読む
【第5回】	講義：観光資源・観光対象①『文化』 ディスカッション：文化の商品化	予習：文化を対象とする観光の類型について調べておく 復習：文化観光の課題をまとめる
【第6回】	講義：観光資源・観光対象②『自然』 ディスカッション：生物を「観光」することの意味	予習：自然を対象とする観光の類型について調べておく 復習：自然観光の課題をまとめる
【第7回】	講義：観光と社会学 ディスカッション：観光客はなにを求めている？	予習：観光社会学について調べておく 復習：文化の真正性についてまとめる
【第8回】	前半部確認テスト	予習：これまでの授業内容を振り返ってノートをまとめておく
【第9回】	講義：観光産業の概要①『旅行業』 ディスカッション：オンラインツアーは今後も生き残るか？	予習：旅行業について調べておく 復習：旅行業就職に必要な能力について整理する
【第10回】	講義：観光産業の概要②『運輸・交通産業』 グループワーク：運輸交通業界の課題を考える	予習：運輸・交通産業について調べておく 復習：運輸・交通産業就職に必要な能力について整理する
【第11回】	講義：観光産業の概要③『宿泊業』 グループワーク：宿泊業界の課題を考える	予習：宿泊業について調べておく 復習：宿泊業就職に必要な能力について整理する
【第12回】	講義：多様化するツーリズム ディスカッション：観光産業の可能性	予習：観光の多様化について調べておく 復習：現代の観光産業の課題を整理する
【第13回】	講義：インバウンド観光と日本 ディスカッション：外国人観光客が求めるもの	予習：インバウンド観光の現状について調べておく 復習：インバウンド関連産業への就職に必要な能力について調べておく
【第14回】	講義：オーバーツーリズムと観光 グループワーク：迷惑とならない観光とは？	予習：オーバーツーリズムについて調べておく 復習：観光マネジメントの原則を整理する
【第15回】	総括試験	予習：これまでの授業内容を振り返り、ノートをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	TOU102-Y51	2.科目名	観光産業概論 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシー の「1. 自律的で主体的な態度」と「2. 社会に能動的に貢献する姿勢」「3. 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力」「6. 専門知識・技能の活用力」の学修に関連している。 観光産業を理解するには、社会的・経済的要素に加え、地理・歴史・文化を知る必要がある。これらの知識の習得とともに、観光が今なぜ重要であるといわれているのか、つまり観光の意義と役割を認識することに重点を置く。この授業では観光の基礎知識と観光関連産業の現状と将来、新しい観光のカたちなどを学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、以下の DP に対応している。 1：自律的で主体的な態度 2：社会に能動的に貢献する姿勢 3：多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力 4：問題発見・解決力 6：専門的知識・技能の活用力 ①観光の歴史が理解できるようになる ②観光産業の構造が理解できるようになる ③観光産業の課題や将来性について考えることができるようになる ④歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光 と結びつけて考えることができるようになる					
19.教科書・教材	授業中に指示する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	①課題レポート（毎授業）60％【学修目標①②③】 ②確認テスト 30％【学修目標①②③】 ③平常点 10％【学習目標①②】 課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は点ではなくマイナス評価となり、疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため、単位認定全体に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 課題提出は、WebClass を利用する。メールでの提出および締切後の提出は基本的には認めない。またフォントやファイル名などの提出ルールに添わない課題提出は、大幅な減点対象となる。 欠席は					
22.コメント	・ 事前配布の講義ノートを持参し空所補充などを完成させて毎授業後に提出する。（ノートパソコンを持参して空所補充などを行う） ・ 授業内容は、履修人数や進捗状況、理解度等の状況により適宜変更の場合がある。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること）					

	?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）	
23.オフィスアワー	個人研究室：3306 で実施。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・ 講義内容について ・ 評価方法について 【講義】 ・ 観光を取り巻く変化と可能性 ・ 観光学の性質と授業の内容	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 2 回】	・ 観光の定義 ・ 観光の歴史① 欧米の旅と観光の歴史	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 3 回】	・ 観光の歴史② 日本の旅、観光の歴史	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 4 回】	・ 観光政策と経済効果	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 5 回】	・ 世界観光遺産と持続可能性	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 6 回】	・ 観光産業の概要と旅行業①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 7 回】	・ 観光産業の概要と旅行業②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：レポート課題
【第 8 回】	・ 旅行産業②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 9 回】	・ 旅行産業②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 10 回】	・ 運輸業① 航空業	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 11 回】	・ 運輸業② 鉄道・バス	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 12 回】	・ 宿泊産業①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 13 回】	・ 宿泊産業②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第 14 回】	・ テーマパーク・遊園地	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 試験対策プリントの演習
【第 15 回】	確認テスト（レポート）：配布資料の持ち込み可	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU202-Y01	2.科目名	ホテル実務		3.単位数	4
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	講義と演習、数回は見 学と調査	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期～秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバル・コミュニケーション学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	グローバル・コミュニケーション学科（前半 の春学期は観光学科「ホテル産業論」2 単位 と同じ内容です。後半の秋学期は同「ホテル 実務」2 単位と同じ内容です。あわせて 4 単 位です）、観光学科（後半の秋学期分 15 回が 観光学科「ホテル実務」2 単位です）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：この科目の目的は、外資系ホテルの進出や DX の進展、顧客のニーズの変化などにより、 大きな変革期にあるホテルビジネスのトレンドを捉えるとともに、直近の経営形態やセールス & マーケティング、宿泊、料飲等の実務を学習しさらに今後の在り方を考察することにある。 概要：講義の前半は最近のホテル等宿泊施設のトレンドについて学ぶとともに、この 10 年で大 きく変化した所有と運営の在り方について学習する。特に「所有と運営の分離」という大きな トレンドにより生まれた「アセットマネジメント」と「プロパティマネジメント」について					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、学科の DP の（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケー ションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に該当し、主眼はホテル実務への理解深化と応用 力の醸成にある。 ①ホテルビジネスの基礎である経営・組織収益構造の学習と、事例研究を通じ各ホテルの経営 戦略など経営の実務を学ぶ→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ②ホテル実務の基本となるセールス&マーケティング、宿泊、料飲、管理の学習を通じてその 応用と課題解決を習得する→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ③受講生が自ら顧客側の立場に立ち、OTA の登録・仮定利用を行うなど講義内で様々な課題を 実施する。またフィールドワークの実施により地域市場の把握と競合や競争力について考察を 行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ④講義内で上記③記載の提案型課題を課し、その成果について発表するとともに小グループで 協議・評価を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	中央経済社 仲谷秀一、テイラー雅子、中村光信?共著「ホテル・ビジネス・ブック」 * 購入の必要はない。適宜資料を提供します。					
20.参考文献	オータパブリケーション 福永健司 著 「総支配人の教科書（ホテルマネジメントの要諦）」 嵯峨野書院 杉原淳子 「新ホテル運営戦略論」					
21.成績評価	1. 課題レポート及び期中での学習成果チェック 40％ 2. 講義及びワークの参加態度・発表内容 30％ 3. 最終課題レポートとプレゼンテーション 30％ 定期試験は行わず、上記最終課題レポート及びプレゼンテーションが定期試験同等の評価とな る。 また単位認定には最終課題だけではなく講義内で課す課題レポートの期限内提出が要件とな る。					
22.コメント	PC 持参が必須					
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	・ イントロダクション ホテルの業態とカテゴリー① ・ ホテルの業態とカテゴリー②	・ 講義内課題 ビジネスホテルの予約検索等
第 3 回 第 4 回	ホテルの経営形態① ホテルの所有と運営形態 ホテルの経営形態② ホテルの組織と構造	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 リゾートホテルの顧客満足度
第 5 回 第 6 回	ホテル実務 事業部門別の業務① 宿泊部門 ホテル実務 事業部門別の業務② 料飲部門	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題及び次回への課題 ホテルの運携帯を調べる
第 7 回 第 8 回	ホテル実務 事業部門別の業務③ セールス & マーケティング ホテル実務 事業部門別の業務④ 管理部門（総務、経理・財務、施設）	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義名に告知
第 9 回 第 10 回	人事システムとキャリアデザイン 学習成果の確認	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義内に告知
第 11 回 第 12 回 第 13 回	フィールドワーク	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義内で告知
第 14 回 第 15 回	再 h 数課題の説明と作業 最終課題の提出及びプレゼンテーション 振り返り	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義内告知
第 16 回 第 17 回	・ イントロダクション、ホテルのカテゴリー ・ ホテル業界の概要と動向 ・ ホテルの組織と構造	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および時価への課題 講義内で告知
第 18 回 第 19 回	ホテルの収益構造とシステム ＜ホテルの組織・部門の役割と機能＞ 宿泊部門（フロント・ハウスキーピング）	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 20 回 第 21 回	料飲部門（宴会・ブライダル、飲食施設） セールス & マーケティング	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 22 回 第 23 回	管理部門（総務、経理、施設管理） 総支配人（GM）の仕事	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 24 回	フィールドワークの準備	調査のレビュー・まとめ
第 25 回 第 26 回	龍野城下町と町屋ホテル「kurasu」調査と体験 フィールドワーク	調査レポートの作成と提出
第 27 回 第 28 回	フィールドワーク振り返り（調査概要の発表） プレゼンテーションの準備	最終課題の作成とプレゼン準備
第 29 回 第 30 回	プレゼンテーション プレゼンテーション、振り返り	講義の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	TOU207-A01	2.科目名	観光産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	経営 2 年		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	本講義は、観光産業が持つ国際的な影響力と経済的波及効果を深く理解し、インバウンド観光の専門家を育成することを目的とします。観光産業は「平和のパスポート」として国際理解と交流を促進し、無公害で環境に優しい産業として現代社会で注目されています。また、観光は世界最大の雇用産業であり、各国は観光を国家戦略産業として位置づけ、競争優位性を確保するために激しい競争を繰り広げています。 日本においても、観光産業は重要性が増しており、特にインバウンド観光が国際経済への影響力を強化しています。新型コロナウイルス感染症の影響					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では観光産業が日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成を目指し、観光関連企業への進出することを目標とする。 ① 自分で観光専門分野を説明できるようにする。 ② 多様なビジネスに関連する知識とスキルを発揮することができる ③ 留学生との授業やグループワークでコミュニケーションスキルを高める。 ④ 国際的な観光エキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	観光ビジネス検定テキスト インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 観光検定公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集 編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会 観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稲之・安田亘宏 著					
21.成績評価	毎回のワークシート（OPEN BOOK） Web Class 模擬テストとグループレポート 授業態度・テキスト持参も含む」 → 60％ 期末テスト→ 本テスト・eポートフォリオ → 40％					
22.コメント	毎回の授業に積極的な姿勢で準備物や復習をしっかりとすることを求めている。					
23.オフィスアワー	毎週金曜日お昼、先に予約が必要。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回 4 月 11 日 金	オリエンテーション 授業紹介、PDCA AI の活用について			毎回 Web Class にある資料を準備して持参		

2回 4月18日金	観光とは 観光の効果 観光マーケットの分類	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
3回 4月25日金	日本の観光の歴史 江戸時代の旅、昭和時代、明治―旅行会社の誕生、 昭和時代、平成時代、観光立国、大阪万博 外国の観光の歴史 マスツーリズム	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
4回 5月2日金	MICE（国際会議の分類・会場の分類）・IR ・シンガポールの IR 通訳案内士法	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
5回 5月9日金	航空ヒ?シ?ネス・クルーズ?・為替・VI SA	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
6回 5月16日金	案内表記とインハ?ウント?課題	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
7回 5月23日金	日本酒の世界化 灘の日本酒プロジェクト	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
8回 5月30日金	インバウンドの消費動向 買い物動向 飲食動向	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
9回	インバウンド 旅行ビジネス・ 免税制度	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
10回	旅行ビジネスの中、宿泊業	
11回	鉄道・航空・道路交通ビジネス	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
12回	観光お土産業・ショッピングビジネス業	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
13回	観光施設・エンタテインメントビジネス	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
14回	観光案内・支援ビジネス	毎回 Web Class にある資料を準備して持参
15回	期末テスト・期末レポート	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU210-Y01	2.科目名	旅行産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目 旅行業分野での実務経験がある教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 授業では、まず、旅行事業を取り巻く環境を左右する国の役割（観光政策）、地域の観光振興を担う自治体の役割についての理解を深めるところから始める。そして、国や自治体による観光事業の基盤整備を踏まえ、観光集客事業を担うそれぞれの事業の役割、機能、集客への取組み等について学ぶことになる。具体的には、旅行業、宿泊業、航空事業、テーマパーク等の観光施設について、個別にその事業特性や課題の抽出、課題解決に向けた取組み等について学ぶ。 【目的】 この授業では、国の観光政策や地域の観光振興を担う自治体の役割等を踏					
18.学習目標と DPとの関連	① 国や自治体、DMO をはじめ、様々な組織や団体の旅行事業について概略を理解し、社会との関わりの中でどのような役割を果たしているのかを説明できるようになる。 ② 観光現象を手がかりとして、現代社会の諸課題について幅広く思考を展開し観光ビジネスの可能性を理解できるようになる。 ・本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	使用しない 適宜、資料等配布					
20.参考文献	小林弘二他(2021)編著『改訂版変化する旅行ビジネス』（文理閣）ISBN978-4-89259-3 小林弘二(2007)著『旅行ビジネスの本質』（晃洋書房）ISBN978-4-7710-1843-3 高橋一夫・柏木千春『1 からの観光事業論』（碩学舎） ISBN978-4-502-17281-6					
21.成績評価	課題レポート（毎授業） 60％ 【学習目標の①②に対応】 確認テスト 30％ 【学習目標の 1②に対応】 平常点 10％ 【学習目標の①②に対応】 ルーブリックを用いて評価します。 ・課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は 0 点ではなくマイナス評価となり疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため単位認定に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 ・課題提出は Web クラスを利用する。Wifi 状況を含め、いかなる理由でもメールでの提出および締切後の提出は認めない					
22.コメント	・事前配布の講義ノート（MS ワードで作成した用紙）を持参して、空所補充等を完成させ毎授業後に提出する。（パソコンを持参して空所補充等を行う）					

		・各講義の内容は講義方法、履修人数、進捗状況、理解度及び外部講師等の状況により適宜変更の場合がある。 ・ノートテイキングを推奨する。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）
23.オフィスアワー		山手キャンパス 3-306 研究室で実施する。
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	ガイダンス 国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について ①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
2 回目	国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について ②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
3 回目	国の成長産業としての観光事業、集客に向けて国の役割について ③	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
4 回目	観光集客による地域の活性化に向けて、地方自治体などの役割について①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
5 回目	観光集客による地域の活性化に向けて、地方自治体などの役割について②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
6 回目	観光（旅行）事業の事業特性について①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
7 回目	観光（旅行）事業の事業特性について②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
8 回目	観光関連産業の基幹事業 旅行業①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
9 回目	観光関連産業の基幹事業 旅行業②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
10 回目	観光関連産業の基幹事業 旅行業③	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
11 回目	観光関連産業の基幹事業 旅行業④	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
12 回目	観光関連産業の基幹事業 宿泊施設の事業マネジメント①	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
13 回目	観光関連産業の基幹事業 宿泊施設の事業マネジメント②	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
14 回目	テーマパーク等観光関連施設のサービスマネジメント	事前配布の講義ノートを持参して、空所補充を完成させ提出する。(パソコン持参)
15 回目	全体の振り返り。 確認テストの実施。	レポート作成 パソコン持参

1.授業コード (ナンバリング)	TOU211-Y01	2.科目名	ホテル産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門教育科目/展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択 ホテル・ブライ ダル専攻必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ホテル旅館などの宿泊産業の事業環境や市場の動向を理解し、どのようなビジネスがあるのか、ホテルを中心に宿泊産業全体の概要を理解し、就活に活かすことを目的とします。 【概要】 旅館やホテルは古くからあります。日本では旅館が江戸時代に発達し、明治維新早々に様式のホテルも生まれました。その後、民宿や最近では住宅宿泊事業として B & B（民泊）が生まれました。国内経済はもとより、国際経済の影響を強く受けます。そのためホテル事業も、常に変化への対応が求められ、時代とともに変化してきました。ホテル、宿泊産業はサービス産					
18.学習目標と DPとの関連	【DP(ディプロマポリシー)】 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【学修目標】 この科目では、以下の目標を上げます。ポイントを押さえてレポートを書いて下さい。 ①旅の歴史を通して宿泊業のビジネスを説明できる。 ②西洋の歴史から近代ホテル産業の変遷を説明できる。 ③ホテル業のオペレーションが説明できる。 ④ホテルをマネジメントするために何が大切か説明できる。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	大谷晃・鈴木はるみ『旅館ホテル・観光の教科書: 初心者にやさしい』2020 年、キクロス出版 大谷晃・鈴木はるみ『「旅館ホテル」のおもてなし: サービスを超える極意』2020 年、キクロス出版 鈴木博・大庭祺一郎共著『基本ホテル経営教本』1999 年、柴田書店 この他、授業ではいろいろな参考書を案内します。					
21.成績評価	予定では、評価の方法と配点は次の通りです。 ①第 2 回～14 回 ミニペーパーの提出と理解度 30%〔学習目標①～④に対応〕 ?小テスト 20%〔学習目標③に対応〕 ?総括試験(記述式) 50%〔学習目標④に対応〕 但し、総括試験で正解率 20%以下は?の点数は加算されません。 毎回ペーパーを課さないこともあります。					
22.コメント	質問等はメールや WebClass 等で受け付けます。積極的に利用してください。 講義では必ずノートを取ってください。 *重要 遅刻 15 分を超える場合は欠席(早退は欠席)とします。					
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース(研究室/3-308)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	講義：ガイダンス、授業の進め方をお話しします。 ①ホテルとは何かを知る。ホテルの歴史、ホテルの役割、ホテルの種類、現在のホテル、未来のホテル。?特に、今増えている外資系ホテルの特徴と就職活動について、③対話型で進める講義の内容と課外活動の進め方、④この授業の目標と評価の方法など	PC またはタブレット等は全回で必要 復習：今回の復習、授業ノートの整理
第 2 回	ホテルはヨーロッパ生まれ、宿がインになり、都市ではホテルに 旅の歴史は宿屋の歴史です。古代の旅にも、宿屋が登場しますし、その歴史がホテルにつながります。ヨーロッパ大陸各国のホテルの歴史を学びましょう。イギリス人がグランド・ツアー（大旅行）を始めた時に、パリやローマ、フィレンツェやヴェネツィアに生まれたのが、グランド・ホテルです。	復習：授業の復習とノート整理 予習：ローマ時代から産業革命までのヨーロッパの歴史をノートする
第 3 回	近代のホテルのお話しです。建物は大きく、設備は便利に、現在のホテルビジネスの原型が整った時代です。規模も大きくなり、ホテルが産業となった時代です。時に、新大陸（アメリカ）に大規模なホテルが生まれました。ヒルトン、インターコンチネンタルなどの今の老舗です。プラザホテルの名もよく知られています。	復習：授業の復習とノート整理 予習：アメリカの歴史を整理してノートする
第 4 回	講義：「日本史から学ぶ旅と宿」 平安時代から江戸時代、明治以降から太平洋戦争までの歴史から宿の変遷を理解する	復習：復習とノート整理 予習：平安時代以降の歴史を振り返り日本歴史をノートする
第 5 回	講義：「日本近代ホテル産業史」 戦後の復興と経済成長からホテルの変遷を考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：戦後の経済成長の歴史を調べノートする
第 6 回	講義：「グローバルホテルブランドとホテル事業」 世界のホテルブランドと経営戦略を考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテルブランドを web サイトで調べノートする
第 7 回	講義：「ホテル製品・サービスと差別化戦略」 競争の中でどの様に差別化を図り、競争優位にするかを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテルの製品・サービスの差別化とはどのようなことか考えノートする
第 8 回	講義：「バジェットホテルビジネス」 バジェットホテルのビジネスモデルを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：バジェットホテルを web サイトで検索し概要をノートする
第 9 回	講義：「ホテル運営・経営方式」 ホテルの運営・経営方式に焦点をあて、事業におけるメリット、デメリットを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：フランチャイズシステムとはどのようなビジネスかを調べノートする
第 10 回	講義：「ホテル再生事業」 事業の道を閉ざされたホテルがどのように再生されたのか事例をもとに考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：宿泊業の最近の倒産件数とその原因を調べノートする
第 11 回	講義：「MICE 事業」 MICE とはどのようなことか、観光立国を目指す日本の目	復習：授業の復習とノート整理 予習：観光庁 HP から MICE について調べノ

	標の一つである MICE について考察する	ートする
第 12 回	講義：「ホテルにおけるブライダル事業」 ブライダル事業のビジネスモデルを考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテル HP からブライダル事業を調べノートする
第 13 回	講義：「ホテルのセールス & マーケティング」 ホテルのセールス体制やマーケティング戦略を考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：ホテル web サイトやホテル予約サイトを調べ比較しノートする
第 14 回	講義：「ホテルと法律」 ホテル事業はどのような法律で規制されているのか考察する	復習：授業の復習とノート整理 予習：旅館業法を調べその特徴をノートする
第 15 回	振り返りと統括試験	復習：授業の復習とノート整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU212-Y01	2.科目名	サービス・ブランディング		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループ ディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ブランドの強さによって、企業の業績は大きく左右されます。ブランドとは何か？特に、観光産業などサービス業におけるブランドの役割と重要性を理解します。 概要：「ブランド」という言葉は誰でも知っていますが、その意味を説明できますか？この授業では、テーマパークやコンビニエンスストアといった身近なサービスを題材としてブランドの意味やその効果を学びます。加えて、観光産業において重要な要素である「地域のブランド」を設計する方法について、グループワークを通じて学習します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。普段何気なく使っている「ブランド」という言葉の本質や、商品ブランドとサービスブランドの違いを深く理解したうえで、強いブランドがどのように作られるかについて、「地域のブランド」に関する実践的ワークを通じて身に付けます。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 16 点（各回 1 点×11 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 24 点（各回 8 点×3 回） グループ得点（4 点満点）、グループ MVP（4 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：サービスブランドの事例 セブンイレブン、ローソン、ファミマが隣同士で並んでいるとします。あなたは、どのお店に入りますか？ コンビニ、ミネラルウォーター、携帯電話会社など、身近なサービスブランドを消費者側から見て、ブランドが果たす役割を概観します。			予習：知っているミネラルウォーターのブランドを書き出し、その中でいちばん好きなブランドを選ぶ 授業のまとめシート：提出 復習：あなたが好きなミネラルウォーターのブランドから、あなたが得られる価値を書き出す		
第 2 回	講義：ブランドとは			予習：U S J のキャッチコピー（スローガ		

	USJのV字回復においても、「ブランド」が重要な役割を果たしました。ユニバのブランディングの事例を通じて、ブランドとは何かを学習します。 グループワークを始めます。あなたが好きなブランドを一つ選んで、そのブランドのターゲットと、ブランドがターゲットに提供する価値を推測してください。	ン)の、開業から今までの変遷をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第3回	グループワーク：あなたが好きなブランドの、ターゲットと提供する価値 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第4回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：ブランドの設計図 ターゲットや提供する価値の他にも、ブランドを設計するために必要な要素があります。これらの要素を含めたブランドの設計図（フレームワーク）について解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第5回	講義：強いブランドとその効果 ブランドが強くなると、どんな良いことがあるでしょうか？また、強いと言われているブランドには、どのような特徴があるのでしょうか。ファッションのブランドや身近な商品・サービスの実例を通じて、強いブランドの効果と秘訣を学習します。	予習：あなたが強いと思うブランドを一つ選んで、そのブランドのターゲットと提供する価値を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第6回	講義：商品ブランドとサービスブランド 消費者がお金を使う対象は、大きく「商品」と「サービス」に分かれます。その違いを解説するとともに、それぞれにおけるブランドの特徴を、身近な事例で対比しながら学習します。また、ブランドがターゲットに提供する価値の分類として、「機能的価値」と「情緒的価値」について学習します。	予習：今までの講義で取り上げたブランドのターゲットと提供価値を、商品ブランドとサービスブランドに分類してまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第7回	講義：地域のブランド あなたは、「沖縄県」と聞いて、何を思い浮かべますか？また、「栃木県」と聞いて、何を思い浮かべますか？近年、観光産業においては「地域のブランド」が重視されています。地域のブランドにはどのようなものがあるか、その意義と効果について、具体的な事例をもとに学習します。 2回目のグループワークを始めます。ここまでの議論・講義を受けて、「神戸」のブランドの設計図を書いていただきます。まずは、ターゲットを決め、ターゲットに対しどのような価値を提供できるか、考えましょう。（グループワークのテーマは変	予習：旅行で行ってみたいと思う都道府県を一つ挙げて、その都道府県に対するあなたのイメージを書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第8回	講義：地域のブランド実践例 長年にわたって地域のブランド作りに取り組まれているプロフェッショナルの方にゲスト講師としてお越しいただき、地域のブランドについて実践例を中心に講義いただきます。地域振興に重要な概念である「交流人口」「関係人口」「定住人口」についても学びます。	予習：「地方の過疎化問題」について調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行

第 9 回	グループワーク：「神戸」のブランドの設計図を書こう 前半 グループでのディスカッションに充てます。神戸ブランドのターゲット、届ける価値を考察します。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、グループで次回プレゼンテーションの準備をする
第 10 回	プレゼンテーション：ターゲット、ターゲットに届ける価値の仮説 ここまでのグループで話し合って決めた内容をまとめて発表していただきます。「神戸」のブランドの設計図を書くにあたり、ターゲット、ターゲットに届ける価値の仮説を発表します。	予習：プレゼンテーションができる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：授業でのアドバイスを加味し、仮説をブラッシュアップする
第 11 回	グループワーク：「神戸」のブランドの設計図を書こう 後半 グループでのディスカッションに充てます。神戸ブランドをターゲットに届けるための具体的手法を検討します。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、グループで次回プレゼンテーションの準備をする
第 12 回	プレゼンテーション：神戸ブランドの設計図 ここまでのグループで話し合って決めた内容をまとめて発表していただきます。神戸のブランドをターゲットに届けるための具体的手法を発表します。	予習：プレゼンテーションができる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 13 回	講義：サービスブランディング まとめ ブランドとは何か、ブランディングを地域活性化に生かす思考方法や実例など、これまでの学びをまとめます。	予習：ブランドとは何かを改めて振り返って書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および総括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	TOU213-Y01	2.科目名	航空産業論	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生または 3 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件	観光学概論、経営学概論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】観光学概論、経営学概論を基盤として、航空産業の歴史からその特性について学習する。 【概要】具体的には以下のとおり。 (1) 航空産業の歴史、特に第 2 次世界大戦以降の航空産業の歴史を通して、その成り立ち並びに政策について学習する。 (2) 国際的な取り決めや運送約款などネットワークキャリアの基盤となる考え方を学習する。 (3) また特に運輸産業において重要となる安全に関する基本を学習する。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(1)自律性】 【(3)多様性理解】 【(4)問題発見・解決力】 【(5)コミュニケーションスキル】 【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 航空産業論の講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①航空産業の発展の過程と航空会社の存在意義について述べることができる。 ②航空会社の経営の基盤となる条約や運送約款などについて正確に理解し、その特徴を述べることができる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献	航空産業入門 (第 2 版) 発行：東洋経済新報社				
21.成績評価	①授業理解度 (講義内容の理解)・・・40 点 (講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。) ※学習目標①、②に対応 ②個人ワーク&グループワーク・・・15 点 (講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。) ※学習目標①、②に対応 ③確認テスト・・・45 点 (講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる) ※学習目標①、②に対応				
22.コメント	エアラインビジネスでは、航空業界の基礎となるビジネスの仕組みを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を、空港業務では空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道に興味をもって履修してください。 生成 AI 利用：一切認めない。				
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】		復習：今回の復習及び授業ノートの整理		

	担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。	予習：次回の予習
【第2回】	講義【企業の仕組みとマネジメント】 ビジネスの基本となるマネジメントについて学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義【航空産業の歴史と政策】 航空機の発達による航空運輸業の発展および産業の発展に伴う政策について講義する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義【航空産業の課題】 航空の他の運輸業との比較における優位性や課題について講義する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義【航空の自由化政策】 航空の自由化と規制の関連について解説し、自由化の功罪も検証する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義【航空運輸業の特徴】 エアラインの座席という商品の持つ特徴と課題について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義【IATAの歴史と役割】 ICAO や IATA といった国際機関の設立と役割について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義【インターライン契約と運送約款】 エアライン間の様々な契約（インターライン契約）および運送約款について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義【日本の航空政策とエアライン】 45/47 体制 JAL 破綻 羽田発着枠調整などの日本の航空政策と課題について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義【空港の役割と整備計画】 航空産業における空港の役割（管制業務など）と空港整備について解説する。第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義【航空会社の安全への取り組み①】 航空機や空港における事故防止に向けた設備等について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義【航空会社の安全への取り組み②】 エアラインが取り組む従業員を対象とした安全推進活動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義【企業の社会的責任（CSR）とリスクマネジメント】 企業リスクに対する企業の取り組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	講義【サービス品質の改善】 「お客様の声をどのように活かすか？」その仕組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第15回】	講義【エアラインのビジネスと経営】 エアラインのビジネス環境やグループ経営について講義する。 第3回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU214-Y01	2.科目名	観光地理		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 授業では、毎回テーマを決め、観光についての日本地理について学習します。観光地の現状、課題について、日本の主要な観光地域を事例として学びます。歴史、産業、文化、自然環境などが関わることで観光地域、地域の創意工夫による開発が観光地の発展につながることを理解します。 【概要】 はじめの 4 回の授業では、日本全体を視野に入れてその多様な地理的特徴と区分について学習します。5 回から 13 回目までは、日本の諸地域にクローズアップして、自然環境・産業・人口などの特徴や観光資源について学習します。授業は、講義の部					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 1. 受講生は、日本についての基本的な地理的知識を理解して、説明することができる。 2. 受講生は、授業で身につけた日本地理の知識に基づいた、日本をめぐるオリジナルの観光プランを企画して、授業で発表することができる。					
19.教科書・教材	教材を Web Class にて配布します					
20.参考文献	地図帳。授業中に紹介します。					
21.成績評価	日本の都道府県クイズ作成・日本の都道府県カルタ作成・毎回提出する授業内レポート(25%)…（学習目標 1 に対応） 発表（日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表）(25%)…（学習目標 1 に対応） 中間テストと期末テスト(50%)…（学習目標 2 に対応） 記述問題と発表については、ルーブリック評価により採点します。					
22.コメント	?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：木曜昼休み（尼崎キャンパス）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション：地球儀で地球の姿をみよう					
【第 2 回】	世界の国々と地域区分：地図をみよう 日本の位置を調べよう：自然環境からみた日本 日本の都道府県クイズ			グループあるいは個人で、日本の都道府県クイズを作ってもらいグループごとに発表しますので、準備学習をしてください。		
【第 3 回】	色々な見方で都道府県を探ろう 日本の都道府県かるた			グループあるいは個人で、日本の都道府県かるたを作ってもらいます。グループごとに発表しますので、準備学習をしてください。		
【第 4 回】	日本をいくつかの地域に分けよう：自然や文化をもと			グループで、日本の都道府県クイズとかるた		

	に区分しよう 日本の地形：山地・海岸・河川・平地	大会をします。大会の後には振り返りシートを授業中に提出してください。
【第 5 回】	日本の諸地域：九州・沖縄地方	グループあるいは個人で、九州・沖縄地方の観光地を一つ選んで発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 6 回】	日本の諸地域：中国地方	グループあるいは個人で中国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 7 回】	日本の諸地域：四国地方	グループあるいは個人で四国地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 8 回】	日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 1) 中間テスト	中間テストの準備学習をしてください。ツアープランのアイデア発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 9 回】	日本の諸地域：近畿地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 2)	グループあるいは個人で、近畿地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 10 回】	日本の諸地域：中部地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 3)	グループあるいは個人で、中部地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容を授業中にレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 11 回】	日本の諸地域：関東地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 4)	グループあるいは個人で、関東地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 12 回】	日本の諸地域：東北地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 5)	グループあるいは個人で、東北地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 13 回】	日本の諸地域：北海道地方 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 6)	グループあるいは個人で北海道地方の観光地を一つ選んで調べてもらい発表しますので、準備学習をしてください。発表の後には発表内容をまとめて授業中に提出してください。
【第 14 回】	期末テスト 日本の諸地域をめぐるツアープランのアイデアの発表 (その 7)	期末テストの準備学習をしてください。ツアープランについて発表の準備をしてください。発表の後には発表内容をレポートにまとめて授業中に提出してください。
【第 15 回】	まとめ	期末テストのふりかえり、発表のふりかえり

1.授業コード (ナンバリング)	TOU222-Y01	2.科目名	観光交通システム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目 旅行業分野での実務経験がある教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】 観光は、観光客（観光主体）が観光地や施設（観光客体）を訪問する行動であり、その行動を助長、促進する交通や観光情報（観光媒体）によって構成されている。また、観光地は観光客の移動にそって演出される。見る場所や位置によってその観光素材は変化し、同じ景色でもバスと電車の車窓からでは結果的に違う景観を見せる「場を提供する」という役割も持っている。 さらに、交通は、乗り物自体が観光資源としての役割を演じるケースも多くみられる。 このように観光における交通には、単に移動手段としての役割のほか、観光地の魅					
18.学習目標と DPとの関連	① 観光交通の基礎を理解し、問題と課題について説明出来るようになる。 ② 交通ビジネスの役割や重要性を理解し、地域での観光価値創造の観点で説明出来るようになる。 ③ 交通ビジネスが社会との関わりの中でどのような役割を果たして、社会的価値を与えるかを提案出来るようになる。 本科目の学習目標は以下の DP（ディプロマポリシー）に対応している。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	使用しない 適宜、資料等配布					
20.参考文献	観光交通ビジネス 塩見英治編著 成山堂出版 ISBN978-4-425-92881-1 旅行ビジネスの本質 小林弘二著 晃洋書房版 ISBN978-4-7710-1843-3 改訂版 変化する旅行ビジネス 小林弘二他編著 文理閣版 ISBN978-4-89259-891-3					
21.成績評価	理解度確認レポート（毎授業） 60% 【学修目標の①、②に対応】 授業理解度確認テスト 30% 【学習目標の①②に対応】 授業参加姿勢 10% 【学習目標の③に対応】 ルーブリックを用いて評価する。 課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は 0 点ではなくマイナス評価となり疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため単位認定に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 課題提出は Web クラスを利用する。Wifi 状況を含め、いかなる理由でもメールでの提出および					
22.コメント	交通機関は観光のための単なる移動手段としてではなく、近年では過疎化、高齢化や観光公害などの社会問題の解決としても期待が寄せられている。このような時代背景において観光という産業と社会課題の双方から交通という概念にアプローチすることで、交通機関の意義の理					

		解を深める。 講義中にディスカッションを予定しているので、旅行ビジネスについての発言が出来るように積極的な姿勢で授業に参加するように。 講義の内容は、履修人数、進捗状況、理解度の状況により適宜変更の場合がある。 ノートテイキングを推奨する。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める（生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること） ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること）
23.オフィスアワー		水曜日 3 限目 3-306
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション -講義概要 授業の進め方 観光交通システム論① 観光とは	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
2 回目	観光交通システム論② 観光における交通の位置づけについて	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
3 回目	観光交通システム論③ 観光旅行の変遷について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
4 回目	観光交通システム論④ 観光旅行の変遷について②	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
5 回目	観光交通システム論⑤ 「交通サービス」と「観光」について	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
6 回目	観光交通システム論⑥ JR 西日本の観光開発についてその①	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。
7 回目	観光交通システム論⑦ JR 西日本の観光開発について その②	・予習：事前資料を読んでおくこと ・復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・授業確認レポートの作成。 ・パソコンを持参すること。

8 回目	観光交通システム論⑧ JR 西日本 京都での取組事例 授業前半の振り返り等	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
9 回目	観光交通システム論⑨ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について その① 航空政策（政府規制と自由化について）	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
10 回目	観光交通システム論⑩ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について その② ・ Legacy Carrier(Full Service Carrier)の経営戦略（ハブ＆スポーク、グローバルアライアンス等）	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
11 回目	観光交通システム論⑪ 航空事業・空港事業・JR 事業との比較について その③ ・ LCC ビジネスの登場、FSC(Full Service Carrier)とLCC、JR 事業との競合等	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
12 回目	観光交通システム論⑫ FSC(Full Service Carrier)の運賃制作（イールドマネジメント）	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
13 回目	観光交通システム論⑬ 航空事業運営における顧客満足の重要性について	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
14 回目	観光交通システム論⑭ 航空会社の運営における顧客満足の重要性について② DVD 教材による事例研究	・ 予習：事前資料を読んでおくこと ・ 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約できるように努める。 ・ 授業確認レポートの作成。 ・ パソコンを持参すること。
15 回目	観光交通システム論⑮ 全体振り返り 確認テストの実施	全体振り返り 確認テストの実施 パソコンを持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU224-Y01	2.科目名	旅行業法・旅行業約款特別演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史、小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野 の実務経験がある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、15名までとします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年9月に実施されます。 旅行業約款は、旅行者と旅行者との取り決めであり、ほとんどの旅行者は標準運送約款を基本としています。 【概要】 この約款のポイントとなる「募集型企画旅行契約」「受注型企画旅行契約」「手配旅行契約」の旅行形態を確認し、取扱いの違いを理解することが重要です。 また、「国内旅客運送約款」では航空券・運賃及び料金・手荷物・責任など、「一般貸切旅客					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②約款と実務の関連について理解すること。 ③旅行業法との関連について理解すること。 関連するDPは、「専門知識・技術の活用力」です。					
19.教科書・教材	* 旅行実務シリーズ「旅行業約款 運送・宿泊約款」 (発行：JTB 総合研究所) * 資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	①観光白書 ②日本旅行業協会 (JATA) のHP ③全国旅行業協会 (ANTA) のHP ④標準旅行業約款					
21.成績評価	* 総括試験 (筆記) 60% (学習目標の①、②、③に対応) * 理解度確認テスト (筆記/3回) 30% (学習目標の①、②、③に対応) * 練習問題 (各授業) 10% (学習目標の①、②、③に対応)					
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用を禁止です。 ?生成 AI 利用に関して ■ 条件付きで認める (生成 AI を記事投稿などの際に記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず自分の言葉で記載すること) ?成績評価に関わる課題における生成 AI の利用の制限 記載内容のヒントを出すために活用してもいいが、必ず最終的に責任を持って確認し、自分の言葉で記載すること)					
23.オフィスアワー	講義終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）	
第 2 回	標準旅行業約款の概要	教科書：標準旅行業約款の部を熟読
第 3 回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約①	教科書：募集型企画旅行契約の部を熟読
第 4 回	標準旅行業約款・募集型企画旅行契約②	教科書：募集型企画旅行契約の部を熟読
第 5 回	標準旅行業約款・受注型企画旅行契約① 第 1 回理解度確認テスト	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第 6 回	標準旅行業約款：受注型企画旅行契約②	教科書：受注型企画旅行契約の部を熟読
第 7 回	標準旅行業約款：特別補償規定	教科書：特別補償規定の部を熟読
第 8 回	標準旅行業約款：手配旅行契約	教科書：手配旅行契約の部を熟読
第 9 回	国内旅客運送約款（日本航空例）	教科書：国内旅客運送約款の部を熟読
第 1 0 回	一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款の部を熟読
第 1 1 回	フェリー標準運送約款	教科書：フェリー標準運送約款の部を熟読
第 1 2 回	宿泊約款	教科書：モデル宿泊約款の部を熟読
第 1 3 回	国際運送約款（日本航空例）	国際運送約款の部を熟読
第 1 4 回	第 3 回理解度確認テスト 重要チェックポイントの解説	教科書：一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款、フェリー標準運送約款、モデル宿泊約款の部を熟読
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：約款全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	TOU225-Y01	2.科目名	ツーリズムモデルⅠ		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 マストーリズムは、観光地の自然環境や生活文化の破壊につながるがありました。1980年代から自然環境や生活文化などの資源を持続させていくようなエコツーリズムの実践が試みられてきています。授業では、エコツーリズムなどのオータナティブなツーリズム・モデルの歴史と事例を紹介して、これからの新しいツーリズムのあり方について考えます。 【概要】 本授業は、エコツーリズム論などのツーリズムモデルをみわたし、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標 1. 授業で紹介する個々のエコツーリズムなどのツーリズムモデルの事例において、そのツーリズムのどんな側面が自然環境や生活文化などの資源を持続させていっているのかについて考えをまとめて説明することができる。 2. 受講生の皆さんがエコツーリズムを実現するためにできることを考え、実践する。その過程や結果について、説明・発表することができる。					
19.教科書・教材	教材は、web class にて、配布します。					
20.参考文献	授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	毎回実施する小テストまたは授業内レポート(25%)…（学習目標 1 に対応） 授業中の発表（宿題や授業内レポートで扱ったテーマについて）(25%)…（学習目標 2 に対応） 中間テストと期末テスト(50%)…（学習目標 1 と 2 に対応） 中間テストと期末テストの記述問題、授業内レポートの記述問題、授業中の発表は、ルーブリック評価で採点します。					
22.コメント	授業では、世界の様々な場所でのエコツーリズムなどのツーリズムモデルについて紹介します。これらの事例は自分の住む場所からは遠い場所の事例かもしれません。しかしながら、それらの事例から、受講生のみなさんは、想像力をふくらませてください。これらの事例をとおして、あなたは、どのように考えるのか、実践するのか、さらにはどのように生きるのかについて考える手がかりとしてください。 期末テストの記述問題のひとつとして「あなたの考える理想のエコツーリズムについて記述してください」という問題を出します。どのように解答するのか、15 回の授業を通して学習するキーワードをを使って、あなたの考えをまとめる準備をしてください。 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み					

学修支援センター：木曜昼休み（尼崎キャンパス）		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回授業	イントロダクション：エコツーリズムの定義とエコツーリズム推進法	「エコツーリズム憲章」を検索して読んでみよう。
第 2 回授業	エコツーリズムの歴史：ガラパゴス諸島のような壮大な自然から里山まで	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 1
第 3 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：西表島・竹富島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 2
第 4 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：石垣島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 3
第 5 回授業	エコツーリズムとグリーンツーリズム、ルールツーリズム、アグリツーリズム 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 1 ）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 4
第 6 回授業	E U の主導する「LEADER+事業」とその後継事業：ツーリズムと地域再生・イタリアとギリシャの事例 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 2 ）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 5
第 7 回授業	英国のルールツーリズムと農村再生の事例：英国の湖水地方の事例から 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 3）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストの準備をしよう。
第 8 回授業	エコツーリズムのルール（1）：ツーリストの責任 授業の後半に、中間テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テスト。
第 9 回授業	コツーリズムのルール（2）：ツーリストを迎える人々の責任 授業の後半に、中間テストのふりかえり	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テストのふりかえり。
第 10 回授業	エコツーリズムにおける交流 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 4）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストのふりかえりを踏まえて、期末テストの準備をしよう。
第 11 回授業	英国の「カントリーサイド・コード」と教育プログラム 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。

	う（その５）	
第 12 回授業	「カントリーサイド・コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その１） 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その６）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 13 回授業	「カントリーサイド・コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その２） 里山をめぐるツーリズム	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 14 回授業	期末テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 15 回授業	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU308-Y01	2.科目名	ツアーガイド実務		3.単位数	2
4.授業担当教員	小泉園栄					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	English communication 学科 Global communication 学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	T40		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students will learn the basic job of the travel and tourism industries and in-depth study of tour guide not only during the tour but thorough follow up before and after each tour. We will go on a field trip as like a real tour. Practice making the itiner					
18.学習目標と DPとの関連	Gain the knowledge of basic travel industry jobs. Gain the professional English communication skills as well as relationship with other industries. Entry level of tour guide					
19.教科書・教材	No textbook is required for this course. Materials will be provided by the teacher. Writing materials and laptop required.					
20.参考文献	Welcome! English for the travel and tourism industry. Cambridge University Press					
21.成績評価	The teacher considers each student's motivation, effort and manner during every lesson, A student's final score is based on: Enthusiasm and high motivation-30% Contents of presentation and role play-30% Assignments and tests - 40%					
22.コメント	To work at tourism industries, you must have extensive knowledges of tourism as well as excellent communication skills. There are no perfect tours, therefore you must be flexible in order to ensure guest satisfaction. Please prepare laptop.					
23.オフィスアワー	If you have any questions, feel free to ask me before or after the class in classroom.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Introduction-Talk about your travel experiences Make a tour plan of your hometown. ①			Prepare for your self-introduction and past travel experiences Research of your hometown. Laptop required.		
Week 2	Presentation of your hometown itinerary. Introduce the charm points in your Hometown. Make an itinerary of Hokkaido area ②			Prepare for the presentation and research next destination Laptop		
Week 3	Presentation of Hokkaido itinerary			Prepare for the presentation and research		

	Review and comment Research and make an itinerary of Tohoku Area ③	next destination Laptop
Week 4	Presentation of Tohoku area Review and comments Research and make an itinerary of Kyushu area ④	Prepare for the presentation and research next destination Laptop
Week 5	Presentation of Kyushu area Review and comments Research and make an itinerary of Chugoku / Shikoku area ⑤	Prepare for the presentation and research next destination Laptop
Week 6	Presentation of Chugoku/ Shikoku area Review and comments Research and make an itinerary of Kansai area ⑥	Prepare for the presentation and research next destination Laptop
Week 7	Presentation of Kansai area Review and comments Select the best plan and prepare for the field trip Selected group- prepare for the field trip Other students- research Kanto area ⑦	Prepare for the presentation and research next destination Laptop
Week 8	Field Trip	Information sheet
Week 9	Field Trip	Information sheet
Week 10	Presentation of Kanto area Review and comment How to make an itinerary of international trip Research Asian countries ①	Make your international itinerary ① Laptop
Week 11	Presentation of Asian countries Review and comments Research and make an itinerary of Canada ②	Make your International trip itinerary ② Laptop
Week 12	Presentation of Canada Review and comments Research and make an itinerary of Oceania ③	Make your international trip itinerary ③ Laptop

Week 13	Presentation of Oceania Review and comments Prepare of European countries ④	Make your international trip itinerary ④ Laptop
Week 14	Presentation of European countries Review and comment Research and make an itinerary of South American countries ⑤	Make your international trip itinerary ⑤ Laptop
Week 15	Presentation of South American countries Review and comment Final assignment African countries ⑥	Complete your final international trip itinerary Laptop

1.授業コード (ナンバリング)	TOU311-A01	2.科目名	アジア文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・ 選択の区分	必修科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	経営 3 年生		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	近年、アジア地域の文化は急速に変化しており、特に IT 産業の発展により、地域ごとの文化が融合し、新しい文化が生まれています。日本、中国、韓国、台湾などでは、華流、韓流、日流といった新しい文化のムーブメントが生まれ、これらはアジア全体の文化的影響力を高めています。経済の成長とともに、アジア諸国は政治や社会構造にも変化をもたらし、国際的な競争力を強化しています。特に、日本を訪れる外国人の 87%がアジア人である現状からも、アジアの文化は世界の中で重要な位置を占めています。 このような変化は、アジア各国の政治、経済					
18.学習目標と DPとの関連	<学習目標と DP との関連> この授業を通じて、関連企業や社会でより専門的な知識が活用できるようになる。 ① アジア国家の人口、GDP、為替、新文化など専門的な内容の説明ができる。 ② アジア国について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③ 留学生との授業やグループワークで多様な理解を高める。 ④ アジアを学んで日本との違いと共通点を発見し、その点をより結び付けることができる。					
19.教科書・教材	WebClass に記載					
20.参考文献	配布する資料					
21.成績評価	授業中で実施するレポート 各自での資料作成とグループでの調査と発表 6 0 % 期末レポート 40%					
22.コメント	異文化に関心がある学生として、グループワークの時、積極的に取り組むことを求めている					
23.オフィスアワー	毎週金曜日お昼、事前予約が必要 尼崎キャンパス 402 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	1 回オリエンテーション PDCA、授業内容説明 AI の活用について			事前に WelClass の資料を確認して関連資料を 準備する		
2 回	文化の定義 文化と文明の差 文化の具体的な構成要素 文化の特徴 新文化論 アジア重要国家					
3 回	中国文化について①講義					
4 回	中国文化について② 中国人留学生らのグループ発表			発表用ノートパソコン		
5 回	韓国文化について①講義					
6 回	韓国文化について ② 映画上映 白磁の人①					

7 回	韓国文化について③ 映画上映 白磁の人②	
8 回	ベトナム文化について①講義	
9 回	ベトナム文化について② 留学生らの発表	発表用ノートパソコン
10 回	台湾文化について⑩	
11 回	香港・シンガポール文化について	
12 回	インドネシア文化について講義 留学生の発表	発表用ノートパソコン
13 回	日本文化について 日本人学生らの発表	発表用ノートパソコン
14 回	アメリカ・文化や GS 経験を発表 世界のゲテモノ	
15 回	期末テストとレポート	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU312-Y01	2.科目名	航空実務 (G コミ学科)		3.単位数	2
4.授業担当教員	小泉園栄					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	T40		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students will learn how airline operates and the relationship between airline, travel agent and hotel.					
	Focus will be placed on the language and professional skills required to perform effectively in the airline industry. Visit KIX for inspection (dependin					
18.学習目標と D P との関連	Improve communicaiton skills, vocabulary, pronunciation and grammatical accuracy followed by real-time working routines of Cabin Attendant.					
19.教科書・教材	Ptints are distributed.					
20.参考文献	English for Cabin Crew] by Terence Gerighty / Shon Davis Published by HEINLE CENGAGE Learning					
21.成績評価	The teacher consider each student's motivation, effort and manner during every lesson,A student's final score is based on: Enthusiasm and high motivation-30% Contents of presentation and role play-30% Assignments and tests - 40%					
22.コメント	If you are interested in airline industries, you'll enjoy this course. Please bring your laptop,					
23.オフィスアワー	If you have any questions, feel free to ask me before or after the class in classroom.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course introduction Self-Introduction (include your airline experiences) Unit 1 The pre-flight briefing Listening Practice introducing yourself Study airline code, Airport code Unit 1 v			Self-introduction ~ Introduce yourself to someone you do not know. Prepare the speech of your airline experiences. Check Airline code, City code Prepare for Unit 1 P6-10 new vocabularies		
Week 2	Vocabulary Test Unit 2 P12-15 Airline code Welcoming Passengers Setting passengers in their seat			Prepare for Unit 2 Vocabulary test p12-15 2 letter code		
Week 3	Unit 2 Vocabulary Test P16-19 Demonstrating safety procedures and checking before take-off Case study			Prepare for vocabulary test Unit 2 P16-19		

Week 4	Vocabulary test Unit 3 P20-23- Unit 3 After take-off and into the flight P20 Getting started P22	Prepare for new vocabularies P20-23
Week 5	Unit 3 Vocabulary test P24-27 Unit 3 Helping to settle passengers Flying children	Prepare for new vocabularies P24-27
Week 6	Vocabulary test p28-31 Unit 4 Food & Drinks Unit 4 Food & drinks Serving drinks	Prepare for new vocabularies P28-31
Week 7	Unit 4 F Duty Free & Case study Vocabulary test Duty Free & Case study	Prepare for new vocabularies Unit 4 Test P32-35
Week 8	Vocabularies test Passenger problem P36-39 Unit 5 Minor passenger problem Dealing with problems	Prepare for new vocabularies Unit 5 Test P36-39
Week 9	Unit 5 Saying sorry, case study P40-43 Vocabulary test Saying sorry P40 Case study P42	Prepare for new vocabularies Unit 5 Test P40-43
Week 10	Unit 6 Is there a doctor on board? P44-47 Vocabulary test Dealing with an on-board accident dealing with a serious medical incident	Prepare for new vocabularies Unit 6 Test P44-47

Week 11	Reporting a medical incident P48-51 Case study Vocabulary test	Prepare for new vocabularies. Unit 6 Test P48-51
Week 12	Unit 7 In-flight emergencies Vocabulary test P52-55 Taking charge in an emergency Preparing for an emergency evacuation	Prepare for new vocabularies Unit 7 Test P52-55
Week 13	KIX Study Terminal 1 Terminal 2 Sky View Museum	Prepare for the airlines flying to KIX
Week 14	(14) Field Trip to KIX	Information sheet
Week 15	(15) Field Trip to KIX	Review & Comments

1.授業コード (ナンバリング)	TOU313-Y01	2.科目名	空港業務	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生または 3 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件	エアラインビジネスまたは航空ビジネス論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 航空産業論を基盤とし、エアラインにおける業務について、具体的なオペレーション上の内容とポイントについて学習し、またその意義について理解する。また、具体的な内容を踏まえ、どのような人材が求められるのか、エアラインを通してサービス・ホスピタリティ産業に求められる人材像を考察する。 【概要】 具体的には、販売・予約部門から空港における旅客運送、貨物運送、運航とエアラインのオペレーションに沿って、具体的な業務を学習し、その上で各オペレーションにおいて共通して求められる点を整理して理解する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(3)多様性理解】 【(4)問題発見・解決力】 【(6)専門的知識・技能の活用力】 に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について述べる事が出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティ産業全体に亘る必要なポイントを理解し、その特徴を述べる事が出来る。 ③講義の内容を踏まえ、自身の適正を見極める中、グローバル人材についての関心・意欲を高めキャリアプランを描く事が出来る。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】(発行 イカロス出版)				
21.成績評価	①授業理解度 (講義内容の理解)・・・40 点 (講義に出席し、配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して自分の考えを記述し、提出する。) ※学習目標①、②、③に対応 ②個人ワーク&グループワーク・・・15 点 (講義の中での設問やグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。) ※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点 (講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる) ※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	空港業務では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、空港などにおける航空会社のオペレーションを学びます。尚、航空実務では航空会社の経営戦略を学びます。履修する学生の皆さんの質問を歓迎します。日頃より観光や航空関係の報道に興味をもって履修してください。 生成 AI 利用：一切認めない。				
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習	

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第2回】	講義【空港運送事業の特性】 一機の航空機が飛ぶために様々な業務の役割と専門性が求められている。航空会社の様々な部署を知る	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義【エアラインの提供するサービスⅠ 保安・安全】 公共交通機関であるエアラインは、安全運航のためにどのような取り組みをしているのかなど、保安と安全の重要性を認識する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義【エアラインの提供するサービスⅡ 定時・快適・利便の追求】 顧客が求めるサービス品質を理解し、専門的な業務により高い品質を提供することが求められている。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義【エアラインの業務Ⅰ 販売・予約部門】 エアラインと顧客を結ぶ部門が提供しているサービスについて理解する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義【運航①（運航業務）：運航乗務員の業務】 飛行機はどうして飛ぶのか？運航乗務員が顧客に行うサービスとは何かなどについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義【運航②（整備業務）：整備士の業務】 航空機の整備の種類や求められる安全上の役割などについて理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義【運航③（運航管理）：オペレーションサポート業務】 気象情報など航空機の運航に欠かせない情報の提供などの業務について理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義【運航④（客室サービス）：客室乗務員の業務】 客室乗務員の業務は多岐に渡り、顧客の目に触れるのはほんの一部である。客室乗務員が航空機に搭乗する意義を捉えなおす。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義【機内サービスを支える様々な仕事】 ケータリング（機内食）など、快適なフライトを支える部署の役割について理解する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義【空港サービス③ グランドスタッフの業務】 空港の様々な場面において、お客様の旅のお手伝いをするグランドスタッフの業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義【空港サービス② グランドハンドリングの業務】 空港で、お客様から見えない場面で業務を実施するオペレーションを支えるグランドハンドリング業務を理解する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義【空港サービス① 貨物部門】 貨物関連のサービスおよびオペレーションをとりあげる。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習

【第 1 4 回】	講義【エアラインのグローバル人財マネジメント戦略】 人財マネジメントの目的を理解し、グローバルに進化し続けるエアラインが求める人材像を探る。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第 1 回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第 1 5 回】	講義【エアラインのオペレーション】 エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回小確認テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU314-Y51	2.科目名	観光まちづくり論	3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之				
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 対面授業を予定していますが、事情によりオンライン講義に変更する可能性があります。	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会におけるまちづくりのあり方について、公園・広場や商店街といった公共空間について講義します。都市では、さまざまな立場や考えを持った人びとが同じ地域や場所で生活しています。こうした、異なる人たちと共に（ときに折り合いをつけながら）どのようにして、いっしょに暮らしていけるのかは、都市でのまちづくりの重要なテーマです。この授業をととして、「社会」という観点から、都市計画やまちづくりについて考える姿勢を身につけることが、本講義の目的です。 【概要】 授業ではまず、都市計画とまちづくりに関する基本				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1、S2 の学修に関連しています。 ①現代社会におけるまちづくりについての基本的な知識や考え方について述べることができる ②身近な公共空間に関心を持ち、そのあり方について自分なりの意見を持ち説明することができる。				
19.教科書・教材	使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。				
20.参考文献	ジェイン・ジェイコブズ（山形浩生 訳）『新版 アメリカ大都市の死と生』鹿島出版会、2010 年 中島直人・村山顕人ほか『都市計画学:変化に対応するプランニング』学芸出版社、2018 年 笹尾和宏『PUBLIC HACK:私的に自由にまちを使う』学芸出版社、2019 年 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書、2015 年 広井良典『商店街の復権——歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024 年 五十嵐太郎『誰のための排除アート？——不寛容と自己責任論』岩波ブックレット、2022 年 その他、適宜授業				
21.成績評価	都市計画に関する小課題：20 点（学習目標①に対応） 商業空間に関するレポート課題：40 点（学習目標②に対応） 公共空間に関するレポート課題：40 点（学習目標②に対応）				
22.コメント	生成 AI 利用については、無制限で認めます。ただし、当然ですが生成 AI で作成した文章をそのままレポートとして提出した場合は、剽窃や盗用・コピペと同様の対応をしますので注意してください。				
23.オフィスアワー	授業内にて説明します				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	[講義] イントロダクション			予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を	

		読み直し、整理すること。
【第2回】	〔講義〕都市計画とまちづくりの基本知識①	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第3回】	〔講義〕都市計画とまちづくりの基本知識②	予習：あらかじめ出題された課題に取り組むこと 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第4回】	〔講義〕公共空間とまちづくり①：都市公園とは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（公共空間）の提示】
【第5回】	〔講義〕公共空間とまちづくり②：都市公園政策の過去と現在	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第6回】	〔講義〕公共空間とまちづくり③：都市公園の管理をめぐる問題	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第7回】	〔活動〕公共空間とまちづくり④：公共空間の管理と「自由」	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第8回】	〔活動〕公共空間とまちづくり⑤：公共空間のデザイン	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第9回】	〔講義〕商店街とまちづくり①：商店街のなりたち（近現代を中心に）	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（商店街）の提示】
【第10回】	〔講義〕商店街とまちづくり②：商店街活性化政策の変遷	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第11回】	〔講義〕商店街とまちづくり③：商店街活性化の現代的課題	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第12回】	〔活動〕商店街とまちづくり④：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第13回】	〔活動〕商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること

【第 14 回】	[活動] 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 15 回】	まとめ	ミニテストに向けて対策をすること

1.授業コード (ナンバリング)	TOU316-Y01	2.科目名	観光政策論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	2 回生～
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義
16.履修制限	ありません。				
17.授業の目的と概要	【目的】観光産業がどのように発展してきたかを学び、その過程で国や自治体がどんな観光政策をとってきたかを理解します。今やコロナ前と比べ、さらに拡大したインバウンドが増加し続けています。一方で、インバウンド増加の影響が及ばない地方も多く残ります。その背景には、国際観光の歴史的転換があります。転換の未来を予測し観光政策を立てる専門家になるための授業です。 「様々な観光現象を分析する視点を持ち、観光の未来を考える力をもつ」 【概要】「世界からみた日本観光とその未来－新しい文化観光の創造へ－」を 15 回に分けてお話				
18.学習目標と DPとの関連	先入観に縛られず、客観的に異文化を理解できる幅広い視野を養うことで、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回 4 月 14 日：観光政策とはどんなことでしょうか	観光学科で学ぶ皆さんの知識を活かして、観光産業を活かした地域づくり、観光政策を学びます。フランスやイタリア、日本でも京都のような世界で有名な都市には優れた観光政策があります。最近の国際観光旅客（インバウンド）の急増の様々な影響を抑えて、質の高い観光文化を発展させています。しかし、観光客の来ない普通の町が多く、どうすれば観光客に来てもらえるか分からずにいます。観光政策には、こうした誘客策もありますが、ポロモーションだけでなく、その町や村を魅力的に演出するまちづくり策、そして観光公害対策があります。この授業では			アサインメント：観光政策にはどんな取り組みがあるか述べて下さい、 事前学習：観光公害と言われるものにはどんな現象があるか述べて下さい。	
第 2 回 4 月 21 日：観光政策の歴史、明治	観光の歴史を振り返ります。江戸時代から旅の習慣、文化が発達し観光関連産業が盛んだった日本では、明治維新後に、外貨を稼ぐために欧米先進国から観光客			アサイメント：『ガリバー旅行記』とはどんな物語化調べて下さい。 事前学習：明治時代にできたホテルを二つ挙	

日本を訪れた 外国人観光客	を集めようと様々な取組みをしました。19 世紀後半、英国の小説『ガリバー旅行記』では、天空の城ラピュタの後、日本にも寄るほど人気の観光地でした。当時、世界旅行事情と開国されたばかりの日本に豊かな欧米人に来てもらい外貨を稼げるかが、日本の観光政策の始まりでした。	げて下さい。
第 3 回 4 月 28 日：戦後の占領軍と外国人観光客、国際観光旅館	明治以降外国人観光客は増えてきましたが、船の旅は長く、まだインバウンドが少なかったのですが、それでも日光や京都などは、国際的な観光地に成長しました。それが、20 世紀の後半、敗戦後に一気に拡大します。まず、占領軍として日本に滞在したアメリカ人が、日本国内を楽しみます。明治時代から発達した洋風のホテルに泊まり、鉄道やバス、それに専用のハイヤーで有名な観光地を楽しみました。その際、各地の旅館も外国人を泊めようと「国際観光ホテル整備法」ができました。でもホテルとは名ばかりの木造の旅館がまだ多く残っていました。	アサイメント：新幹線が開業する前に、JR（当時の国鉄）を走っていた特急列車の名前を調べて下さい。 事前学習：アメリカ人が好む日本の観光地はどこでしょう。調べてみて下さい。
第 4 回 5 月 12 日：高度経済成長期の観光政策	戦後、比較的早くに鉄道が復旧したため、生活に余裕ができた日本人は、平和な時代をよこんで全国各地の温泉に出かけ、山や海を楽しみます。まだ貧しかったのですが、鉄道の団体旅行が盛んになりました。修学旅行も盛んでした。その後、各地に観光客用の道路が整備され、鉄道からバスに乗り換えて、団体で回る習慣が始まりました。その振興を進めたのが、昭和の観光政策です。	アサイメント：日本人の団体観光客が訪れたのはどこでしょう。 事前学習：団体旅行は今は減りました。なぜでしょう。
第 5 回 5 月 19 日：万博という観光政策	1964 年には東京で最初のオリンピックが開催され、同じ年に東海道新幹線が開業、その後 1970 年には大阪で万国博覧会が開かれました。ちょうど高度経済成長期で豊かになり始めた人々は盛んに観光に出ました。東京や京都、日光や各地の温泉に人が溢れ、今でもその当時の賑わいを思い出す人がいます。この時期に、カメラが普及し、マイカーが普及し、また観光ビジネスの形が確立し、パッケージツアーもでき、現在の観光産業の形が整いました。これも国を挙げての観光政策の成果です。	アサイメント：1970 年の大阪万博の会場はどこでしょう。その場所が今どうなっているか述べて下さい。 事前学習：1970 年代に発売されたカメラにはどんな機種があったか調べて下さい。
第 6 回 5 月 26 日：ディスカバー・ジャパン・キャンペーンの登場と成功	1970 年の万博が終わり、新幹線がガラガラになった当時の国鉄、今の JR が進めた観光政策が「ディスカバー・ジャパン」というキャンペーンです。それまで田舎から都会に来ることが多かった観光が、都会から田舎に行くようになりました。その理由は、それまでは農村人口の方が、都市人口より多かったからです。それが逆転したのが 1970 年代、現在では 8 割以上が都市人口、農村は過疎高齢化です。当時は、まだ過疎化し始めたばかりの田舎に、古きよき日本を探しに出かけるのが観光となりました。	アサイメント：ディスカバー・ジャパンキャンペーンには、コマーシャル・ソングがありました。その曲名前を調べて下さい。 事前学習：なぜ、当時の若者は田舎を好んだか考えてみて下さい。
第 7 回 6 月 2 日：アンノン族と町並み保	もう一つの大きな変化が、若者が観光客の中心になったことです。この時代の若者は、女性一人で観光旅行に出かけた最初の世代です。観光地には若者が溢れ、	アサイメント：今までに訪れたことのある歴史的な町並み保存地区を挙げて下さい。 事前学習：女性の一人旅がそれまでほとんど

存、1970 年代の観光政策	特に女性が熱心でした。高齢者が多い今とは大違いです。この女性たちが好んで訪れた先が歴史的な町並み保存地区です。1975 年の文化財保護法改正で、伝統的建造物群保存地区制度が生まれ、京都や金沢、倉敷や妻籠、馬籠などの歴史地区が賑わいました。今も人気の観光地です。	行われなかったのはなぜでしょう。
第 8 回 6 月 9 日：大規模開発と観光政策、リゾート法の時代	観光の拡大が一段落した後、バブル期には豊かで働き過ぎの日本人がもっと休むようにと、リゾート整備の観光政策が始まりました。その後、全国の府県がそれぞれに計画を発表し、中には相当に無理な計画があり、ほとんどの計画が失敗に終わりました。バブル経済が崩壊したからだと言われましたが、そもそも日本にはバカンスの習慣がなく、だからリゾートが根付かなかったと言われます。現在もまだバカンスはありません。一方、なかなか変わらないのが、お正月とお盆の休み、それにゴールデンウィークです。	アサイメント：欧米先進国には当時バカンスという長期休暇制度がありました。何日有給休暇があるでしょう。 事前学習：もしあなたが 1 ヶ月のバカンスがあれば、どこに行きますか。その予算はいくらですか応えて下さい。
第 9 回 6 月 16 日：バブル経済の崩壊と観光政策の失敗、夕張市の破綻	夕張市の財政破綻が起こったのが、2004 年です。北海道の夕張市は明治始めに北海道開拓が始まった時代から大きな炭鉱があり、全国から多くの労働者が集まり、豊かに賑わっていました。20 世紀後半のエネルギー革命で炭鉱は閉鎖され、町は衰退しました。地域経済の再生を観光産業で考えた市長は、「石炭の歴史村」（1983 年）、ロボット大科学館（1988 年）、スキー場などを次々と建てましたが、客が集まらず大赤字、国に隠して公債を発行し、その返済ができなくなりました。大失敗した観光政策の例です。	アサイメント：夕張はその後、どんな再生策を練ったのでしょうか。 事前学習：北海道の地図を見て夕張の位置を探して下さい。神戸から行くためにはどんなコースがあるか調べて下さい。
第 10 回 6 月 23 日：1990 年代の観光政策、ロスジェネは旅に出ない？オルターナティブツーリズム	2000 年代後半から少しずつ日本人の観光行動が減少を始めました。人口減少の影響もありますが、1990 年代に大学を卒業したロスジェネ（失われた）世代（1970～1984 年生れ）が観光に行かなくなった影響があります。バブル崩壊の後の不景気な時代で経済的余裕が亡くなったためです。とはいえ、若い内は地味でしたが、ホンモノ志向の賢い観光を楽しみました。こうして、もう一つの観光、オルターナティブツーリズムが生まれた時代です。エコツーリズムやボランティア活動などがこの中に含まれます。	アサイメント：オルターナティブツーリズムにはどんなものがあるか、少なくとも 10 通り書き出して下さい。 事前学習：バブル経済はなぜ崩壊したのか調べて下さい。
第 11 回 6 月 30 日：高齢社会の観光政策、観光はウェルビーイング？	日本の観光市場では高齢化が進んでいます。日本是世界一高齢化しているからです。特に、2020 年代現在、後期高齢者になる人たちは戦争直後に生れた団塊の世代、日本人で初めて若いころから観光を楽しみ、国内でも国外でも新しい観光地を開いてきた人達です。観光をよく知る世代が高齢化し、最後の観光を楽しんでいます。とはいえ、今の観光が本当に幸せなのか？ウェルビーイングになっているのか、議論されています。何か新しい行動をするのでしょうか？	アサイメント：ウェルビーイングについて述べて下さい。 事前学習：高齢者が好む観光にはどんな目的地があり、どんな乗り物（移動手段）を好むか、考えてみて下さい。
第 12 回 7 月 7 日：観光立国日本の推進、	2003 年「観光立国宣言」を契機に、「観光」は国家的な目標となり、2007 年「観光立国推進基本法」が制定、翌 2008 年に「観光庁」が国土交通省の外局として	アサイメント：テーマパークを作っただけでは観光客は来ません。それはなぜでしょう。 事前学習：成功した観光地と失敗した観光地

インバウンドの登場	解説されました。2011 年東日本大震災があり、2019 年コロナ禍が起こったものの、インバウンドが増え続けています。現在の日本の観光政策は、こうして本格的に始まりました。その背景に、これまで 150 年間の観光政策の積み重ねがあります。観光学を学ぶ皆さんは、その歴史の上に現在の観光政策があることを理解して下さい。素人の思いつきだけでは、政策は立案できません。	を挙げて下さい。
第 13 回 7 月 14 日：京都市の観光政策、京都創生は文化・景観・観光で	京都市は世界的にみても先進的な観光政策を実現してきました。この回は京都を取り上げて、明治、戦前、戦後、1970 年代、バブル期、そしてその崩壊後から現在までの数々の観光政策を解説します。私自身が関わった観光政策です。他では聞けない様々な事情をお話しします。シニア化、女性化、アジア化、デジタル化等の変化を上手に捉えた政策づくりの秘密をお話しします。	アサイメント：今の京都では、どんなインバウンド対策をしているか調べて下さい。 事前学習：京都で訪れたことのある観光地を述べて下さい。
第 14 回 7 月 21 日：中国人観光客に対応する観光政策、インバウンドの制御はできるか？	新しい問題としてインバウンドの増加があります。中国からは膨大な数の観光旅行初心者が日本に押し寄せます。それも当面、おそらく数十年は続きそうです。1970 年代には、日本人が観光初心者として欧米先進国で嫌われていました。今は、その日本人が中国人を見下すような態度をとります。しかし、観光客の行動は直ぐ変容します。短期間で旅慣れ、上手に観光を楽しむ始めます。その変容を促進するのが、インバウンド対策です。	アサイメント：中国人が好む観光地はどこでしょう。 事前学習：訪日中国人観光客数を調べて下さい。
第 15 回 7 月 28 日：観光政策論の様々な手法、交通、土地利用、宿泊施設、飲食店、文化資源の管理	最後に、観光政策の手段として用意された数々の施策をお話しします。観光公害と呼ばれる交通混雑、ゴミ問題、地元住民との対立などの問題は一過性、直ぐに解決できる問題です。ただ、観光政策に慣れていない自治体、それも農村部の自治体にはその施策を知らないでいる場合もあります。観光政策は決して難しいことではなく、常識的なもの。誰もが気づき、実行できることです。細かな内容を整理して詳しく説明します。	アサイメント：授業で述べた施策を列記して下さい。 事前学習：観光公害とは何か述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU317-Y01	2.科目名	エアライン特別演習Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 夏学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	航空産業論および航空実務を履修していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	演習を行うことから 20 名までとなります。					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、航空産業論および航空実務を基盤としてマイレージやアライアンスなど大手エアラインの戦略に関する理解を深め、演習を通じてエアラインの要員として必要となる知識や技能について考察する。 【概要】空港におけるインターンシップで使われる教材をもとに、空港業務で必要となる 3 レターコードや手荷物受託などにおける注意事項など演習形式により理解する。具体的には、搭乗手続き、搭乗ゲート、特別旅客、マイレージサービスなどの各場面における知識を演習を通じて学ぶ。また航空で働くうえで欠かせない航空の現状を知る時事					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(3)多様性理解】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 空港業務の学習目標は、以下のとおりです。 ①エアライン業界を全般的に理解し、一方でその多様性が特徴となるサービス部分に焦点をあわせ、エアラインの業務の構成やサービスに必要な要素について演習を通じて深く理解することが出来る。 ②エアラインを通じて、サービス・ホスピタリティのポイントを理解し、その特徴を述べる事が出来る。また業務の具体的な内容を理解することで安全に寄与することの重要性を学ぶ。 ③演習を通して自身の適正を見極める中、グローバル人材についての関心・意欲を高めキャリアプランを描くことが出来る。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	エアラインオペレーション入門【改訂新版】（発行 イカロス出版）					
21.成績評価	①演習を通じて空港業務に対する理解を深める（毎回の演習におけるレポートの作成）・・・ 30 点 ※学習目標①、②、③に対応 ②空港で必要となる英語能力の習得・・・ 30 点 （演習で使用する英文資料の翻訳など）※学習目標①、②、③に対応 ③空港における業務内容に関わる理解度・・・ 40 点 （航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察する力について演習を通して評価する）※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	エアライン特別演習Ⅲでは夏学期におけるエアライン特別演習Ⅳまたは各空港において開催されるインターンシップに向けた準備を行います。各空港オペレーション業務を演習形式で学び、実業務に向けた知識をその背景も含めて学習します。また、各回において航空に関するニュースを学生が選び、そのニュースに関する考えやコメントを行い、航空における業務について深く理解していきます。更には各回において英文による航空に関する記事を取り上げ、その翻訳を通じて空港の現場で必要となる語学力の向上と空港で使われる特別な表現などの学修を目指します。 生成 AI 利用：一切認めない。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	TOU322-Y01	2.科目名	ブライダルビジネス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は、ブライダル業界の事情を専門的に学習します。 この科目は、ブライダルビジネスの現状と課題を学び、プランニング、会場、サービスなどに関する知識やスキルを統合的に活用し、課題を発見し、課題を解決するための、実践的なビジネス能力を身につけることを目指します。将来、企業などの観光コンテンツの創出やマネジメントすることが目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の2.主体的行動力、問題解決力、3.多様な価値観受容、コミュニケーション能力、K1.地域資源の活用力の学修に関連しています。 ①日本ブライダル業界の仕組みについて概説し、各業種の役割とその特徴を説明できる。 ②客と企業間のバランスが取れたビジネスを提案できる。 ③ブライダルビジネスの構造を理解したマネジメントができる。 ④婚礼の歴史・伝統・文化を幅広く知り、観光立国の日本と結び付けて考えることができる。					
19.教科書・教材	堂上昌幸『新・ウェディングプランナーという仕事』オータパブリケーションズ、2017					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。学習成果の統合、リサーチ、プレゼンテーション等に関するルーブリックに基づいて評価します。ルーブリックに基づく評価方法については、第1回目の授業内で説明します。 1. 発問、ディスカッション、ウェディングプランのアウトラインの作成及びブライダルビジネスマナーの修得…25%【学修目標の①④に対応】 2. 課題1：ウェディングプラン①の作成（個人）…25%【学修目標の①②③に対応】 3. 課題2：ウェディングプラン②の作成（グループ）…25%【学修目標の①②③に対応】 4. 課題3					
22.コメント	・授業時に配布されたプリントを毎回持参してください。質問は授業終了後に教室で受け付けます。 ※課題の作成はエクセル、パワーポイント、メールのスキルが求められます。					
23.オフィスアワー	山手キャンパス：水曜日3限（研究室） 尼崎キャンパス：木曜日昼（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション・授業課題、評価基準の説明			教科書、筆記ノート、筆記用具必須。		
	ブライダル業界の歴史					
	ブライダル業界のいまと未来					
	業界構造とマーケットシェア			課題1 個人ワーク、ウェディングプラン①のアウトライン作成		
	婚礼を作る多彩な業種			課題1 ウェディングプラン①を完成する		
	ウエディングプラン①発表（個人課題提出）					
	神前式、教会式、人前式の流れと披露宴					
	結婚の未来					

	営業と接客について	課題2 ウェディングプラン②のグループ決めと課外ワーク開始
	ウェディングプラン②グループワーク	課題2 ウェディングプラン②案をグループ単位で作成する
	ウェディングプラン②グループワーク	課題2 ウェディングプラン②案をグループ単位で完成する
	ドレスショップビジネスの現状と課題 (学外の元町付近のショップで受講する予定。服装の注意点あり)	
	ウェディングプラン②全体発表	課題3 ウェディングプラン②修正案を作成
	ウェディングプラン②グループワーク振り返り	課題3 ウェディングプラン修正案②を提出
	全体プレゼンテーション&振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU324-Y01	2.科目名	アミューズメントパーク論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的：ディズニーやU S J などのテーマパークを、経営学的観点から理解し、テーマパーク経営における問題発見と解決策を見出す能力を身につけます。 概要：テーマパークの収入は、おもに①入場料、②飲食、③お土産などの物販、で構成されます。どうやってそれぞれの収入を最大化するかについて、例えば「ユニバでいちばん人気のお土産やレストランメニューを企画してみよう！」といった実践的なワークを通じて、深く考察していきます。履修後には、テーマパークの収入・コスト・リスクなどについて、経営的な視点から批判し解決策を提案できるよう					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力と最も深く関連しています。テーマパーク経営において、ゲスト目線だけではなく経営者目線で問題点を発見し、それを解決できる能力を獲得します。その能力の裏付けとして、DP の(6)専門的知識・技能の活用力を、テーマパークの現場で起こっていることをベースに、テーマパーク事業の専門的知識を習得します					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①対象回の「授業のまとめシート」 10 点（各回 1 点×6 回、15 回目のみ 4 点） ?グループワークのプレゼンテーション 30 点（各回 10 点×3 回） グループ得点（5 点満点）、グループ MVP（5 点） グループワークのディスカッションを欠席した場合は 0 点となります。 ?総括試験 60 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守） ■生成 AI 利用に関して【条件付きで認めます】 自ら思考した内容をパワーポイント等のプレゼンテーションで表現する際に、パワーポイント自体の作成やイラストの作成挿入などの目的に限り、生成 AI を利用することができます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！① 今やディズニーを超える人気のユニバ。しかし、過去にはゲストが集まらず、何度も何度も倒産の危機があったのです。つぶれかけのテーマパークが、どうやって大復活したのか？経営側の視点から講義します。			予習：U S J の入場者数の推移をまとめ、その変化の原因を考える 授業のまとめシート：提出 復習：U S J の入場者数の変化の原因をまとめる		
第 2 回	講義：テーマパークの経営は、面白い！②			予習：ディズニーリゾートとU S J のお土産		

	ユニバの大復活の秘訣は、「マーケティング」です。テーマパーク経営において、マーケティングの果たす役割とは？ グループワークを始めます。ユニバでいちばん人気のお土産、または、いちばん人気のレストランメニューを企画します。	とレストランメニュー（メニュー、値段）をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 3 回	グループワーク：ユニバでいちばん人気のお土産 or レストランメニューを作ろう！ グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 4 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 5 回	講義：テーマパークビジネスの全体像① 日本国内主に国内において、アミューズメントパークの経営主体は誰か？歴史的背景と現状、将来について。ひらパーなど、比較的小規模な「遊園地」の経営についても一緒に考えてみましょう。	予習：国内の遊園地やテーマパークを経営しているのはどんな企業かをまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 6 回	講義：テーマパークビジネスの全体像② グローバルテーマパーク先進国であるアメリカや海外も含めて、テーマパークの経営主体は誰か？テーマパークビジネスの収入源は何か？収入を伸ばすために、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：海外のテーマパークの入場料金設定をまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 7 回	講義：テーマパークビジネスの全体像③ テーマパークの経営の基本は「来場者数 x 客単価」です。客単価を上げることの重要性について、学びます。 2 回目のグループワークを始めます。「赤字のテーマパークを救え！」。ここまでの議論・講義を受けて、テーマパークをもっと盛り上げるための具体的な施策を、ご提案ください。	予習：国内のテーマパークの入場料金設定をまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第 8 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！前半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 9 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表 講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 10 回	グループワーク：赤字のテーマパークを救え！後半 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとコメントさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 11 回	プレゼンテーション：グループワークの成果発表	予習：グループで課題を発表できる状態にする

	講義：テーマパークの現場 では実際にテーマパークの中では、何を考え、どんなことが起こっているか？	る 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 12 回	講義：テーマパーク経営のリスク テーマパークは、とてもリスクが高いビジネスです。日曜日の天気予報が雨。それだけで何割も収入が減ってしまいます。どのようなリスクがあるのか？そのリスクに対して、テーマパークが実践している戦略とは？	予習：過去のテーマパークで発生した事故についてまとめる。 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第 13 回	講義：テーマパークビジネスの全体像④ まとめ 企業経営の使命は、顧客満足度を上げながら利益を確保し、次の拡大投資につなげることです。ここまで勉強してきた、テーマパーク事業における収支、リスクなどについて、すべてをまとめて整理します。	予習：これまでの学びを受けて、国内のテーマパークの、主な収入項目と支出項目を書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：総括試験へ向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと総括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	総括試験結果返却 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	予習：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	TOU325-Y51	2.科目名	観光施設デザイン論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部の受講を歓迎します。			9.履修学年	2 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	観光産業を支える様々な施設には、旅館業法と建築基準法や都市計画法、消防法や食品衛生法など様々な決まりがあります。遊園地には興業場法、空港や港湾、鉄道にも様々な法制度があります。また、長年の間に設計・デザインの工夫もなされ、様々な知見が積み重ねられています。そこでこの授業では、 【目的】観光施設全般の法制度を知り、その運営に関わるために必要な専門知識を身に付ける 【概要】そのため、まず観光施設全般を見通し、その概要を理解するとともに、施設の規模、構造、機能、安全性など基礎的な知識を習得し、法制度上求められる					
18.学習目標と DPとの関連	【本科目の学習目標】 下記を説明できること： ①観光施設の種類と役割 ②観光施設を定めた関連法規の主な内容と施設との関係 ③観光施設の安全のために配慮すべき事項 以下に挙げる観光学科の【DP（ディプロマ・ポリシー）に関連】しています。 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。					
19.教科書・教材	授業中の資料を配布します					
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『中心市街地の創造力 暮らしの変化をとらえた再生への道』学芸出版社 2007 宗田好史『町家再生の論理 創造的まちづくりへの方途』学芸出版社 2009 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリア					
21.成績評価	講義の後に簡単な課題のプリントを課すことがあります。その提出が出席の確認にもなります。期末は試験でなく、テーマを決めた最終レポートにする予定です。日程の都合で 16 回目の授業日（期末試験期間中）に 1 コマで書けるレポートに代える場合があります。 最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 2 コース(学修支援センター)、木曜 4 コース（研究室/3-308）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 4 月 9 日：観光施設	ガイダンス：“観光施設”とは何でしょう？いろいろな観光施設を紹介しながら、その種類を確かめて、半年の			事前学習：観光施設にはどんなものがあるか、書き出して下さい。		

のデザインを学ぶ	間に何を学ぶかの全体像をお話します。代表的なものはホテルや旅館などの宿泊施設、テーマパークや博物館、そして文化遺産（文化財）です。加えて、空港や港湾、鉄道も重要な観光施設です。その内容は様々ですが、一つ一つに決まりがあって、それは多くの法律で決められています。一見では無駄に見える決まりは、よく知るとなるほどと思えるものばかりです。快適さ、便利さ、美しさ、そして何よりも安全性などが決まりごとの意味です。長い	アサイメント：ホテルと旅館の危険性とは何か、調べてみて下さい。
第2回 4月16日：観光施設の種類、建築上の問題、特に防災と衛生	前回に続いて、観光施設の種類を大きく分類して、その役割を述べていきます。この授業では、宿泊施設、交通機関と施設、道路施設、テーマパークと遊園地、博物館や文化施設、文化財、最後に観光客対応として混雑を避ける施設や安全を確保する施設を紹介しします。次に、それぞれの施設の役割や機能、安全基準などを決めている法律を紹介しします。建物や工作物には建築基準法があり、宿泊施設には旅館業法、飲食には食品衛生法があります。また、防災は消防法が決められています。その主な内容を述べ、次回以降の進め方を案内します。	事前学習：建築基準法について調べて下さい。 アサイメント：今日の授業で紹介した法律を上げ、一つ一つ概要を述べて下さい。
第3回 4月23日：ホテルと旅館、どんな歴史があるか、またどんな事故が起きたか	この回は、ホテルと旅館のお話です。別の授業でホテル旅館の歴史を紹介していますので、観光施設デザイン論では、その構造と安全の詳しい話、つまり火災や自然災害などどんな事故が起こり、そのたびに基準が改められてきた点を紹介します。観光客が増えたので増築した旅館やホテルが多かった時代には、安全も十分に考えられませんでした。また、ホテルや旅館は多くの人が集まる建物です。コロナ禍で皆さんも経験した様に伝染病の危険もあります。その事故の様子も話します。	事前学習：「在郷軍人病」は1976年アメリカのフィラデルフィアで発見された病気です。調べてみて下さい。 アサイメント：火災予防はなぜ必要か述べて下さい。
第4回 4月30日：ホテル火災と食中毒を知る	前回に続いて、ホテル火災と食中毒の話です。今回は飲食店に適応される食品衛生法のお話しです。火災時の避難路の確保、食品取扱業務で指摘される洗い場やトイレの配置、宿泊施設や飲食店では、施設の平面図を保健所や消防署に提出することが義務付けられています。その仕組みを知り、自分で簡単な配置図を描いてみます。その原理は簡単です。危険の内容を十分に知り、徹底して安全性を確保することです。	事前学習：ホテルにはどんな避難路の案内があるか知っていることを述べて下さい、 アサイメント：飲食店の配置図を書いて提出して下さい。
第5回 5月7日：空港の設計、世界の空港を見比べる	空港施設とは、航空機の発着陸と湯道路、駐機場や整備工場の他に、利用客だけでなく、空港と航空機の監理運営用の車の道路と駐車場、これら土木構築物と利用客と管理、運航に関わる人のための各種建築物があります。観光学科ですから、主に建築それも利用客用のスペースの話に限りますが、それだけでも十分複雑な内容です。空港建物の場合の安全は防災だけでなく治安、テロ対策です。皆さんも空港のセキュリティチェックはよく知っているはずです。その仕組みとデザインの話です。	事前学習：今まで利用したことのある空港を上げ、その建物の様子を調べて下さい。 アサイメント：セキュリティチェックにはどんな種類があるか述べて下さい。

第 6 回 5 月 14 日：空港から都市への交通施設	どの国、どの都市でも空港から都市への道のりは便利に造ります。とはいっても大勢の人が働き暮らす都心部や住宅密集地の近くに空港は造れません。成田空港や関西空港のように遠い場合が多いのですが、鉄道や高速道路を便利にし都心と結びます。その交通結節の仕組みを学びます。また空港への道沿いには、昔はホテルが、今では免税店やアウトレットモールが集まっていて、インバウンドがよく利用します。これは、都市計画で、住民と観光客を隔離する手段です。両者の動線を話し、インバウンドの増加による市民生活への影響を抑えるためです。	事前学習：三ノ宮から関西空港へのアクセスを 3 通り以上調べて、それぞれの所要時間を述べて下さい。 アサイメント：動線を分けることのメリットとデメリットを述べて下さい。
第 7 回 5 月 21 日：鉄道の旅、駅の設計と駅前広場	航空機ができるまでは、大型船で大きな港に着き、鉄道で都市に移動しました。神戸港に着けば鉄道で大阪や京都に、横浜港に着けば鉄道で東京（新橋）に移動しました。そのため、どの都市でも中央駅に賓客を迎える施設が整備されました。主要な駅前には大型ホテルが建ち、訪問客だけでなく、地元住民の大きなパーティも開かれました。観光施設はこうして駅周辺に集中していました。一方、今は車を使います。空港からリムジンバスで直接ホテルに移動しますから、大きな駅は通りません。駅は空港や港ではなく、国内の他都市に移動する新幹線のためのもの	事前学習：皆さんが知る最も大きな駅を挙げ、どのくらい大きいか述べて下さい。 アサイメント：神戸港に船で着いた客が鉄道で移動する場合、どの駅を使うか考えて下さい。
第 8 回 5 月 28 日：もう一つの軌道、ケーブルカーとロープウェイ、山岳鉄道の旅	観光施設にはスイスなど山岳の観光開発に使われたケーブルカーやロープウェイがあり、日本各地でも数多く使われています。中でも黒部アルペンルートはその長さ、多様さで有名です。ただ値段がとて高く、最近では利用客も減っています。同様に海にも高速の水中翼船やフェリーなどが整備されましたが、利用客が減り困っています。老朽化しても新しくできないのです。老朽化した施設をどう再生し、観光地を維持していくかが今回のお話しです。	事前学習：皆さんが利用したことのあるロープウェイを紹介して下さい。 アサイメント：神戸市内のロープウェイの利用状況を調べて下さい。
第 9 回 6 月 4 日：船の旅、クルーズ船の設計と港湾、世 tt - ハーバー	神戸港には今もクルーズ船が寄港します。アメリカのカリブ海クルーズ、ヨーロッパの地中海クルーズと比べ、日本と中国韓国のクルーズは比較的最近になって導入されました。そのため港の施設整備も遅れ、港から観光地へのアクセスも良くありません。加えて、日本人自身があまり使ったことがないので、いかに不便かも感じていません。そこで、クルーズ船が寄港する世界の港湾都市を見て、今後の神戸や横浜のクルーズ船とその客への対応策、施設のデザインを考えます。	事前学習：クルーズ船の大きさ、乗船客数を調べて下さい。 アサイメント：神戸港をもっと便利にするアイデアを出して下さい。
第 10 回 6 月 11 日：博物館と美術館、そして博覧会と展示会	博物館や美術館は 19 世紀に発達しました。18 世紀の市民革命で王侯貴族が集めていた美術品が国民に解放されたからです。そのためルーブルやベルサイユなど昔の王宮が美術館に変わりました。アメリカでは王侯貴族がいなかったため、ヨーロッパを真似て国やお金持ちが新しく建てたものです。収蔵品は民間からの寄付で始まりました。その歴史も二百年になり、その存在自体が再検討されています。そこで、ユニークヴェ	事前学習：神戸市立美術館にはどんな美術品があるか調べて下さい。 アサイメント：美術館や博物館で展示を見る以外にどんな活動ができるか考えて下さい。

	ニューという従来の展示を回覧するのではない、新しい見せ方、使い方が登場しました。最近の事情をお話しします。	
第 11 回 6 月 18 日：文化遺産とその周辺の施設デザイン	関西には多くの世界文化遺産が集まっています。でも観光客が訪ねる遺産は京都と奈良、姫路城が多く、古墳群や紀伊山地は少なめです。世界遺産に登録されたからと言って観光客が増えるわけではないのです。京都市内には 14 の世界文化遺産がありますが（この他、宇治市に 2 つ、大津市に 1 つあり、古都京都で 17 あります）、その中にも訪問者数の多い少ないには差があります。その違いは文化遺産周辺の観光施設が原因です。魅力的な店が多い歴史的な町並みがあれば、多くの観光客が来るのです。周辺施設のデザインはとても大切です。	事前学習：関西にあるユネスコ世界文化遺産をすべて挙げて下さい。 アサイメント：世界遺産周辺の街で言ったことのある場所を教えてください。
第 12 回 6 月 25 日：マイカー観光と道の駅、リゾート地の設計	自動車で観光することが日本で流行ったのは 1960 年代～70 年代、今は逆に車を降りて公共交通で回ることが主流です。とはいえ、公共交通のない田舎には車でなければ行けません。欧米先進国では人の少ない田舎の観光地も人気で、レンタカーで回る外国人観光客が多くいます。日本人もハワイでは沖縄同様レンタカー利用が盛んです。その日本で台湾人を始めインバウンドのレンタカー利用が進み、丹波や淡路、瀬戸内海各地を回っています。そのための観光施設に"道の駅"がありとても賑わっています。その設計の様子を学びます。	事前学習：道の駅で知っているところを挙げて下さい。 アサイメント：道の駅を改善するとすれば、どんな点を考えますか？
第 13 回 7 月 2 日：テーマパークと遊園地、	テーマパークと遊園地のお話しです。オリエンタルランドのディズニーと大阪の USJ は成功例ですが、全国的には多くの遊園地が危機にあります。子供が大きかった昔と違い、子供連れだけでは客が増えないのです。夕張市のテーマパークの失敗が有名ですが、北九州市スペースワールドや倉敷市のチボリ園なども廃止されました。大阪でもフェスティバルゲートは成功例でしたが、たった 10 年で廃止しました。成功と失敗、その違いは施設計画にあるのか、マーケティングの上手い下手なのか、観光施設デザイン論では、その違いを掘下げます。	事前学習：皆さんが知っているテーマパークで今はないものを挙げて下さい。 アサイメント：これからもっと少子化が進みますが、テーマパークの生き残る術を考えて下さい。
第 14 回 7 月 9 日：観光公害の克服、施設デザインで解決する観光混雑	観光公害としてあげられるのは、交通混雑、ゴミ問題、それに住宅地の民泊（B＆B）のインバウンドが周辺住民に迷惑をかけるというものです。これは、観光交通施設、観光地のごみ処理施設、市内宿泊施設管理と観光客と住民の動線分離の設計など、施設計画で解決できることが多くあります。交通混雑には道路渋滞と公共交通（バス・地下鉄）混雑があり、半世紀前に都市への人口集中で経験したほどの深刻さはないのが実情です。その割に住民が嫌がるのはなぜでしょう。まあ、慣れていないからというのが普通の説明ですが、マナーの問題など精神面も無視	事前学習：これまで経験したことのある観光混雑について紹介して下さい。 アサイメント：最終回に備えて、これまでの授業の内容を簡単にまとめて下さい。
第 15 回 7 月	最終回は観光施設デザインの未来を考えます。ホテル	事前学習：最終レポートの課題を述べますの

16日：これらの観光施設のデザイン	旅館、空港港湾、鉄道、観光地の施設、文化遺産や博物館、遊園地それぞれに急速な変化に直面しています。ただ、それは日常のことです。観光施設には流行があり、直ぐ廃れるものなのです。今成功しているからと言って、永遠に続かない。変化に対応することが施設デザインの務めです。だから最後には観光マーケットの変化をもう一度予測することに帰着します。近未来の確実な変化は高齢化です。だからウェルビーイングが語られます。この授業でも、ウェルビーイングから見た観光施設デザインを検討し	で、テーマを決めておいて下さい。 アサイメント：最終回なのでレポートはありません。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU328-Y01	2.科目名	旅行業演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 回生～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」を受験するためのお手伝いをします。 この資格は、観光業界を目指す人には、かつてほどではありませんが有利です。 この試験は、毎年9月に行われます。 旅行業務にかかわる取引の不正から消費者を守るために、業務を取扱うものに公正の維持を教え、旅行者の安全を確保し、旅行者に不利で不便な、旅行業者の利益増進だけに走らないために制定された、国が旅行業を取り締まる制度です。今も不正が残る業界です。単に試験対策としてでなく、コンプライアンスを重視する社会人の自覚を促します。 【概要】					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②法律と旅行業実務の関連について理解すること。 ③旅行業のルールを理解することで、観光関連産業の理解を深める。 関連するDPは、「専門的知識・技能の活用力」です。					
19.教科書・教材	＊旅行業実務シリーズ「旅行業法およびこれに基づく命令」（発行：JTB 総合研究） ＊資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	＊観光白書 ＊日本旅行業協会（JATA）のHP ＊全国旅行業協会（ANTA）のHP					
21.成績評価	＊総括試験（筆記）60%（学習目標の①、②、③に対応） ＊理解度確認テスト（筆記/3回）30%（学習目標の①、②、③に対応） ＊練習問題（各授業）10%（学習目標の①、②、③に対応）					
22.コメント	①教科書、参考文献などで、予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。実施要領は、事前の授業で説明します。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。					
23.オフィスアワー	授業終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション（授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明）					
第2回	旅行業法の概要（旅行業約款、各種運賃・料金との関連）			教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読		
第3回	旅行業法（登録制度）			教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読		

第 4 回	旅行業法（営業保証金制度） 第 1 回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 5 回	旅行業法（旅行業務取扱管理者、旅行業務取扱料金）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 6 回	旅行業法（外務員、広告表示など誇大広告の禁止）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 7 回	旅行業法（旅程管理）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 8 回	第 2 回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 9 回	旅行業法（受託契約、旅行業者代理業、禁止行為、登録の取消など）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 0 回	旅行業法（旅行業協会、役割）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 1 回	旅行業法（旅行業協会、取り決め）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 2 回	旅行業法（雑則・罰則）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 3 回	第 3 回理解度確認テスト	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 4 回	重要チェックポイントの解説（旅行業者と旅行業協会など）	教科書：旅行業法及びこれに基づく命令の熟読
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：旅行業法全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	TR2203-Y01	2.科目名	エコツーリズム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 マスツーリズムは、観光地の自然環境や生活文化の破壊につながるがありました。1980年代から自然環境や生活文化などの資源を持続させていくようなエコツーリズムの実践が試みられてきています。授業では、エコツーリズムなどのオータナティブなツーリズム・モデルの歴史と事例を紹介して、これからの新しいツーリズムのあり方について考えます。 【概要】 本授業は、エコツーリズム論などのツーリズムモデルをみわたり、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標 1. 授業で紹介する個々のエコツーリズムなどのツーリズムモデルの事例において、そのツーリズムのどんな側面が自然環境や生活文化などの資源を持続させていっているのかについて考えをまとめて説明することができる。 2. 受講生の皆さんがエコツーリズムを実現するためにできることを考え、実践する。その過程や結果について、説明・発表することができる。					
19.教科書・教材	教材は、web class にて、配布します。					
20.参考文献	授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	毎回実施する小テストまたは授業内レポート(25%)…（学習目標 1 に対応） 授業中の発表（宿題や授業内レポートで扱ったテーマについて）(25%)…（学習目標 2 に対応） 中間テストと期末テスト(50%)…（学習目標 1 と 2 に対応） 中間テストと期末テストの記述問題、授業内レポートの記述問題、授業中の発表は、ルーブリック評価で採点します。					
22.コメント	授業では、世界の様々な場所でのエコツーリズムなどのツーリズムモデルについて紹介します。これらの事例は自分の住む場所からは遠い場所の事例かもしれません。しかしながら、それらの事例から、受講生のみなさんは、想像力をふくらませてください。これらの事例をとおして、あなたは、どのように考えるのか、実践するのか、さらにはどのように生きるのかについて考える手がかりとしてください。 期末テストの記述問題のひとつとして「あなたの考える理想のエコツーリズムについて記述してください」という問題を出します。どのように解答するのか、15 回の授業を通して学習するキーワードをを使って、あなたの考えをまとめる準備をしてください。 ?生成 AI 利用に関しては、■ 条件付きで認めます。授業で説明します。					
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：木曜昼休み（尼崎キャンパス）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回授業	イントロダクション：エコツーリズムの定義とエコツーリズム推進法	「エコツーリズム憲章」を検索して読んでみよう。
第 2 回授業	エコツーリズムの歴史：ガラパゴス諸島のような壮大な自然から里山まで	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 1
第 3 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：西表島・竹富島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 2
第 4 回授業	エコツーリズムの歴史：沖縄県の事例から離島とエコツーリズムについて考える：石垣島の事例紹介	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 3
第 5 回授業	エコツーリズムとグリーンツーリズム、ルーラルツーリズム、アグリツーリズム 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 1 ）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 4
第 6 回授業	E U の主導する「LEADER+事業」とその後継事業：ツーリズムと地域再生・イタリアとギリシャの事例 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 2 ）	WebClass で配布する資料や文献を授業前によく読んで、予習してください。「エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう」その 5
第 7 回授業	英国のルーラルツーリズムと農村再生の事例：英国の湖水地方の事例から 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 3）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストの準備をしよう。
第 8 回授業	エコツーリズムのルール（1）：観光客の責任 授業の後半に、中間テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テスト。
第 9 回授業	エコツーリズムのルール（2）：観光客を迎える人々の責任 授業の後半に、中間テストのふりかえり	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。授業の後半に中間テストのふりかえり。
第 10 回授業	エコツーリズムにおける交流 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 4）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。中間テストのふりかえりを踏まえて、期末テストの準備をしよう。
第 11 回授業	英国の「カントリーサイド・コード」と教育プログラム 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 5）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。

第 12 回授業	「カントリーサイド・コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その 1） 発表：エコツーリズムに関わるような看板・標識をグループで集めて、分類して、グループごとに発表しよう（その 6）	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 13 回授業	「カントリーサイド・コード」教育プログラムの活動を実践してみよう（その 2） 里山をめぐるツーリズム	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 14 回授業	期末テスト	WebClass で配布する文献を読んで討論してグループごとに発表しよう。期末テストの準備をしよう。
第 15 回授業	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT115-A01	2.科目名	ライティング総合 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修（中英 語 1 種）	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	中学校英語Ⅰ種、高等学校英語Ⅰ種 の免許取得希望者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	1. Build more complex sentence structures through sentence-combining exercises 2. Learn to organize ideas logically into a cohesive and coherent paragraph 3. Learn formal writing for professional communication 4. Create a writing portfolio					
18.学習目標と DPとの関連	(1)Increase the variety and complexity of sentence structures. (2)Write paragraphs with a clear topic, supporting, and concluding sentences. (3)Write emails using formal writing conventions. (4)Develop a writing portfolio that demonstrates mastery. In accordance with the Kansai University of International Studies' Diploma Policy, this course will equip students with the following skills: (1)The ability to independently compose effective essays through the drafting and revision process, demonstrating intermediate-level self-initiative. (2)The ability to create essays that engage people from diverse cultures by utilizing various rhetorical approaches and argumentative strategies, demonstrating intermediate-level intercultural understanding. (3)The ability to express opinions effectively in English through paragraph-level writing, demonstrating intermediate-level communication skills.					
19.教科書・教材	Ready To Write 2: Perfecting Paragraphs (5th Edition) by Karen Blanchard and Christine Root. ISBN: 978-0-13-439932-4. Please purchase this as soon as possible. Available through Maruzen.					
20.参考文献	Eigo Raitingu no Genri Gensoku written by Taiki Yamaoka, published by T.S. Kikaku in 2018 （「英語ライティングの原理原則」山岡大基 テイエス企画 2018 年 ） Mottomo Shimpuru Na Eigo Raitingu Kougi written by Ippei Inoue, published by Keio Gijuku Shuppan-kai in 2022 （「もっともシンプルな英語ライテ					
21.成績評価	Final exam: 40% In-class/homework task (10% ×3 essays): 30% Quizzes: 30%					
22.コメント	(1)Please bring your laptop to class to complete some essay tasks. (2)If you are unable to attend due to illness or any other reason, please notify us as soon as possible by email.					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

Week 1	Day1 Orientation : Introducing the syllabus, and class rules. Writing an email Day2 Chapter 1 Getting organized	About Me writing PC Homework Read 'Introduction' of the textbook, Ready to Write 2
Week 2	Day3 Chapter 1 Getting Organized Grammar: capitalization and punctuation Day4 Chapter 1 Vocabulary, idioms Peer/group work	About Me Reply PC Homework assignment Chapter 1: On your own
Week 3	Day5 Chapter 2 Understanding Paragraphs Paragraph form, topic sentence, unity Day6 Chapter 2 Grammar: Compound sentences Vocabulary, idioms Peer/group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week 4	Day7 Chapter 3 Organizing Information by Time Order Signal words, Writing titles for paragraphs Grammar: preposition of time Day8 Chapter 3 Vocabulary, idioms Peer/ group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week5	Day9 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance Write a paragraph listing the supporting ideas in order of importance Day10 Chapter 4 Grammar: gerunds, comma splices Voca	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week6	Day11 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order Write a paragraph describing a place using spatial order, Organizing details Day12 Chapter 5 Grammar: Prepositions of place V	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week7	Day13 Chapter 6 Understanding the Writing	Homework

	Process Write a paragraph using the three steps of the writing process Day14 Chapter 6 Grammar: Sentence fragments Vocabulary, idioms	Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week8	Day15 Chapter 7 Supporting the Main Idea Write a paragraph using charts, graphs, and quotes to support the main idea Day16 Chapter 7 Grammar: Introducing examples, punctuating quotes	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week9	Day17 Chapter 8 Explaining a Process Write a paragraph describing the steps in a process Day18 Chapter 8 Grammar: Imperative sentences Vocabulary, idioms Peer/group work	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week10	Day19 Chapter 9 Writing Descriptions Write a paragraph using descriptive details about a person, place or thing Day20 Chapter 9 Grammar: order of adjectives Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week11	Day21 Chapter 10 Expressing Your Opinion Write a paragraph that expresses your opinion on a number of topics Day22 Chapter 10 Grammar: run-on sentences Vocabulary, idioms	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week12	Day23 Chapter 11 Comparing and Contrasting Write a paragraph comparing or contrasting two people, experiences, or things Day24 Chapter 11 Grammar: sentence patterns of comparison	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.

Week13	Day25 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects Write a paragraph describing the causes or effects of an event Day26 Chapter 12 Grammar: complex sentences with because and since	Homework Review the chapter. Finish the rest of the exercises.
Week14	Day27 Chapter 13 Writing Summaries and Answering Test Questions Write a paragraph that summarizes an article of a story Day28 Chapter 13 Grammar: agreement of subjects and verbs Vocabulary,	Homework Review the chapter. Prepare for the final exam
Week15	Day29 Final exam Day30 Consolidation Final exam Q&A session reflection	Homework Review the chapter.

1.授業コード (ナンバリング)	WRT115-Y01	2.科目名	ライティング総合1 L3(2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳					
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：以下のライティング技術を修得すること 1) Basic sentence structures 2) Paragraph structure 3) Planning & Outlining (Brainstorming) 4) Revising (self and peer evaluation) 概要：上記の目的達成の為に、ライティングを行い、添削と相互評価を通して、アカデミック・エッセイを修得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業では academic essay の基礎を学び、テーマに沿ったエッセイが書けるようになることを目標とする。 1) Sentence Combining and Modifiers 2) Develop better sentences, paragraphs, and essays through academic writing models and extensive practice. 3) Develop skills in brainstorming and planning an academic paragraph 4) Self & Peer Assessment					
19.教科書・教材	Ready to Write 1 (Karen Blanchard. C) Person ISBN 9780134400655					
20.参考文献	PC, Electric/Paper dictionary					
21.成績評価	平常点 50 点、中間試験(Mid-term test) 20 点、総括試験(Final test) 30 点					
22.コメント	* 授業中の携帯電話の使用を禁止します。 * テキスト忘れや、授業に参加していない(携帯を見ている/居眠り/私語など)、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 * 授業内での活動及び assignments を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 * 提出期限が過ぎた assignments、エッセイなどは受理しないので点数はゼロである。 * 翻訳機の使用や剽窃が疑われるエッセイの点数はゼロである。 * やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次の授業に臨んでください。 * 授業は主に教科書に沿って進めていきますが、授業内活動としてペアやグループによるタスク等を行います。したがって、積極的な参加姿勢で授業に臨んでください。					
23.オフィスアワー	Questions are welcome via email or before/after the class.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Day 1 Course introduction Day 2 Chapter 1 About Yourself					
Week 2						

	Day 3 Chapter 1 Day 4 Chapter 1	
Week 3	Day 5 Chapter 2 Family & Friends Day 6 Chapter 2	
Week 4	Day 7 Chapter 2 Day 8 Chapter 3 Activities	
Week 5	Day 9 Chapter 3 Day 10 Chapter 3	
Week 6	Day 11 Chapter 4 Giving Instructions Day 12 Chapter 4	
Week 7	Day 13 Chapter 4 Day 14 Chapter 5 Your Day、中間試験の準備	
Week 8	Day 15 中間試験 Mid-term test Day 16 Chapter 5	
Week 9	Day 17 Chapter 5 Day 18 Chapter 6 Descriptions	
Week 10	Day 19 Chapter 6 Day 20 Chapter 6	
Week 11	Day 21 Chapter 7 Places Day 22 Chapter 7	
Week 12	Day 23 Chapter 7 Day 24 Chapter 8 Narrative	
Week 13	Day 25 Chapter 8 Day 26 Chapter 8	

Week 14	Day 27 Chapter 9 Opinion Day 28 Chapter 9	
Week 15	Day 29 Chapter 9 Day 30 総括試験 Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT115-Y02	2.科目名	ライティング総合 1 L3(1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	2 年 L 3	
10.取得資格の要件	中・高英語 1 種教員免許		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、ペアワーク		
16.履修制限	学科のクラス指定に従う					
17.授業の目的と概要	目的: Students learn the structure of a paragraph and its important elements, and then start writing various types of paragraphs, such as descriptions, explanations, and statements. These writing tasks will develop their academic essay writing. 概要: Studen					
18.学習目標と DP との関連	学習目標 1. Students can write various types of paragraphs and revise them with both peer and instructor review and correction. 2. Students can acquire skills of critical thinking and express their opinions through writing. DP (4) Find & Solve Problems (問題発見・解決力) & (5) Communication Skill (コミュニケーション・スキル)					
19.教科書・教材	教科書 「パラグラフ構成要素から学べるパラグラフ・ライティング入門」Writing Accelerator 静 哲人 松柏社 ISBN978-4-88198-790-2 ¥2,100 (税別) 配付資料 Web Class で配布					
20.参考文献	紙または電子辞書 (英和または英英) を必ず、持参すること					
21.成績評価	Draft 1: 6 回× 2 点 = 12, Draft 2 & 3: 12 回× 3 点 = 36, Report 6 回× 5 点 = 30, 総括試験: 22 学習目標 1・2 に対応 * 合格基準: Draft は 18 回中半分以上、Report は 6 回中 5 回以上提出し、総括試験受験 * 総括試験は、対面・筆記で実施 (辞書のみ参照可)					
22.コメント	1) 毎回、辞書を持参すること (スマホ辞書は使用を禁止する)。辞書なしでの受講は認めません。 2) 下書き(draft) を 3 回経て、レポートにまとめるので、欠席すると下書きが停滞し、相互評価を受けることもできず、レポート作成に影響が出ます。 3) 授業は、原則として日本語で実施します。 4) 交通機関の障害、その他の災害などにより、対面授業が困難な場合は、可能な限り遠隔授業を実施します。 その場合は、Zoom の URL を WebClass のメッセージで早朝に送信するので、必ず確認してください。 本人の確認ミスで遠隔授業に参加できない場合は、欠席扱いになります。 5) 授業中のスマホ使用は禁止します。 6) 教科書を必ず購入すること。購入しない者は、履修辞退とみなします。					

	7) 生成 AI の使用を禁止します。一部でも使用した提出物は、0 点の評価にします。	
23.オフィスアワー	なし	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	1 Unit 1 パラグラフと段落の違い、補足資料 1 2 Unit 2 Topic Sentence で要点を宣言、補足資料 2	1) シラバスにしたがって、教科書の該当箇所を予習すること。 2) 辞書は毎回持参すること
	3 Unit 3 Supporting Sentences でサポート、補足資料 3・4 4 Unit 4 Concluding Sentence で念押し、補足資料 5	
	5 補足資料 6, 7, 8, Unit 5: Describing Your Favorite Place 1 (Draft 1) 6 Unit 5: Describing Your Favorite Place 2 (Draft 2)	不正行為を防止するために、すべての英文作成は授業時間内に行い、WebClass へ提出することとします。したがって、宿題・課題等の教室外作成はありません。
	7 Unit 5: Describing Your Favorite Place 3 (Draft 3) 8 Unit 5: Describing Your Favorite Place, Report 1	毎回、レポートの採点基準を提示するので、それにしたがって作成すること。
	9 Report 1 相互評価, Unit 7: Expressing Your Opinion 1 (Draft 1) 10 Unit 7: Expressing Your Opinion 2 (Draft 2)	レポートの相互評価は、提出者のみで行います。 未提出者は、参加できません。
	11 Unit 7: Expressing Your Opinion 3 (Draft 3) 12 Unit 7: Expressing Your Opinion 3, Report 2	
	13 Report 2 相互評価, Unit 8: Giving Advice and Instructions 1 (Draft 1) 14 Unit 8: Giving Advice and Instructions 2 (Draft 2)	
	15 Unit 8: Giving Advice and Instructions 3 (Draft 3) 16 Report 3 相互評価, Unit 9: Comparing and Contrasting 1 (Draft 1)	
	17 Unit 9: Comparing and Contrasting 2 (Draft 2) 18 Unit 9: Comparing and Contrasting 3 (Draft 3)	
	19 Unit 9: Comparing and Contrasting 4, Report 4 20 Report 4 相互評価, Unit 11: Narrating Past Events 1 (Draft 1)	
	21 Unit 11: Narrating Past Events 2 (Draft 2) 22 Unit 11: Narrating Past Events 3 (Draft 3)	
	23 Unit 11: Narrating Past Events 4, Report 5 24 Report 5 相互評価, Unit 12: Describing Data Expressed in Graphs 1	
	25 Unit 12: Describing Data Expressed in Graphs 2 (12-1: Draft 1) 26 Unit 12: Describing Data Expressed in Graphs 2 (12-1&2: Draft 2)	
	27 12-1 相互評価, Unit 12: Describing Data Expressed in Graphs 3 (12-3: Drft 3) 28 Unit 12: Describing Data Expressed in Graphs 3 (12-3&4 = Report 6)	
	29 Report 6 相互評価, 総括試験と評価基準の説明, 授業のふりかえり	

	30 総括試験（英語辞書使用可：対面・筆記）	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT116-Y01	2.科目名	ライティング総合2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	無し		11.先修条件	無し		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、グループワーク		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	This course aims to help students develop clear and well-organized paragraph writing skills in English. Through step-by-step lessons using Ready to Write 2, students will learn how to structure paragraphs, use appropriate support, and apply various writin					
18.学習目標と DPとの関連	①Autonomy (自律性) Students will develop self-directed learning habits by setting personal writing goals, managing their writing process from brainstorming to final revision, and reflecting on their progress.					
	②Social Contribution (社会的貢献性) Through peer review and collaborative editing activities, students will learn to give constructive feedback and work cooperatively to improve each other's writing.					
	③Understanding of Diversity (多様性理解) By writing paragraphs on a wide range of topics—including opinions, culture, personal experience, and global issues—students will broaden their perspectives and demonstrate awareness of cultural and social diversity.					
	④Problem-Solving Skills (問題発見・解決力) Students will enhance their ability to think critically by organizing ideas logically, identifying problems in writing (such as unclear structure or lack of support), and applying appropriate strategies to revise and improve their work.					
	⑤Communication Skills (コミュニケーションスキル) Through paragraph writing and editing exercises, students will learn to express their thoughts clearly, support their ideas with appropriate examples, and use written English effectively in academic and practical contexts.					
	⑥Application of Specialized Knowledge and Skills (専門的知識・技能の活用力) Students will acquire foundational writing skills—including paragraph structure, transitions, and genre-specific techniques—and apply them to produce accurate and meaningful written communication relevant to real-life and academic situations.					
19.教科書・教材	Karen Blanchard / Christine Root, Ready to Write 2 ISBN / ISBN 9780134399324					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	①Final Writing (Final Paragraph Writing Assessment) ? 40% Students will write a well-structured paragraph using skills learned throughout the course, demonstrating organization, coherence, and supporting details. ②Writing Assignments (Tasks from Textbook					
22.コメント	皆さん一人ひとりが持っているユニークな考えや経験は、英語で自信を持って表現する価値があります。この授業では、あなたの考えを的確に伝えるための段落構成のスキルを一歩ずつ身につけていきます。こうしたライティングスキルは、学業の成功だけでなく、将来のキャリアにおいても大きな強みとなり、グローバルな場面や職場での明確なコミュニケーションに役立					

	ちます。	
23.オフィスアワー	Check out my office hour through the Learning Support Center	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	1-1: ? Course Orientation & Syllabus Explanation Icebreaker activity, explanation of course objectives, grading, textbook overview 1-2: ? Unit 1 ? Getting Organized: The Key to Good Writing Brainstorming, idea mapping, outlining	Fill in the course self-introduction form and bring 3 personal writing goals.
第 2 回	2-1: ? Unit 2 ? Understanding Paragraphs (Part 1) Topic sentence, unity, structure of a paragraph 2-2: ? Unit 2 ? Understanding Paragraphs (Part 2) Supporting sentences, concluding sentence + writing task 1	? Write a paragraph using a topic sentence and 3 supporting sentences. Bring a printed copy.
第 3 回	3-1: ? Unit 3 ? Time Order (Part 1) Signal words, time sequence, narrative writing 3-2: ? Unit 3 ? Time Order (Part 2) Writing practice + peer review	? Bring a timeline or sequence map to support a process or personal event paragraph.
第 4 回	Week 4 4-1: ? Unit 4 ? Order of Importance (Part 1) Organizing details by importance, brainstorming 4-2: ? Unit 4 ? Order of Importance (Part 2) Paragraph writing task + vocabulary support	? Write and bring a brainstorm sheet with ideas ranked by importance.
第 5 回	Week 5 5-1: ? Unit 5 ? Spatial Order (Part 1) Describing locations, transitions of place 5-2: ? Unit 5 ? Spatial Order (Part 2) Description paragraph writing + peer feedback	? Bring a photo or sketch of a place and write 3 location-based sentences.
第 6 回	6-1: ? Unit 6 ? The Writing Process Steps: brainstorming, drafting, revising, editing 6-2: ?? In-Class Paragraph Writing 1 (Timed Task) Application of Units 1?5	? Submit a rough draft (handwritten or typed) for teacher feedback.
第 7 回	7-1: ? Unit 7 ? Supporting the Main Idea (Part 1) Types of support: facts, examples, reasons 7-2: ? Unit 7 ? Supporting the Main Idea (Part 2) Support paragraph writing + quiz review	? Quiz 1 on paragraph structure + Submit revised draft with 3 types of support.
第 8 回	8-1: ? Unit 8 ? Explaining a Process (Part 1) Process paragraph structure, sequencing words 8-2: ? Unit 8 ? Explaining a Process (Part 2) Process writing + peer feedback	? Write a "How-to" paragraph (e.g., cooking, hobbies). Bring first draft for peer editing.
第 9 回	9-1: ? Unit 9 ? Writing Descriptions (Part 1) Sensory details, descriptive language 9-2: ? Unit 9 ? Writing Descriptions (Part 2) Write a descriptive paragraph	? Describe a scene using all 5 senses. Bring notes and descriptive vocabulary.
第 10 回	10-1: ? Unit 10 ? Expressing Your Opinion (Part 1) Stating opinions clearly, giving reasons 10-2: ? Unit 10 ? Expressing Your Opinion (Part 2)	? Write an opinion paragraph draft. Bring 2 reasons and 2 examples to support your view.

	Opinion paragraph writing + discussion	
第 11 回	11-1: ? Unit 11 ? Compare & Contrast (Part 1) Similarities and differences, using comparison language 11-2: ? Unit 11 ? Compare & Contrast (Part 2) Compare/contrast paragraph writing	? Quiz 2 on transition words + Bring a Venn diagram comparing two topics.
第 12 回	2-1: ? Unit 12 ? Cause and Effect (Part 1) Signal words for causes and effects 12-2: ? Unit 12 ? Cause and Effect (Part 2) Cause-effect paragraph writing	? Write and bring a short paragraph identifying one cause and two effects.
第 13 回	13-1: ? Unit 13 ? Writing Personal and Business Letters Structure and tone: formal vs informal 13-2: ? Unit 14 ? Writing Summaries (Part 1) Main ideas, supporting points	? Bring a draft of a personal OR business letter to be reviewed in pairs.
第 14 回	14-1: ? Unit 14 ? Writing Summaries (Part 2) Summary writing practice 14-2: ? Final Writing Test Preparation Review of formats, writing checklist, sample prompts	? Quiz 3 on summary structure + Bring a short article or paragraph to summarize.
第 15 回	15-1: ? Final Writing Test (Part 1) Timed paragraph writing using one or more formats 15-2: ? Final Writing Test (Part 2) Editing and submission + course feedback & reflection	? Final Writing Assessment (organized, supported, edited paragraph on a new topic).